高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第63集

奥谷南遺跡Ⅲ

四国横断自動車道(南国～伊野間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

2001.8

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

奥 谷 南 遺 跡 Ⅲ

四国横断自動車道(南国～伊野間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

本 文 編

2001.8

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

１号岩陰から２号岩陰をのぞむ

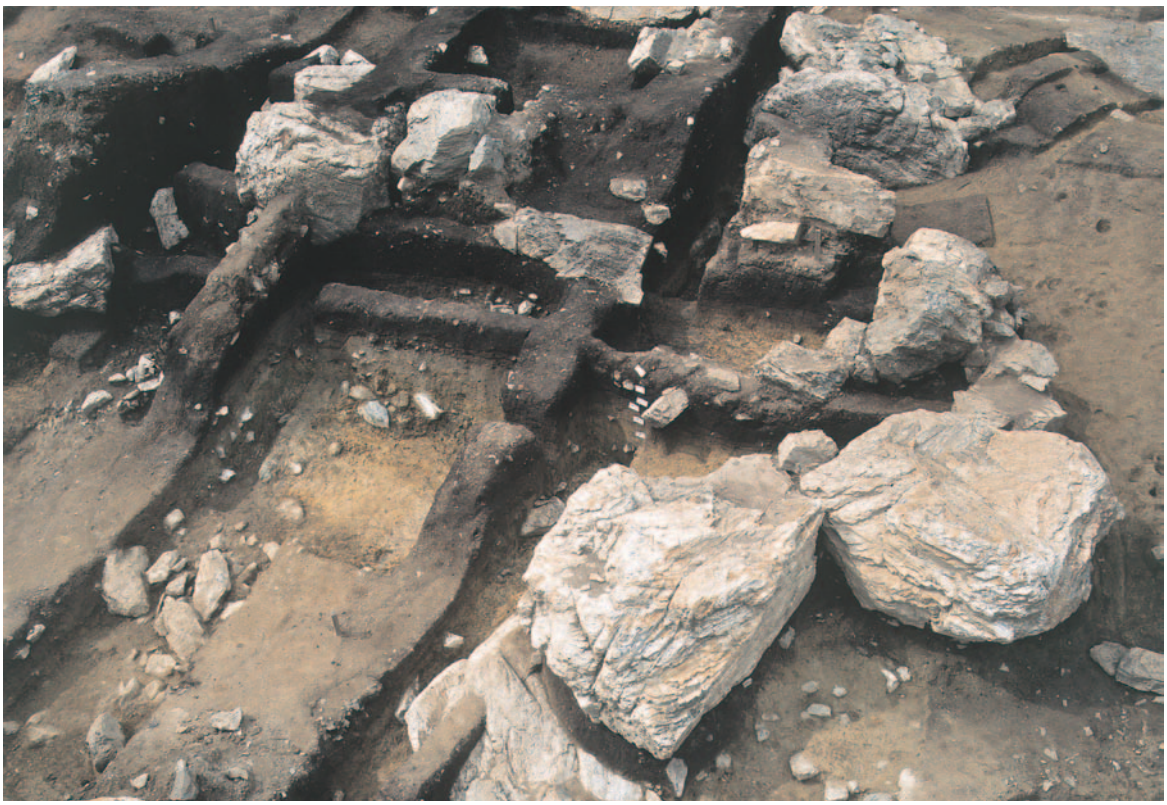
細石刃と細石刃核

遺物出土状況（1 号岩陰）

（南東から）

（上空から）

奥谷南遺跡・岩陰周辺の景観（1996年10月）



1 号岩陰・岩塊の様相（南から）

2 号岩陰（南から）

序　文

本書は奥谷南遺跡の一連の発掘調査報告書としては3冊目になります。ここで報告する内容は旧石器時代から縄文時代にかけての資料を中心とする岩陰周辺の調査成果です。

奥谷南遺跡の発掘調査は、四国横断自動車道（南国～伊野間）の建設に伴い1994～1996年の3年間にわたって行なわれました。3つの尾根とその間に挟まれた2つの谷に拡がる約3万m^2の範囲に、旧石器時代から近世にかけての遺構・遺物の分布が確認され、従来認識されていた遺跡の姿とは大きく異なる新しい事実が明らかになりました。縄文中期末の貯蔵穴、弥生系高地性集落、弥生終末の尾根上土坑墓群、10世紀のロストル構造を持つ須恵器窯と山岳寺院などいずれも高知平野の歴史に新知見をもたらすものです。

遺跡の尾根上からは土佐国衙跡・国分寺・岡豊城など古代から中世にかけての土佐・高知平野の中心地を一望のもとに見下ろすことができます。しかし、ここ高知平野には弥生時代までの地域の歴史を物語る資料は揃うものの、縄文時代以前の地域像を描くことのできる資料はほとんどありませんでした。そこに岩陰から旧石器時代・縄文時代草創期・早期の資料が揃って出土したのです。驚きの声が上がりました。特に空白地帯とされてきた旧石器時代を埋める資料として、奥谷南遺跡の岩陰から出土した4万点あまりの石器は、高知平野のみならず、四国太平洋岸の旧石器時代の様相解明に大きな手掛かりを与えるものとなりました。

旧石器時代の研究については衝撃的な前期旧石器捏造事件以降、前期旧石器時代論争は振り出しに戻ったかの感があります。しかし、戦後50年をかけて集積された調査成果に基づく後期旧石器時代像が大きく揺らぐことはありません。

岩宿遺跡のように、1遺跡の発掘でその後の考古学の進む方向に大きな影響を与える遺跡もあります。しかし大多数の発掘は、1遺跡の調査結果で劇的な変化をもたらしません。一つ一つの調査成果の地道な集積こそが、過去の歴史を解き明かす大きな力となるのです。本報告書は南四国の旧石器時代の様相を明らかにするための第一歩です。今後、出土資料のさらなる検証によって研究が進展することに期待します。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして大きなご支援とご協力を頂きました地元の皆様、多くのご便宜・配慮を頂きました日本道路公団四国支社高知工事事務所に厚く御礼申し上げます。

2001年8月

（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
所長　門 田 伍 朗

例　　言

1．本書は四国横断自動車道建設に伴って（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターが1994（平成6）年度～1996（平成8）年度に実施した奥谷南遺跡の発掘調査の中で、Ⅳ・Ⅴ区に関する調査についての発掘調査報告書である。

2．本調査は日本道路公団高松建設局（現四国支社）の依頼を受け、高知県教育委員会が受託し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査を実施した。発掘調査報告書は3分冊にわたり、本報告書は第3分冊にあたる。

3．奥谷南遺跡は高知県南国市岡豊町小蓮に所在する。

4．発掘調査は1994（平成6）年4月から1996（平成8）年10月まで実施している。今回報告するⅣ区及びⅤ区の調査は、Ⅳ区が1994年12月17日から1995年1月30日までの日程で、高知県文化財団埋蔵文化財センター主任調査員小嶋博満が担当し、Ⅴ区の1995年度の調査は、北側斜面部露頭について1995年5月23日から5月25日までの日程で、高知県文化財団埋蔵文化財センター主任調査員松村信博が担当した。岩陰周辺については、1996年2月25日から3月31日まで松村が担当、引き続き1996年度調査として4月2日から10月17日までの日程で、松村と調査補助員山本純代が調査を担当し、主任調査員山﨑正明、専門調査員小島恵子・三橋麻里、調査員坂本裕一・下村裕・久家隆芳の協力を得た。

調査期間

Ⅳ区（1994年度）1994.12.17～1995.1.30

Ⅴ区（1995年度）1995.5.23～25/1996.2.25～3.31

Ⅴ区（1996年度）1996.4.02～1996.10.17

調査体制

1994年度（平成6年度）

総括　（財）高知県埋蔵文化財団埋蔵文化財センター所長　原雅彦

総務　同課長　田岡英雄　　同主幹　吉岡利一

調査担当　主任調査員　松村信博・小嶋博満

1995年度（平成7年度）

総括　（財）高知県埋蔵文化財団埋蔵文化財センター所長　原雅彦

総務　同課長　田岡英雄　　同主幹　吉岡利一

調査担当　主任調査員　松村信博・山﨑正明　　調査補助員　山本純代

1996年度（平成8年度）

総括　（財）高知県埋蔵文化財団埋蔵文化財センター所長　古谷碩志

総務　同課長　岩崎嘉朗　　同主幹　吉岡利一

調査担当　主任調査員　松村信博　調査補助員　山本純代

主任調査員　山﨑正明

専門調査員　小島恵子・三橋麻里

調査員　坂本裕一・下村裕・久家隆芳　　調査員補助員　松田重治

5．整理作業ならびに本報告書の作成は、1997～2000年度に（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターにおいて主任調査員松村信博、調査補助員山本純代が担当して行った。なお、Ⅳ区については小嶋が整理作業を進め、松村が引き継いで内容をまとめた。

6．本報告書の編集は松村が行い、第Ⅳ章第4節2.A.（18）石鏃の執筆を山本が、それ以外の本文の執筆については松村が担当した。

7．本報告書に関わる自然遺物などのうち、一部のものについては鑑定・同定及び分析を委託した。サヌカイトの蛍光Ｘ線分析については京都大学藁科哲男教授に、Ｃ14年代測定・花粉分析・火山灰同定・焼土分析について（株）パリノ・サーヴェイに依頼した。また、石器の一部について実測・トレース・分析業務を（株）アルカに委託した。これらの報文については、第Ⅵ章付編として、報告書に掲載する。

8．調査途上で、周辺の地形・遺構の位置関係を記録するため空中写真撮影を実施した。空中写真撮影業務は（株）アイシーに委託した。

9．本遺跡の調査の最終段階で2つの岩陰各々の土層剥ぎ取りを行ない、（株）京都科学に委託し剥ぎ取り土層に保存処理を施した。土層剥ぎ取り作業に際しては、当センター第1班長山本哲也の協力を得た。

10．出土遺物ならびに写真・図面類は（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター（高知県南国市篠原1437-1）に保管している。

11．調査に参加した作業員の方々は、以下のとおりである。ここに挙げる人々によって発掘調査全体が支えられ、そのおかげで大きな成果を得ることができた。記して感謝をささげたい。

（1994年度発掘調査-Ⅳ区）

井上速男・井上郁雄・石川功・岡田稔夫・小松栄一・小松好・小松木義・小松浜子・小松重喜・小松光尾・浜口興・森本幸栄・森本倫代・永田美津子・島井博志・島井澄子・島井周子・高村秀吉・高橋弘喜・武市隆男・武市和子・吉川競・吉川勉・山本純代

（1995年度調査-Ⅴ区）　（1996年度発掘調査-Ⅴ区）

井上速男・井上郁雄・植田純子・岡林美代子・小笠原智行・小松栄一・小松好・小松木義・小松浜子・小松重喜・小松光尾・小松綾子・小松静・小松純子・小松雪子・島井博志・島井澄子・島井周子・島田小雪・竹内嘉代・竹村保夫・永田美津子・長田由美・浜口興・濱田吉宏・浜田加代・弘光好江・森本幸栄・森本倫代・吉川競・吉川勉・吉川誠喜・吉川徳子

測量・遺物取上等

山崎真治（東京大学学生）・北浩明（岡山大学学生）・杉藤伸宏（高知県リハビリテーション学院）・西内仁美（高知大学学生）

測量補助員　岩崎一歩

技術補助員（調査補助員）　山本純代

（整理作業）1994～1999年

岩貞泰代・楠瀬憲子・小松経子・竹村延子・松木富子・宮本幸子・矢野雅・山本裕美子・前田玲子・高橋千代・久万公子・川井由香・西内宏美・中西純子・臼木こずえ・小野山美香・山口知子・大原喜子・浜田雅代・臼木由里・尾崎富貴・岩本須美子・高橋加奈・横飛美紀・森綾子・川久保香・入野三千子・橋田美紀・北村宜子

本報告書に関わる遺物実測作業は、山口知子・浜田雅代・松木富子・山本純代・高橋加奈・横飛美紀・森綾子により、北浩明・山崎真治の協力を得た。遺物トレース図は、主に山口知子・浜田雅代・松木富子・山本純代により、一部を㈱アルカに委託した。

12. 本報告書作成に際して、以下の諸氏・諸機関に貴重な御教示・御助言を賜った。調査時に現地に御出でて下さった方々、整理作業の過程で多くの御教示・御指導を下さった方々など、多くの研究者の方々にお世話になった。

麻生優・雨宮瑞生・天羽利夫・安斎正人・石原正敏・池谷勝典・池谷信之・伊藤健・稲田孝司・稲村秀介・犬飼徹夫・今田秀樹・岩谷史記・岩永哲夫・氏家敏之・内山ひろせ・大川泰広・大塚達朗・大橋育順・岡村道雄・岡本桂典・岡本健児・岡本東三・沖憲明・小野川節・小野秀幸・織笠明子・織笠昭・角張淳一・北浩明・木村剛朗・久保脇美朗・栗島義明・黒川忠広・黒坪一樹・桑波田武志・児玉健一郎・小林達雄・笹原芳郎・佐藤宏之・佐藤良二・白石浩之・菅原康夫・杉原敏之・鈴木晃生・鈴木重治・鈴木忠司・砂田佳弘・十亀幸雄・高尾好之・高島芳弘・竹広文明・多田仁・橘昌信・津村宏臣・出原恵三・寺崎康史・堂込秀人・徳安正道・中川和哉・中越利夫・長沼孝・中原一成・丹羽野裕・畠中宏一・原芳伸・東和幸・比田井民子・藤野次史・前迫亮一・前田光雄・松浦五輪美・松田真一・松田知彦・松藤和人・松本茂・光石鳴巳・宮田栄二・村上昇・元田順子・森浩一・森下英治・森田尚宏・矢野健一・安井敏夫・山口将仁・山崎真治・山下秀樹・山田晃弘・湯浅利彦・吉留秀敏・綿貫俊一・藁科哲男（敬称略・50音順、ここに記した以外にも多くの方々が遺跡発掘調査現場や整理作業場に御出て下さった。）

㈱パリノ・サーヴェイ、㈱アルカ、高知県教育委員会文化財保護室

特に、鈴木忠司先生からは再三に亘る暖い激励と現地調査・整理作業等に対する御指導・御助言を頂いた。また、岡村道雄先生は初期の段階から遺跡の重要性を認識、各方面に情報を伝えて下さり、稲田孝司先生、藤野次史先生はじめ、中・四国旧石器文化談話会のメンバーはいろいろな側面から御援助下さった。雨宮瑞生氏は2度に亘って来高、縄文時代草創期の土器と石器選別作業にご教示を頂き、ともに石器の器種認定をして頂いた。さらに多田仁氏からは一貫して石器群全体に対して5年に亘る継続した御指導を頂いた。調査担当以外で出土石器に接した時間は最も長く、自らの発掘調査で忙しい時間の合間を縫って本当に多くのご教示を頂いた。

最後に、高知県埋蔵文化財センターの同僚ではあるが、前田光雄氏と森田尚宏氏には石器に対する見方から調査・整理作業過程での困難への対応に至るまで、考え得るあらゆる援助を受けたことを付記しておきたい。

凡　　例

1．本報告書に用いた高度は海抜高であり、北方位については真北を用いた。

2．本報告書における遺構名称については、調査区ごとの通し番号とし、遺跡全体で統一した呼称は採用していない。本報告書ではⅣ・Ⅴの2つの調査区について各々の遺構番号を採用する。

3．奥谷南遺跡では、遺物については1冊ごと（3分冊）の通し番号をつけている。本報告書では遺物にⅣ・Ⅴ区全体を通した通し番号をつけた。

Ⅴ区の遺構については時期別に、旧石器時代は001～、縄文時代は101～、近世は401～、その他の時期は501～と区分した遺構番号とする。

4．遺構・遺物の縮尺は以下のとおりである。

遺構

1/40（掘立柱建物）、1/30（掘立柱建物以外の遺構）。

上記の縮尺に統一するが、例外も含まれる。遺物出土状況等が含まれる図面については1/20など他の縮尺で掲載する図面もある。それについては図面ごとに明記する。

遺物

1/4（弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器）　1/2（縄文土器）

1/3（敲石）　　2/3（剥片石器）　3/4（石鏃）

縄文土器については、図示する必要のある細片が多いため、拓本による文様調整等を明瞭に示すためにこの縮尺に統一した。石鏃は細かい押圧剥離を表現する必要から3/4の縮尺に、旧石器時代の資料が多い剥片石器については、細石刃も含めて同じ縮尺で比較するために2/3の縮尺に統一した。石器の大きさ等の関係で、上記以外の縮尺を用いる場合もあるが、その時には図面に明記する。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過 …… 1

第Ⅱ章 位置と環境 …… 5
第1節 地理的歴史的環境 …… 5
第2節 高知県の後期旧石器時代～縄文時代草創期・早期の遺跡 …… 13
1. 旧石器時代 …… 13
2. 縄文時代草創期 …… 15
3. 縄文時代早期 …… 16

第Ⅲ章 調査の方法 …… 21
第1節 調査区の概要 …… 21
1. Ⅳ区の概要 …… 21
2. Ⅴ区の概要と調査経過 …… 21
第2節 グリッドの設定 …… 29
第3節 調査の方法 …… 30
1. 現地調査の方法 …… 30
2. 資料整理の方法（Ⅴ区出土遺物－石器選別方法） …… 31
第4節 Ⅳ区及びⅤ区北端部調査の成果 …… 33
1. Ⅳ区の成果 …… 33
2. Ⅴ区北端部の成果 …… 35

第Ⅳ章 調査の成果（Ⅴ区） …… 39
第1節 基本層序 …… 39
第2節 岩塊の分布 …… 53
第3節 遺物出土状況（ドットマップ） …… 67
第4節 旧石器時代～縄文時代の遺構と遺物 …… 103
1. 遺構 …… 104
A.旧石器時代 …… 104
(1) 焼土集中遺構 …… 104
(2) ピット …… 110
B.縄文時代 …… 113
(1) SX101およびグリッドH－7周辺の遺構 …… 113
(2) 1・2号岩陰周辺のピット …… 121
2. 出土遺物 …… 129
A.石器（旧石器時代 ～縄文時代） …… 129
(1) ナイフ形石器（Fig.93～97） …… 131
(2) 角錐状石器（Fig.102・103） …… 142
(3) 槍先形尖頭器（Fig.106・107） …… 148
(4) 細石刃（Fig.110～114） …… 156
(5) 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片（Fig.118～121） …… 172
(6) 細石刃関連剥片－打面再生剥片－（Fig.122） …… 179
(7) 細石刃関連剥片－作業面再生剥片・他－（Fig.123～125） …… 180
(8) 細石刃核（Fig.126～134）・細石刃核あるいはその他の石核（Fig.135・136） …… 184

(9)　細石刃核ブランク（Fig.142～146）……214
(10)　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核（Fig.147～151）……220
(11)　小型の縦長剥片（Fig.152～154）……229
(12)　スクレイパー類及び剥片（Fig.156～178）……234
(13)　楔形石器及び関連剥片・両極打法の認められる石器（Fig.181・182）……267
(14)　パンチ・石錐（Fig.183・184）……271
(15)　その他の石核（Fig.185～188）……272
(16)　接合資料（Fig.189）……278
(17)　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器（Fig.190～198）……278
(18)　石鏃（Fig.203～206）……291
(19)　局部磨製石斧－神子柴系石斧（Fig.207）……304
(20)　有溝砥石（Fig.208）……304
(21)　石斧－磨製・打製（Fig.209）……305
(22)　太型蛤刃石斧（Fig.210）……306
(23)　石錘（Fig.211）……306
(24)　サヌカイト剥片（Fig.212）……307
(25)　敲石類（Fig.216～225）……310
B.土器（縄文土器）－遺構出土遺物含－……329
(1)　草創期及びSX101出土資料（Fig.226－2001～2007）……329
(2)　早期（Fig.227～230－2008～2051）……334
(3)　前期（Fig.231・232－2052～2090）……340
(4)　中期（Fig.233－2091～2101）……343
(5)　後期（Fig.234・235－2102～2128……343
(6)　時期不明資料（Fig.236・237－2129～2144）……347
第5節　弥生時代～近世の遺構と遺物……355
1. 弥生時代～古代の遺物……355
2. 近世の遺構と遺物および時期不明の遺構……356
A.遺構……356
(1)　近世の遺構（Fig.241～245）……356
(2)　時期不明の遺構……362
B.近世の出土遺物……364

第Ⅴ章　奥谷南遺跡Ⅴ区　調査のまとめ……403
第1節　岩陰を含む遺跡の環境と奥谷南遺跡の概要……404
1. 岩陰を含む遺跡の概要……404
2. 奥谷南遺跡の概要（1994年～1996年発掘調査）……406
第2節　旧石器時代……409
1. 遺構について……409
2. 地点別・層別の石器器種組成……411
3. 時期別の石器群の様相……415
A. ナイフ形石器文化期……415
B. 細石刃文化期……419
C. 槍先形尖頭器の位置付け……426
4. 奥谷南遺跡出土の細石刃核……428
第3節　縄文時代……431
1. 遺構について……431
2. 縄文土器からみた岩陰の利用時期……433
3. 縄文時代草創期～四国島内における奥谷南遺跡草創期資料の位置付け～……435
4. 縄文時代早期～南四国の縄文時代早期土器編年～……439

第Ⅵ章 付編…… 445
第1節 奥谷南遺跡、清水寺岡遺跡、栄エ田遺跡、西鴨地遺跡出土石器、石片の原材産地分析 藁科哲男（京都大学原子炉実験所）…… 445
第2節 奥谷南遺跡の自然科学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社…… 463
第3節 奥谷南遺跡の石器群 株式会社アルカ 角張淳一……473
第4節 奥谷南遺跡の使用痕観察 株式会社アルカ 池谷勝典…… 481

図版目次

Fig.1 奥谷南遺跡位置図…… 1
Fig.2 奥谷北・奥谷南遺跡出土磨製石斧…… 1
Fig.3 奥谷南遺跡調査区（Ⅰ～Ⅶ区）と四国横断自動車道予定地…… 3
Fig.4 奥谷南遺跡北側丘陵から四国山地にかけてのチャート分布状況…… 5
Fig.5 周辺の遺跡と地形（S=1/50,000）…… 6
Fig.6 奥谷南遺跡周辺の地形と遺跡（S=1/5,000）…… 9
Fig.7 奥谷南遺跡周辺の地籍図…… 11
Fig.8 高知県の後期旧石器時代の遺跡…… 14
Fig.9 高知県の縄文時代草創期の遺跡…… 17
Fig.10 高知県の縄文時代早期の遺跡…… 18
Fig.11 Ⅳ・Ⅴ区調査区位置図…… 21
Fig.12 奥谷南遺跡トレンチ・バンク位置図（S=1/200）…. 23
Fig.13 Ⅴ区における地点呼称（S=1/200）…… 25
Fig.14 Ⅴ区4mグリッドと公共座標…… 29
Fig.15 1mグリッド設定図…… 30
Fig.16 Ⅳ区遺構平面全体図…… 33
Fig.17 Ⅳ区出土遺物－磨製石斧－…… 34
Fig.18 Ⅴ区北端部堆積状況柱状図…… 35
Fig.19 1995年5月調査地点出土遺物（1）－剥片石器－.. 36
Fig.20 1995年5月調査地点出土遺物（2）－敲石類－…. 37
Fig.21 奥谷南遺跡 岩陰周辺堆積状況模式図…… 39
Fig.22 遺物集中地点 96年4月段階の平面図とトレンチ位置及び堆積状況柱状図…… 45
Fig.23 Ⅴ区セクション（1）…… 46
Fig.24 Ⅴ区セクション（2）…… 48
Fig.25 Ⅴ区セクション（3）…… 49
Fig.26 Ⅴ区セクション（4）…… 50
Fig.27 Ⅴ区セクション（5）…… 52
Fig.28 Ⅴ区平面図－岩塊の分布－…… 54
Fig.29 1号岩陰周辺 礫検出状況…… 57
Fig.30 1号岩陰・1号岩陰南 礫検出状況…… 59
Fig.31 2号岩陰の岩庇ラインと周辺の礫検出状況…… 61
Fig.32 Ⅴ区岩陰周辺平面図及びトレンチ位置図…… 62
Fig.33 チャート岩塊の分布…… 63
Fig.34 Ⅴ区岩陰周辺平面図（等高線はⅧ層調査終了時点）…… 64
Fig.35 調査終了時点のⅤ区平面図（1996年10月）… 65･66
Fig.36 遺物集中地点の呼称…… 68
Fig.37 グリッド別遺物出土状況対照図（S=1/250）…… 69
Fig.38 グリッドE－4・5遺物出土状況（S=1/50）…… 71
Fig.39 グリッドE－6・7遺物出土状況（S=1/50）…… 72
Fig.40 グリッドF－3・4・5遺物出土状況（S=1/50）… 73
Fig.41 グリッドF－6・7・8遺物出土状況（S=1/50）… 74
Fig.42 グリッドG－3・4・5遺物出土状況（S=1/50）… 75
Fig.43 グリッドG－6・7・8遺物出土状況（S=1/50）…. 76
Fig.44 グリッドH－4・5遺物出土状況（S=1/50）…… 77
Fig.45 グリッドH－6・7・8遺物出土状況（S=1/50） 78
Fig.46 グリッドI－4・5遺物出土状況（S=1/50）…… 79
Fig.47 グリッドJ－2・3、J－4遺物出土状況（S=1/50）.. 80
Fig.48 グリッドJ－5・6遺物出土状況（S=1/50）…… 81
Fig.49 グリッドK－3・4、L－3・4遺物出土状況（S=1/50）…… 82
Fig.50 グリッドK－5・6、L－5遺物出土状況（S=1/50）…… 83
Fig.51 グリッドⅠ－7・8、Ｊ－7・8遺物出土状況（S=1/50）…… 84
Fig.52 Ⅺ・Ⅻ層遺物出土状況（S=1/200）…… 85
Fig.53 Ⅹ層遺物出土状況（S=1/200）…… 85
Fig.54 1号岩陰遺物出土状況（S=1/100）…… 86
Fig.55 1号岩陰周辺Ⅹ層遺物出土状況（S=1/100）…. 87
Fig.56 1号岩陰周辺Ⅸ層遺物出土状況（S=1/100）…. 88
Fig.57 1号岩陰Ⅷ層遺物出土状況（S=1/100）…… 89
Fig.58 1号岩陰南Ⅷ層遺物出土状況（S=1/100）…… 90
Fig.59 1号岩陰周辺Ⅶ層遺物出土状況（S=1/100）…. 91
Fig.60 1・2号岩陰中間地点遺物出土状況（S=1/100） 92
Fig.61 1・2号岩陰中間地点Ⅷ層遺物出土状況（S=1/100）…… 93
Fig.62 2号岩陰周辺遺物出土状況（S=1/100）…… 94
Fig.63 2号岩陰Ⅷ層遺物出土状況（S=1/100）…… 95
Fig.64 2号岩陰Ⅶ層遺物出土状況（S=1/100）…… 96
Fig.65 2号岩陰南地点遺物出土状況（S=1/100）…… 97
Fig.66 SX101及び周辺（ES－Ⅰ層）遺物出土状況（S=1/50）…… 98
Fig.67 グリッドG－7南地点（F－7・8、G－7・8）遺物出土状況（S=1/100）…… 99
Fig.68 奥谷南遺跡岩陰周辺全域・全層位遺物出土

状況（S=1/200）……100
Fig.69 奥谷南遺跡岩陰周辺全域Ⅷ層遺物出土状況（S=1/200）……101
Fig.70 奥谷南遺跡岩陰周辺全域Ⅶ層遺物出土状況（S=1/200）……102
Fig.71 旧石器時代遺構平面全体図……105
Fig.72 焼土検出地点－X層上面・旧石器時代－……107
Fig.73 敲石類の出土状況（X・Ⅸ・Ⅷ－a・Ⅷ－b）……108
Fig.74 遺構平面・エレベーション図（SX001～010）…109
Fig.75 SX010出土遺物……110
Fig.76 遺構平面・エレベーション図－P001～023－……111
Fig.77 遺構平面・エレベーション図－P024～035－……112
Fig.78 縄文時代遺構平面全体図……114
Fig.79 SX101と周辺地形（25㎝等高線）……115
Fig.80 SX101周辺の遺構と礫出土状況……115
Fig.81 遺構平面エレベーション図－P101－……116
Fig.82 SX101完掘状況・平面エレベーション図……116
Fig.83 SX101設定トレンチ・バンク位置図及び遺構内礫出土状況……117
Fig.84 SX101出土遺物（1）－剥片石器－……119
Fig.85 SX101出土遺物（2）－敲石－……120
Fig.86 SX101出土遺物（3）－縄文土器－……120
Fig.87 1号岩陰遺構平面図（Ⅶ層）……122
Fig.88 2号岩陰遺構平面図（Ⅶ層）……123
Fig.89 遺構平面・エレベーション図－SK101～104……125
Fig.90 遺構（P201）出土遺物……126
Fig.91 遺構（SK502）出土遺物……126
Fig.92 遺構（P284・197・316）出土遺物－石鏃－……127
Fig.93 ナイフ形石器①（Ⅻ・Ⅺ・X・Ⅸ・Ⅷ層）……132
Fig.94 ナイフ形石器②（Ⅷ－a・Ⅶ層）……133
Fig.95 ナイフ形石器③（Ⅶ及びその他の層）……134
Fig.96 ナイフ形石器④（その他の層）……135
Fig.97 ナイフ形石器⑤（小型ナイフ形石器）……135
Fig.98 ナイフ形石器石材別・層別出土状況……136
Fig.99 ナイフ形石器形態的特徴……139
Fig.100 ナイフ形石器（完形品）の重量・長さの階級値…140
Fig.101 ナイフ形石器出土地点……141
Fig.102 角錐状石器①……144
Fig.103 角錐状石器②……145
Fig.104 角錐状石器形態的特徴……146
Fig.105 角錐状石器出土地点……147
Fig.106 槍先形尖頭器①……150
Fig.107 槍先形尖頭器②……151
Fig.108 槍先形尖頭器形態的特徴……152
Fig.109 槍先形尖頭器出土地点……155
Fig.110 細石刃（X・Ⅸ・Ⅷ－b層）……157
Fig.111 細石刃（Ⅷ－a層・1号岩陰）……158
Fig.112 細石刃（Ⅷ－a層・1号岩陰・2号岩陰）……159
Fig.113 細石刃（Ⅶ層）……160
Fig.114 細石刃（Ⅳ～Ⅶ層・その他の層）……161
Fig.115 細石刃データ（1）……169
Fig.116 細石刃データ（2）……170
Fig.117 細石刃出土地点・分布状況……171
Fig.118 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片①…172
Fig.119 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片②…173
Fig.120 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片③…174
Fig.121 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片④…175
Fig.122 細石刃関連剥片①打面再生剥片……179
Fig.123 細石刃関連剥片②作業面再生剥片……180
Fig.124 細石刃関連剥片③作業面再生剥片・他……181
Fig.125 細石刃関連剥片④及びその他の剥片……182
Fig.126 細石刃核①（X・Ⅸ層）……190
Fig.127 細石刃核②（Ⅷ－b層）……191
Fig.128 細石刃核③（Ⅷ－b層）……192
Fig.129 細石刃核④（Ⅶ－a層）……193
Fig.130 細石刃核⑤（Ⅶ－a層）……194
Fig.131 細石刃核⑥（Ⅶ層）……195
Fig.132 細石刃核⑦（Ⅶ層）……196
Fig.133 細石刃核⑧（Ⅶ層）……197
Fig.134 細石刃核⑨（Ⅴ層・表採・層不明）……198
Fig.135 細石刃核あるいは他の石核①……199
Fig.136 細石刃核あるいは他の石核②……200
Fig.137 細石刃核出土地点……209
Fig.138 1号岩陰周辺の細石刃核出土状況……210
Fig.139 2号岩陰周辺の細石刃核出土状況……211
Fig.140 細石刃核データ（1）……212
Fig.141 細石刃核データ（2）……213
Fig.142 細石刃核ブランク①……216
Fig.143 細石刃核ブランク②……217
Fig.144 細石刃核ブランク③……218
Fig.145 細石刃核ブランク④……219
Fig.146 細石刃核ブランク⑤……220
Fig.147 間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核①……221
Fig.148 〃 ②……222
Fig.149 〃 ③……223
Fig.150 〃 ④……224
Fig.151 〃 ⑤……225
Fig.152 間接打撃による石核の特徴……226
Fig.153 小型の縦長剥片①……230
Fig.154 小型の縦長剥片②……231
Fig.155 小型の縦長剥片③……232
Fig.156 スクレイパー類及び剥片（Ⅻ・X・Ⅸ層）……236
Fig.157 スクレイパー類及び剥片（Ⅸ層）……237
Fig.158 スクレイパー類及び剥片（Ⅷ－b層）①……238
Fig.159 スクレイパー類及び剥片（Ⅷ－b層）②……239
Fig.160 スクレイパー類－掻器－（Ⅷ－a層）①……240
Fig.161 スクレイパー類－掻器－（Ⅷ－a層）②……241
Fig.162 スクレイパー類（Ⅷ－a層）③……242
Fig.163 スクレイパー類（Ⅷ－a層）④……243
Fig.164 スクレイパー類及び剥片（Ⅷ－a層）⑤……244
Fig.165 スクレイパー類及び剥片（Ⅷ－a層）⑥……245

Fig.166　スクレイパー類－掻器－（Ⅶ層）①……246
Fig.167　スクレイパー類（Ⅶ層）②……247
Fig.168　スクレイパー類（Ⅶ層）③……248
Fig.169　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）④……249
Fig.170　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）⑤……250
Fig.171　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）⑥……251
Fig.172　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）⑦……252
Fig.173　スクレイパー類及び剥片（Ⅵ・Ⅴ層）……253
Fig.174　スクレイパー類及び剥片（Ⅴ・Ⅳ層）……254
Fig.175　スクレイパー類及び剥片（G7・H7周辺）①……255
Fig.176　スクレイパー類及び剥片（G7・H7周辺）②……256
Fig.177　スクレイパー類及び剥片（2号岩陰南）①……257
Fig.178　スクレイパー類及び剥片（2号岩陰南）②……258
Fig.179　スクレイパー類及び剥片（層不明・表採資料）…259
Fig.180　スクレイパー類出土地点……260
Fig.181　楔形石器及び関連剥片・両極打法の
　　認められる石器①……268
Fig.182　楔形石器及び関連剥片・両極打法の
　　認められる石器②……269
Fig.183　パンチ……271
Fig.184　ドリル（石錐）……272
Fig.185　その他の石核①……273
Fig.186　その他の石核②……274
Fig.187　その他の石核③……275
Fig.188　その他の石核④……276
Fig.189　接合資料……278
Fig.190　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器①…279
Fig.191　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器②…280
Fig.192　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器③…281
Fig.193　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器④…282
Fig.194　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑤…283
Fig.195　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑥…284
Fig.196　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑦…285
Fig.197　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑧…286
Fig.198　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑨…287
Fig.199　石鏃グラフ①……291
Fig.200　石鏃グラフ②……293
Fig.201　石鏃グラフ③……294
Fig.202　石鏃出土地点……295
Fig.203　石鏃①……296
Fig.204　石鏃②……297
Fig.205　石鏃③……298
Fig.206　石鏃④……299
Fig.207　局部磨製石斧（S=1/2）……304
Fig.208　有溝砥石（S=1/2）……305
Fig.209　石斧－磨製・打製－（S=1/3）……305
Fig.210　太型蛤刃石斧（S=1/3）……306
Fig.211　石錘（S=1/3）……307
Fig.212　Ⅳ層出土 サヌカイト剥片（S=1/2）……307
Fig.213　局部磨製石斧・有溝砥石・石斧・
　　石錐・サヌカイト剥片出土地点……309
Fig.214　敲石類・層別の出土状況……313
Fig.215　敲石類出土地点……314
Fig.216　敲石類①（Ⅹ層）……315
Fig.217　敲石類②（Ⅸ層）……315
Fig.218　敲石類③（Ⅷ－b層）……316
Fig.219　敲石類④（Ⅷ－a層）……317
Fig.220　敲石類⑤（Ⅷ－a層）……318
Fig.221　敲石類⑥（Ⅶ層）……319
Fig.222　敲石類⑦（Ⅶ層）……320
Fig.223　敲石類⑧（Ⅶ層・Ⅵ層）……321
Fig.224　敲石類⑨（Ⅳ層）……322
Fig.225　敲石類⑩（その他の層）……323
Fig.226　縄文土器①－草創期－……331
Fig.227　縄文土器②－早期1類－（押型文土器）……335
Fig.228　縄文土器③－早期2類－（天道ヶ尾式）……337
Fig.229　縄文土器④－早期3類－（平栫式）……337
Fig.230　縄文土器⑤－早期4～6類－……
　　（繊維土器・無文土器・条痕文土器）……339
Fig.231　縄文土器⑥－前期1－……341
Fig.232　縄文土器⑦－前期2－……342
Fig.233　縄文土器⑧－中期－……344
Fig.234　縄文土器⑨－後期1－……345
Fig.235　縄文土器⑩－後期2－……346
Fig.236　縄文土器⑪－時期不明－……347
Fig.237　縄文土器⑫－底部・土器片錘－……348
Fig.238　縄文土器出土地点……349
Fig.239　弥生時代・古代の遺物……355
Fig.240　岩陰周辺遺構平面図－近世・時期不明遺構－…357
Fig.241　2号岩陰南西・近世遺構面平面図……358
Fig.242　SB401・402　遺構平面・エレベーション図…359
Fig.243　SK401～405　遺構平面・エレベーション図…360
Fig.244　SD401　遺構平面・エレベーション図……361
Fig.245　遺構平面・エレベーション図
　　－SK501～503・SX501・SA501－……363
Fig.246　出土遺物（近世）……364
Fig.247　追加石器図版①……400
Fig.248　追加石器図版②……401
Fig.249　追加石器図版③……402
Fig.250　１号岩陰周辺の地形と検出された焼土集中部
　　（SX001～SX014）……409
Fig.251　ナイフ形石器文化期の高知平野の狩猟具を
　　中心とした石器群……417
Fig.252　細石刃文化期の遺物の平面分布と集中地点
　　（Ⅷ層出土遺物）……419
Fig.253　奥谷南遺跡Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層出土の掻器
　　（旧石器時代～縄文時代早期）……423
Fig.253'　奥谷南遺跡出土の削器
　　（Ⅷ層以下出土、974、966はⅦ層）……425
Fig.254　奥谷南遺跡出土の抉入石器（他器種も含む）
　　旧石器時代～縄文時代……425
Fig.255　掃除山遺跡住居址と奥谷南遺跡SX101との

同スケールによる比較……432
Fig.256 奥谷南遺跡と栄エ田遺跡での縄文時代における遺跡利用時期の比較……434
Fig.257 奥谷南遺跡出土の縄文時代草創期の遺物と小型槍先形尖頭器……437
Fig.258 奥谷南遺跡出土押型文土器……442
Fig.259 奥谷南遺跡出土天道ヶ尾式土器と鹿児島県出土器との比較……442
Fig.260 奥谷南遺跡出土平栫式土器(早期3類)……443

Tab.目次

Tab.1 周辺の遺跡……7
Tab.2 高知県の後期旧石器時代の遺跡一覧……15
Tab.3 高知県の縄文時代草創期の遺跡一覧……17
Tab.4 高知県の縄文時代早期の遺跡一覧……19
Tab.5 岩塊計測・観察表……55
Tab.6 旧石器時代のピット 検出面及び遺構底面の標高……112
Tab.7 縄文時代のピット 検出面及び遺構底面の標高……124
Tab.8 ナイフ形石器 計測・分類表(①～②)……131・132
Tab.9 角錐状石器 計測・分類表……145
Tab.10 槍先形尖頭器 計測・分類表……154
Tab.11 細石刃 計測表(①～⑦)……162～168
Tab.12 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片計測表(①～④)……176～179
Tab.13 細石刃関連剥片(打面再生剥片・作業面再生剥片・他) 計測表……183
Tab.14 細石刃核 計測表(①～⑧)……201～208
Tab.15 細石刃核ブランク 計測・分類表……215
Tab.16 間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核計測表(①～②)……227・228
Tab.17 小型縦長剥片 計測表(①～②)……232・233
Tab.18 スクレイパー類及び剥片 計測・観察表(①～⑦)……261～267
Tab.19 楔形石器及び関連剥片・両極打法の認められる石器 計測・観察表……270
Tab.20 パンチ・ドリル(石錐) 計測・観察表……272
Tab.21 その他の石核 計測・観察表……277
Tab.22 器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器計測・観察表(①～③)……288～290
Tab.23 石鏃 計測・分類表(①～④)……300～303
Tab.24 局部磨製石斧・有溝砥石・石斧・石錘・剥片計測・観察表……308
Tab.25 敲石類 計測表(①～③)……324～326
Tab.26 敲石類 分類表(①～②)……327・328
Tab.27 縄文土器観察表 (①～⑤)……350～354
Tab.28 弥生時代・古代遺物観察表……356
Tab.29 その他の時期のピット 検出面及び遺構底面の標高……362
Tab.30 近世遺物観察表……365
Tab.31 出土遺物(石器類)・出土地点層位法量一覧表(①～㉘)……367～394
Tab.32 縄文土器 出土層位・出土地点・座標一覧表(①～④)……395～398
Tab.33 追加資料(石器類)一覧表……399
Tab.34 地点別石器器種組成(①～③)……411
Tab.35 層別石器器種組成……414
Tab.36 細石刃核分類表……430
Tab.37 縄文時代早期の南四国土器の編年と奥谷南遺跡出土資料の位置付け……441

写真図版目次

巻頭カラー1 1号岩陰から2号岩陰をのぞむ(1996年7月)
巻頭カラー2 細石刃と細石刃核 遺物出土状況(1号岩陰)
巻頭カラー3 奥谷南遺跡岩陰周辺の景観(1996年10月)
巻頭カラー4 1号岩陰岩塊の様相 2号岩陰(南から)
カラー写真図版 PL.1～28【図版編】
白黒写真図版 PL.29～140【図版編】

第Ⅰ章　調査に至る経過

奥谷南遺跡は、高知県南国市岡豊町小蓮に所在する。現在の小字では、小蓮地区の清山・帽岩・山神にまたがっており、一部、小蓮地区に隣接する岡豊町定林寺字天一山に属する部分もある。元来、遺跡として認識されていなかった当遺跡が遺跡であるとはじめて確認されたのは、土地所有者である植田速水氏による石斧の表採による。植田速水氏からの高知県教育委員会への問い合わせにより、該当の石斧が縄文時代の遺物であることが明らかになり、遺跡地として認められたわけである。これらの2点の石斧の出土地点は約200mほど離れており、1点は植田氏邸改築中に、もう1点は家から北西方向に位置する畑開墾中に発見された。

Fig. 1　奥谷南遺跡位置図

これらの石斧についてはFig.2に示したとおりだが、石斧の出土地点が離れていたこともあり、2つの遺跡として南国市の遺跡台帳に登録されることとなる。植田氏の屋敷地の改築中に出土した石斧により、植田氏邸周辺は奥谷南遺跡として、さらに約200m北の谷奥の斜面のミカン畑開墾中に出土した石斧により、ミカン畑周辺は奥谷北遺跡として、別々に縄文時代の遺物散布地として遺跡カードが作成されている。(1) 現在でも南国市の作成した遺跡台帳の上では、奥谷北遺跡・奥谷南遺跡という2つの遺跡として登録されているが、遺跡の拡がりを考えれば同一の遺跡として把握した方がよいだろう。

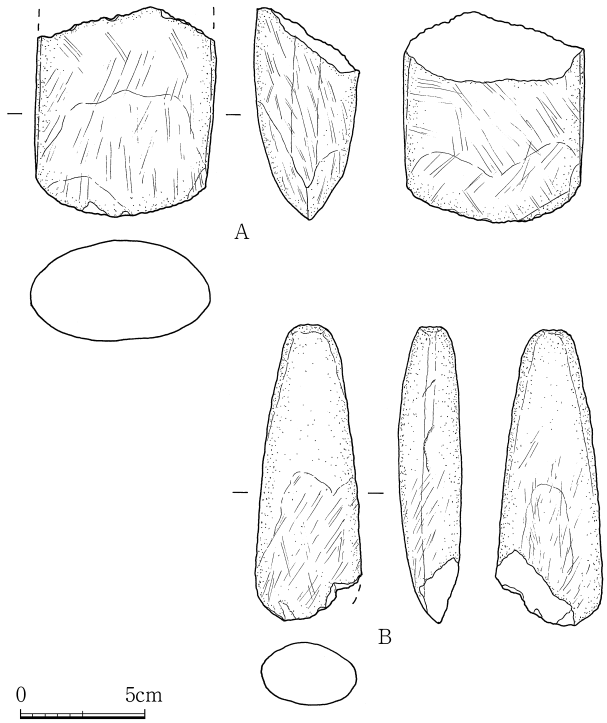


Fig. 2　奥谷北・奥谷南遺跡出土磨製石斧
A…奥谷北遺跡　B…奥谷南遺跡

四国横断自動車道路線予定地策定に際して、この奥谷南遺跡が調査対象地に含まれることが明らかになった。これを受けた1993年度の確認調査の結果、3つの尾根と2つの谷を含む約1万m²の範囲が本調査対象地として設定された。(2) 1994年度の本調査として、同年度中に

着手可能な約5000m²について調査が行われた。地形に応じてⅠ区からⅦ区の7つの地点ごとに調査区を設定し、1994年度はⅠ～Ⅳ区及びⅥ区の調査、そして、地形上の制約や家屋の移転を待っていた関係で1995年12月以降に1995年度調査として、Ⅶ区及びⅤ区の一部計1250m²の調査を行った。(3)

1994年Ⅰ区-1250m²・Ⅱ区-500m²・Ⅲ区-3000m²・Ⅳ区-200m²・Ⅵ区-200m²

1995年Ⅶ区-750m²・Ⅴ区の一部-500m²

当初計画では、1994・1995年の2ヶ年にわたる調査で、調査の全工程を終了する予定だったが、家屋移転の遅れ、さらに家屋周辺での試掘調査を事前に行えなかったという理由から、高知県教育委員会文化財保護室・日本道路公団四国支社高知工事事務所との協議により、調査期間の延伸を行い、1996年度調査が開始された。

家屋が移転するまで試掘調査が実施できなかったこと、調査開始後、旧石器時代の遺物がまとまって出土することがわかり、下層全域の確認調査が必要となったことなど、いくつかの理由によって、調査期間の延伸は2度にわたって行われた。工事関係者の方々には、高速道路工事期間の期限が迫っていたにもにもかかわらず、遺跡の調査に理解を示していただき、調査期間の確保に協力していただいた。十分な調査期間を確保して奥谷南遺跡の調査を終えることができたのは、地元の方々並びに、日本道路公団高知工事事務所と遺跡のある工事区間を担当していた奥村・フジタ共同企業体の埋蔵文化財に対する御理解と御協力のお蔭だということを明記したい。

調査は岩陰周辺の約1000m²を主な対象範囲とし、同時に周辺部の確認調査も行った。特に遺物が集中して出土したのは、その中でも600m²程の広さの岩陰とその南側に拡がる緩斜面である。北側の斜面の確認調査も行い、遺物集中地点については、近世遺構面以下旧石器時代の層に至るまで、5面以上の面及び層で遺構検出作業並びに遺物採り上げ作業（ドットマップ作成）を行い、それぞれの層の実態を明らかにすることに努めた。調査面積は最終的に3,000m²に達する。

1996年度の調査期間は、1996.4.2～10.17、調査面積は3,000m²である。

註・引用文献

1. 遺跡名を付けた際の根拠は小字名ではなく、地名に残る小村「奥谷村」である。縄文時代の石斧が離れた2地点から出土したことから、各々奥谷北・奥谷南という名称にしたようだ。長宗我部地検帳には記載の認められる奥谷村だが、村としては近世に入り小野村に含まれ、明治以降の小野村・蓮如寺村の合併でできた小蓮村（現岡豊町小蓮地区）の一地区として「奥谷」の呼称が残る。また、遺跡の奥には戦前の1930年代の失業対策も兼ねて造成された奥谷池が存在する。
2. 試掘調査の概略については『奥谷南遺跡Ⅰ』（1999.3）に記載
3. 1994年度調査で、縄文時代中期末の堅果類貯蔵穴、弥生中期末～後期初頭の高地性集落、弥生後期末の尾根上の集団墓、近世（17世紀）の儒墓などが確認され、1995年度調査では、古代（10～12世紀）の山岳寺院と推定される遺構面と10世紀のロストル構造を持つ須恵器窯が確認されている。（1999年『奥谷南遺跡Ⅰ』、2000年『奥谷南遺跡Ⅱ』）

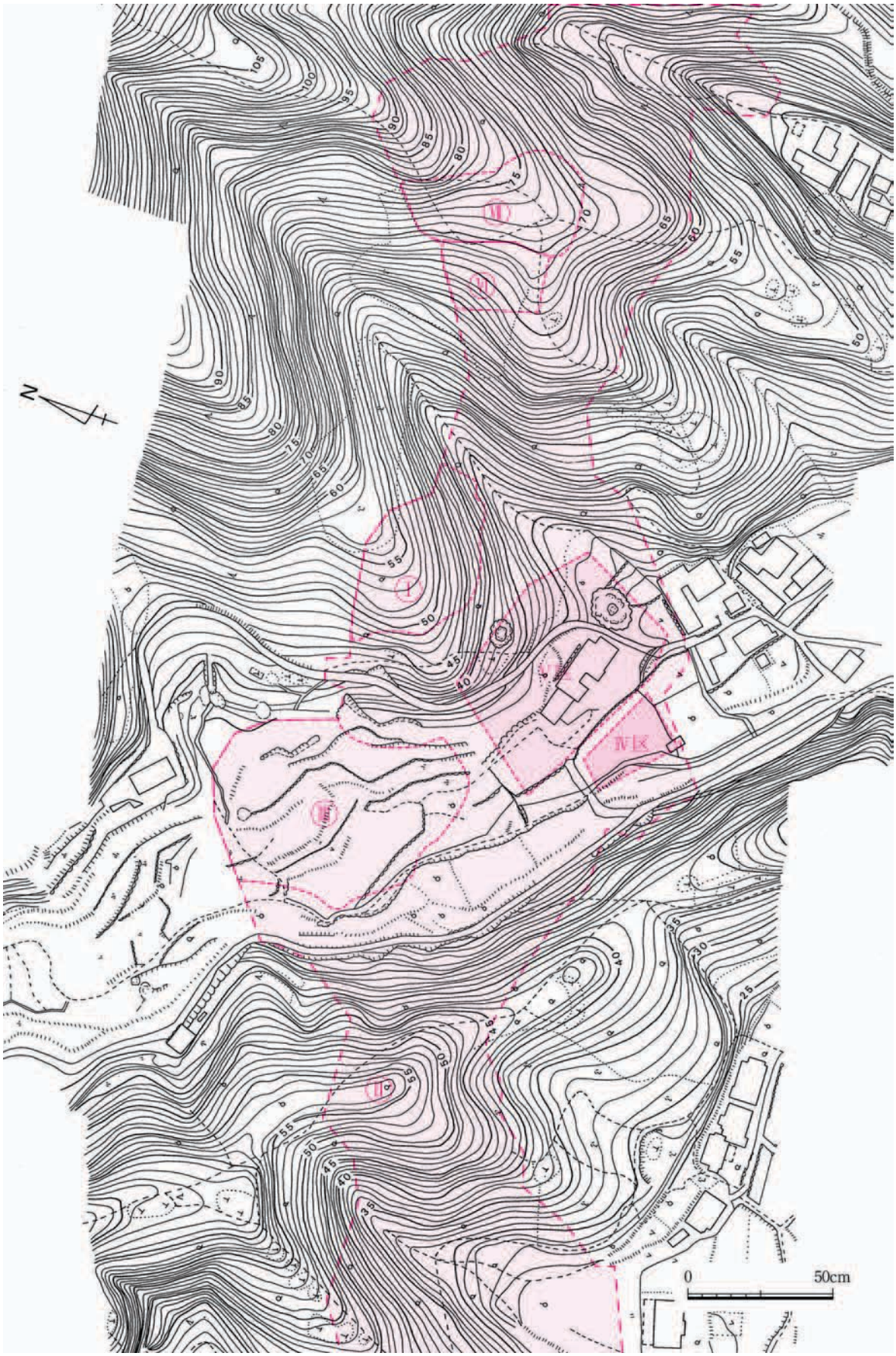


Fig. 3　奥谷南遺跡調査区（Ⅰ～Ⅶ区）と四国横断自動車道予定地

高速道路工事が進む奥谷南遺跡上空からみた高知平野

第Ⅱ章　位置と環境

第1節　地理的歴史的環境

奥谷南遺跡の所在する南国市岡豊町周辺は、高知平野の東北麓にあたり、高知平野東半の沖積平野をつくりだした河川の一つ国分川流域の平野部から四国山地に連なる山間部までを含む。高知平野東半は香長平野とも呼ばれ、香美郡・長岡郡にまたがる高知県屈指の穀倉地帯を形成する平野部である。近年まで米の二期作が行われており、温暖な気候を活かした野菜の促成栽培、花卉類の栽培など園芸農業も盛んである。

遺跡は平野と山地の境界に位置するのだが、遺跡南側の高知平野（香長平野）は山地と洪積世に形成された古期扇状地との間を流れる河川によって新期扇状地が形成され、平野の所々に古生代・ペルム紀の孤立丘陵が残るという景観を呈している。海岸線までの距離は約9㎞ほどである。

遺跡の南を西流する国分川流域の低地が新期扇状地で、この新期扇状地上に古代から中世にかけての土佐の中心である土佐国衙や土佐国分寺、長宗我部氏の初期城下町（岡豊市町）などの遺跡が展開する。国分川流域の新期扇状地は北部山地と古期扇状地である長岡台地と距離との短かさゆえに、扇状地としての規模が小さく、広大な平野を作り出すには至っていない。たとえば、奥谷南遺跡に近い岡豊新期扇状地は幅2.1㎞、長さ2.5㎞で、土佐国衙の形成された国分廿枝新期扇状地は幅2.5㎞、長さ2.0㎞程度の規模である。これに対して、物部川水系によって形成された新期扇状地は、高知県内では比較的広い平野部をうみだす広さを持っており、この物部川下流域には南四国最大の弥生集落である田村遺跡群が形成されている。しかし、古墳時代以降、土佐の中心として機能したのは、物部川下流域よりもむしろ面積の狭い国分川流域である。奥谷南遺跡の周辺にも、古墳群が形成され、長宗我部氏の居城岡豊城に至るまで各時期の遺跡が集まっている。物部川流域にも、河川沿いの河岸段丘（古期扇状地）上など遺跡の集中するところはあり、特に、

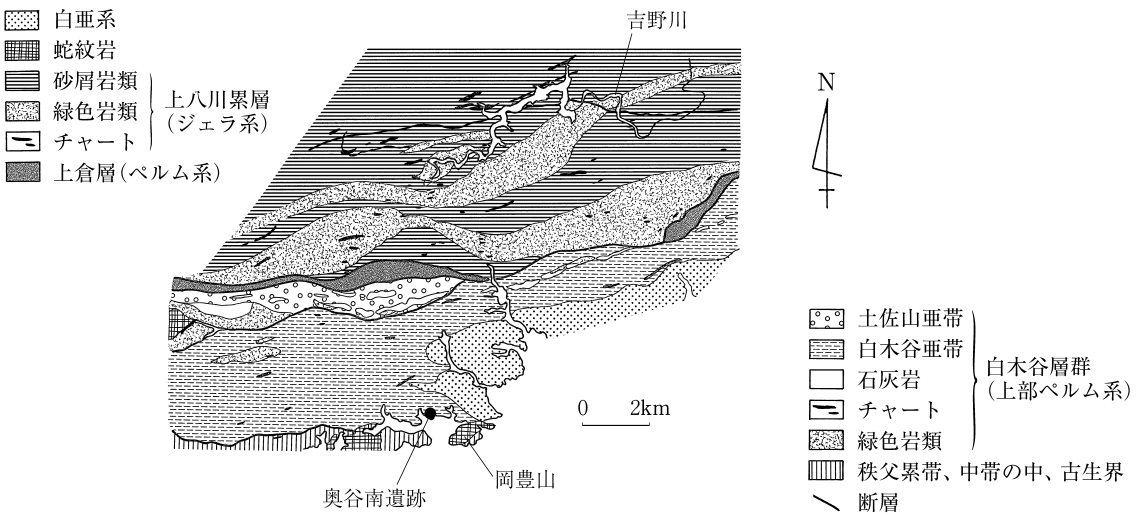


Fig. 4　奥谷南遺跡北側丘陵から四国山地にかけてのチャートの分布状況

Fig. 5　周辺の遺跡と地形（S＝1/50,000）

Tab. 1　周辺の遺跡

	遺跡名	時　　期		遺跡名	時　　期
1	奥谷南遺跡	旧石器～近世	12	小籠遺跡	弥生～近世
2	新改西谷遺跡	旧石器・縄文・中世	13	野中廃寺	古代
3	高間原古墳群	旧石器・古墳	14	東崎遺跡	弥生～古墳
4	長畝古墳群	弥生・古墳	15	大領遺跡	古代
5	栄エ田遺跡	縄文～近世	16	岩村遺跡	弥生～中世
6	岡豊城跡	中世	17	深渕遺跡	弥生～古代
7	土佐国分寺跡	古代	18	下ノ坪遺跡	弥生～古代
8	土佐国衙跡	弥生～中世	19	上岡遺跡	弥生～近世
9	比江廃寺跡	古代	20	田村遺跡群	縄文～近世
10	三畠遺跡	弥生	21	里改田遺跡	弥生～古代
11	陣山遺跡	近世・現代（第2次大戦）	22	介良遺跡	弥生～古代

高知平野東北端の景観。長岡台地（古期扇状地）上空からみた国分川流域の新期扇状地（奥谷南遺跡は左後方）

物部川河口付近からみた高知平野東半の景観（遺跡は左奥）

古代の津の機能があったとみられる野市町下ノ坪遺跡や南国市岩村遺跡など重要な役割を担った遺跡の調査も行われている。

奥谷南遺跡の南側の平野部の遺跡は、弥生時代の田村遺跡群から、古墳時代前期から後期に至る墓域・古墳が確認された長畝古墳群、孤立丘陵に築かれた後期の群集墳、古代の寺院（土佐国分寺・比江廃寺・野中廃寺）、土佐国衙跡、岡豊城、近世の集落遺跡としての長岡台地上の小籠遺跡・陣山遺跡、さらには第2次大戦中の海軍送信所遺構に至るまで、遺跡密度が高く発掘調査資料から豊かな歴史像を構築することができる。

これらの遺跡と較べると、奥谷南遺跡周辺の縄文時代以前の遺跡については、ほとんどないと言っても言いすぎではないほど少ない。近年の調査で、縄文時代後期・晩期の土器および磨製石斧が出土した栄エ田遺跡、縄文後期中葉の資料がまとまって確認された田村遺跡群、奥谷南遺跡と同じ国分川水系で7㎞ほど上流にあり小型のチャート製ナイフ形石器が60点ほど出土した新改西谷遺跡など類例を挙げることはでき始めた。

新改西谷遺跡同様、奥谷南遺跡の石器石材も旧石器時代には大半が在地産のチャートである。遺跡周辺のチャートの分布はどうなのだろうか。遺跡からはチャート・砂岩・石灰岩・泥岩など

が出土、特にチャートは高さ5～10mの岩塊の集中地点が認められる。Fig.4に示した地質図は『四国地方－日本の地質８』（共立出版）をもとに作成したものだが、この図から奥谷南遺跡から吉野川周辺にかけての四国山地のチャートの分布の状況を読み取ることができる。利用される石器石材の大半がチャートであることから、おおよその分布と地質を示したが、実際に山中を歩くとこの図以上にチャートの岩塊が集中する地点が多いことに気づく。国分川水系のみならず、高知平野に注ぐ河川では一般にチャート礫の採集が可能で、土器胎土に含まれる砂粒もチャートが一般的であり、高知市の桂浜ではチャート小円礫が「五色の石」として特産の土産物になる程である。

岩石の分布と地質構造帯との関連に若干触れておく。平野部の孤立丘陵がペルム紀の高岡層群あるいは虚空像山層群に属するのに対して、遺跡のある丘陵は白木谷層群南側の白木谷亜帯に属する。白木谷層群が形成されたのは古生代ペルム紀古世～中世である。この層群は砂岩と泥岩の互層からなり、石灰岩・チャート・塩基性凝灰岩を含んでいる。白木谷層群白木谷亜帯は秩父累帯北帯の南限を画しており、この南縁に沿って秩父累帯中帯の北半を含む領域に黒瀬川構造帯が分布する。遺跡の南東に蛇紋岩の露頭が観察できる岡豊山が位置しており、岡豊山周辺は黒瀬川構造帯に属している。奥谷南遺跡と岡豊山の間には比江山断層線が走っており、この断層線が白木谷亜帯の南限を画するラインとして知られている。白木谷亜帯は幅約4㎞で帯状に分布、その北には幅1㎞で石灰岩が集中する白木谷層群土佐山亜帯が分布する。

Fig.6には奥谷南遺跡に近接する主な遺跡と地形を示した。尾根一つ隔てた南西の谷には主に縄文時代から弥生時代にかけての遺物が確認された栄エ田遺跡、その西側の尾根には古墳時代前期から後期にかけての墓制の変遷が確認できる長畝古墳群がある。また、山岳寺院関連と推定される遺構面（Ⅵ・Ⅶ区）の南側には奥谷南遺跡山岳寺院と同時期に存在していた可能性が強い式内社である小野神社が位置する。なお、Ⅵ・Ⅶ区の北側の山ノ神地点は現在も祠が存在し、地元では信仰の対象となっている。また、山ノ神地点と大谷地点の間の尾根上には往還が通っており、戦後自動車による輸送が一般化するまでは重要な交通路としての役割を果たしていた。この往還の形成時期は明らかではない。

奥谷南遺跡岩陰地点だけではなく、周辺の山中にはチャート岩塊が分布している。現在残っているチャート岩塊だけではなく、遺跡周辺には多数のチャート岩塊集中部があったようだが、庭石など利用価値が高いことから20～30年前までにその多くが搬出されたということである。それでも現在も遺跡北側の山中に数ケ所のチャート巨岩の集中する地点を確認することができる。奥谷北遺跡周辺や大谷地点（Fig.6）などにチャート巨岩の集中は顕著である。特に大谷地点は標高120m前後の山稜とそれに連なる斜面一帯に高さ数mの大きさのチャート巨岩が点在している。岩のある斜面は比高差50～60mで全体に傾斜が急だが、尾根上や斜面下方には緩斜面があり、岩の下に平坦に近い地形の広がる岩陰もある。現在は樹木に覆われ全体の景観を見渡すことはできないが、奥谷南遺跡の景観に類似した様相を示している。

奥谷南遺跡周辺の小字名を示す地籍図がFig.7である。奥谷南遺跡の名称自体は地籍図に依拠しておらず、近世の小村奥谷村に由来する現存地名－奥谷を元につけられたものである。奥谷南遺跡の範囲では清山（せいざん）・山神（やまのかみ）・帽岩（えぼしいわ）（エボシ岩）・天一山（てんいちやま）となる。今回の調査対象地点（Ⅴ区）はエ

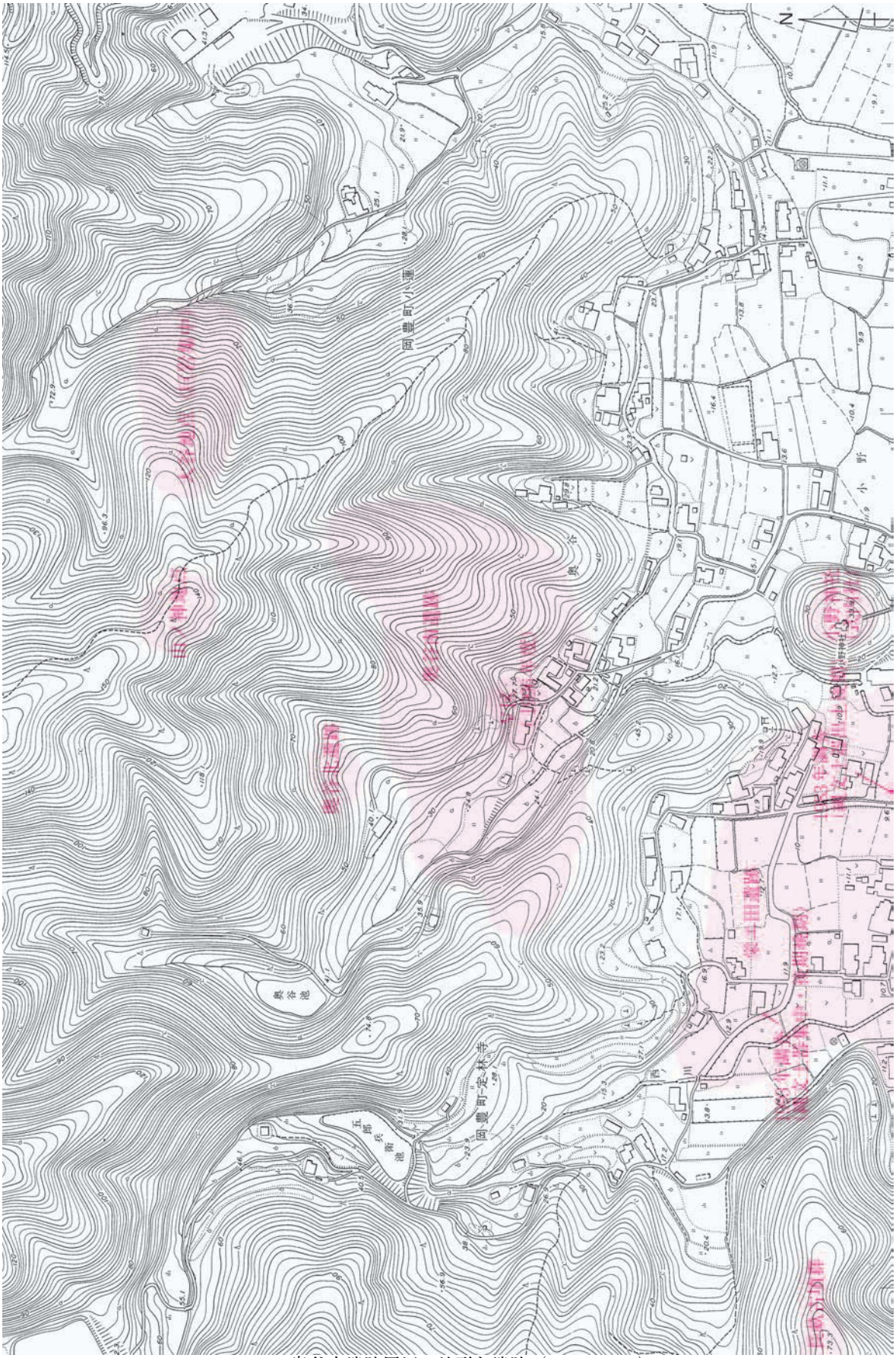


Fig. 6　奥谷南遺跡周辺の地形と遺跡（S＝1/5000）

ボシ岩から清山にかけての地点である。

奥谷南遺跡は、約3万m²の範囲に広がり、調査対象地に限っても標高20mほどの谷底低地から80m付近の丘陵ままでと比高差も50mを超えるほど起伏に富んだ地形を示す遺跡である。[1] Ⅰ区からⅦ区と呼称する地点ごとに遺跡名を変えてもよいほど、地形に応じて遺跡の性格や形成時期も異なってくる。

遺跡の背後に迫る山地は100～150m前後と標高は高くないものの、急峻な壮年期の地形を示す。山地から幾筋もの小河川が国分川へ流れ込み、これらの小河川によって谷底低地（谷底平野）といえる地形が谷筋ごとに形成されている。谷底の低地には縄文中期末の貯蔵穴が、谷の落ち際の岩陰には旧石器時代から縄文時代にかけての遺物の集中する岩陰遺跡が、丘陵の斜面には弥生系の高地性集落が、尾根上には弥生終末の墓域が、標高70m前後の山腹を削り出して山岳寺院及び須恵器窯がそれぞれ営まれるなど、奥谷南遺跡には実に多彩な側面を持っている。

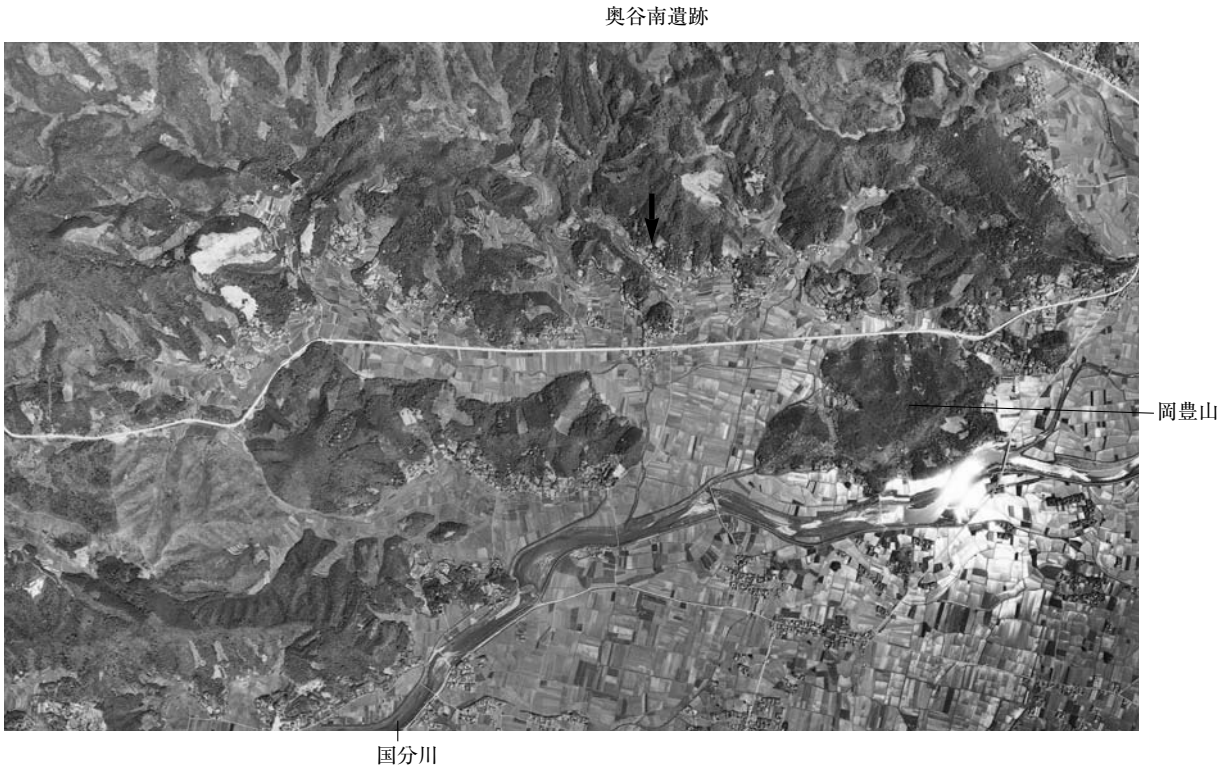
註

1. 岩陰周辺で21～25m前後、弥生終末の集団墓（Ⅱ区）が58m前後、高地性集落が45～60m、山岳寺院関連遺構として調査した地点が65m～72m、字山ノ神の由来となる祠がまつられている地点が標高130mであり、遺跡範囲全体では比高差100m以上である。

参考文献

島田豊寿「第1編 地理」『南国市史 上巻』南国市史編纂委員会 1983年

『四国地方－日本の地質8』共立出版 1991年



上空からみた遺跡周辺の地形　　矢印の位置が奥谷南遺跡（岩陰）

昭和37年５月８日　建設省（現国土交通省）国土地理院撮影　（S＝1/20,000）

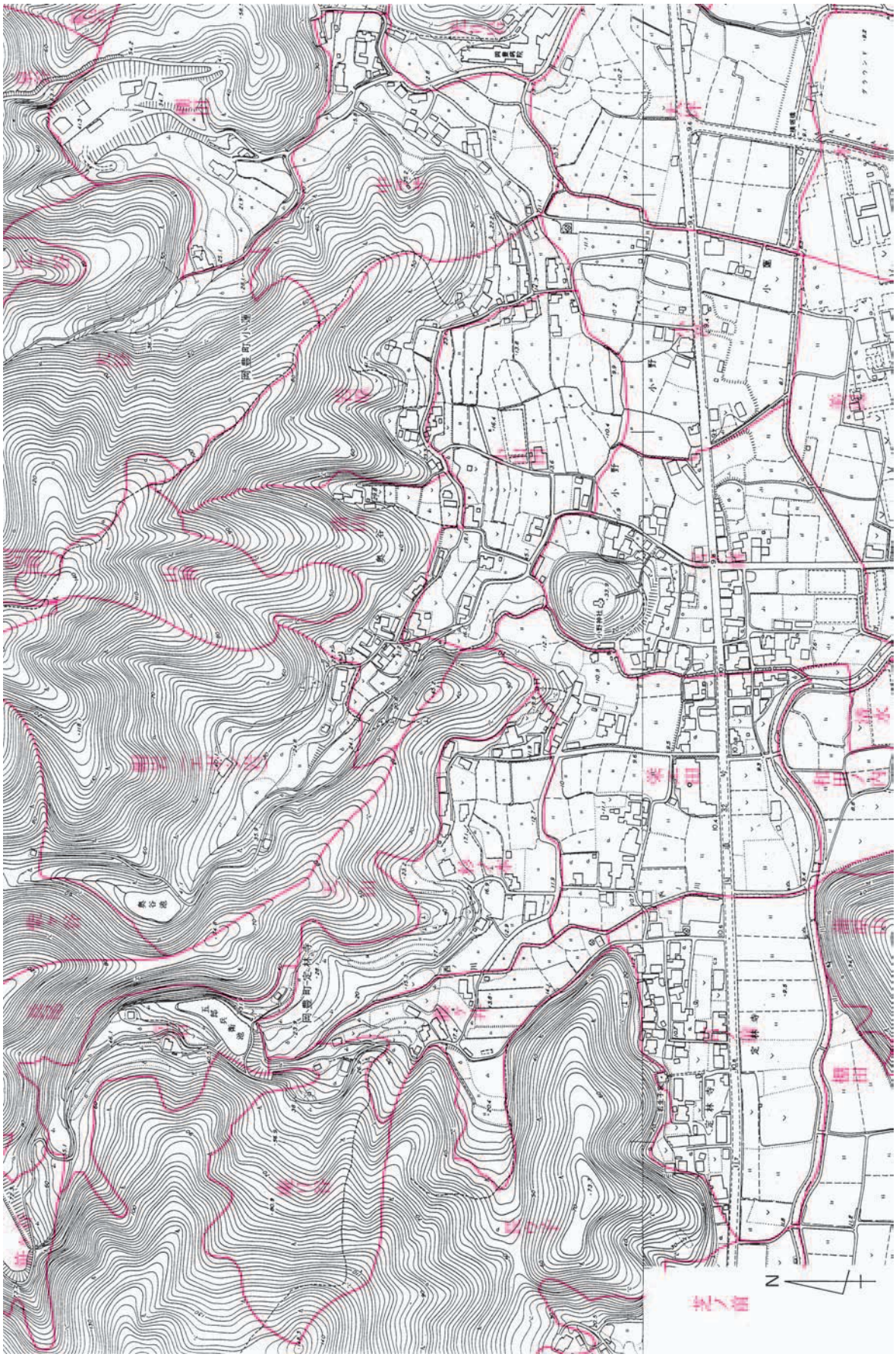


Fig. 7　奥谷南遺跡周辺の地籍図

上空からみた遺跡と南にひろがる高知平野　　矢印の位置が奥谷南遺跡（岩陰）
昭和22年10月13日　米極東空軍撮影　（S＝1/16,000）

第2節　高知県の後期旧石器時代～縄文時代草創期・早期の遺跡

高知県内の旧石器時代の遺跡に関しては、20世紀最後の10年間で隔世の感を感じるほどに、遺跡数・出土遺物量ともに増加した。とはいえ、決して旧石器時代の遺跡が高知県全域において多いわけではなく、ようやく複数の遺跡が確認されはじめたにすぎない。1980年までは3遺跡のみであった旧石器時代遺跡が、80年代に6遺跡、90年代になって15遺跡、そして2000年には25遺跡に達することとなる。

今回調査したチャートの岩陰周辺からは旧石器時代から縄文時代にかけての遺物がまとまって出土している。特に出土量の多い旧石器時代・縄文時代草創期・縄文時代早期については、高知平野周辺に類例を求めることは難しいほど遺跡数が少なく、高知県内に目を転じてもまとまった資料が検出された例は少ない。しかし、縄文時代の少ない資料の中で、地道な活動により位置づけがなされており、また、絶対数が少ないとはいえ旧石器時代の資料数の増加には目を見張るものがある。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡として、高知県内で最も早く報告されたのは、1965年の高知市高間原古墳群の調査に際して高間原1号墳の石室流入土中から出土した細石刃核である。(1)

南四国は旧石器の空白地帯と称されるほど、旧石器時代資料が少なく、1980年頃までは、旧石器時代の遺跡として3遺跡が知られるにすぎなかった。80年代になると、高知県西部で檮原町影野地遺跡・中村市中駄場遺跡などいくつかの遺跡の存在が明らかになった。これら1980年代までに確認された後期旧石器時代遺跡については、山口将仁氏によって集成され、1990年に報告されている。(2) また、四万十川流域や沿海部など四国西南部の旧石器時代の資料は、木村剛朗氏によって縄文時代の資料とともに集成されている。(3)(4)

1990年代に入り、丹念な遺跡探査活動による新知見の増加とともに発掘調査によって旧石器時代の遺跡が確認され始める。1992年の大月町竜ヶ迫遺跡(5)を嚆矢とし、1994年の大月町ナシケ森遺跡など県西部でまた5年後の1995年末までに新たに確認された4遺跡を追加し、以前の資料の訂正も含めた集成が、山口氏によって1996年になされた。(6) その時点で、旧石器時代の遺跡数は11遺跡となる。県西部に偏在し、中央部・東部は遺跡皆無に等しい状況であった。

こういった状況下で、高知平野の北端に位置する奥谷南遺跡の調査が始まる。当初は縄文時代前期に遡る岩陰遺跡として調査を進めらていたのだが、下層から旧石器時代の遺物が出土しはじめ、最終的には旧石器・縄文併せて4万点を越える石器が出土、中四国でも有数の旧石器時代の遺跡となった。

この調査と前後して、県西部の宿毛市楠山遺跡・池ノ上遺跡、(7) 大月町ナシケ森遺跡、(8) 大方町曽我城跡、(9) 中央部の土佐山田町新改西谷遺跡(10)など、1995年から1998年にかけ発掘調査によって確認される旧石器時代の資料が相次いだ。

発掘調査で確認される資料も重要であるが、同時に日頃の丹念な踏査活動により確認される遺

跡の存在もまた重要である。県西部では、木村剛朗・山口将仁・前田光雄氏らによって、中央部では山崎真治氏らによって、新たな旧石器時代の遺跡が確認されている。

高知県域ではないが、四国西南部愛媛県和口遺跡の採集資料には目を見張るものがある。[4] 木村剛朗氏ら高知県西部在住の研究者による継続的で地道な活動の結果である。和口遺跡と同様、県西南部の遺跡では石材として頁岩が主に使用されており、翼状剥片の存在とナイフ形石器の特徴から在地石材を使用した瀬戸内技法が四国西南部では一般的であることが明らかになった。

奥谷南・新改西谷など発掘調査での出土資料により遺跡の存在が予見された県中央部においても、物部川流域から複数の旧石器時代の遺跡が確認されている。ここでも在地の石材が使用されており、採集される石器はチャート製のものばかりである。特に、物部川中流域の段丘上にある佐野楠目山遺跡からは12点ものチャート製角錐状石器が採集されており、[11] 注目される。

このように西部・中部の旧石器が徐々にではあるがベールを脱ぎ始めたのに対し、高知県東部の旧石器時代遺跡は現段階では未確認である。[12] しかし、縄文時代草創期の尖頭器が確認された海岸段丘や安芸川によって形成された河岸段丘など、旧石器時代の遺跡が立地する条件の整った地点もあり、将来的には新たな旧石器時代遺跡が確認される可能性も十分ある。

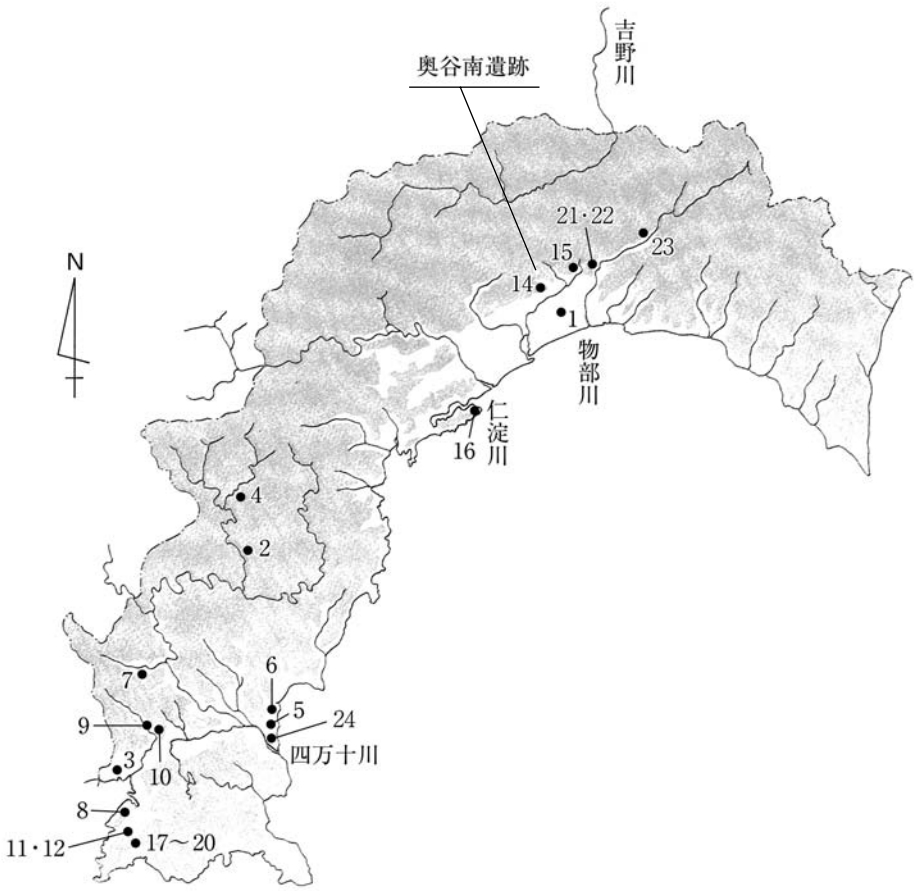


Fig. 8　高知県の後期旧石器時代の遺跡

2. 縄文時代草創期

現在、C14年代測定法の精度の高まりと過去の年代ごとの炭素含有量の違のい復元による暦年較正により、草創期開始期の絶対年代は今から12000～13000年前から15000～16000年前へと数年前の常識と比べ、飛躍的に古い数値を示すようになった(13)。暦年較正による絶対年代に拠れば、草創期の開始期は晩氷期となり、以前想定されていたよりもっと冷涼な環境下で縄文時代が始まったことになる。

Tab. 2　高知県の後期旧石器時代の遺跡一覧

	年	遺跡名	出土遺物	石　材	出土状況	発見・報告者 ・調査担当者
1	1965	高間原古墳群（1号墳）	細石核1点	チャート	古墳石室内流入土砂中	岡本健児･廣田典夫･片岡鷹介
2	1971	八足遺跡	削器1点	チャート	表採	山口将仁
3	1975	宇須々木遺跡	ナイフ形石器1点	チャート	表採	山口将仁
4	1984～ 1985	影野地遺跡	ナイフ形石器1点･掻器･剥片	チャート	表採	十亀幸雄
4	1987	影野地遺跡	削器	チャート	表採	西本則夫
4	1987	影野地遺跡	ナイフ形石器1点	頁岩	表採	木村剛朗
5	1988	双海中駄場遺跡	ナイフ形石器1点	ホルンフェルス	表採	木村剛朗･山口将仁
6	1989	双海本駄場遺跡	三稜尖頭器1点	サヌカイト	表採	木村剛朗
7	1990	広井駄場遺跡	細石核1点	頁岩	表採	木村剛朗･山口将仁
8	1992	竜ヶ迫遺跡	ナイフ形石器1点	頁岩	表採	竹田源春
8	1992	竜ヶ迫遺跡	ナイフ形石器1点･剥片類	頁岩	発掘調査資料	森田尚宏･山本哲也
9	1994	池ノ上遺跡	ナイフ形石器1点	サヌカイト	発掘調査資料･整理中	森田尚宏･松田知彦･宮地早苗
10	1994	楠山遺跡	ナイフ形石器･台形様石器･ スクレイパー･礫器･接合資料あり	頁岩	発掘調査資料･整理中	森田尚宏･松田知彦･宮地早苗
11	1992～ 1996･1998	ナシケ森遺跡（A地点）	細石核･スクレイパー･楔･石核	珪質頁岩	発掘調査（94～96･98） 資料･整理中	門脇隆･前田光雄 発見　山口将仁
12	1992～ 1994	ナシケ森遺跡（B地点）	ナイフ形石器5点･角錐状石器･石核	珪質頁岩	表採	木村剛朗
13	1996	曽我城跡	尖頭器1点	頁岩	中世の城跡からの出土	山﨑正明･武吉眞裕
14	1996	奥谷南遺跡	ナイフ形石器58点　角錐状石器14点 スクレイパー類260点　細石刃280点 細石核110点　尖頭器28点	チャート･ 頁岩･ サヌカイト	発掘調査 旧石器～縄文時代の岩陰遺跡	松村信博･山本純代･山﨑正明･ 小島恵子･三橋麻里･坂本裕一他
15	1997	新改西谷遺跡	ナイフ形石器61点	チャート	発掘調査･中世の寺院整 地埋立て土中からの出土	伊藤仁･中山泰弘
16	1998	竜（仮称）遺跡	ナイフ形石器1点	チャート	表採	
17	1999	鉾土越遺跡	ナイフ形石器	珪質頁岩	表採	前田光雄･門脇隆
18	1999	フキノ谷山遺跡	ナイフ形石器	珪質頁岩	表採	前田光雄･門脇隆
19	1999	池田遺跡	角錐状石器	頁岩	表採	前田光雄･門脇隆
20	1999	大内遺跡	翼状剥片	珪質頁岩	表採	前田光雄･門脇隆
21	1999	佐野楠目山遺跡	ナイフ形石器･台形石器･角錐状石器 ･石核･剥片	チャート	表採	山崎真治
22	1999	イハサキ･タイノウチ遺跡	掻器	チャート	表採	山崎真治
23	1999	永野長岡遺跡	台形様石器	チャート	表採	山崎真治
24	1999	平野茶園遺跡	ナイフ形石器･細石核ブランク(船野型)	頁岩	表採	木村剛朗

旧石器時代終末から縄文時代草創期にかけての南四国の遺跡の様相は、木村剛朗氏[14]や森田尚宏氏[15]らによってまとめられ、報告されている。その中で発掘調査の実施された不動ヶ岩屋洞穴・十川駄場崎遺跡は、ともに学史に残る遺跡として注目される。

不動ヶ岩屋洞穴遺跡は、仁淀川中流域、佐川盆地の石灰岩山丘中腹にある洞穴遺跡で、隆起線文土器・押圧縄文土器・条痕文土器と共に尖頭器・有舌尖頭器・矢柄研磨器・石鏃等が出土した。[16]有舌尖頭器を持つ草創期の南四国最古の土器文化（不動ヶ岩屋Ⅰ式文化）として設定されている。[17]後世の撹乱を受け草創期の遺物と早期の遺物が同じ層からに出土しているが、草創期の土器・石器組成を確認できる良好な資料であることに変わりはない。これに対し、十川駄場崎遺跡は四万十川河岸段丘上に立地するオープンサイトで、隆起線文土器（豆粒文土器）と尖頭器が出土、不動ヶ岩屋よりも古い様相を示している。早期の集石炉等草創期以降継続して生活の痕跡が認められる。層位的に草創期と把握されたのは5・6層で5層から隆起線文土器、6層から尖頭器が出土しているが、これらの遺物の先後関係、共伴関係は明瞭ではない。

土器の出土した遺跡は佐川町不動ヶ岩屋洞穴、十和村十川駄場崎遺跡、そして奥谷南遺跡の3遺跡のみであり、いずれも一辺10㎝に満たない小片である。土器編年も他地域の例との比較においてはじめて位置付けが可能になる程度である。四国内に目を転ずれば、学史的にも著名な愛媛県上浮穴郡美川村上黒岩岩陰遺跡、愛媛県穴神洞遺跡がある。上黒岩遺跡は草創期としては土器出土点数はまとまっており、穴神洞の場合は残存個体が大きく、復元が可能である。しかし、これ以外には四国内でまとまって草創期の土器を出土した遺跡の例はない。

それにもかかわらず高知県で草創期の遺跡が11遺跡、土器の全く出土していない徳島県でも10遺跡以上の草創期遺跡が報告されているのは、有舌尖頭器に代表される草創期を特徴づける石器の出土によるものである。

奥谷南遺跡の草創期遺物は土器だけではなく、局部磨製石斧、有溝砥石、小型槍先形尖頭器、石鏃などの石器類であり、形態からの特定はできないが敲石類も一定量含まれる。排土を全て水洗し、可能な限り微細遺物も採り上げるという調査方法にもかかわらず、一点の有舌尖頭器も確認できなかった。奥谷南遺跡の草創期に属する石器の最大の特徴は、この有舌尖頭器を含まないという点にある。奥谷南遺跡は草創期の遺物は出土するものの四国島内の草創期遺跡の多くから出土する有舌尖頭器の時期には利用されていない遺跡だといえる。

3. 縄文時代早期

南四国の縄文時代早期の資料は、草創期同様出土する土器は断片的で量的には少量ではあるものの、確認される遺跡数は確実に増加している。現在、早期と報告される遺跡県内40遺跡うち29が県西部の遺跡であり、草創期までの遺跡と較べると遺跡密度が高くなる。[18]（Fig.10・Tab.4）

草創期と同様に岩陰・洞窟遺跡から確認される例もあるが、オープンサイトに立地する例も増加する。不動ヶ岩屋洞穴・十川駄場崎遺跡・奥谷南遺跡の草創期の土器が検出された遺跡からは、一様に早期の土器が出土している。これは、南四国では草創期から早期にかけて好んで選択される遺跡立地の好適地が基本的には変わっていないことを端的に示している。

Fig. 9　高知県の縄文時代草創期の遺跡

Tab. 3　高知県の縄文時代草創期の遺跡一覧

	遺跡名	市町村	位　置	土　器 (草創期)	石　器 (狩猟具－草創期)	石　材	石　器 (狩猟具以外－草創期)	出土状況
1	不動ヶ岩屋洞穴	佐川町	仁淀川中流	隆起線文土器	有舌尖頭器･槍先形尖頭器	チャート	局部磨製石斧･有溝砥石･掻器	発掘調査
2	十川駄場崎遺跡	十和村	四万十川上流	隆起線文(豆粒文)土器	尖頭器	サヌカイト		発掘調査
3	広井駄場遺跡	西土佐村	四万十川上流	なし	木葉形尖頭器			表採
4	森駄場遺跡	大正町	四万十川上流	なし	有舌尖頭器	チャート		表採
5	勝間鳥打場の下遺跡	中村市	四万十川中流	なし	槍先形尖頭器			表採
6	下益野B遺跡	土佐清水市	四国西南沿海部	なし	槍先形尖頭器			表採
7	北の川遺跡	西土佐村	四万十川上流	なし	槍先形尖頭器			表採
8	黒岩坂東遺跡	佐川町	仁淀川中流	なし	有舌尖頭器			表採
9	徳安遺跡	土佐市	高知平野西端	なし	尖頭器			表採
10	手結山遺跡	夜須町	高知平野東端沿海部	なし	有舌尖頭器			表採
11	池ノ上遺跡	宿毛市	松田川流域	なし	なし		石斧	表採
12	カルモカ遺跡	大月町	四国西南沿海部	なし	なし		石斧	表採
13	ナシケ森遺跡	大月町	四国西南沿海部	なし	石鏃･尖頭器			発掘調査
14	奥谷南遺跡	南国市	高知平野北端	隆帯文土器･隆起線文土器	槍先形尖頭器･石鏃		有溝砥石･神子柴系石斧･敲石	発掘調査

土器以外に特徴的な石器の出土をもって縄文時代早期という認定を受けた遺跡もいくつかある。認定の指標とされている石器は、草創期の有舌尖頭器に対して早期の場合はサヌカイト製の鍬形鏃及びいわゆるトロトロ石器である。当該期の遺跡についてTab.4に示したが、少量の石鏃や土器小片の存在で早期であると判断された遺跡が多く、文化の内容がある程度把握可能なまとまった遺物が検出された遺跡は少ない。

早期土器の出土量は少なく、土器がある程度まとまって出土するのは、十川駄場崎遺跡・飼古屋岩陰遺跡・奥谷南遺跡・刈谷ヶ野遺跡・新改開キ丸遺跡の5遺跡にすぎない。土器の中で最も多いのは中葉から後半にかけての押型文土器だが、大半は高山寺式土器から穂谷式土器にかけての押型文土器後半期であり前半期の資料は少ない。

また、押型文土器以前の早期初頭から前半にかけての土器や押型文土器よりも新しい早期後半から早期末にかけての土器の実態は、文様等により明らかに時期を判断できる土器がほとんどなかったことから、はっきりと捉えられる状況にはなかった。十川駄場崎遺跡では層位的出土例をもとに、繊維を多く含み器壁の厚いいわゆる繊維土器や条痕の存在を判断基準とした条痕文土器などが該期の土器として位置づけられている。[19]

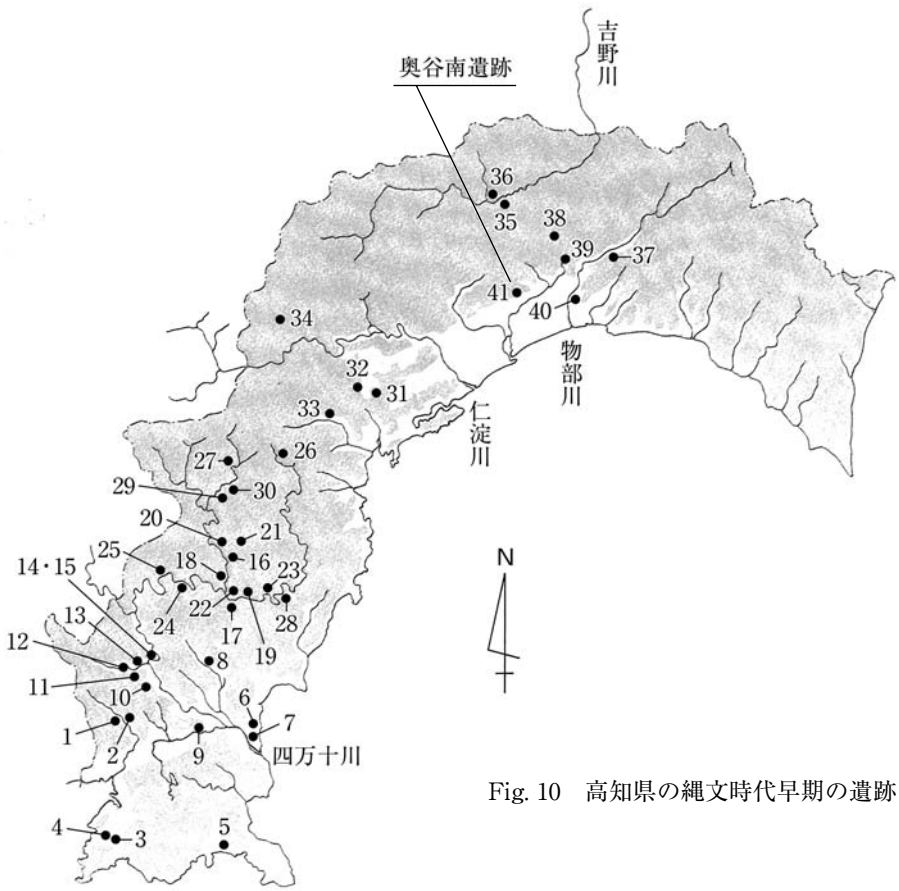


Fig. 10　高知県の縄文時代早期の遺跡

Tab. 4　高知県の縄文時代早期の遺跡一覧

	遺跡名	市町村	四国西南沿海部の先史文化	四万十川流域の縄文文化研究	土器の有無	備　　考	発掘調査（○）・報告書・関連文献
1	池ノ上	宿毛市	○		○	?	○概要報告・1995年と表採資料
2	楠山	宿毛市	○		○	楕円押型文?	○概要報告・1995年
3	大駄場	大月町	○		○	厚手無文土器・器厚1.1cm・植物繊維痕	表採資料
4	ナシケ森	大月町	○		○	押型文土器・繊維土器	○現説・記者発表資料
5	下益野B	土佐清水市	○			トロトロ石器	表採資料
6	双海本駄場	中村市	○			トロトロ石器	表採資料
7	平野茶園	中村市	○			トロトロ石器	表採資料
8	大用	中村市		○			表採資料
9	国見	中村市		○			表採資料・発掘調査時には出土していない。
10	広井駄場	西土佐村		○			表採資料
11	大宮・宮崎	西土佐村		○	○	押型文（手向山・城ノ台式）	○1999年
12	長崎	西土佐村				石鏃・剥片	表採・今城宗久氏
13	沖	西土佐村		○		石器のみ	表採
14	棟屋敷	西土佐村		○		石器のみ	表採
15	堂ヶ市	西土佐村		○			表採資料
16	奈路駄場	大正町		○			表採資料
17	轟崎	大正町	○		○	大型・小型楕円押型文、山形押型文?	表採資料
18	江師	大正町	○		○	大型・小型楕円押型文、山形押型文?	表採資料
19	瀬里	大正町	○		○	大型・小型楕円押型文、山形押型文?	表採資料
20	木屋ヶ内	大正町			○		○表採資料・発掘調査
21	八足	大正町	○		○	大型・小型楕円押型文、山形押型文	表採資料
22	森駄場	大正町	○	○			表採資料
23	北ノ川	大正町	○		○		表採資料
24	奈路	十和村		○		トロトロ石器	表採資料
25	十川駄場崎	十和村	○		○	押型文土器・繊維土器	○5次調査
26	船戸	東津野村		○	○	蔦島式土器（厚手無文）−不動ヶ岩屋Ⅱ式土器	表採資料
27	北川	東津野村		○	○	蔦島式に伴う撚糸文土器	表採資料
28	野地	窪川町	○		○		表採資料
29	初瀬影野地	檮原町		○	○	大型山形文土器・城の台式土器	表採資料
30	下折渡	檮原町		○			表採資料
31	不動ヶ岩屋洞穴	佐川町			○		○日本の洞穴遺跡
32	城ノ台洞穴	佐川町			○		日本の洞穴遺跡・高知県史・高知県の考古学
33	姫野々上町	葉山村			○	山形文（横位）・格子目文・楕円押型文	○1982年
34	坂本大平岩陰	池川町			○	楕円・山形押型文	○池川町の遺跡
35	銀杏ノ木	本山町				トロトロ石器	○1998年
36	長徳寺	本山町			○	蔦島式土器、大型楕円押型文（高山寺式土器）	○1977年
37	刈谷ヶ野	香北町			○	県内最多の押型文土器出土遺跡	○試掘・概要報告（旧名・太郎丸遺跡）
38	飼古屋岩陰	土佐山田町			○	サヌカイト・チャート石鏃、押型文土器	○1983年
39	新改開キ丸	土佐山田町			○	押型文−山形・楕円	○2001年度刊行予定・土佐山田町教育委員会
40	町田堰東	野市町			○	ネガティブの押型文	分布調査
41	奥谷南	南国市			○	押型文3時期後続する天道ヶ尾・平椿及び繊維土器	○2001年度報告書

註

1. 片岡鷹介「高知県高間原古墳出土の細石核」『とさ 高間原古墳群　四国考古学叢書』1 廣田典夫 1968年
2. 山口将仁「＜土佐の考古学＞高知県における後期旧石器時代の様相」『旧石器考古学』41 旧石器文化談話会 1990年
3. 木村剛朗『四万十川流域の縄文文化研究』幡多埋文研　1987年
4. 木村剛朗 『四国西南沿海部の先史文化　旧石器・縄文時代編』　幡多埋文研　1995年
5. 森田尚宏「竜ヶ迫遺跡」『高知県大月町竜ヶ迫遺跡ムクリ山遺跡』高知県大月町教育委員会 1994年
6. 山口将仁「高知県下の旧石器と楔形石器(1)・(2)」『旧石器考古学』54・55　旧石器文化談話会 1997年
7. 松田知彦・森田尚宏「池ノ上・楠山遺跡」『高知県埋蔵文化財センター年報3』高知県文化財団埋蔵文化財センター 1994年
8. 門脇隆『ナシケ森遺跡現地説明会資料』1996年
9. 山﨑正明『曽我城跡』大方町教育委員会 1998年
10. 森田尚宏「高知県西谷遺跡」『第15回中・四国旧石器文化談話会発表資料』　1998年
11. 松村信博・山崎真治「高知県出土の後期旧石器時代新出資料」『第17回中・四国旧石器文化談話会発表資料』2000年
12. かつて、安芸市清水寺岡遺跡からサヌカイト製の翼状剥片の出土が報告され、いくつかの文献でも旧石器時代の遺跡として採り上げられている。しかし、その後出土状況がよくわからないという理由で、遺物が遺跡から出土したものかどうかわからないとされてきた。それに対しては、「この剥片が工事の際に清水寺岡遺跡から出土したのは間違いない」という証言があるものの、サヌカイトの剥片自体が翼状剥片ではないという山下秀樹氏（京都文化博物館）らの指摘や、1986年の発掘調査で清水寺岡遺跡から弥生中期から後期にかけての集落が確認され、大量のサヌカイト剥片が出土したことなどから、遺物自体が旧石器時代のものではない可能性が高くなっている。以上の理由により、現在、清水寺岡遺跡は旧石器時代の遺跡として扱われていない。
13. 『シンポジウム：更新世－完新世移行期の比較考古学　発表要旨』国立歴史民俗博物館　1998年
14. 木村剛朗「高知県の縄文遺跡とその文化」『第四紀研究　第31巻第5号』1992年
15. 森田尚宏「高知県における旧石器時代～縄文時代初頭の様相」『第11回中四国旧石器文化談話会発表資料』1994年
16. 岡本健児・片岡鷹介「高知県不動ヶ岩屋洞穴」『日本の洞穴遺跡』日本考古学協会 1967年
    岡本健児・片岡鷹介「高知県不動岩屋洞窟遺跡」『考古学集刊第 4 号』東京考古学会 1969年
17. 岡本健児『高知県の考古学』吉川弘文館 1966年
18. 高知県西部の早期の遺跡については、木村剛朗氏の『四万十川流域の縄文文化研究』『四国西南沿海部の先史文化』及び『大宮宮崎遺跡I』を参考にさせていただいた。
19. 前田光雄『高知県十川駄場崎遺跡－第 5 次発掘調査－』高知県幡多郡十和村教育委員会 1996年

第Ⅲ章　調査の方法

第1節　調査区の概要

1. Ⅳ区の概要

Ⅳ区は旧植田速水氏邸の南西に位置し、調査着手直前まで畑として利用されていた。1993年度の試掘調査の結果、耕作土の下に包含層はほとんど発達しないものの、ピット等の遺構の存在と谷川の落ち口にあたる自然地形が確認され、約200m²の範囲についての調査となった。

耕作土下の遺構面までの深さは10～15㎝程度であり、調査区中央付近に位置する縄文時代の土坑を除いては遺構形成時期を明らかにし得た遺構はない。

石器剥片や土器細片が出土しているが、器面の条痕の存在で縄文土器だとわかる程度であり、細かい時期の認定は困難である。

Ⅴ区と連続する調査区であるにも関わらず出土遺物の様相は全く異なり、石器剥片類等の出土は認められなかった。遺構面下層についての確認も行ったが、遺物は出土していない。

2. Ⅴ区の概要と調査経過

Ⅴ区は旧植田速水氏邸跡地を中心とし、現存するチャート巨岩を含む遺物集中地点とその北側に続く斜面にかけて広がっている。調査前には植田速水氏のご家族の居住域と岩の下をかすめて通る生活道（舗装路）であり、北側の斜面には墓地が形成され、墓地の周辺は切り開かれた山林で、一部に竹林が残る状況であった。

試掘調査に引き続き、1995年5月に3日間の日程で、工事用車両進入路の確保のため削平される斜面についての調査を行った。試掘調査時と同様、後にⅦ層として把握する黒褐色土中から土器細片・敲石・剥片類等の遺物が出土、条痕が観察される個体の存在から、この層が縄文時代の包含層であることが予想された。

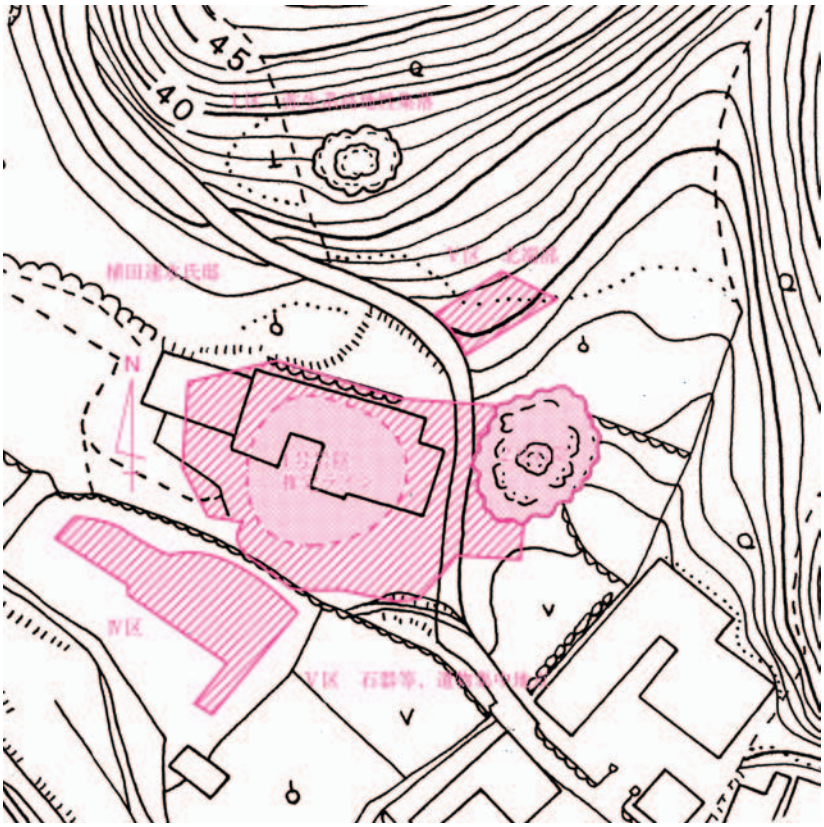


Fig. 11　Ⅳ・Ⅴ区調査区位置図

さらに下層の褐色土中にも石器剥片が存在するということも確認され、黒色土の下にも包含層があることが明らかになった。土器片等時期を明示する遺物はほとんど出土せず、わずかに出土した条痕をもつ細片を根拠に、時期は縄文時代であると漠然とした認識を持ち得たにすぎない。試掘調査でチャートの巨岩の北側に設定したトレンチからも敲石類が出土しており、縄文時代の遺物包含層が周辺にも存在する可能性がより強まった。遺物自体が旧石器時代に属するという認識はなく、縄文時代の剥片だとの認識にとどまった。

Ⅴ区の中で、植田速水氏邸及び現存する岩陰周辺の遺物集中地点の調査に着手したのは、家屋解体工事の終了した1996年2月25日のことである。調査着手時点では、下層の様相が全く把握できていなかった。周辺の試掘調査の結果、縄文時代の包含層が存在することは予想していたものの、遺物の密度や土層の残存状況、家屋建設に際して下層が破壊されているのかどうかなど、それ以外の情報は全くない有り様であった。

現代の生活面の上層の家屋撤去作業に付随した堆積物を除去した後、トレンチを設定して家屋建設時の埋め立て土（東側半分はビニール片やコンクリートブロックを含む粘土及び破砕礫によって埋め立てられ、西半は破砕礫を多く含む礫混じり粘土層によって埋め立てられていた。）の範囲を確定、これらの埋め立て土層を重機を使用して除去、埋め立てられる前の旧地形の検出を行った。現家屋面である上段の平坦面とかつて畑として利用されていた下段の平坦面の2段の平坦面が検出され、上段からはかつて使われていた風呂場遺構他の遺構が、畑あるいは竹林であった下段からは、柱穴及び土坑などの遺構が検出され、出土する遺物は近世に属する陶磁器類が中心であった。

これらの遺構面の調査と並行して、岩陰に相当する地層の残存状況あるいは含まれる遺物の様相を確認するため、後に1号岩陰と称する昭和30年代に撤去された岩陰を中心にトレンチを設定し土層堆積状況を確認、同時にこの岩陰の落磐層と考えられる礫の集中する層までの調査を進めた。縄文土器や石鏃・敲石類などの出土により、この岩陰が縄文時代に利用されていたことは明らかになったものの、遺物の出土は断片的であり、トレンチ調査を進めた黒褐色土層（Ⅶ層）からも縄文土器等の遺物の出土がほとんど認められないため、当初は数m大の落磐岩塊を撤去して下層の確認を行う必要があるのかどうか、また、現存する岩陰（2号岩陰）の下を通る生活道を調査のために付け換える必要があるのかどうかについて、積極的な判断を下せずにいた。

しかし、1996年4月2日、下層確認トレンチでⅧ層とした褐色土層及び後にⅩ層とする黄褐色土層から石器剥片あるいは石核類が出土したことで、旧石器時代の遺物が含まれることが明らかになる。黒褐色土の上層にはほとんどなかった石器剥片類も、Ⅷ層に近いⅦ層の下層からは多く出土し始める。1号岩陰だけではなく2号岩陰の近くにも良好な包含層が残っていることがわかり、①調査工程に応じた可能な限りの落磐岩塊の撤去と下層の調査、②2号岩陰の下に位置する生活道の付け換えと岩陰全域の調査、③南側に位置する電柱の移設と可能な限りの調査範囲の南側への拡張の3点を見据えて調査を進める。

下層の確認のためのトレンチは、調査開始段階では南北方向のトレンチをTR1・TR2・TR3～と数字の昇順に西から東へ、東西方向のトレンチをTRA・TRB・TRC～とアルファベット順に設

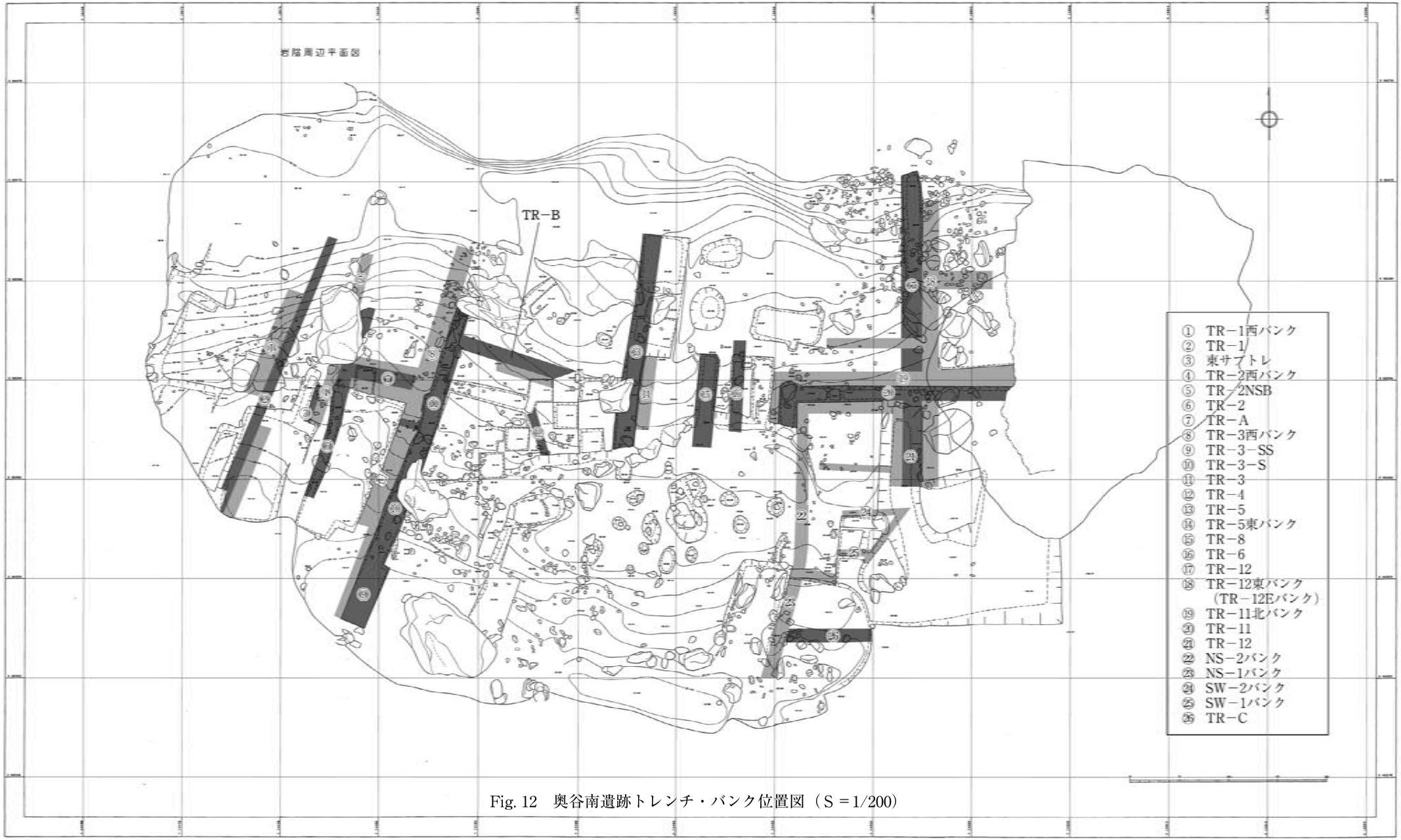


Fig. 12　奥谷南遺跡トレンチ・バンク位置図（S＝1/200）

定して、調査を進めた。しかし調査の進行に伴いアルファベットによるトレンチ呼称を混乱を避けるために数字による呼称に統一したため、2号岩陰ではTR11など東西方向のトレンチも数字による呼称となっている。（トレンチの位置と呼称についてはFig.12トレンチ位置図を参照）

トレンチ調査で下層の堆積状況を確認し、層ごとに調査を進め、最終的には黄褐色土であるⅩ・ⅩⅠ・ⅩⅡ層に至る。Ⅹ層以下岩盤まで黄褐色土層が続き、礫あるいは細砂の含有の状況によって分層したが、ⅩⅢ層以下では遺物が確認されていない。

また、グリッド以外の地点呼称については、調査の段階において便宜的な呼称を設定して使用し、報告書段階でもそれにならった地点呼称を使用する。

昭和30年代に撤去された岩陰を1号岩陰、現存する岩陰を2号岩陰として調査、出土した石器類のまとまりごとに1号岩陰、1号岩陰南地点、1・2号岩陰中間地点、2号岩陰、2号岩陰南地点、Ⅴ区南地点と遺物出土のまとまりごとに大きく区分した。傾斜地で落磐した岩塊が点在する地形であるがゆえに、グリッドごとのまとまりで確実に取り上げることが難しく、取り上げ時の呼称はグリッド呼称を利用した変則的なものとなった。1号岩陰を例にとると、E-5とF-5にまたがるTRAの南側に相当する領域は「EF-5」であり、F-6とF-7にまたがる領域は「F-6・7」である。このような便宜的な呼称は他に、E-6・7、JK-4、JK-5、JK-6、KL-5、KL-6などであり、基本的には命名の基準となるグリッドに対応しているものの、基準となるグリッドから若干外れている遺物もある。グリッドを基準とせず、遺物が集中して出土するといった程度の認識で遺物取り上げ時に「ユニット」「ブロック」などの呼称も採用している。本来のブロック等の使用法とは同義でなく、混乱が生じかねないのだが、取り上げ時の呼称をできるだけ残し名称の付け直しによる混乱を避ける意味で、本書においてはそのまま使用している。

これらの地点呼称についてはFig.13に示すこととする。

4月2日以降Ⅷ層以下の層から遺物が次々と出土するのだが、それは先行トレンチ（TR3）の下層の土をフルイに掛けて石核（細石刃核）を見つけたことから始まった。Ⅴ区の調査に着手した時点から、特に縄文時代の石鏃を検出する目的で、石器類のまとまって出土する地点については調査排土のフルイによる選別作業は行っていた。4月以降細石刃関連の遺物が、遺跡出土の石器類の中心であることが明らかになるに及んで、微細遺物の検出を意図して、Ⅶ層以下のほぼすべての排土の水洗選別作業を行うこととした。排土を1mグリッドあるいは調査地点呼称ごとに土嚢袋に詰めて遺跡外に持ち出して水洗選別を行ったため、この作業は10月の遺跡現地での発掘調査終了後も継続する。

Fig. 13　V区における地点呼称（S＝1/200）

調査の経過

1996年2月25日

Ⅴ区の調査に着手

2月末～3月初旬

埋め立て土を除去し、調査予定地当時両端の堆積状況を確認した上で家屋建設前の旧地形の検出を行う。

3月上旬

調査区南東（ES）の遺構面（主に近世以降）の検出作業を進める。調査区南端で2次堆積土中に石器剥片がまとまって存在することを確認する。並行して落磐によるチャート岩塊が集中する地点を1号岩陰として、落磐岩塊の検出作業と落磐層上面に至る調査を行う。

3月中旬

赤みを帯びた褐色で礫の集中する落磐層まで層ごとに確認しながら精査。層はⅠ～Ⅳ層とその下の落磐層（R層→後にⅤ層とする。）で、Ⅳ層中に炭化物の集中地点を確認する。出土遺物は敲石類、石鏃、縄文土器。条痕の存在により縄文土器だと確認し得る程度の破片が多い。石鏃など遺物検出のためフルイによる選別作業を始める。(1号岩陰)

3月中旬～下旬

TR-1～3を設定し、南北方向の堆積状況の確認を行う。Ⅰ～Ⅶ層の基本層序の確定、Ⅶ層とした黒褐色土中にはトレンチ調査開始の段階で遺物を確認することができなかった。

1号岩陰の東側にもTR-4～8を設定。

3月下旬

調査区南東（ES）遺構面の調査終了。

4月2日

Ⅳ～Ⅵ層は縄文時代の遺物包含層、Ⅶ層以下は無遺物層だと捉えていたのだが、TR-3から人為の痕跡をとどめる石核と剥片が出土、細石刃核の可能性のある遺物であることから、周辺に旧石器時代の遺物包含層が広がる可能性があることがはじめて明らかになる。

4月3～5日

トレンチ（TR-3）の下層からも石器剥片類が出土、旧石器時代の遺構の拡がりの確認を急ぎ、2号岩陰近くの堆積・遺物包含状況の確認を進め、グリッドI-5周辺から石器剥片類がまとまって出土することが判明。

4月8～9日

岩塊の測量と1号岩陰前庭部の調査。

4月10・11日

4mを超える大きさの1号岩陰落磐岩塊（R-19）撤去作業。破砕した後、搬出。調査区南東端の近世遺構面の南に続く緩斜面から遺構（SX101）検出。

4月中旬～下旬

岩塊の下層の1号岩陰の調査を進める。黒褐色土であるⅦ層、その下層のⅧ層・Ⅸ層、さらに調査区全域に残る黄褐色土（Ⅹ層）からも石器剥片類の出土を確認する。

5月上旬

1号岩陰とその周辺の調査を継続して行う。

5月10日

2号岩陰の岩陰部分を調査するため、生活道の付け替え作業が完了、生活道撤去の準備を開始する。道路部分の記録をとる。

5月中旬

2号岩陰の調査開始。堆積状況の記録後、生活道撤去。整地埋め立て土の下には1号岩陰と同様の赤みを帯びた礫の集中する褐色土（Ⅴ層）の堆積が確認される。TR-11（東西方向）とTR-12（南北方向）のトレンチを設定、下層は1号岩陰と同様の堆積を示す。Ⅶ層からⅩ層にかけて石器の包含層である。

5月27・28日

SX101の調査の最終段階で最後に残ったバンク中から隆起線文土器／隆帯文土器が出土、この遺構が縄文時代草創期の遺構であることが判明。

5月下旬

1号岩陰と2号岩陰の調査を並行して進める。

6月上旬～中旬

1号岩陰の下層と1号岩陰南側前庭部下層の調査。同時に2号岩陰南地点の調査も行う。

雨が多く、発掘予定日の中で作業中止となった日が5月末～6月で9日間となる。

6月下旬～7月上旬

2号岩陰南地点と調査区北斜面部の調査。1号岩陰の調査としては堆積状況確認のため残しておいたバンクの調査にも一部着手する。

7月10日

Ⅶ層の上面で調査を止めていた2号岩陰の岩陰部分の調査を開始する。

7月中旬～下旬

2号岩陰と2号岩陰南地点の調査。

8月上旬

1号岩陰の南側を拡張。上層から順番に調査を進める。層の堆積の状況は1号岩陰と同様で、削平は受けずⅣ層以下が良好に残る。

8月7日

記者発表。記者発表後の調査で草創期の局部磨製石斧出土（G-7／Ⅳ層）。

8月11日

現地説明会。約250名ほどの参加者。

8月中旬

1号岩陰北半と1号岩陰南拡張部分の調査。

8月下旬

1号岩陰周辺の撤去可能な落磐チャート岩塊を順番に取り除き、下層の調査及びバンクの調査を順次進める。

2号岩陰のⅧ-a層以下の調査に入る。石器集中部確認。

9月上旬

1号岩陰バンク土層サンプリング。1号岩陰・1号岩陰南・2号岩陰の調査を並行して進める。

9月10日

第1回空中写真撮影。

9月中旬～下旬

1号岩陰・1号岩陰南地点・2号岩陰・2号岩陰南地点下層など調査区全域の包含層の残った部分の調査、バンクの調査、など調査最終段階に向けての精査・測量作業。

9月28日

1号岩陰1箇所と2号岩陰2箇所で土層剥ぎ取り作業。

10月1日

Ｘ層（黄褐色土）上面で埋土が赤変した焼土遺構が次々に検出される。

TR-11北バンクⅦ層中から有溝砥石が出土する。

10月上旬

黄褐色土の下層に石器包含層があるかどうか、調査区全域で確認作業を行う。遺物包含の確認はトレンチの下層あるいはグリッド方向に合わせた１ｍ画のグリッドで行ったが、遺物出土地点はなかった。

10月5日

第2回空中写真撮影及び測量

10月7日

遺跡発掘調査現場での作業を終える。土嚢袋に詰めた水洗選別用排土の搬出作業も終了。

10月17日

排土の水洗選別も含めたすべての作業を終了する。

第2節　グリッドの設定

グリッドについては、調査対象区に隣接する工事用の公共座標を用い、調査区周辺に調査用測量杭の移設を行った。Ⅴ区のチャート巨岩周辺を中心に、南北方向1～9、東西方向Ａ～Ｏの36ｍ×60ｍの範囲（約2,160m²）を想定し、4ｍグリッドを設定した。実際に遺物が集中し、図化が必要だったのは、南北28m（2～8）、東西48m（C～N）の範囲（1,344m²）である。この範囲とは別に、北側の尾根（94年度調査-Ⅰ区）へと続く斜面についても確認の調査を行ったが、遺構・遺物ともに検出することはできなかった。

公共座標のデータは、設定した座標の北西端に位置するA-1が（X=66,276、Y=10,460）、北東端に位置するO-9が（X=66,244、Y=10,516）であり、それぞれの測量杭の座標はFig.14に示したとおりである。

なお、E-6、F-6、I-4、I-7など調査の進行状況と地点に応じた任意の地点を設定し、その測量起点からの座標値で平面位置、標高値を記録した上で石器剥片類を中心とする遺物の取り上げを行った。遺物の座標値の起点が各遺物ごとに異なっていては出土地点を相互に比較する上で都合が悪いため、遺物出土地点については統一した座標値で表現する意図で、調査終了後、起点を統一し数値を変換した上で遺物出土地点の座標値とした。

この座標値の起点となる測量杭はC-9である。C-9の公共座標は（X=66,244、Y=10,468）で、

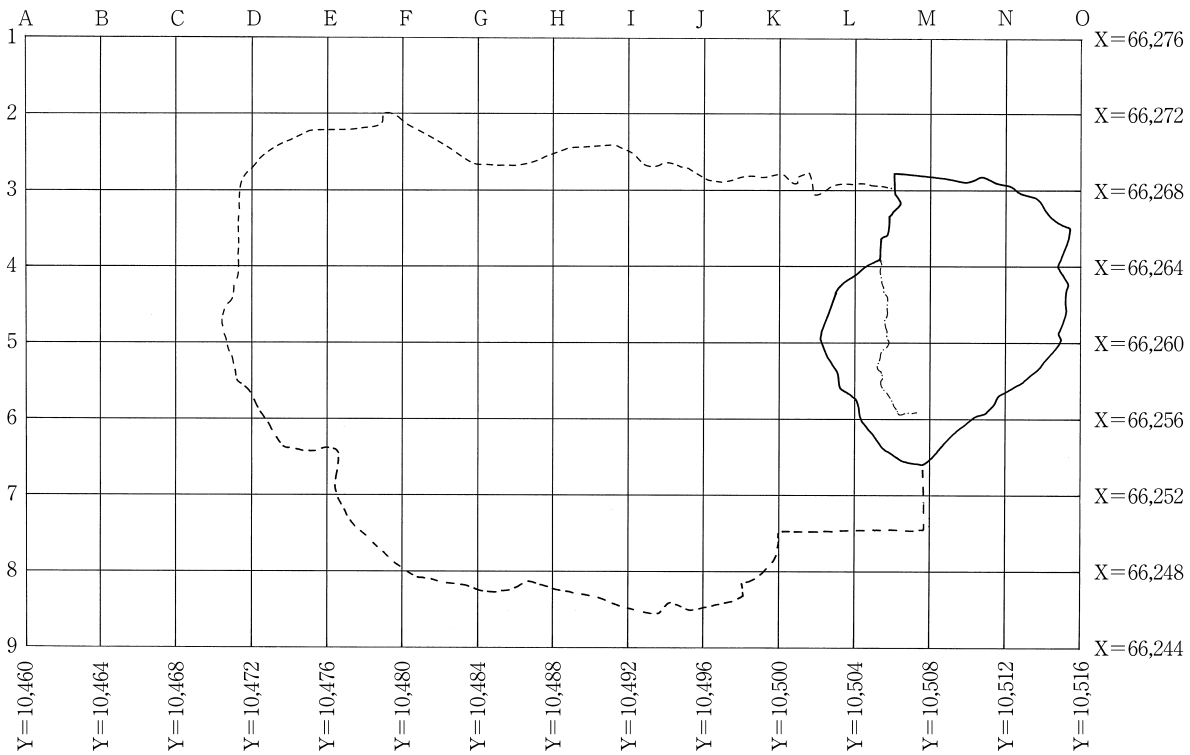


Fig. 14　Ⅴ区4mグリッドと公共座標

このC-9を（X=0.000、Y=0.000）とし、遺物出土地点がすべて第１象限に来るように（X、Yの値がともに正の値となるように）した上で数値の変換を行った。C-2は（X=28.000、Y=0.000）、F-6は（X=12.000、Y=12.000）、I-7は（X=12.000、Y=28.000）である。

遺物取り上げに際してのグリッド表記は４m区画の西北端の杭を基準として行い、測量杭の南側４mと東側４mの範囲を同じグリッドとして記録した。

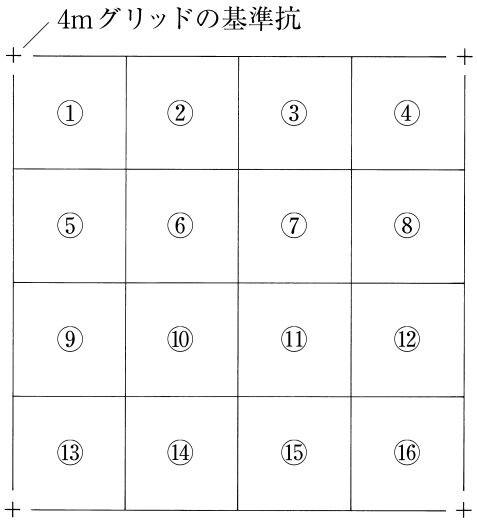


Fig. 15　1mグリッド設定図

グリッドは4mグリッドのみではなく、点的に採り上げる遺物以外についても、より細かい出土地点を特定できるように、1mグリッドを設定した上で調査を進めた。１mグリッドの設定の仕方はFig.15のとおり北西端の4mグリッド測量杭を起点とし西→東方向へ1→4、北から南へ順次、5→8 、9→12、13→16のグリッドを設定した。表記例とはF-6-1あるいはF-6-①、E-4-16あるいはE-4-⑯などのように３段階に分けた数字で示す。1mグリッドの場合も、西北端が起点であり、基準杭から南側1mと東側1mの範囲が同一のグリッドとなる。

第3節　調査の方法

1. 現地調査の方法

Ⅳ区・Ⅴ区ともに遺物包含層上面までを重機により掘削した後、包含層以下については人力による掘削・精査を行った。Ⅳ区は耕作土下層に形成された包含層が薄いこともあり、重機による掘削は耕作土直下までであり、それ以降は手掘りで遺構検出作業・遺構調査を進める。これに対してⅤ区は家屋移転後の土地が調査対象であったため、移転家屋の残廃材・残土の処理、埋め立て土の除去等の作業を主に重機を使用して行い、作業経過に即して、道路の撤去、岩塊の除去作業などに重機を使用する。これらの除去・撤去作業以外にも排土の移動、水洗選別用土嚢袋づめ排土の調査地外への搬出など調査期間を通じて重機は稼働することとなる。

重機による撤去作業の後は手掘りによる精査を行い、石器の集中する層については、層ごと1mグリッド単位で排土の微細遺物検出のため水洗選別作業を実施した。水洗選別作業については2㎜メッシュのフルイを使用する。調査現場では水洗選別が十分できない状況であったため、排土は基本的に層ごと1mグリッドごとに分けた上で埋蔵文化財センターなど水洗作業の可能な地点へ搬出し水洗選別処理を行った。

手掘りによる精査では、石器類・土器類については平面位置・標高を記録して取り上げ、出土

状況によってはS=1/20、1/10の縮尺で図化した。石器剥片類の取り上げには光波測量器を使用、平面及び標高をX・Y・Z座標で記載、また、地点によっては実測図上に記録して標高を記録した。これらの遺物取り上げ座標については、異なる起点から測量起点を明記した上で取り上げたため、調査終了後すべての取り上げ座標について変換作業を実施、取り上げ起点の統一を行った。遺構については1/20の縮尺での図化を基本とし、状況に応じて1/10の縮尺で図化した。

水洗選別に使ったフルイ

遺構および遺物出土状況等の記録に用いたカメラは中型カメラ（6×7、6×4.5）、小型カメラ（35㎜）で各々白黒・スライド・ネガカラーでの撮影を行った。常時使用したのは6×4.5（白黒・スライド・ネガカラー）、35㎜（白黒・スライド）である。35㎜のネガカラーは調査状況の記録に主に使用した。

また、調査の最終段階で土層剥ぎ取り作業および空中写真撮影・測量を実施している。土層剥ぎ取り作業は、1号岩陰で1箇所、2号岩陰で2箇所行ったが、各々の岩陰1箇所ずつについて外枠をつけパネル化して保存処理を施した。空中写真撮影は2回実施、空中写真測量は最終段階の1回のみである。

2. 資料整理の方法（Ⅴ区出土遺物ー石器選別方法）

奥谷南遺跡の成果については、1999年3月に試掘調査およびⅠ・Ⅱ・Ⅲ区を対象とした『奥谷南遺跡Ⅰ』を、2000年3月にⅥ・Ⅶ区を対象とした『奥谷南遺跡Ⅱ』を刊行、並行して石器類の整理作業も進めてきた。

奥谷南遺跡Ⅴ区の石器類は、ツール・剥片・砕片・原石等あわせて４万９千点に達する。分層可能資料・層位不明資料等あるが、その多くは旧石器時代と縄文時代（草創期～早期）の資料だと考えられる。この膨大な資料群に対して、発掘調査途上の水洗作業の過程で何度か選別を繰り返し、ツール・剥片などの取り出し作業を行った。[(1)] 一時的な水洗作業においては、明らかに人為の痕跡が認められない自然礫を取り除いたのだが、石器の原材となり得るチャートの原礫や他地域からの搬入の可能性のある石材、砂岩円礫など在地産だが遺跡の外から持ち込まれた可能性のある遺物などについては人為の痕跡が認められないものでも残すこととした。

資料の全体量は、コンテナ数に換算して140箱で、内10箱が土器など石器以外のコンテナとなっている。土器の約９割が縄文土器、総点数1,000点弱で、実測可能土器170点余り、ほとんどが小片である。残り130箱が石器類である。石器類は超音波洗浄器による水洗作業を経た後、ツールも含

めて今次調査での取り上げ遺物（石器類）を総体として把握、実測必要遺物の点数・剥片量を確定させ今後の整理作業の指針を作ることを目的として、1997年4月から6月にかけて約3カ月の期間に第１次の石器選別作業を行った。

この選別作業で目標としたことは「定型的な石器」を選び出すこと、そして、石器の剥片でもなければ素材として準備された材料石（自然石を含む）でもない、「人為の痕跡のない、将来的にも予想できない」石を資料体から取り除くことの２点を目標とした。選別作業では、器種のはっきりした資料、判断できないが加工の明らかなツール、剥片・裂片・砕片の区別、石核、自然石・原石の区別を行い原材として使用される可能性の有無や、石器製作の材料とはなり得ない自然状態の礫の区別を行った。その上で石器剥片点数の確認、剥片と石核の弁別、砂岩・黒曜石・頁岩・サヌカイトなどチャート以外の石材の取り出し、などの下位目標を決め作業を続けた。選別の基準は以下のとおりである。

①　ツールの取り出し

疑わしきは可能な限り取り出す。判断できない物は要注意遺物として一旦取り出しておく。石核や2次加工のある剥片・使用痕のある剥片などの剥片類も取り出しておく。

②　石器ではない石片の除去

自然石ではあっても、石器を作成する意図で運ばれた可能性を持つ素材（原石）や奥谷南遺跡に自然状態では存在しないと考えられる石材（砂岩の円礫や他地域から搬入されたサヌカイト、頁岩、黒曜石など）は残しておく。

③　自然石、石核、 剥片、砕片、裂片の区別

分類に際して取り出さない石器類についても、自然石・石核・剥片・砕片・裂片の区別を行い、記録にとどめておく。

これらの選び出した石器に対して器種の認定作業を行ったわけだが、旧石器時代の石器はもとより石器類に対して理解が浅い段階だったため、選別及び器種認定の過程で正しい石器の認定ができていたとは言い難い。旧石器時代の研究者の方々の手助けを受けながら、1997年以降器種の認定作業を続け、[(2)] 人為の可能性のある石器あるいはツールの選び出しを行ったが、最終的に本報告の段階にいたっても一部については過った器種である可能性もある。（株）アルカの角張淳一氏の指摘により、いわゆる偽石器の存在を改めて認識し、全資料について器種認定の再確認を行った。[(3)] 報告書中では器種ごとに提示する予定だったのだが、一部に器種が混在する混乱が生じたのは、器種の再認定作業のためである。石器自体の評価が今後の検討課題として残る。

註

1. 石器類の選別については竹岡俊樹氏の『石器研究法』を参考にさせていただいた。
2. 器種認定に際しては鈴木忠司・多田仁・雨宮瑞生・角張淳一・前田光雄・森田尚宏他多くの方々にお世話になり、ご教示をいただいた。
3. 石器の実測については明らかなツールから実測作業をはじめ、約1,500点の実測作業を行う。定型的なツールを実測した後に残ったスクレイパー類、2次加工のある剥片や使用痕のある剥片、石核、細石刃核ブランク、あるいはブロックという認定を受けた約500点の石器の分析と必要な資料の実測を（株）アルカに委託した。委託資料の中には人為の痕跡の少ない資料も多く、偽石器が多いとの指摘をいただいた。

第4節　Ⅳ区及びⅤ区北端部調査の成果

1. Ⅳ区の成果

Ⅳ区は旧植田速水氏邸の南西に位置し、調査着手直前まで畑として利用されていた。1993年度の試掘調査の結果、耕作土の下に包含層はほとんど発達しないものの、ピット等の遺構の存在が確認され、約200m²の範囲についての調査となった。

耕作土下の遺構面までの深さは10～15㎝程度であり、調査区中央付近に位置する縄文時代の土坑（Ⅳ区SK1）を除いては遺構形成時期を明らかにし得た遺構はほとんどない。

石器剥片や土器細片が出土しているが、器面の条痕の存在で縄文土器だとわかる程度であり、細かい時期の認定は困難である。

遺構面下層についての確認も行ったが、遺物の出土は認められなかった。

Ⅳ区については出土遺物がほとんどなく、図化し得たものは包含層出土の蛇紋岩製の磨製石斧の刃部破片が１点のみであり、他には土器細片が数点と石器剥片が若干量出土している。この蛇紋岩は遺跡周辺では南東約1㎞の岡豊山に露頭が存在し、尾根一つ隔てて西側の栄エ田遺跡など縄文時代の高知平野の遺跡から一般的に確認される石斧の素材である。石材の名称としては超塩基性岩あるいは蛇紋岩として報告されてきたが、この石材の場合は蛇紋岩という呼称の方が適切である。(1)

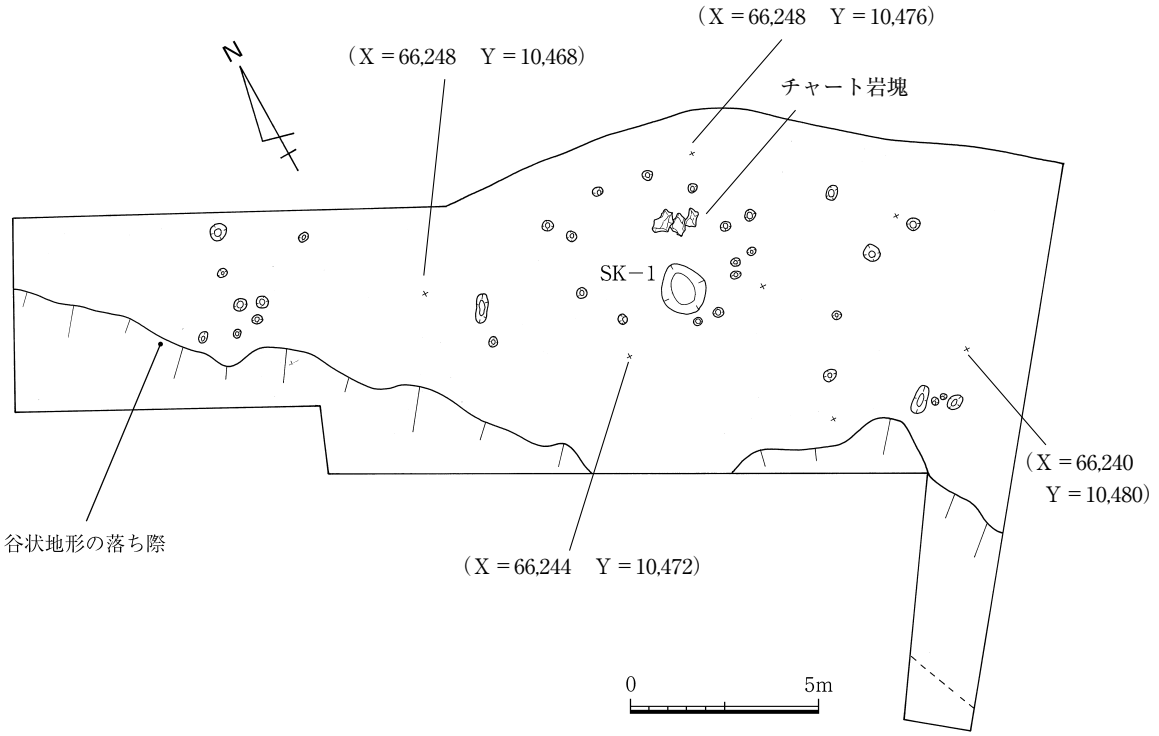


Fig. 16　Ⅳ区遺構平面全体図

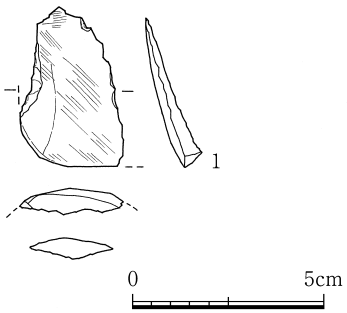


Fig. 17　Ⅳ区出土遺物-磨製石斧-

畑として利用されていた地点であり、旧遺構面も削平の影響で決して残存状況が良好だとは言えないものの、チャート岩塊に接して土坑状の遺構（Ⅳ区SK1）が存在し、この土坑状遺構を周状に取り巻いてピット列が並んで検出されている。ピット列の並ぶ円周の直径は4～4.2mで、間隔は1～2m、ピット列の並びの中にチャート岩塊と土坑状遺構があることに特徴がある。この土坑Ⅳ区SK1からは条痕の存在から縄文土器だと判定可能な土器細片が数点出土している。

周状に巡るピット列の存在からチャート岩塊と土坑（Ⅳ区SK1）を取り囲むように、何らかの建物があった可能性もあるが、畑形成のための削平により失われた部分が多く、遺構の性格の特定はできない。周状に巡るピット列は、それぞれが円形に近い平面形を示し、直径22㎝～30㎝の規模で、検出面からの深さも各ピットともほぼ同じであった。

畑の南端は埋め立てられて平坦地形がつくりだされていた。旧地形は、削平された平坦地形から急角度の斜面となって南西側の谷川に向かって落ち込んでおり、落ち際のラインが検出された。

Ⅳ区については一部の図面が失われており、残念ながら報告については、遺構平面全体図と試掘調査時のセクション図、そして写真によって行いたい。

註

1. 縄文時代の高知平野周辺で石斧石材として好んで使われる石材である。この石材呼称については、超塩基性岩・蛇紋岩という呼称のどちらを使うか、一定していなかった。地質学・岩石岩の分野の研究者からは蛇紋岩であるという御指摘をいただく。（高知県越知町立横倉山自然の森博物館の安井敏夫氏等の御教示による。）今後蛇紋岩という呼称で統一すべきだと考える。なお、東日本の石器研究者の中には、この石材を蛇紋岩とすることに大きな違和感を抱く方もいる。

Ⅳ区遺構検出状況（西から）

Ⅳ区と植田速水氏邸（南から）

2. Ⅴ区北端部の成果

岩陰北端の尾根の小道の下に堆積する層の調査であり、地山岩盤上に黄褐色土、褐色土及び黒色土の堆積が確認された。

北端部露頭の堆積状況はFig.18の柱状図に示したとおりであり、1層表土、2層破砕礫堆積土層、3層黒褐色土、4層褐色土、5層黄褐色土、5層の下は岩盤となっている。

3層の黒褐色土及び4層の褐色土が遺物包含層である。3層はⅤ区遺物集中部でのⅦ層に、4層はⅧ層に相当し、3層からは土器細片及び敲石類及び石器剥片類が出土し、4層からは石器剥片類が出土している。

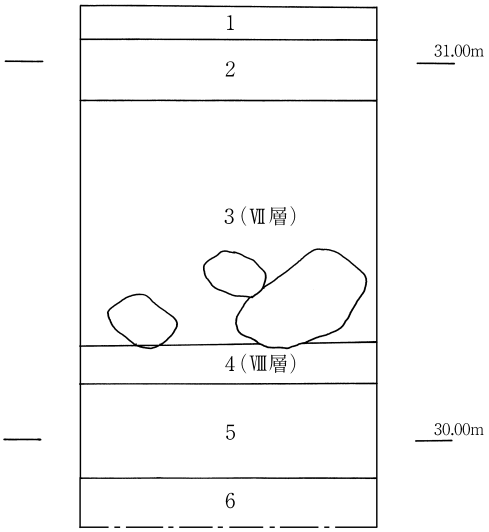


Fig. 18　Ⅴ区北端部堆積状況柱状図

Ⅴ区北端部
堆積状況

3層（Ⅶ層）
チャート岩塊出土状況

出土遺物は、石器剥片及び石核10点及び敲石類8点及び縄文土器細片が若干量出土したのみであり、そのうちで剥片石器5点、石核1点、敲石類6点について図示した。図示した資料の出土層位はいずれも黒褐色土層（3層）であり、Ⅴ区のⅦ層に相当する。

Fig.19-2～6が剥片石器及び剥片で、7が石核、Fig.20-8・13・15～18が敲石類である。

2は両側縁に2次加工により刃部が形成され、削器としての使用が予想されるスクレイパー類である。3～6は使用痕のある剥片あるいは剥片である。3～5は剥片の末端辺に、6は両側縁に使用痕と考えられる微細な剥離痕が観察される。

7の石核は、節理面および剥離面の2面を各々打面に設定した細石刃核あるいは石核または細石刃核ブランクの可能性を想定し図化したが、圧縮の剥離によるもので人為的な石器ではないという指摘もある。

Fig.20の中の敲石類で、9～12及び14については1号岩陰Ⅴ層からの出土である。石材から見れば緑色岩系の円磨礫を利用した敲石類（8・13・15・16）と砂岩を利用した敲石類（17・18）に大別される。礫形状からは扁平な円礫が大半だが、16のみは寸づまりの不整形な棒状で用途の違いが

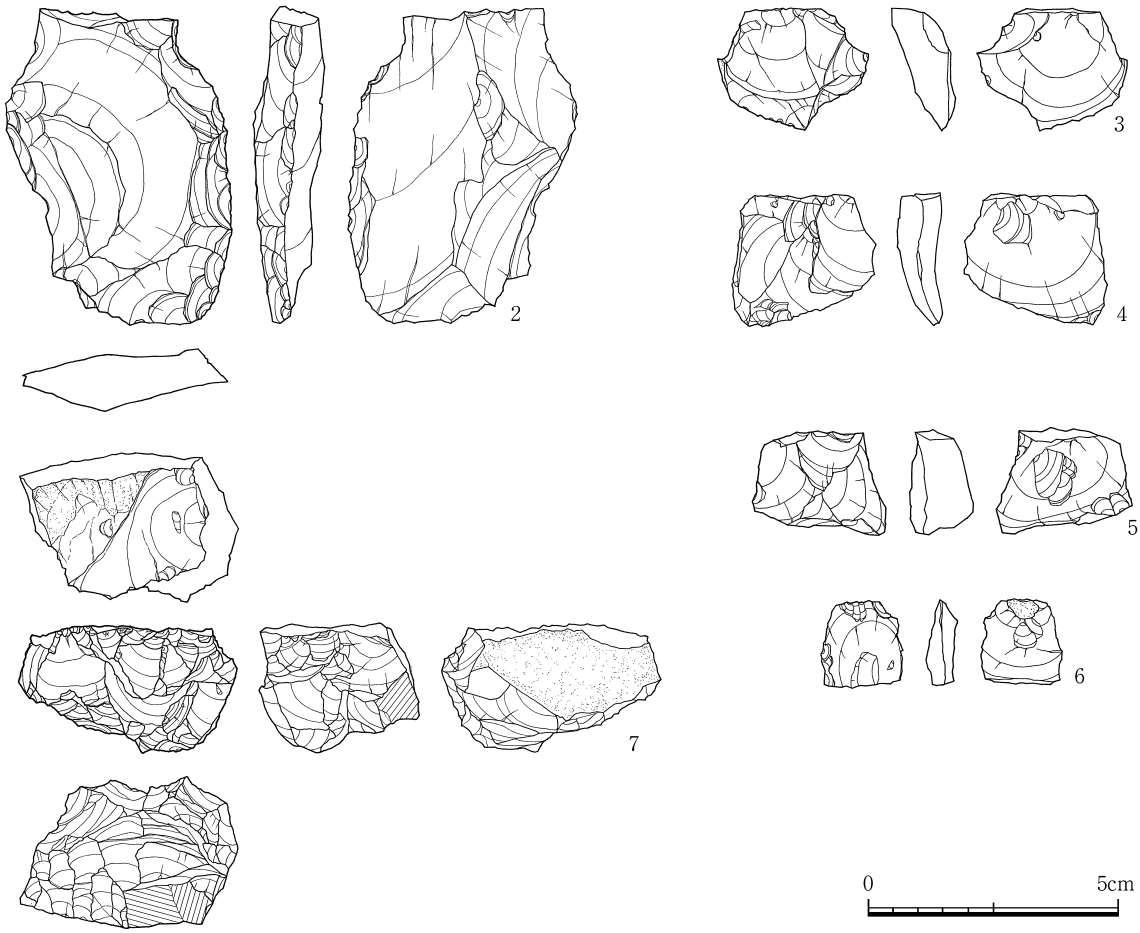


Fig. 19　1995年5月調査地点出土遺物(1) －剥片石器－

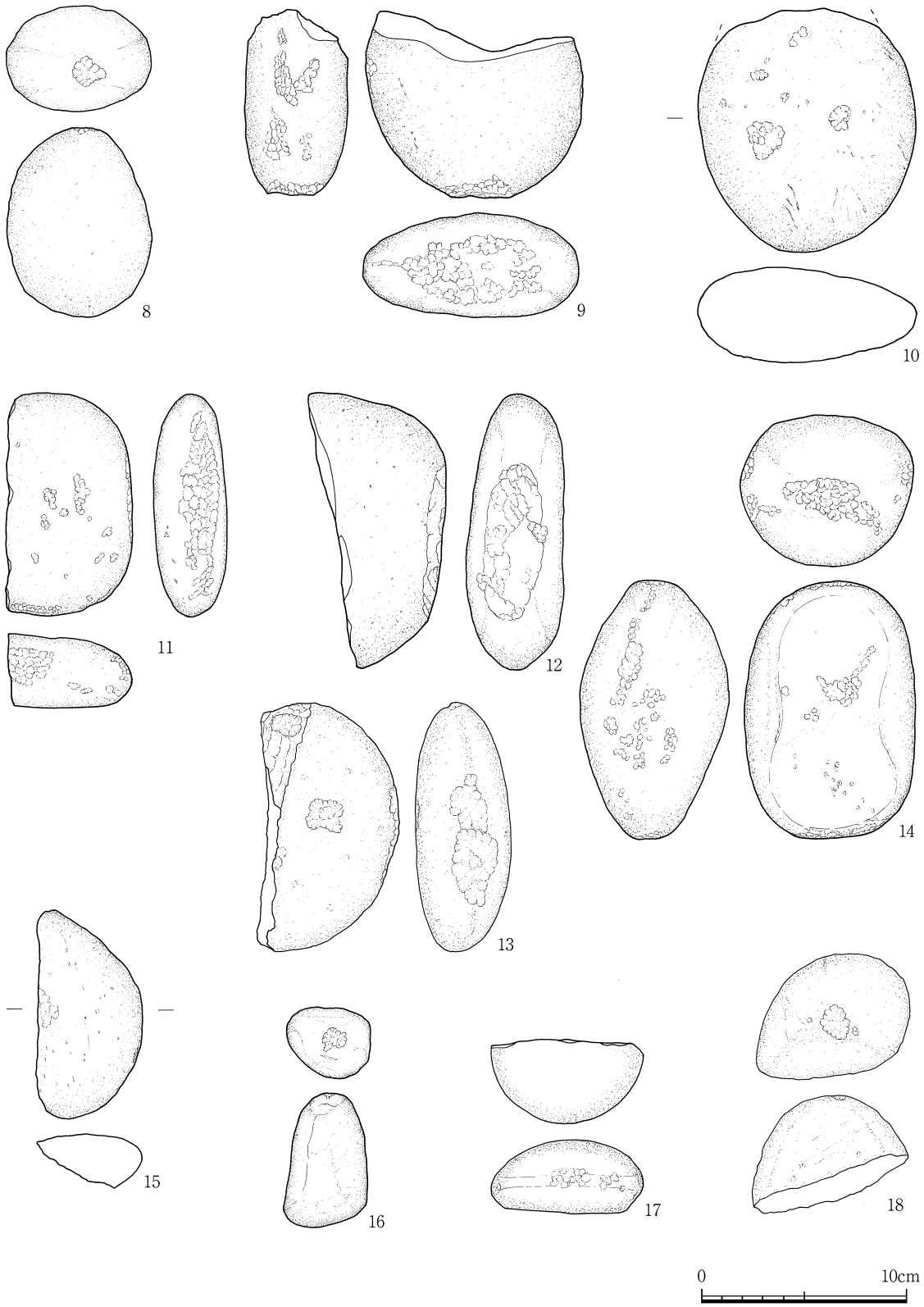


Fig. 20　1995年5月調査地点出土遺物(2) －敲石類－

予想される。破損品が多いが、扁平な円礫には縁辺と腹面の両方に敲打痕が残されている。これに対し扁平度の低い8と16は縁辺部しかも片方の端部のみに敲打痕が認められる特徴を指摘できる。

2号岩陰の北側に縄文時代以前の遺物包含層が形成されていることから、Ⅴ区周辺の生活領域が岩陰周辺の緩斜面部にとどまらず斜面上方まで広がっていたということがわかる。Ⅴ区北端部の調査対象地点の現地形の傾斜は、25～30°前後の急傾斜であり、斜面に数m大のチャート岩塊が取り込まれたように佇立する景観である。

Ⅴ区北端部　堆積状況

第Ⅳ章　調査の成果（Ⅴ区）

第1節　基本層序

岩陰周辺は北側の山地から谷底の幅狭な低地にかけて急斜面→緩傾斜へと変化する地形変換点にあたっている。元来平坦な地点はなく、現在確認される平坦地形は後世の削平及び埋め立てによって造りだされたものであり、これらの比較的規模の大きい人為的な地形改変は近世以降の所産である。しかし、傾斜地であり斜面に数m大のチャート礫が点在していることからわかるとおり、数千年のタイムスケールで見た場合、岩塊の斜面からの崩落・落磐・表土の侵食→下方への堆積など様々な要因で景観は変化している。

第二次大戦後埋め立てられて現在の地形になったが、その時に平坦地を拡げるために岩盤上部まで削平されたとのことであり、部分的には包含層等が全く残されていない地点もある。また、Ⅴ区北端部露頭（Ⅲ章第４節参照）で遺物及び包含層を確認したものの、Ⅴ区の北側にあたる急傾斜の斜面では表土層の発達は認められたが、下層に遺物包含層を確認することはできなかった。総じて堆積する土層は薄く、10～20㎝前後で岩盤に達する。

埋め立て土

調査直前まで残されていた家屋の建設に際しての土地確保のための埋め立て土であり、地点により層の内容は異なっていたものの、ほぼ同時期に埋め立てられたものと推定される。西側には礫混じりの黄褐色粘土の折り重なるような堆積が確認された。西側部分が粘性は弱く締まりのない粘土であるのに対し、東側からは粘性の強い暗青灰色の粘土や砂礫層、破砕礫層など

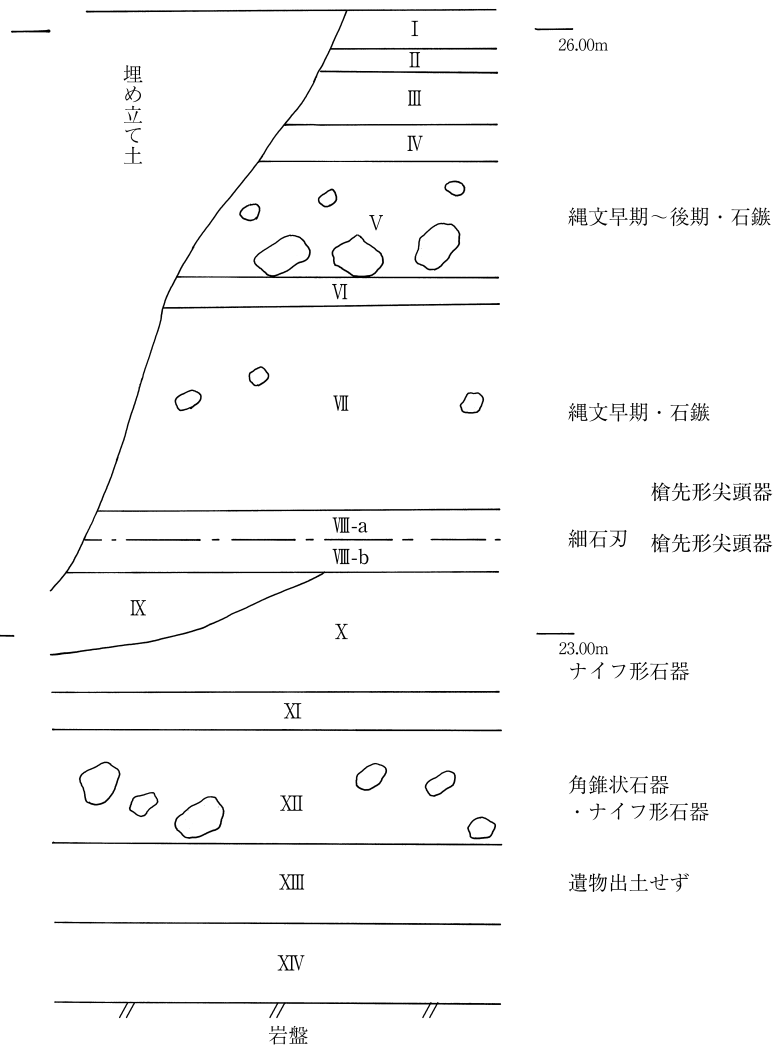


Fig. 21　奥谷南遺跡　岩陰周辺堆積状況模式図

による埋め立て・地上げが確認されている。東側は水分を多く含んでいたが、これは植田速水氏邸の庭に築かれた池の下に位置するという理由からであろう。（この場合の西側は1号岩陰以西、東側は1号岩陰よりも東側をおよその目安とする。）

特に東端部の埋め立てにはコンクリートやビニール片等の現代の廃棄物も使われていた。これらの自然の営為によらない埋め立て土については、ほぼ完全に除去してから調査を開始した。

埋め立て土を除去した後は、全域に分布する層・部分的に存在が確認されるのみの層など、Ⅰ～Ⅻ層に大別可能な層が確認された。

Ⅰ層 灰褐色粘土層

１号岩陰の上部、TR1およびTR2で確認された層で、分布はこの二つのトレンチ周辺に限定される。灰褐色粘土層であり、小礫を若干含む。あまり締まっていない。包含する遺物はほとんどない。

Ⅱ層 褐色礫混じり粘土層

Ⅱ層もⅠ層とほぼ同じ分布域を示し、包含する遺物がほとんどない点も同様である。

Ⅲ層 褐色粘土層

ふかふかした印象で締まりのない層であり、分布域はⅠ・Ⅱ層と同様である。Ⅲ層自体は埋め立て土ではないが破砕礫が部分的に混入する。遺物の取り上げ時点でW層とした層はこの層であり、縄文土器を中心とした遺物を包含する。

Ⅳ層　褐色～暗褐色粘土層（明褐色小礫含）

礫の含有量は少なく、炭化物や炭の塊を含む。Ⅳ層の分布は1号岩陰と1号岩陰南地点に限られている。両地点をつなぐ空間は近世以降の生活面として利用され、削平によってⅣ層が失われている。Ⅳ層は1号岩陰では、Ⅳ-1層と、Ⅳ-2層に分層される。同じⅣ層として遺物取り上げ時には取り扱ったが、Ⅳ-1層は弥生時代の遺物の包含層でⅣ-2層は縄文時代の遺物の包含層となっている。１号岩陰南地点ではⅤ層上面に堆積する層をⅣ層として取り扱った。１号岩陰南地点のⅣ層は縄文時代の遺物を中心に含む遺物包含層だが、含まれる遺物の時期は一定していない。

Ⅴ層　褐色～明褐色礫混粘土層（礫を非常に多く含み、拳大以上の大きさの礫も含む）

落磐によると考えられるチャートの岩塊や小礫を多く含む礫混粘土層で、赤みを帯びた褐色～明褐色に発色する。分布は１号岩陰から2号岩陰にかけての岩陰周辺の調査対象地点全域に及んでいたと想定されるが、後世の生活面形成のための削平により、調査時点で残されていたのは１号岩陰周辺・１号岩陰南端・2号岩陰周辺の３箇所のみである。両岩陰ともにⅤ層中には周辺の山塊に点在するチャートの岩塊・礫を含み、特に１号岩陰には数メートル大の岩塊が含まれるなど、Ⅴ層の成因には連続する豪雨・巨大地震などの通常の環境と大きく異なる堆積環境が予想される。

このⅤ層により下層は覆われた状態で、Ⅴ層の残っている部分についてはⅤ層堆積後の侵食及び再堆積はないものと考えている。

Ⅴ層中には石器剥片類や石鏃・敲石等の石器、縄文土器などの遺物が含まれる。量は少ないが旧石器時代の遺物も混在している。

Ⅵ層　暗褐色～暗灰褐色粘土層（小礫を若干含む）

Ⅴ層の下層に確認される暗褐色～暗灰褐色粘土層で、細礫が若干量観察されるものの、他層と比べると礫の含有量は少ない。層厚が５㎝前後で比較的薄く、1号岩陰の周辺に部分的に残っているにすぎない。遺物の包含は認められるものの、遺物量は少ない。

Ⅶ層　黒褐色～暗褐色粘土層（小礫・礫混）

黒褐色～暗褐色粘土層（小礫・礫混）である。黒褐色土層の中に間層として砂礫層や礫集中土層が混在し、本来Ⅶ層とした層とは異なるが、黒褐色土の堆積した間に部分的に存在するこれらの礫集中土層についてもⅦ層として取り扱った。Ⅶ層の層厚は地点によって異なるものの、厚いところでは1mを越す厚みを持っている。Ⅶ層として一括したが、どれだけの期間に形成された層なのかは出土遺物からはわからない。

当初、黒褐色土全体を細分可能ではあるが一つのまとまりを持つ層と考え、Ⅶ層という層を設定したが、遺物取り上げの段階でⅦ-1層／Ⅶ-2層の二つの層に分層、さらに地点によりⅦ-0／Ⅶ-R／Ⅶ-1／Ⅶ-2／Ⅶ-SR1／Ⅶ-SR2／Ⅶ-SR3／Ⅶ-YR／Ⅶ-Y／Ⅶサイカなどの層名を便宜的に設定し随時遺物出土層位名として使用した。Ⅶがつく層は黒褐色土が堆積する間に堆積した層であり、SRは砂礫層を、Rは礫を非常に多く含む層を、Yは黄褐色から明褐色を呈する層を示したものである。0・1・2・3の数字は数が小さいほど上層であることを示す。Ⅶ層の中で細分した層の中には土壌化の有無を元にしたa層／b層という視点から分層した層はない。下層のⅧ層は後述するように上層と下層との違いを明らかにして遺物を取り上げたいという理由から、Ⅷ-a・Ⅷ-bの二層に分けたのでありa／bという記号も土壌化の有無の視点からではなく便宜的なものである。Ⅶ層では1・2、Ⅷ層ではa・ｂと統一せずに層名を付したのは、ⅦとⅧが似通っており、取り上げラベル記入時の誤りを防ぐという以上の理由はない。Ⅶ層の中で上半部に相当する層からは遺物の出土量は少ない。遺物がまとまって出土し始めるのは、Ⅷ層との境界部が近づいてきてからであり、Ⅷ層との境界部近くのⅦ層ではⅧ層の様相が反映した遺物となっているようで、この傾向は２号岩陰で顕著だった。

１号岩陰に堆積したⅦ層

Ⅶ-0　１号岩陰で拳大の礫を多く含むⅦ-R層の上層に堆積する礫をほとんど含まない黒褐色土層。当初はⅦ層を無遺物層と把握していたため、1・2号岩陰中間地点で設定したⅦ-1層とⅦ-2層の分層よりも後になってしまい「0」を使用する。

Ⅶ-R　１号岩陰に分布する。礫を多く含む。

Ⅶ-1　1・2号岩陰中間地点で設定

Ⅶ-2　1・2号岩陰中間地点で設定

1号岩陰と2号岩陰の中間地点に堆積したⅦ層

Ⅶ-1　黒褐色粘土層だが下層に較べ、より黒色の度合いが強い。上層は本来の層が残らない。

Ⅶ-2　黒褐色粘土層だが下層に較べ、より褐色の度合いが強い。下層はⅧ-a層で褐色土。

2号岩陰に堆積したⅦ層

Ⅶ　2号岩陰では小礫まじりの黒褐色土Ⅶ層として遺物の取り上げを行ったが、岩陰の南側（南半）に黒褐色土層の中に異なる層が薄く層状に入る部分が確認された。

Ⅶ-SR（1～3）砂礫層の堆積が確認される。オリーブ褐色から暗灰褐色が混在し、上層からSR-1/SR-2/SR-3の各層が順番に確認された。2号岩陰の岩陰南半にのみ存在する層。

Ⅶ-YR　礫を含み、黄褐色から明るい褐色の色調の土が堆積する。Ⅶ-SR-3層の下層である。2号岩陰の岩陰南半にのみ存在する層。

Ⅶ-Y　礫をほとんど含まない。明るい黄色～黄褐色土層。2号岩陰の岩陰南半にのみ存在する層。

Ⅶ-サイカ　小礫を含む 黒褐色土層で下層がⅧ-a層である。石器は集中して出土する。

Ⅷ層（Ⅷ-a・Ⅷ-b）

Ⅷ-a層　褐色粘土層（小礫混）

Ⅷ-b層　褐色～黄褐色粘土層（小礫混）

褐色粘土層（小礫混）であり、下層であるⅩ層に近い部分は漸移的に色調が変化、黄褐色に近い色調を呈している。Ⅷ層の上層の黒褐色土層Ⅶ層との境界部分も漸移的であり、黒褐色土と褐色土の境界が明瞭でない部分もある。石器剥片類の集中が認められる。チャートが大半で、サヌカイトなど他の石材は層中から出土しても例外的であり、上層のⅦ層堆積時の資料が混在している可能性もある。

層中に含まれる主な遺物は細石刃・細石刃核・スクレイパー類や敲石で、これらの遺物が層の堆積時期の中心となる遺物群だと考えらえる。槍先形尖頭器やナイフ形石器、少量だが石鏃もⅧ層からの出土が記録されており、下層の遺物の混在と若干量の上層の遺物の混入だと考えられる。

近世以降の遺構面や南側の流路、緩斜面に形成された縄文時代の遺構などにより削平された地点をのぞく調査区（Ⅴ区）全域に分布しており、北側の露頭（Ⅴ区北端部）からも確認されている。なお、Ⅷ-b層とⅨ層に挟まれて堆積する粘土層をⅧ-c層として遺物取り上げを行った部分がある。1号岩陰と2号岩陰両方に存在するが、部分的で広がりはない。

Ⅸ層（緑灰色混じり黄灰褐色砂礫混じり粘土層）

Ⅸ-1・Ⅸ-2・Ⅸ-3の3層に分層される。

Ⅸ層の分布は1号岩陰の一部と2号岩陰の一部に確認されているが、部分的な堆積であり遺跡全体に拡がりを持つ層ではない。1号岩陰でも一部のみの堆積を示す層でⅧ-b層とⅩ層の間に存在する。1号岩陰ではⅨ-1～3の３層に分層可能である。Ⅷ層で主体となる石器類の出土が確認されている。

Ｘ層　黄褐色粘土（小礫混）

黄褐色粘土層であり小礫を若干含む。部分的に残るⅨ層の堆積地点を除くと、Ⅷ層の下層に連続するのがＸ層である。Ⅷ層と連続するため、本来Ⅷ層段階で出土した遺物もこの層に含まれるものと考えられる。敲石類・ナイフ形石器・細石刃・細石刃核・掻器等のスクレイパー類が出土しているが、直上に堆積するⅧ層あるいはⅨ層堆積時の遺物が若干量混入している可能性がある。

XI層 黄褐色砂混じり粘土層

Ｘ層とXII層の間に確認される層で、砂混黄褐色粘土層である。層厚は５㎝前後であり、１号岩陰の周辺に分布する。層厚は薄く、遺物含有量も少ないが、ナイフ形石器・剥片類等が出土する。粘土に砂が混入することから明確に上層のＸ層と区別することができる。

XII層 黄褐色粘土・礫混在層（礫の含有量多・礫径大）

黄褐色粘土層だが、礫を多く含む。礫は不整形なものがほとんどであり、水流によるとみられる研磨を受け、角のとれて丸みを持つものが多い。出土遺物は少ないものの、角錐状石器・ナイフ形石器・石器剥片類等の出土が確認されている。上層との区別は砂の含有の有無、礫の含有量の違いにより可能だが土の色調はほとんど変わらない。

XIII層 黄褐色粘土層

黄褐色粘土に小礫を若干含む層である。XII層と較べ礫の含有量が少ない。この層以下からは石器剥片等明らかな人為の痕跡の残る遺物は検出できなかった。

XIV層 黄褐色粘土層（小礫を若干含む）

黄褐色粘土層であり、含有する小礫の量がXIII層と較べ少ないことから分層したが、層の内容はほとんど変わらない。含有する人為的な遺物についてはXIII層と同様である。当初はXIII層と類似する層であるため分層せずにXIII層として報告していた。

基盤岩

後背山塊から連続する泥岩質の岩脈が基盤岩層である。遺跡周辺は秩父累帯白木谷層群に属し、周辺から産する岩類は砂岩・泥岩・石灰岩・チャートなどであるが、奥谷南遺跡の基盤となる岩体は泥岩であり、岩陰のチャートは泥岩の岩体に取り込まれたものである。

基本層序にまとめることのできなかった「その他の層」

地点によっては、基本層序で取り扱った層とは大きく異なっている地点もある。基本層序で確認した層がまったくなく、二次的な侵食・堆積作用によって形成された層であり、2号岩陰南地点及びグリッドG-7南地点の2箇所について触れておく。

2号岩陰南地点

2号岩陰の南側には、Ⅶ層の堆積以降に侵食によって削り取られた後に堆積した堆積層がある。ここには形成時期不明の遺構が形成されており、包含層中からは土器は出土せず、剥片類を中心に石器類がまとまって出土している。遺物の出土した層は包含層上層から①②③④⑤⑥⑦⑧の8層であり、これらの○がこみ数字を使用して遺物出土層位の記載を行っている。「2号岩陰南地点」はグリッドI-7、I-8、J-7、J-8に相当し、これらのグリッドでは基本層序に対応する地層は全く確認されていない。

①層　暗褐色～黄褐色粘質土層
②層　黄褐色粘質土層（粘性強く、青灰色小礫混）
③層　黄褐色粘質土層（粘性強、1㎝前後の礫を少量含む）
④層　黄褐色褐色混粘質土層（細砂若干含む）
⑤層　暗褐色粘土層（粘性極めて強）
⑥層　褐色粘質土層（礫を多く含む）
⑦層　暗褐色粘土層
⑧層　にぶい黄褐色粘質土層

グリッドG-7南地点

Ⅴ区の遺物集中地点の南端にあたり、南地点あるいはG-7周辺、G-7南地点という地点表記で表現している。

グリッドとしてはG-7の南半、G-8、F-8などが相当し、1号岩陰の南に位置するチャート岩塊R-26の南東隅に土器だまりを形成する。出土遺物は縄文時代早期の土器が中心で、石器類も出土する。堆積する層が他と異なるため、層の頭にグリッドの呼称であるGを付け、G-Ⅰ・G-Ⅱ・G-Ⅲ・G-Ⅳの4層に分層して遺物の取り上げを行った。G-①～G-④と表記する場合もあり、本来統一すべきところが統一できていない。どちらの表記でも同じ層を示している。

G-Ⅰ（G-①）層　黒褐色～暗褐色粘質土層　炭化物多
G-Ⅱ（G-②）層　黒褐色粘土層
G-Ⅲ（G-③）層　褐色粘土層（赤みを帯びる）
G-Ⅳ（G-④）層　褐色～にぶい黄褐色粘土層（赤みを帯びる）

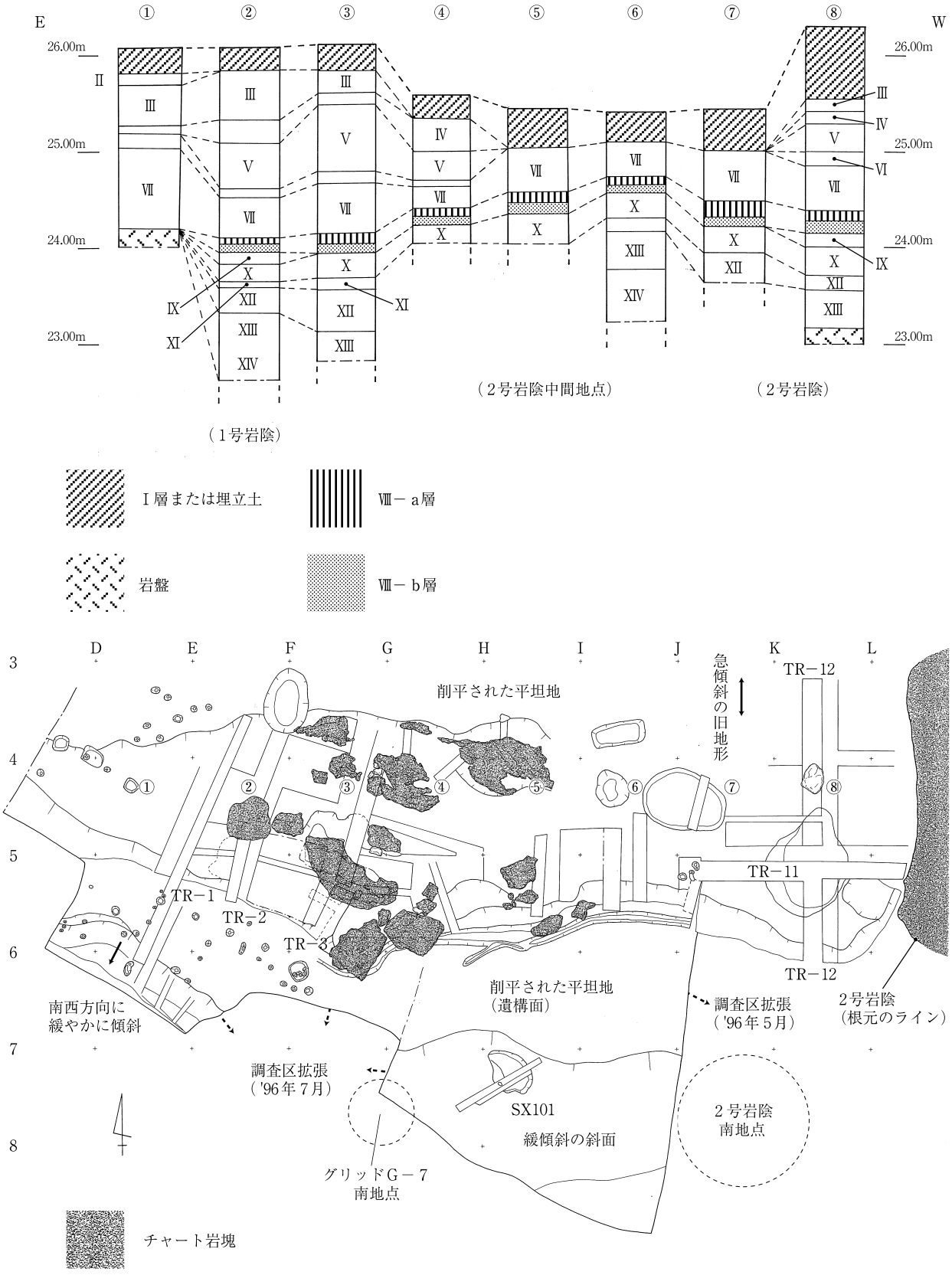
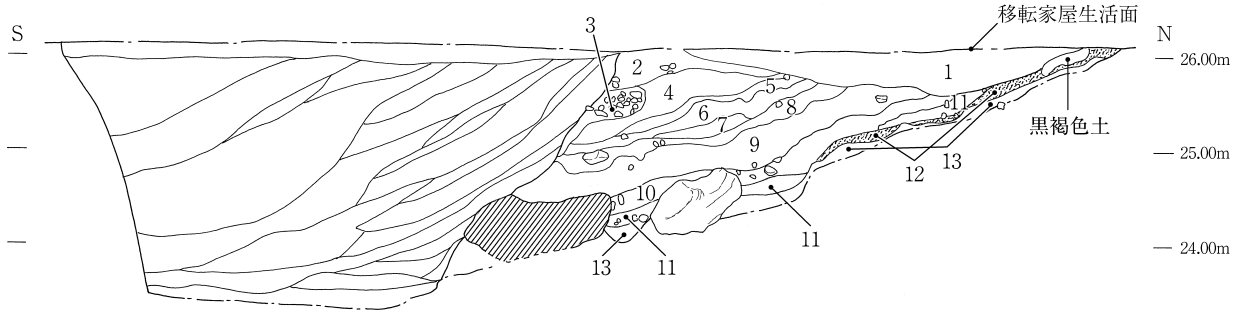
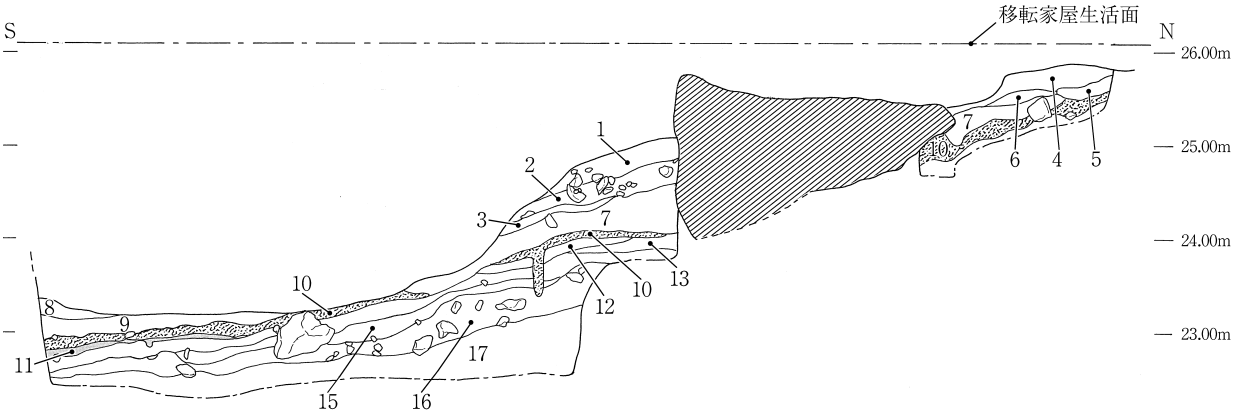


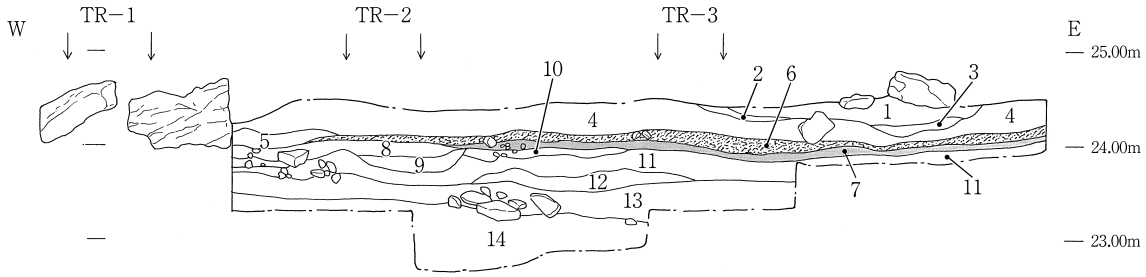
Fig. 22　遺物集中地点　96年4月段階の平面図とトレンチ位置及び堆積状況柱状図



① TR-1 西壁セクション （S＝1/80）



② TR-2 西壁セクション （S＝1/80）



③ TR-A 南バンク南壁セクション （S＝1/80）

Fig. 23 V区セクション（1）

① TR-1　西壁セクション

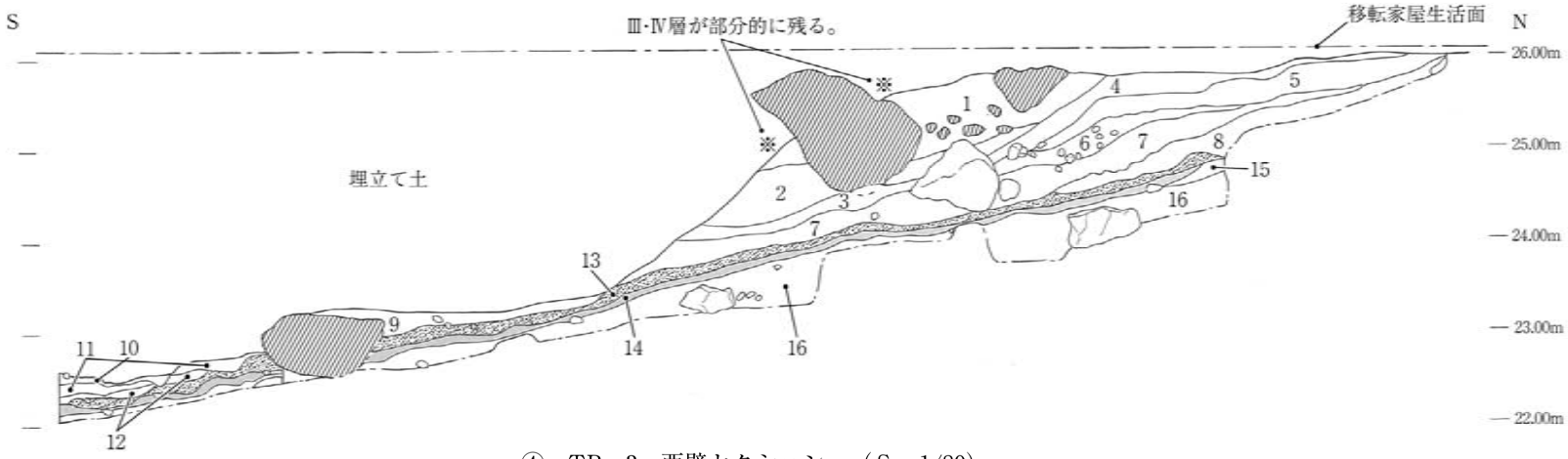
層番号	層名及び層の特徴	基本層序との対応
1	家屋撤去後の2次堆積土	
2	灰褐色粘土層	Ⅰ
3	褐色礫混粘土層（チャート礫含有・炭化物多し）	Ⅱ
4	褐色粘土層（締まりなし・1㎝未満の小礫をわずかに含み、炭化物を非常に多く含有）	Ⅲ（Ⅲ-1）
5	暗褐色粘土層（締まりなし・炭化物多・4層よりわずかに暗い色調）	Ⅲ（Ⅲ-2）
6	暗褐色粘土層（締まりあり・炭化物多）	Ⅳ
7	暗褐色～暗灰褐色粘土層（粘性やや強・浅黄色、明褐色の小礫多く含む）	Ⅵ
8	暗褐色～黒褐色粘土層（粘性やや強・浅黄色、明褐色の小礫多く含む）	Ⅵ
9	黒色粘土層（粘性強く堅く締まる・浅黄色、明褐色の小礫非常に多く含む・最も黒い層）	Ⅶ-1
10	黒褐色～黒色粘土層（粘性強く堅く締まる・浅黄色、明褐色の小礫非常に多く含む）	Ⅶ-2
11	黒褐色～黒色粘土層（粘性強く堅く締まる・浅黄色、明褐色の小礫非常に多く含む）	Ⅶ-3
12	褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-a
13	黄褐色粘土層（礫混）	Ⅹ

② TR-2　西壁セクション

層番号	層名及び層の特徴	基本層序との対応
1	褐色～明褐色礫混粘土層（礫を非常に多く含む）	Ⅴ
2	褐色～明褐色礫混粘土層（1層と較べると礫含有量少）	Ⅴ-2
3	暗褐色粘土層（小礫含）	Ⅵ
4	黒褐色粘土層（礫少）	Ⅶ-0
5	黒褐色粘土層（色調は黒に近い）	Ⅶ-1
6	黒褐色粘土層（礫含有量多）	Ⅶ-R
7	黒褐色粘土層	Ⅶ-2
8	黒灰褐色粘質土層	Ⅶ-3
9	黒色粘質土層（締まりなし）	
10	黒褐色粘土層	
11	黒褐色粘土層（黄橙色小礫多）	
12	黒褐色粘土層（黄橙色小礫多）	
13	褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-a
14	褐色～黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-b
15	褐色粘土層（小礫混）	
16	黄褐色粘土層	Ⅹ～Ⅻ

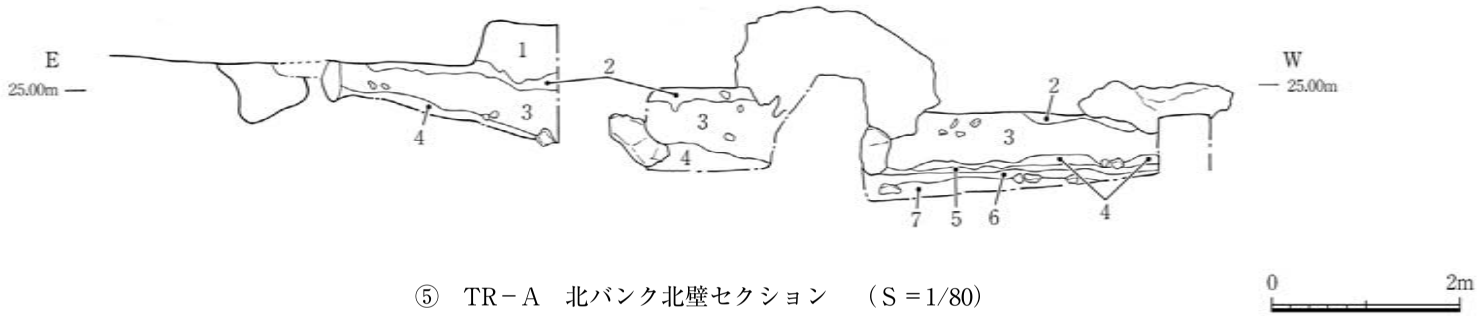
③ TR-A　南バンク南壁セクション（東西方向）

層番号	層名・層の特徴	基本層序との対応
1	褐色～明褐色礫混粘土層（礫を非常に多く含む）	Ⅴ
2	暗褐色粘土層（小礫含）	Ⅵ
3	暗褐色粘土層（小礫含）	Ⅵ
4	黒褐色粘質土層（橙色浅黄色の小礫を含む）	Ⅶ-1
5	黒褐色粘質土層（橙色浅黄色の小礫を含む）	Ⅶ-2
6	褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-a
7	褐色～黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-b
8	緑灰色～黄灰褐色砂礫混粘土層	Ⅸ-1
9	緑灰色～黄灰褐色砂礫混粘土層	Ⅸ-2
10	緑灰色～黄灰褐色砂礫混粘土層	Ⅸ-3
11	黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅹ
12	黄褐色砂混粘土層（小礫混）	Ⅺ
13	黄褐色礫混粘土層（拳大以上の大きさの礫を多く含む）	Ⅻ
14	黄褐色粘土層（小礫混）	ⅩⅢ・ⅩⅣ



④　TR－3　西壁セクション　（S＝1/80）

（南北方向）



⑤　TR－A　北バンク北壁セクション　（S＝1/80）

（東西方向）

Fig. 24　V区セクション（2）

④　TR-3　西壁セクション（南北方向）

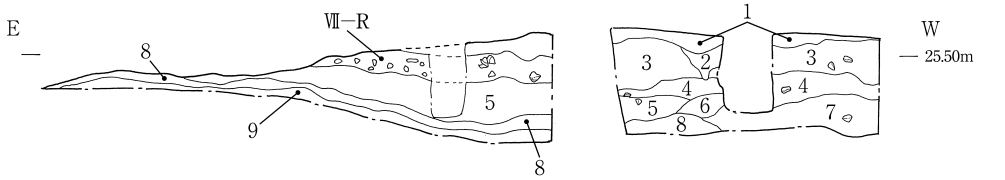
層番号	層名及び層の特徴	基本層序との対応
1	褐色粘質土層（締まりなし）	Ⅲ
2	褐色～明褐色礫混粘土層（礫を非常に多く含む）	Ⅴ
3	暗褐色粘土層（小礫含）	Ⅵ
4	黒褐色粘質土層（礫少）	Ⅶ
5	黒褐色粘質土層	Ⅶ
6	黒色粘土層（礫含有量多）	Ⅶ
7	黒色粘土層	Ⅶ
8	暗灰褐色粘質土層 2次堆積	2次堆積
9	黒褐色粘質土層　2次堆積	2次堆積
10	褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-a
11	褐色～黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-b
12	緑灰色～黄灰褐色砂礫混粘土層	Ⅸ-1
13	緑灰色～黄灰褐色砂礫混粘土層	Ⅸ-2
14	黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅹ
15	黄褐色砂混粘土層（小礫混）	Ⅺ
16	黄褐色礫混粘土層（拳大以上の大きさの礫を多く含む）	Ⅻ
17	黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅻ・XIV

⑤　TR-A　北バンク北壁セクション

層番号	層名及び層の特徴	基本層序との対応
1	褐色～暗褐色粘質土層（締まりなし・フカフカした層）	Ⅲ
2	暗褐色～黒褐色粘土層（小礫含）	Ⅳ
3	黒褐色粘質土（締まりあり）	Ⅶ
4	黒褐色粘土層（礫少）	Ⅶ-0
5	暗褐色～褐色粘土層（浅黄色小礫多）	Ⅷ-a
6	褐色～黄褐色粘土層（浅黄色小礫多）	Ⅷ-b
7	黄灰褐色砂礫混粘土層	Ⅸ
8	黄褐色粘土層（礫混）	Ⅹ

⑥　TR-B　南壁セクション

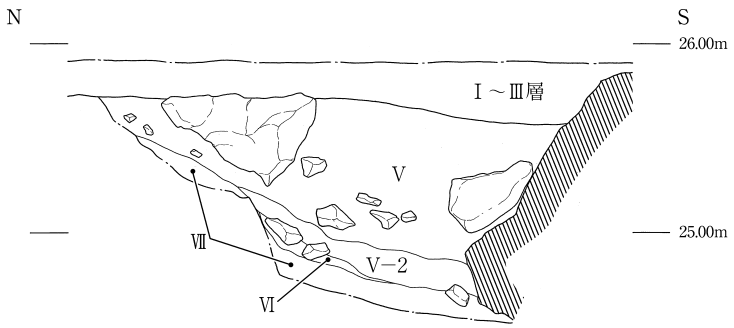
層番号	層名及び層の特徴	
1	褐色～明褐色礫混粘土層（礫を非常に多く含む）	Ⅴ
2	黒褐色粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
3	黒褐色礫混粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
4	黒褐色粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
5	黒褐色粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
6	黒褐色粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
7	黒褐色粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
8	暗褐色～褐色粘土層（浅黄色小礫多）	Ⅷ-a
9	褐色～黄褐色粘土層（浅黄色小礫多）	Ⅷ-b



⑥　TR-B　南壁セクション　（S＝1/80）

（南北方向）

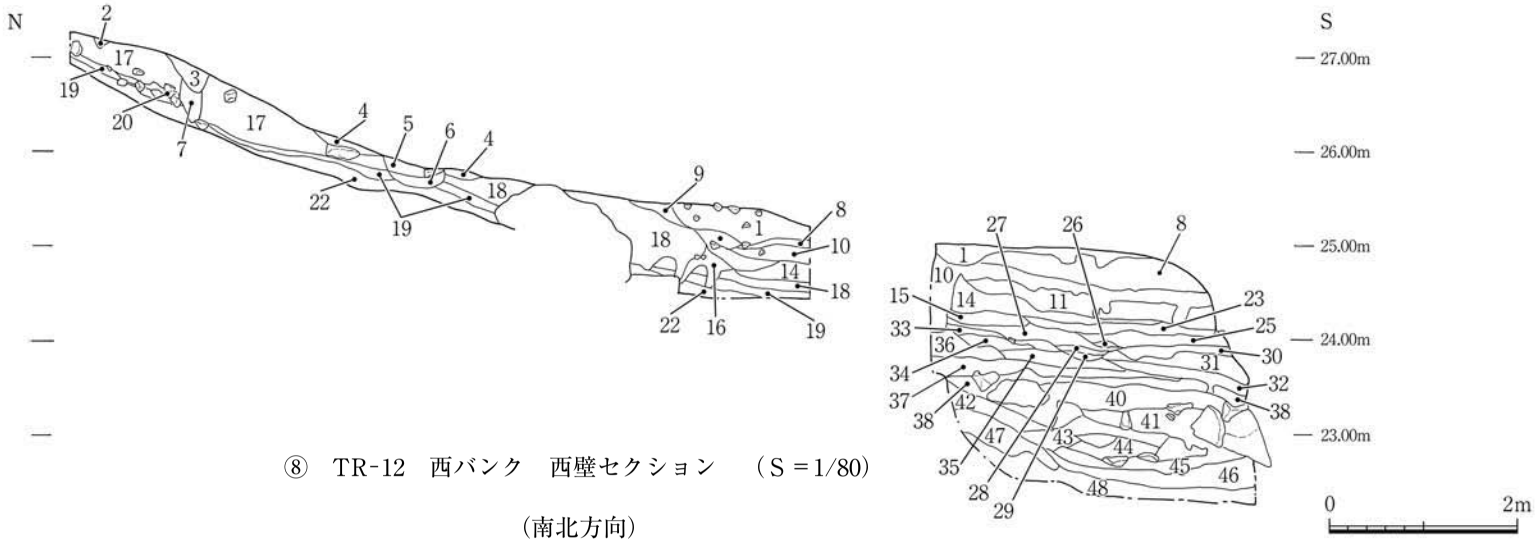
0　2m



⑦　1号岩陰R-19北面・南北方向セクション　（S＝1/40）

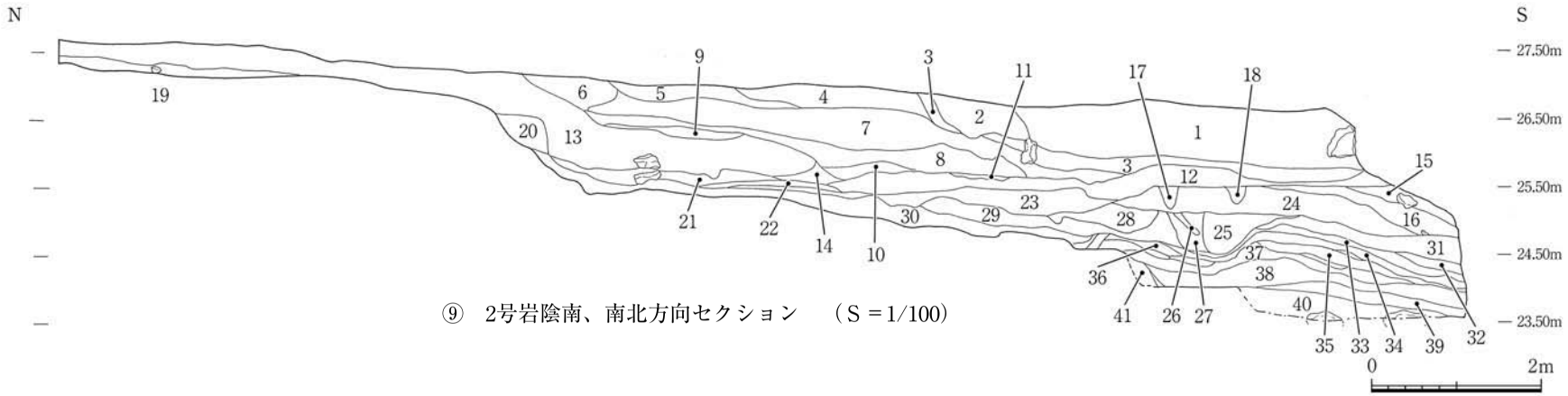
0　1m

Fig. 25　V区セクション（3）



⑧　TR-12　西バンク　西壁セクション　（S＝1/80）

（南北方向）



⑨　2号岩陰南、南北方向セクション　（S＝1/100）

Fig. 26　V区セクション（4）

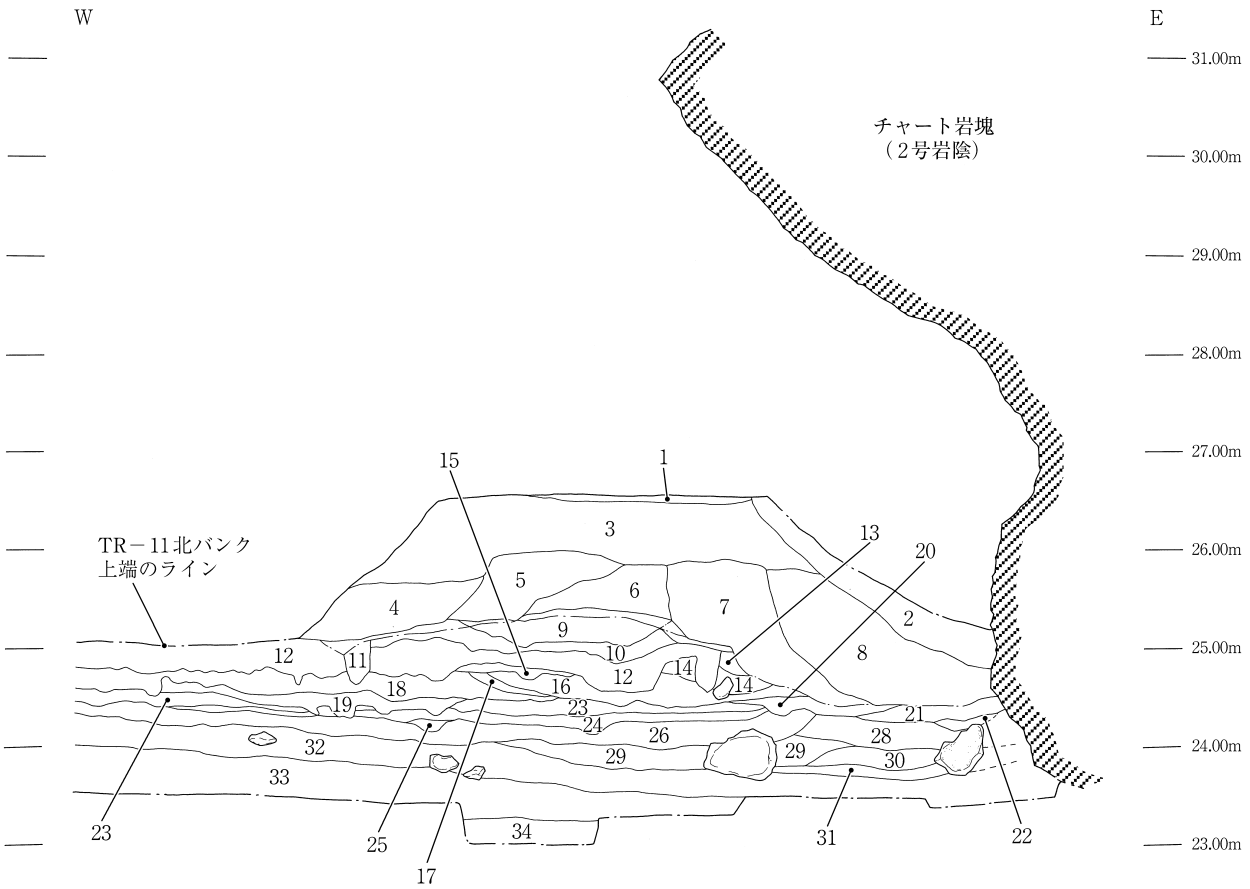
⑧　TR-12　西バンク　西壁セクション

層番号	層名・層の特徴	基本層序との対応
1	褐色～明褐色礫混粘土層（礫を非常に多く含む）	Ⅴ
2	黒褐色粘土層（小礫混）	Ⅶ
3	黒褐色礫混粘質土（締まりあり・橙色浅黄色小礫混）	Ⅶ
4	暗褐色粘質土（５㎝大の礫含有）	Ⅶ
5	黒褐色粘土層（小礫混）	Ⅶ
6	極暗褐色粘土層（小礫混）	Ⅶ
7	暗褐色粘土層（砂礫混）	Ⅶ
8	黒色粘土層（浅黄色、橙色の小礫を多く含む）	Ⅶ
9	黒褐色粘土層（小礫混）	Ⅶ
10	黒色粘土層（浅黄色小礫を非常に多く含む）	Ⅶ
11	暗褐色粘礫土層（5㎜前後の小礫多）	Ⅶ-SR-1
12	暗褐色粘礫土層（5㎜前後の小礫を非常に多く含む）	Ⅶ-SR-2
13	にぶい黄褐色粘礫土	Ⅶ-SR-3
14	黒褐色粘質土層	Ⅶ
15	黒色礫混粘土層	Ⅶ
16	黒褐色粘質土層	Ⅶ
17	暗褐色粘質土層	Ⅶ
18	黄褐色～橙色粘土層	
19	黄褐色～褐色粘礫土層	Ⅶ-YR
20	暗褐色砂礫土層	
21	黄褐色粘砂礫土層	
22	黒褐色粘土層（小礫混）	Ⅶサイカ
23	黒褐色粘土層	
24	暗褐色砂礫層	
25	黄褐色粘土層	Ⅶ-Y
26	灰オリーブ色粘砂礫土層	
27	黒灰色粘土（礫混）	
28	暗褐色粘土層	Ⅷ-a
29	灰オリーブ色粘砂礫土層	
30	黄褐色（緑灰色混）粘土層	Ⅹ
31	オリーブ灰～にぶい黄褐色粘砂礫土層	Ⅺ
32	オリーブ灰～にぶい黄褐色砂礫土層	
33	灰色～明オリーブ灰色粘土層	
34	灰オリーブ色粘砂礫土層	
35	黄褐色～明黄褐色粘土層	
36	黄褐色～明黄褐色粘礫土層	
37	明黄褐色粘土層（礫小量含有）	
38	黄橙色砂混粘土層	
39	黄褐色砂混粘土層	
40	明緑灰色粘質土層	
41	明黄褐色砂混粘土層	
42	明黄褐色粘礫土層	
43	岩盤	

※基本的に基本層序との対応関係を示すことのできる層はない。

⑨　2号岩陰南　グリッドＪライン　南北方向セクション

層番号	層名・層の特徴	基本層序との対応
1	褐色礫混粘土層（礫多）	（埋め立て土）
2	暗黒赤褐色粘土層	（埋め立て土）
3	黒褐色礫混粘土層	（埋め立て土）
4	黒褐色粘土層	（埋め立て土）
5	褐灰色粘土層（炭化物多）	（埋め立て土）
6	黄褐色粘礫土層	（埋め立て土）
7	黒褐色礫混粘土層	（埋め立て土）
8	黒灰色粘土層	（埋め立て土）
9	コンクリート塊	（埋め立て土）
10	黒褐色粘土層（ビニール含む）	（埋め立て土）
11	褐色礫混粘土層	（埋め立て土）
12	灰褐色粘土層（ビニール含む）	（埋め立て土）
13	破砕礫集中土層（10~20cm前後のチャート礫集中）	（埋め立て土）
14	暗灰黄色砂礫層	埋め立て土
15	灰黄褐色粘質土層	
16	にぶい黄褐色砂礫土層	
17	灰褐色粘質土層（炭化物非常に多い・遺構埋土）	
18	褐灰色粘土層（遺構埋土）	
19	暗褐色粘質土層	
20	黒褐色粘質土層	
21	褐色粘砂礫粘土層	
22	灰褐色粘質土層	
23	褐灰色粘土層（炭化物多）	
24	暗褐色粘質土層	
25	褐色礫混粘土層（小礫を非常に多く含む・チャートの剥片多数出）	
26	褐灰色粘土層	
27	褐色粘土層（25層と類似するが25層より粘性高く締まりあり）	
28	にぶい黄褐色粘質土（小礫を非常に多く含む）	
29	褐色粘土層（粘性高く締まりあり）	
30	褐色～灰褐色粘土層	
31	褐色粘土層（25層と類似するが25層より粘性高く締まりあり）	
32	暗灰黄色砂礫層	
33	浅黄色粘質土層	
34	にぶい黄褐色（チャート剥片を多く含むES-Ⅰ層に相当）	
35	暗褐色粘質土層（砂礫を多く含む・ES-Ⅰ層の下層）	
36	褐色粘質土層（粘性強）	
37	暗褐色粘質土層（礫多）	
38	褐色砂礫土層（含まれる礫は直径10cm前後）	
39	褐色粘砂礫土層（粘性強）	
40	褐色砂礫土層	
41	にぶい黄褐色粘土層	



⑩　TR-11　北壁セクション（2号岩陰、東西方向）（S＝1/80）

層番号	層名・層の特徴	基本層序との対応
1	コンクリート（道路舗装面）	
2	暗褐色粘質土層（現代のゴミ混入）	
3	明黄褐色粘質土（客土）	
4	灰黄褐色礫混粘土層	
5	灰黄褐色礫層	
6	暗赤褐色粘質土層	
7	灰黄褐色礫混粘土層	
8	灰黄褐色砂礫土層	
9	赤みを帯びた褐色礫混粘土層（礫集中）	V
10	黒褐色粘土層	Ⅶ
11	黒褐色粘土層（礫含）	Ⅶ
12	黒色～黒褐色礫混粘土層	Ⅶ
13	黒褐色～黒灰色粘土層	Ⅶ
14	暗褐色粘砂礫土層（5mm前後の小礫多）	Ⅶ-SR-1
15	黒褐色礫混粘土層（5～10cm大の礫多）	Ⅶ-R
16	暗褐色粘砂礫土層（5mm前後の小礫を非常に多く含む）	Ⅶ-SR-2
17	にぶい黄褐色粘砂礫土層	Ⅶ-SR-3
18	黒褐色粘土層（小礫混）	Ⅶサイカ
19	黒灰色～暗褐色粘土層	Ⅶ-H
20	黒褐色粘土層（小礫混）	Ⅶサイカ
21	オリーブ褐色粘砂礫土層	
22	オリーブ灰色砂礫土層	
23	暗褐色～褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-a
24	褐色～黄褐色粘土層（小礫混）	Ⅷ-b
25	にぶい褐色粘質土層（砂礫を含む）	
26	にぶい黄褐色粘土層（礫含・かたく締まる）	X
27	オリーブ褐色・黄褐色混粘礫土層	
28	褐色粘砂礫土層	
29	黄褐色砂混粘土層	Ⅺ
30	にぶい黄褐色粘土層	
31	黄褐色粘土層	
32	黄褐色粘土層（礫を多く含む・礫径大）	Ⅻ
33	黄褐色粘土層（礫・小礫を含む）	ⅩⅢ ⅩⅣ
34	岩盤	

Fig. 27　V区セクション（5）

第2節　岩塊の分布

奥谷南遺跡の場合、1950年代まではチャートの巨岩が向き合って佇立する景観だったことが植田速水氏の証言から明らかになっている。西側の巨岩は南1㎞を西流する国分川の護岸などの目的のため、ダイナマイトで破砕され現存していない。残念ながら、現段階ではその情景をイメージする材料となる写真も確認されていない。調査区周辺の1辺1m以上の岩塊は全てチャートである。節理の非常によく発達したチャートだが、部分によっては極めて良質な石器製作に適した石質のチャートも残っている。奥谷南遺跡の北側には標高130mのピークを持つ山塊が尾根を形成しており、標高22m～24m前後の岩陰周辺から130mのピークにかけて、斜面が続いている。この斜面にもチャートは点在しており、遺跡（Ⅴ区）周辺・遺跡（Ⅴ区）北西の谷周辺（奥谷北遺跡）・遺跡（Ⅶ区）東側50mの標高90～100mのピークから標高50mの谷斜面にかけての3ヶ所にチャートの集中地点が残っている。これらの岩が点在する状況は、秩父帯中の砂岩及び泥岩中に付加帯としてより古い時代に形成されたチャートを含む層が取り込まれ、隆起に伴って泥岩質の岩盤に取り込まれていたチャートが地表に現出したものだと考えられる。

遺物の確認された遺跡周辺のチャート岩塊については、状況を記述するために約1m以上のものについてR（ロック）で始まるナンバーを付して、その規模・検出状況についてTab.5に示した。ダイナマイトによって破砕され、撤去されるまで岩陰を形成していた巨岩についてR-1、現存する東側の巨岩についてはR-2とし、R-1を1号岩陰、R-2を2号岩陰とする。R-1とR-2とした岩陰の他に、岩陰周辺に点在する岩塊には４ｍを越えるものから数十㎝大の転礫まで様々な大きさのものがあった。長軸の長さが１ｍ前後の大きさを基準に、それ以上の岩塊をR-3からR-35、転礫の集中する部分にA群からＤ群までの呼称を付し、それに即して記述を進めていくこととする。（Fig.28参照）

1号岩陰（R-1）については、推定により復元し得るにすぎない。写真は残されてはいないものの、幸いなことに岩を撤去した際の記憶を残す複数の方の証言が得られたことから、それをもとに可能な限り、R-1の復元を試みてみたい。ここに示す１号岩陰の姿はあくまでも推定である。

1号岩陰の大きさについては、「そりゃあ、大きい岩やったぞね。今のこっちゅう（残って

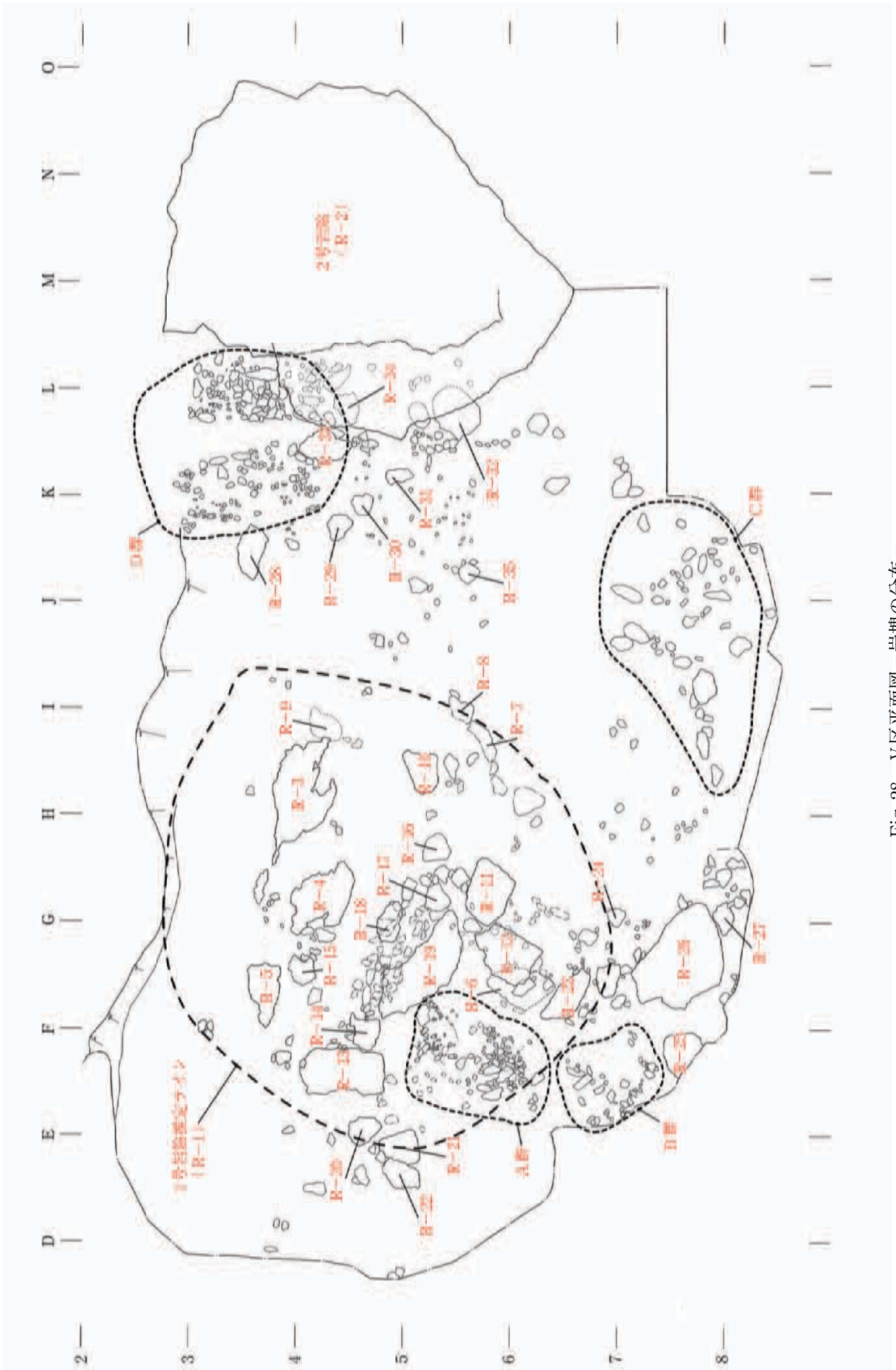


Fig. 28　V区平面図－岩塊の分布－

Tab. 5　岩塊計測・観察表

岩塊の呼称	石質	地点	グリッド	埋積層位（推定）	長軸	短軸	高さ	備　　考
R−1（1号岩陰）	チャート	1号岩陰	E→I−2→6	岩盤あるいは黄褐色粘土層	推定17〜19m	推定15〜17m	推定10〜12m	現存しない。1960年ごろダイナマイトで破砕、撤去。根石のみ残る。
R−2（2号岩陰）	チャート	2号岩陰	K→O−2→6	岩盤あるいは黄褐色粘土層	15.50m	13.80m	約8m	現存する岩陰。
R−3（1号岩陰）	チャート	1号岩陰	H･I−3･4	岩盤あるいは黄褐色粘土層	5.25m	2.40m	根石･不明	撤去された1号岩陰の根石に相当する部分である。
R−4（1号岩陰）	チャート	1号岩陰	G−4	岩盤あるいは黄褐色粘土層	3.30m	2.41m	根石･不明	撤去された1号岩陰の根石に相当する部分である。
R−5（1号岩陰）	チャート	1号岩陰	F−3	岩盤あるいは黄褐色粘土層	2.45m	1.30m	根石･不明	撤去された1号岩陰の根石に相当する部分である。
R−6	チャート	1号岩陰	F−5･6	黄褐色粘土層（Ⅻ層以下）	2.60m	1.95m	0.8m	水流による摩滅により角が丸みを帯びる。
R−7	チャート	1号岩陰	H−5	黄褐色粘土層	1.30m	0.60m以上		
R−8	チャート	1号岩陰	H−5	黄褐色粘土層	1.30m	0.80m		
R−9	チャート	1号岩陰	H−4	黄褐色粘土層	1.50m	1.00m		
R−10	チャート	1号岩陰	H−4	黄褐色粘土層	1.80m	1.20m		
R−11	チャート	1号岩陰	G−5	黒褐色粘土層	2.20m	1.70m		1996年調査時破砕撤去
R−12	チャート	1号岩陰	F−5	黒褐色粘土層	2.60m	1.90m		
R−13	チャート	1号岩陰	E−4	黒褐色粘土層	3.20m	1.80m		
R−14	チャート	1号岩陰	F−4	黒褐色粘土層	1.30m	1.00m		
R−15	チャート	1号岩陰	F−4	黒褐色粘土層	1.30m	1.15m		
R−16	チャート	1号岩陰	G−5	Ⅴ層	1.15m	1.10m		
R−17	チャート	1号岩陰	G−5	Ⅴ層	1.10m	1.00m		
R−18	チャート	1号岩陰	G−5	Ⅴ層	1.60m	1.00m		
R−19	チャート	1号岩陰	F−5	Ⅴ層	4.60m	1.80m		
R−20	チャート	1号岩陰	E−4	黒褐色粘土層	1.30m	1.10m		
R−21	チャート	1号岩陰	D−4･5	黒褐色粘土層	1.50m	1.30m		
R−22	チャート	1号岩陰	D−4･5	黒褐色粘土層	1.80m	1.00m		
R−23	チャート	1号岩陰南	F−6	黒褐色粘土層	2.40m	1.10m		
R−24	チャート	1号岩陰南	F−6	黒褐色粘土層	1.20m	0.80m		
R−25	チャート	1号岩陰南	E−7	黒褐色粘土層	1.70m	1.50m		
R−26	チャート	1号岩陰南	F−7	褐色粘土層（Ⅷ）あるいは黄褐色粘土層	4.40m	3.90m		水流による摩滅がほとんどないことから、R−6より新しい時期にこの地点に転落した岩塊だと考えられる。
R−27	チャート	1号岩陰南	G−8	その他の層	1.25m	0.80m		
R−28	チャート	2号岩陰	J−3	黒褐色粘土層	2.00m	1.00m		
R−29	チャート	2号岩陰	J−4	黒褐色粘土層	1.00m	0.80m		
R−30	チャート	2号岩陰	J−4	黒褐色粘土層	0.90m	0.80m		
R−31	チャート	2号岩陰	K−5	黒褐色粘土層	1.10m	0.60m		
R−32	チャート	2号岩陰	K−5	黄褐色粘土層	1.90m	1.65m		
R−33	チャート	2号岩陰	K−4	黒褐色粘土層	2.00m	1.20m		
R−34	チャート	2号岩陰	K−4	黒褐色粘土層	1.30m	1.00m		
R−35	チャート	2号岩陰	J−5	黒褐色粘土層	0.70m	0.60m		
A群	チャート	1号岩陰	E−5	黄褐色粘土層	0.5m〜0.8m前後	0.1m 〜0.4m前後		角礫だが、摩耗して角のとれた礫が多い。礫の集中の上層は削平され遺構面となっていた。
B群	チャート	1号岩陰南	E−6･7	褐色粘土層（Ⅷ）	0.5m〜0.9m前後	0.1m 〜0.5m前後		角礫が多い。角の摩滅した礫もある。
C群	チャート	2号岩陰	I･J−7	黒褐色粘土層	0.5m〜0.10m前後	0.1m 〜0.6m前後		角礫が大半。
D群	チャート	2号岩陰南	J→L−3･4	黄褐色粘土層	0.5m〜0.11m前後	0.1m 〜0.7m前後		水流によると考えられる摩滅が観察され、角が丸みを帯びる礫が多い。

いる）岩の、そうやねえ、2倍もはないけんど1.5倍ばあはあっつろうか。（1.5倍くらいはあっただろうか。）」という証言がある。記憶をもとにした証言ではあるが、おおよその大きさがわかる。「（岩陰の）前に道がとおっちょったが、その道を行くお遍路さんが岩が覆い被さってきちゅうもんじゃき、走って通りよった。」岩陰の南側には谷の奥に続く道が通っており、岩のオーバーハングの度合いが覆い被さるほどに強かったことがわかる。下層（Ⅴ層・Ⅶ層）から検出された岩塊の様相から、この岩相になったのは縄文時代と想像される落磐以降ではないかと推定される。「まえの（以前の家の）風呂場の焚口へんまで、岩が迫り出してきちょった。北は後の崖に沿うように立ちあがっちょったねえ。」

これらの証言により、R-1の四辺の様相をある程度はつかむことが可能である。調査の結果、落磐層とそれに伴う礫層の集中部の拡がり、層中に含まれる巨岩の量、などから可能な限り復元した推定復元平面図がFig28である。残存する根石（R-3・4・5）とⅤ層の拡がり、検出した旧風呂場遺構を根拠としたものである。

なおR－1が岩陰を構成する巨岩でありながら、接地面積が極めて僅少であったことは、検出した根石（R-3・4・5）面積の狭さと「岩のあった頃には、岩の根にもぐり込めるほどの広さがあった」という証言から明らかである。

R-1の岩庇（いわびさし）の下の岩塊の様相からは、2回以上の大規模な落磐・あるいは巨岩の崩落の痕跡を読み取ることができる。１号岩陰周辺に限定すると、Ⅻ層よりも下層に埋積する岩塊にR-6～９がある。黄褐色土中から検出される岩塊は上層の岩塊と比較すると量が少なく、角が残らず摩滅したものが多い。中でもR-6は特徴的で、水流によるとみられる摩滅が顕著である。

Ⅶ層中の岩塊はR-11～14、20～24などが主なものだが、礫の集中する層（Ⅶ-R）も認められるなどⅦ層段階での落磐が予想される。岩塊の大きさも長軸2mを越え4m近くの大きさのあるものなどまとまっている。R-11・12は植田氏邸の段階では屋敷地の下に位置し、埋め立てられていた。しかし、近世以降の段階で2箇所の平坦地形が形成され、近世以降植田氏邸基礎地盤埋立て直前までの間、地表に露出していた岩塊である。

Ⅴ層段階での大規模崩落によりほぼ１号岩陰撤去直前の岩相に近い状況になったと想定される。Ⅴ層自体が多くの小礫を含む層だが、R-19を中心にR-17・18周辺の岩塊がⅤ層段階の堆積物である。Ⅴ層は１号岩陰の南側にも分布、R-26

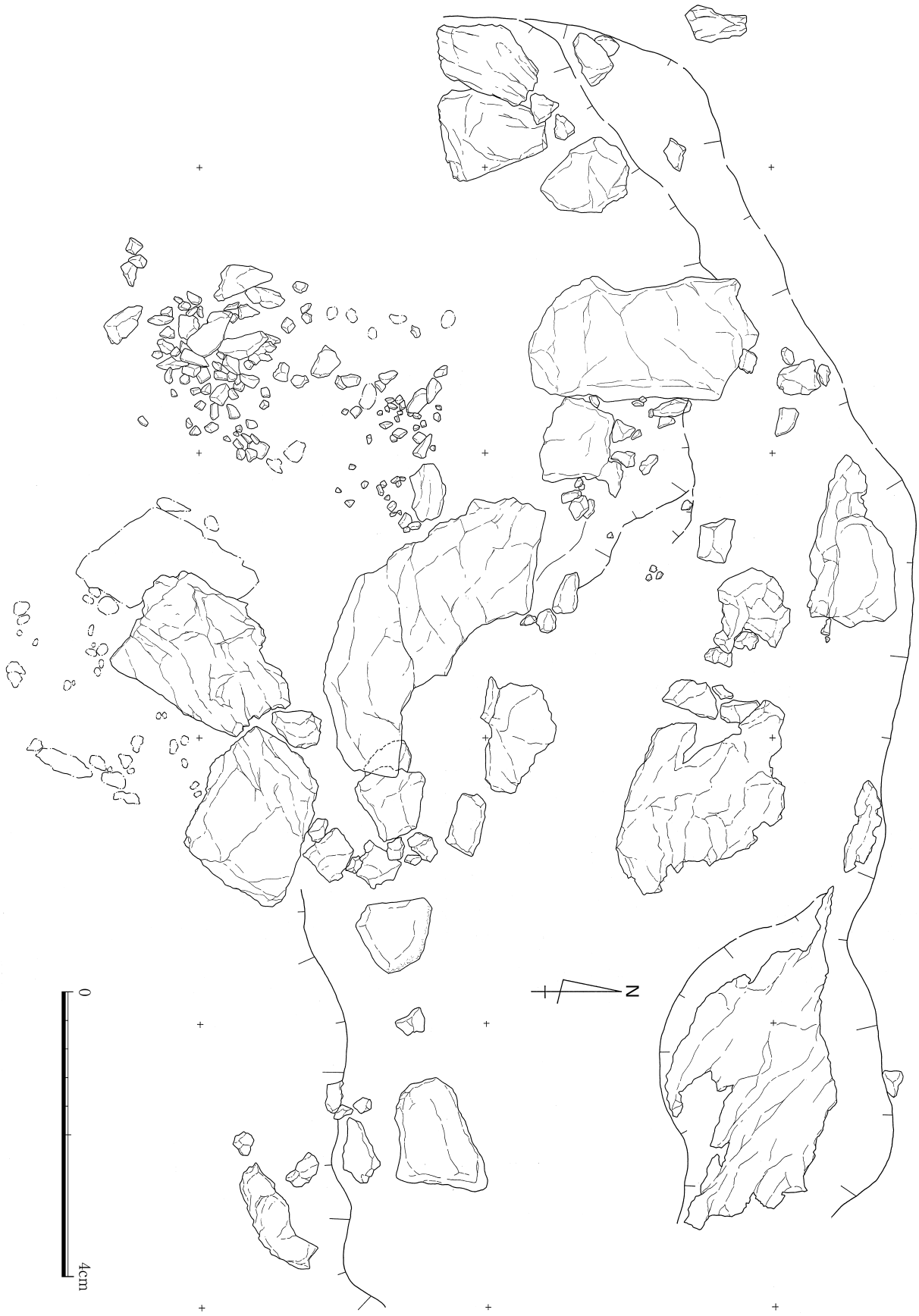


Fig. 29　1号岩陰周辺　礫検出状況

からＢ群にかけての礫・岩塊の上層にⅣ層→Ⅴ層→Ⅵ層（ほとんどない）→Ⅶ層と順に堆積が確認された。

南端にあるR-26は黄褐色粘土（Ⅹ～ⅩⅡ層）の下まで岩自体が入り込んでいた。4.40m×3.90mという大きさと下層まで入り込んで取り除くことが技術的に難しいという理由で、調査終了時点まで撤去できなかった。北側に位置しⅫ層以下から検出したR-6が水流の影響で円磨しているのに対し、R-26は水流による円磨は認められなかった。R-6の存在から、この地点がかつて（Ⅻ層堆積以前－2万年前より古い段階）常時水が流れる環境であったと想定しており、R-6に水流による円磨がありR-26にないことから、R-26は巨大ではあるがR-1（１号岩陰）の落磐による転石である可能性が高いと考えている。

1号岩陰にはこのように2mを超す転石が10個、1～2m大の転石も15個程検出されている。これらの数次にわたる転石が形成する層や転石自体により、下層が覆われた状況であった。近世以降に削平されたと考えられる平坦面によって岩陰の南側の地層は分断されている。しかし、削平された地点以外については地層は良好に保存されている。特に1度に堆積したと考えられる落磐層であるⅤ層によって、Ⅵ層以下特にⅦ層より下層とそれより上層とは明確に区分され、遺物の混在はほとんど認められない。降雨量の多い南四国で緩やかだとはいえ南東斜面だという立地を考えると、堆積母材は斜面上方の侵食による土壌だと考えられる。母材とともに石器類も斜面上方からもたらされてくるとするならば、出土遺物は、その層が堆積した時期以前の資料が混在する状況を呈する。

1号岩陰の比較的大きな転石（1～2m以上）が層ごとにまとまって存在する様相と比較すると、2号岩陰については転石の大きさは小さく、6～7個確認される1～2m大の転石が最大のものである。量的にも少なく、礫自体の大きさを見てもR-2（2号岩陰）自体から落化した岩塊であると推定可能なものはない。ただし、Ⅴ層・Ⅶ層・ⅩⅡ層以下の各層に数十㎝大の転石がまとまって検出され

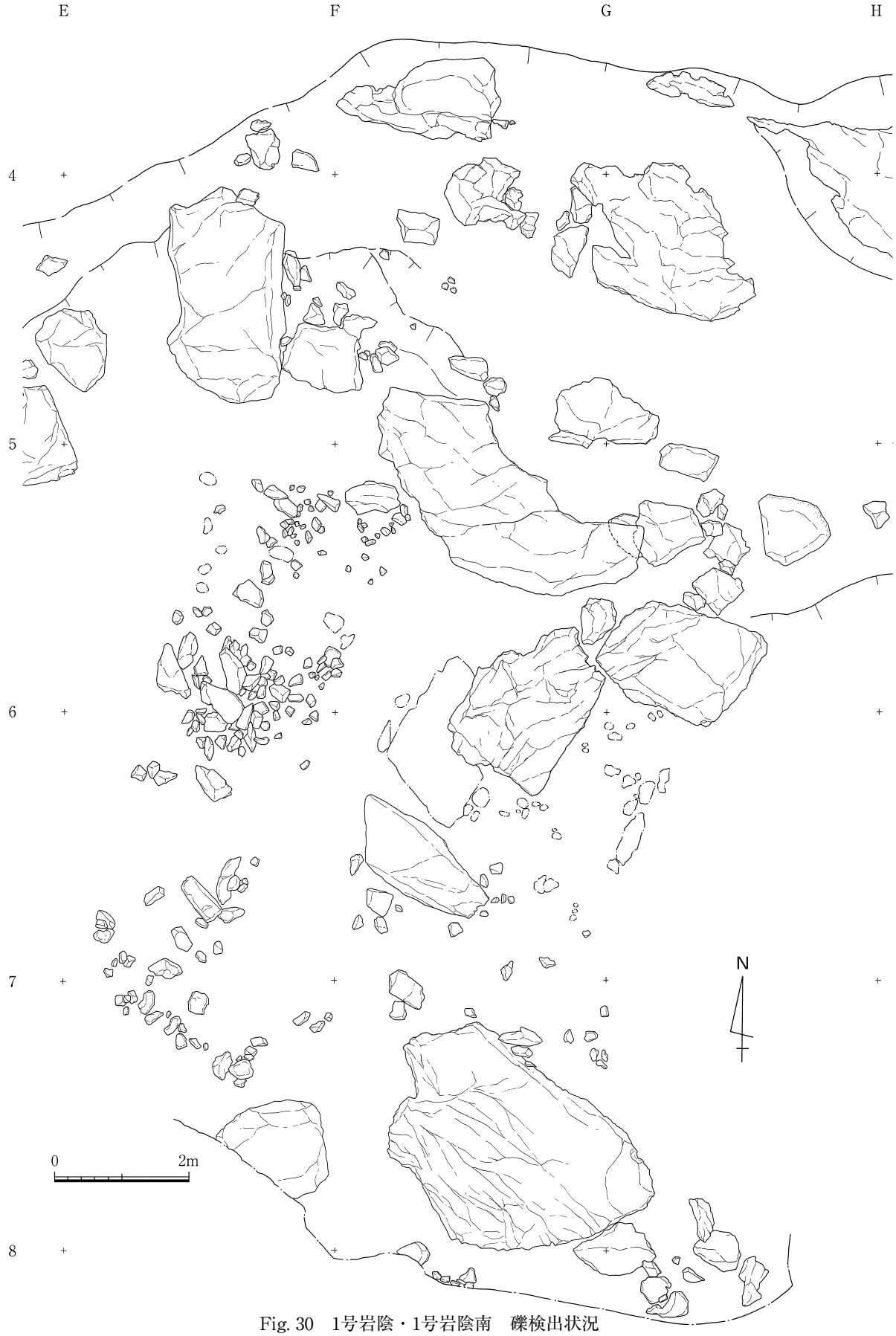


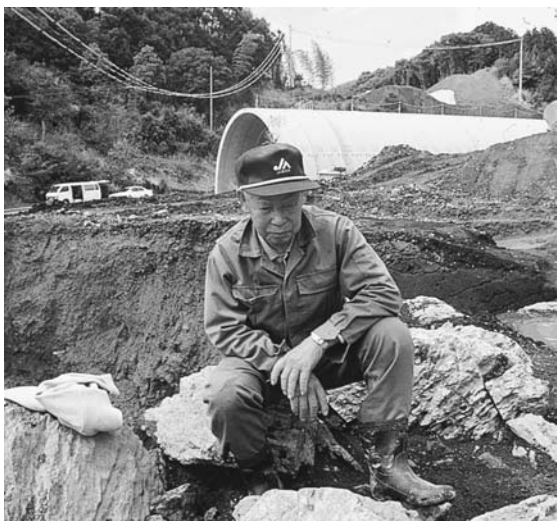
Fig. 30　1号岩陰・1号岩陰南　礫検出状況

ている。D群として示した礫は多くがⅦ層中に含まれるものである。これらの転石は2号岩陰北側の斜面上方から供給されたものであろう。斜面はⅦ層上面あるいはⅧ層上面でも数十㎝大の転石で覆いつくされるほどの様相となる。これらの礫が検出されるのは斜面の傾斜がより緩やかになる地形変換点までであり、変換点から下方ではⅦ層よりも上層の礫含有量は少なくなる。 一方、2号岩陰の南側から検出された礫（C群）は黄褐色土中からであり、R-6同様水流による摩耗が認められるものが多い。

1号岩陰に関する証言

植田速水氏（遺跡の上に住んでいた）

「そうやねえ、今のこっちゅう岩よりだいぶおおきかったねえ。1.5倍ばあのもんじゃっつろうか。まえの家に風呂場があったが、その風呂場の焚口のへんまで、こう岩が被ってきちょったがねえ。岩の前に道がとおっちょったがじゃが、歩いて通りかかったお遍路さんが、岩の前にさしかかったら走って通り抜けていったもんじゃ。はじめて通るもんは怖かったろう。岩が被さって落ちてきそうにみえたもんじゃき。岩の後はがけじゃったが、その崖はのこっちゅう。崖にそうて岩が上にたちあがりよったわね。今は横がひろうなっちゅうけんど、それは家地（やぢ）をこさえるときに削って広うしたがじゃきに、元々は崖が続いちょったがじゃ。岩がないなったがはこの家を建てた時じゃき、いまからそうよねえ40年ばあ前になるろうか。ダイナマイトで割りとったぞね。割った岩は国分川の改修に使ういうて、アシが全部リヤカーで運び出した。坂をなかなかあがらいで難儀しましたぞね。今は、岩の下に舗装した道をつくってもろうちゅうが、舗装するまではえらかった。元の家の南ラアが畑と竹藪じゃったがじゃが、割った岩のかけらを埋めて家地にしましつわ。池のあった庭の方はやわい粘土がうまっちゅうかもしれん。そうかね、そんな昔の人がおりよりましたかね。この家の下には、なんちゃあないろう、あったち、家地にした時にこわれちゅうろうと思いよったが、いやいや、そうですか。びっくりするよ。ここは、このあたりでもしょうぬくいところでねえ、立ち退いて今度引っ越した先は、ほんの500ｍばあしか離れちゃあせんが、風が吹いてしょう冷やいぞね。昔から住みやすかったろうかねえ。おばあさん、早う来てみい。みせてくれるいうて持ってきてくれちゅうが。……」


植田速水氏（1号岩陰にて）

植田英出氏（遺跡の隣家で育つ）

「チンマイ時にはよう岩にのぼって遊びよったねえ。うしろの崖からとびうつれよったきねえ。今のこっちゅう岩の上からもよう見渡せるけど、もっと眺めがよかった。岩の上で弁当食べたりもしよった。」

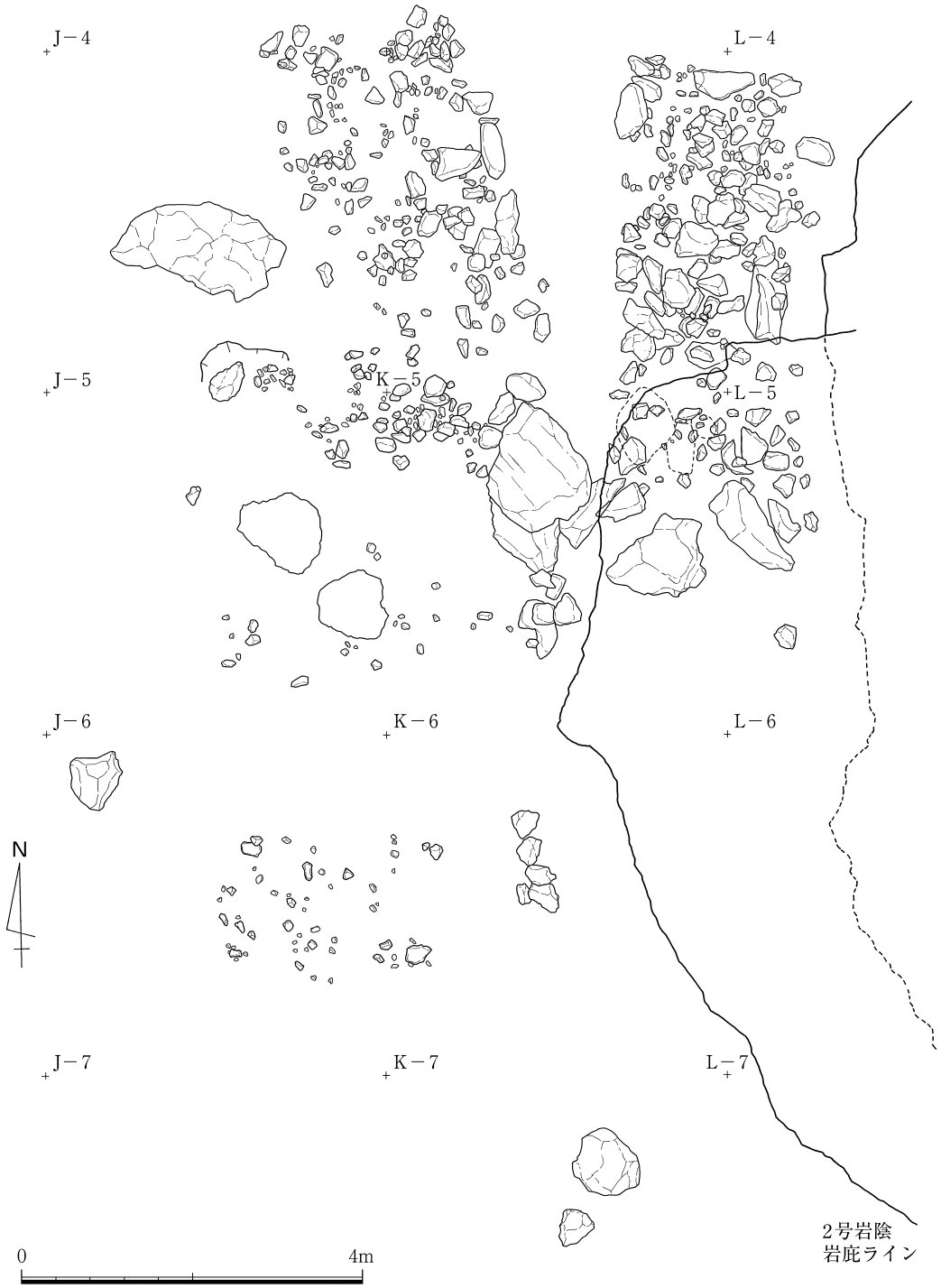


Fig. 31　2号岩陰の岩庇ラインと周辺の礫検出状況

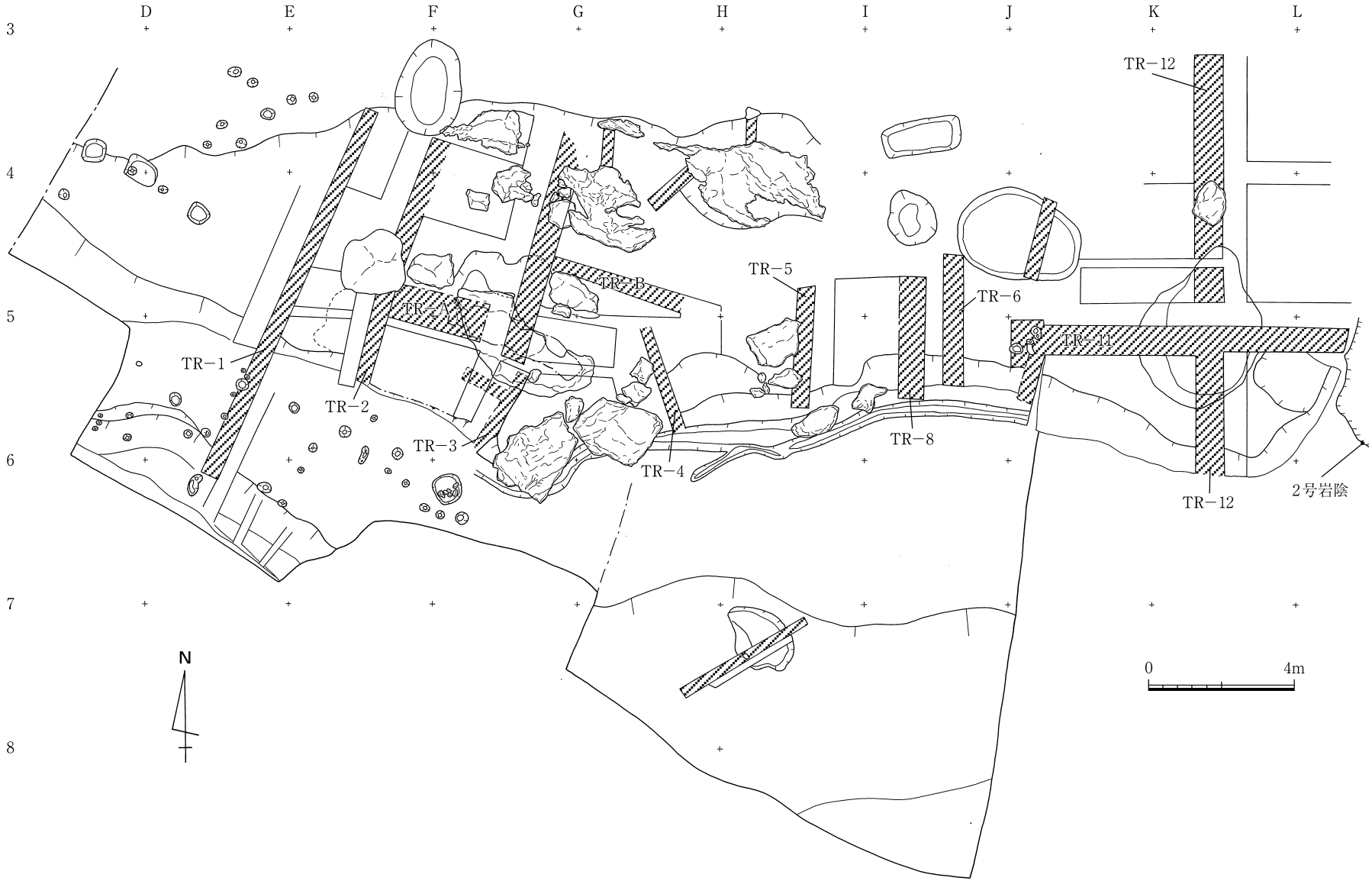


Fig. 32　Ⅴ区岩陰周辺平面図及びトレンチ位置図（1996年４月の段階）

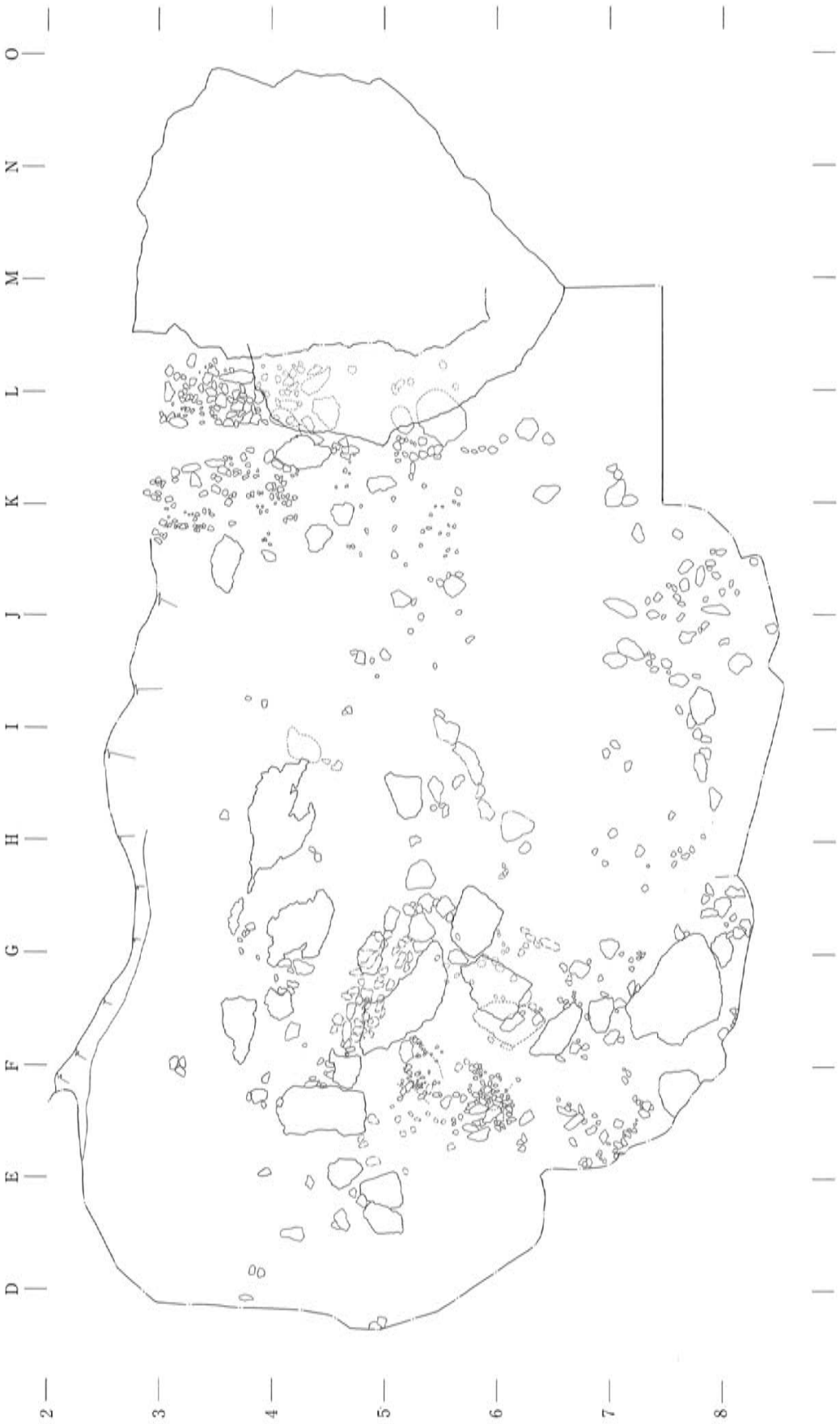


Fig. 33　チャート岩塊の分布

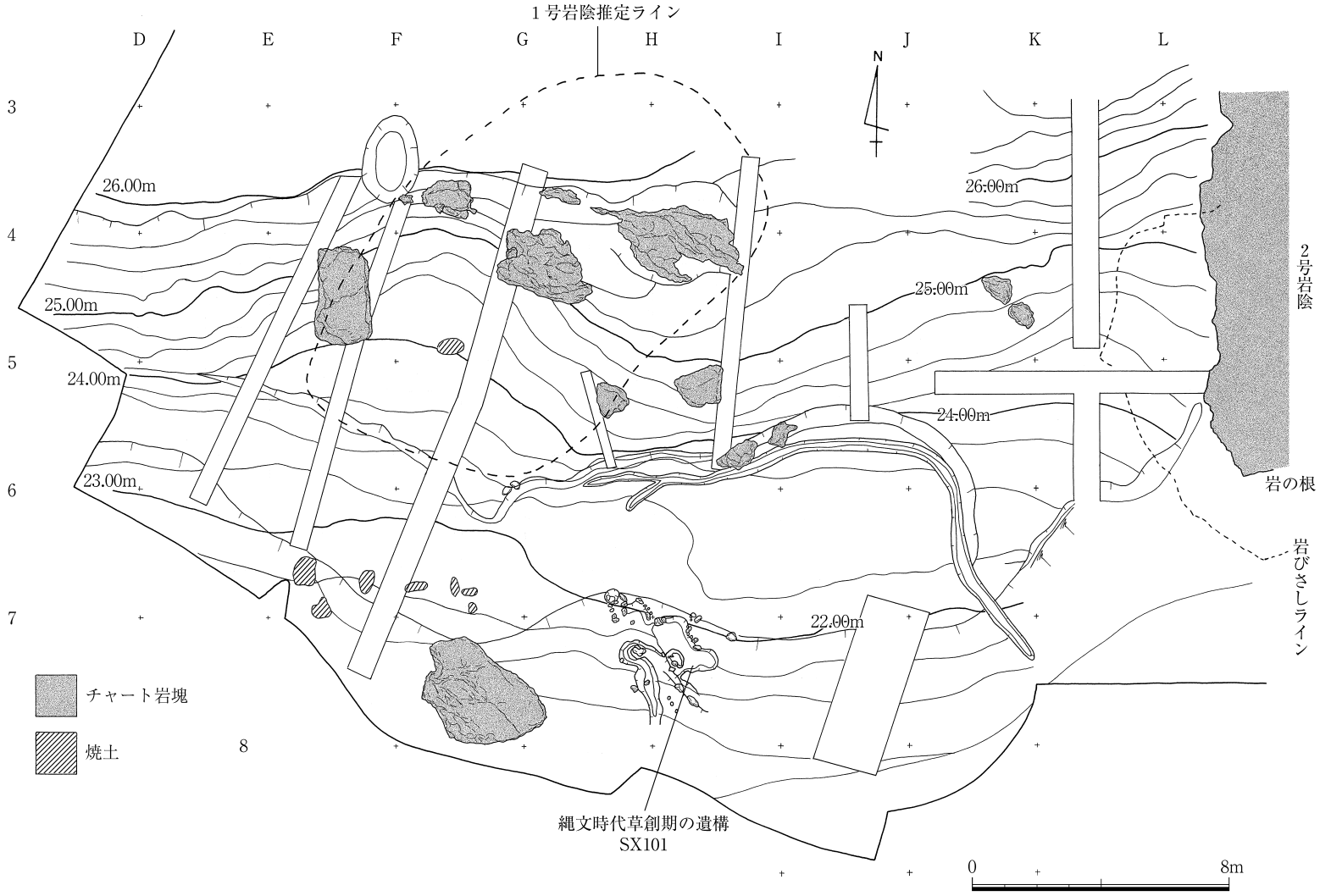


Fig. 34　V区岩陰周辺平面図（等高線はⅧ層調査終了時点）

Fig. 35　調査終了時点のⅤ区平面図（1996年10月）

第3節　遺物出土状況（ドットマップ）

ここでは遺物出土状況についてドットマップで示す。出土遺物数は総数で4万点を超えるのだが、ドットマップに表現可能な地点記録遺物は全部で1万数千点ほどで、これらの遺物について、遺物出土状況図（ドットマップ）を作成した。

出土遺物の地点記録に際して、光波測量器による任意起点からの取り上げ及び実測による取り上げを併用した。調査終了直後には図面と任意点からの座標値によるデータが混在する状況だったため、まず座標値をもとに出土地点を図化し、グリッドごと地点ごとに作成した図面からまとめて全体のドットマップを作成する方法をとった。しかし、地点ごとの図面化は行ったものの層・器種・地点などデータごとの整理・統合作業はなかなか進まなかった。データ量の多さと手作業による効率の限界もあり、当時、高知県埋蔵文化財センターが田村遺跡群の調査で導入していたドットマップ作成ソフト「マックカタダ」を使ったドットマップ作成がより効率的であると考え、マックカタダを利用したドットマップ作成へと方針転換を行った。

当初は座標データをマックカタダ用に変換する方法がわからず、データを図面から直接デジタイザーによってマックカタダデータとして変換、それをもとにドットマップを作成しようとこつこつとした作業を続けていたが、作業途上で座標値を記録していた表計算ソフト「エクセル」のデータをある種の変換方法によりマックカタダデータとして取り扱うことができるというご教示をいただき、最終的には効率的なドットマップ作成が行えるようになった。

そこで、遺物出土地点の記録された図面及び任意の起点からの座標値調査を統一起点に変換する作業を進め、データ変換後マックカタダによるドットマップの作成を行った。

統一起点はグリッドC-9であり、ここを原点（X=0.000,Y=0.000）として変換する。遺物の出土地点の座標がX座標・Y座標ともすべてプラスで表記される第1象限にあたる。

なお、エクセルデータからカタダデータへの変換は、X・Y・Z座標（平面データと標高データ）とそれに続く数値（遺物番号など）の4行にデータを整理した後、CSV（カンマ区切り）形式による保存を行い、CSV形式保存データをマックカタダで読み取る方式で行った。

光波測量器による遺物の取り上げ

図版として示した遺物については、Tab.31～Tab.32で出土地点の座標・標高が確認できる遺物については示し

ている。

岩陰周辺の遺物集中地点における分布はFig.36に示した状況であり、点線で囲んだ7つのグループに大別することが可能である。推定される岩陰（1号岩陰）の岩庇の下周辺に広がる遺物集中箇所（１号岩陰周辺地点)、１号岩陰の南側の集中部（1号岩陰南地点)、１号岩陰と2号岩陰の中間に広がる比較的遺物集中の少ない領域（1・2号岩陰中間地点)、2号岩陰の岩庇の下と外側の急斜面から緩斜面にかけての集中箇所（2号岩陰周辺地点)、2号岩陰の南側の集中部（2号岩陰南地点)、縄文時代草創期の土器が出土したSX101とその周辺（SX101周辺地点)、グリッドG-7の南側の縄文土器が比較的まとまって出土する遺物集中部（G-7南地点）の7地点である。

層堆積後の自然の営為による侵食及び再堆積、人為による地形改変なども石器の集中部の分布域偏在に介在しているものと判断している。そういった自然の営為・人為を考慮しても、この７つの集中部には意味がある。

全域の全層位から出土した遺物の分布の中で、石器等遺物をほとんど出土しない地点は、標高26m地点と24m地点の上下2段の削平された平坦部、１号岩陰のR-10ラインから西側の斜面部などである。遺物集中部の所々にみられる空白箇所は、遺跡内に点在するチャート岩塊によるものである。

提示するドットマップは、グリッドごと・遺物の集中する地点ごと・層ごと・全体の状況など各々にまとめて行った。Fig.38からFig.70までの図面により遺物出土の様相について、その概要を示した。Fig.36が遺物集中地点とその呼称を示したものであり、Fig.37にはFig.38からFig.51までの4mグリッドを基本単位とするドットマップのページ配置について示すこととする。

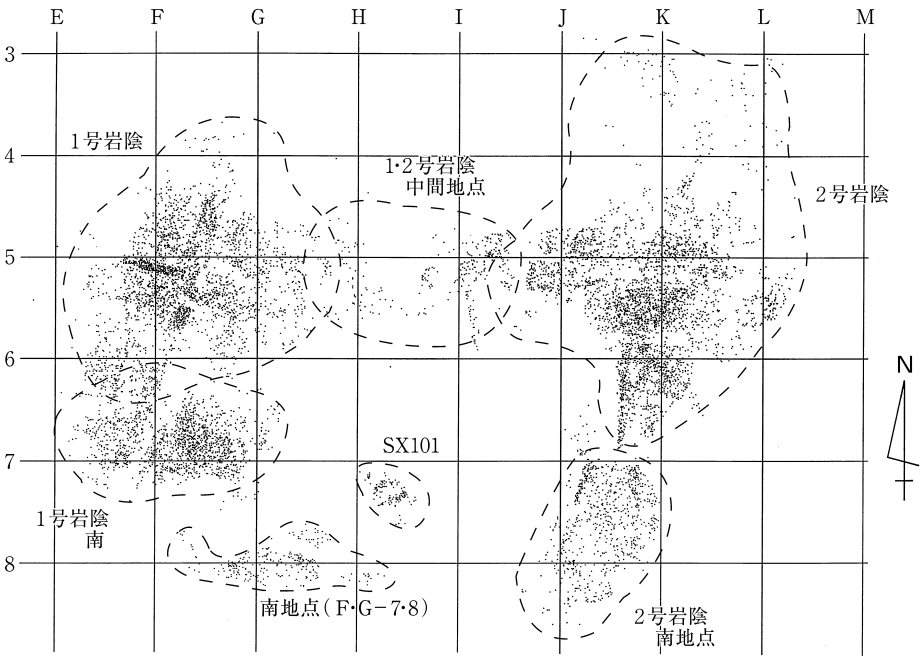


Fig. 36　遺物集中地点の呼称

層の重なり、傾斜地形などのため、遺物が複雑に重なりあっており、本来器種ごとの違いも含めて示すドットマップとして表示すべきところではあるが、この第Ⅳ章－第3節においては、器種・遺物の弁別を行わず、各々の実測図を掲載する出土遺物の項で、器種ごとの出土地点について報告し、図版掲載遺物については、その出土地点を法量・出土層位・地点を記載する一覧表の中に（X,Y,Z）の座標値で記録する。細石刃などに代表される小型の石器は、調査排土の水洗作業で検出されたものも多く、グリッドなどの出土地点は明らかになっているものの座標値を持たない遺物も多い。

傾斜地に位置することもあり、標高の違いをそのまま時期差として捉えることはできず、最も大きい縮尺でも4mグリッドの範囲をS=1/50で表現するにとどまっており、遺物の上下関係は南北・東西各々の投影から読み取っていただきたい。なお、器種ごとの分布状況については各々の実測遺物の項に併せて載せている。

遺物集中地点1・2（1号岩陰～1号岩陰南地点）

グリッドE-5、F-4・5を中心とした10m四方の範囲に遺物が集中する。E-6及びF-6の集中範囲を含めると遺物の分布は東西16m、南北12mの範囲に広がる。推定される1号岩陰の南東側に遺物の集中はには広がっており、西側には包含層自体は残っているものの遺物がほとんど出土しないことから、遺物出土領域が活動域であったと考えられる。1号岩陰と1号岩陰南の間は、後世の遺構面形成のため約3mの幅で削平されており、その部分だけ遺物出土量がやや少ないが、本来連続

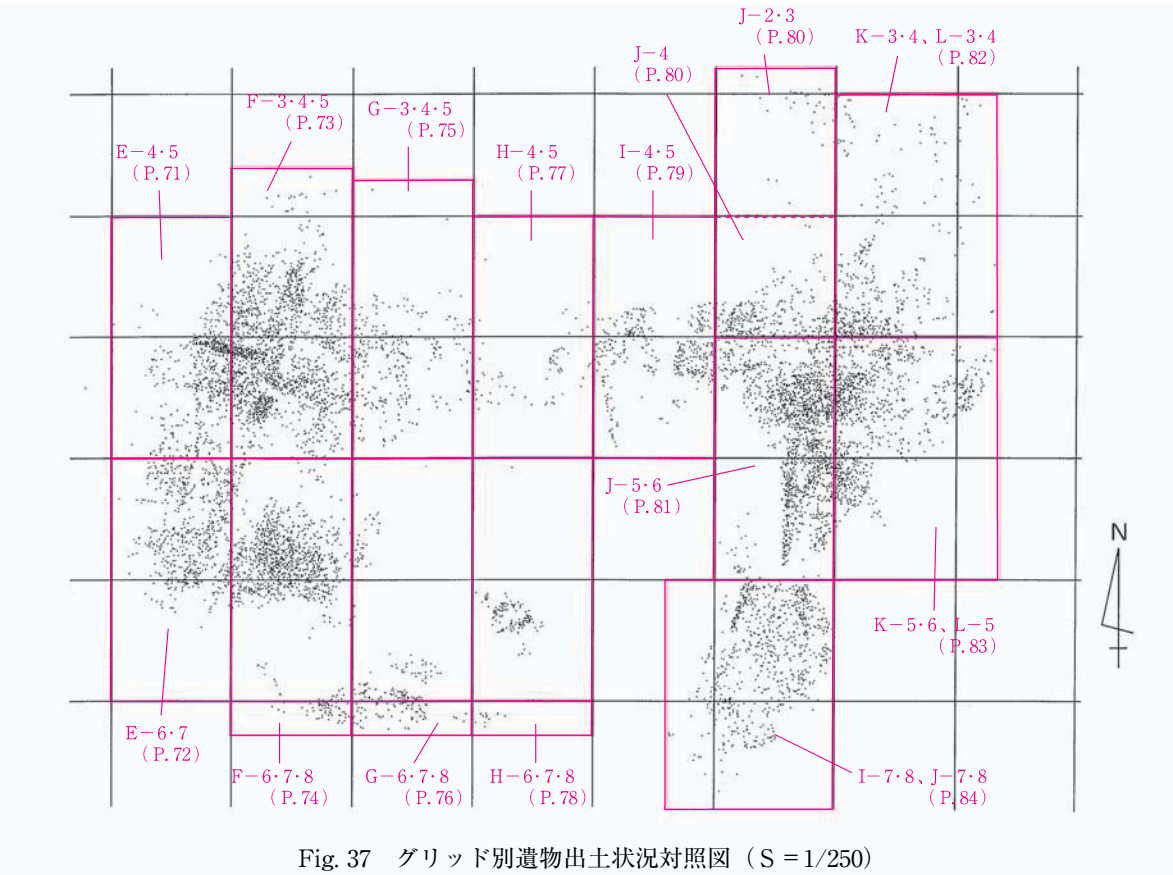


Fig. 37　グリッド別遺物出土状況対照図（S＝1/250）

した一連の遺物集中域として捉えられるものである。この削平された地点においても遺構面より下にⅧ層以下の層が残された部分もあり、そこからは遺物とともにピット焼土などの遺構も検出されている。1号岩陰南地点の南限はチャート岩塊R-26であり、そのさらに南側には1994年度に調査を実施したⅣ区が連続するのだが、Ⅳ区からは石器剥片類がほとんど検出されていない。

遺物の集中は測量杭F－5の南側周辺が特に顕著で、ここではⅦ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ各層から石器剥片類や敲石が確認されている。

遺物集中地点3（1・2号岩陰中間地点）

グリッドH-5からI-5にかけて、4m前後の幅でⅩ層からⅦ層までの地層が残っている。その北側は現在の生活域であったため削平され、南側は近世の遺構面形成のため削平され、ともに包含層は残されていない。岩陰に挟まれた空間であり、遺物の出土は認められるものの、東西の岩陰と較べると集中の度合いが小さい。

遺物集中地点4（2号岩陰）

グリッドJ-5、K-5を中心とし、東西10m、南北12mの範囲に遺物集中域が広がる。遺物が出土するのは岩陰の岩庇の外側のわずかな傾斜を持つ緩斜面であり、岩庇に覆われた岩の下からはあまり遺物が出土していない。2号岩陰は、岩陰や洞窟の岩の下に遺物が集中し、厚い堆積が残るいわゆる岩陰・洞窟遺跡とは遺物出土状況が異なっている。北側には急斜面が続いており、ここからは遺物は出土するものの量は少なく、点在するのみである。遺物の集中は岩陰の南西側であり、他地点同様後世の削平面には全く遺物がないが、遺物集中部の状況から南西側の近世遺構面には連続して分布域が広がっていたであろうことが予想される。岩陰の東側を流れる小谷の侵食により、南側には包含層が全く残っていない。

遺物集中地点5（2号岩陰南地点）

石器類等の遺物がまとまって出土するものの、他地点とは堆積の様相が全く異なっており、2号岩陰東側の流路や斜面上方からの侵食による2次堆積で形成された層だと考えられる。2号岩陰の遺物集中地点との連続性はない。

遺物集中地点6（SX101周辺）

縄文時代草創期の遺構SX101を中心に、その周辺にうすく広がる黒褐色土中に石器剥片類を中心とした遺物がまとまって出土した。グリッドH-7～I-7の緩斜面である。ドットマップでは分布がSX101近辺に限定されるが、実際には緩斜面に広がる黒褐色土（ESⅠ層とした。ESは調査区を拡張する前の南東部を示す。）からまとまって確認されている。一括して取り上げため、ドットマップでは表現しきれていない。

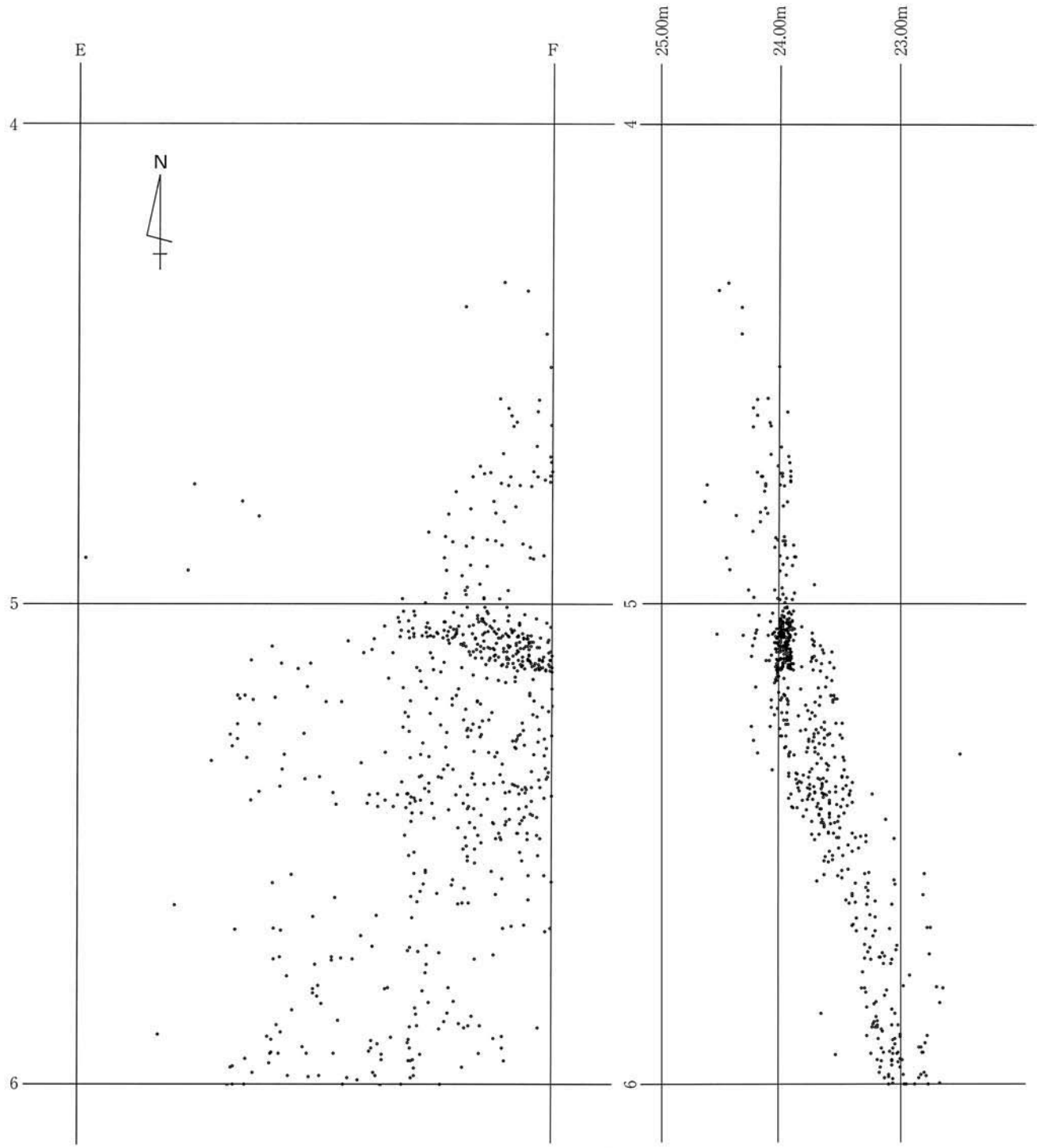


Fig. 38　グリッドE-4・5 遺物出土状況（S＝1/50）

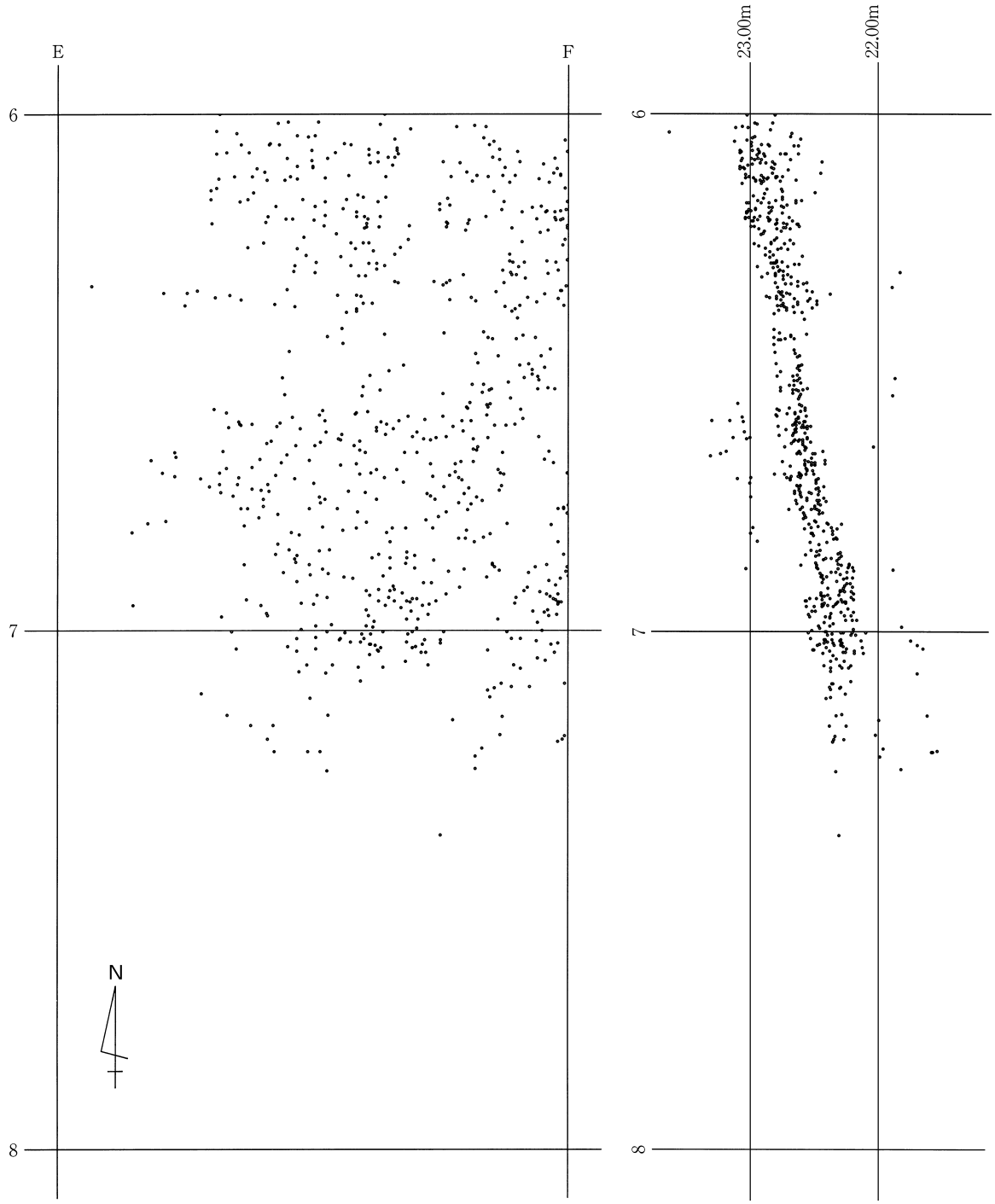


Fig. 39　グリッドE-6・7 遺物出土状況（S＝1/50）

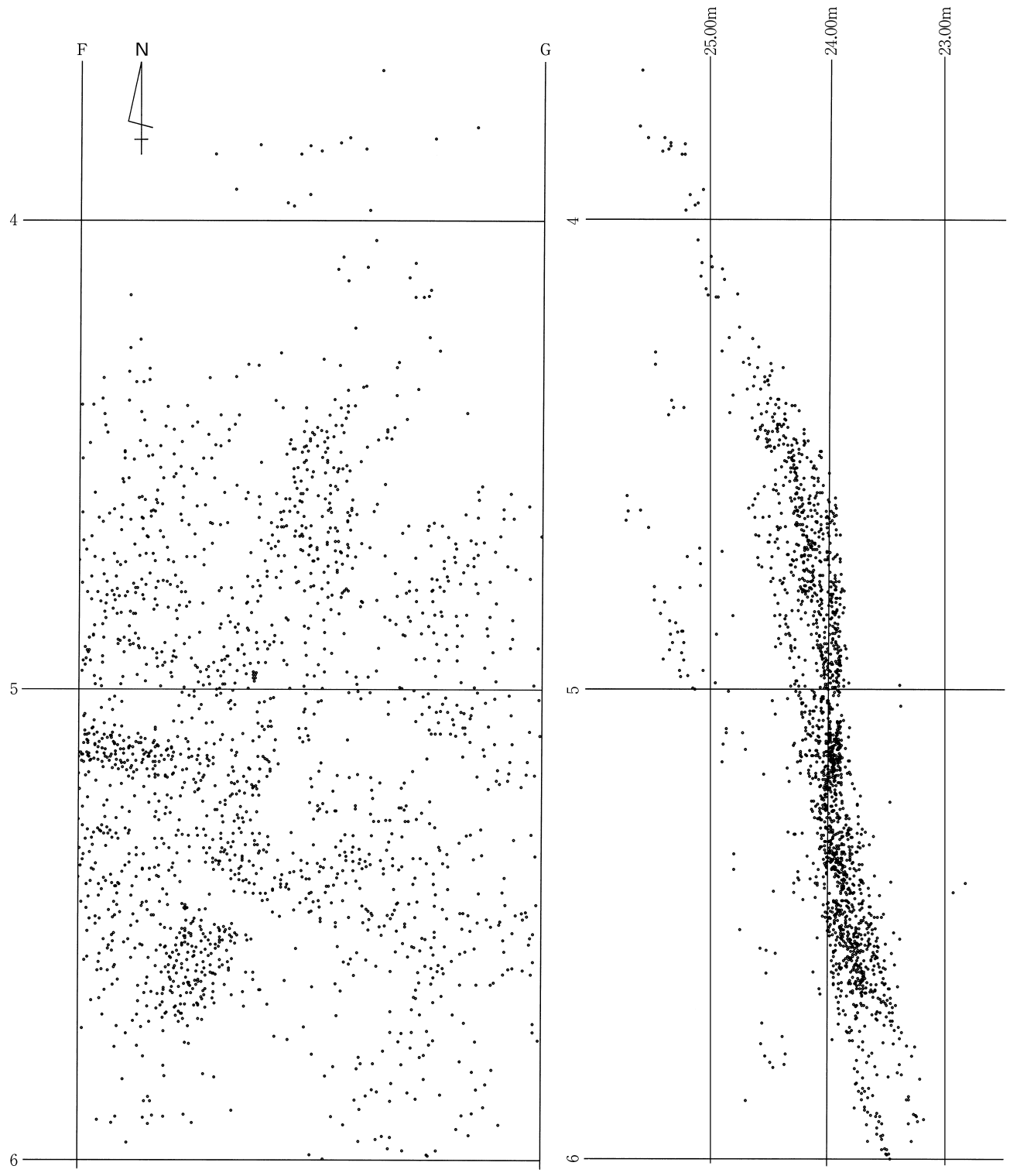


Fig. 40　グリッドF-3・4・5 遺物出土状況（S＝1/50）

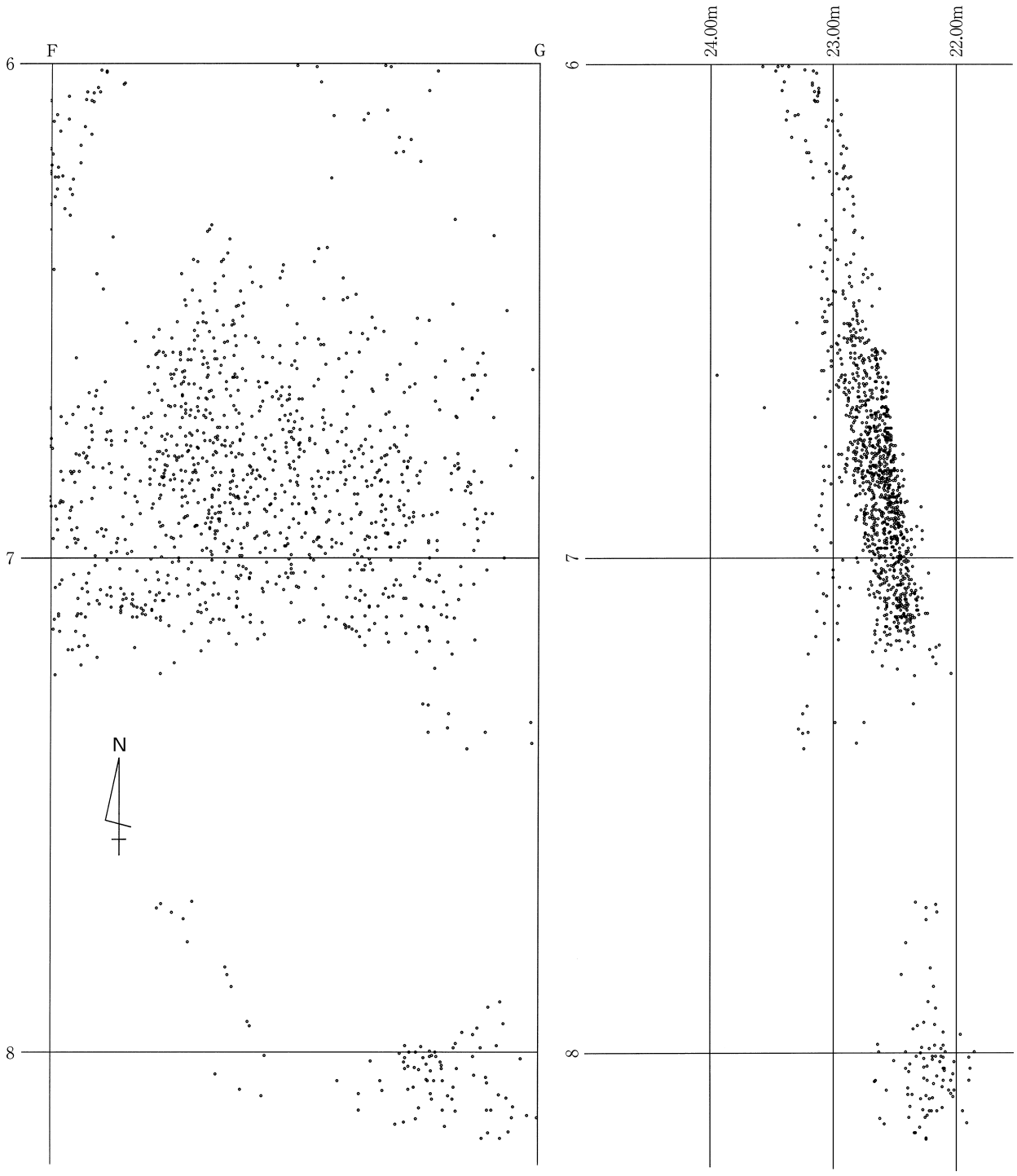


Fig. 41　グリッドF-6・7・8 遺物出土状況（S＝1/50）

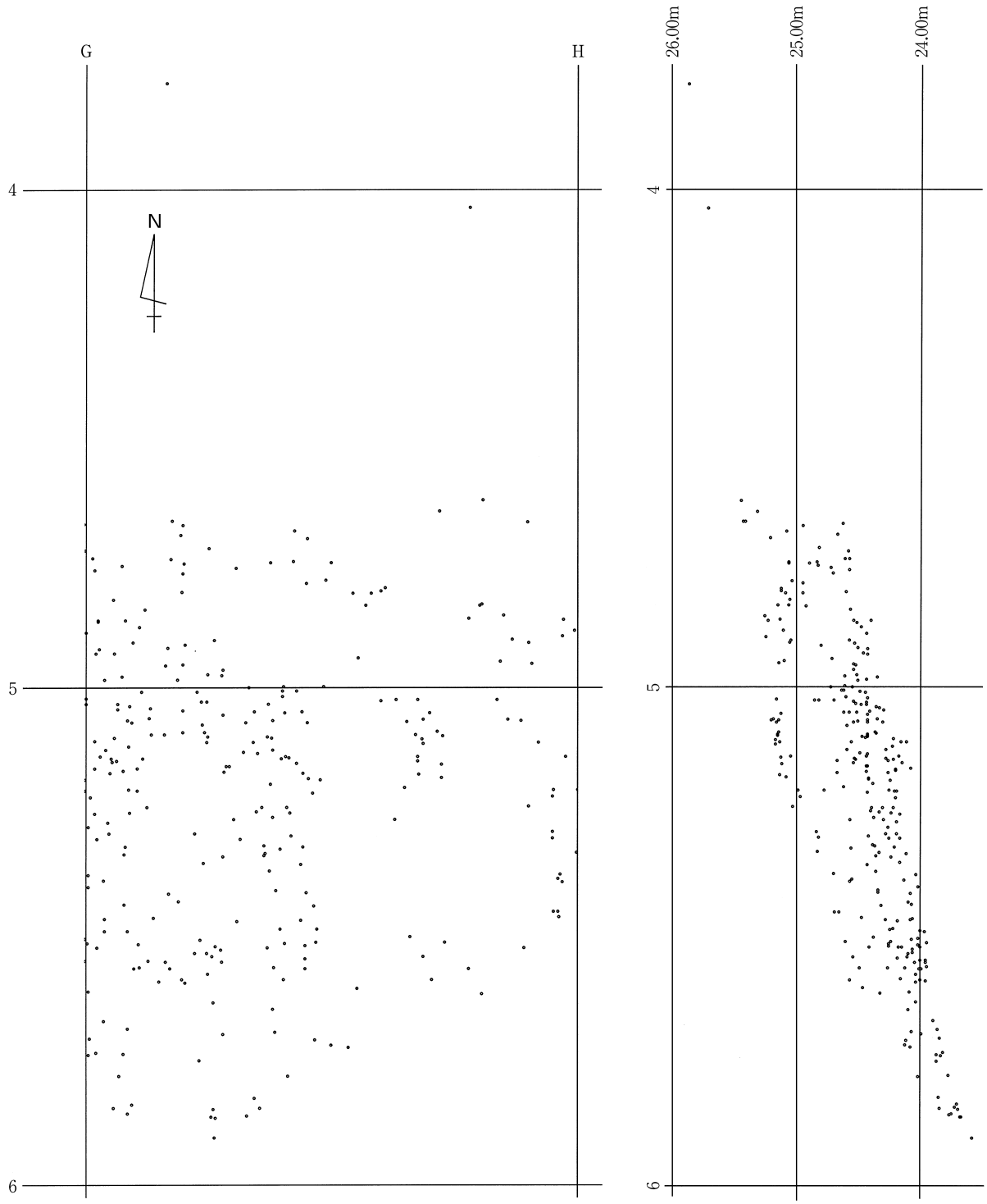


Fig. 42　グリッドG-3・4・5 遺物出土状況（S＝1/50）

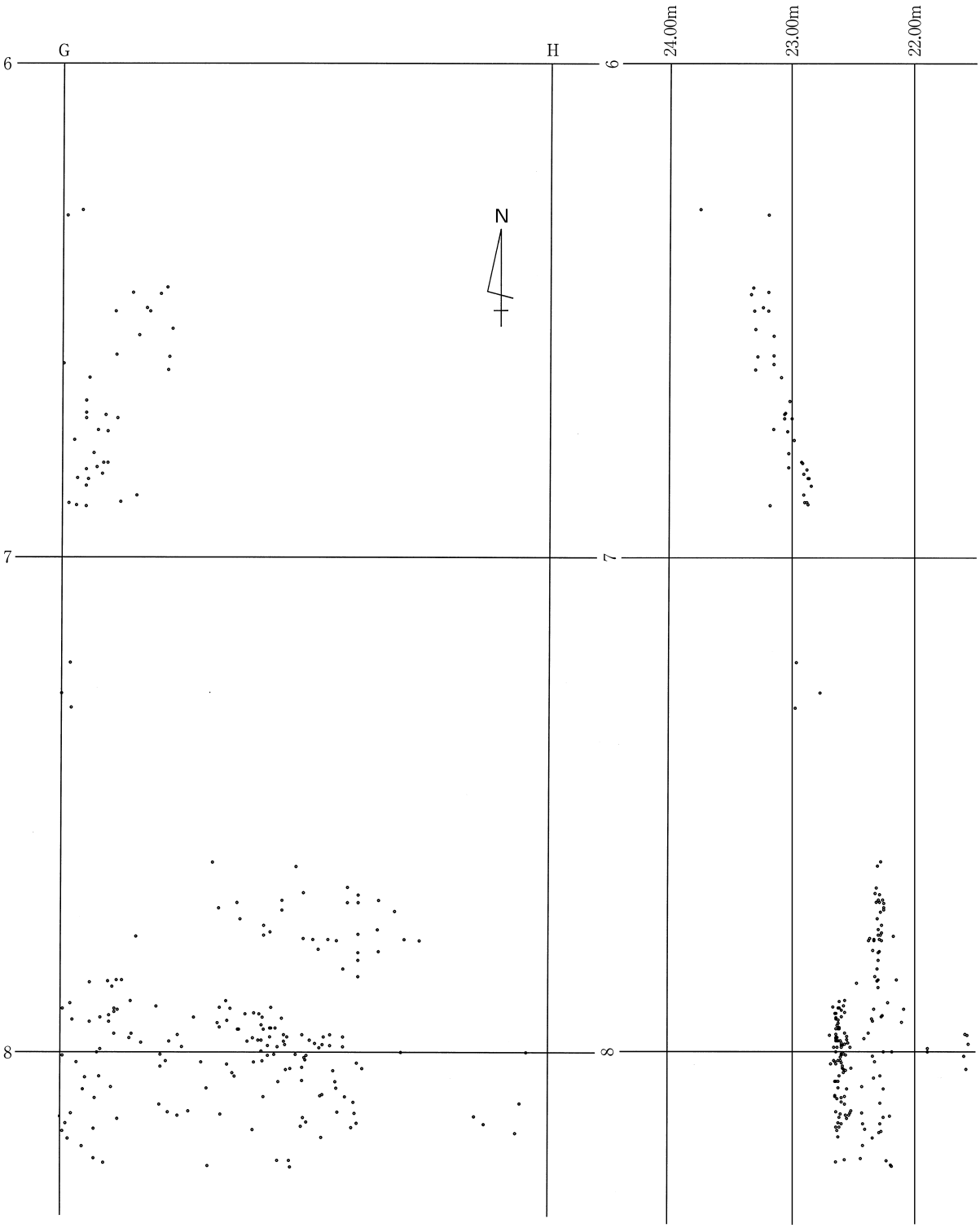


Fig. 43　グリッドG-6・7・8 遺物出土状況（S＝1/50）

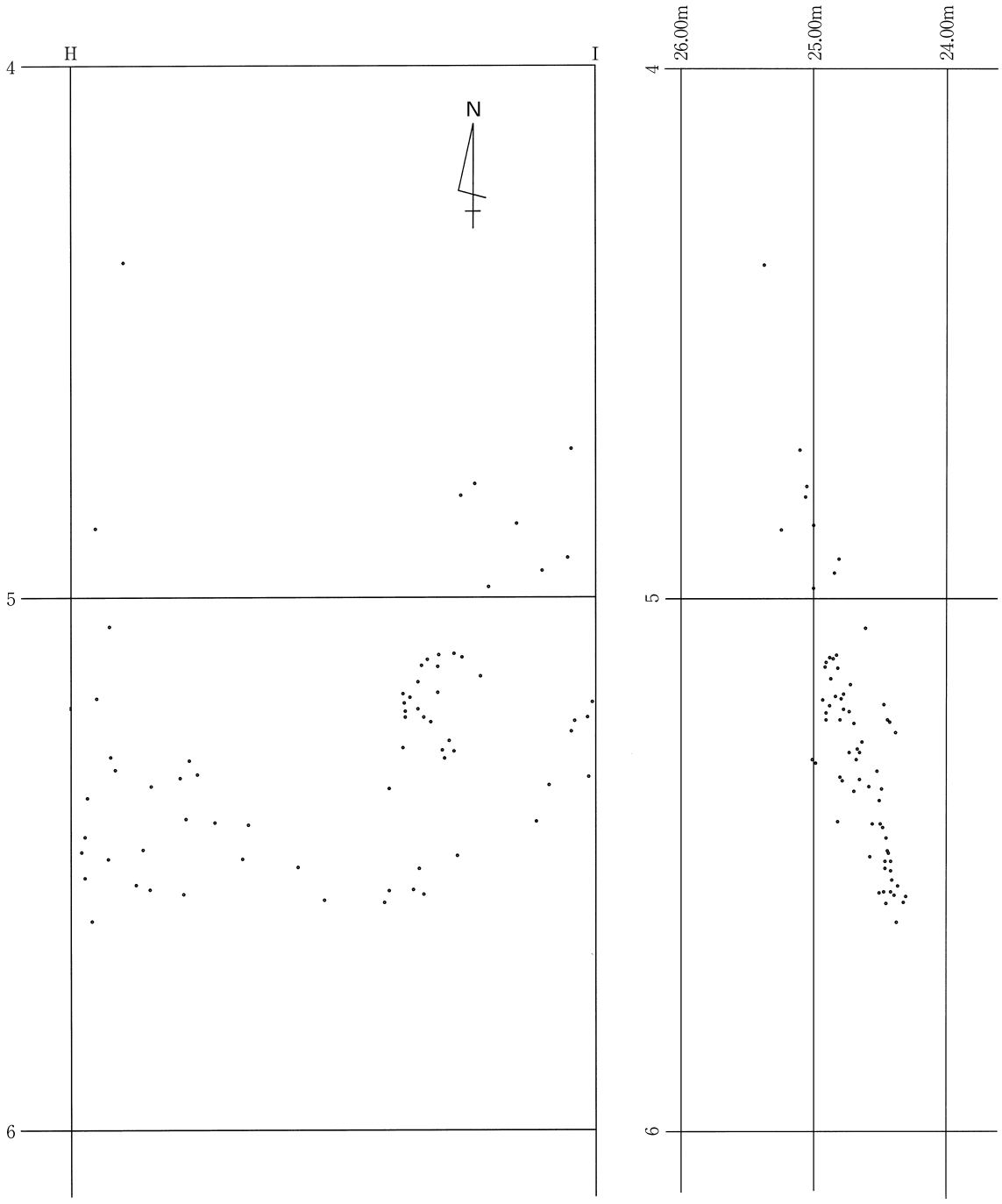


Fig. 44　グリッドH-4・5 遺物出土状況（S＝1/50）

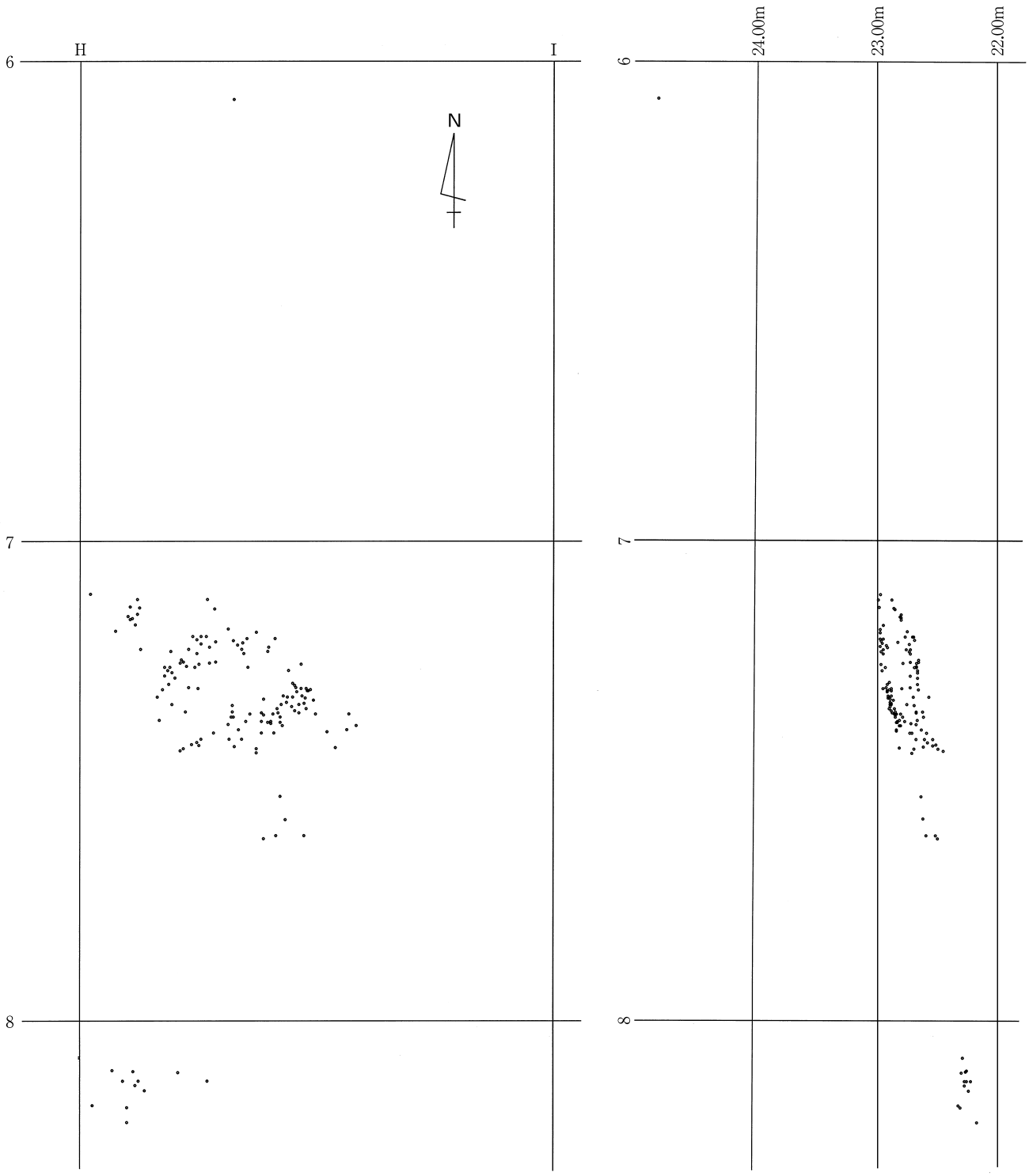


Fig. 45　グリッドH-6・7・8 遺物出土状況（S＝1/50）

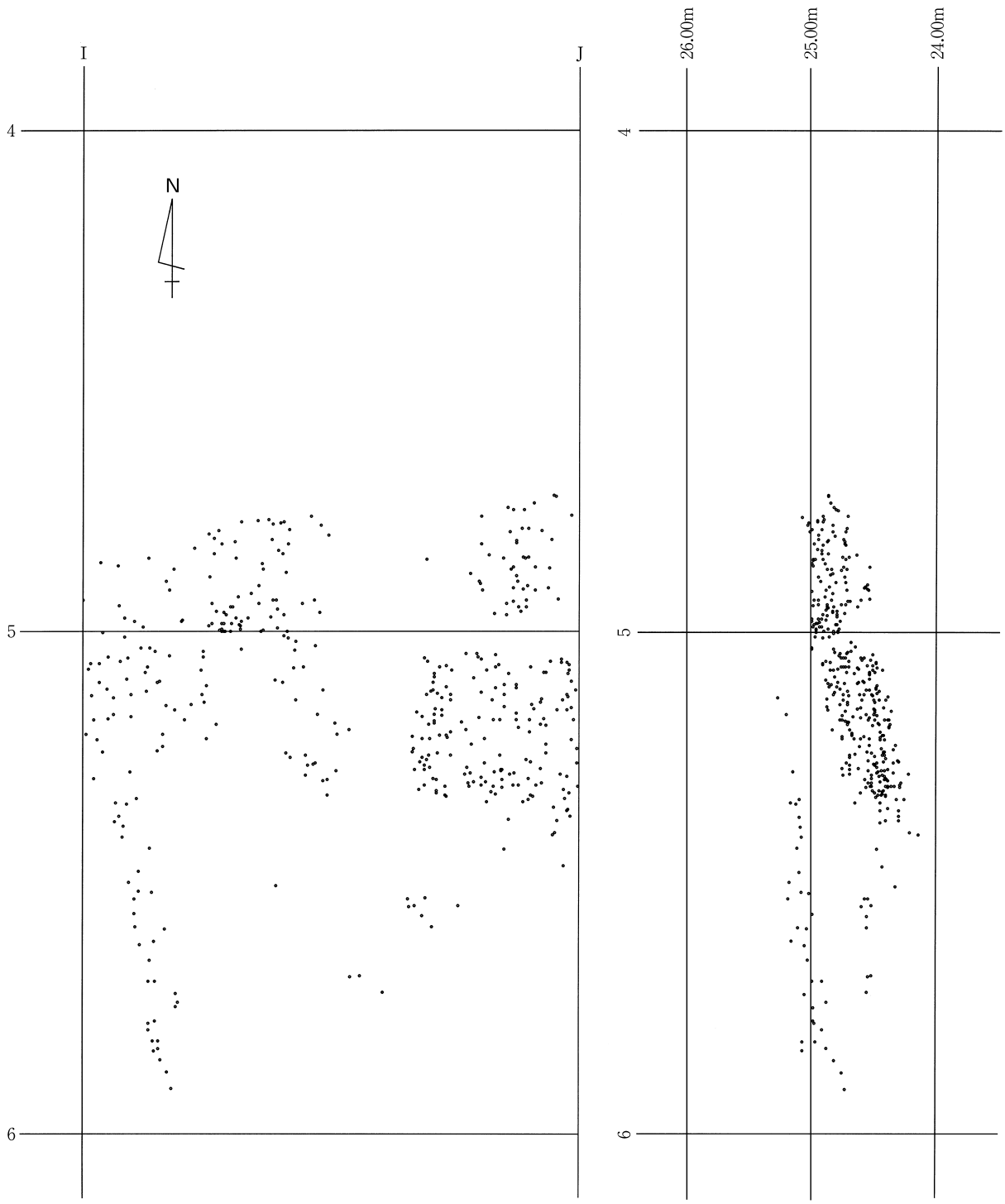


Fig. 46　グリッドI-4・5 遺物出土状況（S＝1/50）

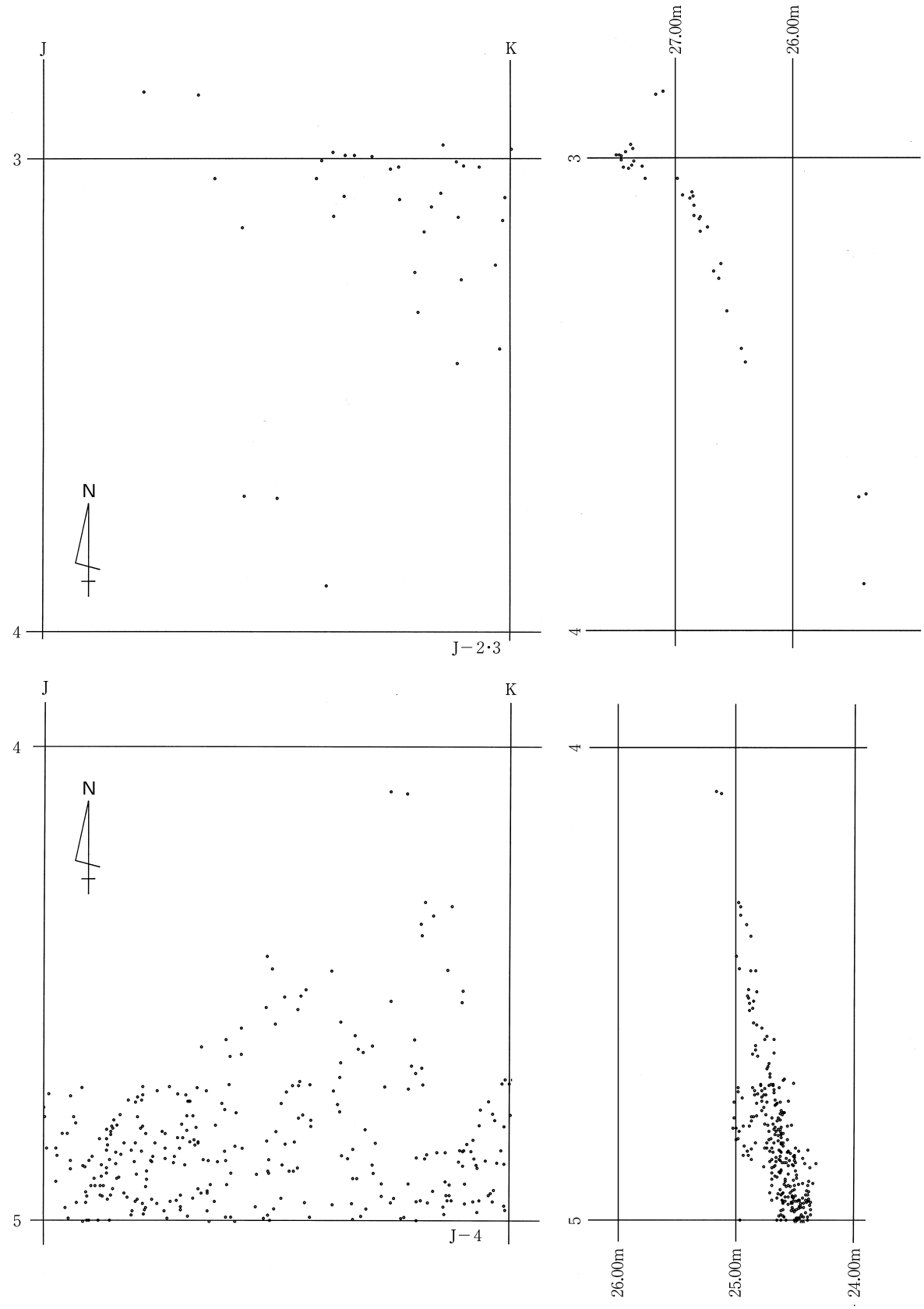


Fig. 47　グリッドJ-2・3、J-4 遺物出土状況（S＝1/50）

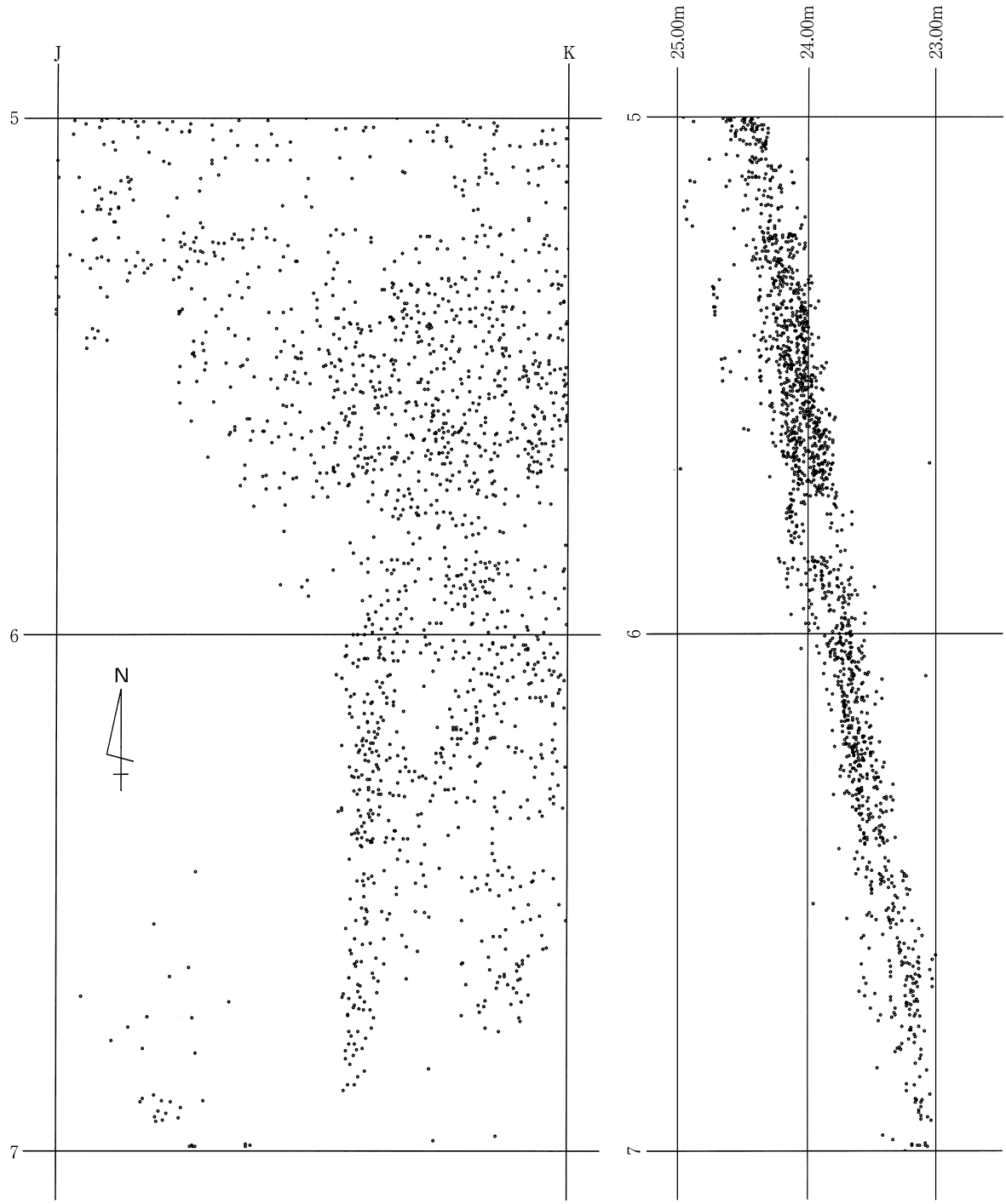


Fig. 48　グリッドJ-5・6 遺物出土状況（S＝1/50）

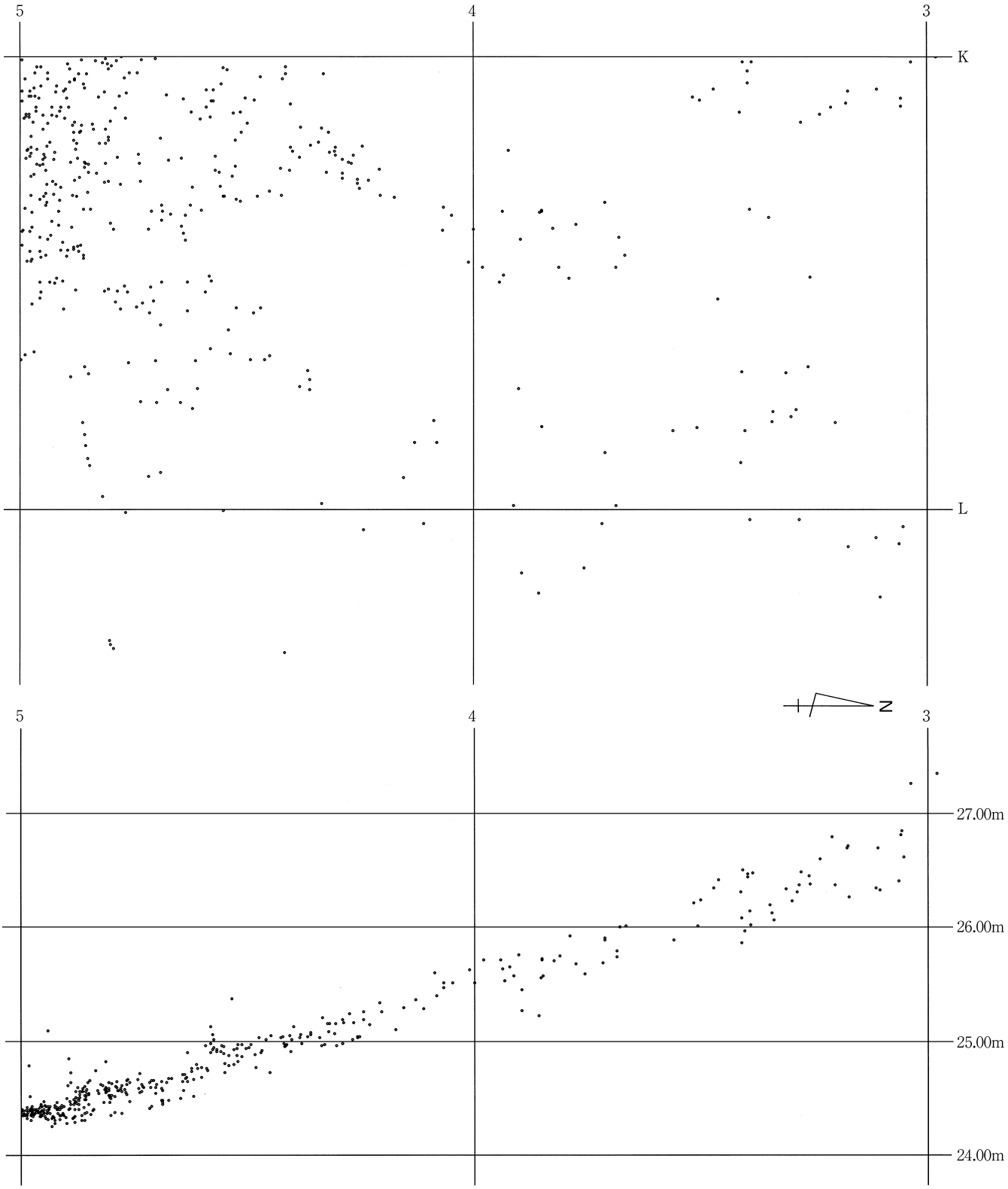


Fig. 49　グリッドK-3・4、L-3・4 遺物出土状況（S＝1/50）

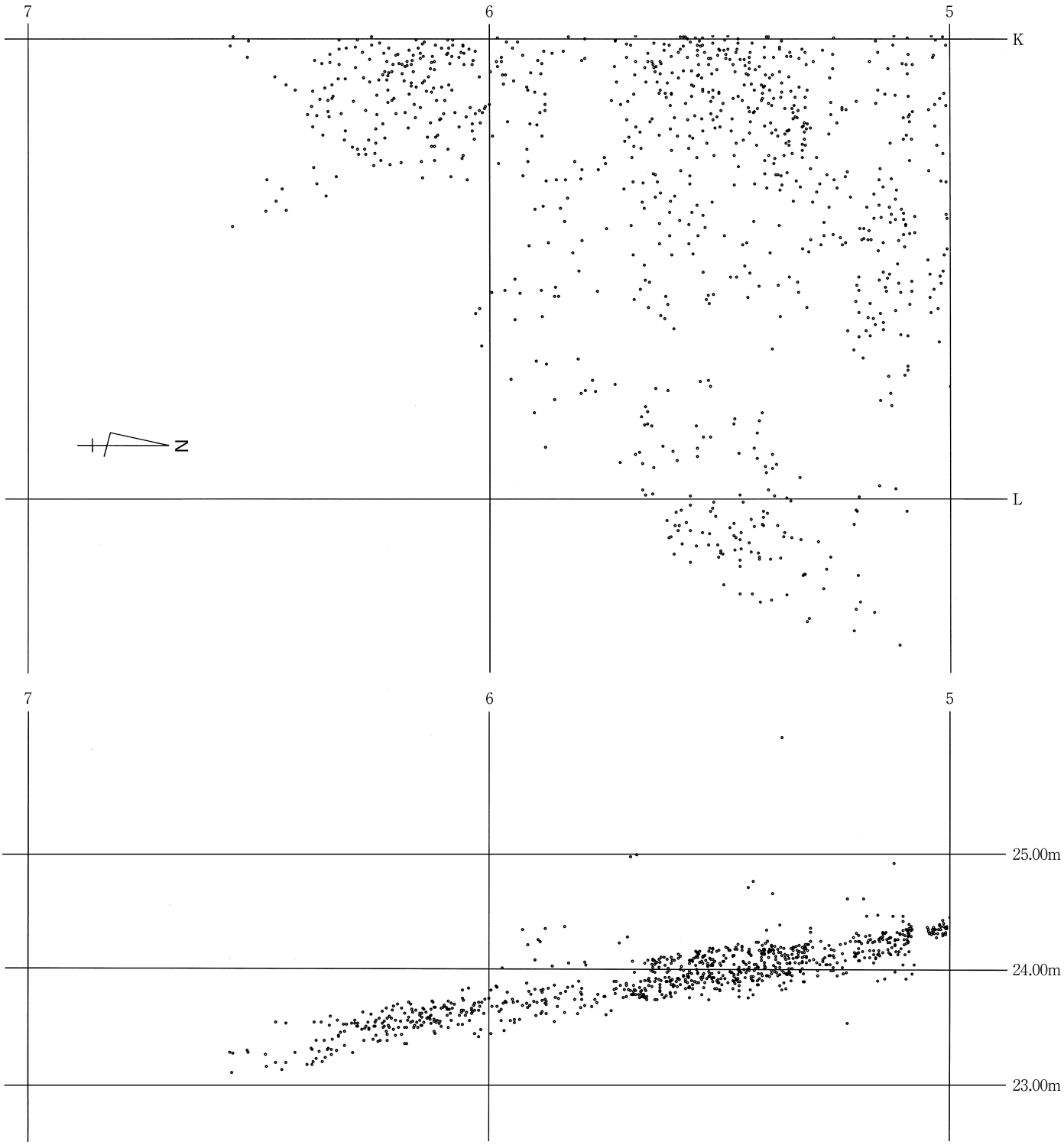


Fig. 50　グリッドK-5・6、L-5 遺物出土状況（S＝1/50）

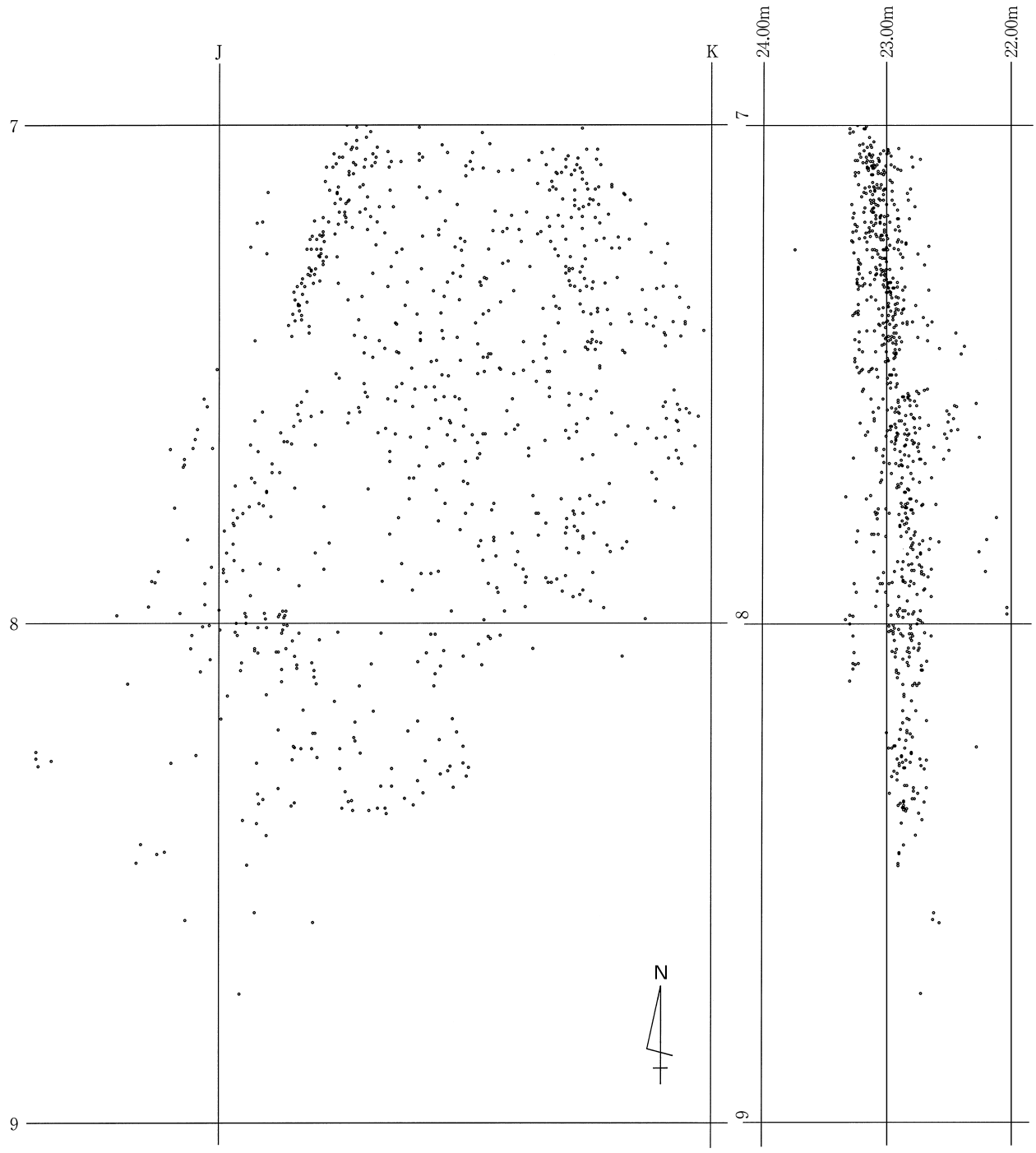
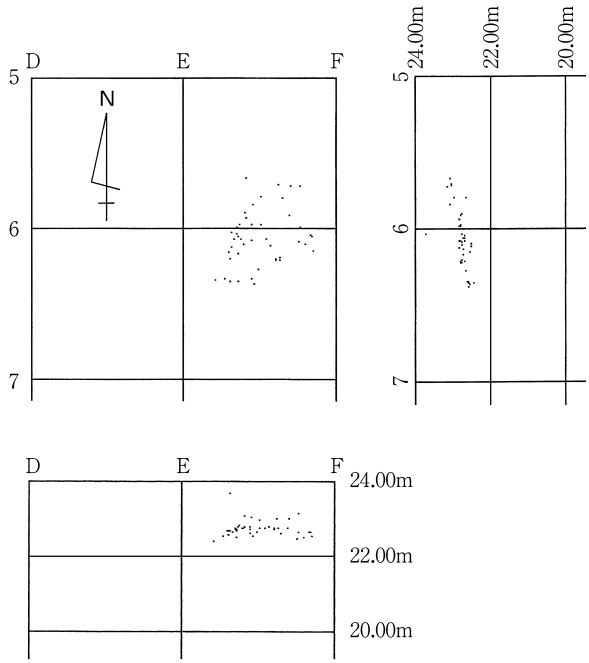
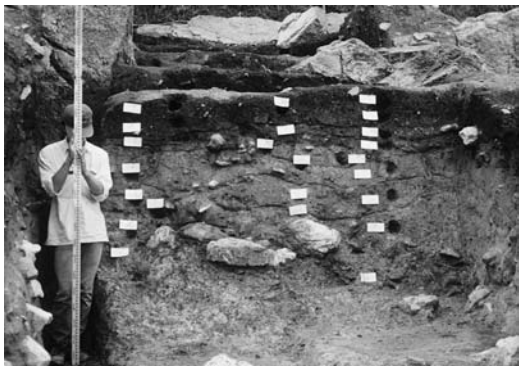


Fig. 51　グリッドⅠ-7・8、Ｊ-7・8遺物出土状況（Ｓ＝1/50）





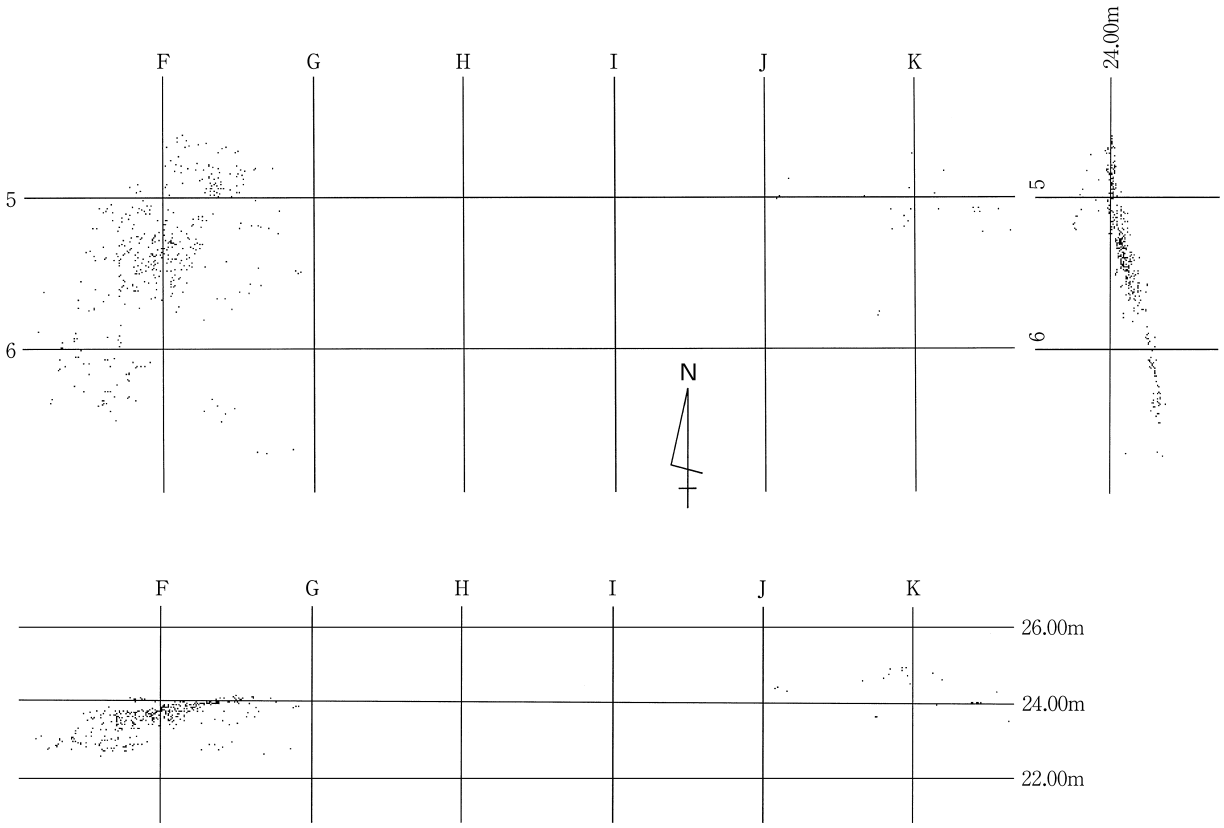


Fig. 53　X層遺物出土状況（S＝1/200）

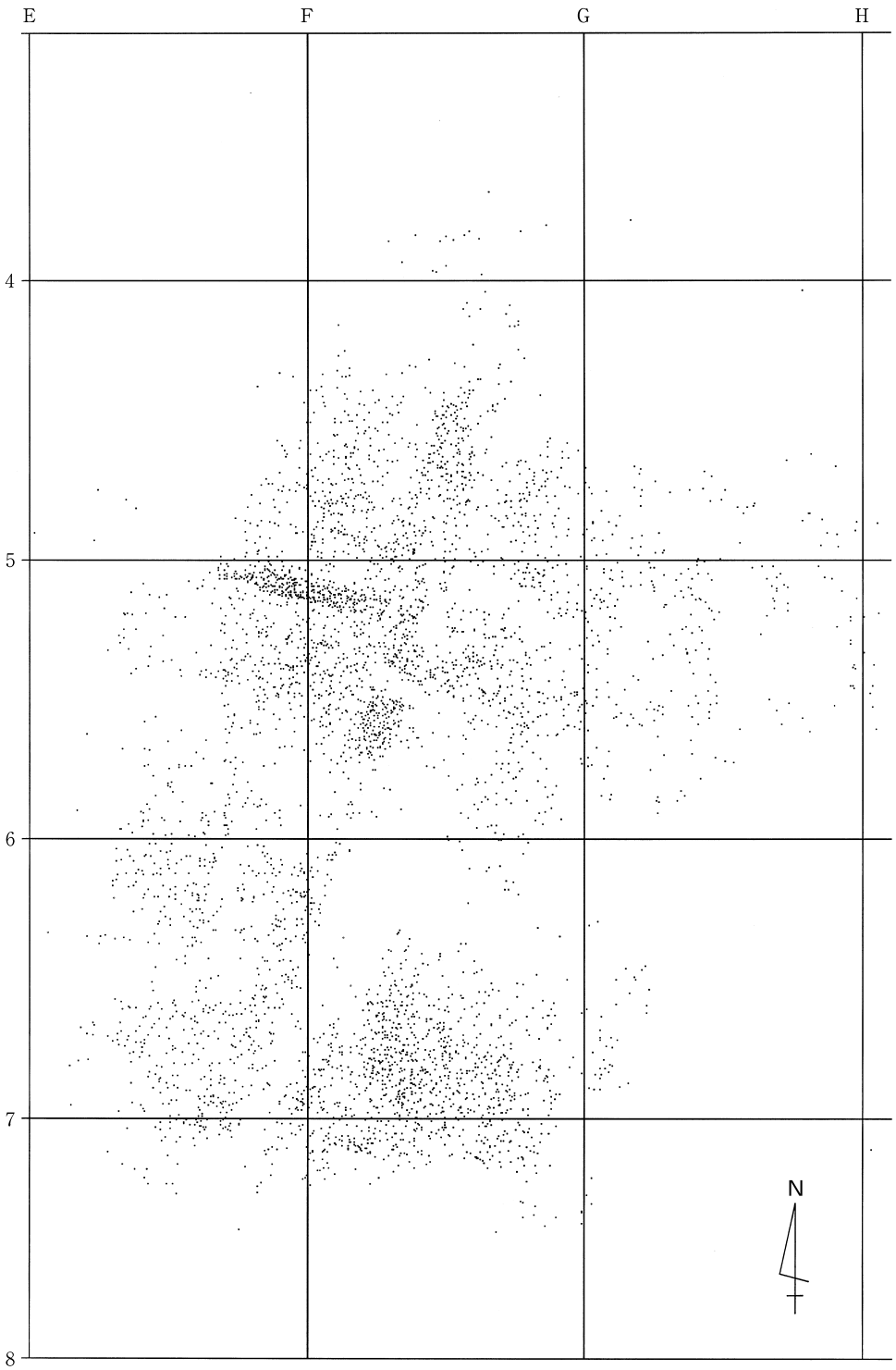


Fig. 54　1号岩陰周辺遺物出土状況（S＝1/100）

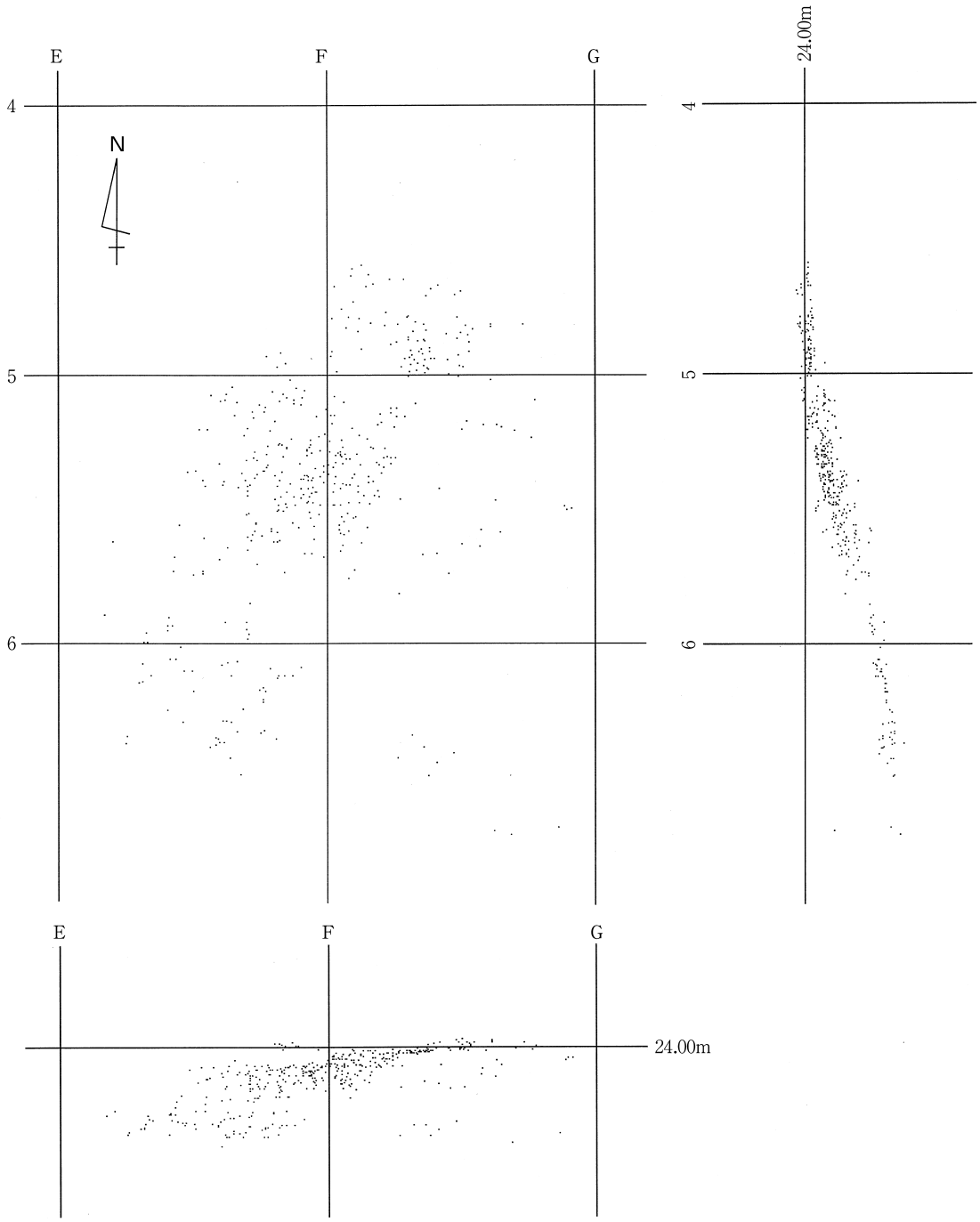


Fig. 55　1号岩陰周辺Ｘ層遺物出土状況（Ｓ＝1/100）

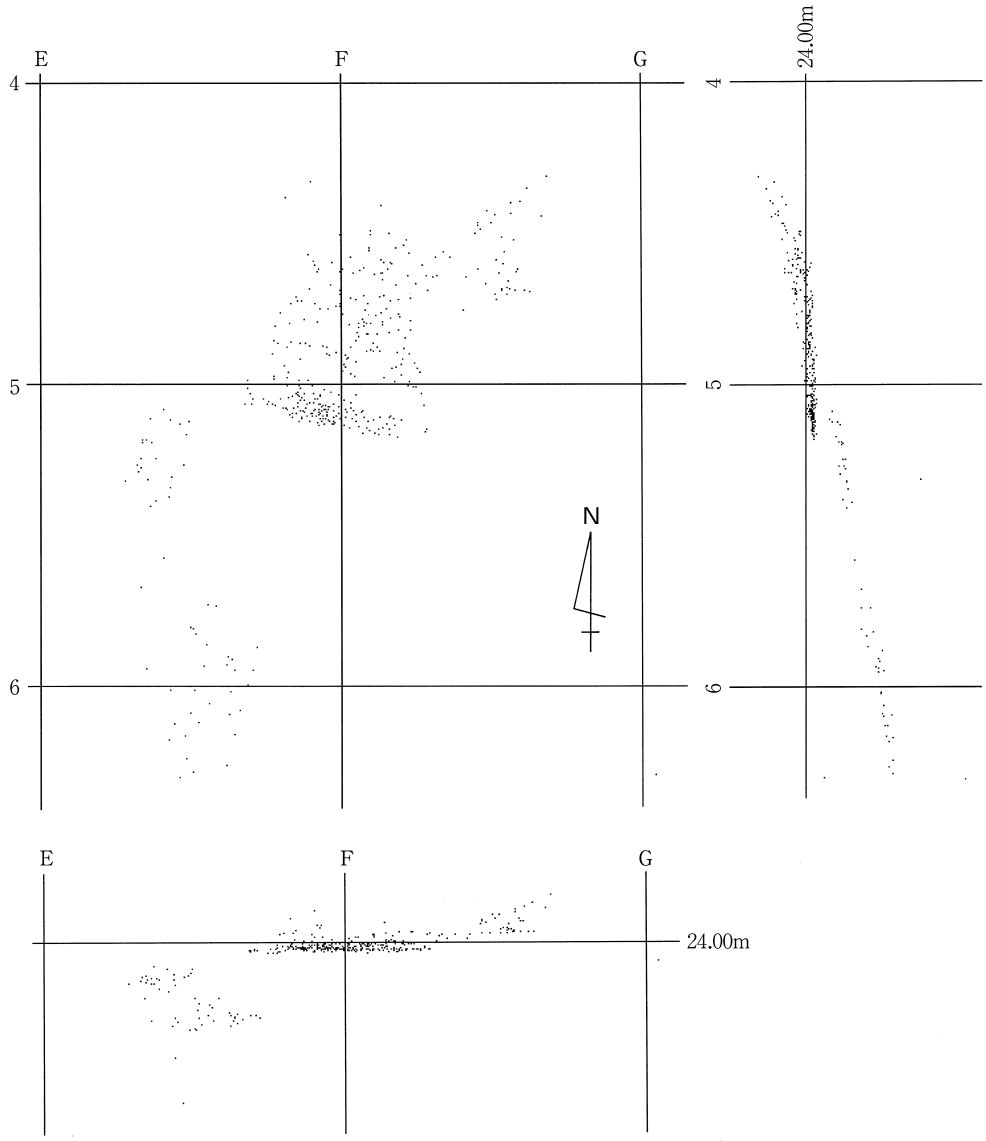


Fig. 56　1号岩陰周辺Ⅸ層遺物出土状況（S＝1/100）

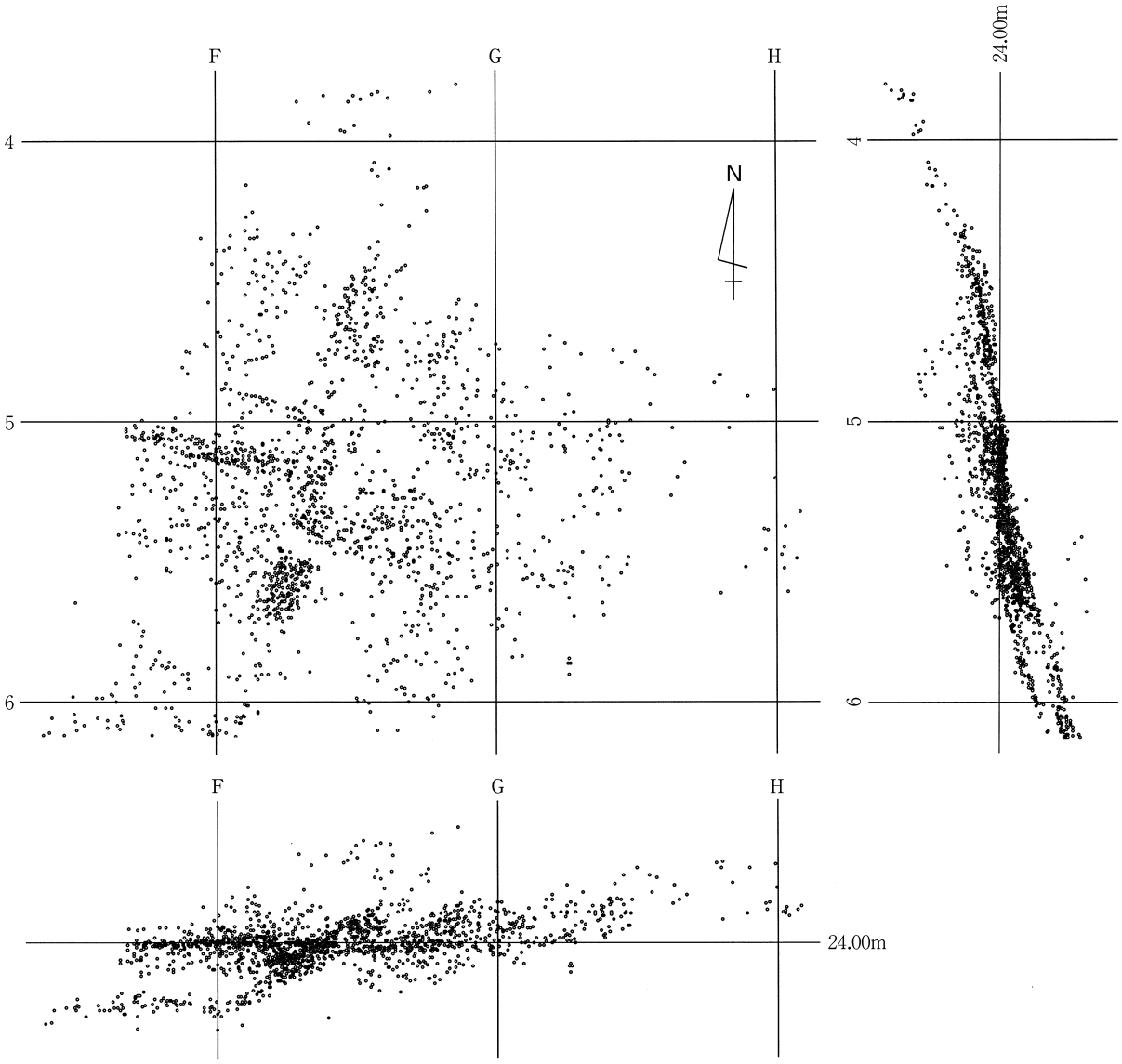
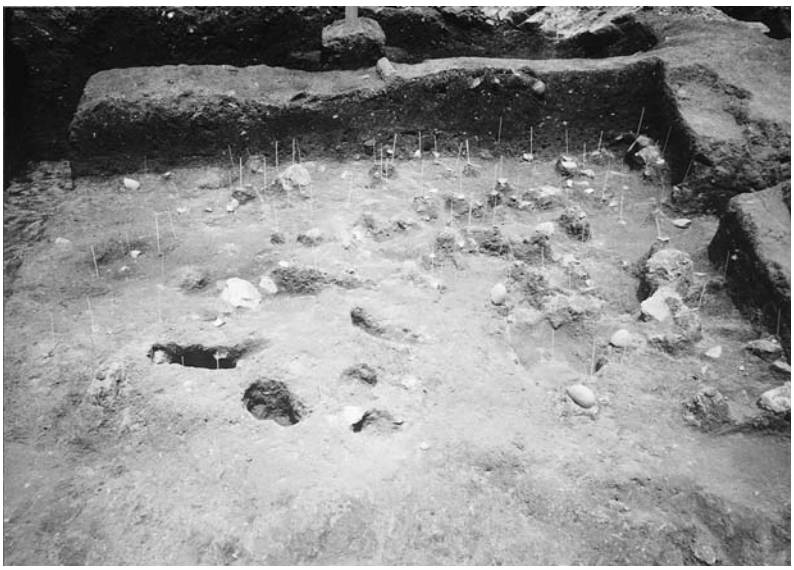


Fig. 57　1号岩陰Ⅷ層遺物出土状況（S＝1/100）



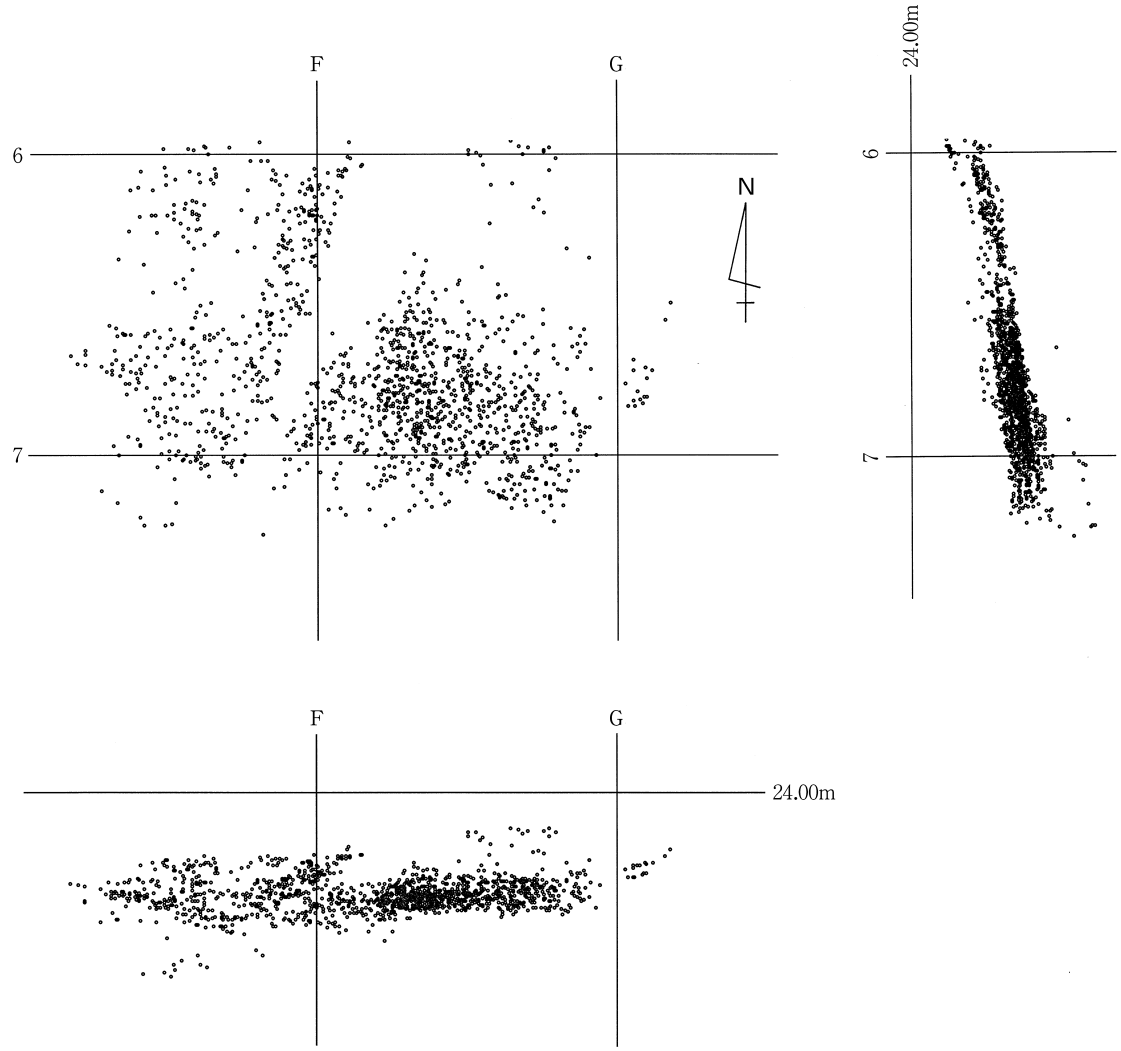
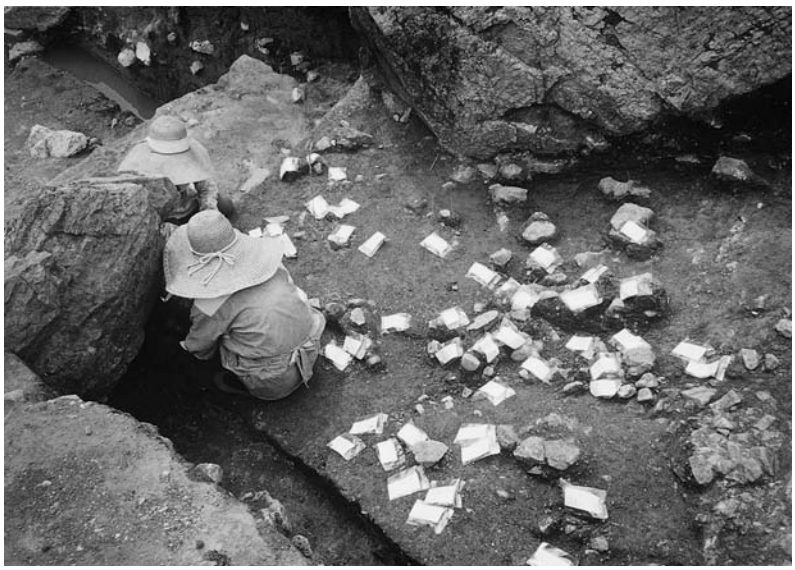


Fig. 58　1号岩陰南Ⅷ層遺物出土状況（S＝1/100）



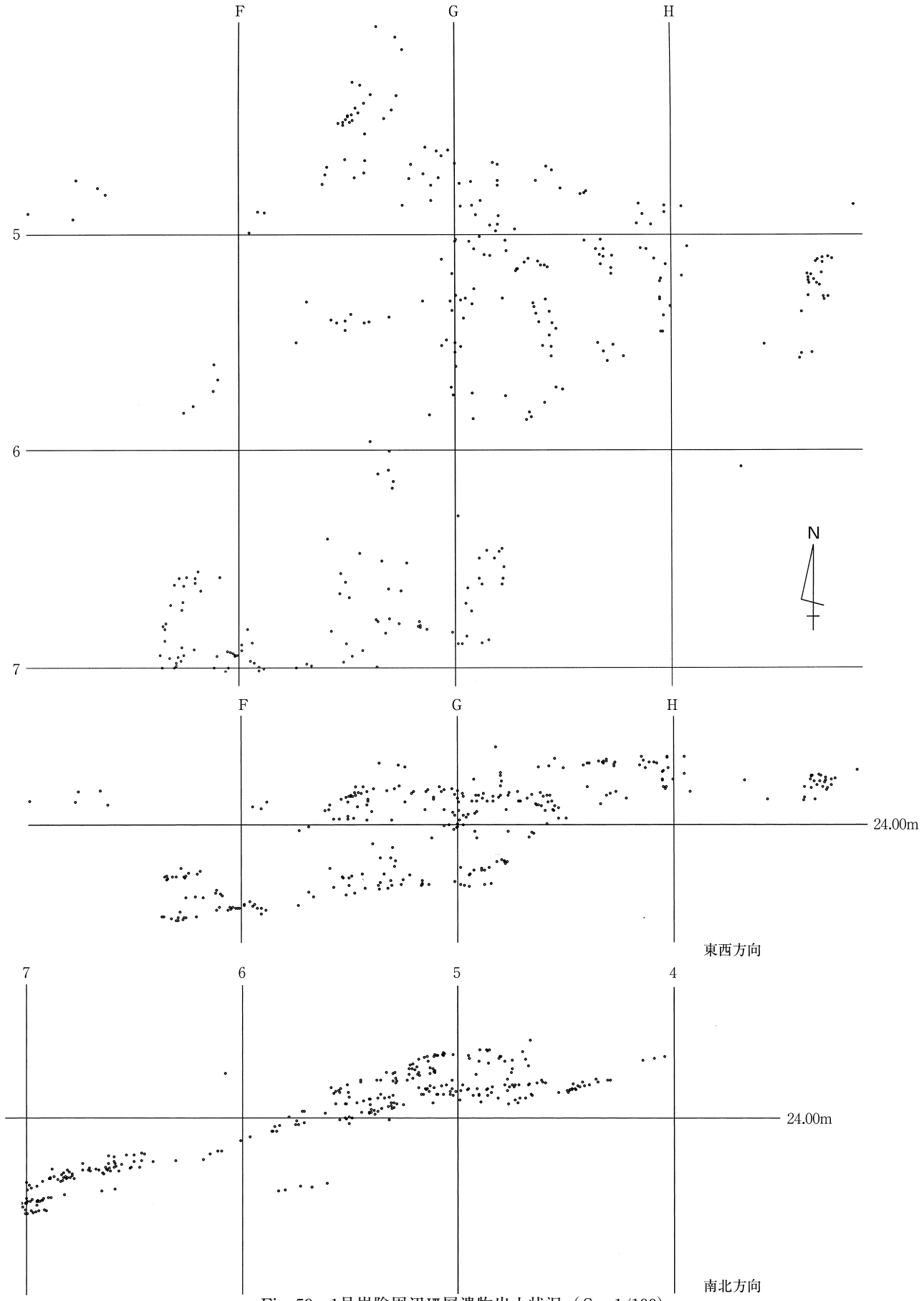


Fig. 59　1号岩陰周辺Ⅶ層遺物出土状況（S＝1/100）

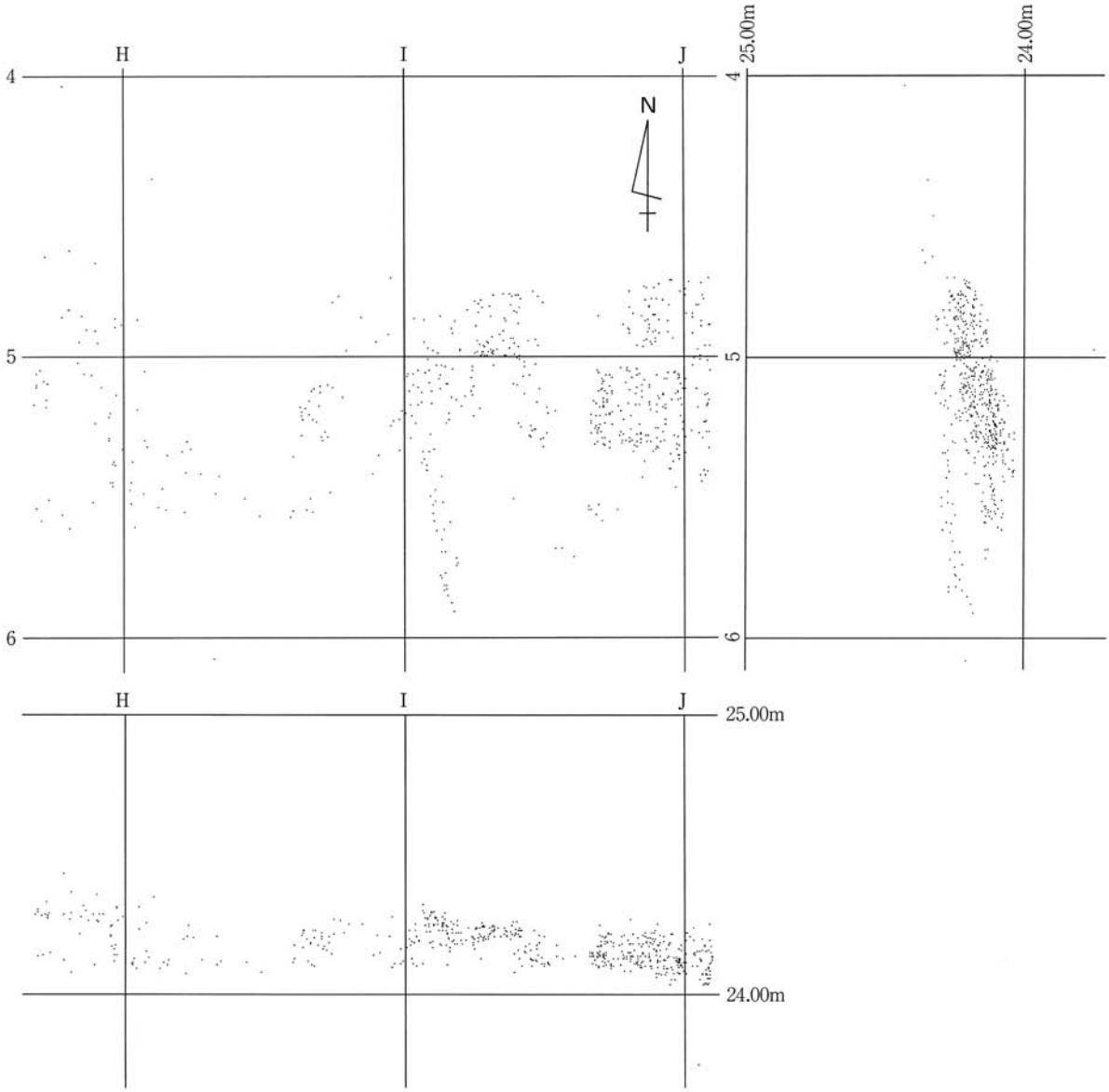


Fig. 60　1・2号岩陰中間地点遺物出土状況（S＝1/100）

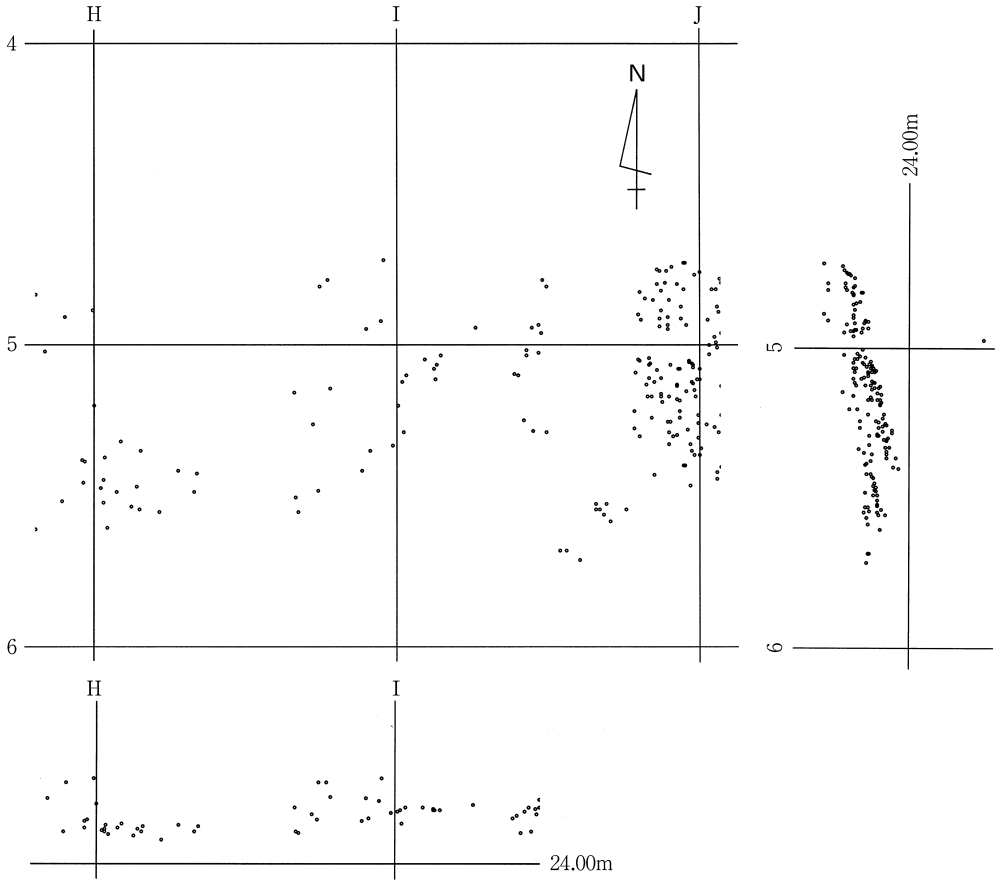


Fig. 61　1・2号岩陰中間地点Ⅷ層遺物出土状況（S＝1/100）

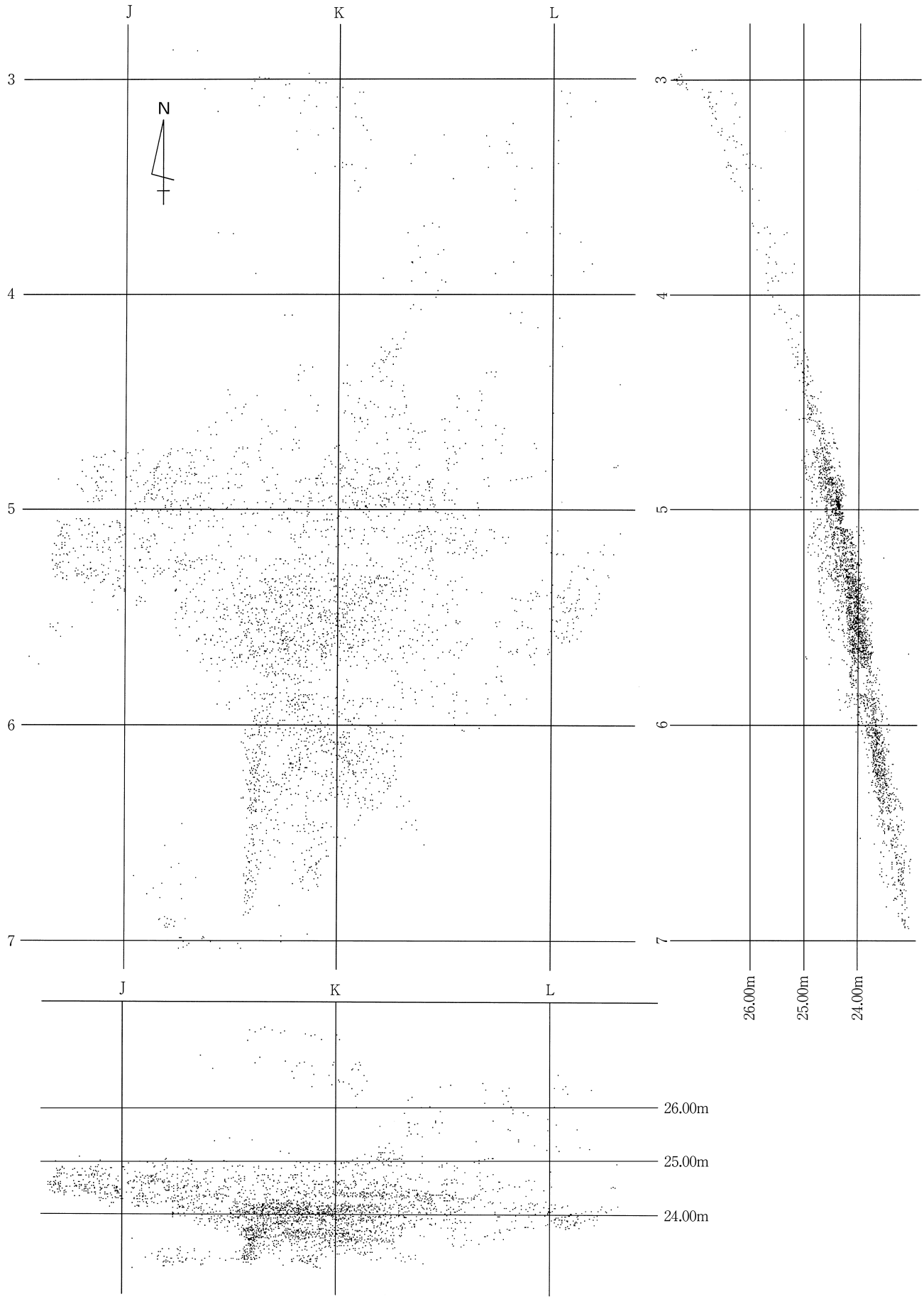


Fig. 62　2号岩陰周辺遺物出土状況（S＝1/100）

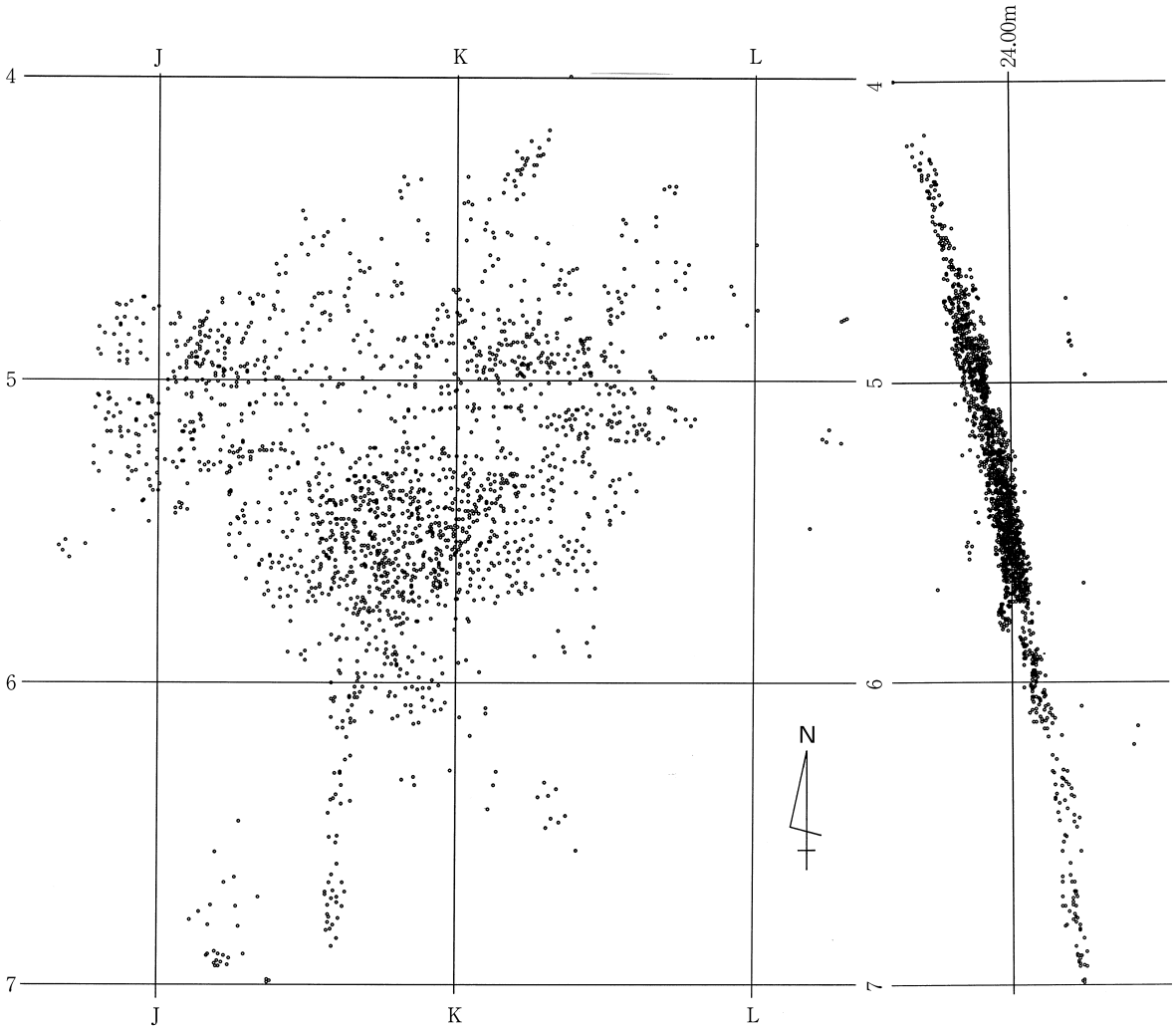


Fig. 63　2号岩陰Ⅷ層遺物出土状況（S＝1/100）

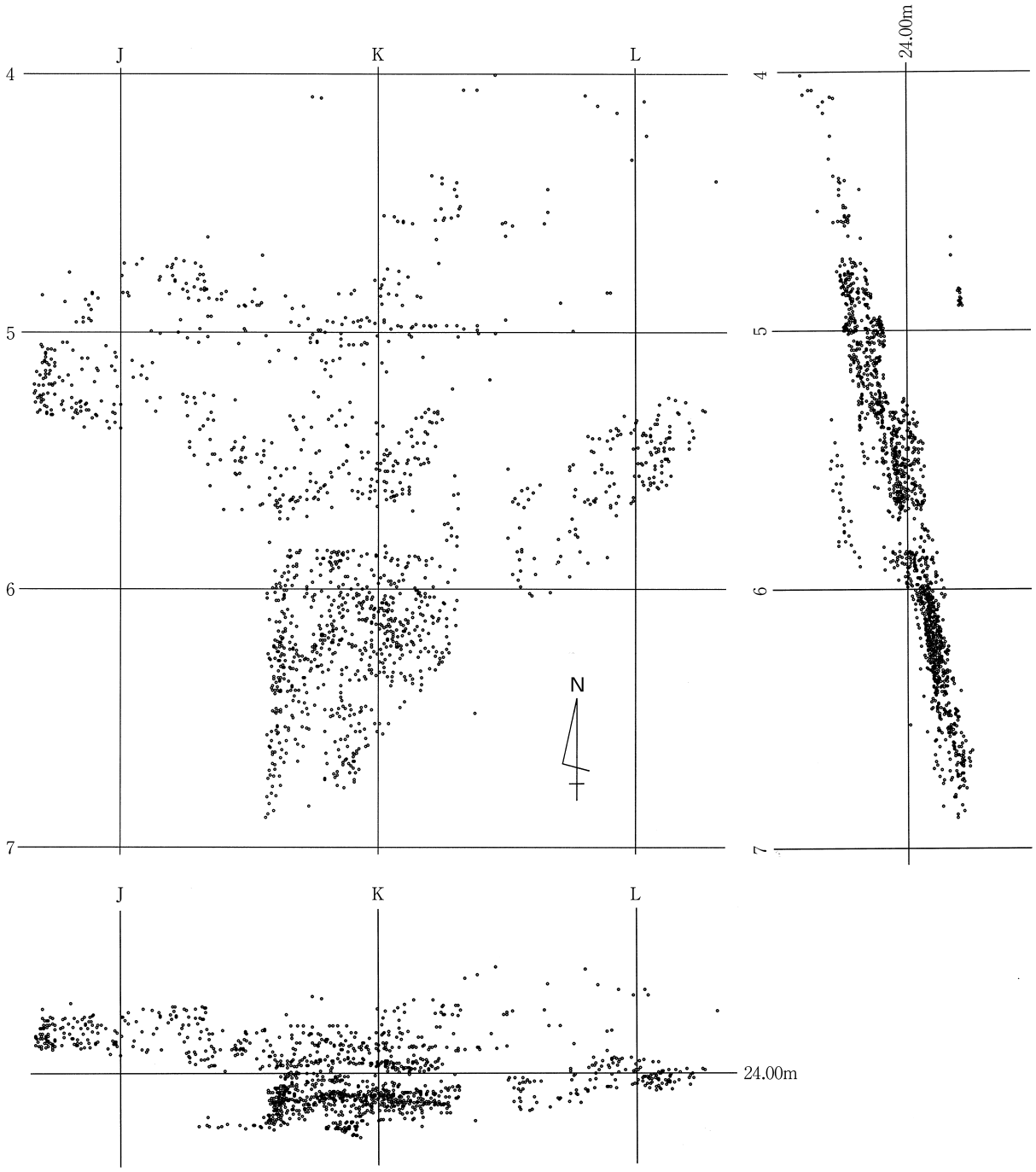


Fig. 64　2号岩陰Ⅶ層遺物出土状況（S＝1/100）

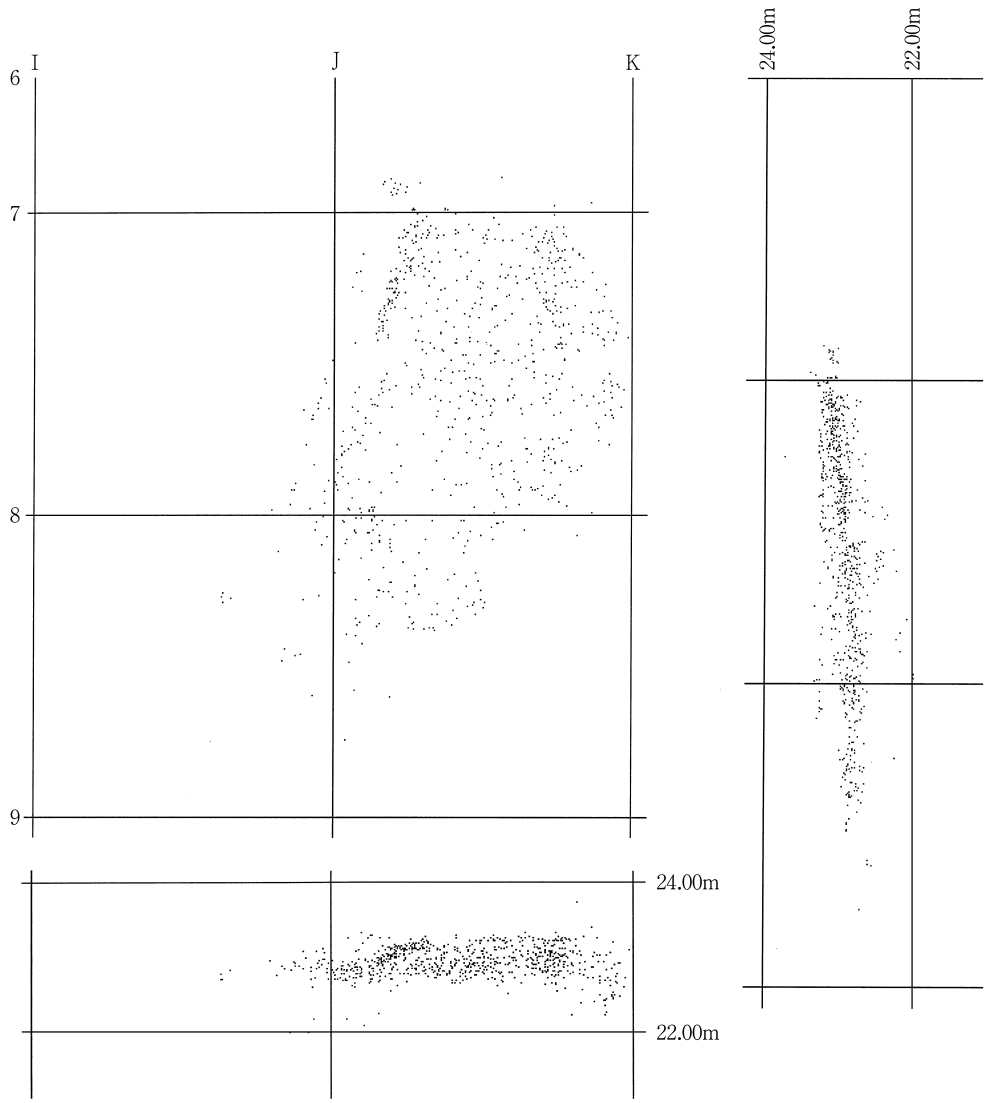


Fig. 65　2号岩陰南地点遺物出土状況（S＝1/100）

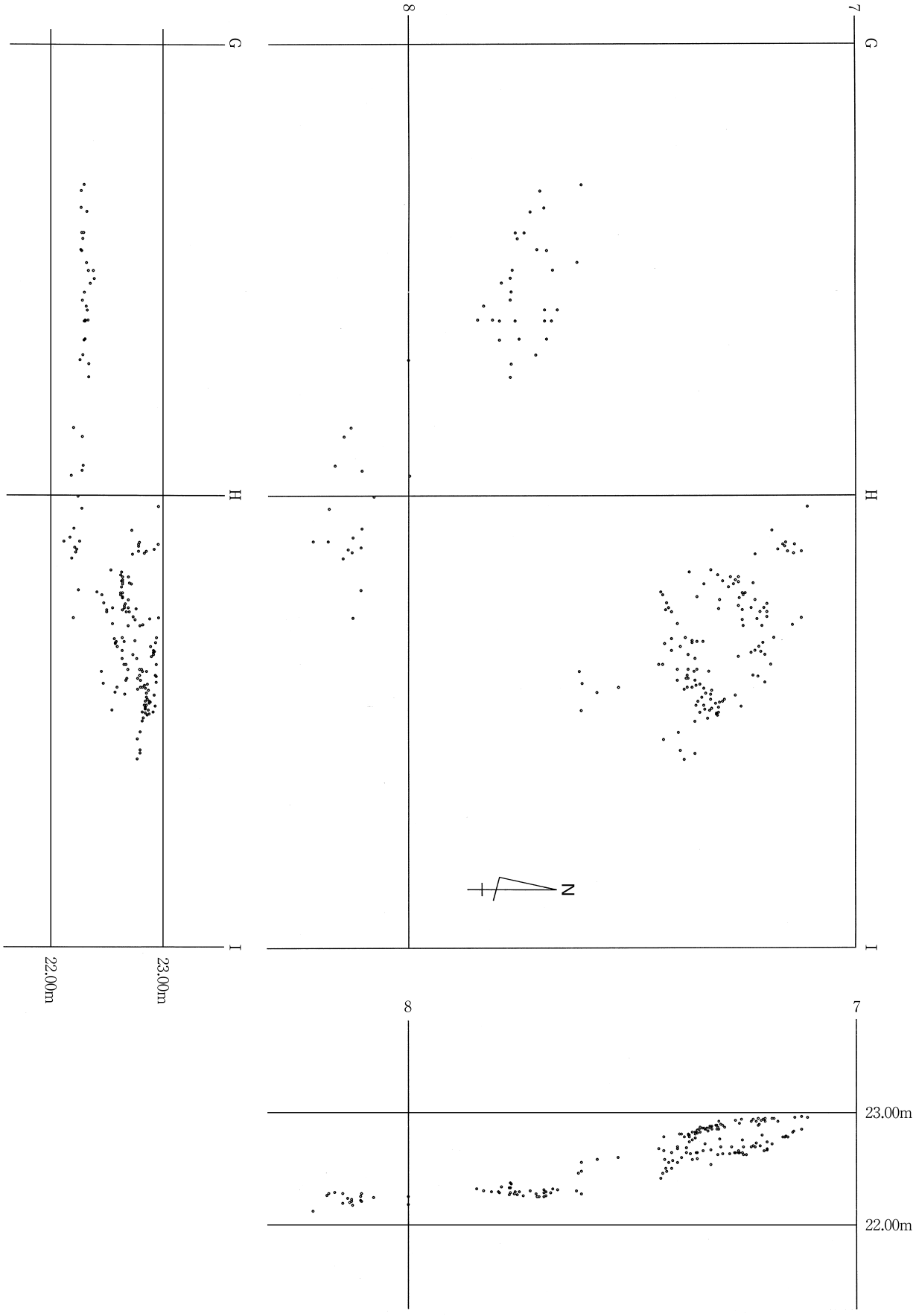


Fig. 66　SX101及び周辺（ES-Ⅰ層）遺物出土状況（S＝1/50）

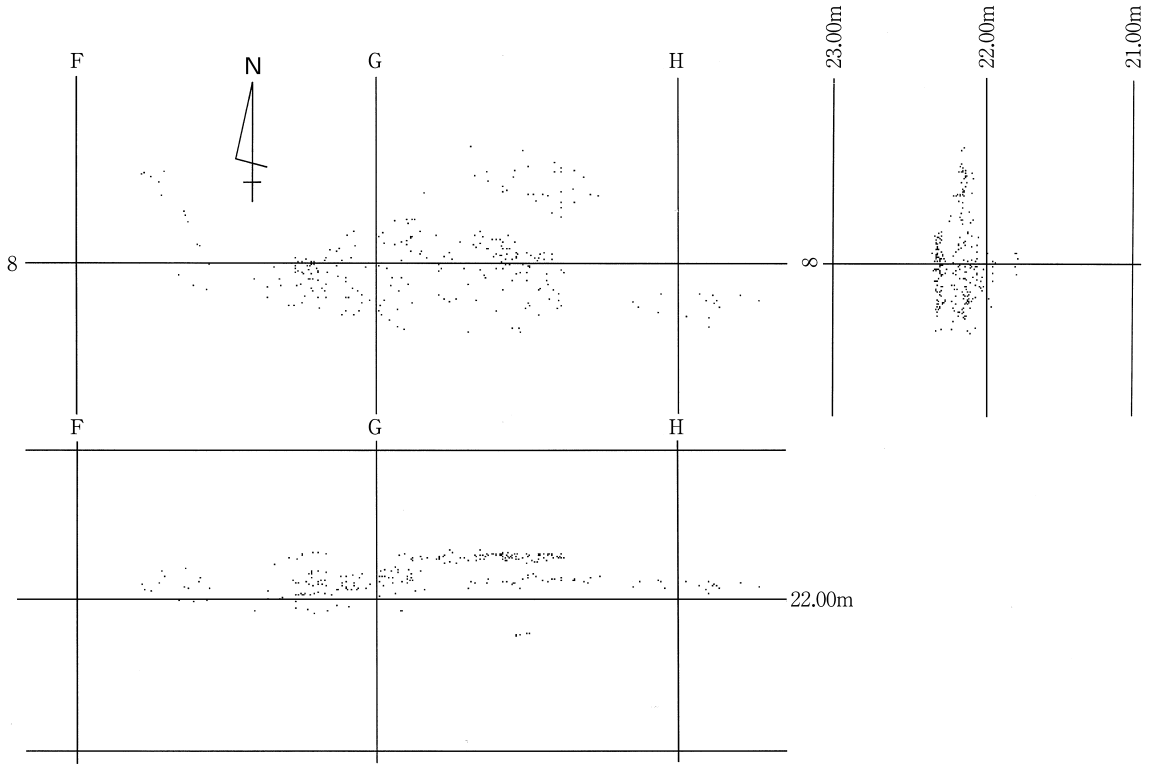
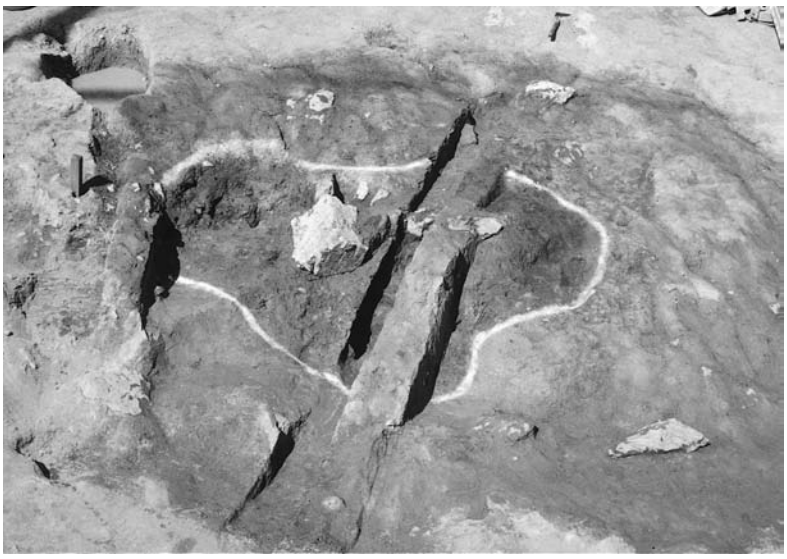


Fig. 67　グリットG-7 南地点（F -7・8，G-7・8）遺物出土状況（S =1/100）

遺物集中地点7（グリッドG-7南地点）

1号岩陰の南側に位置するチャート岩塊R-26の南東側の遺物集中部で、測量杭G-8周辺にまとまっており、石器類だけではなく、土器もまとまって出土している。いくつかの時期の資料を含むが、縄文時代早期後半の土器が多い。１号岩陰、2号岩陰いずれの堆積状況とも異なっており、G-Ⅰ～Ⅳ層として遺物の取り上げを行った。斜面上方からの流れ込みによる堆積だと考えられる。SX101周辺の黒褐色土よりも上層となる。



SX101　検出状況

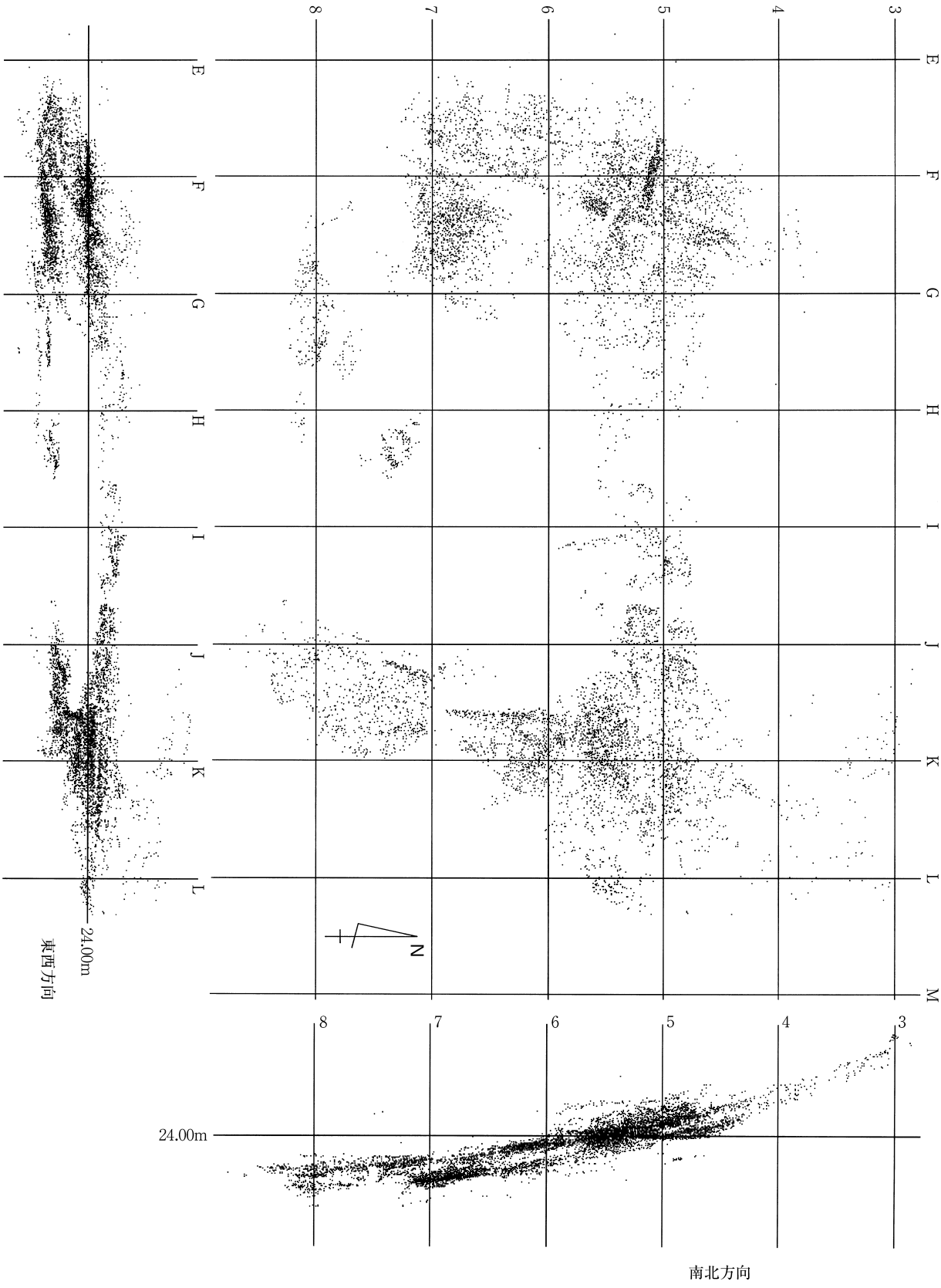


Fig. 68　奥谷南遺跡岩陰周辺全域・全層位遺物出土状況（S＝1/200）

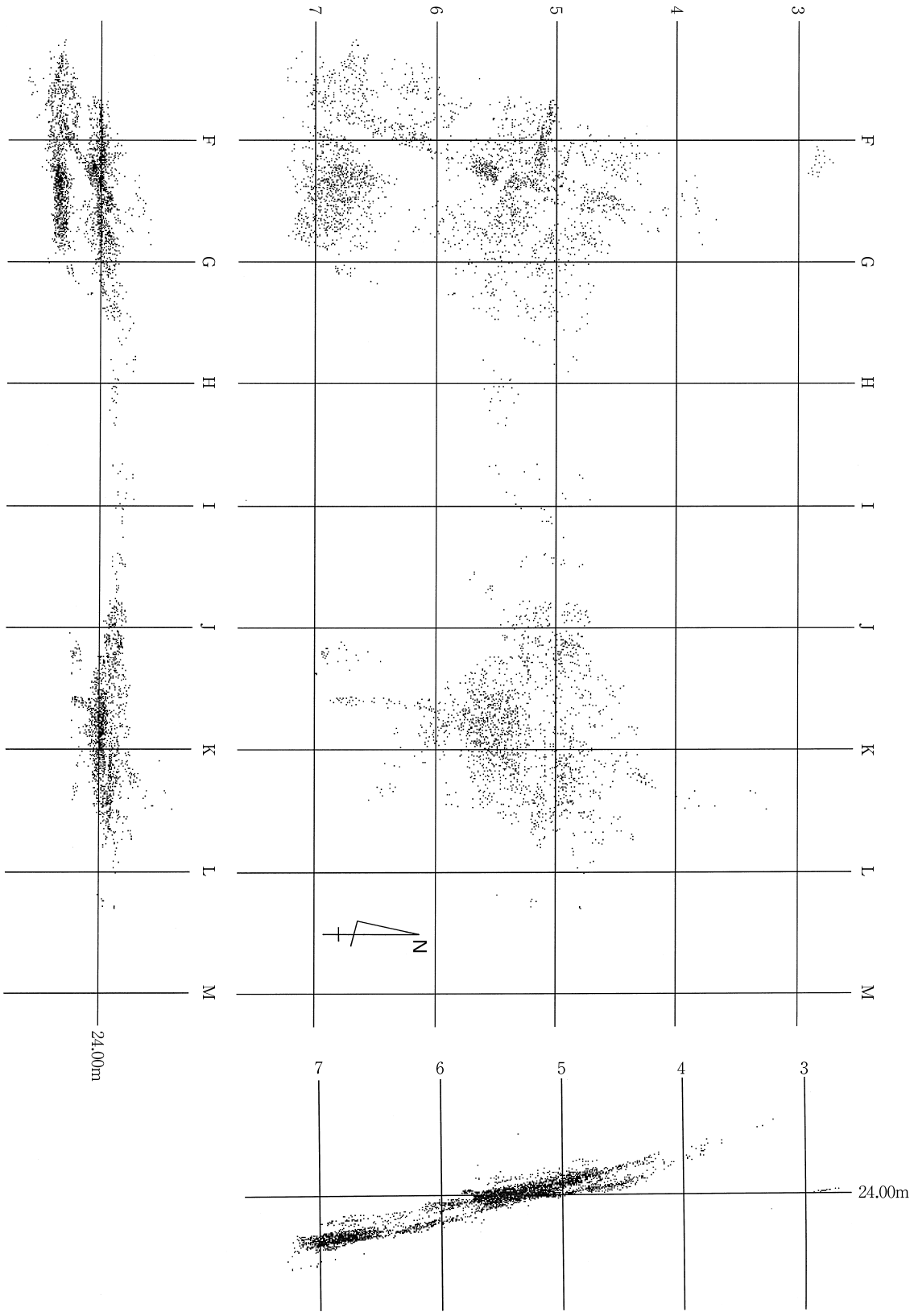


Fig. 69　奥谷南遺跡岩陰周辺全域Ⅷ層遺物出土状況（S＝1/200）

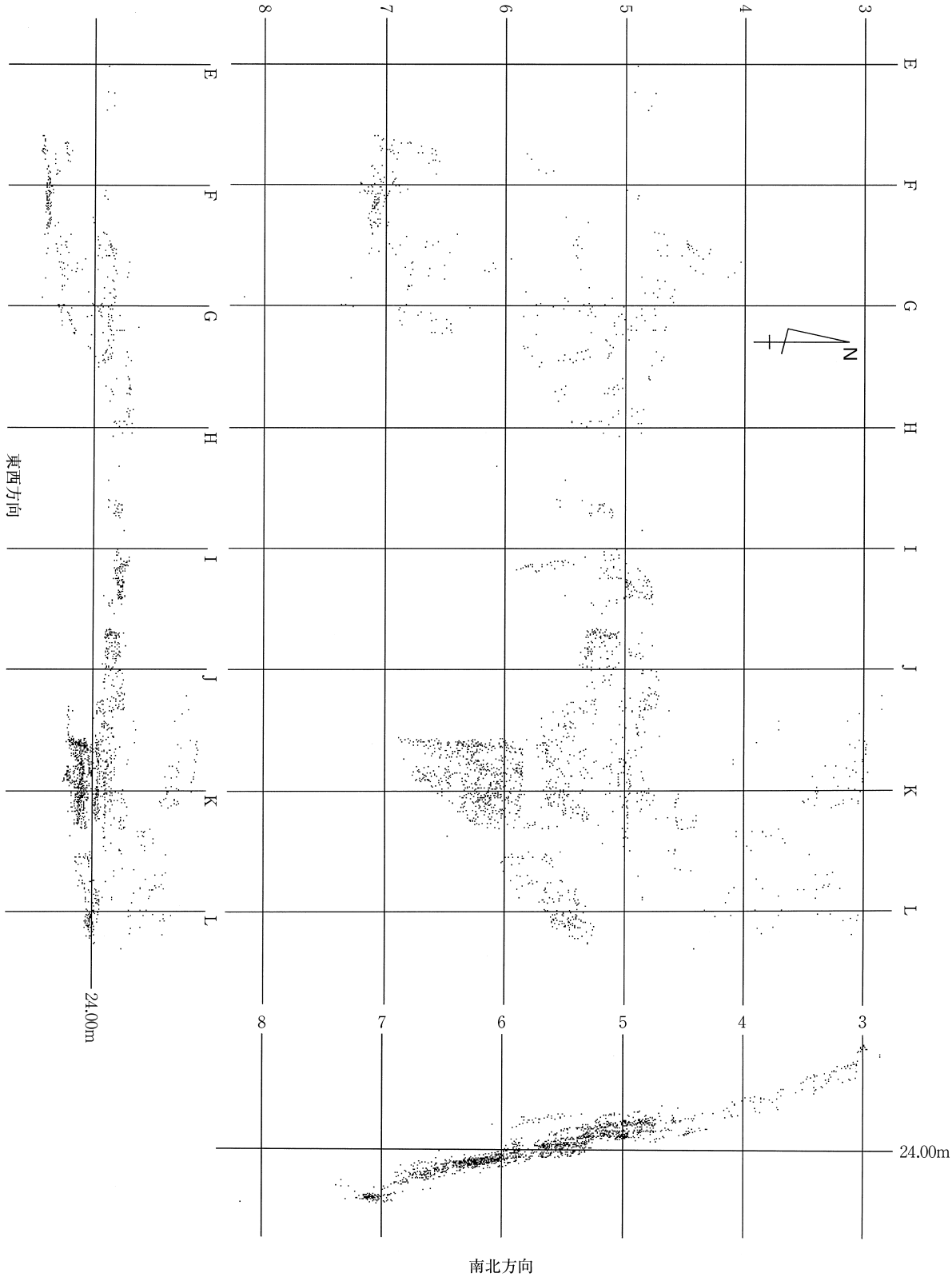


Fig. 70　奥谷南遺跡岩陰周辺全域Ⅶ層遺物出土状況（S＝1/200）

第4節　旧石器時代～縄文時代の遺構と遺物

旧石器時代と縄文時代の遺物のついては、項目を分けて記述すべきであるが、ここでは「第４節 旧石器時代～縄文時代の遺構と遺物」として同じ項で取り扱う。第４節では「旧石器時代の遺構と遺物」「縄文時代の遺構と遺物」「包含層出土遺物」の３つに分けて記述を進めるが、旧石器時代の遺構については遺構埋土がⅧ-a層に相当するものおよびⅧ層の調査後に検出されたものを対象とし、縄文時代の遺構については遺構埋土がⅦ層の黒褐色土に相当するものを対象とする。包含層出土の遺物については、器種から所属時期が明らかな遺物はあるものの、使用痕のある剥片・2次加工のある剥片など時期の特定の困難な遺物も多い。

火山灰による堆積土の給源となる火山を持たない南四国では、アカホヤ・ＡＴなどの広域降下火山灰を除くと、新たに堆積する土は相対的に標高の高い地点が侵食された土か、河川によって上流から運ばれた土に限定される。新しい時期に堆積する層は、それ以前の時期に堆積した層の土を母材とするわけであり、当然標高の高い位置に埋積されたより古い時代の資料が、侵食→堆積により下方の資料と混在するケースは多い。いずれの遺跡においても、ある程度はこの条件が当てはまり、出土遺物の評価についても若干量のより古い時期の遺物の混入は勘案されるのだが、当遺跡の場合、目印になる岩陰の存在・石器原材であるチャートの存在など、いくつもの条件が重なり同一地点が度重なる時期に亘って利用されたため、異なる時期の遺物混在の度合いがより大きい。一例を挙げるならば、58点出土しているナイフ形石器の中で、使用されたであろう時期の堆積層から出土したものは5点にすぎず、24点は細石刃核が最も集中するⅧ-a・Ⅷ-b層から、21点は縄文早期の土器の出土するⅦ層から、残りの8点はⅦ層よりも新しい時期に堆積した層からの出土である。

以上のような理由により、今回の岩陰周辺の調査では遺物が層位的に出土しているとはいえ、特定の層から出土する遺物が、その遺物が堆積した時期の文化の内容をそのまま示しているとは限らない。

旧石器時代と縄文時代、あるいは同じ旧石器時代においても異なる時期の資料が同一層準中に混在し、スクレイパー類など形態だけで判別困難な資料については、出土層位自体では旧石器・縄文の違いは提示できない。

また岩陰が、生活スペースとして利用されていたのは、広い意味では現代にいたるまでそうなのではあるが、生業（チャートを材料とする石器づくり）や住居（岩陰を居住域の一部として利用した可能性のある時期）を考えた場合、旧石器時代あるいは縄文時代とそれ以降とでは、岩陰に対するアプローチが全く異なるものと考えられる。それゆえに、旧石器時代～縄文時代という項目を設けて、異なる時代・時期ではあるが叙述を一緒に進めることとする。

器種が特定可能な遺物について、ここでは遺物がどの地点から出土しどの層位から出土したのかについて明らかに示すこととし、地点別・層別に分ける。器種別に提示可能な資料については、

器種→層位→地点の順で示すこととする。

1. 遺構

A. 旧石器時代

旧石器時代の遺構としてピットおよび焼土を含む遺構がある。対象となる遺構は、遺構埋土がⅧ-a層に相当する褐色土であるか、あるいはⅧ層（Ⅷ-a層およびⅧ-b層）の調査後、黄褐色土（Ⅹ～Ⅻ層）の上面で検出した遺構であるかのいずれかである。これらの遺構を旧石器時代だとした根拠はⅧ層中に細石刃、細石刃核を中心とする細石刃文化期の遺物が集中して確認されたことによる。これらの遺物が縄文時代草創期のものであれば、Ⅶ層および遺構の所属年代も縄文時代だということになるが、現段階では旧石器時代の資料だととらえており、旧石器時代の遺構として取り扱う。

Fig.71が旧石器時代遺構の全体図である。焼土の検出地点は1号岩陰周辺に限定され、ピットは1号岩陰の焼土検出地点の周辺と2号岩陰の緩斜面から地形変換点の周辺に分布している。

（1）焼土集中遺構（SX001～014）

焼土の検出された地点（SX001～014）は14ヶ所あり、Ⅷ層の調査終了後、Ⅸ層の存在しない地点でⅩ層の上面に検出された。明確な土坑の形態をとるものはなく、しっかりとした掘り込みが認められる遺構はSX006とSX010のみで、それ以外の遺構は焼土が薄く染み状に広がる様相で、いずれの遺構においても焼土の厚さは1㎝に達しない。SX006・SX010も掘り込みはあるものの焼土が検出されたのは遺構上面のみで、他の遺構と焼土の様相については同様である。

平面形状の特徴から、これらの焼土遺構は全面に焼土が拡がるものと2～5㎝程度の幅で焼土が周状に巡る形状をとるものとの2つに分類できる。前者はSX001・002・003・004・006・007・010・012・013の9箇所であり、後者はSX005・008・009・011・014の5箇所である。

焼土検出遺構の位置はFig.72に示したとおりだが、SX003・SX005・SX011・SX012・SX013などが分断された形になっているのは、先行トレンチ（TR3など）での調査段階では検出できなかったためである。

今回の調査では、被熱により赤変した礫が各層から検出されたが、被熱礫の分布状況も、これらの焼土検出遺構の分布と重なる。より下層から検出される砂岩礫に被熱礫を含む割合が高い。

なお焼土検出地点については、どれだけの温度にまで達する燃焼が行われたのか知るために、いくつかの地点を選んでサンプリングした赤変粘土の鉱物に関する分析を（株）パリノ・サーヴェイに依頼した。その結果、分析サンプル中に緑泥石が残存することから被熱温度は550℃以下であることがわかった。これらの赤変粘土の周囲で燃焼行為が行われたのは確かなのだが、燃焼温度は550℃までと比較的低温である。後述するが、縄文時代草創期の遺構（SX101）に近接したピット（P101）の赤変粘土の推定温度が550～750℃であるのと較べ低温であることがわかる。

Fig. 71　旧石器時代遺構平面全体図

SX001

F-6南のR-26北側に位置する。長軸32㎝短軸18㎝で、平面形は東西方向に細長い楕円形である。最深部で約4㎝の深さを持つが、掘り込みは明瞭ではない。遺構東端から赤変した砂岩被熱礫が検出されている。Ⅹ層である黄褐色土上面で検出した。検出面標高は22.6m。埋土の最上層は赤褐色だが、焼土層は薄く１㎝以下である。

SX002

F-6南のR-26北側に位置する。直径約30㎝で、平面形は不整円形である。焼土が検出されたものの遺構の掘り方は確認できず、厚さ１㎝以下の焼土層のみ。Ⅹ層である黄褐色土上面で検出した。検出面標高は22.6m。

SX003

F-6南のR-26北側に位置する。遺構の西端はトレンチのため確認できない。長軸60㎝以上、短軸30㎝で、平面形は東西方向に細長い楕円形である。軸方向はN-27°-E。焼土のみの検出である。検出段階で焼土であることは確認できたものの、厚さはほとんどなく、5㎜以下の薄さであった。検出面標高は22.6m。

SX004

E-6南西端のTR-3西バンク上に位置する。遺構上面には砂岩被熱礫が検出された。長軸90㎝短軸30～42㎝で、平面形は南北方向に細長い不整楕円形である。Ⅹ層である黄褐色土上面で検出した。検出面標高は22.4～22.6mで、南側の下がる緩傾斜地に立地する。

SX005

E-6南西端のTR-3西バンク上に位置する。Ⅹ層である黄褐色土上面で、幅6～10㎝で被熱による赤変部分が帯状に検出された。その赤変帯が周状に巡る。周の直径は1m20㎝から1m60㎝程度で、円形ではなく楕円形であったと考えられるが、トレンチのため全貌は明らかではない。検出面標高は22.4～22.6mで、南側の下がる緩傾斜地に立地する。赤変部分は5㎜以下であり、ほとんど厚みを持たない。

SX006

E-6南端（E-6-S）に位置する。検出面が被熱により赤変、掘り方は深さ4㎝、遺構の西端に15㎝の深さの落ち込み部がある。東西64㎝、南北40㎝以上の規模を持ち、平面形は不整形、赤変部の厚さは１㎝以下である。

SX007

E-6南端（E-6-S）に位置する。検出面が被熱により赤変しているが、わずかに被熱するのみ

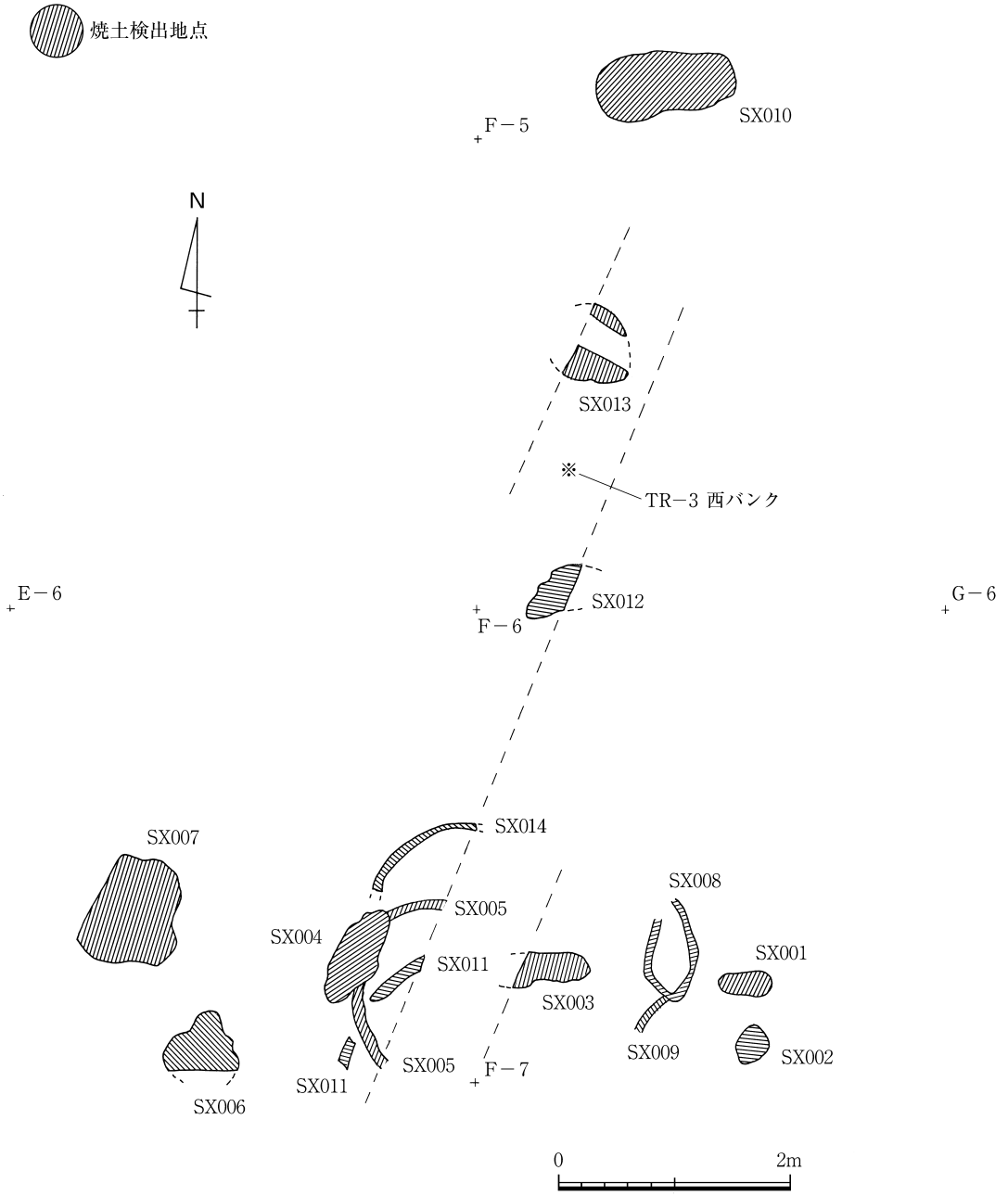


Fig. 72　焼土検出地点－Ⅹ層上面・旧石器時代－

検出された焼土遺構（F－6）

SX001　検出状況

である。22.5mから22.6mにかけて検出され、わずかに傾斜した地形に立地する。南北方向約１m、東西方向80㎝以上の不整形に広がる。

SX008

F-6南のR-26北側に位置する。X層である黄褐色土上面で、幅3～6㎝で被熱による赤変部分が帯状に検出された。周状に巡る赤変帯の周は楕円形であり、長軸96㎝、短軸45㎝の範囲に広がる。検出面標高は22.5～22.6mで、南側の下がる緩傾斜地に立地する。赤変部分は5㎜以下であり、ほとんど厚みを持たない。焼土は薄く、厚さ5㎜以下とほとんど厚みを持たない。

SX009

F-6南のR-26北側に位置する。幅3～4㎝の赤変被熱帯だが、総延長36㎝ほどが検出されたのみで、全貌はわからない。SX008に接する。

SX010

F-4の南西端に位置する。長軸120㎝、短軸54㎝の薄い土坑状の遺構だが、掘り方はわずかに確認できる程度の浅さで、遺構埋土上面は赤変した粘土層である。遺構の深さは3～４㎝程度で、西側がわずかに高くなり東側に向かって2段になっているが、わずかな段差があるのみである。検出

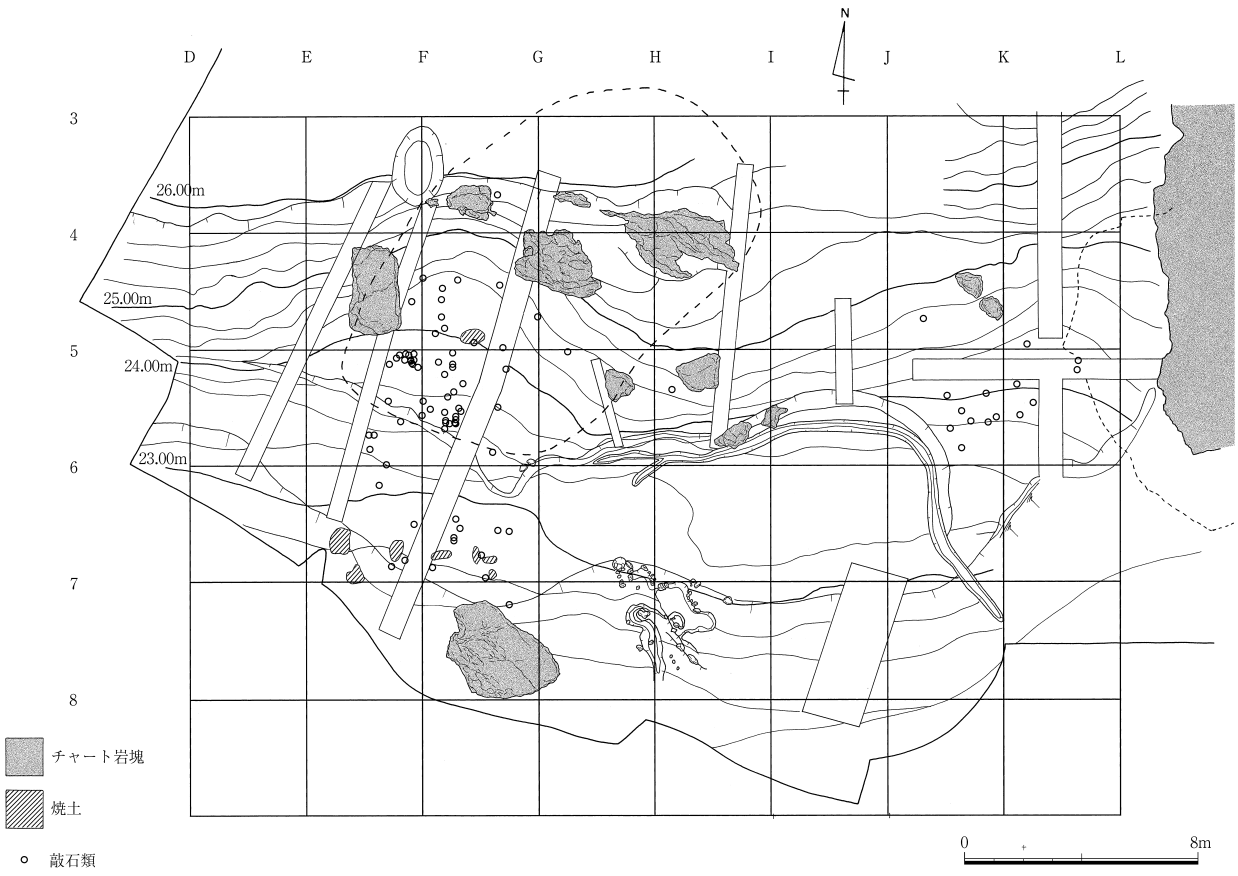


Fig. 73　敲石類の出土状況（X・Ⅸ・Ⅷ-a・Ⅷ-b）

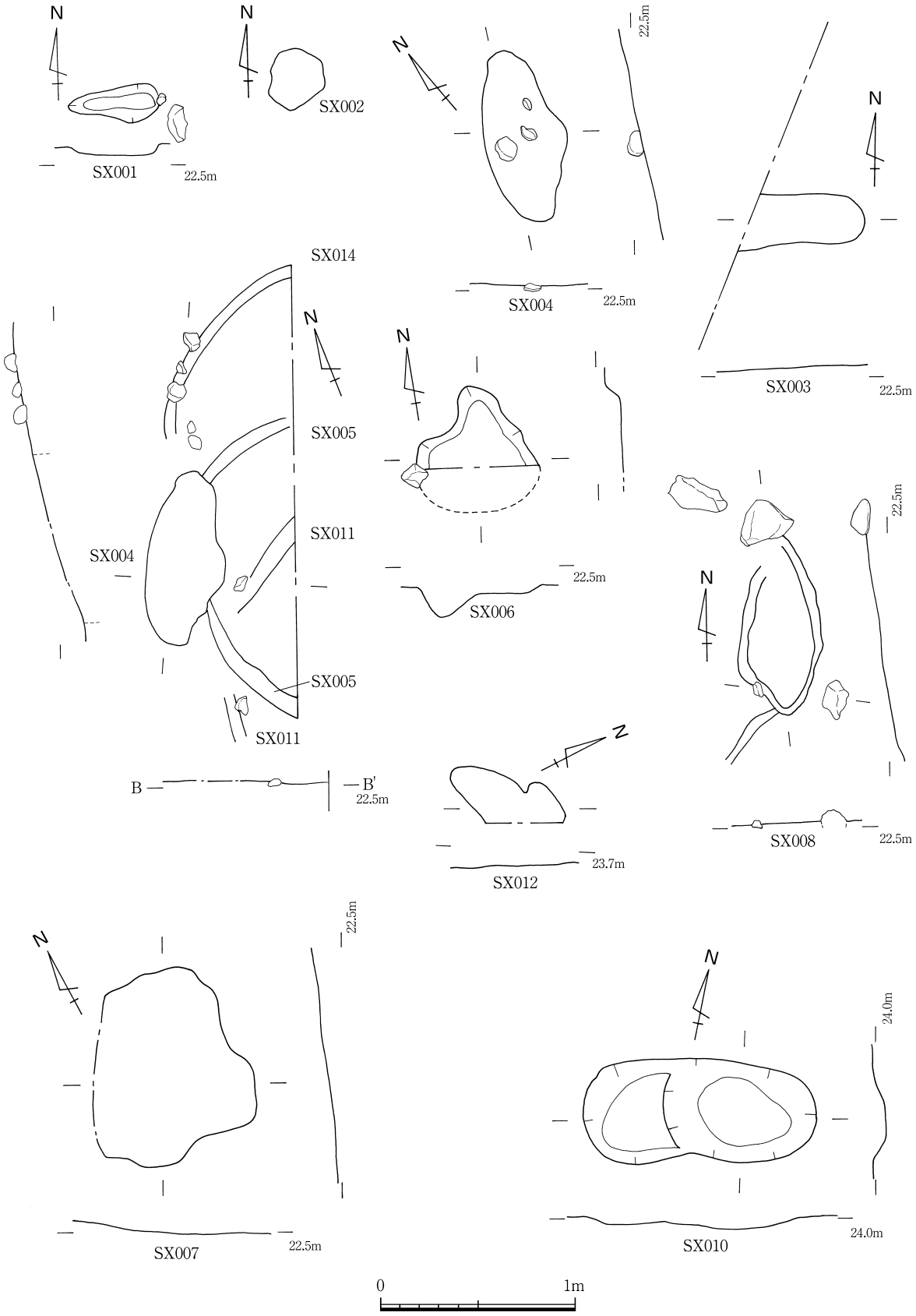


Fig. 74　遺構平面・エレベーション図（SX001～010）

面標高は22.4ｍである。石器剥片類、敲石等が出土し、出土遺物の中で敲石についてはFig.75に示した。砂岩製の敲石で、比較的きめの粗い砂粒の砂岩を使用している。破損しているが、ごろっとしたコロッケ状の原石を選択し、側縁にあたる端部と角を使用した石器製作用のハンマーである。敲石以外の出土遺物はすべてチャート剥片である。

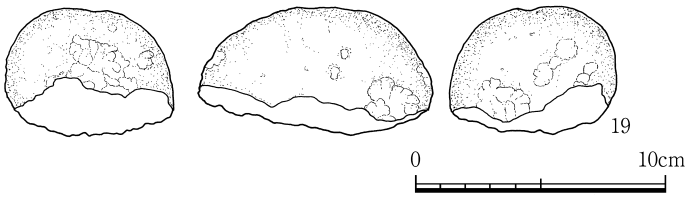


Fig. 75　SX010出土遺物

SX011

E-6南西端のTR-3西バンク上に位置する。Ｘ層である黄褐色土上面で、幅6～10㎝で被熱による赤変部分が帯状に検出された。検出延長は1m20㎝、SX005と切り合い関係があり、SX005に先行する。平面形状不明。検出面標高は22.4～22.6mで、南側の下がる緩傾斜地に立地する。赤変部分は5㎜以下であり、ほとんど厚みを持たない。

SX012

F-6杭の東隣のTR-3西バンク上で検出された。赤変被熱部の広がりを持つ遺構だが、トレンチのため全貌は不明である。長軸60㎝以上、短軸36㎝で、検出面標高は23.6mである。

SX013

F-5のTR-3西バンク上で検出された。被熱による赤変部が円形に広がる遺構だと考えられるが、トレンチのため全貌は不明。被熱粘土は直径60～70㎝の範囲に広がっていると予想される。

SX014

E-6南西端のTR-3西バンク上に位置する。Ｘ層である黄褐色土上面で、幅4～6㎝で被熱による赤変部分が帯状に検出された。検出した赤変帯の延長は90㎝であり、平面形状等全貌はわからない。

(2) ピット（Ｐ001～031）

Ⅷ層を除去した後Ｘ層上面で検出した遺構の中で、Ⅷ-a層を埋土とするものについて旧石器時代の遺構としたのだが、後世の削平等により失われた部分も多く、建物跡等の復元が可能なものを抽出することはできなかった。これらのピットは1号岩陰の焼土検出遺構の集中する地点と2号岩陰の斜面の傾斜が緩やかになる地点にまとまって確認されている。

平面形状（ピットの平面形及び規模）とエレベーションについてはFig.76・77に示した。遺構検出面標高と底面標高を示したのがTab.6である。エレベーション図からもわかるとおり、掘り込みのしっかりしたピットは少なく、検出面と遺構底面との比高差が30㎝以上に達するものはP009だけで、大多数の遺構が数㎝から10㎝内外の深さしかない。大地に痕跡を残しているものの、上部構造が推定できる建物、あるいは柵列状に並ぶピットなど性格の推定可能なものはない。

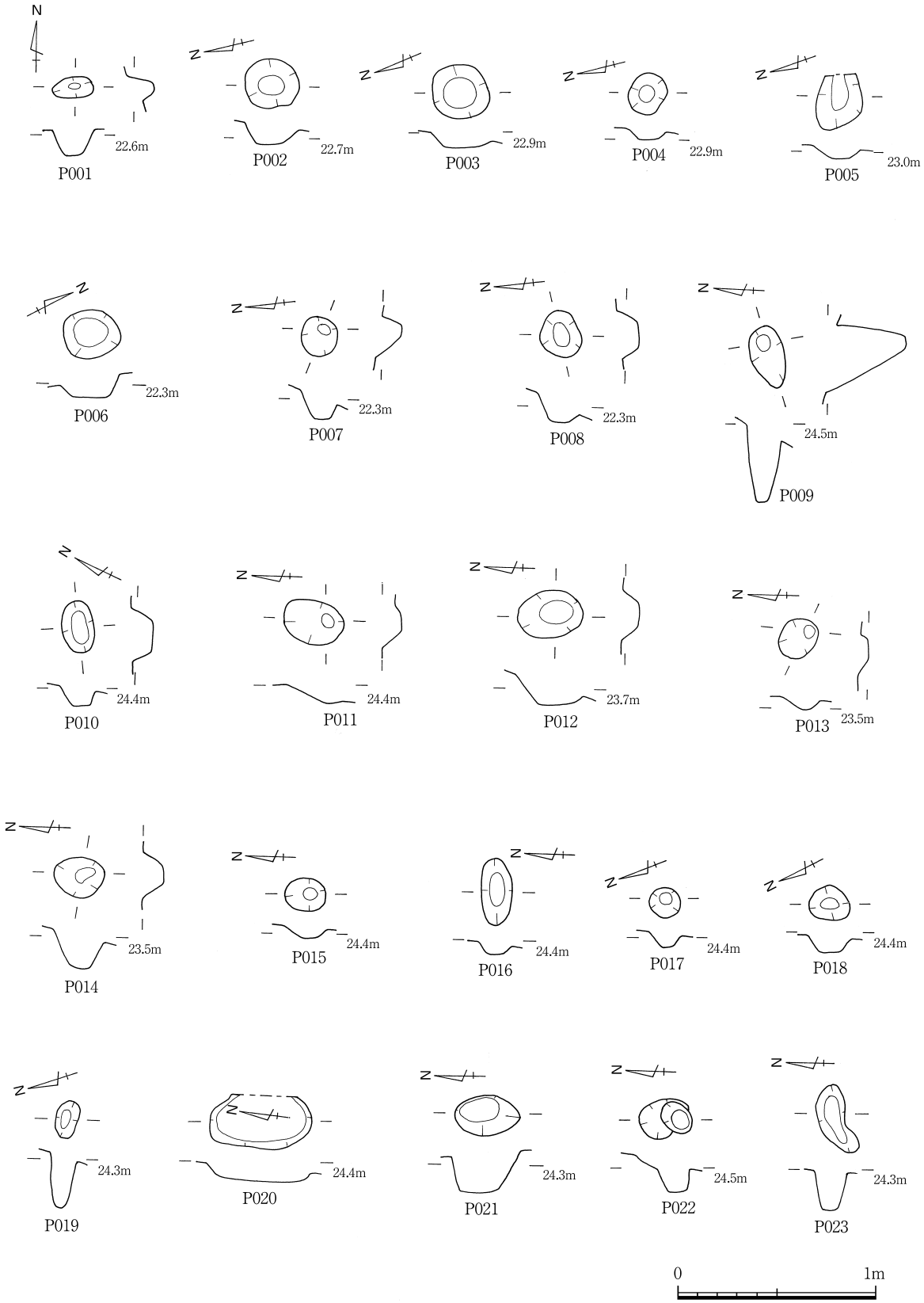


Fig. 76　遺構平面・エレベーション図－P001～023－

Tab. 6　旧石器時代のピット　検出面及び遺構底面の標高

遺構名	検出面の標高 (m)	遺構底面の標高(m)	深さ(m)	遺構名	検出面の標高 (m)	遺構底面の標高(m)	深さ(m)
P001	22.592	22.485	0.107	P019	24.377	24.292	0.085
P002	23.016	22.945	0.071	P020	24.302	24.049	0.253
P003	22.950	22.901	0.049	P021	24.363	24.303	0.060
P004	22.873	22.823	0.050	P022	24.351	24.160	0.191
P005	22.757	22.676	0.081	P023	24.511	24.373	0.138
P006	22.650	22.540	0.110	P024	24.298	24.094	0.204
P007	22.625	22.529	0.096	P025	24.292	24.131	0.161
P008	22.320	22.201	0.119	P026	24.319	24.189	0.130
P009	22.325	22.225	0.100	P027	23.519	23.441	0.078
P010	24.460	24.109	0.351	P028	23.478	23.405	0.073
P011	24.406	24.311	0.095	P029	23.444	23.367	0.077
P012	24.346	24.308	0.038	P030	23.366	23.240	0.126
P013	23.713	23.635	0.078	P031	23.322	23.278	0.044
P014	23.557	23.496	0.061	P032	23.217	23.064	0.153
P015	23.501	23.399	0.102	P033	23.140	23.080	0.060
P016	24.432	24.379	0.053	P034	23.083	22.992	0.091
P017	24.375	24.324	0.051	P035	23.335	23.248	0.087
P018	24.421	24.354	0.067	P036	23.274	23.187	0.087

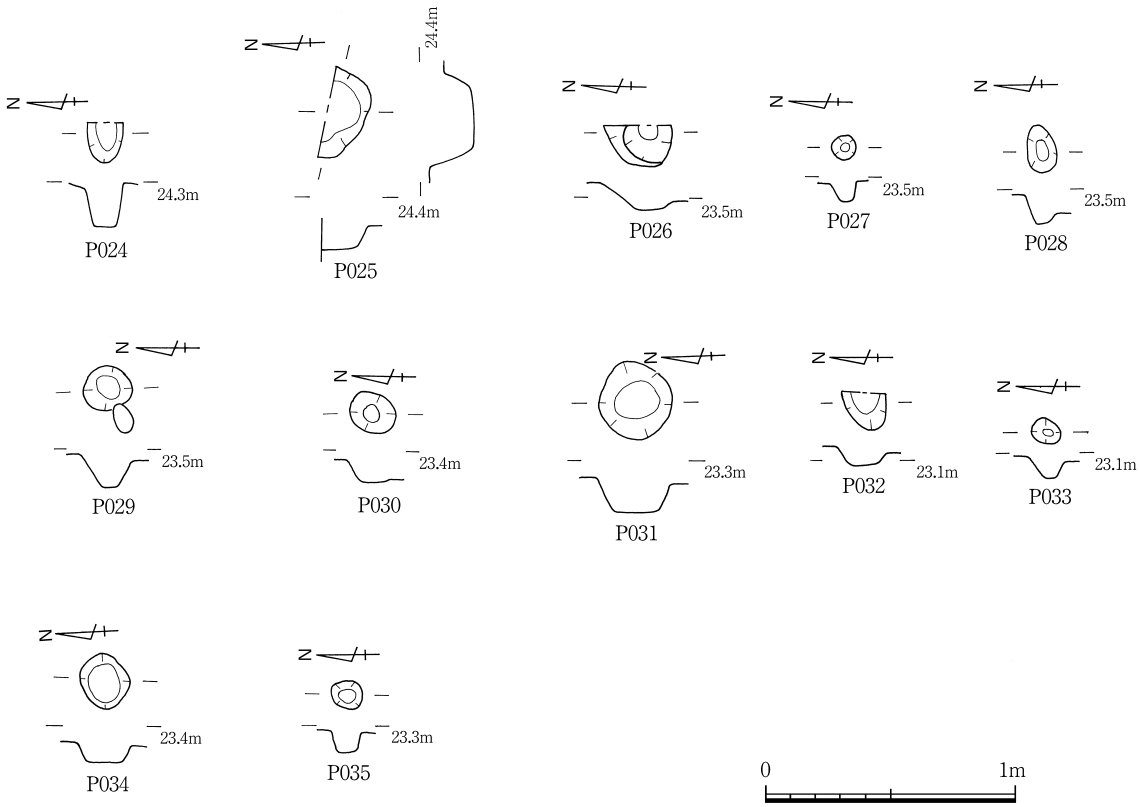


Fig. 77　遺構平面・エレベーション図－P024～035－

B. 縄文時代

縄文時代の遺構は、早期に形成されたと考えられるⅦ層の下層で検出した黒褐色土（Ⅶ層）を埋土とする遺構と縄文時代草創期に属するSX101周辺のⅦ層と直接の関連のみとめられない遺構とに分けられる。

Fig.78に示した遺構図が縄文時代の遺構の全体図で、個々の遺構の遺構番号はFig.78及びFig.87-①～③、Fig.88に示すP101～315、SX101、SK101～104である。遺構の中には直径の著しく小さい小ピットや残存状況の悪い遺構もあるが、自然の営為により形成された可能性のあるものも含めて、検出した遺構（ピット）については検出面標高・底面標高を計測値として載せることとした。（Tab.7参照、ピットの平面形状及び位置についてはFig.87・88参照）

グリッドH-7に位置するSX101とP101及びP102・103は埋土がⅦ層相当の黒褐色土ではない。他地点の遺構が検出面上層に黒褐色土層（Ⅶ層）の堆積が認められるのに対し、遺構の形成地点上層に全くⅦ層が認められなかった。遺構埋土も黒褐色～暗褐色を呈しているもののⅦ層とは異なっている。SX101と周辺の遺構については、Ⅶ層と関係なく出土遺物によって縄文時代の遺構とした。なお、遺構の上層及び周辺斜面からは調査地点（調査開始時点で調査区東南端にあたることから地点呼称ESを用いた）の呼称に由来するES-Ⅰ層（褐色粘質土）が検出されており、剥片等の石器がまとまって出土している。またP102・103は調査区南端に形成された遺構で、埋土はG-Ⅳ層、層中から縄文早期の土器が出土したことから、縄文時代の遺構とした。

Ⅶ層を埋土とするピット・土坑は１号岩陰から2号岩陰にかけての斜面から1号岩陰の南側の平坦部にかけて、粗密の差はあるもののⅦ層の残っているところ全域に分布している。Ⅶ層中からの出土遺物により、これらの遺構形成時期は縄文時代早期後半以前だと考えている。

（1）SX101およびグリッドH-7周辺の遺構

SX101（Fig.78～80・82～86）

遺構の立地と形状（Fig.79～83）

遺構が形成された地点は14°前後の傾斜を持つ緩斜面である。斜面の上方を掘り込んで削り出し、若干の凹凸はあるものの遺構底面は水平な面を意識した造りになっている。遺構の北東側・東側の斜面ほど残存状況が良好であり、斜面上方からの掘り方は深いところで36～40㎝ほどである。これに対して南側の壁は10～20㎝前後の残存状況となっている。

底面遺構は南西側に浅く広がるピット（SX101-P1）を、壁際の4箇所にピット（SX101-P2～P5）を持つ。P1が長軸64㎝短軸42㎝の楕円形の平面形状を示し、最深部でSX101の遺構底面から20㎝程度の深さの浅い皿状の土坑のように広がるピットであるのに対し、P2～P5は直径が12㎝から18㎝程度の小規模なもので、遺構底面からの掘り込みも4～6㎝程度の浅さである。

遺構検出時点からチャート礫は点在していたが、遺構完掘時点で検出したチャート礫の状況および周辺の遺構の様相はFig.82のとおりである。

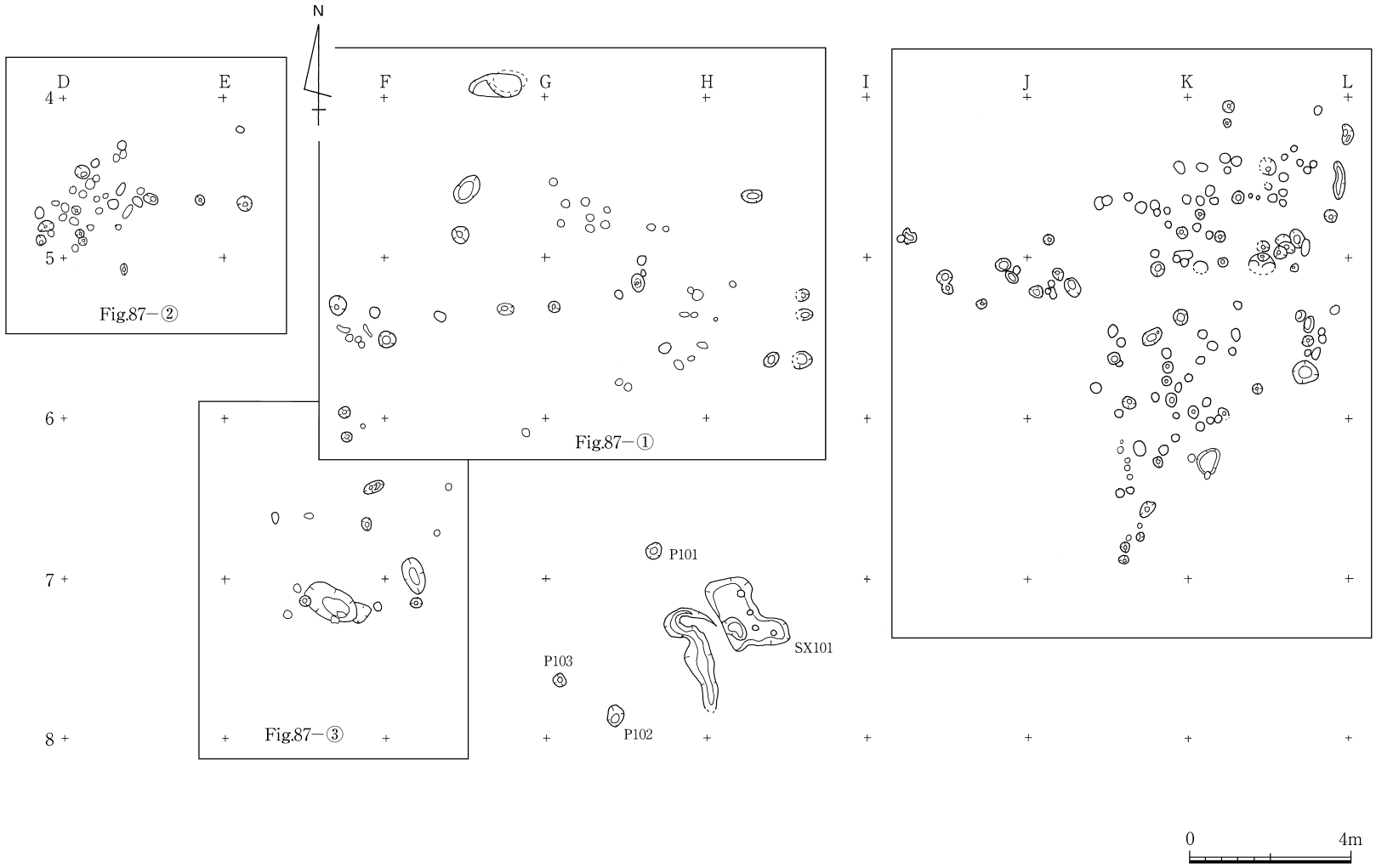


Fig. 78　縄文時代遺構平面全体図

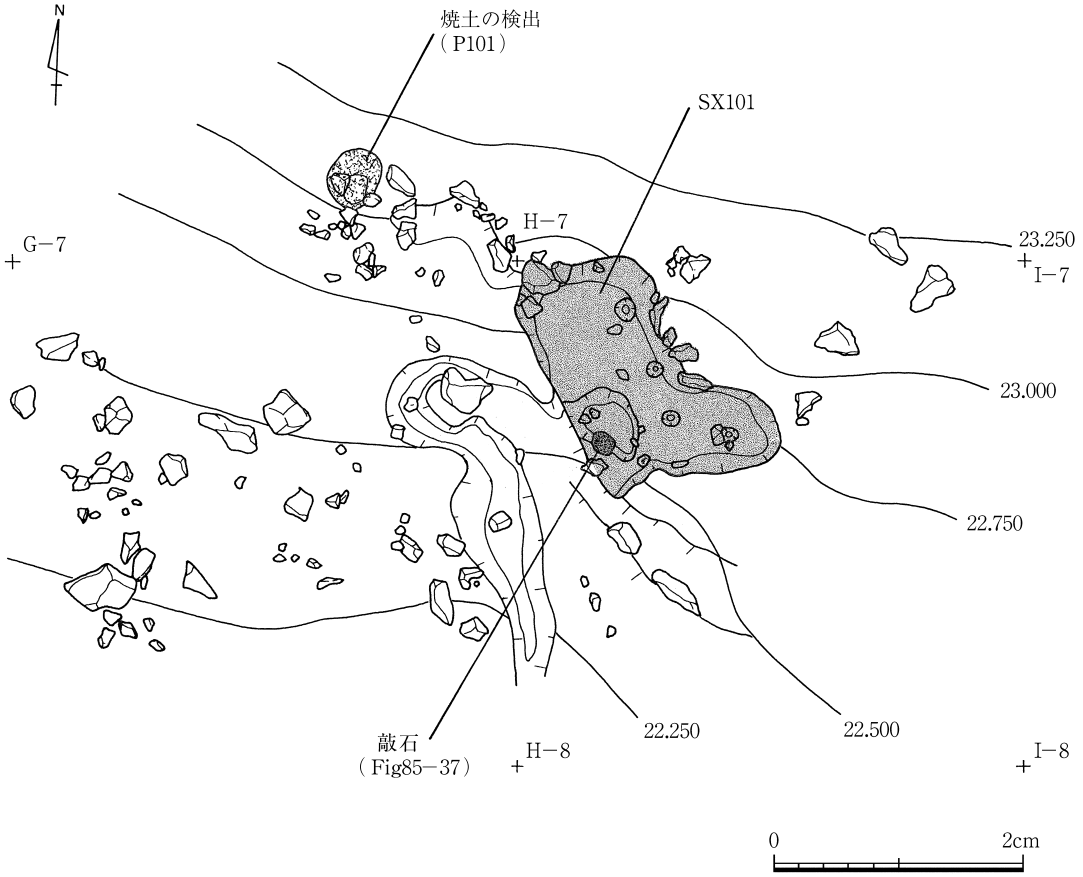


Fig. 79　SX101と周辺地形（25㎝等高線）

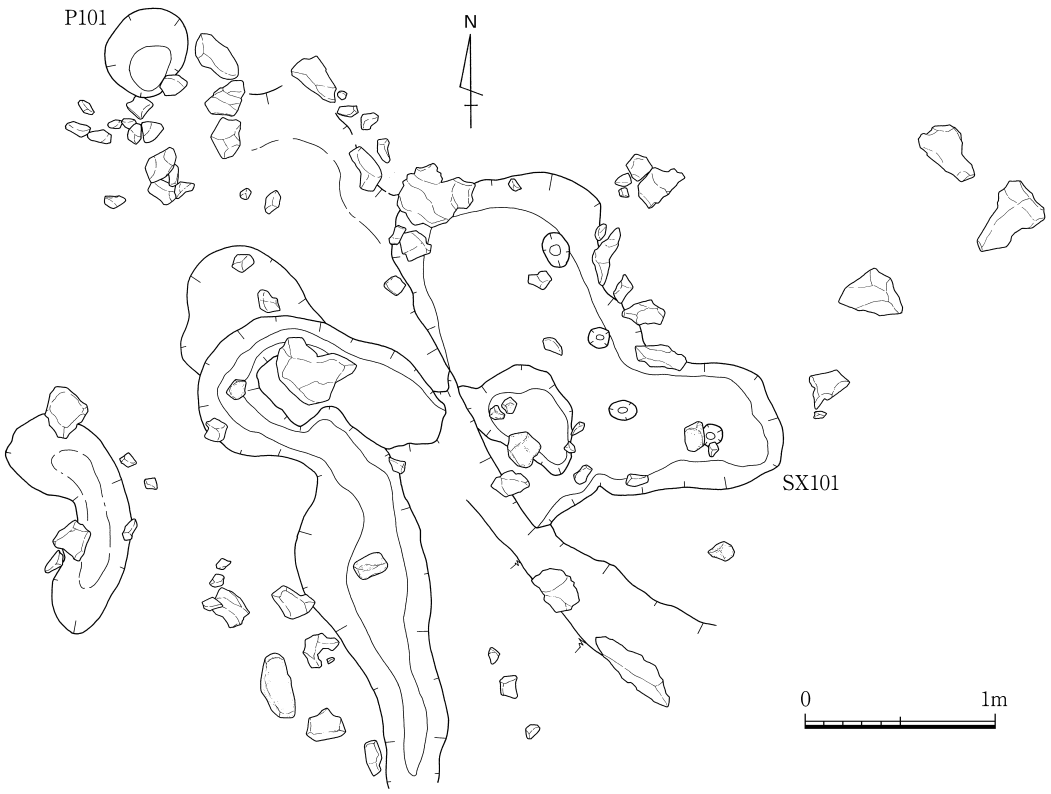


Fig. 80　SX101周辺の遺構と礫出土状況

SX101から南西側に向かって地形はさらに緩やかに傾斜しており、SX101の遺構埋土と同様の土（ES-Ⅰ層）の不明瞭な平面プランを伴う堆積が確認された。しかし、これらの堆積は遺構埋土という性格のものではなく、自然地形だと考えられる浅いくぼみや溝状の落ち込みに堆積したものである。Fig.79・80に図示したようなSX101の下方に連なる一見溝状遺構に見える落ち込みなどがこれに相当する。

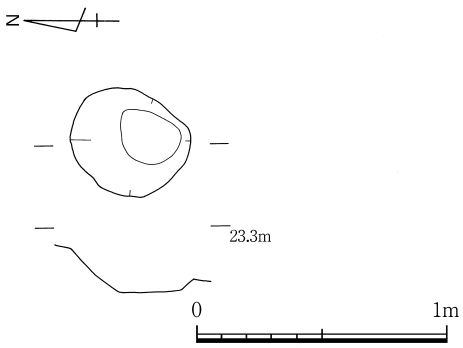


Fig. 81　遺構平面エレベーション図－P101－

遺構埋土は褐色～暗褐色粘質土で、埋土中には石器剥片を多く含み、砂岩礫が落ち込んだ状態で検出されている。検出された砂岩礫は、平面形25×8㎝程度の板状の角礫と、一辺40㎝前後の方形の角礫である。

P101（Fig.82）

SX101の西端から北西方向に約1.6mの位置にあるピットで、平面形は長径45㎝、短径42㎝の不整円形のピットである。SX101同様、緩斜面に形成された遺構で斜面上端がらの深さは18㎝、下端からの深さは4㎝ほどである。遺構埋土はにぶい赤褐色粘土であり、被熱により赤変した粘土である。焼土サンプルの分析結果から、この遺構での焼成温度が550℃以上750℃未満程度であったことが

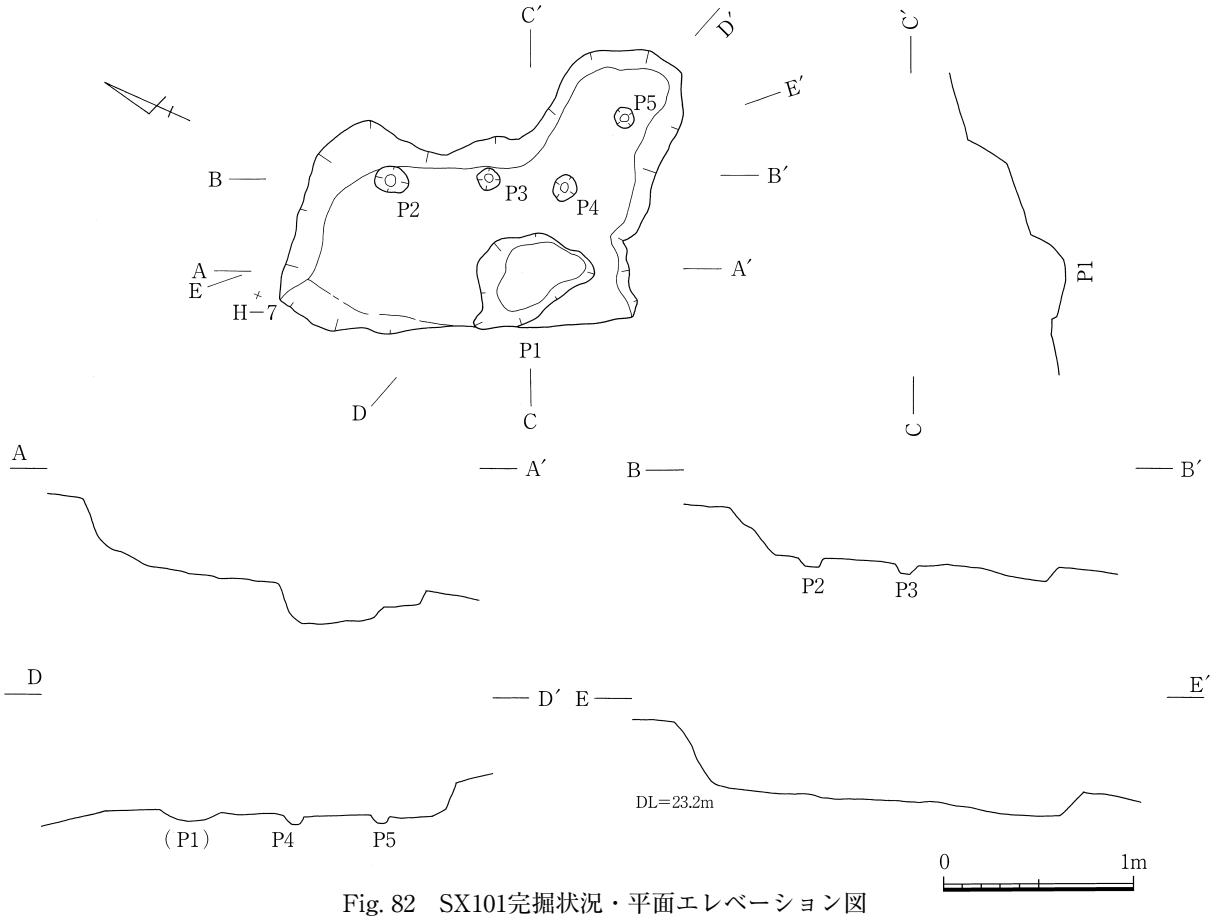


Fig. 82　SX101完掘状況・平面エレベーション図

明らかになっている。（付編第2節参照）

SX101出土遺物（Fig.84～86）

Fig.84が剥片石器、Fig.85が敲石類、Fig.86が縄文土器である。

SX101出土遺物の総点数は1,516点であり、そのうちツール・剥片等の石器類が1,489点、礫が22点、縄文土器が5点となっている。遺構検出面直下の遺構埋土上層から下層の底面付近まで遺物が出土する。

石器類は、チャート1,478点に対しサヌカイト11点と99%以上がチャートで占められ、チャートが主体となっているものの、石鏃9点中サヌカトが2点あるなど、サヌカイトの搬入が確実に認められる。

剥片石器は、細石刃核とスクレイパー、石鏃が確認されている。図示することはできなかったが、遺構出土の剥片類も押圧剥離により形成される剥片の特徴を持つものが多く、この遺構では押圧剥離を石器製作技術として保持する石器製作が行われていたようである。

Fig.84-20が細石刃核であり、21が細石刃核ブランク、22～26が細石刃である。

20の細石刃核は、チャート製で打面幅18.0㎜、打面長8.2㎜、作業面長25.5㎜、細石刃剥離角は72°で、細石刃剥離工程が最終工程まで進んだ残核の形状を示している。チャートは黒灰色と暗灰色が層状に交互に現れる質感の石材である。作業面側から打面細部調整が施され、作業面に対する左側面には背部側からの連続する調整剥離が認められる。背部にも右側面側からの調整剥離が残る。細石刃剥離痕は長さ23.5㎜、幅5.3㎜である。細石刃剥離に際しての技術は押圧剥離だと考えられるが、剥離に使用した原体の用い方によるのか、他の細石刃核に比較すると打面側からみた細石刃剥離痕の深さは1㎜程で若干深い。

21は細石刃核ブランクの可能性のあるチャート角礫で、細石刃剥離作業の始まる直前の状態をブランクとするなら、ブランクの前段階の素材とした方がよいかもしれない。予定される打面は節理面であり、作業面に想定される面や側面にも節理面を残す。石材のチャートは、この岩陰周

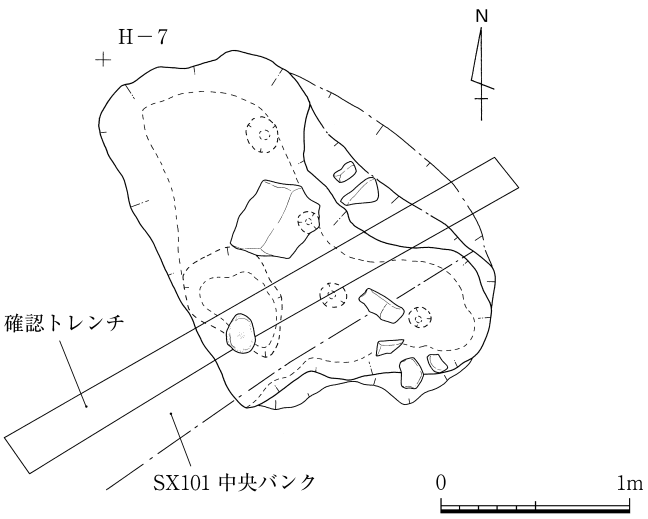


Fig. 83　SX101設定トレンチ・バンク位置図及び遺構内礫出土状況

辺に最も多いタイプで、緑色をベースとして緑白色が層状に入る。節理がよく発達し、節理面で剥離する例が多い。重量は26.0g、作業面高は26.4㎜、打面長は3.42㎝、打面幅は2.83㎝である。
22～26が細石刃である。背腹同一方向の剥離を示す幅10㎜以下の縦長の剥片を細石刃として取り扱った。石器製作に伴い同様の剥片が生じる可能性もあり断定はできないものの、細石刃核の存在からこれらの剥片を細石刃と捉えてもよいだろう。細石刃は全てチャート製である。22は灰白色、23は白と黒が混在し、24は黒色のチャート、25は光沢のない緑のチャート、26は透明感のある白のチャートで、23にのみ左辺腹面側に使用痕（あるいは2次加工）とみられる剥離痕が残る。法量は、重量（ｇ）・長さ（㎜）・幅（㎜）・厚さ（㎜）の順にそれぞれ、22が0.3/1.47/1.05/0.26、23が0.3/1.63/0.82/0.21、24が0.4/2.05/1.04/0.21、25が0.3/1.89/0.89/0.26、26が0.1/1.37/0.54/0.20となっている。細石刃としての使用部位はすべて剥片全体を使用し、折取りは認められない。

これらの細石刃関連遺物は遺構内出土だが、他の縄文時代に属する出土遺物と同時期の資料ではなく、遺構形成～埋積時に周辺の土壌から混入した資料であると考えている。

1点だけ確認されたスクレイパー（27）は、板状の黒色チャート剥片を素材としたスクレイパー（削器）である。端部が若干折損しており、残存長3.74㎝、幅2.23㎝、厚さは0.32㎝と薄い素材である。刃部は剥片の左辺及び右辺に形成され、背面側から押圧剥離によって形成される。

石鏃の材質は、チャートが7点（29～34・36）、サヌカイトが2点（28・35）であり、製品の中には搬入石材であるサヌカイトが確認される割合が20％を超え、剥片中に占める比率と較べると高いものの、やはりチャートが8割近くでチャートが主体となっている。形態的には、脚部が左右非対称で扁平な形状の28・29、二等辺三角形の形状で直線的な刃部で基部がわずかな凹基を示す30・31（31は基部折損のため基部形状は推定）、二等辺三角形の形状でわずかな弧状を呈する刃部で凹基の32・33、弧状の刃部でわずかな凹基である34、基部の凹基の程度が強くいわゆる鍬形鏃の形態に近い35と形態上から5つに分類される。

刃部の形成は押圧剥離によるものの、剥離が斜状に中央付近まで延びるものと刃部付近に留まるものとがあるが、これは選択する剥片の厚さや剥離の形成される面の形状に規定されるものである。また、刃縁がつぶれた形状のもの（28・29・34など）は押圧剥離に際して硬質ハンマーを使用し、それ以外は軟質ハンマーを使用しており、同一遺構内出土資料だが、石鏃に対しては異なる工具が使われている。

37～39が敲石類で、37は砂岩礫を素材とした台石で、重量2,500g、17.9㎝×15.7㎝の楕円形の平面形、8.56㎝の厚さで、表裏両面に敲打痕が観察される。敲打痕は表裏面とも数箇所ずつ周辺近くにあり、中央部よりも周縁部付近が利用されていたことがわかる。38はゴロッとした楕円形（コロッケ状）の砂岩礫を素材とした敲石で、表面の3箇所と片方の端部に敲打痕が認められる。重量は532gである。端部の敲打痕は顕著であり、敲打により端部の丸みを帯びた形状が変化し平坦になるほどである。39の敲石は棒状の形態で、長さ13.7㎝、幅4.3㎝、厚さ3.1㎝、重量260gで、敲打痕は両端部及び側縁、端部から側縁にかけての肩部に認められる。特に端部周辺の敲打痕が顕著である。

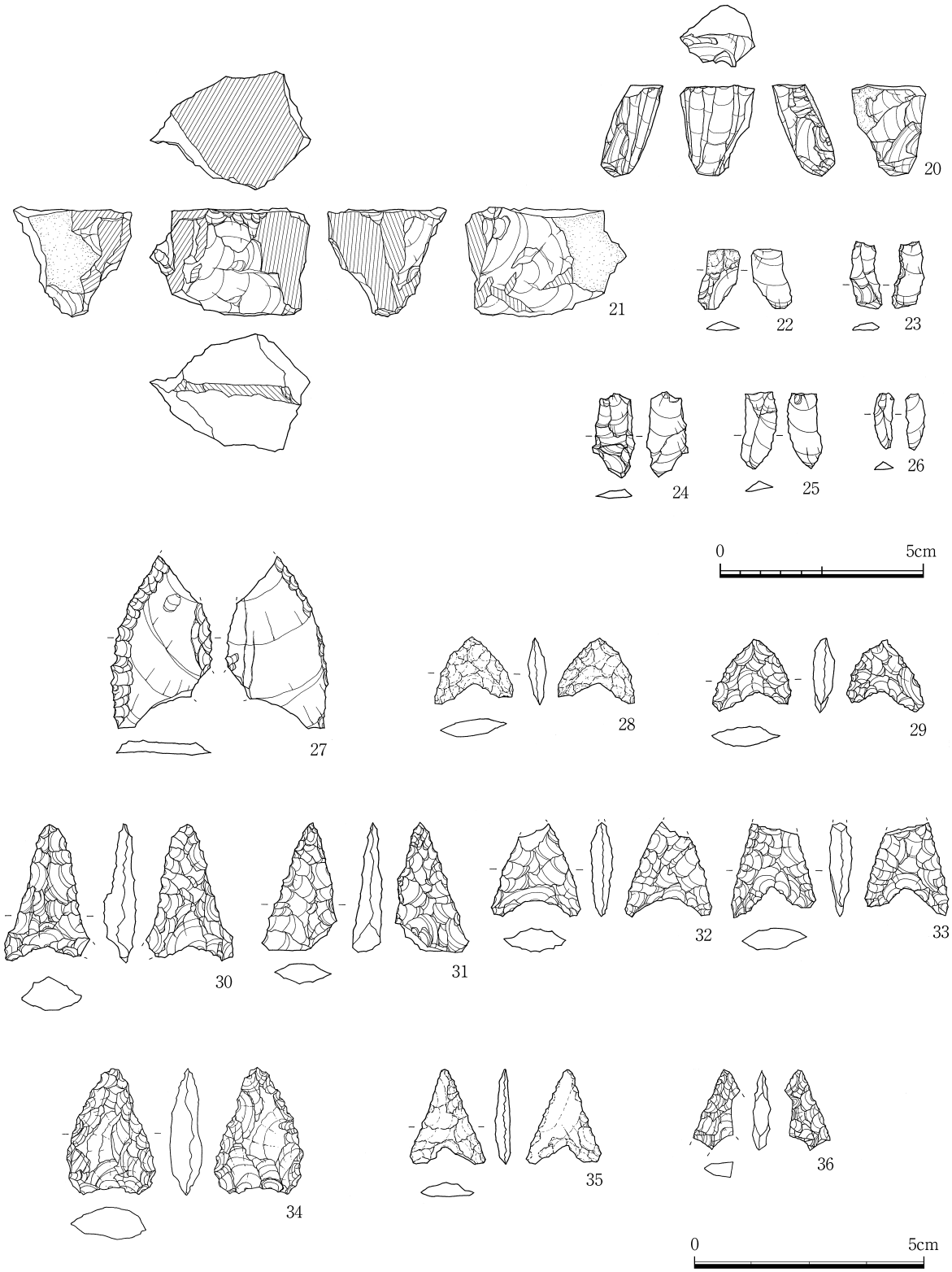


Fig. 84　SX101出土遺物(1)　－剥片石器－

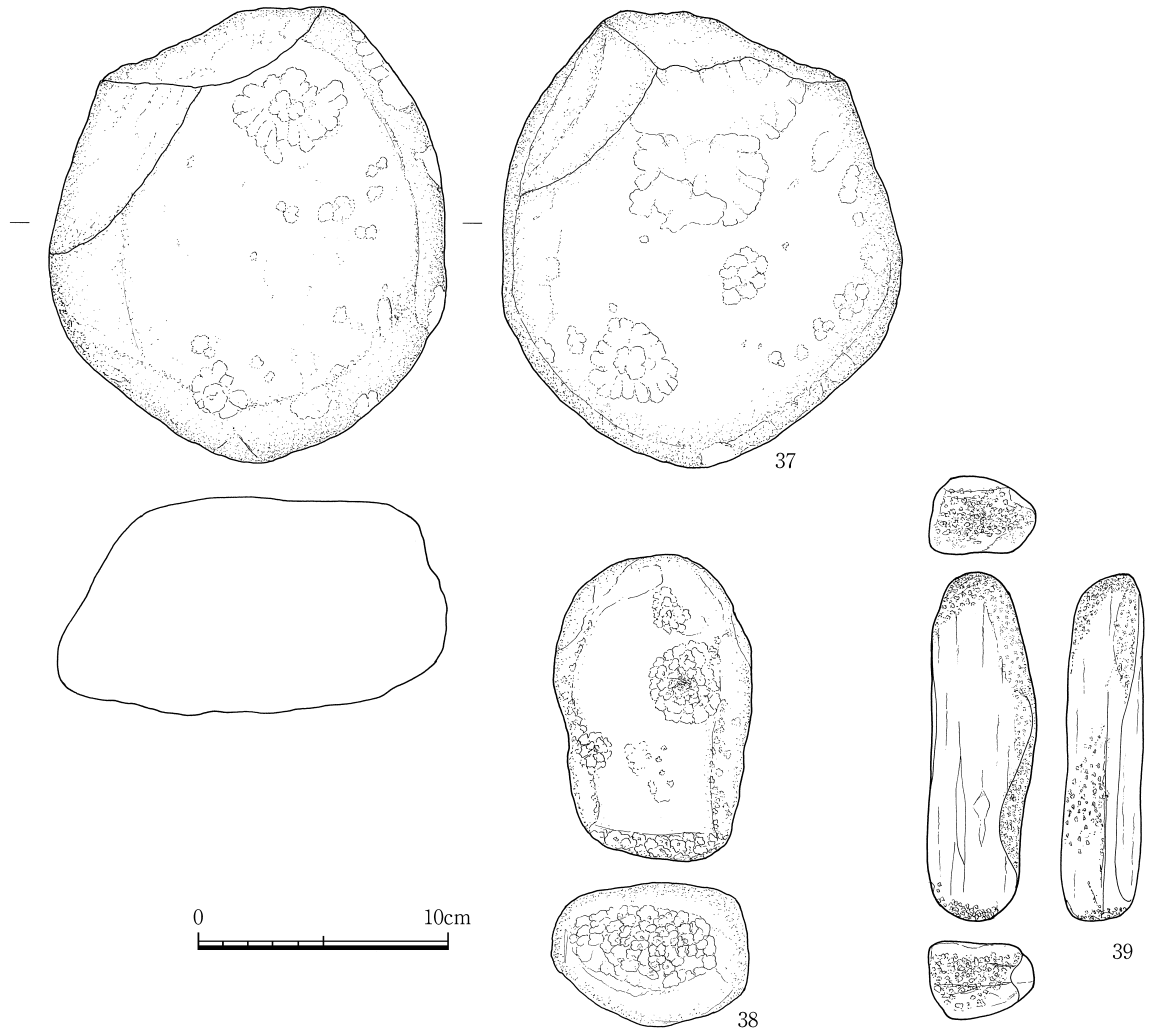


Fig. 85　SX101出土遺物(2)　－敲石－

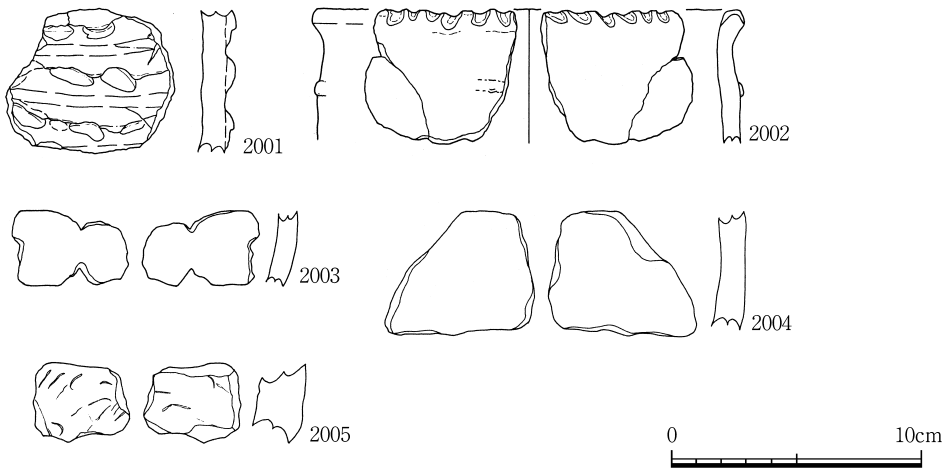


Fig. 86　SX101出土遺物(3)　－縄文土器－

これらの敲石は、形態・敲打位置により、植物質食料の加工を目的とした敲石ではなく、石器等加工用のハンマーだと考えられる。

出土した縄文土器は2001～2005の5点で、2001が太めの隆帯を持つ隆帯文土器、2002が隆起線文が剥落し、わずかに残存するだけではあるものの、隆起線文土器である。

2003及び2004は無文であり、長石粒を含む胎土の隆帯文土器との類似を指摘できるが、それ以外に特徴は見いだせない。2005は繊維痕が顕著に認められる器壁の厚い土器であり、周辺から出土した早期4類の繊維土器と同じ特徴を持つ土器である。

土器についての詳述は、出土遺物の項で改めて行うが、出土遺物の所属時期は縄文時代草創期前半であり、SX101は縄文時代草創期前半の遺構だと捉えている。

2001～2004が草創期の土器であり、2005はSX101出土だが、形態的特徴から縄文時代早期4類とした器壁が厚く繊維圧痕を持つことを特徴とする繊維土器だと考えられる。バンク出土の遺物であり、バンク上層に若干黄褐色褐色土混じりの遺構埋土と異なる層が残っていたことから、遺構上層で他時期の遺物が混在していた可能性が強い。

P102 ・103

調査区南端に形成された遺構で、遺構埋土はG-Ⅳ層とした褐色粘土だが、SX101の埋土との関連は不明であり、周辺にⅦ層の存在が認められないことから、形成時期も特定できない。縄文時代の遺構としたのは上層に縄文土器の集中するG-Ⅰ～G-Ⅳ層が検出されたからである。

(2) 1・2号岩陰周辺のピット（P104～315）

縄文時代に属するピットとしてP101～P315の215基のピットを挙げたが、これらのピットの中には、何らかの上部遺構を伴った可能性のあるものや何らかの自然の営為による落ち込みだと考えられるものなどがあり成因は一定ではない。各ピットの性格の特定はいったん保留して、位置と規模・検出面の高さを報告する。ピットの遺跡内での位置はFig.78に、平面形状はFig.87・88に、検出面の標高と遺構底面の標高および残存する遺構の深さはTab.7に示した。検出面が傾斜する場合は検出面の平均の高さとして報告している。

黒褐色粘土（Ⅶ層相当）が遺構埋土であり、Ⅶ層中からは縄文時代早期後半の土器が出土している。

これらのピットは、１号岩陰・2号岩陰・二つの岩陰の中間点・１号岩陰の南側など、遺構密度の差はあるもののⅦ層の存在する地点全域に分布している。遺構の上層のⅦ層からは石器剥片類が検出されているが、1号岩陰西地点（Fig.87-②）の上層からは遺物がほとんど出土していない。これに対して、Fig.87-①や③に示す１号岩陰から１号岩陰南地点については、Ⅶ層の最下層付近からⅧ層にかけて遺物の集中が認められ、Fig.88の2号岩陰周辺においても同様の遺物の出土状況を示している。１号岩陰西地点の遺構が急傾斜の斜面に形成されているのに対し、それ以外の地点では遺構形成地点の傾斜が緩やかであるか、あるいは平坦で傾斜がほとんどない地点に形成されるという立地の違いはある。調査対象地点では南側ほど傾斜が緩やかであるという特徴がある

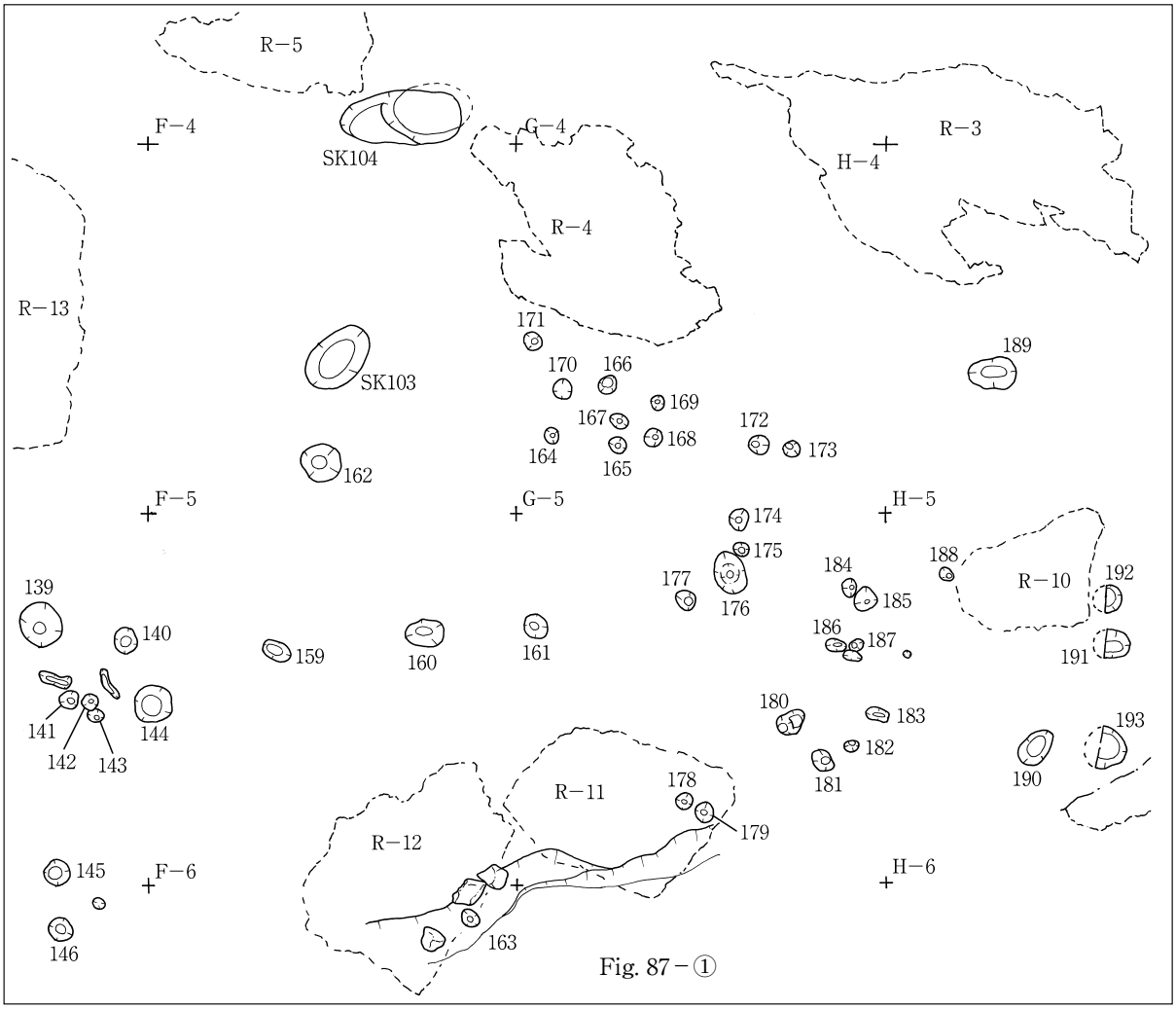


Fig. 87－①

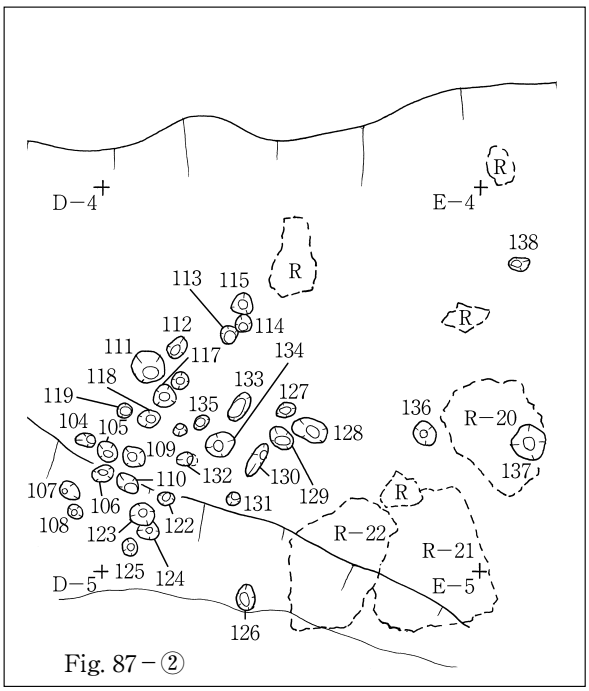


Fig. 87－②

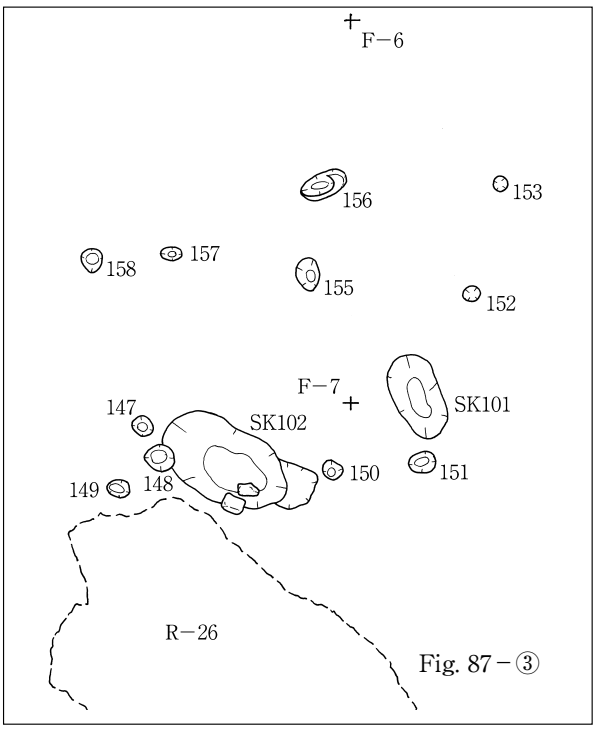


Fig. 87－③

Fig. 87　1号岩陰遺構平面図（Ⅶ層）

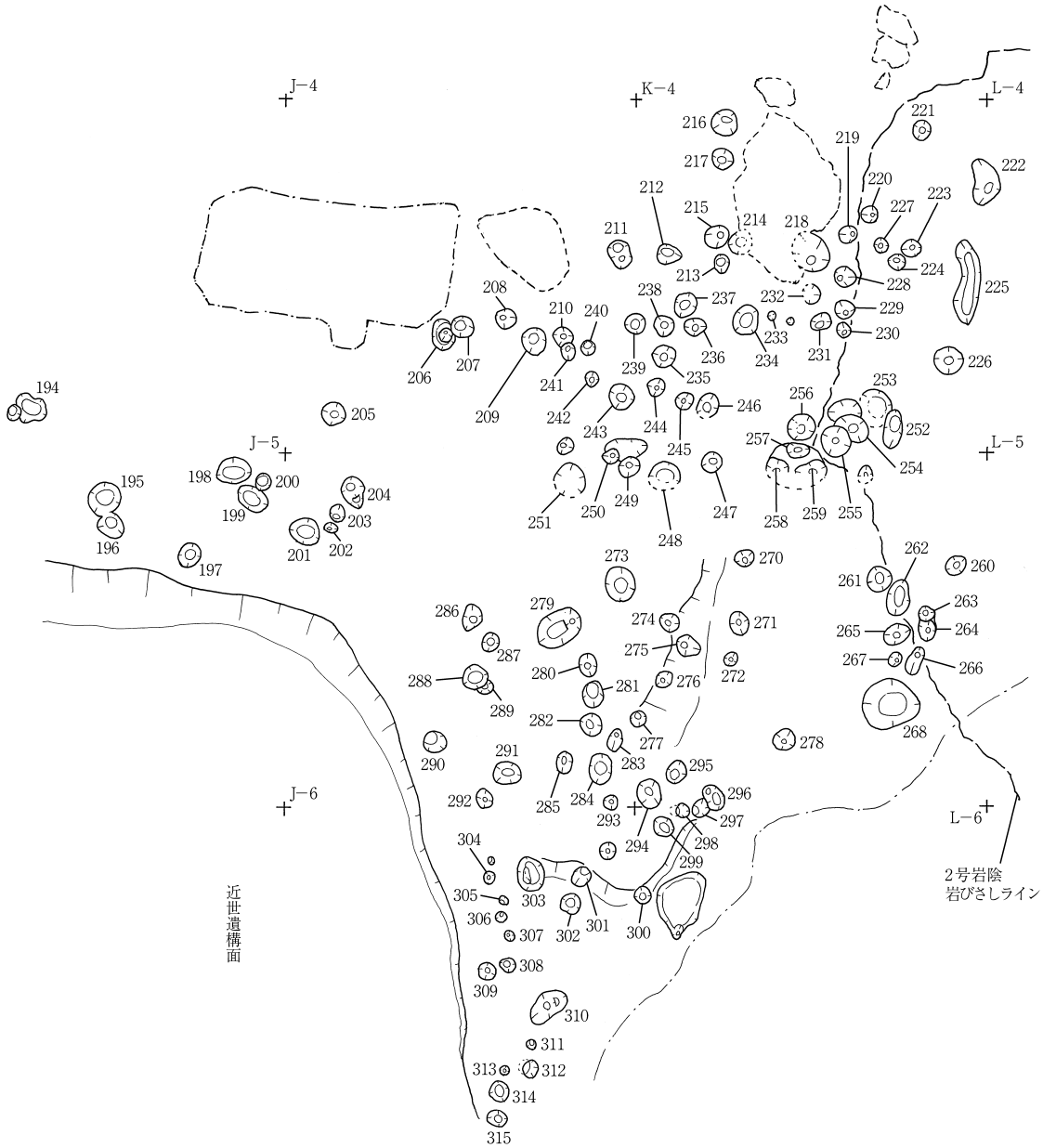


Fig. 88　2号岩陰遺構平面図（Ⅶ層）

Tab. 7　縄文時代のピット　検出面及び遺構底面の標高

遺構名	検出面の標高	遺構底面の標高	深さ(m)	遺構名	検出面の標高	遺構底面の標高	深さ(m)	遺構名	検出面の標高	遺構底面の標高	深さ(m)
P−101	23.121	23.042	0.079	P−173	25.084	24.991	0.093	P−244	24.591	24.531	0.060
P−102	22.248	22.136	0.112	P−174	24.686	24.629	0.057	P−245	24.573	24.538	0.035
P−103	22.283	22.168	0.115	P−175	24.619	24.555	0.064	P−246	24.597	24.502	0.095
P−104	24.876	24.652	0.224	P−176	24.507	24.409	0.098	P−247	24.405	24.260	0.145
P−105	24.684	24.511	0.173	P−177	24.389	24.350	0.039	P−248	24.325	24.257	0.068
P−106	24.529	24.352	0.177	P−178	24.061	23.961	0.100	P−249	24.279	24.250	0.029
P−107	24.326	24.126	0.200	P−179	24.050	23.941	0.109	P−250	24.517	24.398	0.119
P−108	24.400	24.306	0.094	P−180	24.318	24.117	0.201	P−251	24.363	24.262	0.101
P−109	24.685	24.635	0.050	P−181	24.219	24.091	0.128	P−252	24.724	24.319	0.405
P−110	24.578	24.374	0.204	P−182	24.346	24.234	0.112	P−253	24.719	24.505	0.214
P−111	24.969	24.774	0.195	P−183	24.369	24.257	0.112	P−254	24.681	24.514	0.167
P−112	25.022	24.787	0.235	P−184	24.638	24.599	0.039	P−255	24.756	24.465	0.291
P−113	25.001	24.868	0.133	P−185	24.662	24.488	0.174	P−256	24.711	24.518	0.193
P−114	25.086	25.065	0.021	P−186	24.516	24.458	0.058	P−257	24.713	24.401	0.312
P−115	25.099	25.038	0.061	P−187	24.534	24.464	0.070	P−258	24.771	24.505	0.266
P−116	24.986	24.784	0.202	P−188	24.699	24.621	0.078	P−259	24.703	24.600	0.103
P−117	24.924	24.825	0.099	P−189	25.346	25.115	0.231	P−260	24.363	24.283	0.080
P−118	24.886	24.787	0.099	P−190	24.202	24.143	0.059	P−261	24.510	24.343	0.167
P−119	24.810	24.771	0.039	P−191	24.595	24.497	0.098	P−262	24.484	24.273	0.211
P−120	24.649	24.552	0.097	P−192	24.949	24.765	0.184	P−263	24.378	24.241	0.137
P−121	24.526	24.402	0.124	P−193	24.277	24.208	0.069	P−264	24.441	24.295	0.146
P−122	24.515	24.311	0.204	P−194	24.876	24.140	0.736	P−265	24.471	24.313	0.158
P−123	24.388	24.265	0.123	P−195	24.543	24.485	0.058	P−266	24.449	24.268	0.181
P−124	24.344	24.214	0.130	P−196	24.485	24.426	0.059	P−267	24.468	24.373	0.095
P−125	24.244	24.199	0.045	P−197	24.610	24.589	0.021	P−268	24.472	24.305	0.167
P−126	24.011	23.905	0.106	P−198	24.522	24.479	0.043	P−269	24.240	23.882	0.358
P−127	24.759	24.561	0.198	P−199	24.523	24.474	0.049	P−270	24.459	24.385	0.074
P−128	24.757	24.654	0.103	P−200	24.656	24.581	0.075	P−271	24.365	24.156	0.209
P−129	24.644	24.557	0.087	P−201	24.789	24.546	0.243	P−272	24.333	24.274	0.059
P−130	24.360	24.242	0.118	P−202	24.803	24.690	0.113	P−273	24.234	24.005	0.229
P−131	24.636	24.279	0.357	P−203	24.805	24.144	0.661	P−274	24.258	24.183	0.075
P−132	24.530	24.327	0.203	P−204	24.812	24.483	0.329	P−275	24.262	24.166	0.096
P−133	24.763	24.632	0.131	P−205	24.864	24.278	0.586	P−276	24.258	24.144	0.114
P−134	24.717	24.622	0.095	P−206	24.835	24.719	0.116	P−277	24.234	24.155	0.079
P−135	24.562	24.441	0.121	P−207	24.845	24.755	0.090	P−278	22.819	22.715	0.104
P−136	24.600	24.411	0.189	P−208	24.856	24.743	0.113	P−279	24.087	23.722	0.365
P−137	24.487	24.359	0.128	P−209	24.831	24.677	0.154	P−280	23.830	23.768	0.062
P−138	25.181	25.079	0.102	P−210	24.825	24.741	0.084	P−281	23.934	23.746	0.188
P−139	23.850	23.737	0.113	P−211	24.911	24.889	0.022	P−282	23.989	23.923	0.066
P−140	23.928	23.849	0.079	P−212	24.984	24.846	0.138	P−283	23.808	23.774	0.034
P−141	23.641	23.469	0.172	P−213	24.879	24.694	0.185	P−284	23.986	23.753	0.233
P−142	23.617	23.584	0.033	P−214	24.859	24.769	0.090	P−285	22.983	22.843	0.140
P−143	23.596	23.551	0.045	P−215	24.937	24.787	0.150	P−286	24.145	24.055	0.090
P−144	23.801	23.590	0.211	P−216	25.454	25.212	0.242	P−287	24.097	24.005	0.092
P−145	22.769	22.704	0.065	P−217	25.262	25.057	0.205	P−288	22.874	22.757	0.117
P−146	22.705	22.622	0.083	P−218	25.026	24.858	0.168	P−289	23.878	23.770	0.108
P−147	22.493	22.397	0.096	P−219	25.007	24.866	0.141	P−290	23.840	23.680	0.160
P−148	22.362	22.328	0.034	P−220	24.934	24.809	0.125	P−291	23.712	23.580	0.132
P−149	22.161	22.054	0.107	P−221	25.182	25.108	0.074	P−292	24.058	23.989	0.069
P−150	22.378	22.311	0.067	P−222	25.190	25.087	0.103	P−293	23.897	23.717	0.180
P−151	22.310	22.122	0.188	P−223	24.933	24.648	0.285	P−294	24.123	23.959	0.164
P−152	22.677	22.603	0.074	P−224	25.069	24.932	0.137	P−295	24.090	23.996	0.094
P−153	22.478	しみ状		P−225	25.143	25.049	0.094	P−296	24.096	23.781	0.315
P−154	22.688	22.529	0.159	P−226	24.233	23.882	0.351	P−297	24.081	23.961	0.120
P−155	22.746	22.709	0.037	P−227	25.011	24.956	0.055	P−298	24.070	23.673	0.397
P−156	22.982	22.897	0.085	P−228	25.071	24.947	0.124	P−299	24.012	23.669	0.343
P−157	23.158	23.035	0.123	P−229	24.807	24.638	0.169	P−300	23.333	23.236	0.097
P−158	23.057	22.980	0.077	P−230	24.920	24.838	0.082	P−301	23.751	23.627	0.124
P−159	23.962	23.883	0.079	P−231	24.749	24.602	0.147	P−302	23.335	23.248	0.087
P−160	24.045	23.915	0.130	P−232	24.761	24.602		P−303	23.749	23.559	0.190
P−161	24.075	23.985	0.090	P−233	24.718	24.630	0.088	P−304	23.561	23.468	0.093
P−162	24.156	24.027	0.129	P−233	24.718	24.630	0.088	P−305	23.392	23.328	0.064
P−163	23.231	23.193	0.038	P−234	24.737	24.446	0.291	P−306	23.366	23.317	0.049
P−164	24.699	24.585	0.114	P−235	24.423	24.354	0.069	P−307	23.360	23.242	0.118
P−165	24.571	24.500	0.071	P−236	24.708	24.609	0.099	P−308	23.267	23.214	0.053
P−166	24.873	24.785	0.088	P−237	24.777	24.656	0.121	P−309	23.312	23.274	0.038
P−167	24.582	24.534	0.048	P−238	24.756	24.624	0.132	P−310	23.558	23.469	0.089
P−168	24.557	24.435	0.122	P−239	24.782	24.576	0.206	P−311	23.140	23.037	0.103
P−169	24.662	24.624	0.038	P−240	24.684	24.599	0.085	P−312	22.993	22.949	0.044
P−170	24.963	24.891	0.072	P−241	24.994	24.856	0.138	P−313	23.083	22.992	0.091
P−171	24.818	24.729	0.089	P−242	24.673	24.549	0.124	P−314	23.140	23.080	0.060
P−172	25.191	24.945	0.246	P−243	24.603	24.469	0.134	P−315	23.076	23.032	0.044

が、グリッドH-7から南東側には緩やかに傾斜し落ち込んで行く地形が形成されている。

土坑状遺構（SK101～104）

SK101

1号岩陰南地点（F-6・7）に位置する。平面形は楕円形、長軸116㎝、短軸64㎝、深さは最深部で22㎝、遺構の長軸方向はN-20㎝-W。埋土はⅦ層であり、出土遺物はない。

SK102

1号岩陰南地点（E-7）に位置する。平面形は楕円形、長軸136㎝、短軸80㎝、深さは最深部で40㎝で遺構の長軸方向はN-75㎝-W。埋土はⅦ層であり、出土遺物はない。

SK103

1号岩陰（F-4）に位置する。平面形は楕円形、長軸75㎝、短軸53㎝、深さは最深部で12㎝、浅い皿状の土坑で、遺構の長軸方向はN-35㎝-E。埋土はⅦ層であり、出土遺物はない。

SK104

1号岩陰（F-3）に位置する。平面形は楕円形、長軸128㎝、短軸58㎝、深さは最深部24㎝、遺構

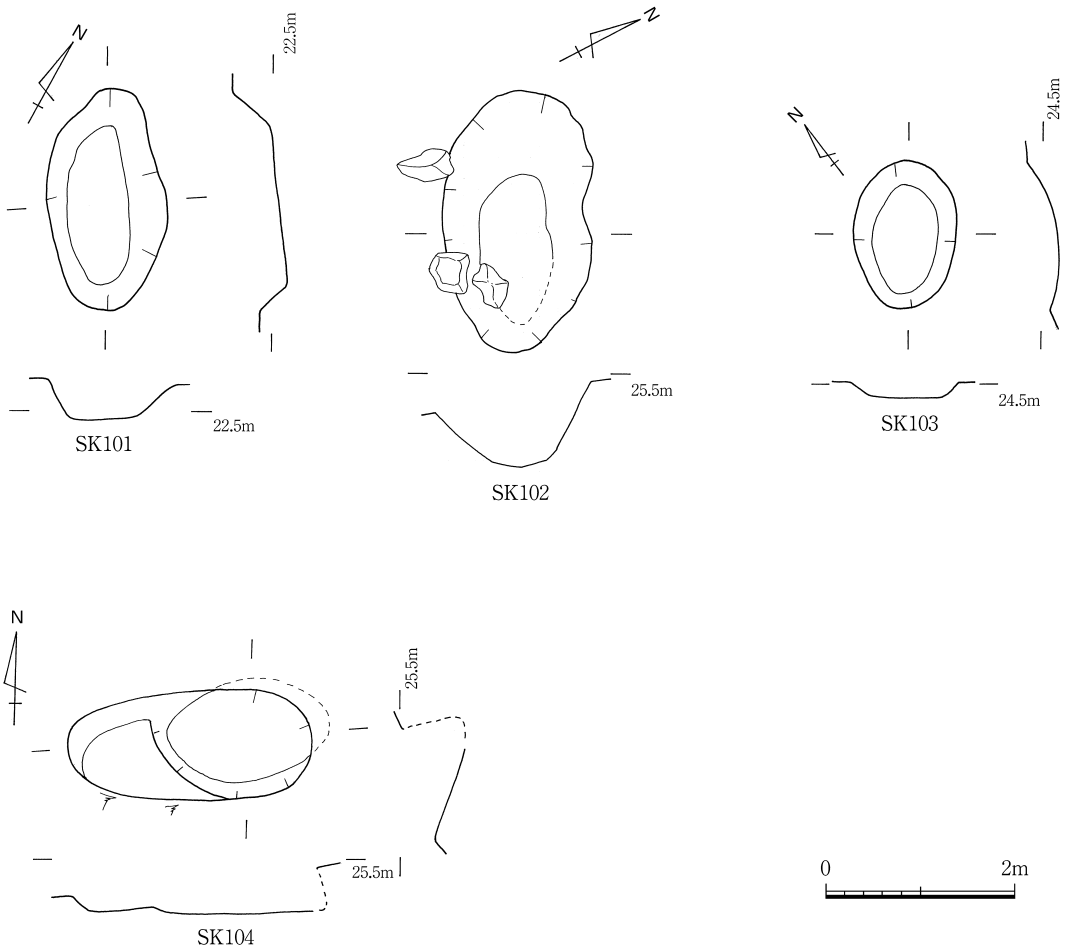


Fig. 89　遺構平面・エレベーション図－SK101～104・SX103－

の長軸方向はＮ－85㎝－Ｅの東西方向。埋土はⅦ層であり、出土遺物はない。遺構底面が2段になっており、東側が深く東端部だけが袋状になっている。

遺構（ピット）出土遺物

遺構埋土がⅦ層に相当する黒褐色あるいは暗褐色粘土層である遺構の中で、図版掲載遺物を出土した遺構を取り上げた。ただし、石鏃の出土した遺構の中には、近世の遺構面から検出された遺構や2号岩陰南地点に位置し遺構埋土がⅦ層に相当しないものもある。

Fig.90－40（P201出土　ナイフ形石器あるいは同時期のスクレイパー）

グリッドJ-5に形成された遺構（P201）出土のナイフ形石器あるいはナイフ形石器と同時期のスクレイパー（掻器）。残存長4.35㎝、幅2.2㎝、厚さ0.9㎝、重量8.0g、光沢のない緑黒色混じりの緑色のチャートで、縦長剥片素材である。側縁には腹面側からの直接打撃による急角度剥離を連続させ、刃潰し状の加工とする。先端部はわずかに折れており、全体形状は不明だが、残存部の側縁はほぼ全域に加工が確認されている。

基部に打面が残る。完形で全長は5㎝前後だと推定される。

左辺基部付近に平坦剥離が観察される。刃縁はつぶれており、使用に伴う剥離であり、この腹面側に剥離のある箇所がスクレイパー(掻器)の刃部として使用されたと考えられる。

2号岩陰の南側に位置し、遺構の位置及び平面形態はFig.88に示してある。

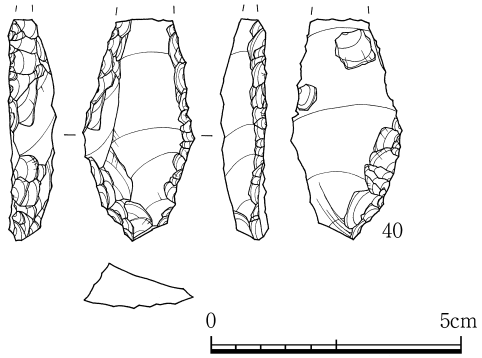


Fig. 90　遺構（P201）出土遺物

Fig.91－41（SK502出土　2次加工により尖頭部を形成する剥片石器）

剥片石器で基部の両側縁からの抉入を意識して整形され、尖頭部を持つ形状となっている。先端部は折損し、先端形状は不明。刃部は間接打撃によりつくりだされる。残存長5.78㎝、幅3.05㎝、厚1.90㎝、重量は23.4g、光沢のない黒混じり薄緑色のチャートである。

Ⅶ層が埋土である遺物出土の遺構の項目だが、この遺構自体が、2号岩陰南地点に形成された遺構であり、Ⅶ層を埋土とする遺構（ピット）ではない。なお、石器自体の

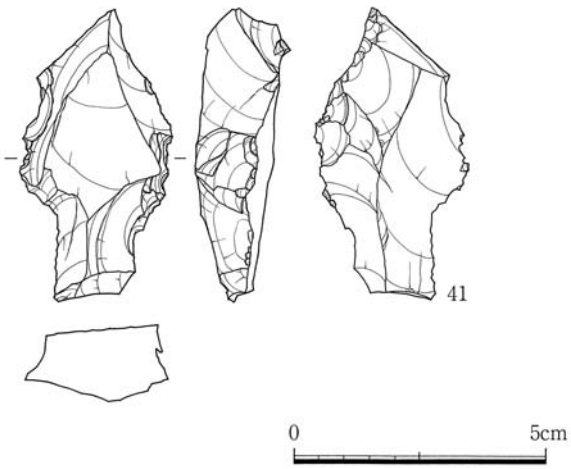


Fig. 91　遺構（SK502）出土遺物

所属時期は旧石器時代だと考えられる。遺構の形状及び位置については、Fig.240とFig.245に示す。

Fig.92－42～44（遺構出土の石鏃）

遺構出土の石鏃として、次の3点がある。Ⅶ層を埋土とする遺構（P284・P197、2号岩陰・Fig.88）から出土した石鏃が42・43、近世遺構面を構成する遺構（P316、Fig.241）出土の石鏃が44である。P316は近世の遺構面の遺構だが、埋土が暗褐色土でⅦ層段階の遺構が部分的に遺存した可能性もある。

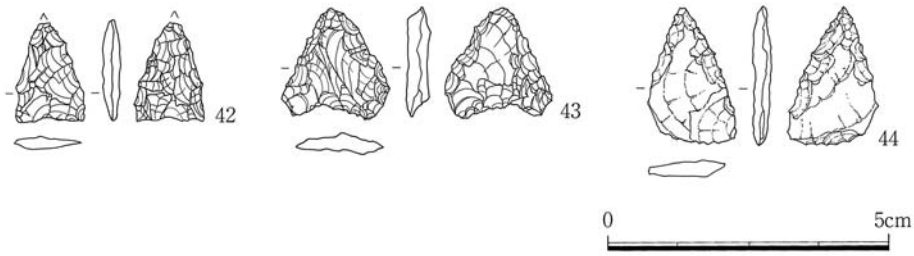


Fig. 92　遺構（P284・197・316）出土遺物－石鏃－

42（P284）

石材はチャート、平基で刃縁はわずかに外湾する。断面形状は扁平で、先端が若干欠損する。残存長1.75㎝、幅1.23㎝、厚さ0.32㎝、重さ0.5g。

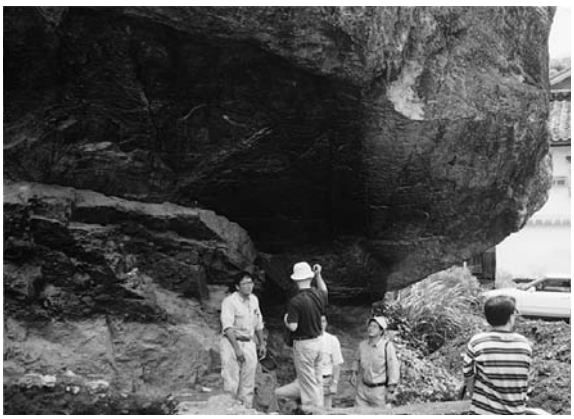
43（P197）

チャート、凹基で刃縁は直線的で、幅広な平面形状で断面形状はレンズ状である。全長1.96㎝、幅1.93㎝、厚さ0.40㎝、重さ1.0g。

44（P316）

石材はサヌカイト、平基で刃縁は直線的、扁平な断面形で、左側脚部が欠損する。全長2.42㎝、幅1.52㎝、厚さ0.37㎝、重さ1.02g。

2号岩陰　遺物出土状況（TR－11）



御指導・御教示をいただいた研究者の方々（奥谷南遺跡岩陰発掘調査現場にて）

2. 出土遺物

A. 石器（旧石器時代～縄文時代）

古い時代に属すると考えられる石器群から順番に器種ごとに実測図を提示する。器種ごととしたため、新旧関係が逆転する場合もある。

器種を上位区分とし、次に出土層位・出土地点の順に並べた。石鏃については形態分類に即し順番に提示したが、それ以外の器種については層・地点ごとの提示とする。

器種ごとに実測図の後に計測表あるいは観察表を付け、出土地点について示すことの可能な遺物については実測図に附随させて示すこととする。なお、図版掲載遺物については、全遺物を対象に、第4節の最後にまとめた一覧表（Fig.32）として掲載する。表の中には、Fig.番号・図版番号（本報告書中での呼称）・4mグリッド・1mグリッド・器種・出土層位・出土地点呼称・遺物の法量（重量・長さ・幅・厚さ）・取り上げ番号・取り上げた日付・C-9杭を基点とした遺物の平面位置及び標高（X・Y・Z座標）の各項目の記載を行なう。

地点呼称や層位については、可能な限り取り上げ時点での呼称を優先させた。本来、報告する必要のない遺物取り上げの日付だが、今回の調査では取り上げ地点と取り上げナンバーが、異なる取り上げ日で重複する場合があること、さらに遺物出土全点ドットマップ一覧を日付順で整理していることもあり、今後当遺跡の資料を活用する場合必要となるデータだと考え、掲載することとする。

基本的にⅧ-a層以下の層出土の遺物については旧石器時代の遺物であると考えているのだが、Ⅶ層の下層とⅧ-a層との境界部については漸移的であり、上層（Ⅶ層）の遺物（石鏃・縄文土器など）が下層から出土している例も確認されている。Ⅷ層段階でこれら石鏃や縄文土器が存在していたのではなく、層の境界部ゆえに、自然の営為による移動（侵食や層中での上下移動）、あるいは取り上げ時の遺物出土層位の認定の誤りなど人為的要因による過ちが原因だと考えている。

傾斜地ではあるものの、層堆積の順序の把握は容易であり、層の境界部の取り扱いや上面から掘り込まれた遺構を認識できなかったケースを除けば、層ごとに確実に取り上げ作業を行なうことはできたと考えている。だが、ナイフ形石器の項でも述べるように、ツールに限っても下層の遺物が上層からまとまって出土する状況下においては、堆積した時期の文化イコール層出土石器群の様相と単純に捉えることはできない。特に、旧石器時代あるいは縄文時代の指標となる石器は容易に弁別可能だが、敲石やスクレイパー類など、器種によっては形態のみで時期ごとにわけることが難しい石器もある。ここでは「旧石器時代から縄文時代の石器」として一括して取り扱う。なお、ごくわずかだが、弥生時代の石器もふくまれており、形態から明らかなものについては本文中に明記する。

層別遺物出土点数

層／種類	縄文土器	自然石	チャート	サヌカイト・頁岩	計	層ごとの全遺物比率		石器点数	層ごとの石器比率	石器中に占めるチャートの比率
Ⅰ	0	0	0	0	0	0.0%		0	0.0%	—
Ⅱ	0	0	0	0	0	0.0%		0	0.0%	—
Ⅲ	47	3	133	1	184	0.4%		134	0.3%	99.3%
Ⅳ	229	152	905	114	1,400	2.9%		1,019	2.4%	88.8%
Ⅴ	215	223	4,159	99	4,696	9.8%		4,258	9.9%	97.7%
Ⅵ	36	180	1,814	155	2,185	4.6%		1,969	4.6%	92.1%
Ⅶ－1	2	72	618	16	708	1.5%				
Ⅶ－2	7	161	1,510	21	1,699	3.6%		チャート		
Ⅶ－SR	3	571	920	17	1,511	3.2%	Ⅶ層	13,969		
Ⅶ－YR	0	96	1,240	7	1,343	2.8%	(32.6%)	石器総数	32.9%	98.7%
Ⅶ－最下	1	80	1,233	10	1,324	2.8%	15,575	14,151		
Ⅶ－その他	126	305	8,448	111	8,990	18.8%				
Ⅷ－a	3	961	8,588	74	9,626	20.1%		チャート		
Ⅷ－b	1	340	2,387	25	2,753	5.8%	Ⅷ層	11,232		
Ⅷ－c	0	25	151	4	180	0.4%	(26.5%)	石器総数	26.6%	98.1%
Ⅷ－その他	0	5	106	3	114	0.2%	12,673	11,449		
Ⅸ	0	34	301	2	337	0.7%		303	0.7%	99.3%
Ⅹ	0	85	896	6	987	2.1%		902	2.1%	99.3%
Ⅺ	0	6	37	0	43	0.1%		37	0.1%	100.0%
Ⅻ	0	8	55	0	63	0.1%		55	0.1%	100.0%
ⅩⅢ	0	0	0	0	0	0.0%		0	0.0%	—
その他・不明	176	542	7,381	28	8,127	17.0%		7,409	17.2%	99.6%
SX101	7	22	1,478	11	1,518	3.2%		1,489	3.5%	99.3%
計	853	3,871	42,360	704	47,788	100.0%		43,064	100.0%	98.4%

※奥谷南遺跡の層ごとにカウントした遺物の出土点数である。ここに示した遺物以外に、近世の陶磁器や弥生土器・土師器など少量の遺物が含まれる。また、砂岩製の敲石など一部の礫素材の石器についてはカウントされていない。敲石類の層別出土状況については、(25) 敲石類に掲載した。ここでは、遺物の中で剥片石器と縄文土器の出土状況を主に、層ごとの遺物の傾向について示した。遺物の選別を行った時点で、サヌカイトと頁岩、チャートなど石材による区別を行ったのだが、計数・記載の段階で若干の混乱を生じ、サヌカイトと頁岩の区分に関しては正確な数値とはいえないため、チャートとそれ以外の石材に分けてのまとめとする。自然石として計数したものは、大半が岩陰出土のチャート角礫だが、砂岩礫も若干量計数されていると考えられる。また、石器の認定を行ったのが、発掘調査終了直後の段階であるため、一定量の偽石器も混在した状態で計数されている。

以上の点で不十分ではあるが、層ごとのおおよその遺物出土の様相は把握できる。各層ともチャートが主な石材で圧倒的多数を占めるが、層ごとに微妙な違いがあり、縄文時代以降（Ⅶ層以上）でチャートの比率が低くなっている。

(1) ナイフ形石器（Fig.93～97）

45～99と114～116がナイフ形石器である。図示した58点中、チャートが54点、頁岩が3点、石英が1点で、サヌカイト製のナイフ形石器は認められない。

実測図の提示は出土した層の順とした。本来、ナイフ形石器の所属する時期に堆積したと考えられるⅩ層以下とその上層のⅨ層からは、45（Ⅺ）・46（Ⅻ）、47（Ⅹ）、48・49（Ⅸ）の5点、細石刃盛行期のⅧ層（Ⅷ-a・Ⅷ-b）からは50～70と114～116の24点、縄文時代の堆積であるⅦ層からは71～91の21点、それ以外の層あるいは層不明資料が92～99の8点である。

原位置に近いもの3点（Ⅻ～Ⅹ層）、細石刃文化期の再堆積24点（Ⅷ-a・Ⅷ-b層）、縄文時代の再堆積21点という遺物の出土層位の在り方は、斜面のより高所が侵食され低所へ堆積するという作用が繰り返されたことを示している。斜面上部の過去に堆積した土こそが、唯一の堆積母材なのである。ナイフ形石器の出土の様相は、この岩陰周辺の堆積環境と堆積母材がどこから供給され、どこに堆積したのかについて如実に物語っている。

このような出土状況ゆえに、出土層位で遺物の細かい時期を特定することは困難である。ナイフ形石器の時期を確定するのは石器自体の技術・形態ということになるが、石器形態から、これらの石器には明らかに2時期以上の資料が混在するという指摘と石器形状から時期の区分を行うことは困難であるという大きく2種類の指摘を頂いた。この違いは研究対象とする地域の石器相の違いを反映しているといえる。

中四国ではナイフ形石器の形態から国府型ナイフ形石器の時期から小型化したナイフ形石器の時期へと変遷するという編年が提示されていたものの、層位的な裏づけはなかった。しかし、近年、南九州でナイフ形石器の小型化する時期の良好な資料検出例が増加しており、ナイフ形石器文化終末期の資料が、層の裏づけを伴って分離されようとしている。近年の南九州の類例（鹿児島県西ノ原B遺跡など）[※1)]を元に判断すれば、当遺跡出土ナイフ形石器には、AT上位のナイフ形石器盛行期とナイフ形石器終末の2時期の資料を含む可能性もある。

ただ、南四国特に中央部については類例となる資料の全くない状況下で資料の正確な所属時期の判別を行うことは困難である。

石器の所属時期の問題はさておき、ナイフ形石器の加工部位、形状、大きさなどいくつかの指標をもとにした分類は可能である。

ナイフ形石器分類基準

ナイフ形石器については、1～4類に分類した。二側縁加工のナイフ形石器を1類とする。刃部長がおおむね1/2以上のものを1-a類、1/2未満のものを1-b類、刃部位置が左右の側縁ではなく両側縁に挟まれた辺に形成されるものを1-c類とする。また、加工部位が一側縁の1/2以上にわたるものを2類とし、1類同様刃部長により2-a類・2-b類の区別をする。また、刃部位置が1-c類と同様なものを2-c類とした。2-c類の平面形は台形状を呈している。3類は二次加工が基部周辺に限定されるもので、4類は基部及び先端部に限定された加工が施されるものである。この分類方法では、

45
46
47
48
49
50
51
52
55
56
53
54
57
58
59
60
61
62
63
0
5cm

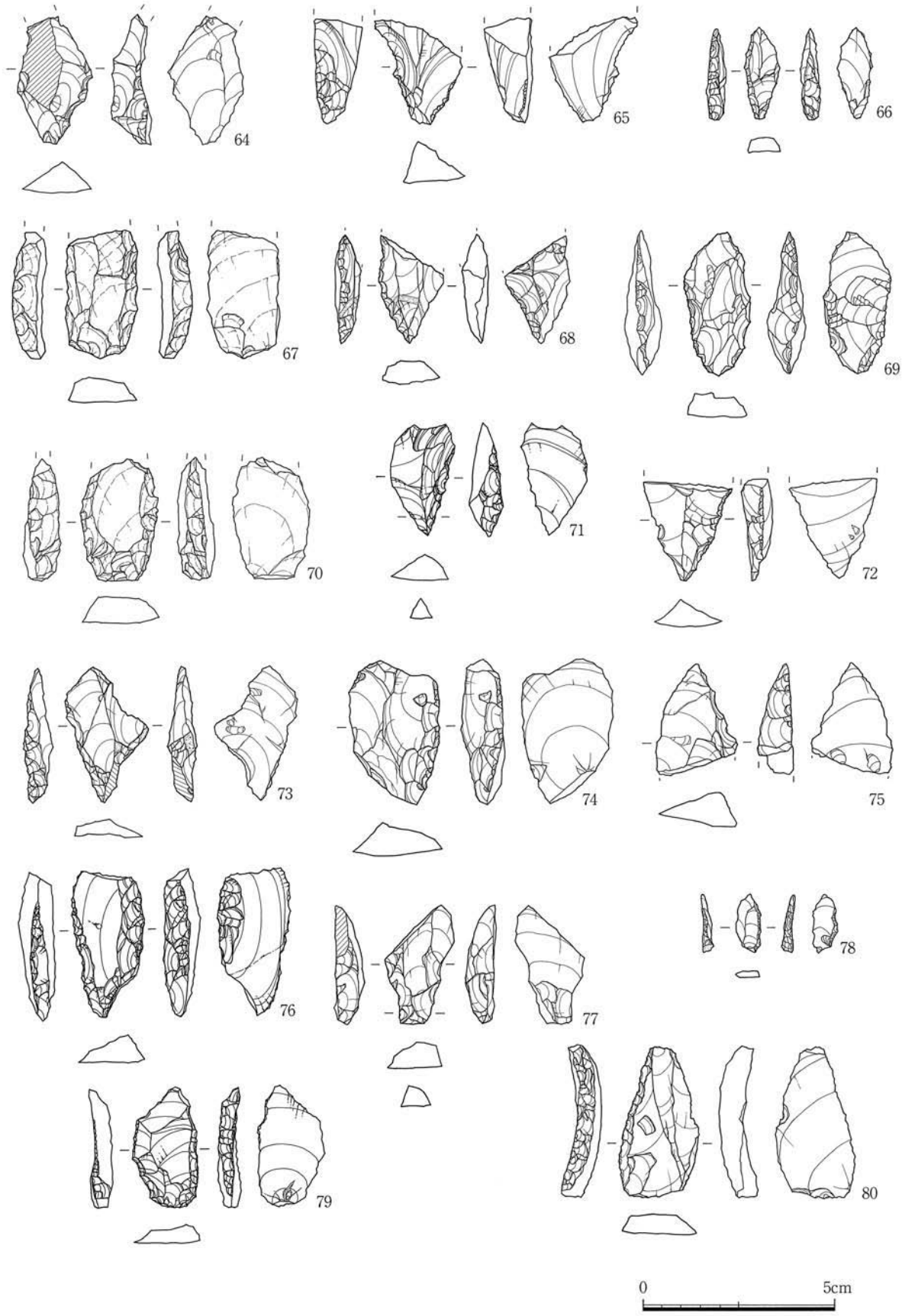


Fig. 94　ナイフ形石器②（Ⅷ-a・Ⅶ層）

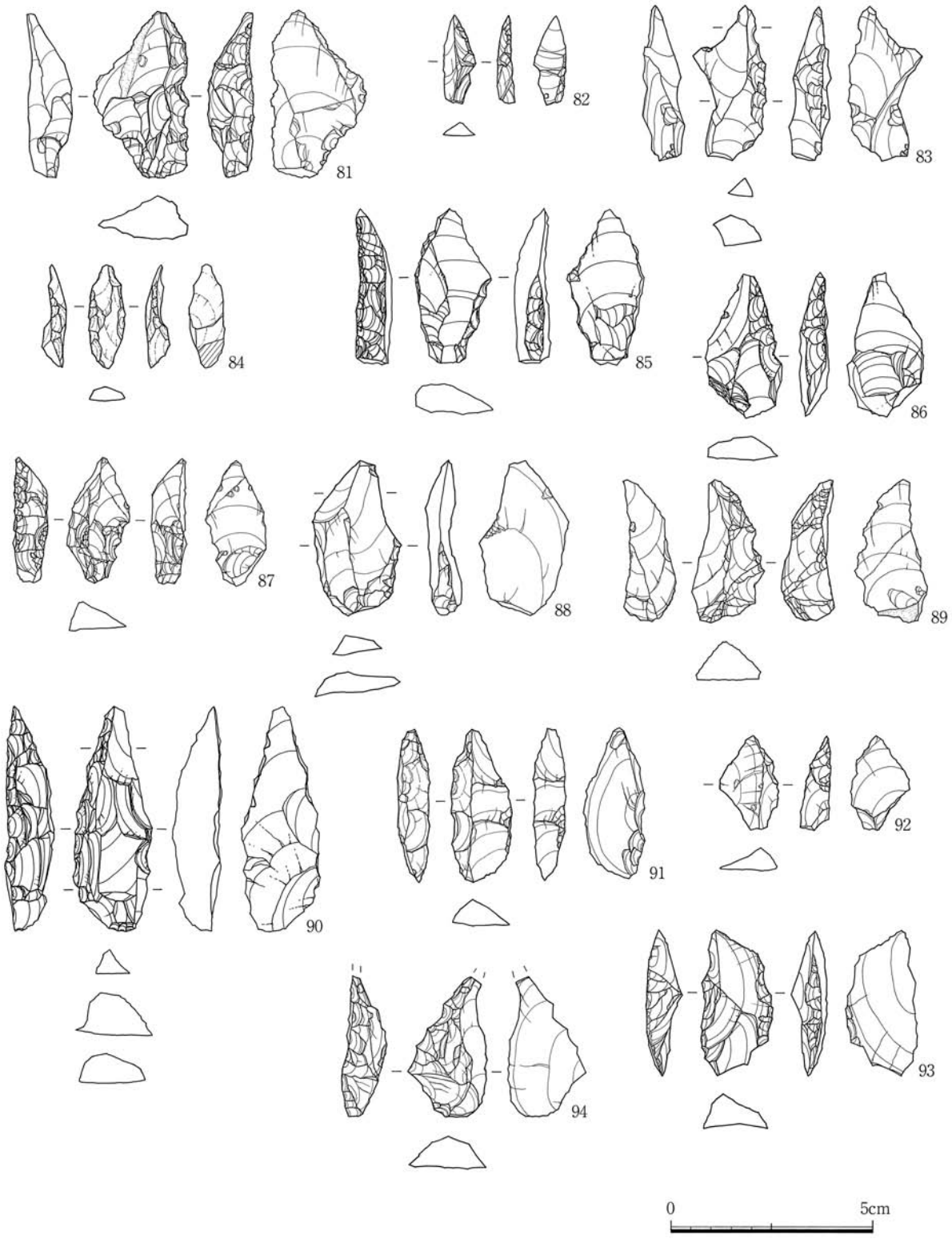


Fig. 95　ナイフ形石器③（Ⅶ及びその他の層）

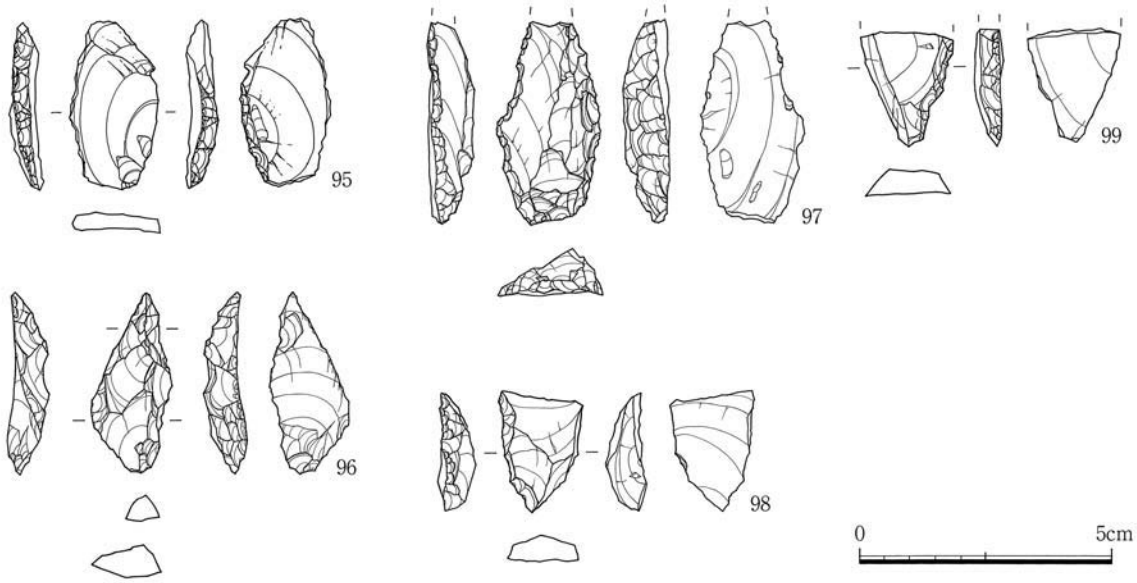


Fig. 96　ナイフ形石器④（その他の層）

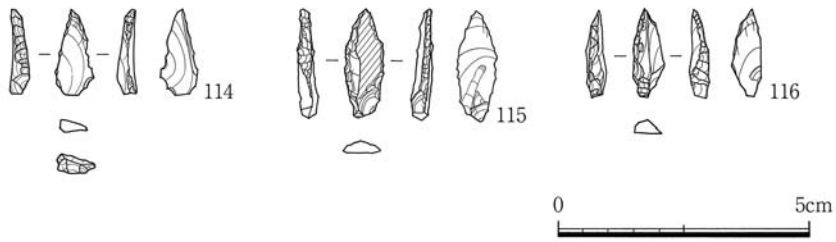


Fig. 97　ナイフ形石器⑤（小型のナイフ形石器）

1-a類3点（5.5%）、1-b類22点（40%）、1-c類1点（1.8%）、2-a類16点（29%）、2-b類8点（14.5%）、2-c類1点（1.8%）、3-a類2点（3.6%）、4類2点（3.6%）となる。

二側縁に加工のある1類・4類28点に対し、一側縁のみの加工である2類・3類は27点と、ほぼ1：1の比率である。チャートが大半を占めるという石材の特質により、剥片の取得段階で節理面・剥離面・切断面など二次加工の必要のない辺や部位が残る例もあり、そういった面は未加工のまま残して利用する場合が多い。こういった石材の特殊性を勘案すると、2-b類や2-c類もむしろ二側縁加工に近い形状を示していると考えられ、二側縁加工あるいは未加工の辺を二次加工のかわりに利用した個体が合計37点・67%を占める。

完形品40点における平均値は、長さ3.28㎝・幅1.67㎝・厚さ0.82㎝・重さ3.77gと比較的小型の資料群だという印象を受ける。長幅比は0.51で長さ：幅はほぼ2：1の比率である。だが、この資料群には重さ1g以下の小型の一群や形態が他の資料と異なる重さ10g以上の資料も含まれており、それを除く平均値の長さ3.43㎝・幅1.83㎝・厚さ0.88㎝・重さ4.13g・長幅比0.54が奥谷南遺跡の主なナイ

フ形石器の姿を示す。長さ2㎝から4㎝の範囲に82%、重さ2g～8gの間に78%の資料が含まれる。

加工部位を基準にした分類に対して、大きさに着目した場合、これらの平均的なナイフ形石器に対して小型ナイフ形石器はその平均値が長さ1.83㎝・幅0.78㎝・厚さ0.41㎝・重さ0.50gと他の資料とは大きく異なる数値を示す。

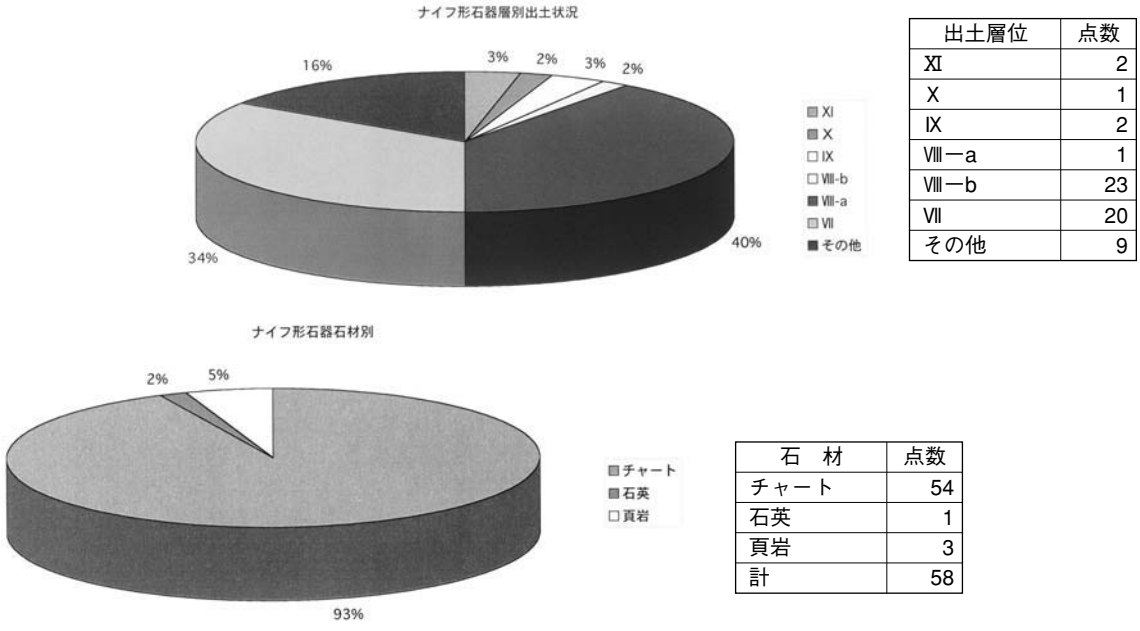
辺の二次加工は刃つぶしあるいは急角度剥離による。腹面側からの正方向の剥離により刃つぶし加工を行ったものが大半だが、反方向の二次加工の認められる例もある。78・82などの小型のナイフ形石器を除くと、明らかな二次加工としての反方向の剥離が認められるのは95が唯一の例である。他の資料（68・69・77など）に見られる反方向の剥離は刃つぶし・急角度剥離のいずれでもなく、平垣剥離あるいは樋状に腹面中央に延びる押圧剥離にも似た剥離であり、石器成形に伴う加工痕では無く、使用に際しての固定に伴い生じた剥離痕だと考えていたが、よく分からない。

55・66・96の3点だけで例は少ないが、稜上からの二次加工痕が残る例もある。いずれも稜上・正の方向で腹面の方向に向かった剥離である。厚みを減じる目的ではない。

石材の面から出土ナイフ形石器を見れば、チャート54点、頁岩3点、石英1点であり、91%と圧倒的にチャート製のものが多い。剥片剥離方向では縦長剥片素材のもの41点に対し、横長剥片素材のものが14点と約75%が縦長剥片素材である。縦長剥片が多いものの、背面と腹面の剥離方向が同一方向である例は少なく、むしろ背面側と腹面側の剥離方向の異なる例が多い。横長剥片[※2)]はあるものの連続して剥片をはぎ取る瀬戸内技法のナイフ形石器であるといえる資料はない。

註1.『 杁堀遺跡・西ノ原B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター　2001年3月

2. 角張淳一氏からは剥離技術の違いにより、瀬戸内技法ではないが瀬戸内的な様相のものとそうではないものに分離できるという指摘を頂いた。（Ⅵ章 付編 第3節参照）



出土層位	点数
XI	2
X	1
IX	2
Ⅷ－a	1
Ⅷ－b	23
Ⅶ	20
その他	9

石　材	点数
チャート	54
石英	1
頁岩	3
計	58

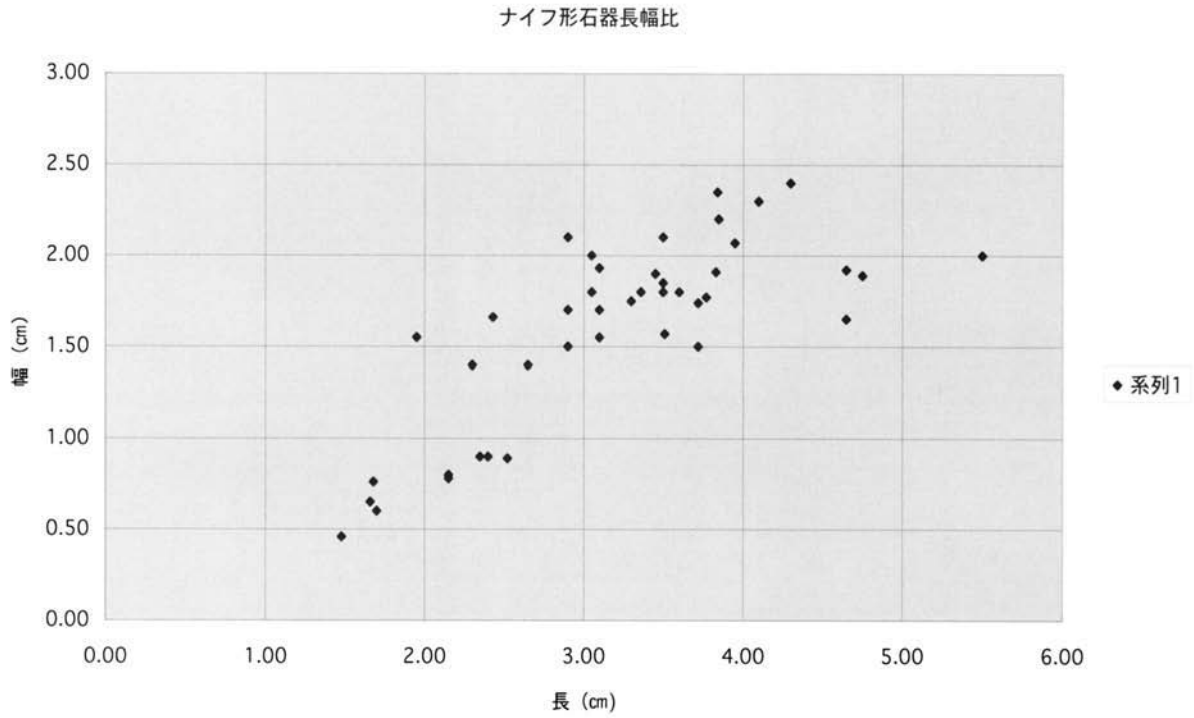
Fig. 98　ナイフ形石器　石材別・層別出土状況

Tab. 8　ナイフ形石器　計測・分類表①

Fig.番号	図版番号	層位	平面	石質	重(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	長幅比	幅厚比	二側縁加工	背部加工	加工部位	剥片方向	左側縁	右側縁	稜上	刃部位置	分類	残存部位
93	45	XI	1号岩陰	チャート	1.40	2.65	1.40	0.80	1.89	1.75	○		二側縁加工	タテ	正+折	正+セ	−	右側縁向こう	1−b	完形
93	46	XII	1号岩陰	チャート	7.90	4.30	2.40	1.15	1.79	2.09		○	背部加工	タテ	折	正	−	左側縁向こう	2−b	完形
93	47	X	2号岩陰	チャート	4.70	4.65	1.65	1.25	2.82	1.32		○	背部加工	ヨコ	刃	正	−	左側縁	2−a	完形
93	48	IX	1号岩陰	チャート	5.15	3.84	2.35	0.94	1.63	2.50		○	一側縁+折れ面	ヨコ	正+反	折	−	左側縁向こう	2−b	完形
93	49	IX	1号岩陰	チャート	6.20	4.65	1.92	0.91	2.42	2.11	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	左側縁向こう	4	ほぼ完形
93	50	VIII−b	1号岩陰	チャート	1.70	1.95	1.55	0.65	1.26	2.38		○	背部加工	タテ	刃	正	−	向こう〜左側縁	3	完形
93	51	VIII−a	1号岩陰	チャート	0.50	2.40	0.90	0.35	2.67	2.57		○	背部加工	タテ	未	反	−	右側縁向こう	4	完形
93	52	VIII−a	1号岩陰	チャート	2.50	2.90	1.70	0.65	1.71	2.62		○	背部加工	タテ	正	刃	−	右側縁	2−b	完形
93	53	VIII−a	1·2号岩陰中間	頁岩	7.20	4.75	1.89	1.00	2.51	1.89	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	左側縁向こう	1−b	完形
93	54	VIII−a	1号岩陰	チャート	4.37	3.36	1.80	0.81	1.87	2.22		○	背部加工	タテ	正	反	−	向こう	1−c	完形
93	55	VIII−ab	1号岩陰	チャート	9.30	3.70	1.90	1.30	−	1.46	○		二側縁加工	タテ	正	正	左·正	右側縁向こう	1−b−2	先端部欠
93	56	VIII−a	1号岩陰	チャート	0.50	1.10	1.15	0.40	−	2.88	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	−	1−b−小	先端部欠
93	57	VIII−a	1号岩陰	チャート	0.20	1.66	0.65	0.26	2.55	2.50	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	右側縁向こう	1−b−小	完形
93	58	VIII−a	1号岩陰	チャート	2.50	2.65	1.50	0.70	−	2.14		○	背部加工	タテ	正	未	−	右側縁	2−a	先端部欠
93	59	VIII−a	2号岩陰	チャート	2.08	2.20	1.30	0.60	−	2.17		○	背部加工	タテ	正	セ	−	右側縁	2−a	基部のみ
93	60	VIII−a	2号岩陰	チャート	2.60	2.95	1.20	0.60	−	2.00	○		二側縁加工	ヨコ	正	正	−	−	1−b	先端部欠
93	61	VIII−a	2号岩陰	チャート	3.14	2.90	1.50	0.80	1.93	1.88		○	背部加工	タテ	正	未	−	左側縁	2−a	ほぼ完形
93	62	VIII−a	2号岩陰	チャート	4.30	3.05	2.00	0.85	1.53	2.35	○		二側縁加工	タテ	面+正	正	−	右側縁向こう	1−b	完形
93	63	VIII−a	2号岩陰	チャート	4.50	3.10	1.93	0.91	1.61	2.12	○		二側縁加工	タテ	正	反?	−	右側縁向こう	1−b	完形?
94	64	VIII−a	2号岩陰	チャート	4.14	3.30	1.90	1.10	−	1.73		○	背部加工	タテ	未	前·正	−	右側縁向こう	2−b	先端部欠
94	65	VIII−a	2号岩陰	チャート	4.45	2.72	2.31	1.22	−	1.89		○	背部加工	ヨコ	正	未	−	右側縁	2−a	基部のみ
94	66	VIII−a	2号岩陰	チャート	0.90	2.35	0.90	0.50	2.61	1.80	○		二側縁加工	ヨコ	正	正→	右·正	右側縁向こう	1−b−2小	完形
94	67	VIII−a	2号岩陰	頁岩	5.70	3.30	1.90	0.90	−	2.11	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	−	1−b	先端部欠
94	68	VIII−a	2号岩陰	チャート	2.10	2.80	1.69	0.70	−	2.41		○	背部加工	ー?	正	(反?)	−	右側縁	2−a	先端部欠
94	69	VIII−a	2号岩陰	チャート	5.80	3.72	1.74	0.66	2.14	2.64	○		二側縁加工	ヨコ	正	正(+反?	−	左側縁向こう	1−b	完形
94	70	VIII−a	2号岩陰	頁岩	4.80	3.15	2.05	1.00	−	2.05	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	−	1−b	先端部欠
94	71	VII	1号岩陰	チャート	2.60	2.90	1.70	0.90	1.71	1.89		○	背部加工	タテ	未	正	−	左側縁	2−a	完形
94	72	VII	1号岩陰	チャート	3.00	2.60	2.35	0.81	−	2.90		○	背部加工	タテ	未	正	−	左側縁	2−a	基部のみ
94	73	VII	1号岩陰	チャート	2.90	3.50	2.10	0.80	1.67	2.63		○	背部加工	タテ	正	未	−	右側縁向こう	1−b	完形
94	74	VII	1号岩陰	チャート	7.90	3.70	2.35	1.15	−	2.04		○	背部加工	タテ	正	未	−	右側縁	2−a	先端部欠

Tab. 8　ナイフ形石器　計測・分類表②

Fig.番号	図版番号	層位	平面	石質	重(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	長幅比	幅厚比	二側縁加工	背部加工	加工部位	剥片方向	左側縁	右側縁	稜上	刃部位置	分類	残存部位
94	75	Ⅶ	2号岩陰	チャート	3.70	2.90	2.10	0.90	1.38	2.33		○	背部加工	タテ	未	正	−	左側縁	2−a	完形
94	76	Ⅶ	1号岩陰	チャート	6.00	3.80	1.90	1.00	−	1.90	○		二側縁加工	ヨコ	正	正+折	−	左側縁向こう	1−b	先端部欠
94	77	Ⅶ	2号岩陰	チャート	3.10	3.05	1.80	0.80	1.69	2.25	○		二側縁加工	タテ	セ+正	正	−	右側縁向こう	1−b	完形
94	78	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.26	1.48	0.46	0.32	3.22	1.44	○		二側縁加工	タテ	反	正	−	左側縁向こう	1−b−小	完形
94	79	Ⅶ	2号岩陰	チャート	2.90	3.10	1.70	0.60	1.82	2.83	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	左側縁向こう	1−a	完形
94	80	Ⅶ	2号岩陰	珪質頁岩	5.10	3.95	2.07	0.97	1.91	2.13		○	背部加工	タテ	正	未	−	右側縁	2−a	完形
95	81	Ⅶ−SR	2号岩陰	チャート	7.50	4.10	2.30	1.10	1.78	2.09		○	背部加工	タテ	未	正	−	左側縁向こう	2−b	完形
95	82	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.60	2.15	0.78	0.45	2.76	1.73	○		二側縁加工	タテ	前・反	正+未	−	左側縁向こう	1−a−小	完形
95	83	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	3.90	3.77	1.77	0.98	2.13	1.81		○	背部加工	タテ	折(未)	正	−	左側縁向こう	2−b	完形
95	84	Ⅶ−YR	2号岩陰	石英	1.00	2.52	0.89	0.59	2.83	1.51	○		二側縁加工	ヨコ	正	正	−	左側縁向こう	1−b−小	完形
95	85	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	5.90	3.83	1.91	0.90	2.01	2.12	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	右側縁向こう	1−b	完形
95	86	ⅦSR3	2号岩陰	チャート	4.00	3.50	1.85	0.75	1.89	2.47		○	背部加工	タテ	未	正	−	左側縁向こう	2−b	ほぼ完形
95	87	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	3.10	3.10	1.55	0.90	2.00	1.72	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	左側縁向こう	1−b	完形
95	88	Ⅶ−2	1・2号岩陰中間	チャート	5.00	3.85	2.20	0.95	1.75	2.32		○	基部加工	タテ	未	正	−	左側縁・右側縁向こう	2−b	完形(ほぼ)
95	89	後・不明	1号岩陰	チャート	5.70	3.50	1.80	1.25	1.94	1.44		○	背部加工	タテ	未	正	−	左側縁?	1−b	完形
95	90	Ⅶ−2	1・2号岩陰中間	チャート	10.90	5.50	2.00	1.20	2.75	1.67	○		二側縁加工	タテ	正	?	−	右側縁向こう	3−a	完形
95	91	Ⅶサイカ	1・2号岩陰中間	チャート	3.60	3.72	1.50	0.82	2.48	1.83	○		二側縁加工	ヨコ	正	?	−	右側縁	2−a	完形
95	92	検出時	1号岩陰	チャート	1.50	2.30	1.40	0.70	1.64	2.00		○	背部加工	タテ		正	−	左側縁向こう	2−a	完形
95	93	要確認	2号岩陰	チャート	3.75	3.60	1.80	0.90	2.00	2.00	○		二側縁加工	ヨコ	正	正	−	向こう	2−a	完形
95	94	検出時	2号岩陰	チャート	4.60	3.45	1.90	1.10	1.82	1.73		○	背部加工	ヨコ	正	未	−	右側縁	2−a	ほぼ完形
96	95	後・KS	2号岩陰南	チャート	3.10	3.30	1.75	0.65	1.89	2.69	○		二側縁加工	ヨコ	正	反	−	右側縁向こう	1−b	完形
96	96	排土	2号岩陰南	チャート	3.20	3.51	1.57	0.85	2.24	1.85	○		二側縁加工	タテ	正	正	左・正	右側縁向こう	1−b	完形
96	97	後・②	2号岩陰南	チャート	6.51	3.96	2.05	0.91	−	2.25	○		二側縁加工	ヨコ	正	正	−	左側縁向こう	1−a	先端部欠
96	98	⑥	2号岩陰南	チャート	2.30	2.43	1.66	0.81	1.46	2.05		○	一側縁+折れ面	タテ	正	折断	−	向こう	2−d	完形
96	99	表採	不明	チャート	2.20	2.25	1.90	0.60	−	3.17		○	背部加工	ヨコ	未	正	−	左側縁	2−a	基部のみ
97	114	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.30	1.68	0.76	0.36	2.21	2.11	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	不明	1−b−小	完形
97	115	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.50	2.15	0.80	0.45	2.69	1.78	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	不明	1−b−小	完形
97	116	Ⅷ	2号岩陰	チャート	0.30	1.70	0.60	0.40	2.83	1.50	○		二側縁加工	タテ	正	正	−	不明	1−b−小	完形



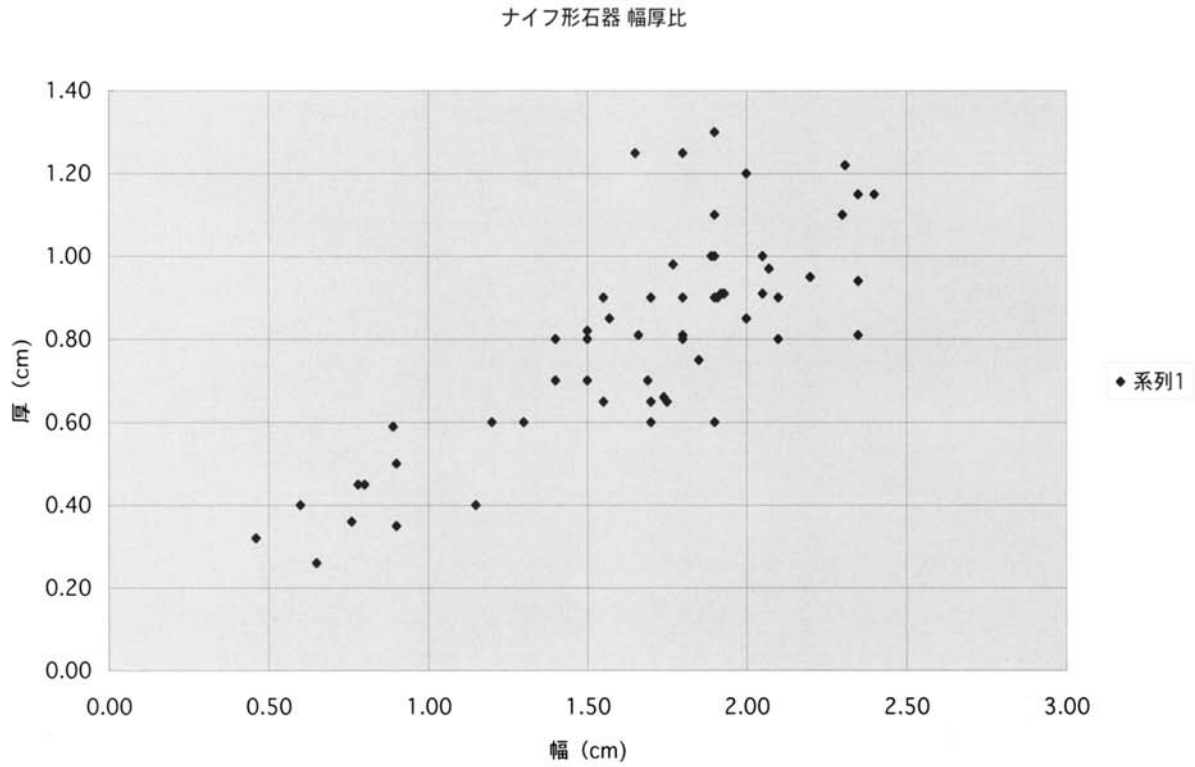
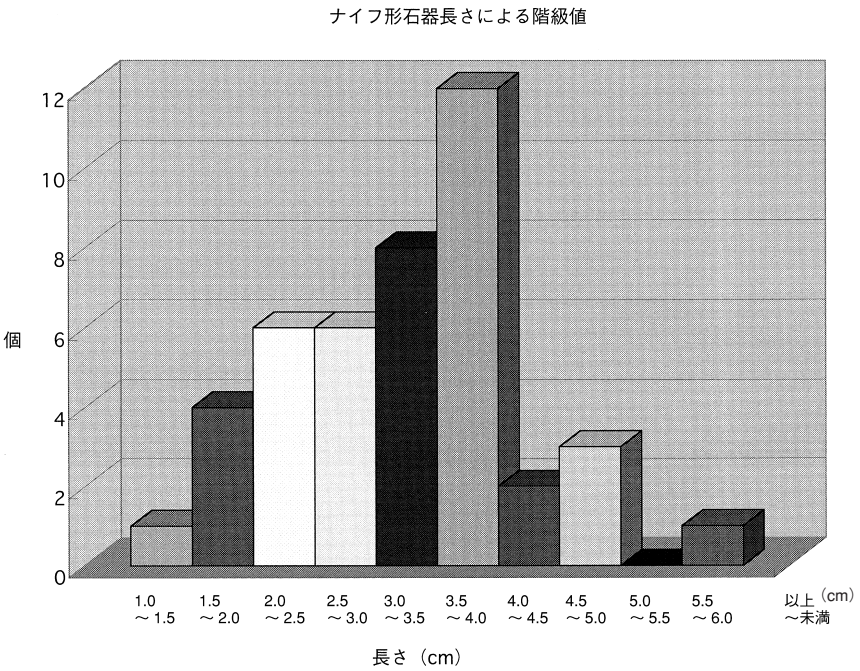
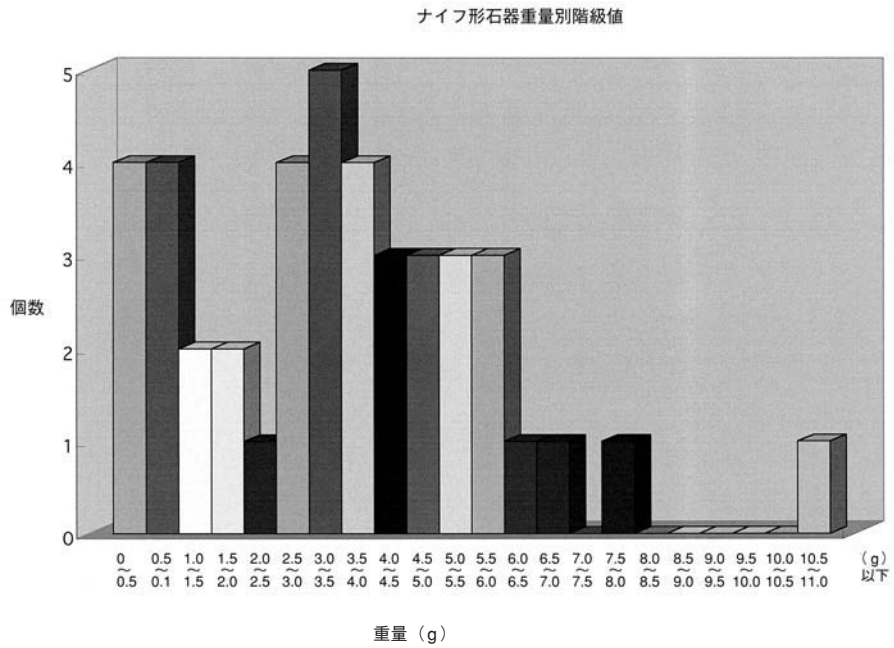


Fig. 99　ナイフ形石器の形態的特徴



長　さ	点数
1.0cm未満	0
1.0cm以上1.5cm未満	1
1.5cm以上2.0cm未満	4
2.0cm以上2.5cm未満	6
2.5cm以上3.0cm未満	6
3.0cm以上3.5cm未満	8
3.5cm以上4.0cm未満	12
4.0cm以上4.5cm未満	2
4.5cm以上5.0cm未満	3
5.0cm以上5.5cm未満	0
5.5cm以上	1



重　量	点数
0.5g以下	4
0.5g～1.0g以下	4
1.0g～1.5g以下	2
1.5g～2.0g以下	2
2.0g～2.5g以下	1
2.5g～3.0g以下	4
3.0g～3.5g以下	5
3.5g～4.0g以下	4
4.0g～4.5g以下	3
4.5g～5.0g以下	3
5.0g～5.5g以下	3
5.5g～6.0g以下	3
6.0g～6.5g以下	1
6.5g～7.0g以下	1
7.0g～7.5g以下	0
7.5g～8.0g以下	1
8.0g～8.5g以下	0
8.5g～9.0g以下	0
9.0g～9.5g以下	0
9.5g～10.0g以下	0
10.0g～10.5g以下	0
10.5g～11.0g以下	1

Fig. 100　ナイフ形石器（完形品）の重量・長さの階級値

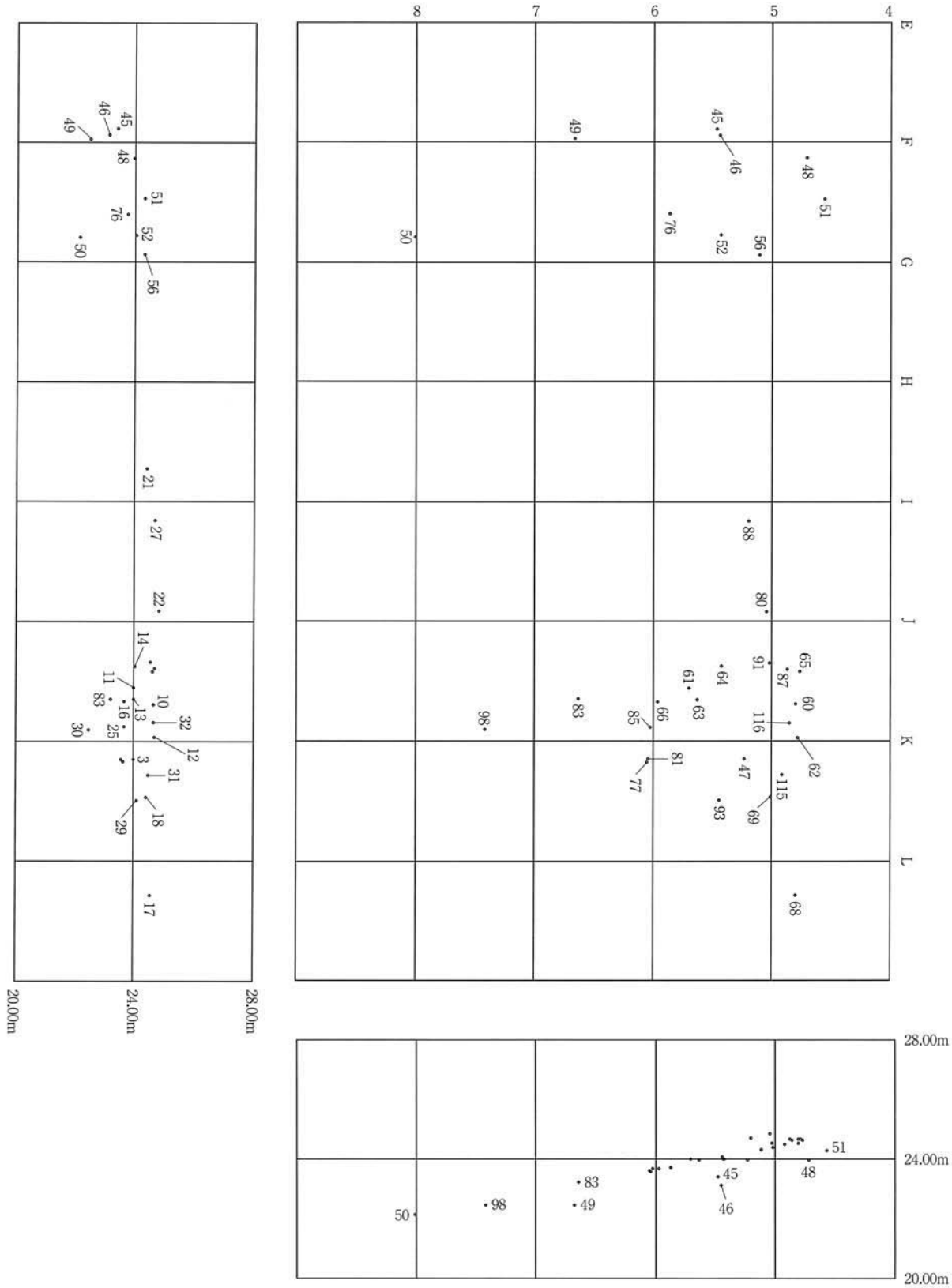


Fig. 101　ナイフ形石器出土地点

（2）角錐状石器（Fig.102・103）

100～113の14点の角錐状石器が出土している。1点のみサヌカイト製の角錐状石器（108）が認められるが、それ以外は全てチャート製である。サヌカイト製の角錐状石器は風化が著しい。

出土層位の点で注目されるのは、1号岩陰XII層から出土した100の角錐状石器である。横長剥片素材であり、XII層から出土した唯一器種の明らかな石器で、これ以外は、XII層より上の層から出土している。2つの岩陰双方に分布するが、1号岩陰からはXII層だけではなく、黄褐色土及び連続するVIII-b層から出土するなど、2号岩陰（VIII-a層からVII層にかけて出土）に較べ１号岩陰の方がより下層からの出土を示している。

角錐状石器の石材の大半を占めるチャートには節理が発達しており、これらの節理面については底面の一部に利用する例もみられる。これは、ナイフ形石器の場合も同様である。

今回出土した角錐状石器の中で完形品の大きさの平均値は、長さ4.19㎝・幅1.59㎝・厚さ1.24㎝・重さ7.70gである。長さ3.0㎝から5.6㎝、幅1.0㎝から2.8㎝、厚さ0.7㎝から1.9㎝の範囲に収まる。長さと重さを大きさの指標とすると、3㎝代と4㎝代が各4個体、5㎝代が2個体と、3～4㎝の長さの比較的小型の資料が主体となる。

辺の2次加工は急角度剥離による。加工は腹面側からの正方向の剥離であり、二側縁の辺全体に加工を施すことにより、鋭利な尖頭部を形成する。稜状加工は厚みを減ずる意図を以て主に反方向のもののみが施されている。稜状正方向の剥離は106及び110・113に認められ、それ以外には認められない。

これらの角錐状石器は、大きさ･形態や加工部位、石材等様々な指標から類型化が可能である。幅に対する厚さの比率（幅厚比－ここでは幅／厚）で扁平率を算出すると、より扁平な個体を抽出できる。幅厚比2.0以上の扁平な角錐状石器（101・111・112）とそれ以外の甲高の角錐状石器に分けられる。また、幅厚比2.0未満の資料の中にも、比較的小型（重量3～5g前後）で断面が四角形の形状を持つ資料（106・109）、尖頭部が底面から浮き上がっている資料（102）、先端を構成する角の鋭利さが他の資料と比較すると鈍く、スクレイパー類など他器種の可能性も残る資料（107）、断面三角形で甲高・鋭利な尖頭部を形成する資料（100・103・104・105・108・110・113）と、数少ない資料中でもいくつかのグループに類別することは可能である。

便宜的にグループに呼称を付け、簡単に特徴をまとめる。

1類・・・甲高な角錐状石器（幅厚比2.0未満）

2類・・・扁平な角錐状石器（幅厚比2.0以上）

1類A　　100・103・104・105・108・110・113

今回の出土資料の中で最も多い断面三角形を呈する角錐状石器。長幅比2.5から3.5前後の縦に長い形状のものが多い。縦長剥片素材と横長剥片素材の比率は2：5で横長剥片が多い。108のサヌカイト製角錐状石器もこのグループに属し、長幅比3.79と今回出土した角錐状石器の中で最も縦に長い形状である。100が11.71g、108が4.4gで、それ以外は5～10gの範囲に分布するなど大きさも似通っている。側縁形成の剥離単位を考えた場合、100は分離した方がよいかもしれない。

1類Ｂ　106・109

断面四角形の角錐状石器、重量は3.33g（106）、5.11g（109）。基部に面を持ち、底面は節理面を利用する。今回の出土資料の中でも小型の部類に入る。

1類C　102

先端が底面から浮き上がるタイプの角錐状石器。側縁形成の剥離単位が1類Aと比較すると大きい。

1類D　107

甲高で、やや鈍い角度の尖頭部は形成するものの、長幅比が完形品の中で唯一1.5前後になるなど極めて異質な角錐状石器。スクレイパーなど異なる器種である可能性もある。

2類　101・111・112

幅厚比0.50以下の扁平な素材を用いる。角錐状石器として報告するが、ナイフ形石器など他器種の可能性も残る。この3点は横長剥片素材である。

奥谷南遺跡出土の角錐状石器として、典型的な例は1類Aあるいは1類Bであり、長幅比2.5～3.5前後で、重量5～9g前後、長さ3.3～4.6㎝前後の幅に収斂される。1類Aに分類したものの、100の角錐状石器は剥離の単位や大きさが他の1類Aの資料とは異なっており、分離して考えた方がよいかもしれない。繰り返しになるが100は唯一のⅦ層出土資料という点でも注目される。1類C・Dとした102・107は重量も13gを超えるなど、1類とした角錐状石器とは離して位置づけるべき資料である。2類については、急角度剥離を連続させ尖頭部を形成するという基準により角錐状石器とした資料だが、素材の選択（より扁平な素材を選択）が1類とは全く異なる点が注目される。

また、Fig.97に示した小型のナイフ形石器についても剥離が両側縁の先端部にまで及んで尖鋭な尖頭部を形成することから角錐状石器であるとの指摘を受けた。当初は分類に苦慮し、「小型で2次加工により尖頭部を形成する剥片石器」としていたが、加工方法や形態からナイフ形石器であり、尖頭部を形成する細かい剥離については使用痕だとの認識に至った。Fig.102と103の角錐状石器とは、明らかに剥離の大きさが異なっている。Fig.97－114～116は、当遺跡出土のナイフ形石器の中で小型の一群と同類の小型ナイフ形石器に分類できる。角錐状石器と前後するが、当初設定した図版番号のまま掲載することとしたい。

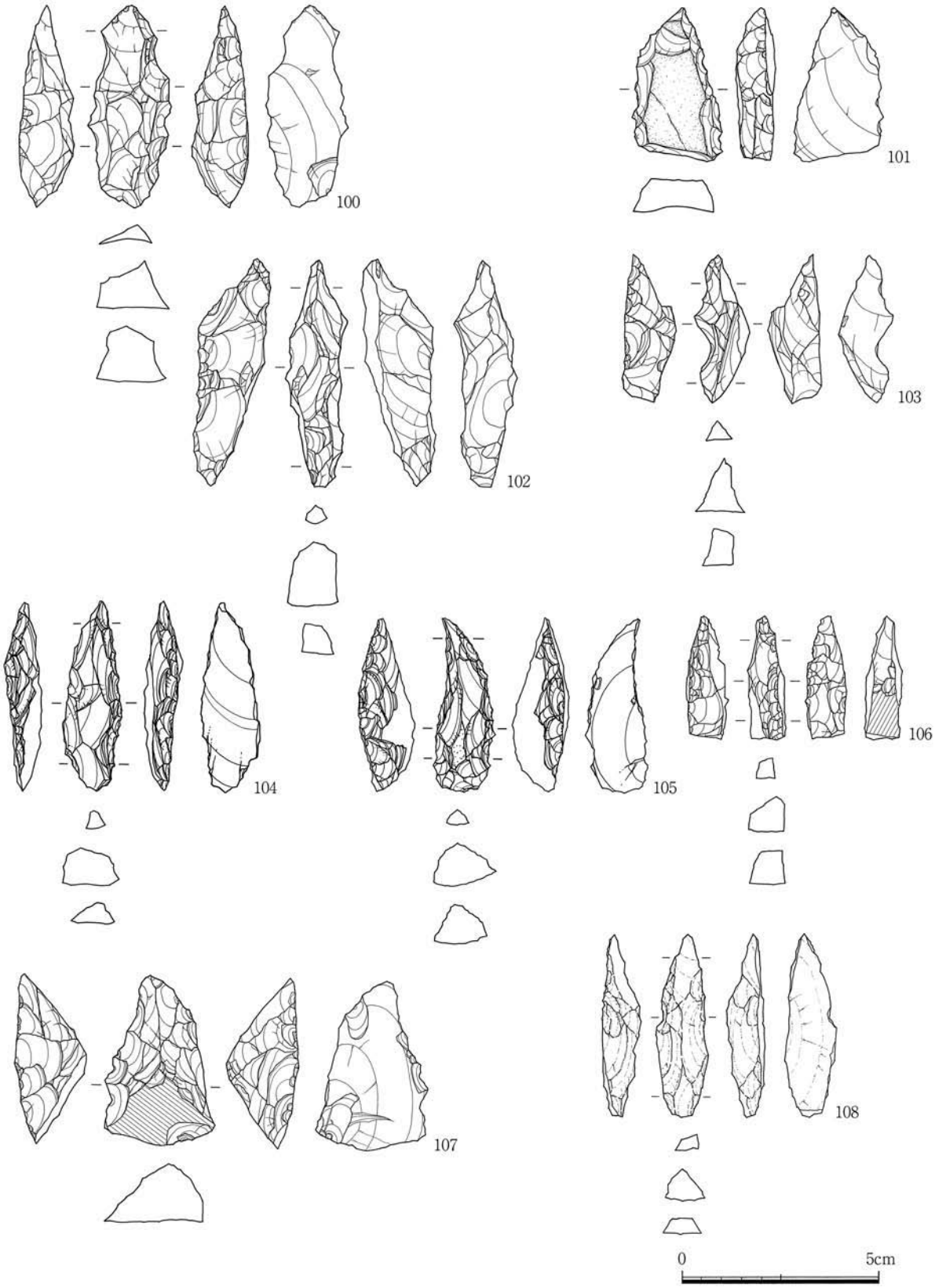


Fig. 102　角錐状石器①

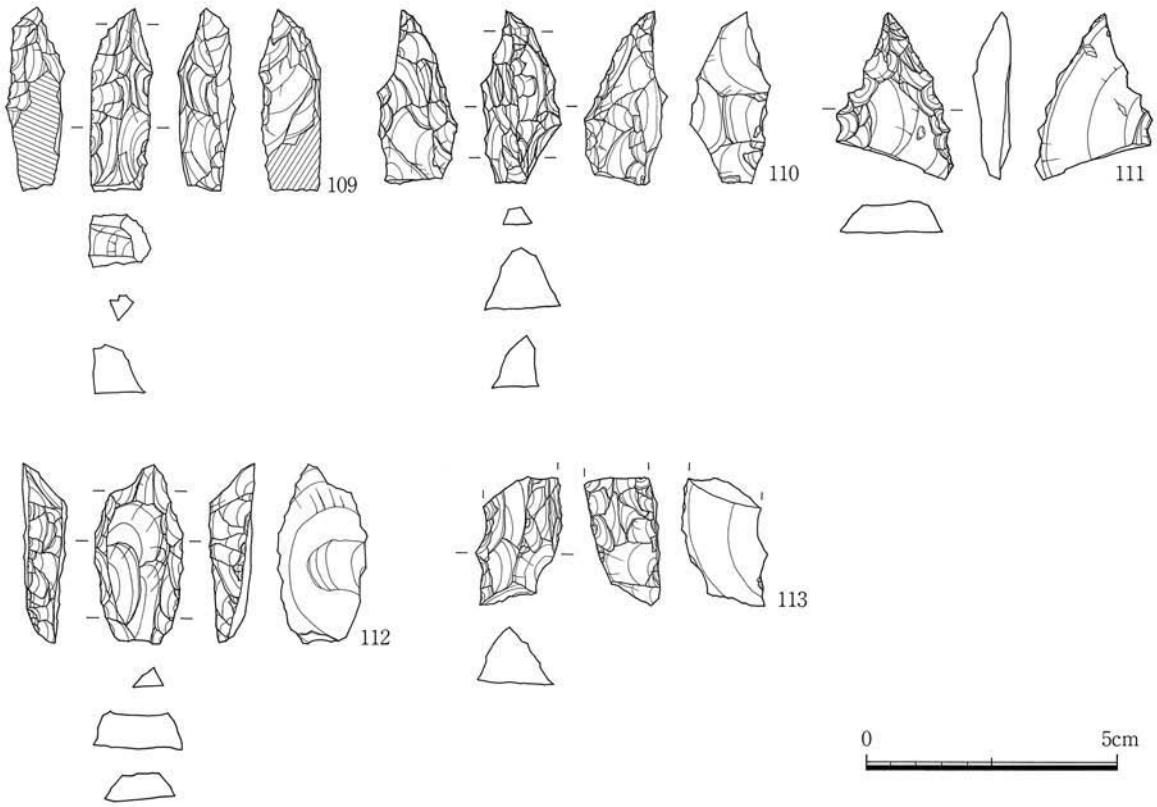
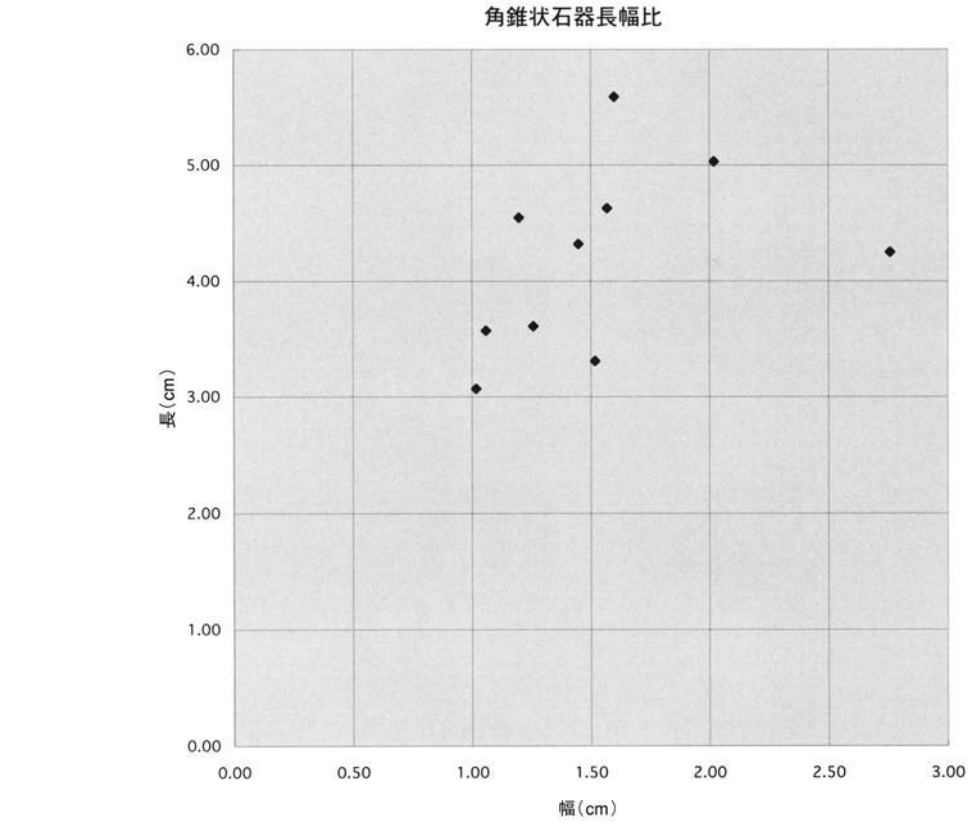


Fig. 103　角錐状石器②

Tab. 9　角錐状石器　計測・分類表

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	グリット	出土地点	石　材	重 (g)	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	長幅 比	幅厚 比	剥片 方向	残存部位	分類
102	100	XII	1号岩陰	E－6	E−6	チャート	11.71	5.03	2.02	1.46	2.49	1.38	ヨコ	完形	1類A
102	101	X	1号岩陰	E－5	EF−5No.502	チャート	9.10	3.89	2.29	0.99	−	2.31	ヨコ	基部欠損	2類
102	102	VIII−b	1号岩陰	E－6	10.6No.29	チャート	13.80	5.59	1.60	1.90	3.49	0.84	ヨコ	完形	1類C
102	103	VIII−b	1号岩陰	F－4	TR−3N	チャート	4.17	3.61	1.26	1.35	2.87	−	タテ	欠損右半	1類A
102	104	VIII−a	2号岩陰	K－5	JK−5	チャート	6.13	4.63	1.57	0.83	2.95	1.89	タテ	完形	1類A
102	105	VIII	2号岩陰	J－5	J−5	チャート	7.15	4.32	1.45	1.36	2.98	1.07	ヨコ	完形	1類A
102	106	VIII−a	2号岩陰	K－5	TR−11	チャート	3.33	3.07	1.02	1.04	3.01	0.98	タテ	完形	1類B
102	107	VIII−a	2号岩陰	J－5	JK−5	チャート	13.48	4.25	2.76	1.62	1.54	1.70	タテ	完形	1類D
102	108	VIII−a	2号岩陰	J－5	JK−5	サヌカイト	4.04	4.55	1.20	0.92	3.79	1.30	ヨコ	完形	1類A
103	109	VII−2	1号岩陰	F－6	F−6･7	チャート	5.11	3.57	1.06	1.02	3.37	1.04	タテ	完形	1類B
103	110	VII	1･2号岩陰中間	I－4	ユニット1	チャート	6.33	3.31	1.52	1.51	2.18	1.01	ヨコ	完形	1類A
103	111	VII	2号岩陰	K－5	KL−5No.58	チャート	4.30	3.28	2.35	0.69	−	3.41	ヨコ	先端部	2類
103	112	VII−SR	2号岩陰	J－6	J−6	チャート	5.92	3.55	1.76	0.78	−	2.26	ヨコ	基部のみ	2類
103	113	VII−SR3	2号岩陰	K－5	KL−5	チャート	5.37	2.50	1.54	1.41	−	1.09	ヨコ	基部のみ	1類A



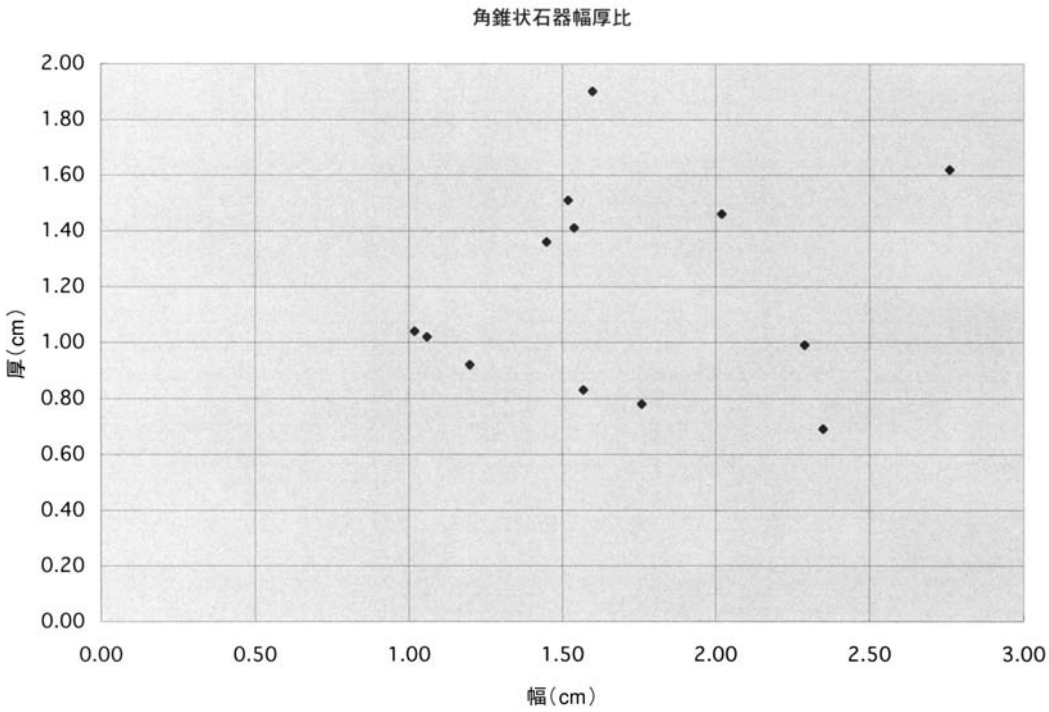


Fig. 104　角錐状石器の形態的特徴

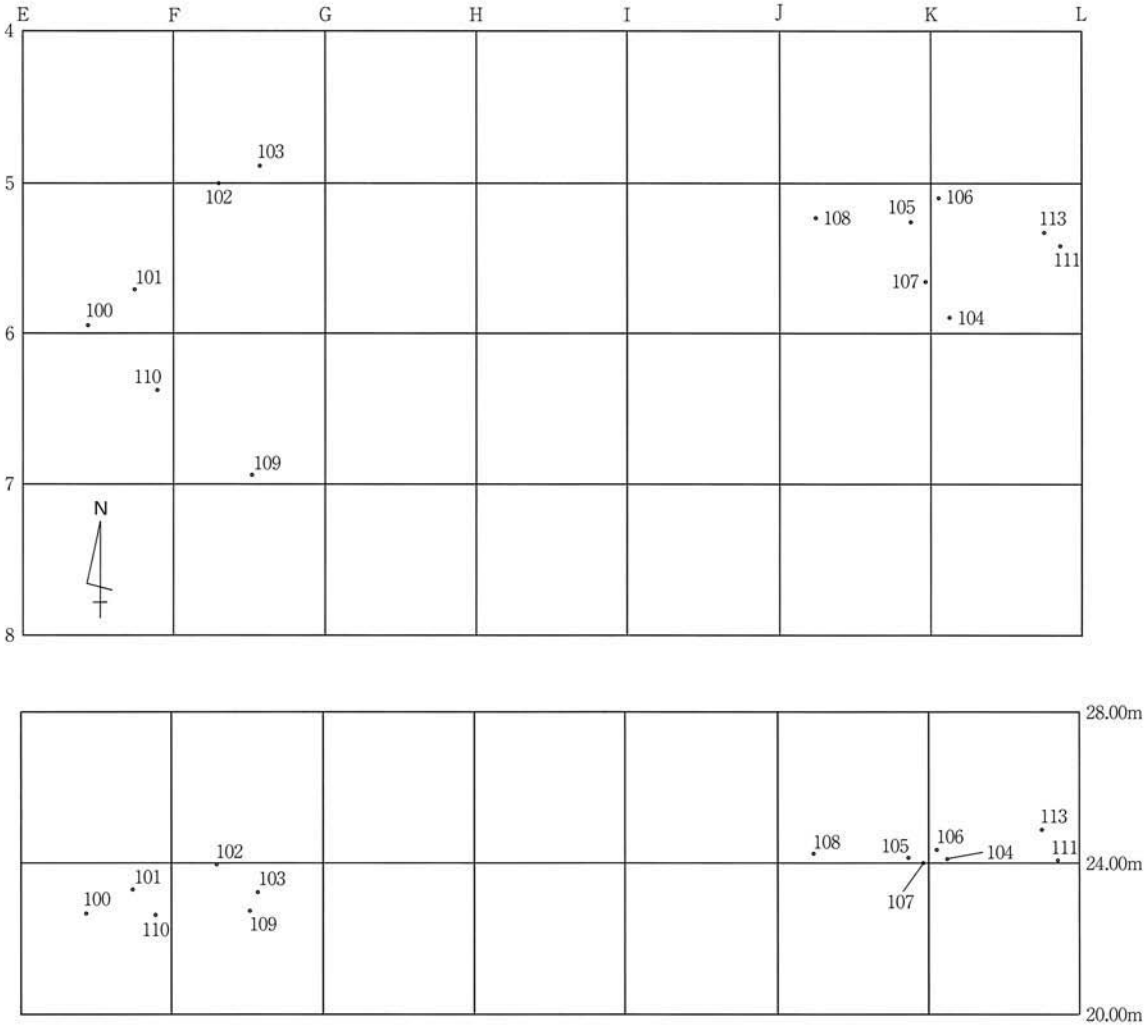


Fig. 105　角錐状石器出土地点

(3) 槍先形尖頭器（Fig.106・107）

小型の槍先形尖頭器及び中型の槍先形尖頭器で、チャート製とサヌカイト製がある。

素材・石材・形態・法量ともに多様で、旧石器時代～縄文時代草創期及び早期の資料を含んでいるものと考えられる。

石材から見ればチャート11点（117・118・120・123・124・128・131・135・136・138・140）に対しサヌカイト17点（119・121・122・125～127・129・130・132～134・137・139・141～144）の割合である。出土層位もⅩ層～Ⅷ-b層あるいはⅧ-a層の旧石器時代の堆積層（細石刃文化期あるいはその直前）出土の資料と縄文時代の堆積層（Ⅶ層）出土の資料があり、縄文時代の資料は大半が草創期に属すると考えられるのだが、他遺跡の報告例（不動ヶ岩屋洞穴[※1)]）と比較すると縄文早期に属する可能性の強い資料（132）もある。報告書での掲載順は他器種同様、下層から上層へと出土した層の順とした。

尖頭器の出土地点に関してはFig.109に示した。1号岩陰と2号岩陰の双方に分布するものの、1号岩陰のグリッドF-5周辺に集中する傾向をみてとることができる。注目すべきことは、地点の明らかなチャート製槍先形尖頭器9点のうち5点がF-5付近から検出されていることであり、しかも出土層位はⅩ層・Ⅷ-b層・Ⅷ-a層のいずれかである。特に、117と118が出土した状況については、調査の過程ではっきりと確認を行っている。117と118の槍先形尖頭器は褐色土であるⅧ-a層と褐色土から黄褐色土にかけての漸移層であるⅧ-b層の細石刃文化期の石器の集中する層の調査後、黄褐色土との境界付近（117はⅩ層、118はⅧ-b層として取り上げたがともにⅩ層とⅧ-b層の境界付近からの出土である。この地点にはⅨ層は存在しない。）から出土した資料であることを明記しておきたい。埋積時に若干の移動があったとしても、この2点のチャート製槍先形尖頭器については、細石刃文化期の堆積層であるⅧ層と同時期の資料か、あるいはⅧ層に先行する時期の資料であるかいずれかであり、当遺跡の細石刃文化期（Ⅷ層段階）よりも新しい時期の資料ではない。

石材の違いによる出土状況を層別・平面分布の違いで分けると以下のようになる。

層別　Ⅹ層　チャート1点
　　Ⅷ-b層　チャート2点、サヌカイト2点
　　Ⅷ-a層　チャート3点、サヌカイト4点
　　Ⅶ層　チャート2点、サヌカイト5点
　　その他　チャート2点、サヌカイト4点

平面分布　1号岩陰周辺　チャート6点、サヌカイト7点
　　1・2号岩陰中間　サヌカイト2点
　　2号岩陰　チャート4点、サヌカイト8点

石器製作技術、形態、大きさ、石材などいくつかの指標で、これらの槍先形尖頭器を分類することが可能である。製作技術からみれば、より幅広の剥離痕を連続させて刃縁を形成するタイプと細かい剥離が連続するタイプとに分かれる。前者は明らかに押圧剥離ではなくソフトハンマー（鹿角など）による平坦剥離を中心とする技術により、後者は細長く伸びる剥離痕など押圧剥離の可能性を残す。後者には周縁の細かく連続する剥離も特徴的に認められるが、この剥離も押圧剥

離によって形成され得る剥離である。

これらの剥離技術による分類により、第1のグループすなわち押圧剥離（あるいはその可能性のある）を技術基盤にもつ尖頭器が、117・118・131の3点である。第2のグループは、押圧剥離ではなく平坦剥離で刃縁を形成する特徴を持つ上記以外の25点である。

次に、尖頭器の大きさを指標とし完形品25点を全長でみると2㎝以上4㎝未満の資料が20点と全体の80%を占め、5㎝未満の資料を含めると88%になる。これが当遺跡の小型の槍先形尖頭器の大きさであり、5㎝を超える資料（120・135・136）は重量でも他の資料とはかけ離れ、120と136が30g以上、135が10g近く（9.67g）と他の資料とは異質である。この3点以外の完形資料は全て5g未満であり、1.5g以下の資料が8点（32%）、2.5gを超え3.5g以下の資料も8点（32%）と2つのピークをもつ。ただし、槍先形尖頭器としたものの中で1g前後以下の資料には他の槍先形尖頭器との違いを考える必要がある。特に小型で幅に対して厚みをもつ144などは縄文時代後期の石鏃である可能性も残る。

また、形態を長幅比でみると長さ／幅が1.31という数値を示す132以外は2.5を中心に2～3前後の数値に納まっている。また、幅厚比を指標とすれば幅/厚さが1.7～2.0程度のやや厚みのあるグループと2.5～3.5前後の比較的薄いのグループに分けることができる。ただし、幅厚比の場合は石材によって大きく差がでており、厚みのあるグループにはチャートが多く、幅厚比2.5を超えるより薄いグループは大半がサヌカイトであるなど石材の持つ特徴に負うところが大きい。

これらの視点で槍先形尖頭器の分類を行うと、以下の1類～5類の設定が可能である。

1類　117・118・140

製作技術により押圧剥離あるいはその可能性の残る資料で、長幅比1.7～3.0前後、長さ2～4.5㎝の小型槍先形尖頭器に分類できるもの。形態により、長幅比（長／幅）が2.5～2.7で基部が僅かに丸味を帯びる117・140（1類A）と長幅比（長／幅）が2.0で基部が丸味を帯びるいわゆるティアドロップ形と呼ばれる形状の118（1類B）に分かれる。刃縁の加工は基本的には両面加工だが、全周が両面加工ではなく片面は剥片剥離面や平坦剥離の剥離面をそのまま残し、片面のみの加工に留まる部分があるのが特徴である。連続する剥離は中央付近まで延びるものもあるが、多くは周縁に留まる周縁加工である。１類は全てチャート製である。

2類　119・121・122・123～129・131・133・139・141～143

平坦剥離で刃縁を形成する槍先形尖頭器の中で、長幅比1.7～3.0前後、長さ2～4.5㎝の小型槍先形尖頭器に分類できるもの。その中で、形態・大きさ・厚さ等により幾つかのグループに細分できる。

2類A　119・122・125・129・133・139・142

重量2g未満のものが多く、薄い剥片を素材として基本的に両面加工で刃縁の整形を行うものの、片面のみの加工にとどまる縁辺も多くみられる。素材選択の関係もあり、すべてがサヌカイト製である。

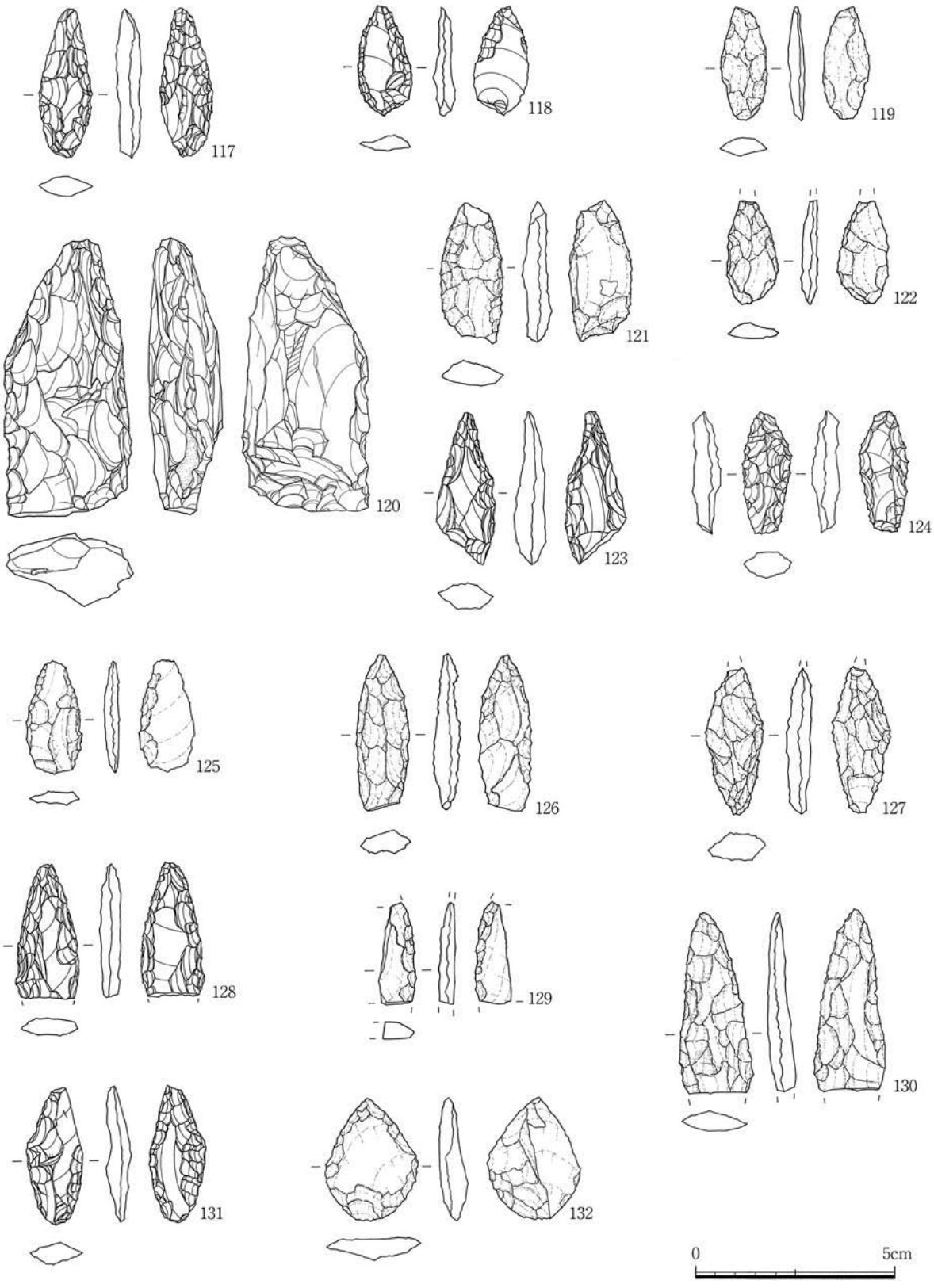


Fig. 106　槍先形尖頭器①

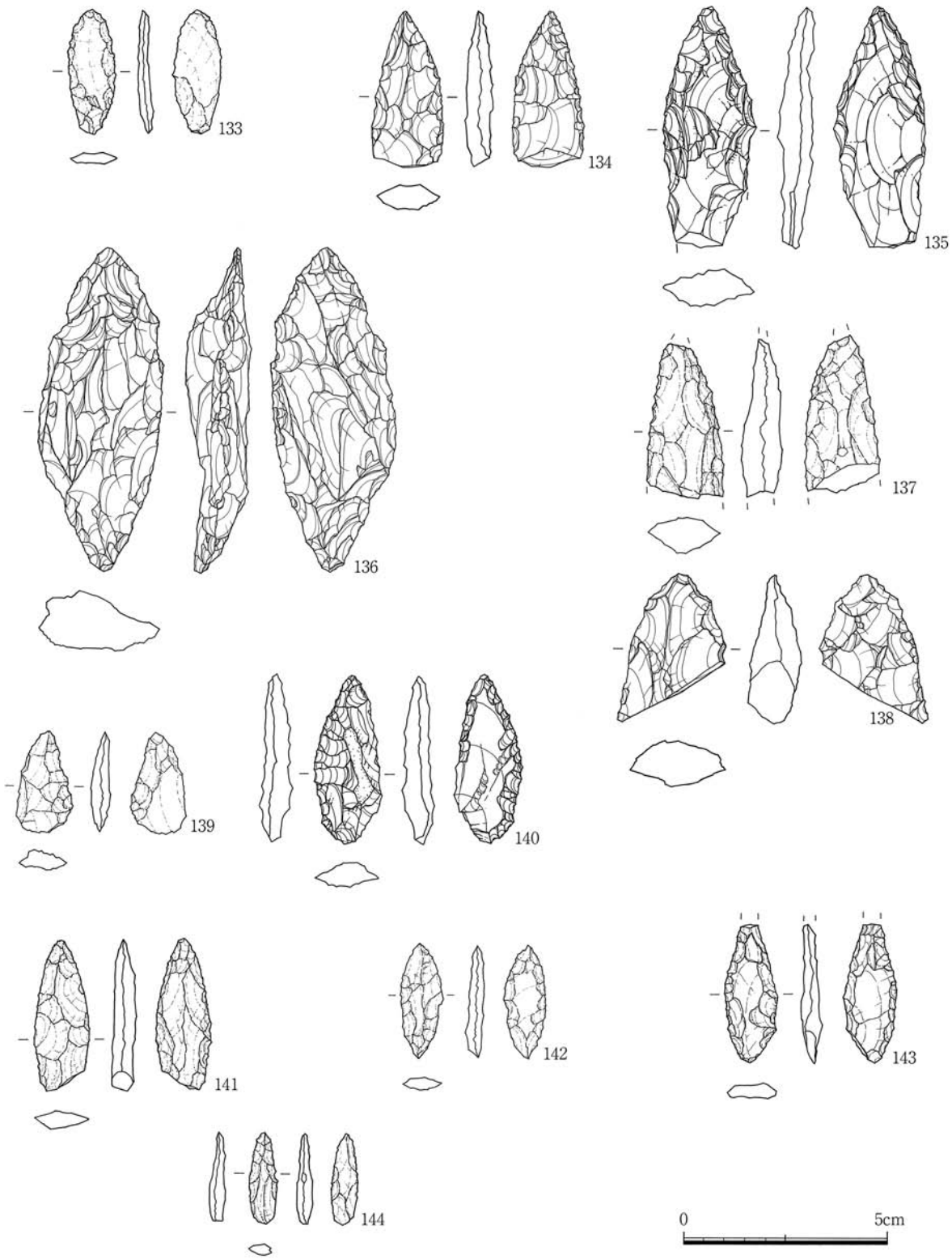


Fig. 107　槍先形尖頭器②

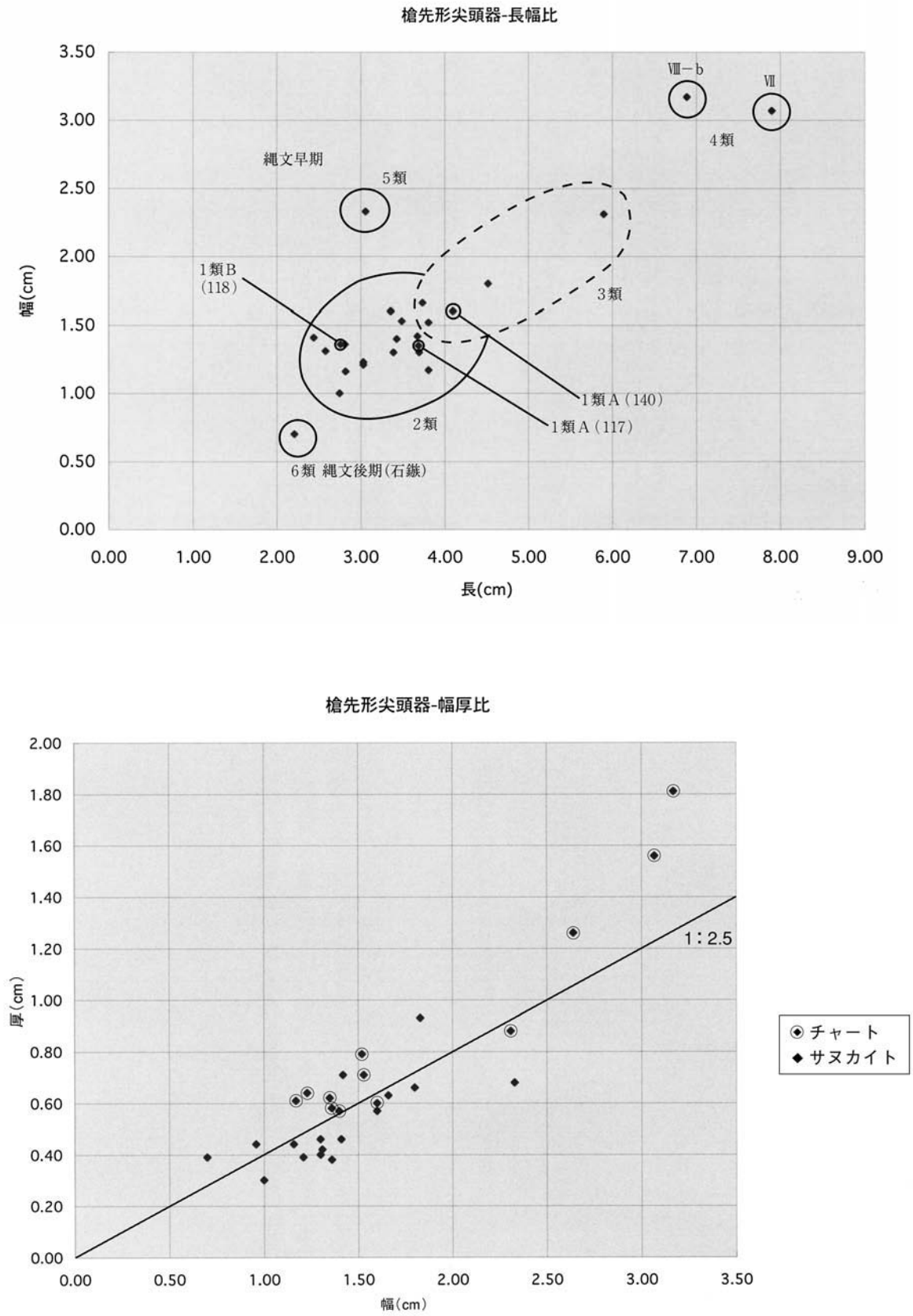


Fig. 108　槍先形尖頭器形態的特徴

2類B　121・123・124・126・127・128・131・141・143

平坦剥離による刃縁形成が全周に及ぶものが多い。先端と基部の形状が類似する流線形のものやわずかに丸味を帯びた基部を持つものなど形の上ではバラエティーがある。チャート製のものは素材の形状に規定された形となる。刃縁は緩やかな弧状で左右対称が実現している個体が多い。

3類　130・134・135・137

平坦剥離で刃縁を形成する槍先形尖頭器の中で、長さ4.5～5㎝前後の大きさのもの。刃縁は弧状のものとほぼ直線的な刃縁のものがあり、134・137など同一個体においても左右の刃縁のカーブが異なる点に形態上の特徴がある。

4類　120・136・138

平坦剥離で刃縁を形成する槍先形尖頭器の中で、長さ6㎝を超える槍先形尖頭器。大きさという観点からみれば、1～3類とは素材の選択において大きく異なる。120・136は30g以上の大きさで1～3類とは異なる用途が推定される。なお、120に関しては尖頭器未製品の可能性もある。138は破損品だが、先端部の大きさから、4類とした。

5類　132

杏仁形と称される形態を持つ。長幅比1.31で他の槍先形尖頭器とは明らかに異なる形態を持つ。南四国の類例に照応すると縄文時代早期の資料である。

6類　144

重量0.55g、長さ2.21㎝と尖頭器の資料中最も小型で、形態も幅に対して厚みがある（幅厚比1.79）。縄文時代後期にみられる石鏃の可能性も否定できない。

これらのグループ化した槍先形尖頭器がどの時期に所属するかについては、南四国の類例のない現状において細かい断定を行なうことはできない。ただ、槍先形尖頭器を技術・大きさ・形態により1～6類とした分類は、ある程度までは当遺跡の基本層序に対応する。もとより傾斜地での堆積であり、層位が絶対ではないということを念頭に置いた上で、その対応関係を確認しておきたい。1類とした3点の槍先形尖頭器は他の2～4類とは石器製作技術の点で大きく異なり、117・118の出土層位（Ⅹ・Ⅷ-b層）から考えても2～6類とは時期差あるいは製作した集団の差など何らかの違いがあるものと考えられる。2～4類については同一の技術だが、加工を施す部位や大きさ、形態の違いで分離したものだが、2類A・2類B・3類については出土層位が類別ごとにまとまりを見せており、これらの形態・大きさの差が時期差に繋がる可能性もある。2類AはⅧ-a層出土のものが2点で残りはⅦ層・Ⅴ層あるいはその他の層（2号岩陰南地点）、2類Bは出土層位の明らかな8点中7点までがⅧ層（うち5点がⅧ-a層）出土で、3類はⅦ層からの出土である。また、4類については大きさと剥離技術で同一グループにしたものの、形状も異なり出土層位も異なるなど、所属時期の違う同類とするにはふさわしくない資料かもしれない。なお、5類は縄文時代早期の尖頭器であり、6類は石鏃の可能性もある資料だがⅦ層出土であるため槍先形尖頭器の項で取り扱った。

詳細な時期の認定は措いておき、資料の先後関係を対応する出土層及び技術・形態の特徴によって示すと、

1類 → 2類B（2類A）→ 3類 → 5類 →（6類?）

となる。4類の位置づけははっきりわからない。1類が旧石器時代あるいは細石刃文化期の資料で、2類Bが細石刃文化期併行期あるいは縄文時代草創期の資料、そして5類が縄文時代早期の資料である可能性をもつ。

これら槍先形尖頭器の類型化や時期の想定も当遺跡の出土状況による推定にすぎない。今後、他地域の資料や南四国の新出資料との比較対象を経た上で正確な位置づけを行っていただきたい。

Tab. 10　槍先形尖頭器　計測・分類表

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	出土地点	石　材	重 (g)	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	長幅 比	幅厚 比	剥片 方向	分類
106	117	X	1号岩陰	EF−5	チャート	2.71	3.69	1.35	0.62	2.73	2.18	ヨコ	1類A
106	118	Ⅷ−b	1号岩陰	FG−5	チャート	1.50	2.76	1.36	0.58	2.03	2.34	タテ	1類B
106	119	Ⅷ−b	1号岩陰	E−6／ZT	サヌカイト	1.27	2.82	1.16	0.44	2.43	2.64	ヨコ	2類A
106	120	Ⅷ−b	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	38.26	6.89	3.17	1.81	2.17	1.75	ヨコ	4類
106	121	Ⅷ−b	1号岩陰	F−7	サヌカイト	3.50	3.49	1.53	0.71	2.28	2.15	ヨコ	2類B
106	122	Ⅷ−a〜Ⅷ−b	1号岩陰	TR−A　南バンク	サヌカイト	1.30	2.58	1.31	0.42	1.97	3.12	ヨコ	2類A
106	123	Ⅷ−a	1号岩陰	EF−5	チャート	3.22	3.81	1.52	0.79	2.51	1.92	ヨコ	2類B
106	124	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−S東	チャート	2.70	3.03	1.23	0.64	2.46	1.92	タテ	2類B
106	125	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	I−5	サヌカイト	1.20	2.81	1.36	0.38	2.07	3.58	タテ	2類A
106	126	Ⅷ−a	2号岩陰	KL−5	サヌカイト	3.20	3.81	1.17	0.61	3.26	1.92	ヨコ	2類B
106	127	Ⅷ−a	2号岩陰	JK−6	サヌカイト	3.00	3.68	1.42	0.71	2.59	2.00	ヨコ	2類B
106	128	Ⅷ−a	2号岩陰	J−6−W	チャート	2.78	3.36	1.60	0.57	2.10	2.81	タテ	2類B
106	129	Ⅶ	1･2号岩陰中間	H−5	サヌカイト	1.10	2.54	0.96	0.44	2.65	2.18	ヨコ	2類A
106	130	Ⅶ	1号岩陰	G−5	サヌカイト	3.90	4.52	1.80	0.66	2.51	2.73	ヨコ	3類
106	131	Ⅶ−2	2号岩陰	J−4	チャート	2.30	3.43	1.40	0.57	2.45	2.46	ヨコ	2類B
106	132	Ⅶ	2号岩陰	JK−5	サヌカイト	3.21	3.06	2.33	0.68	1.31	3.43	ヨコ	5類
107	133	Ⅶ	2号岩陰	J−4／ブロック4	サヌカイト	1.06	3.03	1.21	0.39	2.50	3.10	ヨコ	2類A
107	134	Ⅶ−SR−3	2号岩陰	K−5／JK−5	赤色頁岩	4.30	3.74	1.66	0.63	2.25	2.63	ヨコ	3類
107	135	Ⅶ	2号岩陰	KL−5	チャート	9.67	5.90	2.31	0.88	2.55	2.63	ヨコ	3類
107	136	Ⅶ	2号岩陰	J−5／ユニット3	チャート	32.50	7.90	3.07	1.56	2.57	1.97	ヨコ	4類
107	137	オリーブ灰褐色砂礫	2号岩陰	TR−12	サヌカイト	6.20	3.77	1.83	0.93	2.06	1.97	ヨコ	3類
107	138	Ⅵ	1号岩陰	F−7	チャート	8.70	3.62	2.64	1.26	1.37	2.10	ヨコ	4類
107	139	Ⅴ（排土）	1号岩陰	1号岩陰／No.51〜52周辺	サヌカイト	1.10	2.44	1.41	0.46	1.73	3.07	ヨコ	2類A
107	140	Ⅳ	1号岩陰	F−7／ZT	チャート	4.40	4.10	1.60	0.60	2.56	2.67	タテ	1類A
107	141	Ⅴ	1号岩陰	1号岩陰･No.140	サヌカイト	2.50	3.70	1.30	0.40	2.85	3.25	ヨコ	2類B
107	142	⑤	2号岩陰南	J−7／TR−C	サヌカイト	0.88	2.75	1.00	0.30	2.75	3.33	ヨコ	2類A
107	143	不明	不明	表採	サヌカイト	1.80	3.39	1.30	0.46	2.61	2.83	ヨコ	2類B
107	144	Ⅶ−YR	2号岩陰	JK−6	サヌカイト	0.55	2.21	0.70	0.39	3.16	1.79	ヨコ	6類

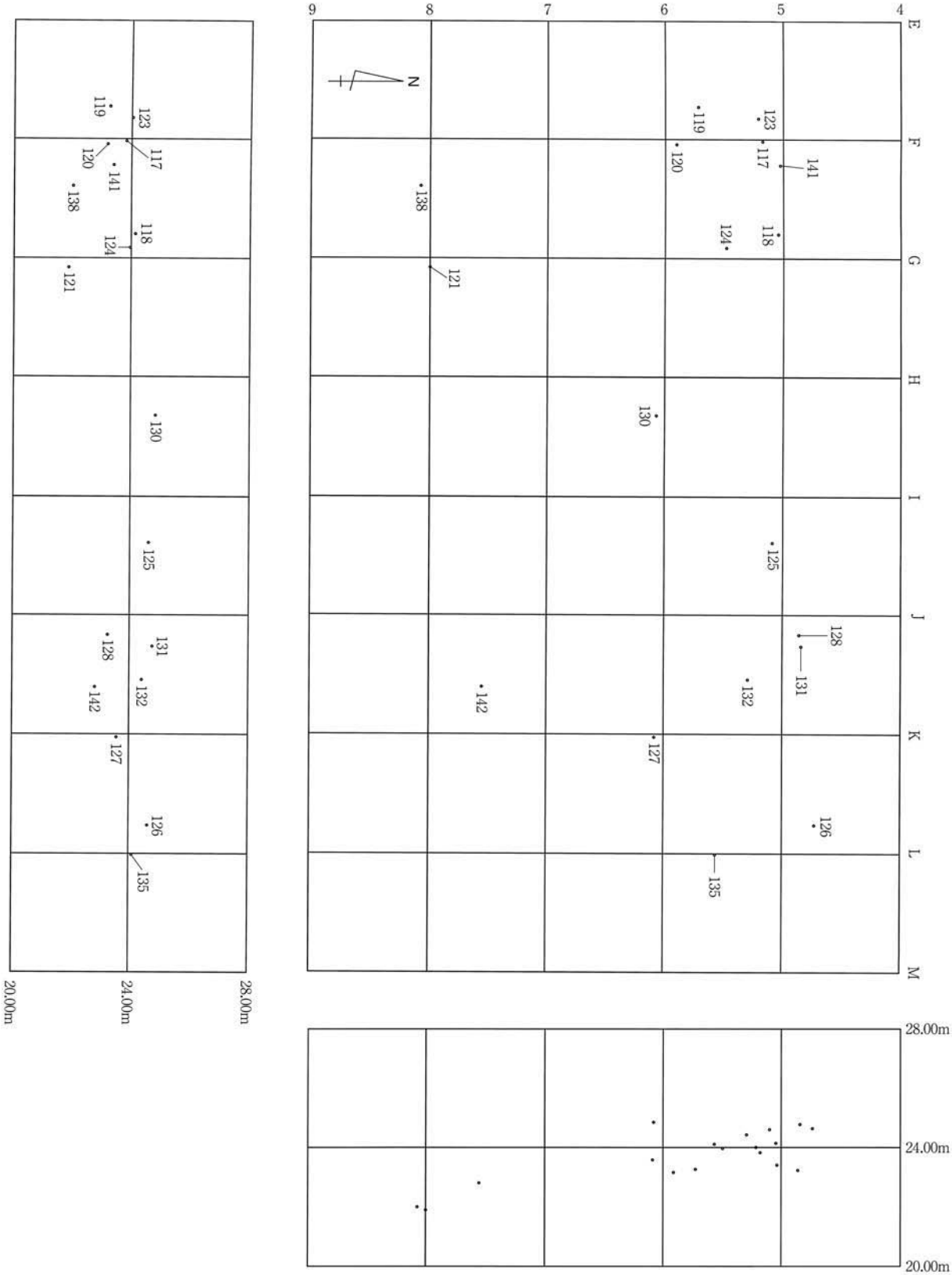


Fig. 109　槍先形尖頭器出土地点

（4）細石刃（Fig.110～114）

当初、600点近い剥片について細石刃として扱い、その中で400点ほどが細石刃だと考えられると報告したのだが、あらためて資料と向き合ってみると、細石刃とした資料の中にも細石刃と呼ぶのにふさわしくない資料が一定量混在していることがわかった。楔形石器に伴う剥片の可能性が高い資料や、背腹同一方向の剥離を示すものの厚みのある剥片であったり、幅の広すぎる剥片であったりと細石刃には適さないもの、細石刃剥離作業に伴う剥片であることは明らかなのだが細石刃ではない資料（作業面再生剥片など）については、後述の（5）～（7）の項目で取り扱う。

細石刃については層ごとに提示した。石器の大きさ・使用された部位などの詳細については別表の計測値を参照されたい。石器加工に際して、形態が細石刃に類似する剥片の生じる可能性も考慮して、当遺跡で細石刃である可能性がより高い資料を集めて（4）細石刃として示す。背腹同一方向の剥離が観察でき、かつ幅10㎜内外までの資料を細石刃とし、より幅広の資料や背腹同一方向の剥離の観察される資料であっても厚みをもち細石刃としては不適当である資料はこの項目から除外した。なお、厚みがあるものの背面にフルーティングの痕跡が認められる資料で作業面再生剥片であることが明らかな資料については、はじめから細石刃核作業面再生剥片として取り扱ったが、作業面再生剥片であるが当初細石刃としたものについては、（5）細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片の項に掲載している。

石材はチャート製のものが99%以上を占め、それ以外の石材を利用した細石刃は頁岩の細石刃１点のみである。基本的に両側縁が平行ではあるのだが、チャートという石材の特質ゆえに弧状であったり、イレギュラーな形を示したり、不規則な形状の側縁を呈する資料も多い。

細石刃については、他器種同様、重量・長さ・幅・厚さの法量以外に、細石刃として細石刃核から剥離された剥片のどこを使用しているのか、すなわち使用部位が剥片の全体なのか、上端なのか、中位なのか、下端なのにかについて、計測表（Tab.11）に示した。

今回、奥谷南遺跡出土の細石刃としてデータ取り扱いを行った資料は282点（22～26、145～421）である。他の項目で取り扱った石器の中にも細石刃だと考えられる資料は含まれていること、実測資料として取り出すことのできなかった資料の中にも細石刃は含まれることから、奥谷南遺跡から出土した細石刃の総数が300点以上になることは確実である。

282点の細石刃について単純に平均した大きさを示すと、長さ12.60㎜、幅6.81㎜、厚さ1.71㎜、重量は0.16gという数値になる。選び出した細石刃の大きさにはばらつきがあり、平均的な数値からかけ離れた資料も存在することから、階級値としてFig.115に棒グラフで示す。長さは10㎜以上15㎜未満の階級に全体の56.8%が含まれ、幅は3㎜から11㎜の幅でほぼ正規分布に近い分布を示している。最も多いのは6㎜以上7㎜未満の階級で約1/4を占め、5㎜から9㎜の間に全体のほぼ8割が集中する。厚さは１㎜以上2.5㎜未満の範囲に81.5%が集まる。重量は、0.05g以上0.20g未満が67.2%で、0.30g以上の個体はむしろ例外的である。分布に偏りのある指標もあるものの、細石刃の最大公約数的な大きさは平均値付近の大きさだと捉えてよいだろう。

折とられて使用する例の多い細石刃だが、使用部位について検討すると、奥谷南遺跡の細石刃は折られて使用される例に対して剥離して得られた剥片全体を使用する例が多いという傾向が浮

かび上がってくる。Fig.116に示すように全体の42%、およそ半数近くの資料に折断の痕跡がなく、得られた剥片をそのまま細石刃として使用している。さらに、上下を折断して剥片の中位を使用する例は全体の9.7%と最も低い割合であり、下半を切断し上端を使用する例（29%）や上半を切断し下端を使用する例（19%）に対して、著しく少ない割合となっている。これは当遺跡で製作される細石刃を得るための剥片の大きさに関わる問題で、細石刃核の大きさが小さいということを示すデータである。奥谷南遺跡の細石刃はその小ささゆえに使用に際して折断する必要がない場合が多いということか。

細石刃は、それ自体の製作を意図していない場合にも、偶発的に類する剥片が生じる場合がある。遺物自体の小ささゆえに埋積した土中における移動も考慮する必要がある。奥谷南遺跡での出土地点及び層位については、Tab.11及びTab.31を確認して欲しい。出土地点の座標が明らかな資料についてFig.117に図化したが、１号岩陰から2号岩陰にかけて、Ⅷ層とその上下の層が良好に残されている地点全域から出土している。

全域から出土しているとはいえ、1号岩陰と2号岩陰あるいはそれ以外の地点に分けてみた場合、Fig.116のような一定の傾向は指摘できる。まず、細石刃が集中するのはⅧ層であり、全体の47%がⅧ-a・Ⅷ-bの両層から出土している。特にⅧ-a層から出土する細石刃の割合は38%に達する。Ⅷ層の直上に堆積するⅦ層から出土した資料も29%でⅧ層とⅦ層、さらにⅧ層直下のⅨ・Ⅹ層出

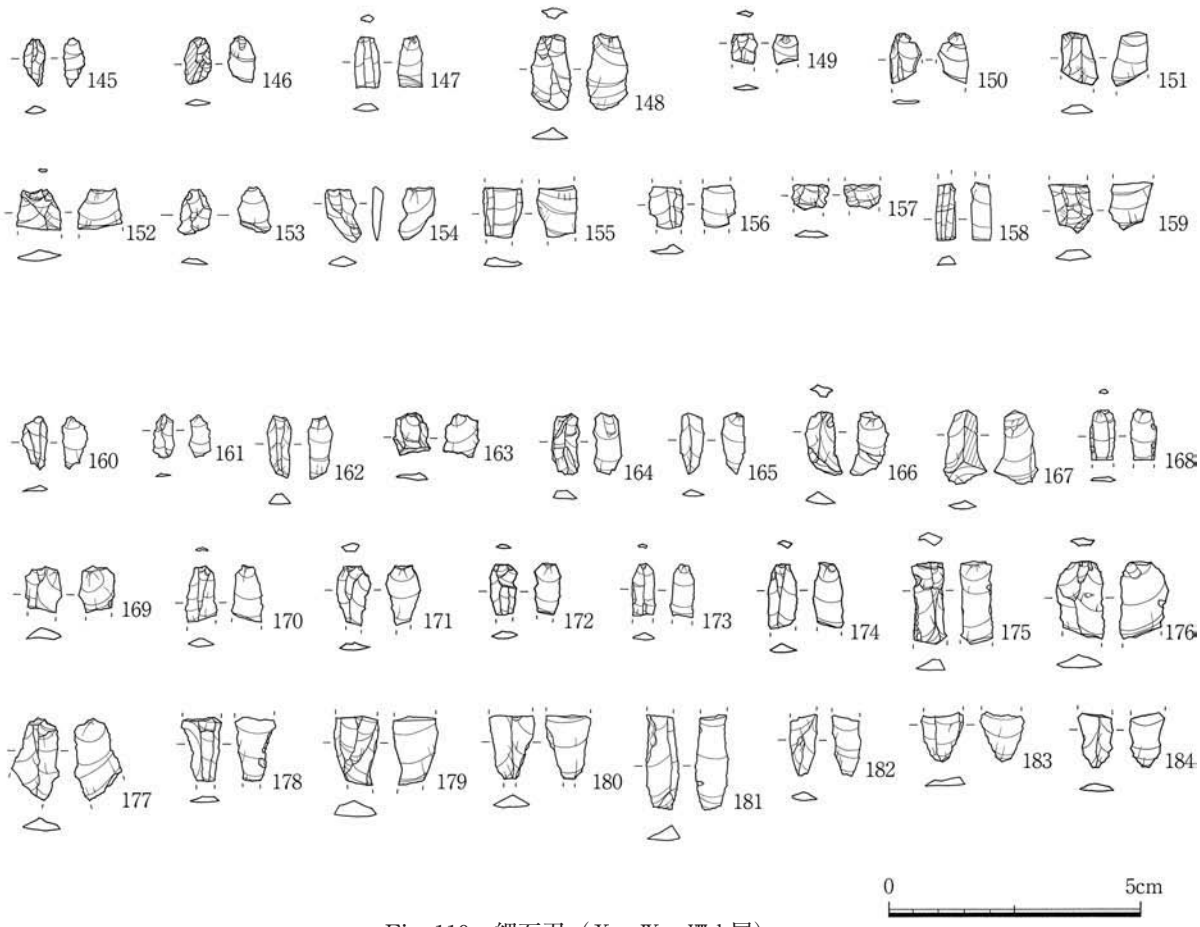


Fig. 110　細石刃（Ⅹ・Ⅸ・Ⅷ-b層）

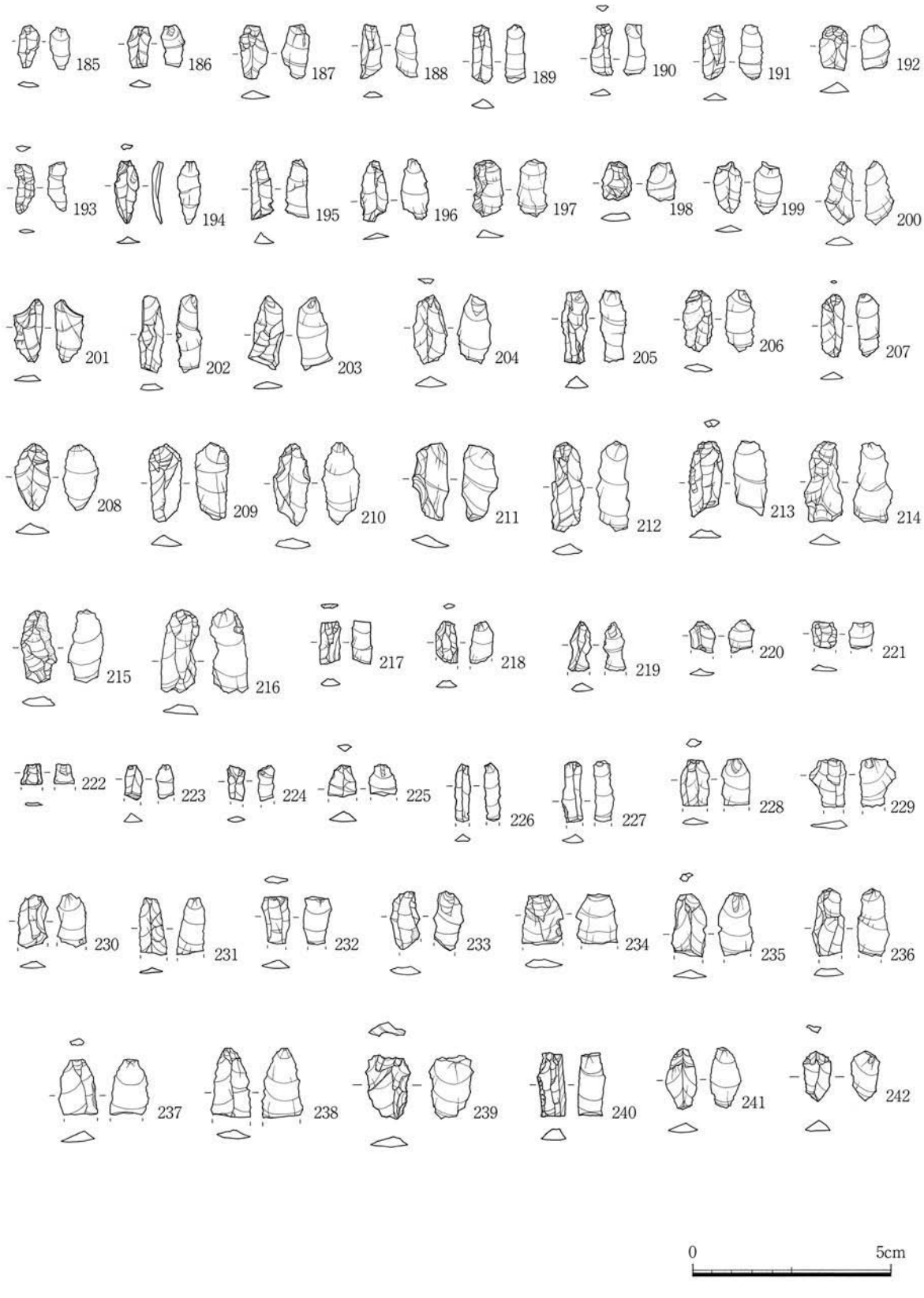


Fig. 111　細石刃（Ⅷ-a層1号岩陰）

土資料を加えると80%を超える。また、平面分布もⅧ層の残る全域から出土するとはいえ、1号岩陰と2号岩陰の両岩陰周辺に集中し、1号岩陰が57%、2号岩陰が26%と１号岩陰からの出土量が2号岩陰の出土量の2倍近くとなっている。調査所見からも、作成したドットマップからみても、遺物の集中の度合いに2つの岩陰で極端な違いはなかった。出土細石刃の量に差が生じた理由は、2号岩陰の南が侵食を受け、Ⅷ層あるいはⅦ層の良好な堆積が失われてしまったことにも一因はあろう。とはいえ、１号岩陰の特にⅧ-a・Ⅷ-b両層に遺物が集中していることは事実であり、層中からの敲石類の出土が多いことなど細石刃以外の遺物の集中にも注意を払う必要がある。

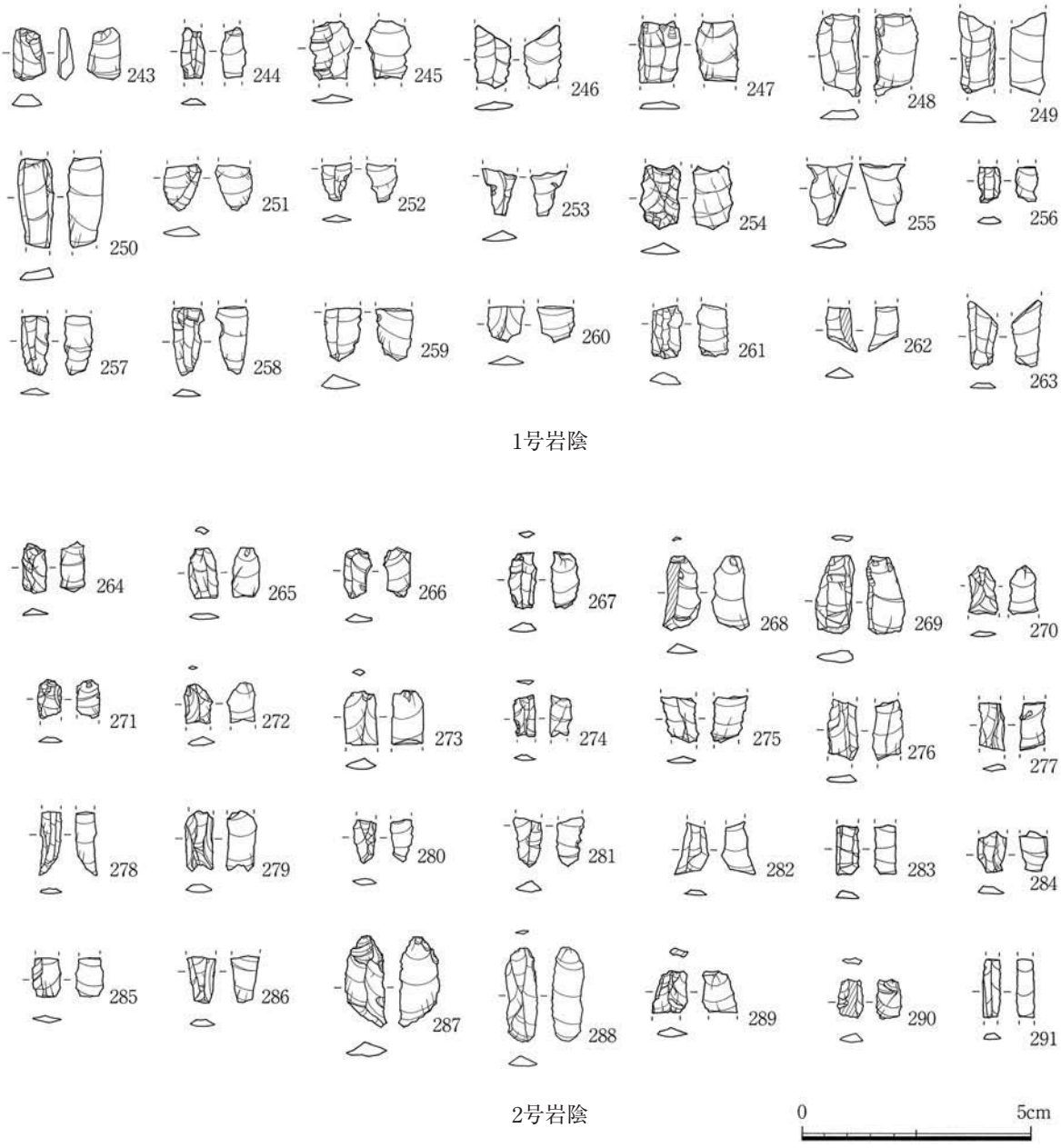


Fig. 112　細石刃（Ⅷ-a層1号岩陰・2号岩陰）

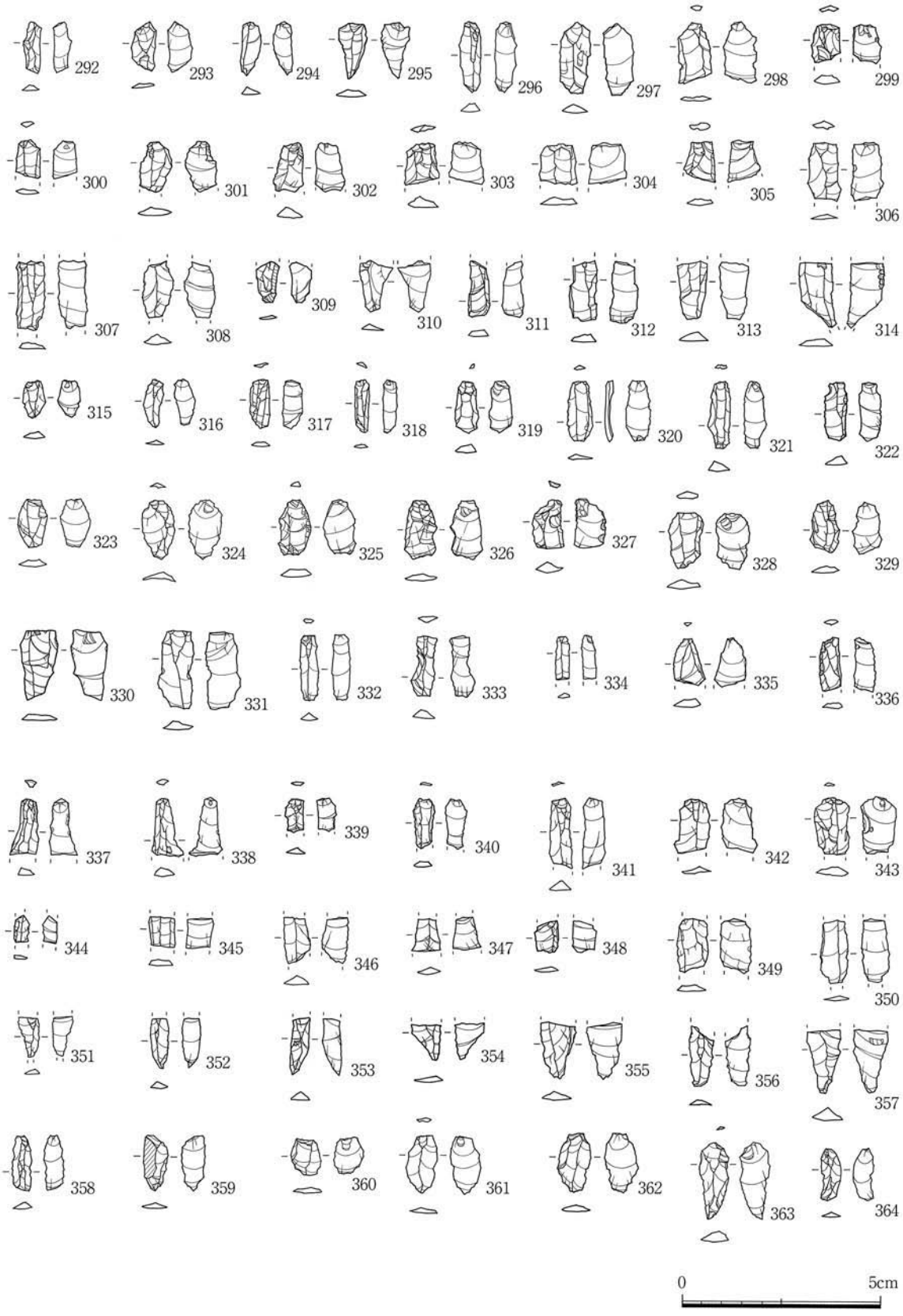
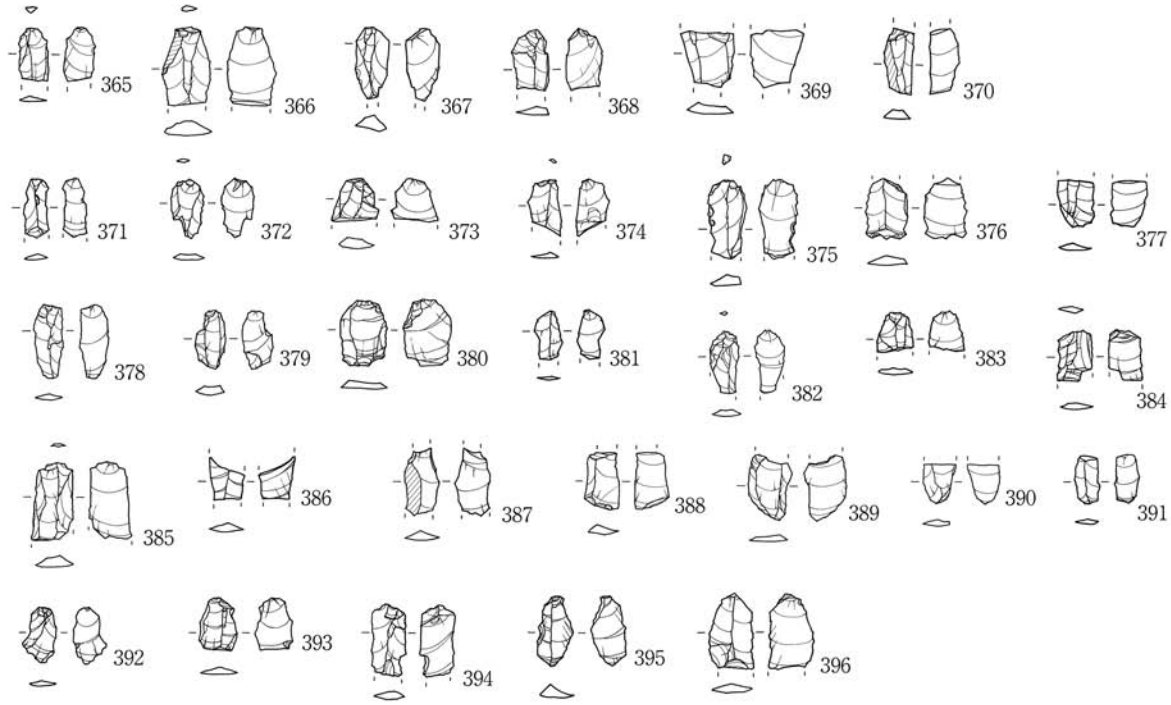
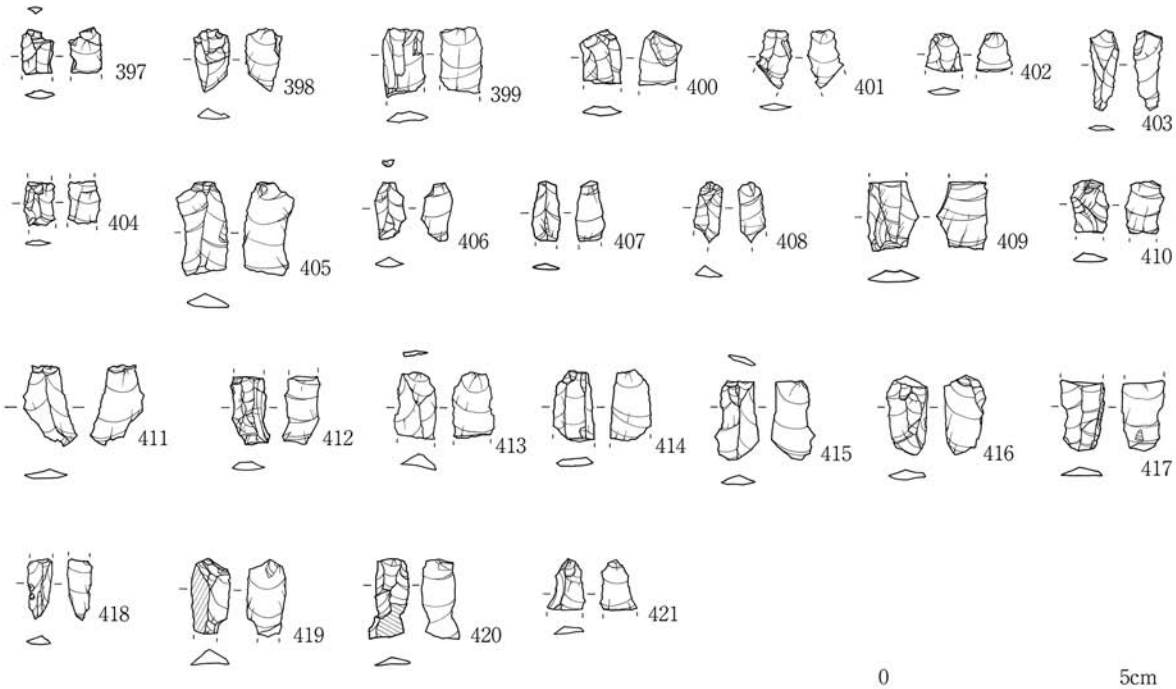


Fig. 113　細石刃（Ⅶ層）



Ⅶ層（365～370）　Ⅵ層（371～377）
Ⅴ層（378～395）　Ⅳ層（396）



その他の層及び表採

Fig. 114　細石刃（Ⅳ～Ⅶ層・その他の層）

Tab. 11　細石刃　計測表 ①

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
84	22	SX101	H−7	チャート	0.30	14.7	10.5	2.6	1				縄文草創期遺構から出土。
84	23	SX101	H−7	チャート	0.30	16.3	8.2	2.1	1				縄文草創期遺構から出土。
84	24	SX101	H−7	チャート	0.40	20.5	10.4	2.1	1				縄文草創期遺構から出土。
84	25	SX101	H−7	チャート	0.30	18.9	8.9	2.6	1				縄文草創期遺構から出土。
84	26	SX101	H−7	チャート	0.10	13.7	5.4	2.6	1				縄文草創期遺構から出土。
110	145	X	1号岩陰	チャート	0.04	9.5	4.1	0.8	1				
110	146	X	1号岩陰	チャート	0.07	8.7	5.0	1.1	1				
110	147	Ⅸ	1号岩陰	チャート	0.08	9.7	5.0	1.5	1				
110	148	X	1号岩陰	チャート	0.25	14.7	8.0	1.9	1				
110	149	X	1号岩陰	チャート	0.03	5.6	4.7	0.9	1				
110	150	Ⅸ	1号岩陰	チャート	0.05	10.2	6.0	0.6		1			
110	151	X	1号岩陰	チャート	0.14	10.3	7.2	1.8		1			
110	152	X	1号岩陰	チャート	0.13	7.5	8.7	1.2		1			
110	153	X	1号岩陰	チャート	0.06	9.0	6.5	1.5	1				細石刃ではない可能性有。
110	154	Ⅸ	1号岩陰	チャート	0.10	10.5	7.0	2.5	1				細石刃ではない可能性有。
110	155	X	1号岩陰	チャート	0.11	9.5	8.1	1.1			1		
110	156	Ⅸ	1号岩陰	チャート	0.08	8.1	6.8	1.2			1		
110	157	X	1号岩陰	チャート	0.06	4.8	7.1	1.2			1		
110	158	X	1号岩陰	チャート	0.08	11.5	4.2	2.2				1	
110	159	X	1号岩陰	チャート	0.17	9.9	8.7	1.9				1	
110	160	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.03	9.8	4.9	0.6	1				
110	161	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.03	8.2	4.2	0.8	1				
110	162	Ⅷ−c	1号岩陰	チャート	0.10	12.4	5.0	1.5	1				
110	163	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.06	7.7	6.7	0.9	1				
110	164	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.10	12.0	5.6	1.5	1				
110	165	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.06	12.0	4.9	1.2	1				
110	166	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.15	12.5	7.5	2.3	1				
110	167	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.17	14.7	8.7	1.7	1				
110	168	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.06	9.9	5.1	0.9		1			微細剥離有。
110	169	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.13	8.3	6.7	2.2		1			
110	170	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.10	11.1	6.3	1.7		1			
110	171	Ⅷ−b	2号岩陰	チャート	0.10	11.2	6.2	1.6		1			
110	172	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.07	10.1	5.2	1.5		1			
110	173	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.06	10.0	4.4	1.1		1			
110	174	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.12	12.4	5.5	1.4		1			
110	175	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.27	15.9	6.1	2.0		1			微細剥離有。
110	176	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.35	14.5	9.0	2.7		1			
110	177	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.26	15.0	9.0	2.0		1			
110	178	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.11	12.8	8.1	1.2			1		微細剥離有。
110	179	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.41	13.0	8.7	3.1			1		
110	180	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.24	12.4	8.9	2.6				1	
110	181	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.30	18.5	6.5	2.5				1	
110	182	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.10	12.0	5.5	1.5				1	
110	183	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.11	9.4	7.8	1.4				1	

Tab. 11　細石刃　計測表 ②

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
110	184	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.09	10.6	6.8	1.3				1	
111	185	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.05	10.5	5.0	1.5	1				
111	186	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.09	10.2	4.8	2.0	1				
111	187	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.12	13.2	6.9	1.6	1				
111	188	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.12	13.2	5.3	2.5	1				
111	189	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.14	14.5	4.8	1.8	1				
111	190	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.11	12.9	5.2	1.5	1				
111	191	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.14	13.6	5.6	1.7	1				
111	192	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.16	10.4	7.1	2.1	1				
111	193	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.07	1.2	4.6	1.6	1				
111	194	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.12	15.3	5.4	1.6	1				
111	195	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.14	14.3	4.9	2.0	1				
111	196	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.13	14.9	6.5	1.5	1				
111	197	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.20	13.6	6.3	2.0	1				
111	198	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.13	8.9	6.7	1.8	1				
111	199	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.14	12.3	6.8	1.7	1				
111	200	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.20	15.4	6.8	2.1	1				
111	201	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.17	15.7	7.1	1.7	1				
111	202	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.22	19.5	6.6	1.4	1				微細剥離有。
111	203	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.25	17.9	7.4	1.7	1				
111	204	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.35	17.4	8.4	2.6	1				
111	205	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.25	18.1	6.1	2.7	1				
111	206	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.19	15.0	7.3	1.8	1				
111	207	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.16	15.5	5.7	1.5	1				
111	208	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.38	16.6	8.6	3.5	1				
111	209	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.36	19.1	7.9	2.5	1				
111	210	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.16	12.6	8.7	1.4	1				
111	211	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.35	19.2	9.5	2.0	1				
111	212	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.44	22.5	8.3	2.5	1				
111	213	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.35	18.6	7.5	2.1	1				
111	214	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.39	19.4	9.1	2.6	1				
111	215	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.35	17.5	8.1	2.3	1				
111	216	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.50	20.5	8.7	2.4	1				
111	217	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.11	10.4	4.9	1.7		1			
111	218	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.10	10.4	5.5	1.6		1			
111	219	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.12	7.8	8.3	2.0		1			
111	220	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.06	8.1	6.6	1.2		1			
111	221	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.04	6.2	6.2	1.0		1			
111	222	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.03	5.3	5.4	0.8		1			
111	223	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.07	8.5	4.2	2.2		1			
111	224	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.04	8.6	4.1	0.9		1			
111	225	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.12	7.8	6.0	2.1		1			
111	226	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.08	14.2	3.0	1.5		1			
111	227	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.13	12.3	6.1	2.0		1			

Tab. 11　細石刃　計測表 ③

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
111	228	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.17	11.5	7.0	1.5		1			
111	229	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.17	11.5	6.5	2.0		1			
111	230	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.14	13.3	7.5	1.6		1			
111	231	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.14	14.3	6.5	1.4		1			
111	232	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.14	11.7	6.3	1.5		1			
111	233	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.14	13.8	7.5	1.2		1			
111	234	Ⅷ-a～Ⅷ-b	1号岩陰	チャート	0.27	12.5	10.0	1.7		1			
111	235	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.41	15.8	8.4	1.8		1			
111	236	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.30	16.8	7.5	2.0		1			
111	237	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.31	14.0	9.4	2.7		1			
111	238	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.36	17.5	9.9	2.4		1			
111	239	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.48	16.1	11.4	2.6	1				
111	240	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.44	15.8	7.1	3.4	1				微細剥離有。
111	241	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.20	14.7	7.0	2.5	1				
111	242	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.18	12.7	7.3	2.5	1				
112	243	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.50	11.5	7.0	3.0	1				
112	244	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.08	9.0	5.2	1.4			1		
112	245	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.19	12.1	8.8	1.7			1		
112	246	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.12	13.2	7.9	1.4			1		
112	247	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.25	13.3	9.1	1.4			1		
112	248	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.46	17.9	9.7	1.9			1		
112	249	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.33	17.2	7.4	2.0			1		
112	250	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.40	18.8	7.4	2.2			1		
112	251	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.12	9.3	7.1	1.2				1	
112	252	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.05	8.3	6.2	0.8				1	
112	253	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.09	10.9	7.3	1.3				1	
112	254	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.25	13.9	8.7	2.6				1	
112	255	Ⅷ-b	1号岩陰	チャート	0.15	13.2	8.3	1.4				1	
112	256	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.53	21.8	9.1	2.2				1	
112	257	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.10	12.3	5.6	1.2				1	
112	258	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.16	14.0	6.6	1.5				1	
112	259	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.20	11.4	7.8	1.9				1	
112	260	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.36	20.5	9.3	2.1				1	
112	261	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.17	11.5	6.5	2.0				1	
112	262	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.08	9.7	5.3	1.5				1	
112	263	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	0.11	14.8	6.6	1.2				1	
112	264	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.10	10.5	5.2	1.7	1				
112	265	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.14	10.3	6.1	1.6	1				
112	266	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.10	9.1	6.0	1.7	1				
112	267	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.13	12.3	6.1	2.0	1				
112	268	Ⅷ	2号岩陰	チャート	0.24	16.3	8.4	2.2	1				
112	269	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.39	16.6	7.7	1.9	1				
112	270	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.07	10.8	6.3	1.2		1			
112	271	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	0.05	8.1	5.1	1.3		1			

Tab. 11　細石刃　計測表 ④

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
112	272	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.09	8.5	6.3	1.9		1			
112	273	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.19	12.0	7.5	1.9		1			
112	274	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.06	8.5	4.5	1.3		1			
112	275	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.12	10.1	8.3	1.2			1		
112	276	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.14	13.5	6.9	1.5			1		
112	277	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.13	10.5	5.6	1.4			1		
112	278	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.08	13.6	5.1	1.2				1	
112	279	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.16	13.1	6.6	1.4				1	
112	280	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.05	9.1	4.8	1.0				1	
112	281	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.10	10.9	6.2	1.9				1	
112	282	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.07	11.5	7.4	1.1				1	
112	283	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.09	10.3	4.8	1.2				1	
112	284	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.12	9.1	6.0	2.2				1	
112	285	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.07	8.5	6.0	1.5				1	
112	286	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.10	10.2	6.1	1.3				1	
112	287	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.43	19.3	8.6	3.1	1				
112	288	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.29	20.4	6.8	2.3	1				
112	289	Ⅷ−a	不明	チャート	0.15	9.4	7.2	2.3		1			
112	290	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.10	8.5	5.5	2.0	1				細石刃でない可能性有。
112	291	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.05	12.8	3.7	1.4			1		
113	292	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.07	12.8	4.8	1.4	1				
113	293	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.08	12.3	6.3	1.1	1				
113	294	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.10	13.3	5.4	2.3	1				
113	295	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	0.12	13.7	6.6	1.4	1				
113	296	Ⅶ−上	1号岩陰	チャート	0.20	17.3	5.3	1.8	1				
113	297	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.27	18.3	8.0	2.4	1				
113	298	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.14	15.2	7.8	1.3	1				
113	299	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.13	9.4	7.2	2.1		1			
113	300	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.08	9.5	6.7	1.2		1			
113	301	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.17	11.9	8.0	1.0		1			
113	302	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.19	11.2	7.2	2.3		1			
113	303	Ⅶ−2	1号岩陰	チャート	0.23	10.0	8.2	1.9		1			
113	304	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.22	10.2	9.3	1.7		1			
113	305	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	0.10	9.7	6.4	2.1		1			
113	306	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.20	14.8	8.2	1.3		1			
113	307	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.25	17.2	7.0	1.8			1		
113	308	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	0.19	14.0	7.0	2.1			1		
113	309	Ⅶ−2	1号岩陰	チャート	0.05	10.0	5.4	0.8				1	
113	310	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.11	12.6	8.4	1.7				1	
113	311	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.14	13.4	5.2	1.6				1	
113	312	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.20	15.0	6.9	1.5				1	
113	313	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.25	14.6	7.2	2.5				1	
113	314	Ⅶ−2	1号岩陰	チャート	0.23	16.0	8.2	1.4				1	微細剥離有。
113	315	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.05	9.2	6.0	1.8	1				

Tab. 11　細石刃　計測表 ⑤

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
113	316	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.04	11.7	5.0	1.2	1				
113	317	Ⅶ−SR−3	2号岩陰	チャート	0.09	11.9	4.5	1.6	1				
113	318	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.05	13.4	4.1	1.0	1				
113	319	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.13	13.1	5.6	1.8	1				
113	320	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.11	15.5	6.5	2.1	1				
113	321	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.18	16.7	4.8	1.7	1				
113	322	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.17	14.4	5.6	2.0	1				
113	323	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.16	12.0	7.0	1.7	1				
113	324	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.20	14.4	8.0	1.8	1				
113	325	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.24	13.6	7.9	1.7	1				
113	326	Ⅶ−SR−3	2号岩陰	チャート	0.23	14.1	7.9	2.2	1				
113	327	Ⅶ−H	2号岩陰	チャート	0.23	12.2	7.6	2.8	1				
113	328	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.28	13.7	8.2	1.7	1				
113	329	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.12	12.8	7.4	2.1	1				
113	330	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.33	16.7	8.9	1.6	1				
113	331	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.38	17.5	9.4	3.8	1				
113	332	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.11	16.1	4.6	1.9	1				
113	333	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.13	14.5	5.5	1.3	1				
113	334	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.04	10.5	3.1	0.8		1			
113	335	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.19	11.7	7.7	2.2		1			
113	336	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.12	12.9	5.2	1.2		1			微細剥離有。
113	337	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.18	13.9	7.2	1.7		1			微細剥離有。
113	338	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.16	13.8	4.8	1.5		1			
113	339	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.05	7.8	4.7	1.1		1			
113	340	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.07	12.1	4.9	0.9		1			
113	341	Ⅶ−SR	2号岩陰	チャート	0.18	17.8	6.0	1.9		1			
113	342	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.21	13.8	9.0	1.9		1			
113	343	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.13	14.2	8.7	2.2		1			
113	344	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.03	6.6	3.4	0.9			1		
113	345	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.08	7.3	6.2	0.9			1		
113	346	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.14	11.0	6.1	1.5			1		
113	347	Ⅶ−SR−2･3	2号岩陰	チャート	0.08	8.4	7.2	1.3			1		
113	348	Ⅶ−SR−2･3	2号岩陰	チャート	0.04	8.0	6.0	1.0				1	
113	349	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.19	13.8	8.0	1.9			1		
113	350	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.11	15.3	6.4	0.9			1		
113	351	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.06	9.7	5.5	1.1				1	
113	352	Ⅶ−SR	2号岩陰	チャート	0.10	12.6	4.5	1.5				1	
113	353	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.09	14.0	4.4	1.6				1	
113	354	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.05	8.2	7.2	1.2				1	
113	355	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.21	13.7	9.0	1.9				1	
113	356	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.13	15.4	6.7	1.6				1	
113	357	Ⅶ−SR−3	2号岩陰	チャート	0.31	15.3	8.2	2.8				1	
113	358	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.10	13.2	4.5	1.3	1				
113	359	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.11	13.7	6.4	1.7	1				

Tab. 11　細石刃　計測表 ⑥

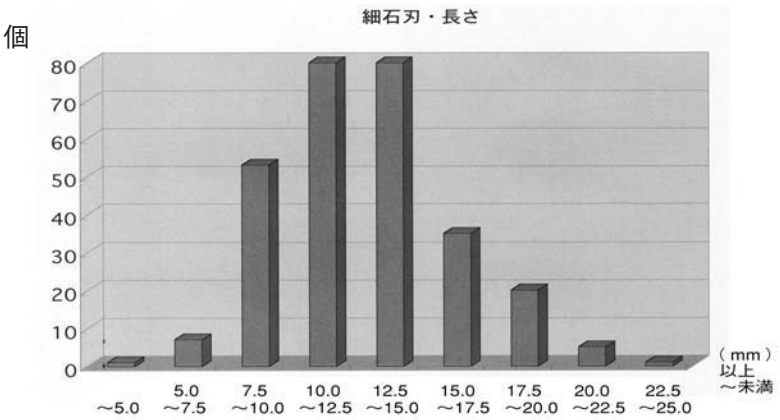
Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
113	360	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.07	9.0	7.0	1.5	1				
113	361	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.11	8.9	7.0	1.1	1				
113	362	Ⅶ−1	1･2号岩陰中間	チャート	0.17	14.7	8.5	1.8	1				
113	363	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.26	19.3	7.4	2.6	1				
113	364	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.08	13.0	5.0	1.2	1				
114	365	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.08	10.2	6.2	0.8		1			
114	366	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.38	14.8	9.4	2.5		1			
114	367	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.24	14.0	6.0	3.0	1				
114	368	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.18	11.9	7.1	1.7		1			
114	369	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.19	11.0	10.6	2.2			1		
114	370	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.15	13.1	6.3	1.7				1	
114	371	Ⅵ	2号岩陰	チャート	0.06	11.7	5.1	1.0		1			
114	372	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.07	11.5	6.7	1.2	1				
114	373	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.16	8.6	9.3	2.1		1			
114	374	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.09	11.5	6.7	1.2		1			
114	375	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.30	15.1	7.3	2.1		1			
114	376	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.17	11.2	8.0	1.7				1	
114	377	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.09	9.6	7.0	1.2				1	
114	378	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.08	14.4	5.9	1.1	1				
114	379	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.11	11.6	6.1	1.5	1				
114	380	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.24	11.5	9.1	1.8	1				
114	381	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.04	9.7	5.6	1.4		1			
114	382	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.07	12.2	5.7	1.4		1			あるいは押圧剥離による剥片（細石刃でない可能性有）
114	383	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.07	8.1	6.9	1.2		1			
114	384	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.11	9.5	6.6	1.6		1			
114	385	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.27	15.5	8.3	2.0		1			
114	386	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.07	7.2	6.9	1.6			1		
114	387	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.14	13.0	7.0	1.6			1		
114	388	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.13	11.5	6.9	1.6				1	
114	389	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.11	12.3	8.2	0.9				1	
114	390	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.06	7.8	6.5	1.3				1	
114	391	Ⅴ	2号岩陰	チャート	0.05	9.0	4.6	1.0	1				
114	392	Ⅴ	2号岩陰	チャート	0.06	10.9	6.4	1.1	1				
114	393	Ⅴ	2号岩陰	チャート	0.13	10.2	7.2	1.7	1				
114	394	Ⅴ	2号岩陰	チャート	0.13	14.3	7.1	1.5	1				
114	395	Ⅴより上層	1号岩陰	チャート	0.20	13.5	6.0	2.4	1				
114	396	Ⅳ	1号岩陰	チャート	0.20	14.9	9.1	1.6		1			
114	397	②	2号岩陰南	チャート	0.08	8.5	5.6	1.3		1			
114	398	③	2号岩陰南	チャート	0.14	10.9	6.3	1.7	1				
114	399	③	2号岩陰南	チャート	0.23	13.5	8.5	1.6		1			
114	400	③	2号岩陰南	チャート	0.16	10.9	8.6	2.0		1			
114	401	③	2号岩陰南	チャート	0.05	11.6	6.9	0.9		1			
114	402	③	2号岩陰南	チャート	0.06	7.0	6.5	1.1		1			

Tab. 11　細石刃　計測表 ⑦

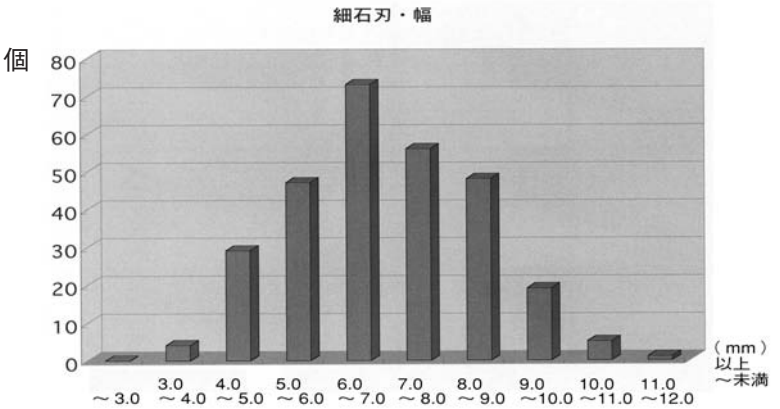
Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	備　　考
114	403	④	2号岩陰南	チャート	0.08	15.5	5.2	1.0	1				
114	404	⑤	2号岩陰南	チャート	0.06	7.8	5.5	1.2			1		
114	405	⑤	2号岩陰南	チャート	0.44	18.1	8.8	2.6	1				
114	406	ES－Ⅰ	南端(G−7周辺)	チャート	0.09	10.9	5.3	1.8	1				
114	407	ES－Ⅰ	南端(G−7周辺)	チャート	0.07	11.0	5.4	1.1		1			
114	408	KS	南端(G−7周辺)	チャート	0.10	11.5	5.0	1.4		1			
114	409	KS−1	南端(G−7周辺)	チャート	0.34	12.9	9.6	1.7				1	
114	410	G−①	南端(G−7周辺)	チャート	0.13	10.3	6.7	1.3		1			
114	411	G−①②	南端(G−7周辺)	チャート	0.19	15.9	10.7	1.8	1				
114	412	G−③	南端(G−7周辺)	チャート	0.20	13.1	6.7	1.7				1	
114	413	不明	1号岩陰	チャート	0.28	12.9	7.8	2.5		1			
114	414	不明	1号岩陰	チャート	0.18	14.0	8.4	1.7		1			
114	415	不明	1号岩陰	チャート	0.19	15.2	8.2	1.5	1				
114	416	不明	1号岩陰	チャート	0.25	15.7	8.5	2.2	1				
114	417	不明	1･2号岩陰中間	チャート	0.32	13.6	8.3	2.2				1	微細剥離有。
114	418	清掃時	2号岩陰	チャート	0.07	12.3	5.2	1.2				1	
114	419	排土	2号岩陰	チャート	0.33	14.7	7.2	2.8		1			
114	420	③	2号岩陰南	チャート	0.44	19.4	8.4	1.9	1				
114	421	埋立て土	2号岩陰南	チャート	0.07	10.5	7.1	1.2		1			
				平均値→	0.16 g	12.6 mm	6.8 mm	1.7 mm	118 点	82 点	27 点	54 点	←合計点数

出土層位・出土地点別　細石刃点数

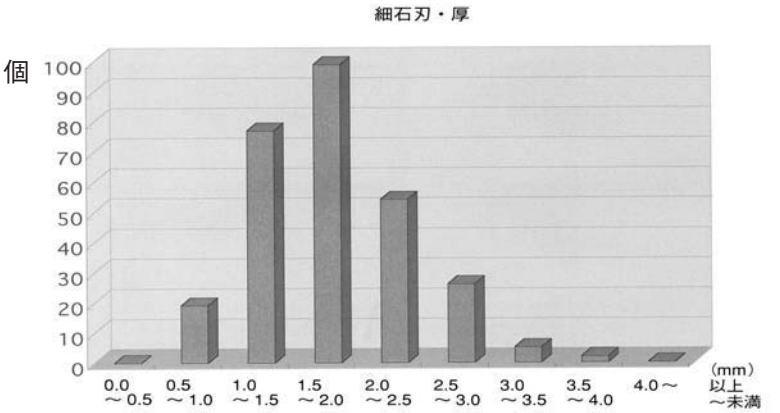
	1号岩陰	2号岩陰	1･2号中間	その他	計	比 率
Ⅹ	11				11	3.96%
Ⅸ	4				4	1.44%
Ⅷ－b	25				25	8.99%
Ⅷ－a	77	23	5		105	37.77%
Ⅶ	24	43	13		80	28.78%
Ⅵ	5	1			6	2.16%
Ⅴ	13	4			17	6.12%
SX101				5	5	1.80%
その他				25	25	8.99%
計	159	71	18	30		
比率	57.19%	25.54%	6.47%	10.79%		



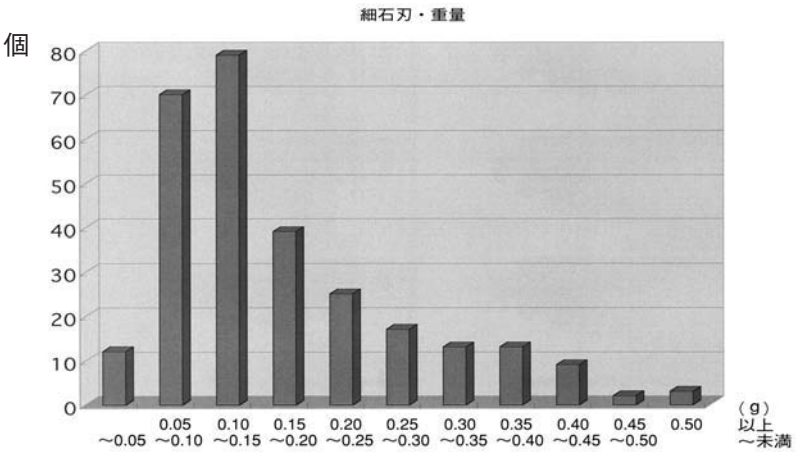
長さ（mm）	個数	%
5.0未満	1	0.4%
5.0以上7.5未満	7	2.5%
7.5以上10.0未満	53	18.8%
10.0以上12.5未満	80	28.4%
12.5以上15.0未満	80	28.4%
15.0以上17.5未満	35	12.4%
17.5以上20.0未満	20	7.1%
20.0以上22.5未満	5	1.8%
22.5以上25.0未満	1	0.4%
合計	282	100.0%



幅（mm）	個数	%
3.0未満	0	0.0%
3.0以上4.0未満	4	1.4%
4.0以上5.0未満	29	10.3%
5.0以上6.0未満	47	16.7%
6.0以上7.0未満	73	25.9%
7.0以上8.0未満	56	19.9%
8.0以上9.0未満	48	17.0%
9.0以上10.0未満	19	6.7%
10.0以上11.0未満	5	1.8%
11.0以上	1	0.4%
合計	282	100.0%

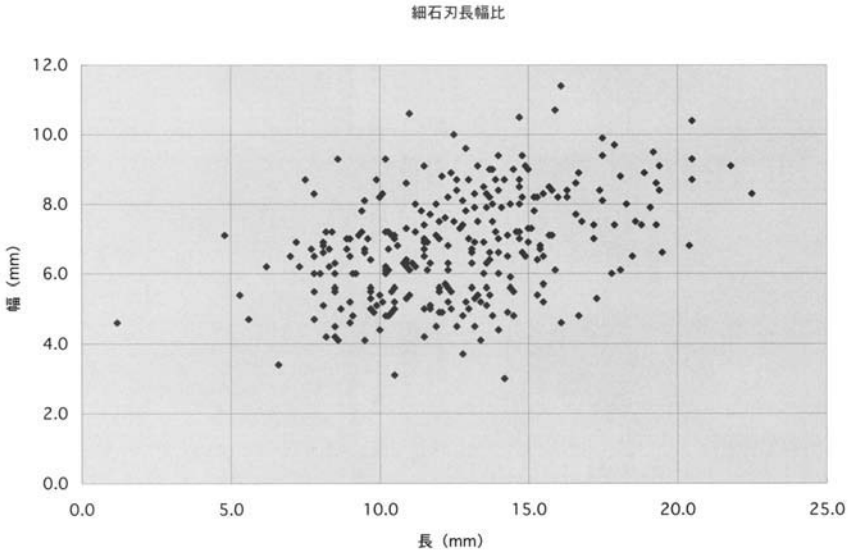


厚さ（mm）	個数	%
0.5未満	0	0.0%
0.5以上1.0未満	19	6.7%
1.0以上1.5未満	77	27.3%
1.5以上2.0未満	99	35.1%
2.0以上2.5未満	54	19.1%
2.5以上3.0未満	26	9.2%
3.0以上3.5未満	5	1.8%
3.5以上4.0未満	2	0.7%
4.0以上	0	0.0%
合計	282	100.0%



重　量（g）	個数	%
0.05未満	12	4.3%
0.05以上0.10未満	70	24.8%
0.10以上0.15未満	79	28.0%
0.15以上0.20未満	39	13.8%
0.20以上0.25未満	25	8.9%
0.25以上0.30未満	17	6.0%
0.30以上0.35未満	13	4.6%
0.35以上0.40未満	13	4.6%
0.40以上0.45未満	9	3.2%
0.45以上0.50未満	2	0.7%
0.50以上	3	1.1%

Fig. 115　細石刃データ（1）



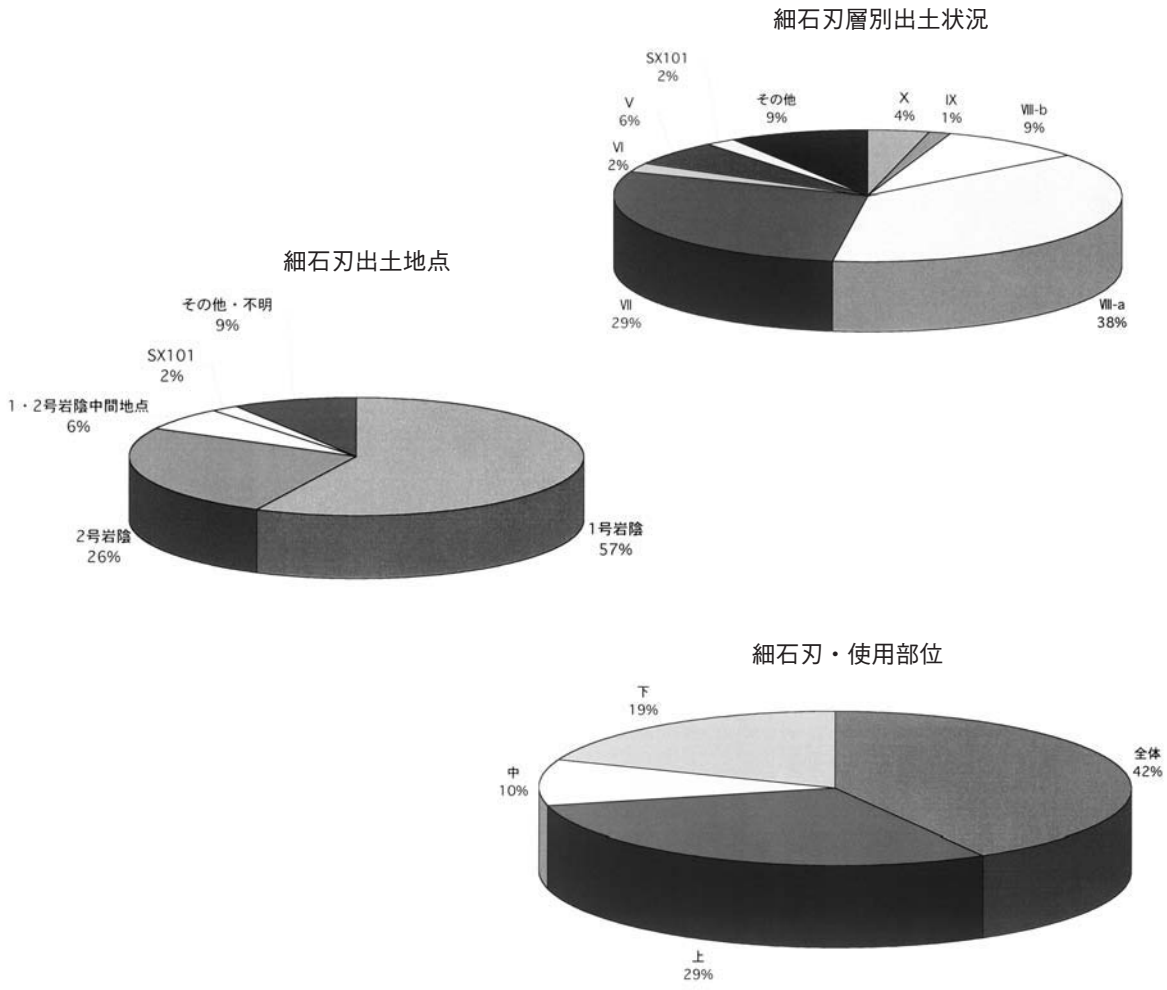


Fig. 116　細石刃データ(2)

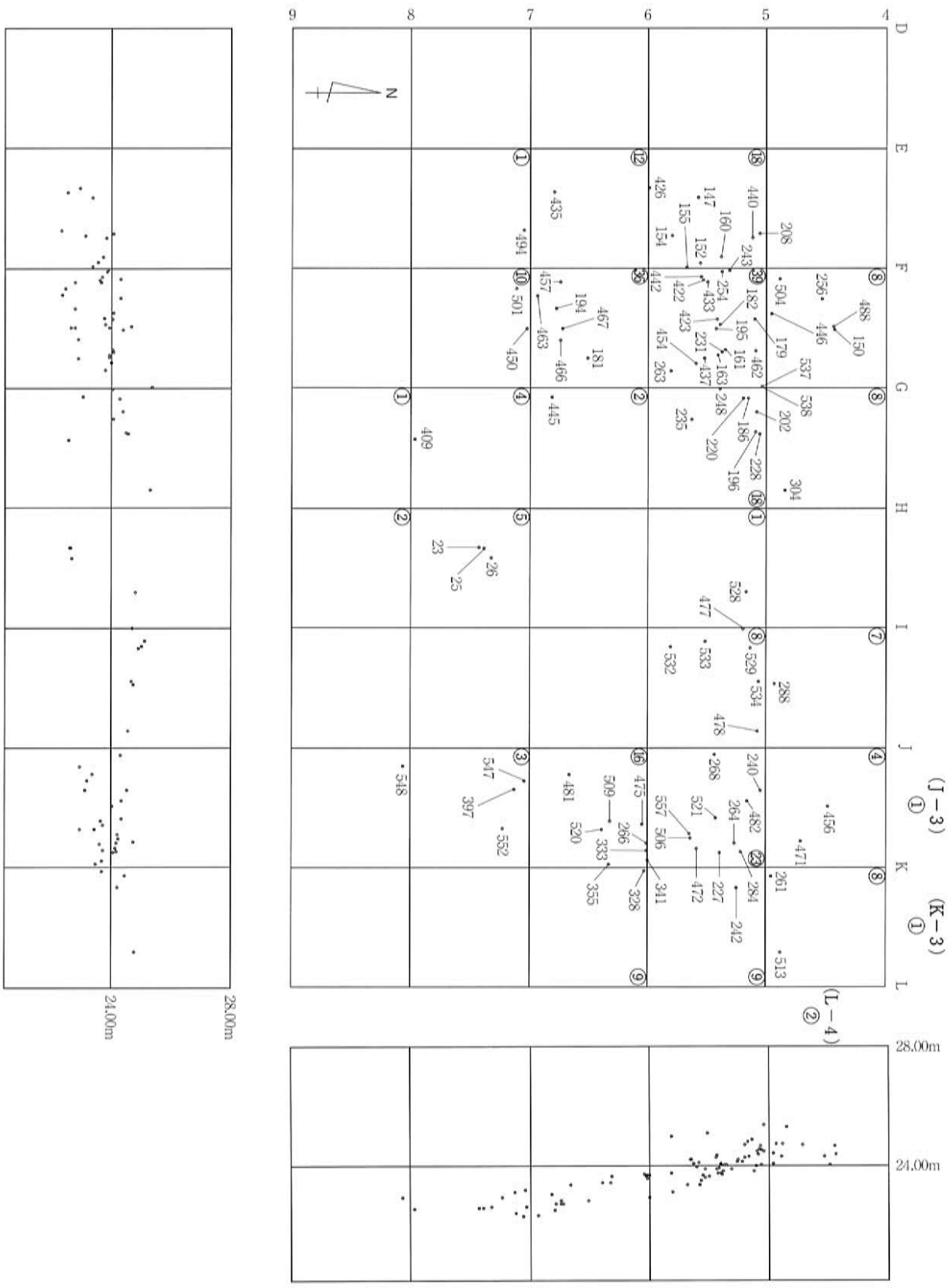


Fig. 117　細石刃出土地点・分布状況

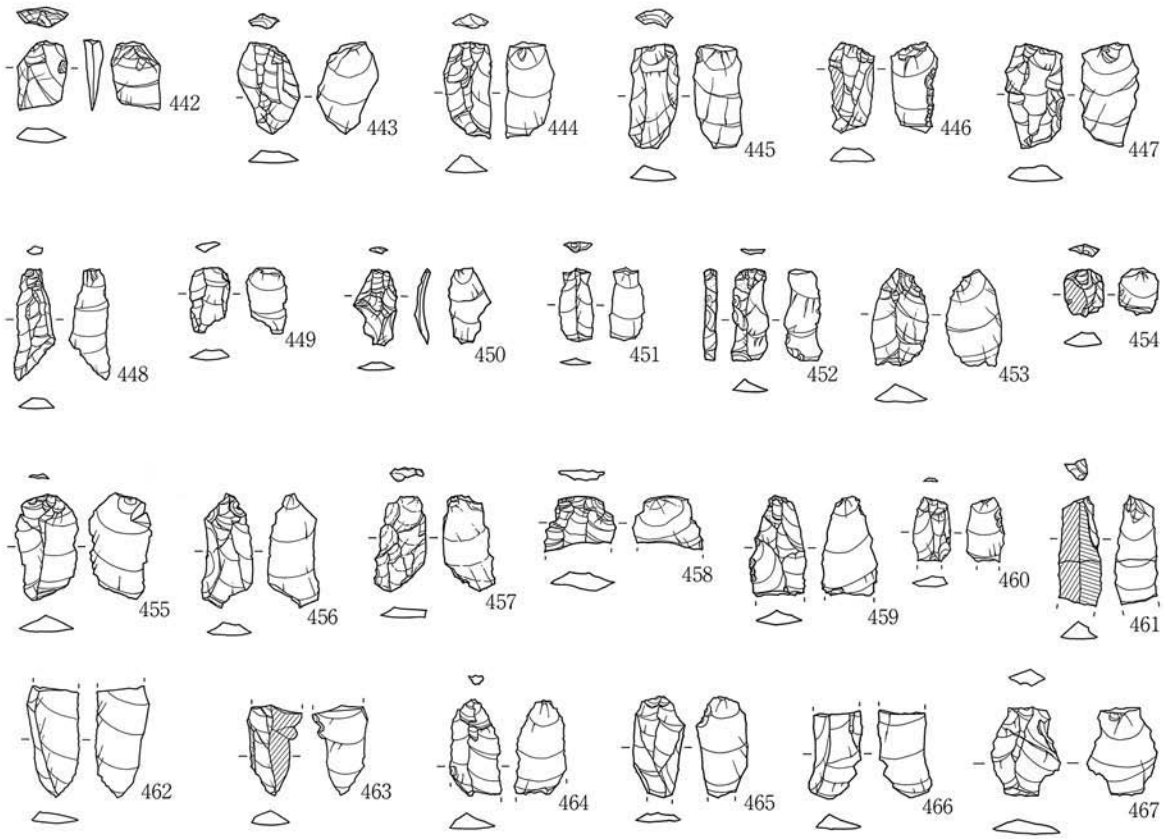
(5) 細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片（Fig.118～121）

ここでは、細石刃の可能性のある剥片類や細石刃剥離作業に伴う剥片を主に取り扱うが、それ以外の剥片も含んでいる。

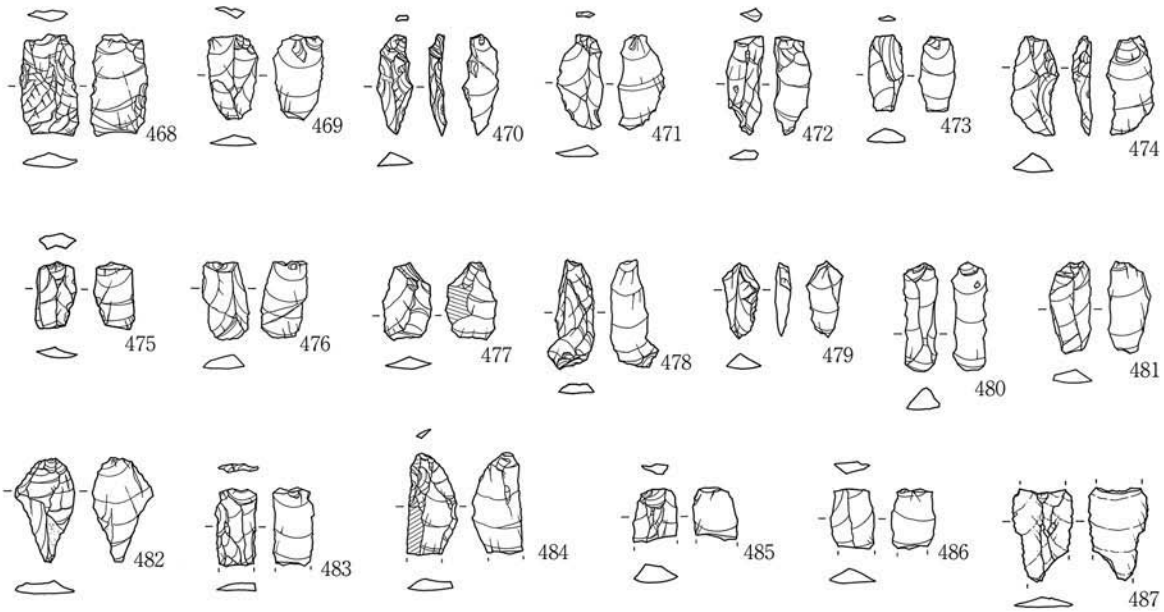
当初、背腹同一方向の剥離方向を持つ側縁が平行あるいは平行に近い縦長の剥片を細石刃として、他の剥片から分離していたのだが、その中には幅広であったり厚みがあったりと細石刃として使用するのに不適当な剥片も一定量含まれていた。また、明らかに押圧剥離による剥片ではないが、剥離方向が背腹同一というだけで細石刃としたものもある。これらの剥片について、細石刃から選別し取り除いて、細石刃である可能性がより強い剥片のみを細石刃として残した。しかし、選別の過程で若干の混乱が生じ、ここには明らかな細石刃であるのにここに分類されたり、細石刃とは全く関連のない剥片であったり、細石刃剥離作業の一連の工程に関係する剥片（作業面再生剥片など）が含まれていたり、側縁に2次加工が認められスクレイパーとしての使用が予想されるものがあったりと、背腹同一方向の小型の縦長剥片という共通項を持つ多様な形態・様相の遺物が含まれることとなった。後述する（11）小型縦長剥片と同じ種類の剥片も含まれている。

計測表（Tab.12）の器種・備考欄に、それら剥片の諸特徴はまとめて記載することとし、ここではこれらの遺物を「細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片」として出土層位・地点ごとに並べて提示したい。

Fig. 118　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片（X・Ⅷ-b層）
X層（422・423・425・426）
Ⅷ-b層（424・427～441）



1号岩陰



2号岩陰

Fig. 119　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片（Ⅷ-a層）

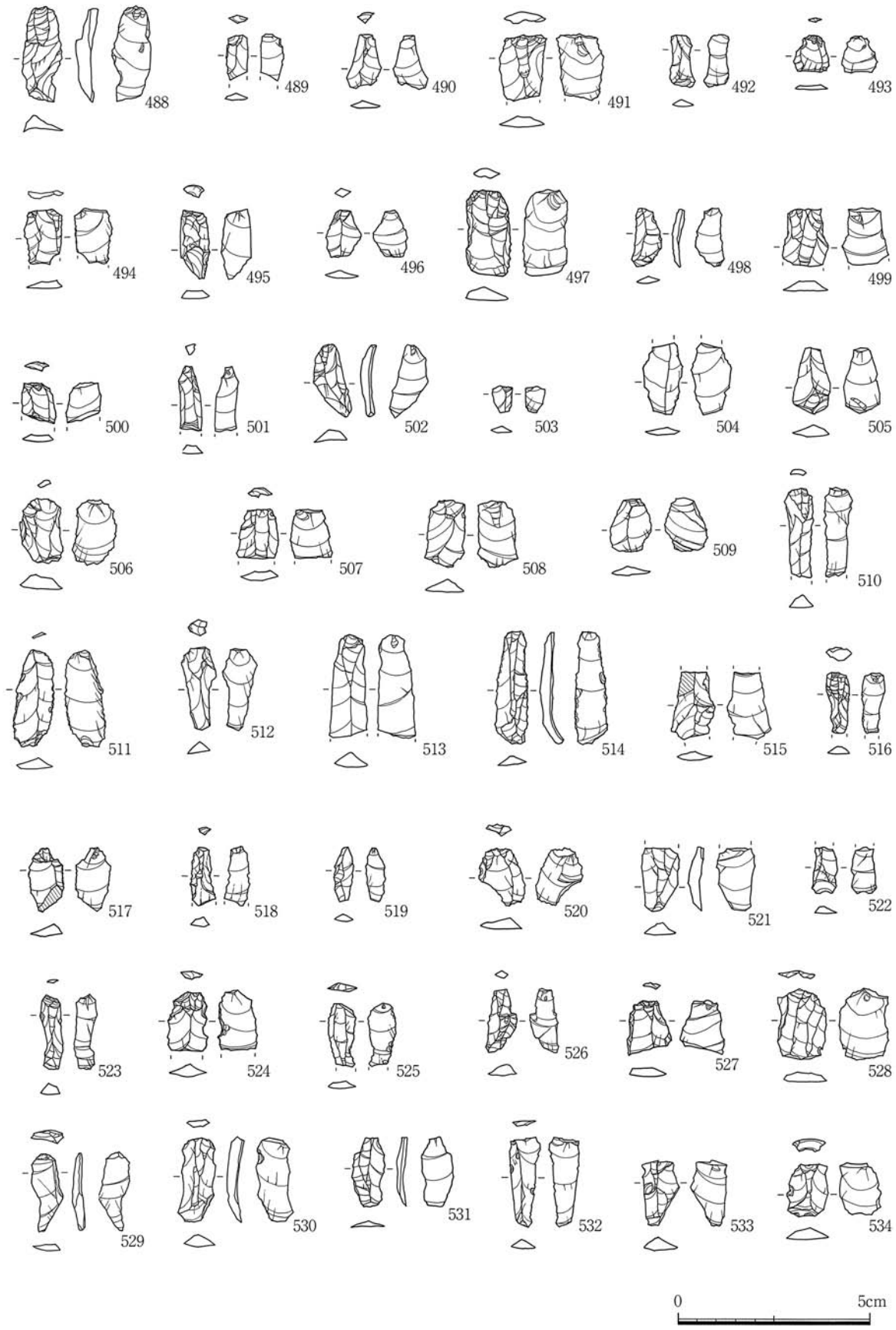


Fig. 120　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片（Ⅶ層）

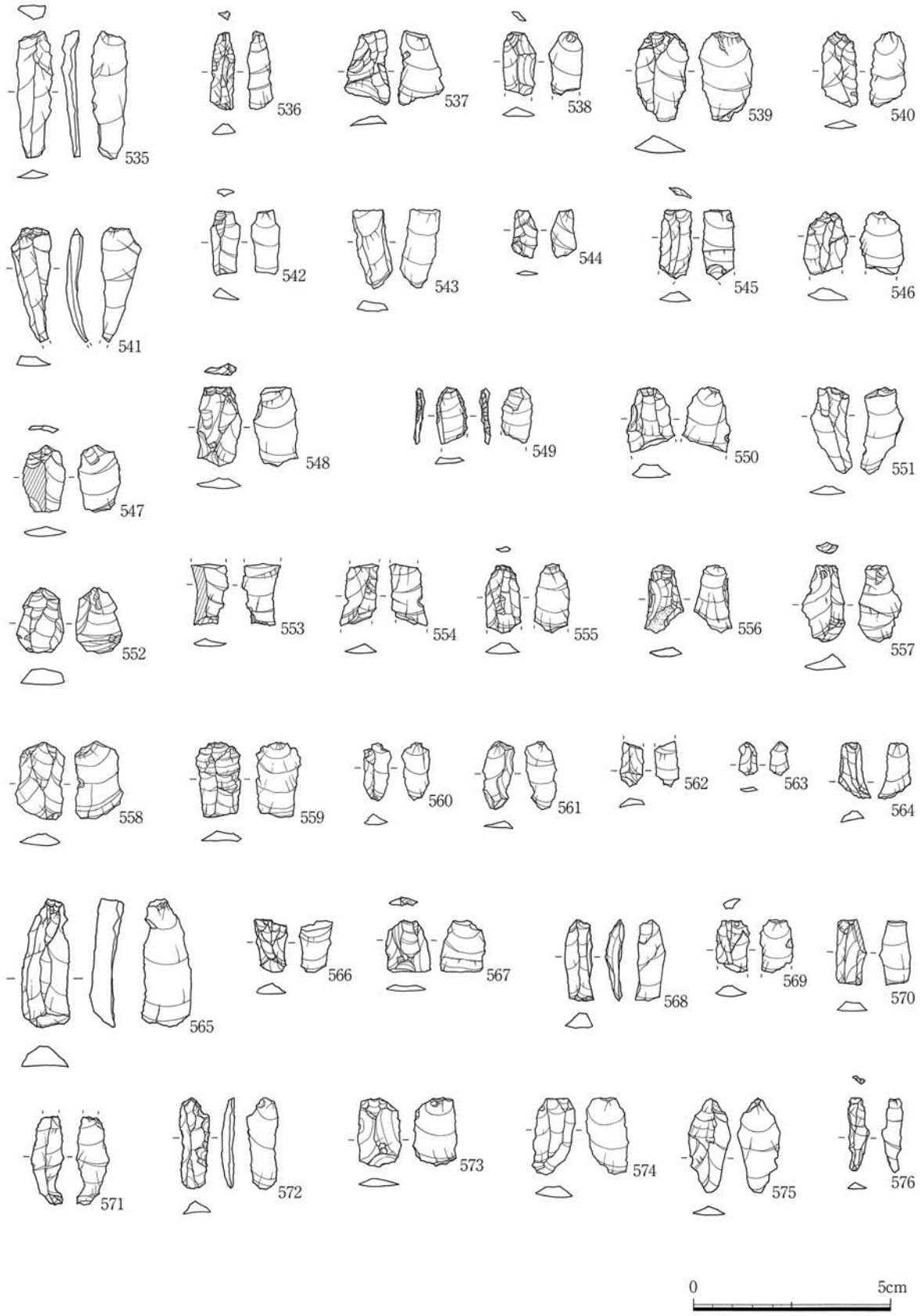


Fig. 121　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片（Ⅵ～Ⅳ層・その他の層）

Ⅵ層（535・536）　Ⅴ層（537～542・544）　Ⅳ層（543）
その他の層及び表採（545～576）

Tab. 12　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片　計測表 ①

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	器種・備考
118	422	X	1号岩陰	チャート	0.83	21.5	11.6	2.6	1				細石刃関連剥片
118	423	X	1号岩陰	チャート	0.31	15.1	8.4	2.1	1				剥片
118	424	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.35	16.0	11.5	3.0	1				剥片
118	425	X	1号岩陰	チャート	0.06	11.1	4.4	1.2	1				剥片
118	426	X	1号岩陰	チャート	0.36	18.0	9.1	2.4				1	剥片（背腹同一方向）
118	427	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.20	13.8	8.6	1.6	1				剥片（背腹同一方向）
118	428	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.22	11.3	9.5	2.3	1				細石刃関連剥片
118	429	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.33	18.6	8.5	2.4	1				剥片
118	430	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.22	15.3	10.6	1.8	1				剥片（背腹同一方向）
118	431	Ⅷ−b	2号岩陰	チャート	0.53	16.5	10.9	3.0	1				剥片
118	432	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.17	16.3	7.7	1.5		1			剥片
118	433	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.67	17.8	10.9	2.7	1				剥片（背腹同一方向）
118	434	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.42	18.6	10.4	2.4	1				剥片（背腹同一方向）
118	435	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.65	18.3	11.5	3.2	1				剥片（背腹同一方向）
118	436	Ⅷ上面	2号岩陰	チャート	0.22	14.9	7.7	2.0	1				剥片
118	437	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.57	20.9	11.7	3.8	1				剥片
118	438	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.35	18.9	6.0	2.7	1				剥片（背腹同一方向）
118	439	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.16	12.6	6.3	2.2		1			剥片
118	440	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.11	10.3	7.1	1.7		1			細石刃（可能性あり）
118	441	Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.40	16.3	9.8	3.6	1				細石刃関連剥片
119	442	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.38	12.7	9.8	2.7	1				剥片
119	443	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.63	18.1	10.5	3.5	1				剥片（背腹同一方向）
119	444	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.58	18.4	9.1	3.6	1				剥片（背腹同一方向）
119	445	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.73	20.4	9.4	3.5	1				剥片（背腹同一方向）
119	446	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.50	17.0	9.0	5.0	1				2次加工のある剥片（細石刃関連剥片）
119	447	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.76	20.2	11.7	2.7	1				細石刃関連剥片
119	448	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.40	22.2	7.0	1.2	1				細石刃関連剥片
119	449	Ⅷ−a～Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.16	12.9	7.6	1.7	1				細石刃（可能性あり）
119	450	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.17	15.0	8.5	1.7	1				剥片
119	451	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.17	14.4	6.9	1.5	1				剥片（背腹同一方向）
119	452	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.34	17.7	6.4	1.9	1				剥片
119	453	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.71	19.2	11.3	3.5	1				剥片
119	454	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.20	9.3	7.7	2.3	1				剥片
119	455	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.80	20.1	12.1	3.4	1				剥片
119	456	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.27	15.2	8.2	1.7	1				剥片
119	457	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.46	19.1	9.3	2.5	1				剥片
119	458	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.44	10.6	13.1	3.2		1			剥片（背腹同一方向）
119	459	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.51	19.8	11.2	2.2		1			剥片
119	460	Ⅷ	1号岩陰	チャート	0.19	12.0	7.4	1.5		1			剥片
119	461	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.65	21.9	8.6	3.6		1			剥片（背面節理面）
119	462	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.56	22.1	10.8	2.0				1	剥片（背腹同一方向）
119	463	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.51	19.8	11.2	2.2				1	剥片（背腹同一方向）
119	464	Ⅷ−a～Ⅷ−b	1号岩陰	チャート	0.54	18.9	10.5	2.9		1			剥片（背腹同一方向）
119	465	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.43	19.3	9.8	2.4		1			剥片（背腹同一方向）

Tab. 12　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片　計測表 ②

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	器種・備考
119	466	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.45	17.5	10.8	2.5				1	剥片（背腹同一方向）
119	467	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.67	17.2	14.2	3.2	1				剥片（背腹同一方向）
119	468	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.68	19.7	11.1	2.4	1				剥片（背腹同一方向）
119	469	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.40	16.2	9.3	2.5	1				剥片（背腹同一方向）
119	470	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.28	19.6	6.7	2.6	1				剥片
119	471	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.32	18.6	9.1	2.1	1				剥片
119	472	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.40	19.7	6.8	3.1	1				剥片
119	473	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.26	15.3	7.3	2.1	1				剥片
119	474	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.41	19.9	8.7	3.1	1				剥片
119	475	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.21	12.8	7.4	2.6	1				剥片
119	476	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.40	15.7	8.6	2.6	1				剥片
119	477	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.31	14.4	9.1	1.7	1				剥片
119	478	Ⅷ−a	1･2号岩陰中間	チャート	0.43	20.8	7.4	2.1	1				剥片
119	479	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.22	14.6	6.9	2.3	1				剥片
119	480	Ⅷ−a	2号岩陰南	チャート	0.48	21.0	6.3	3.5	1				剥片（背腹同一方向）
119	481	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.38	18.1	8.7	2.6	1				剥片（背腹同一方向）
119	482	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.54	20.1	11.7	3.4	1				剥片（背腹同一方向）
119	483	Ⅷ−a	1号岩陰	チャート	0.10	12.5	6.0	1.7		1			剥片（背腹同一方向）
119	484	Ⅷ～X	2号岩陰	チャート	0.62	20.2	10.1	2.4		1			剥片（背腹同一方向）
119	485	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.28	9.8	8.3	3.2		1			剥片（背腹同一方向）
119	486	Ⅷ−a	2号岩陰	チャート	0.31	11.6	8.6	2.9		1			剥片（背腹同一方向）
119	487	Ⅷ−a	2号岩陰	頁岩	0.30	18.3	11.2	2.0			1		剥片（背腹同一方向）
120	488	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.65	23.9	9.9	3.5	1				剥片
120	489	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.09	11.7	6.4	2.1		1			剥片
120	490	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.16	13.6	8.9	1.8	1				剥片
120	491	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.72	16.5	11.4	3.4		1			剥片（背腹同一方向）
120	492	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.13	13.4	6.4	1.9	1				剥片
120	493	Ⅶ−2	1号岩陰	チャート	0.12	9.1	8.8	1.7	1				剥片（背腹同一方向）
120	494	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	0.28	14.2	9.4	1.6		1			剥片（背腹同一方向）
120	495	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.32	18.0	7.9	1.6	1				剥片
120	496	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	0.20	12.1	8.6	2.2	1				剥片
120	497	Ⅶ	1号岩陰	チャート	1.18	21.5	11.3	3.8	1				細石刃関連剥片
120	498	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.15	15.0	7.9	1.9	1				剥片
120	499	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.73	14.7	11.1	4.3		1			細石刃関連剥片
120	500	Ⅶ･Ⅷ混	1号岩陰	チャート	0.23	10.5	8.9	1.6		1			細石刃（可能性あり）
120	501	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.25	16.1	5.2	1.9	1				剥片
120	502	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.39	18.2	7.9	2.4	1				剥片
120	503	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	0.04	6.7	4.9	1.2	1				剥片
120	504	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.28	18.8	10.8	2.1				1	剥片
120	505	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.40	16.7	9.8	2.9	1				剥片
120	506	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.56	16.2	10.0	2.9	1				剥片（背腹同一方向）
120	507	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.35	12.6	10.1	2.0		1			細石刃関連剥片
120	508	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.56	17.1	9.5	2.8	1				剥片
120	509	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.39	13.4	10.2	2.7	1				剥片

Tab. 12　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片　計測表 ③

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	器種・備考
120	510	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.46	22.7	5.8	3.1		1			剥片（背腹同一方向）
120	511	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.70	24.8	10.1	2.5	1				剥片
120	512	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.41	21.1	9.7	3.3	1				剥片
120	513	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.92	26.5	9.5	3.9		1			剥片
120	514	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.56	29.1	8.8	6.4	1				細石刃関連剥片
120	515	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.37	17.1	11.5	2.3			1		剥片
120	516	Ⅶ−SR−2	2号岩陰	チャート	0.15	15.7	6.3	1.8	1				剥片（背腹同一方向）
120	517	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.28	16.0	8.6	2.4	1				剥片（背腹同一方向）
120	518	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.19	14.6	5.8	2.0	1				剥片
120	519	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.11	13.6	4.7	1.7	1				剥片
120	520	Ⅶ−YR	2号岩陰	チャート	0.37	14.3	11.3	2.3	1				剥片（背腹同一方向）
120	521	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.40	16.0	9.5	3.0				1	剥片（背腹同一方向）
120	522	Ⅶ−SR−1	2号岩陰	チャート	0.10	12.2	6.6	2.0				1	剥片
120	523	Ⅶ−SR−3	2号岩陰	チャート	0.19	18.7	5.2	1.8	1				剥片
120	524	Ⅶ	2号岩陰	チャート	0.48	15.1	10.6	3.4		1			剥片（背腹同一方向）
120	525	Ⅶ−SR−1	2号岩陰	チャート	0.18	16.5	7.3	1.5		1			剥片（背腹同一方向）
120	526	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	0.23	16.3	7.1	2.1	1				剥片（背腹同一方向）
120	527	Ⅶ−2	2号岩陰	チャート	0.42	12.6	11.7	2.6		1			細石刃関連剥片
120	528	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.72	18.0	12.5	3.0	1				細石刃関連剥片
120	529	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.27	19.3	7.6	1.6	1				剥片（背腹同一方向）
120	530	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.64	21.8	9.9	4.4	1				剥片（背腹同一方向）
120	531	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.22	16.6	7.8	1.8	1				剥片（背腹同一方向）
120	532	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.34	23.2	7.9	2.5	1				剥片（背腹同一方向）
120	533	Ⅶ−2	1･2号岩陰中間	チャート	0.44	17.0	9.5	3.3	1				剥片（背腹同一方向）
120	534	Ⅶ	1･2号岩陰中間	チャート	0.45	13.4	10.8	3.1	1				剥片（背腹同一方向）
121	535	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.75	31.9	9.0	4.8	1				剥片（背腹同一方向）
121	536	Ⅵ	1号岩陰	チャート	0.31	19.4	5.6	2.7	1				剥片（背腹同一方向）
121	537	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.45	18.0	9.4	2.3	1				剥片（背腹同一方向･細石刃関連剥片）
121	538	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.26	15.5	8.0	2.2		1			剥片（背腹同一方向）
121	539	Ⅴ	2号岩陰	チャート	1.13	22.4	12.9	5.2	1				剥片（背腹同一方向）
121	540	Ⅴ	1･2号岩陰中間	チャート	0.42	19.4	8.9	2.4	1				剥片（背腹同一方向）
121	541	Ⅴ	2号岩陰南	チャート	0.74	28.7	10.0	2.9	1				細石刃
121	542	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.30	16.0	7.3	3.1	1				剥片（背腹同一方向）
121	543	Ⅳ−1	1号岩陰	チャート	0.44	20.0	7.9	1.9	1				剥片（背腹同一方向）
121	544	Ⅴ	1号岩陰	チャート	0.09	12.0	6.5	1.2	1				剥片
121	545	②	2号岩陰南	チャート	0.43	17.5	8.1	2.7		1			剥片（背腹同一方向）
121	546	②	2号岩陰南	チャート	0.49	15.4	11.1	3.2		1			剥片（背腹同一方向）
121	547	②	2号岩陰南	チャート	0.40	16.6	10.2	2.4	1				剥片（背腹同一方向）
121	548	②	2号岩陰南	チャート	0.69	19.4	11.3	3.1	1				剥片（背腹同一方向）
121	549	③	2号岩陰南	チャート	0.19	13.9	7.3	1.3		1			細石刃転用スクレイパー
121	550	G−③	南地点（G-7周辺）	チャート	0.62	16.4	12.2	3.4		1			細石刃関連剥片
121	551	G−③	南地点（G-7周辺）	チャート	0.39	22.0	9.0	1.8	1				細石刃
121	552	⑤	2号岩陰南	チャート	0.78	16.2	11.7	3.3	1				細石刃関連剥片
121	553	ES排土	2号岩陰南	チャート	0.17	16.1	7.0	1.6	1				剥片（背腹同一方向）

Tab. 12　細石刃及び細石刃関連剥片・その他の剥片　計測表 ④

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	平面位置	石　材	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	器種･備考
121	554	不明	2号岩陰南	チャート	0.24	15.2	9.0	1.9				1	剥片(背腹同一方向)
121	555	G−①②	南地点(G-7周辺)	チャート	0.31	15.2	8.5	2.1			1		剥片(背腹同一方向)
121	556	G−③	南地点(G-7周辺)	チャート	0.46	17.8	8.8	2.5		1		1	細石刃関連剥片
121	557	G−③	南地点(G-7周辺)	チャート	0.27	16.7	9.1	1.7	1				剥片
121	558	G−③	南地点(G-7周辺)	チャート	0.55	19.3	11.0	2.6	1				剥片
121	559	G−③	南地点(G-7周辺)	チャート	0.61	19.2	12.4	2.8	1				剥片(背腹同一方向)
121	560	黒褐色粘質土	H−7周辺	チャート	0.16	14.6	7.0	2.1	1				剥片(背腹同一方向)
121	561	黒褐色粘土	H−7周辺	チャート	0.16	16.5	7.7	1.5	1				剥片(背腹同一方向)
121	562	排土	H−7周辺	チャート	0.08	10.3	5.4	1.6				1	剥片
121	563	不明	2号岩陰南	チャート	0.03	8.5	4.6	1.0	1				剥片
121	564	排土	2号岩陰南	チャート	0.26	14.3	7.7	2.6	1				細石刃関連剥片
121	565	埋立て土	不明	チャート	2.21	32.5	12.0	5.0	1				細石刃関連剥片
121	566	不明	不明	チャート	0.26	13.5	8.5	3.0	1				剥片
121	567	不明	1･2号岩陰中間	チャート	0.35	13.3	11.0	2.2	1				剥片
121	568	不明	1･2号岩陰中間	チャート	0.50	20.3	6.7	3.9	1				剥片(背腹同一方向)
121	569	不明	1･2号岩陰中間	チャート	0.28	12.8	7.7	1.8		1			剥片(背腹同一方向)
121	570	排土	1･2号岩陰中間	チャート	0.40	16.0	8.5	3.0	1				剥片
121	571	不明	1･2号岩陰中間	チャート	0.31	22.1	7.8	2.1				1	剥片(背腹同一方向)
121	572	不明	2号岩陰	チャート	0.45	22.3	6.1	2.5	1				剥片(背腹同一方向)
121	573	検出時	1号岩陰	チャート	0.54	17.4	11.1	3.0	1				剥片
121	574	Ⅶ	1号岩陰	チャート	0.61	19.2	9.6	3.2	1				細石刃関連剥片
121	575	表採	不明	チャート	0.50	23.6	10.3	2.1	1				剥片
121	576	表採	不明	チャート	0.14	18.3	4.8	2.0	1				剥片

(6) 細石刃関連剥片ー打面再生剥片ー (Fig.122)

細石刃剥離に伴う剥片の中で、明らかに打面再生剥片だと認定できる資料が、Fig.122-577～580である。現段階で確認し得た打面再生剥片はこの4点のみで、石材はすべてチャートである。

この4点は、いずれも作業面に対して側縁方向から加撃による剥離を行い、打面の再生を行っている。

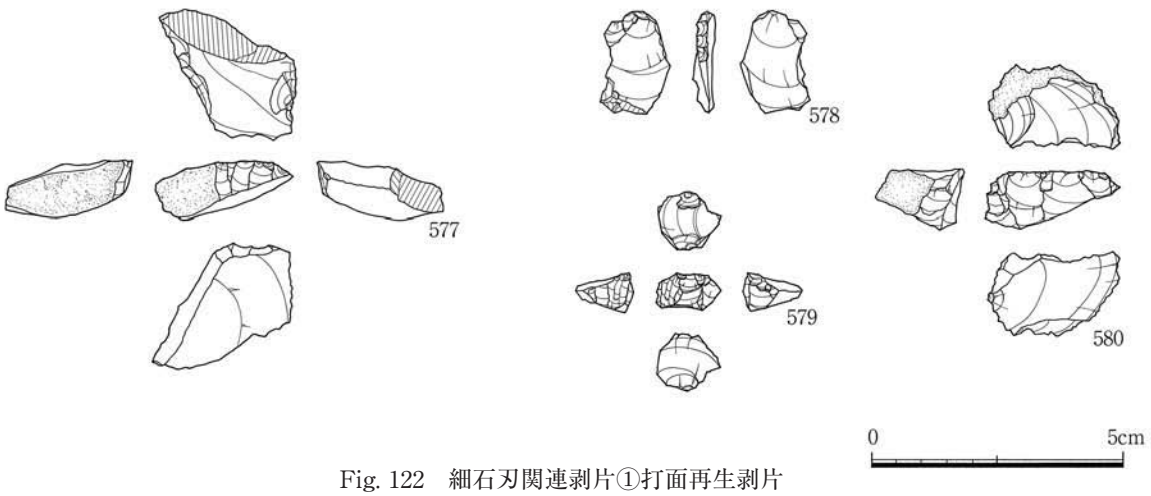


Fig. 122　細石刃関連剥片①打面再生剥片

出土地点は577が1号岩陰のⅧ-a層、578・579が2号岩陰Ⅷ-a層とⅦ-SR-3層（Ⅷ-a層に近接する層）である。

(7) 細石刃関連剥片−作業面再生剥片・他−（Fig.123〜125）

細石刃剥離に伴う剥片の中で、作業面再生剥片だと認定できる資料はFig.123〜124-581〜602である。ここに示した資料は22点だが、作業面再生剥片と考えられる資料は図化していない資料も含めて多く、現段階で実数の把握はできていない。全体でおおよそ50点以上は存在するものと考えられる。実測資料は大半が打面側からの作業面再生に伴う作業面再生剥片であり、剥離方向が細石刃剥離の方向と同方向を示す。例外は601・602の2点のみで、細石刃剥離方向に対して対向する方向（打面に対して右斜め下方に打点あり。）であったり（601）、直交する方向であったり（602）、細石刃剥離のための打面とは異なる面に打点が観察される。

出土地点から見ると、これらの作業面再生剥片の大半はⅧ層からⅦ層の中でもⅧ層に近接する下層にかけて出土した資料であることがわかる。（Tab.13参照）ただし、打面再生の方向の異なる

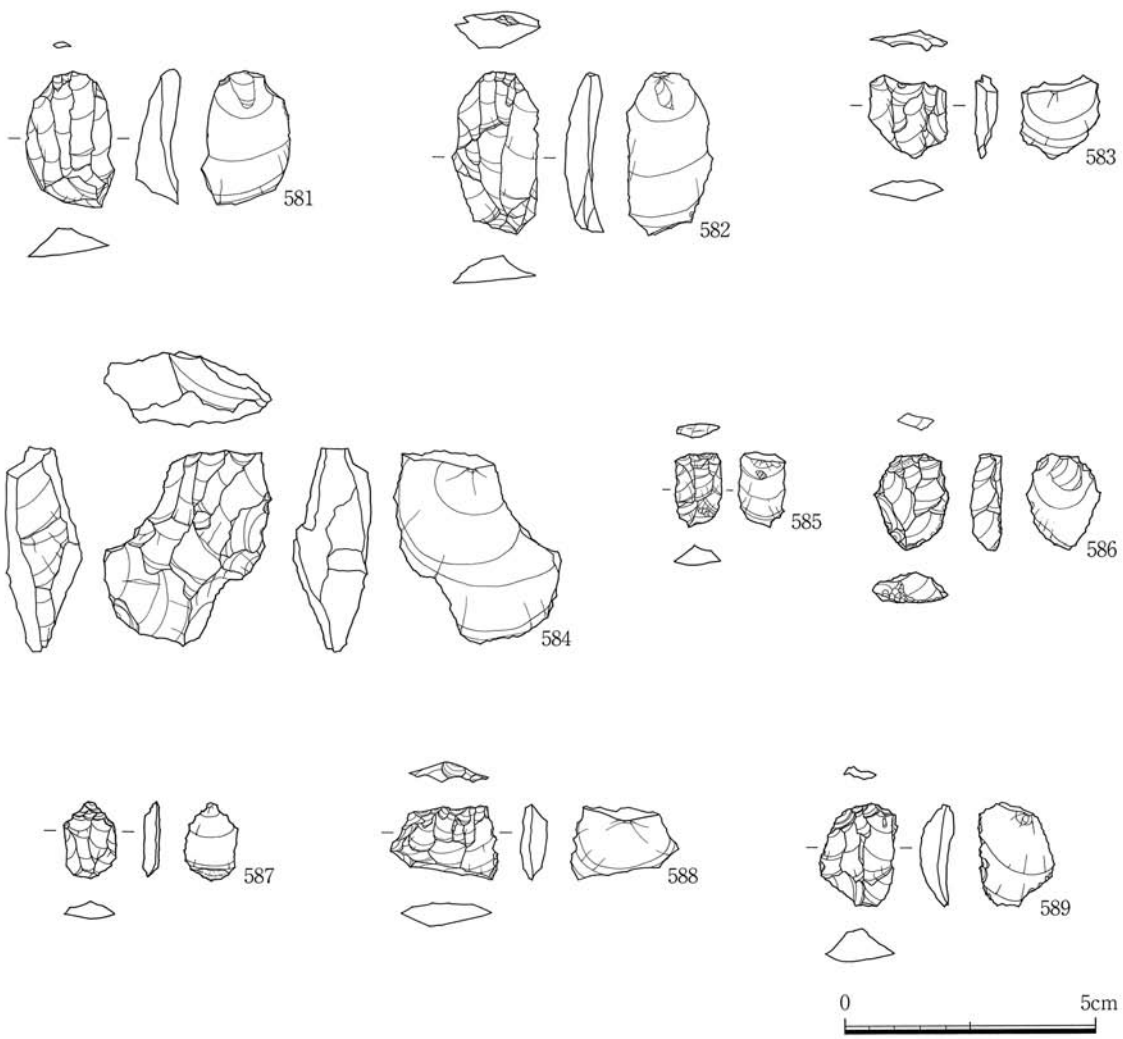


Fig. 123　細石刃関連剥片②作業面再生剥片（Ⅸ・Ⅷ-a層）

601は2号岩陰南の二次堆積層（②層）出土で、602は調査区南端（G-7・8）の縄文土器集中土層（G-①・②層）からの出土である。

石材は、592以外すべてチャートである。592の作業面再生剥片は、石材の面で注目される。漆黒と表現できる黒さをもつ石材だが、黒曜石のようなガラス質の光沢はない。またチャートにも類似する質感の黒色石材があるのだが、592には器面に微細な気泡が観察される面が残り、堆積岩であるチャートでありえない。旧石器・縄文時代・地質・岩石などを専門とする研究者の方々に

Fig. 124　細石刃関連剥片③作業面再生剥片・他（Ⅶ層及びその他の層）

ご教示をいただたものの、現段階ではこの石材について断定的な見解を得るに至っていない。気泡の存在と漆黒であることから、安山岩の一種ではないかというのが現段階での見解である。奥谷南遺跡のすべての石材を見渡しても、これは異質であることから搬入石材だと考えているが、石材の面で重要な資料である。

また、Fig.125-603～609については、打面形成剥片など細石刃関連剥片であるという指摘を受けた資料であるが、現段階では接合可能な細石刃核の確認もできていないため、参考資料として掲載するにとどめる。石材はすべてチャートである。

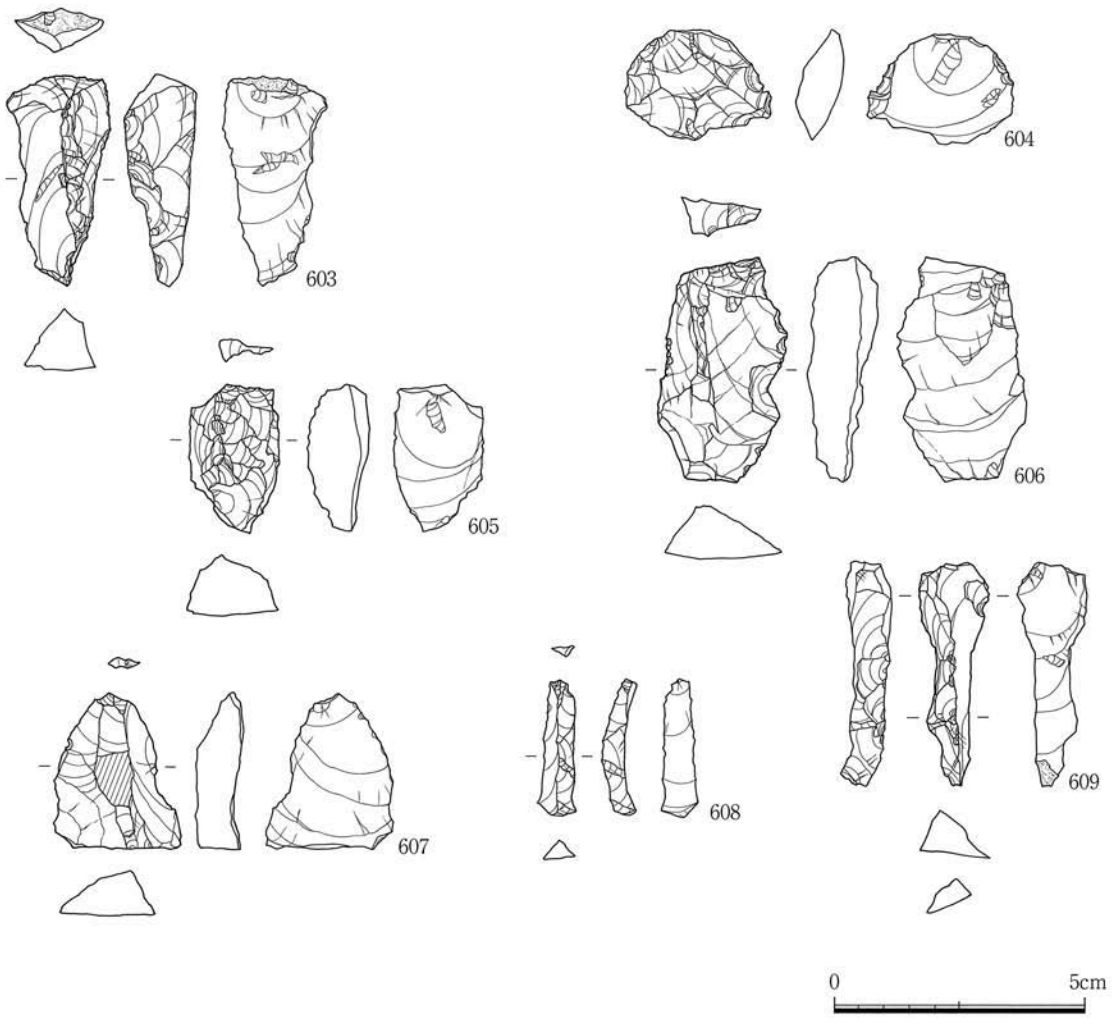


Fig. 125　細石刃関連剥片④打面形成剥片及びその他の剥片

Tab. 13　細石刃関連剥片（打面再生剥片・作業面再生剥片・他）計測表

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特徴・備考
122	577	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	細石刃核打面再生剥片	5.30	1.14	2.75	2.49	
122	578	Ⅷ−a	JK−4	チャート	細石刃核打面再生剥片	0.80	2.01	1.39	0.28	
122	579	Ⅶ−SR−3	KL−5	チャート	細石刃核打面再生剥片	0.90	0.73	1.30	1.13	
122	580		水	チャート	細石刃核打面再生剥片	3.94	2.71	1.83	1.16	
123	581	Ⅸ	JK−6	チャート	細石刃核作業面再生剥片	3.80	2.66	1.75	0.58	
123	582	Ⅷ−a	EF−5	チャート	細石刃核作業面再生剥片	3.20	3.17	1.69	0.69	
123	583	Ⅷ−a	EF−5	チャート	細石刃核作業面再生剥片	0.80	1.66	1.58	0.44	
123	584	Ⅷ−a	F−4	チャート	細石刃核作業面再生剥片	14.40	3.89	3.32	1.50	
123	585	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	細石刃核作業面再生剥片	0.48	1.42	0.89	0.34	
123	586	不明	TR−3	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.20	1.88	1.49	0.61	
123	587	Ⅷ−a	J−5南バンク	チャート	細石刃核作業面再生剥片	0.50	1.50	1.10	0.30	
123	588	Ⅷ	TR−3	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.50	1.46	2.11	0.53	
123	589	Ⅷ−a	JK−6	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.60	2.10	1.50	0.65	
124	590	Ⅶ	東西トレンチ一括	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.50	1.75	1.66	0.53	
124	591	Ⅶサイカ	GH−5	チャート	細石刃核作業面再生剥片	3.40	2.31	1.70	0.88	
124	592	Ⅷ−c	TR−A	安山岩	細石刃核作業面再生剥片	1.40	1.70	1.35	0.60	漆黒のチャートに見えるが気泡が観察される。安山岩の一種か?今回の調査では類似する石材は出土していない。
124	593	Ⅶ	I−4	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.60	2.00	1.50	0.50	
124	594	Ⅷ−a	J−6−W	チャート	細石刃核作業面再生剥片	2.50	2.10	2.05	0.90	
124	595	Ⅷ−a	J−6	チャート	細石刃核作業面再生剥片	4.67	2.71	1.95	1.14	
124	596	Ⅶ	JK−6	チャート	細石刃核作業面再生剥片	5.90	2.10	1.10	1.10	
124	597	Ⅶ−SR−3	JK−5	チャート	細石刃核作業面再生剥片	2.01	1.60	1.90	0.75	
124	598	Ⅶ−YR	J−6	チャート	細石刃核作業面再生剥片	0.86	2.41	0.88	0.55	
124	599	Ⅶ−YR	J−6	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.10	2.01	1.34	0.41	
124	600	Ⅴ	TR−3〜4	チャート	細石刃核作業面再生剥片	1.70	1.92	1.51	0.51	
124	601	②	J−7	チャート	細石刃核作業面再生剥片	3.20	2.20	2.74	0.95	
124	602	G−①②	G−7･8	チャート	細石刃核作業面再生剥片	7.40	2.10	2.18	1.78	
125	603	Ⅷ−b	JK−5	チャート	剥片	8.40	4.12	2.05	1.18	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。
125	604	Ⅷ−a	JK−5	チャート	剥片	4.50	2.19	2.88	0.95	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。
125	605	Ⅶサイカ	G−5	チャート	剥片	6.80	2.90	1.82	1.19	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。
125	606	Ⅶ	ブロック4	チャート	剥片	11.90	4.41	2.58	1.30	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。
125	607	Ⅶサイカ	JK−6	チャート	剥片	7.10	3.07	2.51	0.86	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。
125	608	Ⅶ	TR−12 西バンク	チャート	剥片	0.70	2.69	0.75	0.43	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。
125	609	⑤	I−8バンク	チャート	剥片	3.10	4.39	1.42	0.97	細石刃関連剥片の可能性の指摘あり。

（8）細石刃核（Fig.126〜134）・細石刃核あるいはその他の石核（Fig.135・136）

細石刃核はここに示す資料だけではなく、後段の（10）間接打撃による石核の項目の中や他器種としてまとめた中にも若干混在している。

チャートの細石核を考える時、チャート自身の持つ特徴を踏まえておく必要がある。黒曜石・輝石安山岩など旧石器・縄文時代の広域流通石材と較べた場合の可塑性の低さと異様なまでの節理面の発達である。

節理面は層理構造を持つチャートの特殊性ゆえ層理に沿う形で一般的に現われるのだが、時として層理に直交する節理面もあり、節理に囲まれ作業面1面のみが剥離面などという石核も出現する。この頑固なまでの節理に阻まれ、思い描く形状に整形するのが困難な場合もあっただろうと推察される。一定の形状が実現しない場合でも、素材の選択や素材に対する働きかけは同じ作法で行われているはずであり、技術や形態から分類を試みれば何とか石器群の実態がわかるのではないか、と何度か分類作業を試みてみたのだが、報告の段階に至っても満足のいく解答は得られていない。

同層中に異なる形態の細石刃核が存在している場合は時期差を持つ資料が混在しているのか、それとも異なる系統の技術を同一集団が保持しているのか、さらには集団内における熟練の差なのか、はたまた石材の質や性質によって決定されてしまう差なのか、細石刃核の分析を通してそれを明らかにしようとしたのだが、残念ながらすっきりとした結論を導き出すことはできなかった。

まず、細石刃核の認定に際して大いに混乱をきたした。当初、研究者の方々から細石刃核であるという指摘を受けた石器について、すべて細石刃核であると認識した上で、図化し分類しようとしたのだが、十分な理解のないまま石器に対する取り組みを進めたこともあって、作業自体に困難を極めた。また、石器と認識していた石片が人工的な石器ではないという指摘、すなわち偽石器であるという指摘を受け、石器の器種認定・報告書への掲載順序の見直しを行い、非常に混乱した状態で細石刃核の分類・位置づけを進めることとなった。偽石器に対する説得力のある説明も受けていたのに、十分に偽石器についての理解ができていなかった。典型的な石器、明らかな人工品を抜き出すと、そこに一定の作法が浮かび上がってくるのではないか。しかし、偽石器の可能性はあっても素材として選択された礫であったり、特殊な事例であったりするケースについても勘案し、誰が見ても疑問符が付く石器については除外し、意見の分かれる資料については極力残すこととした。その上で判断に迷った資料は（17）礫・その他の石器の項目にどんどんまとめていくという方策をとる。その結果、報告書の出土遺物の冒頭に「器種ごとに」と謳ったにもか関わらず、器種に混乱をきたし、項目ごとに若干量の器種の混在を示す報告となったことをお許しいただきたい。報告段階でも器種認定に混乱をきたしたままの資料も残っている。

以下に示すのは2000年10月に高知市で開かれた中・四国旧石器談話会で発表した細石刃核分類基準である。この段階では、一部の偽石器や他の石核についても細石刃核として取り扱っていた。その時の分類の文章を、そのまま掲載する。（報告書中では、microblade core あるいは micro

coreに対して、細石刃核という表現で統一したが、2000年段階では細石核という表現を用いている。）

①打面形成の先後

ほぼ全ての個体において打面が先に形成されている。すなわち、削片系の細石核は当遺跡出土資料中には含まれず、全てが非削片系細石核であるといえる。ゆえに、この類別基準は当遺跡において有効ではない。

②石核調整

石核調整を行うか行わないかという観点から分類を進めると、意図的に一定のブランク形状を造り出すものと石核調整が雑であったりほとんど行わなかったりする細石核とに分けられる。
打面側からの調整・下縁側からの調整という観点が、細石核分類上極めて有効な指標となる。同時に下縁稜を意識しているのかどうかも、極めて重要な指標である。

③ブランク形状

ブランク形状からみると、A.舟底形のもの、B.それ以外のブランク形状を呈するものの２類型に大きく分類できる。ただし、Ｂのそれ以外のものについてはブランク形状が推定可能なものまでに留め、それ以上細石刃剥離作業を進めることのできない最終残核-すなわちブランク形状が不明である個体については、Ａ・Ｂ以外の分類項目を設けて分類する必要がある。

④細石刃剥離作業の進行

細石刃剥離作業の工程を考えれば、ブランクから細石刃剥離作業をはじめた段階で、ブランク形状に近い形態を残す細石核（M-1段階）→細石刃剥離作業が進行し、ブランクの形状からは変化しているものの、なおブランク形状の推定が可能で石核調整についても観察できるもの（M-2段階）→細石刃剥離作業が進行し、石核形状・ブランク形状ともに確認できないもの（M-3段階）という３段階の設定が可能である。この３段階の設定により、ブランク形状が捉えられない最終残核をとりあえず分類することが可能となる。

⑤細石刃剥離作業に伴う技術的属性

頭部調整・打面細部調整・側辺に残る微細剥離（細石核固定具痕）など重要な属性ではあるが、分類の基準としては使用しない。当遺跡の基準に沿って分類した細石核のグループにどういう形で付随してくるのかを判断する。

以上の基準を用いて、ブランク形状をもとにＡ・Ｂ・Ｃ類の３類に分類した。

分類

Ａ類→舟底形のブランクを形成するもの。

Ａ-Ⅰ・・・下縁調整がはっきりしている。下縁からの調整ははっきりしているが、背縁はなく多くの場合面をなす。

Ａ-Ⅱ・・・下縁から背縁にかけて稜が連続する。下縁という意識がよりはっきりしている。

A-Ⅲ・・・打面側からの側面調整だけで、下縁側からの調整はない。場合によっては、下端は稜を形成しない。

A-Ⅳ・・・下縁稜は形成されるものの、打面側からの側面調整がほとんど（あるいは全く）なく、下縁からの調整によってのみ舟底形のブランクを形成する。「打面側からの側面調整」という視点を除けば、A-Ⅰ・A-Ⅱ類に分類されるべき細石核であり、Ⅰ～Ⅲの下位に来るべき分類基準だが、敢えてA-Ⅳを設定して分けた。側面調整を除けばⅠ・Ⅱと分かれるため、A-Ⅳ（Ⅰ）・A-Ⅳ（Ⅱ）と区別する。

A-Ⅰ類～A-Ⅳ類各々、形態による下位分類を行う。

B類→ブランク形状が舟底形のもの以外

形態分類により細分が必要である。野岳休場型細石核がこのB-Ⅱ類の中に含まれ、板状の素材を利用した細石核もここに入る。また、B-Ⅰ類の中には三面（～四面） が節理面あるいは礫面によって囲まれた細石核（もしくは小型石刃石核）や両設打面の細石核が含まれる。

B-Ⅰ・・石核調整がほとんどみられないもの

①三面～四面の節理面・礫面・剥離面によって囲まれる。・・頭部調整がなく、同一作業面で打面を90°前後転回する。縦長の剥片剥離作業を連続させるが、他の細石核より剥離痕の幅が広く細石核ではない可能性が高い。

②作業面の上下に面を持つ。打面が1面のものと上下対向する方向に打面を持つ複設打面のものがある。

B-Ⅱ・・石核調整が丁寧なもの

B-Ⅱ類は形態により細分が可能である。

C類→細石刃剥離作業がM-3段階まで進行しているもの

C-Ⅰ・・細石刃剥離が全周に及ぶもの（打面はほぼ水平）

C-Ⅱ・・細作業面に対して後背面を持ち（細石刃剥離が全周の1/2以上だが全周には及ばない）、打面がほぼ水平であるもの

C-Ⅲ・・作業面に対して後背面を持ち（細石刃剥離が全周の1/2以上だが全周には及ばない）、打面が傾斜するもの

C-Ⅳ・・細石刃剥離作業が細石核の一端に限定されるもの

さらにC類の下位分類基準として、形態による分類を行う

①側面がクサビ型で正面観が縦長長方形、扁平な残核

②円錐状で鉛筆の芯先端に譬えられる形状の残核

③小型の角柱状の形態の残核

④小型の三角錐状の形態の残核

⑤正面観側面観ともにクサビ型（あるいは逆三角形）で、打面が楕円形で打面の長幅比が1.2

以上の残核（作業面を基準に縦長）

2000年秋の段階では、理解不十分のままこのような分類を行ったのだが、何が細石刃核で何が細石刃核ではないのか、ということについても不十分な理解にとどまっていたし、なおさら細石刃核原形素材（ブランク）については指摘されるままに、広範な礫片（加工の有無に関わらず）についてブランクとしての位置づけを与えていた。

今回報告に際して、細石刃核についても、細石刃核ブランクについても大幅な見直し作業を進め、2000年段階とは器種の認定等で異なる部分が生じている。細石刃核の可能性の高い資料を「細石刃核」（Fig.126～134）、細石刃核の可能性もあるがむしろ異なる目的的剥片を剥取する石核や他器種の可能性のある石器を「細石刃核あるいはその他の石核」（Fig.135・136）として報告することとする。また、細石刃核は基本的に「押圧剥離により細石刃剥離作業を行った石核」という考え方で、剥離が間接打撃によると考えられる石核については、（10）間接打撃石核として、細石刃に近い小型の縦長剥片を連続剥離した石核でも細石刃核とは分離して位置づけた。それゆえ、2000年秋の段階でB-Ⅰ類とした石核調整のほとんどない「細石核」とした資料については間接打撃により小型の縦長剥片を連続して剥離した石核という位置づけになる。

現在理解し得る範囲で奥谷南遺跡の細石刃核の内容をまとめてみる。

なお、細石刃核の分類の基準とした属性の一覧表などは、第Ⅴ章まとめの中に掲載、細石刃核の特徴についてもⅤ章で詳述する。ここでは、大まかな特徴と出土層位、出土地点による違い、使用石材についてなどの視点から細石刃核についての報告を行なう。

使用石材の面からみれば、細石刃核についてもチャートが大半を占める。その中で、細石刃核とした88点中4点（4.5%）は頁岩製である。頁岩は風化して表面が白色（クリーム色）を呈する特徴的な頁岩で、高知県西部の遺跡でよく利用される石材である。頁岩の原産地遺跡である大月町ナシケ森遺跡で出土するものと類似する。高知県中央部にも頁岩は分布するのだが、在地石材という位置付けられるような出土状況を示した例はない。奥谷南遺跡での頁岩は搬入石材であり、高知県西部の石材である可能性が想定される。

出土層位はⅧ層が最も多く、88点中48点（54.5%）と半数を超える。Ⅹ層4点、Ⅸ層4点、Ⅶ層28点、Ⅴ層2点で、その他の層及び出土層位不明資料が5点である。報告書作成段階での最終的な検討の結果、Ⅹ層段階の細石刃核とした資料には異なる時期の石核の可能性のある資料（612）があり、Ⅶ層中の資料には自然礫の誤認の例（偽石器・670）や細石刃核ではない可能性のある資料（681）も含まれていることも分かった。奥谷南遺跡における典型的な細石刃核といえる例は、Ⅷ層出土資料に多い。また、Ⅹ・Ⅸ層はⅧ層に連続する層であること、Ⅶ層出土資料の中でも、Ⅷ層直上のⅦ層の中でも下層に相当する層からの出土が多くみられることから、Ⅷ層に細石刃核が集中する比率はより高まる。奥谷南遺跡のⅧ層段階（Ⅷ-a層・Ⅷ-b層）は、細石刃核の製作が行われた細石刃文化期に相当すると考えてよいだろう。

出土地点からみれば1号岩陰からの出土が57点、2号岩陰からの出土が27点で、1号岩陰からより多く出土している。細石刃剥離工程が最終段階まで進んで、それ以上細石刃剥離が困難な最終残

核に近い個体数を比較すると、1号岩陰から15点、2号岩陰から9点とやはり1号岩陰の方が多いものの、対象面積で比較すると集中の度合いにほとんど差はなく、両方の地点で同様の細石刃核の製作あるいは細石刃剥離作業が進行したものと考えられる。1号岩陰とした地点では、岩陰推定地点（33点）とその南側（1号岩陰南-21点）・東側（1号岩陰東-4点）と地点を区別したが、層も連続しており、同一の地点（1号岩陰）としてまとめた。Fig.137は出土地点が明らかな細石刃核（可能性のある資料も含め）、及び関連剥片の位置を示したドットマップである。この分布状況を検討すれば、1号岩陰・1号岩陰南・2号岩陰の3箇所の遺物集中地点のまとまりに分けて把握することもできる。1、2号岩陰以外の出土地点は、1・2号岩陰中間地点から1点（685-別の石核の可能性もある）、2号岩陰南地点から1点（695）のみであり、細石刃核に関しては出土地点が1・2号岩陰に限定されるといえる。

地点と層位の関係でみると、Ⅹ・Ⅸ・Ⅷ-b層からの出土は1号岩陰に限定されている。これに対して、2号岩陰ではⅧ-a層出土遺物が9点であるのに対しⅦ層出土資料が18点と、Ⅶ層からの出土が目立つ。2号岩陰でⅦ層からの出土資料が多いのは細石刃核だけではなく、他の石器類にも同様な傾向がある。Ⅷ-a層との境界付近の層出土資料が多いこともあるが、2号岩陰Ⅶ層出土資料の中には、奥谷南遺跡の細石刃核の典型例と比較するとやや異質な資料が混在している点も、その理由として考えられる。

石材・出土層位・出土地点の順に検討してきたが、それでは細石刃核の形態・特徴はどうなのか、そして一定の特徴を持ったグループと層・地点との対応関係はどうなのか。それについての詳細はⅤ章で記述することとし、ここでは細石刃核の特徴をまとめてみたい。

奥谷南遺跡の細石刃核は石核整形のある資料とほとんどない（あるいは全くない）資料にわかれる。作業面再生剥片（678）を除く全ての資料において打面の獲得が石核整形に先行しており、打面整形後の石核整形の有無で分類すると、整形を行なうものが66点、行なわないものが21点となる。石核整形を行なわないものの中には、明らかに細石刃核である資料と他の石核の可能性も残る資料、明らかな偽石器（670）に分かれる。石核整形のない細石刃核は、サイコロ状あるいは不整形な小型の角礫に打面と作業面を設定するタイプ（623・627・663・664など）で、大半は作業面1面のみで、1～2枚の細石刃剥離の後に放棄される。さらに、舟底形や円錐形などの形態を持つ礫を獲得し、そのまま整形せずに細石刃剥離を始める例（632・681・683など）もある。大半は打面転移が認められないが、652のように打面転移を行なうものもある。652は打面と作業面で構成される角度が62°と最も傾斜する資料で、打面細部調整も明瞭に認められる。

石核整形を行わない資料中で、特筆されるのは板状の素材を利用する657で、細石刃剥離を石核の小口から行うが、側縁に細かい（微細な）剥離痕が連続することに特徴があり、剥片素材の獲得は横方向からの敲打による折り取りによるものである。[1)]

石核整形を行なう資料の石核形状は細石刃剥離工程の進行によって様々な形態を示す。最終残核に近い資料は、角錐状・円錐状・扁平な楔形など一定の形態を示し、24点が確認されている。残りの整形された資料の中で、もとの石核の大きさの小さい（設定された作業面の高さが低い）寸詰まりの資料が7点、舟底形を示すもの17点、円錐・角錐状のもの9点、角礫状のもの3点と形状

は様々だが、丁寧な整形により一定の形を意図するものは少なく、粗い加工で、大半のものに打面側からの剥離は認められるものの、下縁側からの整形加工のみで石核の形態を作り上げるものも3点ある。形状で例外的な資料としては周縁からの剥離で円盤状に整形するもの（642）がある。

細石刃核の形状として最も多いのは舟底形だが、底面形状をみるとU字形といえるものは2点、底面が面をなすものが3点、それ以外は下端の尖った正面観が逆三角形あるいは逆釣鐘形といえる形態の舟底形である。

石核整形と形状で細石刃核を幾つかのグループに分けたが、細石刃剥離の技術という観点から打面細部調整と頭部調整で資料をみると、打面細部調整の明確に認められれるものが35点、可能性のある不明瞭な資料も含めると約半数の資料に打面細部調整が認められるという結果になった。石核形状が舟底形に分類される資料の中にも打面細部調整が認められるものが9点（17点中）と50%以上あり、石核整形のない資料でも8点（21点中）に確認された。また、頭部調整のある資料は56点である。打面形状は剥離面が多いが、節理面が9点、礫面が5点ある。

これらの形態・調整の指標化により奥谷南遺跡細石刃核についてまとめると、①石核整形のない資料とある資料に分かれる。②石核整形のない資料の主体となるのは小型の角礫素材の粗雑な細石刃核である。③石核整形のある資料には、舟底形・角錐状・円錐状など様々な形態があるが、主として意図されるものは作業面の形状が逆三角形に代表される下端を尖らせるといった程度の簡略な整形加工に過ぎない。④最終残核と考えられる細石刃剥離の進行した残核は、一定の形状に集約され、究極の最終段階まで利用されるものもある。⑤石核整形のある中で、円盤状に整形されるもの、石核整形のない中で打面を折り取りにより獲得するものなど、他の細石刃核と比較して異質なものも含まれている。特に、打面を折り取る形態の細石刃核は注目される。⑥打面細部調整のある資料の割合が約50%と極めて高い。

註

1. 愛媛県埋蔵文化財センターの多田仁氏によって指摘された資料であり、多田氏の提唱する羽佐島技法によるものである。

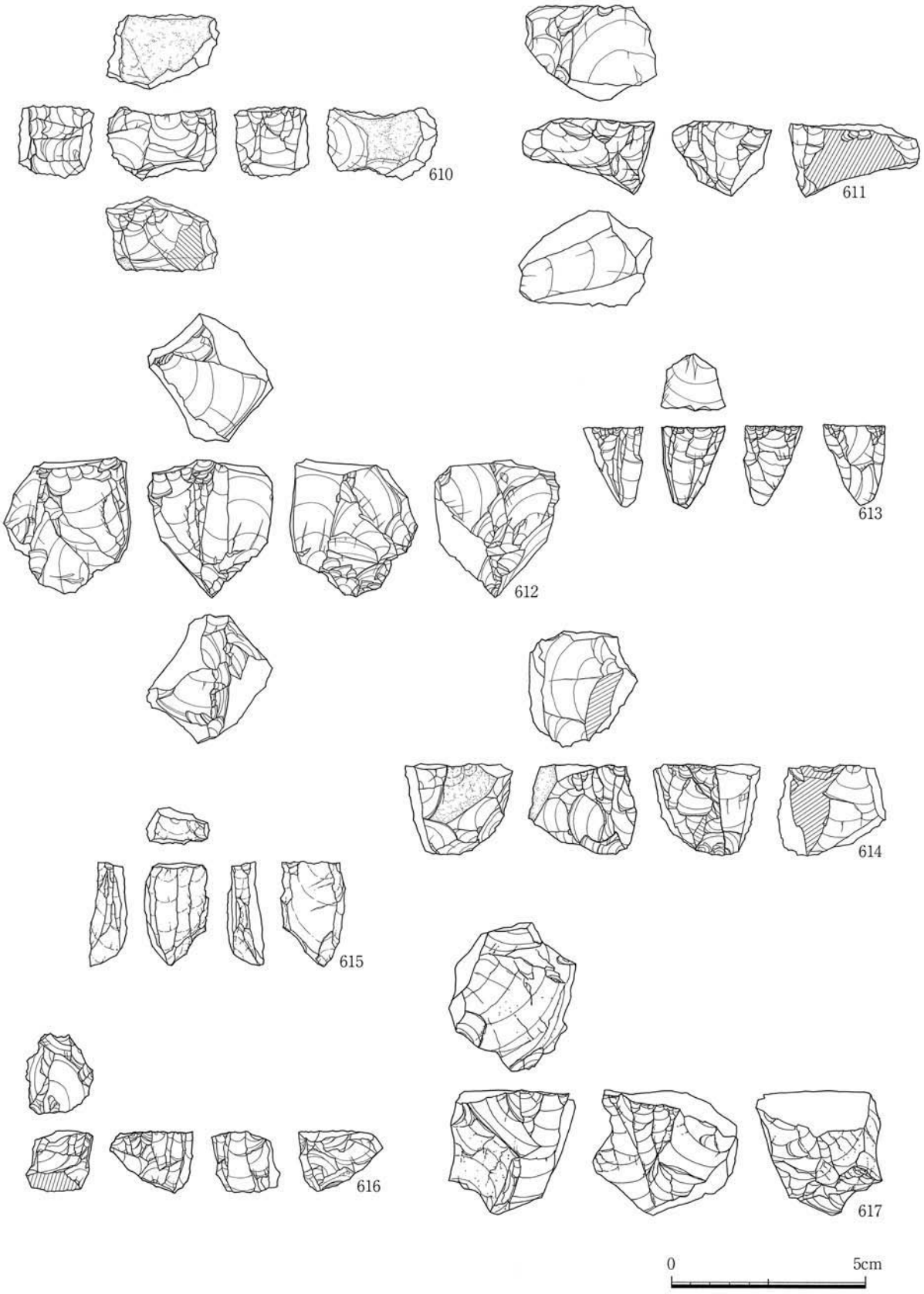


Fig. 126　細石刃核①（Ⅹ・Ⅸ層）

Fig. 127　細石刃核②（Ⅷ-b層）

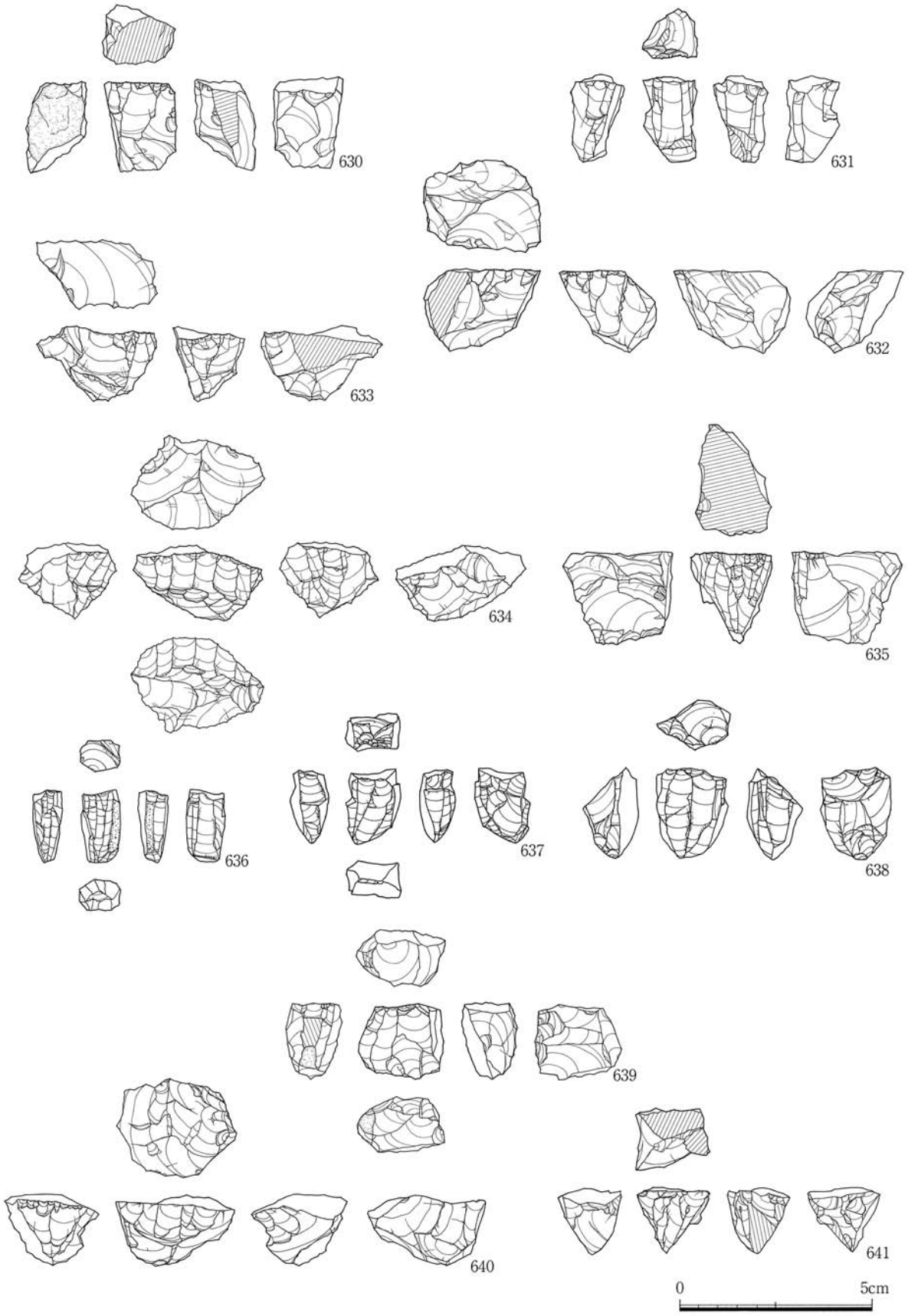


Fig. 128　細石刃核③（Ⅷ-b層）

Fig. 129　細石刃核④（Ⅷ-a層）

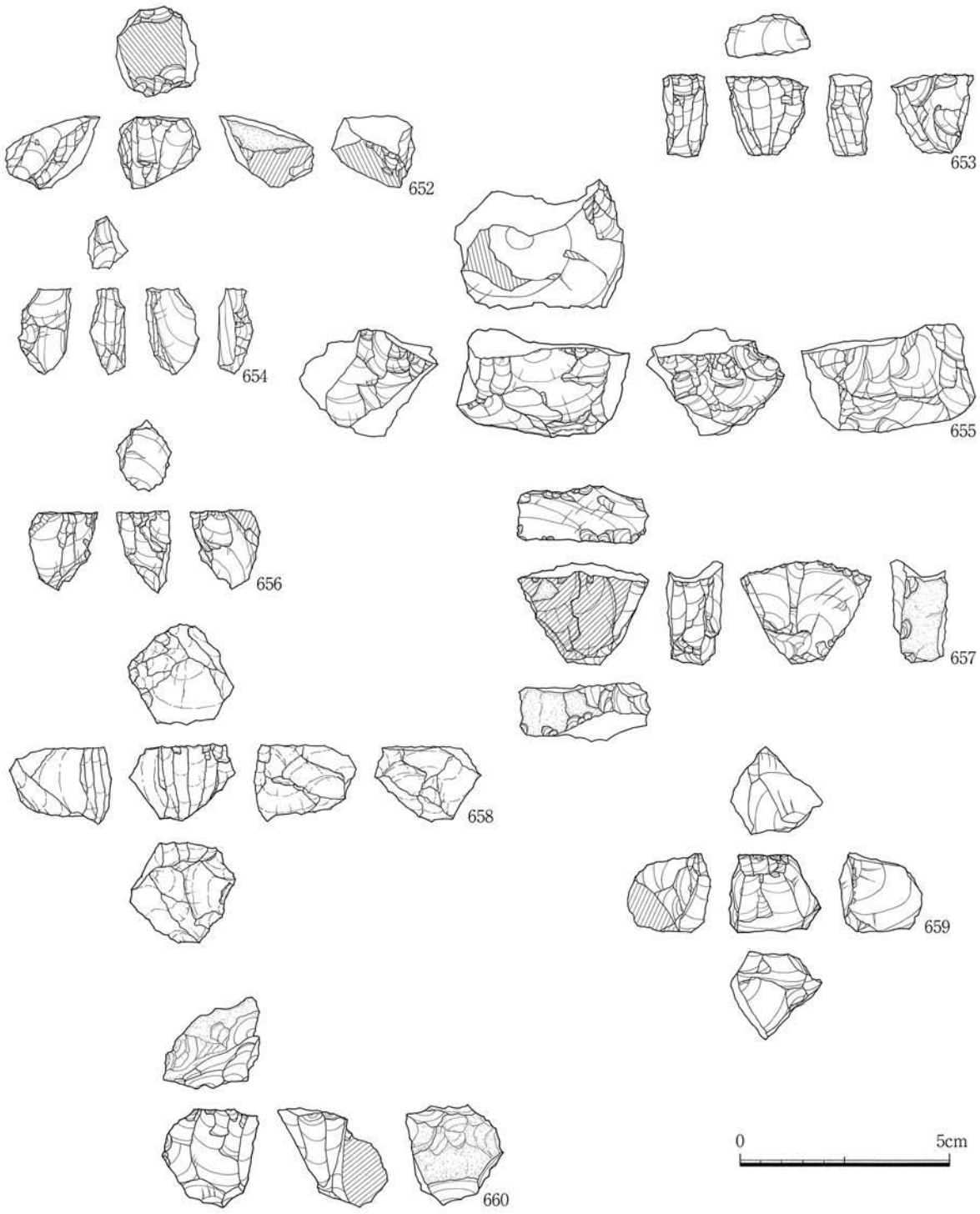


Fig. 130　細石刃核⑤（Ⅷ-a層）

Fig. 131　細石刃核⑥（Ⅶ層）

Fig. 132　細石刃核⑦（Ⅶ層）

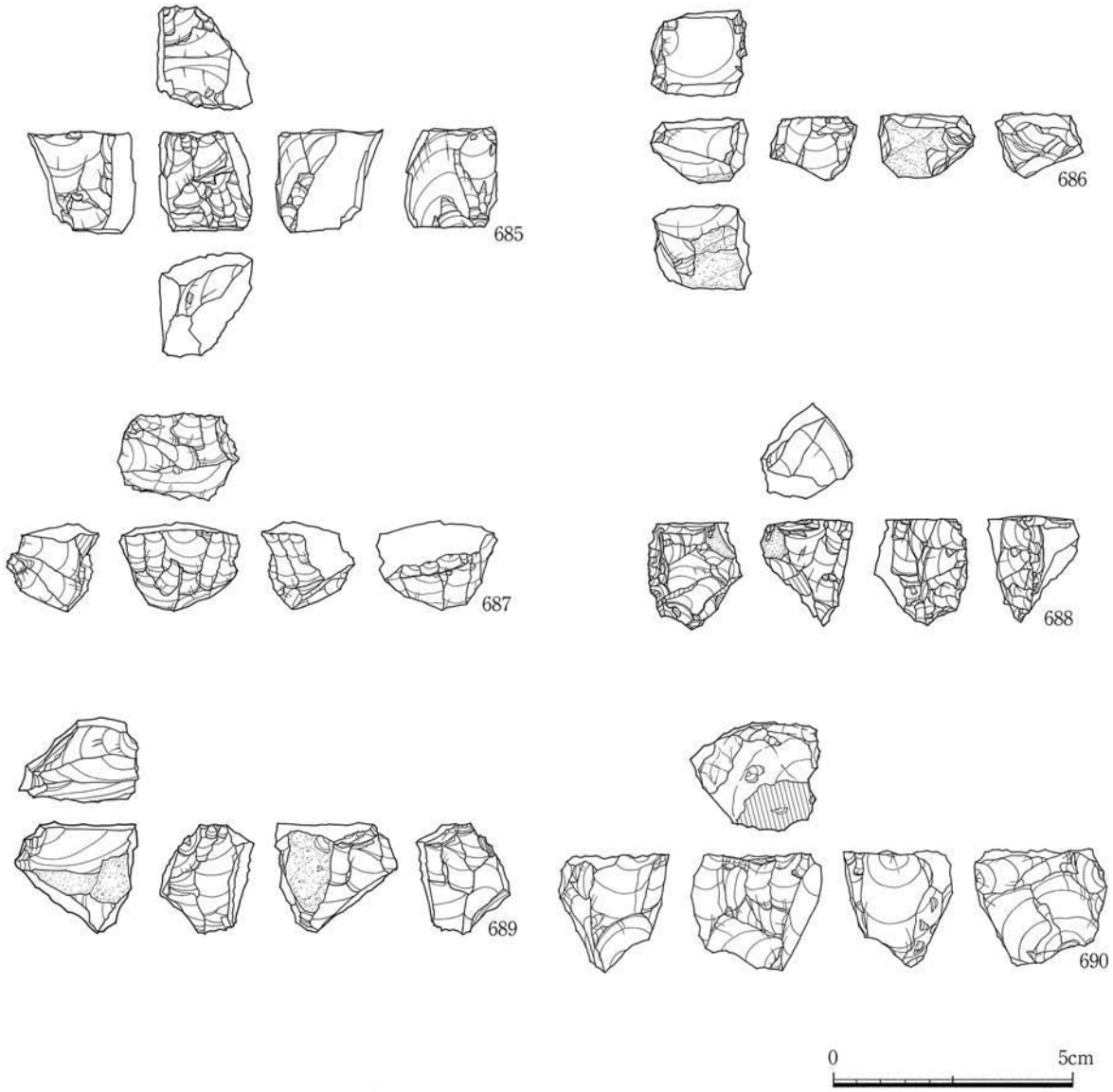


Fig. 133　細石刃核⑧（Ⅶ層）

Fig. 134　細石刃核⑨（Ⅴ層・表採・層不明）

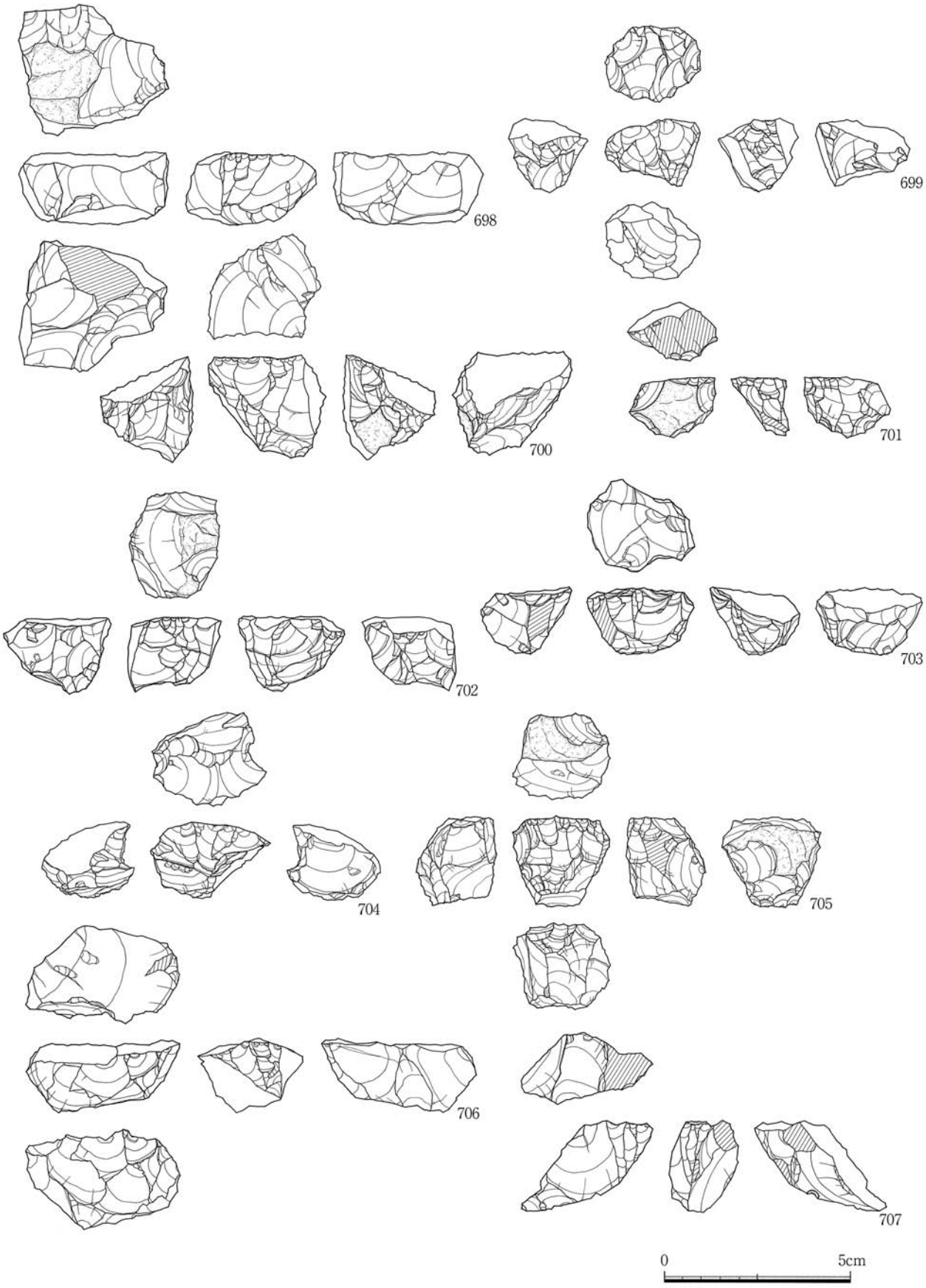


Fig. 135　細石刃核あるいは他の石核①

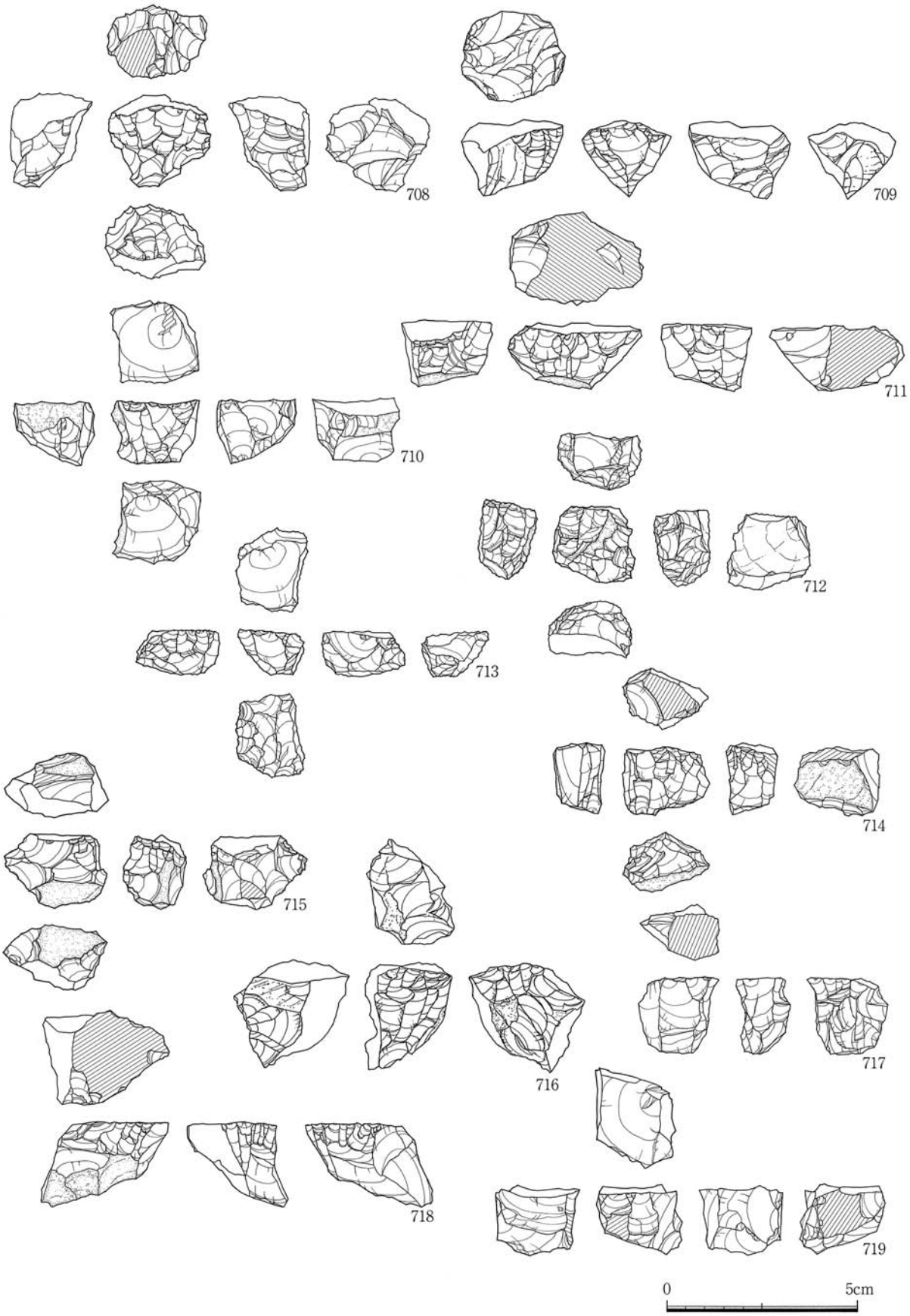


Fig. 136　細石刃核あるいは他の石核②

Tab. 14　細石刃核　計測表 ①

Fig. 番号	図版番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅－作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
126	610	X	1号岩陰	F−4	チャート	剥離面	あり	なし	あり	なし	あり	なし	2面	81°		11.88	18.1	26.8	15.8	1.48	0.87	3.9	11.6	細石刃核
126	611	X	1号岩陰	EF−5	チャート	剥離面	あり	底面を形成	あり	なし	なし	あり	1面（短軸一端）	82°		13.50	24.8	35.1	18.0	1.42	0.73	7.5	16.4	細石刃核
126	612	X	1号岩陰	E−6	チャート	単剥離面	あり	あり	なし	なし	なし	なし	1面（稜上）	84°		34.02	32.3	31.8	34.0	0.98	1.05	6.6	24.5	細石刃核
126	613	Ⅸ	1号岩陰	EF−5　TR−A	チャート	剥離面	不明	不明	あり	なし	不明	不明	全周	67°	82°	4.38	16.6	14.3	20.4	0.86	1.23	6.6	19.3	細石刃核
126	614	Ⅸ	1号岩陰	E−5	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	短軸1面と連続する長軸1面	88°		21.85	28.5	23.0	22.6	0.81	0.79	3.8	10.8	細石刃核
126	615	Ⅸ	1号岩陰	TR−3	頁岩	剥離面・調整打面	不明	不明	なし	あり	不明	不明	3面（後背面を除く全周）	84°	93°	4.46	14.2	7.1	26.0	0.50	1.83	6.4	22.4	細石刃核
126	616	X	1号岩陰	E−6−N	チャート	剥離面・調整打面	あり	あり	なし	あり	不明	なし	3面（後背面を除く全周）	77°	78°	5.81	20.8	15.3	16.1	0.74	0.77	7.1	15.8	細石刃核
126	617	Ⅸ	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	剥離面	あり	なし	なし	あり	なし	なし	1面	80°		36.40	38.3	32.3	38.2	0.84	1.00	4.4	12.5	細石刃核
127	618	Ⅷ−c	1号岩陰	F−5　TR−A	チャート	節理面	あり	なし	あり	あり	なし	なし	1面（短軸一端）	73°		13.00	12.8	31.4	28.6	2.45	2.23	5.1	14.7	細石刃核
127	619	Ⅷ−b	1号岩陰南	E−6−S	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面（短軸一端）	75°		10.31	16.6	24.4	21.0	1.47	1.27	4.7	20.8	細石刃核
127	620	Ⅷ−b	1号岩陰南	EF−6・7	チャート	剥離面	あり	なし	なし	なし	なし	なし	2面（短軸）	79°	83°	7.44	17.7	18.8	23.2	1.06	1.31	6.3	22.3	細石刃核
127	621	Ⅷ−b	1号岩陰南	EF−6・7	チャート	単剥離面	あり	あり	なし	なし	なし	なし	後背面を除く連続した3面	74°	84°	14.94	23.8	25.3	20.4	1.06	0.86	7.1	20.3	細石刃核
127	622	Ⅷ−b	1号岩陰南	EF−6・7	チャート	剥離面	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1面（短軸一端）	80°		16.53	20.8	32.3	20.3	1.55	0.98	5.5	14.1	細石刃核
127	623	Ⅷ−b	1号岩陰南	E−6−S	チャート	剥離面	なし	−	あり	なし	なし	なし	1面	68°		12.20	26.1	29.0	18.9	1.11	0.72	5.7	16.3	細石刃核
127	624	Ⅷ−b	1号岩陰南	TR−3−NSB	チャート	複数の剥離面	あり	なし	あり	あり	なし	なし	3面	65°		3.66	14.6	20.5	18.5	1.40	1.27	4.0	13.0	細石刃核

Tab. 14　細石刃核　計測表 ②

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅−作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
127	625	Ⅷ−b	1号岩陰	F−5	チャート	がたがたな平坦面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	短軸2面と長軸1面	84°		28.04	32.5	31.0	26.8	0.95	0.82	8.1	20.9	細石刃核
127	626	Ⅷ−b	1号岩陰	EF−5　TR−A南バンク	チャート	剥離面	不明	不明	あり	あり	不明	なし	長軸側1面	77°	86°	4.32	19.3	10.9	19.0	0.56	0.98	5.9	18.9	細石刃核
127	627	Ⅷ−b	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	節理面あるいは礫面	あり	あり	不明	なし	なし	なし	1面	74°		6.41	15.5	19.6	17.0	1.26	1.10	5.4	16.2	細石刃核
127	628	Ⅷ−b	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	節理面	あり	−	なし	なし	なし	なし	2面	80°		2.84	15.3	10.8	12.1	0.71	0.79	3.4	11.2	細石刃核
127	629	Ⅷ−b	1号岩陰南	E−6−S	チャート	剥離面	不明	不明	あり	あり	なし	なし	後背面を除く連続した3面	82°	92°	1.80	6.0	8.3	25.1	1.38	4.18	3.0	24.2	細石刃核
128	630	Ⅷ−b	1号岩陰南	E･F−6･7	チャート	節理面	不明	不明	あり	なし	なし	なし	1面	75°		7.09	16.6	13.0	14.2	0.78	0.86	7.8	14.2	細石刃核
128	631	Ⅷ−b	1号岩陰南	EF−6･7	チャート	調整打面	あり	なし	残らない	あり	なし	なし	3面	81°		4.40	14.1	13.5	22.6	0.96	1.60	6.5	17.0	細石刃核
128	632	Ⅷ−b	1号岩陰	JK−4	チャート	剥離面	なし	なし	あり	なし	なし	なし	1面	70°		14.40	17.2	24.6	21.0	1.43	1.22	7.3	15.4	細石刃核（あるいは偽石器）
128	633	Ⅷ−a	2号岩陰	TR−12Eバンク	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面（短軸一端中心）	78°	80°	8.13	16.8	33.5	16.6	1.99	0.99	2.9	8.0	細石刃核
128	634	Ⅷ	1号岩陰	TR−3−②	チャート（?珪質頁岩）	剥離面・3面切り合	あり	なし	あり	なし	なし	なし	長軸側1面	74°	85°	12.11	24.3	34.8	18.1	1.43	0.74	8.2	14.7	細石刃核
128	635	Ⅷ−a	1号岩陰南	F−5−7　TR−A南バンク	チャート	節理面	なし	あり	あり	わずかにあり	なし	あり	1面（短軸側）	80°		11.90	19.0	27.4	21.3	1.44	1.12	4.6	17.5	細石刃核
128	636	Ⅷ−a	1号岩陰	F−4−12	チャート	剥離面	不明	不明	あり	なし	なし	なし	後背面を除く連続した3面	80°		2.04	9.5	7.3	18.2	0.77	1.92	3.1	16.1	細石刃核
128	637	Ⅷ−a	1号岩陰	EF−5	チャート	剥離面・調整打面	不明	不明	あり	あり	不明	なし	全周（4面）	78°		3.33	12.9	8.9	18.8	0.69	1.46	5.8	19.0	細石刃核
128	638	Ⅷ−a	1号岩陰	E−5　TR−A	チャート	剥離面・調整打面	不明	不明	残らない	あり	不明	なし	1面	66°		5.47	17.8	15.5	23.4	0.87	1.31	7.6	22.7	細石刃核
128	639	Ⅷ−b	1号岩陰	TR−3−N	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	あり	なし	2面	79°	85°	7.41	17.4	12.8	20.0	0.74	1.15	5.9	17.4	細石刃核

Tab. 14　細石刃核　計測表 ③

Fig. 番号	図版番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅−作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
128	640	Ⅷ−b	1号岩陰	EF−5	チャート	単・剥離面	あり	なし	不明瞭	なし	なし	なし	2面	72°		11.76	31.4	18.0	24.6	0.57	0.78	4.2	6.0	細石刃核
128	641	不明	1号岩陰東	TR−B　一括	チャート	節理面・剥離面	あり	−	なし	なし	なし		3面	76°		4.02	18.8	15.4	16.6	0.82	0.88	4.3	16.6	細石刃核
129	642	Ⅷ−b	1号岩陰	F−5　A南バンク	チャート	剥離面	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1面	84°		20.63	21.3	16.3	29.6	0.77	1.39	6.5	14.0	細石刃核
129	643	Ⅷ−a	1号岩陰	E−5　TR−A	チャート	剥離面	あり	あり	あり	あり	なし	なし	短軸1面	81°		19.03	19.1	25.6	22.5	1.34	1.18	5.5	12.3	細石刃核
129	644	Ⅷ−a	1号岩陰	EF−5	チャート	剥離面	あり	なし	あり	あり	あり	なし	1面	86°	99°	18.85	18.8	23.4	25.0	1.24	1.33	5.5	20.0	細石刃核
129	645	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3南端東バンク	チャート	剥離面・調整打面	不明	不明	不明瞭	あり	不明	なし	2面?（2打面）	77°		4.24	12.7	9.8	21.3	0.77	1.68	3.2	13.3	細石刃核
129	646	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	剥離面	不明	不明	あり	なし	なし	なし	1面	85°		4.10	18.7	8.5	24.7	0.45	1.32	6.1	17.1	細石刃核
129	647	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	あり	短軸側1面	73°		31.36	23.3	39.2	32.5	1.68	1.39	6.6	27.2	細石刃核
129	648	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	剥離面	−	−	あり	あり	不明	なし	2面（後背面を除く全周）	64°		3.18	14.8	10.8	22.5	0.73	1.52	4.3	20.5	細石刃核
129	649	Ⅷ−a	1号岩陰南	E−6−S	チャート	剥離面	不明	不明	なし	なし	不明	なし	3面（後背面を除く全周）	82°		3.30	14.5	9.2	21.4	0.63	1.48	4.5	19.0	細石刃核
129	650	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	節理面	不明	不明	あり	なし	不明	なし	1面	80°		2.97	11.9	11.2	19.2	0.94	1.61	4.1	18.7	細石刃核
129	651	Ⅷ−a	1号岩陰南	TR−3−S	チャート	剥離面	不明	不明	あり	なし	−	なし	後背面除く全周	89°		4.00	12.5	7.3	20.8	0.58	1.66	4.1	18.3	細石刃核
130	652	Ⅷ	1号岩陰南	F−7−5・9	チャート	節理面・調整打面	不明	不明	あり	あり	あり	なし	2面	62°		6.40	16.5	23.8	21.6	1.44	1.31	6.8	16.2	細石刃核
130	653	Ⅷ−a	2号岩陰	JK−5	チャート	剥離面	あり	なし	あり	なし	なし	なし	3面（後背面を除く全周）	85°		4.66	19.7	9.1	18.9	0.46	0.96	4.9	18.9	細石刃核
130	654	Ⅷ−a	2号岩陰	JK−6　北バンク	チャート	剥離面	−	−	なし	なし	不明	なし	1面	85°		2.17	5.6	7.6	17.8	1.36	3.18	3.0	17.4	細石刃核転用掻器

Tab. 14　細石刃核　計測表 ④

Fig.番号	図版番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量(g)	打面・幅(mm)	打面・長(mm)	作業面・長(高)(mm)	打　面長幅比	打面幅−作業面長(高)比	細石刃剥離痕・幅(mm)	細石刃剥離痕・長(mm)	器種
130	655	Ⅷ−a	1号岩陰南	F−6･7	チャート	剥離面	あり	なし	なし	なし	なし	なし	2面	84°		29.29	25.4	37.8	20.9	1.49	0.82	7.8	19.8	細石刃核
130	656	Ⅷ−a	2号岩陰	TR−12　東バンク	チャート	剥離面	不明	不明	あり	なし	なし	なし	1面（短軸側一端）	73°		3.97	12.7	15.8	21.2	1.24	1.67	4.7	10.4	細石刃核
130	657	Ⅷ−a	2号岩陰	TR−11	チャート	（折取り）剥離面	なし	なし	あり	なし	なし	あり	2面	70°		10.26	13.0	30.5	22.2	2.35	1.71	5.6	18.5	細石刃核
130	658	Ⅷ−a	2号岩陰	JK−5	頁岩	剥離	あり	後背面稜上調整あり	あり	なし	なし	なし	1面	81°		9.69	17.6	23.0	17.6	1.31	1.00	4.5	17.6	細石刃核
130	659	Ⅷ−a	2号岩陰	JK−5	チャート	剥離面	?	下縁なし･底面あり	あり	なし	なし	なし	1面	84°		6.93	12.2	13.8	17.8	1.13	1.46	4.6	15.7	細石刃核
130	660	Ⅷ−a	2号岩陰	J−6−15	チャート	剥離面（2面）	なし	下縁なし	あり	あり	なし	なし	2面	68°		8.69	22.9	9.7	27.2	0.42	1.19	6.0	17.8	細石刃核
131	661	Ⅶ	1号岩陰	F−4	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面	78°		11.48	13.5	21.7	23.4	1.61	1.73	6.6	11.8	細石刃核
131	662	Ⅶ	1号岩陰	F−5	チャート	剥離面	あり	なし	あり(全周)	なし	なし	なし	1面	79°		8.25	20.9	16.6	15.9	0.79	0.76	5.2	14.0	細石刃核
131	663	Ⅶ−2	1号岩陰東	G−5−2	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	2面（短軸両端）	76°	78°	5.60	10.7	14.6	24.1	1.36	2.25	4.5	19.3	細石刃核
131	664	Ⅶ	1号岩陰南	F−6･7	チャート	剥離面	−	−	なし	あり	あり	なし	2面	58°	91°	3.05	12.6	19.5	14.1	1.55	1.12	5.7	10.8	細石刃核
131	665	Ⅶ−R	1号岩陰	F−4−12	チャート	剥離面	−	−	あり	−	−	−	1面	82°		5.50	22.5	17.2	15.5	0.76	0.69	5.3	15.0	細石刃核
131	666	Ⅶ	1号岩陰南	E−6−S	チャート	単･剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面	79°		7.01	21.8	20.0	15.4	0.92	0.71	5.1	13.3	細石刃核
131	667	Ⅶ	1号岩陰南	F−6･7	チャート	節理面	あり	なし	あり	あり	なし	あり	3面（短軸一端を中心に）	72°		8.48	15.3	21.6	22.7	1.41	1.48	7.5	19.5	細石刃核
131	668	SS−1	1号岩陰南	F−6 Z T	チャート	複･剥離面	あり	あり	あり	あり	なし	なし	1面	79°		21.24	23.6	23.8	24.7	1.01	1.05	7.5	23.3	細石刃核
131	669	Ⅶ	1号岩陰南	E−6−S	チャート	節理面	あり	−	なし	あり	なし	なし	1面	80°		16.51	19.9	10.2	29.9	0.51	1.50	8.0	15.6	細石刃核

Tab. 14　細石刃核　計測表 ⑤

Fig. 番号	図版番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅−作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
131	670	Ⅶ−2	1号岩陰東	I−5−1	チャート	礫面	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1面	82°		11.00	13.3	11.1	26.5	0.83	1.99	9.0	19.0	自然の角礫
132	671	Ⅶ−YR	2号岩陰	JK−6	チャート	剥離面	−	−	あり	なし	不明	なし	後背面を除く全周	79°		1.14	10.9	6.5	14.4	0.60	1.32	3.1	14.3	細石刃核
132	672	Ⅶ	2号岩陰	KL−5	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	短軸側両端	72°	80°	4.38	13.5	18.6	16.3	1.38	1.21	4.6	14.1	細石刃核
132	673	Ⅶ−YR	2号岩陰	JK−6	頁岩	剥離	−	−	あり	あり	不明	なし	全周	73°	78°	2.00	11.5	13.9	13.7	1.21	1.19	5.6	13.1	細石刃核
132	674	Ⅶ−YR	2号岩陰	JK−5	頁岩	剥離	あり	−	あり	あり	不明	なし	1面	89°	92°	3.93	14.5	9.0	22.0	0.62	1.52	4.8	18.5	細石刃核
132	675	Ⅶ−a	2号岩陰	JK−5	チャート	剥離面	−	−	なし	なし	不明	なし	後背面を除く全周	86°		2.25	12.3	6.5	21.9	0.53	1.78	5.0	15.7	細石刃核
132	676	Ⅶ−SR3	2号岩陰	K−5−9　JK−5	チャート	剥離面	−	−	あり	なし	不明	なし	後背面を除く全周	84°		1.09	8.4	8.4	14.6	1.00	1.74	3.4	14.3	細石刃核
132	677	Ⅶ−SR3	2号岩陰	JK−5	チャート	剥離面	−	−	あり	あり	あり	なし	3面	82°		5.00	10.4	11.1	17.8	1.07	1.71	5.2	17.7	細石刃核
132	678	Ⅶ−サイカ	2号岩陰	KL−5	チャート	剥離面	不明	不明	不明	不明	不明	不明	1面	80°		2.02	12.1	9.1	20.0	0.75	1.65	5.0	14.2	細石刃核関連剥片
132	679	Ⅶ	2号岩陰西	ユニット1	チャート	剥離面	あり	あり	あり	あり	なし	あり	1面	85°		8.04	15.3	14.3	18.1	0.93	1.18	5.9	17.8	細石刃核
132	680	Ⅶ−2	2号岩陰	J−5−10	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面（短軸一端中心）	87°		6.60	12.8	23.2	13.5	1.81	1.05	2.5	13.4	細石刃核
132	681	Ⅶ	2号岩陰	K−4−6	チャート	礫面	あり	なし	明瞭ではない	なし	なし		1面（短軸側）	81°		4.98	13.7	19.6	20.7	1.43	1.51	7.2	15.6	細石刃核
132	682	Ⅶ−SR3	2号岩陰	JK−6･7	チャート	礫面	あり	あり	あり	なし	なし	あり?	1面（短軸側一端）	69°		3.94	11.8	23.6	14.0	2.00	1.19	6.4	14.0	細石刃核
132	683	Ⅶ	2号岩陰	J−5−11	チャート	剥離面	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1面	80°		8.50	16.6	25.4	20.0	1.53	1.20	5.0	12.7	細石刃核
132	684	Ⅶ	2号岩陰	K−6−1	チャート	一面の剥離面・打瘤発達	あり	あり	あり	なし	なし	なし	長軸と挟まれた短軸・3面	81°	81°	4.81	16.0	22.1	13.7	1.38	0.86	8.0	10.5	細石刃核

Tab. 14　細石刃核　計測表 ⑥

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅－作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
133	685	Ⅶ	1･2号岩陰中間	ブロック3	チャート	剥離面	あり	あり･下端は面	なし	あり	なし	なし	1面	83°		10.30	15.3	20.6	20.7	1.35	1.35	6.7	17.4	細石刃核
133	686	Ⅶ	2号岩陰	J-5-8　ブロック3	チャート	剥離面	なし	なし	なし	あり	なし	なし	1面	76°		5.50	15.3	17.3	13.1	1.13	0.86	7.5	13.1	細石刃核
133	687	Ⅶ	2号岩陰	J-4-15　ブロック4	チャート	剥離面（作業面）	不明	不明	あり	なし	あり	なし	3面	65°	67°	8.19	23.8	20.4	18.5	0.86	0.78	5.9	15.9	細石刃核
133	688	Ⅶ-YR	2号岩陰	JK-6	チャート	剥離面	不明	不明	あり	なし	あり	なし	1面	77°		7.03	15.6	13.7	22.2	0.88	1.42	5.9	15.1	細石刃核
133	689	Ⅶ上	2号岩陰	J-2	チャート	剥離面（2面）	不明	不明	なし	なし	なし	なし	1面	80°		10.36	11.7	20.5	22.9	1.75	1.96	8.8	22.3	細石刃核
133	690	Ⅶ	2号岩陰	TR-11　Nバンク	チャート	剥離面	あり	あり	なし	なし	あり	なし	3面	70°		13.98	22.4	26.5	22.4	1.18	1.00	6.4	10.2	細石刃核
134	691	Ⅴ	1号岩陰南	F-7-3	チャート	剥離面	あり	あり	なし	あり	なし	なし	2面（短軸両端）	76°	84°	4.00	8.7	14.6	20.2	1.68	2.32	5.7	14.9	細石刃核
134	692	Ⅴ	1号岩陰東	G-4-16	チャート	剥離面	あり	あり	あり	あり	なし	なし	1面	88°		10.20	11.0	18.6	26.7	1.69	2.43	5.4	18.5	細石刃核
134	693	排土中	SD401	I-5　SD-1排土中	チャート	剥離面	－	－	あり	あり	なし	なし	2面（作業面から左側面に連続して）	80°		5.97	13.8	12.9	22.5	0.93	1.63	4.2	21.3	細石刃核
134	694	検出時	1号岩陰南	前庭部検出時	チャート	調整打面	あり	なし	あり	あり（1面のみ）	あり	なし	2面	82°	85°	8.20	17.6	21.6	14.9	1.23	0.85	8.0	13.0	細石刃核
134	695	不明	1号岩陰	F-5	チャート	節理面	あり	なし	あり	なし	なし	あり	1面（短軸一端）	69°		19.80	18.5	38.9	25.0	2.10	1.35	7.4	21.5	細石刃核
134	696	検出時	2号岩陰南	J-6･7	チャート	剥離面（4面）	あり	なし	なし	なし	なし	なし	1面?	84°		11.94	19.9	32.2	14.5	1.62	0.73	5.7	14.5	細石刃核
134	697	不明	不明	不明	チャート	節理面	あり	あり	あり	あり	なし	あり	1面（短軸側）	75°		11.75	15.9	27.1	25.5	1.70	1.60	9.1	23.5	細石刃核
135	698	Ⅷ-b	1号岩陰南	G-7	チャート	剥離面	あり	なし	あり	あり	なし	なし	1面?	74°		29.40	31.5	38.7	16.5	1.23	0.52	4.9	14.6	細石刃核あるいは他の石核
135	699	Ⅷ-b	1号岩陰南	ZT	チャート	剥離面	あり	あり･下縁なし	不明瞭だがあり?	なし	なし	－	1面あるいは2面	88°		8.70	18.2	22.4	16.5	1.23	0.91	4.3	14.0	細石刃核あるいは他の石核

Tab. 14　細石刃核　計測表 ⑦

Fig. 番号	図版番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅−作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
135	700	Ⅷ−b	1号岩陰	TR−3−S	チャート	剥離面	−	−	−	−	−	−	三角錐の一面・平坦面で比較的広い	69°		19.78	25.7	25.8	26.0	1.00	1.01	7.7	14.7	細石刃核あるいは偽石器
135	701	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−4　南側下	チャート	節理面	あり	あり	あり	なし	なし	あり	1面	83°		4.34	13.6	19.9	20.3	1.46	1.49	4.9	12.3	細石刃核あるいは他の石核
135	702	Ⅷ−b	1号岩陰	E−5−4　TR−A南バンク	チャート	剥離面	あり	なし	なし	なし	なし	なし	1面	78°		16.19	23.3	29.2	18.5	1.25	0.79	4.2	17.2	細石刃核あるいは他の石核
135	703	Ⅷ−b	1号岩陰南	E−6　ZT	チャート	剥離面	あり	なし	なし	なし	なし	なし	1面	65°		9.91	26.9	23.9	19.7	0.89	0.73	6.4	16.3	細石刃核あるいは他の石核
135	704	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	剥離面	あり	なし	あり	なし	なし	なし	1面	62°		12.50	28.1	25.4	19.4	0.90	0.69	7.1	12.3	細石刃核あるいは他の石核
135	705	Ⅷ−a	2号岩陰	J−4−13	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面（?3面）	76°		15.28	24.1	25.5	20.2	1.06	0.84	5.4	13.1	細石刃核あるいは他の石核
135	706	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3NSB	チャート	剥離面	あり	なし	あり	なし	なし	なし	1面	64°		18.17	23.2	39.3	20.2	1.69	0.87	7.2	17.4	細石刃核あるいは他の石核
135	707	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3NSB	チャート	礫面	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1面	81°		7.42	11.8	16.7	15.1	1.42	1.28	3.3	12.1	細石刃核あるいは他の石核
136	708	Ⅶ	1号岩陰東	G−4−9〜12	チャート	剥離面・節理面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面	75°	80°	12.36	25.7	20.5	27.2	0.80	1.06	6.0	10.9	細石刃核あるいは他の石核
136	709	Ⅶ	1号岩陰南	F−6　ZT	チャート	剥離面	あり	あり	あり	−	なし	なし	1面	82°		10.00	24.0	25.8	15.6	1.08	0.65	9.4	15.6	細石刃核あるいは他の石核
136	710	Ⅶ−YR	2号岩陰	TR−12西バンク	チャート	剥離面	あり	−	あり	なし	あり	なし	1面（上下に打面を変える）	82°		8.69	20.5	20.1	16.2	0.98	0.79	5.3	15.1	細石刃核あるいは他の石核
136	711	Ⅶ−SR3	2号岩陰	JK−6	チャート	節理面＋剥離面	あり	なし	あり	なし	なし	なし	2面・短軸と長軸	80°		14.50	24.2	34.5	14.5	1.43	0.60	4.8	13.3	細石刃核あるいは他の石核
136	712	Ⅶ−SR3	2号岩陰	JK−5	チャート	剥離面	あり	なし	あり	なし	なし	なし	1面（短軸側一端）	88°		7.50	11.3	11.6	16.0	1.03	1.42	5.8	13.3	細石刃核あるいは他の石核
136	713	Ⅶ−SR3	2号岩陰	JK−6	チャート	剥離面	あり	−	あり	なし	−	なし	2面	75°	82°	5.10	14.4	20.0	11.3	1.39	0.78	7.2	11.3	細石刃核あるいは他の石核
136	714	Ⅶ−YR	2号岩陰	JK−6	チャート	剥離面	−	−	なし	−	−	−	−	80°	83°	6.41	15.5	19.6	17.7	1.26	1.14	4.5	9.1	細石刃核あるいは他の石核

Tab. 14　細石刃核　計測表 ⑧

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	出土地点	石材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	頭部調整	打面細部調整	打面転移	押え痕・打面側縁の対向する剥離	細石刃剥離面・作業面	細石刃剥離角		重量（g）	打面・幅（mm）	打面・長（mm）	作業面・長（高）（mm）	打　面長幅比	打面幅−作業面長（高）比	細石刃剥離痕・幅（mm）	細石刃剥離痕・長（mm）	器種
136	715	不明	1号岩陰南	E−6−S	チャート	剥離面	なし	なし	−	−	−	−	−	83°		8.42	14.3	17.3	17.0	1.21	1.19	3.7	11.5	細石刃核あるいは他の石核
136	716	不明	1号岩陰南	G−6−5　ZT	チャート	節理面・剥離面	あり	不明・打面転移のため	あり	なし	あり	−	2面	84°		16.70	19.9	27.8	29.1	1.40	1.46	4.7	20.5	細石刃核あるいは他の石核
136	717	Ⅶ	2号岩陰	ブロック4	チャート	節理面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面（短軸一端とその周辺）	85°		5.70	12.0	18.7	20.2	1.56	1.68	6.4	13.8	細石刃核あるいは他の石核
136	718	不明	不明	不明	チャート	節理面	あり	作業面の対面のみ	あり	剥離一ヶ所	なし	あり	1面（短軸一端）	69°		14.60	22.7	28.9	16.8	1.27	0.74	3.3	12.7	細石刃核あるいは他の石核
136	719	Ⅶ	2号岩陰	J−4−15　ブロック4	チャート	剥離面	あり	あり	あり	なし	なし	なし	1面（短軸一端中心）	78°		11.35	20.5	23.5	15.8	1.15	0.77	7.2	11.4	細石刃核あるいは他の石核

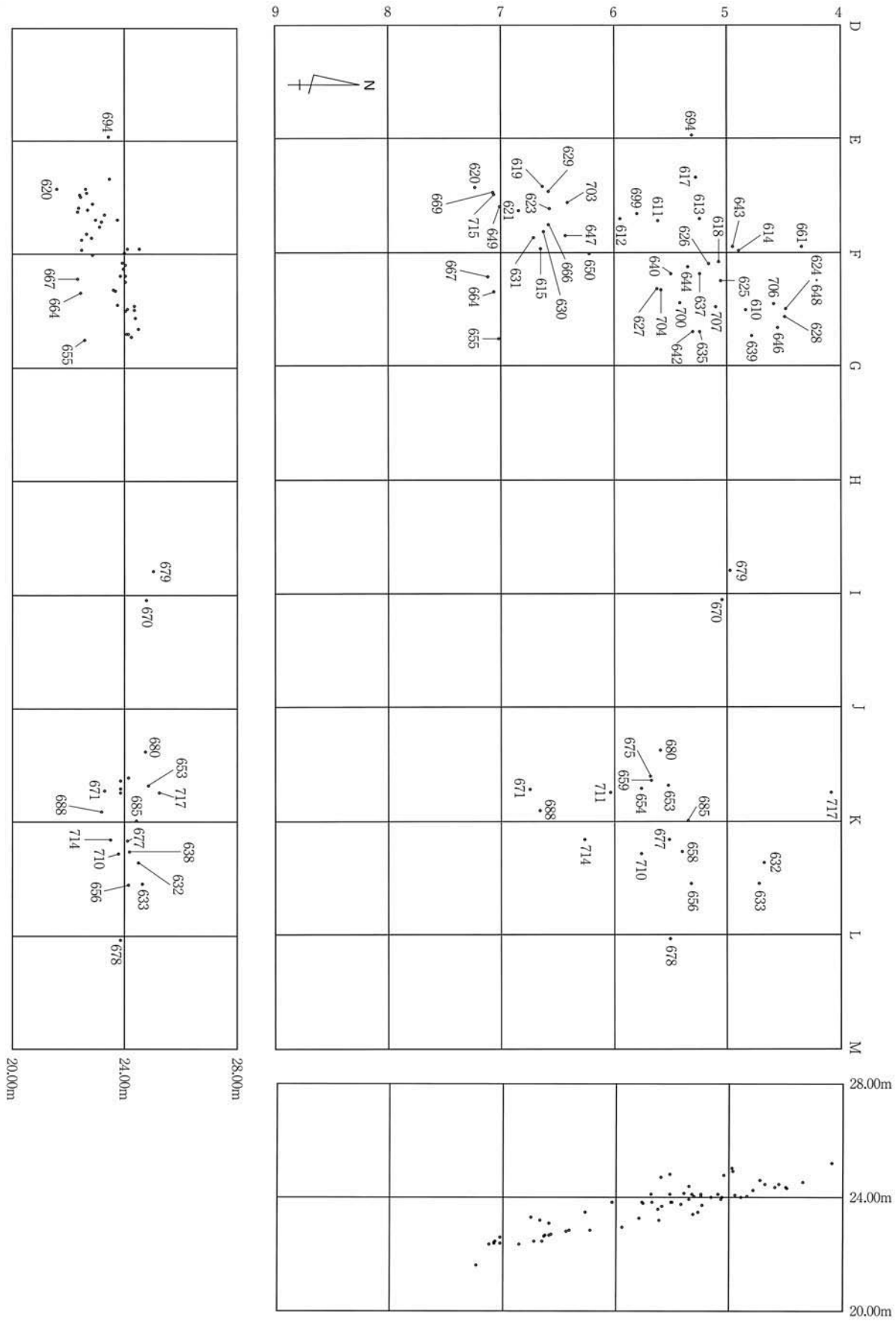


Fig. 137　細石刃核出土地点

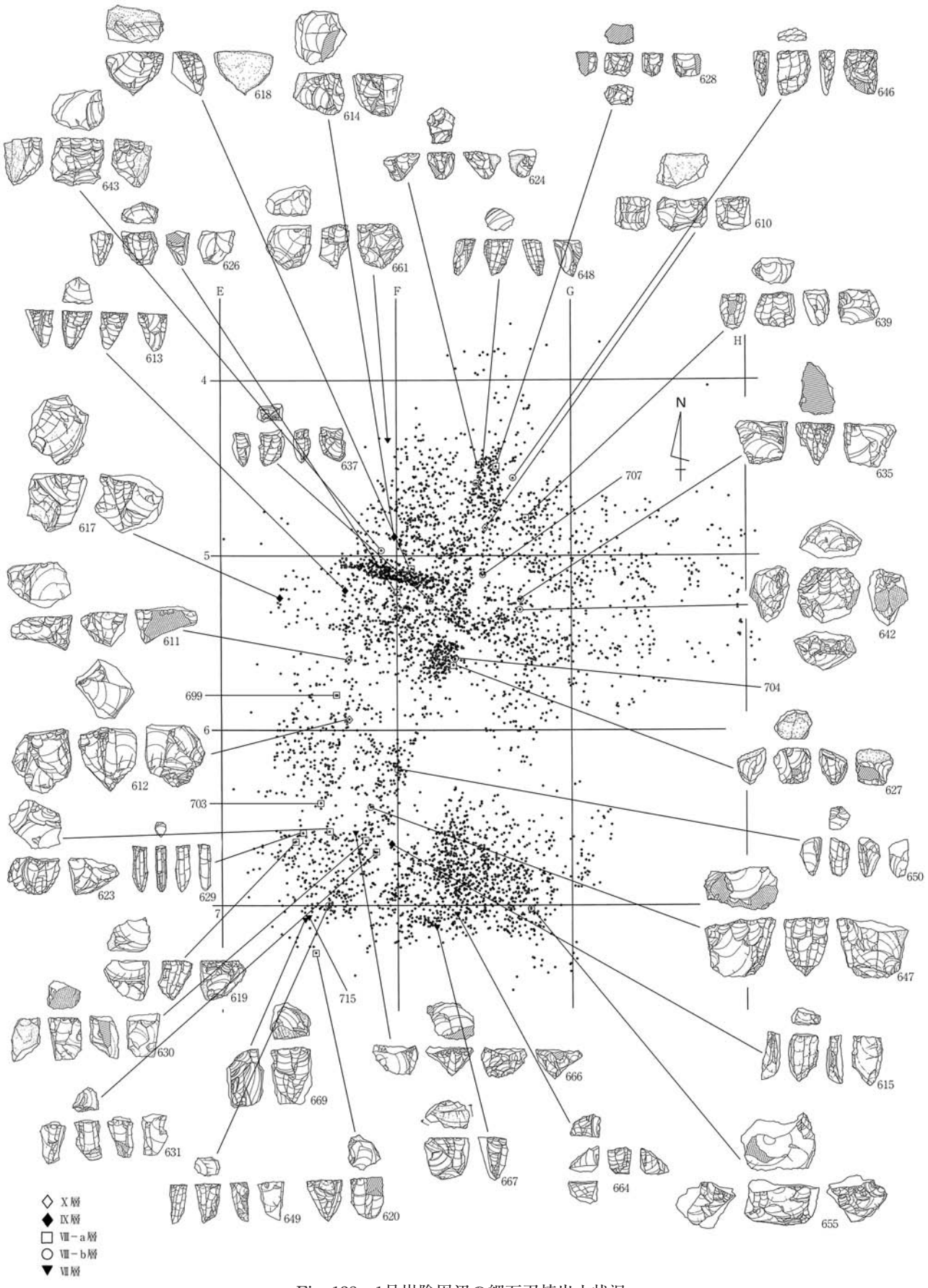


Fig. 138　1号岩陰周辺の細石刃核出土状況

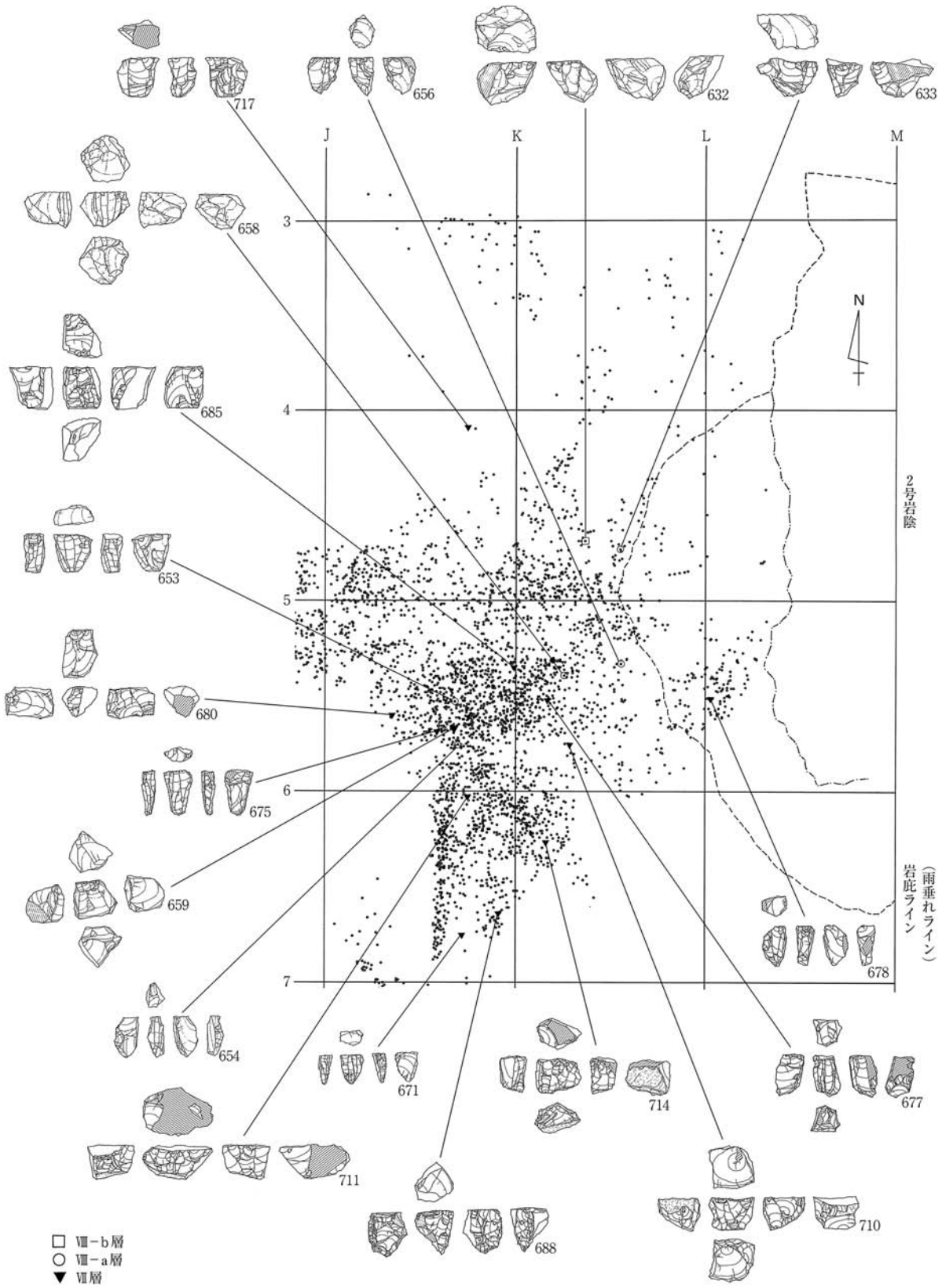
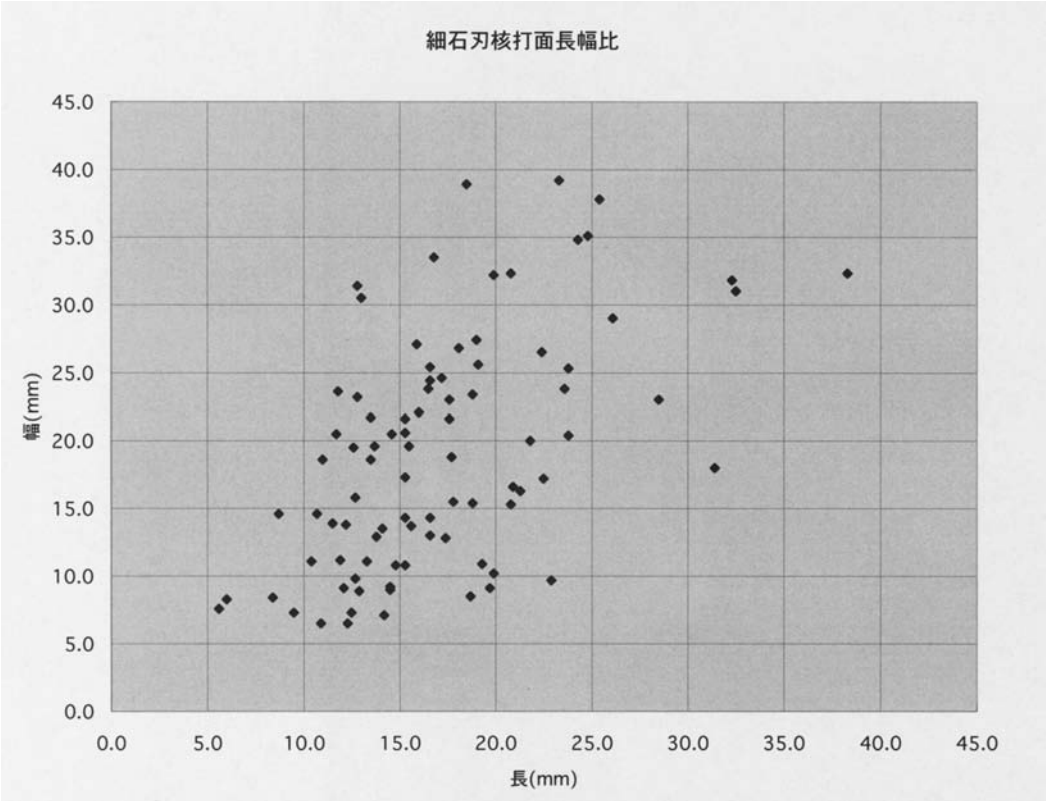


Fig. 139　2号岩陰周辺の細石刃核出土状況



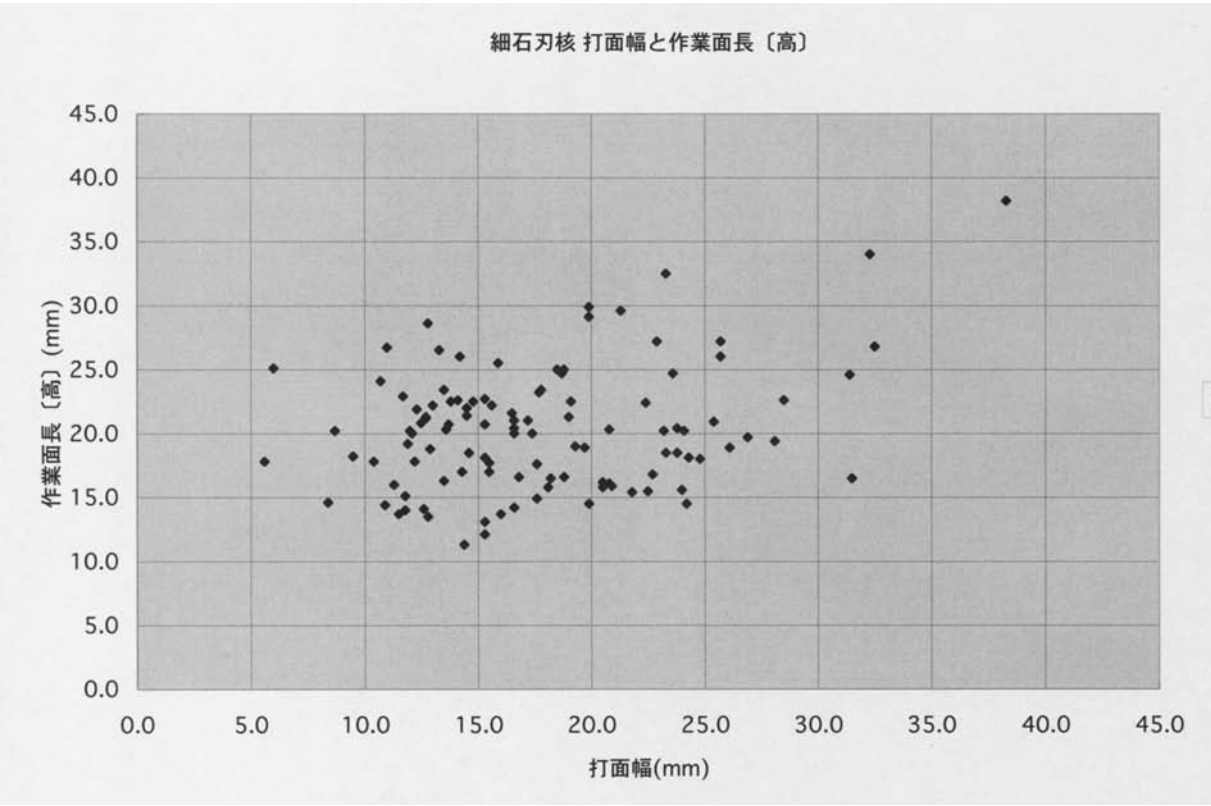
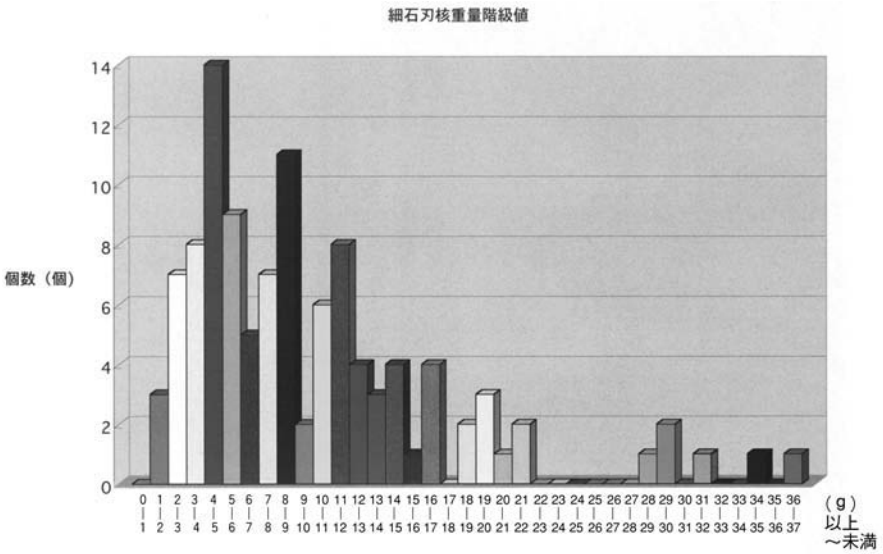
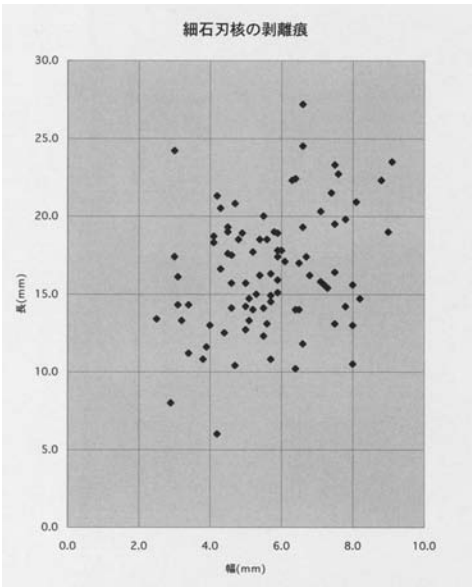
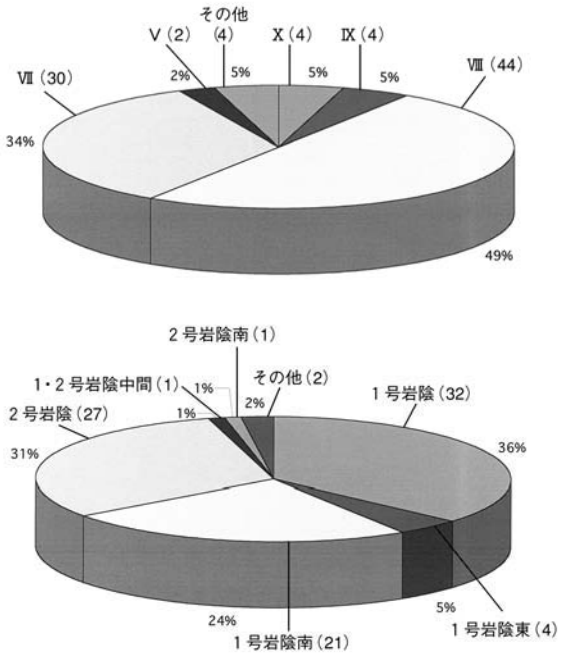


Fig. 140　細石刃核データ(1)







層・地点別　細石刃核　出土点数

層名＼地点	1号岩陰	1号岩陰（東）	1号岩陰（南）	1号岩陰周辺合計	2号岩陰	1・2号岩陰中間	2号岩陰南地点	その他・不明	合計	比率
Ⅹ	4	0	0	(4)	0	0	0	0	4	4.5%
Ⅸ	4	0	0	(4)	0	0	0	0	4	4.5%
Ⅷ	20	1	14	(35)	9	0	0	0	44	50.0%
Ⅶ	3	2	5	(10)	18	1	1	0	30	34.1%
Ⅵ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
Ⅴ	0	1	1	(2)	0	0	0	0	2	2.3%
Ⅳ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他／不明	1	0	1	(2)	0	0	0	2	4	4.5%
合計	32	4	21	(57)	27	1	1	2	88	100.0%
比率	36.4%	4.5%	23.9%	(64.8%)	30.7%	1.1%	1.1%	2.3%	100.0%	

Fig. 141　細石刃核データ(2)

（9）細石刃核ブランク（Fig.142～146）

細石刃核ブランクと考えられる資料である。

舟底形であるものをⅠ類、それ以外のものをⅡ類とし、舟底形の中で幅ぜまである個体についてはⅠ-2類とした。大半が舟底形となりⅠ類に分類される。Ⅰ類とした舟底形ブランク31点に対しⅡ類は7点にすぎない。しかし、舟底形にみえるブランク形状を持っていたとしても、従来の細石刃核の分類である船野型細石刃核に相当するわけではない。細石刃剥取作業開始時点で打面細部調整が認められれば、船野型細石刃核の定義からは外れ、野岳・休場型細石刃核の範疇に入ってしまうことなどを考慮すれば、ここに提示したⅠ類・Ⅱ類の細石刃核ブランクの分類は便宜的なものでしかなく、細石刃核の型式に対応するものではない。ここに掲載する細石刃核ブランクは、当遺跡出土の細石刃核の形状から細石刃核ブランクの可能性が高い資料だと捉えた方がよいのかもしれない。

出土層位による偏り・集中も顕著ではなく、Ⅷ層以下の資料が13点、Ⅶ層が16点、それ以外が9点であり、決してⅧ層から集中して出土するわけではない。

打面は剥離面特に単剥離面を利用することが多いものの、節理面を打面に設定したものも9例、礫面を打面に設定したものが4例あり、チャートの特質を示している。721の頁岩製の細石刃核ブランク以外はすべてチャート製である。石核の調整は打面側からの側面調整が90%の個体に認められるが、下縁側からの側面調整が認められる個体は30%と、多くのブランクが打面側からの側面調整のみで整形を終える傾向にあるようである。

様々な形状のみとめられる細石刃核ブランクであるが、両面体の整形を行った後、細石刃剥離の工程が始まるタイプのブランクは全く認められなかった。西海技法の存在を示す福井型細石刃核は確認されていない。

この遺跡で注意すべきことは、周辺の山地の至るところにチャートの岩塊が散在していることである。原産地遺跡といえるかどうかはさておき、石器の材料石である良質なチャートに事欠かない点と、自然の営為によって形成されるブランク形状と類似した小礫が存在する可能性がある点には留意しなければならない。

当然、自然状態の角礫自体がその形状により細石刃核ブランクとなり得たであろうことは想定し得るが、確実に細石刃剥離工程の直前であると指摘できる礫は決して多くはない。

Tab. 15　細石刃核ブランク　計測・分類表

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	ブランク形状	打面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	分類	重 (g)	打面・長 (mm)	打面・幅 (mm)	打面・高 (mm)	長幅比	幅高比	備　考
142	720	Ⅸ	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	△	Ⅰ-2類	16.15	30.5	16.5	24.9	1.85	1.51	
142	721	Ⅷ-b	1号岩陰南	頁岩	舟底形	剥離面	○	○	Ⅰ類	12.14	30.0	24.0	21.1	1.25	0.88	
142	722	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	角柱状	礫面	○	○	Ⅱ類	6.30	20.5	13.5	18.7	1.52	1.39	
142	723	Ⅷ-b	1号岩陰南	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	13.91	32.5	27.5	19.5	1.18	0.71	
142	724	Ⅷ-a	1号岩陰南	チャート	舟底形	節理面	○	○	Ⅰ類	22.44	38.2	22.3	18.5	1.71	0.83	
142	725	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	○	Ⅰ類	13.91	32.9	27.2	27.2	1.21	1.00	
142	726	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	底面を持つ舟底形	節理面	×	×	Ⅱ類	23.22	40.7	19.8	19.5	2.06	0.98	
142	727	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	○	Ⅰ類	18.06	22.3	15.4	31.2	1.45	2.03	
142	728	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	角形	剥離面	○	×	Ⅱ類	7.47	13.0	17.6	21.0	0.74	1.19	
143	729	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	20.19	34.9	22.7	25.3	1.54	1.11	
143	730	Ⅷ-a	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	◎	×	Ⅰ類	55.36	37.0	36.8	28.1	1.01	0.76	
143	731	Ⅷ-a	1号岩陰南	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	37.60	47.2	25.4	27.9	1.86	1.10	
143	732	Ⅷ-a	2号岩陰	チャート	サイコロ状	剥離面	○	×	Ⅱ類	20.69	25.2	23.1	25.0	1.09	1.08	
143	733	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	◎	×	Ⅰ類	17.44	41.3	23.1	17.7	1.79	0.77	
143	734	Ⅶ(SS-1)	1号岩陰南	チャート	舟底形	礫面	◎	×	Ⅰ類	17.80	27.3	22.5	17.5	1.21	0.78	
143	735	Ⅶ	1号岩陰南	チャート	舟底形	節理面	○	○	Ⅰ類	15.78	23.4	32.8	21.1	0.71	0.64	
143	736	Ⅶ-2	1号岩陰南	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	18.70	34.3	22.1	24.4	1.55	1.10	
143	737	Ⅶ	1号岩陰	チャート	幅狭の舟底形	剥離面	○	△	Ⅰ類	9.40	30.0	14.8	22.5	2.03	1.52	
143	738	Ⅶサイカ	1号岩陰	チャート	幅狭の扇形	剥離面	○	×	Ⅰ類	2.09	18.4	13.5	9.6	1.36	0.71	関連剥片
144	739	Ⅶ	1号岩陰東	チャート	直方体	剥離面	△	×	Ⅱ類	7.89	22.4	15.0	20.7	1.49	1.38	
144	740	Ⅶ	1号岩陰東	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	14.47	33.2	18.8	22.7	1.77	1.21	
144	741	Ⅶ	2号岩陰	チャート	舟底形	節理面	◎	×	Ⅰ類	18.30	38.1	21.1	21.2	1.81	1.00	
144	742	Ⅶ-SR-B	2号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	○	Ⅰ類	11.84	23.9	21.5	24.9	1.11	1.16	
144	743	Ⅶ-R	1号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	20.31	39.5	28.1	17.8	1.41	0.63	
144	744	Ⅶサイカ	2号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	28.30	39.2	27.9	21.9	1.41	0.78	
144	745	Ⅶ	2号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	9.42	34.7	16.7	17.7	2.08	1.06	
144	746	Ⅶ	2号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	8.90	34.5	19.5	15.0	1.77	0.77	
145	747	Ⅶ-SR	2号岩陰	チャート	幅狭の板状	節理面	○	×	Ⅰ-2類	11.01	25.9	12.7	26.0	2.04	2.05	
145	748	Ⅶ-YR-N	2号岩陰	チャート	不整形角礫	剥離面	○	×	−	20.91	26.95	20.3	30.3	1.33	1.49	細石刃核ブランクではない可能性あり。
145	749	Ⅶ-SR-3	2号岩陰	チャート	舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	20.12	34.8	21.4	18.7	1.63	0.87	
145	750	Ⅴ	1号岩陰南	チャート	板状	節理面	○	×	Ⅱ類	6.20	24.3	12.9	22.6	1.88	1.75	
145	751	Ⅴ	2号岩陰	チャート	不整形角礫	剥離面	×	×	Ⅱ類	5.40	20	16.5	15.5	1.21	0.94	
145	752	Ⅴ	2号岩陰	チャート	底面を持つ小型舟底状	剥離面	○	×	Ⅰ類	3.40	21.5	13.3	12.7	1.62	0.95	小型
145	753	Ⅳ	1号岩陰南	チャート	不整舟底形	剥離面	○	×	Ⅰ類	10.13	25.7	18.3	16.2	1.4	0.89	
145	754	検出時	1号岩陰	チャート	舟底形	節理面	◎	×	Ⅰ類	35.68	37.7	28.6	27.3	1.32	0.95	
145	755		1号岩陰	チャート	舟底形	礫面	×	◎	Ⅰ類	10.00	33.8	18.5	17	1.83	0.92	
146	756	②	1号岩陰南	チャート	舟底形	礫面	○	×	Ⅰ類	22.29	42.9	17.6	23.4	2.44	1.33	
146	757		2号岩陰	チャート	舟底形	節理面	×	○	Ⅰ類	15.28	27.9	20.9	21.8	1.33	1.04	
146	758	表採	不明	チャート	舟底形	節理面	○	△	Ⅰ類	23.40	32.0	30.5	22.0	1.05	0.72	

◎…顕著　○…認められる　△…わずかにある　×…なし

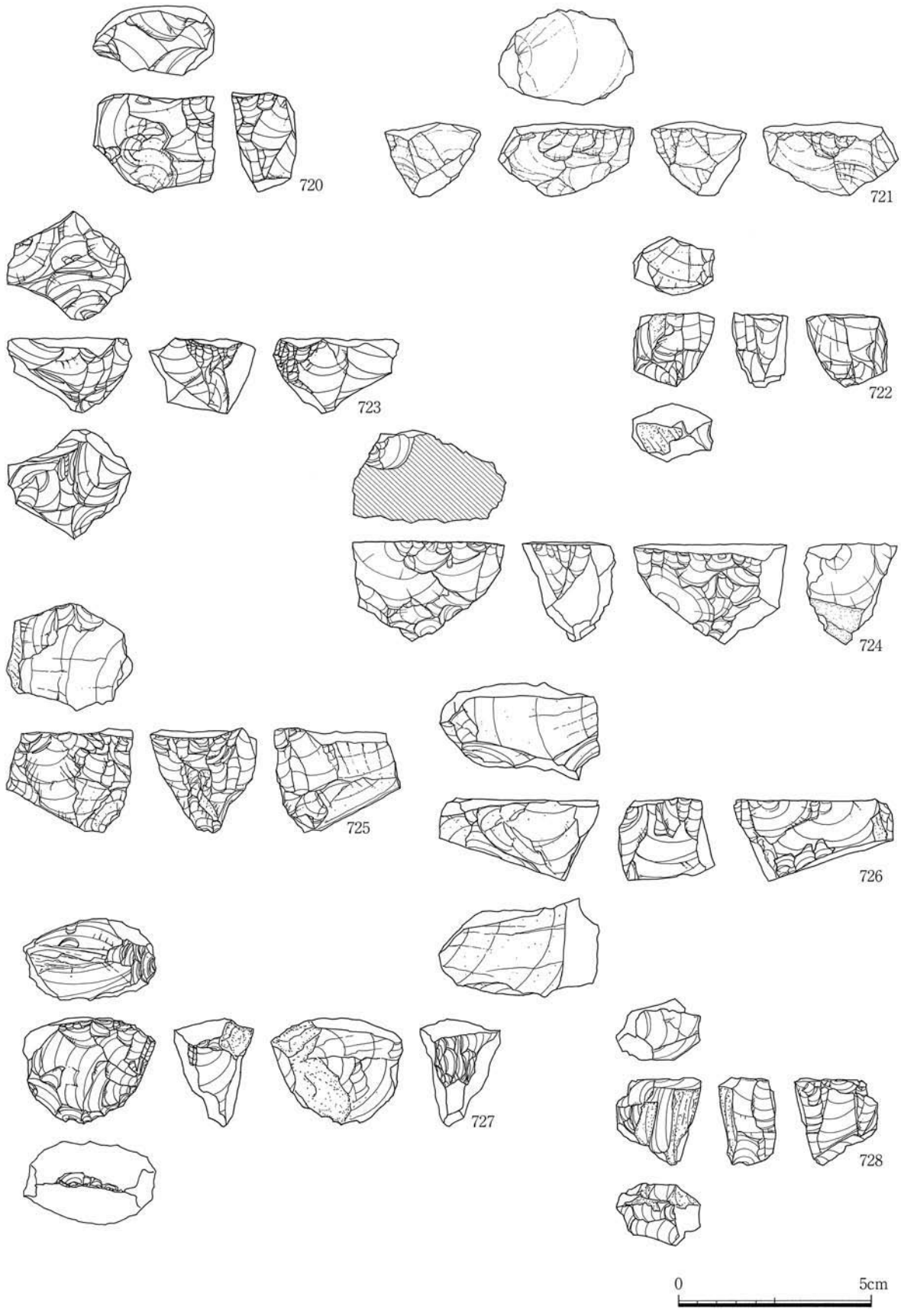


Fig. 142　細石刃核ブランク①

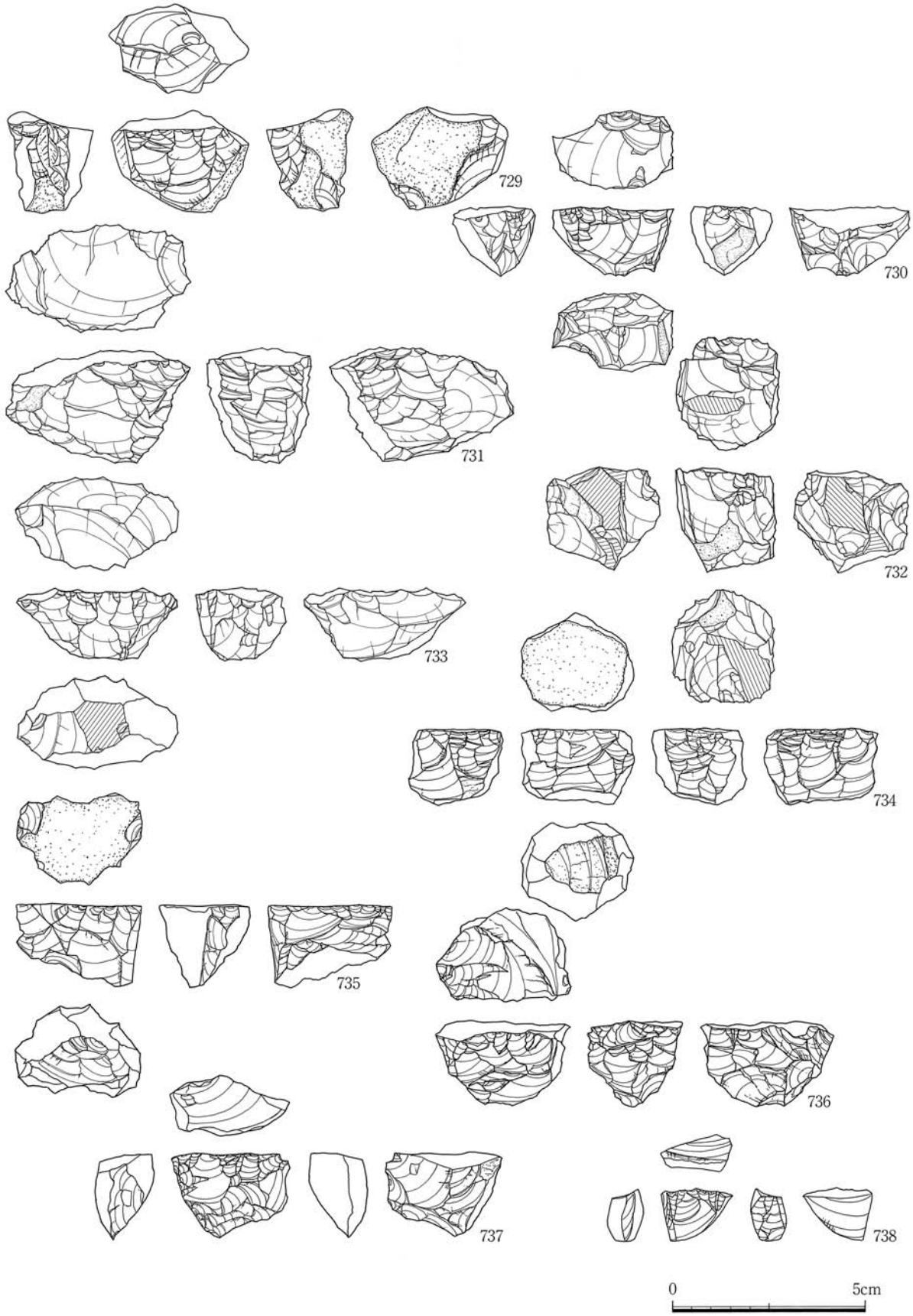


Fig. 143　細石刃核ブランク②

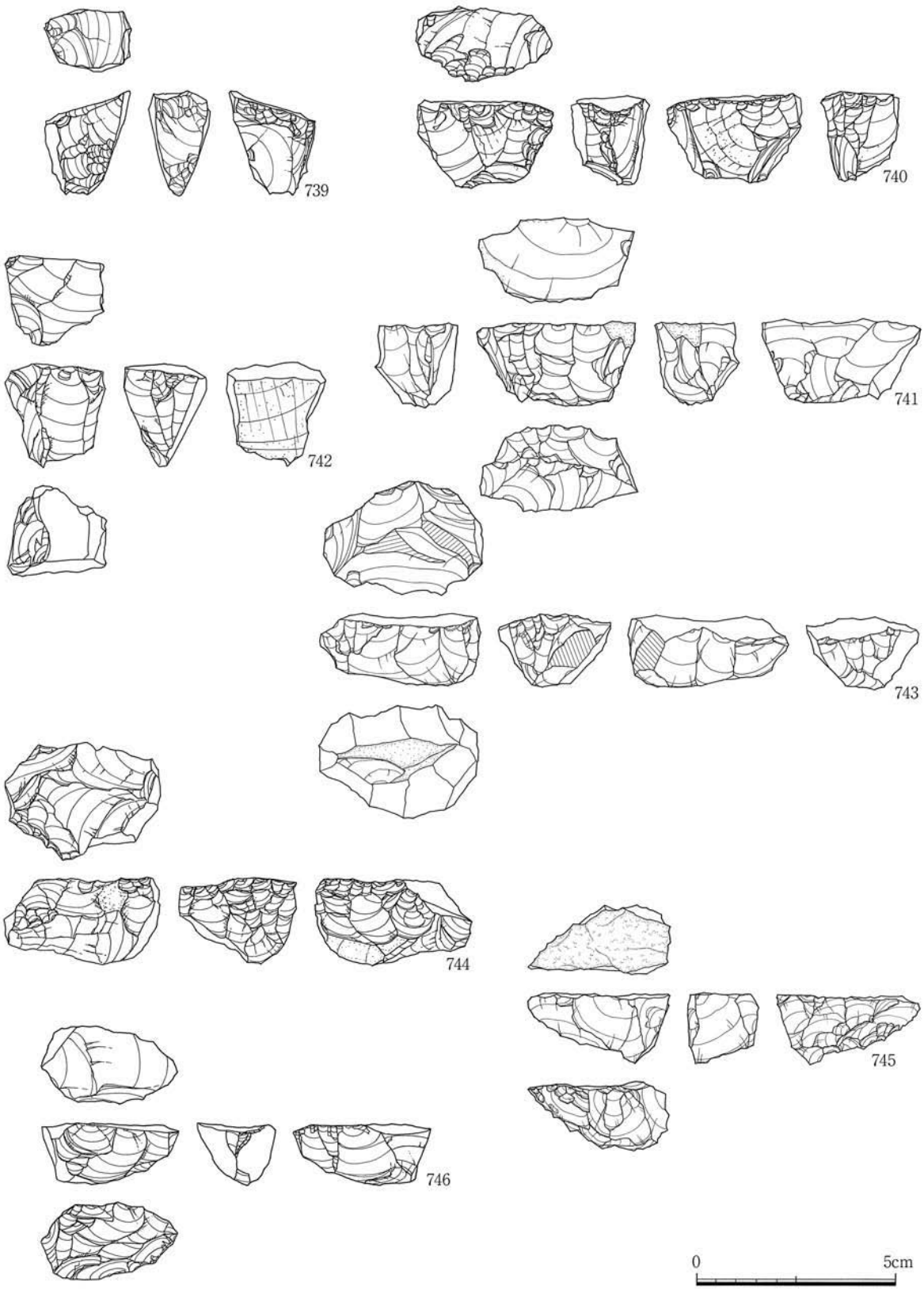


Fig. 144　細石刃核ブランク③

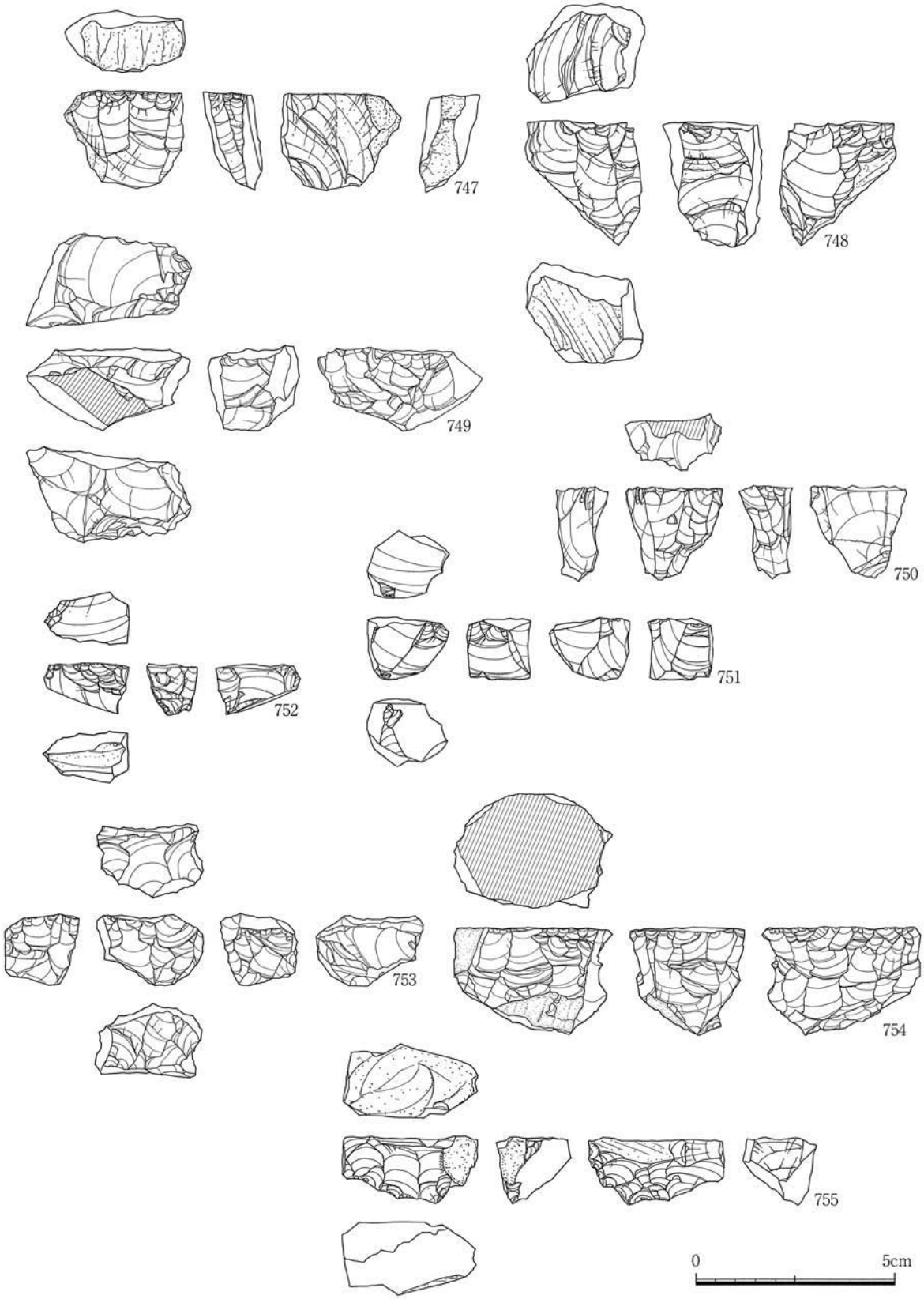


Fig. 145　細石刃核ブランク④

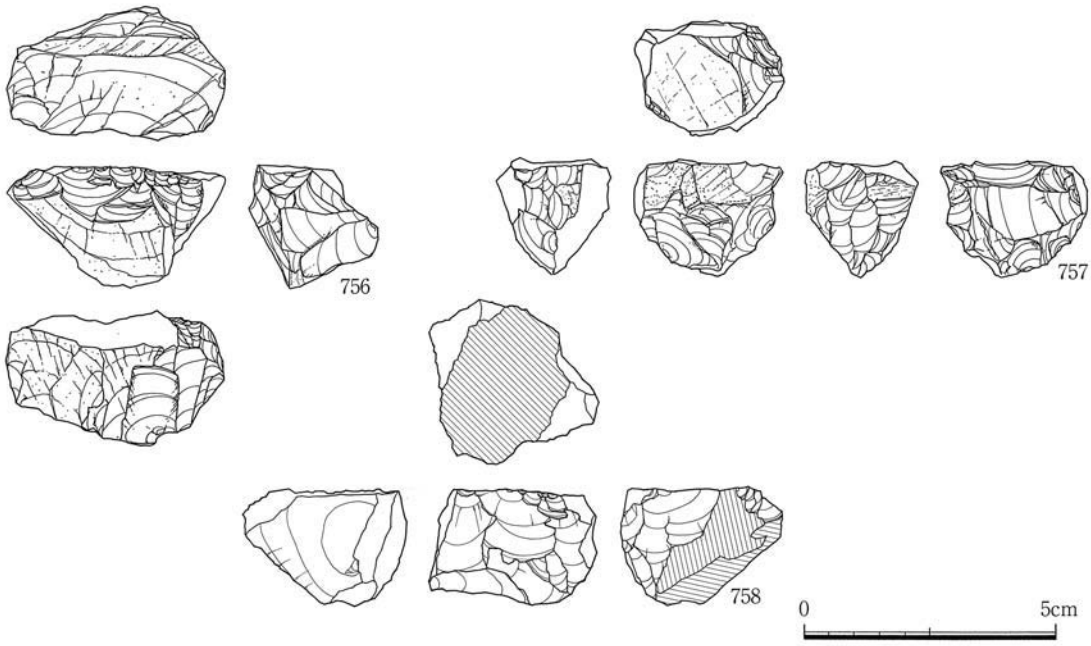


Fig. 146　細石刃核ブランク⑤

（10）間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核（Fig.147～151）

間接打撃により縦長剥片を連続して剥離するという指標で選別した石核だが、サイコロ状で特徴的な形態を持つ１類には間接打撃だけではなく押圧剥離により剥片を剥離した石核もある。出土層位はⅩ層からⅦ層にかけて、平面的にも１号岩陰と2号岩陰双方に分布している。出土地点や法量など個々の石核の詳細についてはTab.16に示した。

1類-759～767

間接打撃により連続して縦長剥片を剥取する石核の中で打面・側面の3方向を節理面・礫面・剥離面などの面で囲まれるタイプの石核。形態はサイコロ状の角礫であり、節理面や礫面を残して側面・底面に利用する個体が多い。目的的剥片は細石刃よりも幅広の縦長剥片で小石刃と称することもできる。押圧剥離を主体とする細石刃と比較すると間接打撃によるものが多いものの、間接打撃による資料だけではなく押圧剥離とみられる剥離痕もあり、この中にも細石刃核が含まれる。759・762・767の3点は細石刃核の可能性が強い。打面長幅比0.7から0.9前後で打面幅に対して打面帳は短い。計測した剥離痕の幅は6.3㎜から11.1㎜の範囲で細石刃の幅に近い。

打面転移があるもの（759・760・762・763）とないものがあり、打面転移する場合でも同一の面に作業面の設定を行ない、剥離方向のみを変えた打面転移となる。約90°回転した側面に新たな打面を設定する場合が多い。

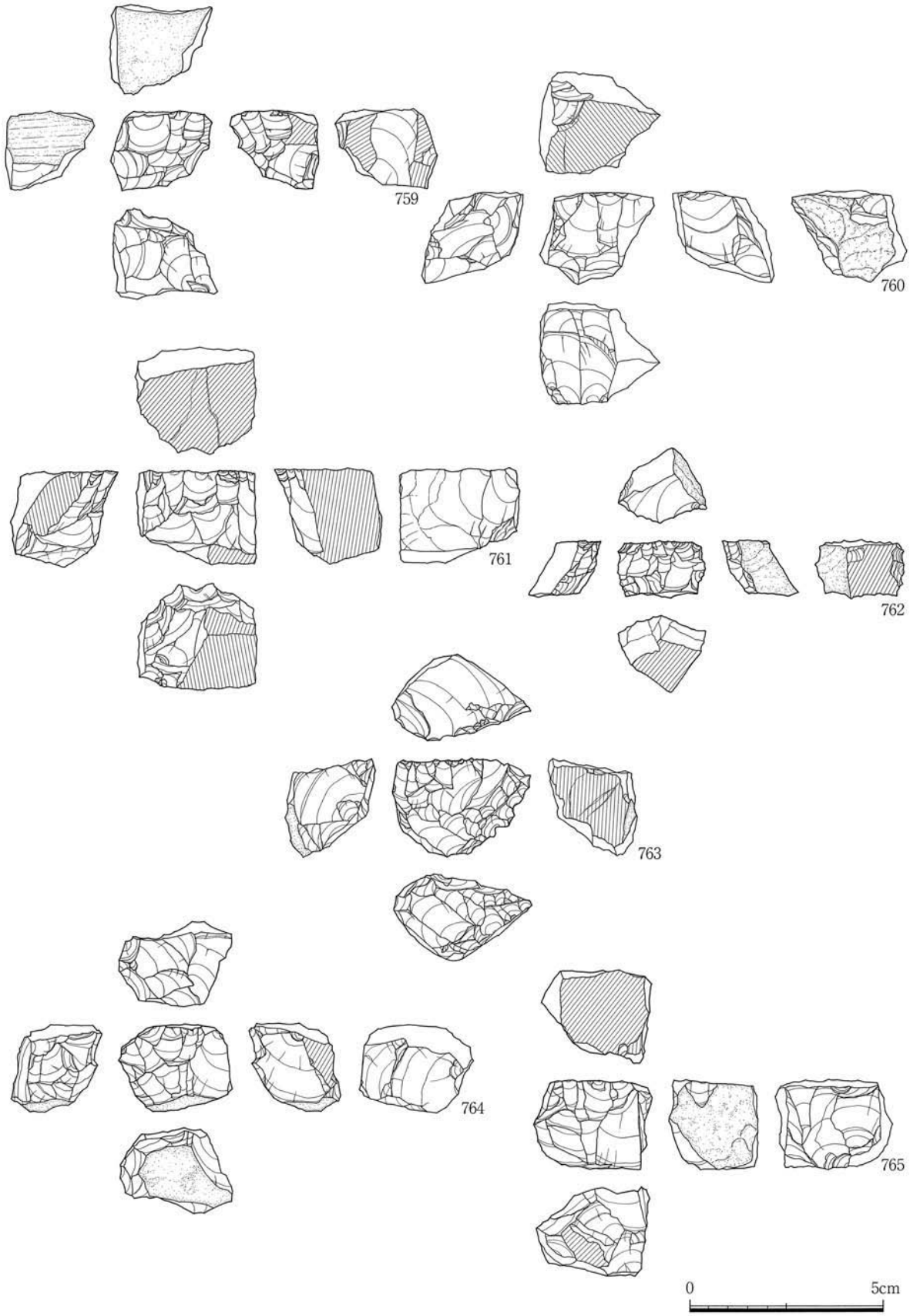


Fig. 147　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核①

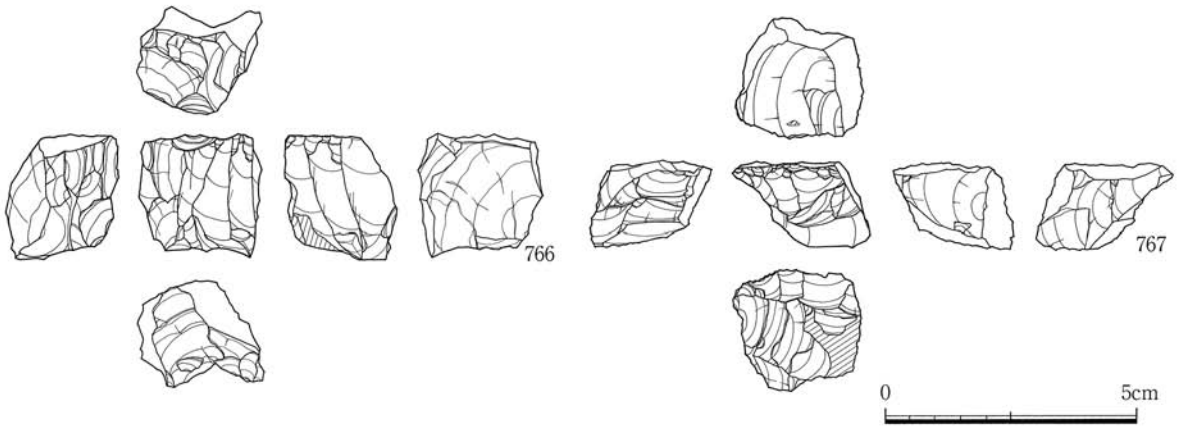


Fig. 148　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核②

2類-769～788

間接打撃により連続して縦長剥片を剥取する石核の中で、1類にあてはまらないもの。小型の縦長剥片を連続して剥取しており、細石刃核として分類することのできる資料も含まれている。形態は多様だが、正面観は礫の形状に規定されるものの、下端が細くなる逆三角形あるいは逆台形であり、側面観も下端が細くなる逆三角形・逆台形・四角形など。打面の設定は明瞭である。打面は剥離面あるいは節理面を利用し、打面細部調整と捉え得る剥離痕は観察されない。

打面の設定、小型の縦長剥片の剥離痕の幅も狭く、剥片の連続剥離など細石刃核と類似した資料も多い。異なる点は間接打撃によるという1点のみであり、中には細石刃核との違いを判断するのに苦慮する資料もある。剥離痕の幅は6.2㎜から12.1㎜の範囲で、1類と比較するとやや幅広の石核が多い。

776は頁岩製で他の石核と唯一石材が異なる。打面転移もあるなど、他のチャート製の石核とは違う特徴を持つ。

なお、768は石核ではあるが小型の縦長剥片を連続して剥離するという観点からは外れ、１・２類とは異なるグループの石核である。

出土層位はⅧ-a層あるいはⅦ層であり、Ⅷ-a層が10点・Ⅶ層が9点、それ以外の層・層不明資料が2点である。

Fig. 149　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核③

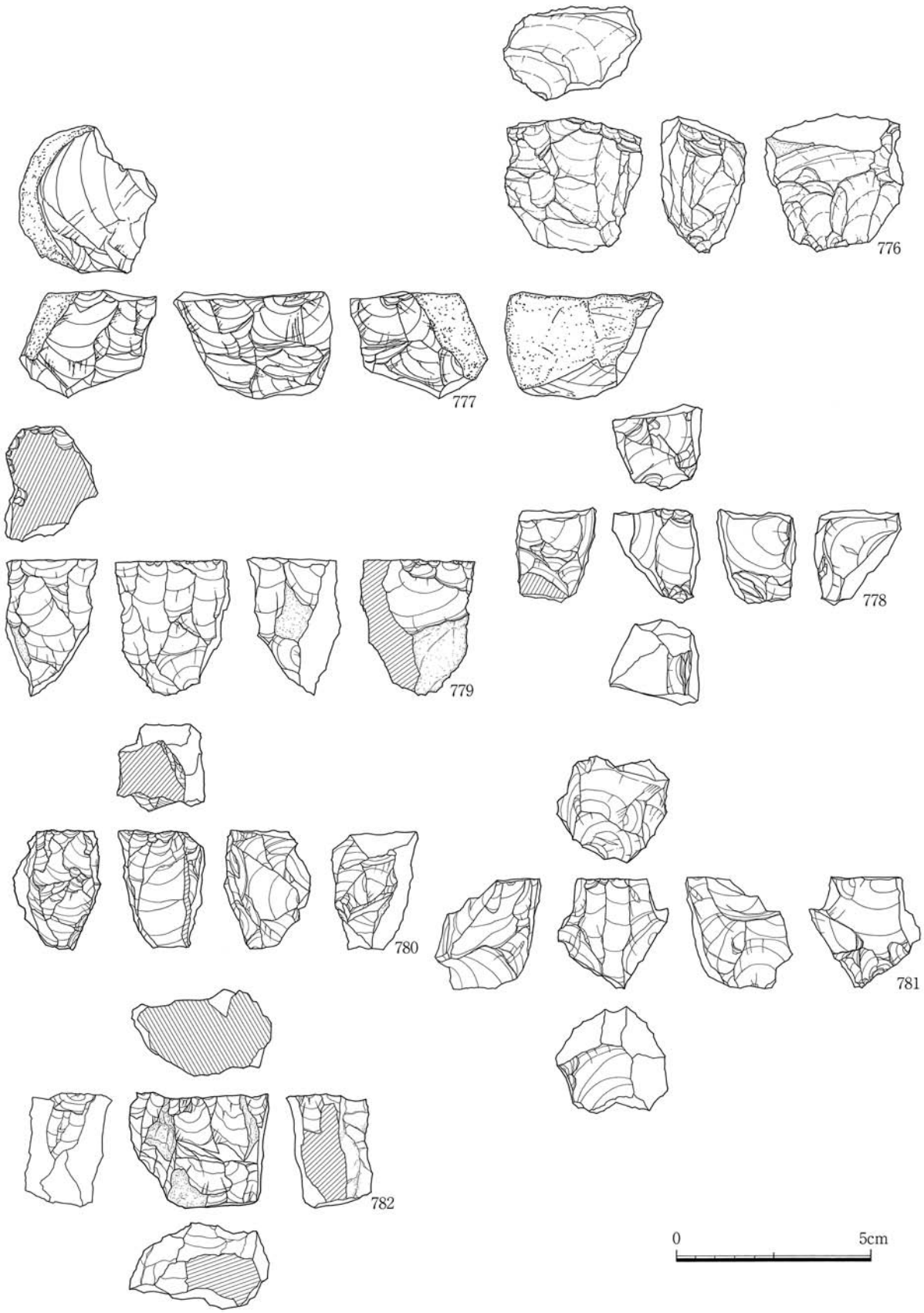


Fig. 150　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核④

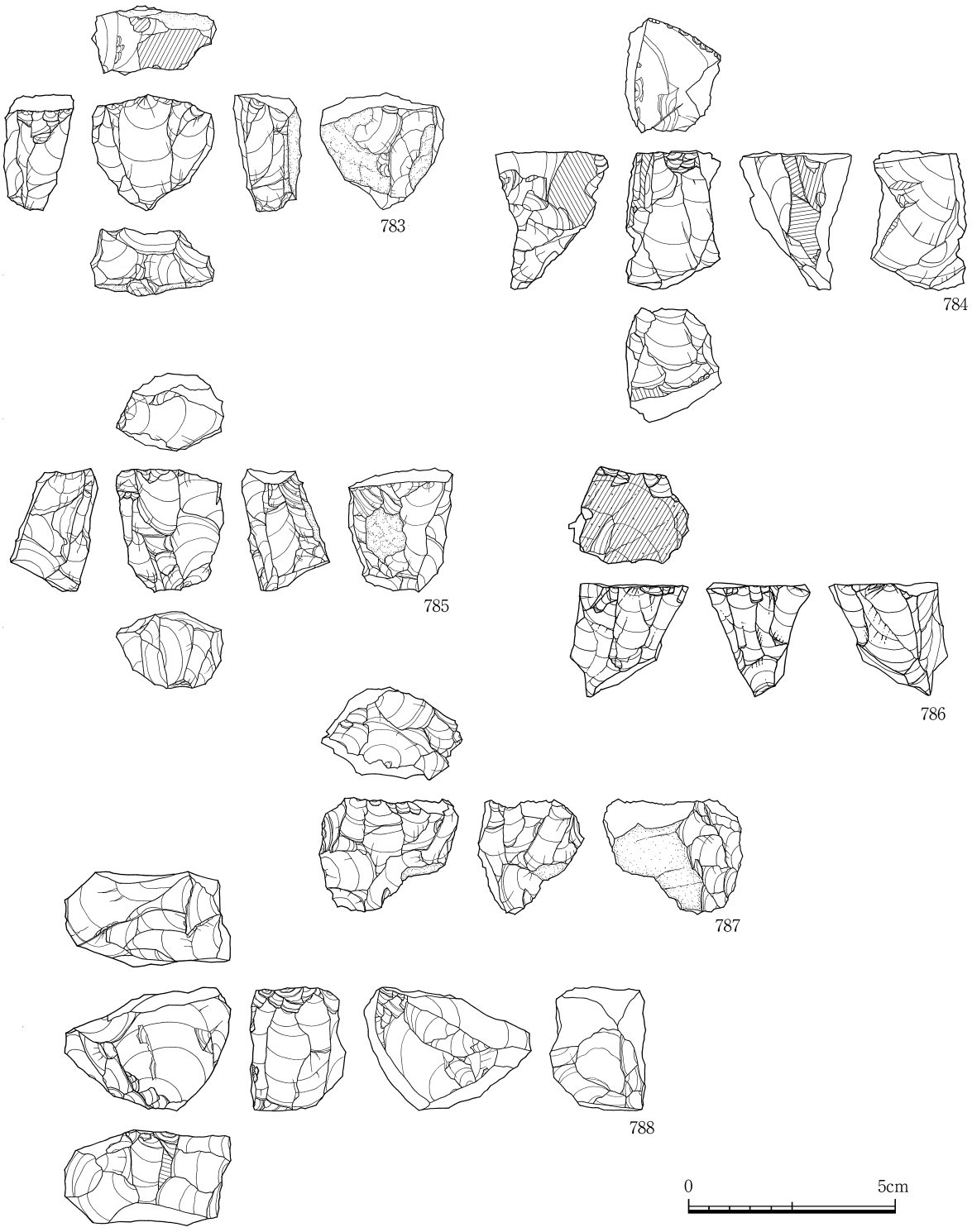
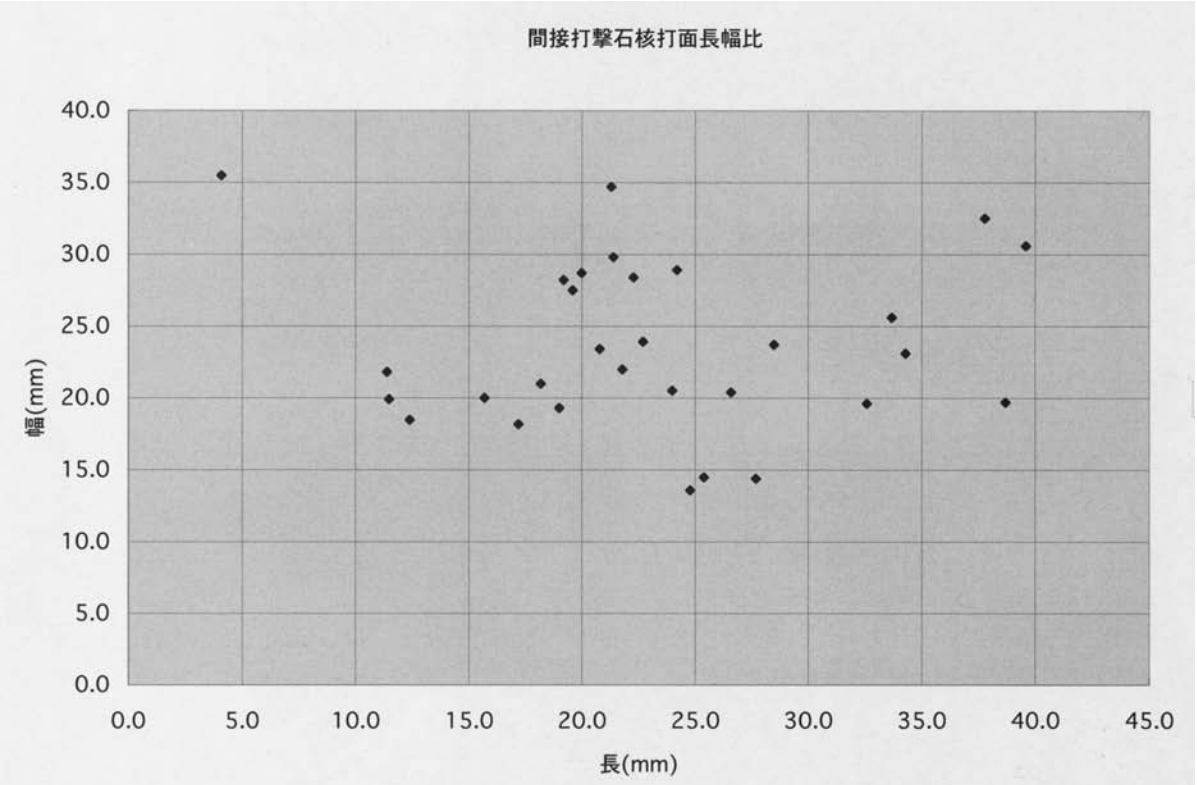


Fig. 151　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核⑤



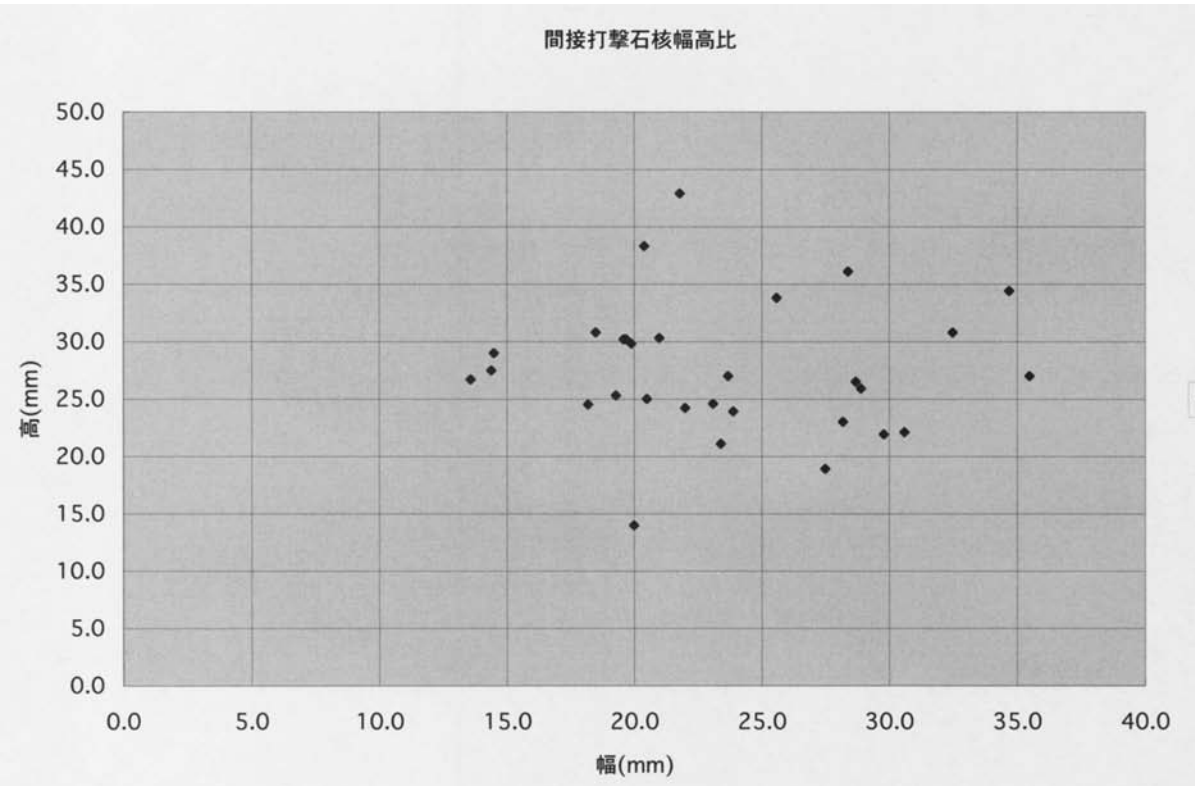


Fig. 152　間接打撃による石核の特徴

Tab. 16　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核　計測表 ①

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	出土地点	石材	石核 整形	素材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	打面細部調整	打面転移	剥離角	重量 (g)	打面·長 (mm)	打面·幅 (mm)	作業面·長 (mm)	打　面 長幅比	幅高比	剥離痕·幅 (mm)	剥離痕·長 (mm)	器種
147	759	X	1号岩陰	FG−5	チャート	なし	礫	礫面	−	−	なし	あり	66°	12.83	21.8	22.0	24.2	0.99	1.10	11.1	10.3	石核
147	760	Ⅷ−b	1号岩陰	TR−3	チャート	あり	礫	節理面（?礫面）	あり	なし	なし	あり	79°	17.30	19.2	28.2	23.0	0.68	0.82	7.0	12.8	石核（細石刃核）
147	761	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3NSB	チャート	なし	礫	節理面	−	−	なし	なし	68°	27.10	24.2	28.9	25.9	0.84	0.90	6.9	20.9	細石刃核
147	762	Ⅷ−a	2号岩陰	J−5　南北バンク	チャート	なし	礫	剥離面	−	−	なし	あり	74°	5.79	15.7	20.0	14.0	0.79	0.70	8.1	13.7	細石刃核
147	763	Ⅶ	1号岩陰	G−4	チャート	あり	礫	剥離面·節理面	あり	なし	なし	あり	81°	18.00	34.3	23.1	24.6	1.48	1.06	8.1	12.7	石核
147	764	Ⅶ−1	1号岩陰	J−5−10	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	85°	2.95	19.6	27.5	18.9	0.71	0.69	6.3	15.9	石核
147	765	不明	1号岩陰南	F−7	チャート	あり	礫	節理面	あり	なし	なし	なし	81°	20.91	22.7	23.9	23.9	0.95	1.00	6.6	10.7	石核
148	766	Ⅶ−SR3	2号岩陰	JK−6	チャート	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	なし	78°	13.84	17.2	18.2	24.5	0.95	1.35	7.5	18.7	石核
148	767	不明	1号岩陰東	G−4	チャート	あり	分割礫	剥離面·打瘤発達	あり	−	なし	なし	75°	9.66	20.8	23.4	21.1	0.89	0.90	6.7	13.0	細石刃核
149	768	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	なし		剥離面	なし	なし	なし	なし	83°	13.00	11.4	21.8	42.9	0.52	1.97	9.8	32.6	石核
149	769	Ⅷ−a	1号岩陰	TR−3−NSB	チャート	あり	礫	剥離面	不明	あり	なし	なし	75°	9.20	12.4	18.5	30.8	0.67	1.66	6.2	30.1	石核
149	770	Ⅷ−a	1号岩陰南	E−6	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	80°	27.13	33.7	25.6	33.8	1.32	1.32	12.1	15.8	石核
149	771	Ⅷ−a	1号岩陰南	F−6	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	71°	16.46	21.4	29.8	21.9	0.72	0.73	8.6	14.9	石核
149	772	Ⅷ−a	2号岩陰	K−5	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	70°	24.04	37.8	32.5	30.8	1.16	0.95	9.3	14.9	石核
149	773	Ⅶ	1号岩陰	F−5−7	チャート	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	なし	75°	14.25	24.0	20.5	25.0	1.17	1.22	9.1	16.9	石核

Tab. 16　間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核　計測表 ②

Fig. 番号	図版 番号	層位	平面位置	出土地点	石材	石核 整形	素材	打　面	打面側からの側面調整	下縁側からの側面調整	打面細部調整	打面転移	剥離角	重量 (g)	打面·長 (mm)	打面·幅 (mm)	作業面·長 (mm)	打　面 長幅比	幅高比	剥離痕·幅 (mm)	剥離痕·長 (mm)	器種
149	774	Ⅷ−a	1号岩陰	EF−5　TR−A南バンク	チャート	あり	礫	剥離面（3面）	あり	あり	なし	なし	84°	32.40	39.6	30.6	22.1	1.29	0.72	8.3	17.4	石核
149	775	Ⅷ−a	1号岩陰東	GH−5	チャート	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	なし	70°	18.54	25.4	14.5	29.0	1.75	2.00	7.2	17.4	石核
150	776	Ⅷ−a	1号岩陰南	EF−6·7	頁岩	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	あり	83°	30.97	21.3	34.7	34.4	0.61	0.99	10.7	27.7	石核
150	777	Ⅷ−a	1号岩陰南	E−7−2	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	77°	37.30	4.10	35.5	27.0	0.12	0.76	10.8	15.7	石核
150	778	Ⅶ	1号岩陰東	H−5　TR−5東バンク	チャート	なし	礫	剥離面	なし	なし	なし	なし	82°	12.32	19.0	19.3	25.3	0.98	1.31	11.2	21.5	石核
150	779	Ⅶ	1号岩陰南	ZT	チャート	あり	礫	節理面	あり	あり	あり	なし	78°	24.86	22.3	28.4	36.1	0.79	1.27	10.6	26.0	石核
150	780	Ⅶ·Ⅷ	2号岩陰	岩陰2　SW−2	チャート	あり	礫	節理面	あり	あり（背縁?側）	なし	なし	78°	16.61	18.2	21.0	30.3	0.87	1.44	8.2	29.1	石核
150	781	Ⅶ−2	2号岩陰西	I−4−16	チャート	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	なし	76°	18.22	11.5	19.9	29.8	0.58	1.50	7.8	25.8	石核
150	782	Ⅷ−a	1号岩陰南	F−6−6	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	77°	25.80	32.6	19.6	30.2	1.66	1.54	8.3	13.8	石核
151	783	Ⅶ−YR	2号岩陰	J−6	チャート	あり	礫	剥離面	あり	なし	なし	なし	77°	14.66	27.7	14.4	27.5	1.92	1.91	10.4	26.0	石核
151	784	Ⅶ	1号岩陰東	H−5　TR−5東バンク	チャート	なし	礫	節理面	なし	なし	なし	なし	76°	18.51	26.6	20.4	38.3	1.30	1.88	6.9	27.3	石核
151	785	Ⅶ−YR	2号岩陰	JK−6	チャート	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	なし	81°	14.69	24.8	13.6	26.7	1.82	1.96	7.1	21.8	石核
151	786	Ⅶ−SR23	2号岩陰	K−6	チャート	あり	礫	節理面	あり	なし	△	なし	66°	14.50	28.5	23.7	27.0	1.20	1.14	9.6	15.0	石核
151	787	②	2号岩陰南	J−7	チャート	あり	礫	作業面方向からの剥離切り合いあり。	不明	なし	なし	あり	83°	17.30	20.0	28.7	26.5	0.70	0.92	10.3	13.3	石核
151	788	表採	2号岩陰南	J−7	チャート	あり	礫	剥離面	あり	あり	なし	あり	68°	28.85	38.7	19.7	30.2	1.96	1.53	6.8	16.1	石核

（11）小型の縦長剥片（Fig.152～154）

一定量、背腹同一方向の剥離方向を示す剥片類が認められた。これらの縦長の剥片の呼称については「小石刃」と呼ぶのがふさわしいという指摘と「小石刃」という呼称はふさわしくないという相反する御指摘を頂いた。ここにまとめた縦長剥片は、すべて背面と腹面の剥離方向が同じであり、同一の打面から連続して同一方向に剥ぎ取られた剥片である。しかし、形態はバラエティーに富み、大きさも細石刃より若干大きい程度のものから、幅2㎝を超えるもの、1㎝を超える厚さのものなど、多様である。このグループの資料には、石刃状と表現可能な縦長剥片が多い。細石刃核の作業面再生剥片や使用痕のある剥片・2次加工のある剥片などスクレイパー類としての使用が想定されるものまで、用途も様々である。

出土層位と出土地点で注目されることは、Ⅷ層出土資料の多さである。層の明らかな47点中1号岩陰Ⅷ層以下出土資料は17点（Ⅸ層1点、Ⅷ-b層10点、Ⅷ-a層6点）、2号岩陰Ⅷ層出土資料は13点（Ⅷ-a層13点）と、Ⅷ層以下の出土点数が全体の7割近くで、それ以外のⅦ層出土資料にもⅧ層に近接したⅦサイカ、ⅦSR、ⅦYRなどの層出土のものが多い。

当遺跡での出土層位の偏りから考えて、これらの小型縦長剥片はⅧ層あるいはそれ以前の段階に特徴的な遺物である可能性が高い。

チャート剥片（1号岩陰南地点出土・Ⅷ層）

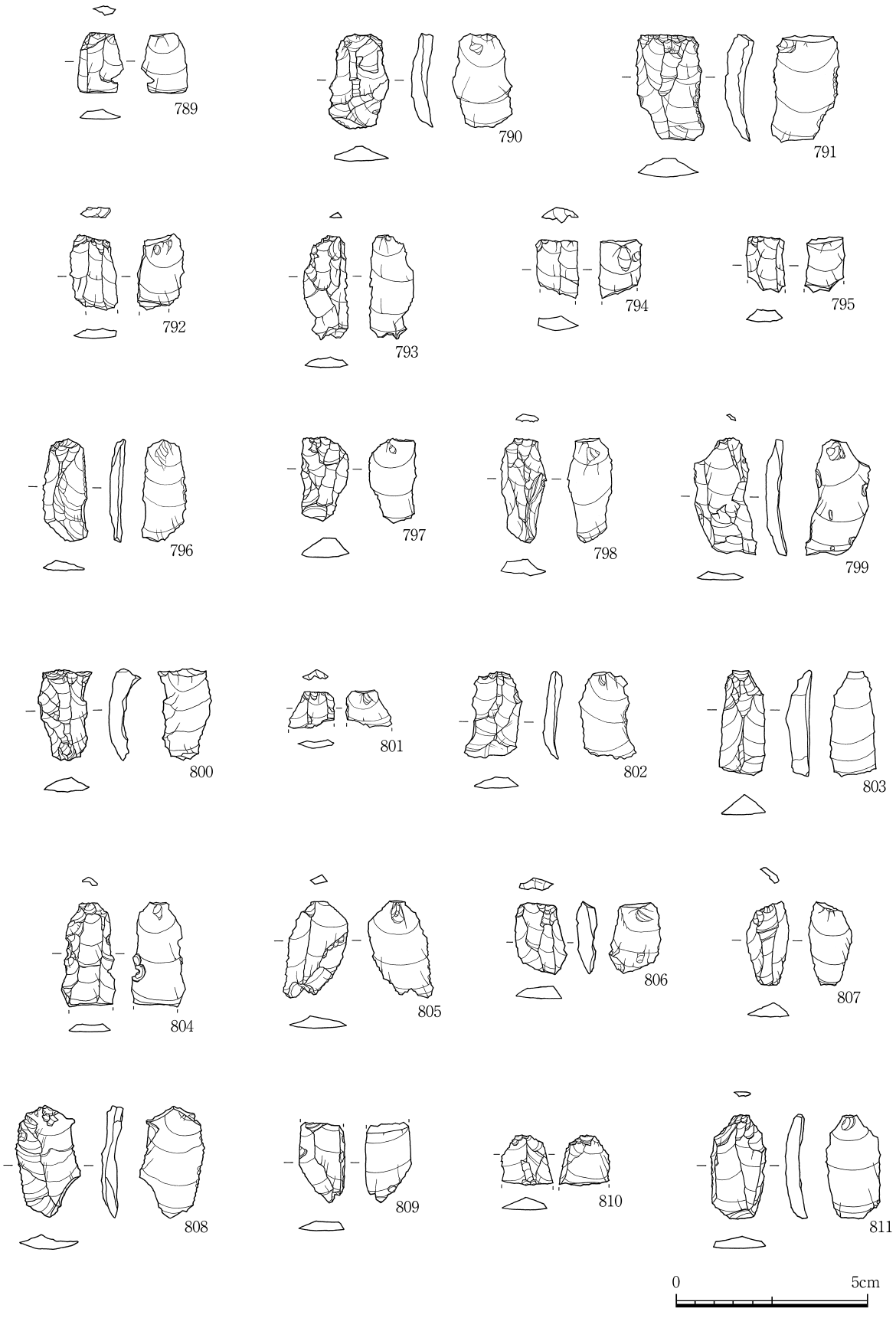


Fig. 153　小型の縦長剥片①

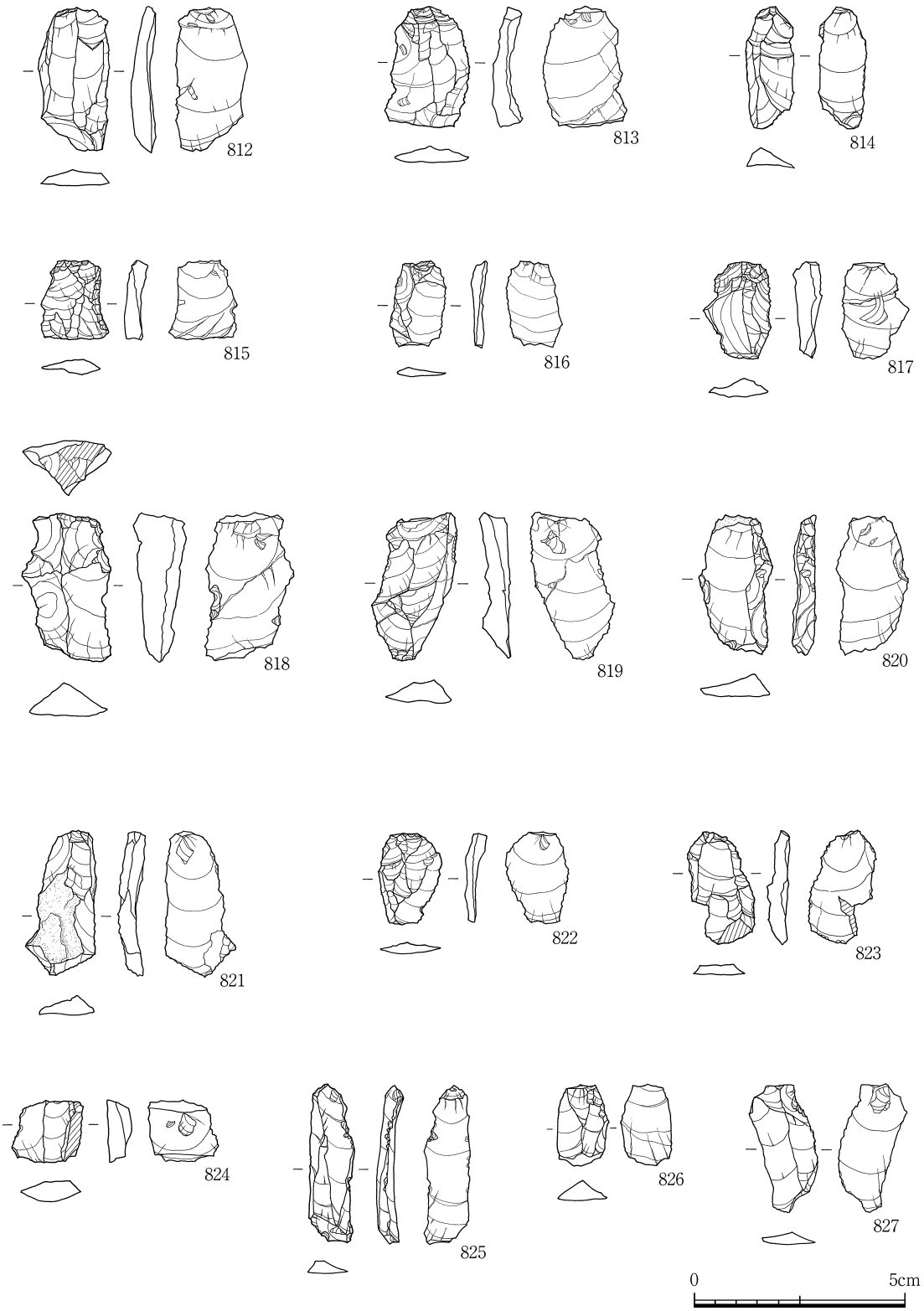


Fig. 154　小型の縦長剥片②

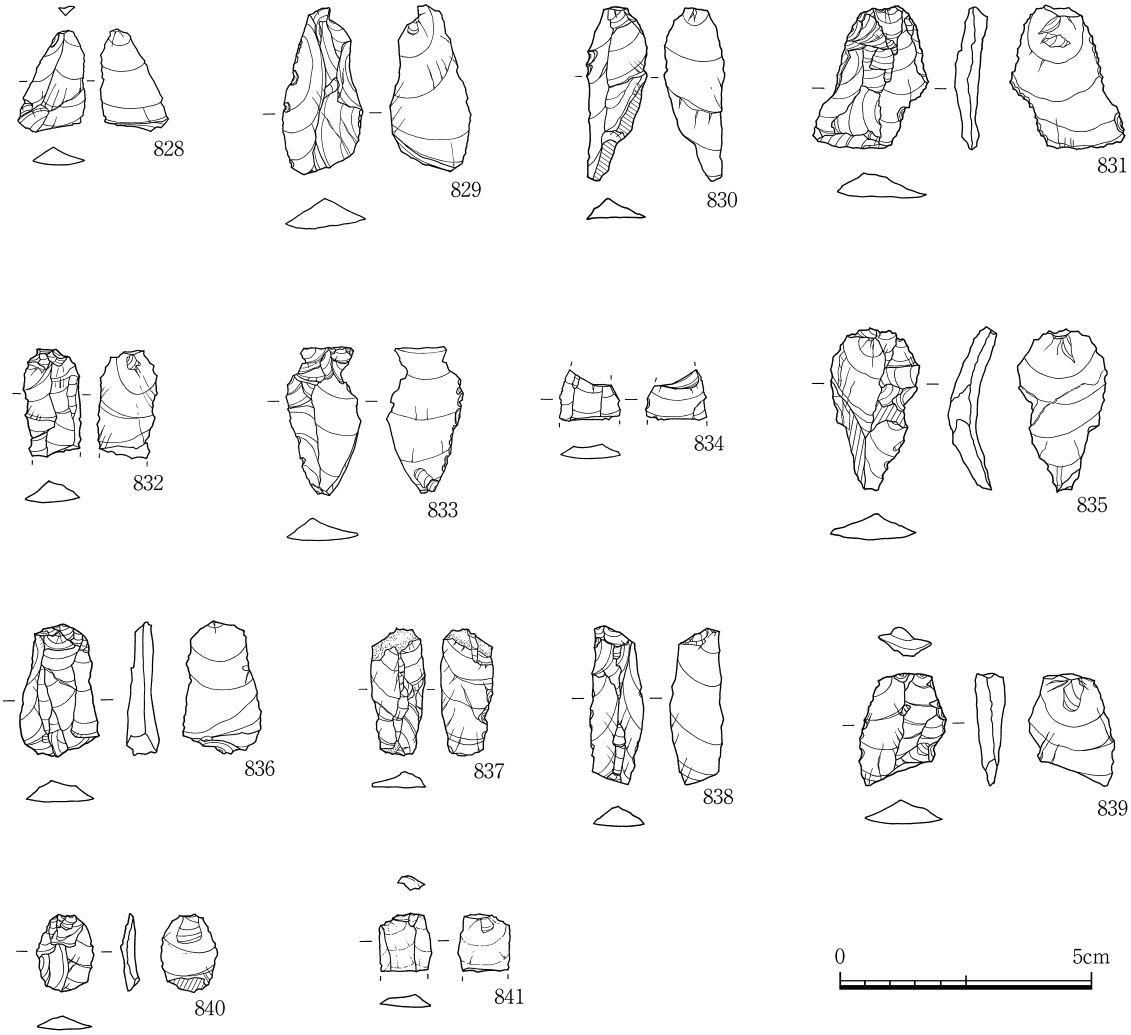


Fig. 155　小型の縦長剥片③

Tab. 17　小型縦長剥片　計測表 ①

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	出土地点	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	長幅 比	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	器種・備考
153	789	Ⅸ	F−4	チャート	0.54	1.53	1.21	0.24	1.26	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	790	Ⅷ−b	EF−5	チャート	1.30	2.46	1.57	0.41	1.57	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	791	Ⅷ−b	EF−6･7	チャート	2.60	2.75	1.77	0.63	1.55	1				使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	792	Ⅷ−b	ZT	チャート	0.72	1.94	1.25	0.28	1.55	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	793	Ⅷ−b	EF−6･7	チャート	0.88	2.69	1.17	0.27	2.30	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	794	Ⅷ−b	F−6･7	チャート	0.73	1.51	1.14	0.39	1.32	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	795	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	0.63	1.42	1.03	0.31	1.38	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	796	Ⅷ−b	F−6･7	チャート	0.90	2.65	1.20	0.33	2.21	1				使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	797	Ⅷ−b	F−6･7	チャート	1.23	2.15	1.25	0.50	1.72	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	798	Ⅷ−b	F−6･7	チャート	1.22	2.67	1.18	0.41	2.26	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	799	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	1.37	3.00	1.52	0.32	1.97	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）

789～814　1 号岩陰　834～836　2 号岩陰南
815～827・829～833　2 号岩陰　815・837・838　調査区南端（小型縦長剥片出土地点の平面位置）

Tab. 17　小型縦長剥片　計測表 ②

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	出土地点	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	長幅比	部位 (全)	部位 (上)	部位 (中)	部位 (下)	器種・備考
153	800	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	1.20	2.35	1.38	0.68	1.70	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	801	Ⅷ−a	J−5南北バンク	チャート	0.19	0.94	1.21	0.18	0.78		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	802	Ⅷ−a	F−5−8	チャート	1.00	2.22	1.49	0.31	1.49	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	803	Ⅷ	F−6･7東バンク	チャート	1.70	2.73	1.17	0.58	2.33	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	804	Ⅷ	F−7−5･9	チャート	1.17	2.70	1.39	0.19	1.94	1				使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	805	Ⅷ−a	E−6−S	チャート	1.17	2.58	1.43	0.27	1.80	1				使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	806	Ⅷ−a	J−14−13	チャート	0.87	1.83	1.35	0.51	1.36	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	807	Ⅶ−R	F−4−12	チャート	0.75	2.12	1.09	0.35	1.94	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	808	Ⅶサイカ	F−4−16	チャート	1.50	2.89	1.68	0.42	1.72	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	809	Ⅶ	F−6･7	チャート	0.79	2.07	1.21	0.23	1.71	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	810	Ⅶ	G−5 南北バンク上　一括	チャート	0.58	1.28	1.33	0.32	0.96	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
153	811	Ⅶサイカ	F−5−6	チャート	1.48	2.65	1.38	0.30	1.92	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	812	Ⅵ	F−7	チャート	2.63	3.40	1.66	0.52	2.05		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	813	検出時	ZT（F−6）検出時一括	チャート	2.50	2.85	2.00	0.58	1.43		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	814	不明	F−4東西バンク	チャート	1.35	2.79	1.10	0.39	2.54		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	815	Ⅷ−a	JK−5	チャート	1.10	1.88	1.62	0.39	1.16		1			2次加工のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	816	Ⅷ−a	F−7−2	チャート	0.60	2.03	1.32	0.33	1.54		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	817	Ⅷ−a	FG−5	チャート	1.80	2.29	1.61	0.66	1.42		1			使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	818	Ⅷ	岩陰2　SW1	チャート	6.00	3.49	2.11	1.27	1.65		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	819	Ⅷ	ブロック1	チャート	3.40	3.48	2.00	0.66	1.74		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	820	Ⅷ−a	JK−4	チャート	2.60	3.30	1.80	0.60	1.83		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	821	Ⅷ−a	J−6	チャート	2.40	3.40	1.65	0.50	2.06		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	822	Ⅷ−a	J−4−13	チャート	1.00	2.16	1.48	0.26	1.46		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	823	Ⅷ−a	J−6　NS−2	チャート	1.30	2.69	1.59	0.47	1.69		1			使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	824	Ⅷ−a	TR−11北バンク	チャート	1.30	1.43	1.70	0.55	0.84		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	825	Ⅷ−a	I−5−4	チャート	1.79	3.77	1.05	0.36	3.59		1			使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	826	Ⅷ−a	I−4−16	チャート	1.10	1.93	1.20	0.49	1.61		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
154	827	Ⅷ−a	TR−11	チャート	1.42	2.35	1.61	0.28	1.46		1			使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	828	G−④	G−7−S	チャート	0.75	2.02	1.35	0.34	1.50		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	829	Ⅶ−1	K−5･6	チャート	2.58	3.30	1.58	0.62	2.09		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	830	Ⅶ	K−3−13	チャート	1.63	3.41	1.07	0.43	3.19		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	831	Ⅶ−SR−B	KL−5	チャート	2.50	2.83	2.26	0.48	1.25		1			使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	832	Ⅶ−SR−3	JK−5	チャート	1.03	2.11	1.09	0.37	1.94		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	833	Ⅶ−YR	JK−6	チャート	1.56	2.90	1.49	0.46	1.95		1			使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	834	②	J−7	チャート	0.29	1.03	1.15	0.21	0.90			1		剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	835	③	NS−1（I−7−16）	チャート	4.00	3.22	1.76	0.52	1.83	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	836	③	NS−1（J−7−5）	チャート	1.90	2.62	1.60	0.65	1.64	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	837	G−③	G−7−S	チャート	0.82	2.46	1.03	0.32	2.39	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	838	KS−1	G−7	チャート	1.05	3.09	4.00	0.34	0.77	1				剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	839	表採	不明	チャート	1.71	2.19	1.63	0.57	1.34			1		使用痕のある剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	840	表採	不明	チャート	0.39	1.44	1.13	0.27	1.27			1		剥片（小型の石刃状の縦長剥片）
155	841	表採	不明	安山岩?	0.31	1.12	0.99	0.27	1.13		1			剥片（小型の石刃状の縦長剥片）

（12）スクレイパー類及び剥片（Fig.156～178）

層ごと、地点ごとに、スクレイパー（掻器・削器・抉入石器）・2次加工のある剥片・使用痕のある剥片・剥片等の資料をまとめて示した。各々の器種の中での分類は行なっていない。

スクレイパー類として広い範疇の石器を取り扱った。加工技術から明らかに所属時期を決定できるものや推定することが可能なものもあるが、多くのスクレイパー類についてはⅦ層から下層の出土だということを理由に縄文時代以前に使われたことがわかる程度である。

使用痕のある剥片や2次加工のある剥片も一定量存在し実測も行ったが、その全貌は掌握しきれていない。ここで紹介可能な遺物は全体からすると一部であるが、今後、より詳細な分類・検討を経て、その実態が明らかになることを切に願う。報告書の段階では図化と法量・観察所見の記載までを行った。スクレイパー類として位置づけたものの、加工が明瞭に連続しなかったり、人工的な石器であるかどうか疑問のある資料もあり、掲載を見送った資料もある。また、掲載資料の中にも偽石器の可能性のある資料も含まれている。

これらの出土資料により、南四国の旧石器時代から縄文時代にかけてのスクレイパー類の構成についての重要な手がかりが得られ、明らかになる情報も多いはずだが、詳細な分析をするまでには至らなかった。ただ、今回実測したスクレイパー類及び剥片が層ごとにどのような出土状況を示し、層ごとの器種構成の特徴はどうか、といった情報のみでも、奥谷南遺跡のスクレイパー類の様相の一端は示すことができるものと考える。

層ごとの出土状況は、以下に示す表のとおりだが、この項でまとめた石器の中には掻器・削

層別・器種別スクレイパー類

出土層位	地点/器種	掻器	抉入掻器・石器	削器	2次加工のある剥片	使用痕のある剥片	小型スクレイパー	石錐	石鏃未製品	尖頭器	ナイフ形石器	ヘラ形石器	両面加工石器	剥片	小計	比率
Ⅻ層														1	1	0.4%
Ⅺ層															0	0.0%
Ⅹ層			1	2	4	1									8	3.4%
Ⅸ層		5		1		4		1							11	4.7%
Ⅷ-c層				2											2	0.9%
Ⅷ-b層		10	4	6	4									2	26	11.2%
Ⅷ-a層		28	6	11	7	8								4	64	27.6%
Ⅶ層		23	15	6	11	10	1	1	1	1	2			4	75	32.3%
Ⅵ層		1	1		1	1				1					5	2.2%
Ⅴ層			1	2	1	3								2	9	3.9%
Ⅳ層				1		1									2	0.9%
①～⑧	2号岩陰南	2			8	4								2	16	6.9%
G-①～④	南(G-7)	3	4	1	2	1						1	2		14	6.0%
不明	その他	4	2	2	2	4								1	15	6.5%
	小計	76	34	34	40	37	1	2	1	2	2	1	2	16	248	
	比率	32.8%	14.7%	14.7%	17.2%	15.9%	0.4%	0.9%	0.4%	0.9%	0.9%	0.4%	0.9%	6.9%		

器・抉入石器などのスクレイパーと2次加工のある剥片・使用痕のある剥片などが含まれる。また、最終的な器種検討の結果、石錐・尖頭部を形成する剥片（尖頭器？）・ナイフ形石器と判断した石器やヘラ形石器、両面加工石器と表現し得るのみの石器など様々な器種が若干量混在することがわかったが、そのまま報告することとする。

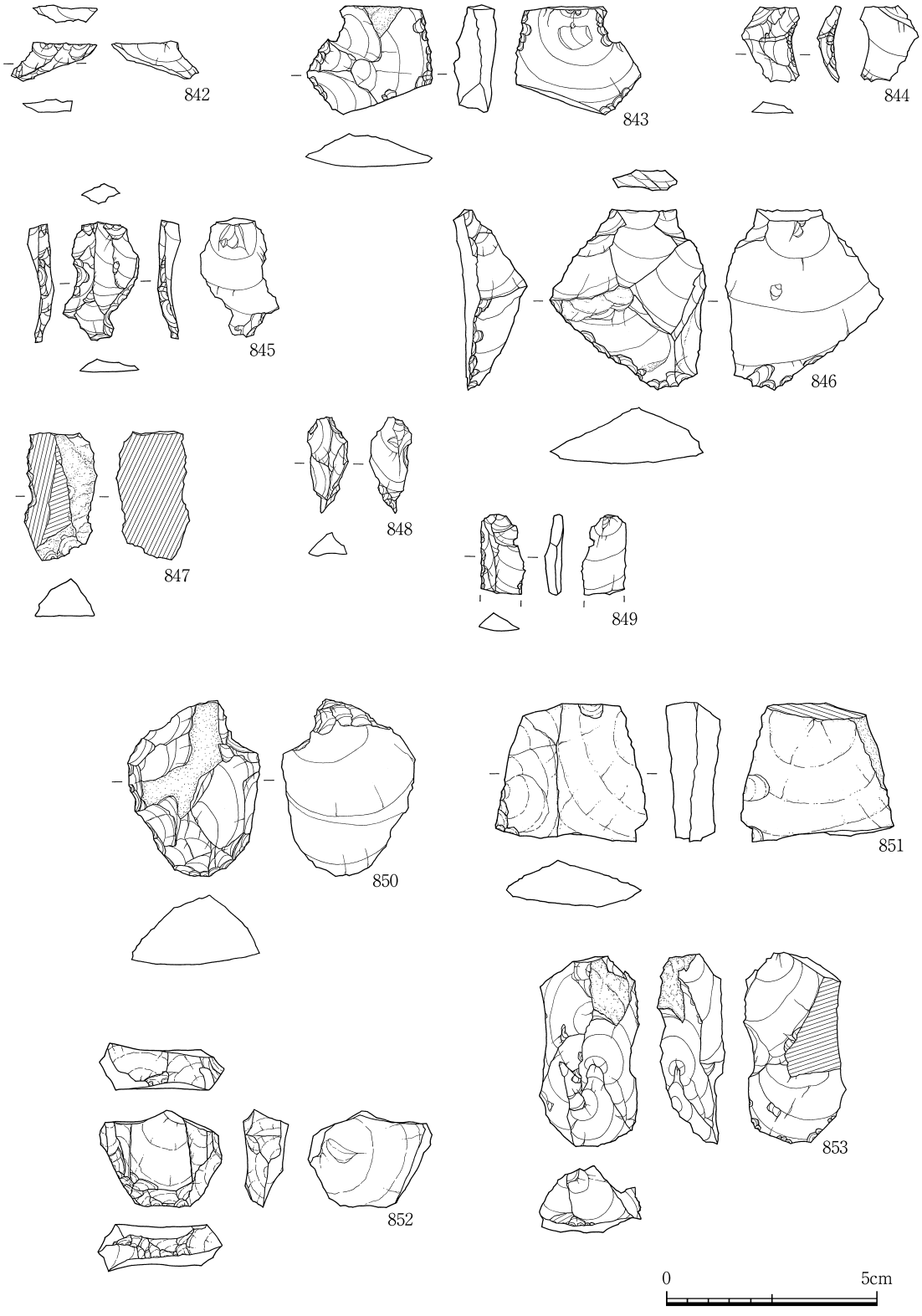
黄褐色粘土層であるⅩ層以下の層からも、スクレイパー類と認定される石器は出土しているが、量的に少なく、黄褐色土堆積時点の石器様相を性格に反映していない可能性もある。出土資料には2次加工のある剥片や削器など、直線的な辺や内湾する辺に連続する細かい2次加工により刃部を構成する剥片石器が認められたが、刃部は薄く、弧状で厚い刃部を持つ掻器は1点も出土していない。Ⅹ層以下からは他器種の出土も少なく、その段階で掻器が存在していなかったのかどうかについて断定することはできない。

Ⅷ層の直下で部分的な分布を示すⅨ層からは掻器の出土が認められる。850や852など、明瞭な急角度剥離によって弧状の刃部が形成されている。853は縦長の先刃形掻器の形状を示す剥片だが、細かい剥離痕は観察されるものの加工が明瞭ではないため使用痕のある剥片とした。Ⅸ層出土の掻器には850など縦長のものと854・855など小型で寸詰まりの剥片を利用したものがある。

他器種同様、スクレイパー類においても最も石器の集中するのはⅧ層（Ⅷ-a・Ⅷ-b）とⅧ層であり、Ⅷ層には約40%、Ⅶ層には約32%の石器が出土している。器種は掻器の多さが目立ち、Ⅷ-a・Ⅷ-b層だけでも、38点の掻器が出土しており、これらの掻器の形態・大きさを指標にいくつかに類型化される。厚みを持って刃部が円形に近い弧状の石核転用掻器、縦長で剥片の末端辺を利用した先刃形掻器、小型の拇指状掻器、刃部が円形に整形されラウンドスクレイパーの呼称がふさわしい円形掻器など用途に応じた選択がなされたと考えられる定型的な掻器が認められる。分類については今後の課題である。掻器に比較すると削器として捉え得るスクレイパーは少ない。掻器と削器の割合はおおよそ2：1である。内湾する刃部（通常の剥離・平坦剥離による）あるいは直線に近いがわずかに内湾し急角度剥離によって造り出された刃部を持つ抉入石器（急角度剥離により刃部を造り出されたものには抉入掻器の呼称を用いた。）も掻器に較べると少ないが、削器とはほぼ同量の出土であり、全体の出土量でみると掻器76点・削器34点・抉入石器（及び抉入掻器）34点の割合となる。ただし、同一の個体中に、掻器としての機能と削器としての機能を併せ持ったスクレイパーや、抉入石器としての機能と掻器あるいは削器としての機能を併せ持ったものなども若干量存在する。掻器・削器・抉入石器の区分はあくまでも主になると判断される機能によって分けたものである。

Ⅶ層より上層、Ⅵ・Ⅴ・Ⅳ層から出土するスクレイパー類は2次加工のある剥片や使用痕のある剥片を除く定型的なスクレイパーは極めて少なくなり、Ⅶ層・Ⅷ層で主体をなしていた掻器と考えられる資料はほとんどなくなる。2号岩陰南地点や縄文土器の集中したグリッドG-7に掻器はあるものの、あくまでも縄文時代以降の二次的な堆積である。

層ごとの出土状況がそのまま時期を反映しないため、スクレイパー類の構成と所属時期について断定的な判断はできない。しかし、定型的なスクレイパーの中で掻器（エンドスクレイパー）の占める比率が高いということはいえる。特に刃部の弧状の形状が整った掻器が多く出土してい



Ⅻ層（842）　Ⅹ層（843～849）
Ⅸ層（850～853）

ることは注目される。掻器には、刃部の厚みのある石核転用のものと薄く扁平で刃部が押圧剥離によって整形されるもの、小型でネイルドスクレイパーと称される縄文時代草創期に特徴的なものなど、多様な形態のものがそろっている。細石刃核転用であると考えられる形態のものや、急角度剥離によるもの、先述したような押圧剥離によるものなど多種類の技術基盤の上に成立するスクレイパー類だが、その技術のみを以て時期の決定を行うことはできない。押圧剥離のみとめられる個体が、押圧剥離登場以後だと言える程度であり、それとても、どの時期に比定できるのかについては周辺地域で蓄積された研究成果との照合が必要となる。

削器（サイドスクレイパー）や抉入石器（ノッチドスクレイパー）など形態ごとの比率、層ごとの様相、あるいは地点別の状況など分析課題は数多いものの、今回の報告では資料の提示にとどまり、又、器種の認定という視点からも課題を残す結果となってしまった。

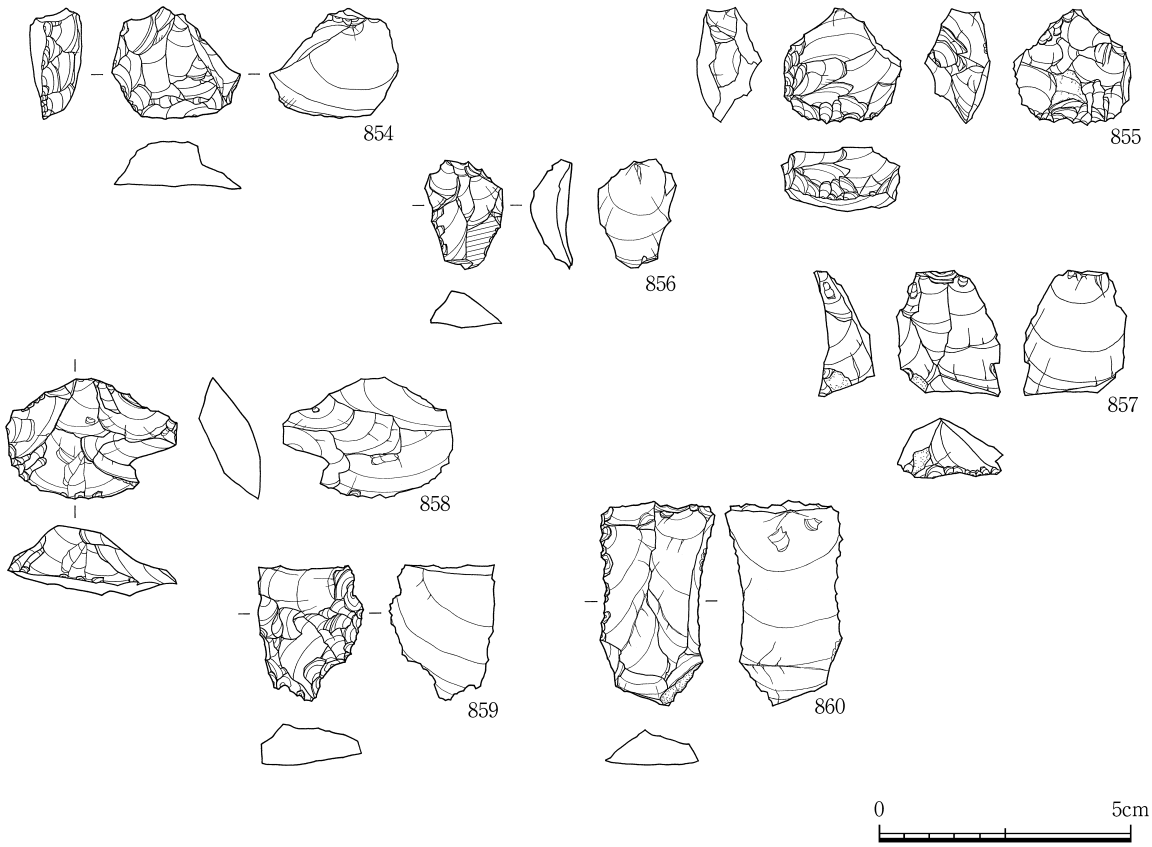


Fig. 157　スクレイパー類及び剥片（Ⅸ層）

Fig. 158　スクレイパー類及び剥片（Ⅷ-b層）①

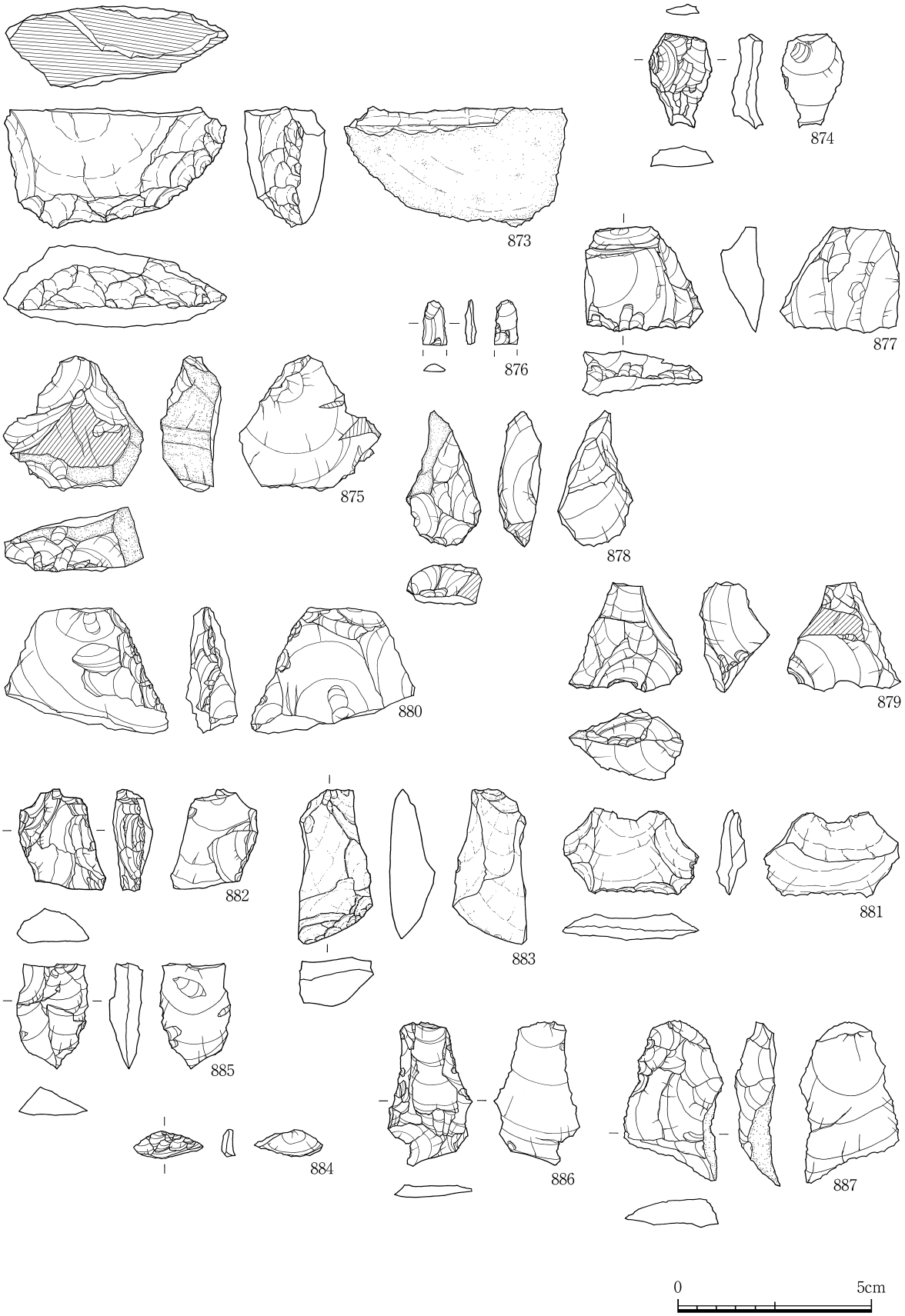


Fig. 159　スクレイパー類及び剥片（Ⅷ-b層）②

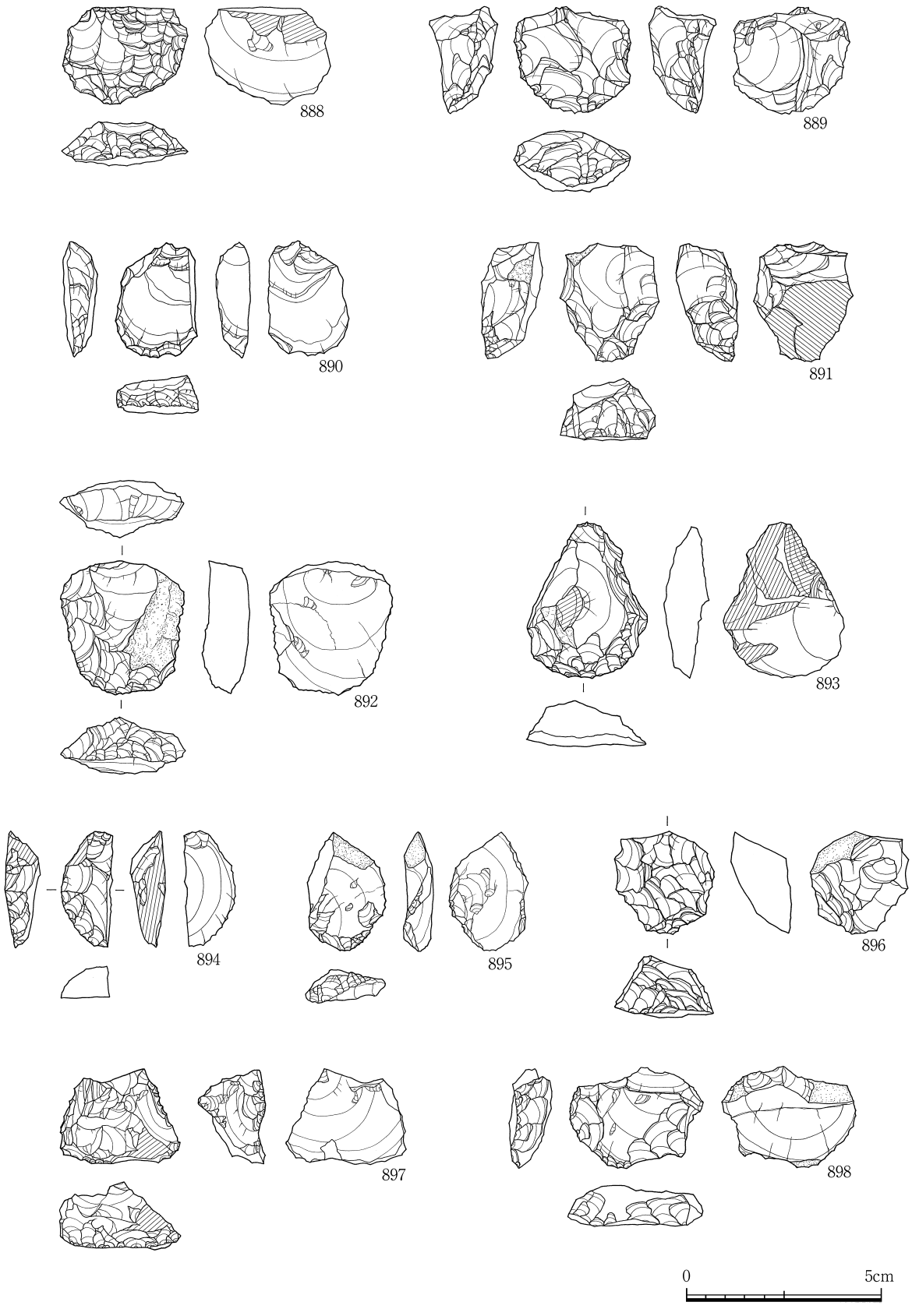


Fig. 160　スクレイパー類（Ⅷ-a層）①　－掻器－

Fig. 161　スクレイパー類（Ⅷ-a層）②　－掻器－

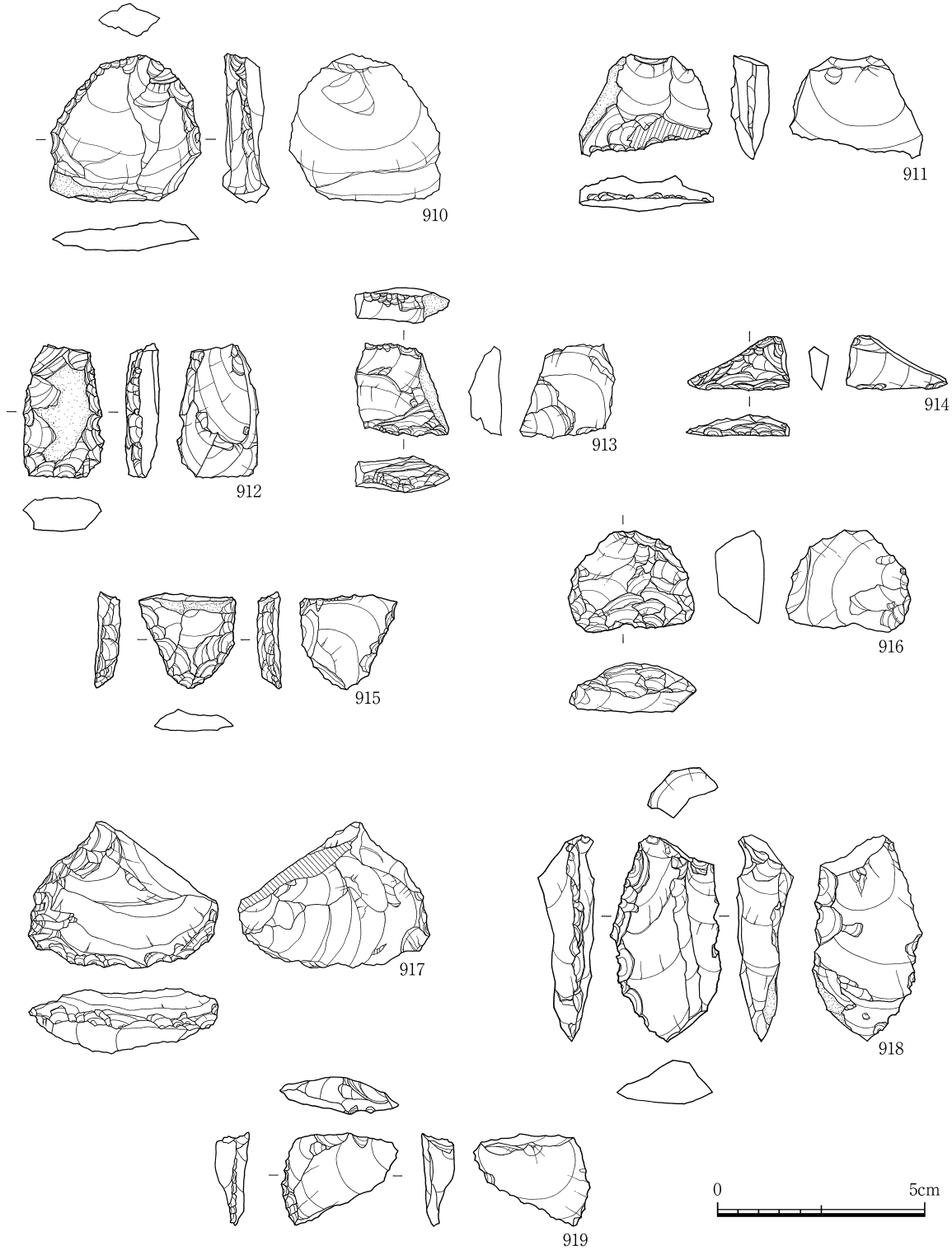


Fig. 162　スクレイパー類（Ⅷ-a層）③

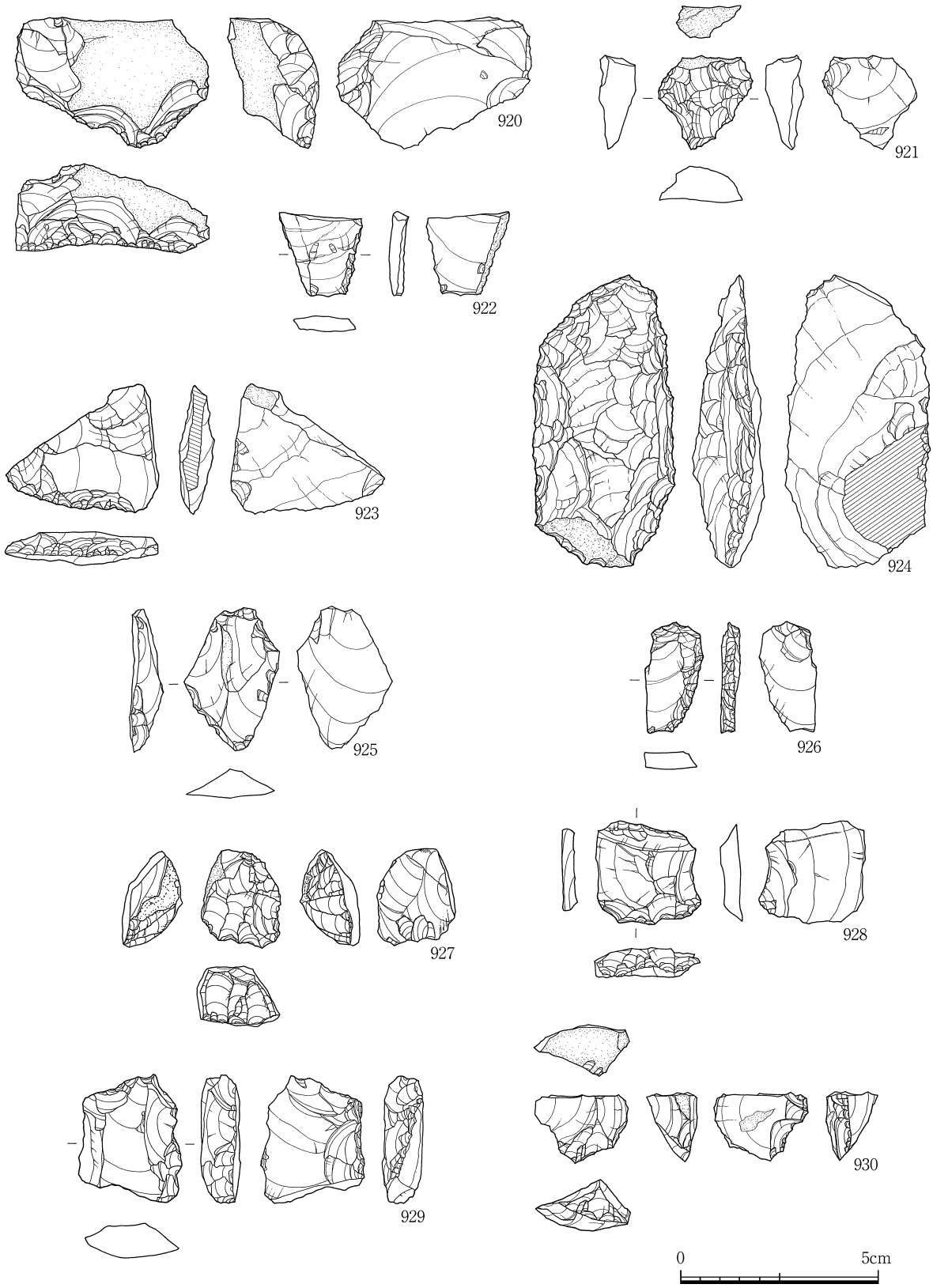


Fig. 163　スクレイパー類（Ⅷ-a層）④

Fig. 164　スクレイパー類及び剥片（Ⅷ-a層）⑤

Fig. 165　スクレイパー類及び剥片（Ⅷ-a層）⑥

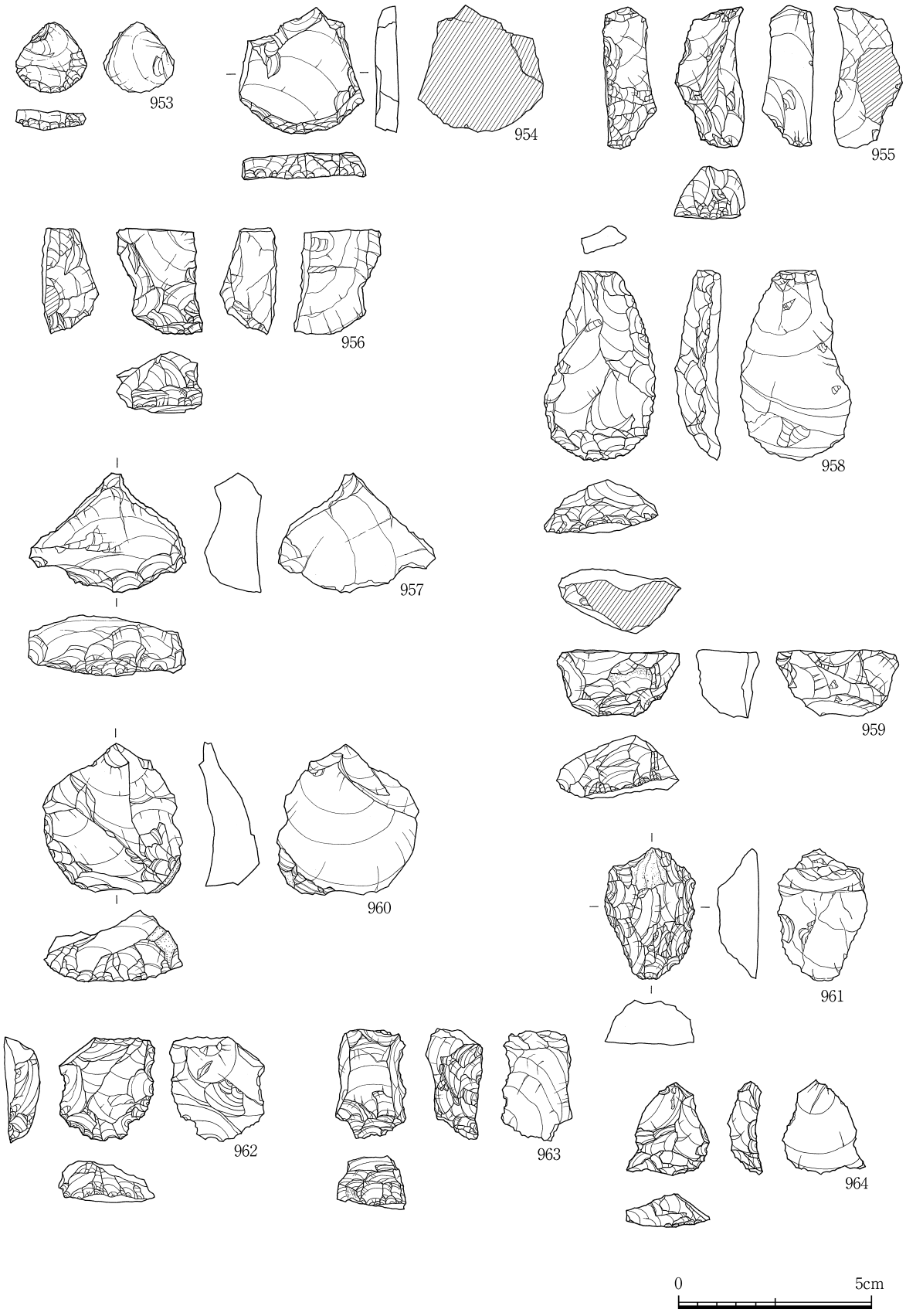


Fig. 166　スクレイパー類－掻器－（Ⅶ層）①

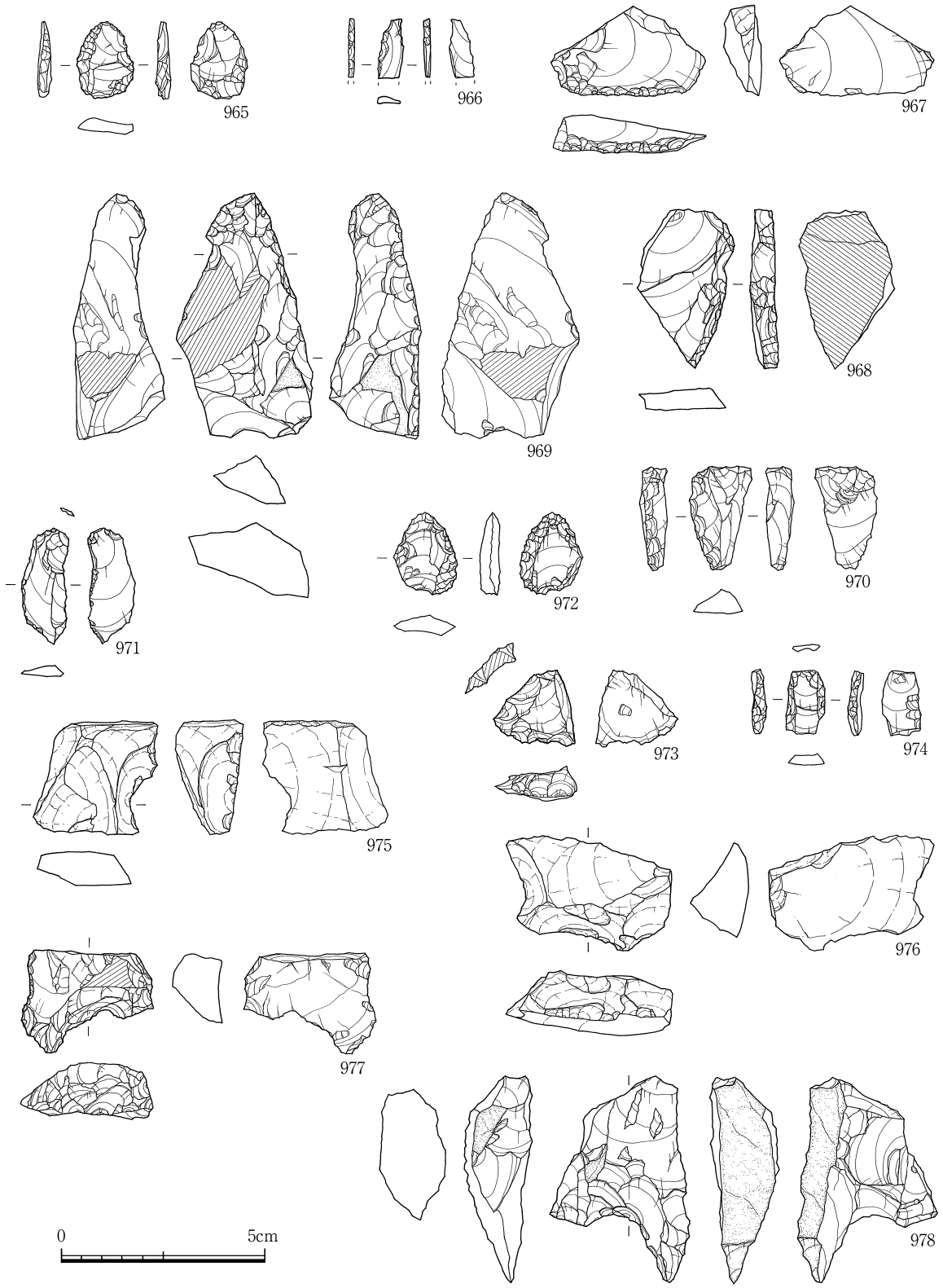


Fig. 167　スクレイパー類（Ⅶ層）②

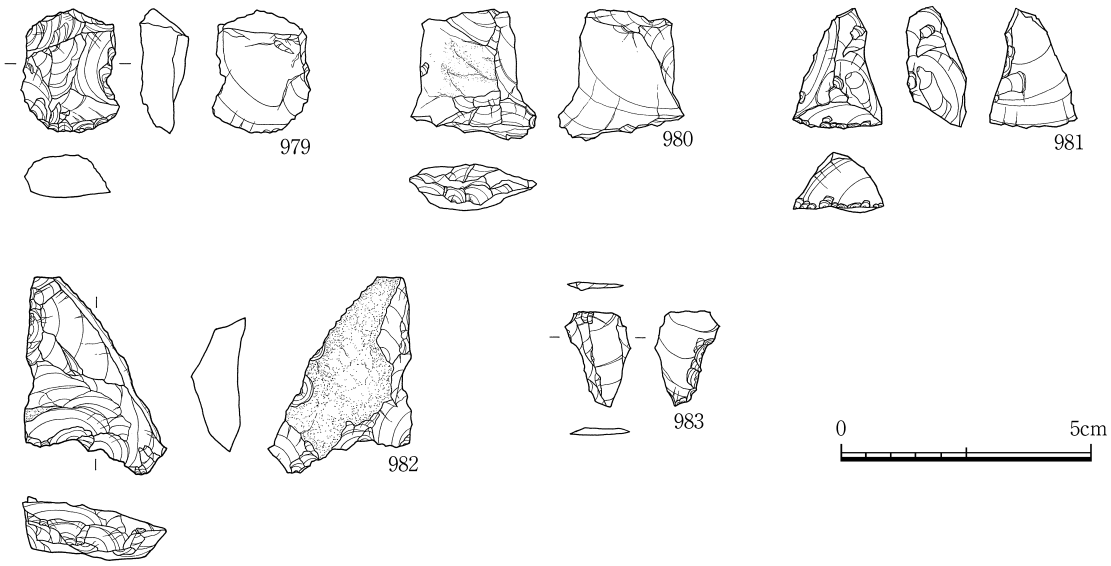
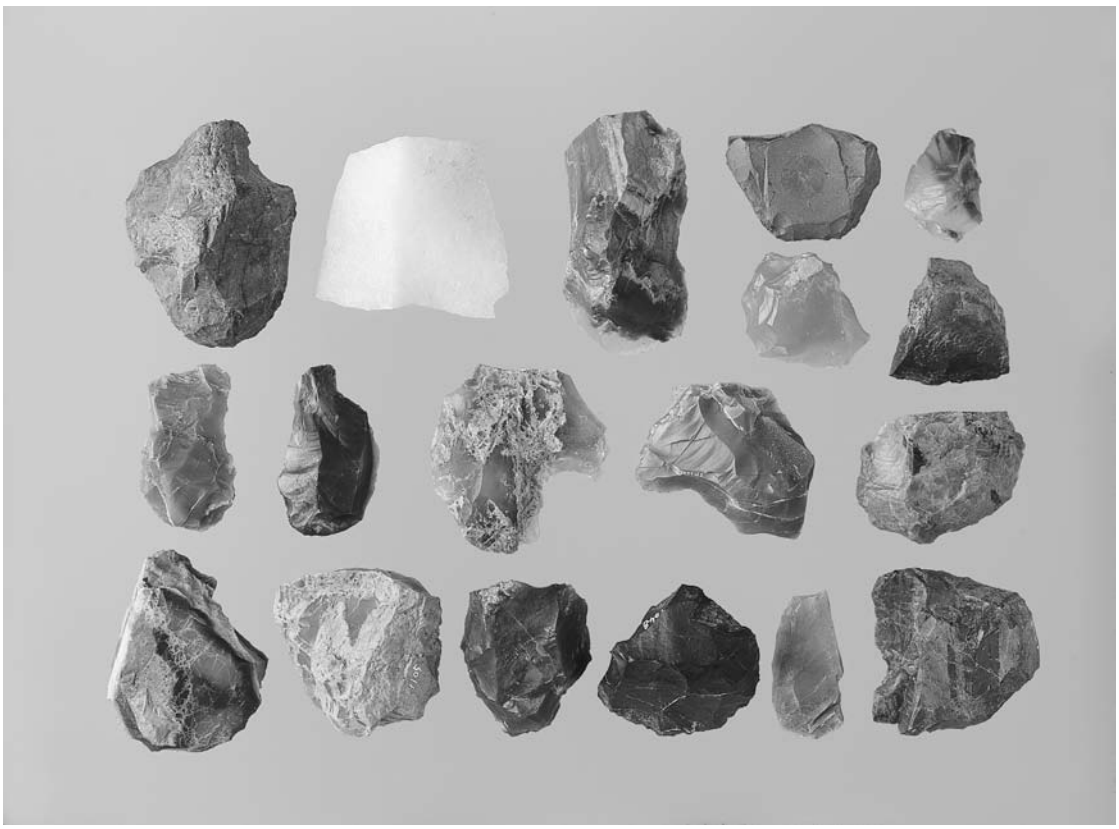


Fig. 168　スクレイパー類（Ⅶ層）③



スクレイパー類（Ⅹ～Ⅷ- a 層）

Fig. 169　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）④

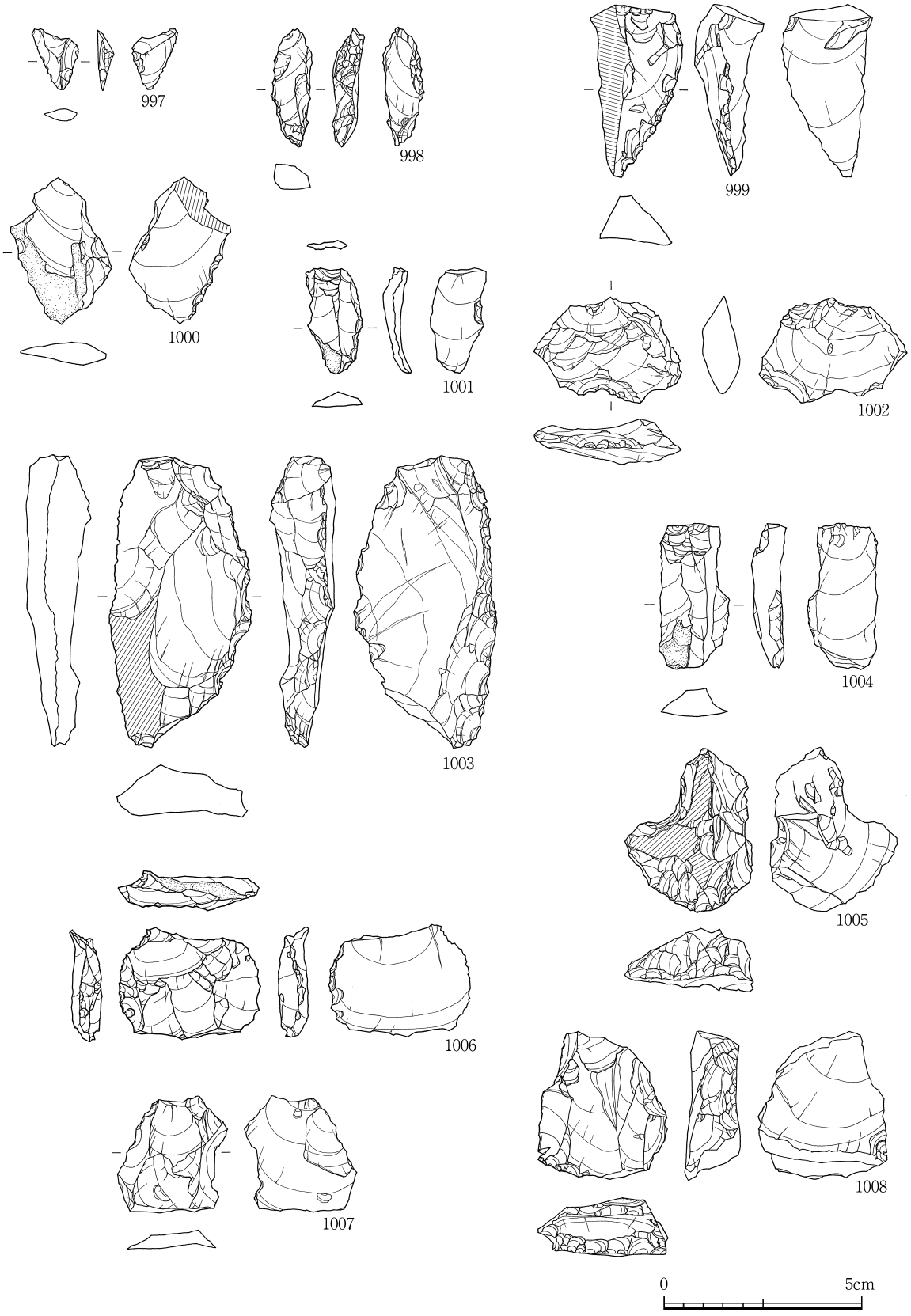


Fig. 170　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）⑤

Fig. 171　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）⑥

Fig. 172　スクレイパー類及び剥片（Ⅶ層）⑦

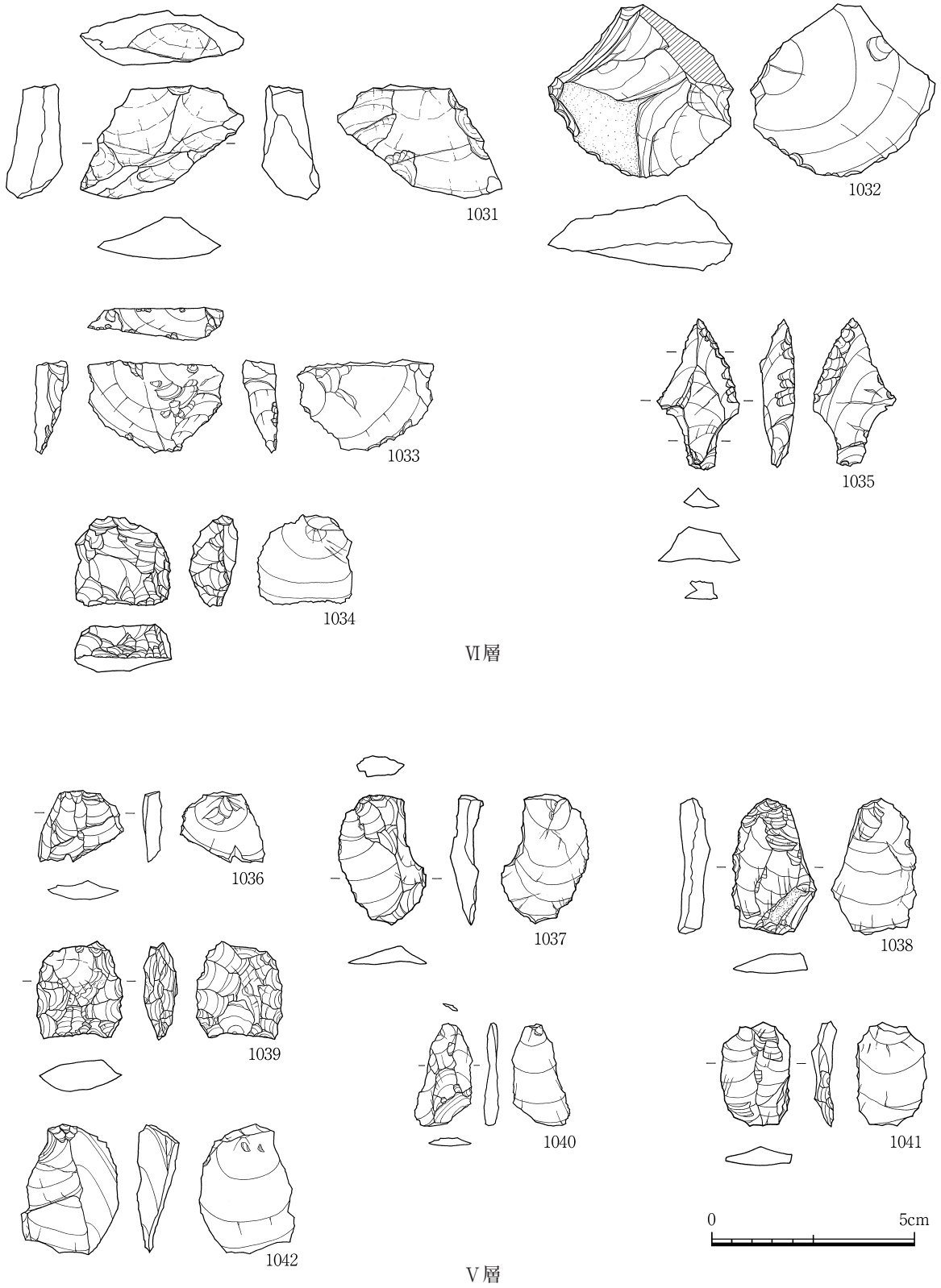


Fig. 173　スクレイパー類及び剥片（Ⅵ・Ⅴ層）

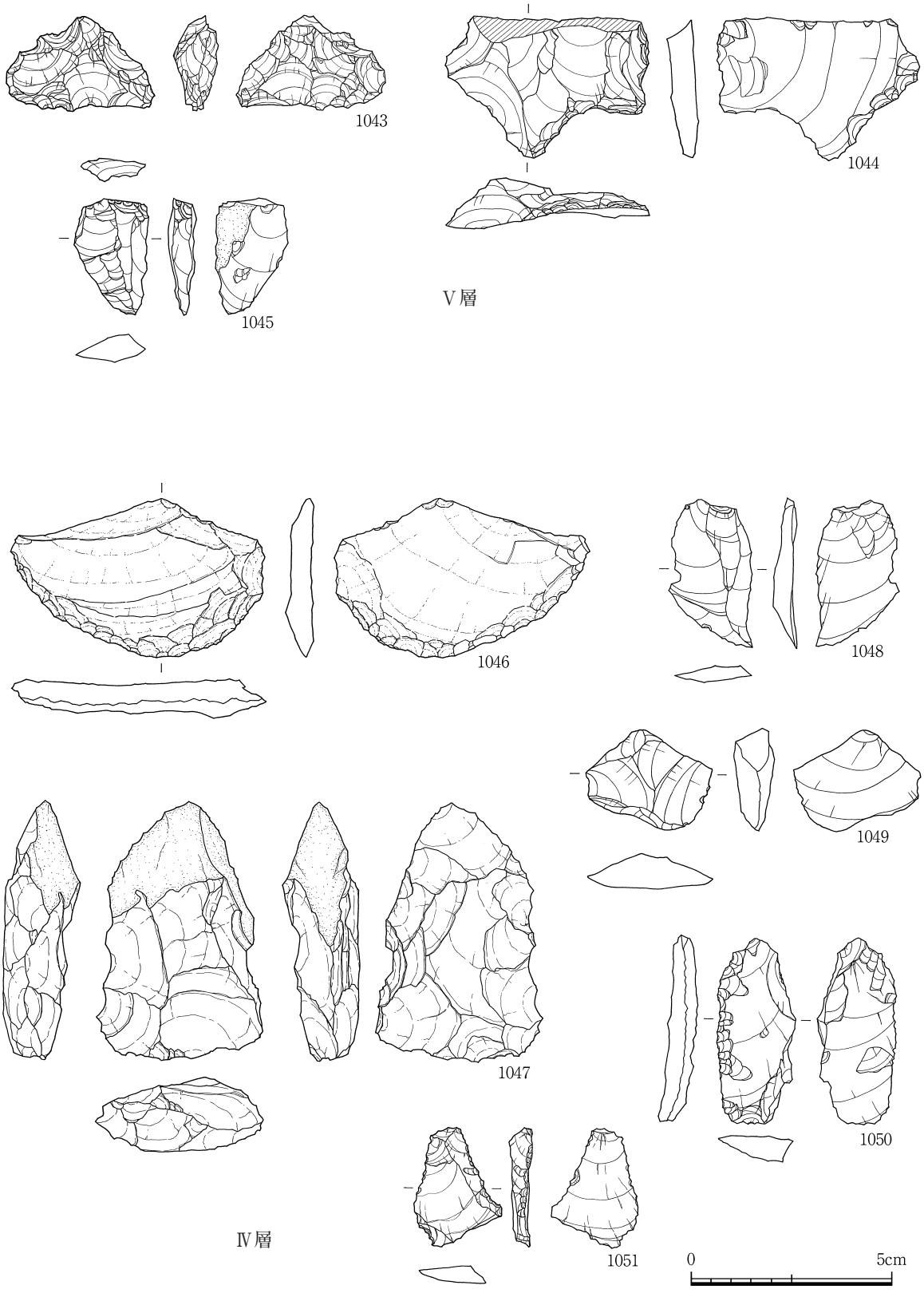


Fig. 174　スクレイパー類及び剥片（Ⅴ・Ⅳ層）

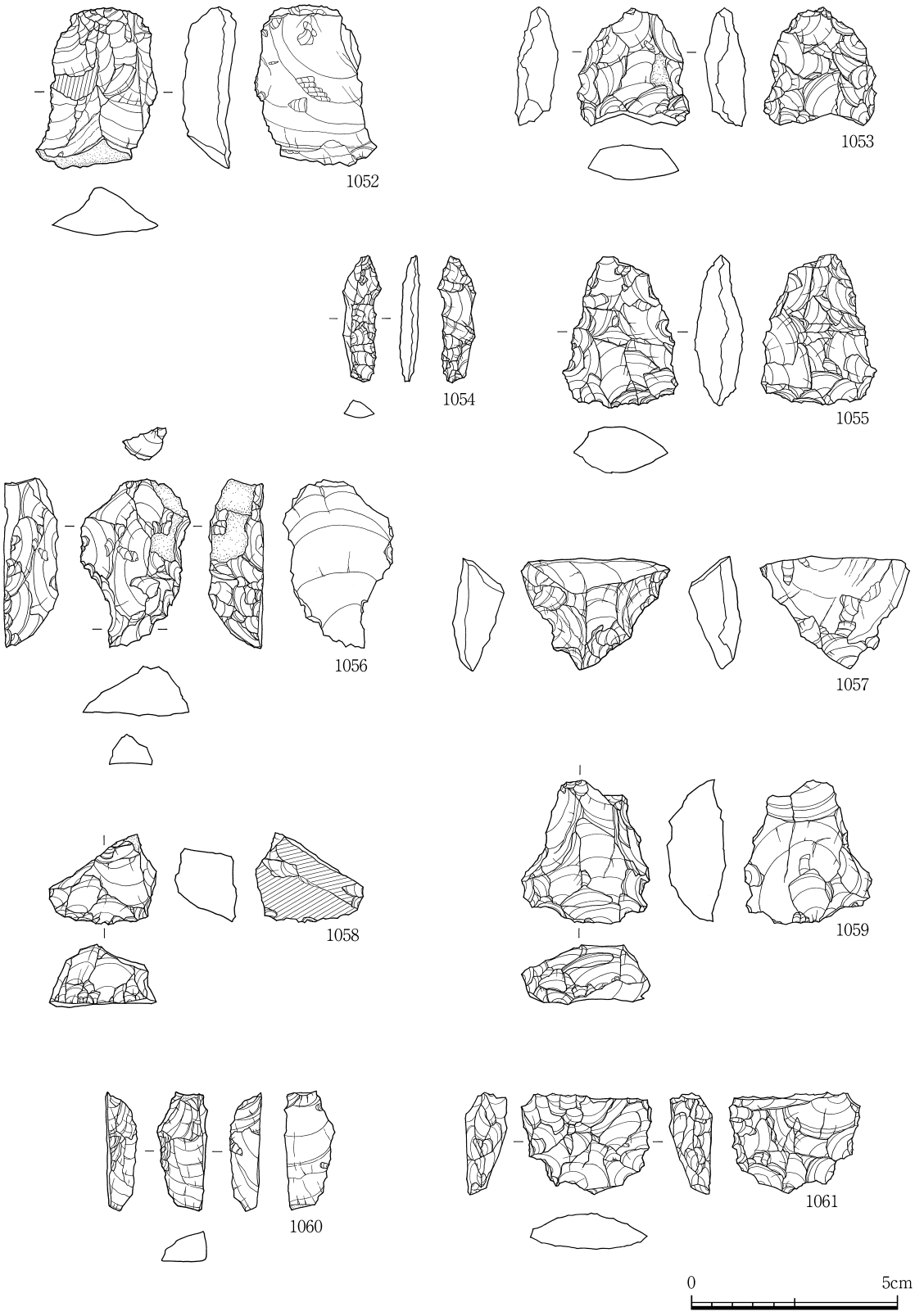


Fig. 175　スクレイパー類及び剥片（その他の層-G7・H7周辺）①

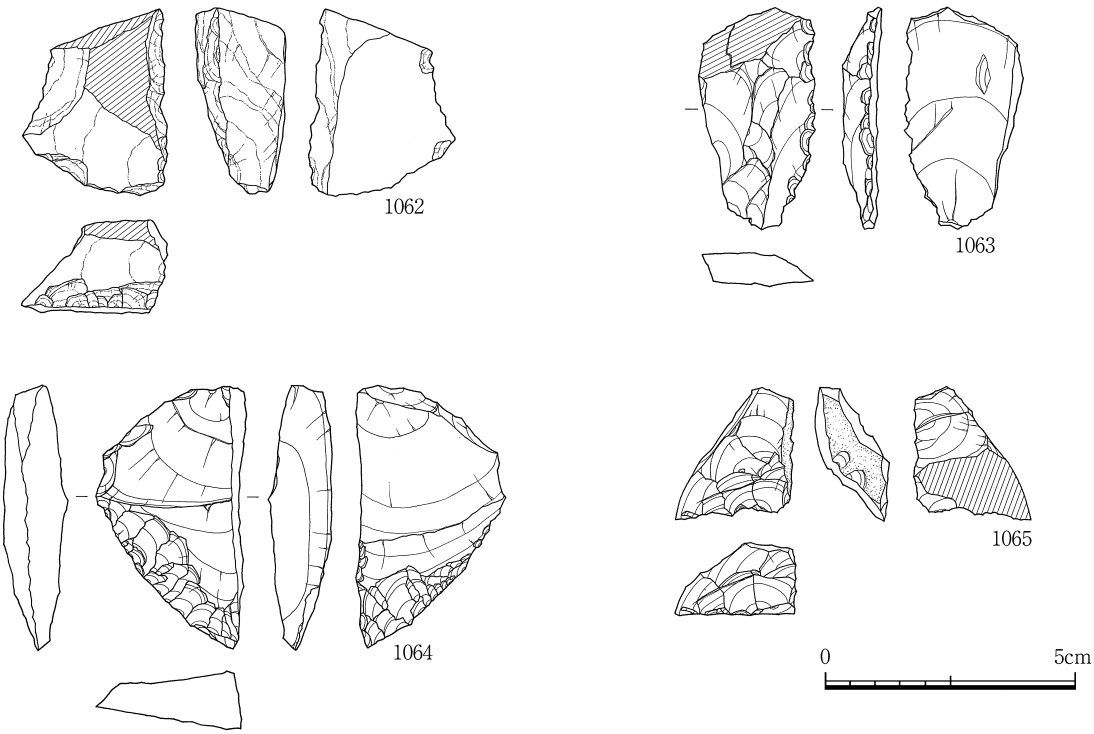
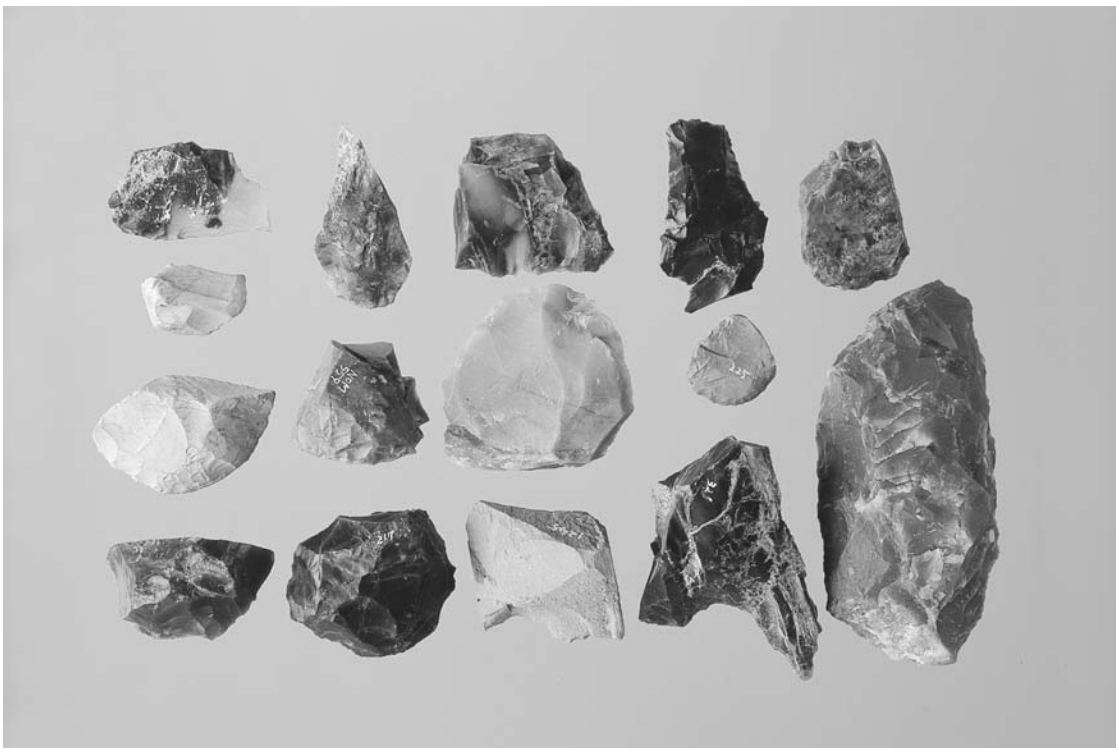


Fig. 176　スクレイパー類及び剥片（その他の層-G7・H7周辺）②



スクレイパー類（Ⅷ-ａ・Ⅶ層）

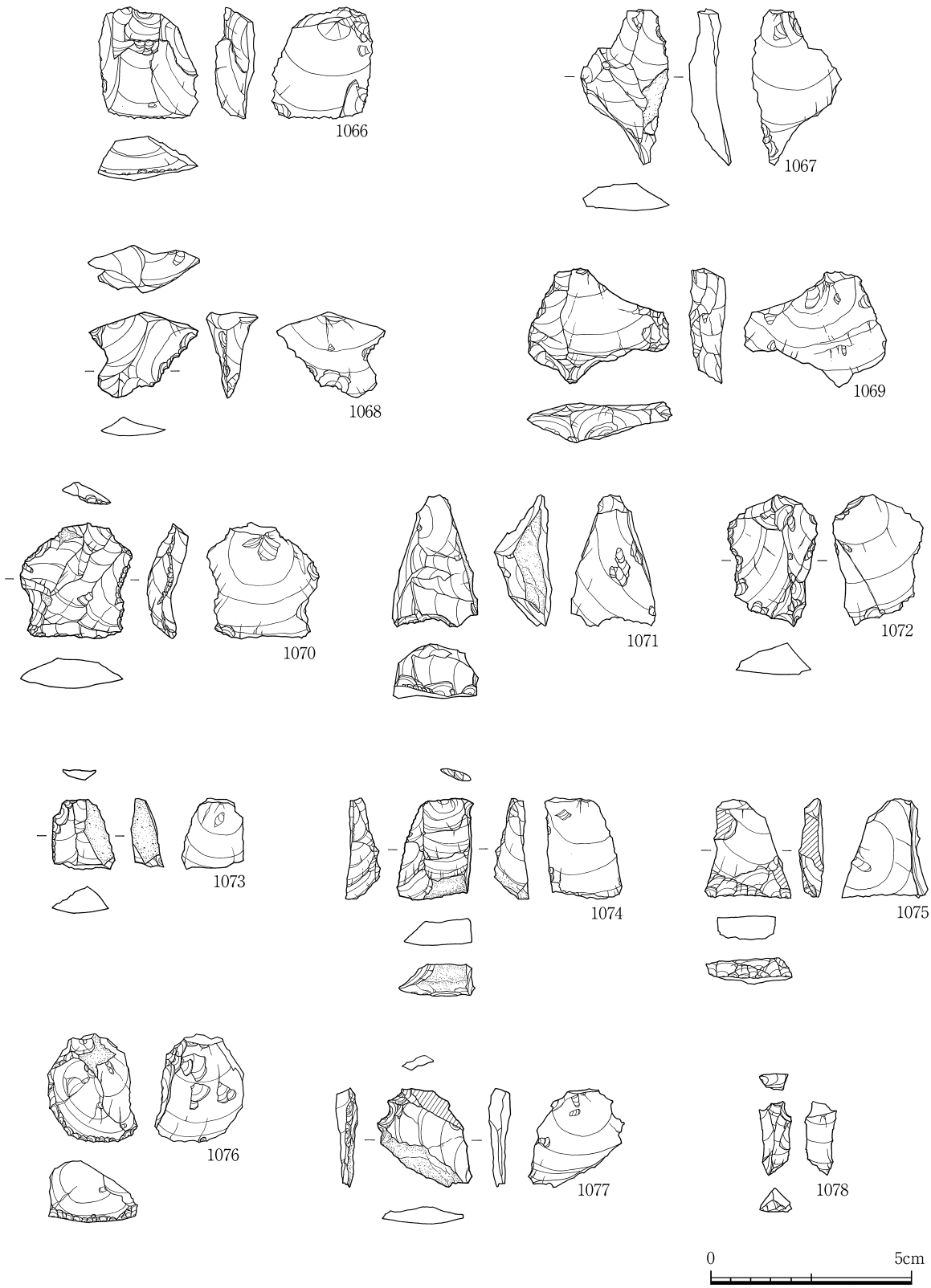


Fig. 177　スクレイパー類及び剥片（その他の層-2号岩陰南）①

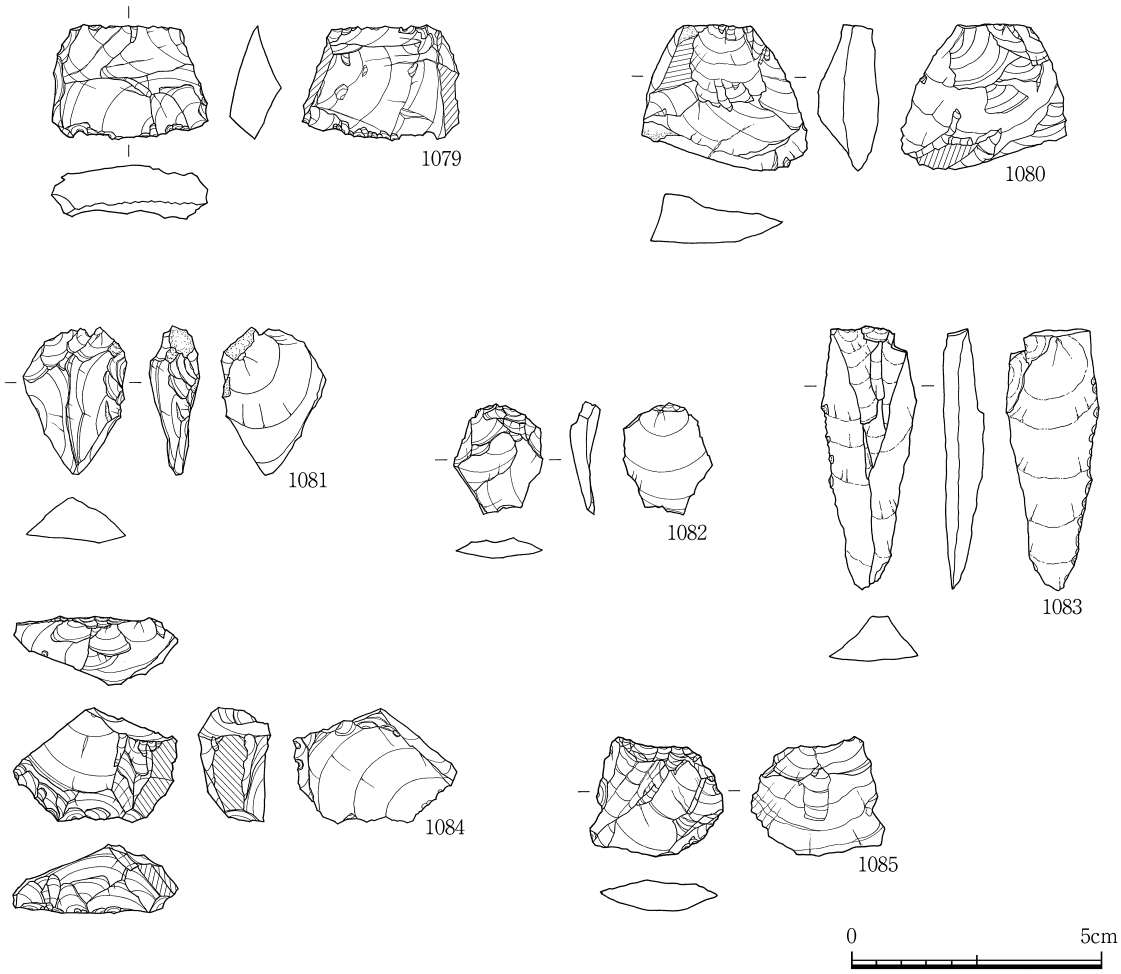


Fig. 178　スクレイパー類及び剥片（その他の層-2号岩陰南）②

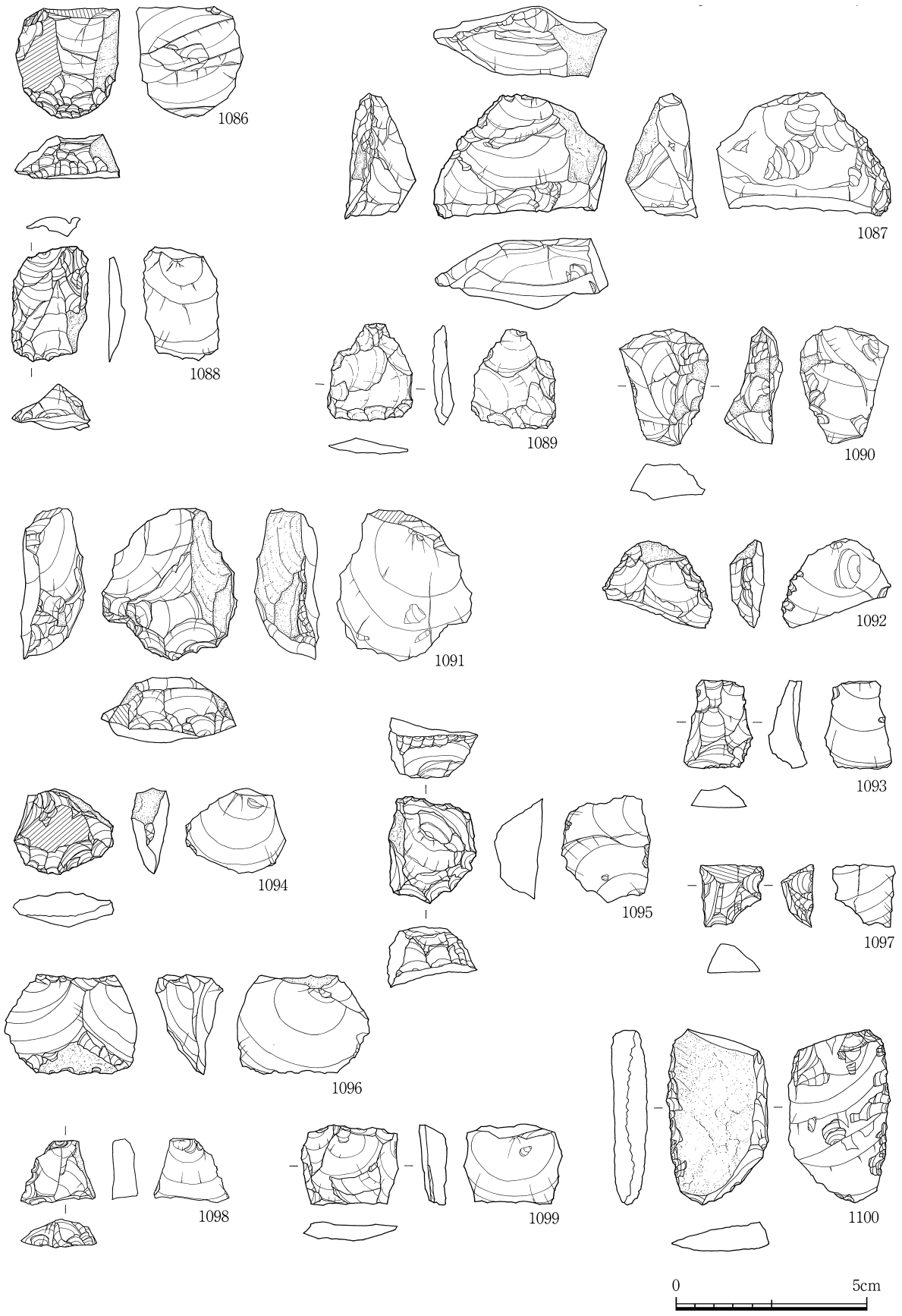


Fig. 179　スクレイパー類及び剥片（層不明・表採資料）

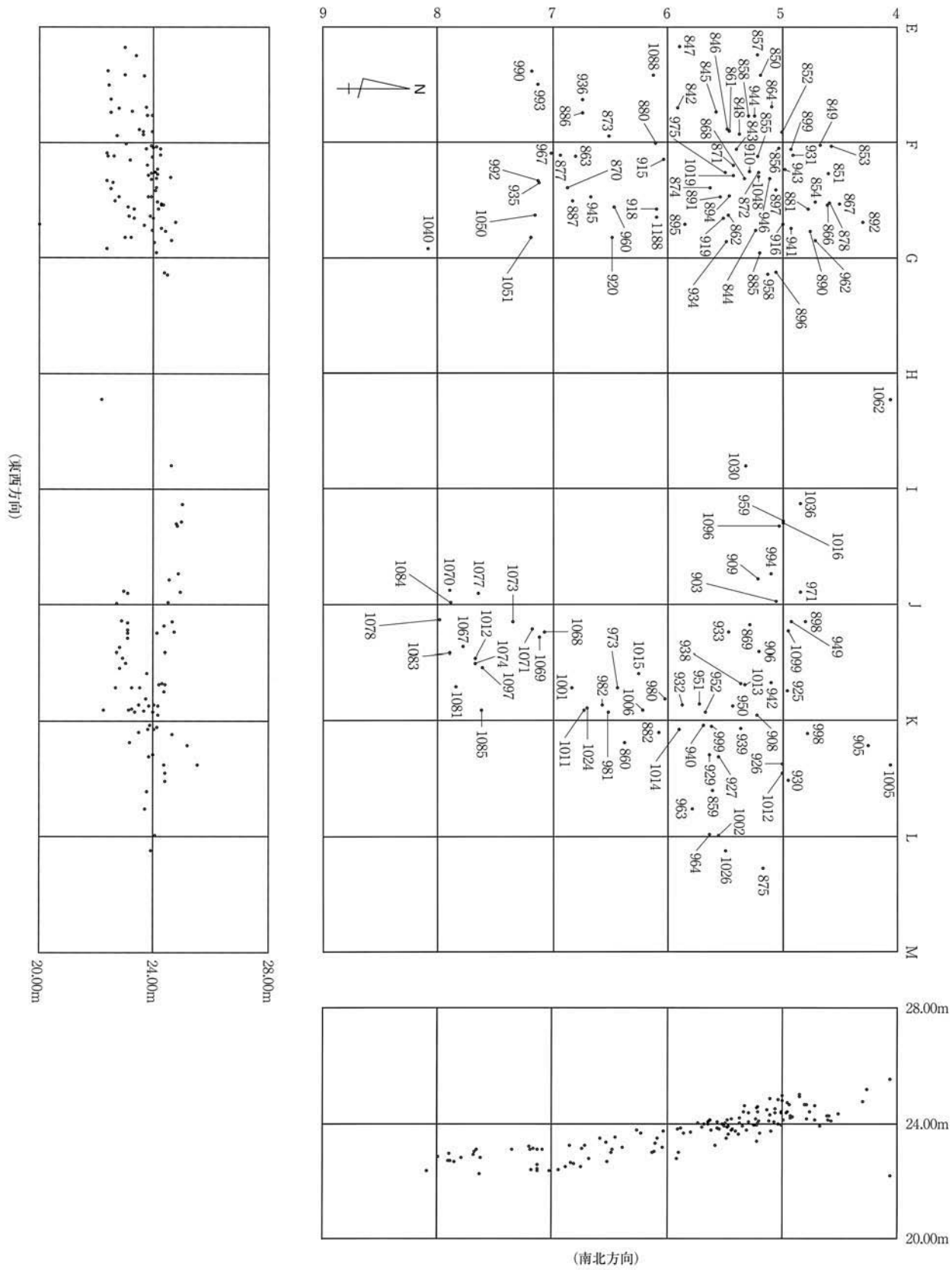


Fig. 180　スクレイパー類出土地点

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表①

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
156	842	XII	E−6	チャート	剥片	0.70	0.91	2.03	0.31	背腹同一方向。打面に対して剥離方向は斜め。
156	843	X	EF−5	チャート	2次加工のある剥片	6.20	2.57	2.97	0.78	削器として使用。両側縁を刃部とする。
156	844	X	FG−5	チャート	2次加工のある剥片	0.70	1.83	1.38	0.61	刃部は内湾する。
156	845	X	EF−5	チャート	2次加工のある剥片	1.80	2.80	1.57	0.57	縦長剥片の両側縁を刃部として利用する。
156	846	X	EF−5	チャート	削器	18.00	3.78	4.02	1.79	分厚い剥片の末端辺を刃部とする。刃部は直線的。
156	847	X	TR−3−西バンク	泥岩	使用痕のある剥片	4.70	3.02	1.73	0.82	直線的な一辺に顕著な刃毀れ。偽石器の可能性もある。
156	848	X	EF−5	チャート	2次加工のある剥片	0.90	2.30	0.98	0.56	剥片の左辺（基辺付近）に2次加工が認められる。
156	849	X	F−4	チャート	削器	0.70	1.91	1.07	0.44	小型石刃の側縁を使用。
156	850	IX	TR−2−NSB	チャート	掻器	21.90	4.17	3.15	1.62	弧状の刃部。分厚い剥片。
156	851	IX	F−4	石英	使用痕のある剥片	13.80	3.28	3.64	1.28	両側縁使用。
156	852	IX	TR−A	頁岩	掻器	7.20	2.25	2.90	1.08	刃先角73°、剥片の左辺を刃部とする。刃部は短く直線的。
156	853	IX	F−4	チャート	使用痕のある剥片	15.40	4.47	2.38	1.54	末端辺が弧状で剥離あり。
157	854	IX	F−4	チャート	掻器	5.10	2.15	2.60	0.90	右辺に急角度剥離による弧状の刃部を形成。末端辺には使用痕とみられる微細剥離あり。
157	855	IX	EF−5	チャート	掻器	6.20	2.25	2.35	1.27	石核転用スクレイパー。刃部は弧状である。
157	856	IX	TR−A	チャート	使用痕のある剥片	2.00	2.17	1.55	0.87	左辺と右辺向こうに使用痕。
157	857	IX	E−5	チャート	使用痕のある剥片	4.40	2.47	2.05	1.18	末端辺に微細剥離が連続する。作業面再生剥片である。
157	858	IX	EF−5･TR−A	チャート	掻器	7.70	2.35	3.35	1.40	押圧剥離により刃部形成。
157	859	IX	KL−5	チャート	石錐（ドリル）	4.50	2.70	2.10	0.80	剥片の左辺から末端辺にかけて刃潰し状の急角度剥離を連続させ、弧状の刃部と錐状の突起部を造り出す。
157	860	IX	岩陰2　SW−1	チャート	削器?	7.80	4.05	2.27	0.68	縦長剥片の両側縁を刃部として使用する。
158	861	VIII−b	EF−5･TR−A	チャート	掻器	5.80	3.11	1.84	1.19	細石刃核転用スクレイパー。
158	862	VIII−b	TR−3−S−東	チャート	削器	13.80	3.52	3.43	1.32	剥片の左辺に反方向の剥離を連続させ刃部を形成する。
158	863	VIII−b	F−6･7	チャート	掻器	4.80	2.40	2.25	0.90	末端辺に正方向の剥離。
158	864	VIII−b	EF−5	チャート	削器	4.30	2.86	2.23	2.80	右辺と末端辺に2次加工。
158	865	VIII−b	E−6	チャート	抉入掻器	4.43	2.32	1.61	1.33	刃部はわずかに抉れる。
158	866	VIII−b	TR−3−NSB	チャート	掻器	7.20	3.55	3.39	0.79	右辺に急角度剥離による弧状の刃部を形成。（抉入石器）
158	867	VIII−b	TR−3−NSB	チャート	抉入石器	8.30	2.79	3.36	1.06	剥片の末端辺に凹状の刃部を形成する。
158	868	VIII−b	TR−3−NSB	チャート	掻器	37.10	4.60	3.75	2.40	弧状の刃部。石核転用スクレイパー。
158	869	VIII−b	J−5	チャート	掻器	13.47	3.74	4.11	1.40	弧状の刃部で刃先角60°。右辺が刃部で、末端辺と左辺は剥離によって面をつくり出す。
158	870	VIII−b	EF−6･7	チャート	抉入掻器	6.70	2.14	2.77	1.06	厚みのある横長剥片の右辺を刃部にする。
158	871	VIII−b	EF−5　TR−A	チャート	掻器	14.10	2.44	2.81	1.78	分厚い剥片の基辺を刃部とする。刃部は弧状。
158	872	VIII−b	TR−A南バンク	チャート	掻器	3.70	3.19	1.93	2.74	2次加工のみとめられる部位は左辺手前と末端辺。末端辺は円刃で左辺手前の刃部は内湾する。（抉入石器）
159	873	VIII−b	TR−3−NSB	珪質頁岩	掻器	37.70	3.11	5.74	2.10	底面に礫面を残す。
159	874	VIII−b	GH−5	チャート	剥片	2.30	2.45	1.60	0.50	縦長剥片。
159	875	VIII−b	TR−11	チャート	掻器	16.90	3.45	3.63	1.68	刃部は弧状で左辺～末端辺に形成。刃先角72°。
159	876	VIII−b	TR−3−NSB	チャート	2次加工のある剥片	0.10	1.18	0.63	0.28	極小型の縦長剥片の一側縁に加工。
159	877	VIII−b	EF−6･7	チャート	2次加工のある剥片	7.80	3.07	2.71	1.10	削器として使用。
159	878	VIII−b	TR−3−NSB	チャート	掻器	5.00	3.49	1.91	1.25	通常の剥離で刃部の形状を整える。側縁は面をなす。
159	879	VIII−b	岩陰2　SW−3	チャート	抉入掻器	9.30	2.76	2.91	1.80	一回の剥離で凹部形成。両側縁に面を持つ。
159	880	VIII−b	TR−3−NSB	チャート	削器	13.38	3.21	4.26	1.23	右辺に反方向の剥離。
159	881	VIII−b	TR−3−NSB	頁岩	削器	3.40	2.21	3.51	0.74	末端辺に直線的な刃部を形成する。
159	882	VIII−c	JK−6	チャート	削器	5.00	2.55	2.25	0.85	左辺に刃部形成。
159	883	VIII−c	TR−A	サヌカイト	削器	9.90	4.00	1.91	1.17	蛍光X線分析。
159	884	VIII−b	TR−3−S	チャート	剥片	0.32	1.77	0.64	0.28	
159	885	VIII−b	FG−5	チャート	剥片	3.30	2.70	1.85	0.85	
159	886	VIII−b	E−6−S	チャート	2次加工のある剥片	3.34	3.69	2.14	0.33	縦長剥片の両側縁に剥離あり。

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表②

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
159	887	Ⅷ−b	F−6･7	チャート	2次加工のある剥片	8.20	4.07	2.56	1.10	右辺手前に2次加工あり。
160	888	Ⅷ−a	GH−5	チャート	掻器	9.40	2.48	3.22	0.97	円形掻器。厚手の剥片の打面は残し、周状に急角度剥離により加工する。
160	889	Ⅷ	TR−3−2	チャート	掻器	11.40	2.70	2.97	1.72	円形掻器。厚手の剥片の打面は残し、周状に急角度剥離により加工する。
160	890	Ⅷ−a	GH−5	チャート	掻器	6.00	2.90	2.05	0.70	拇指形掻器。側面は剥離による面をなす。
160	891	Ⅷ	TR−3−2	チャート	掻器	11.10	3.00	2.53	1.56	拇指形掻器。節理面を底面とする。
160	892	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	掻器	14.90	3.37	3.15	1.41	拇指形掻器。刃部は末端辺である。
160	893	Ⅷ−a	TR−3−N	チャート	掻器	11.10	3.93	3.05	1.19	左辺に円弧状の刃部。基部がすぼまる形状で、刃部は比較的薄い。
160	894	Ⅷ−a	TR−3−S	チャート	掻器	3.40	2.93	1.32	0.89	刃部の形成は押圧剥離による。
160	895	Ⅷ−a	GH−5	チャート	掻器	4.30	3.01	2.00	0.79	右辺では正方向、基辺では反方向の剥離により刃部を形成する。刃部は弧状。
160	896	Ⅷ−a	GH−5	チャート	掻器	9.50	2.58	2.48	1.57	分厚い剥片を素材とする。
160	897	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	掻器	11.20	2.40	3.05	1.70	剥片の末端辺と左辺に急角度剥離による刃部を形成する。末端辺はわずかにカーブを描くが、左辺は直線的。
160	898	Ⅷ−a	J−4	チャート	掻器	8.00	2.50	3.30	9.80	基辺と右辺に刃部を形成。
161	899	Ⅷ−a	TR−A	チャート	掻器	10.00	3.82	1.70	1.82	先刃形掻器。厚みのある横長剥片の右辺に刃部を形成。両側縁（基辺と末端辺）は面をなす。基辺は礫面利用。
161	900	Ⅷ	F−7	チャート	掻器	9.90	3.47	2.21	1.33	縦長の厚みのある剥片の末端辺に刃部を形成。基部が細くなる形状である。
161	901	Ⅷ−a	F−7	頁岩	掻器	1.54	1.93	1.40	0.90	剥片の末端辺を刃部とする。刃部形成のための加工は先端に限定される。小型の拇指形掻器。
161	902	Ⅷ−a	K−4	頁岩	掻器	5.21	2.27	3.44	0.84	円形掻器。刃部の成形は押圧剥離による。
161	903	Ⅷ−a	J−5南バンク	チャート	掻器	3.19	2.61	3.20	1.25	円形掻器。刃つぶしあるいは急角度剥離を周縁に連続させ円形の刃部をつくる。基部は面を残す。
161	904	Ⅷ−a	K−4−E	チャート	掻器	3.20	2.69	1.68	0.64	小型の縦長剥片の末端辺に刃部形成。拇指形掻器。
161	905	Ⅷ−a	JK−4	チャート	掻器	14.80	4.64	2.70	1.29	先刃形掻器。縦長剥片の末端辺のみを加工、刃部とする。
161	906	Ⅷ−a	TR−11	チャート	掻器	7.10	1.80	3.05	1.35	円形掻器。基辺に面を残し、それ以外の周縁を正方向の急角度剥離で刃部に成形する。
161	907	Ⅷ−a	TR−11北バンク	チャート	掻器	7.10	1.85	2.65	2.10	細石刃核転用の石核掻器。
161	908	Ⅷ−a	JK−5−NSWB	チャート	掻器	7.50	1.95	2.84	1.71	細石刃核転用の石核掻器。
161	909	Ⅷ−a	I−5	チャート	掻器	14.82	3.40	2.49	1.48	正反両方向の剥離。末端辺に急角度剥離（正）で弧状の刃部を、左辺手前に反方向の剥離で直線的な刃部を形成。
162	910	Ⅷ−a	EF−5	チャート	削器	11.88	3.55	3.60	1.10	左辺と右辺手前に僅かに弧状となる刃部を形成する。
162	911	Ⅷ−a	G−H−5	チャート	削器	5.60	2.44	3.22	0.93	末端辺に直線的な刃部を形成。
162	912	Ⅷ−a	TR−3−南端東バンク	チャート	削器	6.10	3.22	1.97	0.82	右辺･末端辺･左辺の3辺に正方向の剥離により刃部形成。
162	913	Ⅷ−a	G−4	チャート	掻器	4.30	2.33	2.28	0.77	基辺と末端辺に刃つぶし状の細かい剥離を連続させる。
162	914	Ⅷ−a	TR−3−NSB 一括	チャート	削器	1.50	2.44	1.26	0.52	赤色チャート。小型の削器。
162	915	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	掻器･削器	3.10	2.27	2.35	0.58	基辺から右辺が弧状、左辺が直線的な刃部。
162	916	Ⅷ−a	FG−5	チャート	抉入掻器	8.90	2.40	3.05	1.70	刃部は僅かに抉入。
162	917	Ⅷ−a	TR−3−NSB南端	チャート	削器	18.60	3.50	4.60	1.40	正方向の通常の剥離により刃部を形成する。基辺に礫面を残す。
162	918	Ⅷ−a	J−5	チャート	削器	12.60	4.92	2.65	1.36	石刃状の縦長剥片の両側縁に刃部形成。
162	919	Ⅷ−a	TR−3−S東	チャート	削器	3.00	2.21	2.80	0.78	右辺に押圧剥離による刃部を形成する。刃部は緩やかな弧状。
163	920	Ⅷ−a	F−6	チャート	掻器	29.80	3.27	4.84	2.33	石核転用のスクレイパー。
163	921	Ⅷ−a	F−6	チャート	掻器	3.60	1.73	2.39	1.25	細石刃核作業面再生剥片転用スクレイパー。右辺向こうの11mmの範囲が刃部として利用される。
163	922	Ⅷ−a	F−6･7トレンチ　水	チャート	削器	1.90	2.10	2.09	0.48	縦長剥片の下半を折取り削器とする。

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表③

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
163	923	Ⅷ	F−7	チャート	削器	8.70	3.26	3.84	0.85	刃部はわずかにカーブする。三角形の1辺を刃部とし、他の2辺は面をなす。
163	924	Ⅷ−a	F−6･7	チャート	削器	40.20	7.30	3.58	1.86	赤色チャート。石核の作業面再生剥片転用スクレイパー。
163	925	Ⅷ−a	TR−11北バンク	チャート	2次加工のある剥片	4.53	3.50	2.40	0.75	右辺向こう、左辺真中～向こうに2次加工あり。
163	926	Ⅷ−a	TR−11北バンク	チャート	削器	2.20	2.76	1.44	0.52	左辺に刃部形成、右辺は折れ面。
163	927	Ⅷ−a	TR−12	チャート	掻器（細石刃核）	6.70	2.44	2.00	1.52	細石刃核の可能性あり。
163	928	Ⅷ−a	K−5	チャート	抉入掻器	5.30	2.65	2.65	0.60	
163	929	Ⅷ−a	K−5	チャート	抉入掻器	9.10	3.20	2.60	0.85	左辺は正方向、右辺は反方向の剥離により刃部を形成。
163	930	Ⅷ−a	TR−11北バンク	チャート	掻器	3.60	1.73	2.39	1.25	小型の掻器
164	931	Ⅷ−a	TR−A	チャート	抉入掻器	1.60	2.21	1.35	0.67	小型の抉入掻器
164	932	Ⅷ−a	JK−6	チャート	使用痕のある剥片	5.00	2.23	1.78	1.36	刃部に相当する辺は直線的で、側縁が面をなす。掻器として使用。
164	933	Ⅷ−a	JK−5	チャート	抉入掻器	11.50	2.57	2.79	1.62	刃部は急角度剥離により凹状。側縁と基部が面をなす。
164	934	Ⅷ−a	TR−3−S東	チャート	使用痕のある剥片	2.21	3.16	0.63	3.44	削器として使用。
164	935	Ⅷ−a	F−6･7	チャート	使用痕のある剥片	9.70	3.84	2.56	1.11	左辺に使用痕。
164	936	Ⅷ−a	E−6−S	チャート	使用痕のある剥片	3.60	2.50	1.90	0.65	末端辺に使用痕。
164	937	Ⅷ−a	TR−6 東バンク 水	チャート	2次加工のある剥片	4.30	2.81	2.18	0.89	右辺手前に2次加工。
164	938	Ⅷ−a	JK−5	チャート	2次加工のある剥片	3.50	2.16	2.67	0.69	右辺（正方向）と左辺（反方向）に2次加工。
164	939	Ⅷ−a	JK−5	チャート	使用痕のある剥片	5.80	3.00	2.80	0.80	左辺に使用痕。
164	940	Ⅷ−a	JK−5	チャート	2次加工のある剥片	2.70	1.99	2.57	0.67	末端辺に細かい剥離が連続、刃部とする。
164	941	Ⅷ−a	GH−5	チャート	2次加工のある剥片	15.40	3.73	5.25	1.27	礫面が残る。
164	942	Ⅷ−a	TR−11	チャート	2次加工のある剥片	7.73	4.61	2.40	1.39	左辺･右辺に使用痕、末端辺は2次加工により抉入部を形成。
164	943	Ⅷ−a	TR−A	チャート	使用痕のある剥片	3.94	3.51	2.76	0.56	左辺と末端辺の一部に使用痕。
165	944	Ⅷ−a	EF−5	チャート	剥片	0.60	1.40	1.60	0.34	背腹同一方向。
165	945	Ⅷ−a	F−6･7	チャート	剥片	0.90	1.86	1.69	0.34	背腹同一方向。
165	946	Ⅷ−a	TR−A	サヌカイト	使用痕のある剥片	1.40	2.89	1.35	0.45	横長剥片の末端辺に使用痕。
165	947	Ⅷ−a	J−5	黒曜石	使用痕のある剥片	6.10	3.06	2.53	1.38	末端辺に剥離が認められる。姫島産黒曜石。
165	948	Ⅷ−a	F−6	チャート	使用痕のある剥片	1.00	2.44	1.53	0.37	両側縁に微細剥離痕。背腹同一方向の剥片。細石刃核の作業面再生剥片。
165	949	Ⅷ−a	ユニット1	チャート	剥片	6.50	2.53	2.66	1.06	間接打撃石核の作業面再生剥片。
165	950	Ⅷ−a	JK−5	チャート	2次加工のある剥片	7.50	3.79	2.42	1.31	縦長剥片の両側縁に部分的に2次加工を施す。
165	951	Ⅷ−a	JK−5	チャート	抉入石器	10.70	2.84	3.92	1.29	凹状の刃部。
165	952	Ⅷ−a	JK−5	チャート	剥片	4.40	3.62	2.12	0.81	小型の石刃状の剥片。
166	953	Ⅶ−0	G−4	チャート	掻器	1.10	1.79	1.74	0.49	右辺から末端辺にかけて押圧剥離により弧状の刃部を形成。小型の掻器。ネイルドスクレイパー。
166	954	Ⅶサイカ	TR−3−NSB	チャート	掻器	8.29	3.23	3.21	0.48	板状の剥片。刃部は弧状。底面は節理面である。
166	955	Ⅶ	P−5	チャート	掻器	7.70	3.61	1.81	1.35	分厚い横長剥片素材。基辺と末端辺を側縁とする縦長の形状で、右辺･末端辺･左辺に急角度剥離が認められる。刃部は左辺。
166	956	Ⅶ	G−4	チャート	掻器	9.50	2.70	2.21	1.44	刃部弧状。刃先角88°。基部と両側縁の3辺が面をなす。
166	957	Ⅶ	TR−3−南端 東バンク	チャート	掻器	16.80	3.05	4.06	1.47	刃部弧状。刃先角78°。扇形で基部を構成する左辺と末端辺は面をなす。
166	958	Ⅶ	FG−5	チャート	掻器	14.70	4.85	2.93	1.21	刃部弧状。刃先角63°。縦長の先刃形掻器。
166	959	Ⅶ	I−6	チャート	掻器	9.00	3.10	1.70	1.65	分厚く、弧状の刃部を持つ。
166	960	Ⅶ	F−6	チャート	掻器	18.20	3.81	3.60	1.84	左辺から末端辺にかけて急角度剥離により弧状の刃部とする。
166	961	Ⅶ	F−6	チャート	掻器	8.80	3.38	2.31	1.12	右辺･末端辺･左辺にかけて周状に急角度剥離を施す。
166	962	Ⅶサイカ	GH−5	チャート	掻器	8.19	2.64	2.60	1.14	末端辺を中心に左辺から右辺にかけて弧状の刃部を形成する。

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表④

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
166	963	Ⅶ−SR −B	KL−5	チャート	掻器	8.00	2.80	1.82	1.46	右辺と基辺に急角度剥離により刃部形成。
166	964	Ⅶ	KL−5	チャート	掻器	2.80	2.36	2.14	0.96	右辺から末端辺に剥離。
167	965	Ⅶ	F−4	チャート	尖頭器あるいは石鏃の未製品。両面加工石器。	1.00	1.90	1.40	0.40	押圧剥離により尖頭部を形成。両側縁の基部付近のみ両面加工となる。
167	966	Ⅶ−2	F−6	チャート	小型スクレイパー	0.20	1.45	0.60	0.15	折損。両側縁に刃つぶし状の加工。
167	967	Ⅶ	F−6･7	チャート	削器	5.90	2.16	3.76	0.91	左辺に直線的な刃部。
167	968	Ⅶ	F−5	チャート	掻器	6.40	3.85	2.35	0.60	板状の素材。刃部は僅かに弧状で、剥離は刃つぶし状。
167	969	Ⅶ	TR−3−NSB	チャート	掻器	29.40	5.97	3.33	2.24	末端辺の先端が刃部である。
167	970	Ⅶ	E−6−S	チャート	削器	2.00	2.51	1.48	0.70	刃部は右辺。
167	971	Ⅶ−2	I−4	チャート	2次加工のある剥片	1.00	2.79	1.50	0.26	小型縦長剥片の右辺向こう（正方向）と左辺手前（反方向）に細かい剥離を連続させる。
167	972	Ⅶ	I−5	チャート	石鏃未製品	1.30	1.98	1.55	0.50	押圧剥離による両面加工で周縁を刃縁として加工、先端は形成されるが基部･脚部は未完成。
167	973	Ⅶ−YR	JK−6	チャート	抉入掻器	2.30	1.87	2.00	0.84	3辺で構成され、刃部は僅かに抉れ、他の2辺は面をなす。
167	974	Ⅶ	J−6	チャート	削器	0.60	1.59	0.95	0.34	小型の縦長剥片素材。両側縁に2次加工があり、右辺腹面には押圧（何かに押しつけたのか）による剥離も認められる。
167	975	Ⅶ	TR−3−NSB	泥岩	抉入石器	11.00	2.19	3.02	1.70	凹状の刃部は一回の剥離によって形成。
167	976	Ⅶ	TR−3	頁岩	抉入石器	14.40	4.05	2.84	1.51	刃部は凹状。剥離方向は正方向のみ。
167	977	Ⅶ	F−6	チャート	抉入石器	8.80	2.49	3.23	1.37	凹状の刃部を末端辺に形成。
167	978	Ⅶ	J−4	チャート	抉入石器	20.40	5.00	3.40	1.65	刃部には凹状の部分と直線の部分がある。側縁は面をなす。
168	979	Ⅶ	ブロック4	チャート	掻器	4.50	2.43	1.97	0.81	主になる刃部は弧状。側縁に凹状の部分を持ち、抉入掻器としての機能も併せ持つ。
168	980	Ⅶサイカ	JK−6	チャート	抉入掻器	5.10	2.62	2.50	0.95	急角度剥離により鋸歯状の刃部を末端辺に形成する。
168	981	Ⅶ−YR	JK−6	チャート	使用痕のある剥片	3.90	2.39	1.79	1.21	刃部に相当する辺は直線的で、側縁が面をなす。掻器として使用。
168	982	Ⅶ−YR	JK−6	チャート	抉入石器	9.40	3.88	2.85	1.24	刃部は凹状で刃先角42°。側縁は面をなし、底面に礫面が残る。
168	983	Ⅶ	KL−5	チャート	2次加工のある剥片	0.34	1.86	1.07	0.14	小型の縦長剥片の下半。
169	984	Ⅶ	F−4東西バンク	チャート	掻器	15.30	3.20	3.92	1.56	末端辺はわずかに弧状となり、急角度剥離により刃部形成。
169	985	Ⅶ−1	TR−3−S	頁岩	抉入掻器	14.30	4.20	3.05	1.40	右辺を刃部とし、側縁は通常の剥離により傾斜する面をなす。
169	986	Ⅶ	TR−A−Sバンク	チャート	抉入掻器	1.30	2.03	1.19	0.40	小型の掻器
169	987	Ⅶ上面	G−4	チャート	使用痕のある剥片	25.40	3.24	3.99	1.46	末端辺に使用痕と考えられる微細剥離が残る。
169	988	Ⅶ	TR−3−NSB	チャート	掻器	10.00	3.29	2.29	1.35	分厚い横長剥片。左辺を刃部として使用する。先刃形掻器。
169	989	Ⅶ	G−5	チャート	使用痕のある剥片	10.80	4.30	2.60	0.90	左辺と右辺手前に微細な剥離痕。
169	990	Ⅶ	E−6−S	チャート	石錐	8.90	3.83	3.96	0.97	剥片の周縁に細かい2次加工を連続させ、2箇所に突起する錐状の先端部を作り出す。剥離方向は右辺向こうのみが反方向でそれ以外は全て正方向。
169	991	Ⅶ	E−6	チャート	抉入掻器	0.80	2.20	1.25	0.15	小型の石刃状の剥片の両側縁に刃つぶし状の細かい剥離を連続させる。
169	992	Ⅶ	F−6･7	チャート	抉入掻器	3.90	2.26	2.69	0.91	右辺が僅かに抉れた刃部。末端辺に微細剥離（使用痕）。
169	993	Ⅶ	E−6−S	チャート	使用痕のある剥片	7.60	4.03	2.30	0.81	剥離痕が腹面側に延びる。
169	994	Ⅶ−1	TR−6西バンク	チャート	削器	6.60	3.90	2.48	1.01	縦長剥片素材。刃部は直線的。
169	995	Ⅶ−1	TR−6 東バンク 一括	チャート	使用痕のある剥片	5.70	2.26	2.78	0.99	右辺に剥離痕が連続。
169	996	Ⅶ	I−4	チャート	ナイフ形石器	0.30	1.88	0.82	0.40	小型のナイフ形石器。
170	997	Ⅶ−1	I−4	チャート	2次加工のある剥片	0.30	1.56	1.20	0.47	
170	998	Ⅶ	JK−4	チャート	ナイフ形石器?	2.00	2.95	1.06	0.64	正方向と反方向の2側縁加工。形態から見れば異質。

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表⑤

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
170	999	Ⅶサイカ	JK−5	チャート	削器	9.80	4.31	2.36	1.78	右辺に2次加工。
170	1000	Ⅶサイカ	TR−11 北バンクSW	チャート	2次加工のある剥片	4.30	3.67	2.52	0.55	右辺に反方向の剥離。
170	1001	Ⅶ−YR	JK−6	チャート	抉入掻器	1.60	2.65	1.40	0.75	細石刃核作業面再生剥片転用スクレイパー。左辺向こう（正方向）と右辺真中（反方向）が抉れる。
170	1002	Ⅶ	KL−5	チャート	抉入掻器	7.90	2.53	3.68	1.15	末端辺に凹状の刃部を形成する。
170	1003	Ⅶ		チャート	削器	35.10	7.28	3.60	1.65	末端辺に平坦剥離で刃部を形成。尖頭器の未製品の可能性もある。
170	1004	Ⅶ	ブロック4	チャート	使用痕のある剥片	4.60	3.60	1.75	0.90	
170	1005	Ⅶ	TR−12	チャート	抉入掻器	13.70	4.06	3.18	1.28	左辺～末端辺は円刃の掻器、右辺は刃部が凹状の抉入掻器。
170	1006	Ⅶサイカ	JK−6	チャート	掻器	8.20	2.78	3.58	0.79	左辺と右辺に細かい剥離を連続させ刃部を形成、右辺が正方向、左辺が反方向で剥離方向は異なる。
170	1007	Ⅶサイカ	JK－5 北SWバンク	チャート	2次加工のある剥片	4.41	2.90	2.80	0.45	剥片の右辺手前に2次加工あり。
170	1008	Ⅶ	ブロック4　一括	チャート	掻器	18.72	3.68	3.23	1.37	掻器としたが使用に伴う剥離の可能性あり。
171	1009	Ⅶ	ブロック4	チャート	2次加工のある剥片	6.20	3.89	2.92	0.92	剥片は背腹同一方向。
171	1010	Ⅶ−SR	JK−5北SWB	チャート	使用痕のある剥片	10.30	3.33	3.63	1.16	右辺と末端辺に使用痕。
171	1011	Ⅶ−YR	岩陰2−SW−2	チャート	掻器	14.90	3.76	2.52	1.70	分厚い横長剥片の右辺を刃部とする。両側縁は面をなす。
171	1012	Ⅶサイカ	TR−11北バンク	チャート	抉入掻器	3.60	3.40	1.68	0.83	右辺向こうが剥離により抉れ、刃部を形成する。
171	1013	Ⅶ	ブロック3	チャート	掻器	4.70	2.33	1.99	0.88	剥片の左辺に細かい剥離を連続させ、弧状の刃部とする。刃部の厚さは薄い。
171	1014	Ⅶサイカ	JK−6	チャート	掻器	8.40	2.32	3.44	1.17	左辺と末端辺に細かい急角度剥離を連続させ刃部とする。
171	1015	Ⅶ−SR	NS−2	チャート	2次加工のある剥片	8.40	4.28	2.00	1.25	
171	1016	Ⅶ−2	I−4	チャート	2次加工のある剥片	3.49	3.77	1.47	0.78	両側縁に使用痕。末端が錐状に加工されており、石錐の可能性もある。
171	1017	Ⅶサイカ	KL−5	チャート	2次加工のある剥片	7.12	3.45	2.02	1.11	
171	1018	Ⅶ	ユニット3	チャート	2次加工のある剥片	4.10	3.80	2.70	0.65	右辺手前と左辺向こうに2次加工。
171	1019	Ⅶ	TR−3−②	チャート	使用痕のある剥片	2.80	2.50	2.50	0.75	
172	1020	Ⅶ	G−5	チャート	掻器	20.50	3.74	3.71	2.07	円形掻器。刃部は左辺で、2次加工が明瞭な部分は全体の10分の1程度。
172	1021	Ⅶ	F−6	チャート	抉入掻器	5.20	2.84	2.79	1.00	末端辺に刃部形成。2次加工のある剥片とした方がよいかもしれない。
172	1022	Ⅶ	F−7	チャート	剥片	2.90	3.58	1.53	0.66	2次加工が認められない。
172	1023	Ⅶ	I−5	チャート	剥片	2.90	2.89	1.20	0.88	石核の調整剥片。
172	1024	Ⅶ−YR	岩陰2　SW−2	チャート	剥片	4.30	3.46	2.02	0.61	
172	1025	Ⅶ	ブロック4	チャート	2次加工のある剥片	20.70	3.58	4.06	1.37	左辺・末端辺の一部に2次加工を施す。
172	1026	Ⅶ−SR−4	KL−5	チャート	使用痕のある剥片	8.70	4.22	2.50	1.24	両側縁に微細剥離。
172	1027	Ⅶサイカ	JK−5南SWB	チャート	剥片	5.10	4.64	1.78	0.91	縦長剥片を連続剥離。
172	1028	Ⅶ-SR-2･3	K−6	チャート	使用痕のある剥片	9.40	4.60	2.18	0.83	石刃状の縦長剥片。
172	1029	Ⅶ−YR	JK−5	チャート	使用痕のある剥片	5.30	2.63	1.80	1.02	
172	1030		ユニット1	チャート	剥片	2.60	2.45	2.15	0.70	
173	1031	Ⅵ	F−6	頁岩	2次加工のある剥片	7.50	2.77	4.04	1.41	右辺末端辺に2次加工。
173	1032	Ⅵ	E−6−S	チャート	2次加工のある剥片	22.80	4.26	4.51	1.39	
173	1033	Ⅵ	F−7	チャート	使用痕のある剥片	5.10	2.28	3.36	0.87	
173	1034	Ⅵ	F−6	チャート	掻器	6.60	2.40	2.20	1.00	刃部は左辺。拇指形掻器。
173	1035	Ⅵ	TR−12−NSB	チャート	尖頭器	4.70	3.66	1.95	0.87	押圧剥離により刃部を形成、尖頭部と基部を有する尖頭状の石器。
173	1036		I−4	チャート	使用痕のある剥片	1.40	1.78	2.11	0.50	細石刃核作業面再生剥片。
173	1037	Ⅴ	TR−3	チャート	使用痕のある剥片	2.80	3.17	2.11	0.80	背腹同一方向の剥離を示す縦長剥片。
173	1038	Ⅴ	F−4･5　E−4･5 東バンク中	チャート	使用痕のある剥片	4.10	3.33	2.08	0.75	背腹同一方向の剥離を示す縦長剥片。
173	1039	Ⅴ	TR−7	チャート	削器	4.60	2.35	2.15	0.85	平坦剥離および押圧剥離によって弧状の刃部を形成。

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表⑥

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
173	1040	V	F−7	チャート	剥片	0.79	2.51	1.35	0.22	
173	1041	V	TR−3	チャート	2次加工のある剥片	2.10	2.57	1.78	0.61	背腹同一方向の剥離を示す縦長剥片。右辺向こうに2次加工。
173	1042	V	A地点	チャート	使用痕のある剥片	5.00	3.20	2.45	1.05	
174	1043	V	K−5	チャート	削器	6.70	2.36	3.71	1.12	平坦剥離および押圧剥離によって刃部を形成。
174	1044	V	J−5	チャート	抉入掻器	12.88	3.50	5.00	1.45	右辺は凹状に抉れ、末端辺は直線的。
174	1045	V〜Ⅵ	G−6	チャート	剥片	3.30	2.80	1.81	0.72	作業面再生剥片。
174	1046	包含層（不明）	G−4	サヌカイト	削器	19.30	3.91	6.39	0.86	末端辺を中心に緩やかな弧状の刃部。押圧剥離による。両面加工。
174	1047	Ⅳ	F−7	頁岩	ヘラ形石器	43.70	6.43	4.17	1.96	平坦剥離により3辺が形成される。両面加工で基部に礫面を残す。
174	1048	Ⅳ	1号岩陰	黒曜石	使用痕のある剥片	2.50	3.65	2.06	0.56	背腹同一方向の縦長剥片。末端辺と右辺手前に使用痕あり。
174	1049	Ⅳ	1号岩陰	黒曜石	剥片	5.19	2.50	3.19	1.06	
174	1050	Ⅳ	F−7	チャート	削器	6.30	4.62	1.95	0.92	押圧剥離により右辺に刃部を形成。
174	1051	Ⅳ	F−7	チャート	使用痕のある剥片	2.10	2.96	2.18	0.59	左辺と右辺に微細剥離。左辺は抉れる。
175	1052	G−①･②	G−7･8	チャート	使用痕のある剥片	11.10	3.88	2.95	1.13	分厚い縦長剥片の左右両辺に使用痕。
175	1053	G−①②	G−7･8	チャート	両面加工石器	7.30	2.85	2.70	1.00	平坦剥離により刃部を整える。両面加工。
175	1054	G−③	G−7−S	チャート	2次加工のある剥片	1.10	3.05	0.93	0.40	
175	1055	G−②	G−7−S	チャート	両面加工石器	9.40	3.65	2.77	1.15	平坦剥離により3辺が形成される。両面加工。
175	1056	G−③	G−7−S　一括	チャート	抉入掻器	13.60	4.08	2.69	1.32	正方向の急角度剥離。右辺向こうが凹状の刃部で、左辺向こうが弧状の刃部。
175	1057	G−③	G−7−S	チャート	不明（2次加工のある剥片）	8.10	2.72	3.59	1.25	
175	1058	G−⑤	F−7	チャート	掻器	7.00	2.17	2.59	1.51	石核転用スクレイパー。刃部はわずかに弧状。
175	1059	G−⑤	G−7−S	チャート	掻器	14.40	3.47	3.09	1.49	
175	1060	KS	G−7−S　一括	チャート	2次加工のある剥片	2.40	2.86	1.26	0.74	右辺の3分の1程度に2次加工あり。
175	1061	KS	G−7−S	チャート	両面加工石器	7.70	2.43	3.16	1.04	剥片の周上から平坦剥離で加工。両面加工。
176	1062	ES−Ⅰ	ES	石英	掻器（使用痕のある剥片）	17.50	3.67	2.91	1.81	節理面を底面とし、両側縁に剥離面を配置弧状の刃部を持つ。しかし刃部を構成する剥離ははっきりとせず偽石器の可能性もある。
176	1063	ES−Ⅰ	ES	チャート	削器	7.70	4.36	2.33	0.74	右辺に2次加工を連続させ刃部とする。
176	1064	X上	ES	チャート	削器	16.70	5.20	3.00	1.15	わずかにカーブする刃部。押圧剥離による両面加工石器。
176	1065	検出時	H−7	チャート	抉入掻器	5.89	2.64	2.38	1.48	刃部は鋸歯状（凹状）、底面と両側縁に面を持つ。
177	1066	検出時	J−6〜7	チャート	使用痕のある剥片	6.80	2.70	2.40	1.00	石核の作業面再生剥片。
177	1067	②	J−7	チャート	2次加工のある剥片	4.30	3.80	2.20	1.05	末端が錐状に短く尖る。
177	1068	②	J−7	チャート	2次加工のある剥片	3.20	2.11	2.71	1.19	左辺に刃潰し状の短い剥離。
177	1069	②	J−7	チャート	2次加工のある剥片	5.60	2.81	3.52	0.94	
177	1070	②	バンクNS−1	チャート	2次加工のある剥片	5.40	2.84	2.79	0.96	右辺に細かい剥離痕連続。
177	1071	②	J−7	チャート	抉入掻器	7.88	3.21	2.08	1.39	刃部は右辺に形成され、凹状。両側縁と底面が面をなす。
177	1072	②	J−7	チャート	抉入掻器	5.20	3.22	2.23	0.75	刃部は右辺に形成され、凹状。両側縁と底面が面をなす。
177	1073	②	J−7	チャート	掻器	1.90	1.65	1.52	0.81	
177	1074	②	J−7	チャート	使用痕のある剥片	3.60	2.48	1.89	0.85	小型の縦長剥片の上半部。右辺に細かい刃潰し状の加工を連続させる。
177	1075	③	I−7	チャート	抉入掻器	3.10	2.43	2.13	0.63	刃部はわずかに内湾する。両側縁と基部が面をなす。
177	1076	③	J−7	チャート	掻器	7.90	2.64	2.23	1.51	拇指状掻器。刃潰し状の加工を連続させ弧状の刃部を形成。
177	1077	③	I−7	チャート	2次加工のある剥片	2.20	2.44	2.34	0.54	右辺手前に2次加工。
177	1078	③	J−8	チャート	剥片	0.50	1.80	0.75	0.60	
178	1079	③	I−8	チャート	使用痕のある剥片	7.30	2.27	3.11	1.08	左辺に微細剥離痕。
178	1080	⑤	J−8	チャート	使用痕のある剥片	10.13	2.86	3.28	1.22	左辺に微細剥離痕。
178	1081	⑤	J−7	チャート	使用痕のある剥片	4.27	2.90	2.05	1.00	右辺から末端辺の一部にかけて剥離痕あり。

Tab. 18　スクレイパー類及び剥片　計測・観察表⑦

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
178	1082	③	I−7	チャート	剥片	1.30	2.22	1.76	0.52	細石刃核作業面再生剥片
178	1083	⑤⑥	J−7	頁岩	使用痕のある剥片	6.40	5.10	1.60	0.90	石刃の2側縁に剥離痕。
178	1084	⑥	J−8	チャート	抉入掻器	9.81	2.24	3.29	1.46	鋸歯状（凹状）を呈する刃部は基辺に急角度剥離で形成される。
178	1085	⑦以下	J−7	チャート	使用痕のある剥片	3.80	2.34	2.68	0.67	
179	1086	不明	FG−5	チャート	掻器	9.50	2.87	2.72	0.95	刃部は円形。剥片の末端辺に形成される。
179	1087	不明	F−5	チャート	2次加工のある剥片	21.50	3.25	4.46	1.86	
179	1088	①	ZT	チャート	2次加工のある剥片	4.60	3.00	2.03	1.23	削器として使用。縦長剥片の末端辺が刃部。
179	1089	不明	F−6	頁岩	両面加工石器（石鏃未製品）	1.90	2.58	2.20	0.65	剥片の周縁部に押圧剥離による2次加工を加え、刃縁として整形する。両面加工。
179	1090	不明	F−6−S	チャート	使用痕のある剥片	7.00	3.03	2.28	1.49	
179	1091	不明	F−6−S	チャート	掻器	21.00	3.90	3.50	1.65	円形掻器。末端辺を刃部とする。
179	1092	不明	E−6	チャート	2次加工のある剥片	4.30	2.29	2.83	0.91	左辺に2次加工あり。
179	1093	不明	F−7	チャート	2次加工のある剥片	2.80	2.28	1.75	0.80	縦長剥片の左辺向こうから末端辺にかけて2次加工。
179	1094	不明	E−6	チャート	削器	4.28	2.19	2.55	0.88	弧状の刃部を持つ。刃先角30°。
179	1095	不明	E−6	チャート	抉入掻器	12.10	2.55	3.46	1.76	石核掻器。
179	1096	不明	I−5	珪質頁岩	使用痕のある剥片	9.10	2.80	2.30	1.30	末端辺に使用痕。
179	1097	不明	TR−C	チャート	掻器	1.90	1.64	1.66	0.87	刃部は鋸歯状。
179	1098		サンプル4出土	チャート	掻器	2.12	1.69	1.96	0.74	直線的な刃部。
179	1099	Ⅶサイカ	TR−11北バンク	チャート	使用痕のある剥片	3.67	2.10	2.55	0.75	左辺手前と末端辺
179	1100	表採		チャート	削器	11.50	4.50	2.65	0.75	右辺に押圧剥離により刃部を造り出す。

（13）楔形石器及び関連剥片・両極打法の認められる石器（Fig.181・182）

対向方向の剥離の認められる剥片を楔関連剥片、対向方向の剥離の認められ上下に打点の残る断面凸状（あるいは上端に面を残す）の石器を楔形石器としてまとめて示す。楔形石器の範疇に入らない両極打法の認められる石器もある。なお遺物の再確認の上、細石刃関連剥片（1108）とした資料もあるが、この項での報告とする。また、1104は、当初細石刃核として報告していたが、楔形石器として訂正する。

個々の石器の器種や特徴については、Tab.19にまとめたが、同じ楔形石器で用途の違いが、明らかに予想されるほど形態・大きさの違いがある。これは、出土層位の違いにもよるところが大きく、下層出土の楔形石器に比較的大型で上端に面をなす形態のものが多いのに対し、上層出土（縄文時代以降）のものには、小型で断面凸レンズ状の石鏃の素材となり得る形状のものが多い。資料数が少なく、詳細な分析をすることはできないが、関連剥片も含めるとⅩ層からⅧ層にかけて出土した資料が15点、Ⅶ層出土のものが10点、Ⅵ層以上及び縄文土器の集中するG-7周辺出土のものが12点と、縄文時代に属する資料も一定量存在することが予想される。

なお、今回出土した楔形石器の点数は27点（Ⅹ～Ⅷ層7点・Ⅶ層9点・Ⅵ層以上～その他の層11点）である。

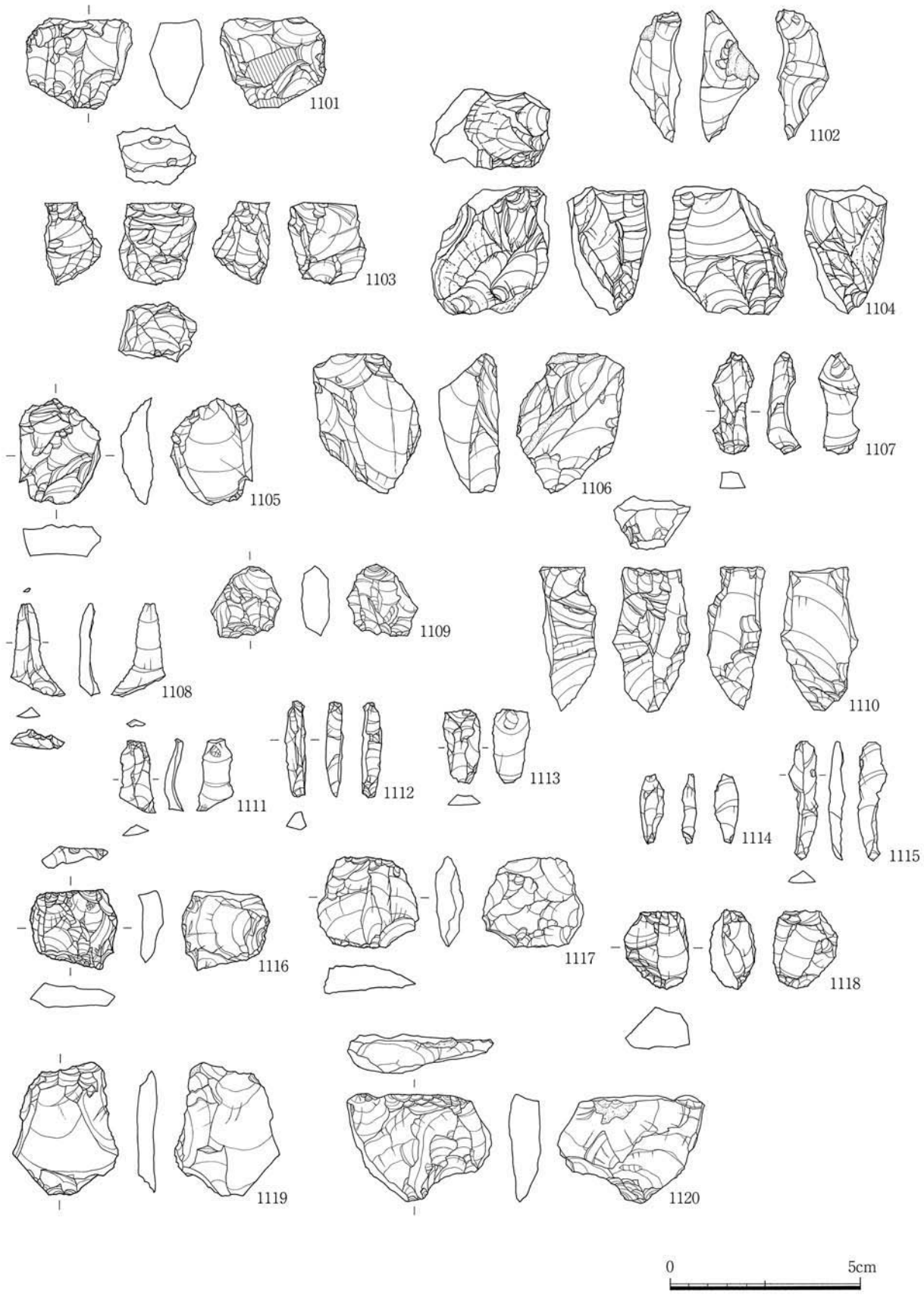


Fig. 181　楔形石器及び関連剥片・両極打法の認められる石器①

Fig. 182　楔形石器及び関連剥片・両極打法の認められる石器②

Tab. 19　楔形石器及び関連剥片・両極打法の認められる石器　計測・観察表

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
181	1101	X	E−6	チャート	楔形石器	10.20	2.38	2.78	1.37	階段状剥離顕著。
181	1102	X	EF−5	チャート	剥片	4.63	3.38	1.31	1.52	
181	1103	Ⅷ−b	E−6−S	チャート	楔形石器	6.71	2.15	2.06	1.53	
181	1104	Ⅷ−b	EF−5　TR−A 南バンク	チャート	楔形石器	22.10	3.38	3.14	2.23	両極打法。
181	1105	Ⅷ−b	JK−5	チャート	楔形石器	5.28	2.75	2.19	0.89	
181	1106	Ⅷ−a	JK−6	チャート	楔形石器	13.64	2.82	3.64	1.61	
181	1107	Ⅷ−b	FG−5	チャート	楔形石器関連剥片	1.60	2.67	1.08	0.44	
181	1108	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	剥片	0.61	2.45	0.67	0.28	細石刃関連剥片。楔形石器とは無関係。
181	1109	Ⅷ−a	TR−11	チャート	楔形石器	46.00	1.77	1.85	0.89	階段状剥離顕著。
181	1110	Ⅷ−a	G−4	チャート	剥片	9.17	3.75	2.00	1.50	両極打法による。階段状剥離顕著。
181	1111	Ⅷ−a	F−6･7	チャート	剥片	0.46	1.86	0.89	0.31	両設打面の細石刃核関連剥片。
181	1112	Ⅷ−a	TR−3−S東	チャート	楔形石器	0.60	2.49	0.57	0.47	
181	1113	Ⅷ−a	TR−B南バンク	チャート	剥片	0.54	1.91	0.96	0.32	両極打法。
181	1114	Ⅷ−a	F−6	チャート	剥片	0.33	1.80	0.66	0.42	両極打法。
181	1115	Ⅷ−a	岩陰2　SW−1	黒曜石	剥片	0.57	3.07	0.77	0.35	両極打法。姫島産黒曜石。
181	1116	Ⅶ−R	G−4	チャート	楔形石器	3.60	2.09	2.25	0.64	直交する2方向から両極打法による加撃。
181	1117	Ⅶ	G−5	チャート	楔形石器	4.20	2.34	2.70	0.77	
181	1118	Ⅶ	TR−B　南バンク	チャート	楔形石器	4.00	2.03	1.67	1.13	上端の階段状剥離顕著。
181	1119	Ⅶ	K−4	チャート	楔形石器	6.88	3.42	2.78	0.54	
181	1120	Ⅶ−SR−4	KL−5	チャート	楔形石器	9.45	2.81	3.78	1.02	
182	1121	Ⅶ−YR	JK−6	チャート	楔形石器	7.96	2.34	3.74	0.93	階段状剥離顕著。
182	1122	Ⅶサイカ	K−5	チャート	楔形石器	20.40	4.25	3.09	1.27	
182	1123	Ⅶ	I−4	チャート	楔形石器	7.50	3.08	2.05	1.54	
182	1124	Ⅶ	JK−6	チャート	楔形石器	1.46	1.71	1.00	0.76	小型。
182	1125	Ⅷサイカ	TR−3	チャート	剥片	0.83	2.23	0.59	1.10	下端の細かい階段状剥離顕著。
182	1126	Ⅵ	K−4	チャート	楔形石器	2.30	2.39	1.21	0.84	
182	1127	V	F−6	チャート	楔形石器	9.20	2.50	3.34	1.34	上端は面、下端は線打面。
182	1128	V	B地点	チャート	楔形石器	3.22	2.05	1.91	1.03	
182	1129	RK	TR−11	チャート	剥片	0.69	2.20	0.85	0.52	
182	1130	V	F−5	チャート	剥片	0.22	1.66	0.60	0.17	剥離方向対向。
182	1131	V	TR−3	チャート	楔形石器	1.10	1.86	1.15	0.62	小型。
182	1132	V	G−5	チャート	楔形石器	0.50	1.67	0.54	0.50	小型。
182	1133	V	K−4	チャート	楔形石器	0.92	1.90	1.12	0.43	小型。
182	1134	G−①②	G−7･8	チャート	楔形石器	16.90	4.25	3.02	1.42	大型。
182	1135	G−①	G−7−S　一括	チャート	楔形石器	3.56	2.60	1.52	0.75	
182	1136	G−②	G−7−S	チャート	剥片	1.45	2.73	1.54	0.36	楔形石器関連。階段状剥離顕著。
182	1137	G−②	G−7−S	チャート	剥片	0.50	2.12	0.84	0.33	
182	1138	不明	G−7	チャート	楔形石器	1.70	2.68	1.22	0.58	
182	1139	表採		チャート	楔形石器	9.50	2.85	2.34	1.72	
182	1140	表採		チャート	楔形石器	9.40	3.05	2.48	1.22	上下端の潰れ、階段状剥離顕著。

（14）パンチ・石錐（Fig.183・184）

上下両端に打点があり、対向方向に力を加える目的で使用されたパンチである。チャート製のものが1点（1145）あり角柱状の剥片を使用、他はすべて長楕円の円礫素材だが、石材は泥質片岩（1141）、緑色片岩（1142）、蛇紋岩（1143）、砂岩（1144）と異なっている。1143は磨製石斧転用品である。端部形状は1142が摩滅して丸みを帯びた面になっている以外は線状の形態を呈している。1141・1142はⅧ-a層出土。

先端に2次加工を施し錐状の先端部とする石錐（ドリル）が4点出土している。Ⅷ-a層から1点チャート製の石錐が出土しているが、先端部の根元の抉りが弱く、石錐という器種に分類してよいかどうか、疑問が残る。

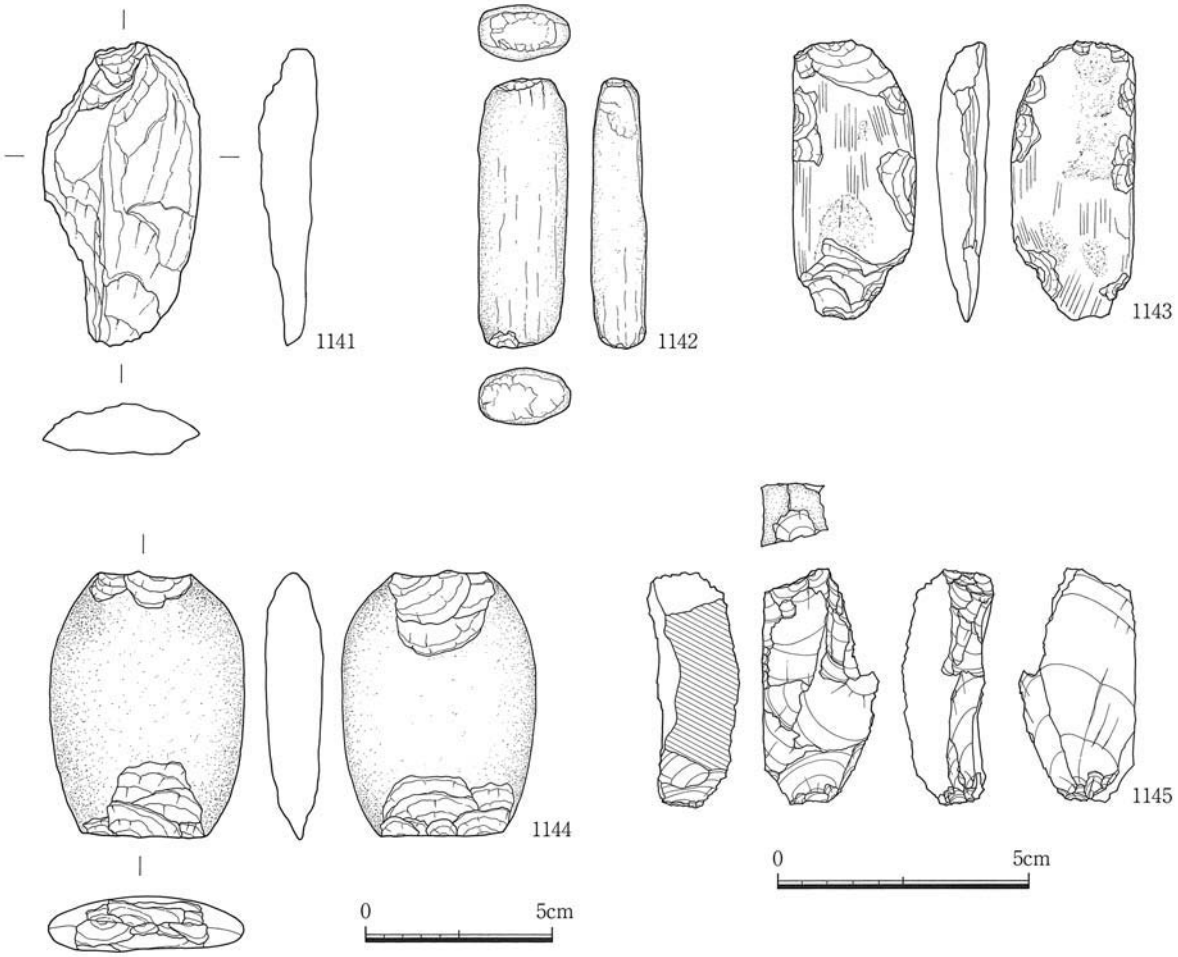


Fig. 183　両極打法の認められる石器－パンチ－

1141～1144（S＝1/2）
1145（S＝2/3）

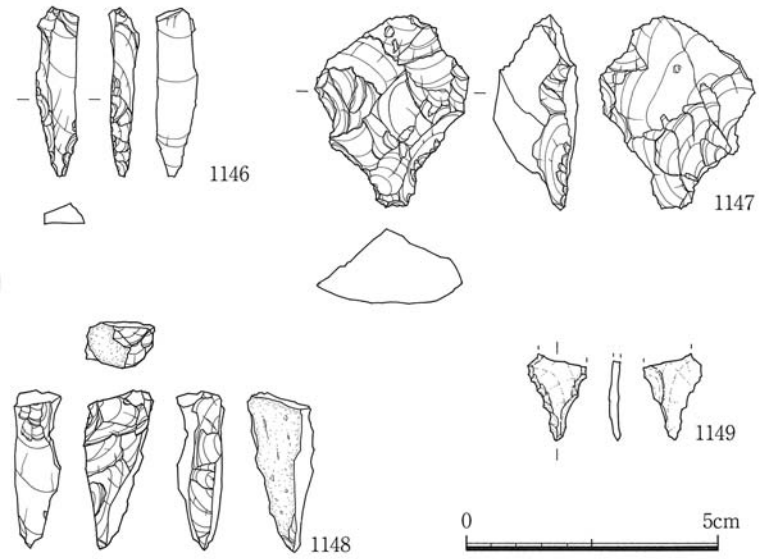


Fig. 184　ドリル（石錐）

Tab. 20　パンチ・ドリル（石錐）　計測・観察法

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
183	1141	Ⅷ−a	F−6	泥質片岩	パンチ	47.31	8.03	4.21	1.58	上下端がにぶく潰れる。
183	1142	Ⅷ−a	JK−5	緑色片岩	パンチor ストーンリタッチャー	42.56	7.05	2.45	1.55	上下端が摩滅するように潰れ、丸みを帯びた面となる。
183	1143	Ⅶ	G−5	蛇紋岩	パンチ	42.65	7.35	3.27	1.42	磨製石斧転用。
183	1144	Ⅳ	F−4	砂岩	パンチ	84.36	7.05	5.18	1.47	上下端が線状になる。
183	1145	G−②	G−7−S	チャート	パンチ	16.11	4.60	2.27	1.80	上端は礫面。下端部の潰れが顕著である。
184	1146	Ⅷ−a	JK−5	チャート	石錐（ドリル）	1.53	3.31	0.81	0.58	錐状先端部両側の抉りはやや弱いものの確認できる。
184	1147	Ⅶ	TR−11	チャート	石錐（ドリル）	12.10	3.76	3.00	1.62	錐状の先端部の根元を深く抉って加工。
184	1148	③	J−7	チャート	石錐（ドリル）	3.71	3.10	1.33	0.93	先端を錐状に加工。
184	1149	Ⅳ	1号岩陰	サヌカイト	石錐（ドリル）	0.40	1.68	1.16	0.24	石錐の先端部付近のみ。破損する。

（15）その他の石核（Fig.185〜188）

（8）・（10）以外に分類される石核で、基本的に細石刃核は含んでいない。

なお、1157は石核である可能性もあるが、平坦剥離による交互剥離で刃部を意識した整形が認められることから、尖頭器として分類した方がよいかもしれない。1157は赤色頁岩製で、それ以外の石核はすべてチャート製である。

これらの石核の中には細石刃核ブランクの可能性を持つ資料も含まれており、それについてはTab.22の中に示した。石核形態で類型化すると大きく4類に分かれる。

1類は舟底形の石核形状を呈するものである。舟底の長軸側から剥片剥離を行うものを1類A、石核の高さが低い（厚さが薄い）やや扁平な舟底形を呈するものを1類B、舟底形石器と称しても良いほど（角錐状石器に類似する）幅・厚に対して長さが長く、目的的剥片が幅広寸詰まり剥片であるものを1類Cとした。2類は打面の幅と長さの比が1対1に近く、逆三角形あるいは逆台形の形

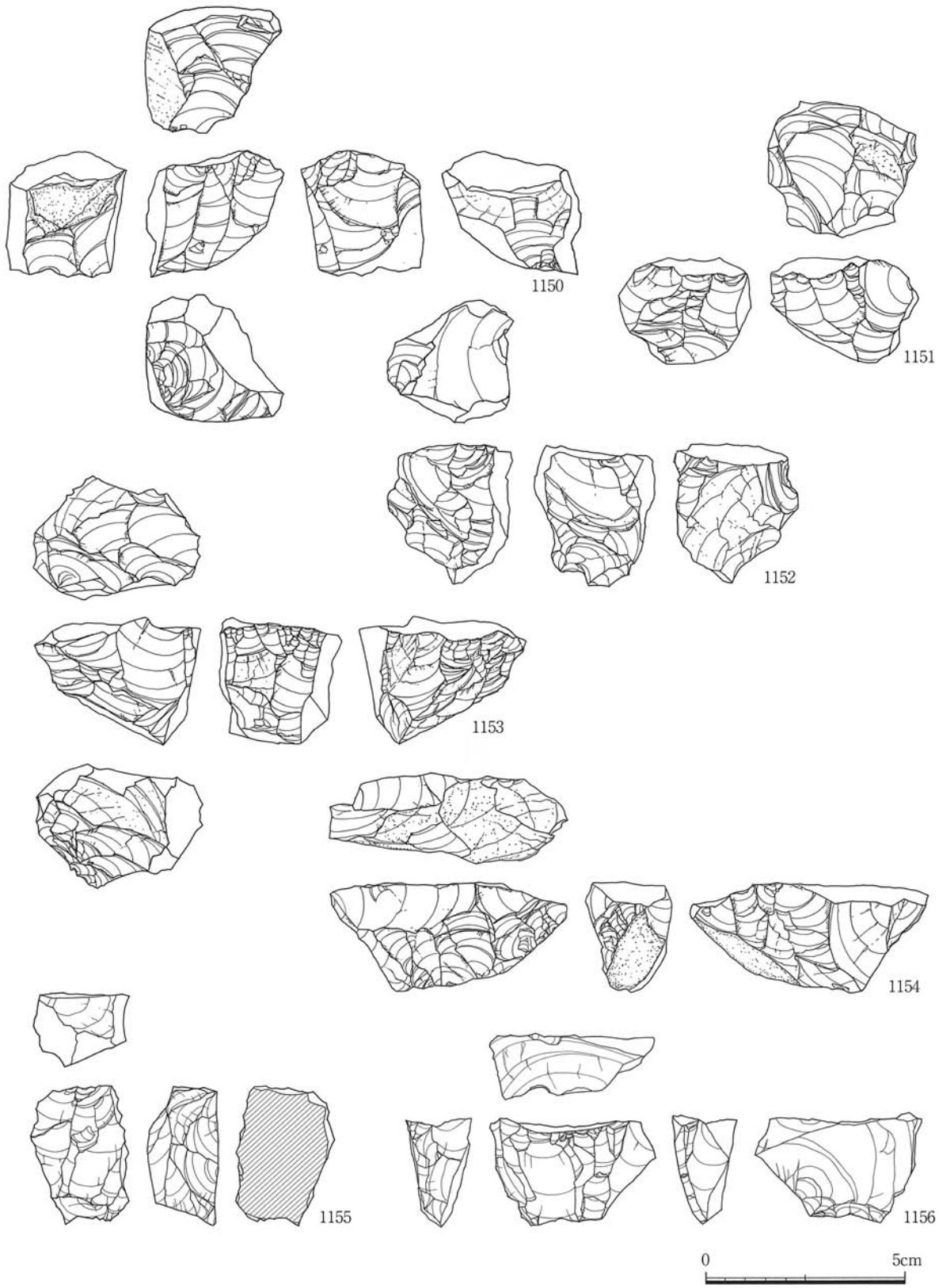


Fig. 185　その他の石核①

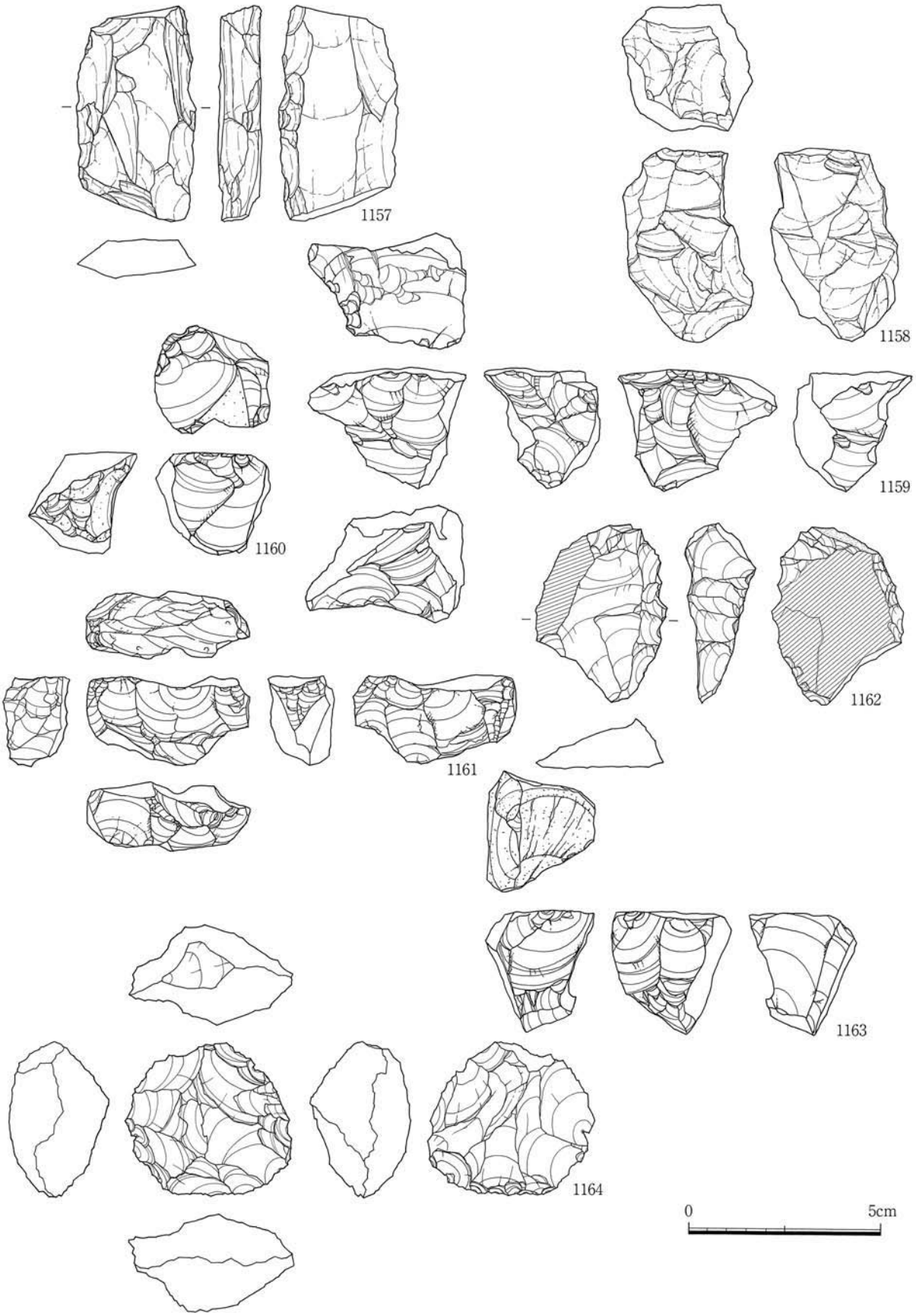


Fig. 186　その他の石核②

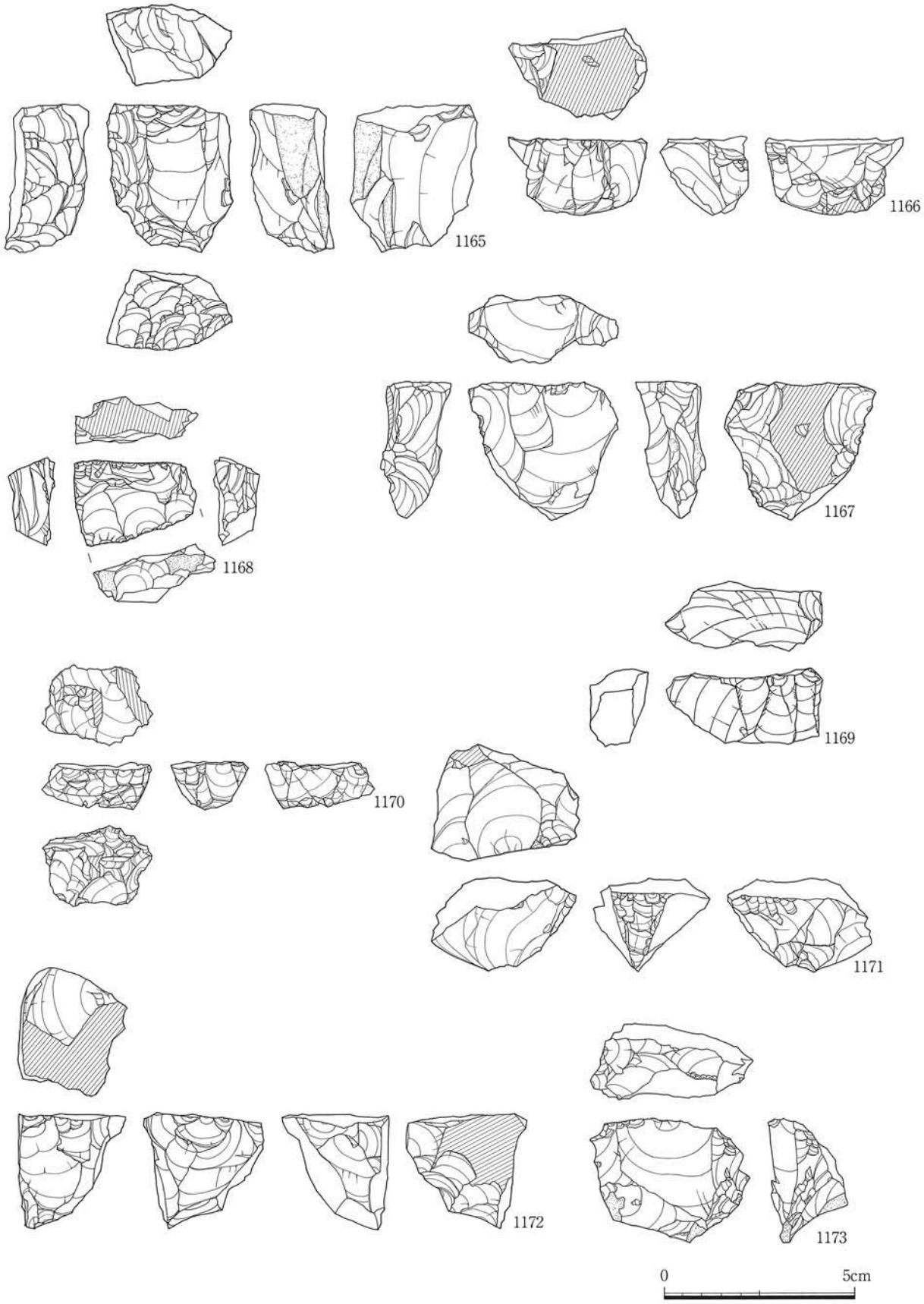


Fig. 187　その他の石核③

状を示すタイプで、設定した打面の周に沿って目的的剥片の剥離を行う。3類は扁平な石核の長軸側に作業面を設定するタイプ、4類は石核の周上に交互剥離による剥片剥離を行う石核で円盤状の形態となる。

1類Aが1156・1161・1166・1169

1類Bが1155・1170

1類Cが1174・1175

2類が1150・1151・1152・1153・1158・1159・1160・1163・1172

3類が1168・1167・1171・1173

4類が1164

出土層位が明らかな資料の中で、2類に分類した石核はⅩ・Ⅷ-b・Ⅷ-a層出土のものが大半である。1類Aと1類Bも2類同様、出土層位の明らかなものはⅧ層以下（主にⅧ-a層）から出土している。これに対し、1類Cと3類・4類はⅦ層から出土する。1類A・1類B・2類はⅧ層以下出土、1類Cと3類・4類はⅦ層出土という石核形態と出土層位との相関関係がある。遺跡の堆積状況の特殊性ゆえ層位は絶対ではなく、この違いがそのまま時期差を示すものではないが、類別と出土層位の対応関係は興味深い。

※この2点（1174・1175）は角錐状石器として分類していた石器である。

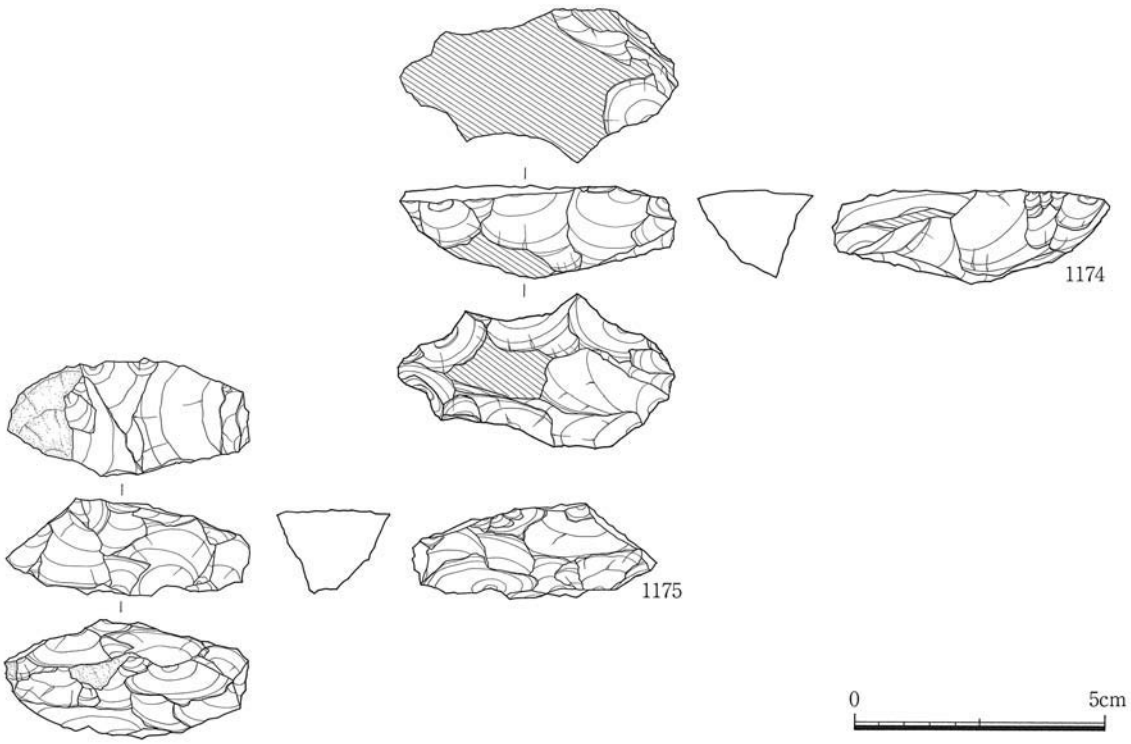


Fig. 188　その他の石核④

Tab. 21　その他の石核　計測・観察表

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
185	1150	X	E−6	チャート	石核	33.10	3.10	3.40	3.10	間接打撃による。打面転移あり。角礫状。
185	1151	Ⅷ−b	F−5	チャート	石核	32.70	2.65	3.70	3.30	間接打撃による。角礫状。
185	1152	Ⅸ	F−4	チャート	石核（ブランク）	32.80	3.00	3.10	3.00	間接打撃による。角礫状。
185	1153	Ⅸ	F−4	チャート	石核（ブランク）	38.30	3.22	4.17	3.10	打面と作業面は設定されている。小型の縦長剥片を目的的剥片とする石核あるいは細石刃核ブランク。
185	1154	Ⅷ−b	EF−5　TR−A	チャート	ブランク（石核）	33.20	2.75	5.95	2.20	石核とも捉え得るが、舟底形の細石刃核ブランクとした方がよい。
185	1155	Ⅷ−b	EF−5	チャート	石核（ブランク）	18.40	3.43	1.78	2.43	舟底形の細石刃核ブランク。
185	1156	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	石核	15.10	2.70	4.12	1.61	石核とすると目的的剥片が今一つはっきりしない。舟底形のブランクか。
186	1157	Ⅷ−b	E−6−S	頁岩（赤色頁岩）	尖頭器（石核）	24.00	5.55	3.10	1.00	石核であるという指摘によりここに分類したが、むしろ尖頭器（破損品あるいは未製品）とした方がよいかもしれない。平坦剥離による交互剥離で刃部を意識した整形が認められる。
186	1158	Ⅷ−a	F−6　ZT	頁岩	石核	51.03	3.03	2.62	4.96	単一の打面の周上から小型の縦長剥片を剥離する。打面細部調整あり。
186	1159	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	石核	29.60	3.00	4.10	3.10	間接打撃による。角礫状。
186	1160	Ⅶ−2	I−4	チャート	石核	20.30	2.65	3.00	2.85	間接打撃による。打面転移あり。角礫状。
186	1161	Ⅷ−a	JK−5	チャート	石核（ブランク）	17.90	2.30	4.30	1.75	舟底形石核の長軸から寸詰まり横長剥片を剥取。細石刃核ブランクの可能性もある。
186	1162	Ⅷ−a	JK−5	チャート	石核	19.95	4.60	3.30	1.80	打面は節理面。石核とすれば形状異質。
186	1163	Ⅶ−2	J−4	チャート	石核	22.00	3.20	3.10	2.80	間接打撃石核。角礫状。
186	1164	Ⅶ	G−4	チャート	石核	38.60	4.20	4.00	2.50	円盤状石核。交互剥離。
187	1165	Ⅶ	F−6･7　東バンク	チャート	石核	31.03	3.85	3.31	2.19	石核転用掻器。
187	1166	Ⅶ	F−6･7	チャート	石核（ブランク）	14.90	2.03	3.63	2.38	打面長軸から剥片を1枚剥離。舟底形。細石刃核ブランクの可能性もある。
187	1167	Ⅶ上面	J−2	チャート	石核	19.80	3.57	3.90	1.85	打面長軸から剥離。転用掻器。
187	1168	Ⅶ−Y12	J−6	チャート	石核	8.19	2.36	3.16	1.28	上下に面があり、両極打法あるいは両設打面。打面長軸からの剥離で、一端に階段状剥離が発達。
187	1169	排土	周辺排土	チャート	石核（ブランク）	11.60	1.98	4.11	1.79	長軸から小型縦長剥片を剥離。舟底形の細石刃核ブランクの可能性あり。
187	1170	Ⅳ	F−7	チャート	石核（ブランク）	6.40	1.25	2.90	2.08	小型の舟底形石核の打面短軸側から間接打撃で小型の石刃を剥離。細石刃核ブランクの可能性もある。
187	1171	Ⅰ		チャート	石核	21.79	2.40	3.80	3.01	間接打撃により打面長軸側から目的的剥片剥離の後、掻器に転用。
187	1172	排土		チャート	石核	24.37	2.99	3.10	2.81	間接打撃による。角礫状。
187	1173	要確認	J−7	チャート	石核	22.60	3.23	4.19	2.07	間接打撃により打面長軸側から目的的剥片剥離。
188	1174	Ⅶ	TR−11	チャート	石核	24.70	1.86	5.50	1.87	舟底形石核。打面を固定し周上から寸づまりの剥片を剥離。当初角錐状石器に分類する。
188	1175	Ⅶサイカ	TR−11　Nバンク	チャート	石核	19.90	1.95	4.85	2.34	舟底形石核。側面を打面に交互に剥片を剥離。当初角錐状石器に分類する。

（16）接合資料（Fig.189）

当遺跡中唯一の接合資料である。今回の報告書においては接合資料の抽出がほとんどできなかった点が最大の課題であり、今後に残されたテーマでもある。その中で本資料のみを接合資料として図化することができた。

石材はチャートで石核（1176）の重量29.87g、打面幅2.12㎝、打面長5.13㎝、作業面の高さ2.81㎝、剥片（1177）は、重量0.62g、長さ1.81㎝、幅1.08㎝、厚さ0.37㎝である。出土地点は1176が1号岩陰のEF－5・Ⅶ層で、1177が1・2号岩陰中間地点のグリッドI-5調査時の排土中となっている。

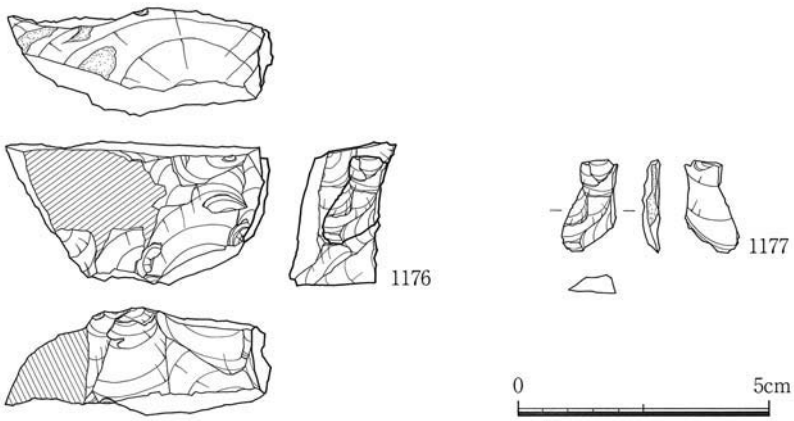


Fig. 189　接合資料

（17）器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器（Fig.190～198）

当初、細石核あるいはブランクと判断した資料の中にも多くの偽石器が含まれる、との指摘により、改めて個々の石器に対して再検討した後、やはり偽石器の可能性が残る資料、あるいは自然礫だがブロックとして利用された可能性の残る資料などをまとめて示す。

人為的な石器と自然の営為によって形成された礫片との区別は、圧縮の剥離とみられる剥離のため剥離方向が一定でない、礫片の角のつぶれが顕著である、などの基準によって行なった。なお、この中には偽石器だけではなく、細石核の原材として使用可能な「ブロック」と称すべき礫片や、石核も含まれる。人為の疑わしい石器についても、改めて器種の特定作業を進めた結果、自然の礫や自然状態での剥離の可能性を考慮した資料の中にも、人為の認められる資料が含まれていると判断される石器もあった。これら分類に苦慮した石器については、まとめてTab.23に法量の計測値と認定し得た器種、簡単な観察所見を記載することにする。

なお、Fig.198に掲載する礫片あるいは剥片は素材として選択された可能性を考慮し、細石刃核ブランクあるいはブロックという指摘を受けたものである。当初より人為的な剥離痕跡の認められなかった石片であるが、遺跡の性格上、素材として選択された可能性はないとは言えない。

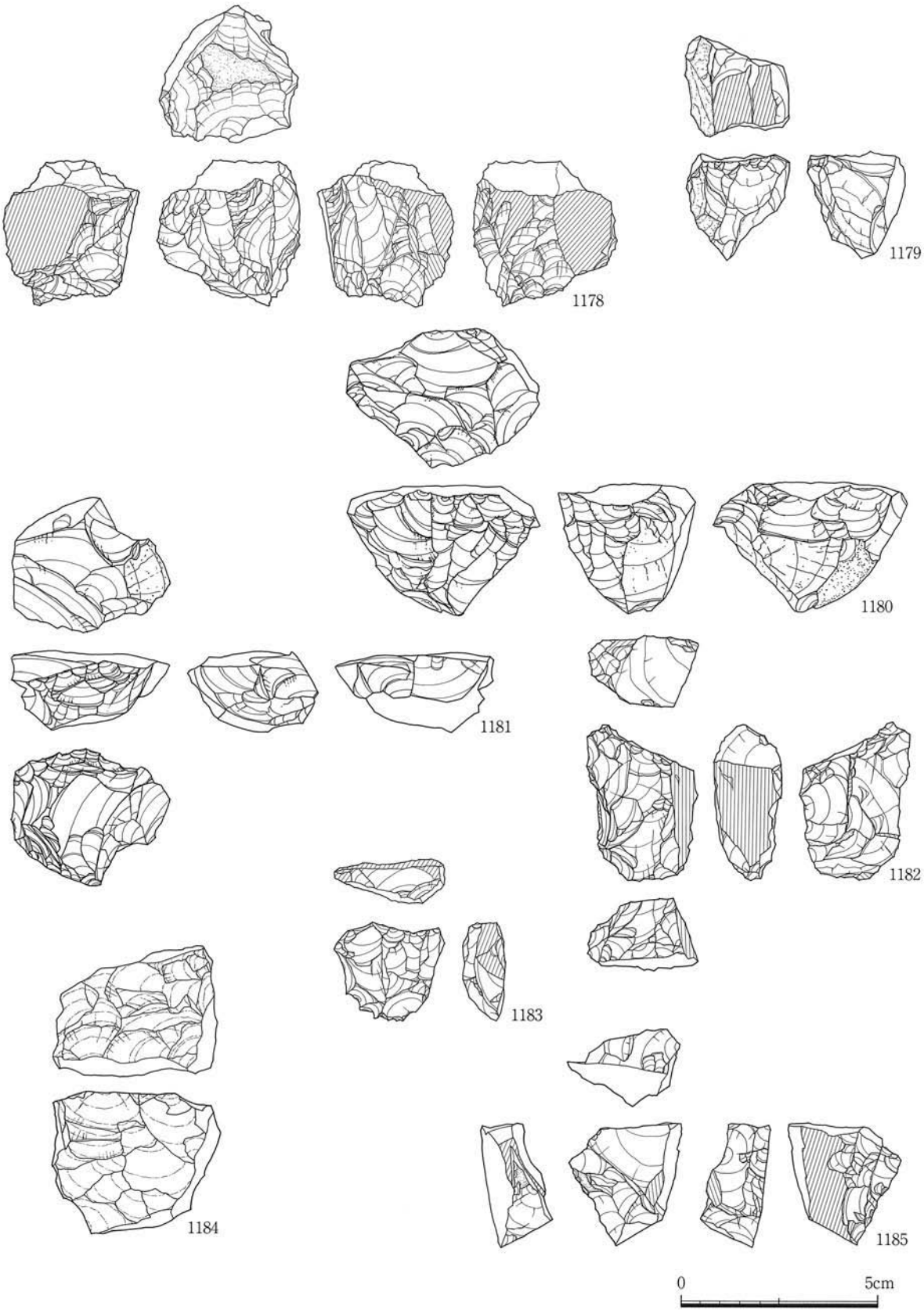


Fig. 190　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器①

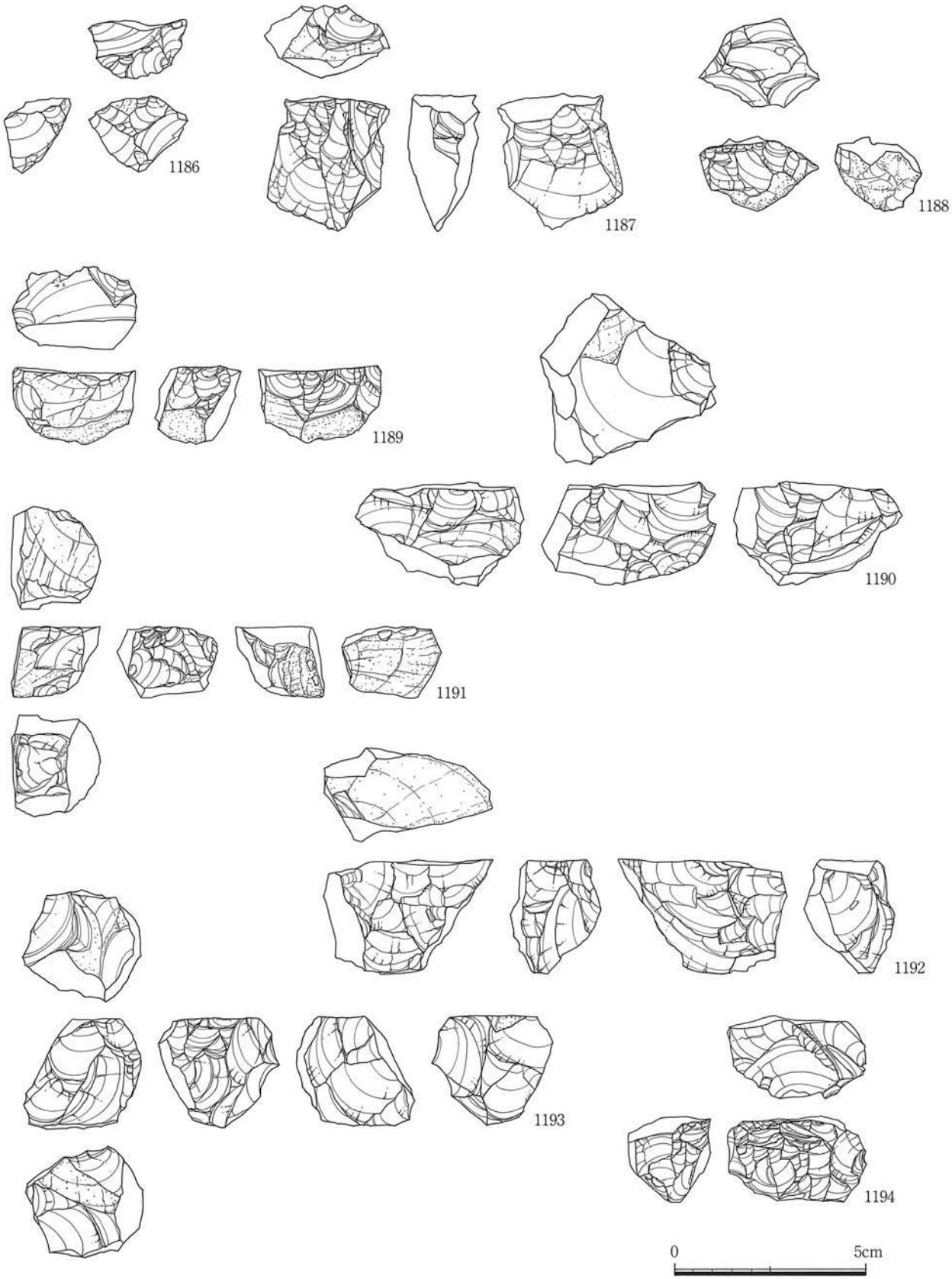


Fig. 191　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器②

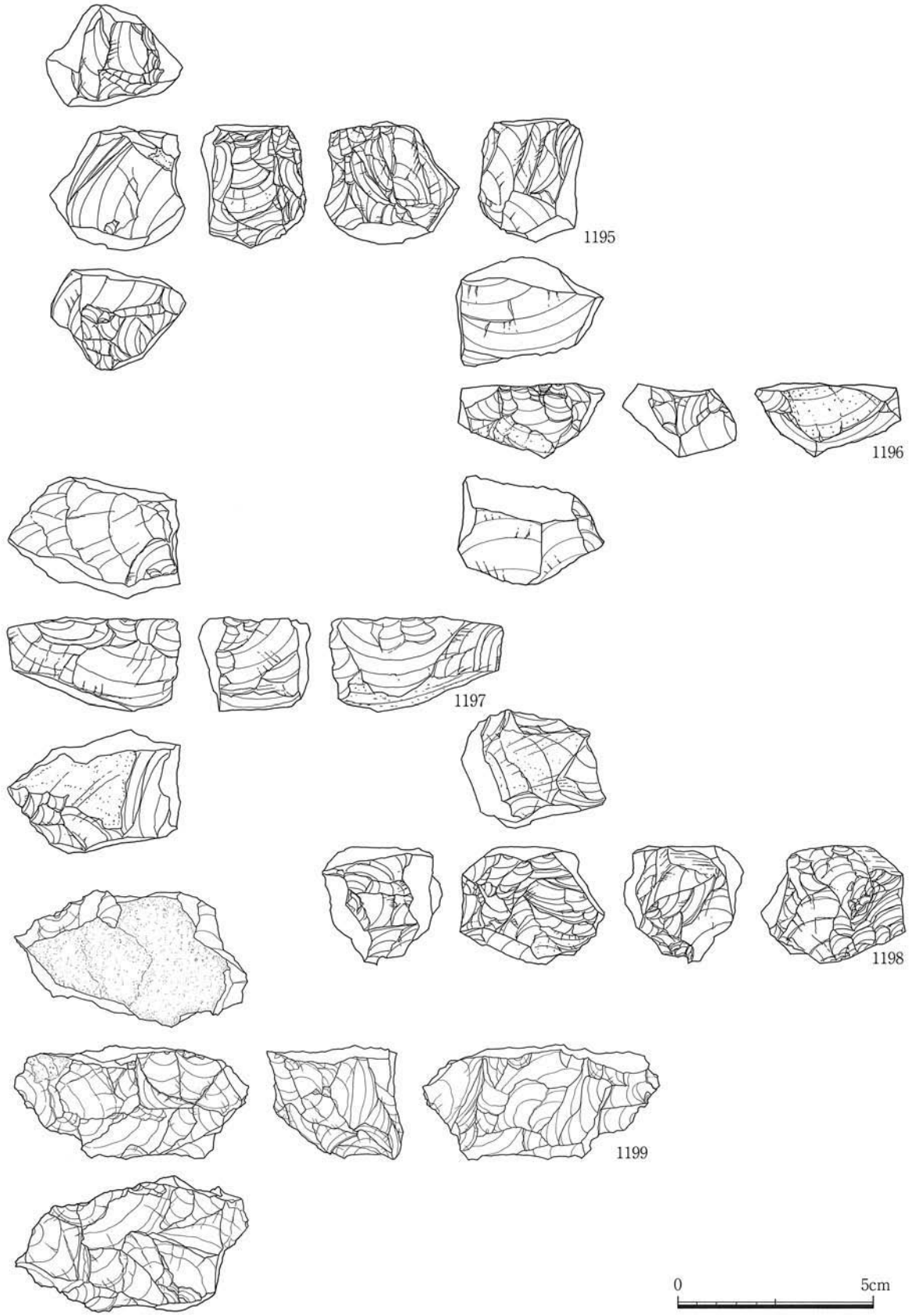


Fig. 192　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器③

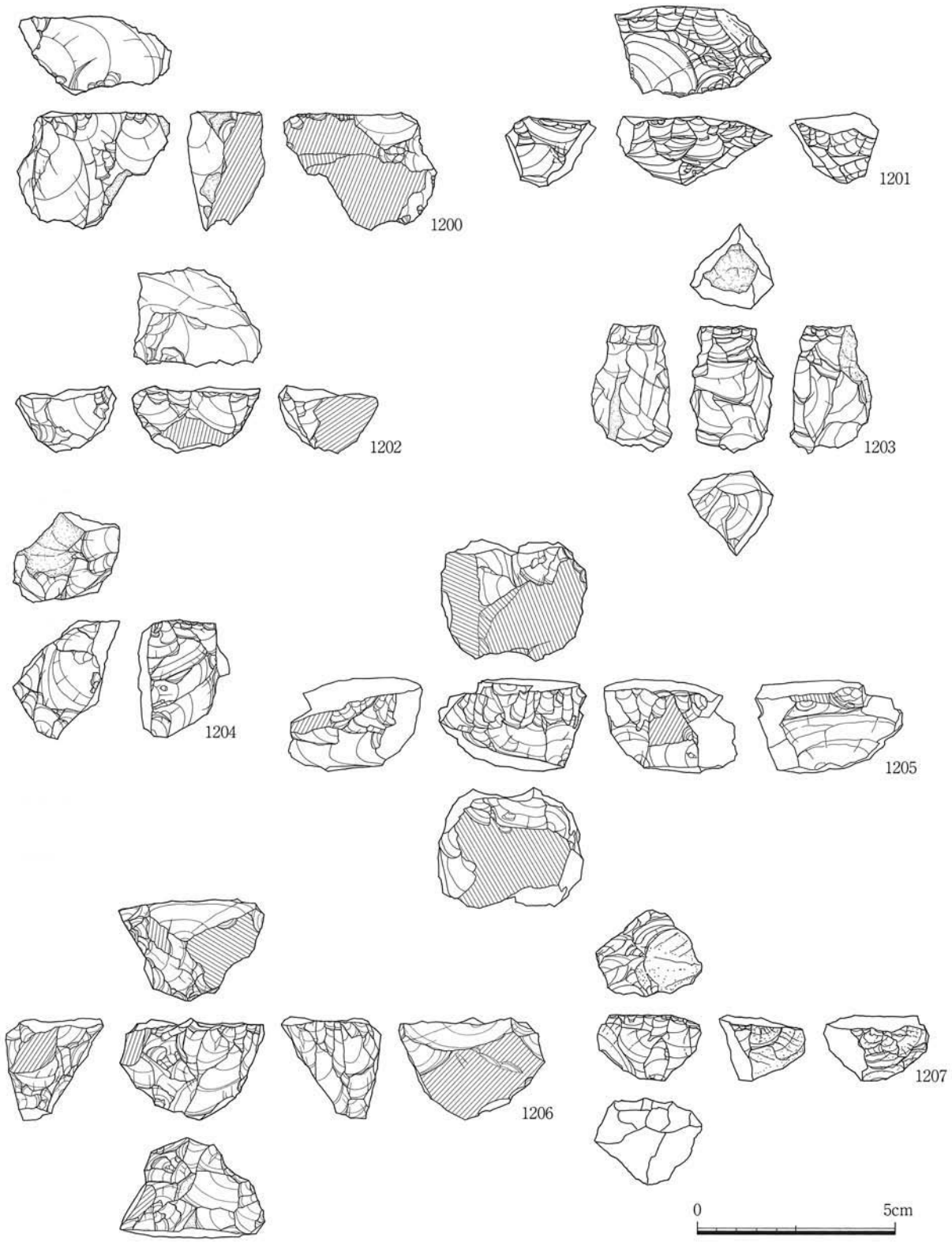


Fig. 193　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器④

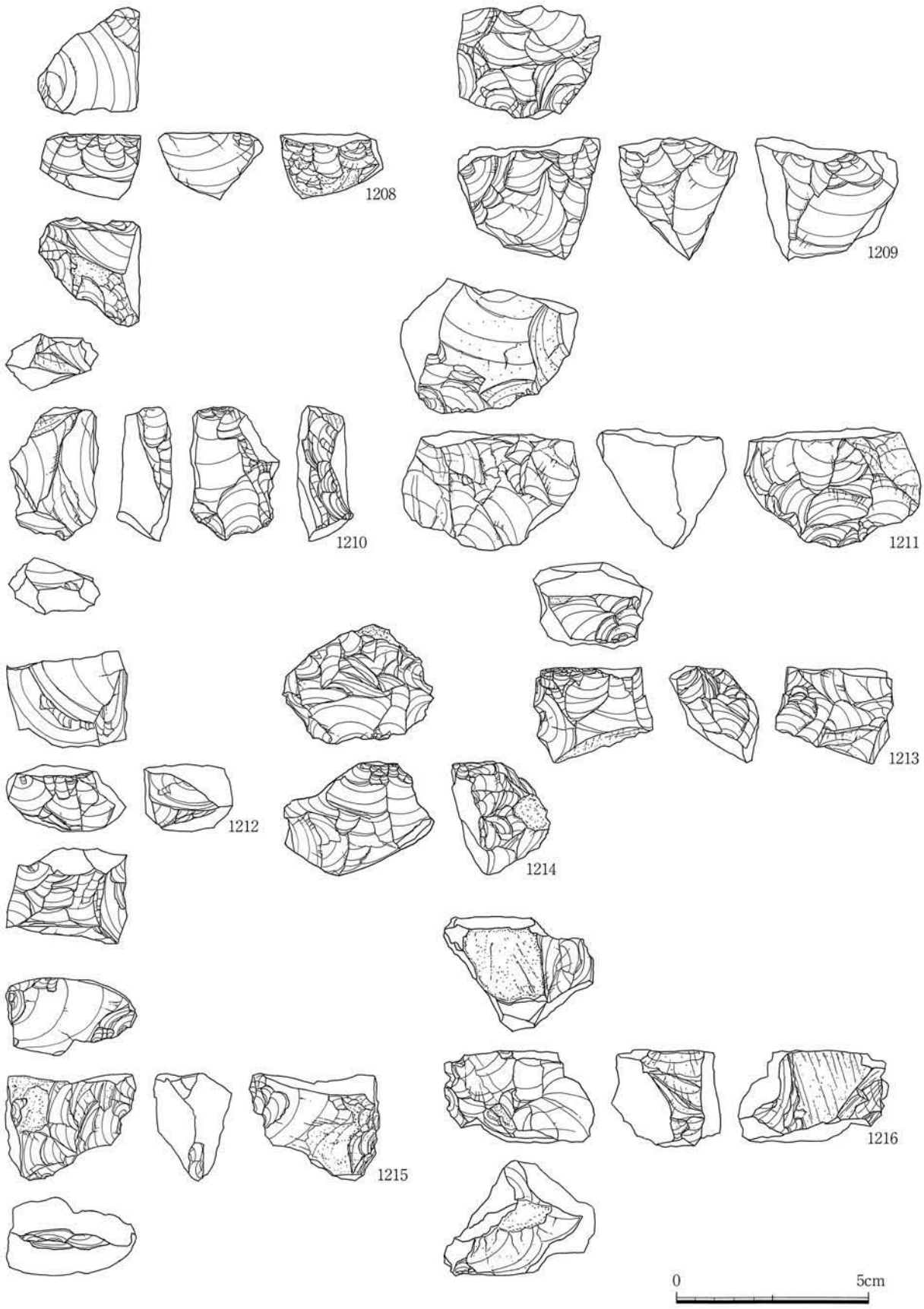


Fig. 194　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑤

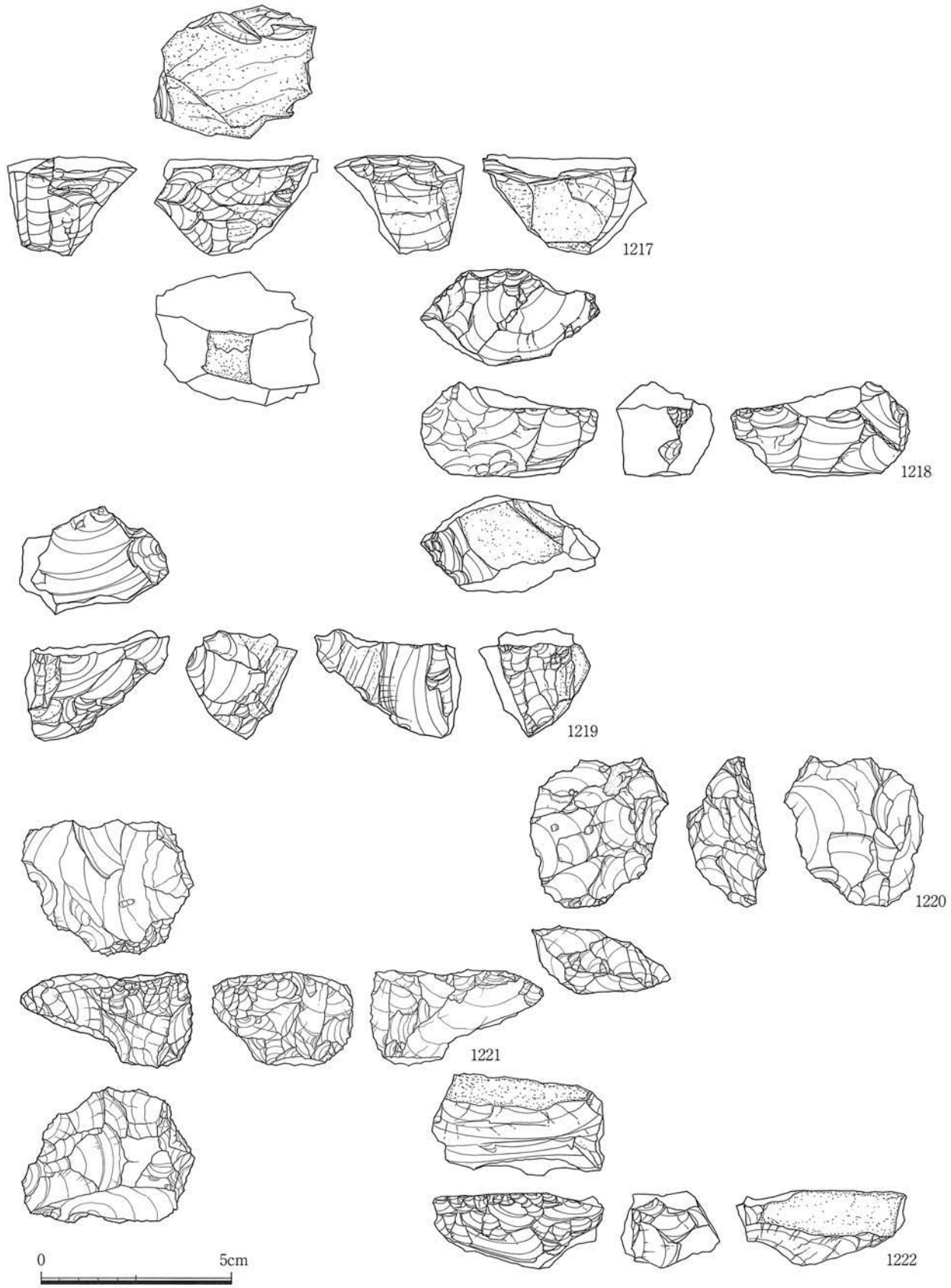


Fig. 195　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑥

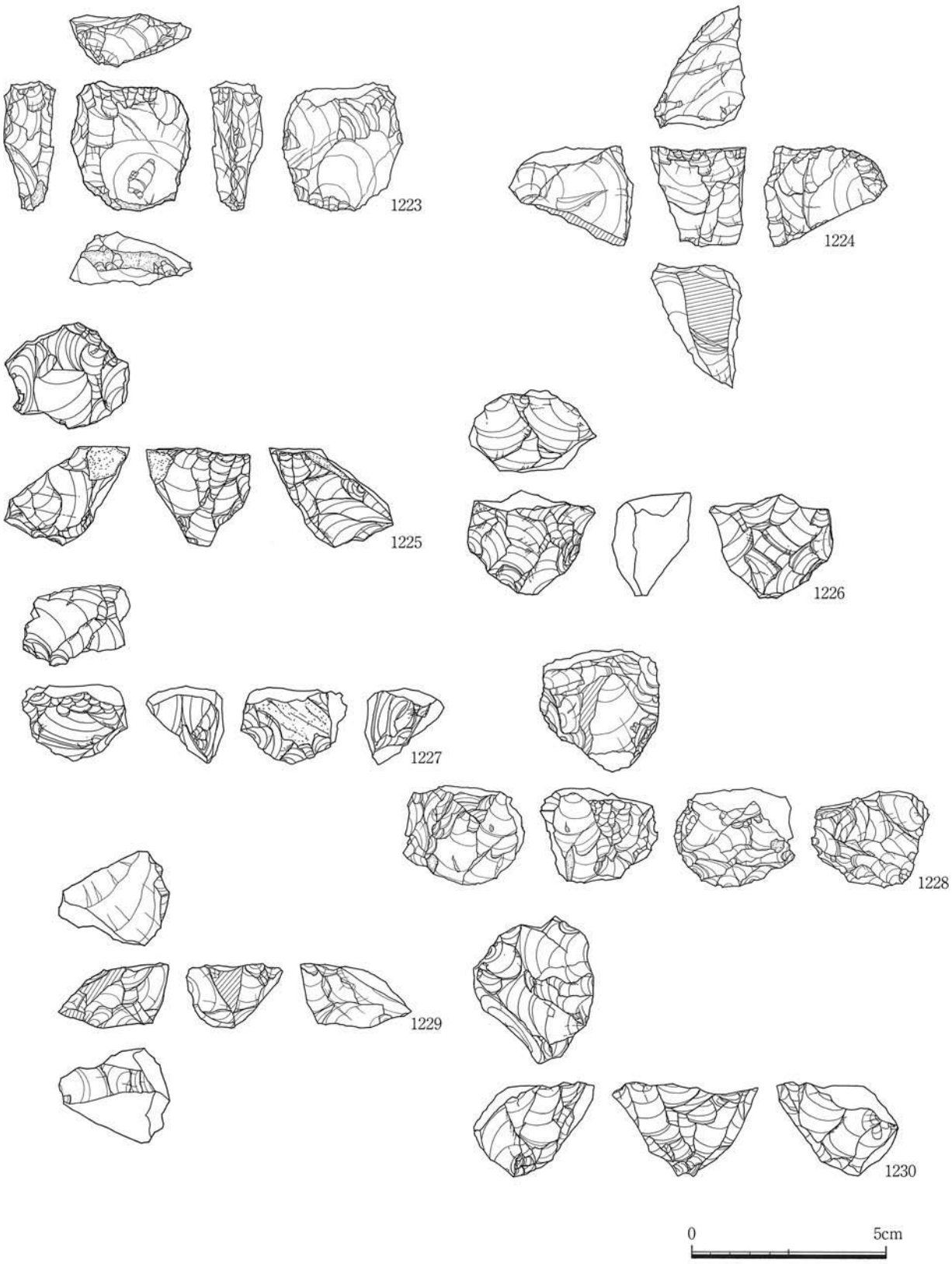


Fig. 196　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑦

Fig. 197　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑧

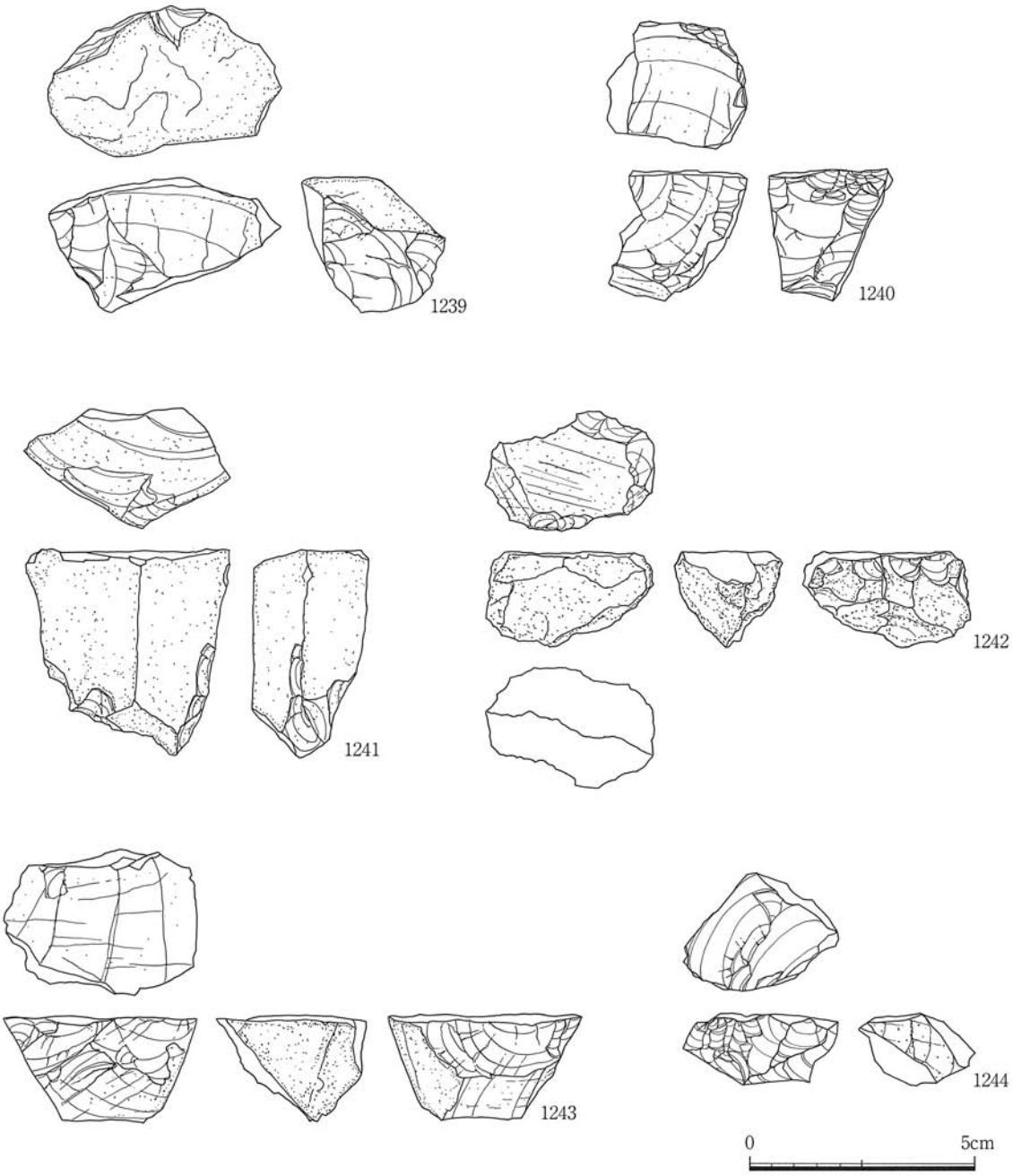


Fig. 198　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器⑨

Tab. 22　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器　計測・観察表 ①

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
190	1178	X	EF−5	チャート	石核	48.10	3.67	3.59	3.44	剥離の方向が一定ではなく、角が潰れる。小型の縦長剥片剥離。
190	1179	Ⅸ	F−4	チャート	礫片	16.60	2.65	2.60	2.45	人為的な剥離なし。
190	1180	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	器種不明（石核のブランク）	47.70	3.25	4.90	3.45	側面に剥離は認められる。
190	1181	Ⅷ−b	E−6−S	チャート	器種不明	25.40	1.80	3.78	3.17	側面に連続した剥離が残る。
190	1182	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	石核	19.50	3.90	2.79	1.70	掻器の可能性あり。
190	1183	Ⅷ−b	TR−3−S	チャート	掻器（?）	7.50	2.45	2.80	1.10	両側縁が面をなすスクレイパー類の可能性あり。
190	1184	Ⅷ−b	F−7	珪質頁岩	石核	53.90	3.65	4.28	3.16	間接打撃による石核。作業面側からの打面調整あり。
190	1185	Ⅷ−b	EF−5　TR−A	チャート	石核	12.20	3.20	2.80	1.70	
191	1186	Ⅷ−b	ZT（F−6）	チャート	礫片	5.70	1.95	2.58	1.56	人為の痕跡はない。意図的でなく偶発的なもの。破損礫。
191	1187	Ⅷ−b	EF−5　TR−A	チャート	器種不明	17.80	3.53	3.24	1.88	石器の可能性はあるがよくわからない。
191	1188	Ⅷ−b	EF−5　TR−A	チャート	器種不明	9.60	1.90	3.10	2.25	連続する剥離はあるが石器でない可能性もある。
191	1189	Ⅷ−a	EF−5	チャート	細石刃核ブランク（器種不明）	13.90	2.03	3.25	2.12	舟底形の細石刃核ブランクの可能性あり。
191	1190	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	石核	45.90	2.67	4.48	4.37	粗割整形をしたのち、剥離作業を開始した石核。打面調整あり。
191	1191	Ⅷ−a	TR−3 落ち込み埋土下	チャート	礫片	13.00	1.80	2.60	2.35	人為の痕跡なし。
191	1192	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	礫片	28.10	2.95	2.35	4.40	
191	1193	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	器種不明	24.00	2.85	3.10	3.10	
191	1194	Ⅷ−a	EF−5	チャート	細石刃核ブランク（可能性あり）	19.20	2.25	3.60	2.15	図の側面を打面と捉えれば、打面細部調整を持つ野岳休場型細石刃核のブランクだと考えることができる。
192	1195	Ⅷ−a	I−5	チャート	細石刃核ブランク	29.30	3.15	2.65	3.45	野岳休場型細石刃核のブランク。
192	1196	Ⅷ−a	GH−5	チャート	礫片	15.70	1.89	3.73	2.78	1辺に剥離があるが人為的なものかどうかはわからない。
192	1197	Ⅷ−a	FG−5	チャート	礫片	35.80	2.90	4.40	3.00	整形調整はほとんど認められない。
192	1198	Ⅷ−a	TR−11北バンク	チャート	石核	35.80	2.96	3.68	2.97	打面転移を繰り返しながら稜を形成する。多面体石核あるいはそのブランク。
192	1199	Ⅷ−a	GH−5	チャート	石核（?）	60.30	2.88	5.97	3.48	可能性あり。
193	1200	Ⅷ−a	TR−3	チャート	礫片	14.90	2.91	3.87	1.95	
193	1201	Ⅷ−a	F−6･7	チャート	両面加工石器	13.90	1.75	3.90	2.28	部厚い剥片の周縁を2次加工で刃部状に整形する。尖頭部を持つ石器の整形途上のものか。
193	1202	Ⅷ−a	J−5	チャート	石核	12.04	1.65	3.20	2.50	打面長軸側から寸詰まり剥片を剥離。
193	1203	Ⅷ−a	JK−5	チャート	器種不明	12.10	3.15	2.05	2.05	人為的な石器でない可能性もある。
193	1204	Ⅷ−a	JK−5	チャート	石核	14.20	2.95	2.30	2.70	

Tab. 22　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器　計測・観察表 ②

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
193	1205	Ⅶ	E−6	チャート	礫片	29.54	2.34	3.71	3.33	剥離痕はあるものの意図的なものではなく、自然の営為によって生じた剥離である。
193	1206	Ⅶ〜Ⅷ−a	F−7	チャート	石核	19.80	2.55	3.65	2.50	打面長軸側から剥離。
193	1207	Ⅶ−3	不明	チャート	石核(?)	7.30	2.60	2.20	2.10	
194	1208	Ⅶ	K−4−W TR−12	チャート	2次加工のある剥片	11.70	1.75	2.65	2.75	
194	1209	Ⅶ	TR−11北バンク	チャート	石核(?)	32.20	3.15	3.70	3.10	
194	1210	Ⅶ	F−6･7	頁岩	石核	10.70	2.30	1.40	1.50	
194	1211	Ⅶ	J−4	チャート	礫	44.00	3.10	4.60	3.35	分割礫。
194	1212	Ⅶ−SR−3	JK−5	チャート	石核(?)	15.00	1.74	3.14	2.37	
194	1213	Ⅶ	F−6･7	チャート	石核	16.50	2.50	3.09	2.29	打面細部調整あり。
194	1214	Ⅶ	ZT(F−6)一括	チャート	器種不明	24.60	2.96	3.87	3.09	人工品だが器種はわからない。
194	1215	Ⅶ−SR−3	JK−6	チャート	礫片	16.20	2.83	3.39	2.04	
194	1216	Ⅶ−2	J−5南北バンク	チャート	礫片	28.40	2.80	3.90	2.50	人為的な加工の痕跡が認められない。
195	1217	Ⅶ	ブロック3	チャート	器種不明	36.40	2.59	4.25	3.45	人為の可能性も残るがよくわからない。
195	1218	Ⅶ	I−4	チャート	石核	27.70	2.47	4.60	2.53	
195	1219	Ⅶ	K−4	チャート	器種不明	19.50	2.90	3.80	2.80	
195	1220	Ⅶ	TR−9	チャート	石核	21.30	3.90	3.60	2.01	打面調整あり。
195	1221	Ⅶ−SR−4	KL−5	チャート	石核	38.40	2.44	4.49	3.52	不定形。
195	1222	Ⅴ	F−7	チャート	礫片	23.80	1.93	4.40	2.45	一側縁に細かい剥離が連続するが、意図不明で人為的な剥離とは考えられない。圧縮の剥離。
196	1223	Ⅶ	J−3	チャート	掻器	13.70	3.30	3.10	1.36	可能性あり。
196	1224	Ⅶ−YR−N	JK−6	チャート	石核	14.60	2.53	2.46	3.15	
196	1225	Ⅵ	F−7	チャート	楔形石器	15.60	2.50	2.65	3.20	偽石器だとの指摘もあるが、端部の特徴剥離の方向などから、両極打法による石器である可能性が高い。当初は細石刃核として取り扱っていたが、細石刃核ではない。
196	1226	要確認	TR−3−S　東	チャート	石核	15.50	2.65	3.25	2.05	
196	1227	不明	F−4	チャート	器種不明	9.70	1.97	2.74	2.09	石核あるいは偽石器の可能性あり。
196	1228	排土	F−7･G−7周辺	チャート	石核	23.55	2.42	2.96	3.05	打面転移を繰り返しながら稜を形成する。多面体石核あるいはそのブランク。
196	1229	G−①②	G−7･8	チャート	礫片	9.46	1.65	2.45	2.85	
196	1230	不明	TR−6	チャート	石核	20.50	3.05	3.70	3.50	

Tab. 22　器種不明石器・石核・自然礫・その他の石器　計測・観察表 ③

Fig. 番号	図版 番号	出土 層位	出土地点	石　材	器　　種	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特　　徴
197	1231	②	J−7	チャート	礫片	19.70	2.87	1.97	2.96	
197	1232	G−④	G−7−S	チャート	石核	55.36	3.00	4.10	4.30	
197	1233	②	J−7	チャート	石核	24.40	3.43	3.30	2.17	
197	1234	不明	J−7	チャート	器種不明	12.25	1.89	3.13	2.55	
197	1235	⑤	J−8	チャート	掻器 (細石刃核ブランク)	10.00	2.15	3.28	1.88	人為的な剥離により整形。
197	1236	②	J−7	チャート	石核	37.00	2.46	4.73	2.95	人為的な剥離により整形。
197	1237	表採	表採	チャート	細石刃核ブランク	9.70	1.80	2.48	3.79	可能性あり。
197	1238	③	I−8	チャート	礫片	36.50	3.55	2.50	3.95	
198	1239	Ⅷ−b	EF−5　TR−A	チャート	礫片	40.60	2.95	5.20	3.20	
198	1240	Ⅷ−b	TR−3−NSB	チャート	礫片	24.50	2.89	3.11	2.87	
198	1241	Ⅷ−a	E−6−S	チャート	礫片	46.40	4.56	4.56	2.63	分割礫。
198	1242	Ⅶ	TR−3･F−5	チャート	礫片	18.30	2.11	3.71	2.66	分割礫。
198	1243	Ⅷ−a	TR−3−NSB	チャート	礫片	31.80	2.35	4.29	3.21	
198	1244	Ⅷ−a	F−6	チャート	剥片	11.60	1.60	3.41	2.62	

1号岩陰から検出されたチャート角礫

（18）石鏃（Fig.203～206）

石鏃の総数は調査時に出土したもの、篩にかけて採取したものあわせて、177点（遺構出土も含めた数）が出土している。その中で図示し得たのは172点である。出土層位は縄文時代後期の落盤層とみられるⅤ層からが最も多く出土しており、全体の35%を占める。以下Ⅶ層、Ⅷ層33%、Ⅳ層16%、Ⅵ層14%、Ⅱ層2%となっている。なおⅧ-a層として取り上げを行った石鏃についてはⅦ層からⅧ層への変化が非常に漸移的であることから、Ⅶ層の最下層として考えている。Ⅶ層は縄文時代早期末～中葉の堆積、Ⅵ層は縄文時代中期の堆積と考えられる。Ⅴ層は草創期、早期、前期、中期、後期の遺物が含まれており、大小のチャート礫が多量に含まれること、部分的にしか堆積がみられないことなどから後期以降の落盤層とみられる。「南四国の石鏃の様相は量的には早期が最も多く、次いで後期の時期に多く出土する傾向にある」（註）ということであり奥谷南遺跡についても同様の傾向が窺える。

出土地点が復元できるものをFig.202に示した。包含層出土でグリッドが特定できるものについては各グリッドの左上隅に出土点数を示した。他の石器と同様SX101周辺、1、2号岩陰及びその周辺、現存しない巨岩の下（E、F、G-4、5グリッド）に集中がみられる。今次調査の出土遺物の集中そのものがこれらの地点に限定されており、その中で石鏃が最も多く出土したのは1号岩陰とその周辺であり、Ⅴ層が部分的に堆積していた場所である。

①石鏃の分類

石鏃の分類はまず重量で分けた後に形態分類を行った。奥谷南遺跡においては0.1g～2.1gまでのものが全体の94%を占める。松ノ木遺跡でみられるような完形で0.1～0.2gで長さも1㎝程度の小型品は2点（1255、1262）存在し、Ⅵ、Ⅶ層より出土している。完形で0.2gのものも5点存在するが、0.3g以上のものと形や大きさ、製作技法に大きな隔絶がみられないためこれらをⅠ群とし、2.3g以上5gまでの大型品をⅡ群とした。1383～1388は他の石鏃と長さ、重量ともに隔絶しており「早期に含まれるとされる超大型品である」（註）と考えられる。1384のみⅦ層出土で他は不明である。Ⅰ群のうち、0.2～0.4g、0.7～0.8gに重量のピークがみられる。（グラフ①）

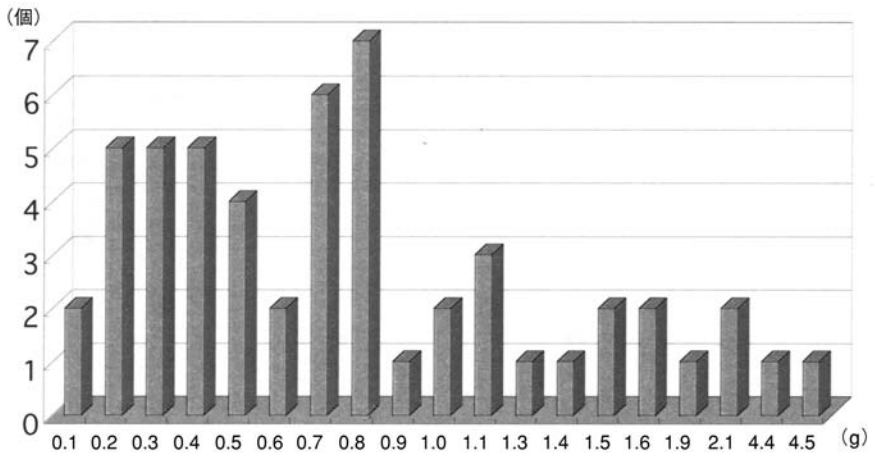


Fig. 199　石鏃グラフ①

次に形態により以下のとおり細分した。断面形態および欠損状態については観察表に記した。

基部―〈1類〉浅い凹基、〈2類〉深い凹基、〈3類〉平基、〈4類〉円基

このうち〈2類〉については二等辺三角形を呈するもの〈2A類〉、正三角形を呈するもの〈2B類〉に細分した。

脚部―〈①類〉先端が尖る、〈②類〉先端が丸い、又は幅が広い、〈③類〉長脚、〈④類〉左右非対称、〈⑤類〉平基・円基

側縁―〈あ〉直線的であるもの、〈い〉外湾するもの、〈う〉内湾するもの、〈え〉非対称をなすもの

断面―〈a〉レンズ状、〈b〉扁平、〈c〉台形、〈d〉菱形、〈e〉三角形、〈f〉山形

欠損―〈A〉完形、〈B〉先端部欠損、〈C〉基部欠損、〈D〉片脚欠損、〈E〉先端＋片脚欠損、〈F〉先端＋両脚欠損、〈G〉その他、〈G´〉新しい欠損

Ⅰ群　〈1〉・〈①〉・〈あ〉類・・・1245～1254
〈い〉類・・・1255～1256
〈え〉類・・・1257
〈う〉類・・・1258～1259
〈②〉・〈あ〉類・・・1260～1261
〈④〉・〈い〉類・・・1262～1267
〈う〉類・・・1268～1269
〈え〉類・・・1270～1276
〈2A〉・〈①〉・〈あ〉類・・・1277～1290
〈い〉類・・・1291～1296
〈②〉・〈あ〉類・・・1297～1305
〈い〉類・・・1306～1311
〈う〉類・・・1312～1315
〈え〉類・・・1316～1317
〈③〉・〈う〉類・・・1318～1319
〈④〉・〈あ〉類・・・1320
〈い〉類・・・1321～1323
〈う〉類・・・1324～1328
〈え〉類・・・1329～1333
〈2B〉・〈①〉・〈あ〉類・・・1334～1335
〈い〉類・・・1336～1340
〈③〉・〈あ〉類・・・1341～1345
〈い〉類・・・1346～1350
〈④〉・〈あ〉類・・・1351～1355
〈い〉類・・・1356～1357
〈え〉類・・・1358
〈3〉・〈あ〉類・・・1359～1369
〈い〉類・・・1370～1376
〈え〉類・・・1377～1382
Ⅱ群　〈2〉・〈①〉・〈い〉類・・・1383～1384
〈う〉類・・・1385～1386
〈3〉・〈い〉類・・・1387～1388
〈4〉・〈え〉類・・・1389
欠損のため分類不可能品　・・・1390～1401
未製品　・・・1402～1404

②石鏃の石質（グラフ②）

奥谷南遺跡出土の石鏃の石材はチャート、サヌカイト、頁岩、黒曜石の4種類である。チャート128点（75%）、サヌカイト39点（23%）、頁岩2点（1%）、黒曜石2点（1%）であり他の石器と同様チャートが大勢を占めるが、一定量のサヌカイトが認められる。これを層別にみたものがグラフ②である。Ⅴ層からⅣ層の時点でサヌカイトとチャートの量比に逆転がみられる。時期的にみると縄文時代後期以降といえる。「後期以降になると南四国全域がサヌカイトへの志向を強める傾向が顕著になる」（註）とされ、当遺跡出土の石鏃も同様の傾向を示す。チャート製品には全面に細かい調整を施した丁寧なものがある。その内1245～1248、1254、1258、1329、1362、1390は刃部が鋸歯状を呈するもので縄文時代早期にみられる形態である。サヌカイト製品は形態との関連でみると〈1類〉32点中4点、〈2類〉82点中26点、〈3類〉30点中4点であり深い凹基を呈し、長脚・U字状の製品に多い傾向がみられる。

③石鏃の欠損状態

全石鏃の内、完形品は54点で全体の34%を占める。その他の123点は何らかの欠損が見られる。欠損の部位は先端部欠損品20%、基部欠損品5%、片脚欠損品29%、先端及び片脚欠損品6%、先端及び両脚欠損品1%となっている。片脚、先端部を欠損したものが多い。

④断面形態

断面形態はレンズ状を呈するものが大勢を占める（68%）。台形、菱形、三角形、山形等厚みのある形態はチャート製に偏っており、このことは調整が中央まで届いていないものがチャート製に多いことに因る。サヌカイト製品はレンズ状又は扁平なもので占められているが背面に一次調整面を残すものも多い。

⑤基部の形態（グラフ③）

基部の形態を層別にみると〈1類〉はⅣ層1点（3%）でサヌカイト製、Ⅴ層6点（19%）ですべ

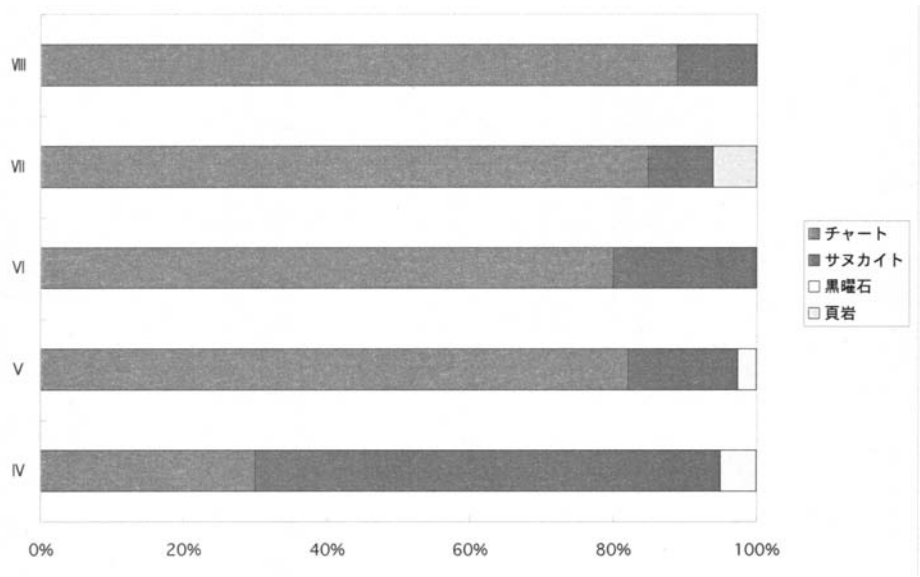


Fig. 200　石鏃グラフ②

てチャート製、Ⅵ層4点（13%）で内1点がサヌカイト製、Ⅶ層11点、Ⅷ-a層2点（41%）ですべてチャート製である。〈2類〉はⅣ層14点（17%）で内9点がサヌカイト製、Ⅴ層21点（26%）で内3点がサヌカイト製、Ⅵ層8点（10%）で内2点サヌカイト製、Ⅶ層16点、Ⅷ-a層3点（23%）内4点サヌカイト製で他は全てチャート製である。〈3類〉はⅣ層2点（7%）で内1点がサヌカイト製、Ⅴ層9点（30%）で内2点がサヌカイト製で他はチャート製、Ⅵ層1点（3%）ですべてチャート製、Ⅶ層6点（20%）ですべてチャート製である。

〈1類〉はⅦ層からの出土が一番多く、石材はすべてチャート製である。〈2類〉はⅤ層、Ⅶ層ともに多くみられサヌカイト製が一定量（Ⅴ層3点、Ⅶ層4点がサヌカイト製）みられる。〈3類〉はⅤ層出土のものに多くみられサヌカイト製が一定量（2点がサヌカイト製）みられる。層位からみるとⅦ層出土のものはチャート製が大半だが2類でのみサヌカイト製がみられる。Ⅴ層では1類はチャート製、2類、3類にはサヌカイト製が一定量みられる。Ⅳ層ではサヌカイト製が各類に存在し、占める割合も高い。Ⅵ層では出土点数が少ないが1、2類にサヌカイト製がみられる。

層位別に完形品の重量を比較するとⅣ層は0.3～1.6g、Ⅴ層は0.1～2.1g、Ⅵ層は0.1～0.8g、Ⅶ層は0.3～1.9gとなる。Ⅶ層に小型のものがなく、Ⅰ群のなかでも大きいものが多い傾向があるが、各層位とも大きさのバリエーションが揃う。

このように形態、規模、石材など各層とも顕著な偏りはみられず、使用目的、使用石材にあわせた多様な用い方が窺える。

（註）文中「　」で引用したものはすべて　前田光雄『松ノ木遺跡Ⅴ』第Ⅱ章「石鏃」からの引用である。また分類基準ほか同報告に沿っておこなった。

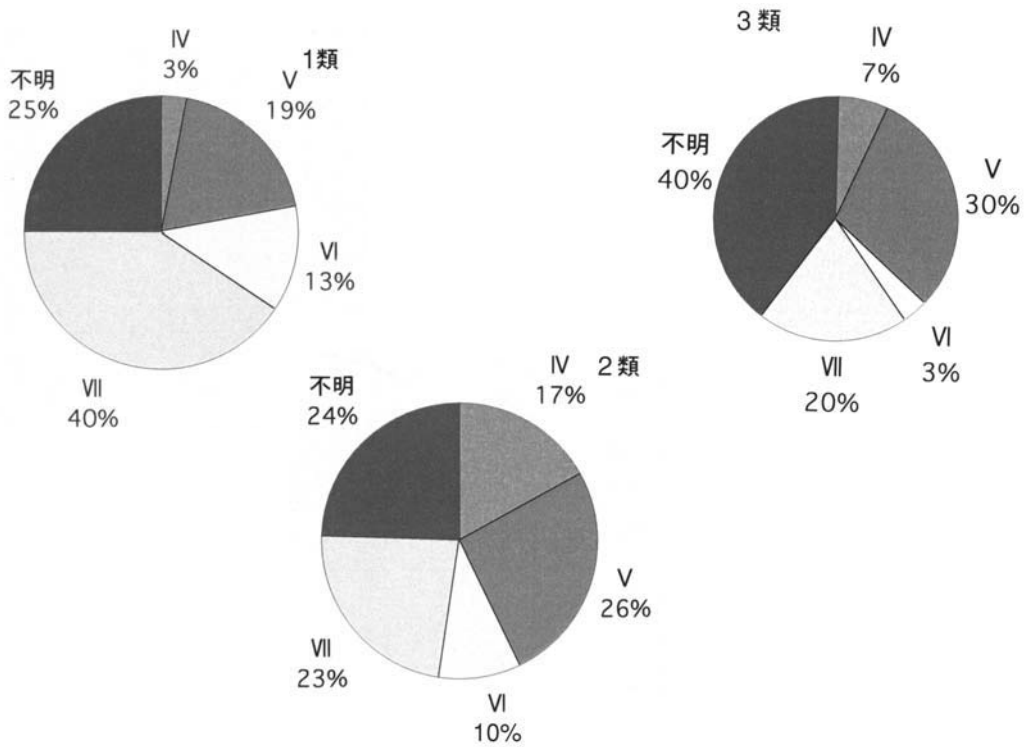


Fig. 201　石鏃グラフ③

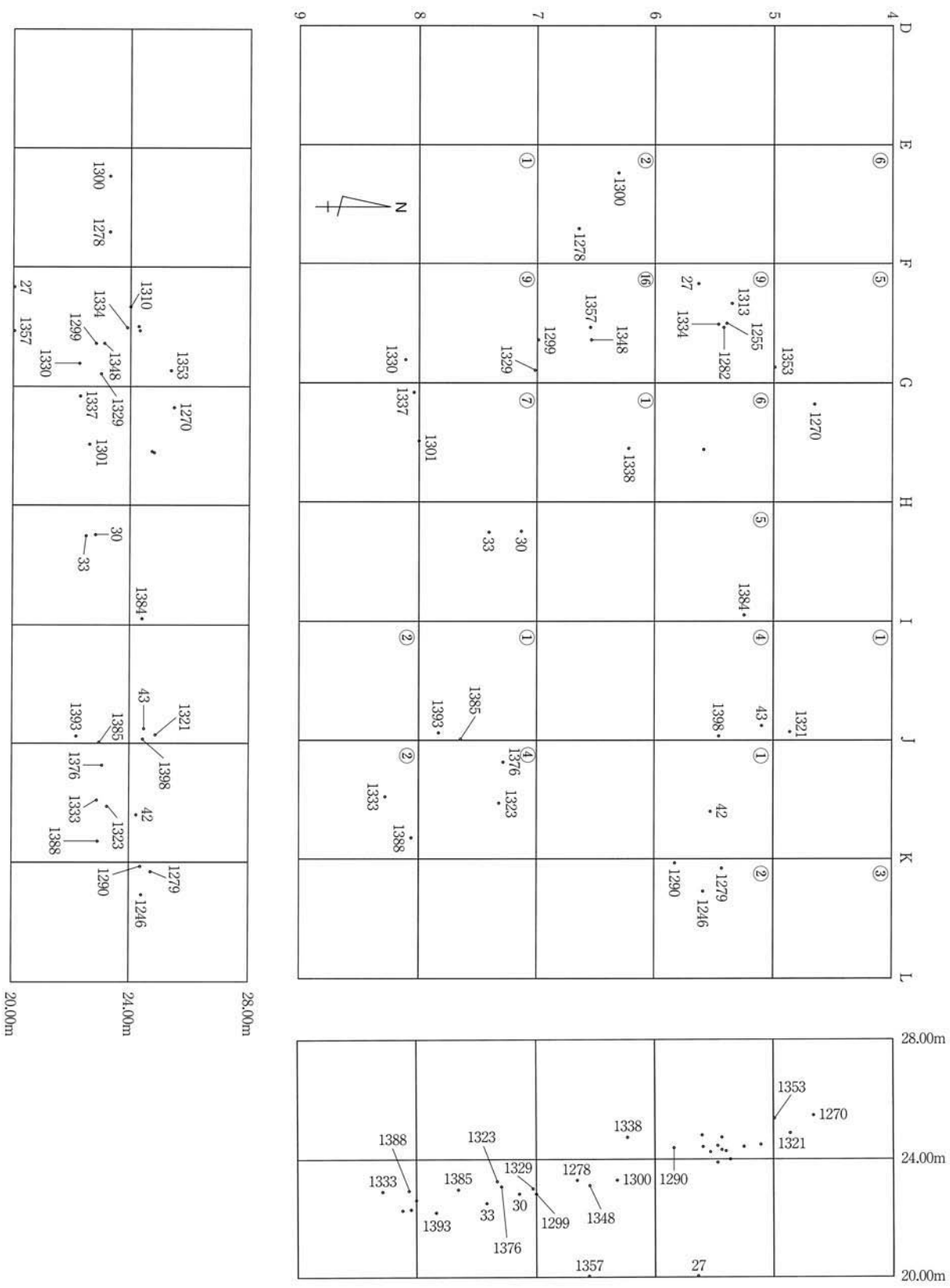


Fig. 202　石鏃出土地点

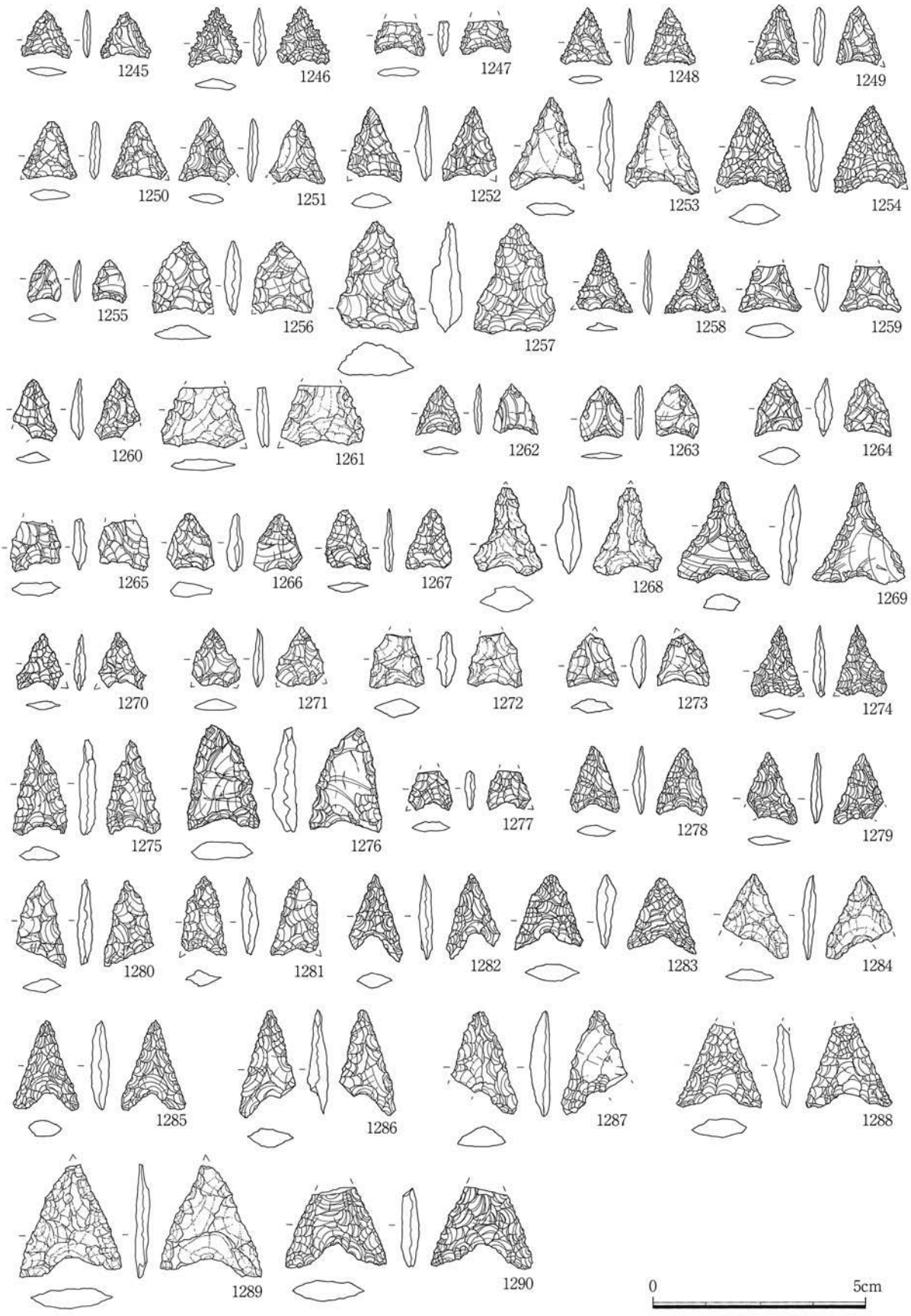

1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1272
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1281
1282
1283
1284
1285
1286
1287
1288
1289
1290
0
5cm

Fig. 203　石鏃①

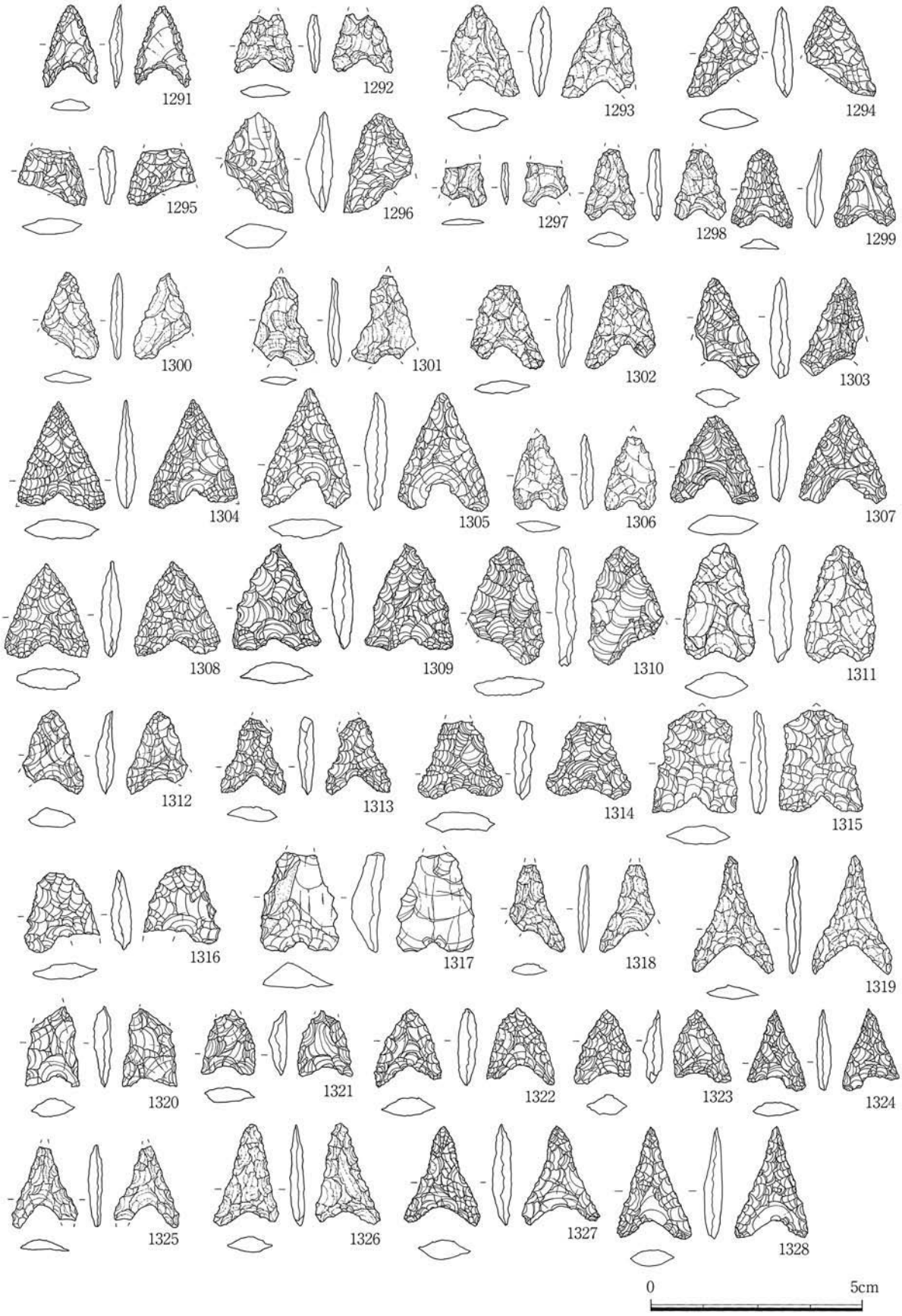

1291
1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1312
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
1320
1321
1322
1323
1324
1325
1326
1327
1328
0
5cm

Fig. 204　石鏃②

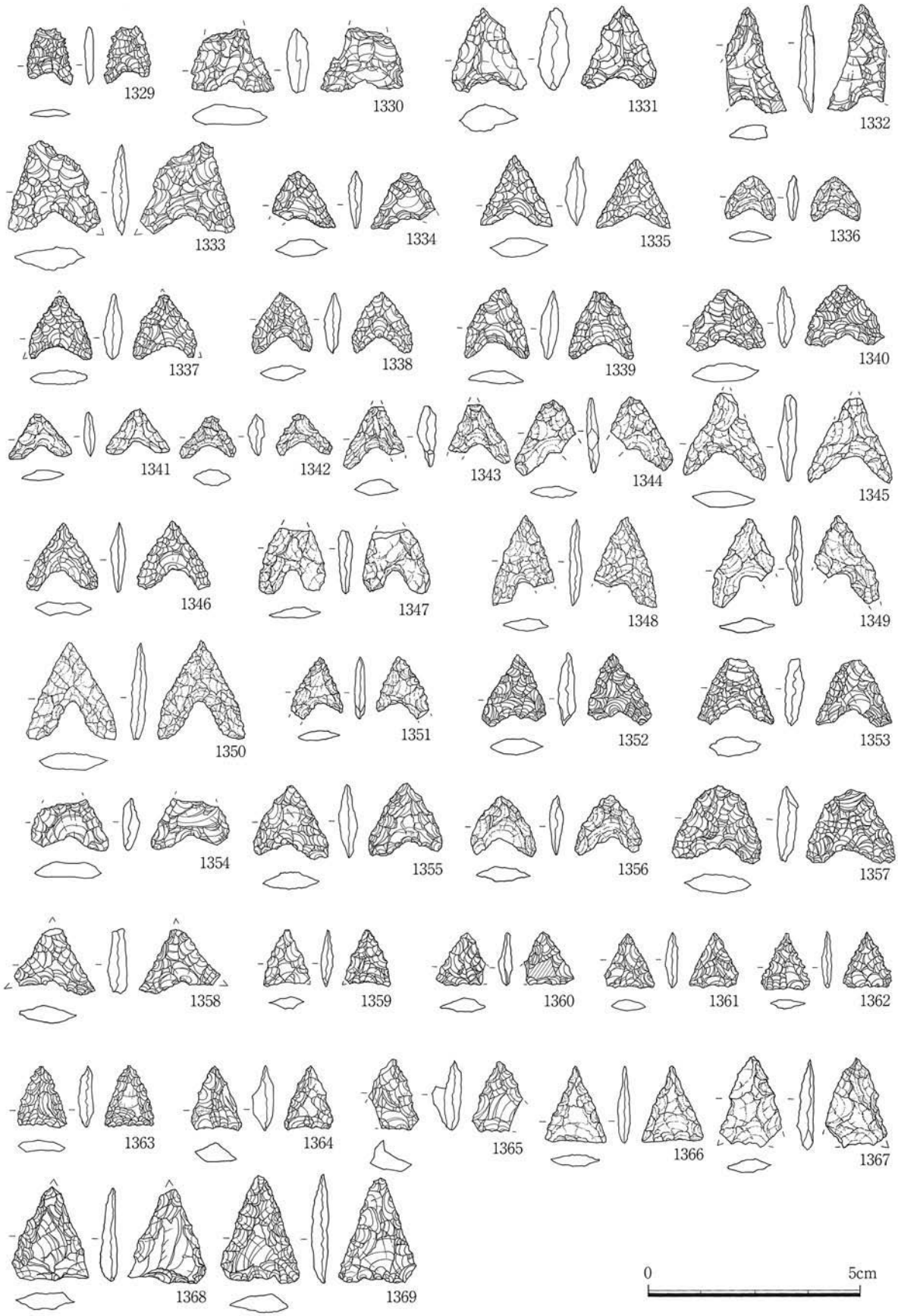

1329
1330
1331
1332
1333
1334
1335
1336
1337
1338
1339
1340
1341
1342
1343
1344
1345
1346
1347
1348
1349
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
0
5cm

Fig. 205　石鏃③

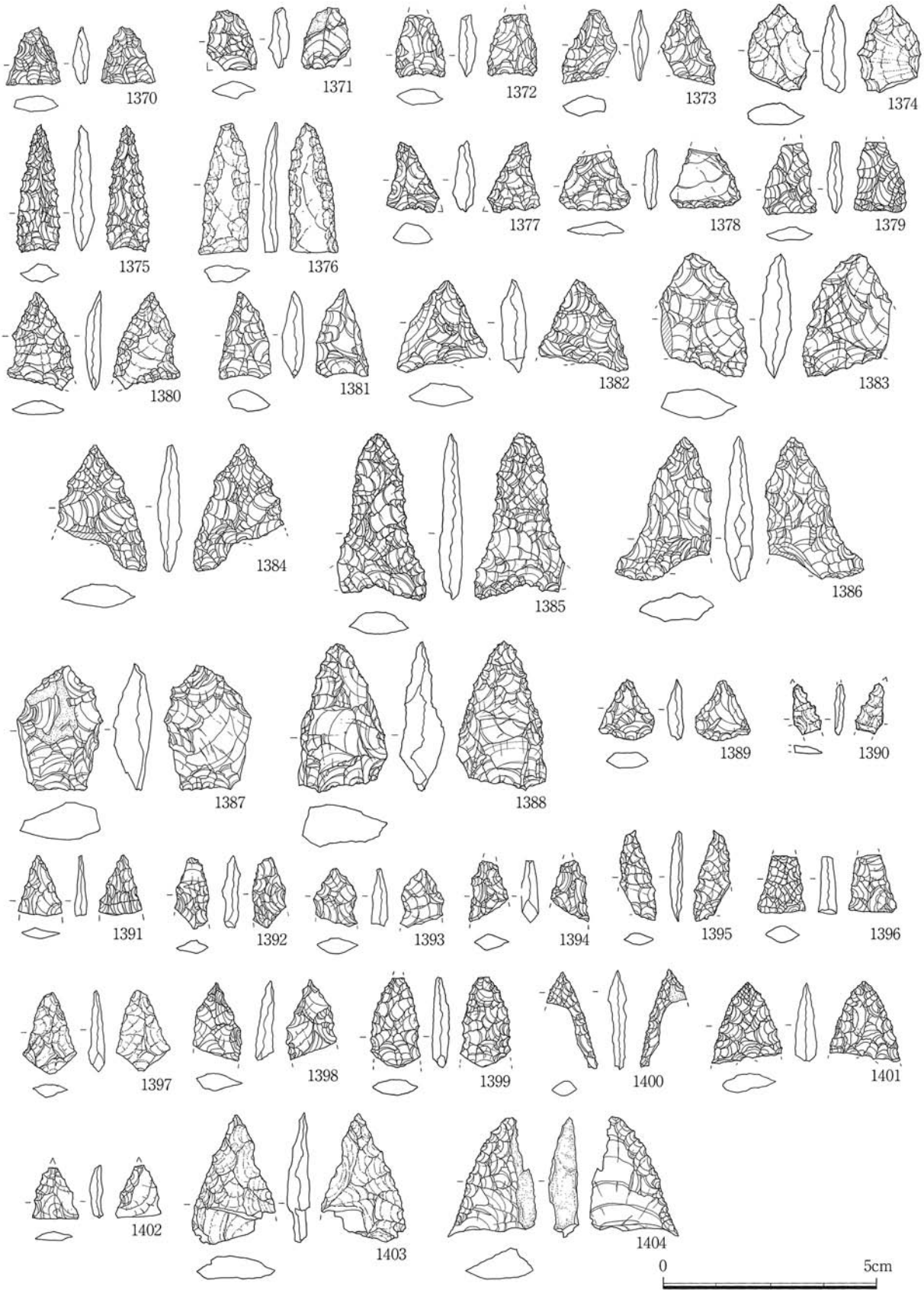

1370
1371
1372
1373
1374
1375
1376
1377
1378
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
1398
1399
1400
1401
1402
1403
1404
0
5cm

Fig. 206　石鏃④

Tab. 23　石鏃　計測・分類表 ①

Fig. 番号	図版 番号	層	出土地点	石　材	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	分　類						特　徴
203	1245	Ⅵ	K-3/TR-12西バンク	チャート	1.11	1.20	0.21	0.20	I	1	①	あ	a	A	調整細かく、鋸歯状を呈す。
203	1246	Ⅶ	ブロック4	チャート	1.36	1.21	0.25	0.30	I	1	①	あ	a	A	調整細かく、鋸歯状を呈す。
203	1247	Ⅴ	A地点	チャート	0.80	1.00	0.20	0.20	I	1	①	あ	a	B	調整細かく、鋸歯状を呈す。
203	1248	Ⅴ	G-5	チャート	1.30	0.80	0.20	0.20	I	1	①	あ	a	A	調整細かく、鋸歯状を呈す。
203	1249	−	TR-4南側下	チャート	1.37	1.05	0.20	0.30	I	1	①	あ	a	D	
203	1250	−	−	チャート	1.40	1.00	0.20	0.30	I	1	①	あ	a	D	
203	1251	Ⅴ	F-4⑬	チャート	1.45	1.30	0.30	0.30	I	1	①	あ	a	D	薄い。
203	1252	Ⅷ-a	J-5⑪	チャート	1.71	1.25	0.36	0.50	I	1	①	あ	a	E	
203	1253	Ⅳ	FG-5	サヌカイト	2.10	1.10	0.30	0.80	I	1	①	あ	b	D	
203	1254	−	東バンクS	チャート	2.00	1.20	0.40	1.00	I	1	①	あ	a	D	調整細かく、鋸歯状を呈す。ぶ厚い。
203	1255	Ⅵ	F-5⑦	チャート	0.97	0.80	0.17	0.10	I	1	①	い	b	A	極めて薄く小形。背腹共基部及び側縁片側のみ加工。
203	1256	Ⅴ	H-5⑥	チャート	1.68	1.42	0.36	0.70	I	1	①	い	b	D	
203	1257	Ⅶ		チャート	2.53	1.84	0.77	2.70	I	1	①	え	e	C	調整が中央まで達してないためぶ厚い。調整の失敗で側縁がガタガタする。
203	1258	Ⅶ	TR-11北バンク	チャート	1.50	1.30	0.20	0.30	I	1	①	う	b	D	先端尖る。極めて薄い。調整細かく、鋸歯状を呈す。
203	1259	Ⅶ-R	F-4⑫	チャート	1.09	1.46	0.30	0.40	I	1	①	う	a	B	
203	1260	Ⅵ	E-6⑮	チャート	1.44	1.02	0.29	0.30	I	1	②	あ	a	D	
203	1261	Ⅷ-a	K-4④	サヌカイト	1.23	1.95	0.29	0.70	I	1	②	あ	a	E	
203	1262	Ⅶ	ZT/F-6	チャート	1.10	0.80	0.10	0.10	I	1	④	い	b	D	
203	1263	Ⅴ	A地点	チャート	1.26	0.99	0.14	0.10	I	1	④	い	a	A	極めて薄い剥片を利用し側縁は先端部のみ加工。
203	1264	Ⅶ-1	Ⅰ-5③/TR6西バンク	チャート	1.34	1.12	0.43	0.30	I	1	④	い	a	A	背面は調整が中央に至らず厚みがある。
203	1265	Ⅵ	F-7④	チャート	1.20	1.19	0.32	0.30	I	1	④	い	b	B	
203	1266	Ⅶサイカ	F-6④	チャート	1.33	1.10	0.37	0.40	I	1	④	い	b	A	基部及び両側の先端のみ加工。
203	1267	Ⅶ-2	Ⅰ-5②	チャート	1.40	0.90	0.20	0.30	I	1	④	い	a	A	極薄い剥片を使用。
203	1268	−	−	サヌカイト	2.01	1.61	0.64	0.90	I	1	④	う	a	E	ぶ厚い。
203	1269	−	Ⅰ-8④/サブトレ①	チャート	2.30	2.10	0.50	1.10	I	1	④	う	b	A	先端が長く鋭い。
203	1270	Ⅶ-R	TR-B南バンク	チャート	1.30	0.80	0.20	0.20	I	1	④	え	a	D	
203	1271	Ⅶ-R	F-4⑫	チャート	1.35	1.14	0.26	0.30	I	1	④	え	b	C	
203	1272	Ⅵ	F-5⑧	サヌカイト	1.27	1.27	0.42	0.40	I	1	④	え	d	B	
203	1273	−	H-5	チャート	1.20	1.00	0.30	0.40	I	1	④	え	a	B	
203	1274	−	−	チャート	1.66	1.19	0.24	0.30	I	1	④	え	a	D	
203	1275	Ⅶ	L-3⑨	チャート	2.10	1.20	0.40	0.90	I	1	④	え	a	D	
203	1276	Ⅴ	−	チャート	2.40	1.40	0.40	1.90	I	1	④	え	f	B	
203	1277	Ⅶサイカ	G-5⑥	チャート	0.88	1.00	0.24	0.10	I	2A	①	あ	a	E	小形。
203	1278	Ⅳ	E-6-S	チャート	1.56	1.19	0.31	0.30	I	2A	①	あ	a	A	
203	1279	Ⅵ	K-5/ブロック3	チャート	1.61	1.15	0.23	0.20	I	2A	①	あ	a	D	
203	1280	Ⅴ	−	チャート	2.00	0.80	0.30	0.50	I	2A	①	あ	b	D	
203	1281	Ⅴ	A地点	チャート	1.80	0.90	0.30	0.60	I	2A	①	あ	d	D	
203	1282	Ⅴ	F-5⑦	チャート	2.00	0.90	0.30	0.50	I	2A	①	あ	a	D	欠損面が摂理面。
203	1283	Ⅶ-2	Ⅰ-5④	チャート	1.70	1.20	0.40	0.70	I	2A	①	あ	a	A	側縁が張り、五角形を呈する。

Tab. 23　石鏃　計測・分類表 ②

Fig. 番号	図版 番号	層	出土地点	石　材	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	分　類						特　徴
203	1284	Ⅶ	ZT/F−6	サヌカイト	1.80	1.20	0.20	0.50	I	2A	①	あ	a	D	
203	1285	Ⅵ	F−7④	チャート	2.05	1.50	0.40	0.70	I	2A	①	あ	a	A	
203	1286	Ⅳ	E−4	黒曜石	2.40	1.00	0.40	0.70	I	2A	①	あ	a	D	
203	1287	−	−	チャート	2.41	1.55	0.46	1.00	I	2A	①	あ	e	D	腹面基部のみ加工。
203	1288	−	−	チャート	1.95	2.00	0.45	1.20	I	2A	①	あ	a	B	
203	1289	Ⅶ	F−4	サヌカイト	2.60	1.90	0.40	1.90	I	2A	①	あ	a	B	
203	1290	Ⅶ	ブロック③	チャート	1.90	1.80	0.40	1.50	I	2A	①	あ	a	B	
204	1291	Ⅴ	TR−3−S	黒曜石	1.90	1.10	0.20	0.40	I	2A	①	い	b	A	
204	1292	Ⅳ	TR−3/C地点	サヌカイト	1.33	1.42	0.33	0.40	I	2A	①	い	a	B	
204	1293	Ⅳ	58西	サヌカイト	2.10	1.40	0.50	1.20	I	2A	①	い	f		調整が中央まで及ばず、ぶ厚い。
204	1294	−	G−7−S	チャート	2.10	1.70	0.50	1.20	I	2A	①	い	a	D	
204	1295	Ⅴ	F−5④	チャート	1.15	0.63	0.46	0.70	I	2A	①	い	a	E	
204	1296	Ⅴ	G−5⑦⑪/TR−4西	チャート	2.32	1.57	0.61	1.70	I	2A	①	い	d	D	
204	1297	Ⅴ	A地点	サヌカイト	1.00	105.00	0.15	0.20	I	2A	②	あ	b	F	
204	1298	−	−	サヌカイト	1.65	1.22	0.37	0.40	I	2A	②	あ	a	B	
204	1299	Ⅶ	F−6･7	チャート	1.85	1.40	0.40	0.70	I	2A	②	あ	b	A	
204	1300	−	ZT	サヌカイト	1.92	1.27	0.28	0.46	I	2A	②	あ	a	D	
204	1301	−	G−7−S	サヌカイト	2.03	1.46	0.18	0.60	I	2A	②	あ	a	F	右側縁は抉れる。
204	1302	Ⅳ	58西	サヌカイト	1.90	1.30	0.30	0.70	I	2A	②	あ	a	D	先端尖らず丸い。
204	1303	Ⅵ	F−6⑮	チャート	2.33	1.51	0.51	1.00	I	2A	②	あ	a	C	腹面は礫面が残る。
204	1304		SX−2付近	チャート	2.49	2.07	0.47	1.70	I	2A	②	あ	a	D	
204	1305	Ⅶ	G−7	チャート	2.70	1.70	0.50	2.10	I	2A	②	あ	a	A	
204	1306	Ⅴ	G−5⑨	サヌカイト	1.70	1.10	0.20	0.50	I	2A	②	い	b	B	
204	1307	Ⅷ−a	RS	チャート	2.04	2.02	0.46	1.30	I	2A	②	い	a	A	調整細かい。
204	1308	−	G−7−S	チャート	2.20	2.00	0.50	1.40	I	2A	②	い	a	A	
204	1309	Ⅴ	F−6⑮	チャート	2.47	2.08	0.50	2.10	I	2A	②	い	a	A	
204	1310	Ⅳ	G−7	チャート	2.70	1.80	0.50	1.80	I	2A	②	い	a	D	
204	1311	Ⅶ	L−4⑤	頁石	2.70	1.50	0.50	1.90	I	2A	②	い	a	A	
204	1312	Ⅴ	TR3②	チャート	1.93	1.41	0.46	0.70	I	2A	②	う	a	D	先端はね上がる。
204	1313	Ⅶ	TR−3 NSB	チャート	1.78	1.51	0.39	0.60	I	2A	②	う	a	B	
204	1314	Ⅶ	TR−11	チャート	1.79	1.95	0.47	1.30	I	2A	②	う	a	B	先端部長く、先端はね上がる。
204	1315	−	ZT/F−6⑧	チャート	2.40	1.50	0.40	1.90	I	2A	②	う	a	B	側辺が張り、五角形を呈す。
204	1316	Ⅴ	TR−3	チャート	1.70	1.50	0.30	1.20	I	2A	②	え	a	D	
204	1317	Ⅷ−a	K−3/TR−12	チャート	2.30	1.82	0.75	2.30	I	2A	②	え	e	B	背面、基部及び左側のみ加工。
204	1318	Ⅳ	ZT（F−7）	サヌカイト	2.04	1.30	0.25	0.40	I	2A	③	う	a	E	先端長い。
204	1319	Ⅳ	E−4	サヌカイト	2.70	1.20	0.40	0.80	I	2A	③	う	a	A	先端長い。
204	1320	Ⅴ	−	チャート	1.80	1.00	0.40	0.70	I	2A	④	あ	a	B	
204	1321	Ⅶ	Q−4	チャート	1.50	1.27	0.37	0.60	I	2A	④	い	a	B	
204	1322	Ⅴ	B地点	チャート	1.70	1.20	0.40	0.80	I	2A	④	い	a	A	
204	1323	−	J−7	チャート	1.70	1.00	0.50	0.70	I	2A	④	い	f	A	
204	1324	Ⅴ	F−5⑥	チャート	1.90	1.38	0.32	0.50	I	2A	④	う	a	A	先端鋭い。
204	1325	Ⅳ	ZT（F−7）	サヌカイト	1.91	1.54	0.33	0.40	I	2A	④	う	a	E	
204	1326	Ⅳ	−	サヌカイト	2.33	1.55	0.36	0.70	I	2A	④	う	a	A	先端長い。
204	1327	Ⅴ	A地点	チャート	2.30	1.10	0.40	1.00	I	2A	④	う	a	A	

Tab. 23　石鏃　計測・分類表 ③

Fig. 番号	図版 番号	層	出土地点	石　材	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	分　類						特　徴
204	1328	Ⅴ	F−5杭周辺	チャート	2.60	1.73	0.44	1.10	Ⅰ	2A	④	う	a	A	
205	1329	Ⅵ	F−6⑦	チャート	1.35	1.10	0.24	0.20	Ⅰ	2A	④	え	a	B	調整細かく、鋸歯状を呈す。
205	1330	Ⅴ	F−7	チャート	1.51	1.91	0.52	1.20	Ⅰ	2A	④	え	a	B	
205	1331	Ⅴ	−	チャート	1.90	1.50	0.60	1.60	Ⅰ	2A	④	え	f	A	調整が中央まで及ばず、ぶ厚い。
205	1332	Ⅴ	B地点	チャート	2.46	1.43	0.39	1.00	Ⅰ	2A	④	え	b	D	腹面左側縁は未調整。
205	1333	−	J−8⑥	チャート	2.10	1.70	0.50	1.70	Ⅰ	2A	④	え	a	F	
205	1334	Ⅷ−a	TR−3−S	チャート	1.20	1.20	0.40	0.50	Ⅰ	2A	①	あ	a	D	
205	1335	Ⅳ	E−4	チャート	1.60	1.30	0.40	0.80	Ⅰ	2B	①	あ	a	A	
205	1336		G-6/ZT-ES境界バンク	サヌカイト	1.03	1.17	0.29	0.20	Ⅰ	2B	①	い	a	A	脚部開く。小形。
205	1337	−	F−7	チャート	1.50	1.50	0.45	0.60	Ⅰ	2B	①	い	a	E	
205	1338	Ⅶ	ユニット	チャート	1.40	1.10	0.30	0.40	Ⅰ	2B	①	い	a	A	
205	1339	Ⅵ	E−7③	チャート	1.60	1.50	0.40	0.76	Ⅰ	2B	①	い	a	A	
205	1340	Ⅵ	F−6⑮	チャート	1.40	1.87	0.44	0.80	Ⅰ	2B	①	い	a	A	脚部開く。
205	1341	Ⅵ	F−7②	サヌカイト	1.06	1.49	0.27	0.20	Ⅰ	2B	③	あ	a	A	
205	1342	−	−	サヌカイト	0.97	1.33	0.37	0.30	Ⅰ	2B	③	あ	a	A	脚部開く。
205	1343	Ⅳ	F−6・7東バンク	サヌカイト	1.42	1.45	0.45	0.40	Ⅰ	2B	③	あ	a	E	
205	1344	Ⅴ	TR−3②	サヌカイト	1.60	1.20	0.20	0.40	Ⅰ	2B	③	あ	a	D	
205	1345	−	−	サヌカイト	1.98	1.97	0.41	0.70	Ⅰ	2B	③	あ	a	B	開く。
205	1346	Ⅳ	F−G−5	チャート	1.61	1.71	0.37	0.50	Ⅰ	2B	③	い	a	A	鍬形あるいは長脚。
205	1347	−	B地点	サヌカイト	1.50	1.30	0.30	0.60	Ⅰ	2B	③	い	b	B	
205	1348	Ⅶ	ZT/F−6⑪	サヌカイト	2.00	1.10	0.30	0.50	Ⅰ	2B	③	い	a	B	
205	1349	−	TR-3S東壁セクション	サヌカイト	1.84	1.47	0.34	0.50	Ⅰ	2B	③	い	a	C	鍬形あるいは長脚。
205	1350	Ⅶ	ES	サヌカイト	2.30	1.50	0.40	0.90	Ⅰ	2B	③	い	a	A	
205	1351	Ⅳ	E−4	サヌカイト	1.43	1.25	0.23	0.30	Ⅰ	2B	④	あ	a	D	薄い。
205	1352	−	J−7⑨	チャート	1.64	1.47	0.38	0.60	Ⅰ	2B	④	あ	a	A	
205	1353	−	−	チャート	1.50	1.40	0.40	0.80	Ⅰ	2B	④	あ	a	A	
205	1354	−	G−7−S	チャート	1.19	1.83	0.40	0.60	Ⅰ	2B	④	あ	b	B E	脚部開く。
205	1355	−	G−7−S	チャート	1.70	1.70	0.40	0.80	Ⅰ	2B	④	あ	a	A	
205	1356	Ⅵ	F−6⑮	サヌカイト	1.43	1.54	0.33	0.50	Ⅰ	2B	④	い	a	A	脚のみ長く、脚部開く。
205	1357	Ⅶ	ZT/F−6⑪	チャート	1.70	0.50	0.40	1.40	Ⅰ	2B	④	い	a	B	
205	1358	Ⅴ	H−5⑥	チャート	1.50	1.40	0.40	0.80	Ⅰ	2B	④	え	a	E	
205	1359	−	J−3	チャート	1.20	0.90	0.30	0.20	Ⅰ	3	⑤	あ	a	A	
205	1360	Ⅴ	TR−12東NSB	チャート	1.21	1.16	0.33	0.20	Ⅰ	3	⑤	あ	a	D	
205	1361	Ⅴ	H−5⑫	チャート	1.24	1.18	0.29	0.30	Ⅰ	3	⑤	あ	a	D	
205	1362	Ⅴ	B地点	チャート	1.30	0.80	0.20	0.30	Ⅰ	3	⑤	あ	a	C	調整細かく、鋸歯状を呈す。
205	1363	Ⅴ	TR−12西バンク	チャート	1.43	1.13	0.34	0.50	Ⅰ	3	⑤	あ	c	A	
205	1364	Ⅴ	TR−2西バンク	チャート	1.50	1.18	0.49	0.60	Ⅰ	3	⑤	あ	d	A	背面は調整が中央に至らず断面厚い。
205	1365	−	No.74〜81周辺	チャート	1.63	1.19	0.66	0.70	Ⅰ	3	⑤	あ	a	D	背面は調整が中央に至らず断面が変則。
205	1366	Ⅳ	TR−4〜7	サヌカイト	1.75	1.46	0.30	0.40	Ⅰ	3	⑤	あ	a	A	先端尖る。
205	1367	Ⅴ	−	サヌカイト	2.10	1.10	0.30	0.80	Ⅰ	3	⑤	あ	b	C	
205	1368	Ⅴ	A地点	チャート	1.20	1.30	0.40	1.10	Ⅰ	3	⑤	あ	a	B	
205	1369	−	−	チャート	2.40	1.30	0.40	1.50	Ⅰ	3	⑤	あ	b	A	

Tab. 23　石鏃　計測・分類表 ④

Fig. 番号	図版 番号	層	出土地点	石　材	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	分　類						特　徴
206	1370	Ⅶ	Ⅰ−4周辺	チャート	1.31	1.28	0.38	0.40	Ⅰ	3	⑤	い	a	A	
206	1371	Ⅶ	H−5④	チャート	1.42	1.17	0.49	0.50	Ⅰ	3	⑤	い	d	E	腹面は基部以外未調整のため菱形となる。
206	1372	−	ZT	チャート	1.50	1.00	0.40	0.60	Ⅰ	3	⑤	い	f	B	
206	1373	−	F−6⑮	チャート	0.96	1.91	0.51	0.60	Ⅰ	3	⑤	い	a	B	
206	1374	Ⅴ	A地点	サヌカイト	2.03	1.46	0.49	1.60	Ⅰ	3	⑤	い	b	C	側縁は背面は一部のみ加工。
206	1375	Ⅶ	K−3−E	チャート	2.93	1.00	0.54	1.00	Ⅰ	3	⑤	い	d	A	柳葉形。
206	1376	−	J−7	サヌカイト	3.00	1.10	0.30	1.50	Ⅰ	3	⑤	い	a	A	
206	1377	Ⅷ−R	F−4⑫	チャート	1.64	1.25	0.51	0.70	Ⅰ	3	⑤	え	b	D	
206	1378	Ⅴ	G−5	チャート	1.55	1.49	0.33	0.60	Ⅰ	3	⑤	え	b	B	
206	1379	Ⅵ	F−60	チャート	1.61	1.28	0.31	0.60	Ⅰ	3	⑤	え	a	B	先端長い。
206	1380	Ⅶ	G−5⑤/TR−A南バンク	頁石	2.27	1.53	0.35	0.70	Ⅰ	3	④	え	b	D	
206	1381	Ⅶ	K−4⑬	チャート	2.00	1.20	0.50	1.10	Ⅰ	3	⑤	え	a	A	断面形態に厚みがある。
206	1382	Ⅳ	C地点	チャート	2.04	1.97	0.48	1.60	Ⅰ	3	⑤	え	b	A	右側縁腹面のみ加工。
206	1383	−	−	チャート	2.86	2.05	0.73	3.46	Ⅱ	2	①	い	a	D	大型品。
206	1384	Ⅶ−2	TR−6東バンク/P−3	チャート	2.90	2.13	0.50	2.10	Ⅰ	2	①	い	a	D	大型品。脚部開く。五角形に近く先端尖る。
206	1385	−	NS−1	チャート	3.84	2.09	0.51	3.00	Ⅰ	2	①	う	a	D	大型品。先端はね上がる。
206	1386	−	A地点/No.51〜52周辺	チャート	3.30	1.50	0.60	3.20	Ⅱ	2	①	う	d	D	大型品。五角形気味。
206	1387	−	Ⅰ−8	チャート	2.89	1.99	0.90	4.40	Ⅱ	3	⑤	い	f	A	大型品。調整が全体に粗い。側辺が張り五角形に近い。
206	1388	Ⅱ	J−7	チャート	3.42	2.08	0.95	5.50	Ⅰ	3	⑤	い	f	A	大型品。側縁には細かい調整が施されるが、全体的には粗いため断面形態がぶ厚い。
206	1389	Ⅷ−a	K−4⑨	チャート	1.41	1.28	1.39	0.67	Ⅰ	4	⑤	あ	b	A	腹面周縁のみ加工。
206	1390	Ⅳ	E−4	サヌカイト	1.18	0.65	0.21	0.10	Ⅰ	−	−	あ	b	−	調整細かく鋸歯状を呈す。
206	1391	−	Ⅰ−70	チャート	1.22	1.01	0.26	0.20	Ⅰ	−	−	あ	a	C	
206	1392	−	TR7南端	チャート	1.66	0.79	0.44	0.40	Ⅰ	−	−	い	a	C	
206	1393	−	J−8/NS−1バンク	チャート	1.34	1.05	0.34	0.40	Ⅰ	−	−	え	a	C	
206	1394	Ⅵ	F−7③	チャート	1.42	0.91	0.39	0.40	Ⅰ	−	−	え	d	F	
206	1395	−	No.74〜81周辺	チャート	2.10	0.85	0.30	0.40	Ⅰ	−	−	え	a	D	
206	1396	−	G−7･8	チャート	1.30	1.10	0.45	0.60	Ⅰ	−	−	あ	a	F	
206	1397	Ⅶ−2	Ⅰ−5⑦	サヌカイト	1.90	0.80	0.30	0.60	Ⅰ	−	−	あ	f	C	
206	1398	Ⅷ−a	ユニット1	チャート	1.78	1.18	0.51	0.80	Ⅰ	−	−	い	a	C	
206	1399	Ⅳ	E−4	チャート	2.04	1.16	0.35	0.90	Ⅰ	−	−	い	a	B	先端長い。
206	1400	−	表採	チャート	2.28	1.16	0.40	0.30	Ⅰ	−	−	あ	a	−	調整細かい。
206	1401	Ⅴ	F−5周辺	チャート	1.80	1.60	0.50	1.10	Ⅰ	2	−	い	a	C	
206	1402	Ⅵ	F−60	チャート	1.20	0.10	0.35	0.40	Ⅰ	−	−	え	b	B	未成品。背腹とも片側縁のみの加工。使用はしたものと思われる。
206	1403	Ⅳ	TR−3−S　東壁	サヌカイト	2.96	1.93	0.54	1.90	Ⅰ	−	−	え	a	C	調整が中央に至らず断面ぶ厚い。未製又は失敗品。基部加工の折失敗。使用はしたと思われる。
206	1404	−	表採	チャート	2.74	2.05	0.67	2.70	Ⅰ	−	−	え	e	−	基部加工なし。左側縁のみ背腹両面加工。未成品。

（19）局部磨製石斧-神子柴系石斧

（Fig.207）

神子柴系の石斧だと考えられる局部磨製石斧がG-7グリッド・Ⅳ層から出土している。同地点の同層中からは、縄文中期初頭の土器（Fig.233-2091）など他時期の遺物が混在して出土しており、この石斧の位置付けについては技術形態あるいは他地域との比較を通じて検討しなければならない。層位的には原位置を保っていないと考えられる。

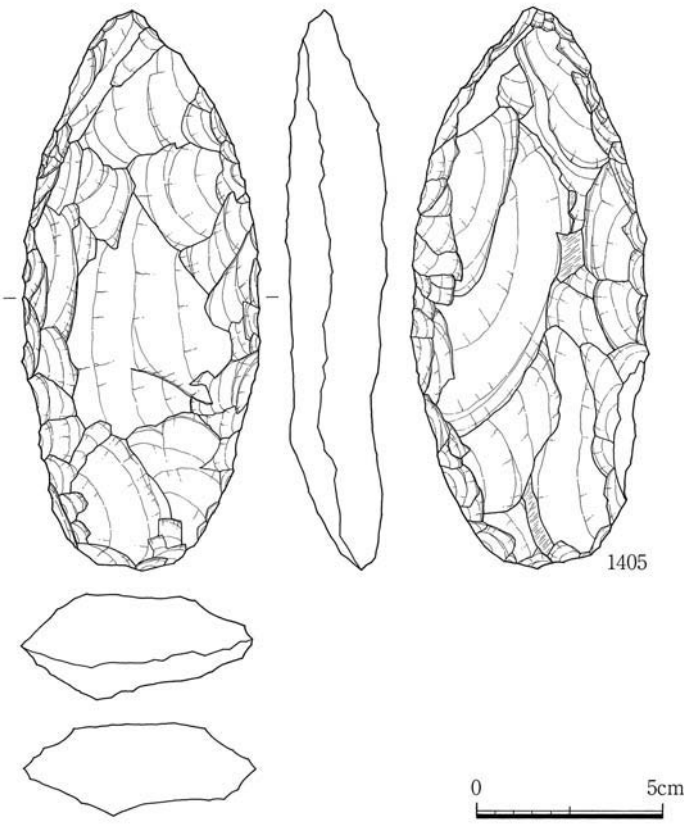


Fig. 207　局部磨製石斧（S＝1/2）

頁岩製で左側縁の腹面側のごく一部が欠けるものの、基部から刃部までほぼ全体が残る完形品である。素材剥片の粗い整形加工の後、平坦剥離による交互剥離で刃縁を造り出す。刃縁はわずかに膨らむ弧状であるが、右側縁の湾曲の度合いが強い。刃部は緩やかな弧状の平面形で、下方に若干弧を描く。基部は細くすぼまる形状で尖頭部を形成する。整形時の剥離痕を背腹両面ともに残すが、腹面側の刃部付近と中央部付近の2箇所に研磨痕が観察される。

重量は251.4g、長さ14.6㎝、幅6.3㎝、厚さ2.7㎝。

（20）有溝砥石（Fig.208）

有溝砥石が2点出土している。いずれも砂岩製である。

1406は薄い板状の砂岩を素材としている。部分的に表面が剥落するが、残存部の状況から8㎜前後の厚さの板状の素材だったと考えられる。断面Ｕ字形の溝が表裏面に各々一条ずつ残っており、溝の中に溝と同じ方向の擦痕が観察される。擦痕は明瞭であり、強く痕跡をとどめている。器表の剥落のため失われた部分もあるが、残存する溝の状況から、本来の溝は幅9㎜、深さ3.5㎜前後だったと推定される。裏面は溝の幅が若干狭く7.2～8.4㎜、深さは3.5㎜前後である。

1406は器面に赤変が観察され、被熱した資料だと考えられる。硬質の砂岩ではなく、表面がもろくなっている。出土したのは2号岩陰の調査の最終段階であり、地層観察のため最後まで残しておいたTR－11北側の東西バンク西端のⅦ層（Ⅶ-1層）からである。

1407は断面Ｕ字形の砂岩円礫の割れ口の平坦面に円礫の側縁方向に垂直な方向に一条の溝が残る。溝の断面はＵ字形であり、溝と同一方向の明瞭な擦痕が残っている。溝の幅は6㎜、深さは

1.4㎜で、1406の板状の有溝砥石と較べるとやや浅くなっている。砂岩は1406同様硬質ではなくもろくなっている。1046よりも砂岩の構成粒子は若干大きい。この遺物は水洗選別作業の中で確認された資料であり、出土地点は2号岩陰南地点、グリッドJ-7・③層からである。

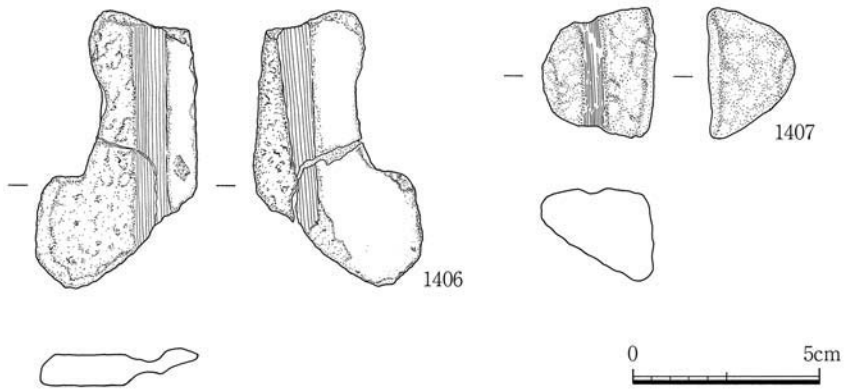


Fig. 208　有溝砥石（S＝1/2）

（21）石斧－磨製・打製（Fig.209）

石斧の出土は少なく、Ⅴ区からはFig.207の局部磨製石斧・Fig.210の太型蛤刃石斧の2点を除くと、ここに図示した石斧に限定される。1411は石斧ではなくスクレイパー（あるいは弥生時代の打製石包丁）など他器種であることを考えれば、石斧の出土は3点のみである。

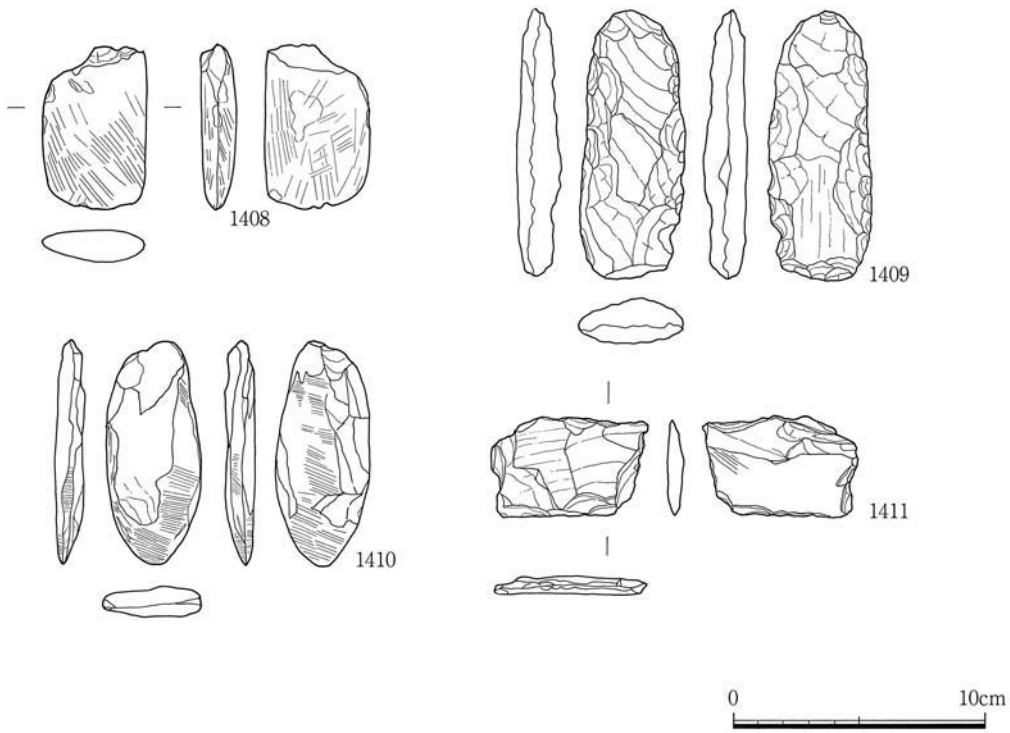


Fig. 209　石斧－磨製・打製－（S＝1/3）

1408は風化が顕著だが、泥岩質の石材を利用した磨製石斧の刃部である。平行な刃縁で、刃部の平面形は弧状である。基部は失われており、形状不明。使用石材は当遺跡においては異質なもので他に例がない。1号岩陰Ⅶ層からの出土。

1409は平行な側縁を持った打製石斧で、周縁を平坦剥離あるいは通常の剥離で粗く加工し、整形する。両面加工。蛇紋岩。2号岩陰Ⅵ層からの出土。

1410は両刃の加工斧で、刃部の周辺は全面を研磨する。蛇紋岩製で、側縁には面を形成する。1号岩陰Ⅴ層からの出土。

（22）太型蛤刃石斧（Fig.210）

明らかに弥生時代の石器だが、ここで取り扱う。剥片石器のスクレイパー類の中にも弥生時代の資料が含まれている可能性もあるが、特定することは難しく、またもし含まれていたとしても量的に僅少だと考えている。

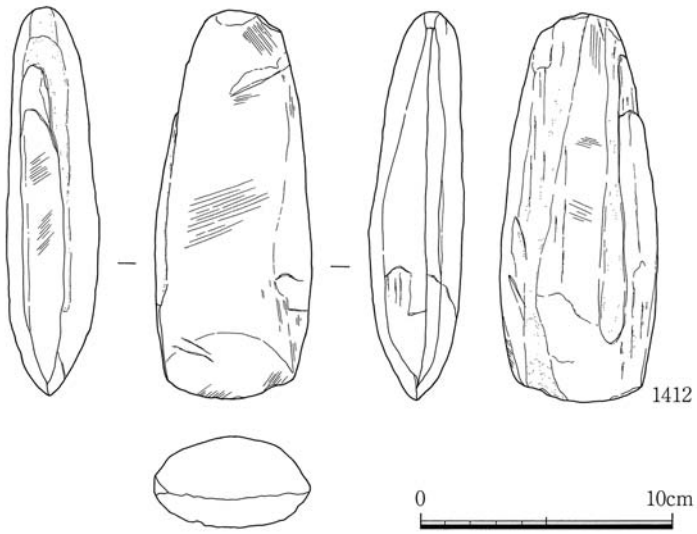


Fig. 210　太型蛤刃石斧（S＝1/3）

出土地点は1号岩陰Ⅲ層であり、調査時点ではW層としたフカフカで締まりのない層である。石材は御荷鉾緑色岩で、原材の形状のため腹面と基部側面の一部に礫面を残すが、それ以外は全面を研磨する。刃部は両刃で、摩滅のため鈍くなっている。両側縁を面取りする。左側縁の面がしっかりしているのに対し、右側縁は原礫形状を反映して内傾する面となる。

（23）石錘（Fig.211）

今回の調査で出土した石錘は合計6点、すべて砂岩製である。1416は細長く厚みのある楕円形の円礫を素材とし、それ以外はすべて平面形が楕円形の扁平な円礫素材である。これらの石錘は長辺が4㎝から6㎝、厚さ1.3㎝から1.7㎝、重さ20～60g程度の小型の石錘である。

打ち欠きによる凹部の形成は、側縁の短辺に認められるもの（1417・1418）、長辺に認められるもの（1413・1414）、短辺と長辺の両方に認められるもの（1415）など一様ではない。1416は素材も異なるが、打ち欠きによる凹部の様相も他の石錘とは違い、長辺に紐がけのための溝を持つ。1416は有溝石錘と称することができる。

出土層位は、1413～1415がⅦ層、1416がⅤ層、1417と1418がⅣ層であり、出土地点は調査区全域に散らばっている。出土層位がそのまま石錘の使用された時期と対応はしないものの、奥谷南遺跡では石錘の登場する時期はⅦ層段階（縄文時代早期）であり、Ⅶ層段階の石錘は主に長辺に

打ち欠きが認められるのに対し、より新しいⅣ層段階の石錘は短辺に打ち欠きが認められるといった程度の特徴は指摘できる。

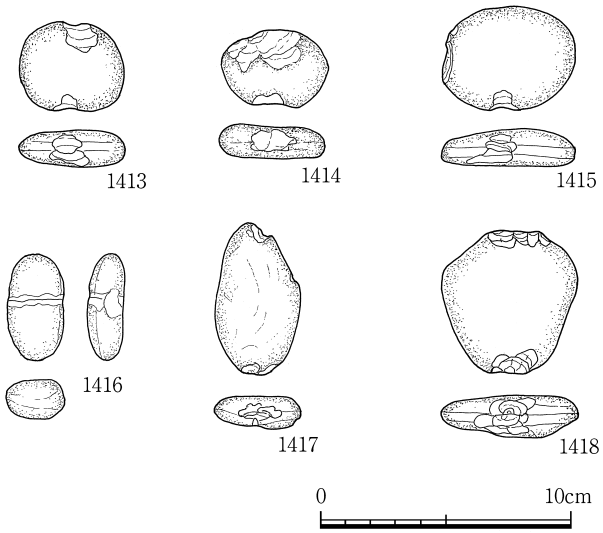


Fig. 211　石錘（S＝1/3）

（24）サヌカイト剥片（Fig.212）

1号岩陰Ⅳ層中から出土したサヌカイトの剥片である。大きさは長さ14.68㎝、幅16.32㎝、厚さ2.51㎝、重量290gと高知平野周辺では最大のもので、素材として持ち込まれ、製品化する前に何らかの理由で放棄・忘却された可能性のある遺物である。南四国に持ち込まれた遺跡出土のサヌカイト剥片類としては、大宮宮崎遺跡出土のサヌカイトに次ぐ大きさのものである。蛍光X線分析により、香川県金山産（金山東）であることが明らかになった。（サヌカイトの産地同定については、付編第１節参照）

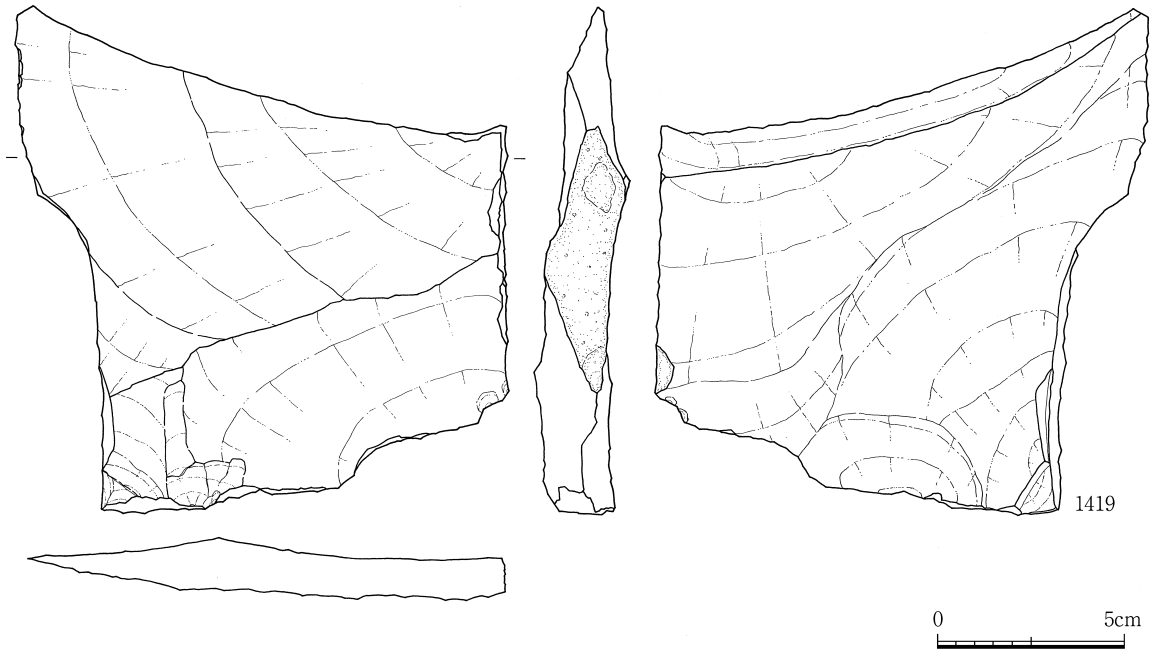


Fig. 212　Ⅳ層出土　サヌカイト剥片（S＝1/2）

Fig.番号	図版番号	出土層位	出土地点	石　材	器　　種	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特　　徴
207	1405	Ⅳ	G−7	頁岩	局部磨製石斧	251.40	14.60	6.30	2.70	刃部は両刃で、緩やかな弧状の平面形。腹面の刃部付近と中央部付近の2箇所に擦痕が観察される。それ以外には擦痕は認められない。素材の粗い整形加工の後、平坦剥離による交互剥離で刃縁を造り出す。側縁はわずかに外湾し右側縁の方が湾曲の度合いが強い。基部は尖る形状で尖頭部を形成する。
208	1406	Ⅶ−1	TR−11　北バンク	砂岩	有溝砥石	22.47	7.30	4.32	0.94	部分的に表面が剥落する。板状の素材で、表裏面に1条ずつ強い擦痕の残る溝が刻まれている。溝の幅は剥落のため全体が残っていないが、残存部から9.0mmの幅で3.5mm前後の深さだったと考えられる。赤変が認められる。
208	1407	③	J−7	砂岩	有溝砥石	23.31	3.47	3.03	2.36	砂岩円礫の割れ口の平坦面に強い擦痕のある溝が残る。溝の幅は6.0mm、深さは1.4mm。溝の方向は利用された砂岩円礫の側縁の方向に対して直交する方向である。
209	1408	Ⅶ−R	TR−B　南バンク	泥岩質の石材	磨製石斧	48.69	6.43	4.20	1.38	側縁平行。刃部は摩滅のため鈍くなる。折損のため基部形状不明。使用される石材がこの遺跡では異質。
209	1409	Ⅵ	J−5南北バンク	蛇紋岩	打製石斧	75.94	10.50	4.10	1.81	側縁は平行。周縁を平坦剥離あるいは通常の剥離で粗く加工し、整形加工する。両面加工。
209	1410	Ⅴ	H−5	蛇紋岩	磨製石斧（加工具）	51.62	8.80	3.80	1.15	基部付近は表裏面ともに素材の原礫面を残す。側縁には面を形成する。刃部はつめの先ににた形状の曲線を描く。両刃で刃の先端から1cmの箇所で6mm程度の薄さである。刃部の周面は全面を研磨する。
209	1411	Ⅳ−2	TR−3−S 東バンク	泥質片岩	打製石器（スクレイパー類）	23.28	3.90	6.15	0.78	端部（短辺）に抉りを入れ、両長辺に2次加工を加え刃部とする。折損のため全体形状は不明。弥生時代の遺物の可能性（その場合は打製石包丁）もある。
210	1412	Ⅲ	1号岩陰	緑色岩	磨製石斧	530.00	15.23	6.15	3.70	原材の形状のため腹面と基部側面の一部に礫面を残す以外全面を研磨する。両刃の刃部は摩滅し鈍くなっている。両側縁を面取りする。左側縁の面がしっかりしているのに対し、右側縁の面は原礫形状を反映し内傾。弥生時代の太型蛤刃石斧。
211	1413	Ⅶ−R	G−4	砂岩	石錘	27.32	3.59	4.19	1.42	扁平円礫素材。打ち欠きによる凹部は長辺に形成されるが、円礫自体が円形に近い楕円形のため長辺と短辺の差が小さい。
211	1414	Ⅶ	K−3	砂岩	石錘	20.73	3.01	4.20	1.33	扁平円礫素材。打ち欠きによる凹部は長辺に形成されるが、円礫自体が円形に近い楕円形のため長辺と短辺の差が小さい。
211	1415	Ⅶ	JK−6　西バンク	砂岩	石錘	43.90	4.16	5.29	1.51	扁平円礫素材。打ち欠きによる凹部は長辺と短辺に形成される。
211	1416	Ⅴ	K−5	砂岩	石錘（有溝石錘）	16.31	4.21	2.34	1.57	小型の長楕円の円礫で厚みがある。長辺に紐がけのための溝を持つ。
211	1417	Ⅳ	ZT（F−7）	砂岩	石錘	31.11	6.02	3.38	1.32	扁平長楕円円礫素材。短辺に打ち欠きによる凹部形成。
211	1418	Ⅳ	E−6−S	砂岩	石錘	60.13	5.66	5.42	1.73	扁平長楕円円礫素材。短辺に打ち欠きによる凹部形成。
212	1419	Ⅳ	1号岩陰	サヌカイト	盤状剥片	290.00	14.68	16.32	2.51	香川県金山産。（金山東）重さ290g、長さ14.68cm、幅16.32cmで現段階では高知平野最大のサヌカイト剥片。

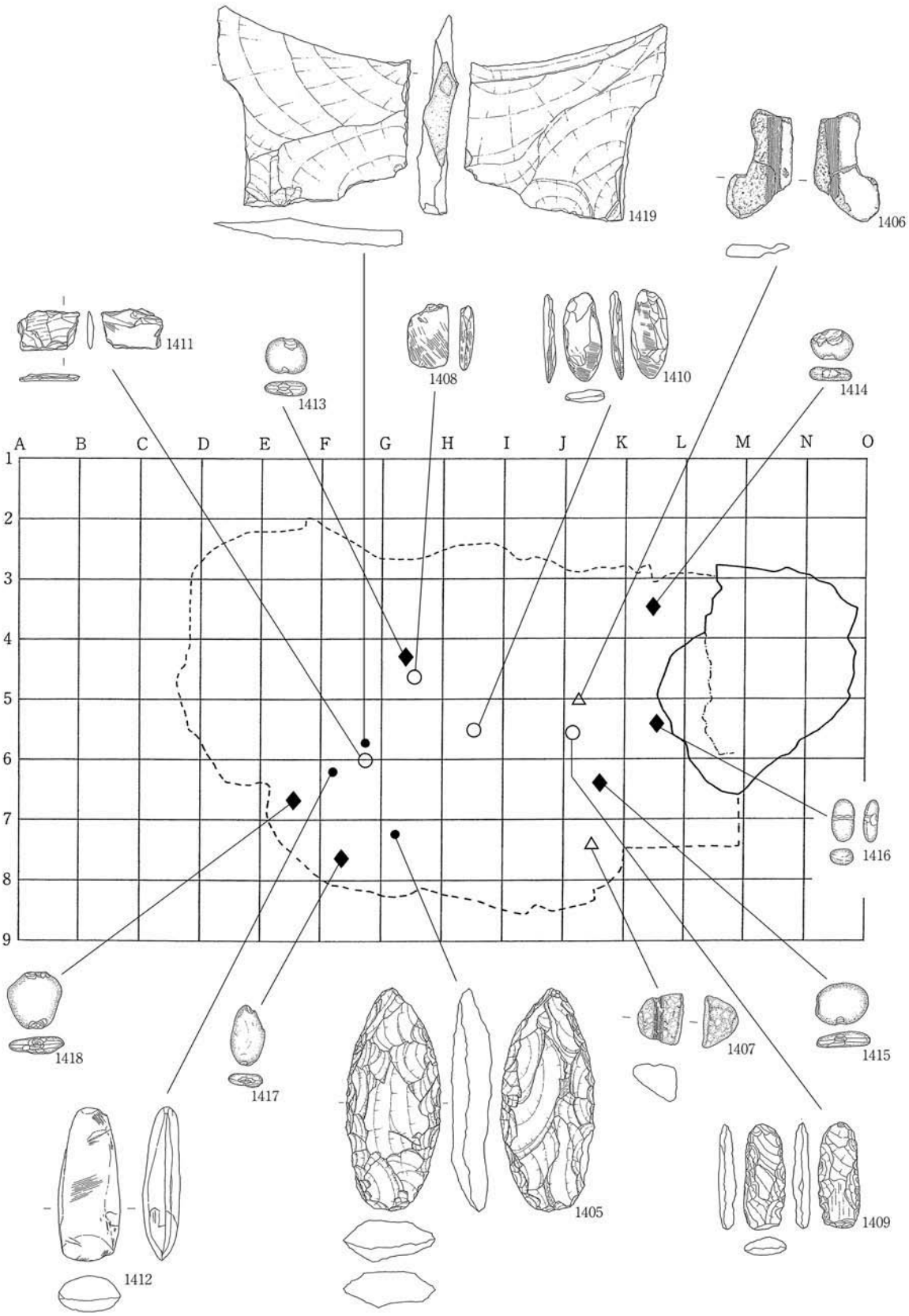


Fig. 213　局部磨製石斧・有溝砥石・石斧・石錘・サヌカイト剥片　出土地点

（25）敲石類（Fig.216～225）

敲石類の提示は層毎に示している。敲石類は、総数500点以上の出土が確認されているのだが、図示し得た資料は1420～1516の100点あまりにすぎない。Ⅶ層から下層の敲石類を中心に、特に旧石器時代の資料であるⅧ層以下の資料については、一定の大きさを持ち形状のわかる資料をできるだけ図化するようにした。

地層の堆積時期が縄文時代早期よりも新しいと考えられるⅥ層から上の層と縄文時代早期だと想定されるⅦ層および旧石器時代に形成されたⅧ層以下の層出土資料を比較すると、敲石類の明らかな違いを看て取ることができる。各層毎の敲石類の出土の状況は312頁の表のとおりだが、緩斜面であるとはいえ大きく南側に開いた斜面堆積であり、他器種同様に層出土の遺物を以て層形成時の様相だとすることはできない。しかし、少なくともⅧ層以下の資料は、旧石器時代(あるいは縄文時代草創期)以前の資料である蓋然性は高く、それゆえⅧ層以下（Ⅷ-a・Ⅷ-b・Ⅸ・Ⅹ層）で検出された敲石類については、旧石器時代の資料だと捉えている。図版掲載資料は、Ⅹ層6点、Ⅸ層5点、Ⅷ-a層30点、Ⅷ-b層14点、Ⅶ層32点、Ⅵ層4点、Ⅴ層５点、Ⅳ層10点である。

①敲石類の分類基準

敲石類については、選択される礫の形状・石材・使用される部位・残存状況・赤変（被熱）の有無という視点から観察・記録を進めた。目的用途に応じた礫形状や石材が選択され、具体的な使用方法により形状も若干変化するという理由から、形態-使用部位の2点からの分類を行なった。

形態からの分類ゆえに、分類が使用目的にそのまま結びつくわけではない。出土敲石類の使用目的にはハンマー（石器加工具）、植物食利用のための加工具の大きく2つが挙げられる。

1類-扁平な円礫を使ったもので、平面形態には円形に近い1-A類と楕円形を呈する1-B類がある。表裏面と周縁に敲打痕が認められるが、敲打痕がほとんどない資料もある。

1-A類は1477、1511、1513などより上層（Ⅶ～Ⅳ層）の資料に多くみられる。1465など少量ながらⅧ-a層出土資料にもある。また、1-B類も同様で、1479、1480、1497、1502など。1-A類と1-B類にはどちらに分類してもよい似た形状のものもある。使用部位の違いでさらに細分は可能である。

2類-円礫を使うが1類と比べて、扁平ではなく厚みを持ったもの（2-A類）、さらには卵状や球形に近いもの（2-B類）もこの類に分類した。

2類に分類できる資料は、Ⅷ-a層に多く1445、1449、1452、1455など。Ⅶ層の1486～1488も2類で、1類に較べ扁平の度合いが低い厚い円礫も2類である。ごろっとした印象のものやコロッケ状のものなど、Ⅳ層やⅤ層などの上層には少ない。

3類-棒状に細長い礫を使用したもの。整った棒状で、両端に敲打痕を残す資料が多い。

1450、1475、1478などが例として挙げられるが、出土例は少ない。

4類-不整形の礫を使用したものの中で、端部にのみ集中して敲打痕が認められるもの。一端が尖り、逆の端部は丸みを帯びる。

両端が非対称で形が整っていないことが特徴で、細い方の端部の一点に集中して敲打痕が残るものが多い。16、1459、1482、1495など類似する形状である。長さ6～10㎝、重さ100gから200g程度までの小型のものが大半で、比較的硬質の石材を選択する。

5類-細長い円礫を使用したもので、短軸と長軸の比率が1：2～1：3内外のものが多い。使用部位の特徴は端部からコーナー部にかけて敲打痕が認められること、両端に同様な使われ方をしているということである。扁平なものと膨らみを持つものがある。

図版掲載資料の中では、1476が相当する。敲打痕が両端ではなく両端の肩部にあたる部分に認められることが最大の特徴である。

6類-面をなす端部に敲打痕を持つもので、使用部位は端部のみでなく面と面の間に形成される稜にも敲打痕を残す。直方体ではなく長方体に近いサイコロ状（6-A類）と全体形状は不整形だが端部に明らかな面を残すもの（6-B類）とがある。

1440、1442などが6-A類、1483が6-B類である。

7類-扁平ではあるが一定の厚みを持つ礫を素材とし、表裏両面及び周縁に敲打痕が残る。平面形はバラエティーに富み隅丸長方形や撥形、不整形のものなど様々だが、敲打痕の深さはそろって深く、敲打痕が1つの面で2個一対となる場合が多い。凹石と呼んでも良いかもしれない。

Ⅶ層出土の1474、1481、1489などが7類である。

これらの類別に当てはまらない資料もあるが、当遺跡出土の敲石は大きくこの7類に分けて理解できる。

②層ごとの様相

これらの敲石類には出土層位の違いにより、石材選択や礫形状に大きな違いが生じてくる。奥谷南遺跡出土の敲石類は砂岩あるいは緑色岩系の円磨礫を使用するが、同じ砂岩でも縄文時代以降に使用されたと推定される敲石と旧石器時代の資料だと推定される敲石とでは、全く違った特徴を持つ。今回は、構成粒子の違いによる砂岩の割合を数値化できなかったが、Ⅷ層以下の資料では大半が褐色あるいは灰褐色と表現可能な色調に発色する粗い砂粒で構成される砂岩が主体で、表面の砂粒が剥落するほど脆い資料が多い。比較的硬質の砂岩は少なく、緑色岩・緑色片岩を利用した敲石はⅧ層で3点、Ⅸ層で1点と例外的にしか存在しない。

これに対して全出土量の半数近くの敲石類が出土するⅦ層には、緑色岩系の石材の占める割合が多くなるということと扁平な円礫あるいは楕円礫が敲石の礫形状として好んで採用されるという特徴がある。次頁の表に示すように、Ⅷ層以下の敲石に選択される砂岩が90%以上の高率なのに対し、Ⅶ層では80%以下に落ち込み、緑色岩系の石材が20～30%の割合を占めるようになる。御荷鉾緑色岩や緑色片岩の円礫がどこからもたらされたかについては、個々の石材についての再検討を要し、分布範囲が広い石材ゆえに搬入された経路が特定できるとは限らないが、縄文時代以降に高知平野に盛んに搬入され始めたサヌカイトの搬入経路と密接に関わっている可能性もある。

なお、Ⅶ層出土資料にはⅧ層以下出土資料に準ずる様相の資料も多い（褐色の表面が脆いタイ

プも出土している)。これはⅦ層の堆積母材が斜面のより上方の旧表土・堆積土であることに由来している。Ⅶ層中には本来Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ層に包含されていた敲石類も一定量混在しているのだ。

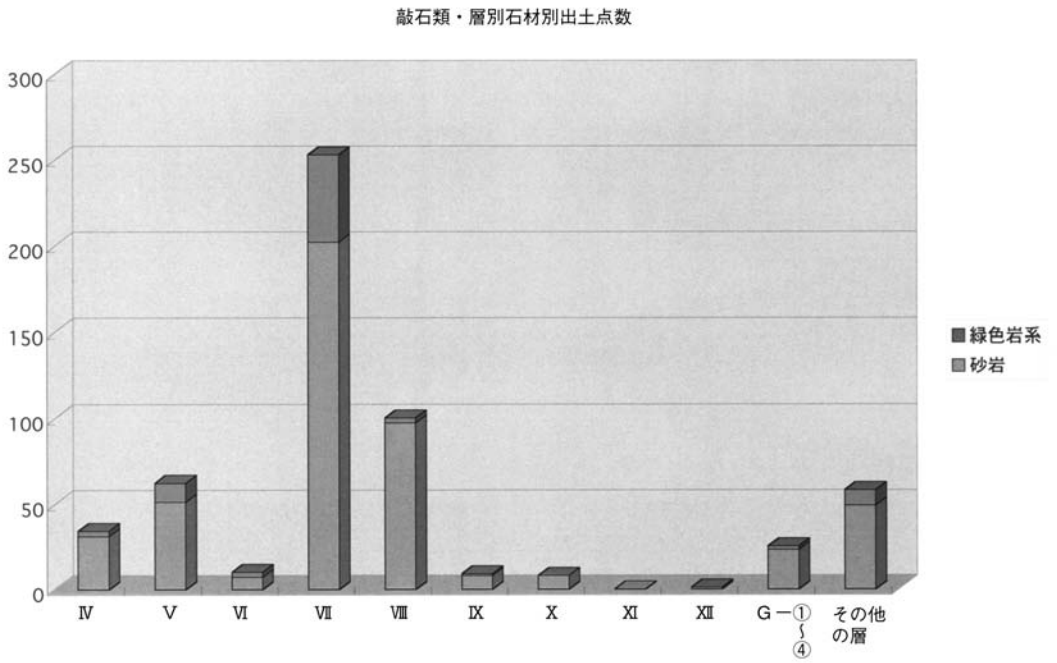
選択される礫形状が扁平になるのも、Ⅶ層から顕著になる特徴である。敲石類として取り上げた資料は、小破片のものも含むため、礫形状が判別できないものもあったのだが、そういった小片を除く約400点の礫について示した扁平・棒状・球形（あるいは卵形）・不整形の大まかな4類型によって、大きな傾向はつかむことができたと考えている。扁平とした礫は、この項で分類した1類から2類の一部まで含み、棒状としたものは3類とした資料、球形・卵形としたものは2類の一部であり、不整形としたものは主に4類に相当する。5〜7類は各々の選択する礫形状に応じて扁平になったり、卵形になったり、あるいは不整形になったりと様々である。

選択される礫形状の違いは、敲石の用途の違いを物語る。これらの敲石の形態と出土層位による形態変化・組成変化は、石器原材の当岩陰周辺が石器製作に関わる作業が行われたことと、堅果類などの植物食に依存する割合の変化を示している。

Ⅵ層以降の敲石は、Ⅶ層までの資料とは明らかに異なる。灰色で砂粒密度の高いより硬質な敲石が主体となり、形態的にも扁平な円礫を用い、周縁部及び表裏面を利用した1類敲石が大半とな

出土層位による敲石類の特徴

		石　材		砂岩の占める割合	赤　変（被熱）資　料	赤変資料の占める割合	礫形状				礫形状の判断できる個体	
出土層位	点数	砂岩	緑色岩系				扁平（1類･5類）	棒状（3類･5類）	球形･卵形（2類）	不整形（4類6･7類）	計	扁平な資料の比率
Ⅳ	34	31	3	91.2%	9	26.5%	23	0	4	5	32	71.9%
Ⅴ	62	51	11	82.3%	12	19.4%	27	5	7	14	53	50.9%
Ⅵ	10	7	3	70.0%	1	10.0%	6	0	0	1	7	85.7%
Ⅶ	254	202	51	79.5%	88	34.6%	76	9	33	87	205	37.1%
Ⅷ	100	97	3	97.0%	38	38.0%	5	3	6	30	44	11.4%
Ⅸ	9	8	1	88.9%	2	22.2%	0	0	1	0	1	0.0%
Ⅹ	8	8	0	100.0%	0	0.0%	0	0	2	0	2	0.0%
Ⅺ	0	0	0	−	0	−	0	0	0	0	0	−
Ⅻ	1	1	0	100.0%	0	0.0%	0	0	0	1	1	0.0%
G−7周辺	25	23	2	92.0%	10	40.0%	8	1	3	12	24	33.3%
その他の層	58	49	9	84.5%	10	17.2%	21	3	8	22	54	38.9%
合計	561	477	83	85.0%	170	30.3%	166	21	64	172	423	39.2%
比率		85.0%	14.8%		30.3%		39.2%	5.0%	15.1%	40.7%		



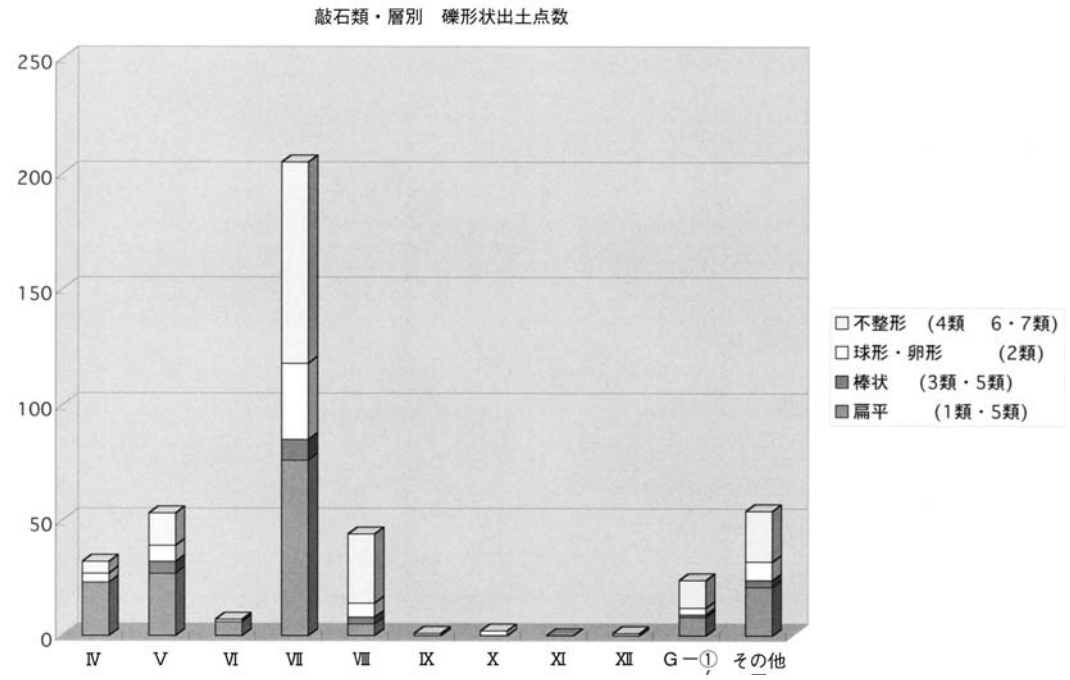


Fig. 214　敲石類・層別の出土状況

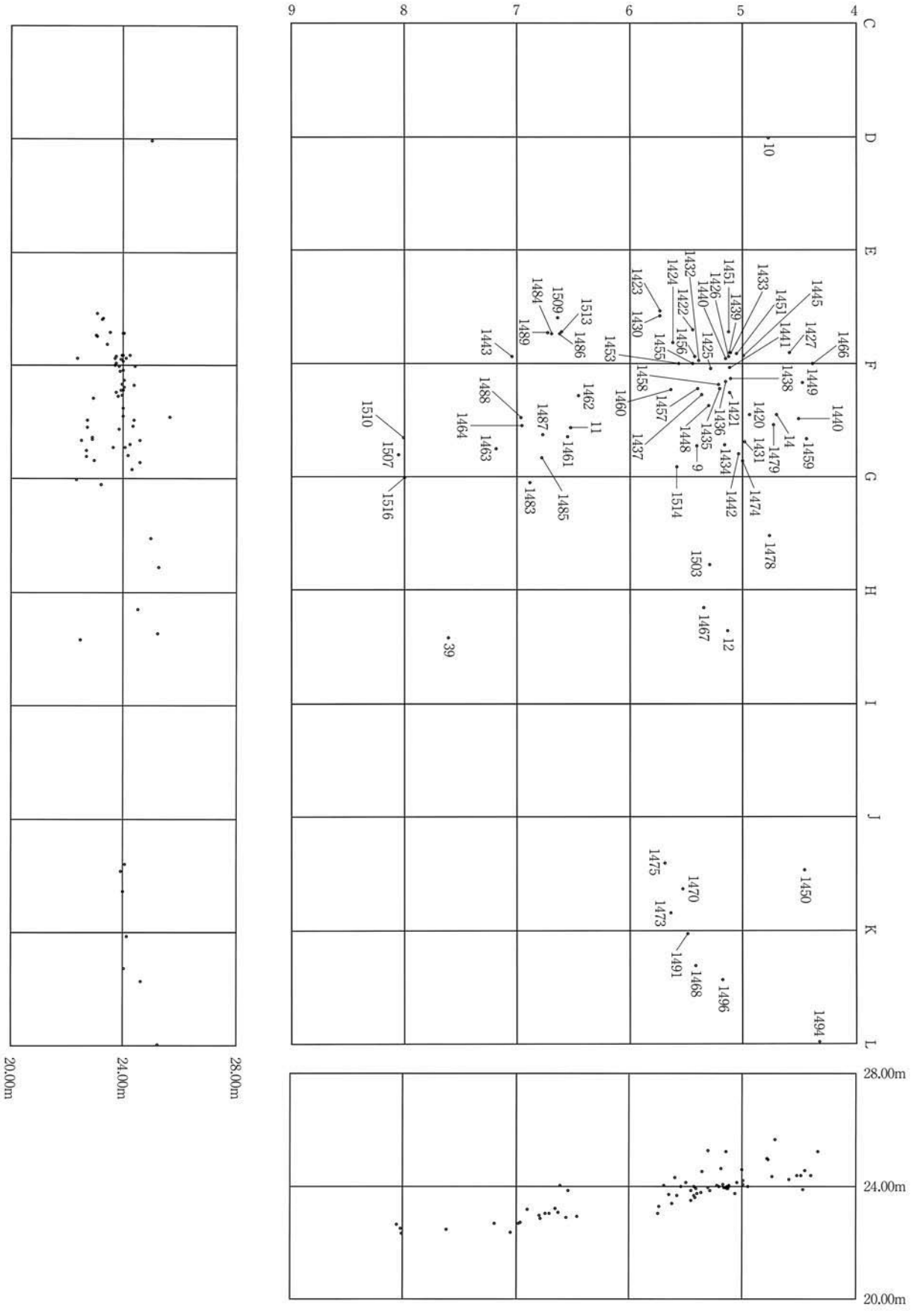


Fig. 215　敲石類出土地点（図版掲載資料）

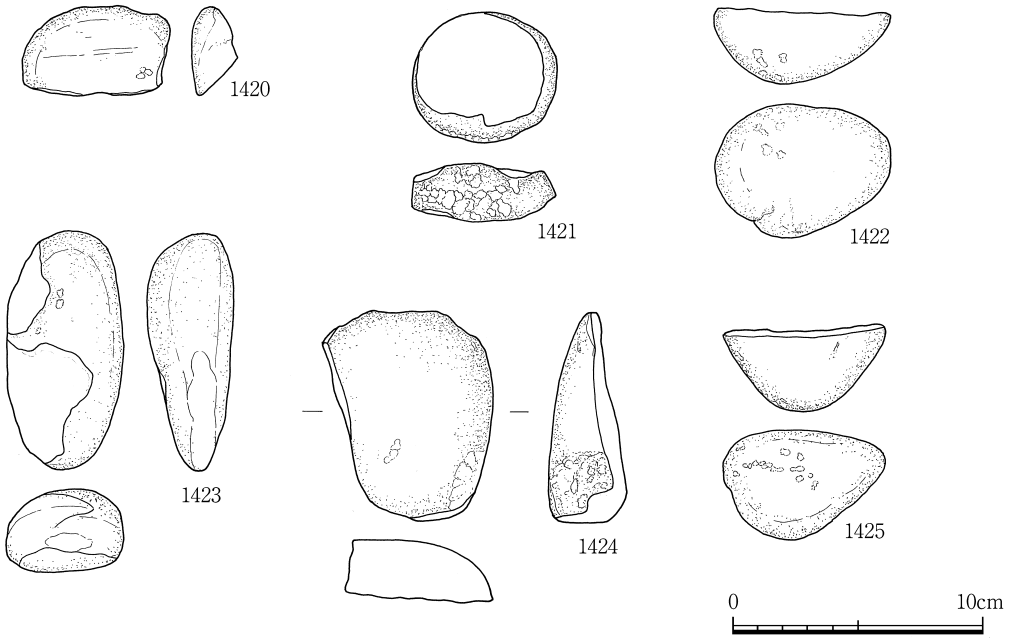


Fig. 216　敲石類①（X層）

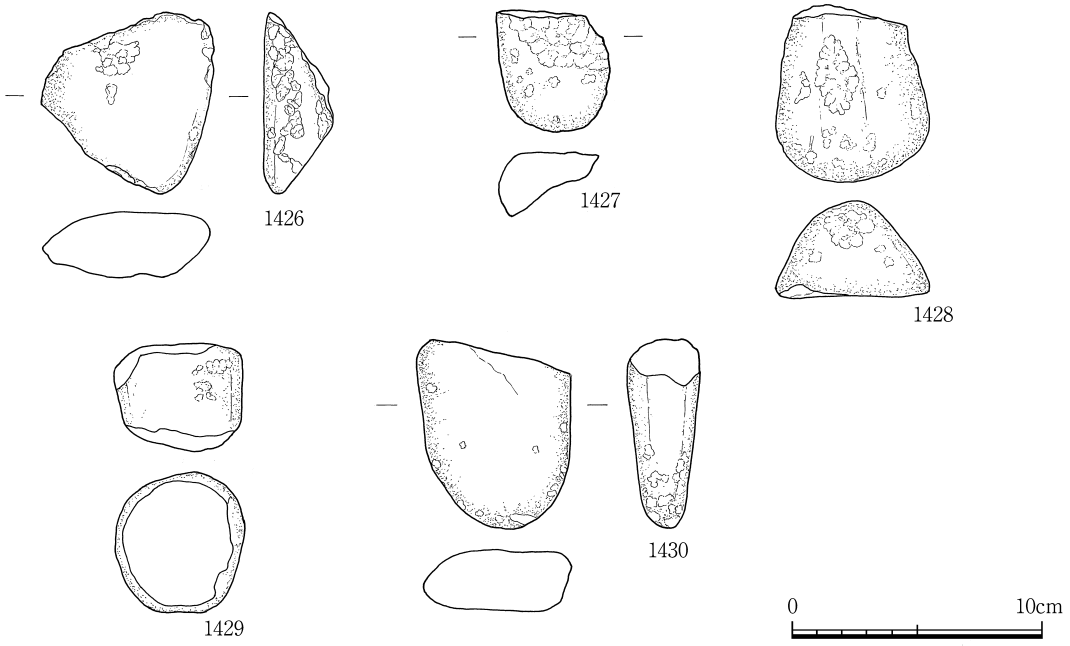


Fig. 217　敲石類②（Ⅸ層）

Fig. 218　敲石類③（Ⅷ-b層）

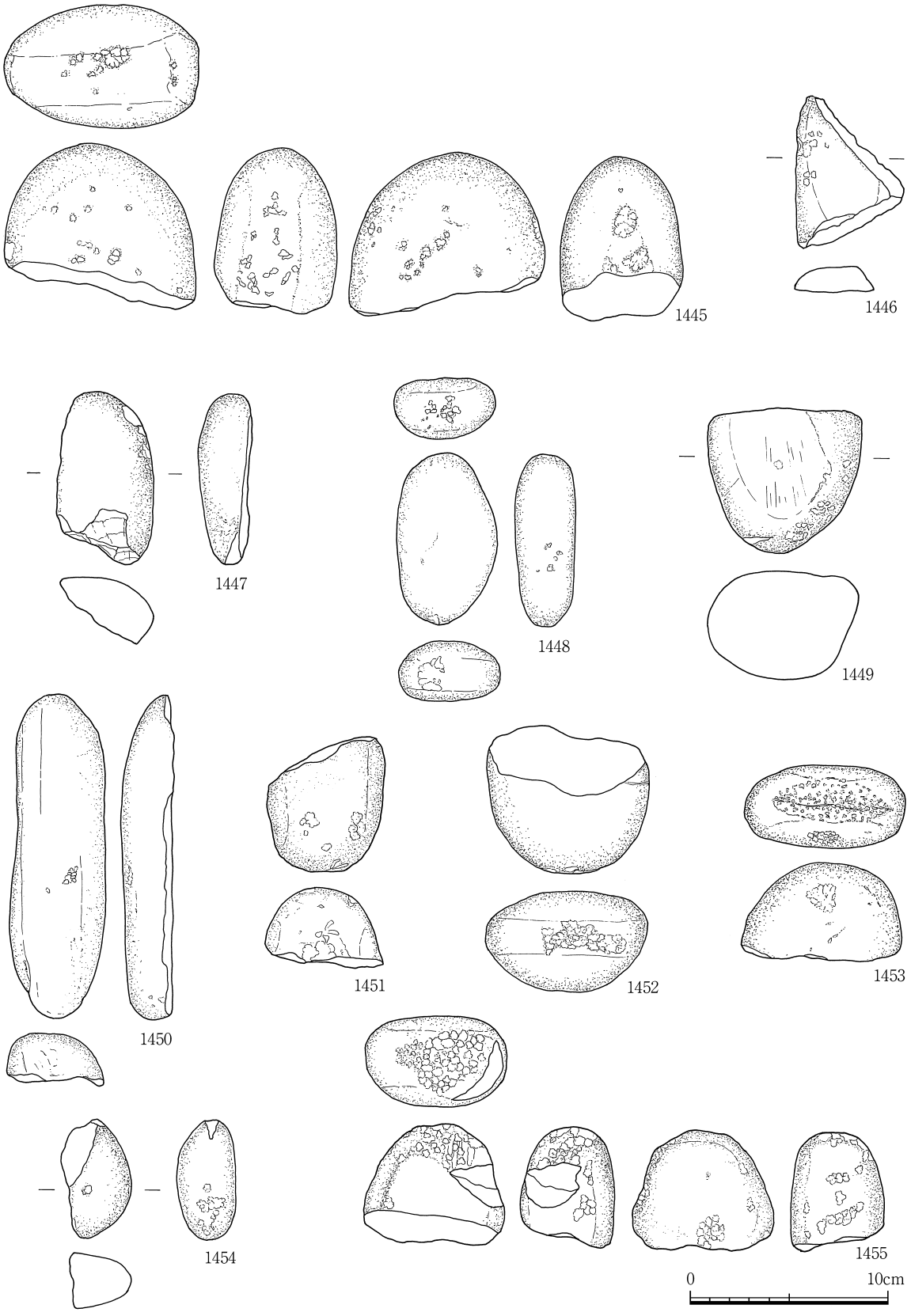


Fig. 219　敲石類④（Ⅷ-a層）

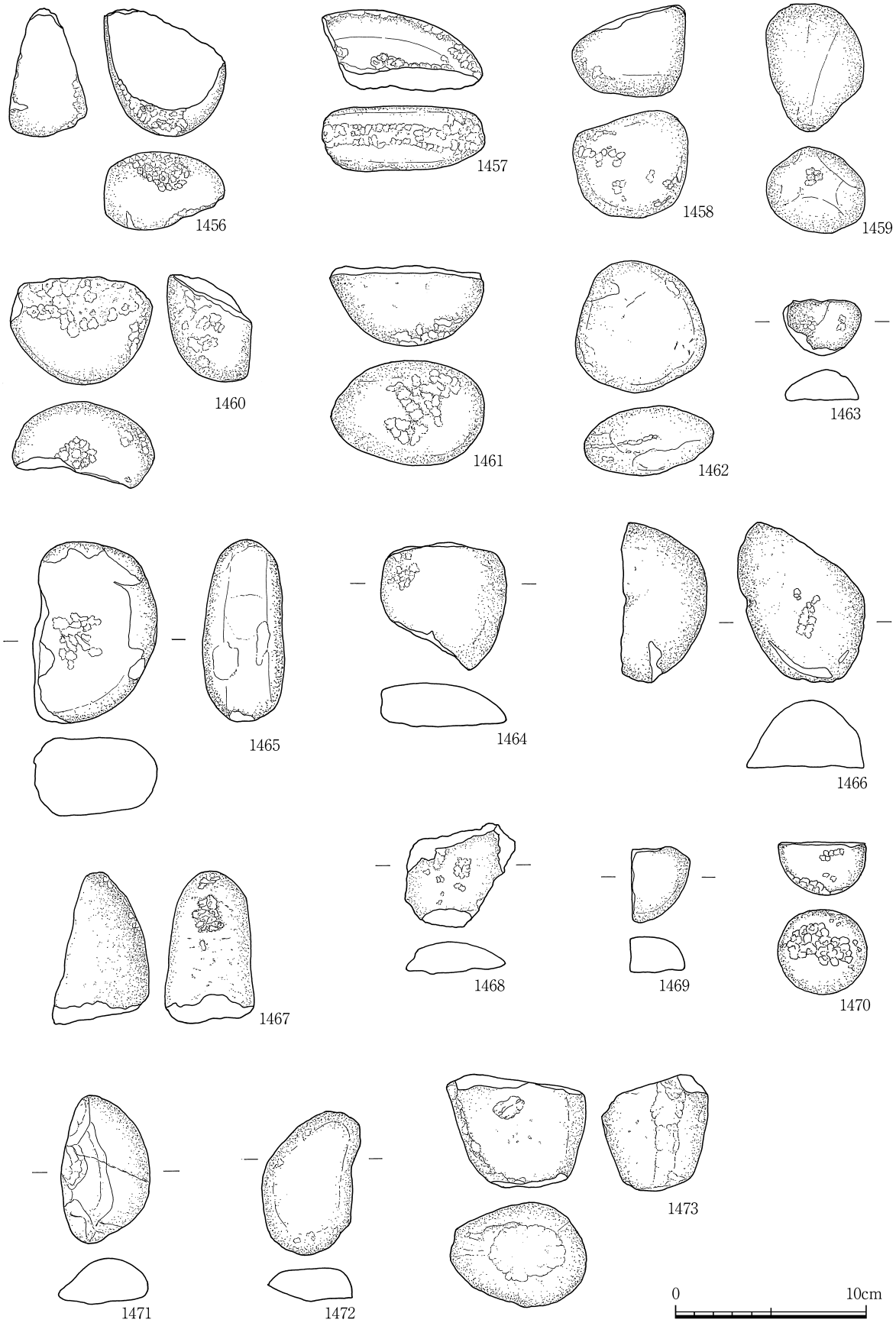


Fig. 220　敲石類⑤（Ⅷ-a層）

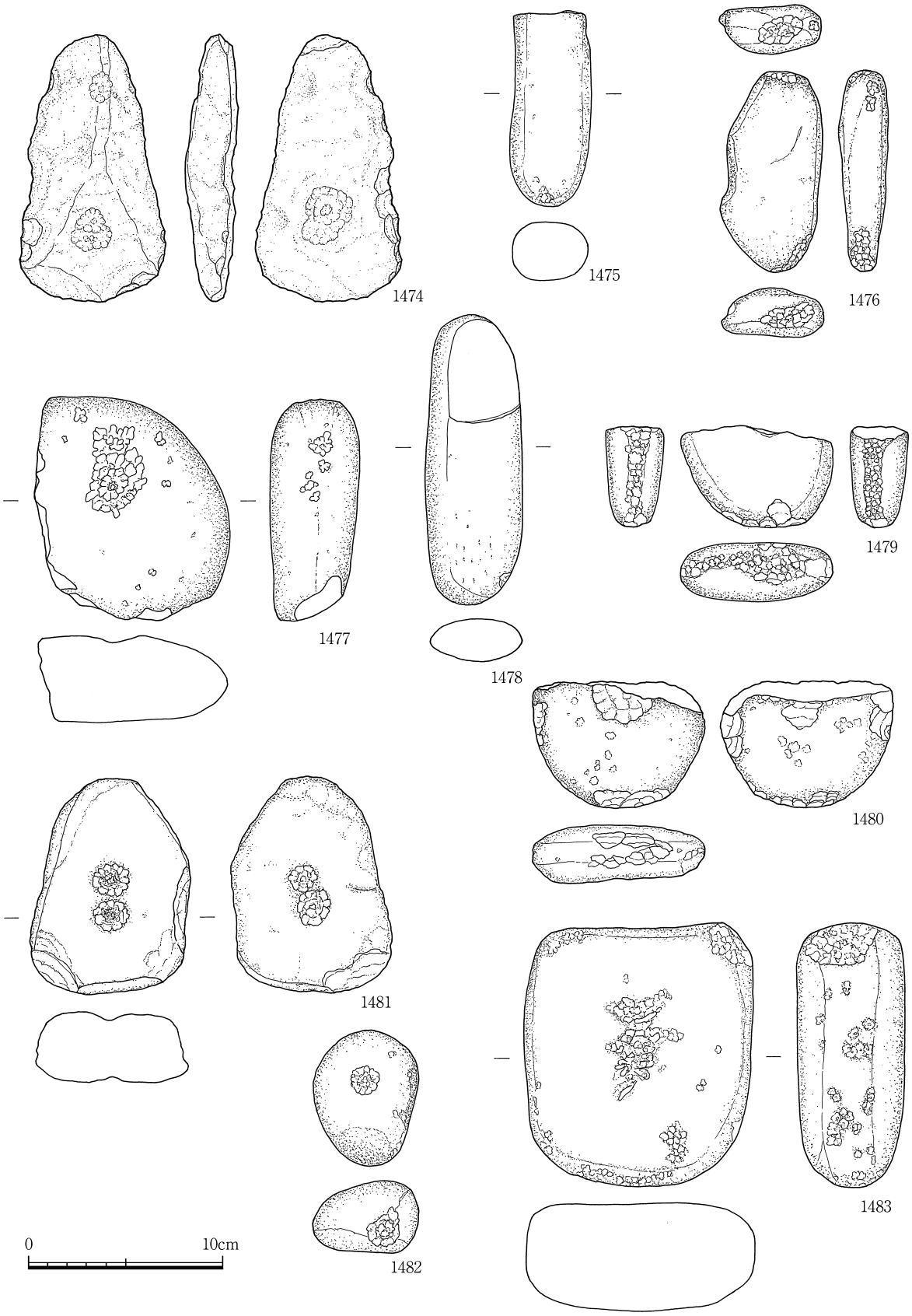


Fig. 221　敲石類⑥（Ⅶ層）

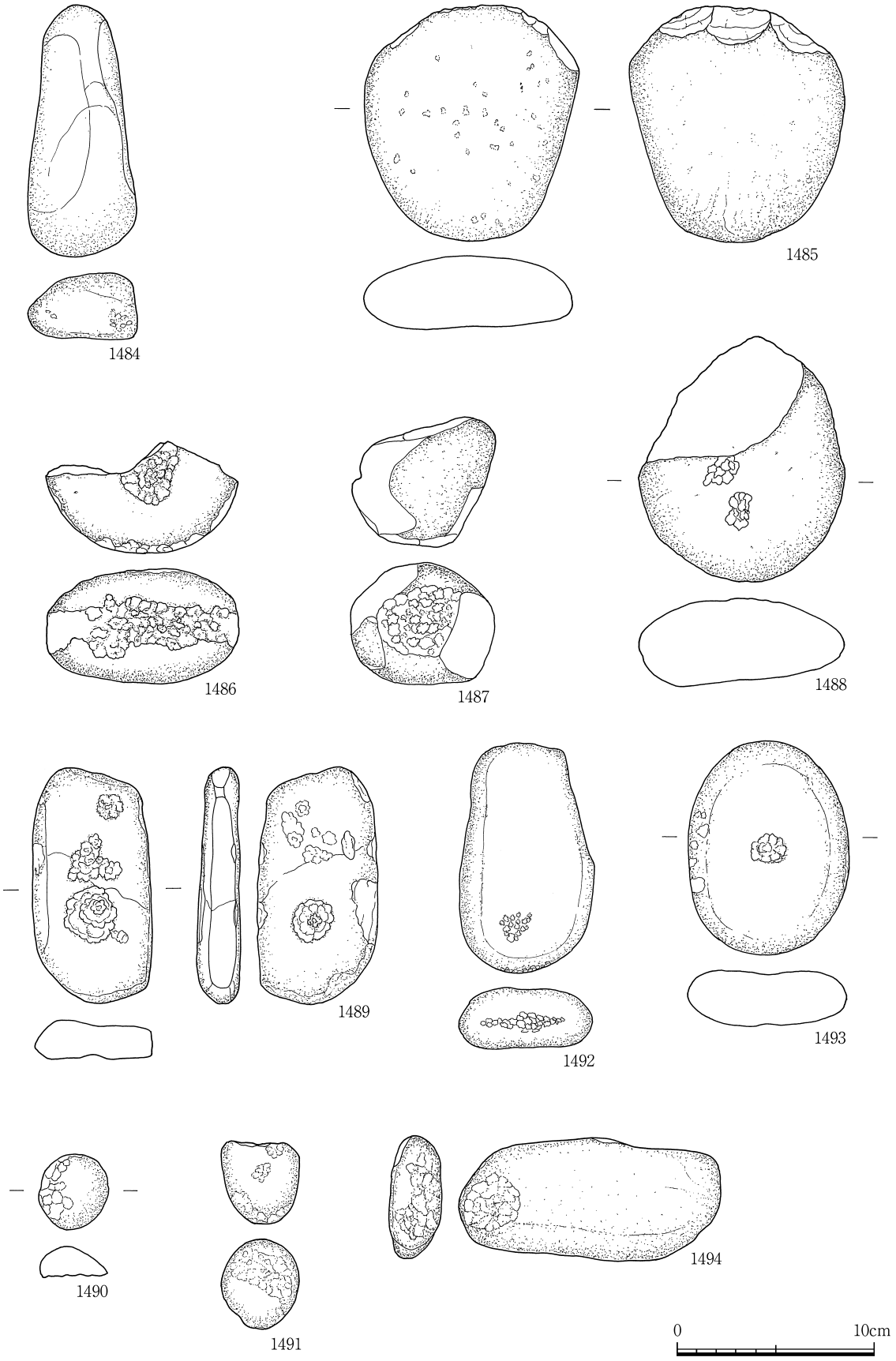


Fig. 222　敲石類⑦（Ⅶ層）

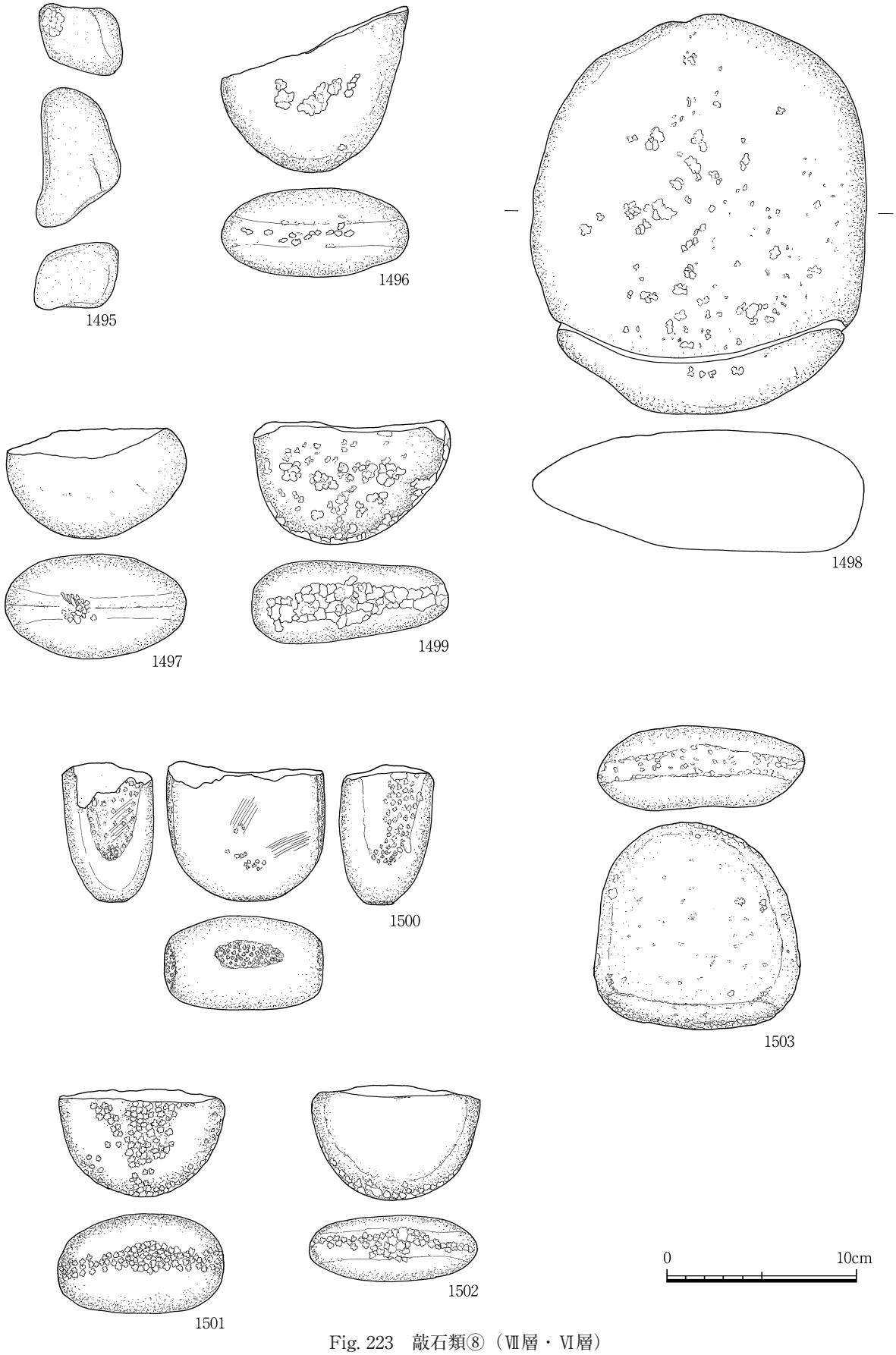


Fig. 223　敲石類⑧（Ⅶ層・Ⅵ層）

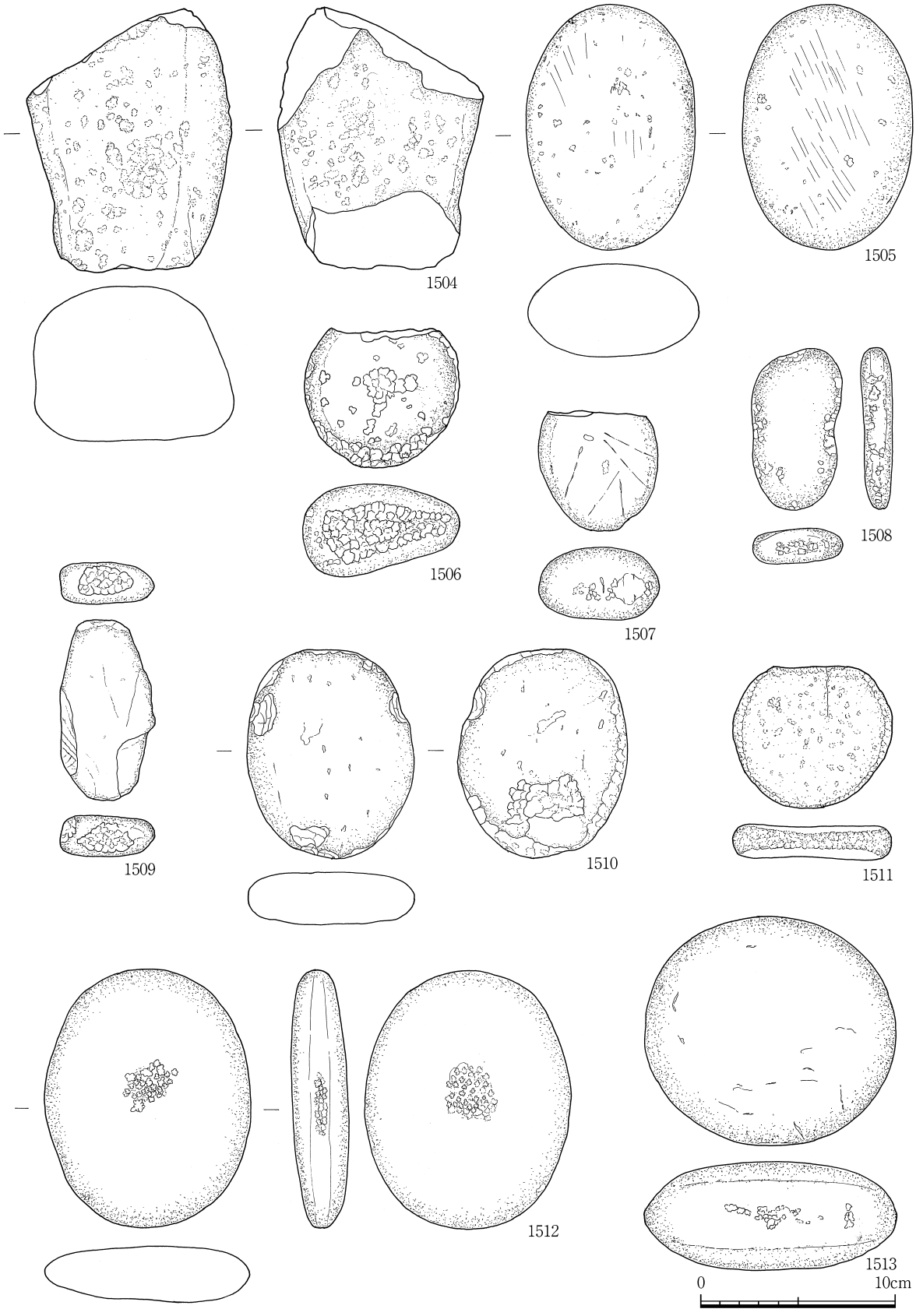


Fig. 224　敲石類⑨（Ⅳ層）

（25）敲石類（Fig.216～225）

敲石類の提示は層毎に示している。敲石類は、総数500点以上の出土が確認されているのだが、図示し得た資料は1420～1516の100点あまりにすぎない。Ⅶ層から下層の敲石類を中心に、特に旧石器時代の資料であるⅧ層以下の資料については、一定の大きさを持ち形状のわかる資料をできるだけ図化するようにした。

地層の堆積時期が縄文時代早期よりも新しいと考えられるⅥ層から上の層と縄文時代早期だと想定されるⅦ層および旧石器時代に形成されたⅧ層以下の層出土資料を比較すると、敲石類の明らかな違いを看て取ることができる。各層毎の敲石類の出土の状況は312頁の表のとおりだが、緩斜面であるとはいえ大きく南側に開いた斜面堆積であり、他器種同様に層出土の遺物を以て層形成時の様相だとすることはできない。しかし、少なくともⅧ層以下の資料は、旧石器時代(あるいは縄文時代草創期)以前の資料である蓋然性は高く、それゆえⅧ層以下（Ⅷ-a・Ⅷ-b・Ⅸ・Ⅹ層）で検出された敲石類については、旧石器時代の資料だと捉えている。図版掲載資料は、Ⅹ層6点、Ⅸ層5点、Ⅷ-a層30点、Ⅷ-b層14点、Ⅶ層32点、Ⅵ層4点、Ⅴ層５点、Ⅳ層10点である。

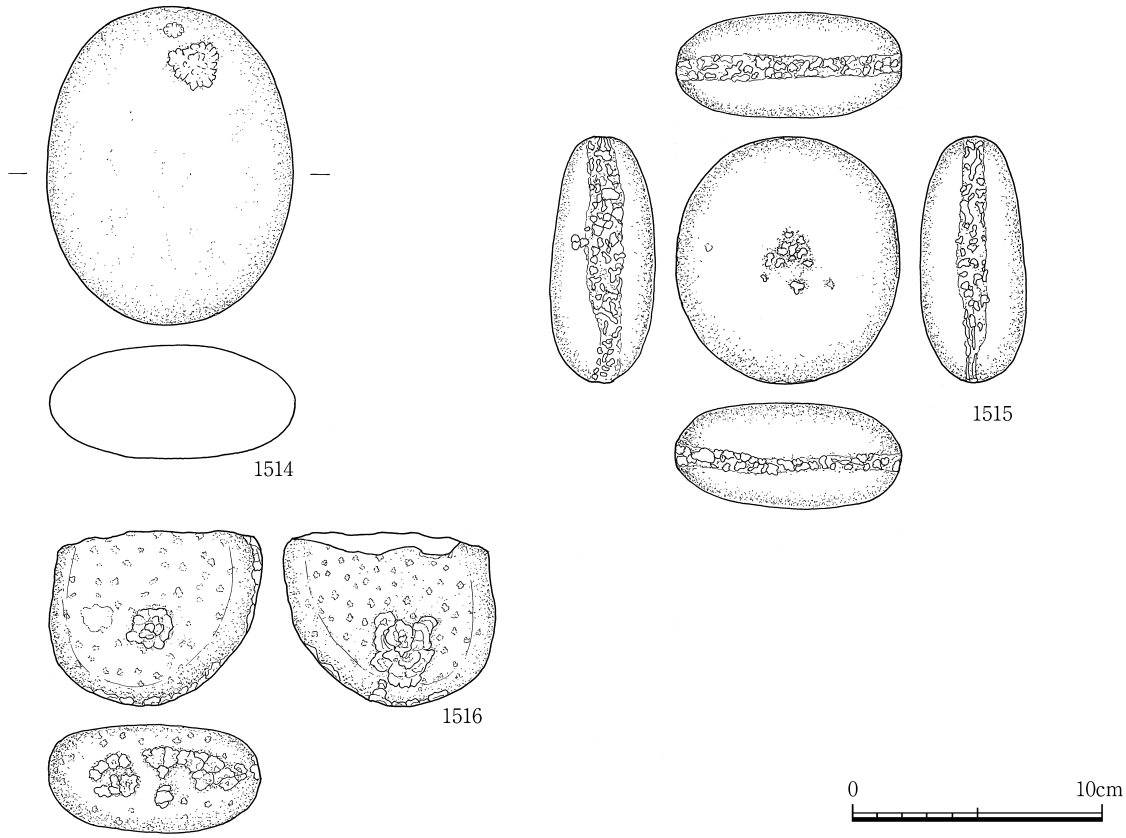


Fig. 225　敲石類⑩（その他の層）

赤変した敲石類あるいは砂岩礫は、図版掲載遺物以外も100点以上の資料が確認されており、2号岩陰VIII-a層からもまとまって出土するなど、決して1号岩陰のみに偏在しているわけではない。出土層位からみれば、VIII層からVII層にかけて出土敲石に占める赤変敲石の割合は35%前後と他層に比べ高い集中を示している。

1号岩陰周辺出土敲石類（図版掲載遺物）のうち17点まではVII層以下の地層から、12点はVIII・IX・X層から出土している。特にX層出土敲石6点の中で3点までが赤変敲石であるという事実は、これらの赤変敲石がX層段階で本来原位置を保っていた資料である可能性を示す。IX層やVIII層出土資料は、X層段階で礫群を構成していた砂岩円礫が、その後浸食-堆積作用による移動さらには人為的な移動を繰り返して各々の層に包含されたものだと捉えることもできる。

Tab. 25　敲石類　計測表 ①

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	出土地点	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
20	8	K(Ⅶ)	V区北端　K④	敲石	蛇紋岩	456.10	9.14	7.10	5.19
20	9	V	1号岩陰	敲石	砂岩	610.00	9.03	10.47	5.13
20	10	V	1号岩陰	敲石	緑色片岩	745.00	11.90	11.17	4.61
20	11	V	1号岩陰	敲石(赤変)	砂岩	352.50	10.80	6.20	3.61
20	12	V	1号岩陰	敲石	緑色片岩	545.00	6.83	13.31	4.72
20	13	K(Ⅶ)	V区北端　K⑤	敲石	緑色片岩	553.80	12.05	6.91	4.64
20	14	V	1号岩陰	敲石(赤変)	砂岩	950.00	12.50	8.37	7.20
20	15	K(Ⅶ)	V区北端　K⑤	敲石	緑色片岩	156.50	10.08	5.68	2.88
20	16	K(Ⅶ)	V区北端　K③	敲石	緑色岩	109.40	6.47	4.10	3.40
20	17	K(Ⅶ)	V区北端　K⑤	敲石	砂岩	135.00	4.07	7.41	3.58
20	18	K(Ⅶ)	V区北端　K③	敲石	砂岩	231.70	6.15	7.47	5.73
75	19	SX010(Ⅷ-a)	SX-010	敲石	砂岩	340.00	4.98	9.31	6.63
85	37	SX101	SX101･S-1	台石	砂岩	2500.00	17.91	15.75	8.56
85	38	SX101	SX101･S-2	敲石	砂岩	53.00	12.00	7.80	5.57
85	39	SX101	SX101･No.2	敲石	砂岩	260.00	13.68	4.27	3.13
216	1420	X	F-4	赤変砂岩礫	砂岩	33.12	3.52	6.04	1.85
216	1421	X	EF-5･TR-A　南バンク	敲石	砂岩	66.59	5.15	5.74	2.34
216	1422	X	EF-5	敲石(赤変)	砂岩	104.00	3.04	7.06	5.29
216	1423	X	ZT(E-6)	敲石(赤変)	砂岩	160.00	9.47	4.68	3.40
216	1424	X	EF-5	敲石	砂岩	170.00	8.38	6.73	3.14
216	1425	X	EF-5	敲石	砂岩	83.22	3.42	6.48	4.32
217	1426	Ⅸ-3	EF-5･TR-A　南バンク	敲石	砂岩	110.00	7.06	6.84	2.72
217	1427	Ⅸ	F-4	敲石	砂岩	52.00	4.87	4.50	2.60
217	1428	Ⅸ	F-4	敲石(赤変)	砂岩	163.90	7.13	6.07	3.73

Tab. 25　敲石類　計測表 ②

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	出土地点	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
217	1429	Ⅸ	−	敲石	砂岩	150.00	4.26	5.15	5.59
217	1430	Ⅸ	ZT(E−6)	敲石	砂岩	150.00	7.45	6.17	2.93
218	1431	Ⅷ−b	FG−5	敲石	砂岩	131.00	9.30	6.58	2.21
218	1432	Ⅷ−b	EF−5･TR−A	敲石	砂岩	185.50	11.35	4.18	3.41
218	1433	Ⅷ−b	EF−5･TR−A　南バンク	敲石	砂岩	385.00	7.96	7.14	5.68
218	1434	Ⅷ−b	FG−5	敲石(赤変)	砂岩	155.00	9.37	4.66	2.81
218	1435	Ⅷ−b	EF−5･TR−A　南バンク	敲石	砂岩	55.00	5.03	5.14	2.36
218	1436	Ⅷ−b	EF−5･TR−A　南バンク	敲石	砂岩	98.06	5.13	5.86	2.63
218	1437	Ⅷ−b	TR−3　NSB	敲石(赤変)	砂岩	352.50	9.57	6.48	4.96
218	1438	Ⅷ−b	EF−5･TR−A　南バンク	敲石	砂岩	55.33	6.13	5.54	1.79
218	1439	Ⅷ−b	EF−5･TR−A　南バンク	敲石	砂岩	135.00	3.80	7.36	4.51
218	1440	Ⅷ−b	EF−5	敲石	砂岩	706.00	9.02	8.29	6.46
218	1441	Ⅷ−b	EF−5･TR−A　南バンク	敲石	砂岩	93.09	6.90	3.93	3.63
218	1442	Ⅷ−b	TR−3−S東	敲石	砂岩	400.00	7.42	7.36	5.26
218	1443	Ⅷ−b	F−6･7	小楕円礫	砂岩	3.48	4.34	1.68	0.57
218	1444	Ⅷ−b	JK−6　北バンク	細棒状礫	緑色岩	26.00	7.03	1.89	1.43
219	1445	Ⅷ−a	TR−A	敲石	砂岩	564.80	8.25	9.75	6.15
219	1446	Ⅷ−a	TR−3　NSB	敲石	砂岩	55.44	7.56	5.41	1.29
219	1447	Ⅷ−a	TR−3　NSB	敲石(赤変)	砂岩	115.00	8.46	4.89	3.33
219	1448	Ⅷ−a	TR−3　NSB	敲石	砂岩	185.00	8.52	5.06	3.14
219	1449	Ⅷ−a	F−4	敲石	砂岩	394.00	7.27	7.81	5.44
219	1450	Ⅷ−a	J−5南北バンク	敲石	緑色片岩	265.00	16.20	4.90	2.59
219	1451	Ⅷ−a	EF−5	敲石	砂岩	160.00	6.62	5.98	4.06
219	1452	Ⅷ−a	FG−4	敲石(赤変)	砂岩	330.00	7.46	8.17	5.09
219	1453	Ⅷ−a	EF−5	敲石(赤変)	砂岩	98.60	4.35	7.95	4.10
219	1454	Ⅷ−a	TR−A	敲石	砂岩	61.23	5.96	3.57	3.03
219	1455	Ⅷ−a	EF−5	敲石	砂岩	218.50	6.00	7.05	4.05
220	1456	Ⅷ−a	EF−5	敲石	砂岩	135.00	6.57	6.35	4.02
220	1457	Ⅷ−a	EF−5	敲石	砂岩	125.50	4.15	8.47	3.32
220	1458	Ⅷ−a	EF−5	敲石	砂岩	145.00	4.27	5.89	5.52
220	1459	Ⅷ−a	TR−3　NSB	敲石	砂岩	150.00	6.54	5.08	4.50
220	1460	Ⅷ−a	TR−3　NSB	敲石(赤変)	砂岩	160.00	5.52	7.41	4.44
220	1461	Ⅷ−a	ZT(F−6)	敲石	花崗岩	190.00	4.16	8.06	5.56
220	1462	Ⅷ−a	ZT(F−6)	敲石	砂岩	180.00	6.79	6.73	3.60
220	1463	Ⅷ−a	F−6･7	敲石(赤変)	砂岩	19.35	2.89	4.01	1.63
220	1464	Ⅷ−a	F−6･7	敲石(赤変)	砂岩	95.00	6.61	6.53	2.23
220	1465	Ⅷ−a	−	敲石	砂岩	326.00	9.30	6.50	4.95
220	1466	Ⅷ−a	F−4	敲石	砂岩	178.00	8.19	4.48	6.64
220	1467	Ⅷ−a	ユニット2	敲石	緑色片岩	194.00	7.84	5.07	4.65
220	1468	Ⅷ−a	TR−12西バンク	敲石(赤変)	砂岩	51.24	5.39	5.78	1.67
220	1469	Ⅷ−a	−	敲石(赤変)	砂岩	27.93	3.95	3.09	1.85
220	1470	Ⅷ−a	JK−5	敲石	チャート礫を含む砂礫岩	55.00	2.75	4.60	4.32
220	1471	Ⅷ−a	JK−5	敲石	砂岩	85.00	7.65	4.64	2.31
220	1472	Ⅷ−a	JK−5	敲石(赤変)	砂岩	85.68	7.42	5.14	1.67

Tab. 25　敲石類　計測表 ③

Fig. 番号	図版 番号	出土層位	出土地点	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
220	1473	Ⅷ−a	JK−5	敲石	砂岩	225.00	6.05	7.09	5.49
221	1474	Ⅶ	FG−5	敲石	緑色岩	260.00	13.50	7.48	2.69
221	1475	Ⅶ	J−5南北バンク	敲石	砂岩	186.00	9.96	4.08	2.90
221	1476	Ⅶ	TR−A南バンク東	敲石（赤変）	砂岩	151.00	10.10	5.21	2.55
221	1477	Ⅶ	−	敲石	砂岩	692.00	11.23	9.91	4.55
221	1478	Ⅶ	G−4	敲石	緑色片岩	261.00	14.70	4.91	2.20
221	1479	Ⅶ	TR−3　NSB	敲石	砂岩		5.17	7.71	2.98
221	1480	Ⅶ	FG−5	敲石	砂岩	192.00	6.34	8.83	2.85
221	1481	Ⅶ	TR−3−S東	敲石	砂岩	425.00	10.90	8.23	3.48
221	1482	Ⅶ	E−6−S	敲石	砂岩	174.00	6.78	5.37	3.70
221	1483	Ⅶ	ZT（F−6）	台石（赤変）	砂岩	1475.00	13.30	11.80	5.38
222	1484	Ⅶ	E−6−S	敲石	砂岩	258.00	12.30	5.96	3.44
222	1485	Ⅶ−2	F−6･7	敲石	砂岩	586.00	11.73	10.81	3.70
222	1486	Ⅶ	E−6−S	敲石（赤変）	砂岩	327.00	5.57	9.69	5.66
222	1487	Ⅶ−2	F−6･7	敲石（赤変）	砂岩	299.00	6.46	3.57	5.98
222	1488	Ⅶ−2	F−6･7	敲石	緑色岩	586.00	12.19	10.24	4.41
222	1489	Ⅶ	E−6−S	敲石（赤変）	砂岩	230.25	11.80	5.99	2.20
222	1490	Ⅶ−YR	JK−6	敲石	砂岩	17.83	3.79	3.57	1.58
222	1491	Ⅶ−SR3	JK−5	敲石	砂岩	80.00	4.15	3.92	4.47
222	1492	Ⅶ	−	敲石	砂岩	333.00	11.40	6.79	3.10
222	1493	Ⅶ	−	敲石	緑色片岩	390.00	10.60	8.12	2.80
222	1494	Ⅶ	ブロック①	敲石	砂岩	260.00	13.05	6.16	2.65
223	1495	Ⅶ	ブロック④	敲石	砂岩	128.00	7.25	4.35	3.63
223	1496	Ⅶ	TR−11	敲石	緑色片岩	426.00	8.68	9.79	4.64
223	1497	Ⅶ	KL−4　SW−B	敲石	砂岩	360.00	5.81	9.43	5.47
223	1498	Ⅶ	ブロック④	敲石（赤変）	砂岩	2800.00	20.80	17.50	6.30
223	1499	Ⅵ	−	敲石	砂岩	338.00	6.48	10.25	4.24
223	1500	Ⅵ	F−6･7	敲石	砂岩	410.00	7.20	8.31	4.85
223	1501	Ⅵ		敲石	緑色岩系の堆積岩	360.00	5.69	8.64	5.19
223	1502	Ⅵ	TR−1　東バンク	敲石	砂岩	230.00	5.93	8.80	3.41
223	1503	?	Ⅴ区	敲石	砂岩	695.00	10.70	10.78	4.45
224	1504	Ⅳ	F−6･7	敲石（赤変）	砂岩	1439.00	13.30	10.43	7.90
224	1505	Ⅳ	F−7	敲石	砂岩	697.00	12.40	8.72	4.62
224	1506	Ⅳ	ZT（F−7）	敲石	砂岩	332.00	7.04	7.86	4.66
224	1507	Ⅳ	F−7	敲石	砂岩	210.00	6.29	6.11	3.76
224	1508	Ⅳ	−	敲石（赤変）	砂岩	84.09	8.17	4.66	1.72
224	1509	Ⅳ	E−6−S	敲石	砂岩	117.00	9.13	4.83	2.14
224	1510	Ⅳ	F−7	敲石	緑色片岩	438.00	10.58	8.59	2.65
224	1511	Ⅳ	F−6･7	敲石	砂岩	153.00	7.17	8.09	1.75
224	1512	Ⅳ	E−6−S	敲石	砂岩	540.00	13.12	10.47	2.87
224	1513	Ⅳ	ROCK2	敲石	砂岩	1110.00	11.55	12.77	5.63
225	1514	Ⅲ	−	敲石	砂岩	764.00	12.50	9.70	4.47
225	1515	包含層	−	敲石	砂岩	496.00	9.74	8.92	4.19
225	1516	G−①	F−7	敲石	緑色岩	400.00	6.84	8.43	4.26

Tab. 26　敲石類　分類表 ①

Fig. 番号	図版 番号	層 出土層位	石材	石材 粒子	石材 色調	形状					形状の特徴	使用部位					赤変 有無	類別	完形	1／2 以上	1／2 未満
						円形 扁平	楕円 扁平	棒状	拳大 塊状	不整 形他		長軸側縁	短軸 側縁	扁平 面	両端 部	角部					
20	8	K（Ⅶ）	蛇紋岩	重	薄緑				○						○1		×	3類・△ミ	○		
20	9	V	砂岩	粗（1mm大）	暗灰		○					○	◎	○弱			×			○	
20	10	V	緑色片岩	層理の発達			○ やや不整							△			×	○ミ		○	
20	11	V	砂岩	密	褐	○	○ 不整		○ 扁平		隅丸方形	△	△	△			◎			○	
20	12	V	緑色片岩			○	○			すみ丸			○?				×	○ミ			○
20	13	K（Ⅶ）	緑色片岩			○							◎	○1			×	○ミ		○	
20	14	K	砂岩		褐				○			○	○				◎		○		
20	15	K（Ⅶ）	緑色片岩											○			×	○ミ			○
20	16	K（Ⅶ）	緑色岩						○ 不整						○1		×	3類・△ミ	○		
20	17	K（Ⅶ）	砂岩	やや密	褐灰				○						○		×	?・3類			○
20	18	K（Ⅶ）	砂岩	やや粗	褐	○	○						○	△			◎				○
75	19	SX010 （Ⅷ－a）	砂岩	やや粗	褐				○		ごろっとした印象	○	○				×	4類		○	
85	37	SX101	砂岩	やや粗	褐						台石であり、作業台として利用された可能性が高い。							打痕ははっきりせず			
85	38	SX101	砂岩	やや粗	褐				○	○	ごろっとして	あちこちに敲打痕がのこりもろい石						石 ×	○		
85	39	SX101		層理の発達				○ 不整				あちこちに敲打痕がのこりもろい石			○2		△		○		
216	1420	X	砂岩	やや密	褐												○				
216	1421	X	砂岩	やや粗	褐灰						ごろっとした						×				
216	1422	X	砂岩	やや密	褐						ごろっとした?				○弱		○				○
216	1423	X	砂岩	やや密	褐		長 楕円								△	△	△	?・4類	○		
216	1424	X	砂岩	やや密	褐									△			×				
216	1425	X	砂岩	密	褐灰					不整					○		×	3類			
217	1426	Ⅸ－3	砂岩	やや密	褐灰					不整		○		○			×				○
217	1427	Ⅸ	砂岩	やや粗	灰										△		×				
217	1428	Ⅸ	砂岩	やや粗	褐						（ごろっとした）					○	◎				○
217	1429	Ⅸ	砂岩	やや粗	灰（褐）												×				
217	1430	Ⅸ	砂岩	やや密	灰（褐）		○						◎ 端部				×			○	
218	1431	Ⅷ－b	砂岩	やや粗	灰（褐）	○不整形									○	○	×				○
218	1432	Ⅷ－b	砂岩	密・硬	灰（褐）			○ 不整							○	◎	×	2類	○		
218	1433	Ⅷ－b	砂岩	やや密・硬	灰（褐）					○	ごろっとした		○	面			×				
218	1434	Ⅷ－b	砂岩	砂岩　硬質	明るい灰褐									面			△				○
218	1435	Ⅷ－b	砂岩	やや密・○硬	褐灰									△面		○	×				○
218	1436	Ⅷ－b	砂岩	粗・粒	褐灰					○		○		○			×				○
218	1437	Ⅷ－b	砂岩	やや粗	褐					○		○		面			△				
218	1438	Ⅷ－b	砂岩	密	灰褐												×				○
218	1439	Ⅷ－b	砂岩 硬質	密	明るい灰褐						ごろっとした						×				○
218	1440	Ⅷ－b	砂岩	やや密	褐					6面	ごろっとした			○	○	○	×	5類	○		
218	1441	Ⅷ－b	砂岩	やや粗	褐						不明			○			×				○
218	1442	Ⅷ－b	砂岩	粗（もろい）	褐					6面				○	○	○	×	5類	○		
218	1443	Ⅷ－b																			
218	1444	Ⅷ－b	緑色岩					○ 細い							○1			2類－（?）	○		
219	1445	Ⅷ－a	砂岩	粗・硬	灰褐		○				扁平度極めて弱	○	○	○			×	6類		○	
219	1446	Ⅷ－a	砂岩	やや密	灰褐						不明				稜上		×				
219	1447	Ⅷ－a	砂岩	やや粗	褐		○				扁平度低い	○					△				○
219	1448	Ⅷ－a	砂岩							○	くずれた楕円	△			○	○	×	4類	○		
219	1449	Ⅷ－a	砂岩		褐						ごろっとした不整形						×	3類			
219	1450	Ⅷ－a	緑色片岩					○					不明		?△		×	○ミ		○	
219	1451	Ⅷ－a	砂岩	粗	褐灰												×				
219	1452	Ⅷ－a	砂岩	粗	赤褐		○				扁平でない	△	○	?△			◎	6類		○	
219	1453	Ⅷ－a	砂岩	やや密	褐灰						扁平でない		○	△			△	6類			○
219	1454	Ⅷ－a	砂岩	やや密	灰褐		○				扁平度低い	○	○				×				
219	1455	Ⅷ－a	砂岩	粗	灰褐・もろい				○		ごろっとした	△	◎				?	6類		○	
220	1456	Ⅷ－a	砂岩	密	灰						楕円で厚い	○	○?				×	6類			
220	1457	Ⅷ－a	砂岩	やや密	褐灰						不明（楕円礫）	○	○				×	?			
220	1458	Ⅷ－a	砂岩	やや粗	灰褐					○ 不整形					端部 一面		×	○?5類			○
220	1459	Ⅷ－a	砂岩	やや密	灰褐					○	ごろごろした円礫				○	○	×	3類	○		
220	1460	Ⅷ－a	砂岩	やや粗	褐						厚みのある楕円礫	○	○	○			◎	6類			○
220	1461	Ⅷ－a	花岡岩に近い	密	白灰（灰白）						厚みのある楕円礫	○	○	○			×	形は6類			○
220	1462	Ⅷ－a	砂岩	やや密	褐灰					○くずれた円		○	○ 周縁				×		○		
220	1463	Ⅷ－a	砂岩	（やや）粗	褐						不明	敲打痕あり					△				

Tab. 26　敲石類　分類表 ②

Fig. 番号	図版 番号	層 出土層位	石材	石材 粒子	石材 色調	形状					形状の特徴	使用部位					赤変 有無	類別	完形	1／2 以上	1／2 未満
						円形 扁平	楕円 扁平	棒状	拳大 塊状	不整 形他		長軸側縁	短軸 側縁	扁平 面	両端 部	角部					
220	1464	Ⅷ—a	砂岩	粗	褐						不明、厚い楕円			○			△				○
220	1465	Ⅷ—a	砂岩	粗	褐（褐灰）	○					扁平だが厚みはある	○	○ 周縁	○			×			○	
220	1466	Ⅷ—a	砂岩	粗・硬	灰					○		○	○ 周縁				×				○
220	1467	Ⅷ—a	緑色片岩			○	○				やや厚く重厚	○	○				×	○ミ			○
220	1468	Ⅷ—a	砂岩	やや粗	褐灰												○				○
220	1469	Ⅷ—a	砂岩	やや粗	にぶい灰褐						小円礫						△				○
220	1470	Ⅷ—a	チャート砂岩	やや粗	あかるい灰白（褐）						球に近い円礫				○		×			○	
220	1471	Ⅷ—a	砂岩	やや粗	灰					○		○	○ 周縁				×		○		
220	1472	Ⅷ—a	砂岩	密	褐灰					○					○		△				○
220	1473	Ⅷ—a	砂岩		褐					○ 不整形・棒状					○	○稜	×	5類か7類			
221	1474	Ⅶ	緑色岩								扁平なバチ状	表裏面・稜上・周縁					×	8類			
221	1475	Ⅶ	砂岩	密・硬	灰褐			○							○		×	2類		○	
221	1476	Ⅶ	砂岩	やや粗	褐						不整形で厚みがあり扁平						◎	8類	○		
221	1477	Ⅶ	砂岩	やや粗	褐灰	○					重厚扁平	○	○ 周縁 ○ 表裏				×			○	
221	1478	Ⅶ	緑色片岩	緑色片岩			○	○			棒状扁平					△	×	○ミ	○		
221	1479	Ⅶ	砂岩	やや粗	褐灰		○					○	◎	○			×	1—B類		○	
221	1480	Ⅶ	砂岩	粗	褐		○					○	◎	○			○	1—B類		○	
221	1481	Ⅶ	砂岩	やや密やや硬め	灰褐					○					○	○	×	4類	○		
221	1482	Ⅶ	砂岩	やや密やや硬め	灰褐		○			○	ごろっとした				○	○	×	3類	○		
221	1483	Ⅶ	砂岩	やや密							厚みのある扁平・丸みのある直方体	○	○	○		○	○	台石	○		
222	1484	Ⅶ	砂岩	やや密	褐灰			○			不整形	△			○	○	×		○		
222	1485	Ⅶ—2	砂岩	やや粗	褐		○				不整気味	△	△	△	◎				○		○
222	1486	Ⅶ	砂岩	粗	褐						重厚扁平	○	◎	○			◎	6類			
222	1487	Ⅶ—2	砂岩	粗	褐						ごろっとした不整形状				○		△			○	
222	1488	Ⅶ—2	緑色岩				○				ちょっと重厚	△		△			×			○	
222	1489	Ⅶ	砂岩	粗	褐		○				長方形扁平			○			◎	8類	○		
222	1490	Ⅶ—YR	砂岩	やや粗	褐灰						不明			?	○		×				
222	1491	Ⅶ—SR3	砂岩	やや密	褐					○		△			○		×			○?	
222	1492	Ⅶ	砂岩	やや密	灰褐		○				隅丸長方形		○	△			×		○		
222	1493	Ⅶ	緑色片岩				○					○	○	◎			×	○ミ、1—B	○		
222	1494	Ⅶ	砂岩	やや密	褐灰		○				不整長方形				○	○	×	4類	○		
223	1495	Ⅶ	砂岩	密・硬	灰					○					○		×	3類	○		
223	1496	Ⅶ	緑色片岩				○					△	△	○			×	1—B		○	
223	1497	Ⅶ	砂岩	密・硬	褐		○				楕円、球形、卵形	○					◎			○	
223	1498	Ⅶ	砂岩	密・硬	灰		○				重厚			○			×		○		
223	1499	Ⅵ	砂岩	粗	褐灰		○				やや不整	○	○	○			×			○	
223	1500	Ⅵ	砂岩	密・硬	明るい灰		○				厚みあり	◎	◎	△			×			○	
223	1501	Ⅵ	緑色岩系の堆積岩			○					厚みのある円礫	○	○	○			×	1類厚		○	
223	1502	Ⅵ	砂岩	やや密・硬	灰		○					○	○	△			×	1—B		○	
223	1503	?	砂岩	やや粗	褐						不整形（扁平・重）	△	△				×		○		
224	1504	Ⅳ	砂岩	密・硬	灰					○				○			○	台石			
224	1505	Ⅳ	砂岩	密・硬	灰		○				若干厚め	△	△	△			×	1—B	○		
224	1506	Ⅳ	砂岩	粗・硬	明るい灰	○					わずかに形くずれる	○	○	△			×	1類		○	
224	1507	Ⅳ	砂岩	粗・硬	明るい灰		○				厚い		○				×			○	
224	1508	Ⅳ	砂岩	やや粗	褐		○				不整形（扁平、隅丸、長方形）	○	○ 周縁全体				◎		○		
224	1509	Ⅳ	砂岩	やや粗	灰褐					○	扁平				○		×		○		
224	1510	Ⅳ	緑色片岩				○										×		○		
224	1511	Ⅳ	砂岩	やや粗	こい灰	○					変則的な円	○	○				×		○		
224	1512	Ⅳ	砂岩	やや密	灰褐		○					△わずか		○			×	1—B	○		
224	1513	Ⅳ	砂岩	粗・硬	灰	○					厚みあり	○	○				×	1	○		
225	1514	Ⅲ	砂岩	やや密・硬	灰褐		○				厚い		○	○			×	1—B	○		
225	1515	包含層	砂岩	やや密	灰	○						○	○	○			×	1	○		
225	1516	G—①	緑色岩				○					○	○	○			×	○ミ、1—B		○	

B. 土器（縄文土器）ー遺構出土遺物含ー

出土した縄文土器は、総数853点、その中で文様等により時期のわかる資料、時期は分からないものの一定の大きさあるいは文様など形態的な特徴をもつ遺物については図示するよう努めたのだが、図示し得た縄文土器は144点にすぎない。検出した土器の大半が小片・細片ばかりであった。土器の少なさゆえに情報量も少ないのだが、断片的な資料の中から、この岩陰周辺の地が利用されていた様相を推察することはできる。

出土した縄文土器は、草創期・早期・前期・中期・後期の各時期の資料を含んでいる。時期の推定可能な資料については、各時期ごとに形態分類を行った。また、時期が特定できない資料についても時期を明示せずに形態・文様などの諸特徴による分類を行った。

縄文土器　層別出土点数と所属時期

出土層位	点数	層ごとの縄文土器の比率	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	時期のある程度特定可能な破片数
Ⅲ	47	5.5%	0	27	2	0	1	0	30
Ⅳ	229	26.8%	1	9	15	2	7	0	34
Ⅴ	215	25.2%	1	83	2	0	0	0	86
Ⅵ	36	4.2%	0	11	1	0	0	0	12
Ⅶ	139	16.3%	0	23	2	0	3	0	28
Ⅷ	4	0.5%	0	2	0	0	0	0	2
その他・不明	106	12.4%	0	10	2	0	13	0	25
SX101	7	0.8%	2	1	0	0	0	0	3
G①～G④	70	8.2%	0	16	3	1	3	0	23
合計	853	100.0%	4	182	27	3	27	0	243
			1.6%	74.9%	11.1%	1.2%	11.1%	0.0%	

(1) 草創期およびSX101出土資料（Fig.226ー2001～2007）

草創期の土器だと確認した土器には、遺構（SX101）出土資料と包含層出土資料とがある。遺構出土資料についても、遺構埋土（暗褐色土）の覆土である黄褐色土中、あるいは遺構埋土と覆土の黄褐色土との境界から出土したもの（2005）については、早期以降の土器の可能性もある。また包含層出土の遺物の中で、2006は隆帯文土器であり草創期前半の遺物だが、2007については隆帯は貼付されるものの草創期の遺物かどうかの確証はない。草創期の土器（及びSX101出土土器について以下の1～4類に分類し、草創期の土器としての特徴を明瞭に残し、所属時期についてもある程度推定可能な1・2類土器（2001・2002・2007）について、形態・製作技術等の特徴をま

とめて記載する。

1類・・隆帯文土器－2001・2006・2007

2類・・隆起線文土器－2002

3類・・無文土器（無文である以外に形態上・調整等の特徴はない。）－2003・2004

4類・・無文土器-繊維土器（厚手で、器表に繊維痕を多く含む。いわゆる繊維土器。）－2005

4類は、SX101出土であることから、この項で取り扱うが、早期の土器の可能性が高い。

SX101出土遺物

隆帯文土器（2001）・草創期1類

6.6㎝×5.6㎝程度の小破片であるが、隆帯の様相から草創期前半に属する隆帯文土器であると考えられる。(1) 他地方の類例として、隆帯の幅や土器自体の持つ雰囲気から南九州の奥ノ仁田遺跡出土の隆帯文土器の様相(2)に最も近いと考えている。しかし、正確な所属時期について断定することはできない。当地域の土器群の様相が明らかになってはじめてこの土器の位置付けができるという指摘も受けた。(3) 現段階では草創期前半といった大まかな捉え方をしておきたい。

この土器は隆帯文土器であり、隆帯の形状や加飾方法が土器自体の特徴を最もよく示している。隆帯の幅は、14㎜～16㎜と幅広でしっかりしたつくりとなっている。隆帯上には指頭による圧痕文（刻目）が施文されており、土器を正位置において施文したと仮定した時の指頭の方向は左下→右上あるいは下→上である。この圧痕文は、大きさが幅6～8㎜、長さ14～18㎜、間隔が16～24㎜で、等間隔を意識して施文されている。また、圧痕文は隆帯上の加飾という装飾状の意図を持つことは当然だが、同時に隆帯の圧着という機能的な意図を併せ持った文様である可能性も指摘できる。圧痕文（刻目）自体は右傾（右下がり）したものが多く、爪圧痕も圧痕文（刻目）の上縁に沿った形で右傾するものが多い。しかし、全てが右傾した圧痕ではなく、水平に近いものもある。圧痕文（刻目）の施文部位が隆帯の頂部である場合と頂部よりもやや下がった位置である場合がある。圧痕文が右傾する場合は頂部、水平に近い場合は頂部よりやや下がった位置という対応関係が観察される。

この圧痕文（刻目）の施文後、隆帯の上方（頂部よりも上の隆帯上半部）を左→右方向の強いナデにより仕上げる。ナデ調整は繰り返し施されており、隆帯上半は面をなす。強いナデ調整の結果、場所によっては粘土塊の一部が隆帯頂部を超え隆帯下半に覆い被さっている。隆帯間が曲線的な凹状の底を呈していること隆帯間の凹底から隆帯上半部にかけて爪先の圧痕と想定される筋状（線状）の痕跡が認められることを理由に、ナデの原体は指（指頭）であると考えている。ただし、隆帯の上半がナデ調整により面的に仕上がっていることから、ヘラ状または板状の原体の使用の可能性も想定しておく必要がある。

なお、内面については器表の剥落が著しく調整等の観察はできない。

土器自体の製作方法として、粘土紐の巻上げにより器壁を作成する→粘土紐を外面に貼付し、隆帯を形成する→同時に、隆帯上の圧痕文（刻目）の施文により加飾する→ナデにより隆帯の圧着を完成させ仕上げる、という工程が推定される。

隆帯と器壁との接合痕は観察できるが、器壁形成時の粘土紐接合痕は、明瞭に観察できなかった。しかし、土器のひび割れが接合痕に由来すると考え得る箇所が1箇所残っている。第1と第2の隆帯間の表裏に入る亀裂がそれである。その観察からは、ごくわずかに内傾する内傾接合だということがわかる。

隆帯文土器の整形過程

①器壁の形成－内傾接合（ごくわずかに内傾する）

②隆帯の貼付－2指以上の指（親指と人指し指あるいは他指）による粗貼り－貼付第Ⅰ段階

③隆帯上の圧痕文形成・指頭による圧着－貼付第Ⅱ段階

④ナデ調整による隆帯の圧着-貼付第Ⅲ段階－と仕上げ

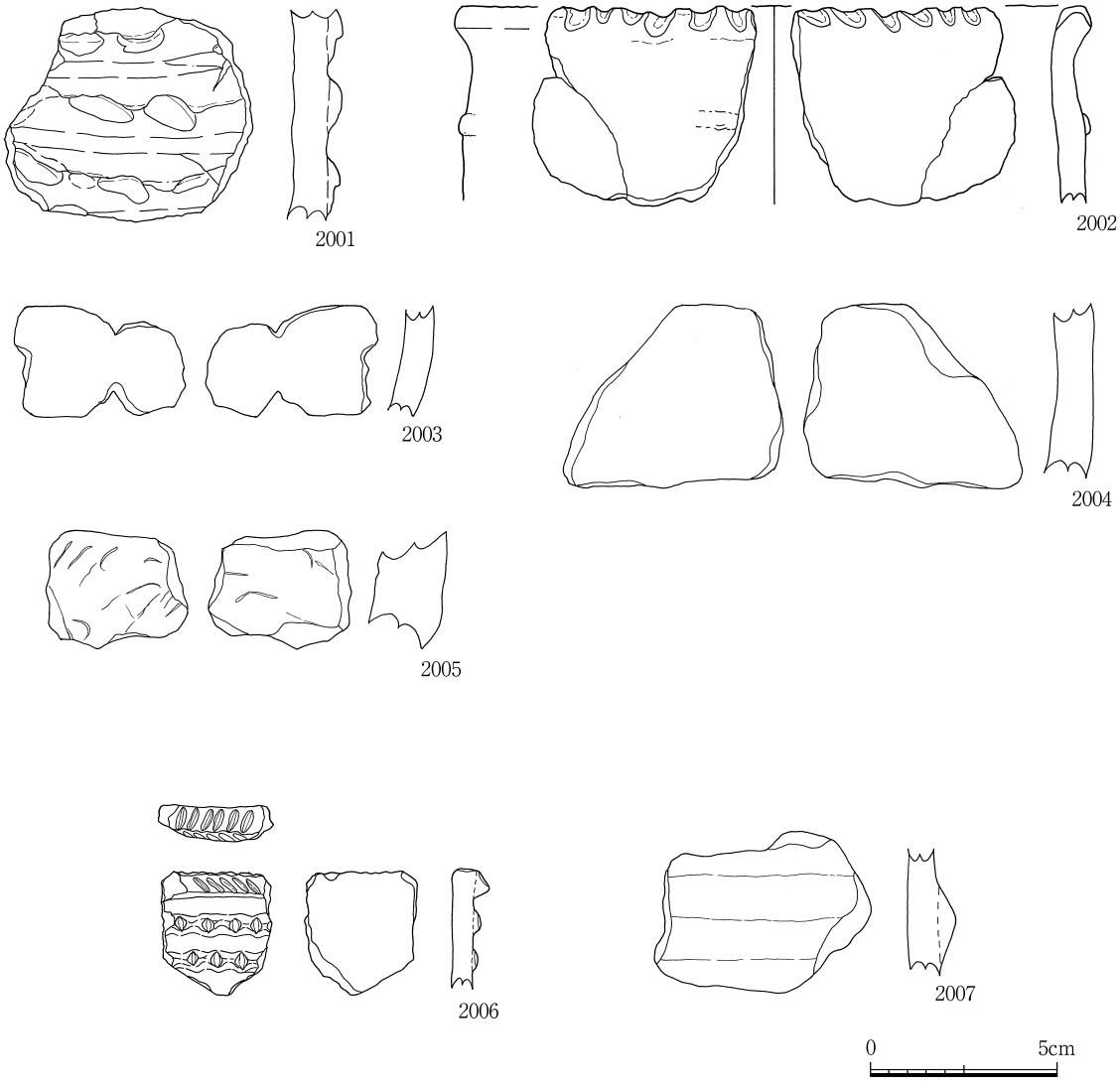


Fig. 226　縄文土器①－草創期－

形態上で注意を要する点は、隆帯がほぼ水平あるいは水平に近い状況だったとすると、器壁のねじれが著しくなってしまう点である。土圧による変形が起り得たにしても、本来の器形・上下方向はどのように復元し得るのかといった、土器形態上の復元は十分にできたとは言い難い。現段階において、実測図の方向が最も妥当だと考えているのだが、異なる方向であった可能性も否定できない。

註1　南九州の隆帯文土器と類似する資料ではないかということについては、高知県埋蔵文化財センターの前田光雄氏から指摘を受け、鹿児島県埋蔵文化財センターの東和幸氏と鹿児島県の雨宮瑞生氏に確認していただいた。

註2　『西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)　奥ノ仁田遺跡・奥嵐遺跡』鹿児島市西之表市教育委員会 1995年

註3　雨宮氏からは、土器自体の評価については南四国あるいは周辺の地域の草創期の土器相を把握した上で位置付ける必要があるとの御指摘を頂く。

隆起線文土器（2002）・草創期2類

口縁部が残り、口縁形状が観察できる。

同一遺構出土の隆帯文土器と比べると、器壁が薄い点など、全く異なる特徴を持つ土器だといえる。隆帯文土器と隆起線文土器とが同一個体ではないかという御指摘もいただいたが、同一個体である点に関して現段階では否定的な見解を持っている。

器壁の厚さは5.4～7.4㎜程度で、口縁部は若干肥厚し8㎜程の厚さとなる。（隆帯文土器は8～10㎜）器表の剥落が著しく調整は不明である。丸味を帯びた胴部から頚部で屈曲し、口縁は短く外反する。破片の大きさは7.4㎝×8.6㎝ほどで、復元した口縁部直径は24.4㎝である。

剥落し全貌は残されていないものの、口縁端部外面と外面口縁下30㎜の位置に横位に粘土紐を貼付された痕跡を確認することができる。緩やかに屈曲する頚部は無文であり、口縁端部と頚部下の隆起線の間隔は20㎜ほどである。

短く外反する口縁端部には刻目が施される。刻目は内面側からと外面側からの双方向から施文されており、同一原体によるものである。内面・外面と連続して施文された刻目ではなく、内外面の施文位置の微妙なズレから、別々に施文されたことがわかる。刻目はU字の断面形を呈する。施文原体は鋭利な原体ではなく、丸味を持つ細い棒状の原体により施文されたと想像される。

口縁部を上面からみれば、内側の刻目が右下がり（右傾）、外側の刻目が左下がり（左傾）、いわゆる羽状を呈する。

なお、刻目の大きさは幅4～6㎜、長さ10㎜前後、間隔は8～10㎜で等間隔が意識されている。器壁は薄いものの、一定ではなく、器壁の厚い部分は5.4㎜、薄い部分は8.4㎜とばらつきがある。

この土器は隆起線文土器で、高知県佐川町不動ヶ岩屋洞穴出土の隆起線文土器と口縁形状が類似する。(4)

四国の隆起線文土器の中では、形態上の特徴をもとに十川駄場崎→上黒岩岩陰→不動ヶ岩屋→奥谷南→穴神洞という変遷が予想できる。(5)

註4　口縁形態の特徴により不動ヶ岩屋洞穴資料に編年的には後続する資料であるという指摘が、埼玉県教育委員会文化課栗島義明氏によってなされている。

註5　上黒岩の資料あるいは穴神洞の資料などは破片の大きさも大きく、資料数も比較的多いのに対し、奥谷南遺跡出土草創期土器は断片的な資料であり土器型式として確立可能な資料ではない。

包含層出土遺物

隆帯文土器（2006）・草創期1類

破片の大きさは3.0㎝×3.3㎝と小さいが、口縁形状文様の様相ともに確認できる。

器壁の厚さは5～6㎜程度。口縁直下がごくわずかに屈曲、わずかな外反を示す。外面に3条の隆帯が残る。隆帯の幅は5～6㎜、間隔4㎜と幅ぜまの隆帯を持つ隆帯文土器である。

隆帯の上と口縁端部上面に刻目を持つが、口縁端部上面と1条目の隆帯上の刻目と2・3条目の隆帯上の刻目とでは、全く異なる原体を用いた刻目である。

口縁端部の刻目は、細長い楕円状であり、2・3条目の隆帯上の刻目は円形に近い楕円状である。端部の刻目が端部上面と隆帯上半に上方向から羽状（端部上面わずかに右下がり・隆帯上半左下がり）に施されるのに対し、2・3条目隆帯の刻目は器壁に対して垂直に隆帯上へ施文される。

刻目を施文する原体は不明だが、口縁の刻目の場合、刻目中に粒状の単位が観察できることから、粒状の単位のある圧痕を生起せしめる何かということになる。隆帯上の刻目は細い丸味のある棒状の原体だと考えられる。ともに押圧による施文である。

調整は、強いヨコナデによるが、隆帯の上半に限られる。ナデ調整は指頭によるものだと考えているが、隆帯間の狭さゆえに何らかの細い工具が使用された可能性も指摘されている。

この遺物は、2号岩陰の岩庇下の包含層中からの出土であり、他の遺物との関連を出土状況から追及することはできない。しかし、土器の形態上の特徴は、SX101出土遺物とは全く異なり、時期の異なる遺物だという印象を強く受けるのだが、文様の施文方法や調整方法からはいくつかの共通する特徴を指摘することができる。

2001の隆帯文土器とは、隆帯の貼付に際してのナデの部位が隆帯上半に認められる点が類似し、2002の隆起線文土器とは、口縁部の刻目が内外面双方から行われ、羽状の刻目を構成するという施文方法が類似している。各々類似点はあるものの、こういった類似だけでは時間的な異同や製作技法の関連などの決め手とはならない。

（2）早期（Fig.227～230－2008～2051）

押型文土器と繊維土器を中心に、検出された縄文土器の中で早期の土器の占める割合が最も高い。時期がある程度判定可能な破片で割合をみると、早期に属すると考えられるものが全体の74.9%を占めている。押型文や繊維土器など小破片でも時期判定可能な資料が早期に多いことにもよるが、この時期の資料が最も多いことに変わりはない。小片が大半であり全体形を復元することはできなかった。

早期の土器は1類から5類に分類できる。

早期1類・・押型文土器（Fig.227－2008～2024）

A・・・細かい縦位と横位の波状押型文の組み合わせによるもの（2008）

B・・・楕円押型文（2009～2011）

C・・・隆帯上に波状の押型文、同様の原体により内面にも施文（2012）

D1・・穂谷式に併行する。横位の刻目突帯と縦位の山形押型文の組み合わせ。（2013・2014・2015） 2015は突帯のみで山形押型文も存在した可能性もあるが確認はできない。

D2・・D-1類と同様の押型文土器だと考えられるが、刻目突帯が確認されず山形押型文のみが確認されたもの。（2016～2024）

早期1類である押型文土器の変遷としては、A→B→C・Dという変遷が想定され、押型文土器の中でも何時期かの設定が可能である。1類の中でAの時期は早期中葉で、今回出土した押型文土器の中では最も古い資料である。１類Aは2008の1点のみで他に類例がない。出土地点も1号岩陰（グリッドG－5）のⅦ層であり、上層出土資料の多い他の早期1類土器とは異なっている。押型文土器で図化した資料でⅦ層から出土した資料は、この2008と2010・2011（早期1類B）の3点のみで、他はⅣ・Ⅴ・Ⅵ層あるいは調査区南端のグリッドG-7周辺からの出土（G-①～④層）である。早期1類Ｂは早期中葉の楕円押型文を特徴とする高山寺式土器併行期の資料で、出土層位からもＡ・Bがより古い資料であることが裏付けられる。

1類の中で最も量的に多いのはC・D1・D2とした縦位あるいは横位の大型の山形押型文を特徴とする早期中葉から後半の穂谷式あるいは手向山式土器併行期、押型文土器の最終段階に位置付けられる資料である。波状押型文の施文のある断面四角形の突帯（隆帯）を持つもの（C）と刻み目を持つ横位の突帯を貼付するもの（D）がある。1類Dは高知県で従来城ノ台式土器とされてきた資料とほぼ同じものである。1類Cは2012の1点のみで2号岩陰の根元付近から出土しており、出土層位はⅦ層よりも上の層である。これに対して、1類Dは1号岩陰のⅣ・Ⅴ・Ⅵ層にかけてと、G-7周辺のG-①から④層にかけて出土するものが大半である。帝釈峡遺跡群など他地域の出土例から、1類CとDは同時期の資料だと捉えているが、遺跡内での出土地点の平面分布や形態は異なっている。

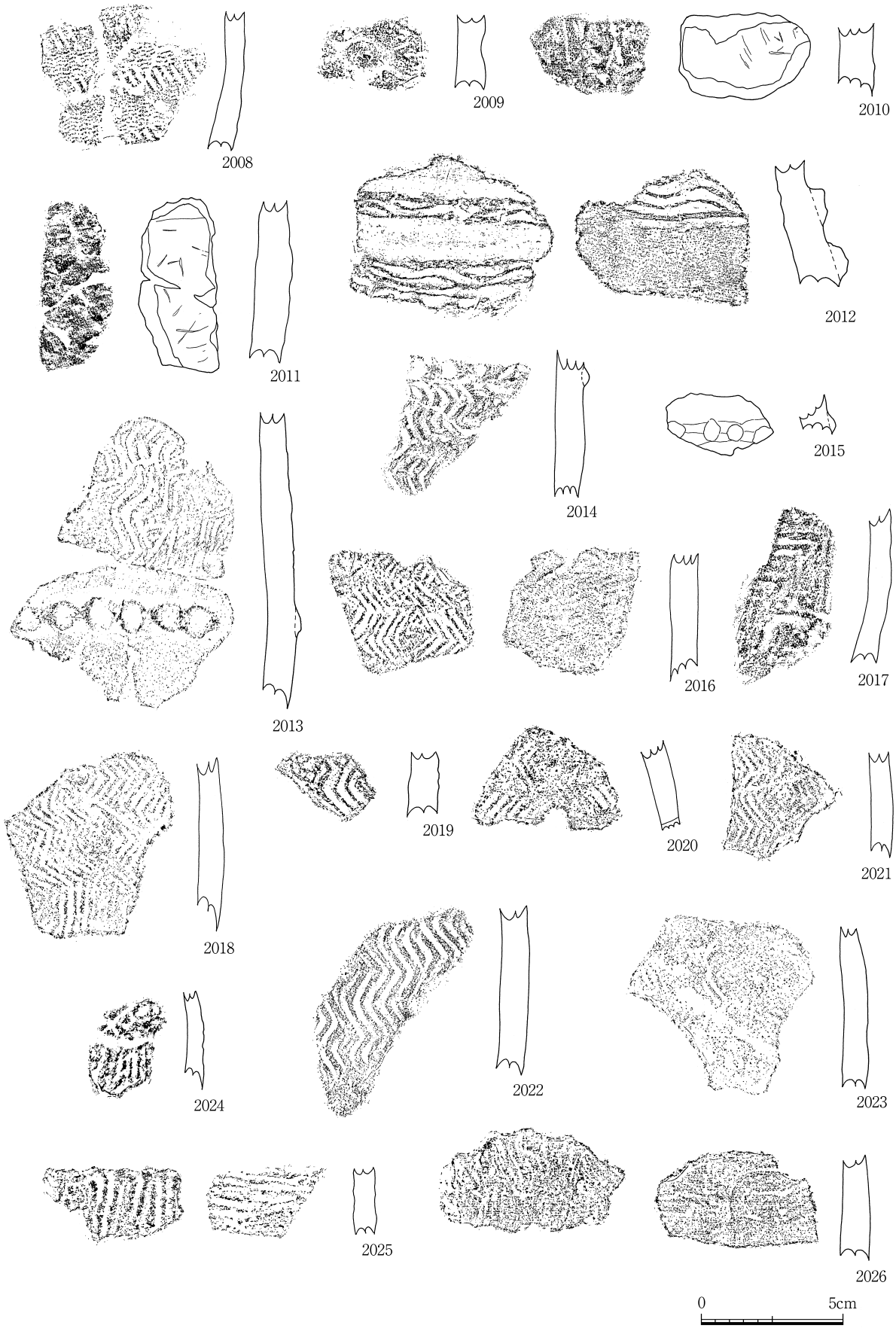


Fig. 227　縄文土器②－早期1類－（押型文土器）

早期2類・・天道ヶ尾式土器（Fig.228－2027～2032）

早期2類は、押し引き沈線による施文、刺突文の施された縦位隆帯の貼付という特徴を持つ。押し引きは強い押し引きと弱く浅い押し引きが交互に現れる。文様構成などの諸特徴から、早期2類は南九州の天道ヶ尾式（明見式）土器であり、早期後半に位置づけられる資料である。出土地点は、南側の縄文土器集中部（グリッドG-7周辺／G-7～F-7）で出土層位はG①・G②層からであり、2032のみが1号岩陰Ⅴ層からの出土となっている。2029～2032は小片であり、沈線の特徴を根拠として早期2類に分類したが、2032については出土地点・胎土の特徴が他の個体とは異なっており、他時期の資料である可能性もある。

2027と2028については縦位隆帯と沈線がともに観察できる。

2027は隆帯と沈線の組み合わせによって文様を構成する。沈線は押し引き刺突の明瞭なものと明瞭でないものがある。全ての沈線が同じではないが、押し引き刺突の明瞭な沈線とそうではない沈線が交互に配置されている。細いヘラ状原体による連続押し引きで、原体の動きは、土器を正位置に置いたとき、上から下へ、左から右へと動いているが、貼付隆帯の左側では右上から左下へと動いている。これは右利きの人間が土器を正位置に置いて施文したためであろう。土器内面には指頭と思われる圧痕がみられるが、その圧痕は貼付された縦位突帯の裏側において著しい。この土器は、口縁部直下に位置する部位であると考えられる。

2028は2条の刺突文を持つ縦位の隆帯が貼付され、隆帯に対して斜め方向の沈線文が施文される。2027と比較すると押し引きの度合いは弱いものの、明らかな押し引き沈線である。

早期2類土器については、当初押し引き沈線を手がかりに前期初頭の土器ではないかと考えていたものの、周辺地域に類例を見つけることができず、位置付けに苦慮していた。この土器が早期後半の天道ヶ尾式土器であるという指摘をはじめて頂いたのは鹿児島県埋蔵文化財センターの前迫亮一氏からである。

早期3類・・平栫式土器（Fig.229－2033～2036）

横位の結節縄文を持つ土器を早期3類とした。形態的な特徴は、わずかに外傾して立ち上がる胴部から、頚部で屈曲して外方へ大きく直線的に開く口縁に至る。口縁は外面が肥厚し、口唇に刻み目を持つ。頚部の屈曲部で内面は稜を成すが、外面は緩やかに屈曲し稜は認められない。早期3類の指標とした横位の結節縄文は、胴部から頚部にかけては、無地（ナデ調整）の上に約3cmの間隔で施文され、口縁肥厚部では縄文地（RL）の上に施文される。文様の認められるのは外面のみである。外面はナデ調整のため条痕は観察できないが、内面には条痕が残る。

図示した2033～2036は、1号岩陰Ⅴ層からの出土であり、胎土の特徴も似通っているなど同一個体である可能性がある。

早期後葉の南九州系の土器としては、愛媛県池ノ岡遺跡の塞ノ神式土器に次ぐものであり、塞ノ神・平栫式土器の分布範囲が南四国太平洋岸に及んでいることをはじめて示した資料である。当遺跡内においても早期中葉から後半にかけての手向山式・穂谷式併行期の大型の山形押型文と

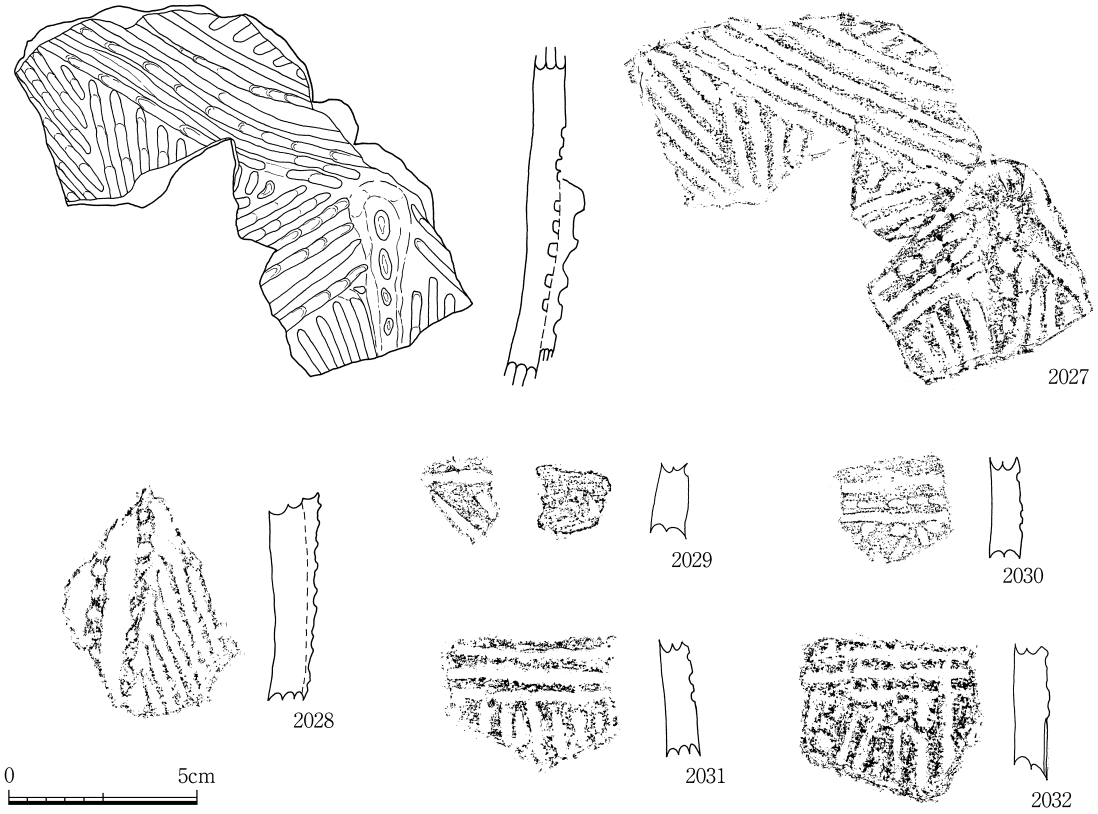


Fig. 228　縄文土器③－早期2類－（天道ケ尾式）

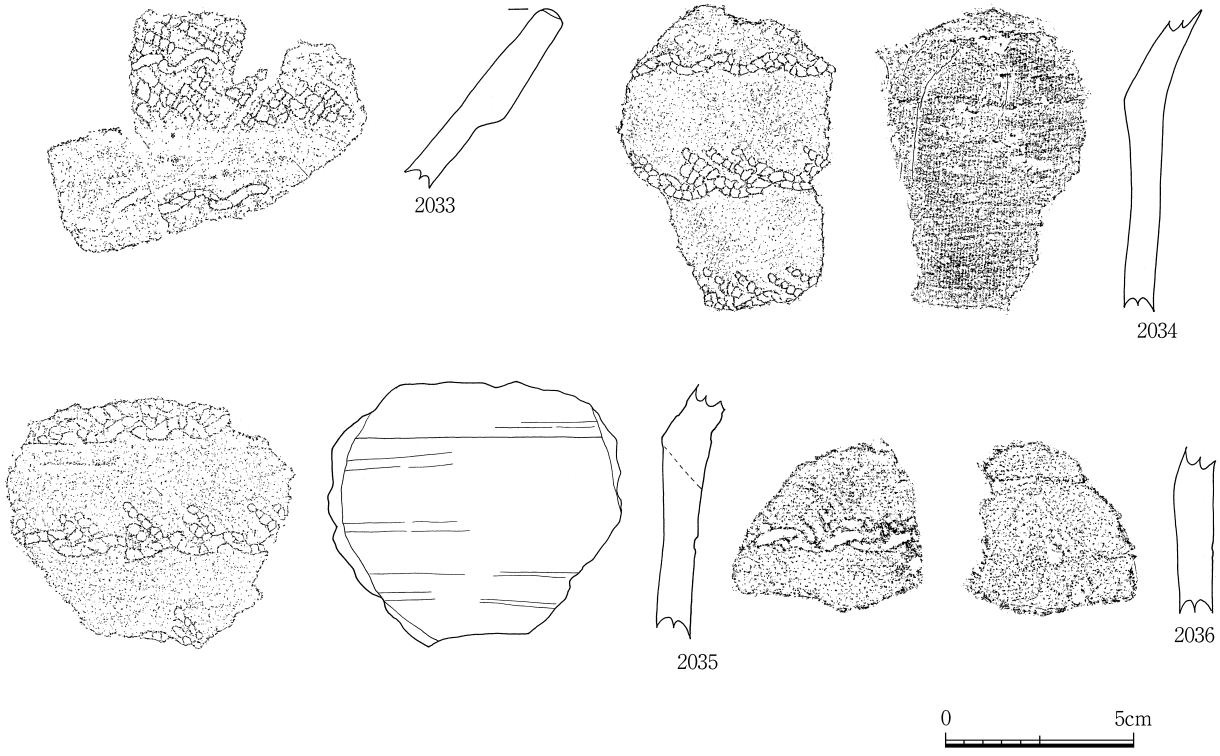


Fig. 229　縄文土器④－早期3類－（平栫式）

横位にめぐる突帯を指標とする南四国の城ノ台式土器の段階から、南九州と同じ階梯を踏んで、手向山・穂谷式（城ノ台式）→天道ヶ尾式→平栫式の３時期の連続する土器型式が検出されたことには意義があろう。

なお、早期3類が平栫式土器ではないかという指摘をはじめて頂いたのは、宮崎県埋蔵文化財センター岩永哲夫氏からであり、それまでは草創期の隆帯文土器以外に南九州系の土器が存在するという認識を全く持っていなかった。

早期4類・・繊維土器（Fig.230－2037～2040・2042～2048）

器壁の厚さ8㎜から24㎜前後の厚さを持つ比較的厚手の土器であり、器表に植物繊維の痕跡が認められる土器を4類とする。図示した早期4類土器は11点で、口縁形状の明らかな個体は2037のみである。2037は端部に刻み目を持ち、器壁8㎜から10㎜程度と4類の中では最も薄くなっている。繊維土器と称することが適当な土器群であり、口縁部の破片以外では、繊維痕以外に特徴のある加飾は認められない。早期1類とした押型文土器の中にも、同様の繊維痕の残るものもある。

小片が多く復元可能個体もほとんどなかったため、繊維土器とし一括して取り扱ったが、早期4類とした土器の所属時期は早期中葉から早期末までに渡っていると考えられる。出土層位はⅦ層からⅤ層に渡っており、上層のⅢ層にも早期であると考えられる資料が含まれる。また調査区南端グリッドG-7、G-②層からも出土している。小片にも関わらず早期と判断した根拠は繊維痕の存在と器壁の厚さである。早期の図版掲載資料の中でⅦ層出土資料は1類Aと1類Bの押型文土器の他には、2039・2040・2048の繊維土器（4類）と2041・2051の条痕地の土器（6類）のみである。

早期5類・・無文土器-口縁が外面に短く屈曲（Fig.230－2049・2050）

5類土器は口縁部の形態をもとに類別を設定した。口縁は短く外側に屈曲する。繊維痕も認められるが、4類とした繊維土器のグループと比べると器壁は2049が6㎜、2050が8～10㎜とより薄く、早期4類と同じ土器である可能性は小さい。繊維痕の存在から、早期後半～早期末に位置付けられる可能性を考えている。1号岩陰A地点（Ⅴ層）からの出土である。

早期6類・・条痕文土器（Fig.230－2041・2051）

条痕地の無文土器を6類とする。南四国の縄文時代早期後半の土器として十川駄場崎遺跡などから条痕文土器が報告されており、今回の資料中で類例は少ないが、条痕文土器の可能性を考えて早期6類とした。2号岩陰Ⅶ層から出土している。

Fig. 230　縄文土器⑤

早期4類（繊維土器）
（2037～2040・2043～2048）

早期5類（無文土器）
（2049・2050）

早期6類（条痕文土器）
（2041・2051）

（3）前期（Fig.231・232－2052～2090）

前期の土器は前期初頭から前半にかけての時期と、前期末の時期の2時期のものが検出されている。前期中葉の土器は未確認である。前期は小破片が大半だが、ある程度時期比定が可能だと考えられるものは、可能な限り類別してみた。前期1類～前期18類に分類、1～6類が羽島下層式、7類が北白川下層1a式、８・９類が磯ノ森式、10類が彦崎ＺⅠ式、そして、11～17類が前期末の里木Ⅰ式（彦崎ＺⅡ式・大歳山式）である。

前期1類（Fig.231－2052・2053）

ヘラ描沈線による直線文あるいは曲線文の組み合わせにより文様を形成する。線自体が細く鋭利な原体による。前期初頭に位置づけられると考えているが詳細は不明。早期末の資料である可能性もある。

前期2類（Fig.231－2054～2058）

連続する刺突文で器面を装飾し、微隆起帯をもつ。微隆起帯は上下を押圧することによりつくり出す。羽島下層式、前期初頭。

前期3類（Fig.231－2059）

刻目隆起帯を有する土器。若干内傾する。刻み目突帯と押し引き沈線で加飾するが、刻み目と押し引きに同一の原体を使用したものと考えられる。羽島下層式、前期初頭。

前期4類（Fig.231－2060）

押し引き沈線を指標とする。羽島下層式に相当する。

前期5類（Fig.231－2061・2062）

2個1単位の連続押し引き。羽島下層式に相当する。

前期6類（Fig.231－2063）

条痕地の土器である。器壁の薄さを根拠に、前期初頭の土器であるとした。羽島下層式の範疇で捉えられる可能性のある土器である。

前期7類（Fig.231－2064）

北白川下層1a式。Ｄ字爪形文。

前期8類（Fig.231－2065）

前期前半の磯ノ森式。北白川下層式併行。外面にＣ字爪形文、内面に縄文（RL）施文。

前期9類（Fig.231－2066・2067）

磯ノ森式。外面にRLの縄文施文。2066は口縁部が残り、端部に縄文圧痕が残る。

前期10類（Fig.231－2068）

竹管状原体による連続押し引き文。彦崎ＺⅠ式。

前期11類（Fig.232－2069～2073）

内外面にRL（2069のみLR）の縄文施文、外面に突帯貼付し突帯の上下に沈線を施す。2069のみ突帯形状も異なり、扁平な断面形状を呈する。前期末の里木Ⅰ式。

前期12類（Fig.232－2074～2076・2086・2087）

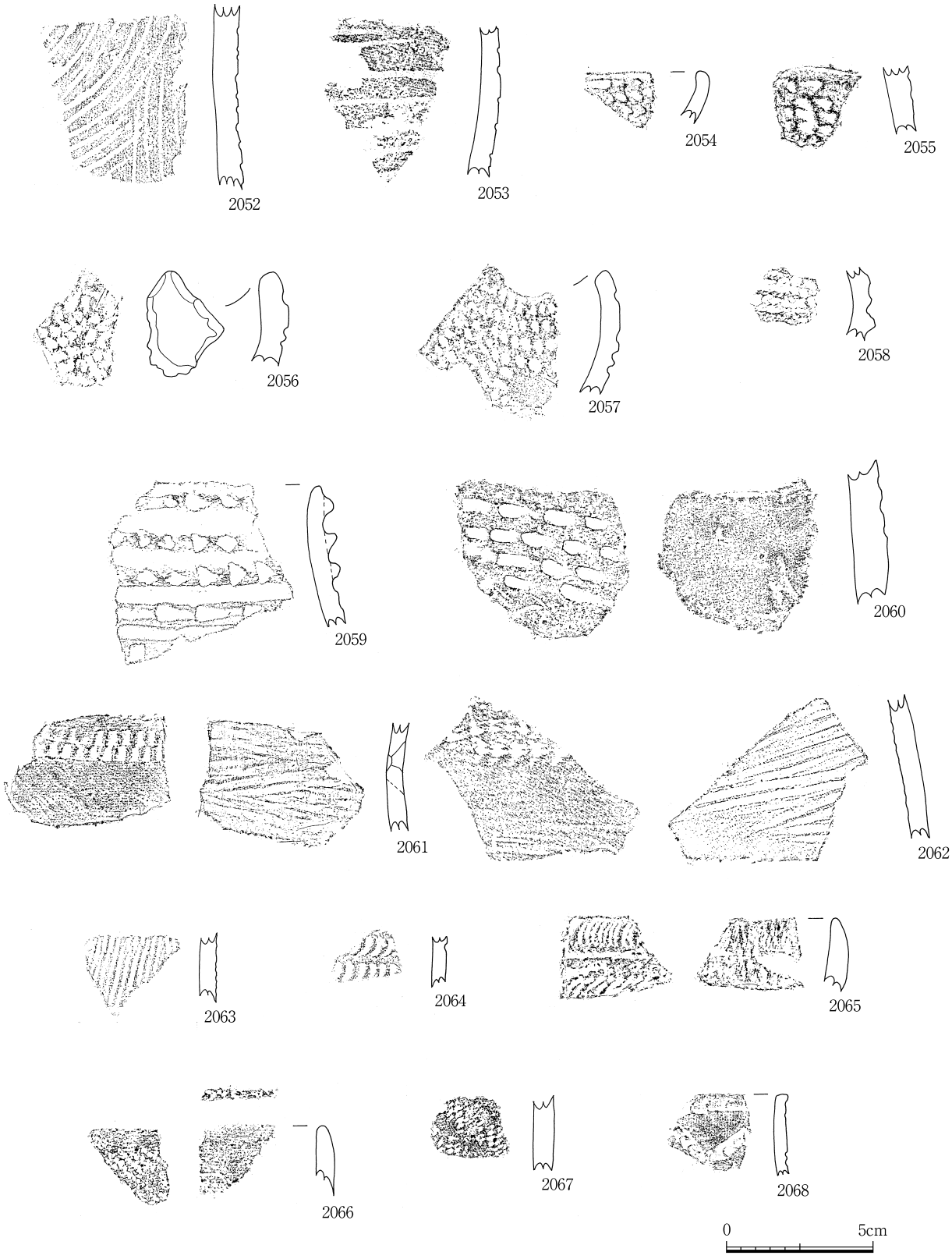


Fig. 231　縄文土器⑥－前期1－

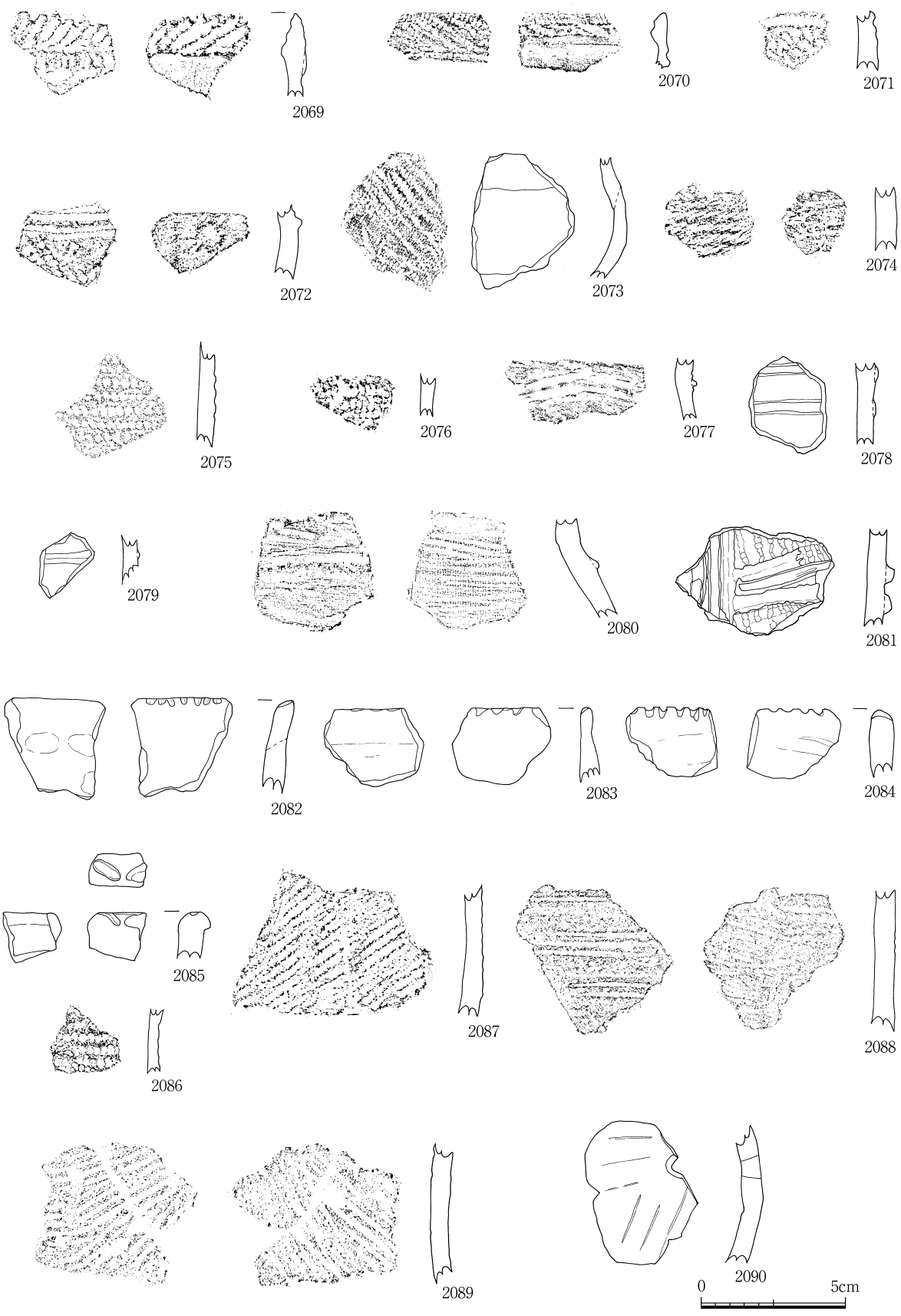


Fig. 232　縄文土器⑦－前期2－

縄文地の土器で前期末に位置付けられる可能性がある。

前期13類（Fig.232－2077～2080）

条痕地に微隆起帯を持つ。

前期14類（Fig.232－2081）

縄文地に横位と縦位の微隆起帯と半截竹管を組み合わせて施文。

前期15類（Fig.232－2082～2084）

口縁端部に刻み目を持つ。口縁下、若干肥厚。

前期16類（Fig.232－2085）

口縁端部肥厚、刻み目状の短沈線により口唇にハの字状の装飾を施す。

前期17類（Fig.232－2087～2090）

条痕地の土器で前期末に位置付けられる可能性を持つ。

前期土器の出土層位は、早期末の可能性もある前期1類がⅥ層、前期初頭から前半に位置付けられる資料は、Ⅴ層やG-①層出土資料もあるものの大半がⅣ層、前期後半～前期末の資料も同様にⅣ層出土のものがほとんどである。なお、2075は2号岩陰Ⅶ層出土であり、他時期の可能性もある。

（4）中期（Fig.233－2091～2101）

縄文時代中期に関しては、中期初頭と中期末の資料が確認されている。中期末の資料は中期末～後期初頭の資料として後期の項で取り扱い、ここでは中期初頭（船元Ⅰ式）に位置づけられる資料のみを報告する。１号岩陰の南側に堆積するⅣ層から出土する資料が多い。

中期1類（Fig.233－2091）

口縁部外面に貝殻刺突文、内外面にRLの縄文を施文。

中期2類（Fig.233－2092）

口縁部内外面にRLの縄文施文。外面にＤ字形の爪形文。

中期3類（Fig.233－2093）

条痕地にＣ字形の爪形文を施文。

中期4類（Fig.233－2094～2101）

外面が縄文地の土器を中期4類としてまとめた。縄文地に刺突文のある小破片（2094）、LRの縄文地に沈線と短沈線で加飾するもの（2095）、縄文地に沈線による加飾が認められるもの（2101）などがあり、それ以外の破片は縄文地である以外に特徴はない。

（5）後期（Fig.234・235－2102～2128）

後期（中期末の資料も含む）と判断される資料で図版に掲載した資料は27点である。出土層位がはっきりとわかる資料は大半がⅣ層出土であり、出土地点は1号岩陰と1号岩陰の南側となっている。2098～2117は中期末から後期初頭にかけての資料で、この時期より新しいとはっきりと位

置付けることの可能な資料は、2118・2119（後期前半～中葉）、それ以外の資料については後期と考えられるものの、詳細な時期設定ができなかった。

後期1類（Fig.234－2102・2105・2107、Fig.235－2121・2122）

沈線による文様施文を行う。無地で、器面はナデ調整のものと条痕を残すものがある。モチーフが明瞭な個体はほとんどない。2102は2本の沈線間に斜位短沈線を連続して施文するモチーフを持つ土器で、内面は条痕が残るが、外面にはナデ調整により条痕の痕跡を残さない。

Fig. 233　縄文土器⑧－中期－

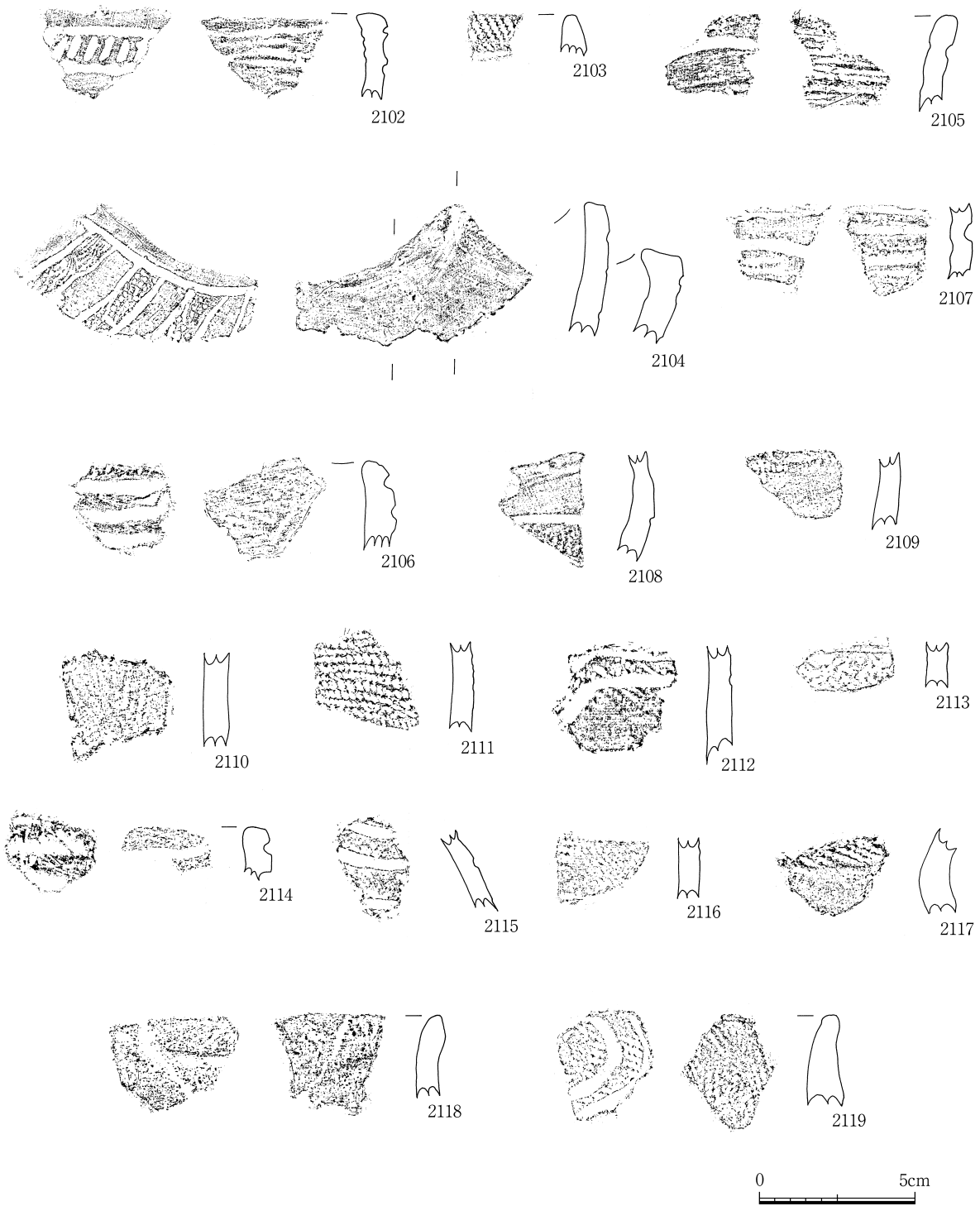


Fig. 234　縄文土器⑨－後期1－

後期2類（Fig.234－2103・2112・2114・2115・2120）

磨消縄文を持つ土器。縄文原体はRLが大半を占める。2103は沈線と口縁部外面にRLの縄文が残るだけの口縁部細片だが、磨消縄文と判断して後期の資料としている。

後期3類（Fig.234－2104・2108）

貝殻縁辺を使用した擬縄文による磨消縄文を持つ土器。2104は波状口縁を持つ有文深鉢で、沈線による区画と擬縄文が施文されている。

後期4類（Fig.234－2118）

口縁部が肥厚し、外面にLRの原体による縄文施文。

後期5類（Fig.234－2119）

内外面に縄文（RL）施文、外面は縄文地に沈線で文様を施文する。

後期6類（Fig.235－2125～2127）

無文で、丸味を帯びた口縁形状をなす。内外面条痕が残るものの、外面はていねいなナデ調整（工具を使用したナデを想定される。）により仕上げられる。

Fig. 235　縄文土器⑩－後期2－

後期1類から3類までが、中期末から後期初頭の時期幅で捉えられる遺物であり、中期末の矢部奥田式新段階（平式）、後期初頭の中津式古段階から中津式新段階に至る資料を含んでいるものと考えられる。また、後期4類・5類は後期中葉の平城式2類土器に相当する。

なお、類別し得た土器以外については、出土層位や調整・縄文などの諸特徴によって後期としたが、詳細な時期についてはわからない。また、2126は2号岩陰Ⅶ層から、2127は1号岩陰Ⅵ層から出土しており、後期6類（2126・2127を含む）については後期の土器として分類したものの、より古い時期の資料である可能性もある。

（6）時期不明資料（Fig.236・237－2129～2144）

Fig.236・237に示したものが、時期の特定をすることができなかった縄文時代の資料である。Fig.236は何らかの特徴をもつ口縁部および胴部の破片でFig.237は底部および土器片錘である。

2129は口唇に刻み目を持ち口縁端部外面に刻み目を持つ小突帯を貼付する。2130は口縁外面に断面三角形の粘土帯を貼付、突帯上に加飾はみとめられない。2131は刻み目突帯の残る小破片で、口縁部の形状は不明。2132は粗製深鉢の口縁部で口唇は丸く仕上げている。2133は貝殻縁辺によ

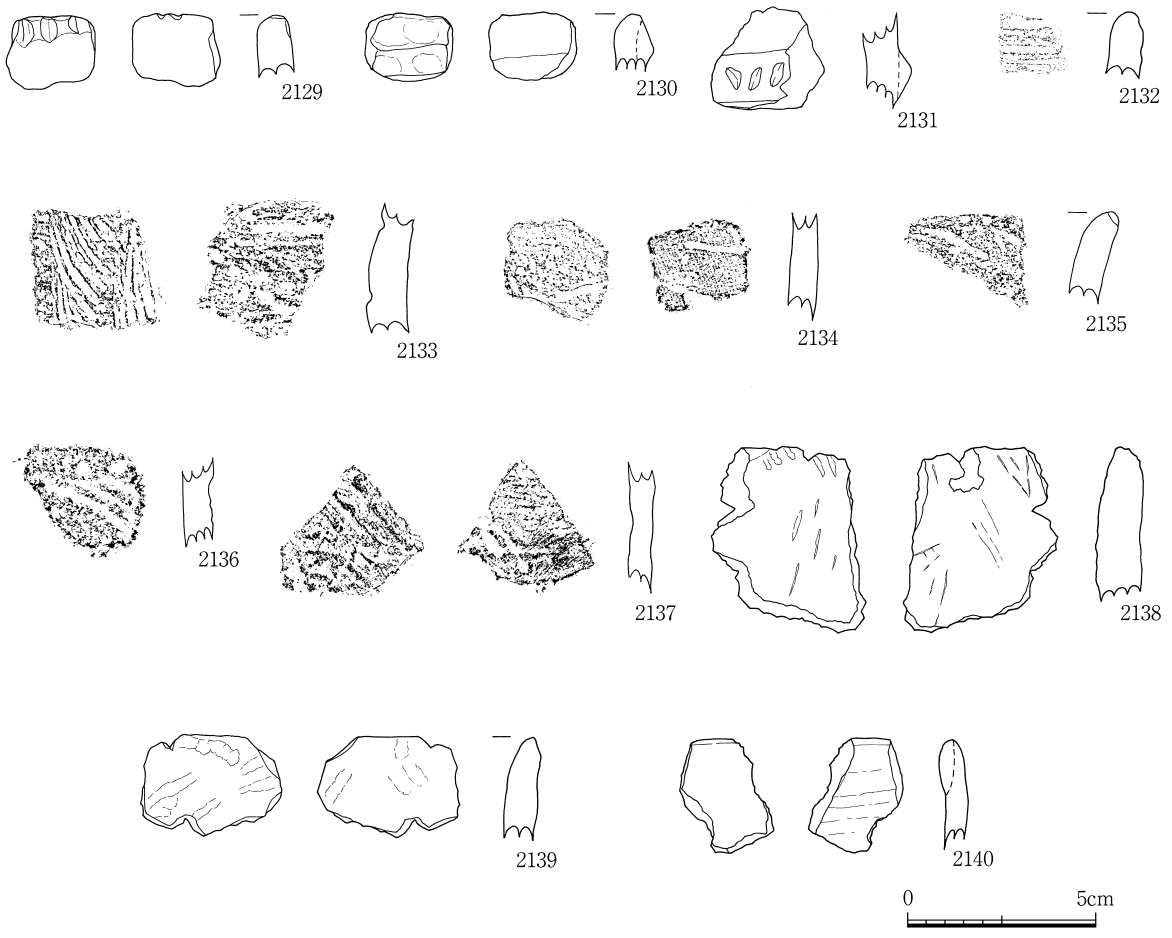


Fig. 236　縄文土器⑪－時期不明－

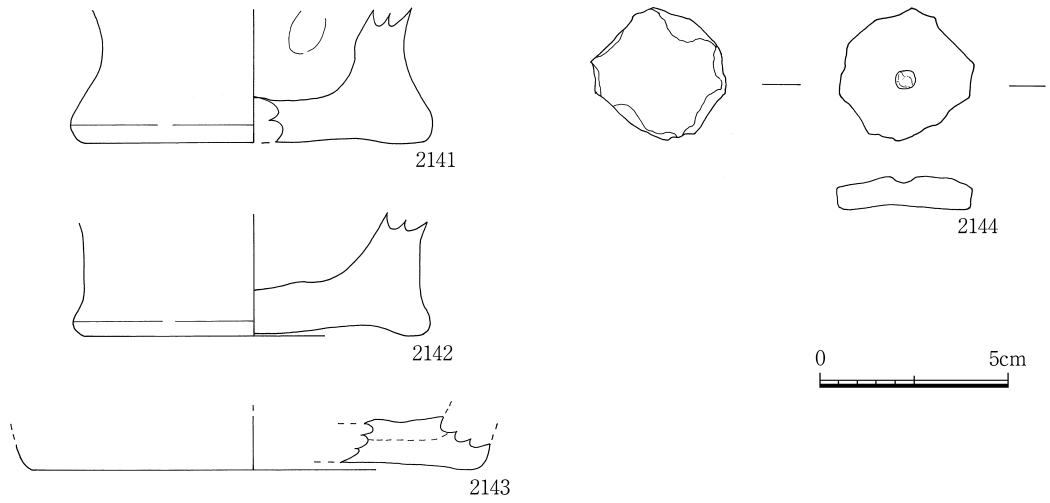


Fig. 237　縄文土器⑫－底部・土器片錘（2144）－

る擬縄文で外面を加飾、内面に条痕を残す。2134は内面に繊維の圧痕が残り、外面に撚糸文状の縄文が残るものの明瞭ではない。2135は口縁部小片で、口唇に刻み目を持ち、外面に斜位の沈線を施文する。2136は口縁端部が失われているが、口縁外面が肥厚し、肥厚部下に斜位の沈線を施す。2137は内外面条痕を残す小片、2138～2140は無文の口縁部小片、口縁端部は丸く仕上げ、2140のみ内面が肥厚する。

これらの小片・細片については、特徴を読み取ることはできるもののはっきりとした時期の特定には資料不足のため、資料化するにとどめたい。出土地点・層位から考えると、Ⅶ層からの出土が、2130・2138・2140の3点であり、撚糸文（?）を持つ2134はⅧ-b層からの出土となっている。取り上げ時点で層の認定に問題のある可能性もあるが、Ⅶ層以下出土であることは確かであり、下層出土資料として注意しておき、今後位置付けがなされることに期待したい。Fig.237の底部は、3点とも1号岩陰・Ⅴ層出土の資料であり、土器片錘は1号岩陰南側のⅣ層中からの出土である。

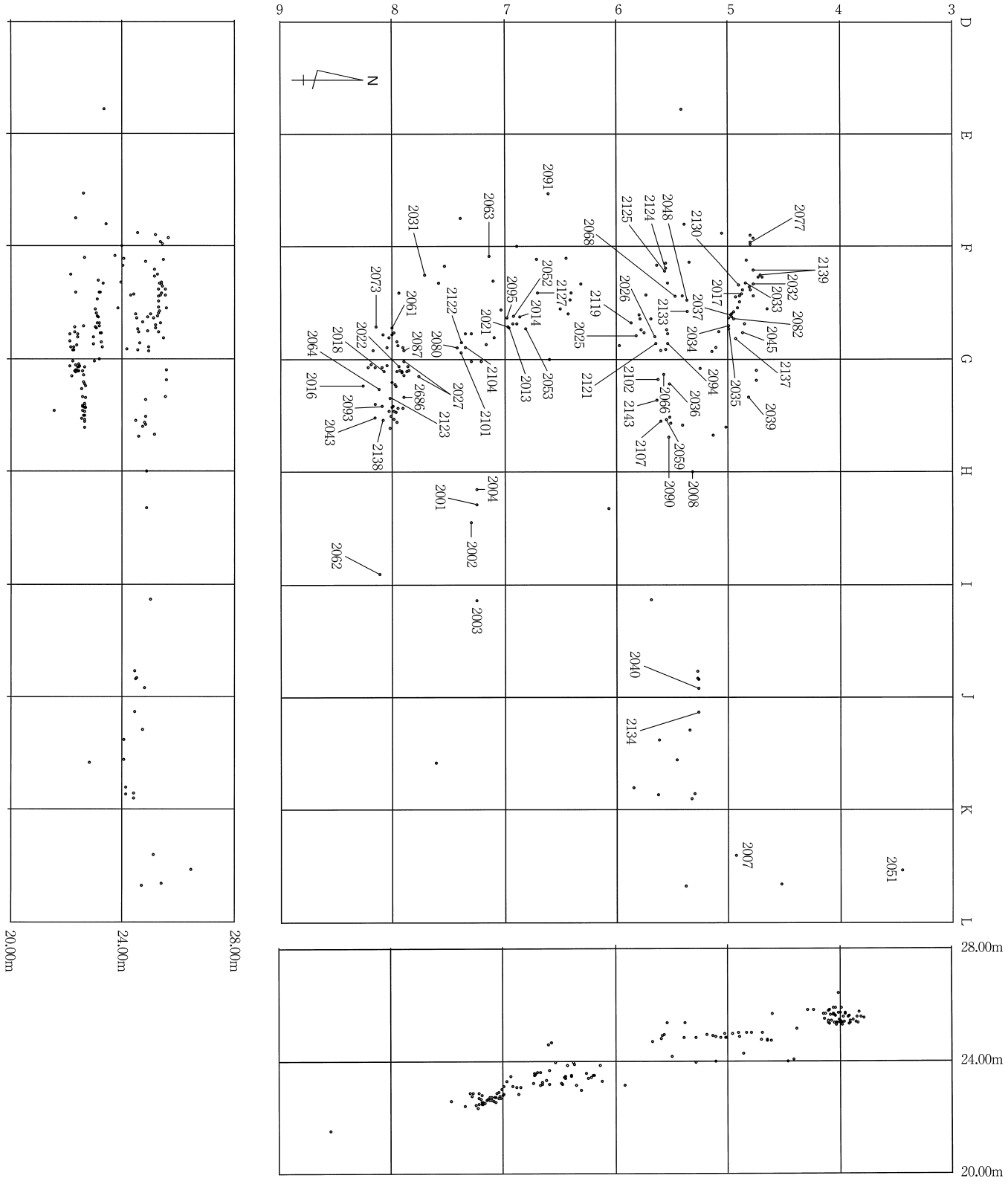


Fig. 238　縄文土器出土地点

Tab. 27　縄文土器観察表①

Fig.番号	図版番号	層　位	出土地点	口縁形状	文　　様	内面調整	外面調整	色　調	チャート砂　粒	火山ガラス（石英・雲母・角閃石）	白い鉱物（長石か?）	時　期	分類	型式名・その他
226	2001	遺構出土	SX101		圧痕文のある幅広の隆帯・隆帯は螺旋状	ナデ	ナデ	褐色	+		++	草創期前半	草創期1類A	隆帯文土器
226	2002	遺構出土	SX101	刻目あり	微隆起帯貼付・口唇内外面に刻目	ナデ	ナデ	褐～暗褐色	+	+	+	草創期前半	草創期2類	隆起線文土器
226	2003	遺構出土	SX101		無文	ナデ	ナデ	褐色	++		+	草創期前半	草創期3類	無文
226	2004	遺構出土	SX101		無文	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	++		+	草創期前半	草創期3類	無文
226	2005	遺構出土	SX101		無文（繊維土器）	ナデ	ナデ	明黄褐色	+			早期?	草創期4類	繊維土器に類似・器壁厚手、SX101中央バンクの上層か?
226	2006	G−②	F−7	外面肥厚+刻み目	幅狭の隆帯文・口縁部に刻目+隆帯上に刻目（原体は異なる）	ナデ	ナデ	にぶい褐色	+	+	+	草創期前半～中葉	草創期1類B	隆帯文土器・南端G−7周辺
226	2007	Ⅴ	TR11北バンク		隆帯（幅25mm）	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+++		+	草創期（?）	草創期1類C	加飾のない隆帯・異なる時期の可能性もある。
227	2008	Ⅶ	G−5		押型文（細かい波状+縦連続線）	ナデ		にぶい褐色	+	+	+	早期中葉	早期1類A	押型文土器Ⅱ～Ⅲ
227	2009	Ⅴ	F−6−14		押型文（楕円押型文）	指頭圧痕		明赤褐色	+++		++	早期中葉～後半	早期1類B	押型文土器Ⅳ
227	2010	Ⅶ	F−4・東西バンク		押型文（楕円押型文）、繊維痕	ナデ		にぶい赤褐色	+		+	早期中葉～後半	早期1類B	押型文土器Ⅳ
227	2011	Ⅶ	F−4・東西バンク		押型文（楕円押型文）、繊維痕	ナデ		にぶい赤褐色	+		+	早期中葉～後半	早期1類B	押型文土器Ⅳ
227	2012	Ⅶより上層	L−3−2		隆帯+押型文（波状）−外−、押型文（波状）−内−	ナデ	ナデ	にぶい褐色	+++	+	++	早期中葉～後半	早期1類C	押型文Ⅴ
227	2013	Ⅵ	F−6・7		押型文（山形文−縦）+扁平刻目突帯	ナデ	ナデ	橙色	++	+	++	早期後半	早期1類D1	押型文Ⅴ
227	2014	Ⅴ	F−5・6		押型文（山形文−縦）+刻目突帯	ナデ		橙色	+	+	+	早期後半	早期1類D1	押型文Ⅴ
227	2015	排土一括	F−5・A地点		刻目突帯	ナデ		にぶい褐色	++			早期後半	早期1類D1	押型文Ⅴ
227	2016	G−②	G−7−S	平+刻目	押型文（山形文）	ナデ		にぶい褐色	+++	+		早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2017	Ⅴ	F−4		押型文（山形文−縦）	ナデ		にぶい褐色	++	+	++	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2018	G−①	F−7		押型文（山形文−縦）	ナデ		にぶい褐色	++	+	++	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2019	Ⅴ	F−7−2		押型文（山形文−縦）	ナデ		にぶい黄褐色	++	+	++	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2020	G−①	G−7−S		押型文（山形文）	ナデ		橙色	++	+	++	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2021	Ⅳ	F−5・6		押型文（山形文−縦）	ナデ		にぶい褐色	++	+	++	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2022	G−①	G−7−S		押型文（山形文−縦）	ナデ		橙色	+++	++	+	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2023	G−①	G−7−S		押型文（山形文）−不鮮明−	ナデ		にぶい明褐色	+++		++	早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2024	検出時	F−6		押型文（やや不明瞭）	ナデ		黒褐色	+			早期後半	早期1類D2	押型文Ⅴ
227	2025	Ⅳ	F−5		条痕地	条痕	条痕	橙色	++			早期後半～末	早期6類	条痕文土器?
227	2026	Ⅳ	F−5		条痕地	条痕+ナデ	条痕+ナデ	にぶい褐色	+	++	+	早期後半～末	早期6類	条痕文土器?
228	2027	G−②	F−7		沈線・押し引き沈線	ナデ		灰黄褐色	+++	+	+	早期後半	早期2類	天道ヶ尾式
228	2027	G−①	G−7−S		沈線・押し引き沈線、隆帯+刺突文	ナデ		にぶい褐色	+++	+	+	早期後半	早期2類	天道ヶ尾式
228	2028	G−②	F−7		2条の刻目突帯+斜位沈線	ナデ		にぶい黄橙色		+	+	早期後半	早期2類	天道ヶ尾式
228	2029	Ⅶ	G−7		沈線（横位+斜位）	ナデ		明赤褐色	++			早期後半	早期2類	天道ヶ尾式

Tab. 27　縄文土器観察表②

Fig.番号	図版番号	層　位	出土地点	口縁形状	文　　様	内面調整	外面調整	色　調	チャート砂　粒	火山ガラス（石英・雲母・角閃石）	白い鉱物（長石か?）	時　期	分　類	型式名・その他
228	2030	G−②	F−7		沈線・押し引き沈線、刺突文	ナデ		灰黄褐色	+	+		早期後半	早期2類	天道ヶ尾式
228	2031	Ⅳ	F−7		沈線・押し引き沈線	ナデ		灰黄褐色	++	+	++	早期後半	早期2類	天道ヶ尾式
228	2032	Ⅴ	F−4		沈線（横位+縦位）	ナデ		にぶい黄橙色	+++	+	+	早期後半	早期2類	天道ヶ尾式
229	2033	Ⅴ	F−4	平+刻目	結節縄文、縄文（RL）−肥厚口縁−、頚部稜明瞭	ナデ	ナデ	褐色	+		+	早期後半	早期3類	平栫式
229	2034	Ⅴ	F−4		結節縄文（RL）、頚部稜明瞭	条痕	ナデ	褐色	++	+	+	早期後半	早期3類	平栫式
229	2035	Ⅴ	E−4	稜明瞭	結節縄文（末端結節）	条痕+ナデ	ナデ	褐色	++	+	+	早期後半	早期3類	平栫式
229	2036	Ⅴ	G−5		結束縄文、頚部稜をなして屈曲	ナデ	ナデ	明赤褐色	++	++		早期後半	早期3類	平栫式
230	2037	Ⅴ	F−4	平+刻目	繊維土器、口縁上方から刻目	?		にぶい褐色	++	+		早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2038	Ⅳ	F−7−3		繊維土器	?		にぶい褐色	?			早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2039	Ⅷ	G−4		無文・繊維土器			橙色	++	+		早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2040	Ⅷ	I−5−8		無文?、繊維土器?	条痕	不明	橙色	+	+		早期中葉〜末	早期6類	条痕文土器
230	2041	Ⅷ−2	G−7−S		条痕文土器	ナデ	条痕+ナデ	にぶい黄褐色	+++		++	早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2042	検出時	F−6		繊維土器	不明		明赤褐色	++			早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2043	G−②	G−7−S		繊維土器	不明		にぶい橙色	+++	+	++	早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2044	Ⅷ	G−5		無文	ナデ	ナデ	灰黄褐色	+++		++	早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2045	Ⅴ	F−4		繊維土器	不明		明赤褐色	+	++		早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2046	サブトレ①下層	サブトレ①（TR3先行トレンチ）		繊維土器、器壁18mm	条痕		橙色	+			早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2047	G−②	G−7−S		繊維土器		ナデ	にぶい黄橙色	++		+	早期中葉〜末	早期4類	繊維土器
230	2048	Ⅷ	TR−3		繊維痕含み、沈線を持つ。	磨耗顕著		暗褐色〜褐色	+			早期	早期?	太い沈線。草創期の可能性?
230	2049	Ⅴ	F−5・A地点	平+外屈曲	無文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+++			早期後半〜末	早期5類	無文土器
230	2050	Ⅴ	F−5・A地点	平+外屈曲	無文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+++			早期後半〜末	早期5類	無文土器
230	2051	Ⅷ	TR12NSバンク		条痕地	条痕+ナデ	条痕	灰褐色	+++	+		早期後半〜末	早期6類	条痕文土器
231	2052	Ⅵ	F−5・6		沈線	ナデ	ナデ	にぶい橙色	++		+	早期末〜前期初頭	前期1類	沈線文土器?早期末の可能性有。
231	2053	Ⅵ	F−5・6		沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	++		+	早期末〜前期初頭	前期1類	沈線文土器?早期末の可能性有。
231	2054	G−①	F−6・7	波状?	刺突文（半截竹管）	ナデ		にぶい黄褐色	+	+		前期初頭	前期2類	羽島下層式
231	2055	Ⅳ	E−4		刺突文	ナデ		にぶい黄橙色	+		+++	前期初頭	前期2類	羽島下層式
231	2056	Ⅳ	F−7	波状	刺突文（竹管状原体）			にぶい黄褐色	++	++		前期初頭	前期2類	羽島下層式
231	2057	埋め立て土	F−7（巨岩南）	波状	刺突文	ナデ	ナデ	灰黄褐色	+	+		前期初頭	前期2類	羽島下層式
231	2058	Ⅳより上層	F−6・7		微隆起帯+刺突文（半截竹管）	ナデ	ナデ	灰黄褐色	+			前期初頭	前期2類	羽島下層式
231	2059	Ⅴ	G−5	平	刻目突帯+押し引き沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	?			前期初頭	前期3類	羽島下層式

Tab. 27　縄文土器観察表③

Fig.番号	図版番号	層　位	出土地点	口縁形状	文　　様	内面調整	外面調整	色　調	チャート砂　粒	火山ガラス（石英・雲母・角閃石）	白い鉱物（長石か?）	時　期	分　類	型式名・その他
231	2060	Ⅵ・Ⅶ排土	J-5		押し引き沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	+++	+	+	前期初頭	前期4類	羽島下層式
231	2061	Ⅳ	F-7		2個1単位の連続押し引き	条痕	条痕+ナデ	暗褐色	+	+	+	前期初頭	前期5類	羽島下層式
231	2062	ES-Ⅰ	ES		2個一対の押引文	条痕+ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	++	+	+	前期初頭	前期5類	羽島下層式
231	2063	Ⅳ	F-5・6		条痕地	ナデ	条痕	にぶい黄橙色	+			前期初頭	前期6類	羽島下層式
231	2064	G-①	G-7-S		D字爪形文	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色			+	前期前半	前期7類	北白川下層Ⅰa式
231	2065	Ⅳ	F-7	平	C字爪形文-外面-、縄文（RL）-内面-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+	+		前期前半	前期8類	磯ノ森式
231	2066	Ⅴ	G-5	平?+縄文	縄文（RL）・口唇上に縄文圧痕	ナデ	ナデ	黄褐色	+			前期前半	前期9類	磯ノ森式
231	2067	Ⅳ	E-6-S		縄文（RL）	ナデ	ナデ	にぶい褐色	+			前期前半	前期9類	磯ノ森式
231	2068	Ⅲ	F-5		竹管状原体による連続押し引き文	ナデ	ナデ	暗灰黄色	+			前期前半	前期10類	彦崎ZⅠ式
232	2069	Ⅳ	F-7	平+刻目	縄文（LR）-内外-、扁平突帯+刻目-外-	ナデ	ナデ	褐色	++		++	前期末	前期11類	里木Ⅰ式
232	2070	Ⅳより上層	F-6・7	平	刺突文+突帯-内-、斜線+縄文（RL）-内外-	ナデ		にぶい黄褐色	?			前期末	前期11類	里木Ⅰ式
232	2071	サブトレ①上層	サブトレ①（TR3洗浄トレンチ）		縄文（RL）+突帯（上下沈線）	ナデ		にぶい黄褐色	+			前期末	前期11類	里木Ⅰ式
232	2072	Ⅳ	F-7		縄文（RL）+突帯（上下沈線）	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+			前期末	前期11類	里木Ⅰ式
232	2073	Ⅳ	F-7		縄文（RL）	ナデ		にぶい黄褐色	++	+		前期末	前期11類	里木Ⅰ式
232	2074	Ⅳ	E-6-S		縄文（LR）			にぶい赤褐色	+++			前期末	前期12類	里木Ⅰ式? 中期初頭?
232	2075	Ⅶ	K-3（TR12西バ）		縄文（RL）	ナデ		黄褐色	++			前期末	前期12類	里木Ⅰ式
232	2076	Ⅶ層の上にのる褐色粘土	ZT南端		縄文（LR）	ナデ		にぶい橙色	++		+	前期末	前期12類	里木Ⅰ式
232	2077	Ⅴ	E-4		縄文地文?微隆起帯（断面三角形）・結節浮線文	ナデ	ナデ	黄褐色	+		+	前期末	前期13類	里木Ⅰ式
232	2078	Ⅳ～Ⅵ	TR-3-S 東		横位の隆帯を持つ	ナデ	ナデ	明褐色		++	++	前期末	前期13類	里木Ⅰ式
232	2079	Ⅳ	F-7-2		微隆起帯	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	+			前期末	前期13類	里木Ⅰ式
232	2080	Ⅳ	F-7-8		突帯（断面三角形）	条痕	ナデ	にぶい黄橙色	+	+		前期末	前期13類	里木Ⅰ式
232	2081	Pit-4	E-6		縄文地に横位・縦位の隆起帯+半截竹管による沈線	ナデ	ナデ	にぶい橙色	+++			前期末	前期14類	里木Ⅰ式
232	2082	Ⅴ	F-4	平+刻目	口唇刻目	ナデ	ナデ	にぶい橙色	++		+	前期末	前期15類	里木Ⅰ式
232	2083	Ⅴ	G-5	平+刻目	口唇に刻目、口縁下肥厚	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	?			前期末	前期15類	里木Ⅰ式
232	2084	Ⅶ	K-3（TR12西バ）	平+刻目	口唇に刻目	ナデ	不明	橙色	++			前期末	前期15類	里木Ⅰ式
232	2085	P201			口唇に刻目状の短沈線	ナデ	ナデ	浅黄橙色	++			前期末	前期16類	里木Ⅰ式
232	2086	Ⅳ	E-6-S		縄文（LR）	ナデ		にぶい褐色	+	+		前期末	前期12類	里木Ⅰ式
232	2087	G-①	F-7		縄文（RL）	ナデ		にぶい黄橙色	+			前期末	前期12類	里木Ⅰ式
232	2088	Ⅳ～Ⅶ	F-5・TR3S		無文・条痕地	条痕+ナデ	条痕+ナデ	にぶい黄橙色	++			前期末	前期17類	里木Ⅰ式
232	2089	G-②	G-7-S		無文・条痕地	条痕	条痕	にぶい橙色	+++		++	前期末	前期17類	里木Ⅰ式

Tab. 27　縄文土器観察表④

Fig.番号	図版番号	層　位	出土地点	口縁形状	文　　様	内面調整	外面調整	色　調	チャート砂　粒	火山ガラス（石英・雲母・角閃石）	白い鉱物（長石か?）	時　期	分　類	型式名・その他
232	2090	Ⅶ	ユニット2		無文・条痕地	条痕	条痕	にぶい褐色	+		+	早期か前期	前期?	不明・補修孔あり。
233	2091	Ⅳ	E-6-S	平	貝殻刺突文-口縁外-、縄文（RL）-内外-	?		にぶい黄橙色	++			中期初頭	中期1類	船元Ⅰ式
233	2092	Ⅳ	TR3北-東C地点		縄文（RL）-内外-、C字爪形文	ナデ		オリーブ褐色	+			中期初頭	中期2類	船元Ⅰ式
233	2093	KS－Ⅰ	G-7-S		縄文地（RL）上に爪形文（二枚貝）	条痕	条痕	灰黄褐色	+	+	+	中期初頭	中期3類	船元Ⅰ式
233	2094	Ⅲ	F-5		縄文（RL）+刺突文（円形）	ナデ		灰黄褐色	+	+		中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2095	Ⅳ	F-5-6		沈線+刻み?、縄文（LR）	ナデ		にぶい黄褐色	++			中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2096	KS	G-7-S		縄文（LR）	ナデ	ナデ	黒褐色	+	+		中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2097	Ⅳ-1	TR-3-S		撚糸文	ナデ		にぶい黄橙色	++			中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2098	Ⅴ	F-5・A地点		縄文（LR）	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	++	+		中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2099	Ⅴ	F-5・A地点		縄文（RL）-縦方向施文	ナデ		褐色	++	+		中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2100	Ⅳより上層	F-6・7		縄文（LR）	ナデ		にぶい褐色	+	+	+	中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
233	2101	Ⅳ	F-7-8		縄文（RL）+沈線	ナデ		にぶい黄褐色	++			中期初頭	中期4類	船元Ⅰ式?
234	2102	Ⅳ	G-5		沈線+短沈線	条痕	ナデ	にぶい黄橙色	+			中期末後期初頭	後期1類	矢部奥田式˜中津式
234	2103	Ⅳ	TR-3-S東バ	平?	縄文（RL）+沈線	ナデ		にぶい橙色	++			中期末後期初頭	後期2類	矢部奥田式～中津式
234	2104	Ⅳ	F-7-8	波状	沈線+擬縄文	ナデ	ナデ	にぶい橙色	+			中期末後期初頭	後期3類	矢部奥田式～中津式
234	2105	Ⅳより上層	F-6・7	刻目	口唇に刻目、沈線	条痕	ナデ	にぶい黄橙色	+++			中期末後期初頭	後期1類	矢部奥田式～中津式
234	2106	Ⅴ	E-5	僅かに残る	沈線+擬縄文（貝殻）	条痕+ナデ	ナデ	黒褐色	++			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2107	Ⅳ	G-5		条痕地に沈線	条痕	条痕	にぶい黄橙色	+			中期末後期初頭	後期1類	矢部奥田式～中津式
234	2108	Ⅳより上層	F-6・7		沈線+擬縄文（貝殻）	条痕+ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+			中期末後期初頭	後期3類	矢部奥田式～中津式
234	2109	Ⅳ	E-6-S		縄文（RL）	ナデ	ナデ	明赤褐色	+			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2110	Ⅵ層の上にのる褐色粘土	E-6		縄文（RL）-縦方向施文	ナデ	ナデ	橙色	++			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2111	Pit-12	近世遺構面		縄文（RL）	ナデ		灰黄褐色	+			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2112	Ⅳ	E-6		磨消縄文、沈線2条・縄文（RL）-2条ごとに撚り戻り現れる	ナデ	ナデ	橙色	++			中期末後期初頭	後期2類	矢部奥田式～中津式
234	2113	Ⅳ	F-7（ZT）		縄文（RL）+沈線、擬縄文	条痕+ナデ		にぶい黄褐色	+			中期末後期初頭	後期2類	矢部奥田式～中津式
234	2114	検出時	F-6		磨消縄文	ナデ		にぶい黄橙色	+++			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2115	Ⅵ層の上にのる褐色粘土	E-6		沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	++			中期末後期初頭	後期2類	矢部奥田式～中津式
234	2116	P-7			撚糸文?（縄文）	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	+++			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2117	Ⅳ	F-7（ZT）		縄文（RL）			にぶい橙色	++			中期末後期初頭	+	矢部奥田式～中津式
234	2118	検出時	F-6	平?	外面肥厚（LR縄文か?）	?		にぶい黄橙色	++++			後期中葉	後期4類	
234	2119	Ⅳ	F-5	平?	縄文（RL）+沈線-外-、縄文（RL）-内-	?		褐色	++	+		後期中葉	後期5類	平城式2類

Tab. 27　縄文土器観察表⑤

Fig.番号	図版番号	層　位	出土地点	口縁形状	文　　様	内面調整	外面調整	色　調	チャート砂　粒	火山ガラス（石英・雲母・角閃石）	白い鉱物（長石か?）	時　期	型式名	型式名・その他
235	2120		TR-3-NSB		磨消縄文-縄文（LR）+沈線	ナデ	ナデ	にぶい橙色	++			中期末後期初頭	後期2類	矢部奥田式～中津式
235	2121	Ⅳ	F-5		沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	++			中期末後期初頭	後期1類	矢部奥田式～中津式
235	2122	Ⅳ	F-5・6		沈線	ナデ	条痕+ナデ	暗灰黄色	++			中期末後期初頭	後期1類	矢部奥田式～中津式
235	2123	KS	G-7-S		縄文（LR）			明褐色	++	+	+	後期	+	+
235	2124	Ⅳ	F-5		条痕地	条痕	条痕	灰黄色	+++			後期	+	粗製深鉢・胎土に赤色チャート多し。
235	2125	Ⅳ	F-5	平?	無文?	条痕	条痕+ナデ	にぶい黄橙色	++			後期?	後期6類	不明
235	2126	Ⅶ	K-3（TR12西ハ）	波状（ほぼ平）	無文、口唇丸	条痕+ナデ	条痕+ナデ	にぶい黄橙色	?			後期	後期6類	
235	2127	Ⅵ	F-5-6	平?	無文?	工具によるナデ	工具によるナデ	橙色	+++			後期	後期6類	不明
235	2128	G-①	G-7-S		無文	ナデ	ナデ	にぶい褐色	+++	+++		後期あるいは早期	+	内面繊維圧痕、金雲母多量。片粕式あるいは平栫式
236	2129	Ⅴ	F-4	平?+刻目	扁平刻目突帯	?	?	にぶい褐色	+++		+	時期不明	+	
236	2130	Ⅴ	K-3（TR12西ハ）	?	肥厚口縁	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	++			時期不明	+	
236	2131	Ⅶ	F-4		刻目突帯			灰黄褐色	+++	+		時期不明	+	船元Ⅰ?
236	2132	Ⅳ	F-7（ZT）	小片・丸	粗製深鉢??	ナデ	条痕	にぶい黄橙色	++			時期不明	+	
236	2133	Ⅲ	F-5		二枚貝腹縁圧痕	条痕		淡黄色	+++			時期不明	+	赤色チャート多し
236	2134	Ⅶ-2／Ⅷ-b	J-5-5		撚糸文・繊維痕			橙色	++		+	時期不明	+	不明?
236	2135	Ⅴ	F-4	平+刻目	斜位沈線	?		褐色	?			時期不明	+	曽畑?
236	2136	Ⅴ	F-5・A地点		肥厚部+沈線（斜位）	?		灰黄褐色	+++			時期不明	+	
236	2137	Ⅴ	F-4		無文・条痕地	条痕	条痕	にぶい褐色	+			時期不明	+	
236	2138	KS-1	F-7-3		繊維土器	条痕	ナデ	にぶい褐色	?			時期不明（早期?）	+	繊維土器?
236	2139	Ⅴ	F-4	平	無文	?		にぶい褐色	+			時期不明	+	口唇内面短沈線。
236	2140	Ⅶ	K-3（TR12西ハ）	?	口縁若干肥厚	条痕	不明	灰黄褐色	++			時期不明（早期?）	+	不明
237	2141	Ⅳ	F-6		平底底部（ごく僅かに上げ底気味）	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	++			時期不明	+	繊維痕若干残る。
237	2142	Ⅳ	F-6		底部・上げ底	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	++			時期不明	+	
237	2143	Ⅴ	F-5・A地点		平底底部（ごく僅かに上げ底気味）	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	+			時期不明	+	
237	2144	Ⅶ層の上にのる褐色粘土	E-6（ZT）		土器片錘			にぶい黄褐色	++++			時期不明	+	

第5節　弥生時代～近世の遺構と遺物

旧石器時代から縄文時代後期にかけての遺物は比較的まとまって出土しているが、縄文時代晩期以降の遺物はほとんど出土していない。検出できたのは弥生時代・古代・近世の遺物で、遺構出土・包含層出土遺物を含めても総量100点に満たない。その中では、弥生時代以降と考えられる時期判定可能な遺物は土器（弥生土器・土師器）・須恵器・陶器・磁器等であるが、石鏃・敲石など一部の石器の中には形態上、縄文時代のものと区別できない場合もある。遺物総量からみて極めて少量であると考え、石器については旧石器時代～縄文時代の出土遺物の項でまとめて取り扱っている。なお、石斧等弁別可能な弥生時代の石器についても縄文時代以前の遺物・石器の項に含めて報告している。

1. 弥生時代～古代の遺物

弥生時代から古代にかけては当該期の遺構は検出されていない。包含層出土遺物の中で図化できたものは、Fig.239の5点である。

2145・2146は弥生土器・甕であり、いずれも上胴部の破片になる。チャート砂粒を含む在地の土器で、多条（残存沈線5条以上と7条以上）のヘラ描沈線が残る前期末に位置づけられる土器である。2145は沈線下に列点文を巡らせる。2147は弥生土器・高杯の杯部の破片で弥生時代後期の資料である。 これらの弥生時代の資料はⅣ層およびⅣ-1層からの出土である。また、弥生前期の資料と同層からは、Fig.210-1412の磨製石斧およびサヌカイトの剥片（Fig.212-1419）が出土している。

2148の土師器杯底部と2149の須恵器壺底部は古代の遺物である。2148は底部ヘラ切りで10世紀中葉、2149は正確な時期比定はできないものの9世紀から10世紀にかけての資料だと考えられる。2148については、調査地点の北東丘陵上に位置する奥谷南遺跡Ⅶ区の須恵器窯K-1出土遺物とほぼ同時期の資料だと考えている。

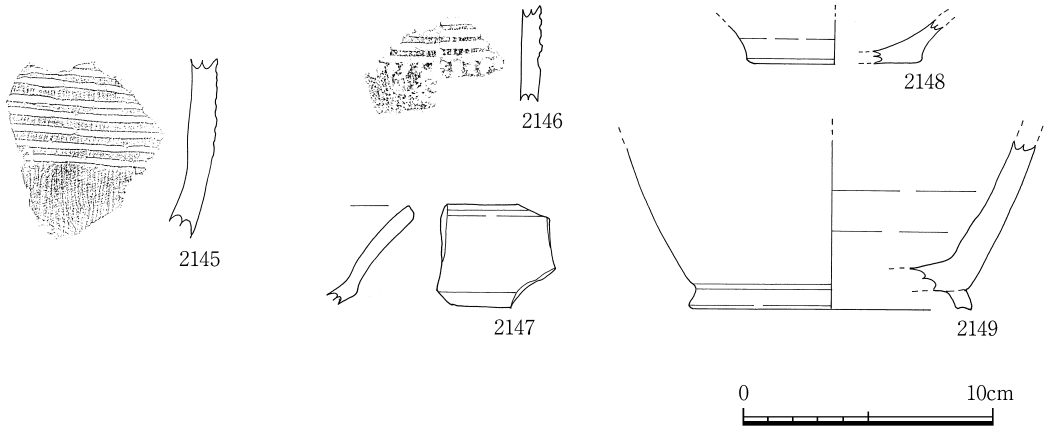


Fig. 239　弥生時代・古代の遺物

Tab. 28　弥生時代・古代遺物観察表

Fig番号	図版番号	種別	器種	層位	出土地点	法量			色調	胎土	特徴	時期	備考
						口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)					
239	2145	弥生土器	甕	Ⅳ-1	[illegible]	-	-	-	内・にぶい橙色・外・橙色	チャート砂粒含	上胴部に刻目文を施文、その上方にヘラ描沈線(3条)。内面ナデ、外面板方向のハケ調整。	弥生時代前期末	
〃	2146	弥生土器	甕	Ⅳ-1	[illegible]	-	-	-	明褐色	チャート砂粒含	多条のヘラ描沈線(3条)が巡る。内面ナデ、外面板方向のハケ調整。	弥生時代前期末	中期瀬戸内の可能
〃	2147	弥生土器	高杯	Ⅳ	[illegible]	-	-	-	にぶい橙色	精選された胎土、砂粒若干。	杯部で一旦屈曲し、口縁は大きく開く。	弥生時代後期?	
〃	2148	土師器	杯		[illegible]	-	(1.8)	6.0	内・にぶい橙色 外・にぶい黄橙色	精選された胎土。雲母・ガラス質微粒含。	底部へラ切り。ヨコナデ調整。	10世紀中葉	(真谷南区-1と同時期)
〃	2149	須恵器	壺	不明	[illegible]	-	-	6.0	灰色		壺底部。高台はハの字状に開く。	古代(平安時代-9～10世紀)	

2. 近世の遺構と遺物および時期不明の遺構

近世の遺構を含む遺構面が、1・2号岩陰の南側の緩斜面を削りだして形成されていた。調査直前には家屋建設のために埋め立てられていた地点であり、埋め立てられる前には畑として利用され、一部、竹林になっていたようである。近世の遺構だけではなく、形成時期の特定できない遺構もあるが、この項でまとめて報告する。

Fig.240が近世および時期不明の遺構全体図である。近世の遺構を含む遺構面にある遺構の遺構番号は401～としたが、近世の遺構面のものを便宜的に400番代にしたものであり、すべてが近世の遺構であるとは限らない。また、時期を特定できなかった遺構については遺構番号を501～とした。

A. 遺構

(1) 近世の遺構（Fig.241～245）

遺構出土の遺物に図示可能なものはなかったが、細片にも近世の遺物以外の遺物が認められなかったため、1・2号岩陰南側の平坦面を近世の遺構面とした。

SB401

梁間2間以上×桁行2間の東西棟で、棟方向はN-57°-W、梁間の柱間距離は292㎝、桁行の柱間距離は192㎝を測る。建物の規模は梁間は不明で桁行が3.8m。

SB402

梁間1間×桁行1間で、棟方向はN-15°-W、柱間距離は200㎝～216㎝を測る。建物の規模は2.16m×2.08m。

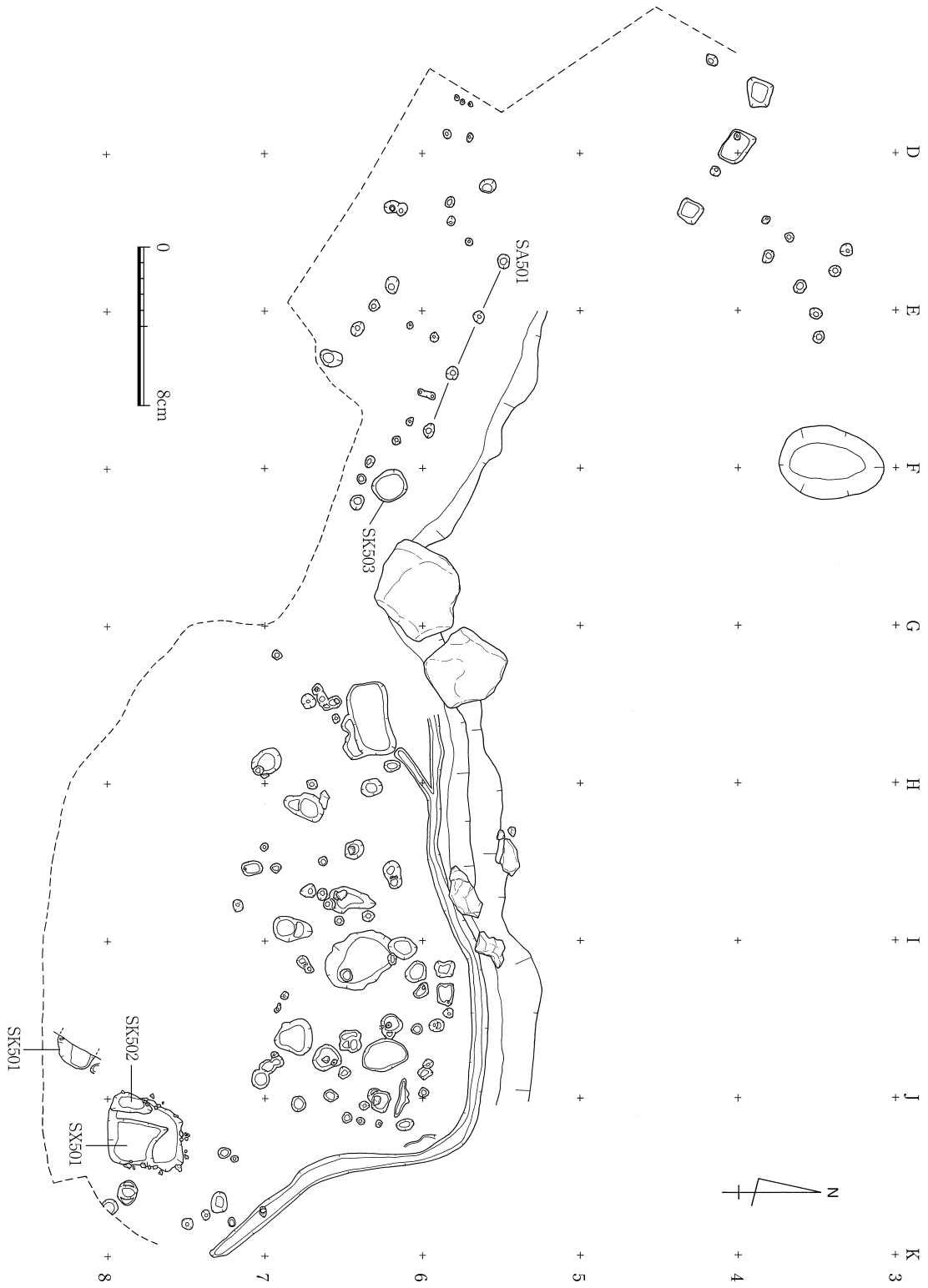


Fig. 240　岩陰周辺遺構平面図全体図－近世・時期不明遺構－（S＝1/160）

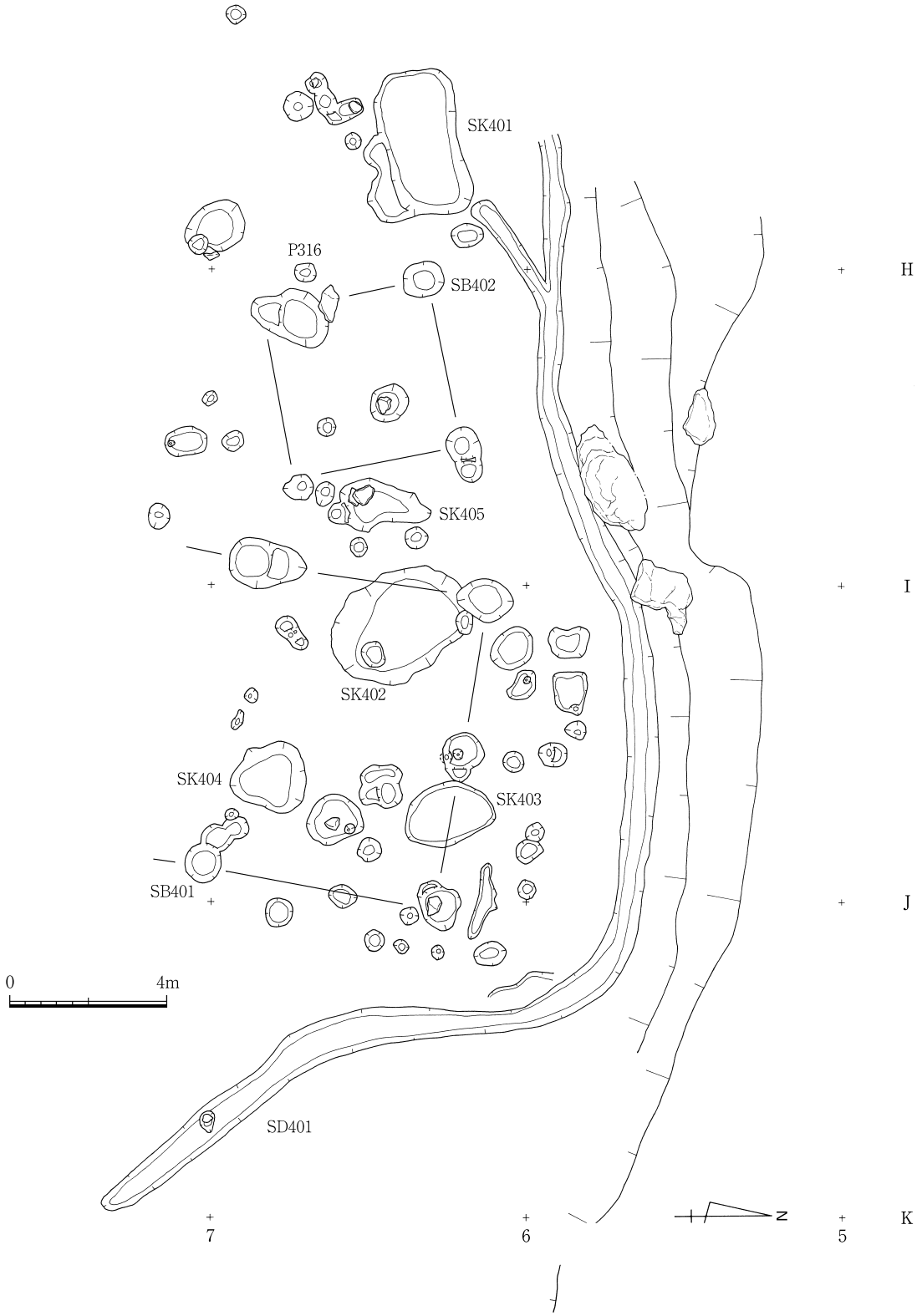


Fig. 241　2号岩陰南西・近世遺構面平面図（S＝1/80）

SK401

中心に隅丸長方形の土坑が位置し、南北に検出面からの深さが8～12㎝の段差のある掘り込みが付随する。土坑の方向は南北方向。中心となる土坑の規模は長軸184㎝、短軸50㎝で、検出面からの深さは東半が32㎝、西半が36～40㎝で遺構底面が2段になっており、段差は8㎝前後である。西半の遺構の周囲からは石列が検出された。

SK402

不整楕円形の土坑で、南東隅の遺構底面には直径32㎝、底面からの深さ6㎝のピットが付随する。検出面からの深さは約16㎝で皿状に落ち込む。平面の規模は長軸180㎝、短軸136㎝。

SK403

平面形は長軸115㎝、短軸76㎝の楕円形で、検出面からの深さは約10㎝、浅い皿状の土坑である。

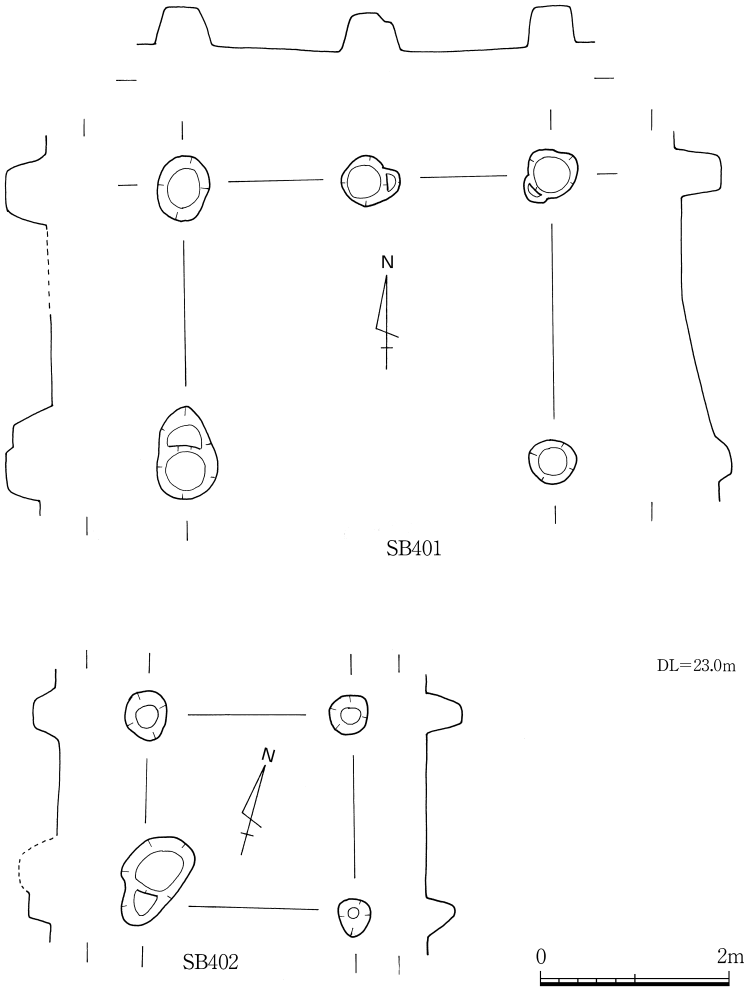


Fig. 242　SB401・402　遺構平面・エレベーション図（S＝1/40）

SK404

平面形は径88～96㎝の不整円形で、検出面からの深さは8～16㎝、浅い皿状の土坑である。南側が低い傾斜地に立地している。

SK405

平面形は長軸154㎝、短軸68㎝の不整形で、検出面からの深さは10～12㎝、浅い皿状の土坑である。南北方向に長い。

SD401（Fig.244）

幅26～48㎝、深さ10～24㎝の溝状遺構で、削り出された近世遺構面と北側の段差との境界部を区画する。グリッドH-6で二又に分かれる。検出した総延長は約18m。SD401排土中から、細石刃核（Fig.134-693）が出土している。

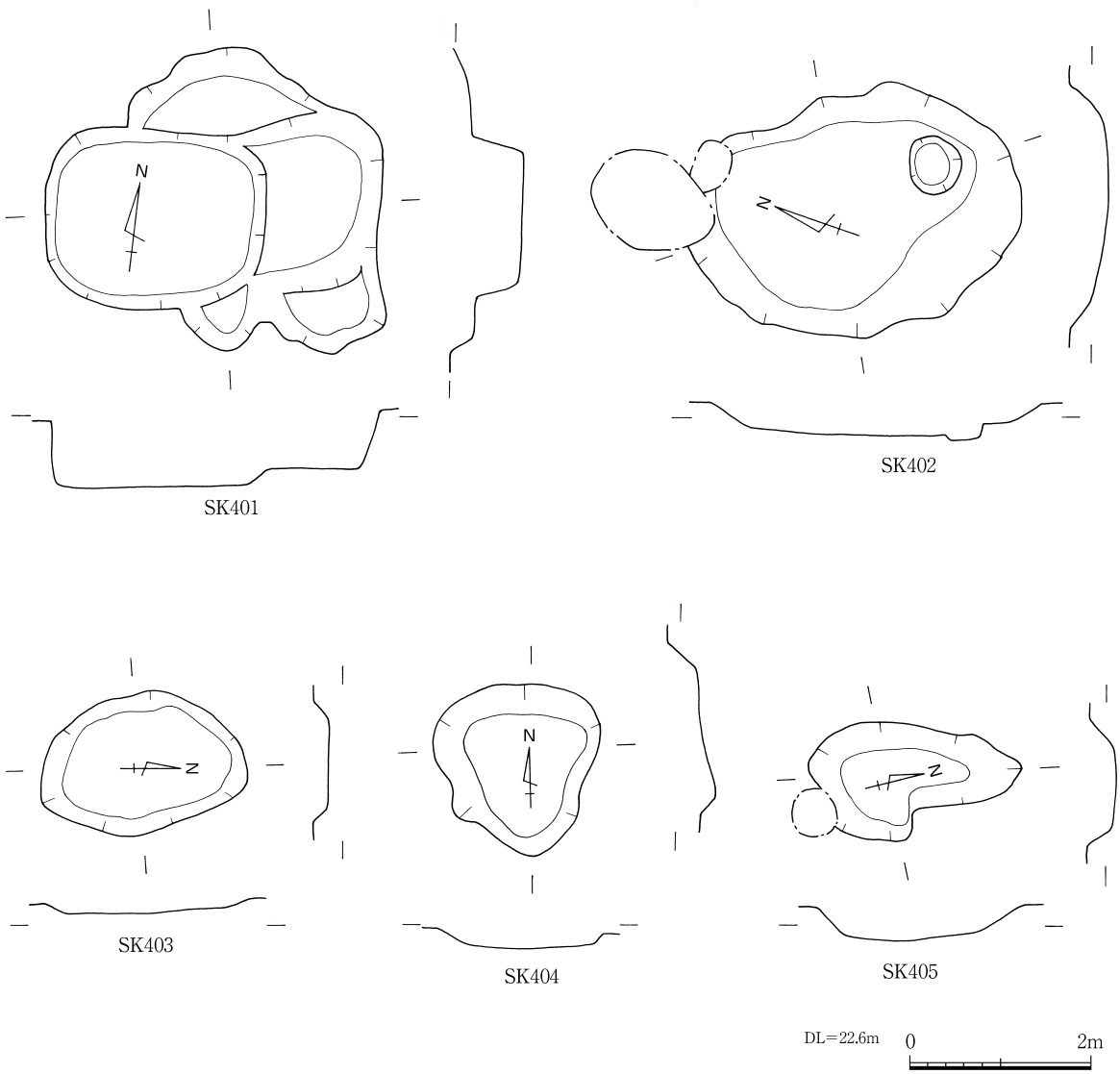


Fig. 243　SK401～405　遺構平面・エレベーション図（S＝1/40）

近世遺構面　検出状況

完掘状況

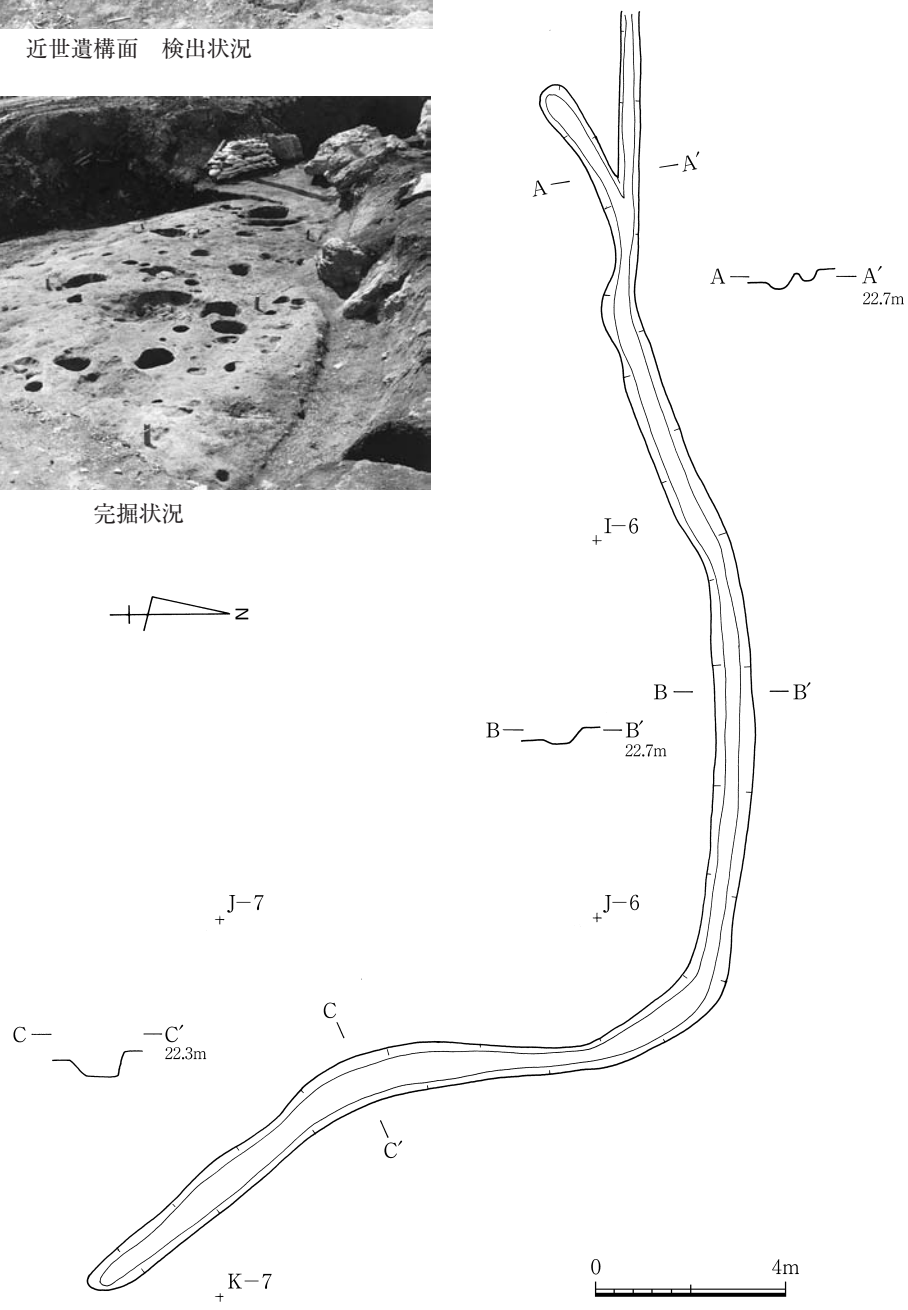


Fig. 244　SD401　遺構平面・エレベーション図（S＝1/80）

(2) 時期不明の遺構

SK501

不整円形の平面形で、皿状の土坑である。遺構の西半は失われている。長軸が約210㎝以上の規模である。

SK502

長軸102㎝、短軸48㎝の不整円形の土坑である。

SK503

直径74～80㎝の不整円形の土坑で、深さは32㎝である。

SX501

2号岩陰南地点の性格不明遺構である。南北方向180㎝、東西方向162㎝の方形に近い不整形の平面形を呈する。遺構底面には段差があり、遺構の南東側がより深くなっている。南東側の深い箇所では検出面からの深さが30㎝で、一段高くなった箇所では深さ10～18㎝である。

SA501

1号岩陰前庭部の削平され平坦部を形成するグリッドD-5からE-5にかけて検出されたピット列であり、建物跡を構成可能な対応するピットが確認されなかったため、柵列（SA）とした。ピット列の方向はN-65°-Wの東西方向、柱間距離は152～160㎝でほぼ等間隔になっている。

Tab. 29　その他の時期のピット

ピット名	検出面の標高	遺構底面の標高	深さ(m)
P－501	23.115	22.874	0.241
P－502	23.132	22.870	0.262
P－503	23.164	23.008	0.156
P－504	23.115	22.790	0.325
P－505	23.117	22.777	0.340
P－506	23.095	23.018	0.077
P－507	23.073	22.832	0.241
P－508	22.985	22.626	0.359
P－509	22.868	22.802	0.066

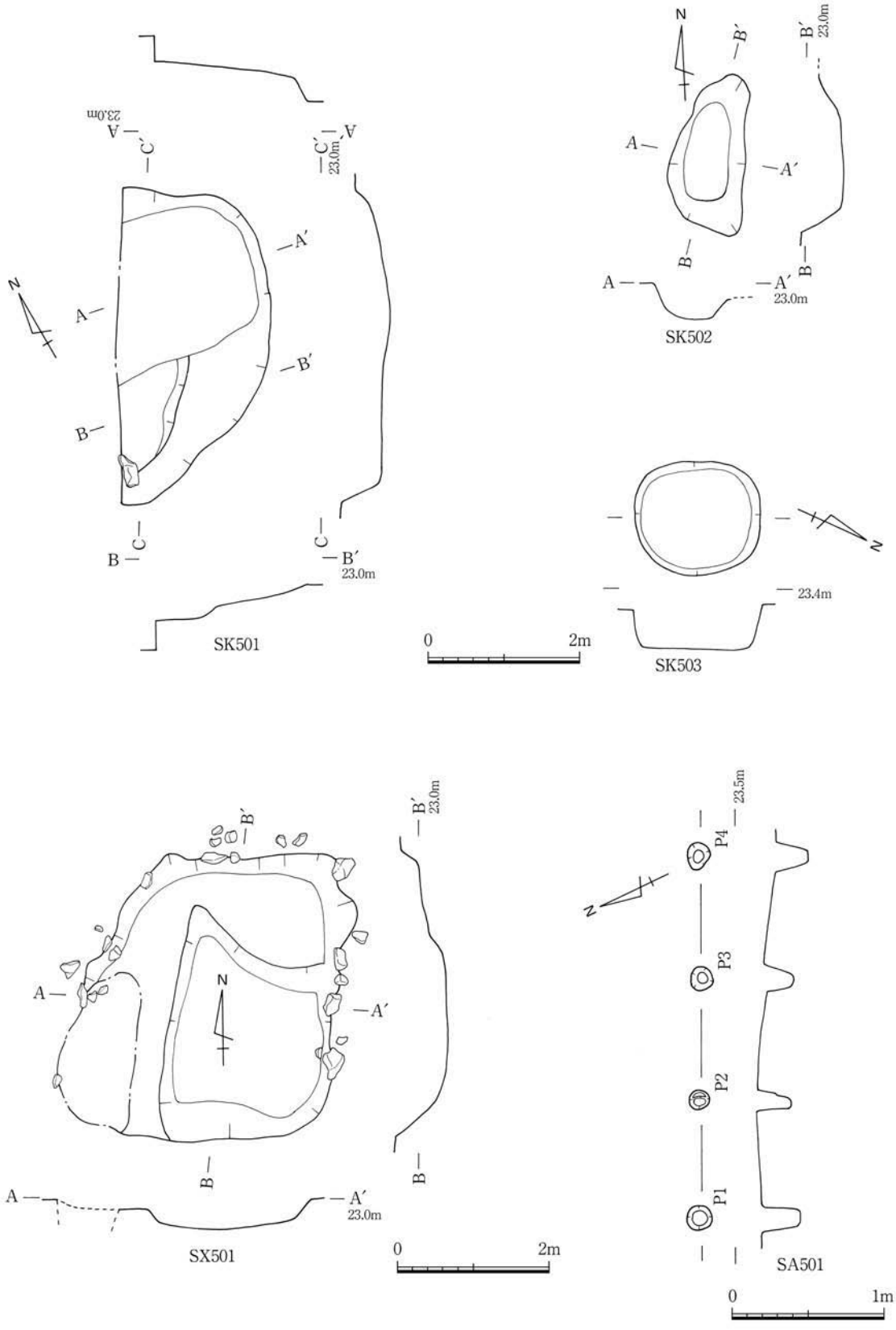


Fig. 245　遺構平面・エレベーション図－SK501～503・SX501・SA501－

B. 近世の出土遺物

図化した遺物は包含層出土の遺物である。近世の遺物についてはTab.30に示したとおりである。2150・2152・2153・2154の陶器・磁器・陶胎染付や2156の紅皿が肥前系の遺物であり、2151の尾戸焼の御器形・中椀などが出土している。遺物の時期は18世紀に属するものが大半で、最も古いものでも17世紀末以降、新しいものも19世紀中葉の能茶山産の陶器小皿（2157）である。肥前系と在地産の資料が混在する様相は、小籠遺跡、陣山遺跡、八田奈路遺跡など同時期の一般集落の様相と同様である。

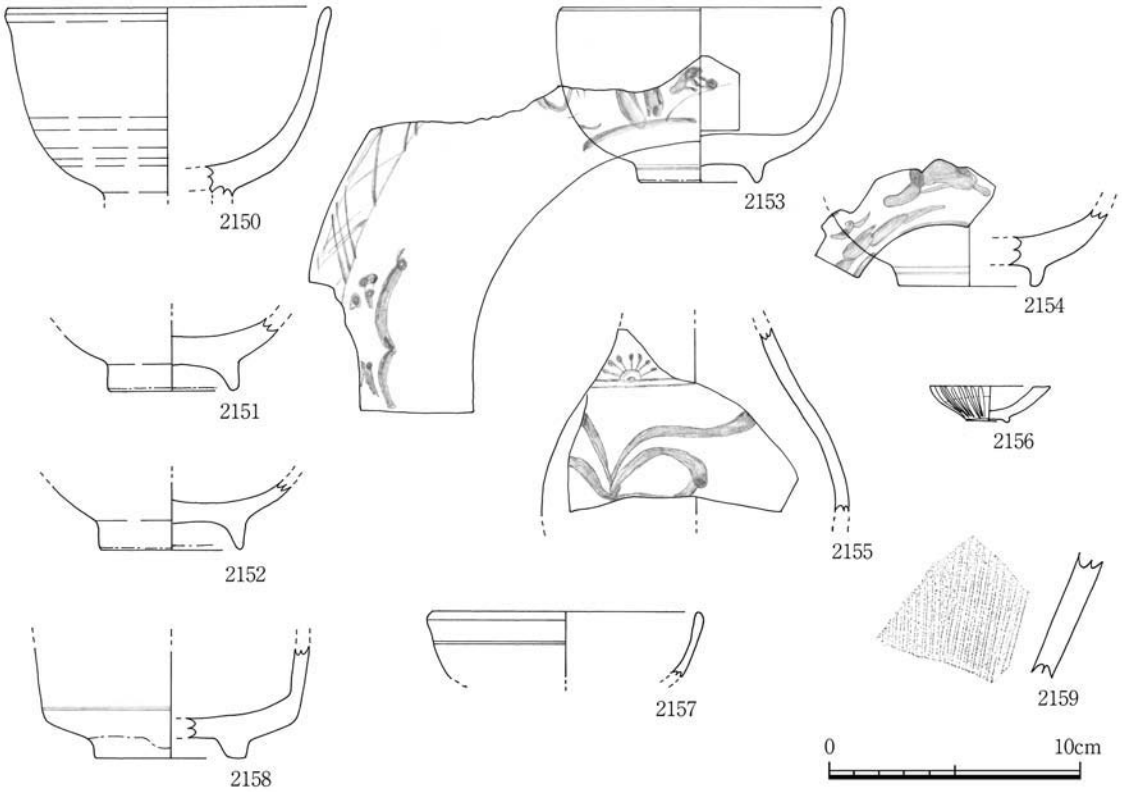


Fig. 246　出土遺物（近世）

Tab. 30　近世遺物観察表

Fig. 番号	図版 番号	種　別	器種	層位	出土地点	法量			色調	胎土	特　徴	時期	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)					
246	2150	陶器	中碗・呉器形	W	No.21	(12.8)	−	−	にぶい黄橙色。釉は灰釉､ガラス質でオリーブ黄色を帯びる。	にぶい黄色。やや透明感あり。剥離面やや粗い。角粒石英細砂多量。裂孔わずか。酸化焼成。	粗い貫入が入る。高台内施釉。ロクロ成形、外面ロクロ目顕著。底部付近厚手。	17世紀末～18世紀	肥前系か（胎土が尾戸とは異なる）
246	2151	陶器	中碗・呉器形	W	No.21	−	−	5.2	釉は灰釉､ガラス質で浅黄色を帯びる。高台内施釉。	灰白色、透明感なし。剥離面粗い。角粒石英細砂多量。赤色細砂を多く含む。（水ヒ不良）酸化焼成。	ロクロ成形。厚手の底部。削り出し高台。高台アーチ状。畳付外側面取り。見込わずかにトキン状。	17世紀後半～19世紀	尾戸窯（雑器クラス）
246	2152	陶器	中碗・呉器形	W	No.7	−	−	5.4	白化粧土。呉須。透明釉は粗い貫入が入る。高台内施釉。	灰色剥離面粗い。	ロクロ成形。厚手の体部。削り出し高台。	18世紀	肥前系
246	2153	磁器・染付	中碗・腰張形	W	No.21	11.0	6.9	4.2	透明釉は厚くかかり､気泡を多く含む。粗い貫入が入る。高台内施釉。	灰白色、剥離面粗い。	ロクロ成形､厚手の体部。文様は外面に襷文、草花文､高台脇に圏線。畳付に砂が付着。	18世紀	肥前系
246	2154	陶胎染付	中碗・腰張形	W	No.7	−	−	5.4	白化粧土､呉須。透明釉は粗い貫入が入る。高台内施釉。	灰色剥離粗い。	外面､山水文､高台脇、二重圏線。	18世紀	肥前系
246	2155	磁器・染付	瓶	不明	F－4		胴径 (12.2)						
246	2156	磁器	紅皿		E－3	4.8	1.9	1.4	灰白色				肥前系
246	2157	陶器	小皿	W	No.4	(10.6)	−	−	鉄釉	黒褐色で石英細砂と長石粒を含む。	ロクロ成形、外面に一条沈線。	1820年代～幕末	能茶山産
246	2158	陶器	香炉?・浅筒形	W	No.7	−	−	5.8	透明釉。にぶい赤褐色。	黒褐色。	ロクロ成形。削り出し高台、高台は断面四角形で畳付幅が広い。釉は厚くかかり気泡を多く含む。粗い貫入が入る。体部内面と高台無釉。	不明	産地不明
246	2159	炻器	擂鉢	W	No.21	−	−	−	にぶい橙色	赤褐色～黒褐色。長石粗砂、石英角粒細砂他多し。裂孔あり。	櫛目は9条を一単位とする。単位間は密。外面横位の板ナデ。	17世紀末～18世紀	産地不明−時期については備前・堺の形態からの推定。

※図版掲載出土遺物（石器類及び縄文土器）の出土地点・層位等に関する一覧表（Tab.31・32）

Tab.31・32として出土石器類及び縄文土器の出土層位・出土地点・法量・取り上げ番号・日付・出土地点の座標などの諸データをまとめて掲載する。出土地点等の記載内容について・・事項を以下に列挙する。

①出土地点について

各々の遺物に番号を付して取り上げたが、統一した通し番号ではなく、地点毎・調査段階毎での通し番号によった。それゆえ、遺物の集中地点には地点の呼称を付ける必要が生じ、最初の段階では任意の呼称を付した地点とグリッド・バンクなど地点特定の可能な基準による呼称を用いた地点の2種類を併用していた。前者の例として、1号岩陰A地点・B地点・C地点、2号岩陰から西側にかけてのユニット1・2、ブロック1～4などが挙げられる。便宜的に付けた呼称であり、石器の集中に対応するブロックとは無関係の仮の呼称である。これらの便宜的な地点名については調査の途中から、後者のグリッド・トレンチを基準とした呼称に変更した。しかし、連続して遺物の取り上げを行う際、障壁となるチャート岩塊があまりにも多く、設定した4mグリッドでは遺物出土地点のまとまりを捉える上で不都合なことが多かった。そこで、苦肉の策として今回の調査では、グリッドE-5からF-5にまたがる地点はEF-5、F-6からF-7にまたがった遺物集中地点はF-6・7、仮にF-7という４mグリッドの範囲でまとまりを捉え得る場合でも、厳密には近接するF-8やG-7グリッドから出土する場合など様々なケース・地点呼称が生じた。東西南北の方向や東→E・西→W・南→S・北→Nという略号を用いて地点を示す例も多く、E-6-SはグリッドE-6の南半周辺を示し、J-5-WはグリッドJ-5の西半を示す。また、バンクにはBという略号を用いている場合があり、NSBは南北方向のバンクの意味である。

②層位について

層の記載については、原則として取り上げた段階での層の記述と同じ層名を記した。ただし、統一して層名を変更した場合はそれに従っている。

③取り上げ月日の記載について

出土資料の平面位置及び標高の記録は一覧表としてまとめ、高知県埋蔵文化財センターに保管してある。この一覧表が日付順に整理されていること、原資料を確認する必要が生じた場合手がかりとなることなどから、月日の記載を行った。

④その他の事項

「水」という記載のあるものは、水洗選別（フルイによる）で見つかった資料であることを示す。

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ①

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
17	1	磨製石斧	蛇紋岩	7.50	4.25	2.73	0.56	Ⅳ区出土遺物	―	―	94―4NOM　S―9　排土中						1
19	2	スクレイパー類	チャート	36.40	6.23	4.48	1.36	K			95―6NOM（Ⅴ区北端）		05.31				2
19	3	使用痕のある剥片	チャート	6.10	2.35	3.00	1.25	K（Ⅶ）			95―6NOM　K⑤（Ⅴ区北端）		―				3
19	4	使用痕のある剥片	チャート	4.90	2.55	2.86	0.90	K（Ⅶ）			95―6NOM　K①（Ⅴ区北端）						4
19	5	使用痕のある剥片	チャート	5.30	2.05	2.71	1.28	K（Ⅶ）			95―6NOM　K④（Ⅴ区北端）						5
19	6	使用痕のある剥片	チャート	1.50	1.68	1.63	0.63	Ⅴ			95―6NOM　（Ⅴ区北端）						6
19	7	細石刃核ブランク	チャート	33.10	2.53	4.34	2.93	K（Ⅶ）			95―6NOM　（Ⅴ区北端）	No.1	05.31				7
20	8	敲石	蛇紋岩	456.10	9.14	7.10	5.19	K（Ⅶ）			95―6NOM K④　Ⅴ区北端						8
20	9	敲石	砂岩	610.00	9.03	10.47	5.13	Ⅴ			95―6NOM　Ⅴ区	No.18	03.12	14.329	14.892	23.597	9
20	10	敲石	緑色片岩	745.00	11.90	11.17	4.61	Ⅴ			95―6NOM　Ⅴ区	No.30	03.14	16.878	4..050	24.971	10
20	11	敲石（赤変）	砂岩	352.50	10.80	6.20	3.61	Ⅴ			95―6NOM　Ⅴ区	No.23	03.12	9.865	14.255	23.835	11
20	12	敲石	緑色片岩	545.00	6.83	13.31	4.72	Ⅴ			95―6NOM　Ⅴ区	No.39	03.18	15.422	21.446	25.206	12
20	13	敲石	緑色片岩	553.80	12.05	6.91	4.64	K（Ⅶ）			95―6NOM K⑤（Ⅴ区北端）						13
20	14	敲石（赤変）	砂岩	950.00	12.50	8.37	7.20	Ⅴ			95―6NOMだがⅤ区	No.54	03.18	17.147	13.828	25.624	14
20	15	敲石	緑色片岩	156.50	10.08	5.08	2.88	K（Ⅶ）			95―6NOM K⑤（Ⅴ区北端）						15
20	16	敲石	緑色岩	109.40	6.47	4.10	3.40	K（Ⅶ）			95―6NOM K③（Ⅴ区北端）						16
20	17	敲石	砂岩	135.00	4.07	7.41	3.58	K（Ⅶ）			95―6NOM K⑤（Ⅴ区北端）						17
20	18	敲石	砂岩	231.70	6.15	7.47	5.73	K（Ⅶ）			95―6NOM K③（Ⅴ区北端）						18
75	19	敲石	砂岩	340.00	4.98	9.31	6.63	SX010（Ⅷ―a）			SX―10旧石器						19
84	20	細石刃核	チャート	4.90	1.80	0.82	2.55	SX101			ES		05.16				20
84	21	細石刃核ブランク	チャート	26.00	2.64	3.90	2.83	SX101			SX―1	No.197	04.26	6.349	21.271	22.552	21
84	22	細石刃	チャート	0.30	1.47	1.05	0.26	SX101			ES　一括（中央バンク）		05.28				22
84	23	細石刃	チャート	0.30	1.63	0.82	0.21	SX101			ES	No.198	04.26	6.284	21.315	22.563	23
84	24	細石刃	チャート	0.40	2.05	1.04	0.21	SX101			サブトレ①　埋土						24
84	25	細石刃	チャート	0.30	1.89	0.89	0.26	SX101			ES	No.202	04.26	6.430	21.343	22.582	25
84	26	細石刃	チャート	0.10	1.37	0.54	0.20	SX101			埋土中	No.158	04.25	6.694	21.683	22.613	26
84	27	削器	チャート	2.09	3.74	2.23	0.32	SX101				No.1	03.21	5.518	21.558	22.441	27
84	28	石鏃	サヌカイト	0.60	1.43	1.71	0.38	SX101			ES	No.71	04.23				28
84	29	石鏃	チャート	0.90	1.63	1.76	0.45	SX101			ES　中央バンク		05.28				29
84	30	石鏃	チャート	2.10	2.98	1.87	0.69	SX101				No.1（36）	04.18	7.464	20.985	22.789	30
84	31	石鏃	チャート	1.90	2.75	1.62	0.62	SX101			ES　中央バンク	52802	05.28				31
84	32	石鏃	チャート	1.10	2.06	1.92	0.50	SX101			埋土→排土		03.22				32
84	33	石鏃	チャート	1.40	2.00	1.80	0.52	SX101			ES	No.195	04.26	6.345	21.030	22.481	33
84	34	石鏃	チャート	3.00	2.75	1.97	0.73	SX101			サブトレ①埋土南		04.23				34
84	35	石鏃	サヌカイト	0.50	2.02	1.69	0.34	SX101			サブトレ①						35
84	36	石鏃	チャート	0.50	1.75	1.05	0.40	SX101			SX―1　中央バンク		05.28				36
85	37	台石	砂岩	2500.00	17.91	15.75	8.56	SX101	H―7		SX101・S―1		10.02				37
85	38	敲石	砂岩	532.00	12.00	7.80	5.57	SX101	H―7		SX101・S―2		10.02				38
85	39	敲石	砂岩	260.00	13.68	4.27	3.13	SX101			SX101・No.2	No.2	03.21	5.544	21.667	22.459	39
90	40	ナイフ形石器	チャート	8.00	4.35	2.20	0.90		J―5	2		P―1No.1	05.22				40
91	41	尖頭部を持つ剥片石器	チャート	23.40	5.78	3.05	1.90	不明	I―8		SX―2	No.1	06.28	3.517	27.272	22.757	41
92	42	石鏃	チャート	0.50	1.75	1.23	0.32	Ⅶ			JK―5　P-1埋土	No.34	07.18	13.875	30.399	24.196	42
92	43	石鏃	チャート	1.00	1.96	1.93	0.40	Ⅶ―2	I―5	4		No.11	04.10	15.579	27.499	24.469	43
92	44	石鏃	サヌカイト	1.02	2.42	1.59	0.37	遺構埋土			P―11		03.19				44
93	45	ナイフ形石器	チャート	1.40	2.65	1.40	0.80	Ⅺ			EF―5	No.512	05.24	14.094	11.559	23.369	45
93	46	ナイフ形石器	チャート	7.90	4.30	2.40	1.15	Ⅻ			EF―5	No.489	06.11	14.203	11.760	23.083	46
93	47	ナイフ形石器	チャート	4.70	4.65	1.65	1.25	Ⅹ			TR―11	No.137	05.21	15.068	32.605	23.953	47
93	48	ナイフ形石器	チャート	5.15	3.84	2.35	0.94	Ⅸ			F―4	No.302		17.142	12.520	23.926	48
93	49	ナイフ形石器	チャート	6.20	4.65	1.92	0.91	Ⅸ			TR―3	No.011	09.15	9.297	11.893	22.433	49
93	50	ナイフ形石器	チャート	1.70	1.95	1.55	0.65	Ⅷ―b	F―7			No.73	09.29	3.971	15.172	22.094	50
93	51	ナイフ形石器	チャート	0.50	2.40	0.90	0.35	Ⅷ―a			TR―3―NSB	No.159	09.28	17.719	13.884	24.272	51
93	52	ナイフ形石器	チャート	2.50	2.90	1.70	0.65	Ⅷ―a	F―5	8	TR―A　南バンク	No.18	07.08	14.260	15.096	23.980	52
93	53	ナイフ形石器	頁岩	7.20	4.75	1.89	1.00	Ⅷ―a	H―5	6		No.1	06.07				53
93	54	ナイフ形石器	チャート	4.37	3.36	1.80	0.81	Ⅷ―a	F―6	14			10.16				54
93	55	ナイフ形石器	チャート	9.30	3.70	1.90	1.30	Ⅷ―a～b			TR―3―S		04.24				55

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ②

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
93	56	ナイフ形石器	チャート	0.50	1.10	1.15	0.40	Ⅷ—a			FG—5	No.22	05.14	15.538	15.748	24.28	56
93	57	ナイフ形石器	チャート	0.20	1.66	0.65	0.26	Ⅷ—a	F—6	10			09.03				57
93	58	ナイフ形石器	チャート	2.50	2.65	1.50	0.70	Ⅷ—a			E—6—N		08.27				58
93	59	ナイフ形石器	チャート	2.08	2.20	1.30	0.60	Ⅷ—a	J—6		NS—2						59
93	60	ナイフ形石器	チャート	2.60	2.95	1.20	0.60	Ⅷ—a			JK—4	No.76	07.30	16.770	30.772	24.644	60
93	61	ナイフ形石器	チャート	3.14	2.90	1.50	0.80	Ⅷ—a			JK—5	No.465	08.11	13.175	30.216	23.967	61
93	62	ナイフ形石器	チャート	4.30	3.05	2.00	0.85	Ⅷ—a			JK—4	No.37	07.22	16.842	31.878	24.655	62
93	63	ナイフ形石器	チャート	4.50	3.10	1.93	0.91	Ⅷ—a			JK—5	No.659	08.28	13.458	30.612	23.957	63
94	64	ナイフ形石器	チャート	4.14	3.30	1.90	1.10	Ⅷ—a	J—5		J—5—W	No.10	09.06	14.288	29.501	23.981	64
94	65	ナイフ形石器	チャート	4.45	2.72	2.31	1.22	Ⅷ—a			JK—4	No.167		16.910	29.662	24.602	65
94	66	ナイフ形石器	チャート	0.90	2.35	0.90	0.50	Ⅷ—a			JK—6	No.647	09.10	12.125	30.679	23.645	66
94	67	ナイフ形石器	頁岩	5.70	3.30	1.90	0.90	Ⅷ—a	J—5	15	JK—5		07.16				67
94	68	ナイフ形石器	チャート	2.10	2.80	1.69	0.70	Ⅷ—a			KL—4	No.12	07.25	16.789	37.144	24.509	68
94	69	ナイフ形石器	チャート	5.80	3.72	1.74	0.66	Ⅷ—a			TR—11　北バンク	No.173	10.03	15.942	33.876	24.367	69
94	70	ナイフ形石器	頁岩	4.80	3.15	2.05	1.00	Ⅷ—a			TR—12　東バンク		10.02				70
94	71	ナイフ形石器	チャート	2.60	2.90	1.70	0.90	Ⅷ			E—6—S		09.12				71
94	72	ナイフ形石器	チャート	3.00	2.60	2.35	0.81	Ⅷ	F—6	6	ZT		06.05				72
94	73	ナイフ形石器	チャート	2.90	3.50	2.10	0.80	Ⅷ			F—6・7　東バンク		09.29				73
94	74	ナイフ形石器	チャート	7.90	3.70	2.35	1.15	Ⅷ			TR—B　南バンク		06.13				74
94	75	ナイフ形石器	チャート	3.70	2.90	2.10	0.90	Ⅷ	L—3	5			09.11				75
94	76	ナイフ形石器	チャート	6.00	3.80	1.90	1.00	Ⅷ			TR—3—南東	No.98		12.507	14.398	23.696	76
94	77	ナイフ形石器	チャート	3.10	3.05	1.80	0.80	Ⅷ			JK—6	No.243	08.28	11.796	32.682	23.589	77
94	78	ナイフ形石器	チャート	0.26	1.48	0.46	0.32	Ⅷ	K—3		TR—12　西バンク		07.31				78
94	79	ナイフ形石器	チャート	2.90	3.10	1.70	0.60	Ⅷ			ブロック4	No.11	06.03	26.369	22.903	24.395	79
94	80	ナイフ形石器	珪質頁岩	5.10	3.95	2.07	0.97	Ⅷ	I—4	15		No.38	05.10	15.812	27.673	24.822	80
95	81	ナイフ形石器	チャート	7.50	4.10	2.30	1.10	Ⅷ—SR			JK—6	No.307	08.29	11.831	32.599	23.545	81
95	82	ナイフ形石器	チャート	0.60	2.15	0.78	0.45	Ⅷ—YR	J—6	14			09.14				82
95	83	ナイフ形石器	チャート	3.90	3.77	1.77	0.98	Ⅷ—YR			JK—6	No.540	09.06	9.447	30.582	23.191	83
95	84	ナイフ形石器	石英	1.00	2.52	0.89	0.59	Ⅷ—YR			JK—6　水		09.04				84
95	85	ナイフ形石器	チャート	5.90	3.83	1.91	0.90	Ⅷサイカ			JK—6	No.200	08.28	11.899	31.524	23.659	85
95	86	ナイフ形石器	チャート	4.00	3.50	1.85	0.75	Ⅷ—SR—3	K—5	9	JK—5		07.16				86
95	87	ナイフ形石器	チャート	3.10	3.10	1.55	0.90	Ⅷサイカ			TR—11　北バンク	No.9	09.27	16.498	29.576	24.662	87
95	88	ナイフ形石器	チャート	5.00	3.85	2.20	0.95	Ⅷ—2	I—5	1		No.26	04.08	15.182	24.648	24.672	88
95	89	ナイフ形石器	チャート	5.70	3.50	1.80	1.25	不明			F—6・7		08.27				89
95	90	ナイフ形石器	チャート	10.90	5.50	2.00	1.20	Ⅷ—2			TR—6　東バンク		09.20				90
95	91	ナイフ形石器	チャート	3.60	3.72	1.50	0.82	Ⅷサイカ			TR—11　北バンク	No.6	09.27	15.907	29.366	24.522	91
95	92	ナイフ形石器	チャート	1.50	2.30	1.40	0.70	検出時	F—6	3	検出時一括		06.05				92
95	93	ナイフ形石器	チャート	3.75	3.60	1.80	0.90				TR—12	No.70	05.21	14.219	33.973	24.053	93
96	94	ナイフ形石器	チャート	4.60	3.45	1.90	1.10	検出時	J—6~7		検出時		05.14				94
96	95	ナイフ形石器	チャート	3.10	3.30	1.75	0.65	KS	G—7		G—7—S		09.24				95
96	96	ナイフ形石器	チャート	3.20	3.51	1.57	0.85	排土			ES		04.22				96
96	97	ナイフ形石器	チャート	6.51	3.96	2.05	0.91	②	J—7			No.131	06.27				97
96	98	ナイフ形石器	チャート	2.30	2.43	1.66	0.81	⑥	J—7			No.568	07.12	6.332	31.618	22.433	98
96	99	ナイフ形石器	チャート	2.20	2.25	1.90	0.60	表採									99
101	100	角錐状石器	チャート	11.71	5.03	2.02	1.46	Ⅺ	E—6		ZT	No.208	07.03	12.194	9.732	22.637	100
101	101	角錐状石器	チャート	9.10	3.89	2.29	0.99	Ⅹ			EF—5	No.502	05.24	13.163	10.958	23.262	101
101	102	角錐状石器	チャート	13.80	5.59	1.60	1.90	Ⅷ—b				No.29	10.06	10.475	11.559	22.620	102
101	103	角錐状石器	チャート	4.17	3.61	1.26	1.35	Ⅷ—b			TR—3—N	No.10	05.17	16.405	14.289	23.215	103
101	104	角錐状石器	チャート	6.13	4.63	1.57	0.83	Ⅷ—a			KL—4	No.5	07.24	12.400	32.480	24.072	104
101	105	角錐状石器	チャート	7.15	4.32	1.45	1.36	Ⅷ	J—5		JK—5・NSWB	No.21	09.25	14.943	31.483	24.131	105
101	106	角錐状石器	チャート	3.33	3.07	1.02	1.04	Ⅷ—a			TR—11	No.39	05.20	15.588	32.227	24.333	106
101	107	角錐状石器	チャート	13.48	4.25	2.76	1.62	Ⅷ—a			JK—5	No.520	08.11	13.358	31.860	23.974	107
101	108	角錐状石器	サヌカイト	4.04	4.55	1.20	0.92	Ⅷ—a			JK—5	No.207	07.25	15.046	28.965	24.235	108
102	109	角錐状石器	チャート	5.11	3.57	1.06	1.02	Ⅷ—2			F—6・7	No.47	08.27	8.207	14.090	22.724	109
102	110	角錐状石器	チャート	6.33	3.31	1.52	1.51	Ⅷ			ユニット1	No.75	05.14	18.799	24.312	24.828	110

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧 表③

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
102	111	角錐状石器	チャート	4.30	3.28	2.35	0.69	Ⅶ			KL−5	No.28	09.25	14.323	35.429	24.040	111
102	112	角錐状石器	チャート	5.92	3.55	1.76	0.78	Ⅶ−SR	J−6		NS−2		09.18				112
102	113	角錐状石器	チャート	5.37	2.50	1.54	1.41	Ⅶ−SR−3			KL−5	No.3	07.18	14.673	34.998	24.873	113
97	114	ナイフ形石器	チャート	0.30	1.68	0.76	0.36	Ⅷ−a	J−5	11			08.05				114
97	115	ナイフ形石器	チャート	0.50	2.15	0.80	0.45	Ⅷ−a			TR−11　北バンク	No.80	09.29	16.318	33.131	24.457	115
97	116	ナイフ形石器	チャート	0.30	1.70	0.60	0.40	Ⅷ			JK−4	No.53	07.24	16.575	31.386	24.616	116
106	117	槍先形尖頭器	チャート	2.71	3.69	1.35	0.62	Ⅹ			EF−5	No.398	05.15	15.274	12.070	23.802	117
106	118	槍先形尖頭器	チャート	1.50	2.76	1.36	0.58	Ⅷ−b			FG−5	No.124	05.22	15.812	15.190	24.121	118
106	119	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.27	2.82	1.16	0.44	Ⅷ−b	E−6		ZT	No.48	06.12	13.105	10.888	23.236	119
106	120	槍先形尖頭器	チャート	38.26	6.89	3.17	1.81	Ⅷ−b			TR−3−NSB	No.432	09.29	12.342	12.170	23.154	120
106	121	槍先形尖頭器	サヌカイト	3.50	3.49	1.53	0.71	Ⅷ−b	F−7			No.105	10.03	4.001	16.311	21.865	121
106	122	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.30	2.58	1.31	0.42	Ⅷ−a〜Ⅷ−b	F−5	7	TR−A　南バンク		07.03				122
106	123	槍先形尖頭器	チャート	3.22	3.81	1.52	0.79	Ⅷ−a			EF−5	No.51	04.05	15.130	11.282	23.998	123
106	124	槍先形尖頭器	チャート	2.70	3.03	1.23	0.64	Ⅷ−a			TR−3−南東	No.69	05.21	14.029	15.653	23.932	124
106	125	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.20	2.81	1.36	0.38	Ⅷ−a	I−5	2		No.50	04.22	15.613	25.557	24.584	125
106	126	槍先形尖頭器	サヌカイト	3.20	3.81	1.17	0.61	Ⅷ−a			KL−5	No.104		17.067	35.049	24.616	126
106	127	槍先形尖頭器	サヌカイト	3.00	3.68	1.42	0.71	Ⅷ−a			JK−6	No.351	08.30	11.666	32.084	23.561	127
106	128	槍先形尖頭器	チャート	2.78	3.36	1.60	0.57	Ⅷ−a			J−6−W	No.12	09.14	16.552	28.671	23.213	128
106	129	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.10	2.54	0.96	0.44	Ⅶ	H−5	6			06.07				129
106	130	槍先形尖頭器	サヌカイト	3.90	4.52	1.80	0.66	Ⅶ	G−5	3		No.1	05.15				130
106	131	槍先形尖頭器	チャート	2.30	3.43	1.40	0.57	Ⅶ−2	J−4	13		No.28	09.20	16.611	29.049	24.743	131
106	132	槍先形尖頭器	サヌカイト	3.21	3.06	2.33	0.68	Ⅶ			JK−5	No.1050	09.05	14.831	30.172	24.391	132
107	133	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.06	3.03	1.21	0.39	Ⅶ	J−4	16	ブロック4	No.14	05.28				133
107	134	槍先形尖頭器	赤色頁岩	4.30	3.74	1.66	0.63	Ⅶ−SR−3	K−5	9	JK−5						134
107	135	槍先形尖頭器	チャート	9.67	5.90	2.31	0.88	Ⅶ			KL−5	No.20	09.25	13.743	36.055	24.074	135
107	136	槍先形尖頭器	チャート	32.50	7.90	3.07	1.56	Ⅶ	J−5	7	ユニット3	No.1	05.23				136
107	137	槍先形尖頭器	サヌカイト	6.20	3.77	1.83	0.93	オリーブ灰褐色砂礫			TR−12						137
107	138	槍先形尖頭器	チャート	8.70	3.62	2.64	1.26	Ⅵ	F−7			No.66	09.27				138
107	139	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.10	2.44	1.41	0.46	Ⅴ（排土）			No.51〜52周辺（1号岩陰）						139
107	140	槍先形尖頭器	チャート	4.40	4.10	1.60	0.60	Ⅳ	F−7		ZT						140
107	141	槍先形尖頭器	サヌカイト	2.50	3.70	1.30	0.40	Ⅴ			95−6NOM　Ⅴ区（1号岩陰）	No.140	04.03	15.860	12.867	23.370	141
107	142	槍先形尖頭器	サヌカイト	0.88	2.75	1.00	0.30	⑤	J−7		TR−C	No.1	06.28				142
107	143	槍先形尖頭器	サヌカイト	1.80	3.39	1.30	0.46	不明			表採		06.06				143
107	144	槍先形尖頭器	サヌカイト	0.55	2.21	0.70	0.39	Ⅶ−YR			JK-6		09.04				144
110	145	細石刃	チャート	0.04	0.95	0.41	0.08	Ⅹ			E−6−N		08.29				145
110	146	細石刃	チャート	0.07	0.87	0.50	0.11	Ⅹ			EF−5　セクション壁かき時		05.27				146
110	147	細石刃	チャート	0.08	0.97	0.50	0.15	Ⅸ			TR−2−NSB	No.7	10.03	13.679	9.648	23.337	147
110	148	細石刃	チャート	0.25	1.47	0.80	0.19	Ⅹ			E−6−N		08.29				148
110	149	細石刃	チャート	0.03	0.56	0.47	0.09	Ⅹ			EF−5　一括		05.14				149
110	150	細石刃	チャート	0.05	1.02	0.60	0.06	Ⅸ	F−4			No.174	10.01	18.233	14.054	24.355	150
110	151	細石刃	チャート	0.14	1.03	0.72	0.18	Ⅹ	E−5		TR−A		05.15				151
110	152	細石刃	チャート	0.13	0.75	0.87	0.12	Ⅹ			EF−5	No.345	05.14	13.741	11.807	23.488	152
110	153	細石刃	チャート	0.06	0.90	0.65	0.15	Ⅹ			E−6−N		08.29				153
110	154	細石刃	チャート	0.10	1.05	0.70	0.25	Ⅸ	E−6		ZT	No.66	06.13	12.784	10.918	23.079	154
110	155	細石刃	チャート	0.11	0.95	0.81	0.11	Ⅹ			EF−5	No.449	05.21	13.279	11.951	23.334	155
110	156	細石刃	チャート	0.08	0.81	0.68	0.12	Ⅸ			TR−A		06.13				156
110	157	細石刃	チャート	0.06	0.48	0.71	0.12	Ⅹ			EF−5		05.14				157
110	158	細石刃	チャート	0.08	1.15	0.42	0.22	Ⅹ			E−6−N　水		08.28				158
110	159	細石刃	チャート	0.17	0.99	0.87	0.19	Ⅹ			EF−5		05.24				159
110	160	細石刃	チャート	0.03	0.98	0.49	0.06	Ⅷ−b			TR−3−S		04.23				160
110	161	細石刃	チャート	0.03	0.82	0.42	0.08	Ⅷ−b	F−5			No.39	07.09	14.566	14.729	23.995	161
110	162	細石刃	チャート	0.10	1.24	0.50	0.15	Ⅷ−c			F−5		05.16				162
110	163	細石刃	チャート	0.06	0.77	0.67	0.09	Ⅷ−b	F−5		TR−A　南バンク	No.68	07.11	14.345	14.900	23.889	163
110	164	細石刃	チャート	0.10	1.20	0.56	0.15	Ⅷ−b			EF−5		05.02				164
110	165	細石刃	チャート	0.06	1.20	0.49	0.12	Ⅷ−b	F−6	13			10.06				165

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ④

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
110	166	細石刃	チャート	0.15	1.25	0.75	0.23	Ⅷ—b			EF—6・7		10.05				166
110	167	細石刃	チャート	0.17	1.47	0.87	0.17	Ⅷ—b			EF—5		05.07				167
110	168	細石刃	チャート	0.06	0.99	0.51	0.09	Ⅷ—b			E—6—N		08.27				168
110	169	細石刃	チャート	0.13	0.83	0.67	0.22	Ⅷ—b			EF—5	No.292	05.10	14.450	11.616	23.692	169
110	170	細石刃	チャート	0.10	1.11	0.63	0.17	Ⅷ—b			F—6・7		09.20				170
110	171	細石刃	チャート	0.10	1.12	0.62	0.16	Ⅷ—b	K—5	5			09.17				171
110	172	細石刃	チャート	0.07	1.01	0.52	0.15	Ⅷ—b			E—6—N		08.27				172
110	173	細石刃	チャート	0.06	1.00	0.44	0.11	Ⅷ—b			F—6・7トレンチ		09.17				173
110	174	細石刃	チャート	0.12	1.24	0.55	0.14	Ⅷ—b	F—6		ZT		06.25				174
110	175	細石刃	チャート	0.27	1.59	0.61	0.20	Ⅷ—b			TR—3		04.26				175
110	176	細石刃	チャート	0.35	1.45	0.90	0.27	Ⅷ—b	E—6	16			10.16				176
110	177	細石刃	チャート	0.26	1.50	0.90	0.20	Ⅷ—b			EF—5		05.02				177
110	178	細石刃	チャート	0.11	1.28	0.81	0.12	Ⅷ—b	F—6	14			10.16				178
110	179	細石刃	チャート	0.41	1.30	0.87	0.31	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.338	09.29	15.572	13.702	23.976	179
110	180	細石刃	チャート	0.24	1.24	0.89	0.26	Ⅷ—b			EF—6・7		10.04				180
110	181	細石刃	チャート	0.30	1.85	0.65	0.25	Ⅷ—b	F—6		F—6—N	No.7	10.01	9.939	15.006	22.824	181
110	182	細石刃	チャート	0.10	1.20	0.55	0.15	Ⅷ—b			TR—3—S	No.34	05.07	14.397	13.885	23.739	182
110	183	細石刃	チャート	0.11	0.94	0.78	0.14	Ⅷ—b			TR—3—南東		05.22				183
110	184	細石刃	チャート	0.09	1.06	0.68	0.13	Ⅷ—b			F—6・7トレンチ		09.17				184
111	185	細石刃	チャート	0.05	1.05	0.50	0.15	Ⅷ—a			F—6・7		08.29				185
111	186	細石刃	チャート	0.09	1.02	0.48	0.20	Ⅷ—a			FG—5	No.75	05.17	15.356	16.345	不明	186
111	187	細石刃	チャート	0.12	1.32	0.69	0.16	Ⅷ—a	F—5	10	TR—3—NSB		09.29				187
111	188	細石刃	チャート	0.12	1.32	0.53	0.25	Ⅷ			TR—3—NSB		10.02				188
111	189	細石刃	チャート	0.14	1.45	0.48	0.18	Ⅷ—a			EF—5		04.24				189
111	190	細石刃	チャート	0.11	1.29	0.52	0.15	Ⅷ—a	F—6	9			08.30				190
111	191	細石刃	チャート	0.14	1.36	0.56	0.17	Ⅷ—a	G—5	2			08.23				191
111	192	細石刃	チャート	0.16	1.04	0.71	0.21	Ⅷ—a			EF—5		04.24				192
111	193	細石刃	チャート	0.07	1.20	0.46	0.16	Ⅷ—a			EF—5						193
111	194	細石刃	チャート	0.12	1.53	0.54	0.16	Ⅷ—a			F—6・7	No.268	09.05	8.865	13.352	22.716	194
111	195	細石刃	チャート	0.14	1.43	0.49	0.20	Ⅷ—a			TR—3—S	No.29	04.22	14.265	14.003	23.875	195
111	196	細石刃	チャート	0.13	1.49	0.65	0.15	Ⅷ—a			GH—5	No.138	08.23	15.604	17.484	24.465	196
111	197	細石刃	チャート	0.20	1.36	0.63	0.20	Ⅷ			P101～103付近		10.07				197
111	198	細石刃	チャート	0.13	0.89	0.67	0.18	Ⅷ—a	E—5		TR—A　排土		05.09				198
111	199	細石刃	チャート	0.14	1.23	0.68	0.17	Ⅷ—a	F—5	10	TR—3—NSB		09.29				199
111	200	細石刃	チャート	0.20	1.54	0.68	0.21	Ⅷ			F—6・7　東バンク		09.29				200
111	201	細石刃	チャート	0.17	1.57	0.71	0.17	Ⅷ—a			TR—3—S		04.22				201
111	202	細石刃	チャート	0.22	1.95	0.66	0.14	Ⅷ—a			GH—5	No.211	08.29	15.633	16.797	24.359	202
111	203	細石刃	チャート	0.25	1.79	0.74	0.17	Ⅷ—a			TR—3—S・東一括		05.17				203
111	204	細石刃	チャート	0.35	1.74	0.84	0.26	Ⅷ—a			TR—3—N		04.22				204
111	205	細石刃	チャート	0.25	1.81	0.61	0.27	Ⅷ—a	F—7	3			09.03				205
111	206	細石刃	チャート	0.19	1.50	0.73	0.18	Ⅷ	F—6	13			08.27				206
111	207	細石刃	チャート	0.16	1.55	0.57	0.15	Ⅷ—a	F—6	5			10.01				207
111	208	細石刃	チャート	0.38	1.66	0.86	0.35	Ⅷ—a			EF—5・TR—A　南バンク	No.20	09.10	15.731	10.842	24.018	208
111	209	細石刃	チャート	0.36	1.91	0.79	0.25	Ⅷ—a			TR—3—NSB		09.27				209
111	210	細石刃	チャート	0.16	1.26	0.87	0.14	Ⅷ—a	F—7	2			08.30				210
111	211	細石刃	チャート	0.35	1.92	0.95	0.20	Ⅷ—a			TR—3—NSB		09.27				211
111	212	細石刃	チャート	0.44	2.25	0.83	0.25	Ⅷ—a			TR—3—N		04.22				212
111	213	細石刃	チャート	0.35	1.86	0.75	0.21	Ⅷ—a	F—7	4	水		09.03				213
111	214	細石刃	チャート	0.39	1.94	0.91	0.26	Ⅷ—a			EF—5		04.24				214
111	215	細石刃	チャート	0.35	1.75	0.81	0.23	Ⅷ—a	E—6		E—6—N		08.26				215
111	216	細石刃	チャート	0.50	2.05	0.87	0.24	Ⅷ—a			EF—5		04.24				216
111	217	細石刃	チャート	0.11	1.04	0.49	0.17	Ⅷ—a	F—5	8			07.08				217
111	218	細石刃	チャート	0.10	1.04	0.55	0.16	Ⅷ—a			TR—3—S		04.22				218
111	219	細石刃	チャート	0.12	0.78	0.83	0.20	Ⅷ—a	E—6	4			08.20				219
111	220	細石刃	チャート	0.06	0.91	0.66	0.12	Ⅷ—a			FG—5	No.28	05.14	15.175	16.356	24.250	220

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑤

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
111	221	細石刃	チャート	0.04	0.62	0.62	0.10	Ⅷ－a			EF－5		04.24				221
111	222	細石刃	チャート	0.03	0.53	0.54	0.08	Ⅷ－a			EF－5 一括		04.25				222
111	223	細石刃	チャート	0.07	0.85	0.42	0.22	Ⅷ－a	G－5	6			08.28				223
111	224	細石刃	チャート	0.04	0.86	0.41	0.09	Ⅷ－a	F－6	15			08.29				224
111	225	細石刃	チャート	0.12	0.78	0.60	0.21	Ⅷ－a	F－6	15			08.28				225
111	226	細石刃	チャート	0.08	1.42	0.30	0.15	Ⅷ－a	F－7	3			09.03				226
111	227	細石刃	チャート	0.13	1.23	0.61	0.20	Ⅷ－a			JK－5	No.633	08.28	14.397	31.499	24.036	227
111	228	細石刃	チャート	0.17	1.15	0.70	0.15	Ⅷ－a			GH－5	No.147	08.23	15.731	17.522	24.503	228
111	229	細石刃	チャート	0.17	1.15	0.65	0.20	Ⅷ－a	F－6	11			09.03				229
111	230	細石刃	チャート	0.14	1.33	0.75	0.16	Ⅷ－a			TR－3－N		04.22				230
111	231	細石刃	チャート	0.14	1.43	0.65	0.14	Ⅷ－a	F－5	7	TR－A　南バンク	No.12	07.08	14.495	14.803	24.014	231
111	232	細石刃	チャート	0.14	1.17	0.63	0.15	Ⅷ－a			EF－5		04.24				232
111	233	細石刃	チャート	0.14	1.38	0.75	0.12	Ⅷ－a			TR－3－NSB		09.27				233
111	234	細石刃	チャート	0.27	1.25	1.00	0.17	Ⅷ－a～Ⅷ－b	F－5	7	TR－A　南バンク		07.03				234
111	235	細石刃	チャート	0.41	1.58	0.84	0.18	Ⅷ－a			GH－5	No.159	08.23	13.469	17.040	24.028	235
111	236	細石刃	チャート	0.30	1.68	0.75	0.20	Ⅷ－a	E－7	2			10.01				236
111	237	細石刃	チャート	0.31	1.40	0.94	0.27	Ⅷ－a	F－6	2			08.26				237
111	238	細石刃	チャート	0.36	1.75	0.99	0.24	Ⅷ－a			TR－3－NSB	No.431	09.29				238
111	239	細石刃	チャート	0.48	1.61	1.14	0.26	Ⅷ－a			TR－3－N		04.22				239
111	240	細石刃	チャート	0.44	1.58	0.71	0.34	Ⅷ－a			TR－11　北バンク	No.26	09.27	15.794	29.419	24.476	240
111	241	細石刃	チャート	0.20	1.47	0.70	0.25	Ⅷ－a			TR－11　北バンク		09.28				241
111	242	細石刃	チャート	0.18	1.27	0.73	0.25	Ⅷ－a	J－5		JK－5－NSWB	No.33	09.25	14.966	32.668	24.169	242
112	243	細石刃	チャート	0.50	1.15	0.70	0.30	Ⅷ－a			EF－5	No.106	04.25	14.738	12.064	23.868	243
112	244	細石刃	チャート	0.08	0.90	0.52	0.14	Ⅷ－a	E－5	6	TR－3－NSB 水		09.29				244
112	245	細石刃	チャート	0.19	1.21	0.88	0.17	Ⅷ			TR－3		04.02				245
112	246	細石刃	チャート	0.12	1.32	0.79	0.14	Ⅷ－a	F－6	7			06.10				246
112	247	細石刃	チャート	0.25	1.33	0.91	0.14	Ⅷ－a	F－6	5			10.01				247
112	248	細石刃	チャート	0.46	1.79	0.97	0.19	Ⅷ－a			GH－5	No.230	08.29	14.394	16.030	24.008	248
112	249	細石刃	チャート	0.33	1.72	0.74	0.20	Ⅷ－a	F－6		ZT　西バンク南端一括		06.13				249
112	250	細石刃	チャート	0.40	1.88	0.74	0.22	Ⅷ－a			TR－3－S		04.22				250
112	251	細石刃	チャート	0.12	0.93	0.71	0.12	Ⅷ－a			EF－5		04.24				251
112	252	細石刃	チャート	0.05	0.83	0.62	0.08	Ⅷ－a	G－4	13			08.21				252
112	253	細石刃	チャート	0.09	1.09	0.73	0.13	Ⅷ－a	F－7	3			08.28				253
112	254	細石刃	チャート	0.25	1.39	0.87	0.26	Ⅷ			EF－5	No.127	04.05	14.477	12.121	23.803	254
112	255	細石刃	チャート	0.15	1.32	0.83	0.14	Ⅷ－b			F－6・7トレンチ		09.17				255
112	256	細石刃	チャート	0.53	2.18	0.91	0.22	Ⅷ－a	F－4			No.62	09.23	17.841	13.008	24.280	256
112	257	細石刃	チャート	0.10	1.23	0.56	0.12	Ⅷ－a	F－4	14	TR－3 －NSB 水		09.29				257
112	258	細石刃	チャート	0.16	1.40	0.66	0.15	Ⅷ－a			TR－3－N		04.22				258
112	259	細石刃	チャート	0.20	1.14	0.78	0.19	Ⅷ－a	F－5	16			08.22				259
112	260	細石刃	チャート	0.36	2.05	0.93	0.21	Ⅷ－a	F－7	3			09.02				260
112	261	細石刃	チャート	0.17	1.15	0.65	0.20	Ⅷ－a			TR－11　北バンク	No.232	10.04	16.119	32.283	24.398	261
112	262	細石刃	チャート	0.08	0.97	0.53	0.15	Ⅷ－a	E－6		E－6－N		08.26				262
112	263	細石刃	チャート	0.11	1.48	0.66	0.12	Ⅷ－a			GH－5	No.255	08.29	12.745	15.409	23.730	263
112	264	細石刃	チャート	0.10	1.05	0.52	0.17	Ⅷ－a	J－5		JK－5 NSW－3	No.20	09.25	14.915	31.192	24.119	264
112	265	細石刃	チャート	0.14	1.03	0.61	0.16	Ⅷ－a			TR－11　北バンク 水		10.03				265
112	266	細石刃	チャート	0.10	0.91	0.60	0.17	Ⅷ－a			JK－6	No.669	09.11	11.944	31.201	23.556	266
112	267	細石刃	チャート	0.13	1.23	0.61	0.20	Ⅷ－a	F－6	15			09.02				267
112	268	細石刃	チャート	0.24	1.63	0.84	0.22	Ⅷ	J－5	5		No.11	04.11	14.222	28.241	24.272	268
112	269	細石刃	チャート	0.39	1.66	0.77	0.19	Ⅷ－a	K－4	4			08.28				269
112	270	細石刃	チャート	0.07	1.08	0.63	0.12	Ⅷ－a	K－4	4			08.28				270
112	271	細石刃	チャート	0.05	0.81	0.51	0.13	Ⅷ－a	K－4	13			08.05				271
112	272	細石刃	チャート	0.09	0.85	0.63	0.19	Ⅷ－a	K－4	13			08.05				272
112	273	細石刃	チャート	0.19	1.20	0.75	0.19	Ⅷ－a	F－6	10			09.03				273
112	274	細石刃	チャート	0.06	0.85	0.45	0.13	Ⅷ－a	K－4	12	水		09.23				274
112	275	細石刃	チャート	0.12	1.01	0.83	0.12	Ⅷ－a	J－4	13			09.22				275

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑥

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
112	276	細石刃	チャート	0.14	1.35	0.69	0.15	Ⅷ—a			TR—11　北バンク		10.03				276
112	277	細石刃	チャート	0.13	1.05	0.56	0.14	Ⅷ—a	J—4	15			09.28				277
112	278	細石刃	チャート	0.08	1.36	0.51	0.12	Ⅷ—a			TR—12　北バンク		10.03				278
112	279	細石刃	チャート	0.16	1.31	0.66	0.14	Ⅷ—a	J—6	15	NS—2		09.20				279
112	280	細石刃	チャート	0.05	0.91	0.48	0.10	Ⅷ—a	K—5	9			08.27				280
112	281	細石刃	チャート	0.10	1.09	0.62	0.19	Ⅷ—a	L—4	1			08.23				281
112	282	細石刃	チャート	0.07	1.15	0.74	0.11	Ⅷ—a	K—5	5			08.08				282
112	283	細石刃	チャート	0.09	1.03	0.48	0.12	Ⅷ—a	L—4	9			08.27				283
112	284	細石刃	チャート	0.12	0.91	0.60	0.22	Ⅷ—a	J—5		JK—5　NSW—B	No.22	09.25	15.101	31.475	24.129	284
112	285	細石刃	チャート	0.07	0.85	0.60	0.15	Ⅷ—a	J—4	15			08.23				285
112	286	細石刃	チャート	0.10	1.02	0.61	0.13	Ⅷ—a			TR—11　北バンク		10.03				286
112	287	細石刃	チャート	0.43	1.93	0.86	0.31	Ⅷ—a			TR—6　東バンク		09.20				287
112	288	細石刃	チャート	0.29	2.04	0.68	0.23	Ⅷ—a			TR—6　東バンク	No.3	09.21	16.248	25.871	24.705	288
112	289	細石刃	チャート	0.15	0.94	0.72	0.23	Ⅷ—a			不明		10.07				289
112	290	細石刃	チャート	0.10	0.85	0.55	0.20	Ⅷ—a	J—4	11			08.22				290
112	291	細石刃	チャート	0.05	1.28	0.37	0.14	Ⅷ—a			J—5・JK—5　NSWB	No.8	09.25	15.081	30.465	24.289	291
113	292	細石刃	チャート	0.07	1.28	0.48	0.14	Ⅶ	F—4	16	水		08.19				292
113	293	細石刃	チャート	0.08	1.23	0.63	0.11	Ⅶ			E—6—S　水		08.28				293
113	294	細石刃	チャート	0.10	1.33	0.54	0.23	Ⅶ	F—6	4	水		08.26				294
113	295	細石刃	チャート	0.12	1.37	0.66	0.14	Ⅶサイカ	F—5	12			08.21				295
113	296	細石刃	チャート	0.20	1.73	0.53	0.18	Ⅶ—上	E—6		ZT南						296
113	297	細石刃	チャート	0.27	1.83	0.80	0.24	Ⅶ			TR—3—NSB　一括		09.24				297
113	298	細石刃	チャート	0.14	1.52	0.78	0.13	Ⅶ	G—5	5			05.16				298
113	299	細石刃	チャート	0.13	0.94	0.72	0.21	Ⅶ	F—5		TR—3—NSB　水		09.23				299
113	300	細石刃	チャート	0.08	0.95	0.67	0.12	Ⅶ			TR—3　南端東バンク　一括		08.06				300
113	301	細石刃	チャート	0.17	1.19	0.80	0.10	Ⅶ	F—6	12	ZT		06.07				301
113	302	細石刃	チャート	0.19	1.12	0.72	0.23	Ⅶ	F—6	11	ZT		06.07				302
113	303	細石刃	チャート	0.23	1.00	0.82	0.19	Ⅶ—2	F—5		TR—A		05.09				303
113	304	細石刃	チャート	0.22	1.02	0.93	0.17	Ⅶ			TR—B　南バンク	No.9	06.21	16.578	19.397	25.266	304
113	305	細石刃	チャート	0.10	0.97	0.64	0.21	Ⅶサイカ	F—6	3			08.21				305
113	306	細石刃	チャート	0.20	1.48	0.82	0.13	Ⅶ	G—5	7			06.07				306
113	307	細石刃	チャート	0.25	1.72	0.70	0.18	Ⅶ	G—5		南北バンク上　一括		06.10				307
113	308	細石刃	チャート	0.19	1.40	0.70	0.21	Ⅶサイカ	G—5	2			08.21				308
113	309	細石刃	チャート	0.05	1.00	0.54	0.80	Ⅶ—2			F—5周辺　杭より西		05.02				309
113	310	細石刃	チャート	0.11	1.26	0.84	0.17	Ⅶ	F—5	8			07.04				310
113	311	細石刃	チャート	0.14	1.34	0.52	0.16	Ⅶ	E—6	11・15			08.29				311
113	312	細石刃	チャート	0.20	1.50	0.69	0.15	Ⅶ	F—7		F—6—S　一括		09.24				312
113	313	細石刃	チャート	0.25	1.46	0.72	0.25	Ⅶ	G—4	13	水		08.19				313
113	314	細石刃	チャート	0.23	1.60	0.82	0.14	Ⅶ—2	G—5	2			08.19				314
113	315	細石刃	チャート	0.05	0.92	0.60	0.18	Ⅶ—2	K—5	13			07.29				315
113	316	細石刃	チャート	0.04	1.17	0.50	0.12	Ⅶ	J—5	1							316
113	317	細石刃	チャート	0.09	1.19	0.45	0.16	Ⅶ—SR—3	K—5	5	JK—5		07.16				317
113	318	細石刃	チャート	0.05	1.34	0.41	0.10	Ⅶ—2	J—6	13			09.20				318
113	319	細石刃	チャート	0.13	1.31	0.56	0.18	Ⅶ—YR			JK—6		08.30				319
113	320	細石刃	チャート	0.11	1.55	0.65	0.21	Ⅶ～Ⅷセクション清掃時	J—5	1・5	J—5　南バンク		07.29				320
113	321	細石刃	チャート	0.18	1.67	0.48	0.17	Ⅶ—YR			岩陰2　SW—3		09.28				321
113	322	細石刃	チャート	0.17	1.44	0.56	0.20	Ⅶサイカ	K—5	1	JK—5南　SW—B						322
113	323	細石刃	チャート	0.16	1.20	0.70	0.17	Ⅶサイカ			TR—11　北バンク		10.02				323
113	324	細石刃	チャート	0.20	1.44	0.80	0.18	Ⅶ—2	K—5	13			07.29				324
113	325	細石刃	チャート	0.24	1.36	0.79	0.17	Ⅶ—YR			JK—6		09.04				325
113	326	細石刃	チャート	0.23	1.41	0.79	0.22	Ⅶ—SR—3	J—6	4			08.06				326
113	327	細石刃	チャート	0.23	1.22	0.76	0.28	Ⅶ—H	J—5	3	JK—5北　SW—B		09.25				327
113	328	細石刃	チャート	0.28	1.37	0.82	0.17	Ⅶサイカ			JK—6	No.213	08.28	11.878	32.121	23.629	328
113	329	細石刃	チャート	0.12	1.28	0.74	0.21	Ⅶ	J—5	1							329
113	330	細石刃	チャート	0.33	1.67	0.89	0.16	Ⅶ	K—4	11	ブロック1		05.27				330

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑦

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
113	331	細石刃	チャート	0.38	1.75	0.94	0.38	Ⅶ	J－5	1							331
113	332	細石刃	チャート	0.11	1.61	0.46	0.19	Ⅶ	J－3	3		No.4	07.16	23.510	30.493	26.842	332
113	333	細石刃	チャート	0.13	1.45	0.55	0.13	Ⅶサイカ			JK－6	No.327	08.29	11.926	31.425	23.669	333
113	334	細石刃	チャート	0.04	1.05	0.31	0.08	Ⅶ－YR			JK－6		09.02				334
113	335	細石刃	チャート	0.19	1.17	0.77	0.22	Ⅶ	K－4		TR－12		05.21				335
113	336	細石刃	チャート	0.12	1.29	0.52	0.12	Ⅶ－YR			JK－6		09.04				336
113	337	細石刃	チャート	0.18	1.39	0.72	0.17	Ⅶ	J－5	15	JK5　西端サブトレ		07.16				337
113	338	細石刃	チャート	0.16	1.38	0.48	0.15	Ⅶ－YR			JK－6		08.30				338
113	339	細石刃	チャート	0.05	0.78	0.47	0.11	Ⅶ	K－6	1			08.07				339
113	340	細石刃	チャート	0.07	1.21	0.49	0.09	Ⅶサイカ	J－6	4			08.07				340
113	341	細石刃	チャート	0.18	1.78	0.60	0.19	Ⅶ－SR			JK－6	No.320	08.29	11.988	31.768	23.648	341
113	342	細石刃	チャート	0.21	1.38	0.90	0.19	Ⅶ	J－5	4			04.08				342
113	343	細石刃	チャート	0.13	1.42	0.87	0.22	Ⅶ－YR			JK－6		08.30				343
113	344	細石刃	チャート	0.03	0.66	0.34	0.09	Ⅶ－YR			JK－6		09.02				344
113	345	細石刃	チャート	0.08	0.73	0.62	0.09	Ⅶ－YR			JK－6		09.02				345
113	346	細石刃	チャート	0.14	1.10	0.61	0.15	Ⅶ－YR			JK－6		09.02				346
113	347	細石刃	チャート	0.08	0.84	0.72	0.13	Ⅶ－SR－2・3	K－6		杭直下		08.27				347
113	348	細石刃	チャート	0.04	0.80	0.60	0.10	Ⅶ－SR－2・3	K－6		杭直下		08.27				348
113	349	細石刃	チャート	0.19	1.38	0.80	0.19	Ⅶ	J－5	1・5			07.30				349
113	350	細石刃	チャート	0.11	1.53	0.64	0.09	Ⅶ－2			JK－5	No.127	07.24	13.382	30.893	24.185	350
113	351	細石刃	チャート	0.06	0.97	0.55	0.11	Ⅶ－YR			JK－6		09.04				351
113	352	細石刃	チャート	0.10	1.26	0.45	0.15	Ⅶ－SR	J－6	3			09.18				352
113	353	細石刃	チャート	0.09	1.40	0.44	0.16	Ⅶサイカ			TR－11　北バンク		09.27				353
113	354	細石刃	チャート	0.05	0.82	0.72	0.12	Ⅶサイカ			TR－11　北バンク		10.03				354
113	355	細石刃	チャート	0.21	1.37	0.90	0.19	Ⅶ－YR			岩除2　SW－1	No.6	09.29	10.690	31.897	23.417	355
113	356	細石刃	チャート	0.13	1.54	0.67	0.16	Ⅶ～Ⅷセクション清掃時	J－5	1・5	J－5　南バンク		07.29				356
113	357	細石刃	チャート	0.31	1.53	0.82	0.28	Ⅶ－SR－3			JK－6　北バンク		09.27				357
113	358	細石刃	チャート	0.10	1.32	0.45	0.13	Ⅶ－2	I－4	14			04.09				358
113	359	細石刃	チャート	0.11	1.37	0.64	0.17	Ⅶ	I－5	8			04.08				359
113	360	細石刃	チャート	0.07	0.90	0.70	0.15	Ⅶ－2	I－5	1			04.08				360
113	361	細石刃	チャート	0.11	0.89	0.70	0.11	Ⅶ－2			TR－6　東バンク						361
113	362	細石刃	チャート	0.17	1.47	0.85	0.18	Ⅶ－1	H－5	1・2			04.09				362
113	363	細石刃	チャート	0.26	1.93	0.74	0.26	Ⅶ－2	I－5	2			04.04				363
113	364	細石刃	チャート	0.08	1.30	0.50	0.12	Ⅶ			I－4周辺		04.11				364
114	365	細石刃	チャート	0.08	1.02	0.62	0.08	Ⅶ	I－5	8			04.09				365
114	366	細石刃	チャート	0.38	1.48	0.94	0.25	Ⅶ－2	I－5	2			04.04				366
114	367	細石刃	チャート	0.24	1.40	0.60	0.30	Ⅶ			I－5周辺		04.10				367
114	368	細石刃	チャート	0.18	1.19	0.71	0.17	Ⅶ	I－4	16			04.04				368
114	369	細石刃	チャート	0.19	1.10	1.06	0.22	Ⅶ	I－5	4			04.04				369
114	370	細石刃	チャート	0.15	1.31	0.63	0.17	Ⅶ			I－5周辺		04.10				370
114	371	細石刃	チャート	0.06	1.17	0.51	0.10	Ⅵ	K－3		TR－12－NSB		09.26				371
114	372	細石刃	チャート	0.07	1.15	0.67	0.12	Ⅵ	F－6	16			08.20				372
114	373	細石刃	チャート	0.16	0.86	0.93	0.21	Ⅵ			TR－3－N		04.17				373
114	374	細石刃	チャート	0.09	1.15	0.67	0.12	Ⅵ	F－5	3	TR－3－N		04.17				374
114	375	細石刃	チャート	0.30	1.51	0.73	0.21	Ⅵ	F－7	3			08.20				375
114	376	細石刃	チャート	0.17	1.12	0.80	0.17	Ⅵ	F－6	14			08.19				376
114	377	細石刃	チャート	0.09	0.96	0.70	0.12	Ⅵ	F－6	15	水		08.20				377
114	378	細石刃	チャート	0.08	1.44	0.59	0.11	Ⅴ	F－5		TR－3－NSB		09.23				378
114	379	細石刃	チャート	0.11	1.16	0.61	0.15	Ⅴ	G－5				04.25				379
114	380	細石刃	チャート	0.24	1.15	0.91	0.18	Ⅴ			TR－3		04.03				380
114	381	細石刃	チャート	0.04	0.97	0.56	0.14	Ⅴ	F－7	2			08.16				381
114	382	細石刃	チャート	0.07	1.22	0.57	0.14	Ⅴ	G－5				04.23				382
114	383	細石刃	チャート	0.07	0.81	0.69	0.12	Ⅴ	F－6	10	一括		08.19				383
114	384	細石刃	チャート	0.11	0.95	0.66	0.16	Ⅴ			A地点		03.27				384
114	385	細石刃	チャート	0.27	1.55	0.83	0.20	Ⅴ	F－6	3			08.08				385

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑧

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
114	386	細石刃	チャート	0.07	0.72	0.69	0.16	V			A地点		04.02				386
114	387	細石刃	チャート	0.14	1.30	0.70	0.16	V			TR−3−S　東トレンチ		05.16				387
114	388	細石刃	チャート	0.13	1.15	0.69	0.16	V			バンク中（E）		04.11				388
114	389	細石刃	チャート	0.11	1.23	0.82	0.09	V	F−5	10・11	TR−3		04.17				389
114	390	細石刃	チャート	0.06	0.78	0.65	0.13	V	F−6	10			08.19				390
114	391	細石刃	チャート	0.05	0.90	0.46	0.10	V			TR−11　北バンク		09.28				391
114	392	細石刃	チャート	0.06	1.09	0.64	0.11	V	K−5		TR−11		05.14				392
114	393	細石刃	チャート	0.13	1.02	0.72	0.17	V	K−5		TR−11		05.14				393
114	394	細石刃	チャート	0.13	1.43	0.71	0.15	V			TR−12東−NSB		09.29				394
114	395	細石刃	チャート	0.20	1.35	0.60	0.24	Vより上			TR−3−N　セクション壁		05.28				395
114	396	細石刃	チャート	0.20	1.49	0.91	0.16	Ⅳ	G−5				03.22				396
114	397	細石刃	チャート	0.08	0.85	0.56	0.13	②	J−7			No.169	06.27	7.478	29.403	23.088	397
114	398	細石刃	チャート	0.14	1.09	0.63	0.17	③	I−7	16			09.11				398
114	399	細石刃	チャート	0.23	1.35	0.85	0.16	③	J−7	5	NS−1		09.11				399
114	400	細石刃	チャート	0.16	1.09	0.86	0.20	③	I−7	16	NS−1		09.10				400
114	401	細石刃	チャート	0.05	1.16	0.69	0.09	③	I−7	16			09.10				401
114	402	細石刃	チャート	0.06	0.70	0.65	0.11	③	J−7				06.25				402
114	403	細石刃	チャート	0.08	1.55	0.52	0.10	④	I−8	8			07.31				403
114	404	細石刃	チャート	0.06	0.78	0.55	0.12	⑤	I−8	4			07.31				404
114	405	細石刃	チャート	0.44	1.81	0.88	0.26	⑤	I−8	4			07.31				405
114	406	細石刃	チャート	0.09	1.09	0.53	0.18	ES−Ⅰ	H−8				04.24				406
114	407	細石刃	チャート	0.07	1.10	0.54	0.11	ES−Ⅰ	H−8				04.24				407
114	408	細石刃	チャート	0.10	1.15	0.50	0.14	KS	G−7		G−7−S		09.24				408
114	409	細石刃	チャート	0.34	1.29	0.96	0.17	KS−1	G−7			No.95	09.26	4.124	17.724	22.525	409
114	410	細石刃	チャート	0.13	1.03	0.67	0.13	G−①	G−7		G−7−S		09.27				410
114	411	細石刃	チャート	0.19	1.59	1.07	0.18	G−①②			G−7・8		09.24				411
114	412	細石刃	チャート	0.20	1.31	0.67	0.17	G−③	G−7		G−7−S		09.27				412
114	413	細石刃	チャート	0.28	1.29	0.78	0.25		F−5	6	一括		06.10				413
114	414	細石刃	チャート	0.18	1.40	0.84	0.17		F−5	2	一括		06.10				414
114	415	細石刃	チャート	0.19	1.52	0.82	0.15		E−6	3	ZT		06.10				415
114	416	細石刃	チャート	0.25	1.57	0.85	0.22		F−6		検出時一括		06.05				416
114	417	細石刃	チャート	0.32	1.36	0.83	0.22		I−4		TR−6		04.02				417
114	418	細石刃	チャート	0.07	1.23	0.52	0.12	清掃時			TR−11　北壁		09.25				418
114	419	細石刃	チャート	0.33	1.47	0.72	0.28	排土			TR−12−S		07.22				419
114	420	細石刃	チャート	0.44	1.94	0.84	0.19	ES排土			ES						420
114	421	細石刃	チャート	0.07	1.05	0.71	0.12	埋立て土	L−7				07.23				421
118	422	細石刃関連剥片	チャート	0.83	2.15	1.16	0.26	X			EF−5	No.346	05.14	13.852	12.401	23.574	422
118	423	剥片	チャート	0.31	1.51	0.84	0.21	X			TR−3−S	No.62	05.21	14.297	13.685	23.714	423
118	424	剥片	チャート	0.35	1.60	1.15	0.30	Ⅷ−b	F−5		TR−A		05.15				424
118	425	剥片	チャート	0.06	1.11	0.44	0.12	X			E−6−N		08.29				425
118	426	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.36	1.80	0.91	0.24	X	E−6		ZT	No.30	06.11	12.002	9.318	22.913	426
118	427	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.20	1.38	0.86	0.16	Ⅷ−b			F−6・7トレンチ		09.17				427
118	428	細石刃関連剥片	チャート	0.22	1.13	0.95	0.23	Ⅷ−b			EF−5・TR−A		05.02				428
118	429	剥片	チャート	0.33	1.86	0.85	0.24	Ⅷ−b	F−5		TR−A		05.15				429
118	430	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.22	1.53	1.06	0.18	Ⅷ−b			EF−5		05.02				430
118	431	剥片	チャート	0.53	1.65	1.09	0.30	Ⅷ−b	J−4	15	ブロック4		05.28				431
118	432	剥片	チャート	0.17	1.63	0.77	0.15	Ⅷ−b			EF−5・TR−A	No.225	05.07				432
118	433	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.67	1.78	1.09	0.27	Ⅷ−b			EF−5	No.242	05.07	13.993	12.464	23.622	433
118	434	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.42	1.86	1.04	0.24	Ⅷ−b			F−6・7		09.16				434
118	435	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.65	1.83	1.15	0.32	Ⅷ−b			E−6−S	No.172	10.01	8.813	9.467	22.482	435
118	436	剥片	チャート	0.22	1.49	0.77	0.20	Ⅷ上面			JK−4		08.22				436
118	437	剥片	チャート	0.57	2.09	1.17	0.38	Ⅷ−b			TR−3−南東	No.115	05.22	13.885	14.982	23.877	437
118	438	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.35	1.89	0.60	0.27	Ⅷ−b			F−6・7		09.16				438
118	439	剥片	チャート	0.16	1.26	0.63	0.22	Ⅷ−b			GH−5		09.09				439
118	440	細石刃（可能性あり）	チャート	0.11	1.03	0.71	0.17	Ⅷ−b			EF−5	No.249	05.10	15.492	10.991	23.794	440

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑨

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
118	441	細石刃関連剥片	チャート	0.40	1.63	0.98	0.36	Ⅷ―b	E―6	4	TR―3―NSB		10.06				441
119	442	剥片	チャート	0.38	1.27	0.98	0.27	Ⅷ―a			EF―5	No.116	04.25	13.782	12.297	23.646	442
119	443	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.63	1.81	1.05	0.35	Ⅷ―a			TR―3―N		04.23				443
119	444	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.58	1.84	0.91	0.36	Ⅷ―a			TR―3―NSB		10.01				444
119	445	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.73	2.04	0.94	0.35	Ⅷ―a	G―6		ZT―ES　境界バンク	No.23	07.18	8.733	16.287	23.019	445
119	446	2次加工のある剥片（細石刃関連剥片）	チャート	0.50	1.70	0.90	0.50	Ⅷ―a			TR―3―NSB	No.122	09.28	16.124	13.510	24.030	446
119	447	細石刃関連剥片	チャート	0.76	2.02	1.17	0.27	Ⅷ―a	F―4	13	水		09.22				447
119	448	細石刃関連剥片	チャート	0.40	2.22	0.70	0.12	Ⅷ―a	F―6	7			06.10				448
119	449	細石刃（可能性あり）	チャート	0.16	1.29	0.76	0.17	Ⅷ―a～Ⅷ―b	F―6		ZT		06.13				449
119	450	剥片	チャート	0.17	1.50	0.85	0.17	Ⅷ―a			F―6・7	No.226	09.05	7.877	13.998	22.592	450
119	451	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.17	1.44	0.69	0.15	Ⅷ			TR―3		04.02				451
119	452	剥片	チャート	0.34	1.77	0.64	0.19	Ⅷ―a			EF―5		04.24				452
119	453	剥片	チャート	0.71	1.92	1.13	0.35	Ⅷ―a	F―4	14	TR―3―NSB		09.29				453
119	454	剥片	チャート	0.20	0.93	0.77	0.23	Ⅷ―a			TR―3―南東	No.39	05.17	13.590	15.164	23.956	454
119	455	剥片	チャート	0.80	2.01	1.21	0.34	Ⅷ	H―4	16			04.08				455
119	456	剥片	チャート	0.27	1.52	0.82	0.17	Ⅷ―a	J―5		J―5　南北バンク	No.107	09.15	18.048	29.952	24.008	456
119	457	剥片	チャート	0.46	1.91	0.93	0.25	Ⅷ―a			F―6・7	No.348	09.11	9.024	12.460	22.724	457
119	458	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.44	1.06	1.31	0.32	Ⅷ―a	F―5	10	TR―3―NSB		09.29				458
119	459	剥片	チャート	0.51	1.98	1.12	0.22	Ⅷ―a			TR―3―NSB		09.27				459
119	460	剥片	チャート	0.19	1.20	0.74	0.15	Ⅷ			TR―3―NSB		10.02				460
119	461	剥片（背面節理面）	チャート	0.65	2.19	0.86	0.36	Ⅷ―b	F―6		ZT（F―6）	No.89	06.12				461
119	462	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.56	2.21	1.08	0.20	Ⅷ―a			FG―5	No.32	05.17	15.589	14.762	不明	462
119	463	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.51	1.98	1.12	0.22	Ⅷ―b			EF―6・7	No.47	10.04	8.257	12.903	22.303	463
119	464	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.54	1.89	1.05	0.29	Ⅷ―a～Ⅷ―b	F―5	6	TR―A　南バンク		07.11				464
119	465	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.43	1.93	0.98	0.24	Ⅷ―a	F―4	14			08.28				465
119	466	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.45	1.75	1.08	0.25	Ⅷ―a			F―6・7	No.126	08.29	9.023	14.394	22.816	466
119	467	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.67	1.72	1.42	0.32	Ⅷ―a			F―6・7	No.207	09.03	9.099	14.007	22.718	467
119	468	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.68	1.97	1.11	0.24	Ⅷ―a	K―4	12			08.01				468
119	469	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.40	1.62	0.93	0.25	Ⅷ―a	J―5	8	JK―5		08.01				469
119	470	剥片	チャート	0.28	1.96	0.67	0.26	Ⅷ―a	J―5	12	水		08.05				470
119	471	剥片	チャート	0.32	1.86	0.91	0.21	Ⅷ―a			JK―4	No.43	07.23	17.108	31.136	24.681	471
119	472	剥片	チャート	0.40	1.97	0.68	0.31	Ⅷ―a			JK―5	No.393	08.02	13.647	31.366	24.083	472
119	473	剥片	チャート	0.26	1.53	0.73	0.21	Ⅷ―a	K―5	4	JK―5　北SWB		09.25				473
119	474	剥片	チャート	0.41	1.99	0.87	0.31	Ⅷ―a			TR―11		05.16				474
119	475	剥片	チャート	0.21	1.28	0.74	0.26	Ⅷ―a	J―6		NS―2	No.149	09.20	11.810	30.573	23.677	475
119	476	剥片	チャート	0.40	1.57	0.86	0.26	Ⅷ―a	K―5	6	TR―12　西バンク		09.27				476
119	477	剥片	チャート	0.31	1.44	0.91	0.17	Ⅷ―a	I―5	1		No.35	04.08	15.187	24.028	24.671	477
119	478	剥片	チャート	0.43	2.08	0.74	0.21	Ⅷ―a	I―5	4		No.25	04.17	15.665	27.436	24.534	478
119	479	剥片	チャート	0.22	1.46	0.69	0.23	Ⅷ―a	J―5	7			09.02				479
119	480	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.48	2.10	0.63	0.35	Ⅷ―a			RS	No.3	05.28				480
119	481	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.38	1.81	0.87	0.26	Ⅷ―a	J―6		J―6―W	No.8	09.04	9.348	28.897	23.339	481
119	482	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.54	2.01	1.17	0.34	Ⅷ―a	J―5	2	TR―11	No.150	05.22	15.326	29.770	24.306	482
119	483	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.10	1.25	0.60	0.17	Ⅷ―a	F―7	3			09.02				483
119	484	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.62	2.02	1.01	0.24	Ⅷ～X			TR―12	No.144	05.22				484
119	485	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.28	0.98	0.83	0.32	Ⅷ―a	K―4	12	水		08.01				485
119	486	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.31	1.16	0.6	0.29	Ⅷ―a	K―5	9			08.27				486
119	487	剥片（背腹同一方向）	頁岩	0.30	1.83	1.12	0.20	Ⅷ―a			TR―11　北バンク		10.03				487
120	488	剥片	チャート	0.65	2.39	0.99	0.35	Ⅶ			TR―3―NSB	No.3	09.26	18.203	13.943	24.633	488
120	489	剥片	チャート	0.09	1.17	0.64	0.21	Ⅶ			TR―3―南東		05.16				489
120	490	剥片	チャート	0.16	1.36	0.89	0.18	Ⅶ			TR―3―S		05.16				490
120	491	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.72	1.65	1.14	0.34	Ⅶ	F―6	12	ZT		06.07				491
120	492	剥片	チャート	0.13	1.34	0.64	0.19	Ⅶ	F―6	11	ZT		06.07				492
120	493	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.12	0.91	0.88	0.17	Ⅶ―2			F―5周辺　杭より東		05.02				493
120	494	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.28	1.42	0.94	0.16	Ⅶサイカ			TR―3―NSB	No.647	10.03	7.768	10.736	22.278	494
120	495	剥片	チャート	0.32	1.80	0.79	0.16	Ⅶ	F―6	4	水		08.26				495

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑩

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量（g）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点（グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
120	496	剥片	チャート	0.20	1.21	0.86	0.22	Ⅶサイカ	F－5	8			08.20				496
120	497	細石刃関連剥片	チャート	1.18	2.15	1.13	0.38	Ⅶ	E－6		E－6－S		09.28				497
120	498	剥片	チャート	0.15	1.50	0.79	0.19	Ⅶ			TR－3　南端東バンク　一括		08.06				498
120	499	細石刃関連剥片	チャート	0.73	1.47	1.11	0.43	Ⅶ	G－5	7			06.07				499
120	500	細石刃（可能性あり）	チャート	0.23	1.05	0.89	0.16	Ⅶ・Ⅷ混	F－7	3			08.27				500
120	501	剥片	チャート	0.25	1.61	0.52	0.19	Ⅶ			F－6・7	No.570	09.15	7.525	12.678	22.390	501
120	502	剥片	チャート	0.39	1.82	0.79	0.24	Ⅶ			TR－3東		05.13				502
120	503	剥片	チャート	0.04	0.67	0.49	0.12	Ⅶサイカ	F－5	15			08.21				503
120	504	剥片	チャート	0.28	1.88	1.08	0.21	Ⅶ	F－5			No.89	05.14	16.421	12.356	24.281	504
120	505	剥片	チャート	0.40	1.67	0.98	0.29	Ⅶ	K－3		TR－12　西バンク						505
120	506	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.56	1.62	1.00	0.29	Ⅶ－2	JK－5			No.128	07.24	13.413	31.026	24.190	506
120	507	細石刃関連剥片	チャート	0.35	1.26	1.01	0.20	Ⅶ－YR			JK－6		09.04				507
120	508	剥片	チャート	0.56	1.71	0.95	0.28	Ⅶサイカ	K－5	15	JK－5南　SWB		09.25				508
120	509	剥片	チャート	0.39	1.34	1.02	0.27	Ⅶサイカ	J－6		NS－2	No.38	09.18	10.719	30.452	23.607	509
120	510	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.46	2.27	0.58	0.31	Ⅶサイカ			TR－11　北バンク　SW		09.27				510
120	511	剥片	チャート	0.70	2.48	1.01	0.25	Ⅶ	J－4	13	TR－11北　SWB		09.27				511
120	512	剥片	チャート	0.41	2.11	0.97	0.33	Ⅶ	J－5	4			04.08				512
120	513	剥片	チャート	0.92	2.65	0.95	0.39	Ⅶサイカ			ブロック1	No.38	05.27	16.445	34.827	24.727	513
120	514	細石刃関連剥片		0.56	2.91	0.88	0.64	Ⅶ			ブロック1	No.8	05.27				514
120	515	剥片	チャート	0.37	1.71	1.15	0.23	Ⅶ－2	J－4	14			07.29				515
120	516	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.15	1.57	0.63	0.18	Ⅶ－SR－2			JK－6		08.02				516
120	517	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.28	1.60	0.86	0.24	Ⅶ－2			JK－5	No.126	07.24	13.382	30.893	24.185	517
120	518	剥片	チャート	0.19	1.46	0.58	0.20	Ⅶサイカ			TR－11　北バンク		10.03				518
120	519	剥片	チャート	0.11	1.36	0.47	0.17	Ⅶサイカ			TR－11　北バンク		10.03				519
120	520	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.37	1.43	1.13	0.23	Ⅶ－YR			JK－6	No.471	09.03	10.416	30.729	23.401	520
120	521	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.40	1.60	0.95	0.30	Ⅶ			ブロック3	No.40	06.07	14.264	30.349	24.323	521
120	522	剥片	チャート	0.10	1.22	0.66	0.20	Ⅶ－SR－1	J－5	12			07.12				522
120	523	剥片	チャート	0.19	1.87	0.52	0.18	Ⅶ－SR－3	K－5	9	JK－5		07.16				523
120	524	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.48	1.51	1.06	0.34	Ⅶ	J－2				05.31				524
120	525	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.18	1.65	0.73	0.15	Ⅶ－SR－1	J－5	12	JK－5		07.12				525
120	526	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.23	1.63	0.71	0.21	Ⅶサイカ	J－5	16	JK－5南　SWB		09.26				526
120	527	細石刃関連剥片	チャート	0.42	1.26	1.17	0.26	Ⅶ－2	J－6	13	水		09.20				527
120	528	細石刃関連剥片	チャート	0.72	1.80	1.25	0.30	Ⅶ－2	H－5		TR－5　東バンク	No.43		15.289	22.799	24.781	528
120	529	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.27	1.93	0.76	0.16	Ⅶ－2	I－5	1		No.5	04.05	15.412	24.673	24.872	529
120	530	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.64	2.18	0.99	0.44	Ⅶ	H－5				09.17				530
120	531	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.22	1.66	0.78	0.18	Ⅶ	H－5	4			04.04				531
120	532	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.34	2.32	0.79	0.25	Ⅶ－2	H－5		TR－5　東バンク	No.21		12.738	24.615	24.963	532
120	533	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.44	1.70	0.95	0.33	Ⅶ－2	H－5		TR－5　東バンク	No.9		13.929	24.451	25.081	533
120	534	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.45	1.34	1.08	0.31	Ⅶ			TR－6　東バンク	No.9	09.21	15.721	25.784	24.627	534
121	535	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.75	3.19	0.90	0.48		F－7	3			08.21				535
121	536	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.31	1.94	0.56	0.27	Ⅵ			F－6・7		08.21				536
121	537	剥片（背腹同一方向・細石刃関連剥片）	チャート	0.45	1.80	0.94	0.23	Ⅴ			95－6NOM	No.55	03.18	15.821	15.961	25.346	537
121	538	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.26	1.55	0.80	0.22				95－6NOM	No.55	03.18	15.821	15.961	25.346	538
121	539	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.13	2.24	1.29	0.52	Ⅴ			A地点		03.27				539
121	540	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.42	1.94	0.89	0.24	Ⅴ			A地点		03.27				540
121	541	細石刃	チャート	0.74	2.87	1.00	0.29	Ⅴ（標記はR）			A地点		03.27				541
121	542	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.30	1.60	0.73	0.31	Ⅴ			B地点		03.27				542
121	543	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.44	2.00	0.79	0.19	Ⅳ－1			TR－3　南東バンク		05.15				543
121	544	剥片	チャート	0.09	1.20	0.65	0.12	Ⅴ	F－5	4			04.17				544
121	545	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.43	1.75	0.81	0.27	②	J－7			No.118	06.27				545
121	546	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.49	1.54	1.11	0.32	②	J－7				07.11				546
121	547	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.40	1.66	1.02	0.24	②	J－7			No.490	07.10	7.822	29.097	23.155	547
121	548	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.69	1.94	1.13	0.31	②	J－7			No.143	06.27	3.735	28.630	22.916	548
121	549	細石刃転用スクレイパー	チャート	0.19	1.39	0.73	0.13	③	J－7	5	NS－1		09.11				549
121	550	細石刃関連剥片	チャート	0.62	1.64	1.22	0.34	G－③	F－7	7			06.25				550

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑪

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
121	551	細石刃	チャート	0.39	2.20	0.90	0.18	G−③	F−8				06.25				551
121	552	細石刃関連剥片	チャート	0.78	1.62	1.17	0.33	⑤	J−7			No.420	07.04	7.062	30.710	22.907	552
121	553	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.17	1.61	0.70	0.16	不明	J−8	6			07.01				553
121	554	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.24	1.52	0.90	0.19	G−①②			G−7･8		09.24				554
121	555	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.31	1.52	0.85	0.21	G−③	G−7		G−7−S		09.27				555
121	556	細石刃関連剥片	チャート	0.46	1.78	0.88	0.25	G−③	G−7		G−7−S		09.27				556
121	557	剥片	チャート	0.27	1.67	0.91	0.17	G−③	G−7		G−7−S		09.27				557
121	558	剥片	チャート	0.55	1.93	1.10	0.26	G−③	G−7		G−7−S		09.27				558
121	559	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.61	1.92	1.24	0.28	G−③	G−7		G−7−S		09.27				559
121	560	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.16	1.46	0.70	0.21	黒褐色粘質土			H−7	No.1	03.06				560
121	561	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.16	1.65	0.77	0.15	黒褐色粘土	H−7			No.1	03.06				561
121	562	剥片	チャート	0.08	1.03	0.54	0.16				ES排土		04.22				562
121	563	剥片	チャート	0.03	0.85	0.46	0.10				I−7〜I−8		04.26				563
121	564	細石刃関連剥片	チャート	0.26	1.43	0.77	0.26				南端排土		04.22				564
121	565	細石刃関連剥片	チャート	2.21	3.25	1.20	0.50	埋立て土	F−7		巨岩南一括埋め立て土		09.24				565
121	566	剥片	チャート	0.26	1.35	0.85	0.30		F−5	6	一括		06.10				566
121	567	剥片	チャート	0.35	1.33	1.10	0.22		I−4		TR−6		04.03				567
121	568	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.50	2.03	0.67	0.39	不明	I−5	1			04.05				568
121	569	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.28	1.28	0.77	0.18				I−4〜I−5		04.03				569
121	570	剥片	チャート	0.40	1.60	0.85	0.30	排土			J･I−5周辺排土		04.08				570
121	571	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.31	2.21	0.78	0.21		I−5		TR−6		04.02				571
121	572	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.45	2.23	0.61	0.25	不明									572
121	573	剥片	チャート	0.54	1.74	1.11	0.30				検出時		05.14				573
121	574	細石刃関連剥片	チャート	0.61	1.92	0.96	0.32					SX−2	05.14				574
121	575	剥片	チャート	0.50	2.36	1.03	0.21	表採					05.22				575
121	576	剥片	チャート	0.14	1.83	0.48	0.20	表採									576
122	577	細石刃核打面再生剥片	チャート	5.30	1.14	2.75	2.49	Ⅷ−a	F−5	10	TR−3−NSB		09.29				577
122	578	細石刃核打面再生剥片	チャート	0.80	2.01	1.39	0.28	Ⅷ−a			JK−4	No.64	07.24	17.472	30.833	24.836	578
122	579	細石刃核打面再生剥片	チャート	0.90	0.73	1.30	1.13	Ⅶ−SR−B			KL−5	No.69	10.01	11.913	34.349	23.404	579
122	580	細石刃核打面再生剥片	チャート	3.94	2.71	1.83	1.16		F−6	10	水		08.21				580
123	581	細石刃核作業面再生剥片	チャート	3.80	2.66	1.75	0.58	Ⅸ			JK−6	No.194	08.23	12.364	31.980	23.468	581
123	582	細石刃核作業面再生剥片	チャート	3.20	3.17	1.69	0.69	Ⅷ−a			EF−5	No.9	04.23	14.299	11.299	23.838	582
123	583	細石刃核作業面再生剥片	チャート	0.80	1.66	1.58	0.44	Ⅷ−a			EF−5	No.7	04.23	14.998	11.066	23.931	583
123	584	細石刃核作業面再生剥片	チャート	14.40	3.89	3.32	1.50	Ⅷ−a	F−4			No.43	09.23	19.367	12.437	24.791	584
123	585	細石刃核作業面再生剥片	チャート	0.48	1.42	0.89	0.34	Ⅷ−a	F−5	10	TR−3−NSB		09.29				585
123	586	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.20	1.88	1.49	0.61	不明			TR−3		04.02				586
123	587	細石刃核作業面再生剥片	チャート	0.50	1.50	1.10	0.30	Ⅷ−a	J−5	5	J−5　南バンク	No.25	07.30	14.620	28.019	24.289	587
123	588	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.50	1.46	2.11	0.53	Ⅷ			TR−3		04.02				588
123	589	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.60	2.10	1.50	0.65	Ⅷ−a			JK−6		08.21				589
124	590	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.50	1.75	1.66	0.53	Ⅶ	G−4	9〜12	東西トレンチ一括		05.16				590
124	591	細石刃核作業面再生剥片	チャート	3.40	2.31	1.70	0.88	Ⅶサイカ			GH−5	No.18	08.21	12.618	17.417	23.833	591
124	592	細石刃核作業面再生剥片	安山岩	1.40	1.70	1.35	0.60	Ⅷ−c	F−5		TR−A	No.108	05.21				592
124	593	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.60	2.00	1.50	0.50	Ⅶ	I−4	13			04.05				593
124	594	細石刃核作業面再生剥片	チャート	2.50	2.10	2.05	0.90	Ⅷ−a			J−6−W	No.10	09.04	9.757	28.775	23.340	594
124	595	細石刃核作業面再生剥片	チャート	4.67	2.71	1.95	1.14	Ⅷ−a	J−6	15			09.05				595
124	596	細石刃核作業面再生剥片	チャート	5.90	2.10	1.10	1.10	Ⅶ			JK−6	No.354	08.30	11.405	31.977	23.547	596
124	597	細石刃核作業面再生剥片	チャート	2.01	1.60	1.90	0.75	Ⅶ−SR−3	K−5	9	JK−5		07.16				597
124	598	細石刃核作業面再生剥片	チャート	0.86	2.41	0.88	0.55	Ⅶ−YR			JK−6	No.559	09.06				598
124	599	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.10	2.01	1.34	0.41	Ⅶ−YR	J−6				09.04				599
124	600	細石刃核作業面再生剥片	チャート	1.70	1.92	1.51	0.51	Ⅴ	G−5		TR−3〜4		04.17				600
124	601	細石刃核作業面再生剥片	チャート	3.20	2.20	2.74	0.95	②	J−7			No.192	06.27	4.102	30.333	22.899	601
124	602	細石刃核作業面再生剥片	チャート	7.40	2.10	2.18	1.78	G−①②			G−7･8		09.24				602
125	603	剥片	チャート	8.40	4.12	2.05	1.18	Ⅷ−b			JK−5	No.1045	09.05	13.308	32.817	23.747	603
125	604	剥片	チャート	4.50	2.19	2.88	0.95	Ⅷ−a			JK−5	No.1034	09.04	14.143	32.907	23.917	604
125	605	剥片	チャート	6.80	2.90	1.82	1.19	Ⅶサイカ	G−5	5			08.20				605

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑫

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
125	606	剥片	チャート	11.90	4.41	2.58	1.30	Ⅶ	J−4	16	ブロック4	No.9	05.31				606
125	607	剥片	チャート	7.10	3.07	2.51	0.86	Ⅶサイカ			JK−6	No.114	08.08	12.465	32.846	23.716	607
125	608	剥片	チャート	0.70	2.69	0.75	0.43	Ⅶ	K−3		TR−12　西バンク		07.31				608
125	609	剥片	チャート	3.10	4.39	1.42	0.97	⑤	I−8	4	1−8バンク		07.31				609
126	610	細石刃核	チャート	11.88	2.68	1.81	1.58	X	F−4			No.413	10.04	16.631	14.005	24.015	610
126	611	細石刃核	チャート	13.50	3.51	2.48	1.80	X			EF−5	No.496	05.24	13.526	10.875	23.177	611
126	612	細石刃核	チャート	34.0	3.08	2.80	3.45	X	E−6		ZT	No.117	06.25	12.200	10.805	22.943	612
126	613	細石刃核	チャート	4.38	1.43	1.66	2.04	Ⅸ			EF−5・TR−A	No.193	05.07	15.029	10.800	23.712	613
126	614	細石刃核	チャート	21.85	2.30	2.85	2.26	Ⅸ	E−5			No.40	05.14	16.404	11.937	23.980	614
126	615	細石刃核	頁岩	4.46	0.71	1.42	2.60	Ⅸ			TR−3	No.10	09.15	9.391	11.851	22.448	615
126	616	細石刃核	チャート	5.81	1.53	2.08	1.61	X			E−6−N		08.27				616
126	617	細石刃核	チャート	36.40	3.23	3.83	3.82	Ⅸ			TR−3−NSB	No.17	10.04	14.883	9.349	23.457	617
127	618	細石刃核	チャート	13.00	3.14	1.28	2.86	Ⅷ−c	F−5		TR−A	No.96	05.21	15.698	12.315	23.901	618
127	619	細石刃核	チャート	10.31	2.44	1.66	2.10	Ⅷ−b			E−6−S	No.137	09.20	9.464	9.679	22.608	619
127	620	細石刃核	チャート	7.44	1.88	1.77	2.32	Ⅷ−b			EF−6・7	No.202	10.04	7.068	9.703	21.577	620
127	621	細石刃核	チャート	14.94	2.53	2.38	2.04	Ⅷ−b			EF−6・7	No.104	10.04	8.597	10.523	22.324	621
127	622	細石刃核	チャート	16.53	3.23	2.08	2.03	Ⅷ−b			EF−6・7		10.05				622
127	623	細石刃核	チャート	12.20	2.90	2.61	1.89	Ⅷ−b			E−6−S	No.161	09.29	9.697	10.436	22.671	623
127	624	細石刃核	チャート	3.66	2.05	1.46	1.85	Ⅷ−b			TR−3−NSB	No.377	09.29	18.032	13.981	24.310	624
127	625	細石刃核	チャート	28.04	3.10	3.25	2.68	Ⅷ−b	F−5			No.80		15.756	12.983	23.997	625
127	626	細石刃核	チャート	4.32	1.09	1.93	1.90	Ⅷ−b			EF−5・TR−A　南バンク	No.48	09.11	15.343	12.379	23.992	626
127	627	細石刃核	チャート	6.41	1.96	1.55	1.70	Ⅷ−b			TR−3−NSB	No.539	10.01	13.487	13.271	23.573	627
127	628	細石刃核	チャート	2.84	1.08	1.53	1.21	Ⅷ−b			TR−3−NSB	No.380	09.27	18.021	14.258	24.344	628
127	629	細石刃核	チャート	1.80	0.83	0.60	2.51	Ⅷ−b			E−6−S	No.61	09.17	9.654	9.846	22.646	629
128	630	細石刃核	チャート	7.09	1.30	1.66	1.42	Ⅷ−b			EF−6・7	No.2	10.03	9.483	11.266	22.637	630
128	631	細石刃核	チャート	4.40	1.35	1.41	2.26	Ⅷ−b			EF−6・7	No.102	10.04	9.118	11.485	22.443	631
128	632	細石刃核（あるいは偽石器）	チャート	14.40	2.46	1.72	2.10	Ⅷ−b			JK−4	No.201	09.18	17.252	33.449	24.458	632
128	633	細石刃核	チャート	8.13	3.35	1.68	1.66	Ⅷ−a			TR−12　東バンク	No.23	10.02	17.085	34.182	24.593	633
128	634	細石刃核	チャート（珪質頁岩）	12.11	3.48	2.43	1.81	Ⅷ			TR−3−②		04.02				634
128	635	細石刃核	チャート	11.90	2.74	1.90	2.13	Ⅷ−a	F−5	7	TR−A　南バンク	No.6	07.08	14.998	14.795	24.100	635
128	636	細石刃核	チャート	2.04	0.73	0.95	1.82	Ⅷ−a	F−4	12			08.21				636
128	637	細石刃核	チャート	3.33	0.89	1.29	1.88	Ⅷ−a			EF−5	No.49	04.25	15.002	12.758	24.012	637
128	638	細石刃核	チャート	5.47	1.55	1.78	2.34	Ⅷ−a	E−5		TR−A	No.22					638
128	639	細石刃核	チャート	7.41	1.28	1.74	2.00	Ⅷ−b			TR−3−N	No.27		16.848	14.924	24.219	639
128	640	細石刃核	チャート	11.76	1.80	3.14	2.46	Ⅷ−a			EF−5	No.14	04.24	13.978	12.750	23.814	640
128	641	細石刃核	チャート	4.02	1.54	1.88	1.66	Ⅷ−a〜Ⅷ−b			TR−B　一括		06.03				641
129	642	細石刃核	チャート	20.63	1.63	2.13	2.96	Ⅷ−b	F−5		TR−A　南バンク	No.36	07.09	14.755	14.804	24.029	642
129	643	細石刃核	チャート	19.03	2.56	1.91	2.25	Ⅷ−a	E−5		TR−A	No.29	05.10	16.190	11.799	24.072	643
129	644	細石刃核	チャート	18.85	2.34	1.88	2.50	Ⅷ−a			EF−5	No.13	04.24	14.589	12.503	23.932	644
129	645	細石刃核	チャート	4.24	0.98	1.27	2.13	Ⅷ−a			TR−3　南端東バンク		08.06				645
129	646	細石刃核	チャート	4.10	0.85	1.87	2.47	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.42	09.27	17.749	14.643	24.462	646
129	647	細石刃核	チャート	31.36	3.92	2.33	3.25	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.427	09.29	10.257	11.412	22.806	647
129	648	細石刃核	チャート	3.18	1.08	1.48	2.25	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.377	09.27	18.032	13.981	24.310	648
129	649	細石刃核	チャート	3.30	0.92	1.45	2.14	Ⅷ−a			E−6−S	No.128	09.20	7.917	10.380	22.365	649
129	650	細石刃核	チャート	2.97	1.12	1.19	1.92	Ⅷ−a（埋土）			TR−3−NSB　ピット3	No.1	10.02	11.090	12.030	22.843	650
129	651	細石刃核	チャート	4.00	0.73	1.25	2.08	Ⅷ−a			TR−3−S		04.22				651
130	652	細石刃核	チャート	6.40	2.38	1.65	2.16	Ⅷ	F−7	5・9			09.29				652
130	653	細石刃核	チャート	4.66	0.91	1.97	1.89	Ⅷ−a			JK−5	No.50	07.18				653
130	654	細石刃核転用掻器	チャート	2.17	0.76	0.56	1.78	Ⅷ−a			JK−6　北バンク	No.38	09.27	12.925	30.837	23.817	654
130	655	細石刃核	チャート	29.29	3.78	2.54	2.09	Ⅷ−a			F−6・7	No.176	09.03	7.908	15.038	22.574	655
130	656	細石刃核	チャート	3.97	1.58	1.27	2.12	Ⅷ−a			TR−12　東バンク	No.11	09.29	14.686	34.202	24.109	656
130	657	細石刃核	チャート	10.26	3.05	1.30	2.22	Ⅷ−a			TR−11		05.20				657
130	658	細石刃核	頁岩	9.69	2.30	1.76	1.76	Ⅷ−a			JK−5	No.25		14.395	33.064	24.133	658
130	659	細石刃核	チャート	6.93	1.38	1.22	1.78	Ⅷ−a			JK−5	No.1014	09.04	13.282	30.551	23.817	659
130	660	細石刃核	チャート	8.69	0.97	2.29	2.72	Ⅷ−a	J−6	15							660

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑬

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
131	661	細石刃核	チャート	11.48	2.17	1.35	2.34	Ⅶ	F－4			No.42	09.23	18.613	11.795	24.506	661
131	662	細石刃核	チャート	8.25	1.66	2.09	1.59	Ⅶ	F－5	7			07.04				662
131	663	細石刃核	チャート	5.60	1.46	1.07	2.41	Ⅶ－2	G－5	2			08.19				663
131	664	細石刃核	チャート	3.05	1.95	1.26	1.41	Ⅶ			F－6・7	No.562	09.15	7.708	13.379	22.413	664
131	665	細石刃核	チャート	5.50	1.72	2.25	1.55	Ⅶ－R	F－4	12			08.02				665
131	666	細石刃核	チャート	7.01	2.00	2.18	1.54	Ⅶ	E－6		E－6－S	No.9	08.30	9.657	11.030	23.087	666
131	667	細石刃核	チャート	8.48	2.16	1.53	2.27	Ⅶ			F－6・7	No.567	09.15	7.516	12.870	22.315	667
131	668	細石刃核	チャート	21.24	2.38	2.36	2.47	Ⅶ	F－6		ZT		06.06				668
131	669	細石刃核	チャート	16.51	1.02	1.99	2.99	Ⅶ	E－6		E－6－S	No.152	09.29	7.688	9.897	22.379	669
131	670	細石刃核	チャート	11.00	1.11	1.33	2.65	Ⅶ－2	I－5	1		No.22	04.08	15.799	24.205	24.760	670
132	671	細石刃核	チャート	1.14	0.65	1.09	1.44	Ⅶ－YR			JK－6	No.408	08.30				671
132	672	細石刃核	チャート	4.38	1.86	1.35	1.63	Ⅶ			KL－5		09.29				672
132	673	細石刃核	頁岩	2.00	1.39	1.15	1.37	Ⅶ－YR			JK－6		09.02				673
132	674	細石刃核	頁岩	3.93	0.90	1.45	2.20	Ⅶ－SR－3			JK－5		08.06				674
132	675	細石刃核	チャート	2.25	0.65	1.23	2.19	Ⅶ－2			JK－5	No.132	07.24	13.250	30.433	24.102	675
132	676	細石刃核	チャート	1.09	0.84	0.84	1.46	Ⅶ－SR－3	K－5	9	JK－5		07.16				676
132	677	細石刃核	チャート	5.00	1.11	1.04	1.78	Ⅶ－SR－3			JK－5	No.5	07.16	13.923	32.657	24.079	677
132	678	細石刃核関連剥片	チャート	2.02	0.91	1.21	2.00	Ⅶサイカ			KL－5	No.102	10.01	13.960	36.154	23.822	678
132	679	細石刃核	チャート	8.04	1.43	1.53	1.81	Ⅶ			ユニット1	No.161	05.16	16.081	23.188	25.006	679
132	680	細石刃核	チャート	6.60	2.32	1.28	1.35	Ⅶ－2	J－5	10		No.10	07.18				680
132	681	細石刃核	チャート	4.98	1.96	1.37	2.07	Ⅶ	K－4	6			05.17				681
132	682	細石刃核	チャート	3.94	2.36	1.18	1.40	Ⅶ－SR－3			JK－6・7		08.02				682
132	683	細石刃核	チャート	8.50	2.54	1.66	2.00	Ⅶ	J－5	11			07.10				683
132	684	細石刃核	チャート	4.81	2.21	1.60	1.37	Ⅶ－SR－3	K－6	1			07.30				684
133	685	細石刃核	チャート	10.30	2.06	1.53	2.07	Ⅶ			ブロック3	No.26	06.07	14.582	31.968	24.381	685
133	686	細石刃核	チャート	5.50	1.73	1.53	1.31	Ⅶ	J－5	8	ブロック3		05.28				686
133	687	細石刃核	チャート	8.19	2.04	2.38	1.85	Ⅶ	J－4	15	ブロック4		05.28				687
133	688	細石刃核	チャート	7.03	1.37	1.56	2.22	Ⅶ－YR			JK－6	No.577	09.06	9.328	31.627	23.165	688
133	689	細石刃核	チャート	10.36	2.05	1.17	2.29	Ⅶ	J－2				05.24				689
133	690	細石刃核	チャート	13.98	2.65	2.24	2.24	Ⅶ			TR－11　北バンク		09.28				690
134	691	細石刃核	チャート	4.00	1.46	0.87	2.02	Ⅴ	F－7	3			08.19				691
134	692	細石刃核	チャート	10.20	1.86	1.10	2.67	Ⅴ	G－4	16			06.07				692
134	693	細石刃核	チャート	6.00	2.30	0.38	1.70	遺構埋土	I－5		SD401排土中						693
134	694	細石刃核	チャート	8.20	2.16	1.76	1.49	不明			前庭部検出時（1号岩陰）	No.13	04.04	14.728	7.864	23.403	694
134	695	細石刃核	チャート	19.80	3.89	1.85	2.50	不明	F－5				09.03				695
134	696	細石刃核	チャート	11.94	3.22	1.99	1.45	不明	J－6~7				05.14				696
134	697	細石刃核	チャート	11.75	2.71	1.59	2.55	不明	不明		不明		08.09				697
135	698	細石刃核あるいは他の石核	チャート	29.40	3.87	3.15	1.65	Ⅷ－b	G－7			No.33	10.06				698
135	699	細石刃核あるいは他の石核	チャート	8.70	2.24	1.82	1.65	Ⅷ－b	E－6		ZT	No.6	06.11	12.803	10.629	23.265	699
135	700	細石刃核あるいは偽石器	チャート	19.78	2.58	2.57	2.60	Ⅷ－b			TR－3－S	No.35	05.07	14.297	13.786	23.727	700
135	701	細石刃核あるいは他の石核	チャート	4.34	1.99	1.36	2.03	不明			TR－4　南側下		04.02				701
135	702	細石刃核あるいは他の石核	チャート	16.19	2.92	2.33	1.85	Ⅷ－b	E－5	4	TR－A　南バンク		09.12				702
135	703	細石刃核あるいは他の石核	チャート	9.91	2.39	2.69	1.97	Ⅷ－b	E－6		ZT	No.95	06.18	10.338	10.235	22.835	703
135	704	細石刃核あるいは他の石核	チャート	12.50	2.54	2.81	1.94	Ⅷ－a			TR－3－NSB	No.496	10.01	13.635	13.310	23.655	704
135	705	細石刃核あるいは他の石核	チャート	15.28	2.55	2.41	2.02	Ⅷ－a	J－4	13			09.20				705
135	706	細石刃核あるいは他の石核	チャート	18.17	3.93	2.32	2.02	Ⅷ－a			TR－3－NSB	No.55	09.27	17.628	13.821	24.326	706
135	707	細石刃核あるいは他の石核	チャート	7.42	1.67	1.18	1.51	Ⅷ－a			TR－3－NSB	No.103	09.28	15.590	13.913	24.077	707
136	708	細石刃核あるいは他の石核	チャート	12.36	2.05	2.57	2.72	Ⅶ	G－4	9~12			05.16				708
136	709	細石刃核あるいは他の石核	チャート	10.00	2.58	2.40	1.56	Ⅶ	F－6		ZT		06.07				709
136	710	細石刃核あるいは他の石核	チャート	8.69	2.01	2.05	1.62	Ⅶ－YR			TR－12　西バンク	No.18	09.27	12.946	33.138	23.769	710
136	711	細石刃核あるいは他の石核	チャート	14.50	3.45	2.42	1.45	Ⅶ－SR－3			JK－6	No.95	08.02	11.855	30.978	23.818	711
136	712	細石刃核あるいは他の石核	チャート	7.50	1.16	1.13	1.60	Ⅶ－SR－3			JK－5		07.29				712
136	713	細石刃核あるいは他の石核	チャート	5.10	2.00	1.44	1.13	Ⅶ－SR－3			JK－6		08.02				713
136	714	細石刃核あるいは他の石核	チャート	6.41	1.96	1.55	1.77	Ⅶ－YR－N			JK－6	No.560	09.06	10.924	32.629	23.477	714
136	715	細石刃核あるいは他の石核	チャート	8.42	1.73	1.43	1.70	Ⅶ			E－6－S	No.151	09.29	7.738	9.962	22.431	715

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑭

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
136	716	細石刃核あるいは他の石核	チャート	16.70	2.78	1.99	2.91	不明	G−6	5	ZT		06.05				716
136	717	細石刃核あるいは他の石核	チャート	5.70	1.87	1.20	2.02	Ⅶ			ブロック4	No.7	05.27	19.626	30.977	25.186	717
136	718	細石刃核あるいは他の石核	チャート	14.60	2.89	2.27	1.68	不明									718
136	719	細石刃核あるいは他の石核	チャート	11.35	2.35	2.05	1.58	Ⅶ	J−4	15	ブロック4		05.28				719
142	720	細石刃核ブランク	チャート	16.15	3.05	1.65	2.49	Ⅸ			TR−3	No.12	09.15	9.323	11.820	22.433	720
142	721	細石刃核ブランク	頁岩	12.14	3.00	2.40	2.11	Ⅷ−b			E−6−S	No.62	09.17	9.566	9.903	22.743	721
142	722	細石刃核ブランク	チャート	6.30	2.05	1.35	1.87	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.64	09.27	18.557	14.324	24.589	722
142	723	細石刃核ブランク	チャート	13.91	3.24	2.75	1.95	Ⅷ−b	E−7	2			10.06				723
142	724	細石刃核ブランク	チャート	22.44	3.82	2.23	1.85	Ⅷ−a			TR−3−S	No.4	04.22	14.152	14.089	23.913	724
142	725	細石刃核ブランク	チャート	23.0	3.29	2.72	2.72	Ⅷ−a			EF−5	No.108	04.05	14.350	12.184	23.682	725
142	726	細石刃核ブランク	チャート	23.22	4.07	1.98	1.95	Ⅷ−a			J−5　南バンク	No.55	09.14	18.161	29.839	24.210	726
142	727	細石刃核ブランク	チャート	18.06	2.23	1.54	3.12	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.634	10.03	7.718	10.562	22.291	727
142	728	細石刃核ブランク	チャート	7.47	1.30	1.76	2.10	Ⅷ−a			JK−6	No.141	08.21	12.511	30.844	23.843	728
143	729	細石刃核ブランク	チャート	20.19	3.49	2.27	2.53	Ⅷ−a	E−7			No.3	09.28				729
143	730	細石刃核ブランク	チャート	55.36	3.70	3.68	2.81	Ⅷ−a			GH−5	No.223	08.29	15.268	17.813	24.413	730
143	731	細石刃核ブランク	チャート	37.6	4.72	2.54	2.79	Ⅷ−a			F−6・7　トレンチ		09.11				731
143	732	細石刃核ブランク	チャート	20.69	2.52	2.31	2.50	Ⅷ−a			JK−5	No.84	07.18				732
143	733	細石刃核ブランク	チャート	17.44	4.13	2.31	1.77	Ⅶサイカ			GH−5	No.76	08.21	14.716	16.322	24.202	733
143	734	細石刃核ブランク	チャート	17.80	2.73	2.25	1.75	Ⅶ（SS−1）	F−6		ZT		06.07				734
143	735	細石刃核ブランク	チャート	15.78	2.34	3.28	2.11	Ⅶ			F−6・7	No.581	09.15	7.626	12.397	22.369	735
143	736	細石刃核ブランク	チャート	18.7	3.43	2.21	2.44	Ⅶ−2			F−6・7	No.90	08.28	8.904	15.405		736
143	737	細石刃核ブランク	チャート	9.40	3.00	1.48	2.25	Ⅶ	F−4			No.2	05.07	20.600	11.859	25.391	737
143	738	細石刃核ブランク	チャート	2.09	1.84	0.96	1.35	Ⅶサイカ	F−5	16			08.20				738
144	739	細石刃核ブランク	チャート	7.89	2.24	1.50	2.07	Ⅶ	I−5	4			04.05				739
144	740	細石刃核ブランク	チャート	14.47	3.32	1.88	2.27	Ⅶ	I−4		周辺一括		04.11				740
144	741	細石刃核ブランク	チャート	18.30	3.81	2.11	2.12	Ⅶ			ユニット1	No.68	05.10	11.432	17.814	24.693	741
144	742	細石刃核ブランク	チャート	11.84	2.39	2.15	2.49	Ⅶ−SR−B			KL−5	No.83	10.01	12.893	34.973	23.665	742
144	743	細石刃核ブランク	チャート	20.31	3.95	2.81	1.78	Ⅶ−R	G−5	2			08.19				743
144	744	細石刃核ブランク	チャート	28.30	3.92	2.79	2.19	Ⅶサイカ			J−6バンクNS2	No.64	09.18	11.909	30.280	23.722	744
144	745	細石刃核ブランク	チャート	9.42	3.47	1.67	1.77	Ⅶ			KL−5	No.30	09.25	14.389	35.719	24.169	745
144	746	細石刃核ブランク	チャート	8.90	3.45	1.95	1.50	Ⅶ			JK−6	No.349	08.30	11.956	31.672	23.616	746
145	747	細石刃核ブランク	チャート	11.01	2.59	1.27	2.60	Ⅶ−SR	K−5	16	JK−5南・SWB		09.26				747
145	748	細石刃核ブランク	チャート	20.91	2.695	2.03	3.03	Ⅶ−YR−N			JK−6	No.557	09.06	11.175	32.521	23.465	748
145	749	細石刃核ブランク	チャート	20.12	3.48	2.14	1.87	Ⅶ−SR−3			JK−5	No.7	07.16	14.198	32.537	24.162	749
145	750	細石刃核ブランク	チャート	6.20	2.43	1.29	2.26	Ⅴ	F−7	3			08.19				750
145	751	細石刃核ブランク	チャート	5.40	2.00	1.65	1.55	Ⅴ			K−3〜5・L−3〜5		05.21				751
145	752	細石刃核ブランク	チャート	3.40	2.15	1.33	1.27	Ⅴ	K−3		TR−12　NSB		09.26				752
145	753	細石刃核ブランク	チャート	10.13	2.57	1.83	1.62	Ⅳ	F−7	1			08.16				753
145	754	細石刃核ブランク	チャート	35.68	3.77	2.86	2.73	検出時	G−6	5	ZT		06.05				754
145	755	細石刃核ブランク	チャート	10.00	3.38	1.85	1.70		G−6		ZT（G−6）サブトレ	No.1	06.05	9.525	15.947	23.067	755
146	756	細石刃核ブランク	チャート	22.29	4.29	1.76	2.34	②	J−7			No.509	07.11	7.543	28.877	23.111	756
146	757	細石刃核ブランク	チャート	15.28	2.79	2.09	2.18				TR−12　西バンク		09.27				757
146	758	細石刃核ブランク	チャート	23.40	3.20	3.05	2.20	表採									758
147	759	石核	チャート	12.83	2.18	2.20	2.42	Ⅹ			FG−5	No.133	05.24	15.214	14.608	23.980	759
147	760	石核（細石刃核）	チャート	17.30	1.92	2.82	2.30	Ⅷ−b			TR−3	No.3	04.23	13.537	13.516	23.669	760
147	761	細石刃核	チャート	27.10	2.42	2.89	2.59	Ⅷ−a			TR−3　NSB	No.49	09.27	17.225	13.997	24.261	761
147	762	細石刃核	チャート	5.79	1.57	2.00	1.40	Ⅷ−a	J−5		南北バンク	No.178	09.20	14.367	29.725	24.030	762
147	763	石核	チャート	18.00	3.43	2.91	2.46	Ⅶ			G−4	No.12					763
147	764	石核	チャート	13.69	1.96	2.75	1.89	Ⅶ−1	J−5	10	南北バンク		09.11				764
147	765	石核	チャート	20.91	2.27	2.39	2.39	不明	F−7		電柱周辺		09.25				765
148	766	石核	チャート	13.84	1.72	1.82	2.45	Ⅶ−SR−3			JK−6	No.18	07.26	12.498	30.648	23.970	766
148	767	細石刃核	チャート	9.66	2.08	2.34	2.11	不明	G−4				04.11				767
149	768	石核	チャート	13.00	1.14	2.18	4.29	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.409	09.29	11.578	11.918	23.075	768
149	769	石核	チャート	9.20	1.24	1.85	3.08	Ⅷ−a			TR−3−NSB	No.409	09.29	11.578	11.918	23.075	769
149	770	石核	チャート	27.13	3.37	2.56	3.38	Ⅷ−a	E−6			No.13	06.11	11.604	10.630	23.110	770

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑮

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
149	771	石核	チャート	16.46	2.14	2.98	2.19	Ⅷ—a	F—6		ZT	No.76	06.12	9.598	14.000	22.753	771
149	772	石核	チャート	24.04	3.78	3.25	3.08	Ⅷ—a	K—5				08.07				772
149	773	石核	チャート	14.25	2.40	2.05	2.50	Ⅶ	F—5	7			07.04				773
149	774	石核	チャート	32.40	3.96	3.06	2.21	Ⅷ—a			EF—5・TR—A　南バンク	No.8	09.10	15.555	12.500	24.060	774
149	775	石核	チャート	18.54	2.54	1.45	2.90	Ⅷ—a			GH—5	No.217	08.29	17.226	16.775	24.675	775
150	776	石核	頁岩	30.97	2.13	3.47	3.44	Ⅷ—a			EF—6・7		10.06				776
150	777	石核	チャート	37.30	4.10	2.70	3.55	Ⅷ—a	E—7	2			10.01				777
150	778	石核	チャート	12.32	1.90	1.93	2.53	Ⅶ	H—5		TR—5　東バンク						778
150	779	石核	チャート	24.86	2.23	2.84	3.61	Ⅶ			ZT		06.07				779
150	780	石核	チャート	16.61	1.82	2.10	3.03	Ⅶ～Ⅷ			岩陰2　SW—2		09.29				780
150	781	石核	チャート	18.22	1.15	1.99	2.98	Ⅶ—2	I—4	16		No.11	04.05	16.399	27.505	24.806	781
150	782	石核	チャート	25.80	3.26	1.96	3.02	Ⅷ—a（SS—2）	F—6	6	ZT	No.28	06.10	10.162	13.340	22.988	782
151	783	石核	チャート	14.66	2.77	1.44	2.75	Ⅶ—YR	J—6				09.04				783
151	784	石核	チャート	18.51	2.66	2.04	3.83	Ⅶ	H—5		TR—5　東バンク						784
151	785	石核	チャート	14.69	2.48	1.36	2.67	Ⅶ—YR			JK—6	No.529	09.06	10.139	31.504	23.232	785
151	786	石核	チャート	14.50	2.85	2.37	2.70	Ⅶ—SR—2・3	K—6				08.27				786
151	787	石核	チャート	17.30	2.00	2.87	2.65	②	J—7			No.554	07.11	6.640	28.688	22.960	787
151	788	石核	チャート	28.85	3.87	1.97	3.02	排土	J—7				07.11				788
153	789	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.54	1.53	1.21	0.24	Ⅸ	F—4			No.167	10.01	18.744	14.742	24.621	789
153	790	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.30	2.46	1.57	0.41	Ⅷ—b			EF—5	No.218	05.07	14.396	11.922	23.713	790
153	791	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	2.60	2.75	1.77	0.63	Ⅷ—b			EF—6・7	No.145	10.04	8.959	12.942	22.507	791
153	792	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.72	1.94	1.25	0.28	Ⅷ—b	E—6		ZT	No.52	06.12	11.999	10.564	23.058	792
153	793	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.88	2.69	1.17	0.27	Ⅷ—b			EF—6・7	No.181	10.04	8.504	13.106	22.462	793
153	794	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.73	1.51	1.14	0.39	Ⅷ—b			F—6・7	No.743	09.17	8.913	14.042	22.617	794
153	795	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.63	1.42	1.03	0.31	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.619	10.02	10.265	11.376	22.751	795
153	796	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	0.90	2.65	1.20	0.33	Ⅷ—b			F—6・7	No.716	09.17	7.721	12.894	22.315	796
153	797	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.23	2.15	1.25	0.50	Ⅷ—b			F—6・7	No.1005	10.01	8.141	13.497	22.460	797
153	798	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.22	2.67	1.18	0.41	Ⅷ—b			F—6・7	No.1002	10.01	8.065	13.845	22.475	798
153	799	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.37	3.00	1.52	0.32	Ⅷ—b			TR—3—NSB		10.01				799
153	800	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.20	2.35	1.38	0.68	Ⅷ—a			TR—3—NSB	No.476	10.01	12.149	12.424	23.265	800
153	801	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.19	0.94	1.21	0.18	Ⅷ—a	J—5		J—5　南北バンク	No.111	09.15	18.032	29.968	23.921	801
153	802	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.00	2.22	1.49	0.31	Ⅷ—a	F—5	8			07.08				802
153	803	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.70	2.73	1.17	0.58	Ⅷ			F—6・7　東バンク		09.29				803
153	804	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.17	2.70	1.39	0.19	Ⅷ	F—7	5・9			09.29				804
153	805	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.17	2.58	1.43	0.27	Ⅷ—a	E—6		E—6—S	No.170	09.29	8.831	8.710	22.552	805
153	806	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.87	1.83	1.35	0.51	Ⅷ—a	J—14	13		No.54	09.22				806
153	807	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.75	2.12	1.09	0.35	Ⅶ—R	F—4	12			08.19				807
153	808	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.50	2.89	1.68	0.42	Ⅶサイカ	F—4	16			08.20				808
153	809	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.79	2.07	1.21	0.23	Ⅶ			F—6・7	No.514	09.14	7.785	13.265	22.450	809
153	810	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.58	1.28	1.33	0.32	Ⅶ	G-5		南北バンク上　一括		06.10				810
153	811	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.48	2.65	1.38	0.30	Ⅶサイカ	F—5	6			08.20				811
154	812	剥片（背腹同一方向）	チャート	2.63	3.40	1.66	0.52	Ⅵ	F—7			No.74	09.28	3.556	15.036	22.089	812
154	813	剥片（背腹同一方向）	チャート	2.50	2.85	2.00	0.58		F—6		ZT（F—6）検出時一括		06.05				813
154	814	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.35	2.79	1.10	0.39		F—4		F—4　東西バンク		09.04				814
154	815	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.10	1.88	1.62	0.39	Ⅷ—a			JK—5	No.79	07.18				815
154	816	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.60	2.03	1.32	0.33	Ⅷ—a	F—7	2			09.02				816
154	817	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.80	2.29	1.61	0.66	Ⅷ—a			FG—5	No.24	05.14	15.252	15.998	24.243	817
154	818	剥片（背腹同一方向）	チャート	6.00	3.49	2.11	1.27	Ⅷ			岩陰2　SW—1	No.12	09.29	10.600	32.639	23.292	818
154	819	剥片（背腹同一方向）	チャート	3.40	3.48	2.00	0.66	Ⅷ			ブロック1	No.37	05.27	21.760	35.306	25.897	819
154	820	剥片（背腹同一方向）	チャート	2.60	3.30	1.80	0.60	Ⅷ—a			JK—4	No.118	07.31	16.494	32.823	24.455	820
154	821	剥片（背腹同一方向）	チャート	2.40	3.40	1.65	0.50	Ⅷ—a	J—5	16			08.05				821
154	822	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.00	2.16	1.48	0.26	Ⅷ—a	J—4	13	一括		09.20				822
154	823	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.30	2.69	1.59	0.47	Ⅷ—a	J—6		NS—2	No.149—2	09.20	11.810	30.573	23.677	823
154	824	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.30	1.43	1.70	0.55	Ⅷ—a			TR—11　北バンク	No.77	09.29	16.478	32.583	24.397	824
154	825	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.79	3.77	1.05	0.36	Ⅷ—a	I—5	4			04.17				825

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑯

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 (グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
154	826	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.10	1.93	1.20	0.49	Ⅷ—a	I—4	16			04.11				826
154	827	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.42	2.35	1.61	0.28	Ⅷ—a			TR—11	No.35	05.20	15.637	32.147	24.336	827
155	828	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.75	2.02	1.35	0.34	G—④	G—7		G—7—S		09.28				828
155	829	剥片（背腹同一方向）	チャート	2.58	3.30	1.58	0.62	Ⅶ—1			K—5・6	No.2	07.22	12.443	32.645	24.226	829
155	830	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.63	3.41	1.07	0.43	Ⅶ	K—3	13							830
155	831	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	2.50	2.83	2.26	0.48	Ⅶ—SR—B			KL—5	No.158	10.02	14.171	36.353	23.754	831
155	832	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.03	2.11	1.09	0.37	Ⅶ—SR—3			JK—5	No.252	07.26	13.738	32.204	24.104	832
155	833	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.56	2.90	1.49	0.46	Ⅶ—YR			JK—6	No.422	08.30	9.432	31.208	23.389	833
155	834	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.29	1.03	1.15	0.21	②	J—7			No.214	06.27	5.553	30.417	22.985	834
155	835	剥片（背腹同一方向）	チャート	4.00	3.22	1.76	0.52	③	I—7	16	NS—1		09.11				835
155	836	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.90	2.62	1.60	0.65	③	J—7	5	NS—1		09.10				836
155	837	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.82	2.46	1.03	0.32	G—③	G—7		G—7—S		09.27				837
155	838	剥片（背腹同一方向）	チャート	1.05	3.09	4.00	0.34	KS—1	G—7			No.64	09.26	3.493	17.321	22.536	838
155	839	使用痕のある剥片（背腹同一方向）	チャート	1.71	2.19	1.63	0.57	表採									839
155	840	剥片（背腹同一方向）	チャート	0.39	1.44	1.13	0.27	表採									840
155	841	剥片（背腹同一方向）	安山岩?	0.31	1.12	0.99	0.27	表採									841
156	842	剥片	チャート	0.70	0.91	2.03	0.31	Ⅻ	E—6		ZT	No.214	07.23	12.347	10.794	22.752	842
156	843	2次加工のある剥片	チャート	6.20	2.57	2.97	0.78	X			EF—5	No.311	05.14	14.375	12.244	23.711	843
156	844	2次加工のある剥片	チャート	0.70	1.83	1.38	0.61	X			FG—5	No.135	05.24	15.049	15.046	23.944	844
156	845	2次加工のある剥片	チャート	1.80	2.80	1.57	0.57	X			EF—5	No.494	05.21	13.673	10.929	23.235	845
156	846	削器	チャート	18.00	3.78	4.02	1.79	X			EF—5	No.397	05.14	14.052	11.539	23.484	846
156	847	使用痕のある剥片	泥岩	4.70	3.02	1.73	0.82	X			TR—3　西バンク	No.2	10.02				847
156	848	2次加工のある剥片	チャート	0.90	2.30	0.98	0.56	X			EF—5	No.434	05.21	14.482	11.721	23.624	848
156	849	削器	チャート	0.70	1.91	1.07	0.44	X	F—4			No.371	10.03	17.311	12.109	23.894	849
156	850	掻器	チャート	21.90	4.17	3.15	1.62	Ⅸ			TR—2—NSB	No.3		15.228	9.673	23.642	850
156	851	使用痕のある剥片	石英	13.80	3.28	3.64	1.28	Ⅸ	F—4			No.162	10.01	17.578	13.087	24.092	851
156	852	掻器	頁岩	7.20	2.25	2.90	1.08	Ⅸ			TR—A	No.7		15.972	11.622	23.926	852
156	853	使用痕のある剥片	チャート	15.40	4.47	2.38	1.54	Ⅸ	F—4			No.192	10.02	17.676	12.133	24.057	853
157	854	掻器	チャート	5.10	2.15	2.60	0.90	Ⅸ			F—4	No.326	10.03	17.118	14.066	24.107	854
157	855	掻器	チャート	6.20	2.25	2.35	1.27	Ⅸ			EF—5	No.192	04.26	15.101	12.495	23.913	855
157	856	使用痕のある剥片	チャート	2.00	2.17	1.55	0.87	Ⅸ			TR—A	No.3	06.11	15.849	12.201	23.975	856
157	857	使用痕のある剥片	チャート	4.40	2.47	2.05	1.18	Ⅸ	E—5		東サブトレ	No.4	05.07	15.129	8.971	23.355	857
157	858	掻器	チャート	7.70	2.35	3.35	1.40	Ⅸ			EF—5・TR—A	No.192	05.07	14.780	11.070	23.767	858
157	859	石錐（ドリル）	チャート	4.50	2.70	2.10	0.80	Ⅸ			KL—5	No.148	10.02	13.517	34.436	23.747	859
157	860	削器?	チャート	7.80	4.05	2.27	0.68	Ⅸ			岩陰2　SW—1	No.18	09.29	10.465	32.767	23.156	860
158	861	掻器	チャート	5.80	3.11	1.84	1.19	Ⅷ—b			EF—5・TR—A	No.223	05.07	14.136	11.604	23.599	861
158	862	削器	チャート	13.80	3.52	3.43	1.32	Ⅷ—b			TR—3—S—東	No.122	05.22	14.081	14.546	23.862	862
158	863	掻器	チャート	4.80	2.40	2.25	0.90	Ⅷ—b			F—6・7	No.503	09.14	8.765	12.478	22.592	863
158	864	削器	チャート	4.30	2.86	2.23	2.80	Ⅷ—b			EF—5	No.244	05.10	15.607	10.756	23.711	864
158	865	抉入掻器	チャート	4.43	2.32	1.61	1.33	X	E—6	4～8			10.06				865
158	866	掻器	チャート	7.20	3.55	3.39	0.79	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.386	09.29	17.551	14.175	24.251	866
158	867	抉入石器	チャート	8.30	2.79	3.36	1.06	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.379	09.29	17.951	14.148	24.313	867
158	868	掻器	チャート	37.10	4.60	3.75	2.40	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.290	09.29	14.640	13.270	23.894	868
158	869	掻器	チャート	13.47	3.74	4.11	1.40	Ⅷ—b	J—5	5		No.3	04.08	14.837	28.715	24.353	869
158	870	抉入掻器	チャート	6.70	2.14	2.77	1.06	Ⅷ—b			EF—6・7	No.38	10.04	8.493	13.595	22.485	870
158	871	掻器	チャート	14.10	2.44	2.81	1.78	Ⅷ—b			EF—5・TR—A	No.216	05.07	14.253	12.802	23.763	871
158	872	掻器	チャート	3.70	3.19	1.93	2.74	Ⅷ—b			TR—A　南バンク	No.35	09.11	15.160	13.041	23.984	872
159	873	掻器	珪質頁岩	37.70	3.11	5.74	2.10	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.563	10.01	9.939	11.778	22.678	873
159	874	剥片	チャート	2.30	2.45	1.60	0.50	Ⅷ—b			GH—5	No.302	09.06	13.449	13.578	24.064	874
159	875	掻器	チャート	16.90	3.45	3.63	1.68	Ⅷ—b			TR—11	No.128	05.21	15.299	37.103	不明	875
159	876	2次加工のある剥片	チャート	0.10	1.18	0.63	0.28	Ⅷ—b			TR—3—NSB		10.01				876
159	877	2次加工のある剥片	チャート	7.80	3.07	2.71	1.10	Ⅷ—b			EF—6・7	No.155	10.04	8.233	12.452	22.385	877
159	878	掻器	チャート	5.00	3.49	1.91	1.25	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.387	09.29	17.631	14.124	24.254	878
159	879	抉入掻器	チャート	9.30	2.76	2.91	1.80	Ⅷ—b			岩陰2 SW—3		09.29				879
159	880	削器	チャート	13.38	3.21	4.26	1.23	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.499	10.01	11.541	12.026	22.999	880

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑰

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
159	881	削器	頁岩	3.40	2.21	3.51	0.74	Ⅷ—b			TR—3—NSB	No.349	09.29	16.860	14.314	24.154	881
159	882	削器	チャート	5.00	2.55	2.25	0.85	Ⅷ—c			JK—6	No.335	08.29	11.650	32.409	23.485	882
159	883	削器	サヌカイト	9.90	4.00	1.91	1.17	Ⅷ—c	F—5		TR—A		05.15				883
159	884	剥片	チャート	0.32	1.77	0.64	0.28	Ⅷ—b			TR—3—S	No.48	05.09				884
159	885	剥片	チャート	3.30	2.70	1.85	0.85	Ⅷ—b			FG—5	No.111	05.21	15.564	16.076	24.156	885
159	886	2次加工のある剥片	チャート	3.34	3.69	2.14	0.33	Ⅷ—b	E—6		E—6—S	No.124	09.20	9.018	10.967	22.479	886
159	887	2次加工のある剥片	チャート	8.20	4.07	2.56	1.10	Ⅷ—b			F—6・7	No.480	09.14	8.674	14.034	22.609	887
160	888	掻器	チャート	9.40	2.48	3.22	0.97	Ⅷ—a			GH—5	No.266		11.597	14.602	23.280	888
160	889	掻器	チャート	11.40	2.70	2.97	1.72	Ⅷ			TR—3—2		04.02				889
160	890	掻器	チャート	6.00	2.90	2.05	0.70	Ⅷ—a			GH—5	No.186	08.29	16.943	15.095	24.384	890
160	891	掻器	チャート	11.10	3.00	2.53	1.56	Ⅷ			TR—3—2	No.138	04.02	13.800	13.890	23.779	891
160	892	掻器	チャート	14.90	3.37	3.15	1.41	Ⅷ—a			TR—3—NSB	No.44	09.27	18.790	14.765	24.744	892
160	893	掻器	チャート	11.10	3.93	3.05	1.19	Ⅷ—a			TR—3—N		04.22				893
160	894	掻器	チャート	3.40	2.93	1.32	0.89	Ⅷ—a			TR—3—S	No.1	04.22	14.121	13.872	23.900	894
160	895	掻器	チャート	4.30	3.01	2.00	0.79	Ⅷ—a			GH—5	No.167	08.23	12.573	14.860	23.664	895
160	896	掻器	チャート	9.50	2.58	2.48	1.57	Ⅷ—a			GH—5	No.121	08.23	15.746	16.519	24.350	896
160	897	掻器	チャート	11.20	2.40	3.05	1.70	Ⅷ—a			TR—3—NSB	No.108	09.28	15.733	13.660	24.041	897
160	898	掻器	チャート	8.00	2.50	3.30	9.80	Ⅷ—a	J—4	13		No.50	09.22	16.771	28.601	24.632	898
161	899	掻器	チャート	10.00	3.82	1.70	1.82	Ⅷ—a	F—5		TR—A	No.19	05.07	16.278	12.225	24.193	899
161	900	掻器	チャート	9.90	3.47	2.21	1.33	Ⅷ	F—7	5・9							900
161	901	掻器	頁岩	1.54	1.93	1.40	0.90	Ⅷ—a	F—7	2	水		09.05				901
161	902	掻器	頁岩	5.21	2.27	3.44	0.84	Ⅷ—a	K—4	12			08.01				902
161	903	掻器	チャート	3.19	2.61	3.20	1.25	Ⅷ—a	J—5	5	J—5　南バンク	No.18	07.30	15.736	27.919	24.508	903
161	904	掻器	チャート	3.20	2.69	1.68	0.64	Ⅷ—a	K—4		K—4—E	No.1	07.15				904
161	905	掻器	チャート	14.80	4.64	2.70	1.29	Ⅷ—a			JK—4	No.123	08.02	18.941	32.874	25.162	905
161	906	掻器	チャート	7.10	1.80	3.05	1.35	Ⅷ—a	J—5	2	TR—11	No.149	05.22	15.150	29.641	24.374	906
161	907	掻器	チャート	7.10	1.85	2.65	2.10	Ⅷ—a			TRN北バンク		09.27				907
161	908	掻器	チャート	7.50	1.95	2.84	1.71	Ⅷ—a	J—5		JK—5—NSWB	No.25	09.25	15.071	31.818	24.152	908
161	909	掻器	チャート	14.82	3.40	2.49	1.48	Ⅷ—a	I—5	4		No.21	04.11	15.103	27.135	24.532	909
162	910	削器	チャート	11.88	3.55	3.60	1.10	Ⅷ—a			EF—5	No.29	04.25	14.819	13.026	24.051	910
162	911	削器	チャート	5.60	2.44	3.22	0.93	Ⅷ—a			GH—5	No.175	08.23	11.581	14.317	23.300	911
162	912	削器	チャート	6.10	3.22	1.97	0.82	Ⅷ—a			TR—3　南端東バンク		08.06				912
162	913	掻器	チャート	4.30	2.33	2.28	0.77	Ⅷ—a	G—4	9～10		No.3	05.28				913
162	914	削器	チャート	1.50	2.44	1.26	0.52	Ⅷ—a	F—5	13	TR—3—NSB　一括		09.29				914
162	915	掻器・削器	チャート	3.10	2.27	2.35	0.58	Ⅷ—a			TR—3—NSB	No.433	10.01	11.834	12.595	23.163	915
162	916	抉入掻器	チャート	8.90	2.40	3.05	1.70	Ⅷ—a			FG—5	No.35	05.17	15.990	14.844	不明	916
162	917	削器	チャート	18.60	3.50	4.60	1.40	Ⅷ—a			TR—3—NSB南端		09.28				917
162	918	削器	チャート	12.60	4.92	2.65	1.36	Ⅷ—a	J—5	10		No.2	07.18				918
162	919	削器	チャート	3.00	2.21	2.80	0.78	Ⅷ—a			TR—3—南東	No.32	05.17	13.911	14.631	23.948	919
163	920	掻器	チャート	29.80	3.27	4.84	2.33	Ⅷ—a	F—6	8	ZT	No.37	06.10	10.057	15.299	22.992	920
163	921	掻器	チャート	3.60	1.73	2.39	1.25	Ⅷ—a	F—6	11	ZT　一括		06.07				921
163	922	削器	チャート	1.90	2.10	2.09	0.48	Ⅷ—a			F—6・7トレンチ　水		09.11				922
163	923	削器	チャート	8.70	3.26	3.84	0.85	Ⅷ	F—7	5・9	RS	No.1	09.29				923
163	924	削器	チャート	40.20	7.30	3.58	1.86	Ⅷ—a			F—6・7	No.2	09.05				924
163	925	2次加工のある剥片	チャート	4.53	3.50	2.40	0.75	Ⅷ—a			TR—11　北バンク	No.183	10.03	16.150	30.989	24.363	925
163	926	削器	チャート	2.20	2.76	1.44	0.52	Ⅷ—a			TR—11　北バンク	No.171	10.03	15.959	33.526	24.352	926
163	927	掻器（細石刃核）	チャート	6.70	2.44	2.00	1.52	Ⅷ—a			TR—12	No.14	09.27	13.737	33.260	23.840	927
163	928	抉入掻器	チャート	5.30	2.65	2.65	0.60	Ⅷ—a	K—5	9			08.08				928
163	929	抉入掻器	チャート	9.10	3.20	2.60	0.85	Ⅷ—a	K—5	9		No.27	07.17	13.425	33.179	23.973	929
163	930	掻器	チャート	3.60	1.73	2.39	1.25	Ⅷ—a			TR—11　北バンク	No.215	10.03	16.182	34.079	24.393	930
164	931	抉入掻器	チャート	1.60	2.21	1.35	0.67	Ⅷ—a	F—5		TR—A	No.18	05.07	16.337	12.449	24.203	931
164	932	使用痕のある剥片	チャート	5.00	2.23	1.78	1.36	Ⅷ—a			JK—6	No.145	08.21	12.473	31.470	23.818	932
164	933	抉入掻器	チャート	11.50	2.57	2.79	1.62	Ⅷ—a			JK—5	No.105	07.24	14.083	28.967	24.115	933
164	934	使用痕のある剥片	チャート	2.21	3.16	0.63	3.44	Ⅷ—a			TR—3—南東	No.70	05.21	14.023	15.457	23.994	934
164	935	使用痕のある剥片	チャート	9.70	3.84	2.56	1.11	Ⅷ—a			F—6・7	No.289	09.05	7.508	13.391	22.549	935

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑱

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点（グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
164	936	使用痕のある剥片	チャート	3.60	2.50	1.90	0.65	Ⅷ—a	E—6		E—6—S	No.47	09.12	9.014	10.506	22.491	936
164	937	2次加工のある剥片	チャート	4.30	2.81	2.18	0.89	Ⅷ—a			TR—6　東バンク　水		09.20				937
164	938	2次加工のある剥片	チャート	3.50	2.16	2.67	0.69	Ⅷ—a			JK—5	No.417		14.522	30.728	24.164	938
164	939	使用痕のある剥片	チャート	5.80	3.00	2.80	0.80	Ⅷ—a			JK—5	No.764	08.30	14.527	32.292	24.006	939
164	940	2次加工のある剥片	チャート	2.70	1.99	2.57	0.67	Ⅷ—a			JK—5	No.610		13.197	32.168	23.849	940
164	941	2次加工のある剥片	チャート	15.40	3.73	5.25	1.27	Ⅷ—a			GH—5	No.199	08.29	16.272	14.988	24.246	941
164	942	2次加工のある剥片	チャート	7.73	4.61	2.40	1.39	Ⅷ—a			TR—11	No.26	05.20	15.588	30.708	24.268	942
164	943	使用痕のある剥片	チャート	3.94	3.51	2.76	0.56	Ⅷ—a	F—5		TR—A	No.36	05.10	16.049	12.938	24.088	943
165	944	剥片	チャート	0.60	1.40	1.60	0.34	Ⅷ—a			EF—5	No.7	04.23	14.998	11.066	23.931	944
165	945	剥片	チャート	0.90	1.86	1.69	0.34	Ⅷ—a			F—6･7	No.211	09.03	9.312	13.887	22.773	945
165	946	使用痕のある剥片	サヌカイト	1.40	2.89	1.35	0.45	Ⅷ—a	F—5		TR—A	No.42	05.10	15.552	13.254	24.064	946
165	947	使用痕のある剥片	黒曜石	6.10	3.06	2.53	1.38	Ⅷ—a	J—5	6		No.9	07.18				947
165	948	使用痕のある剥片	チャート	1.00	2.44	1.53	0.37	Ⅷ—a	F—6	5			10.01				948
165	949	剥片	チャート	6.50	2.53	2.66	1.06	Ⅷ—a			ユニット1	No.147	05.15	16.260	28.605	24.627	949
165	950	2次加工のある剥片	チャート	7.50	3.79	2.42	1.31	Ⅷ—a			JK—5	No.401	08.02	14.224	31.493	24.155	950
165	951	抉入石器	チャート	10.70	2.84	3.92	1.29	Ⅷ—a			JK—5	No.514	08.11	13.074	31.443	24.003	951
165	952	剥片	チャート	4.40	3.62	2.12	0.81	Ⅷ—a			JK—5	No.518	08.11	13.286	31.702	23.974	952
166	953	掻器	チャート	1.10	1.79	1.74	0.49	Ⅶ—0	G—4				04.25				953
166	954	掻器	チャート	8.29	3.23	3.21	0.48	Ⅶサイカ			TR—3—NSB						954
166	955	掻器	チャート	7.70	3.61	1.81	1.35	Ⅶ					10.03				955
166	956	掻器	チャート	9.50	2.70	2.21	1.44	Ⅶ	G—4	13			08.19				956
166	957	掻器	チャート	16.80	3.05	4.06	1.47	Ⅶ			TR—3　南端東バンク		08.06				957
166	958	掻器	チャート	14.70	4.85	2.93	1.21	Ⅶ			FG—5	No.21	05.10	15.473	16.587	24.467	958
166	959	掻器	チャート	9.00	3.10	1.70	1.65	Ⅶ				No.155	04.03	16.000	25.122	24.959	959
166	960	掻器	チャート	18.20	3.81	3.60	1.84	Ⅶ	F—6	7	ZT	No.12		10.100	14.243	23.082	960
166	961	掻器	チャート	8.80	3.38	2.31	1.12	Ⅶ	F—6	15			08.24				961
166	962	掻器	チャート	8.19	2.64	2.60	1.14	Ⅶサイカ			GH—5	No.30		17.121	15.410	24.606	962
166	963	掻器	チャート	8.00	2.80	1.82	1.46	Ⅶ—SR—B			KL—5	No.85	10.01	12.833	35.061	23.675	963
166	964	掻器	チャート	2.80	2.36	2.14	0.96	Ⅶ			KL—5	No.21	09.25	13.416	35.957	24.033	964
167	965	尖頭器あるいは石鏃の未製品。両面加工石器。	チャート	1.00	1.90	1.40	0.40	Ⅶ	F—4		F—4南　東西バンク		09.06				965
167	966	小型スクレイパー	チャート	0.20	1.45	0.60	0.15	Ⅶ—2	F—6	11			08.26				966
167	967	削器	チャート	5.90	2.16	3.76	0.91	Ⅶ			F—6･7	No.579	09.15	7.937	12.366	22.338	967
167	968	掻器	チャート	6.40	3.85	2.35	0.60	Ⅶ	F—5	8			07.04				968
167	969	掻器	チャート	29.40	5.97	3.33	2.24	Ⅶ			TR—3—NSB		09.24				969
167	970	削器	チャート	2.00	2.51	1.48	0.70	Ⅶ	E—6		E—6—S		09.28				970
167	971	2次加工のある剥片	チャート	1.00	2.79	1.50	0.26	Ⅶ—2	I—4	16		No.3	04.04	16.584	27.570	24.908	971
167	972	石鏃未製品	チャート	1.30	1.98	1.55	0.50	Ⅶ	I—5	8			04.09				972
167	973	抉入掻器	チャート	2.30	1.87	2.00	0.84	Ⅶ—YR			JK—6	No.438	09.02	10.225	30.866	23.512	973
167	974	削器	チャート	0.60	1.59	0.95	0.34	Ⅶ	J—6	3			08.01				974
167	975	抉入石器	泥岩	11.00	2.19	3.02	1.70	Ⅶ			TR—3—NSB	No.185	09.28	13.981	13.062	23.889	975
167	976	抉入石器	頁岩	14.40	4.05	2.84	1.51	Ⅶ			TR—3		09.14				976
167	977	抉入石器	チャート	8.80	2.49	3.23	1.37	Ⅶ	F—6		ZT		06.13				977
167	978	抉入石器	チャート	20.40	5.00	3.40	1.65	Ⅶ	J—4	15･16			05.22				978
168	979	掻器	チャート	4.50	2.43	1.97	0.81	Ⅶ	J—3	3	ブロック4	No.1	05.28				979
168	980	抉入掻器	チャート	5.10	2.62	2.50	0.95	Ⅶサイカ			JK—6	No.195	08.28	11.859	31.241	23.703	980
168	981	使用痕のある剥片	チャート	3.90	2.39	1.79	1.21	Ⅶ—YR			JK—6	No.495	09.04	9.907	31.706	23.324	981
168	982	抉入石器	チャート	9.40	3.88	2.85	1.24	Ⅶ—YR			JK—6	No.393	08.30	9.682	31.453	23.454	982
168	983	2次加工のある剥片	チャート	0.34	1.86	1.07	0.14	Ⅶ			KL—5		09.25				983
169	984	掻器	チャート	15.30	3.20	3.92	1.56	Ⅶ	F—4		東西バンク						984
169	985	抉入掻器	頁岩	14.30	4.20	3.05	1.40	Ⅶ—1			TR—3—S		04.22				985
169	986	抉入掻器	チャート	1.30	2.03	1.19	0.40	Ⅶ	G—5	5	TR—A　南バンク		07.03				986
169	987	使用痕のある剥片	チャート	25.40	3.24	3.99	1.46	Ⅶ上面	G—4				04.11				987
169	988	掻器	チャート	10.00	3.29	2.29	1.35	Ⅶ	F—5	2	TR—3—NSB		09.28				988
169	989	使用痕のある剥片	チャート	10.80	4.30	2.60	0.90	Ⅶ	G—5			No.18	06.07				989
169	990	石錐	チャート	8.90	3.70	3.41	0.80	Ⅶ	E—6		E—6—S	No.145	09.25	7.273	9.518	22.389	990

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑲

Fig. 番号	図版 番号	器　種	石　材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点 （グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版 番号
169	991	抉入掻器	チャート	0.80	2.20	1.25	0.15	Ⅶ	E−6	4･8			08.09				991
169	992	抉入掻器	チャート	3.90	2.26	2.69	0.91	Ⅶ			F−6･7	No.565	09.15	7.479	13.321	22.350	992
169	993	使用痕のある剥片	チャート	7.60	4.03	2.30	0.81	Ⅶ	E−6		E−6−S	No.147	09.25	7.480	9.987	22.417	993
169	994	削器	チャート	6.60	3.90	2.48	1.01	Ⅶ−1	I−5	3	TR−6　西バンク	No.4	04.18	15.563	26.934	24.853	994
169	995	使用痕のある剥片	チャート	5.70	2.26	2.78	0.99	Ⅶ−1			TR−6　東バンク　一括		09.20				995
169	996	ナイフ形石器	チャート	0.30	1.88	0.82	0.40	Ⅶ	I−4		周辺一括		04.11				996
170	997	2次加工のある剥片	チャート	0.30	1.56	1.20	0.47	Ⅶ−1	I−4	14			04.09				997
170	998	ナイフ形石器?	チャート	2.00	2.95	1.06	0.64	Ⅶ			JK−4	No.59	07.24	16.843	32.464	24.642	998
170	999	削器	チャート	9.80	4.31	2.36	1.78	Ⅶサイカ			JK−5	No.431	08.06	13.493	32.225	24.100	999
170	1000	2次加工のある剥片	チャート	4.30	3.67	2.52	0.55	Ⅶサイカ			TR−11　北バンク　SW						1000
170	1001	抉入掻器	チャート	1.60	2.65	1.40	0.75	Ⅶ−YR			JK−6	No.414	08.30	8.613	30.855	23.237	1001
170	1002	抉入掻器	チャート	7.90	2.53	3.68	1.15	Ⅶ			KL−5	No.19	09.25	13.744	35.978	24.047	1002
170	1003	削器	チャート	35.10	7.28	3.60	1.65	Ⅶ	I−5	4			04.08				1003
170	1004	使用痕のある剥片	チャート	4.60	3.60	1.75	0.90	Ⅶ	K−4	9	ブロック4		05.31				1004
170	1005	抉入掻器	チャート	13.70	4.06	3.18	1.28	Ⅶ			TR−12	No.43		19.730	33.536	25.515	1005
170	1006	掻器	チャート	8.20	2.78	3.58	0.79	Ⅶサイカ			JK−6	No.459	09.02	11.099	31.658	23.636	1006
170	1007	2次加工のある剥片	チャート	4.41	2.90	2.80	0.45	Ⅶサイカ	J−5	4	JK−5北SWB		09.24				1007
170	1008	掻器	チャート	18.72	3.68	3.23	1.37	Ⅶ	J−4	15	ブロック4　一括		05.28				1008
171	1009	2次加工のある剥片	チャート	6.20	3.89	2.92	0.92	Ⅶ			ブロック4		05.27				1009
171	1010	使用痕のある剥片	チャート	10.30	3.33	3.63	1.16	Ⅶ−SR	K−5	1	JK−5北SWB		09.24				1010
171	1011	掻器	チャート	14.90	3.76	2.52	1.70	Ⅶ−YR			岩陰2−SW−2	No.10	09.29	9.036	31.639	23.113	1011
171	1012	抉入掻器	チャート	3.60	3.40	1.68	0.83	Ⅶサイカ			TR−11　北バンク	No.144	10.03	15.969	33.830	24.371	1012
171	1013	掻器	チャート	4.70	2.33	1.99	0.88	Ⅶ			ブロック3	No.15	06.03	25.341	25.273	24.396	1013
171	1014	掻器	チャート	8.40	2.32	3.44	1.17	Ⅶサイカ			JK−6	No.124	08.08	12.364	32.303	23.772	1014
171	1015	2次加工のある剥片	チャート	8.40	4.28	2.00	1.25	Ⅶ−SR	J−6		NS−2	No.2	09.17	10.947	30.361	23.736	1015
171	1016	2次加工のある剥片	チャート	3.49	3.77	1.47	0.78	Ⅶ−2	I−4	14		No.54	04.17	16.008	25.194	24.790	1016
171	1017	2次加工のある剥片	チャート	7.12	3.45	2.02	1.11	Ⅶサイカ			KL−5		10.01				1017
171	1018	2次加工のある剥片	チャート	4.10	3.80	2.70	0.65	Ⅶ	J−5	8	ユニット3	No.3	05.23				1018
171	1019	使用痕のある剥片	チャート	2.80	2.50	2.50	0.75	Ⅶ			TR−3−②	No.137	04.02	14.260	13.140	23.800	1019
172	1020	掻器	チャート	20.50	3.74	3.71	2.07	Ⅶ	G−5	4			05.16				1020
172	1021	抉入掻器	チャート	5.20	2.84	2.79	1.00	Ⅶ	F−6	16	水		08.26				1021
172	1022	剥片	チャート	2.90	3.58	1.53	0.66	Ⅶ	F−7	1･5	一括		10.01				1022
172	1023	剥片	チャート	2.90	2.89	1.20	0.88	Ⅶ	I−5		周辺一括		04.10				1023
172	1024	剥片	チャート	4.30	3.46	2.02	0.61	Ⅶ−YR			岩陰2 SW−2	No.8		9.144	31.576	23.215	1024
172	1025	2次加工のある剥片	チャート	20.70	3.56	4.06	1.46	Ⅶ	J−3		ブロック4						1025
172	1026	使用痕のある剥片	チャート	8.70	4.22	2.50	1.24	Ⅶ−SR−4			KL−5	No.107	10.01	13.984	36.500	23.881	1026
172	1027	剥片	チャート	5.10	4.64	1.78	0.91	Ⅶサイカ	J−5	16	JK−5南SWB		09.26				1027
172	1028	使用痕のある剥片	チャート	9.40	4.60	2.18	0.83	Ⅶ−SR−2･3	K−6		杭直下		08.27				1028
172	1029	使用痕のある剥片	チャート	5.30	2.63	1.80	1.02	Ⅶ−YR			JK−5	No.380	08.30				1029
172	1030	剥片	チャート	2.60	2.45	2.15	0.70	Ⅶ			ユニット1	No.84	05.14	14.678	23.203	24.599	1030
173	1031	2次加工のある剥片	頁岩	7.50	2.77	4.04	1.41	Ⅵ	F−6	10	水		08.19				1031
173	1032	2次加工のある剥片	チャート	22.80	4.26	4.51	1.39	Ⅵ			E−6−S						1032
173	1033	使用痕のある剥片	チャート	5.10	2.28	3.36	0.87	Ⅵ	F−7			No.55	09.27				1033
173	1034	掻器	チャート	6.60	2.40	2.20	1.00	Ⅵ	F−6	14			08.22				1034
173	1035	尖頭器	チャート	4.70	3.66	1.95	0.87	Ⅵ	K−3		TR−12−NSB		09.26				1035
173	1036	使用痕のある剥片	チャート	1.40	1.78	2.11	0.50					No.153	04.03	16.583	24.528	24.989	1036
173	1037	使用痕のある剥片	チャート	2.80	3.17	2.11	0.80	Ⅴ			TR−3		04.02				1037
173	1038	使用痕のある剥片	チャート	4.10	3.33	2.08	0.75	Ⅴ			F−4･5、E−4･5東バンク中		04.11				1038
173	1039	削器	チャート	4.60	2.35	2.15	0.85	Ⅴ			TR−7		04.04				1039
173	1040	剥片	チャート	0.79	2.51	1.35	0.22	Ⅴ	F−7			No.35	09.27	3.660	15.686	22.339	1040
173	1041	2次加工のある剥片	チャート	2.10	2.57	1.78	0.61	Ⅴ			TR−3		04.02				1041
173	1042	使用痕のある剥片	チャート	5.00	3.20	2.45	1.05	Ⅴ（標記はR）			A地点		95.03.27				1042
174	1043	削器	チャート	6.70	2.36	3.71	1.12	Ⅴ	K−5	7			05.15				1043
174	1044	抉入掻器	チャート	12.88	3.50	5.00	1.45	Ⅴ	J−5	7	ユニット3	No.2	05.23				1044
174	1045	剥片	チャート	3.30	2.80	1.81	0.72	Ⅴ〜Ⅵ	G−6	16	水		08.16				1045

Tab. 31　出土遺物（石器類）・出土地点層位法量一覧表 ⑳

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点（グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
174	1046	削器	サヌカイト	19.30	3.91	6.39	0.86	包含層	G−4			No.3					1046
174	1047	ヘラ形石器	頁岩	43.70	6.43	4.17	1.96	Ⅳ	F−7		ZT		08.05				1047
174	1048	使用痕のある剥片	黒曜石	2.50	3.65	2.06	0.56	Ⅳ				No.133	03.26	15.139	13.195	24.571	1048
174	1049	剥片	黒曜石	5.19	2.50	3.19	1.06	Ⅳ			95−6NOM	No.119	03.26	12.890	15.002	24.357	1049
174	1050	削器	チャート	6.30	4.62	1.95	0.92	Ⅳ	F−7	3		No.12	08.09	7.368	14.543	23.132	1050
174	1051	使用痕のある剥片	チャート	2.10	2.96	2.18	0.59	Ⅳ	F−7	4		No.11	08.09	7.223	15.302	23.190	1051
175	1052	使用痕のある剥片	チャート	11.10	3.88	2.95	1.13	G−①②			G−7・8		09.24				1052
175	1053	両面加工石器	チャート	7.30	2.85	2.70	1.00	G−①②			G−7・8		09.24				1053
175	1054	不明（2次加工のある剥片）	チャート	1.10	3.05	0.93	0.40	G−③			G−7−S		09.27				1054
175	1055	ヘラ形石器	チャート	9.40	3.65	2.77	1.15	G−②			G−7−S		09.27				1055
175	1056	抉入掻器	チャート	13.60	4.08	2.69	1.32	G−③			G−7−S　一括		09.27				1056
175	1057	不明（2次加工のある剥片）	チャート	8.10	2.72	3.59	1.25	G−③			G−7−S		09.27				1057
175	1058	掻器	チャート	7.00	2.17	2.59	1.51	G−⑤	F−7				09.29				1058
175	1059	掻器	チャート	14.40	3.47	3.09	1.49	G−⑤			G−7−S		09.29				1059
175	1060	2次加工のある剥片	チャート	2.40	2.86	1.26	0.74	KS	KS		G−7−S　一括		09.24				1060
175	1061	両面加工石器	チャート	7.70	2.43	3.16	1.04	KS			G−7−S		09.24				1061
176	1062	掻器（使用痕のある剥片）	石英	17.50	3.67	2.91	1.81	ES−Ⅰ			ES	No.5	04.18				1062
176	1063	削器	チャート	7.70	4.36	2.33	0.74	ES−Ⅰ				No.144	04.23				1063
176	1064	削器	チャート	16.70	5.20	3.00	1.15	X上			ES　地山上	No.203	04.26				1064
176	1065	抉入掻器	チャート	5.89	2.64	2.38	1.48		H−7		95−6NOM　検出時	No.4	03.06				1065
177	1066	使用痕のある剥片	チャート	6.80	2.70	2.40	1.00	ｼﾞｰﾋﾞｰﾌﾞ			検出時		05.14				1066
177	1067	2次加工のある剥片	チャート	4.30	3.80	2.20	1.05	②	J−7			No.236	06.27	4.846	29.470	22.816	1067
177	1068	2次加工のある剥片	チャート	3.20	2.11	2.71	1.19	②	J−7			No.543	07.11	7.686	28.966	23.098	1068
177	1069	2次加工のある剥片	チャート	5.60	2.81	3.52	0.94	②	J−7			No.508	07.11	7.501	29.154	23.091	1069
177	1070	2次加工のある剥片	チャート	5.40	2.84	2.79	0.96	②			バンクNS−1	No.12	09.03	4.417	27.516	22.926	1070
177	1071	抉入掻器	チャート	7.88	3.21	2.08	1.39	②	J−7			No.516	07.11	7.254	28.856	23.082	1071
177	1072	抉入掻器	チャート	5.20	3.22	2.23	0.75	②	J−7			No.153	06.27	5.284	29.833	22.914	1072
177	1073	掻器	チャート	1.90	1.65	1.52	0.81	②			J−7	No.474	07.10	6.598	28.624	23.084	1073
177	1074	使用痕のある剥片	チャート	3.60	2.48	1.89	0.85	②	J−7			No.216	06.27	5.296	30.016	23.013	1074
177	1075	抉入掻器	チャート	3.10	2.43	2.13	0.63	③	I−7	9			09.10				1075
177	1076	掻器	チャート	7.90	2.64	2.23	1.51	③	J−7	5	NS−1		09.10				1076
177	1077	2次加工のある剥片	チャート	2.20	2.44	2.34	0.54	③	I−7	12		No.70	06.19				1077
177	1078	剥片	チャート	0.50	1.80	0.75	0.60	③	J−8	1		No.20		4.047	28.543	22.854	1078
178	1079	使用痕のある剥片	チャート	7.30	2.27	3.11	1.08	③	I−8	4	バンク一括		07.31				1079
178	1080	使用痕のある剥片	チャート	10.13	2.86	3.28	1.22	⑤	J−8			No.72	07.04	3.378	28.954	22.786	1080
178	1081	使用痕のある剥片	チャート	4.27	2.90	2.05	1.00	⑤	J−7			No.442	07.04	4.599	30.836	22.646	1081
178	1082	剥片	チャート	1.30	2.22	1.76	0.52	③	I−7	16			09.11				1082
178	1083	使用痕のある剥片	頁岩	6.40	5.10	1.60	0.90	⑤⑥	J−7			No.444	07.08	4.397	29.657	22.683	1083
178	1084	抉入掻器	チャート	9.81	2.24	3.29	1.46	Ⅵ	J−8	2		No.81	07.08	4.455	27.948	22.702	1084
178	1085	使用痕のある剥片	チャート	3.80	2.34	2.68	0.67	⑦以下	J−7			No.6	08.30	5.494	31.627	22.235	1085
179	1086	掻器	チャート	9.50	2.87	2.72	0.95	不明			FG−5		04.12				1086
179	1087	2次加工のある剥片	チャート	21.50	3.25	4.46	1.86		F−5	14			06.10				1087
179	1088	2次加工のある剥片	チャート	4.60	3.00	2.03	1.23	Ⅷ−a	E−6	1	ZT（E−6）	No.37	06.11	11.489	9.645	22.988	1088
179	1089	両面加工石器（石鏃未製品）	頁岩	1.90	2.58	2.20	0.65	不明	F−6	8			06.05				1089
179	1090	使用痕のある剥片	チャート	7.00	3.03	2.28	1.49	不明	F−7		F−6−S		09.24				1090
179	1091	掻器	チャート	21.00	3.90	3.50	1.65	不明	F−7		F−6−S		09.24				1091
179	1092	2次加工のある剥片	チャート	4.30	2.29	2.83	0.91	不明	E−6	7	ZT		06.10				1092
179	1093	2次加工のある剥片	チャート	2.80	2.28	1.75	0.80	不明	F−7		電柱周辺		09.25				1093
179	1094	削器	チャート	4.28	2.19	2.55	0.88	不明	E−6	7	ZT		06.10				1094
179	1095	抉入掻器	チャート	12.10	2.55	3.46	1.76		E−6				06.10				1095
179	1096	使用痕のある剥片	珪質頁岩	9.10	2.80	2.30	1.30		I−5	1		No.10	04.05	15.865	25.283	24.821	1096
179	1097	掻器	チャート	1.90	1.64	1.66	0.87		J−7		TR−C	No.25	07.01				1097
179	1098	掻器	チャート	2.12	1.69	1.96	0.74				サンプル4		10.07				1098
179	1099	使用痕のある剥片	チャート	3.67	2.10	2.55	0.75	Ⅶサイカ			TR−11　北バンク	No.1	09.27	16.172	28.938	24.697	1099
179	1100	削器	チャート	11.50	4.50	2.65	0.75	不明									1100

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点（グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
181	1101	楔形石器	チャート	10.20	2.38	2.78	1.37	X	E−6	4〜8			10.06				1101
181	1102	剥片	チャート	4.63	3.38	1.31	1.52	X			EF−5	No.453	05.21	14.057	12.105	23.558	1102
181	1103	楔形石器	チャート	6.71	2.15	2.06	1.53	Ⅷ−b			E−6−S	No.65	09.17	9.611	9.750	22.634	1103
181	1104	楔形石器	チャート	22.10	3.38	3.14	2.23	Ⅷ−b			EF−5・TR−A　南バンク	No.42	09.11	15.433	12.665	23.968	1104
181	1105	楔形石器	チャート	5.28	2.75	2.19	0.89	Ⅷ−b			JK−5	No.1075	09.17				1105
181	1106	楔形石器	チャート	13.64	2.82	3.64	1.61	Ⅷ−a			JK−6	No.390	08.30	9.689	31.165	23.399	1106
181	1107	楔形石器関連剥片	チャート	1.60	2.67	1.08	0.44	Ⅷ−b			FG−5	No.125	05.22	15.815	15.127	24.126	1107
181	1108	剥片	チャート	0.61	2.45	0.67	0.28	Ⅷ−b			TR−3−NSB	No.503	10.01	11.189	11.754	22.877	1108
181	1109	楔形石器	チャート	2.46	1.77	1.85	0.89	Ⅷ−a			TR−11	No.88	05.20	15.201	34.384	24.241	1109
181	1110	剥片	チャート	9.17	3.75	2.00	1.50	Ⅷ−a	G−4	14			08.23				1110
181	1111	剥片	チャート	0.46	1.86	0.89	0.31	Ⅷ−a			F−6・7	No.342	09.11	8.849	12.208	22.640	1111
181	1112	楔形石器	チャート	0.60	2.49	0.57	0.47	Ⅷ−a			TR−3−南東	No.63	05.21	14.104	15.874	23.952	1112
181	1113	剥片	チャート	0.54	1.91	0.96	0.32	Ⅷ−a			TR−B　南バンク		06.19				1113
181	1114	剥片	チャート	0.33	1.80	0.66	0.42	Ⅷ−a	F−6	12	一括		06.10				1114
181	1115	剥片	黒曜石	0.57	3.07	0.77	0.35	Ⅷ−a			岩陰2　SW−1	No.3	09.29	10.736	31.439	23.340	1115
181	1116	楔形石器	チャート	3.60	2.09	2.25	0.64	Ⅶ−R	G−4	14	Rock−1		05.09				1116
181	1117	楔形石器	チャート	4.20	2.34	2.70	0.77	Ⅶ	G−5	6	一括		07.11				1117
181	1118	楔形石器	チャート	4.00	2.03	1.67	1.13	Ⅶ			TR−B　南バンク	No.15	06.13	16.915	16.793	24.704	1118
181	1119	楔形石器	チャート	6.88	3.42	2.78	0.54	Ⅶ	K−4	11			05.24				1119
181	1120	楔形石器	チャート	9.45	2.81	3.78	1.02	Ⅶ−SR−4			KL−5	No.108	10.01	14.117	36.317	23.894	1120
182	1121	楔形石器	チャート	7.96	2.34	3.74	0.93	Ⅶ−YR			JK−6	No.498	09.06	11.188	31.896	23.505	1121
182	1122	楔形石器	チャート	20.40	4.25	3.09	1.27	Ⅶサイカ	K−5	13			08.06				1122
182	1123	楔形石器	チャート	7.50	3.08	2.05	1.54	Ⅶ	I−4	15	ユニット	No.23	05.10	16.167	27.717	24.918	1123
182	1124	楔形石器	チャート	1.46	1.71	1.00	0.76	Ⅶ			JK−6	No.367	08.30	10.868	30.786	23.545	1124
182	1125	剥片	チャート	0.83	2.23	0.59	1.10	Ⅷサイカ			TR−3		04.03				1125
182	1126	楔形石器	チャート	2.30	2.39	1.21	0.84	Ⅵ	K−4	17			05.23				1126
182	1127	楔形石器	チャート	9.20	2.50	3.34	1.34	Ⅴ	F−6				04.09				1127
182	1128	楔形石器	チャート	3.22	2.05	1.91	1.03	Ⅴ			B地点		04.12				1128
182	1129	剥片	チャート	0.69	2.20	0.85	0.52	RK			TR−11	No.106	05.20	15.190	36.107	24.129	1129
182	1130	剥片	チャート	0.22	1.66	0.60	0.17	Ⅴ	F−5	4			04.17				1130
182	1131	楔形石器	チャート	1.10	1.86	1.15	0.62	Ⅴ			TR−3		04.02				1131
182	1132	楔形石器	チャート	0.50	1.67	0.54	0.50	Ⅴ	G−5				04.17				1132
182	1133	楔形石器	チャート	0.92	1.90	1.12	0.43	Ⅴ	K−4	14	TR−12		05.15				1133
182	1134	楔形石器	チャート	16.90	4.25	3.02	1.42	G−①②			G−7・8		09.24				1134
182	1135	楔形石器	チャート	3.56	2.60	1.52	0.75	G−①			G−7−S　一括		09.27				1135
182	1136	剥片	チャート	1.45	2.73	1.54	0.36	G−②	G−7		G−7−S		09.27				1136
182	1137	剥片	チャート	0.50	2.12	0.84	0.33	G−②	G−7		G−7−S		09.27				1137
182	1138	楔形石器	チャート	1.70	2.68	1.22	0.58	不明	F−5	6	一括		06.10				1138
182	1139	楔形石器	チャート	9.50	2.85	2.34	1.72	表採									1139
182	1140	楔形石器	チャート	9.40	3.05	2.48	1.22	表採									1140
183	1141	パンチ	泥質片岩	47.31	8.03	4.21	1.58	Ⅷ−a	F−6	14	水		09.05				1141
183	1142	パンチorストーンリタッチャー	緑色片岩	42.56	7.05	2.45	1.55	Ⅷ−a			JK−5	No.535	08.11	14.766	32.450	24.159	1142
183	1143	パンチ	蛇紋岩	42.65	7.35	3.27	1.42	Ⅶ	G−5			No.24	06.10	15.123	19.798	24.972	1143
183	1144	パンチ	砂岩	84.36	7.05	5.18	1.47	Ⅳ	F−4			No.4	09.26				1144
183	1145	パンチ	チャート	16.11	4.60	2.27	1.80	G−②			G−7−S		09.27				1145
184	1146	石錐（ドリル）	チャート	1.53	3.31	0.81	0.58	Ⅷ−a			JK−5	No.402	08.02	14.325	31.508	24.196	1146
184	1147	石錐（ドリル）	チャート	12.10	3.76	3.00	1.62	Ⅶ			TR−11	No.2	05.15	16.750	32.321	24.822	1147
184	1148	石錐（ドリル）	チャート	3.71	3.10	1.33	0.93	③	J−7			No.107	06.25	5.527	29.303	22.907	1148
184	1149	石錐（ドリル）	サヌカイト	0.40	1.68	1.16	0.24	Ⅳ				No.70	03.21	13.416	15.622	20.000	1149
185	1150	石核	チャート	33.10	3.10	3.40	3.10	X	E−6		ZT	No.123	06.25	12.001	10.247	22.928	1150
185	1151	石核	チャート	32.70	2.65	3.70	3.30	Ⅷ−b	F−5			No.83	05.14	15.579	12.925	23.936	1151
185	1152	石核（ブランク）	チャート	32.80	3.00	3.10	3.00	Ⅸ	F−4			No.259	10.02	17.061	12.355	23.990	1152
185	1153	石核（ブランク）	チャート	38.30	3.22	4.17	3.10	Ⅸ	F−4			No.187	10.01	17.190	14.214	24.135	1153
185	1154	ブランク（石核）	チャート	33.20	2.75	5.95	2.20	Ⅷ−b			EF−5・TR−A	No.226	05.07	13.638	11.784	23.478	1154
185	1155	石核（ブランク）	チャート	18.40	3.43	1.78	2.43	Ⅷ−b			EF−5	No.264	05.10	14.863	11.723	23.799	1155

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点(グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
185	1156	石核	チャート	15.10	2.70	4.12	1.61	Ⅷ―b			TR―3―NSB	No.502	10.01	11.239	11.829	22.883	1156
186	1157	尖頭器(石核)	頁岩(赤色頁岩)	24.00	5.55	3.10	1.00	Ⅷ―b			E―6―S	No.63	09.17	11.650	32.409	23.485	1157
186	1158	石核	頁岩	51.03	3.03	2.62	4.96	Ⅷ―a	F―6		ZT	No.32	06.10	9.467	14.423	22.927	1158
186	1159	石核	チャート	29.60	3.00	4.10	3.10	Ⅷ―a			TR―3―NSB	No.413	09.29	11.238	11.897	23.055	1159
186	1160	石核	チャート	20.30	2.65	3.00	2.85	Ⅶ―2	I―4	14		No.16	04.09	16.925	25.844	24.909	1160
186	1161	石核(ブランク)	チャート	17.90	2.30	4.30	1.75	Ⅷ―a			JK―5	No.471	08.11	13.179	31.284	23.987	1161
186	1162	石核	チャート	19.95	4.60	3.30	1.80	Ⅷ―a			JK―5	No.596	08.28	13.849	32.703	23.905	1162
186	1163	石核	チャート	22.00	3.20	3.10	2.80	Ⅶ―2	J―4	13		No.33	09.20	17.064	29.160	24.848	1163
186	1164	石核	チャート	38.60	4.20	4.00	2.50	Ⅶ	G―4	9～12			05.16				1164
187	1165	石核	チャート	31.03	3.85	3.31	2.19	Ⅶ			F―6・7　東バンク		09.29				1165
187	1166	石核(ブランク)	チャート	14.90	2.03	3.63	2.38	Ⅶ			F―6・7	No.574	09.15	7.605	12.581	22.382	1166
187	1167	石核	チャート	19.80	3.57	3.90	1.85	Ⅶ上面	J―2				05.24				1167
187	1168	石核	チャート	8.19	2.36	3.16	1.28	Ⅶ―Y12	J―6		WS―2	No.124	09.19	8.795	30.414	23.270	1168
187	1169	石核(ブランク)	チャート	11.60	1.98	4.11	1.79	排土			周辺排土		03.22				1169
187	1170	石核(ブランク)	チャート	6.40	1.25	2.90	2.08	Ⅳ	F―7	3			08.15				1170
187	1171	石核	チャート	21.79	2.40	3.80	3.01	Ⅰ				No.146	04.03	15.963	24.335	24.973	1171
187	1172	石核	チャート	24.37	2.99	3.10	2.81	排土					05.10				1172
187	1173	石核	チャート	22.60	3.23	4.19	2.07		J―7	2		No.506	07.11				1173
188	1174	石核	チャート	24.70	1.86	5.50	1.87	Ⅶ			TR―11	No.3	05.15	17.475	33.992	24.900	1174
188	1175	石核	チャート	19.90	1.95	4.85	2.34	Ⅶサイカ			TR―11　北バンク	No.124	10.03	16.014	31.075	24.460	1175
189	1176	接合資料(石核)	チャート	29.87	2.81	5.13	2.12	Ⅶ			EF―5N		04.25				1176
189	1177	接合資料(剥片)	チャート	0.62	1.81	1.08	0.37		I―7		排土		07.01				1177
190	1178	石核	チャート	48.10	3.67	3.59	3.44	X			EF―5	No.427	05.21	15.112	11.976	23.745	1178
190	1179	礫片	チャート	16.60	2.65	2.60	2.45	Ⅸ	F―4			No.212	10.02	17.977	11.989	23.996	1179
190	1180	器種不明(石核ブランク)	チャート	47.70	3.25	4.90	3.45	Ⅷ―b			TR―3―NSB	No.690	10.04	9.957	11.656	22.637	1180
190	1181	器種不明	チャート	25.40	1.80	3.78	3.17	Ⅷ―b			E―6―S	No.140	09.20	9.262	9.526	22.579	1181
190	1182	石核	チャート	19.50	3.90	2.79	1.70	Ⅷ―b			TR―3―NSB	No.562	10.01	9.668	10.055	22.580	1182
190	1183	掻器(?)	チャート	7.50	2.45	2.80	1.10	Ⅷ―b			TR―3―S	No.34	04.26	13.630	15.658	23.673	1183
190	1184	石核	珪質頁岩	53.90	3.65	4.28	3.16	Ⅷ―b				No.32	10.06				1184
190	1185	石核	チャート	12.20	3.20	2.80	1.70	Ⅷ―b			EF―5・TR―A	No.214	05.07	14.576	12.632	23.791	1185
191	1186	礫片	チャート	5.70	1.95	2.58	1.56	Ⅷ―b			ZT(F―6)	No.110	06.18	9.029	14.708	22.684	1186
191	1187	器種不明	チャート	17.80	3.53	3.24	1.88	Ⅷ―b			EF―5・TR―A	No.215	05.07	14.355	12.878	23.766	1187
191	1188	器種不明	チャート	9.60	1.90	3.10	2.25	Ⅷ―b			EF―5・TR―A	No.217	05.07	14.447	12.035	23.729	1188
191	1189	細石刃核ブランク(あるいは器種不明)	チャート	13.90	2.03	3.25	2.12	Ⅷ―a			EF―5	No.98	04.05	15.212	11.033	23.926	1189
191	1190	石核	チャート	45.90	2.67	4.48	4.37	Ⅷ―a			TR―3―NSB	No.416	09.29	11.273	11.726	22.990	1190
191	1191	礫片	チャート	13.00	1.80	2.60	2.35	Ⅷ―a			TR―3落ち込み埋土下	No.2	09.14	8.472	11.449	22.213	1191
191	1192	礫片	チャート	28.10	2.95	2.35	4.40	Ⅷ―a			TR―3―NSB	No.213	09.29	14.964	13.456	23.951	1192
191	1193	器種不明	チャート	24.00	2.85	3.10	3.10	Ⅷ―a			TR―3―NSB	No.218	09.29	14.785	13.417	23.955	1193
191	1194	細石刃核ブランク?	チャート	19.20	2.25	3.60	2.15	Ⅷ―a			EF―5	No.31	04.05	15.092	12.883	24.054	1194
192	1195	細石刃核ブランク	チャート	29.30	3.15	2.65	3.45	Ⅷ―a	I―5	4		No.32	04.17	15.459	27.305	24.455	1195
192	1196	礫片	チャート	15.70	1.89	3.73	2.78	Ⅷ―a			GH―5	No.137	08.23	15.441	17.633	24.434	1196
192	1197	礫片	チャート	35.80	2.90	4.40	3.00	Ⅷ―a			FG―5	No.55	05.17	15.062	15.348	20.000	1197
192	1198	石核	チャート	35.80	2.96	3.68	2.97	Ⅷ―a			TR―11　北バンク	No.75	09.29	16.320	32.532	24.421	1198
192	1199	石核(?)	チャート	60.30	2.88	5.97	3.48	Ⅷ―a			GH―5	No.179	08.23	12.378	17.046	23.567	1199
193	1200	礫片	チャート	14.90	2.91	3.87	1.95	Ⅷ―a			TR―3	No.6	09.14	8.440	11.334	22.250	1200
193	1201	両面加工石器	チャート	13.90	1.75	3.90	2.28	Ⅷ―a			F―6・7	No.296	09.09	8.948	13.430	22.619	1201
193	1202	石核	チャート	12.04	1.65	3.20	2.50	Ⅷ―a	J―5	16			08.30				1202
193	1203	器種不明	チャート	12.10	3.15	2.05	2.05	Ⅷ―a			JK―5	No.504	08.11	13.725	31.586	24.012	1203
193	1204	石核	チャート	14.20	2.95	2.30	2.70	Ⅷ―a			JK―5	No.897		14.001	31.232	23.957	1204
193	1205	礫片	チャート	29.54	2.34	3.71	3.33	Ⅶ	E―6	4・8			08.09				1205
193	1206	石核	チャート	19.80	2.55	3.65	2.50	Ⅶ～Ⅷ―a	F―7	1・5			10.01				1206
193	1207	石核(?)	チャート	7.30	2.60	2.20	2.10	Ⅶ―3			不明		04.26				1207
194	1208	2次加工のある剥片	チャート	11.70	1.75	2.65	2.75	Ⅶ	K―4		K―4―W・TR―12	No.2	07.11	17.505	33.316	24.758	1208
194	1209	石核(?)	チャート	32.20	3.15	3.70	3.10	Ⅶ			TR―11　北バンク		09.28				1209
194	1210	石核	頁岩	10.70	2.30	1.40	1.50	Ⅶ			F―6・7	No.598	09.15	8.202	11.923	22.441	1210

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点(グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
194	1211	礫	チャート	44.00	3.10	4.60	3.35	Ⅶ	J－4	15	ブロック4		05.28				1211
194	1212	石核(?)	チャート	15.00	1.74	3.14	2.37	Ⅶ－SR－3			JK－5	No.243	07.26	14.127	32.512	24.065	1212
194	1213	石核	チャート	16.50	2.50	3.09	2.29	Ⅶ			F－6･7	No.417	09.12	7.654	12.382	22.392	1213
194	1214	器種不明	チャート	24.60	2.96	3.87	3.09	Ⅶ			ZT(F－6)一括		06.06				1214
194	1215	礫片	チャート	16.20	2.83	3.39	2.04	Ⅶ－SR－3			JK－6	No.41	07.26	9.334	30.759	23.549	1215
194	1216	礫片	チャート	28.40	2.80	3.90	2.50	Ⅶ－2			J－5　南北バンク	No.49	09.14	18.215	29.783	23.972	1216
195	1217	器種不明	チャート	36.40	2.59	4.25	3.45	Ⅶ			ブロック3	No.12	06.13				1217
195	1218	石核	チャート	27.70	2.47	4.60	2.53	Ⅶ	I－4		周辺一括		04.11				1218
195	1219	器種不明	チャート	19.50	2.90	3.80	2.80	Ⅶ	K－4	6			05.17				1219
195	1220	石核	チャート	21.30	3.90	3.60	2.01	Ⅶ			TR－9		04.03				1220
195	1221	石核	チャート	38.40	2.44	4.49	3.52	Ⅶ－SR－4			KL－5	No.127	10.02	14.175	36.824	23.806	1221
195	1222	礫片	チャート	23.80	1.93	4.40	2.45	Ⅴ	F－7	3			08.19				1222
196	1223	掻器	チャート	13.70	3.30	3.10	1.36	Ⅶ	J－3	3		No.3	07.16	23.828	30.350	27.252	1223
196	1224	石核	チャート	14.60	2.53	2.46	3.15	Ⅶ－YR－N			JK－6	No.637	09.09	11.123	32.329	23.364	1224
196	1225	楔形石器	チャート	15.60	2.50	2.65	3.20	Ⅵ	F－7			No.67	09.27				1225
196	1226	石核	チャート	15.50	2.65	3.25	2.05	Ⅷ－a			TR－3－南東	No.50	05.17	13.496	14.230	23.791	1226
196	1227	器種不明	チャート	9.70	1.97	2.74	2.09	不明	F－4		東西バンク		09.04				1227
196	1228	石核	チャート	23.55	2.42	2.96	3.05	排土			F－7･G－7周辺		04.18				1228
196	1229	礫片	チャート	9.46	1.65	2.45	2.85	G－①②			G－7･8		09.24				1229
196	1230	石核	チャート	20.50	3.05	3.70	3.50	不明	I－4		TR－6		04.03				1230
197	1231	礫片	チャート	19.70	2.87	1.97	2.96	②	J－7			No.132	06.27	5.928	29.499	22.984	1231
197	1232	石核	チャート	55.36	3.00	4.10	4.30	G－④	G－7		G－7－S		09.28				1232
197	1233	石核	チャート	24.40	3.43	3.30	2.17	②	J－7			No.177	06.27	7.143	30.315	23.132	1233
197	1234	器種不明	チャート	12.25	1.89	3.13	2.55	不明	J－7		TR－C	No.78	06.28				1234
197	1235	掻器(細石刃核ブランク)	チャート	10.00	2.15	3.28	1.88	⑤	J－8	6		No.73	07.08	2.683	29.922	22.765	1235
197	1236	石核	チャート	37.00	2.46	4.73	2.95	②	J－7			No.471	07.10	7.104	28.846	23.175	1236
197	1237	細石刃核ブランク	チャート	9.70	1.80	2.48	3.79	表採					05.22				1237
197	1238	礫片	チャート	36.50	3.55	2.50	3.95	③	I－8	4		No.3	07.04	3.418	28.084	22.848	1238
198	1239	礫片	チャート	40.60	2.95	5.20	3.20	Ⅷ－b			EF－5･TR－A	No.220	05.07	14.286	11.767	23.662	1239
198	1240	礫片	チャート	24.50	2.89	3.11	2.87	Ⅷ－b			TR－3－NSB	No.506	10.01	10.790	11.495	22.765	1240
198	1241	礫片	チャート	46.40	4.56	4.56	2.63	Ⅷ－a	E－6		E－6－S	No.178	10.01	7.520	9.128	22.264	1241
198	1242	礫片	チャート	18.30	2.11	3.71	2.66	Ⅶ	F－5		TR－3		04.17				1242
198	1243	礫片	チャート	31.80	2.35	4.29	3.21	Ⅷ－a	F－6		TR－3－NSB		10.06				1243
198	1244	剥片	チャート	11.60	1.60	3.41	2.62	Ⅷ－a	F－6	7	ZT	No.31	06.10	10.515	14.269	23.042	1244
203	1245	石鏃	チャート	0.20	1.11	1.20	0.21	Ⅶ上	K－3		TR－12　西バンク						1245
203	1246	石鏃	チャート	0.30	1.36	1.21	0.25	Ⅶ			ブロック4	No.11	06.03	26.369	22.903	24.395	1246
203	1247	石鏃	チャート	0.20	0.80	1.00	0.20	Ⅴ			A地点		04.02				1247
203	1248	石鏃	チャート	0.20	1.30	0.80	0.20	Ⅴ	G－5				04.23				1248
203	1249	石鏃	チャート	0.30	1.37	1.05	0.20				TR－4　南側下		04.02				1249
203	1250	石鏃	チャート	0.30	1.40	1.00	0.20	不明			フルイにかけたもの						1250
203	1251	石鏃	チャート	0.30	1.45	1.30	0.30	Ⅴ	F－4	13			09.16				1251
203	1252	石鏃	チャート	0.50	1.71	1.25	0.36	Ⅷ－a	J－5	11			08.30				1252
203	1253	石鏃	安山岩か?	0.80	2.10	1.10	0.30	Ⅳ			FG－5		04.12				1253
203	1254	石鏃	チャート	1.00	2.00	1.20	0.40	⑤			東バンク－S		05.02				1254
203	1255	石鏃	チャート	0.10	0.97	0.80	0.17	Ⅵ	F－5	7		No.2	04.17	14.393	14.002	24.247	1255
203	1256	石鏃	チャート	0.70	1.68	1.42	0.36	Ⅴ	H－5	6			06.06				1256
203	1257	石鏃	チャート	2.70	2.53	1.84	0.77	Ⅶ									1257
203	1258	石鏃	チャート	0.30	1.50	1.30	0.20	Ⅶ	K－4	14	TR－11　北バンク		10.02				1258
203	1259	石鏃	チャート	0.40	1.09	1.46	0.30	Ⅶ－R	F－4	12			08.02				1259
203	1260	石鏃	チャート	0.30	1.44	1.02	0.29	Ⅵ	E－6	15			08.26				1260
203	1261	石鏃	サヌカイト	0.70	1.23	1.95	0.29	Ⅷ－a	K－4	4			08.28				1261
203	1262	石鏃	チャート	0.10	1.10	0.80	0.10	Ⅶ	F－6		ZT	No.5	06.07				1262
203	1263	石鏃	チャート	0.10	1.26	0.99	0.14	Ⅴ			A地点		04.02				1263
203	1264	石鏃	チャート	0.30	1.34	1.12	0.43	Ⅶ－1	I－5	3	TR－6　西バンク		04.18				1264
203	1265	石鏃	チャート	0.30	1.20	1.19	0.32	Ⅵ	F－7	4			08.19				1265

Fig.番号	図版番号	器種	石材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点(グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
203	1266	石鏃	チャート	0.40	1.33	1.10	0.37	Ⅶサイカ	F−6	4			08.21				1266
203	1267	石鏃	チャート	0.30	1.40	0.90	0.20	Ⅶ−2	I−5	2		No.2	04.04				1267
203	1268	石鏃	サヌカイト	0.90	2.01	1.61	0.64										1268
203	1269	石鏃	チャート	1.10	2.30	2.10	0.50	不明	I−8	4	サブトレ1						1269
203	1270	石鏃	チャート	0.20	1.30	0.80	0.20	Ⅶ−R			TR−B　南バンク	No.1	06.10	17.337	16.705	25.439	1270
203	1271	石鏃	チャート	0.30	1.35	1.14	0.26	Ⅶ−R	F−4	12			08.06				1271
203	1272	石鏃	サヌカイト	0.40	1.27	1.27	0.42	Ⅵ	F−5	8			08.16				1272
203	1273	石鏃	チャート	0.40	1.20	1.00	0.30	不明	H−5		TR−5　西側		04.03				1273
203	1274	石鏃	チャート	0.30	1.66	1.19	0.24	不明			不明		04.22				1274
203	1275	石鏃	チャート	0.90	2.10	1.20	0.40	Ⅶ	L−3	9			09.11				1275
203	1276	石鏃	チャート	1.90	2.40	1.40	0.40	Ⅴ			95−6NOM		03.27				1276
203	1277	石鏃	チャート	0.10	0.88	1.00	0.24	Ⅶサイカ	G−5	6			08.20				1277
203	1278	石鏃	チャート	0.30	1.56	1.19	0.31	Ⅳ	E−6		E−6−S	No.4	08.22	9.379	10.822	23.249	1278
203	1279	石鏃	チャート	0.20	1.61	1.15	0.23	Ⅵサイカ	K−5		ブロック3	No.47	07.10	14.254	32.322	24.702	1279
203	1280	石鏃	チャート	0.50	2.00	0.80	0.30	Ⅴ			95−6NOM		03.27				1280
203	1281	石鏃	チャート	0.60	1.80	0.90	0.30	Ⅴ			A地点		03.27				1281
203	1282	石鏃	チャート	0.50	2.00	0.90	0.30	Ⅴ	F−5	7		No.1	04.17	14.272	14.144	24.284	1282
203	1283	石鏃	チャート	0.70	1.70	1.20	0.40	Ⅶ−2	I−5	4			04.10				1283
203	1284	石鏃	サヌカイト	0.50	1.80	1.20	0.20	Ⅶ	F−6		ZT		06.07				1284
203	1285	石鏃	チャート	0.70	2.05	1.50	0.40	Ⅵ	F−7	4			08.20				1285
203	1286	石鏃	黒曜石	0.70	2.40	1.00	0.40	Ⅳ	E−4				04.03				1286
203	1287	石鏃	チャート	1.00	2.41	1.55	0.46										1287
203	1288	石鏃	チャート	1.20	1.95	2.00	0.45	不明			不明						1288
203	1289	石鏃	サヌカイト	1.90	2.60	1.90	0.40	Ⅶ	F−4			No.1	04.25				1289
203	1290	石鏃	チャート	1.50	1.90	1.80	0.40	Ⅶ			ブロック3	No.3	05.27	12.651	32.120	24.361	1290
204	1291	石鏃	黒曜石	0.40	1.90	1.10	0.20	Ⅴ			EF−5・TR−3　南西側バンク		06.27				1291
204	1292	石鏃	サヌカイト	0.40	1.33	1.42	0.33	Ⅳ			C地点						1292
204	1293	石鏃	サヌカイト	1.20	2.10	1.40	0.50	Ⅳ			西排土	No.58	03.22	13.604	18.235	24.772	1293
204	1294	石鏃	チャート	1.20	2.10	1.70	0.50	G−②			G−7−S		09.27				1294
204	1295	石鏃	チャート	0.70	1.15	0.63	0.46	Ⅴ	F−5	4			04.17				1295
204	1296	石鏃	チャート	1.70	2.32	1.57	0.61	Ⅴ	G−5	⑦⑩	TR−4　西　一括		06.07				1296
204	1297	石鏃	サヌカイト	0.20	1.00	1.05	0.15	Ⅴ			A地点						1297
204	1298	石鏃	サヌカイト	0.40	1.65	1.22	0.37	不明			表採(不明)						1298
204	1299	石鏃	チャート	0.70	1.85	1.40	0.40	Ⅶ			F−6・7	No.34	08.21	8.007	14.557	22.795	1299
204	1300	石鏃	チャート	0.46	1.92	1.27	0.28	検出時			ZT(前庭部)	No.2	04.04	10.722	8.946	23.242	1300
204	1301	石鏃	サヌカイト	0.60	2.03	1.46	0.18	KS−1	G−7		G−7−S	No.42	09.25	3.985	17.938	22.572	1301
204	1302	石鏃	サヌカイト	0.70	1.90	1.30	0.30	Ⅳ				No.58	03.21	13.604	18.235	24.772	1302
204	1303	石鏃	チャート	1.00	2.33	1.51	0.51	Ⅵ	F−6	15			08.19				1303
204	1304	石鏃	チャート	1.70	2.49	2.07	0.47	排土			ES東側・SX−2付近						1304
204	1305	石鏃	チャート	2.10	2.70	1.70	0.50	Ⅶ	G−7		SX−3南壁		07.16				1305
204	1306	石鏃	サヌカイト	0.50	1.70	1.10	0.20	Ⅴ	G−5	9							1306
204	1307	石鏃	チャート	1.30	2.04	2.02	0.46	Ⅷ−a			RS	No.7	05.28				1307
204	1308	石鏃	チャート	1.40	2.20	2.00	0.50				G−7−S		09.28				1308
204	1309	石鏃	チャート	2.10	2.47	2.08	0.50	Ⅴ	F−6	15		No.24					1309
204	1310	石鏃	チャート	1.80	2.70	1.80	0.50	Ⅳ	G−7				08.07				1310
204	1311	石鏃	頁岩	1.90	2.70	1.50	0.50	Ⅶ	L−4	5		No.1	07.16				1311
204	1312	石鏃	チャート	0.70	1.93	1.41	0.46	Ⅴ			TR−3−2		04.02				1312
204	1313	石鏃	チャート	0.60	1.78	1.51	0.39	Ⅶ			TR−3−NSB	No.187	09.28	14.552	13.316	23.961	1313
204	1314	石鏃	チャート	1.30	1.79	1.95	0.47	Ⅶ			TR−11		05.15				1314
204	1315	石鏃	チャート	1.90	2.40	1.50	0.40	不明	F−6	8	ZT		06.05				1315
204	1316	石鏃	チャート	1.20	1.70	1.50	0.30	Ⅴ			TR−3 排土		04.02				1316
204	1317	石鏃	チャート	2.30	2.30	1.82	0.75	Ⅷ−a	K−3		TR−12		05.21				1317
204	1318	石鏃	サヌカイト	0.40	2.04	1.30	0.25	Ⅳ	F−7		ZT		08.05				1318
204	1319	石鏃	チャート	0.80	2.70	1.20	0.40	Ⅳ	E−4				04.03				1319
204	1320	石鏃	チャート	0.70	1.80	1.00	0.40	Ⅴ			95−6NOM		03.27				1320

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量（g）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点（グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
204	1321	石鏃	チャート	0.60	1.50	1.27	0.37	Ⅶ	Q－4			No.9	05.10	16.554	27.715	24.843	1321
204	1322	石鏃	チャート	0.80	1.70	1.20	0.40	Ⅴ			B地点		03.27				1322
204	1323	石鏃	チャート	0.70	1.70	1.00	0.50		J－7			No.29	06.13	6.713	30.139	23.214	1323
204	1324	石鏃	チャート	0.50	1.90	1.38	0.32	Ⅴ	F－5	6		No.15					1324
204	1325	石鏃	サヌカイト	0.40	1.91	1.54	0.33	Ⅳ	F－7		ZT						1325
204	1326	石鏃	サヌカイト	0.70	2.33	1.55	0.36	Ⅳ			不明		04.03				1326
204	1327	石鏃	チャート	1.00	2.30	1.10	0.40	Ⅴ			A地点		03.27				1327
204	1328	石鏃	チャート	1.10	2.60	1.73	0.44	Ⅴ（F－5杭周辺）			バンク中（E）		04.11				1328
205	1329	石鏃	チャート	0.20	1.35	1.10	0.24	Ⅵ			F－6・7	No.32	08.21	7.902	15.578	22.984	1329
205	1330	石鏃	チャート	1.20	1.51	1.91	0.52	Ⅴ	F－7			No.37	09.27	3.537	15.226	22.245	1330
205	1331	石鏃	チャート	1.60	1.90	1.50	0.60	Ⅴ			95－6NOM		03.27				1331
205	1332	石鏃	チャート	1.00	2.46	1.43	0.39	Ⅴ			B地点		95.03.27				1332
205	1333	石鏃	チャート	1.70	2.10	1.70	0.50	⑥	J－8	6		No.30	07.01	2.855	29.898	22.879	1333
205	1334	石鏃	チャート	0.50	1.20	1.20	0.40	Ⅷ－a			TR－3－S	No.31	04.22	14.120	14.021	23.866	1334
205	1335	石鏃	チャート	0.80	1.60	1.30	0.40	Ⅳ	E－4				04.03				1335
205	1336	石鏃	サヌカイト	0.20	1.03	1.17	0.29	不明	G－6		ZT－ES境界バンク	No.23					1336
205	1337	石鏃	チャート	0.60	1.50	1.50	0.45	G－②	F－7			No.103		3.806	16.328	22.258	1337
205	1338	石鏃	チャート	0.40	1.40	1.10	0.30	Ⅶ			ユニット1	No.69	05.10	11.082	18.211	24.716	1338
205	1339	石鏃	チャート	0.76	1.60	1.50	0.40	Ⅵ	E－7	3			08.20				1339
205	1340	石鏃	チャート	0.80	1.40	1.87	0.44	Ⅵ	F－6	15			08.20				1340
205	1341	石鏃	サヌカイト	0.20	1.06	1.49	0.27	Ⅵ	F－7	2							1341
205	1342	石鏃	サヌカイト	0.30	0.97	1.33	0.37	不明									1342
205	1343	石鏃	サヌカイト	0.40	1.42	1.45	0.45	Ⅳ上			F－6・7		09.23				1343
205	1344	石鏃	サヌカイト	0.40	1.60	1.20	0.20	Ⅴ			TR－3－②		04.02				1344
205	1345	石鏃	サヌカイト	0.70	1.98	1.97	0.41										1345
205	1346	石鏃	チャート	0.50	1.61	1.71	0.37	Ⅴ			FG－5	No.19					1346
205	1347	石鏃	サヌカイト	0.60	1.50	1.30	0.30	Ⅴ			B地点		03.27				1347
205	1348	石鏃	サヌカイト	0.50	2.00	1.10	0.30	Ⅶ	F－6	11	ZT	No.10	06.07	9.820	14.560	23.072	1348
205	1349	石鏃	サヌカイト	0.50	1.84	1.47	0.34				TR－3－S		05.09				1349
205	1350	石鏃	サヌカイト	0.90	2.30	1.50	0.40	Ⅶ			ES	No.205	04.26				1350
205	1351	石鏃	サヌカイト	0.30	1.43	1.25	0.23	Ⅳ	E－4				04.03				1351
205	1352	石鏃	チャート	0.60	1.64	1.47	0.38	不明	J－7	9			09.11				1352
205	1353	石鏃	チャート	0.80	1.50	1.40	0.40				95－6NOM	No.52	03.18	16.012	15.473	25.341	1353
205	1354	石鏃	チャート	0.60	1.19	1.83	0.40	KS			G－7－S		09.24				1354
205	1355	石鏃	チャート	0.80	1.70	1.70	0.40	G－③	G－7		G－7－S		09.27				1355
205	1356	石鏃	サヌカイト	0.50	1.43	1.54	0.33	Ⅵ	F－6	15			08.20				1356
205	1357	石鏃	チャート	1.40	1.70	0.50	0.40	Ⅶ	F－6	11	ZT	No.3	06.06	9.778	14.135	20.000	1357
205	1358	石鏃	チャート	0.80	1.50	1.40	0.40	Ⅴ	H－5	6			06.06				1358
205	1359	石鏃	チャート	0.20	1.20	0.90	0.30	不明	J－3				04.03				1359
205	1360	石鏃	チャート	0.20	1.21	1.16	0.33	Ⅴ			TR－12　東－NSB						1360
205	1361	石鏃	チャート	0.30	1.24	1.18	0.29	Ⅴ	H－5	12			05.14				1361
205	1362	石鏃	チャート	0.30	1.30	0.80	0.20	Ⅴ			B地点		04.12				1362
205	1363	石鏃	チャート	0.50	1.43	1.13	0.34	Ⅴ	K－5		TR－12　西バンク		05.31				1363
205	1364	石鏃	チャート	0.60	1.50	1.18	0.49	Ⅴ	E－5		TR－2　西バンク		09.21				1364
205	1365	石鏃	チャート	0.70	1.63	1.19	0.66	排土			No.74～81周辺		03.22				1365
205	1366	石鏃	サヌカイト	0.40	1.75	1.46	0.30	Ⅳ			Ⅴ区のみ						1366
205	1367	石鏃	サヌカイト	0.80	2.10	1.10	0.30	Ⅴ			95－6NOM		03.27				1367
205	1368	石鏃	安山岩か?	1.10	1.20	1.30	0.40	Ⅴ			A地点		04.02				1368
205	1369	石鏃	チャート	1.50	2.40	1.30	0.40	ES－Ⅰ				No.137	04.23				1369
206	1370	石鏃	チャート	0.40	1.31	1.28	0.38	Ⅶ			I－4		04.11				1370
206	1371	石鏃	チャート	0.50	1.42	1.17	0.49	Ⅶ	H－5	4			04.04				1371
206	1372	石鏃	チャート	0.60	1.50	1.00	0.40	排土			ZT		06.07				1372
206	1373	石鏃	チャート	0.60	0.96	1.91	0.51	Ⅵ	F－6	15			08.22				1373
206	1374	石鏃	サヌカイト	1.60	2.03	1.46	0.49	Ⅴ			A地点		04.02				1374
206	1375	石鏃	チャート	1.00	2.93	1.00	0.54	Ⅶ	K－3		K－3－E	No.1	05.24				1375

Fig.番号	図版番号	器種	石材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点(グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
206	1376	石鏃	サヌカイト	1.50	3.00	1.10	0.30	②	J−7			No.497	07.10	6.849	28.738	23.036	1376
206	1377	石鏃	チャート	0.70	1.64	1.25	0.51	Ⅶ−R	F−4	12			08.06				1377
206	1378	石鏃	チャート	0.60	1.55	1.49	0.33	Ⅴ	G−5				04.26				1378
206	1379	石鏃	チャート	0.60	1.61	1.28	0.31	Ⅵ	F−6	16			08.20				1379
206	1380	石鏃	頁岩	0.70	2.27	1.53	0.35	Ⅶ	G−5	5	TR−A　南バンク東		07.03				1380
206	1381	石鏃	チャート	1.10	2.00	1.20	0.50	Ⅶ	K−4	13							1381
206	1382	石鏃	チャート	1.60	2.04	1.97	0.48										1382
206	1383	石鏃	チャート	3.46	2.86	2.05	0.73	不明									1383
206	1384	石鏃	チャート	2.10	2.90	2.13	0.50	Ⅶ−2			TR−6　東バンク・P3埋土	No.7	09.24	14.998	23.817	24.382	1384
206	1385	石鏃	チャート	3.00	3.84	2.09	0.51	③			NS−1	No.15	09.10	5.402	27.958	22.928	1385
206	1386	石鏃	チャート	3.20	3.30	1.50	0.60	排土			A地点No.51・52周辺		03.26				1386
206	1387	石鏃	チャート	4.40	2.89	1.99	0.90	③	I−8								1387
206	1388	石鏃	チャート	5.50	3.42	2.08	0.95	②	J−7			No.146	06.27	3.736	31.283	22.916	1388
206	1389	石鏃	チャート	0.67	1.41	1.28	1.39	Ⅷ−a	K−4	9			08.22				1389
206	1390	石鏃	サヌカイト	0.10	1.18	0.65	0.21	Ⅳ	E−4				04.03				1390
206	1391	石鏃	チャート	0.20	1.22	1.01	0.26	⑤	I−7	16			09.11				1391
206	1392	石鏃	チャート	0.40	1.66	0.79	0.44	不明			TR−7　南端		04.03				1392
206	1393	石鏃	チャート	0.40	1.34	1.05	0.34	⑨	J−8		NS−1バンク	No.19	09.12	4.675	27.753	22.176	1393
206	1394	石鏃	チャート	0.40	1.42	0.91	0.39	Ⅵ	F−7	3			08.21				1394
206	1395	石鏃	チャート	0.40	2.10	0.85	0.30	排土			No.74〜81周辺		03.22				1395
206	1396	石鏃	チャート	0.60	1.30	1.10	0.45	G−①②			G−7・8		09.24				1396
206	1397	石鏃	サヌカイト	0.60	1.90	0.80	0.30	Ⅶ−2	I−5	7			04.22				1397
206	1398	石鏃	チャート	0.80	1.78	1.18	0.51	Ⅷ−a			ユニット1	No.108	05.15	14.132	27.880	24.428	1398
206	1399	石鏃	?	0.90	2.04	1.16	0.35	Ⅳ	E−4				04.03				1399
206	1400	石鏃	チャート	0.30	2.28	1.16	0.40	不明			表採						1400
206	1401	石鏃	チャート	1.10	1.80	1.60	0.50	Ⅴ			F−5杭周辺						1401
206	1402	石鏃	チャート	0.40	1.20	0.10	0.35	Ⅵ	F−6	16			08.20				1402
206	1403	石鏃	サヌカイト	1.90	2.96	1.93	0.54	不明(Ⅳ〜Ⅶ)	F−4		TR−3−南東壁		05.09				1403
206	1404	石鏃	チャート	2.70	2.74	2.05	0.67	不明			表採		08.26				1404
207	1405	局部磨製石斧	頁岩	251.40	14.60	6.30	2.70	Ⅳ	G−7			No.2	08.07	7.889	15.711	23.262	1405
208	1406	有溝砥石	砂岩	22.47	7.30	4.32	0.94	Ⅶ−1			TR−11　北バンク		10.01				1406
208	1407	有溝砥石	砂岩	23.31	3.47	3.03	2.36	③	J−7	5	NS−1		09.10				1407
209	1408	磨製石斧	泥岩質の石材	48.69	6.43	4.20	1.38	Ⅶ−R			TR−B　南バンク	No.3	06.10				1408
209	1409	打製石斧	蛇紋岩	75.94	10.50	4.10	1.81	Ⅵ	J−5		J−5　南北バンク	No.1	09.10				1409
209	1410	磨製石斧(加工具)	蛇紋岩	51.62	8.80	3.80	1.15	Ⅴ	H−5	6			06.06				1410
209	1411	打製石器(石包丁)	泥質片岩	23.28	3.90	6.15	0.78	Ⅳ−2	F−5		TR−3−南東バンク		05.15				1411
210	1412	磨製石斧(太型蛤刃石斧)	緑色岩	530.00	15.23	6.15	3.70	W(IIIまたはⅣ)			95−6NOM	No.8	03.12	10.389	12.503	23.385	1412
211	1413	石錘	砂岩	27.32	3.59	4.19	1.42	Ⅶ−R	G−4	15	ROCK1		05.09				1413
211	1414	石錘	砂岩	20.73	3.01	4.20	1.33	Ⅶ	K−3	13							1414
211	1415	石錘	砂岩	43.90	4.16	5.29	1.51	Ⅶ			JK−6　西バンク		08.29				1415
211	1416	石錘(有溝石錘)	砂岩	16.31	4.21	2.34	1.57	Ⅴ	K−5	5	(溝状落ち込み)		05.24				1416
211	1417	石錘	砂岩	31.11	6.02	3.38	1.32	Ⅳ			ZT(F−7)		05.05				1417
211	1418	石錘	砂岩	60.13	5.66	5.42	1.73	Ⅳ	E−6		E−6−S		08.21				1418
212	1419	盤状剥片	サヌカイト	290.00	13.44	13.21	2.51	Ⅳ			95−6NOM	No.118	03.26	12.809	14.808	24.363	1419
216	1420	赤変砂岩礫	砂岩	33.12	3.52	6.04	1.85	X	F−4		F−4	No.421	10.04	16.212	13.800	23.960	1420
216	1421	敲石	砂岩	66.59	5.15	5.74	2.34	X			EF−5・TR−A 南バンク	No.221	09.14	15.488	13.046	23.907	1421
216	1422	敲石(赤変)	砂岩	104.00	3.04	7.06	5.29	X			EF−5	No.386	05.14	14.190	10.826	23.487	1422
216	1423	敲石(赤変)	砂岩	160.00	9.47	4.68	3.40	X	E−6		ZT(E−6)	No.115	06.18	13.037	10.157	23.032	1423
216	1424	敲石	砂岩	170.00	8.38	6.73	3.14	X			EF−5	No.390	05.14	13.510	11.259	23.390	1424
216	1425	敲石	砂岩	83.22	3.42	6.48	4.32	X			EF−5	No.318	05.14	14.846	12.205	23.837	1425
217	1426	敲石	砂岩	110.00	7.06	6.84	2.72	Ⅸ−3			EF−5・TR−A 南バンク	No.254	09.14	15.463	11.776	23.895	1426
217	1427	敲石	砂岩	52.00	4.87	4.50	2.60	Ⅸ	F−4		F−4	No.90	09.23	17.633	11.633	24.214	1427
217	1428	敲石(赤変)	砂岩	163.90	7.13	6.07	3.73	Ⅸ	F−4		F−4	No.232	10.02	15.758	11.669	23.712	1428
217	1429	敲石	砂岩	150.00	4.26	5.15	5.59	Ⅸ	E−5		95−6NOM		10.06				1429
217	1430	敲石	砂岩	150.00	7.45	6.17	2.93	Ⅸ	E−6		ZT(E−6)	No.25	06.11	13.048	10.327	23.259	1430

Fig.番号	図版番号	器　種	石　材	重量（g）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点（グリッド以外の地点表記）	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
218	1431	敲石	砂岩	131.00	9.30	6.58	2.21	Ⅷ－b			FG－5	No.128	05.22	16.024	14.781	24.197	1431
218	1432	敲石	砂岩	185.50	11.35	4.18	3.41	Ⅷ－b			EF－5・TR－A	No.218	05.07	14.396	11.922	23.713	1432
218	1433	敲石	砂岩	385.00	7.96	7.14	5.68	Ⅷ－b			EF－5・TR－A　南バンク	No.114	09.12	15.542	11.643	23.976	1433
218	1434	敲石（赤変）	砂岩	155.00	9.37	4.66	2.81	Ⅷ－b			FG－5	No.122	05.22	15.311	14.889	24.033	1434
218	1435	敲石	砂岩	55.00	5.03	5.14	2.36	Ⅷ－b			EF－5・TR－A　南バンク	No.75	09.12	15.162	12.900	23.972	1435
218	1436	敲石	砂岩	98.06	5.13	5.86	2.63	Ⅷ－b			EF－5・TR－A　南バンク	No.84	09.12	15.353	12.667	23.939	1436
218	1437	敲石（赤変）	砂岩	352.50	9.57	6.48	4.96	Ⅷ－b			TR－3 NSB	No.509	10.01	14.527	13.105	23.772	1437
218	1438	敲石	砂岩	55.33	6.13	5.54	1.79	Ⅷ－b			EF－5・TR－A　南バンク	No.49	09.11	15.548	12.545	23.997	1438
218	1439	敲石	砂岩	135.00	3.80	7.36	4.51	Ⅷ－b			EF－5・TR－A　南バンク	No.175	09.12	15.510	11.634	23.938	1439
218	1440	敲石	砂岩	706.00	9.02	8.29	6.46	Ⅷ－b			EF－5	No.478	05.21	15.374	11.848	23.947	1440
218	1441	敲石	砂岩	93.09	6.90	3.93	3.63	Ⅷ－b			EF－5・TR－A　南バンク	No.154	09.12	15.510	12.169	23.958	1441
218	1442	敲石	砂岩	400.00	7.42	7.36	5.26	Ⅷ－b			TR－3－南東	No.124	05.22	15.812	15.190	24.121	1442
218	1443	小楕円礫	砂岩	3.48	4.34	1.68	0.57	Ⅷ－b			F－6・7	No.660	09.17	7.792	11.769	22.334	1443
218	1444	細棒状礫	緑色岩	26.00	7.03	1.89	1.43	Ⅷ－b			JK－6　北バンク		09.28				1444
219	1445	敲石	砂岩	564.80	8.25	9.75	6.15	Ⅷ－a			TR－A	No.23	05.10	16.014	11.742	24.051	1445
219	1446	敲石	砂岩	55.44	7.56	5.41	1.29	Ⅷ－a			TR－3 NSB	No.74	09.27	17.935	13.939	24.363	1446
219	1447	敲石（赤変）	砂岩	115.00	8.46	4.89	3.33	Ⅷ－a	F－5	10	TR－3 NSB		09.29				1447
219	1448	敲石	砂岩	185.00	8.52	5.06	3.14	Ⅷ－a			TR－3 NSB	No.216	09.29	14.779	13.511	23.949	1448
219	1449	敲石	砂岩	394.00	7.27	7.81	5.44	Ⅷ－a	F－4		F－4	No.99	09.23	18.078	12.697	24.356	1449
219	1450	敲石	緑色片岩	265.00	16.20	4.90	2.59	Ⅷ－a	J－5		J－5　南北バンク	No.73	09.14	18.146	29.854	23.878	1450
219	1451	敲石	砂岩	160.00	6.62	5.98	4.06	Ⅷ－a			EF－5	No.19	04.24	15.469	10.870	23.977	1451
219	1452	敲石（赤変）	砂岩	330.00	7.46	8.17	5.09	Ⅷ－a			FG－4	No.2	05.28				1452
219	1453	敲石（赤変）	砂岩	98.60	4.35	7.95	4.10	Ⅷ－a			EF－5	No.16	04.24	13.693	12.001	23.670	1453
219	1454	敲石	砂岩	61.23	5.96	3.57	3.03	Ⅷ－a	F－5		TR－A	No.20	05.09				1454
219	1455	敲石	砂岩	218.50	6.00	7.05	4.05	Ⅷ－a			EF－5	No.17	04.24	14.199	12.032	23.828	1455
220	1456	敲石	砂岩	135.00	6.57	6.35	4.02	Ⅷ－a			EF－5	No.239	05.07	14.286	11.767	23.662	1456
220	1457	敲石	砂岩	125.50	4.15	8.47	3.32	Ⅷ－a			EF－5	No.18	04.24	14.361	12.889	23.906	1457
220	1458	敲石	砂岩	145.00	4.27	5.89	5.52	Ⅷ－a			EF－5	No.185	04.26	15.105	12.773	24.009	1458
220	1459	敲石	砂岩	150.00	6.54	5.08	4.50	Ⅷ－a			TR－3 NSB	No.170	09.28	18.201	14.662	24.545	1459
220	1460	敲石（赤変）	砂岩	160.00	5.52	7.41	4.44	Ⅷ－a			TR－3 NSB	No.270	09.29	13.423	12.945	23.697	1460
220	1461	敲石	花崗岩	190.00	4.16	8.06	5.56	Ⅷ－a	F－6		ZT（F－6）	No.72	06.12	9.773	14.600	22.873	1461
220	1462	敲石	砂岩	180.00	6.79	6.73	3.60	Ⅷ－a	F－6		ZT（F－6）	No.84	06.12	10.167	13.158	22.909	1462
220	1463	敲石（赤変）	砂岩	19.35	2.89	4.01	1.63	Ⅷ－a			F－6・7	No.90	08.29	7.243	15.007	22.659	1463
220	1464	敲石（赤変）	砂岩	95.00	6.61	6.53	2.23	Ⅷ－a			F－6・7	No.94	08.29	8.153	14.192	22.704	1464
220	1465	敲石	砂岩	326.00	9.30	6.50	4.95	Ⅷ－a	E－7				10.02				1465
220	1466	敲石	砂岩	178.00	8.19	4.48	6.64	Ⅷ－a	F－4			No.101	09.23	18.434	12.026	24.373	1466
220	1467	敲石	緑色片岩	194.00	7.84	5.07	4.65	Ⅷ－a			ユニット2	No.19	05.20	14.580	20.618	24.491	1467
220	1468	敲石（赤変）	砂岩	51.24	5.39	5.78	1.67	Ⅷ－a			TR－12　西バンク	No.8	09.27	14.307	33.266	23.983	1468
220	1469	敲石（赤変）	砂岩	27.93	3.95	3.09	1.85	Ⅷ－a	J－5	5			07.31				1469
220	1470	敲石	チャート礫を含む砂礫岩	55.00	2.75	4.60	4.32	Ⅷ－a			JK－5	No.715	08.30	13.849	30.553	23.967	1470
220	1471	敲石	砂岩	85.00	7.65	4.64	2.31	Ⅷ－a			JK－5	No.60	07.18				1471
220	1472	敲石（赤変）	砂岩	85.68	7.42	5.14	1.67	Ⅷ－a			JK－5	No.87	07.18				1472
220	1473	敲石	砂岩	225.00	6.05	7.09	5.49	Ⅷ－a			JK－5	No.551	08.21	13.426	31.376	20.000	1473
221	1474	敲石	緑色岩	260.00	13.50	7.48	2.69	Ⅶ			FG－5	No.1	05.07	15.976	15.438	24.573	1474
221	1475	敲石	砂岩	186.00	9.96	4.08	2.90	Ⅶ			J－5　南北バンク	No.2	09.10	13.223	29.618	24.021	1475
221	1476	敲石（赤変）	砂岩	151.00	10.10	5.21	2.55	Ⅶ	J－5		TR－A　南バンク東		07.04				1476
221	1477	敲石	砂岩	692.00	11.23	9.91	4.55	Ⅶ	G－4	14			05.10				1477
221	1478	敲石	緑色片岩	261.00	14.70	4.91	2.20	Ⅶ	G－4		G－4	No.10	05.10	16.920	18.098	24.573	1478
221	1479	敲石	砂岩	143.00	5.17	7.71	2.98	Ⅶ			TR－3 NSB	No.34					1479
221	1480	敲石	砂岩	192.00	6.34	8.83	2.85	Ⅶ			FG－5		05.14				1480
221	1481	敲石	砂岩	425.00	10.90	8.23	3.48	Ⅶ			TR－3－南東		05.17				1481
221	1482	敲石	砂岩	174.00	6.78	5.37	3.70	Ⅶ	E－6		E－6－S		08.30				1482
221	1483	台石（赤変）	砂岩	1475.00	13.30	11.80	5.38	Ⅶ	F－6		ZT（F－6）	No.101	06.13	8.422	16.201	23.170	1483
222	1484	敲石	砂岩	258.00	12.30	5.96	3.44	Ⅶ	E－6		E－6－S	No.13	08.30	9.189	10.947	23.011	1484
222	1485	敲石	砂岩	586.00	11.73	10.81	3.70	Ⅶ－2			F－6・7	No.60	08.27	8.845	15.338	22.943	1485

Fig.番号	図版番号	器種	石材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土層位	4mグリッド	1mグリッド	出土地点(グリッド以外の地点表記)	番号・遺構	日付	X	Y	Z	図版番号
222	1486	敲石(赤変)	砂岩	327.00	5.57	9.69	5.66	Ⅶ	E−6		E−6−S	No.11	08.30	9.494	10.972	23.046	1486
222	1487	敲石(赤変)	砂岩	299.00	6.46	3.57	5.98	Ⅶ−2			F−6・7	No.51	08.27	8.881	14.530	22.862	1487
222	1488	敲石	緑色岩	586.00	12.19	10.24	4.41	Ⅶ−2			F−6・7	No.46	08.27	8.099	13.935	22.684	1488
222	1489	敲石(赤変)	砂岩	230.25	11.80	5.99	2.20	Ⅶ	E−6		E−6−S	No.14	08.30	9.046	10.931	23.016	1489
222	1490	敲石	砂岩	17.83	3.79	3.57	1.58	Ⅶ−YR			JK−6		09.04				1490
222	1491	敲石	砂岩	80.00	4.15	3.92	4.47	Ⅶ−SR3			JK−5	No.249	07.26	14.016	32.143	24.115	1491
222	1492	敲石	砂岩	333.00	11.40	6.79	3.10	Ⅶ	J−2				05.31				1492
222	1493	敲石	緑色片岩	390.00	10.60	8.12	2.80	Ⅶ	J−2				05.31				1493
222	1494	敲石	砂岩	260.00	13.05	6.16	2.65	Ⅶ			ブロック①	No.227	05.27	18.662	35.950	25.209	1494
223	1495	敲石	砂岩	128.00	7.25	4.35	3.63	Ⅶ	J−4	15	ブロック④		05.28				1495
223	1496	敲石	緑色片岩	426.00	8.68	9.79	4.64	Ⅶ			TR−11	No.22	05.16	15.245	33.742	24.607	1496
223	1497	敲石	砂岩	360.00	5.81	9.43	5.47	Ⅶ			KL−4 SW−B		10.04				1497
223	1498	敲石(赤変)	砂岩	2800.00	20.80	17.50	6.30	Ⅶ	K−4	9	ブロック④	No.8	05.31				1498
223	1499	敲石	砂岩	338.00	6.48	10.25	4.24	Ⅵ	F−6	15			08.19				1499
223	1500	敲石	砂岩	410.00	7.20	8.31	4.85	Ⅵ			F−6・7	No.41					1500
223	1501	敲石	緑色岩系の堆積岩	360.00	5.69	8.64	5.19	Ⅵ	F−5	16			08.16				1501
223	1502	敲石	砂岩	230.00	5.93	8.80	3.41	Ⅵ			TR−1 東バンク		09.18				1502
223	1503	敲石	砂岩	695.00	10.70	10.78	4.45				Ⅴ区	No.59	03.18	14.806	19.119	25.238	1503
224	1504	敲石(赤変)	砂岩	1439.00	13.30	10.43	7.90	Ⅳ			F−6・7		08.16				1504
224	1505	敲石	砂岩	697.00	12.40	8.72	4.62	Ⅳ	F−7		F−7	No.1	09.16				1505
224	1506	敲石	砂岩	332.00	7.04	7.86	4.66	Ⅳ	F−7		ZT(F−7)						1506
224	1507	敲石	砂岩	210.00	6.29	6.11	3.76	Ⅳ	F−7		F−7	No.6	09.26	3.772	15.224	22.641	1507
224	1508	敲石(赤変)	砂岩	84.09	8.17	4.66	1.72	Ⅳ	F−7	3			08.15				1508
224	1509	敲石	砂岩	117.00	9.13	4.83	2.14	Ⅳ	E−6		E−6−S	No.5	08.22	9.399	10.377	23.210	1509
224	1510	敲石	緑色片岩	438.00	10.58	8.59	2.65	Ⅳ	F−7		F−7	No.3	09.26	3.935	14.636	22.486	1510
224	1511	敲石	砂岩	153.00	7.17	8.09	1.75	Ⅳ			F−6・7		08.16				1511
224	1512	敲石	砂岩	540.00	13.12	10.47	2.87	Ⅳ	E−6		E−6−S	No.2					1512
224	1513	敲石	砂岩	1110.00	11.55	12.77	5.63	Ⅳ			ROCK2	No.1	08.07	9.564	10.876	23.995	1513
225	1514	敲石	砂岩	764.00	12.50	9.70	4.47	W			95−6NOM	No.15	03.12	13.630	15.666	24.275	1514
225	1515	敲石	砂岩	496.00	9.74	8.92	4.19	包含層	G−5			No.1					1515
225	1516	敲石	緑色岩	400.00	6.84	8.43	4.26	G−①	F−7		F−7	No.82	09.28	3.968	16.026	22.319	1516

Tab. 32　縄文土器　出土層位・出土地点・座標一覧表 ①

Fig. 番号	図版 番号	遺構／層位	遺物が出土した4mグリッド	取り上げ時の地点表記（グリッドを含み、取り上げ番号に対応する。遺構名は変更後のもの）	番号	日付	X	Y	Z	時　期	分　類
226	2001	SX101	H−7	SX101　中央バンク	No.52801	05.28	6.801	21.334	22.718	草創期前半	草創期1類A
226	2002	SX101	H−7	SX101（ES）	No.52701	05.27	6.613	21.898	22.448	草創期前半	草創期2類
226	2003	SX101	H−7	SX101	No.155	04.25	7.113	24.415	22.618	草創期前半	草創期3類
226	2004	SX101	H−7	SX101　中央バンク	No.52803	05.28	6.844	20.707	22.471	草創期前半	草創期3類
226	2005	SX101	H−7	SX101　中央バンク	−	05.28	−	−	−	早期？	草創期4類
226	2006	G−②	G−8	F−7	No.98	10.02	3.423	16.181	22.397	草創期前半〜中葉	草創期1類B
226	2007	Ⅴ	K−4	TR11北バンク	No.66	09.28	16.241	33.613	25.092	草創期（?）	草創期1類C
227	2008	Ⅶ	G−5	G−5	No.27	06.11	14.647	19.994	24.828	早期中葉	早期1類A
227	2009	Ⅴ	F−6	F−6−14　F−6･7	−	08.16	−	−	−	早期中葉〜後半	早期1類B
227	2010	Ⅶ	F−4	F−4･東西バンク	−	09.04	−	−	−	早期中葉〜後半	早期1類B
227	2011	Ⅶ	F−4	F−4･東西バンク	−	09.04	−	−	−	早期中葉〜後半	早期1類B
227	2012	Ⅶより上層	L−3	L−3−2	No.1	07.31				早期中葉〜後半	早期1類C
227	2013	Ⅵ	F−6	F−6･7	No.23	08.19	8.126	14.869	23.008	早期後半	早期1類D1
227	2014	Ⅴ	F−6	F−5･6	No.17	08.16	8.523	14.499	23.079	早期後半	早期1類D1
227	2015	排土一括	F−5	A地点	−	04.02	−	−	−	早期後半	早期1類D1
227	2016	G−②	G−8	G−7−S	No.111	09.27	3.145	16.793	22.444	早期後半	早期1類D2
227	2017	Ⅴ	F−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.78	03.22	16.463	13.694	25.356	早期後半	早期1類D2
227	2018	G−①	G−8	F−7	No.99	10.02	3.716	16.419	22.405	早期後半	早期1類D2
227	2019	Ⅴ	F−7	F−7−2　F−6･7	−	08.16	−	−	−	早期後半	早期1類D2
227	2020	G−①	G−7	G−7−S	No.100	09.27	4.324	16.441	22.800	早期後半	早期1類D2
227	2021	Ⅳ	F−6	F−5･6	No.4	08.15	8.090	14.856	23.141	早期後半	早期1類D2
227	2022	G−①	G−7	G−7−S	No.118	09.28	4.246	16.409	22.319	早期後半	早期1類D2
227	2023	G−①	G−7	G−7−S	No.101	09.27	4.325	16.439	22.784	早期後半	早期1類D2
227	2024	検出時	F−6	F6検出時	−	03.12	−	−	−	早期後半	早期1類D2
227	2025	Ⅳ	F−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.73	03.21	12.680	15.155	?	早期後半〜末	早期6類
227	2026	Ⅳ	F−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.67	03..21	13.346	15.215	?	早期後半〜末	早期6類
228	2027	G−②	G−7	F−7	No.91	09.29	4.245	16.250	22.083	早期後半	早期2類
228	2027	G−①	G−7	G−7−S	No.121	09.28	4.527	16.428	22.273	早期後半	早期2類
228	2028	G−②	G−7	F−7	No.92	09.29	4.395	16.090	22.197	早期後半	早期2類
228	2029	Ⅶ	G−7	調査区南端	−	07.16	−	−	−	早期後半	早期2類
228	2030	G−②	G−7	F−7	No.91	09.29	4.245	16.250	22.083	早期後半	早期2類
228	2031	Ⅳ	F−7	F−7	No.28	09.27	5.135	13.000	22.130	早期後半	早期2類
228	2032	Ⅴ	F−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.114	03.26	16.867	13.315	25.278	早期後半	早期2類
229	2033	Ⅴ	F−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.104	03.26	16.577	13.310	25.368	早期後半	早期3類
229	2034	Ⅴ	F−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.90	03.26	16.010	14.800	25.168	早期後半	早期3類
229	2035	Ⅴ	E−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.89	03.26	15.999	14.905	25.143	早期後半	早期3類
229	2036	Ⅴ	G−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.45	03.18	14.195	16.998	24.806	早期後半	早期3類
230	2037	Ⅴ	F−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.124	03.26	16.051	14.413	24.972	早期中葉〜末	早期4類

Tab. 32　縄文土器　出土層位・出土地点・座標一覧表 ②

Fig. 番号	図版 番号	遺構／層位	遺物が出土した4mグリッド	取り上げ時の地点表記（グリッドを含み、取り上げ番号に対応する。遺構名は変更後のもの）	番号	日付	X	Y	Z	時　期	分　類
230	2038	Ⅳ	F−7	F−7−3　一括	−	08.09	−	−	−	早期中葉～末	早期4類
230	2039	Ⅶ	G−4	G−4	No.11	05.10	17.205	17.527	24.955	早期中葉～末	早期4類
230	2040	Ⅶ	I−5	I−5−8	No.1	04.08	14.910	27.698	24.750	早期中葉～末	早期4類
230	2041	Ⅶ−2	F−7	F−7−3	−	08.26	−	−	−	早期中葉～末	早期4類
230	2042	検出時	F−6	F6検出時	−	03.12	−	−	−	早期中葉～末	早期4類
230	2043	G−②	G−8	G−7−S	No.115	09.27	3.553	18.111	22.512	早期中葉～末	早期4類
230	2044	Ⅶ	H−6	G−5	No.1	05.14	11.688	21.300	24.820	早期中葉～末	早期4類
230	2045	Ⅴ	F−4	F−4	No.115	03.26	16.490	15.073	25.254	早期中葉～末	早期4類
230	2046	サブトレ①下層	F−5	サブトレ①(TR−3先行トレンチ)一括	−	03.26	−	−	−	早期中葉～末	早期4類
230	2047	G−②	G−8	G−7−S	No.108	09.27	3.964	17.054	22.779	早期中葉～末	早期4類
230	2048	Ⅶ	F−5	TR−3	No.9	04.18	14.375	14.408	24.236	早期	早期?
230	2049	Ⅴ	F−5	A地点	No.136	04.02	15.625	15.056	24.731	早期後半～末	早期5類
230	2050	Ⅴ	F−5	A地点	No.136	04.02	15.625	15.056	24.731	早期後半～末	早期5類
230	2051	Ⅶ	K−3	TR−12　NSバンク	No.1	09.26	22.158	34.144	26.427	早期後半～末	早期6類
231	2052	Ⅵ	F−6	F−5･6	No.12	08.16	8.350	14.545	23.098	早期末～前期初頭	前期1類
231	2053	Ⅵ	F−6	F−5･6	No.22	08.19	8.742	14.932	23.026	早期末～前期初頭	前期1類
231	2054	G−①	G−7	G−7−S	−	08.16	−	−	−	前期初頭	前期2類
231	2055	Ⅳ	E−4	E−4	−	04.03	−	−	−	前期初頭	前期2類
231	2056	Ⅳ	F−7	ZT(F−7)	−	08.05	−	−	−	前期初頭	前期2類
231	2057	埋め立て土	F−7	F−7	−	09.24	−	−	−	前期初頭	前期2類
231	2058	Ⅳより上層	−	F−6･7	−	08.16	−	−	−	前期初頭	前期2類
231	2059	Ⅴ	G−5	G−5	No.1	06.07	13.778	18.199	24.572	前期初頭	前期3類
231	2060	Ⅵ･Ⅶ排土	−	I･J−5周辺	−	04.08	−	−	−	前期初頭	前期4類
231	2061	Ⅳ	F−8	F−7	No.21	09.26	3.997	14.875	22.265	前期初頭	前期5類
231	2062	ES−Ⅰ	H−8	ES	No.161	04.25	3.484	23.560	22.001	前期初頭	前期5類
231	2063	Ⅳ	F−7	F−5･6	No.7	08.15	7.569	13.215	23.115	前期初頭	前期6類
231	2064	G−①	G−8	G−7−S	No.104	09.27	3.645	16.859	22.894	前期前半	前期7類
231	2065	Ⅳ	F−7	ZT(F−7)	−	08.05	−	−	−	前期前半	前期8類
231	2066	Ⅴ	G−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.44	03.18	13.685	16.532	24.728	前期前半	前期9類
231	2067	Ⅳ	E−6	E−6−S	−	−	−	−	−	前期前半	前期9類
231	2068	Ⅲ	F−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.12	03.12	13.991	14.046	22.890	前期前半	前期10類
232	2069	Ⅳ	F−7	ZT(F−7)	−	08.05	−	−	−	前期末	前期11類
232	2070	Ⅳより上層	F−6/F−7	F−6･7	−	08.16	−	−	−	前期末	前期11類
232	2071	サブトレ①上層	F−5	サブトレ①(TR−3先行トレンチ)一括	−	03.26	−	−	−	前期末	前期11類
232	2072	Ⅳ	F−7	ZT(F−7)	−	08.05	−	−	−	前期末	前期11類
232	2073	Ⅳ	F−8	F−7	No.7	09.26	3.425	14.838	22.564	前期末	前期11類
232	2074	Ⅳ	E−6	E−6−S	−	−	−	−	−	前期末	前期12類
232	2075	Ⅶ	K−3	TR−12　西バンク	−	07.31	−	−	−	前期末	前期12類

Tab. 32　縄文土器　出土層位・出土地点・座標一覧表 ③

Fig. 番号	図版 番号	遺構／層位	遺物が出土した4mグリッド	取り上げ時の地点表記（グリッドを含み、取り上げ番号に対応する。遺構名は変更後のもの）	番号	日付	X	Y	Z	時　期	分　類
232	2076	Ⅶ層の上にのる褐色粘土	E−6	ZT南端	−	04.09	−	−	−	前期末	前期12類
232	2077	Ⅴ	E−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.35	03.14	16.786	11.832	25.317	前期末	前期13類
232	2078	Ⅳ〜Ⅵ	F−5	TR−3−S　東	−	05.09?	−	−	−	前期末	前期13類
232	2079	Ⅳ	F−7	F−7−2	−	08.15	−	−	−	前期末	前期13類
232	2080	Ⅳ	F−7	F−7−8	No.10	08.09	6.284	15.472	23.230	前期末	前期13類
232	2081	Pit−4	E−6	ZT（E−6）	−	04.11	−	−	−	前期末	前期14類
232	2082	Ⅴ	F−4	95−6NOM　Ⅴ区	No.121	03.26	16.159	14.580	25.080	前期末	前期15類
232	2083	Ⅴ	G−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.55	03.18	15.821〜16.012	15.473〜15.961	25.341〜25.346	前期末	前期15類
232	2084	Ⅶ	K−3	TR−12　西バンク	−	07.13	−	−	−	前期末	前期15類
232	2085	P201	J−5	J−5−1	−	04.04	−	−	−	前期末	前期16類
232	2086	Ⅳ	E−6	E−6−S	−	−	−	−	−	前期末	前期12類
232	2087	G−①	F−7	F−7	No.84	09.28	4.414	15.699	22.199	前期末	前期12類
232	2088	Ⅳ〜Ⅶ	F−5	TR−3−S　東	−	05.09	−	−	−	前期末	前期17類
232	2089	G−②	G−8	G−7−S	No.113	09.27	3.700	18.137	22.597	前期末	前期17類
232	2090	Ⅶ	G−5	ユニット2	No.3	05.20	13.835	18.750	24.544	早期か前期	前期?
233	2091	Ⅳ	E−6	E−6−S	No.1	08.21	9.629	10.099	23.318	中期初頭	中期1類
233	2092	Ⅳ	F−5	TR−3北の東側　C地点	−	04.03	−	−	−	中期初頭	中期2類
233	2093	KS−Ⅰ	G−8	G−7−S	No.50	09.26	3.637	17.676	22.549	中期初頭	中期3類
233	2094	Ⅲ	F−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.28	03.13	13.724	15.655	24.123	中期初頭	中期4類
233	2095	Ⅳ	F−6	F−5･6	No.6	08.15	8.062	14.525	23.120	中期初頭	中期4類
233	2096	KS	G−7	G−7−S	No.7	09.24	4.415	17.366	22.548	中期初頭	中期4類
233	2097	Ⅳ−1	F−5	TR−3−S　東バンク	−	05.15	−	−	−	中期初頭	中期4類
233	2098	Ⅴ	F−5	A地点	−	03.27	−	−	−	中期初頭	中期4類
233	2099	Ⅴ	F−5	A地点	−	03.27	−	−	−	中期初頭	中期4類
233	2100	Ⅳより上層	F−6／F−7	F−6･7	−	08.16	−	−	−	中期初頭	中期4類
233	2101	Ⅳ	F−7	F−7−8	No.7	08.09	6.490	15.655	23.238	中期初頭	中期4類
234	2102	Ⅳ	G−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.43	03.18	13.563	16.721	?	中期末後期初頭	後期1類
234	2103	Ⅳ	F−5	TR−3−S　東	−	04.03	−	−	−	中期末後期初頭	後期2類
234	2104	Ⅳ	F−7	F−7−8	No.4	08.09	6.586	15.574	23.234	中期末後期初頭	後期3類
234	2105	Ⅳより上層	F−6／F−7	F−6･7	−	08.16	−	−	−	中期末後期初頭	後期1類
234	2106	Ⅴ	E−5	Ⅴ区（95−6NOMから連続）	No.139	04.03	14.412	11.205	23.396	中期末後期初頭	+
234	2107	Ⅳ	G−5	95−6NOM　Ⅴ区	No.58西	03.21	13.604	18.235	24.772	中期末後期初頭	後期1類
234	2108	Ⅳより上層	F−6／F−7	F−6･7　東バンク	−	09.23	−	−	−	中期末後期初頭	後期3類
234	2109	Ⅳ	E−6	E−6−S	−	08.27	−	−	−	中期末後期初頭	+
234	2110	Ⅶ層の上にのる褐色粘土	E−6	ZT南端	−	04.09	−	−	−	中期末後期初頭	+
234	2111	Pit−12		95−6NOM　Ⅴ区	−	03.19	−	−	−	中期末後期初頭	+
234	2112	Ⅳ	E−6	E−6	−	−	−	−	−	中期末後期初頭	後期2類
234	2113	Ⅳ	F−7	ZT（F−7）	−	08.05	−	−	−	中期末後期初頭	後期2類

Tab. 32　縄文土器　出土層位・出土地点・座標一覧表 ④

Fig. 番号	図版 番号	遺構／層位	遺物が出土した4mグリッド	取り上げ時の地点表記（グリッドを含み、取り上げ番号に対応する。遺構名は変更後のもの）	番号	日付	X	Y	Z	時　期	分　類
234	2114	検出時	F−6	F6検出時	−	03.12	−	−	−	中期末後期初頭	+
234	2115	Ⅶ層の上にのる褐色粘土	E−6	ZT南端	−	04.09	−	−	−	中期末後期初頭	後期2類
234	2116	P−7			−	−	−	−	−	中期末後期初頭	+
234	2117	Ⅳ	F−7	ZT（F−7）	−	08.06	−	−	−	中期末後期初頭	+
234	2118	検出時	F−6	F6検出時	−	03.12	−	−	−	後期中葉	後期4類
234	2119	Ⅳ	F−5	95−6NOM　V区	No.101	03.26	12.501	14.707	24.700	後期中葉	後期5類
235	2120			TR−3−NSB	−	10.02	−	−	−	中期末後期初頭	後期2類
235	2121	Ⅳ	F−5	95−6NOM　V区	No.70周辺	03.22	13.416	15.622	?	中期末後期初頭	後期1類
235	2122	Ⅳ	F−7	F−5･6	No.1	08.15	6.460	15.421	23.224	中期末後期初頭	後期1類
235	2123	KS	G−8	G−7−S	No.3	09.24	3.906	17.377	22.664	後期	+
235	2124	Ⅳ	F−5	95−6NOM　V区	No.63	03.21	13.743	12.757	?	後期	+
235	2125	Ⅳ	F−5	95−6NOM　V区	No.64	03.21	13.690	12.880	?	後期?	後期6類
235	2126	Ⅷ	K−3	TR−12 西バンク	−	07.31	−	−	−	後期	後期6類
235	2127	Ⅵ	F−6	F−5･6	No.20	08.16	9.145	13.653	23.140	後期	後期6類
235	2128	G−①	G−7	G−7−S	No.92	09.26	4.322	16.450	22.540	後期あるいは早期	+
236	2129	V	F−4	95−6NOM　V区	No.75〜81	03.22	16.400〜17.377	13.377〜14.325	25.248〜25.742	時期不明	+
236	2130	V	F−4	95−6NOM　V区	No.79	03.22	16.338	13.377	25.371	時期不明	+
236	2131	Ⅷ	K−3	TR−12 西バンク	−	07.31	−	−	−	時期不明	+
236	2132	Ⅳ	F−7	ZT（F−7）	−	08.05	−	−	−	時期不明	+
236	2133	Ⅲ	F−5	95−6NOM　V区	No.18	03.12	14.329	14.892	23.597	時期不明	+
236	2134	Ⅶ−2／Ⅷ−b	J−5	J−5−5	No.2	04.08	14.900	28.544	24.405	時期不明	+
236	2135	V	F−4	95−6NOM　V区	No.75〜81	03.22	16.400〜17.377	13.377〜14.325	25.248〜25.742	時期不明	+
236	2136	V	F−5	A地点	−	03.27	−	−	−	時期不明	+
236	2137	V	F−4	95−6NOM　V区	No.116	03.26	16.254	15.275	25.422	時期不明	+
236	2138	KS−1	G−8	G−7−S	No.62	09.26	3.654	18.162	22.628	時期不明（早期?）	+
236	2139	V	F−4	95−6NOM　V区	No.127	03.27	16.878	12.847	25.107	時期不明	+
236	2140	Ⅷ	K−3	TR−12 西バンク	−	07.31	−	−	−	時期不明（早期?）	+
237	2141	Ⅳ	F−6	95−6NOM　V区	No.25	03.13	9.600〜9.800	13.000〜14.200	23.600〜13.800	時期不明	+
237	2142	Ⅳ	F−6	95−6NOM　V区	No.24	03.13	9.600〜9.800	13.000〜14.200	23.600〜13.800	時期不明	+
237	2143	V	G−5	95−6NOM　V区	No.57	03.18	13.424	17.452	24.807	時期不明	+
237	2144	Ⅶ層の上にのる褐色粘土	E−6	ZT南端	−	04.09	−	−	−	時期不明	+

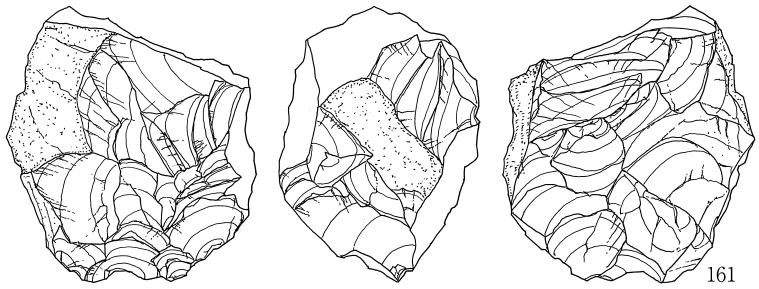
追加資料

調査の成果の図版中に組み込むことのできなかった資料の中で、掲載する必要があると考える資料について、追加資料として示す。

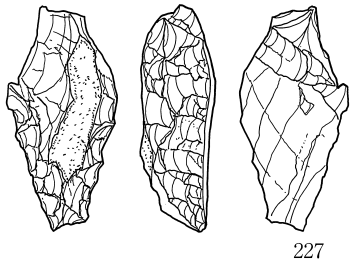
Fig.247～249については、実測・トレース図を（株）アルカに委託した。番号は石器委託時の番号をそのまま使用、番号の頭にAを付けて図版番号とする。器種及び出土地点・層位・取り上げ番号はトレース図の横に付記、Tab.33に一覧表としてまとめる。

Tab. 33　追加資料(石器類)一覧表

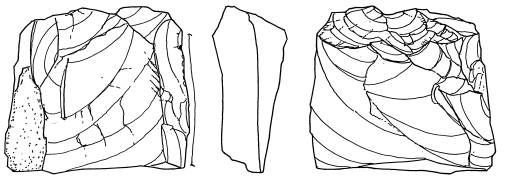
Fig.番号	番号	出土層位	出土地点	番号･遺構	日付	石材	機種	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
247	A 161	Ⅶ−SR−3	JK−6	No.139	7.25	チャート	礫器?	108.7	54.3	50.1	40.2
247	A 227	Ⅶサイカ	F−6･7	No.741	9.17	チャート	掻器	13.7	44.6	22.0	15.2
247	A 246	Ⅶ	ES南壁　G−7		7.12	チャート	使用痕のある剥片	19.3	33.1	37.0	15.0
247	A 234	Ⅷ−a	J−4−⑬	No.45	9.22	チャート	使用痕のある剥片	9.3	33.2	26.6	12.4
247	A 134	Ⅶ	K−5･6	No.14	7.22	チャート	削器	40.9	72.0	35.3	18.5
247	A 312	Ⅶ～Ⅷ	岩陰2　SW−2		9.29	チャート	削器	9.8	30.8	27.2	14.0
247	A 302	Ⅶ	G−7	SK−5	7.16	チャート	鋸歯縁石器	11.2	34.1	34.5	11.8
247	A 318	Ⅷ−a	TR−3−N		4.22	チャート	掻器	14.1	35.2	28.5	14.6
247	A 179	Ⅷ−a	JK−4	No.44	7.23	チャート	掻器	14.3	34.4	27.4	17.5
247	A 104	Ⅷ−b	TR−3 NSB	No.45	9.27	チャート	鋸歯状掻器	5.3	21.8	23.4	10.4
248	A 333	Ⅷ−a	K−4−⑫		8.1	チャート	不規則剥離のある剥片	3.0	34.4	18.5	7.5
248	A 278	Ⅴ	G−5−⑦⑩ TR4西		6.7	チャート	剥片	4.8	23.1	25.3	9.6
248	A 311	Ⅶ	KL−5	No.44	9.28	チャート	偽石器	6.2	30.3	23.7	11.4
248	A 54	Ⅷ−a	JK−5	No.435	8.11	チャート	剥片	8.5	32.9	25.0	13.2
248	A 7	Ⅷ−a	E−6−S	No.95	9.18	頁岩	剥片	42.4	55.5	23.9	34.3
248	A 446	Ⅷ−a～Ⅷ−b	TR−3−SS		6.6	チャート	剥片	3.4	38.5	14.5	7.5
248	A 239	Ⅷ−b	F−6･7	No.703	9.17	チャート	剥片	5.5	33.6	21.6	10.4
248	A 255	Ⅶサイカ	TR−11 北バンク	No.4	9.27	チャート	打面再生剥片	7.6	31.5	34.7	10.5
248	A 244	Ⅶ	K−3−⑬		不明	チャート	間接打撃による剥片	4.2	32.0	21.2	8.1
248	A 171	Ⅷ−a	TR−3−N	No.3	4.18	チャート	石核	25.6	37.3	37.8	23.7
248	A 172	Ⅷ−a	TR−3−S		4.22	チャート	間接打撃の石核	7.5	21.8	29.9	12.9
248	A 297	Ⅶ	TR−12横バンク	No.2	5.27	チャート	人工品	6.0	31.6	18.3	12.1
249	A 447	Ⅷ−a	JK−5	No.751	8.30	チャート	ナイフ形石器	4.4	34.7	16.8	9.3
249	A 376	Ⅷ−b	EF−6･7	No.174	10.4	チャート	縄文剥片	4.4	26.1	22.2	8.7
249	A 130	G−③	G−7−S		9.27	チャート	縄文石器(器種不明石器)	3.1	16.4	23.5	11.5
249	A 384	④−2	J−7	No.392	7.3	チャート	縄文石器(有茎鏃未製品)	7.3	43.8	19.0	10.5
249	A 427	Ⅳ	J−7		8.6	チャート	縄文剥片	19.7	44.9	50.8	12.3
249	A 269	Ⅷ−b	F−5	No.56	5.14	チャート	縄文剥片	28.0	49.1	42.2	14.8
249	A 387	G−②	G−7−S	No.114	9.27	チャート	縄文削器	7.7	41.6	25.2	8.8
249	A 132	Ⅶ−2	JK−5	No.53	7.18	チャート	尖頭器未製品	51.9	60.5	39.5	23.8
249	A 442	Ⅷ	TR−3−NSB		9.25	チャート	石匙	4.0	37.0	16.5	7.4


161

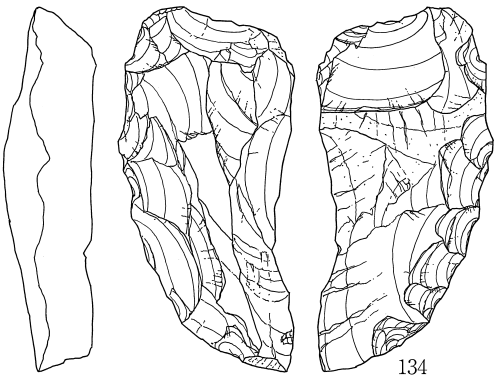
礫器（？）
JK-6
Ⅶ-SR-3層
No.139


227

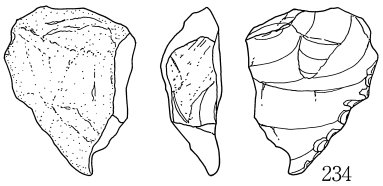
掻器　F-6・7　Ⅶサイカ層　No.741


246

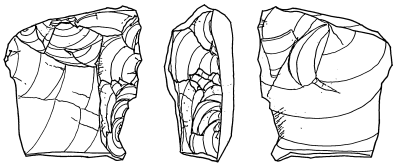
使用痕のある剥片　G-7　Ⅶ層


134

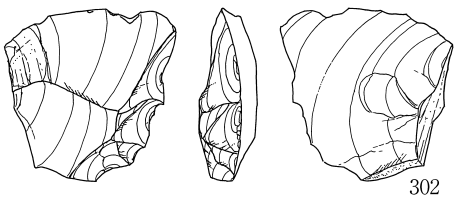
削器　K-5・6　Ⅶ層　No.14


234

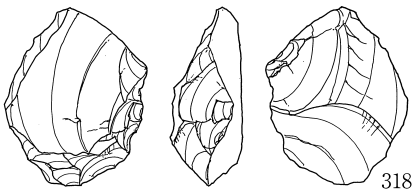
使用痕のある剥片　J-4-13　Ⅷ-a層　No.45


312

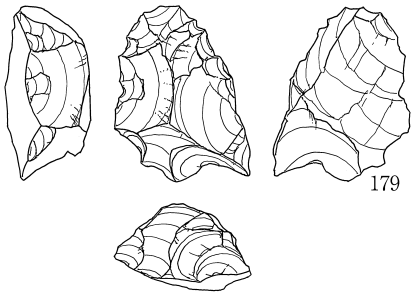
削器
2号岩陰SW-2
Ⅶ～Ⅷ


302

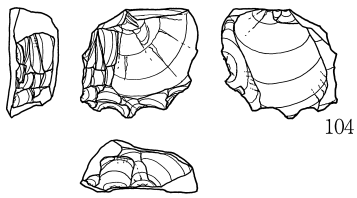
鋸歯縁石器　G-7　Ⅶ層


318

掻器　TR-3-N　Ⅷ-a層

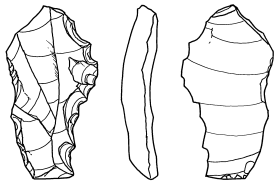

179

掻器　JK-4　Ⅷ-a層　No.44

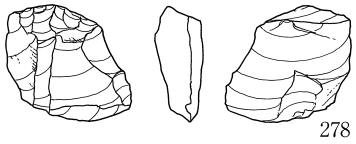

104

鋸歯状掻器　TR-4-NSB　Ⅷ-a層

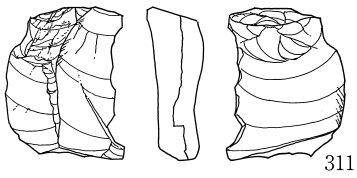
Fig. 247　追加石器図版①


333

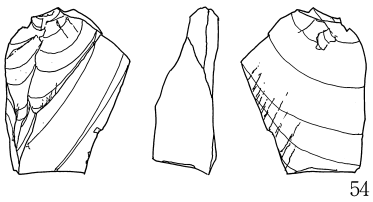
不規則剥離のある剥片
K-4-12　Ⅷ-a層


278

剥片　G-5-7・11　Ⅴ層
TR-4西


311

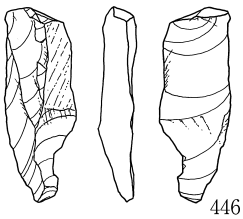
偽石器　KL-5　Ⅶ層　No.44


54

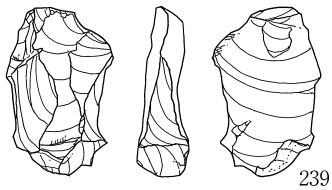
剥片　JK-5　Ⅷ-a層　No.435

7

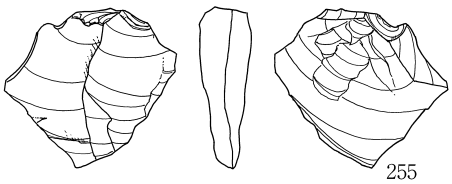
頁岩　剥片　E-6-S　Ⅷ-a層　No.95


446

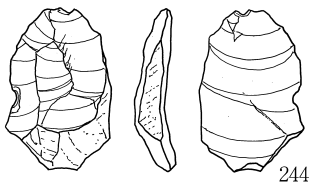
剥片　TR-3-SS　Ⅷ-a・b層


239

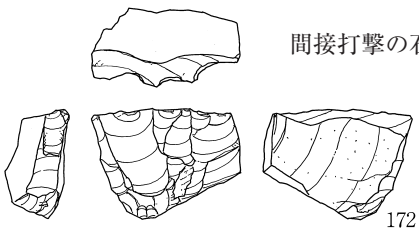
剥片　F-6・7　Ⅷ-b層　No.703


255

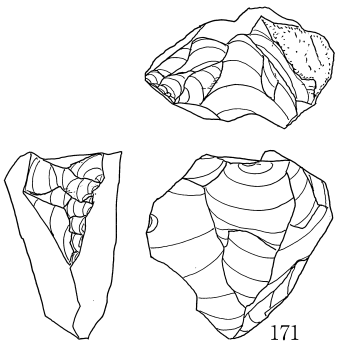
打面再生剥片　TR-11　北バンク
Ⅶ-サイカ層　No.4


244

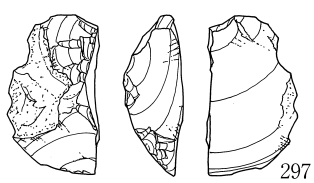
間接打撃による剥片　K-3-13　Ⅶ層


172

間接打撃の石核
TR-3-S　Ⅷ-a層

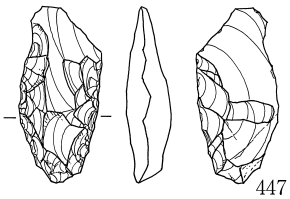

171

石核　TR-3N　Ⅷ-a層　No.3

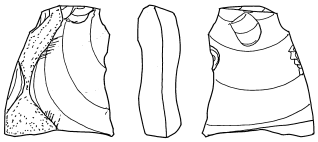

297

人工品
（石核）
TR-12　No.2
Ⅶ層

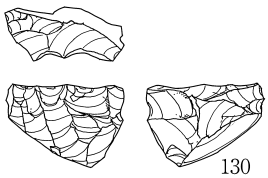
Fig. 248　追加石器図版②


447

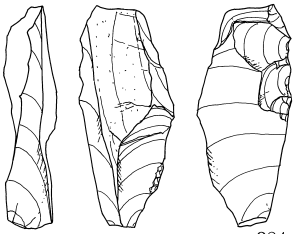
JK-5　Ⅷ-a層　No.751
ナイフ形石器


376

縄文剥片　EF-6・7
Ⅷ-b層　No.174

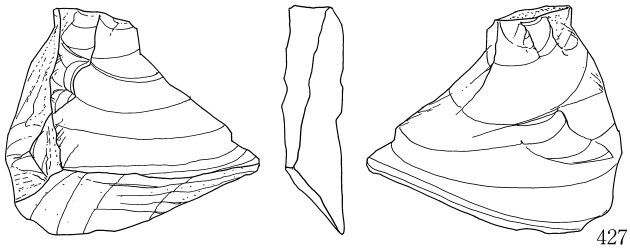

130

縄文石器（器種不明石器）
G-7-S　G-③層

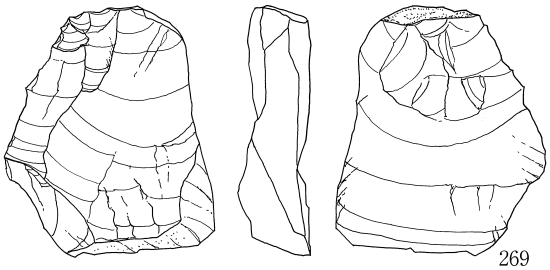

384

J-7
Ⅳ-2層
No.392

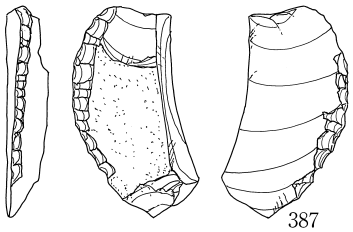
縄文石器・有茎鏃未製品


427

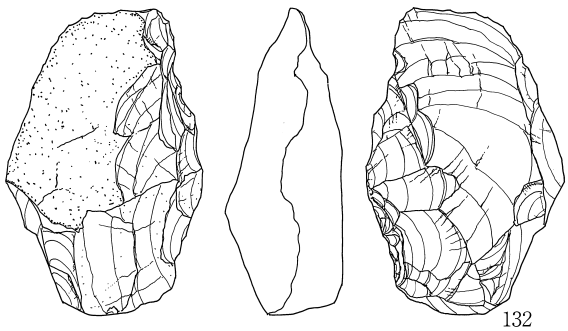
縄文・剥片　F-7　Ⅳ層


269

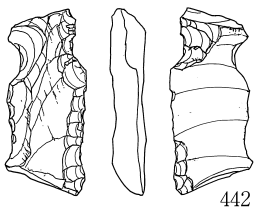
縄文剥片　F-5　Ⅷ-b層　No.56


387

縄文削器　G-7-S　G-②層　No.114


132

尖頭器未製品　JK-5　Ⅶ-2層　No.53


442

石匙　TR-3　NSB　Ⅶ層

Fig. 249　追加石器図版③

第Ⅴ章　奥谷南遺跡Ⅴ区 調査のまとめ

奥谷南遺跡は、並立する2箇所の岩陰（1箇所は現存しない）を中心に、その周辺約3万㎡の範囲に広がる谷や尾根などの地形を利用し、旧石器時代から近世にかけて生活が営まれてきた遺跡である。土地利用の方法や環境への働きかけの手段は、各々の時代背景や気候・植生などに大きく左右され、痕跡の残された地点も遺物の種類も、遺跡の性格さえも大きく異なっている。遺跡という呼称ではなく、遺跡群と称する方が適当なのではないか、とさえ思えるほどである。

しかし、この遺跡名を遺跡群ではなく奥谷南遺跡とした大きな理由は、間違いなく遺跡の中心として位置付けられる岩陰の存在である。縄文時代の貯蔵穴を形成した谷にしろ、西側の弥生時代終末の土坑墓群、弥生時代後期の高地性集落、10世紀の須恵器窯あるいは山岳寺院にせよ、岩陰と無関係に存在し得た遺構はなく、岩陰を何らかの形で生活のエリアに取り込んでいたことが想像される。

奥谷南遺跡を理解する上で、最も重要なキーワードは「岩陰」ということになる。本報告書の対象である奥谷南遺跡岩陰周辺（Ⅴ区）から、どのような遺物がどういう形で出土しているのかという事実報告がまず大切になってくる。また、同時に岩陰を理解する上で、周辺他地域の岩陰遺跡の様相、遺跡内他地点の調査内容についても、一定の理解は必要となろう。

そこで、調査のまとめとして、第1節では①四国内の岩陰・洞穴遺跡と奥谷南遺跡の異同について（石材や立地など）、②1994年から1996年にかけて明らかになった遺跡の概要についてに簡単にまとめ、第2節で岩陰周辺の旧石器時代の調査成果、第3節で縄文時代の成果をまとめて、調査の総括としたい。

1号岩陰の推定ラインと2号岩陰（上空から・1996年10月）

第1節 岩陰を含む遺跡の環境と奥谷南遺跡の概要

1. 岩陰を含む遺跡の概要

1962～1964年、日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会による全国的な調査の結果、『日本の洞穴遺跡』として成果が公表された[(1)]。また、1995～1997年にかけて「日本における洞穴遺跡の構造論的研究」（研究代表者 麻生優）が進められ、資料の蓄積された開地遺跡の内容と対比させながら洞穴遺跡の特性を明らかにするという意欲的な試みが企図され、千葉大学で開かれたシンポジウム「洞穴遺跡の諸問題」で成果が集められ[(2)]、報告・検討・討議を経て、洞穴遺跡に対する理解が深まった。奥谷南遺跡の調査は、洞穴遺跡に2回目の全国的な注目が集まった時期に合致したという点で、まさにタイムリーな調査となった。

これらの全国規模の研究とは別に、地域の洞穴遺跡に視点を据えた長期的な研究も進められている。特に広島大学による帝釈峡遺跡群の長年にわたる調査は、層位的出土時例の積み重ねにより地域の編年を確立し、空間的に広がる一定の地域での洞穴・岩陰遺跡の関連を点としてだけではなく、線的・面的に捉えることを可能にしたという点においても重要であり[(3)]、帝釈峡遺跡群のある東城町一帯は貴重なフィールドであるといえる。

奥谷南遺跡のある南四国においても、佐川町不動ヶ岩屋洞穴・城ノ台洞穴、池川町坂本大平岩陰、土佐山田町飼古屋岩陰・龍河洞、土佐山村初平ヶ岩屋洞穴・菖蒲洞など中山間部には岩陰・洞窟を利用した遺跡がある[(4)]。愛媛県に目を転じれば、上黒岩岩陰遺跡（美川村）[(5)]・穴神洞遺跡・中津川洞遺跡（城川町）[(6)]など四国山地には考古学の分野で重要な情報を持つ洞穴・岩陰遺跡が多いが、秩父帯に沿ってチャート・石灰などの巨岩・洞穴が点在する分布密度の高さを考えれば、洞穴・岩陰遺跡の数は予想される遺跡数に較べ決して多いとはいえない。

また、土器・石器等の出土は確認されず遺跡として認識されていないが骨片を中心とする動物遺体を包含する石灰岩洞窟の例（高知県高岡郡日高村猿田洞など）も多い。奥谷南遺跡の岩陰はチャートであり、上黒岩岩陰・不動ヶ岩屋洞穴・城ノ台洞穴などの石灰岩洞穴に多く含まれる人骨・動物骨などの情報は全く得られなかった。

岩陰遺跡だと認識されていなかった奥谷南遺跡の例を持ち出すまでもなく、重要な情報を包含する岩陰・洞穴遺跡または岩陰を含む立地の遺跡が、今後新たに確認される可能性は高い。

なお、1999年度より高岡郡葉山村の愛宕洞洞窟遺跡などの石灰岩洞窟を対象とし、2001年度からは土佐郡土佐山村の石灰岩洞窟遺跡である初平ヶ岩屋洞穴遺跡を対象とした学術発掘調査が、岡山大学の稲田孝司教授を中心として行われている。大量の遺物検出などは今のところないものの着実に成果を挙げ、出土遺物により利用された時期を特定、これらの洞窟（洞穴）が遺跡だということが確認されている。これからの継続的な調査・研究により成果が蓄積されることを期待したい。

高知県では高知大学学術探検部など考古学以外の分野で長期にわたる四国山地の洞穴に関する

調査の蓄積が在り、これらの洞穴の分布の様相・内容が示されている。今のところ、直接考古学とは関係ないようだが、岩陰・洞窟の住居・キャンプ地としての利用の視点さえあれば、近い将来新たな岩陰・洞穴遺跡が確認されるケースが出てくるかもしれない。地質学など自然科学分野の関連諸科学と考古学との連携が進んでいるとはいえ、新たな岩陰遺跡の探求は今まで積極的になされてきたとはいえない。今後の洞穴・岩陰遺跡の研究にこれらの蓄積された貴重なデータを活かすことは重要である。

これまで、奥谷南遺跡イコール岩陰遺跡だという前提に立脚してきたが、奥谷南遺跡の岩陰周辺の遺跡環境は実際にはどのような性格を持っているのか。これに対しては、岩陰遺跡という視点や、開地遺跡の中に岩陰（岩塊）が位置しているという性格の遺跡であるという視点など、いくつかの見解が示されており、遺跡の性格についてはいろいろな角度からの検討を経ておく必要がある。本報告が示すように、2箇所の岩陰とされる地点の堆積の状況は、洞穴遺跡のように洞内に層状に積み重なる様相は示さず、南～南西側に開いた斜面に沿って下方へ傾斜して堆積が進んだ様子を看て取ることができる。堆積環境にあるときは、斜面上方の土を堆積母材として堆積が一気に進み、侵食する力が優勢な場合は堆積は進まず逆に堆積層が侵食され消失する。奥谷南遺跡の堆積は洞穴遺跡とは大きく異なっている。堆積環境など他の岩陰・洞穴遺跡と異なる点もあるが、岩陰が遺跡の中で重要な位置を占め、利用されているという点において、奥谷南遺跡は岩陰遺跡であるといえる。

現存する2号岩陰では、岩庇（雨垂れライン）の外側に遺物の集中地点が形成され、ピット群も残されている。また、現存しない1号岩陰は、2号岩陰よりも岩のオーバーハングの度合いが大きく、岩の根元にも潜り込むことができる十分なスペースがあったことが伝えられている。（植田速水氏談）1号岩陰の遺物集中地点は岩庇（雨垂れライン）の内側と推定される空間にも残っており、雨垂れラインの内側のスペースとすぐ外側のスペースが生活空間として利用されていたであろうことは、遺物の分布の様子からも明らかである。

奥谷南遺跡岩陰北側の斜面にそびえるチャート岩塊（高さ約5m）

岩陰のある地点の地形及び立地の特徴を6点に絞って列挙する。

①平野北端に位置する。（高知平野の北東部-香長平野）②南東に開く細長い谷間の出口近くに位置する。③前面（南西側）に小規模な谷川が流れている。④北側には比高差30mほどの丘陵を背負っており、岩陰は丘陵先端に位置する。⑤周辺にはチャートの岩塊が点在し、岩陰と呼べる巨岩も何箇所か残る。⑥現在の標高は22～26m前後であり、後期旧石器時代の寒冷な環境下（最終氷期最寒冷期）では100mを超える標高であったと推定される。

2. 奥谷南遺跡の概要（1994年～1996年発掘調査）

奥谷南遺跡は、1993年度(1994年2月～3月)の試掘調査の結果を基に、Ⅰ区からⅦ区の調査区の設定を行った。東西方向に300mを超える範囲に広がる遺跡となったが、元来遺跡地と認識されていたのは、今回報告する岩陰(2号岩陰)の西側にあたる植田速水氏邸の周辺であり、遺跡の範囲拡大は試掘調査の結果を受けて、南国市教育委員会・高知県教育委員会との協議によるものである。

試掘調査の経緯及び1994年度・1995年度調査の詳細に関しては、発掘調査報告書『奥谷南遺跡Ⅰ』1999年、『奥谷南遺跡Ⅱ』2000年を参照して欲しい。

Ⅰ区　弥生後期　高地性集落

Ⅰ区　1994年度の調査で、弥生時代後期初頭(前半)の高地性集落が確認されている。岩陰の北側に連なる斜面から尾根上にかけての約1,250㎡の範囲から、住居址、段状遺構、通路状遺構などが検出された。Ⅰ区の標高は45mから58～9mにかけてであり、遺構の形成地点として尾根上の平坦地形に近い地点ではなく、斜面(緩斜面～急斜面)が選択されている。

尾根上からは近世の土坑墓が3基確認されたが、うち１基は大正年間に掘り出された墓誌（石盤）の存在から、儒墓であることが明らかになっている。儒墓の下部構造・土葬であること・寝棺だという土佐儒葬の特徴など、儒墓の調査例として重要な知見をもたらした。

Ⅱ区　土坑墓群

Ⅱ区　1994年度の調査で岩陰から西に約180m離れた標高58m前後の尾根上から土坑墓群が検出された。土坑墓は頭位方向から2群に分けられ、石灰岩・砂岩・チャートなどの周辺に産する岩石塊が、土坑墓の検出面や墓坑内から出土した。墓坑の配置は2群とも似通っており、一方の墓群には3基の土坑墓の中央に土器棺墓が配されている。2群とも弥生時代終末の近接した時期に形成されたものだと考えられ、墳丘の形成は確認できなかった。これらの土坑墓群は、高知平野において墓域が集落から隔絶した地点に形成され、集落の中で一定のメンバーが他の集落成員と異なる地点に葬られた段階の葬制を示している。

Ⅲ区　1994年度の調査で縄文時代中期末の貯蔵穴が確認された。Ⅰ区とⅡ区に挟まれた間の谷間一帯がⅢ区である。低地にある貯蔵穴は調査の時点でも水を湛えており、アカガシ・アラカシ・シリブカガシ・コナラ・クヌギ・シイ類などの堅果類と植物の葉などの植物遺体や網代が当時の色彩を保って出土した。貯蔵穴は7基で、深さ40mを超える深さのある形態（筒状・袋状）と浅い皿状の形態（袋状）のものがあり、貯蔵する堅果の種類によって形態が選択されたようである。

土器も一定量出土し、縄文時代中期末の高知平野の様相の一端が明らかになった。

Ⅳ区　岩陰の南側に接する調査区。1994年度調査。チャート岩塊と1基の土坑、それを取り巻くように周状に並ぶピット列を検出したが、遺物の出土量は少ない。無文の縄文土器小破片が確認されている。

2号岩陰と1号岩陰上に建つ家屋（植田速水氏邸）

Ⅴ区　岩陰周辺とその北側のチャート岩塊が点在する斜面。1995年度から1996年度にかけての調査。後期旧石器時代から縄文時代にかけての石器の集中する包含層が確認され、旧石器・縄文時代の遺構が確認された点で、画期的である。旧石器時代の石器としてナイフ形石器・角錐状石器・槍先形尖頭器・細石刃など他時期に亘る資料が出土しており、掻器・削器・抉入石器などのスクレイパー類にもバラエティーに富んだ形態のものがある。敲石類は旧石器時代と縄文時代とで形態や選択される礫形状に大きな違いがある。旧石器時代の資料だと確認される敲石には被熱した赤変資料が多く、礫群の存在も予想される。

旧石器時代の遺物としては細石刃文化期の資料が最も多く、細石刃核100点ほど、細石刃が300点ほど出土し、細石刃文化期に堆積したⅧ層からは、石器剥片を中心に約1万3,000点の遺物が出土している。

縄文時代にも、草創期中葉の遺構（住居の可能性あり）に伴う隆帯文土器・隆起線文土器、石鏃、敲石、包含層出土の局部磨製石斧や有溝砥石などの縄文草創期の遺物、早期の押型文土器とそれに後続する南九州系の土器（天道ヶ尾式・平栫式）など注目される遺構・遺物が検出されている。

Ⅵ区　1994年度の調査。岩陰から北東方向、Ⅰ区の東隣の丘陵の西斜面を埋め立てて造成した平坦面で、調査対象は200㎡ほどの範囲である。ピット・土坑など遺構が形成されており、9世紀後半から10世紀にかけての遺物が出土している。遺物の中で、猿投窯陰刻花文緑釉陶器（段皿・

K90号窯、9世紀後半）は特に注目される遺物である。Ⅶ区とともに山岳寺院関連の遺構だと想定されている。

ロストル構造をもつ須恵器窯（Ⅶ区）

Ⅶ区　1995年度の調査。Ⅵ区の上方の斜面、標高68～80m前後の地点が、幅10mを超える広さで削り出され遺構面を形成する。岩盤に掘り込まれた柱穴や土坑から出土した布目瓦の存在から、小規模な瓦葺建物の存在が予想される。この遺構面は山岳寺院関連遺構だと想定しているが、調査対象範囲はその一部で、3分の2以上は未調査で残されている。遺構面の南側から南西側にかけての斜面下方には、生産施設（窯跡や炭化物の集中する土坑）が構築される平坦面が広がる作業場空間が形成されている。窯跡はロストル構造を持ち、瓦窯として使用された可能性もあるが、最終段階では埦・坏などの供膳具が中心に焼かれている。灰原からは瓦片はほとんど出土していない。炭化物の集中する土坑は炭窯の可能性もある。

出土遺物は10世紀から11世紀にかけてのものが大半だが、12世紀後半の貿易陶磁も出土しており、この地点が利用された時期は10～12世紀だと考えている。

註

1）『日本の洞穴遺跡』平凡社　1967年

2）①シンポジウム『洞穴遺跡の諸問題』発表要旨　千葉大学　1996年

②第2回シンポジウム『洞穴遺跡の諸問題』発表要旨　千葉大学　1997年

3）中越利夫「広島県帝釈峡遺跡群－遺跡群の構成・時期・利用状況について－」（2－②）1997年

4)「日本の洞穴遺跡地名表」として、文献2－①の巻末に、全国で681遺跡の洞穴遺跡及び関連文献が集成されている。高知県関係では、南国市中内洞穴（白木谷地区）、野市町鬼ガ岩屋洞穴の2箇所が取り上げられ（文献はいずれも、岡本健児「土佐における石灰洞穴遺跡」『高知県文化財調査報告書10』1954年）、合計8遺跡となっている。なお、この中に坂本大平岩陰は含まれていない。坂本大平岩陰『池川町の遺跡』池川町教育委員会　1993年

5）江坂輝弥・西田栄「愛媛県上黒岩岩陰」（『日本の洞穴遺跡』平凡社）1967年　他

6）『城川町の遺跡』城川町教育委員会　1979年

第2節　旧石器時代

1. 遺構について

旧石器時代の遺構として確認し得たものは、ピット35基、焼土を含む焼土集中遺構14基である。Ⅷ-a層の調査後、Ⅷ-b層からⅩ層上面にかけて検出した遺構であり、遺構埋土は褐色のⅧ-a層とした層と類似する色調で、同レベルで検出した遺構でも黒褐色あるいは暗褐色・暗灰褐色など黒っぽい埋土を持つ遺構とは、明らかに識別することができる。Ⅷ-a層に類似する埋土を持つ遺構は、1号岩陰の南側1箇所と2号岩陰の南西側3箇所に分布し、Ⅷ-a層分布域でも、1・2号岩陰の中間の空間など他地点には形成されない。

ピット以上に注目されるのは焼土を含む遺構（SX001～SX014）である。焼土集中遺構も分布域が限られており、1号岩陰とその南側、特に1号岩陰の南側に集中する。1号岩陰の南側は岩陰前庭部に相当すると考えられる地点で、ほぼ平坦な地形を示している。調査開始時点のトレンチ調査の段階では、この焼土を把握することはできなかった。これらの遺構は、検出段階で「被熱により赤変する部分を持つ」ことが共通しているが、遺構と呼べるほどの掘り込みがある例はほとんどない。掘り込みと呼べる程度の遺構が伴ったのはSX001、SX006、SX010の3箇所のみ

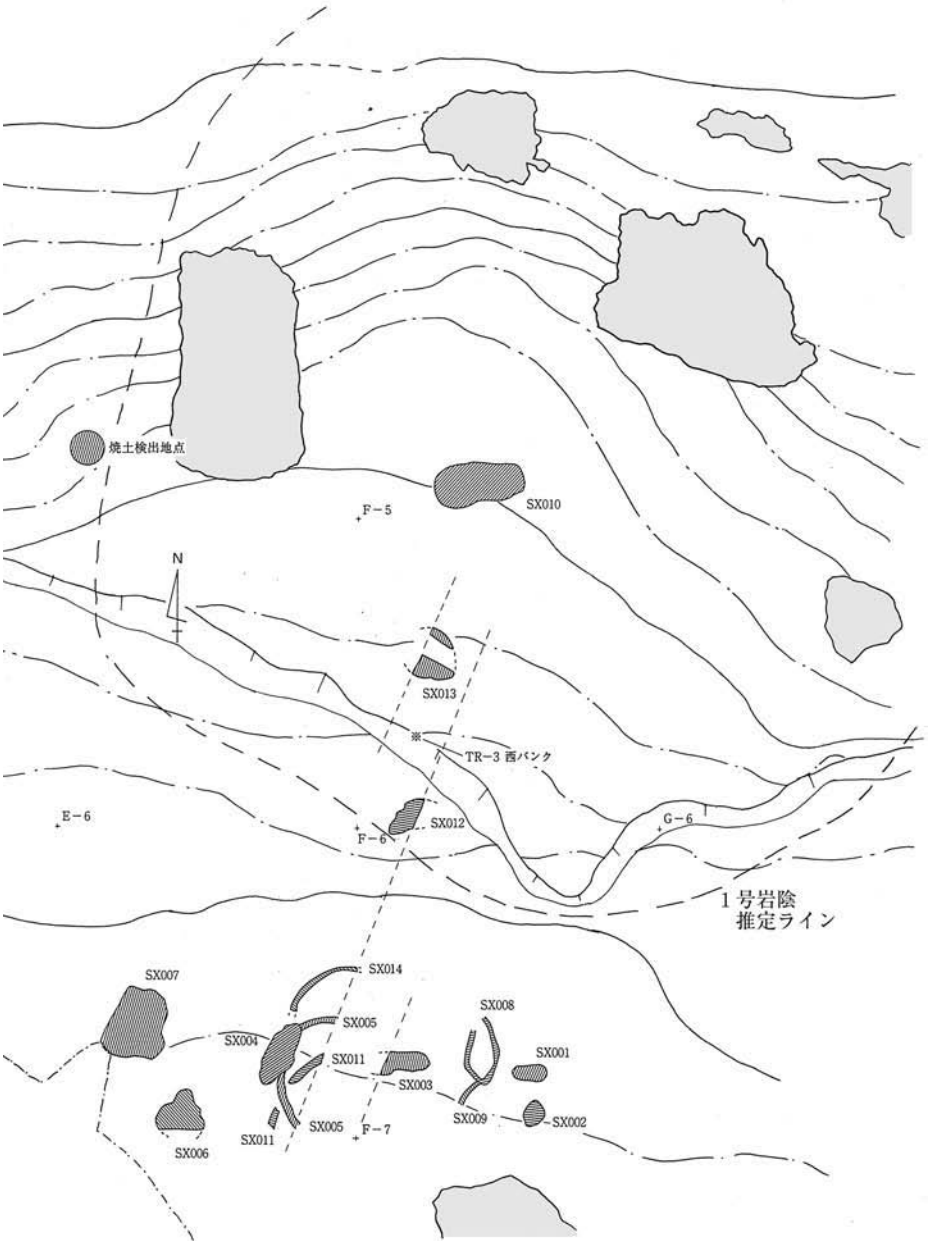


Fig. 250　1号岩陰周辺の地形と検出された焼土集中部（SX001～SX014）

である。それ以外の焼土集中遺構については今回は「遺構」として報告したものの、「赤色化土」と表現した方が適切かもしれない。焼土の周囲に小礫の残る例もあり、礫群の存在も予想されたが、使用された後埋積する段階で散逸したのか、礫群を構成する被熱礫をまとまった形で検出することはできなかった。

これらの焼土集中遺構（あるいは赤色化土）は2つに分類できる。一つは全面が被熱し赤変するもので、これをA類とする。もう一つは2～5㎝の幅で赤色化土（焼土）が周状にめぐるもので、これをB類とする。A類が9箇所、B類が4箇所検出されている。A類とB類の間、あるいはB類とB類の間には切り合い関係が認められるが、A類の中で相互に切り合い関係のあるものはない。

被熱したと考えられる赤色化土の分析は、（株）パリノ・サーヴェイに委託した[1]。それによると、緑泥石の残存状況から判断して、分析を依頼したサンプルの被熱に際しての温度は高くても550℃程度までであるという。被熱はしたとしても高温に達してはいなかった。（これに対して、縄文時代草創期の遺構に近接したP101の焼土は、550～750℃の範囲で、旧石器時代の焼土に比べると若干高温になっている。）

これらの遺構は、Ⅷ層段階に対応する遺構であり、Ⅷ層からまとまって出土する細石刃文化期段階の遺物が旧石器時代に属することを前提として旧石器時代の遺構とした。旧石器時代の資料は、四国では包含層出土資料が大半で、当該期の遺構が検出される例はほとんどなかったが、近年、火山灰の良好な堆積の残る地域の遺跡で類例が多く確認されるようになりはじめた[2]。九州では、後期旧石器時代後半期のみならず、AT下位の遺構について論じることが可能なほど資料が充実しはじめたようである[3]。

火山灰の豊富な給源が近くにほとんどない四国や火山はあるものの九州や関東などと較べると少ない中国地方には良好な遺構検出例が極めて少ないが、広島市西ガガラ遺跡など注目される例もある。四国でもATやアカホヤなどの広域火山灰は、遺跡の年代決定の手掛りであり、遺跡の発掘調査でこれらの広域火山灰の層準については注目されている。ATの堆積が確認された宿毛市楠山遺跡の調査例[4]など特に九州に近い四国西南部には良好な例が残されているようである。奥谷南遺跡でもATは確認できなかったものの、2号岩陰の根元付近にアカホヤの良好な堆積（第Ⅵ章付編第2節参照）が残されていた。高知平野でも地点によっては、アカホヤ由来の火山ガラスが含まれる粘土層とAT由来の火山ガラスが含まれる粘土層が近接した地点に存在することが、採取された粘土の分析から明らかになっている。

註

1）分析の中で、奥谷南遺跡の粘土の鉱物組成が一部明らかになった。土器に白色鉱物が多く含まれる例があるのだが、白色鉱物について肉眼とルーペによる観察だけでは自信をもって鉱物名称を特定することはできなかった。しかし、今回の分析で粘土中に含まれる鉱物に占める長石の割合が高いことが明らかになった。（第Ⅵ章付編第2節）高知平野の北端の遺跡の場合、在地産の土器に含まれる白色鉱物の大半は長石粒と考えてよいようである。

2）後期旧石器時代、特に細石刃文化期の遺構については、石器集中地点・石囲炉・住居状遺構・土坑・墓・礫群などの報告例が蓄積され、2000年度の日本考古学協会鹿児島大会のテーマともなった。

『旧石器から縄文へ－遺構と空間利用－』日本考古学協会2000年度鹿児島大会実行委員会 2000年

3）2001年度の九州旧石器研究会では、AT下位の遺構が研究会のテーマとなる予定である。

4）楠山遺跡の調査を担当した森田尚宏氏の御教示による。

5）武吉眞裕氏の御教示による。

2. 地点別・層別の石器器種組成

Ⅳ章第4節では、旧石器時代～縄文時代の石器を器種毎に提示、計測表や観察表などで出土地点・出土層位について示し、平面・標高等の位置データを座標で示したとはいえ、地点毎の器種組成、層毎の器種組成がどうなっているのかについてはっきりとした数値を示すことができていない。ここで地点毎・層毎の石器器種組成を表で提示する。この器種組成は図版掲載遺物についてのみを対象としたものであり、出土した遺物全体の器種組成ではない。例えば、敲石類は500点以上出土しているが、図版に掲載した遺物は100点程だし、使用痕のある剥片や剥片など、掲載できていない遺物の点数の層毎、地点毎の正確な数値を示すことができなかった器種もある。なお、敲石類については、Ⅳ章第4節に出土した全遺物を対象にした層毎の出土状況を示している。

基本層序に対応するⅫ～Ⅲ層とグリッドG-7周辺（南地点）のG-①～④層、2号岩陰南地点の②～⑦層そしてSX101出土遺物を対象とし、地点は以下の表に示す7地点を対象とする。

層の中で、Ⅷ層とⅦ層については各々の層の中において分層を行なった。分層した層毎に一定量の出土を示し、層毎の出土数を示すことに意味がある地点については、内訳の記載をした。（Ⅷ層はⅧ-a層とⅧ-b層、Ⅶ層はⅦサイカ、Ⅶ-YR、Ⅶ-SR、Ⅶ-R、Ⅶ-2、Ⅶ-1など。）

Tab. 34　地点別石器器種組成①

【1号岩陰】

層 / 器種	XII	XI	X	IX	VIII	VIII-b	VIII-a	VII	VI	V	IV	III	その他 表採不明	合計
角錐状石器			1		2	2								3
ナイフ形石器	1	1		2	3		3	2						9
槍先形尖頭器			1		4	2	2	1		2				8
細石刃			8	3	62	13	46	16	2	11	1			103
細石刃核			2	4	24	8	15	4		1			2	37
細石刃核又は他の石核					5	2	3	1					1	7
細石刃核ブランク				1	8	1	7	4						13
細石刃関連剥片			1		2	2		2					1	6
細石刃核打面再生剥片					1		1							1
細石刃核作業面再生剥片					5		4	2		1			1	9
縦長剥片（背腹同一方向）				1	13	5	7	8		4	1		2	29
縦長剥片を連続剥離する石核			1		4		4	4						9
その他の石核			1	2	9	5	4	2						14
掻器				5	21	8	11	10					1	37
削器			2		10	4	6	1					1	14
抉入石器（抉入掻器）					3	1	2	3					1	7
剥片			2		18	9	8	10		1	2		2	35
2次加工のある剥片			4		3	1	2			1			1	9
使用痕のある剥片			1	3	4		4	2		4	1			15
楔形石器					2	1	1	3		3			1	9
石鏃					2	1	1	8	2	31	11		7	61
磨製石斧										1				1
打製石斧								1			1			2
両面調整石器								1						1
石錐（ドリル）											1			1
パンチ								1			1			2
サヌカイト剥片（高知平野最大）											1			1
器種不明石器					4	3	1						1	5
敲石類			5	4	29	12	17	8	2	5	1	1		55
礫片・自然石				1	6	2	4	1						8
合計	1	1	29	26	244	82	153	95	6	65	21	1	22	511

※　網かけ部分は、Ⅷ・Ⅶ層の内訳

Tab. 34　地点別石器器種組成②

【1号岩陰南】

器種＼層	XII	XI	X	IX	VIII	VIII-b	VIII-a	VII	VI	V	IV	その他 表採不明	合計
角錐状石器	1							1					2
ナイフ形石器								3				2	5
槍先形尖頭器									1				1
細石刃			3	1	39	12	25	8	4			2	57
細石刃核					11	8	2	5				1	17
細石刃核又は他の石核			2		2	2		2				1	7
細石刃核ブランク					4	2	2	3				2	9
細石刃関連剥片								1					1
細石刃核打面再生剥片												1	1
細石刃核作業面再生剥片													0
縦長剥片(背腹同一方向)			1		17	11	5	2	2			2	24
縦長剥片を連続剥離する石核					5		5	1				1	7
その他の石核			1		3	2	1	5				1	1
掻器					5	1	3	2	1				8
削器					3		2	2					5
抉入石器(抉入掻器)			1		1	1		4					6
剥片	1		1		6		6	3				2	13
2次加工のある剥片					4	3	1		2			1	7
使用痕のある剥片				1	7	2	4	1	1			1	11
楔形石器			1		1	1			1	1			4
石鏃					1		1	6	13	3	4	4	31
石錘										1	2		3
石錐（ドリル）								1					1
器種不明石器					1	1		1					2
敲石類			1	1	5	1	4	5	2		9		23
礫片・自然石					3	1	2	1		1			5
合計	2	0	11	3	118	48	63	57	27	6	15	21	260

【SX101/H−7周辺】

器種＼層	SX 101	その他 表採不明	合計
ナイフ形石器		1	1
細石刃	5	3	8
細石刃核	1		1
細石刃核又は他の石核	1		1
細石刃関連剥片		1	1
縦長剥片(背腹同一方向)		2	2
削器	1	1	2
抉入石器(抉入掻器)		1	1
剥片		2	2
使用痕のある剥片		1	1
石鏃	9	3	12
敲石類	3		3
合計	17	15	32

※　網かけ部分は、Ⅷ・Ⅶ層の内訳

【1−2号岩陰中間】

器種＼層	VIII	VIII-b	VIII-a	VII	VII-2	VII-1	V	その他 表採不明	合計
角錐状石器				1					1
ナイフ形石器	1		1	4	2				5
槍先形尖頭器	1		1	1			1		3
細石刃	2		2	13	5	1		1	16
細石刃核				2	1				2
細石刃核ブランク	1		1	3					4
細石刃核作業面再生剥片				1					1
縦長剥片(背腹同一方向)				4	1			3	7
縦長剥片を連続剥離する石核				1	1				1
その他の石核				3	1		1	1	5
掻器	1		1	1					2
削器				2		1	1		3
抉入石器(抉入掻器)							1		1
剥片	4		3	2				1	7
2次加工のある剥片	1		1	4	2	1			5
使用痕のある剥片	1		1	2	1	1		1	4
ヘラ状石器				1					1
石鏃	1		1	9	4	1	4	1	15
敲石類	1		1						1
合計	14	0	13	54	18	5	8	8	84

【南地点/G−7周辺】

器種＼層	VII	IV	G ①〜④	その他 表採不明	合計
ナイフ形石器				1	1
細石刃			4	2	6
細石刃核作業面再生剥片			1		1
縦長剥片(背腹同一方向)			5		5
その他の石核			1		1
掻器			2		2
抉入石器(抉入掻器)			1		1
剥片			4		4
2次加工のある剥片			2	1	3
使用痕のある剥片			1		1
石鏃	1	1	4	3	9
ヘラ状石器			1		1
楔形石器			2		2
局部磨製石斧		1			1
両面加工石器			1		1
石錐（ドリル）			1	1	2
パンチ			1		1
敲石類			1		1
礫片・自然石			1		1
合計	1	2	33	8	44

Tab. 34　地点別石器器種組成③

【2号岩陰】

層 / 器種	X	IX	Ⅷ	Ⅷ-b	Ⅷ-a	Ⅶ	サイカ	YR	SR	Ⅵ	Ⅴ	その他 表採不明	合計
角錐状石器			5		4	3			2				8
ナイフ形石器	1		16		15	13	3	3	2			1	31
槍先形尖頭器			3		3	6		1	1	1		1	11
細石刃			29	2	25	43	7	12	7	1	5	1	79
細石刃核			10	2	8	18		3	5			1	29
細石刃核又は他の石核			1		1	7		2	3		2	1	11
細石刃核ブランク			3		3	7	1	1	3				10
細石刃関連剥片			0			4	1	1					4
細石刃核打面再生剥片			1		1	1			1				2
細石刃核作業面再生剥片		1	5	1	4	4		2	1				10
縦長剥片(背腹同一方向)			16	1	13	10	2		3				26
縦長剥片を連続剥離する石核			1		1	4		2	2				5
その他の石核			5		5	9	1	2	2				14
掻器			12	2	10	9	2	1	1				21
削器		1	4	2	2	2	1				1		8
抉入石器(抉入掻器)			5	1	4	8	2	3					13
剥片			16	4	12	16	7	1	2		1	1	34
2次加工のある剥片			5		5	8	3		1				13
使用痕のある剥片			6		6	10	1	3	4			1	17
楔形石器			3	1	2	5	1	1	1		1		9
石鏃			4		4	10	1				2	2	18
有溝砥石						1							1
打製石斧										1			1
石錘						2					1		3
石錐（ドリル）		1	1		1	1							3
パンチ			1		1								1
器種不明石器			1		1	2							3
敲石類			8	1	7	10		1	1				18
礫片・自然石						3			1				3
合計	1	3	161	17	138	216	33	39	43	3	13	9	406

※　網かけ部分は、Ⅷ・Ⅶ層の内訳

【2号岩陰南】

層 / 器種	②	③	④	⑤	⑥	⑦	その他 表採不明	合計
ナイフ形石器	1				1		1	3
槍先形尖頭器				1				1
細石刃	1	6	1	3				11
細石刃核ブランク	1							1
細石刃核作業面再生剥片	1							1
縦長剥片(背腹同一方向)	5	2					1	8
縦長剥片を連続剥離する石核	1							1
その他の石核	3						1	4
掻器	1	1		2				4
抉入石器(抉入掻器)	2	1		1				4
剥片		1		1			2	4
2次加工のある剥片	4	1						5
使用痕のある剥片	1	1		3		1		6
器種不明石器							1	1
石鏃	2	2		2	1	1	2	10
有溝砥石		1						1
石錐（ドリル）		1						1
礫片・自然石	1	1						2
合計	24	18	1	13	2	2	8	68

Tab. 35　層別石器器種組成

【奥谷南遺跡 層別／器種別遺物出土点数】　一　図版掲載遺物

層 / 器種	XII	XI	X	IX	VIII	VIII他	VIII-b	VIII-a	VII	サイカ	YR	SR	R	VII-1	VII-2	VII他	VI	V	IV	III	G ①～④	2号岩影南 ②～⑦	SX101	その他 表採不明	合計	
角錐状石器	1	0	1	0	7	1	2	4	5	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14	角錐状石器
ナイフ形石器	1	1	1	2	20	1	0	19	22	3	3	2	0	2	0	12	0	0	0	0	0	2	0	7	56	ナイフ形石器
槍先形尖頭器	0	0	1	0	8	0	2	6	8	0	1	1	0	1	0	5	2	3	0	0	0	1	0	2	25	槍先形尖頭器
細石刃	0	0	11	4	132	7	27	98	80	10	12	7	1	12	1	37	7	16	1	0	4	11	5	9	280	細石刃
細石刃核	0	0	2	4	45	2	18	25	29	0	3	5	1	4	0	16	0	1	0	0	0	0	1	6	88	細石刃核
細石刃核又は他の石核	0	0	2	0	8	0	4	4	10	0	2	3	0	0	0	5	0	2	0	0	0	0	1	4	27	細石刃核又は他の石核
細石刃核ブランク	0	0	0	1	16	0	3	13	18	3	1	3	1	0	1	9	0	0	0	0	0	1	0	4	40	細石刃核ブランク
細石刃関連剥片	0	0	1	0	2	0	2	0	7	1	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	0	2	13	細石刃関連剥片
細石刃核打面再生剥片	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	細石刃核打面再生剥片
細石刃核作業面再生剥片	0	0	0	1	10	1	1	8	7	1	2	1	0	0	0	3	0	1	0	0	1	1	0	1	22	細石刃核作業面再生剥片
縦長剥片（背腹同一方向）	0	0	1	1	46	4	17	25	24	5	0	3	1	6	0	9	2	4	1	0	5	7	0	15	106	縦長剥片（背腹同一方向）
縦長剥片を連続剥離する石核	0	0	1	0	10	0	0	10	10	0	2	2	0	1	0	5	0	0	0	0	0	1	0	1	23	縦長剥片を連続剥離する石核
その他の石核	0	0	2	2	17	0	7	10	19	1	2	2	1	2	0	11	0	1	0	0	1	3	0	4	49	その他の石核
掻器	0	0	0	5	39	3	11	25	22	3	1	1	0	0	0	17	1	0	0	0	2	4	0	1	74	掻器
削器	0	0	2	1	17	1	6	10	8	1	0	0	0	0	2	5	0	2	0	0	0	0	1	3	34	削器
抉入石器（抉入掻器）	0	0	1	0	9	0	3	6	15	2	3	0	0	0	0	10	0	1	0	0	1	4	0	2	33	抉入石器（抉入掻器）
剥片	1	0	3	0	44	2	13	29	31	10	1	2	0	1	0	17	0	2	2	0	4	2	0	11	100	剥片
2次加工のある剥片	0	0	4	0	13	0	4	9	12	3	0	1	0	2	1	5	2	1	0	0	2	5	0	3	42	2次加工のある剥片
使用痕のある剥片	0	0	1	4	18	1	2	15	18	1	3	4	1	1	1	7	1	4	1	0	1	6	0	5	59	使用痕のある剥片
楔形石器	0	0	1	0	6	0	3	3	8	1	1	1	1	0	0	4	1	5	0	0	2	0	0	3	26	楔形石器
石鏃	0	0	0	0	8	0	1	7	36	3	0	0	5	4	1	23	15	40	17	0	4	8	9	35	172	石鏃
有溝砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	有溝砥石
局部磨製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	局部磨製石斧
磨製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	磨製石斧
打製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	打製石斧
石錘	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	6	石錘
両面加工石器	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	両面加工石器
ヘラ状石器	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	ヘラ状石器
石錐（ドリル）	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	0	1	8	石錐（ドリル）
パンチ	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	4	パンチ
サヌカイト剥片（高知平野最大）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	サヌカイト剥片（高知平野最大）
器種不明石器	0	0	0	0	6	0	4	2	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	11	器種不明石器
敲石類	0	0	6	5	43	0	14	29	29	0	1	1	1	0	0	26	4	5	10	1	1	0	3	0	107	敲石類
礫片・自然石	0	0	0	1	9	0	3	6	5	0	0	1	0	1	0	3	0	1	0	0	1	2	0	0	19	礫片・自然石
合計	3	1	41	32	537	23	147	367	436	48	39	43	14	41	7	244	36	92	39	1	33	61	20	122	1454	合計

※　網かけ部分は、Ⅷ・Ⅶ層の内訳

3. 時期別の石器群の様相

A. ナイフ形石器文化期

奥谷南遺跡の遺物出土層で最下層になるのがⅫ層である。礫混じりの黄褐色土で、小礫から握り拳大の比較的大きい礫も含む層であり、上層の砂混じりの黄褐色粘土層（Ⅺ層）、更に上層の黄褐色粘土層（Ⅹ層）の3つの層が、ナイフ形石器文化期と考えられる堆積層である。

Ⅻ層からはナイフ形石器と角錐状石器が1点ずつ、Ⅺ層からはナイフ形石器が1点、Ⅹ層からは角錐状石器が1点出土している。Ⅻ～Ⅹ層の層からの出土点数は少ないが、上層から出土した資料も含めると、ナイフ形石器が59点（追加資料も含む）、角錐状石器が14点と当該期の南四国では最もまとまった資料だといえる。

石材はナイフ形石器にはサヌカイト製のものはなく、頁岩が3点、石英が1点、それ以外はチャート製である。角錐状石器もチャートが大半だが、1点だけサヌカイト製の資料が含まれている。ナイフ形石器文化期の奥谷南遺跡狩猟具の石材は、中心となるのが在地石材であるチャートで、割合は少ないものナイフ形石器に頁岩（高知県西部の石材の可能性）、角錐状石器にサヌカイト（産地同定はできていない。）という搬入石材が含まれるという様相である。全体に占める割合はともに10%に満たず、これらの搬入石材が安定的に供給されたのではなく（交易等による供給ルートが確保されていたのではなく）、旧石器時代（ナイフ形石器文化期）における人々の広範囲の遊動の結果もたらされたものだと考えられる。

ナイフ形石器の多くは、細石刃文化期の遺物が集中するⅧ-a層や縄文時代のⅦ層など、より新しい時期の層から出土している。これらの石器が原位置から大きく移動していないとすると、平面分布に元来の遺物使用・廃棄地点が反映されているはずである。Tab.34の地点別出土状況はナイフ形石器の地点別の偏在を示している。原位置を保っている（Ⅻ・Ⅺ・Ⅹ層から出土している）のは1号岩陰だが、当該期の遺物が集中するのは2号岩陰から2号岩陰の西側にかけての地点で、細石刃の分布域よりもやや北側寄りの地点に集中する。角錐状石器もナイフ形石器同様の分布を示し、60%以上の資料が2号岩陰から出土している。

奥谷南遺跡のナイフ形石器には2側縁加工のナイフ形石器と背部加工のナイフ形石器があり、縦長剥片が多いものの縦長剥片と横長剥片が混在し、背面と腹面の剥離方向が全く異なる方向を示すものが多い。これは、石核から素材剥片を剥取する際の剥離方法を端的に示している。石刃素材といえる背腹同一方向の縦長剥片素材のナイフ形石器はほとんどない。縦長剥片あるいは横長剥片素材だと分類したものの当遺跡出土ナイフ形石器の中には、ナイフ形石器の方向に対して剥離軸が斜め方向を示す資料が多く確認される。これは、素材剥片として石刃状の縦長剥片や典型的な横長剥片ではなく、幅広の剥片や寸詰まり剥片が選択・使用されていることを示す。当遺跡のナイフ形石器に対応する石核は、連続して縦長剥片を剥取した石核ではなく、Ⅳ章4節（15）その他の石核とした中の、1類Aや2類、3類などだと考えている。

角錐状石器については、大きく1類と2類に分類した。1類とした甲高なものと、2類とした扁平なものとに分類したが、当遺跡出土の角錐状石器は基本的には1類が典型例であり、扁平な形態の

2類は、いわゆる三稜尖頭器ではなくナイフ形石器に分類される可能性のある資料である。また、1類の中でも1類Dとした資料は角錐状石器として異質な形態を持ち、他器種の石器の可能性も残る。このように、典型的な角錐状石器に絞り込んでいくと、1類A～Cの10点の角錐状石器が、奥谷南遺跡のナイフ形石器文化期を代表する角錐状石器だといえる。しかし、1類Aとした資料を全て同じ範疇で捉えるには無理がある。1類Aは、さらにいくつかの特徴を元に分類することは可能である。石材でみればサヌカイト製（①－108）とそれ以外、刃縁を整形する剥離の単位でみた場合、単位がより大きいもの（②－100）と細かいもの（104・105・110・113）、さらに長幅比2.0前後のずんぐりした印象の角錐状石器（③－110）と、3.0前後のすらっとした細身の角錐状石器（④－104・105）など、10点ほどの角錐状石器（1類A～C）だが、石材・加工技術・形状で6類型（1類A①、1類A②、1類A③、1類A④、1類B、1類C）に分類することが可能である。加工単位や形状のバラエティーは、同一時期の組成の多様さというよりも、時期差による角錐状石器形態の変移である可能性が高いと考えるのだが、現段階で正確な否定はできず、角錐状石器についての詳細な位置付けは今後の課題として残しておきたい。

奥谷南遺跡から出土したこれらのナイフ形石器、角錐状石器は、広い意味ではAT上層の後期旧石器時代ナイフ形石器盛行期の資料だと考えてよい。瀬戸内の国府型ナイフ形石器と並行する時期であり、関東地方のⅣ層下部（Ⅳ下）の段階の資料の様相に極めて近い様相を示す。（Ⅳ下の段階のナイフ形石器と、一見して弁別することは困難で、資料体としてみた場合も時期の異なる資料を分離することは困難だという指摘を複数の方から頂いた。）

ナイフ形石器終末期にかけて小型化するというナイフ形石器の変遷や、近年、南九州の小型のナイフ形石器の段階が層位的に分離されたという指摘をもとに、奥谷南遺跡のナイフ形石器の中で小型の一群が分離され得るのかどうか検討してみたのだが、はっきりと分離可能だという結論を導き出すことはできなかった。南九州の資料に極めて類似した様相を示すのは、同じ高知平野、奥谷南遺跡と同水系（国分川水系、上流約9㎞、新改川支流）にある新改西谷遺跡出土のチャート製ナイフ形石器である。(1) 新改西谷遺跡からは60点を超えるナイフ形石器が出土しており、ナイフ形石器の出土点数としては高知県最多である。その大半は不定形小型剥片を素材とし、部分的な刃潰し加工を加えてナイフ形石器としたものである。中世の寺院の整地土中からの出土資料だが、整地土が運ばれた地点も推定可能であり、石器としての一括性が高く資料的価値は高い。スクレイパー類など他の器種が含まれていないのも特徴である。(2)

新改西谷遺跡の小型ナイフ形石器と奥谷南遺跡の小型ナイフ形石器とを比較すると、異なる点が多いことがわかる。奥谷南遺跡例では、やや厚みのある剥片を素材として尖鋭な尖頭部が形成されるよう尖頭器状の形状を意識して縁辺に刃潰しを連続させるが、新改西谷遺跡例では、剥片はより薄く、剥離によって得られた小剥片の中から適当なものを選択し、尖った部位を先端におくことを意識する程度で、整った形状に整形加工を行うものではない。素材の不定形剥片の剥離方向は背腹同一方向のものが多く、不定形ではあるが剥片の同方向連続剥離という剥離技術が推定される。これら2遺跡の資料は、小型という点以外は対照的ですらある。

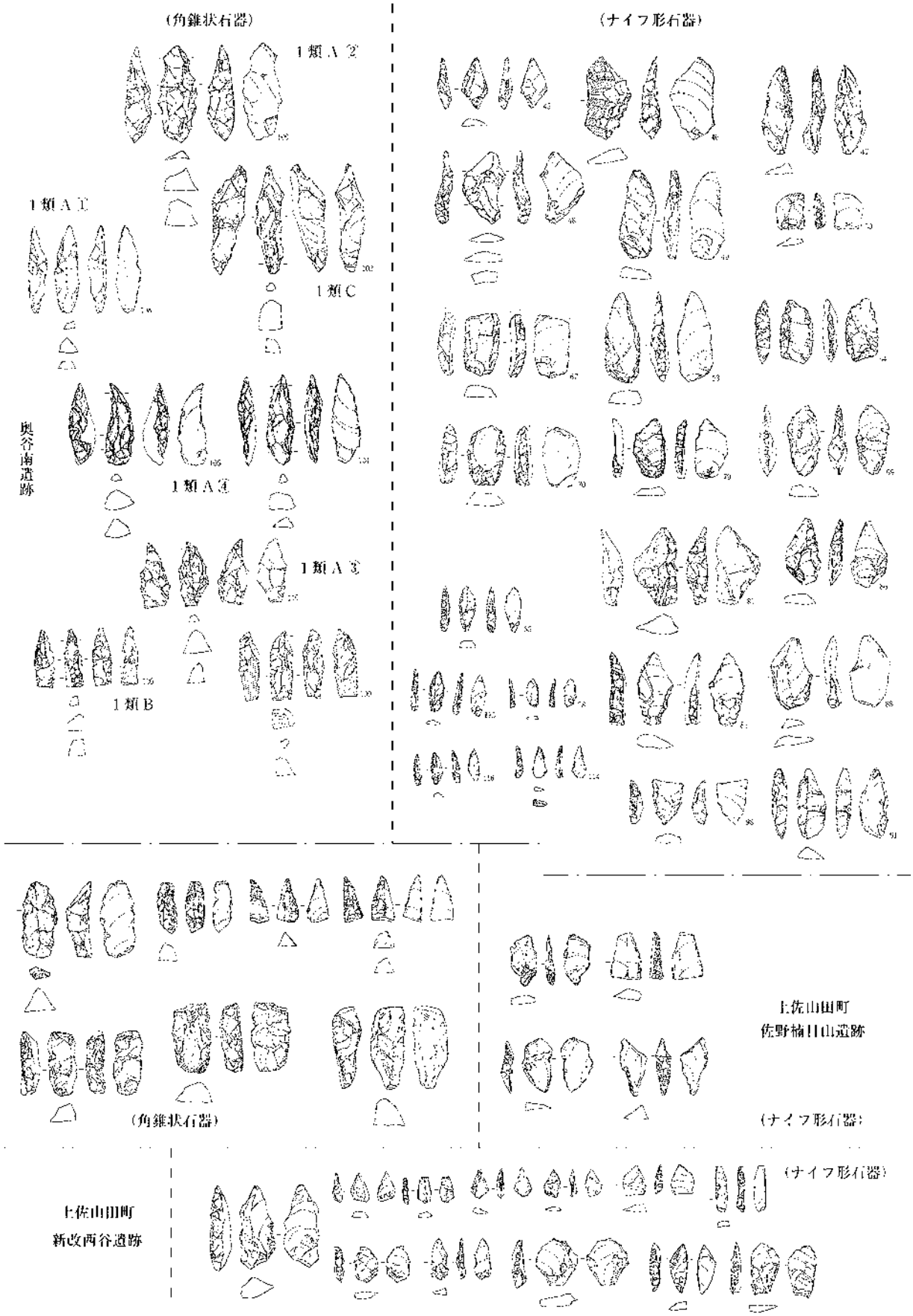


Fig. 251　ナイフ形石器文化期の高知平野の狩猟具を中心とした石器群

奥谷南遺跡の小型ナイフ形石器は、他の資料と時期差を持つ資料として位置付けることが可能かどうか、現段階では可能性はあるものの分離することは難しいと結論づけておきたい。

奥谷南遺跡出土ナイフ形石器の大半の資料はAT上層のナイフ形石器盛行期、器種組成に角錐状石器を含む時期のナイフ形石器である。若干時期の異なる資料（ナイフ形石器文化期終末）が混在している可能性もあるが、現段階では分離できない。

高知平野では、並行する時期の資料として物部川中流域土佐山田町佐野楠目山遺跡採集のチャート角錐状石器及びナイフ形石器が挙げられ、後続する（連続するかどうかはわからない）ナイフ形石器終末期の資料として土佐山田町新改西谷遺跡出土資料が挙げられる(3)。佐野楠目山遺跡出土の角錐状石器の中には、奥谷南遺跡の角錐状石器と類似する資料もある。

高知平野周辺では、少なくとも瀬戸内技法と呼べる技法によるナイフ形石器は確認されていないし、石刃素材といえるナイフ形石器もほとんどない。角錐状石器に1点だけだがサヌカイト製の資料が含まれていること、スクレイパー類の中に二上山のサヌカイトが確認されたことから、旧石器時代に南四国から瀬戸内あるいは近畿などの地域間での遊動が行われていた可能性は指摘できる。「遊動」の内容や実態を復元するには南四国の遺跡数、出土遺物ともに少なすぎるが、ナイフ形石器文化期の奥谷南遺跡の石器製作者も同時期に存在した瀬戸内技法については知り得ていたであろうし、技術を獲得していた可能性もある。瀬戸内技法が認められない奥谷南遺跡のナイフ形石器に具現される技術は、時期差ではなく、対象とする石材（チャート）に多分に規定された石器製作技術だと考えたい。

ナイフ形石器文化期には当然、狩猟具以外にも掻器・削器等のスクレイパー類や、敲石類などの他の器種が伴ったと考えられるが、その大半は、Ⅷ層あるいはⅦ層などナイフ形石器文化期よりも新しい時期の堆積層に含まれている。形態的特徴から分離することができなかったため、旧石器時代～縄文時代のスクレイパーとして次項でまとめて提示することとする。

註

1）鹿児島県埋蔵文化財センターの中原一成氏と桑波田武志氏の御教示による。

2）新改西谷遺跡については、調査直後に現在北海道在住の伊藤仁氏によって丁寧な整理作業が進められていた。その石器類を対象にした石器器種認定を、山下秀樹氏（京都文化博物館）のご指導で、山下氏と松村が行ったのだが、その時点で60点を超えるナイフ形石器が確認されたのに対し、スクレイパー類など他の器種はほとんど確認できなかった。

3）Fig.251の佐野楠目山遺跡と新改西谷遺跡の石器は、『第17回 中・四国旧石器文化談話会資料』からの転載だが、トレース原図からのコピーを使用した。

松村信博・山崎真治「高知県出土の後期旧石器時代新出資料」『第17回 中・四国旧石器文化談話会資料』2000年

B. 細石刃文化期

奥谷南遺跡Ⅴ区で最も遺物出土量の多かった時期は細石刃文化期であり、細石刃文化期に相当するⅧ-a層とⅧ-b層からは石核・剥片・敲石・チャート角礫などの遺物が集中して出土した。上下の層にあたるⅦ層、Ⅸ層、Ⅹ層からも一定量の遺物が出土したが、遺物出土量が多かったのはⅧ層と接した部分が主で、Ⅷ層よりも出土点数の多いⅦ層も層厚ゆえの遺物点数の多さであり、その多くはⅧ層と接するⅦ層の中でも下層に集中していた。遺物の集中度では、Ⅷ層が他層を圧している。

Tab.34の器種別遺物点数でⅧ層出土遺物をみると、角錐状石器7点、ナイフ形石器22点、槍先形尖頭器8点、細石刃132点、細石刃核45点、と下層の遺物の混在は有り得るとしても、明らかに上層に含まれるはずの石鏃も8点出土している。石鏃は総点数170点を超える資料中における8点であり、Ⅶ層との境界部の資料が混入したものだと考えてよいだろう。石鏃が集中して分布するのはⅦ層からⅣ層にかけての層であり、主にⅧ層からⅦ層にかけて分布し、Ⅷ層に最も集中する細石刃とは全く異なる出土層位を示しているといえる。

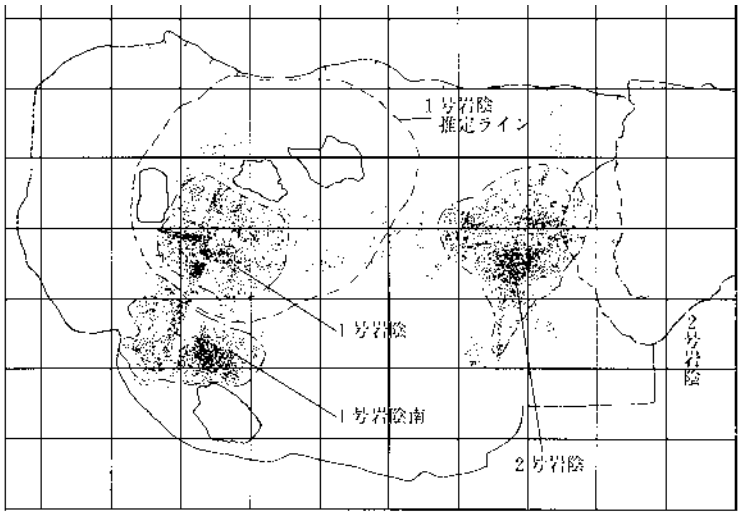


Fig. 252　細石刃文化期の遺物の平面分布と集中地点（Ⅷ層出土遺物）

遺物出土状況からⅧ層（Ⅷ-a・Ⅷ-b）が細石刃文化期であることは間違いないのだが、そこに所属する遺物がどの時期のものかということに関しては、また別の問題を含んでいる。細石刃石器群は旧石器時代の石器であり、基本的には旧石器時代に属する遺物なのだが、福井型細石刃核に代表されるように縄文時代草創期の土器登場以後も残存する細石刃の存在により、縄文時代草創期の最古段階に時期比定される可能性の検討が必要となる。

特に、発掘調査初期の段階から、奥谷南遺跡の細石刃核の中に一定量含まれることが認識されてきた船野型細石刃核の存在は、遺跡の位置づけに大きな役割を果たすことになる。船野型細石刃核の存在を根拠に奥谷南遺跡の資料は縄文草創期段階の細石刃核であるという考え方が提示される一方、西南日本に広く分布する野岳・休場型細石刃核の中でも古相の特徴を示す資料があることを根拠にした細石刃文化期でも古い段階の資料だとする考え方、さらには、野岳・休場型細石刃核と船野型細石刃核双方が存在することから、旧石器時代終末の船野型細石刃核登場後の資料だとする意見、そして出土した細石刃石器群が複数の時期の資料を含んでいる可能性の指摘まで、様々なご教示を頂いた。発掘期間中、奥谷南遺跡から出土した石器群を並べた部屋は、次々に遺跡に来て下さった研究者の方々による奥谷南遺跡出土石器を対象とする時間差シンポジウムの様相を呈していた。

ほぼ全員といってよいかもしれないが、まず探したのは西海技法・福井型細石刃核関連の遺物があるかどうかという点である。整理作業を通じても、細石刃核の中に西海技法を示す削片系細石刃核あるいはその存在を予想させる資料はなかった。もし、奥谷南遺跡の細石刃核が草創期の遺物である可能性があるとすれば、船野型細石刃核の存在と遺跡内での位置付けを検証する必要がある。

調査直後の1997年、高知市で開催された縄文時代草創期をテーマにした第8回中四国縄文研究会では、奥谷南遺跡の細石刃核を対象に野岳・休場型と船野型に分類、細石刃核の型式により分布域に違いがあるという中間報告をしたが、[1] 現段階ではそういった分布域の違いは確認できなくなってしまった。

船野型、野岳・休場型という従来の細石刃核の型式に当てはめて判断していた奥谷南遺跡の細石刃核だが、整理を進める中でどんどん混乱が深まっていった。そんな中で、鈴木忠司先生から鹿児島県帖地遺跡[2]の同一文化層で同時期に石材によって技術の異なる例があるという御指摘を頂き、従来設定された型式にとらわれず、類例のほとんどないチャート地帯でのまとまった資料として遺跡自体で細石刃核を位置付けること、更には技術復元の上での接合資料の重要性などの御指導を頂いた。残念ながら、現段階では技術を復元可能な接合資料を得ることはできていない。しかし、遺物の出土状況や集中して出土した剥片類をみれば、石器接合資料は必ず得られるものと考える。報告書刊行後の将来的な課題として設定しておきたい。

2000年に高知市で開催された第17回中・四国旧石器文化談話会で、奥谷南遺跡の細石刃核についての位置づけを明確に提示することはできなかったが、[3] 研究者の方々からは、船野型細石刃核は含むものの全体には野岳・休場型細石刃核の技術で理解できる、船野型細石刃核が一定量存在し比率は高い、瀬戸内の羽佐島技法で理解できる資料が少量存在する、などいくつかのご教示を頂いた。

細石刃文化期の様相を最もよく反映する細石刃核は、奥谷南遺跡ではどのような特徴を示してるのだろうか。

報告書刊行時点が最終段階ではなく、遺跡の資料整理の通過点だと考えている。今後評価が変化する可能性を含んだ上で、現在の到達点を示しておきたい。

出土資料の中で約100点ほどが細石刃核だと認定し得る個体だが、うち88点を分析対象とした。奥谷南遺跡の細石刃核には、いわゆる削片系細石刃核は含まれていない。細石刃核の中には石核整形のある資料とない資料があるが、石核整形（体部調整）のある場合も必ず打面の設定が、石核整形に先行する。

石核整形のない資料の中心になるのは小型の角礫素材で、細石刃剥離作業がほとんど進行しておらず、1～2枚程度の細石刃を剥離した後、放棄された形態のものが多い。また、自然状態の角礫が細石刃核だと誤認された資料も若干量含まれている。

これに対して、石核整形のある資料には、舟底形、角錐状、円錐状などいろいろな表現が可能なバラエティーに富む形状の細石刃核が含まれる。中でも舟底形と呼べる形状の資料が多いが、丁寧な石核整形により舟底形の形状を造り出すものは少なく、むしろ粗い簡単な加工しか施され

ないものが多くみられる[4]。特に下端（下縁）からの1～2回の少ない剥離だけで舟底の形状をつくりだすものもある。舟底形の資料においても、角錐・円錐状の資料においても、意識されるのは「下端を尖らせる」という程度の加工だが、下端を尖らせ細石刃剥離作業が円滑に進むような形態までは確実に整えているようで、作業面が逆三角形や逆釣鐘形の形状をとる資料が多い。下端を細くすることが意識され、作業面に対し垂直方向に稜をなす「下縁」を形成する個体も舟底形の形状の細石刃核には多い。V字形の作業面形状が大半で、正面観がU字形を呈するものはほとんどない。

細石刃剥離作業が最終段階まで進行した残核と呼べる細石刃核も24点あり、角錐状・円錐状・扁平な楔形など一定の形状に収斂している[5]。

整形加工の有無とは別に、奥谷南遺跡の中では特殊な細石刃核が2例ある。一例は周縁からの剥離により円盤状に整形加工が行われるもの（642）で、もう一例は板状の素材を横方向からの加撃（横打）により折取ることで打面を設定、短軸側から細石刃剥離をはじめるもの（657）である。これらは当遺跡出土の細石刃核の中では異質な資料だといえる。

細石刃核から観察される技術として、特筆されるのは打面細部調整の確認される個体が一定量存在することである。88点中、明確に打面細部調整が確認される個体が25点と3割近くを占め、打面細部調整の可能性のある剥離も含めれば、35点と約4割の個体の打面に打面形成後の剥離が認められることになる。細石刃核関連剥片では、作業面再生剥片と打面再生剥片が出土している[6]。この打面再生剥片や打面細部調整のある個体の多さを根拠に、奥谷南遺跡の細石刃核は西南日本に広く分布する野岳・休場型細石刃核と同様の技術基盤を持つ細石刃核だということができる。

細石刃核の形状が舟底形であっても打面細部調整が認められる個体、すなわち船野型細石刃核に分類し得ない個体も一定存在する。舟底形で打面細部調整が確認できないものも、すべてが船野型細石刃核であると認定することはできず、奥谷南遺跡の船野型細石刃核として従来認識してきた細石刃核の中にも異なる技術基盤によって形成されたものが混じっている可能性を考慮する必要がある。

丁寧な側面調整により形成された舟底形の細石刃核ブランクの存在など、細石刃核の中には船野型細石刃核に分類可能なものが一定量存在するが、上述の理由で舟底形あるいは異なる形状（作業の進行により残核形状は多様な形態となる）の細石刃核で打面細部調整のないものを全て船野型細石刃核に含めることはできない。打面細部調整の比率の高さから、奥谷南遺跡の細石刃核の主体となるのは野岳・休場型細石刃核であり、客体的存在として一定量の船野型細石刃核が含まれるという様相だと言える。船野型細石刃核の正確な割合を示すことはできないが、舟底形の体部調整、打面細部調整あるいは打面転移のない個体数、など諸要素を勘案すると、全体の15%程度、仮に多く見積もっても25%程度の割合となる。

①野岳・休場型、②船野型以外に奥谷南遺跡の細石刃核の類型を示せば、③石核整形がなく、小型の角礫を素材として1～数枚程度の細石刃剥離を行うもの、④円盤状の石核で片面に作業面を設定し、細石刃剥離作業を行うもの、⑤板状の素材を利用し、横方向からの加撃による折取りで打面を設定、短軸側から細石刃剥離作業を行うもの、の3類型の設定が可能である。④は細石刃核ではなく異なる石核の可能性もある。⑤は、羽佐島技法による細石刃核の可能性のある資料であ

る。[7] ③の資料は位置づけが難しい。石材原産地に特有な資料かもしれない。③の細石刃核の特徴をあらためてまとめると、（石核整形なし＋角礫状素材＋細石刃剥離進行が少ない）となる。

①～⑤の細石刃核をⅠ類～Ⅴ類と称するとすれば、奥谷南遺跡の細石刃核は、西南日本の野岳・休場型（Ⅰ類）が主体で、客体的存在に船野型（Ⅱ類）、そして石核整形のほとんどないⅢ類も含み、例外的な少数資料として円盤状の石核（Ⅳ類）、横打による羽佐島型（Ⅴ類）も存在する可能性があるということになる。細石刃核の様相からは縄文時代草創期ではなく旧石器時代終末の資料だと考えられる。なお、石材でみると頁岩4点に対し、チャート（珪質頁岩を含む）84点と、搬入石材としての頁岩を含んでいる。[8]

奥谷南遺跡の細石刃の詳細については、Ⅳ章4節（4）で示している。折断して利用されることが多い細石刃だが、奥谷南例では折断せず全体を使用するものが約40%と最も多く、折断する資料の中でも上下に折取りの痕跡の残る細石刃の中位を使用するものが10%と最も少なくなっている。中位の資料は、上端（30%）、下端（20%）に較べかけ離れて少ない。このことは剥離された直後の剥片が小型であったことを示している。細石刃の平均値は、重量0.16g、長さ12.6㎜、幅6.8㎜、厚さ1.7㎜である。

細石刃文化期の遺物集中は、1号岩陰・1号岩陰南・2号岩陰の3地点に認められる。[9] 出土層位でみれば、Ⅶ層以下の出土が全体の８割で、47%がⅧ層に集中している。細石刃は、異なる剥片についても誤認するケースがあると想定されるものの、同時に異なる剥片とした中にも細石刃が混在することを勘案して、今回の奥谷南遺跡出土細石刃の点数は約300点としておきたい。

細石刃文化期には、細石刃だけではなく、石器加工用の敲石類や様々な用途のスクレイパー類が存在する。

出土した旧石器時代の敲石類には、様々な形態の礫が採用され、縄文時代以降の硬質砂岩あるいは緑色岩系の扁平礫とは全く異なる石材利用がなされている。もろく、黄褐色に発色する砂岩が多く、礫形状もコロッケ状、ずんぐりとした楕円球状、角の丸い直方体・立方体状、一端の細くなる円礫、など多様だがいくつかに類別でき、用途に応じた礫選択が行われている。敲石についてはP.310から312にかけて分類基準を示し1～7類に分類した。旧石器時代の層から出土する敲石類は圧倒的多数が砂岩製で、扁平な敲石は少ないのに対し、縄文時代以降には扁平円礫の比率が高まる。分類できた敲石の中で、旧石器時代の資料といえるのは2～6類とした資料で、ハンマーとしての用途を想定している。

奥谷南遺跡の細石刃文化期の敲石類に限れば、植物食利用が想定し得るものはなく、敲石類の多くが石器製作用ハンマーだといえる。

また、敲石類は被熱して赤変した資料がまとまって出土しており、細石刃文化期あるいはナイフ形石器文化期の礫群があった可能性も想定される。細石刃文化期には焼土集中遺構が検出されており、赤変敲石（礫）には、焼土集中遺構と関連するものもある。焼土集中遺構は、1号岩陰前庭部からまとまって検出されている。

スクレイパー類は、分類や分析を行えば、興味深い成果が得られる可能性を持つ資料である。残念ながら、今回は詳細な分析を行うことができなかった。しかし、その中で得られた最大の成

Fig. 253　奥谷南遺跡Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層出土の掻器(旧石器時代～縄文時代早期)

果は、スクレイパー類に占める掻器の割合の高さと掻器の形態の多様さである。Fig.252に奥谷南遺跡のⅦ層以下から出土した主な掻器について、刃部形成位置、形状、厚さ、大きさ、刃部形態などの諸要素を元に一定の分類を加えて集成した。今回は詳細な分類基準の提示は行わない。

当遺跡の堆積の状況ゆえに、細石刃文化期の資料のみを抽出することはできなかったが、南四国の旧石器時代から縄文時代早期にかけての掻器について、初めて提示した図である。

小型の掻器や、刃部が弧状の円形掻器、先刃形掻器、拇指状掻器、石核掻器といえる資料や掻器としてよいかどうかわからないが刃部が鋸歯状のものまで、実に多様だが、いくつかに類型化される形態から、明確な意思をもって用途別に素材剥片・礫が選択されていると考えられる。

また、掻器に較べると少ない出土量だが、削器（Fig.253）と抉入石器（Fig.254）についてもまとめて図示する。いずれも旧石器時代から縄文時代にかけての資料である。

細石刃・細石刃核、スクレイパー類、敲石類の他に、細石刃文化期の可能性のある遺物として注意しておく必要のある遺物に、Ⅳ章4節A.（10）間接打撃により連続して縦長剥片を剥離する石核（以後略して間接打撃縦剥石核）とその目的的剥片である小型の石刃状の縦長剥片（Ⅳ-4-A-（5）あるいは（11））がある。遺物の器種選定の際には、小石刃及び小石刃石核として選び出した資料が多いが、小石刃という用語自体が不適切であるという指摘を頂いたこともあり、報告書の段階では少々長い名称を付すことになった。

この間接打撃縦剥石核とした石核の中には、細石刃核として分類していた資料もあるが、剥離痕の幅や、間接打撃による剥離のものが多いことから、細石刃とは分離して報告する。「間接打撃」としたのだが、中には押圧剥離によると考えられるものもあり、細石刃核と認定し得る資料もある。2000年の段階では、ここで1類としたものを細石核B-Ⅰ類として報告した。この石核は説明の容易な特徴を持っている。①石核整形はほとんどない。②形態はサイコロ状の角礫である。③作業面の上下左右後背面の5面（あるいは後背面がなく4面）が囲まれた状態で、打面に相対する底面に必ず面を残す。④各面には剥離面も認められるものの、節理面あるいは礫面が用いられる場合が多い。⑤同一作業面内において打面転移を行う場合があり、約90°の回転をする。などが主な特徴で、これらの特徴を備えた石核は他とすぐに区別することができる。この1類石核の中には細石刃核といっても良い資料がある。この点は重要で、同じ礫素材を同じ視点で使用した1類石核に細石刃が混在するのなら、明らかに間接打撃により細石刃と呼ぶには幅広の石刃を剥ぎ取った石核も、ほぼ同時期の資料としてなんら不都合はないことになる。少なくとも1類は同質性の高い石核である。間接打撃縦剥石核2類になると形態も様々で、石核整形の意識が細石刃核と同様のものもあれば、ナイフ形石器の石核であるものも混在しているようである。ナイフ形石器の石核はともかく、（10）で示した石核中には、1類石核はじめ細石刃文化期の石核が一定量含まれる可能性は高い。出土層位や地点の分布も細石刃関連遺物と似通っている。これらの石器の目的的剥片である小型の石刃状剥片の用途は何なのか。スクレイパー類の一種なのか、それとも細石刃装着時の槍の基部付近には細石刃より大きい石刃を必要としたのか、細石刃装着用の溝切りに使われたのか、など用途も含めた詳細な検討が必要である。

註

1）松村信博「南四国の縄文時代草創期～奥谷南遺跡を中心として～」『第8回中四国縄文研究会 中・四国の縄文時代草創期の土器と石器組成』中四国縄文研究会　1997年
この時点で当遺跡の船野型細石刃核に上下田型細石刃核が含まれていることを、多田仁氏に指摘して頂く。

2）永野達郎「帖地遺跡発見の第Ⅻ層出土遺物」『考古学ジャーナルNo.422』雄山閣　1997年

3）松村信博「高知県奥谷南遺跡の発掘調査と出土資料」『第17回中・四国旧石器文化談話会 発表資料』2000年

4）むしろ、細石刃核ブランクの中に丁寧な加工を持つ資料（頁岩721、チャート741）がある。明確に舟底形を指向したブランクで、打面細部調整も全く認められない。これらは船野型細石刃核として典型的なものだと考えられる。

5）後背面を残す残核の中には、左後背面の縁辺に連続した細かい剥離痕が確認される個体が5点ある。この剥離痕は、細石刃核の剥離技術を示す剥離痕の可能性がある。

6）図示し得た資料は4点だけだが、打面再生剥片の存在は重要である。

7）多田仁氏の提唱する羽佐島技法によるものである。

8）頁岩製のものには、打面細部調整があるものとないものに分かれ、野岳・休場型と船野型の可能性のあるものとに分かれる。

9）表あるいはグラフで示した細石刃の分布（P.168・170参照）では、岩庇の下の空間も岩陰前庭部の空間もまとめて「1号岩陰」として示したが、1号岩陰・1号岩陰南の2地点に分離して考える必要がある。分離した各々の地点ごとの点数はTab.34参照。

Fig. 253　奥谷南遺跡出土の削器（Ⅷ層以下出土、974・966はⅦ層）

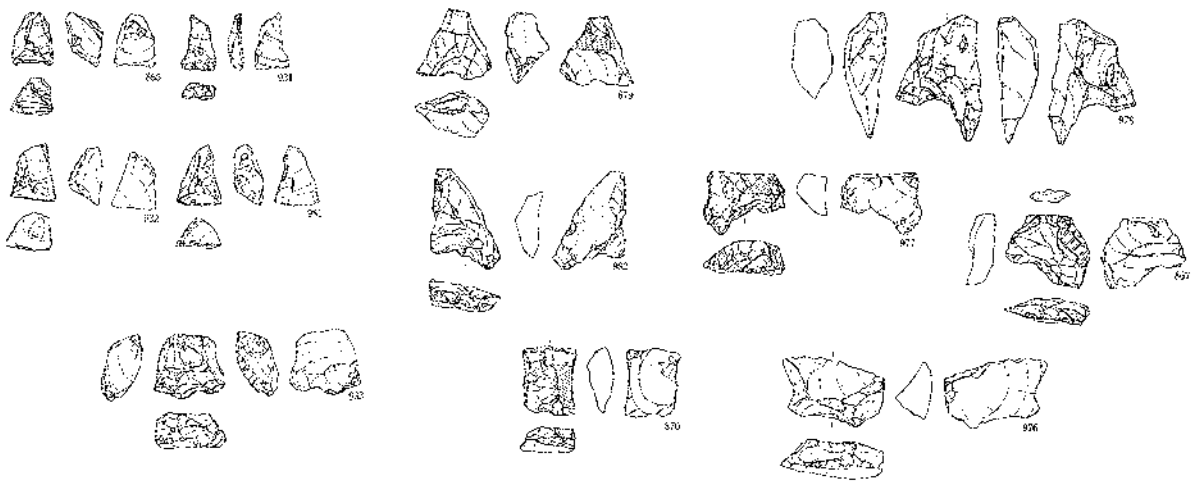


Fig. 254　奥谷南遺跡出土の抉入石器（他器種も含む）旧石器時代～縄文時代

C. 槍先形尖頭器の位置付け

奥谷南遺跡の旧石器時代から縄文時代草創期にかけての出土遺物の中で、その位置づけが極めて重要であり、かつ問題を含む遺物に小型の槍先形尖頭器がある。旧石器時代終末の細石刃文化期並行期の可能性もあり、縄文時代草創期に属する遺物の可能性もある。さらに、縄文時代草創期の遺物だとしても一体どの段階に位置付けられるべきものなのか。この種の小型の槍先形尖頭器の類例は、他地域に求めることはできるが、それでは比較する地域と南四国との階梯を同一に論じていいのか、ナイフ形石器文化期のように広い時期幅の中での位置づけなら当然可能だが、細石刃文化期から縄文草創期にかけてのしかもある程度細分された時期に対応させなければならないとしたら、これは困難な作業かもしれない。

他地域との照合、編年的な位置づけは後回しにして、とりあえず奥谷南遺跡の中で、これら槍先形尖頭器を分類し、その分類が時間的な先後関係と照応するかどうか、すなわち出土層位と対応関係が認められるかどうかを検証した。その結果、小型槍先形尖頭器の分類と出土層位がある程度の対応関係を持つということが判明し、Ⅳ章4節（3）で類別毎の先後関係を仮説として提示することができた。

槍先形尖頭器は1～6類に分類できる。1類は周縁加工で素材剥離面を多く残し、両面加工でありながら全周に加工が巡るのは片面のみであり、もう片面には未加工の部分を残す。長幅比、基部の形状をもとに1類Aと1類Bの2形態に分類可能である。2類は平坦剥離により刃縁を形成するものの中で長さ2.0～4.0㎝の小型のもので、薄い剥片素材（2類A）と比較的厚みを持つもの（2類B）に分かれる。2類には左右対称の形状を意識したものが多い。3類は、2類と同様平坦剥離で刃縁を形成するが、2類よりも長さが長く、全長4.5～5.0㎝前後となる。2類が左右対称に近い個体が多いのに対し、左右の刃縁の湾曲の度合いが異なる左右非対称の個体が多い。4類は6.0㎝を超える大きさのもの、5類は長幅比・形状の異なる縄文時代早期の尖頭器、6類は縄文時代の石鏃の可能性のある個体である。4類は旧石器時代から縄文草創期にかけての可能性もあるが、Ⅷ-b層出土の120は尖頭器未製品の可能性もあるし、136・138の他の資料と隔絶した大きさのものは位置づけが難しいため、分析の対象を1～3類とした資料に絞った。

1類はすべてチャート製の槍先形尖頭器である。原位置を保って出土した資料は、1号岩陰のX層とⅧ-b層との境界付近からの出土であり、細石刃の集中する細石刃文化期Ⅷ層と同層あるいは下層となる。2類Aはすべてサヌカイトで、2類Bにはチャート製とサヌカイト製の資料がある。基本層序のⅤ層以上あるいは他地点の2次堆積土層出土資料・層不明を除くと、2類とした12点中9点までがⅧ層(うち7点はⅧ-a層)の出土で、平面分布も1号岩陰7点に対し2号岩陰6点とほぼ双方の岩陰に同じ程度の分布を示していることがわかる。3類には、赤色頁岩（134)、チャート（135)、サヌカイト（130・137）が石材として使われ、すべてがⅦ層（137の出土層位・オリーブ灰褐色砂礫層もⅦ層の中の下層に相当）からの出土である。出土地点も双方の岩陰からである。

これらの分類に対応する出土地点・出土層位から明らかになった事実を整理し、奥谷南遺跡小型槍先形尖頭器の変遷案を示す。

①1類はⅧ-b層あるいはⅩ層段階の資料である。平面的には1号岩陰に分布する。
②2類はⅧ-a層から最も多く出土し、1・2号岩陰双方のⅧ-a層に分布する。
③3類はⅦ層（Ⅶ層の中では下層）から出土する。
④1～3類の間は、選択される素材の大きさや技術などで明確に分離することができる。
⑤槍先形尖頭器は、1号岩陰と2号岩陰の双方に分布域があり、2号岩陰に偏在するナイフ形石器文化期の遺物の分布状況とは明らかに異なっている。（ただし、ナイフ形石器文化期もⅩ～ⅩⅢ層に限れば大半が1号岩陰から出土している。）
⑥奥谷南遺跡の槍先形尖頭器の変遷を示せば、1類→2類→3類という段階が設定できる。
⑦槍先形尖頭器1類は細石刃文化期の遺物と共伴するか、それに先行する可能性を持つ。
⑧槍先形尖頭器2類は細石刃文化期の遺物と共伴するか、それに後続する可能性を持つ。
⑨槍先形尖頭器3類は細石刃文化期の遺物よりも新しい段階の遺物である可能性が高い。（縄文時代草創期の可能性が高いが、より新しい場合あるいは古い場合なども可能性としては残されている。）
⑩上記⑦～⑨の細石刃文化期として設定した時期は奥谷南遺跡の細石刃・細石刃核が集中する時期（Ⅷ層段階）である。

遺跡内での位置づけだけで所属時期の断定はできないが、妥当だと考えられる時期を示せば、1類が旧石器時代の細石刃文化期並行期の資料、2類が縄文時代草創期の最古段階の資料、3類は縄文時代草創期の可能性が高い（より新しい時期あるいは2類と同時期など様々な可能性の想定される）資料ということになる。Ⅷ-a層出土資料が大半を占めるのにも関わらず、2類を細石刃文化期としなかったのは、2類の石材の多くがサヌカイトであるのに対し、細石刃関連の遺物（細石刃・細石刃核・細石刃関連剥片など）にサヌカイトが全くみられないことと、Ⅷ-a層の場合、上層のⅦ層との境界部にあたりⅦ層段階の遺物と混在する可能性があることを根拠とする。

サヌカイトの槍先形尖頭器について蛍光X線分析を行った結果、122(2類)が城山、137(3類)が金山東、137(5類)が国分寺といずれも香川県産ながら異なる産地のものだという結果となった。

槍先形尖頭器については、遺跡内での位置付けに終始した。他地域の遺跡の蓄積された成果との詳細な比較対象による編年的位置づけは今後の課題としたい。

註

槍先形尖頭器を分類して並べた図面はⅤ章第3節3に縄文時代草創期の遺物とともに示してある。また、長幅比と分類との対応、幅厚比などの形態上の特徴は、P.152のFig.108に示す。

4. 奥谷南遺跡出土の細石刃核

奥谷南遺跡から出土した細石刃核について、細石刃核であるとした88点について、属性表を作成、どのような傾向があるのかについて特徴の抽出作業を行なった。図版作成作業の過程で「細石刃核」であるとした資料だが、再分析の過程で異なる器種であることが明らかになった個体もある。第Ⅳ章第4節で、おおよその細石刃核の形態的特徴と出土状況、選択された石材については記述し、所属時期や細石刃核の型式についての大まかな概観はⅤ章第2節3で行ったものの、分類の詳細と特徴的な個々の細石刃核についての記述はほとんどなし得ていない。

Tab.36に細石刃核の分類とその根拠を示した。対象とした細石刃核はFig.126～Fig.134の88点である。図版掲載段階で細石刃核として並べたものの、再検討の結果、細石刃核以外の器種も混在していることがわかった。明らかに細石刃核ではない（関連剥片や人為の痕跡のない角礫）個体を除く85点が細石刃核である。なお、ここで認定した以外にも他器種であるとした資料中にも細石刃核は含まれており、今回出土した細石刃核の概数は約100点である。

従来の型式に当てはめて、奥谷南遺跡の細石刃核を理解しようと試みたが、何度か行き詰まってしまい、うまく細石刃核の内容を把握できない。属性についての検討も行ったが、うまく整理できない。そこで、最後にもう一度属性を絞り込んだ上で資料の再検討を行った。個々の属性の捉え方に誤りのある点も若干あるかもしれないが、大筋は間違っていないはずである。また、実測図作成段階で剥離の単位を正確に把握できていなかった図面もあり、何点かのトレース図については修正を加えたものの、細石刃核の剥離面などの実態が正確に反映されていない図もあることを断っておきたい。

以下の記述は全てTab.36に関するものである。

図版番号・層位・出土地点（平面位置）を記録した後、細石刃核の属性としてまず取上げたのは石核整形の有無であり、石核整形がある場合はA、ない場合はB、判断しかねる場合はABを記した。次に打面形状だが、①が剥離面、②が節理面、③が礫面である。2つ以上が重なっている場合は、打面に節理面と剥離面、礫面と節理面などが重なることを意味する。単剥離面か、そうでないかはこの表からはわからない。石核整形については設定した打面側からか下縁側（打面の反対側）からかを区別、基本的には打面設定後の側面調整の有無で、○（有）×（無）△（不明瞭）で示している。最終残核など確認できないものは「－」で示し、調整が特に丁寧なものは◎を付けた。中には側面調整ではない剥離に○を付けたものもあるが、その場合は石核整形をBとした。

打面細部調整・打面転移・頭部調整については、○（有）×（無）△（不明瞭）で示す。側面対向剥離は、細石刃剥離作業時の押え痕とされる剥離の有無の確認を意図したもので、以前チェックした時には一定量確認できたと思ったのだが、細石刃核の再認定後の今回の検討では、ほとんどなくなってしまった（○×で示す－3個体のみ）。

細石刃剥離進行は細石刃剥離作業の指向の段階を、×→△→○→◎で示す。×は剥離作業の初期の段階から、残核が比較的大きく一定の大きさを保っている段階、△は作業工程が進んだというよりは素材礫の大きさが小さいものを示し、△（小）で示す。○と◎が細石刃剥離作業が最も

進んだ段階で、◎はこれ以上剥離することはほぼ困難と考えられる最終段階の細石刃核である。

細石刃核の形状だが、大きくA～Gの7形態に分け、各形態ごとに1～4の下位分類を行った。

A－舟底形の形状を示す。

B－角錐状あるいは円錐状の形状を示す。

C－角柱状あるいは角礫という呼称が適当な形状を示す。

D－最終残核あるいはそれに近い大きさ・形状を示す。

E－小型で寸詰まりの形状を示す。作業面高が低い。

F－円盤状の形状を示す。

G－板状で、側面形半月型の形状を示す。

下位属性（A～Dは各々下位属性をもち、E・F・Gと併せて形の上から15に分類できる。）

A－1・・・作業面正面観がU字形のもの。

A－2・・・作業面正面観がV字形のもの。

A－3・・・下端が細くなるものの、底面をなすもの。

B－1・・・角錐状のもの。

B－2・・・円錐状のもの。

C－1・・・角柱状のもので、側面が長方形に近いヨーカン形のもの。

C－2・・・角柱状のもので作業面あるいは側面が正方形に近いサイコロ形にみえるもの。

C－3・・・不整形な角礫状のもの。多くのバリエーションがある。

D－1・・・小型の残核で角錐状のもの。

D－2・・・小型の残核で円錐状のもの。まるで鉛筆の芯のように、細長く伸びる。

D－3・・・小型で扁平な楔形（下端が細くなる）のもの。

D－4・・・小型でサイコロ（角柱）状のもの。

重量が25gを超える資料については、他の細石刃核と隔絶した重量であることもあり、（大）の記載を付け加えた。また、元来の大きさ（作業面高が基準）が小さい資料については、（小）の記載を加えた。（小）は最終残核を示すものではない。また、形から判断して2類型の中間的な様相のものは、2つの類型を併記した。個々の細石刃核に対する個別の観察も含めた記述を進める予定だったが、今回は分類基準の提示と、Ⅴ章第2節3－B細石刃文化期でまとめた奥谷南遺跡の細石刃各類型のTab.36への集成にとどまった。

奥谷南遺跡の細石刃核はⅠ～Ⅴの5類型に分かれる。従来の細石刃核の分類で比較すると、Ⅰ類が野岳・休場型細石刃核、Ⅱ類が船野型細石刃核、Ⅲ類が石核整形がなく角礫（角柱）素材の細石刃核、Ⅳ類が円盤状の形態の細石刃核、Ⅴ類が羽佐島型細石刃核である。Ⅳ・Ⅴ類は当遺跡において例外的で、Ⅲ類も合計10点足らずと少なく、細石刃核としても異質で、細石刃剥離行程を復元できるような一つの技術に収斂していくものではない。奥谷南遺跡の細石刃核はⅠ類である野岳・休場型細石刃核が中心であり、その中にⅡ類である船野型細石刃核が含まれるといった様相だといえる。Ⅰ類とⅡ類は、剥離途上においてはどちらに属するか判断に苦しむ資料も多く、どちらともいえないという位置付けのものが11点、明らかにⅠ類といえるもの、Ⅰ類の可能性が高いものが46点、明らかにⅡ類といえるもの、どちらかと言えばⅡ類に分類されるもの含めて12点という計数結果となった。Ⅰ類とⅡ類の比率は約4：1で、全体の細石刃核に対するⅡ類（船野型細石刃核の）割合は15%から最大に見積もっても30%弱（20点ほど）だと言える。

Tab. 36　細石刃核分類表

図版番号	層　位	出土地点	石核整形	打面形状	打面側からの剥離	下縁側からの剥離	左後背面の剥離	打面細部調整	打面転移	頭部調整	側面対向剥離	形　状	細石刃剥離進行	分　類
610	X	1号岩陰	A	①･③	○	×	−	×	○	○	×	C−1	×	I
611	X	1号岩陰	A	①	○	×	−	×	×	○	○	A−3	×	I ・ II
612	X	1号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	×	×	A−2	×(大)	I ・ II
613	IX	1号岩陰	A	①	−	−	×	×	×	○	×	D−1	◎	I ・ (II)
614	IX	1号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	○	×	C−2	×	I ・ II
615	IX	1号岩陰	A	①	−	−	−	○	×	×	×	D−4	◎	I
616	X	1号岩陰	A	①	○	○	−	○	×	×	×	B−1(E)	×	I
617	IX	1号岩陰	A	①	○	×	−	○	×	×	×	B−1	×(大)	I
618	VIII−c	1号岩陰	A	②	○	×	−	○	×	○	×	A−2(扁平)	×	I
619	VIII−b	1号岩陰南	A	①	○	○	−	×	×	○	×	A−2−②	×	(I) II
620	VIII−b	1号岩陰南	A	①	△	○	−	×	×	×	×	B−1	△(小)	I ・ II
621	VIII−b	1号岩陰南	A	①	○	○	−	×	×	×	×	B−2(A−2)	×	I ・ II
622	VIII−b	1号岩陰南	B	①	×	×	−	×	×	×	×	A−2	×	II
623	VIII−b	1号岩陰南	B	①	△	△	−	×	×	○	×	C−3	×	I
624	VIII−b	1号岩陰南	A	①	○	○	−	○	×	○	×	B−1(E)	△(小)	I
625	VIII−b	1号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	△	×	B−1	×(大)	I
626	VIII−b	1号岩陰	A	①	−	−	−	○	×	○	×	D−3(幅広)	○	I
627	VIII−b	1号岩陰	B	③	△	△	−	×	×	×	×	C−3	△(小)	III
628	VIII−b	1号岩陰	A	②	○	○	−	×	×	×	×	D−3(E)	△(小)	(II)
629	VIII−b	1号岩陰南	A	①	−	−	−	○	×	○	×	D−2	◎	I
630	VIII−b	1号岩陰南	B	②	○	○	−	×	×	○	×	C−2	×	III
631	VIII−b	1号岩陰南	A	①	−	−	×	○	×	×	×	D−1	◎	I
632	VIII−b	1号岩陰	B	①	×	×	−	×	×	○	×	A−2	×	III
633	VIII−a	2号岩陰	A･B	①	○	○	−	×	×	△	×	A−2	×	
634	VIII	1号岩陰	A	①	○	×	−	×	×	○	×	A−1(A−2)	×	(I?)
635	VIII−a	1号岩陰南	A	②	×	○	−	○	×	○	×	A−2	×	I
636	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	×	△	×	△	×	D−3	◎	I
637	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	×	○	×	○	×	D−3(扁平)	◎	I
638	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	×	○	×	○	×	D−3(厚)	◎	I
639	VIII−b	1号岩陰	A	①	○	△	−	×	○	○	×	C−2	△(小)	I
640	VIII−b	1号岩陰	A	①	○	×	−	×	×	×	×	A−1	×	II
641	不明	1号岩陰東	B	①	△	×	−	×	×	×	×	B−1(E)	△(小)	I･III
642	VIII−b	1号岩陰	A	①	周縁から整形		−	×	×	×	×	F	×	IV
643	VIII−a	1号岩陰	A	①	○	△	−	△	×	○	×	A−2(厚)	×	I
644	VIII−a	1号岩陰	A	①	○	×	−	○	○	○	×	B−2	×	I
645	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	○	○	×	×	×	D−1	◎	I
646	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	○	×	×	○	×	D−3(扁平)	◎	I
647	VIII−a	1号岩陰	A	①	△	○	−	×	×	○	×	A−2	×	I ・ II
648	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	×	△	×	△	×	D−3	◎	I
649	VIII−a	1号岩陰南	A	①	−	−	○	×	×	×	×	D−3(D−1)	◎	I
650	VIII−a	1号岩陰	A	①	−	−	×	×	×	○	×	D−1	◎	I
651	VIII−a	1号岩陰南	A	①	−	−	×	×	×	○	×	D−1(D−3)	◎	I
652	VIII	1号岩陰南	A･B	②	×	×	−	◎	○	○	×	C−3(E)	△(小)	I (III)
653	VIII−a	2号岩陰	A	①	○	×	−	×	×	○	×	D−3	○	I (II)
654	VIII−a	2号岩陰	A	①	−	−	−	×	×	×	×	D−1	◎	I
655	VIII−a	1号岩陰南	A	①	○	×	−	×	○	×	×	A−不整形	×(大)	I
656	VIII−a	2号岩陰	A	①	−	−	−	×	×	○	×	D−1	◎	I ・ II
657	VIII−a	2号岩陰	B	①	−	−	−	○	×	×	×	G(板状)	×	V
658	VIII−a	2号岩陰	A	①	○	×	−	×	×	○	×	A−3(A−1)	×	(I) II
659	VIII−a	2号岩陰	B	①	−	−	−	×	×	○	×	C−3	×	(I) III
660	VIII−a	2号岩陰	A･B	①	○	○	−	△	×	○	×	扁平･不整形	×	I
661	VII	1号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	○	×	A−2−②	×	II
662	VII	1号岩陰	A	①	○	×	−	×	×	△	×	C−2･A−2	×	II
663	VII−2	1号岩陰東	B	①	○	○	−	×	×	○	×	C−2	△(小)	I ・ II
664	VII	1号岩陰南	B	①	×	×	−	△	△	×	×	C−2(E)	△(小)	III
665	VII−R	1号岩陰	B	①	−	−	−	△	×	×	×	C−3(E)不規則	×	III
666	VII	1号岩陰南	A	①	×	○	−	×	×	○	×	A−2(E)	×	(I) II
667	VII	1号岩陰南	A	②	○	○	−	○	×	○	×	A−2	×	I
668	VII	1号岩陰南	A	①	○	○	−	○	×	○	×	B−1･B−2	×	I
669	VII	1号岩陰南	A	②	○	×	−	○	×	×	×	B−1	×	I
670	VII−2	1号岩陰東	B	③	×	×	×	×	×	×	×	C−2自然角礫	×	−
671	VII−YR	2号岩陰	A	①	−	−	△	×	×	○	×	D−3	◎	I ・ II
672	VII	2号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	○	×	A−1(E)	△(小)	(I) ・ II
673	VII−YR	2号岩陰	A	①	○	○	−	△	×	○	×	D−1(E)	◎	I
674	VII−YR	2号岩陰	A	①	○	○	−	○	×	○	×	D−1	◎	I
675	VIII−a	2号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	×	×	D−3	◎	I ・ II
676	VII−SR3	2号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	○	×	D−1(最小)	◎	I
677	VII−SR3	2号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	○	×	D−1	◎	−
678	VIIサイカ	2号岩陰	−	−	−	−	−	−	−	−	−	関連剥片	−	I
679	VII	2号岩陰西	A	①	△	○	−	△	×	○	×	A−2･B	×	I ・ (II)
680	VII−2	2号岩陰	A	①	×	○	−	×	×	○	×	A−2−②	×	III
681	VII	2号岩陰	B	③	×	×	−	×	×	×	×	B−1	×	(II)
682	VII−SR3	2号岩陰	A	③	△	△	−	×	×	×	×	A−2(E)	△(小)	III
683	VII	2号岩陰	B	①	×	×	−	×	×	○	×	A−3	×	(I) (II)
684	VII	2号岩陰	A	①	○	○	−	×	×	△	×	A−2(E)	△(小)	I･III
685	VII	1･2号岩陰中間	B	①	×	×	−	○	×	×	×	C−2	×	(I)･III
686	VII	2号岩陰	B	①	×	×	−	○	×	×	×	C−1(E)	△(小)	I
687	VII	2号岩陰	A	①	−	−	−	△	○	○	×	B−1(?)	×	不明
688	VII−YR	2号岩陰	A･B	①	−	−	−	×	○	○	×	B−1(?)	×	(III)
689	VII上	2号岩陰	B	①	−	−	−	×	×	×	×	C−3	×	(II)
690	VII	2号岩陰	A	①	○	○	−	×	○	×	×	B−1･A−2	×	I (II)
691	V	1号岩陰南	A	①	−	−	×	△	×	×	×	D−3	◎	I
692	V	1号岩陰東	A	①	○	○	−	○	×	○	×	B−1(扁平)	×	I
693	排土中	SD401	A	①	−	−	○	○	×	○	×	D−1	◎○	I
694	検出時	1号岩陰南	A	①	○	×	−	○	×	○	×	C−2	△(小)	
695	不明	1号岩陰	A	②	○	×	−	×	×	○	○	A−2	×	II
696	検出時	2号岩陰南	A	①	○	×	−	×	×	×	×	A−3(不規則)	×	I ・ II
697		不明	A	②	△	○	−	○	×	○	○	A−2	×	I

類別と層・地点との関係、属性との関係など重要な分析ができておらず、それが残された大きな課題である。Tab.36と図面、計測表（Tab.14）から、個々の細石刃核の様相は読み取っていただきたい。

また、Ⅳ章での報告時点で、打面細部調整の点数を過って計数し、全体の40%～50%という数値を出し、野岳・休場型が圧倒的に多いという印象を持ったが、転写の際の誤記が判明、最終的に計数し直して明らかに打面細部調整が認められる個体が25点（約30%）、不明瞭なものも含め35点（約40%）だということが判明した。ここで訂正しておきたい。Tab.14の打面細部調整のある・なしの記載内容は誤りで、Tab.36が正しい。

※なお、第１節～第３節を通じて、数多くの引用・参考文献の掲載を行うことができていない。報告書のまとめとはいえ、参考にさせていただいたにも関らず、掲載できなかった文献、御教示いただいた方にはおわび申し上げたい。

第3節　縄文時代

1. 遺構について

縄文時代の遺構としたものは、ピット316基、平面形が楕円形の土坑4基、SX101とした住居跡の可能性のある遺構1基(1棟)である。ピットや土坑はⅦ層の下に位置し、遺構埋土が黒褐色土あるいは暗褐色土などⅦ層に相当するものについて、縄文時代の遺構だと認定した。

ピットについては、岩庇下の面積が狭い岩陰を住居として利用するため形成されたものだという可能性を考え[1]、復元を試みたものの、上部構造の復元・ピット間の関連を認定することはできなかった。ピットの分布域は偏在傾向にあり、1号岩陰の西側、1号岩陰と2号岩陰との中間域、2号岩陰の西側など各々の地点毎のまとまりを認めることができる。ピットは基本的に垂直に掘り込まれた形態のものが大半であり、明らかに斜め方向を意識して掘り込まれたピットはなかった。

2号岩陰西側の柱穴(岩陰の上から撮影)

これらのピットの所属時期としては、縄文時代早期を想定している。岩陰に一定面積の居住空間を確保するために、これらのピットが利用された可能性は十分にある。

縄文時代の遺構の中で注目されるのは、岩陰の南側緩斜面(グリッドH-7)に位置するSX101である。埋土上層からも石器剥片類が多く出土すること、調査前の段階で時期が確認できた縄文土器の中で最も古い資料が縄文時代前期のものだったことなどから、当初は縄文時代前期の石器製作に関連する遺構の可能性を想定して調査を進めていた。しかし、SX101の調査の終盤に至って縄文時代草創期の土器が確認され、その上、南四国で確認例のなかった南九州系の隆帯文土器も含まれていたことから[2]、一躍注目を集めることとなる。

この遺構の特徴として、①傾斜地(緩斜面)に形成される。②遺構底面はほぼ水平で、壁際に小ピットの可能性を持つ浅い掘り込み(4箇所、深さ4～6㎝)が残る。③遺構底面に平面形不整楕円形64×42㎝、深さ6～20㎝の浅い皿状の底面遺構(SX101-P1)がある。④遺構は不整形な扇形の平面形で、開く方向(扇の要の方向) は南西方向、斜面の傾斜の下方に向いている。⑤遺構の西側に近接して焼土の集中するピット(P101)が存在する。⑥残存する遺構の規模は長軸(長径)方向約2.4m、短軸方向(短径)約1.5～1.6mである。などの諸点が挙げられる。

草創期の遺構としては鹿児島県掃除山遺跡の住居址の例[3]と、緩斜面に立地する点・遺構が形成される方向・遺構内にピットを伴う点・焼土を伴う施設(掃除山遺跡が煙道付炉穴であるのに対し、奥谷南遺跡は焼土含有ピットと内容は大きく異なる) が遺構に近接して形成される点などいくつ

かの類似点を見出すことができる。ただ、掃除山遺跡の住居址は長径が約4.6m（1号住居址）と約5.5m(2号住居址)であるのに対して、奥谷南遺跡SX101は長径約2.4mと規模は大きく異なっている。[4]

遺構内からは草創期前半(中葉)の土器と共に石鏃・石器剥片類が出土、遺構底面からは石器加工の用途が推定される敲石が出土している。SX101から石鏃と押圧剥離によると考えられる剥片類と共に細石刃核と細石刃が出土したことから、当初は細石刃と石鏃が共伴する可能性があると報告した。[5] これは、南九州において細石刃と石鏃の共伴する遺跡の報告例が相次いでいることを根拠としていた。しかし、この遺構の周囲には細石刃・細石刃核が集中するⅧ層が広がっていたであろうこと、出土した土器の特徴は南九州の共伴するとされる遺跡よりも新しいこと、南九州の共伴例にも確実に細石刃と石鏃が使用されたのが同時期だと証明できる例は少ないという御教示を頂いた[6]ことなどから、現在はSX101の細石刃・細石刃核は草創期の遺構の埋土に混入したものだとの結論に達している。

SX101の性格については、規模や形成時期(南四国の縄文文化の階梯の問題)などの面から検討すべき課題も多く、正確な位置づけは避けてきた。しかし、掃除山遺跡との類似点があるということだけではなく、遺構構築のための労力や底面遺構(中央ピット・小ピット)の存在、近接する焼土遺構などを理由として奥谷南遺跡SX101は草創期中葉の住居としての性格を持った遺構[7]だと考えたい。しかし、掃除山と比較すると著しく規模が小さく、草創期の初期定住といった概念[8]では捉えることはできない。キャンプ地的な住居だとしても定住の度合いは低かったと考えられる。

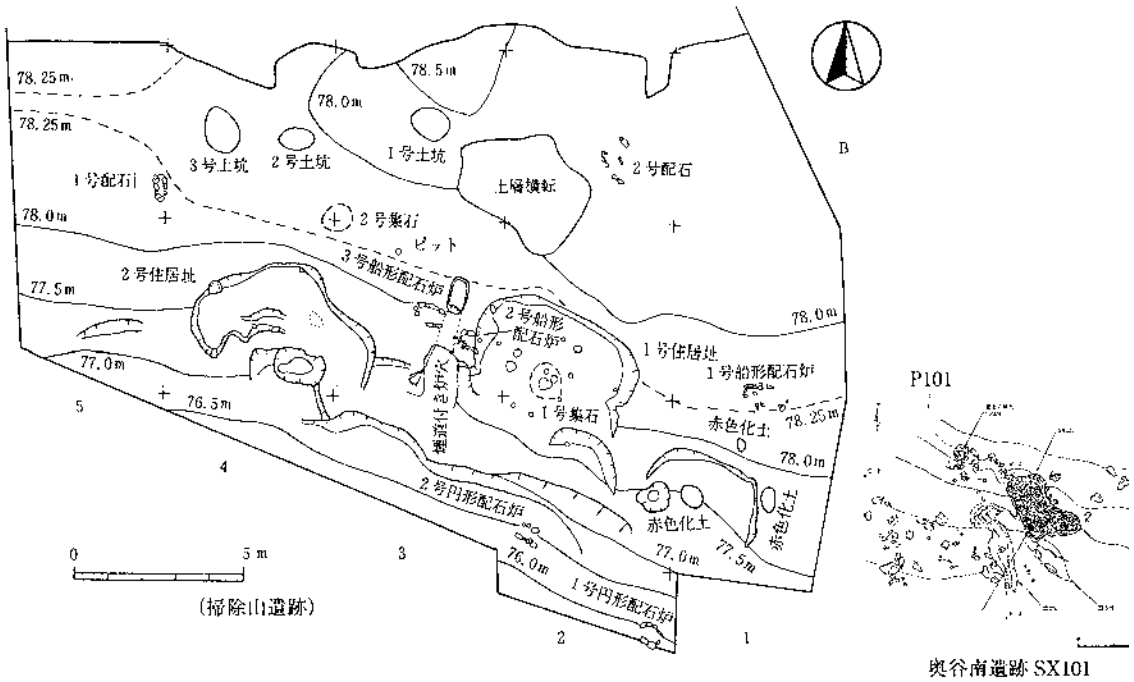


Fig. 255　掃除山遺跡住居址と奥谷南遺跡SX101との同スケールによる比較

註

1）栗島義明氏は、洞窟・岩陰遺跡に付随するピットが、洞窟や岩陰を利用した居住空間を造り出すために形成された可能性を追及している。その根拠の一つに、洞窟あるいは岩陰の岩庇下の空間が、居住空間としては狭い例が多いことを挙げ、岩庇（雨垂れライン）外側に形成されるピットが岩陰を利用した住居の屋根を構成する役割

を果たしていたのではないかと推定する。

栗島義明「洞窟遺跡と開地遺跡の関係－埼玉県神庭洞窟をめぐって－」第2回シンポジウム『洞穴遺跡の諸問題』発表要旨 千葉大学 1997年

2）出土した隆起線文土器・隆帯文土器の特徴については、P.329～333に詳述する。

3）『掃除山遺跡』鹿児島市教育委員会 1992年

4）SX101の平面形状及び規模については、調査の成果本文中に記載漏れがあるため、ここで改めて記録する。SX101の平面形状は緩斜面の傾斜に沿った下方が開く不整な扇形に近い形で、SX101-P1は扇の要に近い地点に位置する。SX101の開口部は斜面下方、南西方向に向かって開き、長径約2.4m、短径約1.5～1.6mの規模である。

5）松村信博「南四国の縄文時代草創期～奥谷南遺跡を中心として～」『第8回中四国縄文研究会 中・四国の縄文時代草創期の土器と石器組成』中四国縄文研究会　1997年

6）桑波田武志氏のご教示による。

7）SX101については、当初は住居の可能性を全く考えていなかった。最初に住居の可能性に思い至ったのは、藤野次史氏の御指摘による。それ以降、住居の可能性の検討を開始した。

8）雨宮瑞生「掃除山遺跡の時代～温帯森林の初期定住～」『掃除山遺跡』鹿児島市教育委員会　1992年

2. 縄文土器からみた岩陰の利用時期

縄文土器は、草創期から後期に至る土器型式が検出されており、晩期の土器は未確認である。出土した縄文土器853点の中で実測点数170点あまり、報告書に載せた縄文時代の土器の点数は144点、いずれも小片であり全体形状が推定可能な土器には恵まれていない。その中であえて複数の破片が検出された時期を抽出すれば、Ⅰ期-草創期前半～中葉（隆起線文土器・隆帯文土器）・Ⅱ期-早期中葉（押型文土器・繊維土器）・Ⅲ期-早期後半～末（天道ヶ尾式→平栫式・繊維土器・無文土器・条痕文土器）・Ⅳ期-前期初頭（羽島下層式）・Ⅴ期-前期末～中期初頭（里木Ⅰ式《彦崎ZⅡ式・大歳山式》→船元Ⅰ式）・Ⅵ期-中期末～後期初頭（北白川C式→中津式）の 6 期を設定することができる。この 6 期の他にも、前期前半-北白川下層式Ⅰ期、後期中葉-平城Ⅱ式など上述の時期の間を埋める資料も出土しているが、極めて少量であり断片的である。当然、今回の調査範囲で検出し得なかった土器も存在するはずであり、岩陰周辺での実像はつかみきれない。ただ、岩陰での生活の痕跡が土器出土量に対応するとすれば遺跡のピークが移行期にあるということはいえる。Ⅲ期～Ⅳ期-早期→前期、Ⅴ期-前期→中期、Ⅵ期-中期→後期と山内清男の設定した縄文土器型式の時期区分のまさに移行期に、この岩陰が頻繁に利用されたであろうことが読み取れる。さらに草創期前半（中葉）を広い意味で旧石器時代から縄文時代への移行期とすれば、この時期（Ⅰ期）も移行期だと捉えられよう。

このような、移行期における岩陰の積極的な利用がどのような意味合いを持つのかについて、現段階では有効な説明を与えることはできない。早期から前期への変化、前期から中期への変化、そして中期から後期にかけての変化は西日本縄文社会において、どういう意味を持っていたのか。

むしろ、西南日本では本質的な変化が後期後半など【期】の移行期ではない時期に起こったことが明らかになってきている。ただし、東北日本と西南日本では、土器型式の変化は連動しなが

らも互いに時期差を持ちながら起こっており、縄文時代後期後半における「縄文」の消失とそれに先立つ片粕式-伊吹町式期（北久根山式並行-西平式並行期）との間にこそ生業の画期があり、片粕式（北久根山式並行）から元住吉山式あるいは後続する宮滝式の段階こそが、西日本縄文後期社会から晩期社会への過渡期であるということが石器の器種組成も含めて追求されようとしている。ここにおいて、西南日本と東北日本の縄文社会は相互に交流を持ちながらも、全く異質な展開を示しはじめる。この段階以降、奥谷南遺跡の岩陰からは土器の痕跡が消え失せ、次に登場するのは弥生時代前期末になってからとなる。

縄文後晩期の岩陰利用の在り方を推察すれば、岩陰自体の利用価値が大きく減じた可能性を指摘することができる。つまり、岩陰で獲得してきた石器素材としてのチャートは縄文後期以降サヌカイトによってその座を追われ[1]、定住集落の形成（竪穴住居）により岩陰を住居・キャンプ地として選択する必要がなくなったのではないだろうか。

環境の変化など外的要因を理由に、当地域が生活領域として放棄されたという可能性はない。奥谷南遺跡の西隣の尾根を挟んだ谷にある栄エ田遺跡[2]では、縄文後期初頭（中津式土器古段階）から晩期後半（終末）の突帯文土器期に至るまでの土器が、約200m²の狭い調査地点から出土している。後期前半の松ノ木式土器と後期終末から晩期初頭にかけての土器が全く確認されていない[3]のだが、それ以外の時期の土器は少量ながらも、全ての時期がそろって確認されている。

栄エ田遺跡で土器の検出される時期、直線距離で300m程の距離にある奥谷南遺跡岩陰周辺は、栄エ田縄文人にとって当然生活エリアとして位置づけられるはずである。後期中葉から晩期にかけて岩陰は生活領域ではあるものの土器を残すような活動の場となり得なかったことになる。

註

1）サヌカイトについては、高知平野では縄文時代後期以降は一般的というよりも石鏃素材としては他の石材を圧倒し、在地石材が例外的な存在となる。（縄文後期松ノ木遺跡、弥生前期～後期田村遺跡群など）縄文時代早期の飼古屋岩陰遺跡においてすら石鏃素材としてサヌカイトが約70%以上を占めている。

2）『栄エ田遺跡』高知県埋蔵文化財センター 1995年

3）後期以降、奥谷南・栄エ田の2遺跡から土器の確認されない時期（後期前半松ノ木式期、後期末～晩期初頭）は、生業の変化・石器器種組成の変化など何らかの画期のある時期である。

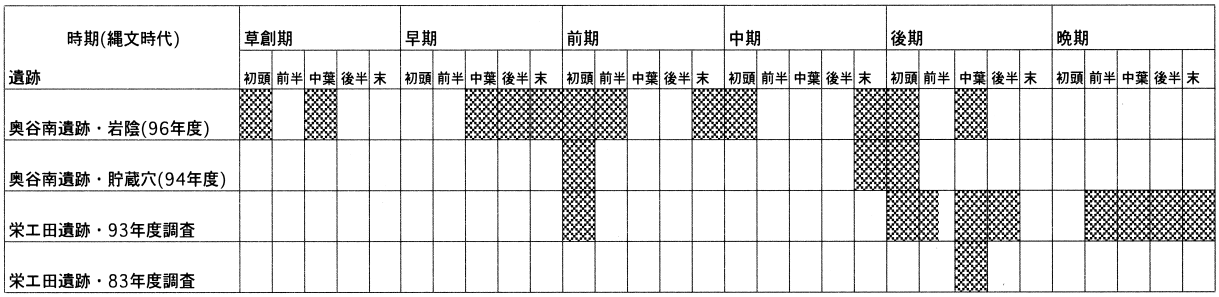


Fig. 256　奥谷南遺跡と栄エ田遺跡での縄文時代における遺跡利用時期の比較

3. 縄文時代草創期～四国島内における奥谷南遺跡草創期資料の位置付け～

高知県の縄文時代草創期については、僅少な手掛かりしか残されていない。土器の出土した遺跡は佐川町不動ヶ岩屋洞穴、十和村十川駄場崎遺跡、そして奥谷南遺跡の3遺跡のみであり、不動ヶ岩屋1点、十川駄場崎1点、奥谷南7点（うち形態の特徴から明らかに草創期だと断定可能な個体は3点）と県内の合計でも10点に満たない。しかも、いずれも一辺10cmに満たない小片である。土器編年も他地域の例との比較においてはじめて位置付けが可能になる程度である。四国内に目を転ずれば、学史的にも著名な愛媛県上浮穴郡美川村上黒岩岩陰遺跡、愛媛県穴神洞遺跡がある。上黒岩遺跡は草創期としては土器出土点数はまとまっており、穴神洞の場合は残存個体が大きく、復元が可能である。しかし、これ以外には四国内でまとまって草創期の土器を出土した遺跡の例はない。

それにもかかわらず高知県で草創期の遺跡が11遺跡、土器の全く出土していない徳島県でも10遺跡以上の草創期遺跡が報告されている[(1)]のは、有舌尖頭器の出土によるものである。

奥谷南遺跡の草創期遺物は土器だけではなく、局部磨製石斧（神子柴系石斧）、有溝砥石、小型槍先形尖頭器、石鏃などの石器類であり、形態からの特定はできないものの遺構出土資料など敲石類も一定量含まれる。これらの遺物は、同時期の遺物ではなく、草創期の中でいくつかの時期の設定ができる。

数時期の設定が可能で、量は多くないものの多様な遺物を含むにも関わらず、奥谷南遺跡から有舌尖頭器は出土していない。縄文早期の層以下の排土を全て水洗し、可能な限り微細遺物も採り上げるという調査方法を採ったにもかかわらず、一点の有舌尖頭器も確認できなかった。奥谷南遺跡の草創期に属する石器の最大の特徴は、この有舌尖頭器を含まないという点にある。四国で著名な草創期遺跡の中で上黒岩岩陰遺跡と不動ケ岩屋洞穴遺跡は有舌尖頭器を石器組成の中に持つ段階があることで有名である。発掘資料ではないが表採による単独出土の有舌尖頭器の例も四国各地で知られている[(2)]。

有舌尖頭器がないのは地域差なのか時間差なのか。中山間地帯から山岳部にかけての地域と高知平野との地域差であるとするには、不動ケ岩屋洞穴と奥谷南遺跡との距離は直線距離で30km足らずと、近すぎる。時間差、すなわち奥谷南遺跡は有舌尖頭器段階では利用されていなかったと考えるのが妥当だろう。

奥谷南遺跡は草創期の遺物は出土するものの四国島内の草創期遺跡の多くから出土する有舌尖頭器の時期には利用されていない遺跡だといえる。

土器の位置付けは、四国内の隆起線文土器については、上黒岩岩陰→十川駄場崎（あるいは十川駄場崎→上黒岩岩陰）→不動ヶ岩屋→奥谷南→穴神洞という流れが追える。根拠はあるもののビスケットのごとき破片から導かれた結論であり、部分的には位置付けが変わる可能性も考慮しつつ、現段階で最も妥当な四国内の草創期土器の階梯だと考えたい。草創期の前半から中葉にかけて隆起線文（隆帯文と称される土器も含む）土器が、現在明らかになっている四国の草創期土

器のすべてであり、草創期後半から終末の土器だと認定可能な土器は皆無である。

他地域と比較した場合、最も様相の似通った遺跡は鹿児島県種子島の奥ノ仁田遺跡の隆帯文土器[3]であり、隆起線文土器としては口縁の様相から奥谷南例に先行する特徴を見出せる資料として不動ヶ岩屋洞穴遺跡の例を挙げることができる。[4]

これに対して、草創期の石器は石鏃・有溝砥石と槍先形尖頭器・局部磨製石斧の2つのグループに分けることができる。SX101出土遺物以外の石器については、何れも地点の異なる包含層出土資料であり、各々の共時性は証明されていない。更に細分可能なのかもしれないが、狩猟具としての石鏃と槍先形尖頭器は、大まかな変遷として、槍先形尖頭器[5]→(有舌尖頭器)→石鏃の順番であろう。局部磨製石斧に対して神子柴系石斧という呼称を付すことが妥当であるなら草創期でも最も古い段階に位置づけられ、有溝砥石は石鏃に伴う[6]ことから、槍先形尖頭器＋局部磨製石斧→(＋)→石鏃＋有溝砥石の変遷が予想される。石器と土器の対応関係は、SX101出土資料を元に、隆帯文土器(2001)と隆起線文土器(2002)は石鏃の段階に対応し、槍先形尖頭器に対応する土器は当遺跡では確認されていない。また包含層出土の隆帯文土器(2007)も石鏃に対応するが、SX101より新しい段階に位置づけることができる。

将来的に細分されるかもしれないが、確実にいえるのは、土器と石器の検討により石器2時期以上、土器2時期以上の併せて3時期以上の時期の設定が可能であるということである。現段階の土器と石器をまとめた奥谷南遺跡草創期の変遷は、①→③→④となる。

①槍先形尖頭器＋局部磨製石斧（土器不明・槍先形尖頭器と局部磨製石斧の先後関係不明）→

②（空白-有舌尖頭器段階）→

③石鏃+有溝砥石+隆帯文土器+隆起線文土器（SX101段階）→

④石鏃+（有溝砥石?）＋隆帯文土器（包含層出土）

以上のような土器と石器の出土の様相から、四国島内遺跡の草創期の様相と奥谷南遺跡の位置づけについて変遷試案をまとめる。

尖頭器と土器との共伴関係は分からないものの、十川駄場崎遺跡については尖頭器の存在を根拠に古相であるとした。尖頭器の様相は東京都秋川市前田耕地遺跡と同じであるという。上黒岩岩陰遺跡と十川駄場崎遺跡の土器からみた新旧関係は、十川駄場崎の土器の少なさ（小片である）ゆえに確実に捉えることはできず、ほぼ同時期とした。また、Ⅲ～Ⅴ期とした不動ヶ岩屋・奥谷南・穴神洞についても近接した時期である可能性もある。

Ⅰ期 奥谷南遺跡、大宮・宮崎遺跡[7]

Ⅱ期 十川駄場崎遺跡、上黒岩岩陰遺跡

Ⅲ期 不動ヶ岩屋洞穴遺跡

Ⅳ期 奥谷南遺跡

Ⅴ期 穴神洞遺跡、奥谷南遺跡

各期ごとの時期的な位置付け、土器及び石器の状況は、以下のとおりである。

草創期初頭-Ⅰ期

草創期前半-Ⅱ期

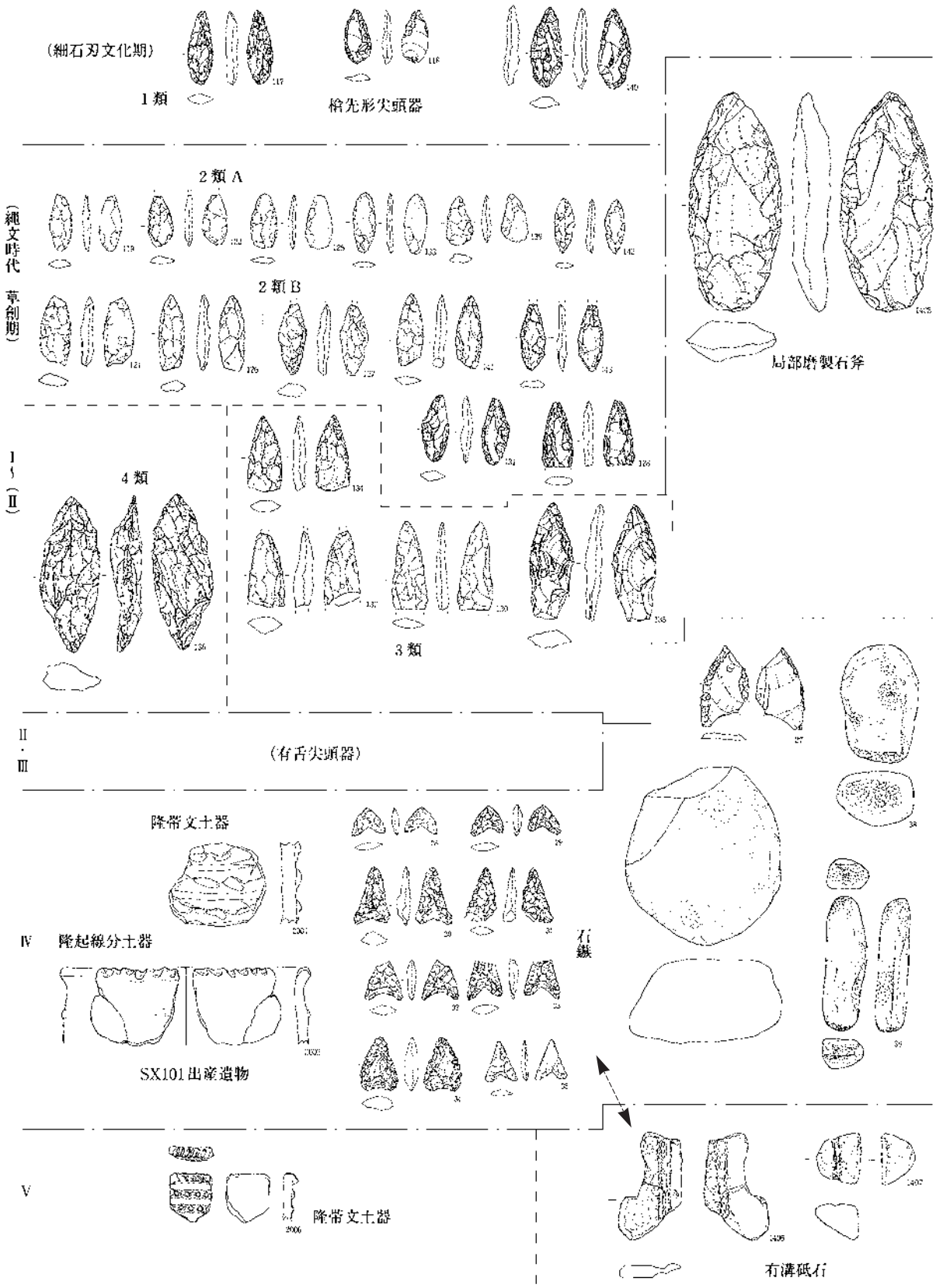


Fig. 257　奥谷南遺跡出土の縄文時代草創期の遺物と小型槍先形尖頭器

草創期前葉～中葉-Ⅲ期・Ⅳ期・Ⅴ期
草創期後半-不明・四国内における土器検出遺跡なし
草創期末-不明・四国内における土器検出遺跡なし

Ⅰ期－　四国内においていかなる土器が存在していたのか不明である。石器は、旧石器時代終末の様相から連続する石器群（細石刃）と神子柴系石斧と呼ばれる局部磨製石斧が登場する時期である。狩猟具として小型の槍先形尖頭器（奥谷南遺跡-サヌカイト製及びチャート製）も使用されたと考えられる。

Ⅱ期－　草創期前半にあたる時期で、古相の隆起線文土器が出現する。有舌尖頭器も登場（上黒岩岩陰遺跡Ⅸ層）する。上黒岩岩陰遺跡から出土した線刻女神像は、草創期の精神文化を示す遺物として特筆される。

Ⅲ期－　草創期前葉。有舌尖頭器（不動ヶ岩屋洞窟遺跡）も継続して使用される。石鏃も使用され、有溝砥石（矢柄研磨器）が出土する。不動ケ岩屋洞穴出土の土器は隆起線文土器であり、外反した口縁部外面に刻目を施す点に特徴がある。

Ⅳ期－　草創期中葉。奥谷南遺跡のSX101出土の隆帯文土器・隆起線文土器を指標とする。隆帯は太めの隆帯であり、鹿児島県掃除山遺跡に後続し奥ノ仁田遺跡と近接する時期である。隆起線文土器は、口縁部内外面に刻目を持ち、不動ヶ岩屋洞穴出土資料に後続する。

遺構から出土した細石刃文化期の遺物から、細石刃の残っていた可能性を考えたが、土器から導かれる草創期中葉という時期と周囲に細石刃文化期の包含層が拡がる遺跡のあり方から、細石刃関連遺物は混入であるとの結論に達している。

狩猟具は石鏃であり、この時期だと断定できないものの有溝砥石が伴う可能性がある。

Ⅴ期－　草創期中葉。穴神洞遺跡出土の隆起線文土器、奥谷南遺跡包含層出土の隆帯文土器を指標とする。Ⅳ期とは比較的近接した時期だと考えているが、土器の違いから異なる時期の設定を行った。隆帯文土器は細めの隆帯の時期であり、SX101とは異なる時期であり、後続する資料だと考えている。

なお、草創期の石器器種組成の中には、敲石類やスクレイパー類[(8)]なども含まれ、出土資料の中に存在するはずだが、出土層位からの特定が困難であるため、本報告においては遺構出土資料以外に積極的な抽出は行わない。技術あるいは形態等の特徴から当該期のスクレイパーなど器種組成を明らかにすることは今後の課題である。

註

1）湯浅利彦「縄文人の足跡を探る-徳島県域の縄文時代研究の現状と課題」『高校地歴』34　1998年

2）四国の有舌尖頭器は長井謙治氏によって集成されている。
　長井謙治「愛媛県今治市阿方大池採集の有舌尖頭器」『旧石器考古学』59

3）『奥ノ仁田遺跡・奥嵐遺跡』鹿児島県西之表市教育委員会 1995年

4）栗島義明氏のご教示による。

5）小型槍先形尖頭器の位置づけについては、所属時期を正確に認定するまでに至っていない。あくまでも可能性の高いと考えられる時期だという位置づけにとどまる。

6）どの段階での共伴なのかについては正確に把握できない。石鏃や有溝砥石には奈良県北野ウチカタビロ遺跡や桐山和田遺跡に類似するものが認められる。

7）大宮・宮崎遺跡例のように局部磨製石斧の出土・採集例も知られるようになってきた。
木村剛朗『大宮・宮崎遺跡Ⅰ（続編）』高知県幡多郡西土佐村教育委員会 2000年

8）たとえば、Fig.161-902の頁岩製の掻器（ラウンドスクレイパー）など、草創期に特徴的な遺物だとの御指摘を頂いた資料も何点かある。

4. 縄文時代早期～南四国の縄文時代早期土器編年～

縄文時代草創期以上に岩陰が積極的に利用されたと考えられるのが、縄文時代早期である。(1) 早期として認定し得た土器は、破片から時期を判別できた土器の70%以上を占める。繊維圧痕を持ち器壁の厚い繊維土器など破片から特徴をつかみやすい土器の多いこともあるが、縄文時代を通じて早期に最もこの岩陰が多く利用されたのは間違いない。(2)

縄文時代早期とされてきた遺跡の大半は、特徴的な石器の存在（鍬形鏃やトロトロ石器など石鏃の形態に依ることが多い。）によって早期とされてきた遺跡である。早期を特徴づけるとされる石器(3)に対して土器の出土は少なく、出土する遺跡も全体の3分の2ほどである。(4) 小破片も含めると早期だと判定可能な土器が182点出土した奥谷南遺跡は、高知県内の早期遺跡としては比較的まとまった資料内容を持つといえる。この出土量に匹敵する遺跡としては、土佐山田町飼古屋岩陰遺跡(5)、香北町刈谷ヶ野遺跡（旧名・太郎丸遺跡）(6)、十和村十川駄場崎遺跡(7)などを挙げ得るにすぎない。最近調査された土佐山田町開キ丸遺跡は、押型文土器を中心にした時期の遺跡で、2時期に分層可能であり、遺構（集石遺構）も伴うなど調査成果が期待される。

奥谷南遺跡の早期土器は6類に分類される。分類基準など詳細は第Ⅳ章調査の成果に記したとおりである。1類が押型文土器で押型文の特徴により1類A、1類B、1類C、1類Dの4つに分類される。2類と3類は南九州系の土器で、2類が天道ヶ尾式土器、3類が平栫式土器、何れも高知県では初めての検出例となる。4類が繊維土器、5類が無文土器、6類が条痕文土器である。完形品に近いものや土器全体の4分の1を超えるような一定の大きさを持つ個体はなく、せいぜい10～20cm四方の破片をもとにした分類であり、位置付けである。

これらの土器の所属時期については、在地の土器の様相が今一つ確実に把握しきれないため、周辺地域との比較での編年的位置付けを行なった。早期土器の資料が増える度に、同様な資料操作による県内の早期土器編年は、岡本健児・木村剛朗・森田尚宏・前田光雄などによって行なわれており、今回は奥谷南遺跡出土の縄文早期土器をこれら従来の早期土器編年との対応関係も示してみたい。なお、周辺地域との比較については、層位的な出土による一地域内での先後関係に裏づけられた研究の蓄積がある帝釈峡遺跡群、押型文土器について全国的な視野でまとめられた縄文土器大観を参考にした。(8)

縄文早期土器編年（南四国を中心とする）

①『日本の洞穴遺跡』

(1) 江坂輝弥・岡本健児他「上黒岩岩陰」

(2) 岡本健児・片岡鷹介他「不動ヶ岩屋洞穴」

「不動ヶ岩屋Ⅱ式文化－黄島式に併行する。これに対して城ノ台洞穴遺跡出土の大型山形押型文は2段階ほど新しい。」

②-1　岡本健児『高知県史　考古編』・『高知県の考古学』　1960年代までの状況をまとめる。

②岡本健児『長徳寺址発掘調査報告書』　1977年

不動ヶ岩屋Ⅱ式→長徳寺式→城ノ台式

（蔦島式→高山寺式→穂谷式）

③岡本健児編年

-高知県出土の縄文早期土器-『高知の研究1』1983年

蔦島式土器→大型楕円押型文（高山寺式）→大型山形押型文（穂谷式）→繊維土器（十川駄場崎遺跡出土）→前期初頭の土器（羽島下層+轟B－県西部の様相）

④森田尚宏『飼古屋岩陰』1985年

押型文土器

Ⅰ類山形文-山形の振幅大・・横位に施文

Ⅱ類山形文-山形の振幅小・・横位に施文

Ⅲ類楕円押型文（小型）

Ⅳ類楕円押型文（大型）

Ⅴ類格子目文

Ⅵ類爪形に類似する押型文-ネガティブな押型文-

厚手無文土器

Ⅶ類器厚12㎜指頭調整痕あり

Ⅷ類器厚15㎜断面に繊維痕

⑤木村剛朗編年　　四国西南部の遺跡[9]を中心にした編年観『四万十川流域の縄文文化研究』1987年

早期中葉→早期後半→早期末葉（厚手無文土器・蔦島式土器・不動ヶ岩屋Ⅱ式→城ノ台式→繊維土器）

他に『十和村史』で示された編年がある。

⑥前田光雄『十川駄場崎遺跡-第5次発掘調査-』1996年

隆起線文土器（草創期前半から中葉）→（不明・空白-草創期後半・・無文?）→無文土器・条痕文土器（早期前半）→押型文土器（早期前半から中葉）→大型押型文土器・条痕文土器・無文土器（早期中葉から後半）→繊維条痕文土器・繊維無文土器・条痕文土器（早期後半）

十川駄場崎の層位的出土例の積み重ねをもとに提出された編年試案。層位的出土例に基づき論理的に並べる。資料的制約のため限界のあることが明示されている。

⑦可児道宏「押型文系土器様式」『縄文土器大観』

1989年　　押型文期に限った全国的な編年観のまとめ

第Ⅰ様式　　草創期の多縄文系の土器の最後に位置する表裏縄文の土器に後続するか一部併行→最古の押型文土器

縦位の密接施文を特徴とし、間に無文帯を残さない。分布の中心は東海地方。周辺は撚糸文系土器様式圏だが、伴出例はほとんどない。

第Ⅱ様式　　押型文土器の周辺部への波及→地域性の強さ

中部高地→沢式（異方向の帯状施文）・樋沢式（異方向の帯状施文と密接施文）　　楕円文の出現

楕円文には異方向の帯状施文が少ない・・沢式とは異なったあり方→技術的問題・時期的問題

近畿地方に大川式・神宮寺式が分布、次の第Ⅲ様式に至っても同様のネガティブな楕円文に象徴される文様に固執した。大川・神宮寺式はこの段階で、東海地方の土器群の影響を受けて成立したものである。

第Ⅲ様式　　第Ⅱ様式の影響を引き継ぐ。新たに全面が横位施文で飾られる土器出現。

中部高地→細久保式の成立

横位施文→帯状施文と密接施文

細久保式（横位の密接施文-第」様式の特徴の一つ）→黄島式（近畿以西中四国）・早水台式（九州）の成立・・特徴-文様の斉一性が強く、土器組成の中に無文土器を多く含む→無文土器の多さは押型文土器の波及以前の土器様相を示している。すなわち、近畿地方より西の地方への押型文土器の波及がこの時期に始まったとされる。

第Ⅳ様式　　東北地方で押型文土器がなくなる（Ⅲ様式後半）。押型文土器の分布圏は関東地方以西だけとなる。

土器の地域性稀薄（斉一性強し、広域に分布）

斉一性の強い土器→細久保式・大川式・神宮寺式・黄島式の分布域-関東から中四国にかけて→高山寺式が分布

九州では早水台式が田村式に。しかし、田村式と高山寺式は同じ型式内容→すなわち、関東から九州に

かけての極めて広い地域が、同じ土器分布圏となる。

第Ⅴ様式　　九州地方を除いてこの時期の土器を出土する遺跡は激減。押型文系土器様式は一斉に終末を迎える。

相木式-長野県栃原岩陰

穂谷式-大阪府枚方市穂谷遺跡

九州・・田村式→ヤトコロ式→手向山式

⑧潮見浩　第三部第一章「縄文土器の編年」『帝釈峡遺跡群』吉備考古学ライブラリー1999年

帝釈峡遺跡群の層位的出土例の比較検討により、早期の編年が明らかになっている。

無文土器Ⅰ→無文土器Ⅱ→刺突文土器→条痕文土器→押型文土器Ⅰ（二枚貝条痕と山形文）→押型文土器Ⅱ（ネガティブ押型文・山形文＋矩形押型文）→押型文土器Ⅲ（黄島式併行・ここにいわゆる厚手無文土器-蔦島式土器が伴うとされる。）→押型文土器Ⅳ（高山寺式併行）→押型文土器Ⅴ（穂谷式・手向山式併行）→繊維土器Ⅰ→繊維土器Ⅱ→繊維土器Ⅲ→繊維土器Ⅳ→羽島下層式

Tab. 37　縄文時代早期の南四国土器編年と奥谷南遺跡出土資料の位置付け

時　期	広域分布土器様式（押型文系土器様式）『縄文土器大観』	南四国の主な早期遺跡	**奥谷南遺跡**		十川駄場崎遺跡	高知の研究・1983岡本	山間部・長徳寺址	飼古屋岩陰	南九州	帝釈峡遺跡群	近畿地方
早期初頭			+							無文土器Ⅰ 無文土器Ⅱ	
早期前半		十川駄場崎遺跡	+		無文土器・条痕文土器					刺突文土器	
	押型文土器第Ⅰ様式・中部日本（東海）で成立		+							条痕文土器	
	押型文土器第Ⅱ様式・近畿以西に押型文出現		+							押型文土器Ⅰ	大川・神宮寺式
		町田堰東遺跡(10)・飼古屋岩陰	早期1類A					飼古屋Ⅰ式		押型文土器Ⅱ	
早期中葉	押型文土器第Ⅲ様式・中四国への波及強まる	不動ヶ岩屋洞穴・十川駄場崎遺跡・飼古屋岩陰・開キ丸遺跡・楠山遺跡	+		押型文土器	蔦島式(11)	不動ヶ岩屋Ⅱ式	飼古屋Ⅱ式	早水台式	押型文土器Ⅲ	黄島式
	押型文土器第Ⅳ様式・斉一性強し	長徳寺址遺跡・十川駄場崎遺跡・飼古屋岩陰	早期1類B		大型押型文土器・条痕文土器・無文土器	大型楕円押型文	長徳寺式	飼古屋Ⅲ式?	田村式（高山寺式と同じ押型文）	押型文土器Ⅳ	高山寺式
早期後半	押型文土器第Ⅴ様式・押型文土器終焉	城ノ台洞穴・十川駄場崎遺跡・大宮宮崎遺跡	早期1類C・D	早期4~6類		大型山形押型文	城ノ台式		手向山式	押型文土器Ⅴ	穂谷式
		十川駄場崎遺跡	早期2類		繊維条痕文土器・繊維無文土器・条痕文土器	繊維土器			天道ヶ尾式	繊維土器Ⅰ	石山貝塚出土資料
			早期3類						塞ノ神・平椿式	繊維土器Ⅱ	石山貝塚出土資料
早期末										繊維土器Ⅲ	石山貝塚出土資料

これらの土器は、基本的に同一地域内での層位関係に基づくクロスチェックを経た資料であり、資料の少ない中四国の早期土器編年に有効な資料である。奥谷南遺跡出土の早期土器を帝釈峡遺跡群の編年に当てはめると、奥谷南早期1類Aが押型文土器Ⅱに、早期1類Bが押型文土器Ⅳに、早期1類C・早期1類Dが押型文土器Ⅴに併行する土器群である。また、奥谷南遺跡において繊維痕の混入が顕著で器厚11～15mm前後と厚手無文土器（繊維土器）と称すべき比較的厚手の土器は、繊維を顕著に含む土器が早期後半に登場するという十川駄場崎遺跡の層位的出土例に従えば、早期後半の土器となる。

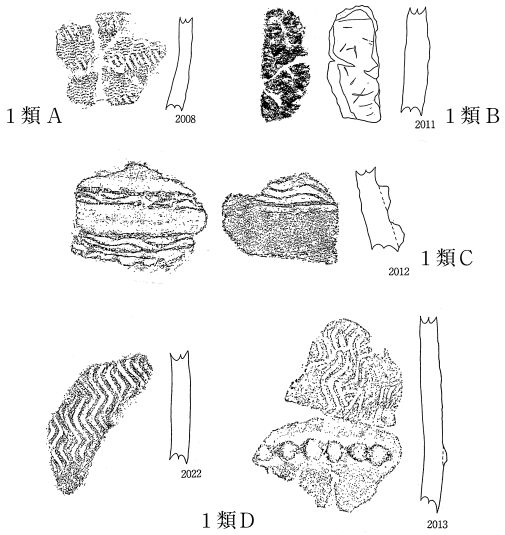


Fig. 258　奥谷南遺跡出土押型文土器

また、口縁が短く外反する土器（早期5類・無文土器）は、口縁形状が不明で条痕地をもって早期とした土器（早期6類・条痕文土器）とともに現段階では位置付けが困難な土器である。十川駄場崎遺跡の層位的出土例からは、条痕文土器が早期前半から後半まで存在する可能性が示されている。ただし、早期5類については、口縁形状が特徴的であることから、将来的には時期特定の可能な資料となろう。

当遺跡で出土した早期土器の中で、注目されるのは早期2類と早期3類とした南九州系の土器である。出土点数は決して多くなく、仮に複数個体の存在を想定し得たとしても数個体程度に過ぎない。早期2類は南九州の天道ヶ尾式土器、早期3類は同じく平栫式土器である。(12)

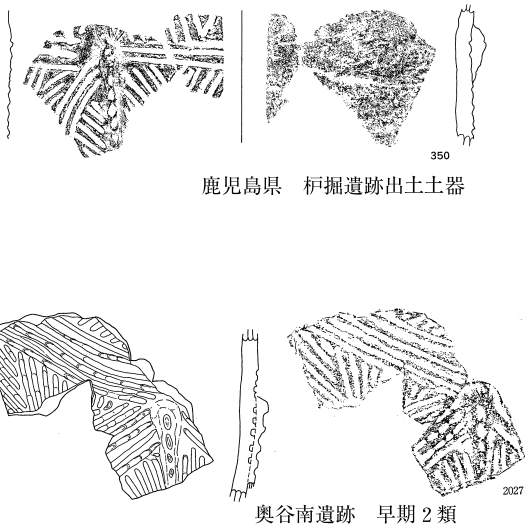


Fig. 259　奥谷南遺跡出土天道ケ尾式土器と鹿児島県出土土器との比較

早期2類（天道ヶ尾式土器）は「刻み目を持つ隆帯を貼付し、沈線による施文を行なう。沈線の中には押し引き刺突が認められ、押し引き刺突のある沈線とない沈線が交互に現出する部分も在る。」と表現できる土器で、手向山式土器と平栫式土器をつなぐ編年的空白を埋める土器である。早期3類（平栫式土器）は、「頚部で稜をなして外へ開きながら屈曲、口縁部が肥厚し、肥厚部外面は縄文地に横位の結節縄文を施文、頚部には無地に口縁部肥厚帯同様の横位の結節縄文を施す」土器という表現ができる。

この時期、南九州系の土器、すなわち塞ノ神・平栫式土器様式の土器が出土した例として、四

国島内では、愛媛県池ノ岡遺跡出土の塞ノ神式土器の例が知られている。塞ノ神・平栫式土器様式の土器出土例としては、本州に日本海側では鳥取県、瀬戸内では兵庫県などで類例が確認されている(13)。天道ヶ尾式土器は、手向山式土器と平栫式土器の間をスムーズに繋ぎ、編年的空白を埋める土器として注目された土器である。先述の帝釈峡遺跡群では押型文土器Ⅴとされる土器の中に、天道ヶ尾式土器と同様の沈線が共存する土器が確認できる(14)。この事実は押型文土器の最終末に天道ヶ尾式土器あるいはそれに先行する沈線を有する土器が併行関係をもって存在したことを端的に示すものである。

奥谷南遺跡早期2類土器及び3類土器が搬入品だとすれば早期後半期の在地土器の様相はいかなるものであったのか。従来の南四国の早期後半期の様相は十川駄場崎遺跡出土資料をもって語られている(1983岡本・1996前田)。早期後半の土器としては繊維無文土器・繊維条痕文土器・条痕文土器の存在が知られている。繊維痕が顕著な土器が、押型文土器を境界としてその後に展開する様相が南四国の様相なら、早期4類・5類・6類が当該期（早期後半）の押型文土器に後続する在地土器の可能性をもっている。

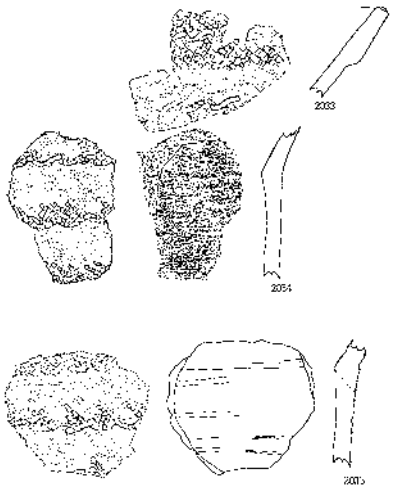


Fig. 260　奥谷南遺跡出土 平栫式土器（早期３類）

高知平野中央部で早期後半の南九州系の土器が確認されたという事実は、日本海側の鳥取・兵庫など西日本各地で近年確認されつつある(15)当該期の土器同様、重要な情報をもたらした。四国太平洋岸にも南九州から複数の時期に亘って人々の移動（もしくは土器の移動）が確認されたことで、今後、早期後半の資料検討時には搬入品の有無を確認する視点が必須となろう。

註

1）岩陰周辺の縄文土器分布域は石鏃の分布域とほぼ重なり、細石刃関連遺物とは異なる分布状況を示す。落磐等による岩陰の地形改変が想定される。

2）南四国の洞穴・岩陰遺跡にも不動ヶ岩屋洞穴・城ノ台洞穴・坂本大平岩陰など早期に利用された例が多い。
山下英雄「坂本大平岩陰遺跡」『池川町の遺跡』池川町教育委員会　1993年

3）早期の石器については、石材という観点から前田光雄により指摘されている。なお、サヌカイトが草創期の段階で流入し始めることについては、奥谷南遺跡出土遺物から述べたことがある。しかし、旧石器時代・ナイフ形石器文化期の角錐状石器の例を持ち出すまでもなく、少量ながら奥谷南遺跡Ⅷ層以下の層にも見出すことができ、客体的な存在として搬入されている状況は認めなければならない。草創期までは在地石材たるチャートの中に僅少なサヌカイトが見出せるのみ、あるいはほとんど存在しない旧石器時代と同様のあり方だったと想定される。やはり、サヌカイトの搬入・石材としての利用が本格的に開始される時期は縄文時代早期であろう。
前田光雄「南四国の石器相」『大宮宮崎遺跡Ⅱ』高知県幡多郡西土佐村教育委員会 1998年
松村信博-1997年6月13日付高知新聞学芸欄「山の中の縄文草創期～第8回中・四国縄文研究会に寄せて～」

4）Tab.4 高知県の縄文時代早期の遺跡一覧（P.19） 参照。

5）森田尚宏『飼古屋岩陰遺跡調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会 1983年

6）香北町刈谷ヶ野遺跡（旧名太郎丸遺跡）からは、おそらく南四国で最も多くの押型文土器が出土している。物部川段丘上の調査であり、試掘調査のため、現段階では未報告ではあるが、楕円押型文、山形押型文、繊維圧痕を持つ厚手無文土器など出土点数は200点を超えている。

門脇隆『太郎丸遺跡試掘調査概要報告』1997年

7）前田光雄『十川駄場崎遺跡-第5次発掘調査-』高知県幡多郡十和村教育委員会 1996年

8）これらの文献以外に、『縄文早期を考える-押型文文化の諸問題-』(帝塚山考古学研究所 1988年)も参考にさせていただいた。

9）高知県西部の縄文時代遺跡と高知県中・東部とを比較すると、明らかに西部に遺跡が偏在する傾向を読み取ることができる。早期においても同様である。これは、西部の遺跡密度が高かったわけではなく、河岸段丘の発達した四万十川など残存状況の良さと情熱を持って日常的な踏査など遺跡の探求を行う研究者の数の差に由来すると考えられる。

西部の遺跡については、木村剛朗『四万十川流域の縄文文化研究』『四国西南沿海部の先史文化』に詳細にまとめられている。両書ともに四国西南部縄文文化研究のバイブルと称すべき素晴らしい研究書である。

10）遺跡分布調査の際に物部川中下流域の段丘上でネガティブな楕円押型文を持つ押型文土器が確認されている。（未報告資料－野市町町田堰東遺跡・出原恵三氏の御教示による。）

11）蔦島土器については黄島式併行期の厚手無文土器という捉え方が一般的である。小蔦島貝塚出土押型文土器は数時期にまたがる資料を含んでおり、近年の出土資料の増加によって、この厚手無文土器が押型文土器と共伴しないこと、つまり異なる時期の資料である可能性が指摘されている。

押型文土器と無文土器の共伴については、近年疑義が示され、北鉄輪遺跡出土資料をもとに押型文期には少なくとも九州では在地の土器が伴うことは、ほとんどないという事実が示されている。これは、中四国、近畿地方の遺跡にもいえることであり、押型文期の良好な一括資料には、無文土器等従来大量に伴うとされてきた土器の出土が認められないという。（すなわち、黄島式の段階に伴う厚手無文土器-蔦島式土器は時期差のある資料であることが明らかになりつつある。）

永野康洋・遠部慎・滋賀智史「別府市における縄文時代早期の様相-北鉄輪遺跡試掘調査概要を中心に」『おおいた考古 第12集』大分県考古学会 1999年

12）天道ヶ尾式土器については、型式設定された熊本には類似する例がないという御指摘を受けたが、鹿児島から出土する例に類似する例があったためFig.259として掲載した。天道ヶ尾式土器の評価は、当初の設定内容が見直され、編年的位置づけも検討されている。宮崎県では、同じ階梯の土器に妙見式土器という名称を使用する。

①『柊堀遺跡・西ノ原B遺跡』2001年3月 鹿児島県埋蔵文化財センター　P.94 第61図 350

②『九州縄文土器編年の諸問題-早期後半土器編年の現状と課題-』九州縄文研究会 1998年

13）大久保浩二「兵庫県神鍋遺跡採集の塞ノ神・平栫式土器－和田長治氏コレクションから－」『南九州縄文通信』No.12 1998年

14）潮見浩『帝釈峡遺跡群』吉備考古学ライブラリー 1999年

15）天道ヶ尾式土器かどうかの確認はできていないが、徳島県山田遺跡からは天道ヶ尾式土器に類似する沈線文と刺突文をもつ土器が確認されている。類例がなく、前期初頭の可能性が指摘されるが断定できないという。山田遺跡は高さ5m幅3mの結晶片岩の岩陰遺跡であり、A・B・Cの3地点の調査が行われている。吉野川中流域池田町の吉野川南岸張り出した尾根の南西斜面標高150m付近に立地する。

第Ⅵ章　付　　編

第1節　奥谷南遺跡、清水寺岡遺跡、栄エ田遺跡、西鴨地遺跡出土石器、石片の原材産地分析

藁 科 哲 男
（京都大学原子炉実験所）

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている[1,2,3]。 石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石が一致したからと言っても、他の産地に一致しないと言えないために、一致した産地のものと言い切れないが、しかし一致しなかった場合そこの産地のものでないと言い切れる』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（A、B、C、D……）の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の

原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限に近い個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのＴ２乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある石器原材と同じ成分組成の原石はＡ産地では10個中に一個みられ、Ｂ産地では一万個中に一個、Ｃ産地では百万個中に一個、Ｄ産地では・・・・一個と各産地毎に結果が得られるような、客観的な検定結果からＡ産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した安山岩（サヌカイト）製遺物は、奥谷南遺跡出土の55個と安芸市清水寺岡遺跡の弥生時代中期～後期の集落出土の５個、南国市栄エ田遺跡縄文時代後期・晩期の６個、土佐市西鴨地遺跡出土弥生時代の２個、これら遺物の合計68個について産地分析の結果が得られたので報告する。

サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

サヌカイト、ガラス質安山岩原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。サヌカイト、ガラス質安山岩では、K/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの比量を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地、および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて32ヶ所以上の調査を終えている。図1にサヌカイトの原産地の地点を示す。このうち、金山・五色台地域では、その中の多くの地点から良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる（図2)。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は、細石器時代に使用された原材で、善通寺市の大麻山南からも産出している。これら産地の原石および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると106個の原石群に分類でき、その結果を表1に示した。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の６個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩の原石群については、香川県埋蔵文化財センターの森下英治氏より提供された金山奥池、雄山の原石を補充して、金山・奥池第1群、奥池第2群、雄山群の原石群を確立し、神谷町

南山地区の原石で南山群を作った。このうち、奥池第1群、雄山群、南山群の組成は非常に似ていて、遺物の産地分析では多くの場合これら３個の群に同時に帰属される。また、大麻山南産は大麻山南第一・二群の２群にそれぞれ分類され、奥池、雄山、南山の各群と区別することが可能である。これらのガラス質安山岩は成分的に黒曜石に近いものであり肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられるため、風化した遺物ではこれら似た原材の肉眼での区別は困難と思われるので、正確な原材産地の判定をするためには本分析が必要である。またサヌカイト原石のうち金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すものが淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。これら岩屋のものを分類すると、全体の約２/３が表２に示す割合で金山・五色台地域の諸群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区において岩屋第一群に一致する原石が、それぞれ92%および88%の割合の個数で存在し、その他に群を作らない数個の原石とがみられ、それらのうちで金山・五色台地域の諸群に一致するものはみられなかった。和泉・岸和田原産地からも全体の約１%であるが金山東群に一致する原石が採取される（表３）。また和歌山市梅原原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない（表４）。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、表３、４のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山を中心にした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から６%の割合で採取されることから、一遺跡10個以上の遺物を分析し、表３のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサヌカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した奥谷南遺跡、清水寺岡遺跡、栄エ田遺跡、西鴨地遺跡から出土したサヌカイト製遺物の分析結果を表５－１～５に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Srの一変量だけを考える

と、分析番号74224番の遺物はRb/Srの値が0.321で、金山東群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.316±0.017であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から0.3σ離れている。ところで金山東群の産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.3σのずれより大きいものが76ヶある。すなわち、この遺物が、金山東群の原石から作られていたと仮定しても、0.3σ以上離れる確率は76%であると言える。だから、金山東群の平均値から0.3σしか離れていないときには、この遺物が金山東群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を二上山群に比較すると、二上山群の平均値からの隔たりは、約9σである。これを確率の言葉で表現すると、二上山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から9σ以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、二上山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は金山東群に76%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから金山東群の原石が使用されていると同定され、さらに二上山群に対しては千万分の一%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから二上山産原石でないと同定される」。遺物が金山東群と一致したからと言っても、遺物が金山産地から採取された証拠はなく、分析している試料は原石でなく遺物でさらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（金山東産地）に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表１の106個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて金山東産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はK/Caといった唯１ヶの変量だけでなく、前述した８ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならならい。例えばＡ原産地のＡ群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、Ａ群の石材で作られた遺物であれば、Ａ群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はＡ群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのＴ２乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する[4,5]。産地の同定結果は１個の遺物に対して、サヌカイト製では106個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上『記入』を省略しているのみで、実際に計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる、すなわち、金山東群の原石と判定された遺物について、香川県白峰産原石とか佐賀県多久産、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表６に記入した。原石群を作った原石試料は直径３cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物

の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。原石産地（確率）の欄にマハラノビスの距離Ｄ２乗の値で記した遺物については、判定の信頼限界としている0.1%の確率に達しなかった遺物でこのＤ２乗の値が原石群の中で最も小さなＤ２乗値である。この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。

今回分析した奥谷南遺跡出土の55個の中で分析番号74225番は粘板岩様、74246番はサヌキトイドと思われ、74249番と74257番は粘板岩様、また74289番は緻密なサヌカイトよりガラス質な感じで、成分は黒曜石、サヌカイトなどに比べSi元素の含有量が非常に多く、Feの含有量が少ない（図３）、比重が2.644であることから推測すると現時点では黒碧玉または黒瑪瑙と思われる。また、サヌカイト製遺物で分析番号74238番は産地が特定できなかった。理由としては、石器の原材として未発見の産地の原石が使用されている場合、分析遺物試料が非常に薄く平均厚さが１㎜以下の厚さで、元素の比を取っても形の影響が消去されず、分析値に残った場合などが考えられる。遺物の平均厚さが1.5㎜以下の薄い試料では、Mn/Sr、Fe/Srの比値が大きく分析され、１㎜厚でFe/Sr比は約10%程度大きく分析される。しかし、１㎜厚あればRb/Sr、Zr/Sr、Y/Srについては分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Sr、Fe/Srの影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。分析した74238番の遺物ではMn/Sr、Fe/Srの値が他の金山東群と同定された遺物に比較すると大きくなっていて、遺物が厚さの影響を受けていると推測した。これは、薄い遺物に圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出したためにさらに薄くなった可能性がある。産地が特定できた遺物は49個で、これを産地別に使用頻度をみると、金山東群は69%（34個）で、白峰群が14%（７個）で、城山・金山西群は10%（５個)、国分寺群が４%（２個）で、そして二上山群が２%（１個）であった。金山東群に一致する原石は、香川県金山産地以外に岩屋産地、和泉・岸和田原産地からも採取されるため、各産地から金山東群のみを34個採取される確率を求めてその期待値から何処の産地から採取されたかを考察しなければならない。岩屋産地から採取した確率は（表２)、0.05（5%）を34回累乗した確率になり、10のマイナス44乗になり、零の確率になり、岩屋産地から採取されなかったと言える。また、和泉・岸和田産地から採取した確率（表３）は、0.01（1%）を34回累乗した確率になり、岩屋産地よりさらに低い確率で、和泉・岸和田産地からも採取されなかったと言える。金山東産地からは100%の確率になり、これら遺物を時代毎に分けなかったが34個は金山東原産地から伝播した原材と判定された。白峰群に同定された７個を岩屋産地で採取する確率は、0.33を７回累乗した確率になり、0.0004のかなり低い確率になり、岩屋産地から採取されなかったと言え、和泉・岸和田産地から採取した確率は、0.00000001で和泉・岸和田産地からも採取されなかったと言える。従って、五色台の白峰産が使用されていると判定した。国分台群の２個の岩屋産地からの確率は0.006でかなり低いこと、岩屋産地で多く採取できる岩屋第1群に同定される遺物がみられないなど、岩屋産原材が使用されていないと推測できる。二上山群と同定された遺物は、和泉・岸和田産地

からも 6 %の確率で採取されるが、旧石器時代～弥生時代を通じて、和泉・岸和田産地で採取された二上山群の原石が使用された可能性を示す遺跡の結果は得られていない。奈良県二上山産原材は遠距離伝播し、高知県中村市の遺跡からも見つかっていて、今回、奥谷南遺跡で見つかったことは高知県に二上山産原石が伝播していることをより確実に証明する重要な結果になった。次に安芸市清水寺岡遺跡出土の金山東群に同定された 5 個が岩屋産地から採取される確率は、約百万分の一で、和泉・岸和田産地からの確率はさらに低い確率となり、これら 5 個は金山東産地から伝播したと判定した。南国市栄エ田遺跡の縄文時代後期・晩期では金山東群と城山群に同定された遺物が 2 個ずつ使用されていた。また、土佐市西鴨地遺跡出土弥生時代の 2 個は金山東群に同定された遺物と分析番号74288番は肉眼観察では風化したサヌキトイド様で、原石産地は特定できなかった。今回の分析で、奥谷南遺跡で奈良県二上山産原材が使用されていることが明らかになり、奥谷南遺跡の古代人が奈良県二上山産地地方の石器形式文化の情報を入手していたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

1)藁科哲男・東村武信（1975），蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)。考古学と自然科学，8:61-69
2)藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977），(1978)，蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学，10,11:53-81:33-47
3)藁科哲男・東村武信（1983)，石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16:59-89
4)東村武信（1976)，産地推定における統計的手法。考古学と自然科学，9:77-90
5)東村武信（1980)，考古学と物理化学。学生社

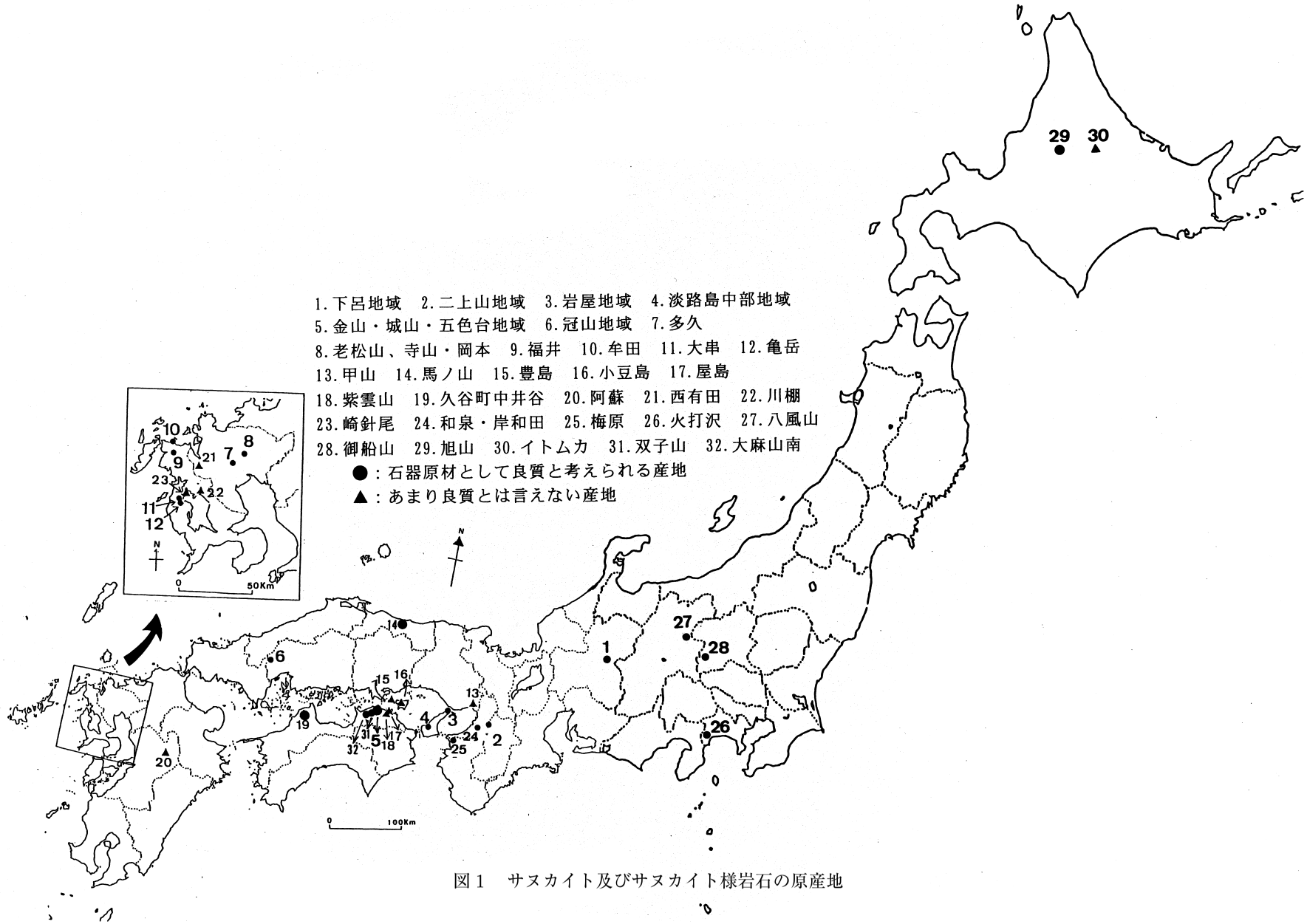


図１　サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地

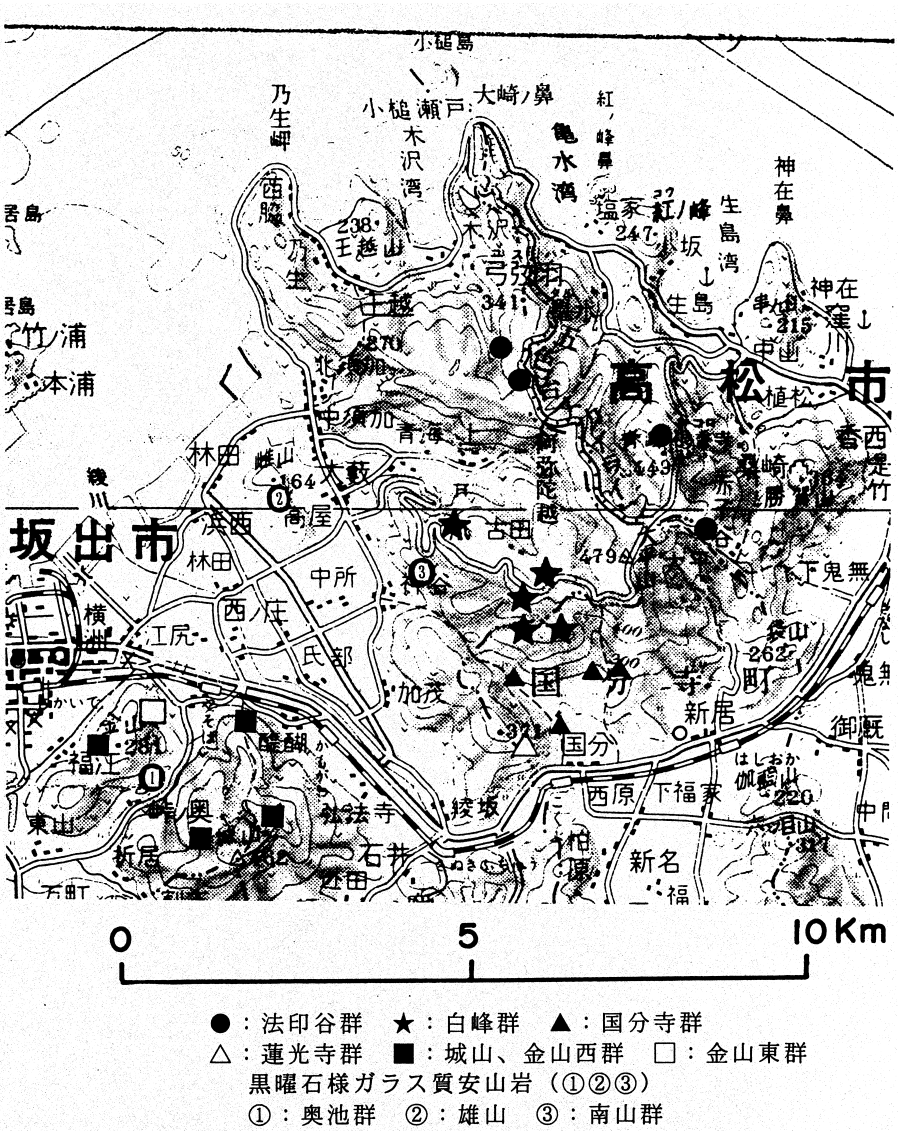


図２　金山・五色台地域サヌカイト、黒曜石様ガラス質安石岩の原産地

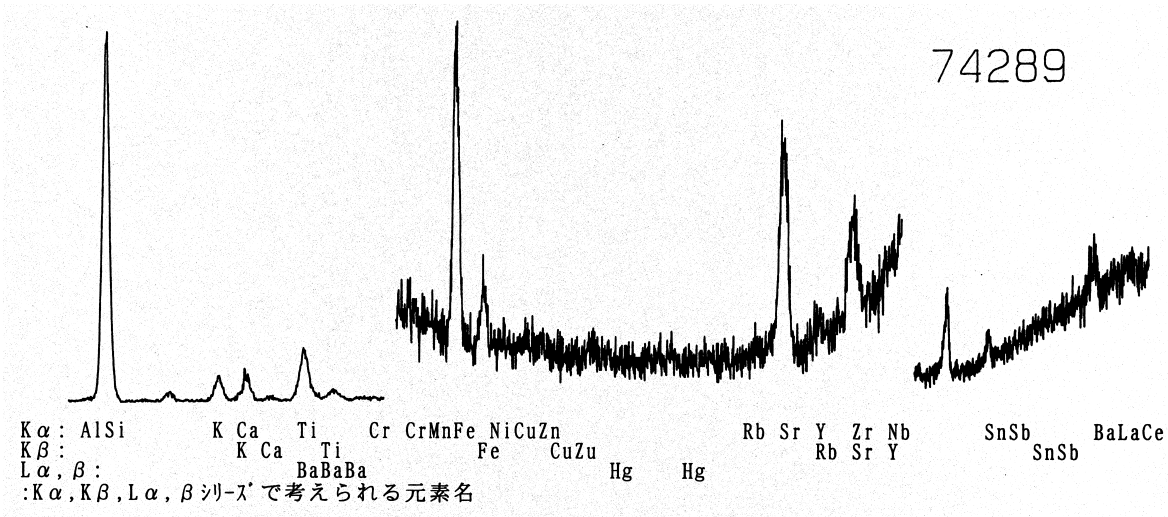


図３　奥谷南遺跡出土黒碧玉または黒瑪瑙剥片（74289）の蛍光Ｘ線スペクトル

表１－１　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原石群名	分析個数	元素比 K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道	イトムカ	46	0.359±0.020	0.430±0.014	0.081±0.006	5.884±0.223	0.166±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007
	旭山	80	0.351±0.011	0.288±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005
新潟県	極野	48	0.231±0.008	0.349±0.028	0.141±0.015	10.218±0.328	0.141±0.012	0.159±0.011	0.819±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001	0.124±0.005
群馬県	荒船山	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.085±0.014	0.458±0.082	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032
長野県	横川	70	0.183±0.007	0.340±0.017	0.153±0.017	11.018±0.398	0.118±0.011	0.157±0.013	0.721±0.030	0.019±0.009	0.012±0.001	0.113±0.005
	八風山	46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.581±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014
神奈川県	火打沢	40	0.092±0.005	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001
岐阜県	下呂	93	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025
奈良県	二上山	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.066±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005
大阪府	和泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009
兵庫県	岩屋第一	28	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007
	〃第二	24	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.173±0.008
	甲山	22	0.300±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.261	0.130±0.012	0.061±0.033	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008
香川県	五色台 国分寺	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005
	五色台 蓮光寺	18	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004
	五色台 白峰	51	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007
	五色台 法印谷	25	0.397±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004
	金山 金山東	24	0.488±0.012	0.222±0.004	0.079±0.005	4.617±0.126	0.316±0.017	0.057±0.011	1.186±0.033	0.020±0.015	0.017±0.001	0.155±0.005
	金山 〃西	19	0.406±0.009	0.216±0.005	0.082±0.005	4.808±0.125	0.292±0.017	0.064±0.011	1.059±0.025	0.020±0.011	0.015±0.001	0.133±0.006
	城山	63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.289±0.014	0.068±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003
	双子山	54	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.093±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004
	＊奥池第一群	51	0.842±0.046	0.127±0.006	0.024±0.006	2.087±0.088	0.492±0.030	0.018±0.018	0.722±0.047	0.045±0.013	0.035±0.003	0.434±0.024
	＊奥池第二群	50	0.641±0.052	0.133±0.007	0.033±0.007	2.471±0.135	0.391±0.028	0.021±0.017	0.934±0.067	0.038±0.011	0.029±0.003	0.331±0.027
	＊雄山	50	0.827±0.052	0.128±0.006	0.026±0.008	2.119±0.091	0.485±0.032	0.016±0.018	0.731±0.050	0.043±0.014	0.035±0.003	0.421±0.027
	＊神谷・南山	51	0.852±0.040	0.131±0.007	0.027±0.008	2.083±0.088	0.495±0.026	0.020±0.016	0.703±0.045	0.050±0.014	0.035±0.004	0.433±0.023
	＊大麻山南第一	39	0.693±0.072	0.149±0.007	0.041±0.010	2.792±0.180	0.473±0.043	0.034±0.021	0.965±0.061	0.044±0.012	0.029±0.003	0.344±0.038
	＊〃第二	34	0.992±0.041	0.124±0.009	0.034±0.011	2.370±0.138	0.691±0.024	0.021±0.022	0.774±0.032	0.054±0.015	0.039±0.004	0.480±0.018
愛媛県	中井谷	40	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.219±0.009
鳥取県	馬ノ山	23	0.188±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005

表１－２　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地		原石群名	分析個数	元素比 K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
広島県	冠山	冠高原	60	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008
		伴蔵C	45	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	1.604±0.057	0.039±0.015	0.008±0.006	0.368±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006
		伴蔵A	51	0.340±0.008	0.319±0.008	0.020±0.003	1.347±0.025	0.047±0.011	0.011±0.005	0.381±0.021	0.044±0.056	0.019±0.002	0.190±0.009
		冠山東	29	0.323±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
		飯山	25	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021
山口県	平生		45	0.184±0.009	0.190±0.006	0.112±0.031	7.290±0.346	0.170±0.015	0.077±0.011	0.691±0.040	0.026±0.010	0.011±0.001	0.097±0.004
福岡県	八女市	昭和池第一	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.022	0.050±0.003	0.500±0.012
		〃第二	50	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.005	3.075±0.123	0.534±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.419±0.014
		〃第三	50	3.144±0.069	0.724±0.036	0.073±0.009	2.919±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
		〃第四	50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.607±0.033	0.122±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.499±0.018
佐賀県		多久第一	53	0.831±0.047	0.404±0.013	0.056±0.007	4.718±0.225	0.510±0.037	0.062±0.019	0.850±0.033	0.222±0.018	0.016±0.003	0.201±0.011
		〃第二	23	0.834±0.055	0.396±0.016	0.065±0.010	5.342±0.317	0.566±0.047	0.081±0.028	0.866±0.046	0.242±0.023	0.016±0.005	0.202±0.014
		〃第三	8	1.097±0.232	0.350±0.028	0.065±0.014	4.498±0.903	0.701±0.084	0.084±0.025	0.828±0.052	0.239±0.019	0.021±0.003	0.263±0.046
		梅野	42	1.287±0.051	0.340±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.784±0.030	0.081±0.022	0.824±0.033	0.265±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
		老松山	62	0.705±0.034	0.314±0.011	0.067±0.009	5.323±0.244	0.543±0.036	0.075±0.021	0.691±0.034	0.208±0.023	0.014±0.002	0.174±0.007
		寺山・岡本	30	0.629±0.043	0.310±0.010	0.070±0.008	5.600±0.323	0.489±0.029	0.066±0.017	0.644±0.032	0.192±0.018	0.013±0.001	0.157±0.010
		西有田	17	0.453±0.019	0.331±0.005	0.098±0.010	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.568±0.023	0.106±0.010	0.023±0.002	0.237±0.016
		松尾転礫	47	0.717±0.036	0.410±0.012	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.028±0.027	0.291±0.014
		松尾第二	40	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.034±0.003	0.377±0.012
		椎葉崖第一	42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.027±0.009	0.330±0.013
		〃第二	41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.024±0.007	0.280±0.011
		〃第三	12	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.022±0.002	0.227±0.009
		〃第四	37	0.744±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.029±0.003	0.302±0.010
長崎県		大串	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.006	0.607±0.059
		亀岳	19	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
		牟田第一	30	0.784±0.092	0.345±0.026	0.069±0.008	4.561±0.236	0.875±0.132	0.220±0.028	0.727±0.053	0.299±0.039	0.015±0.003	0.188±0.021
		〃第二	13	0.594±0.048	0.328±0.013	0.088±0.010	7.759±0.411	0.114±0.104	0.348±0.031	0.989±0.071	0.496±0.041	0.012±0.001	0.144±0.010
		川棚第一	59	0.498±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.010	0.814±0.048	0.035±0.012	0.012±0.002	0.133±0.008
		〃第二	9	0.406±0.048	0.265±0.027	0.071±0.004	4.854±0.374	0.203±0.029	0.081±0.012	0.714±0.048	0.034±0.017	0.011±0.001	0.109±0.011
		福井第一	15	0.630±0.012	0.329±0.005	0.090±0.011	7.531±0.315	1.211±0.040	0.365±0.035	1.028±0.047	0.534±0.033	0.013±0.001	0.154±0.003
		〃第二	25	0.512±0.014	0.317±0.008	0.084±0.011	7.157±0.312	0.941±0.037	0.301±0.027	0.874±0.043	0.431±0.033	0.011±0.002	0.126±0.004
		崎針尾第一	68	0.382±0.026	0.252±0.023	0.052±0.006	4.106±0.227	0.160±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.010±0.001	0.107±0.007
		〃第二	14	0.599±0.115	0.373±0.045	0.073±0.014	5.167±0.749	0.320±0.058	0.077±0.016	0.650±0.084	0.086±0.027	0.015±0.002	0.163±0.031
		駒崎鼻	42	0.642±0.071	0.310±0.010	0.070±0.008	5.529±0.354	0.498±0.051	0.081±0.015	0.656±0.039	0.200±0.028	0.022±0.006	0.246±0.023
熊本県		阿蘇第一	15	2.006±0.258	0.646±0.052	0.064±0.011	2.085±0.320	0.481±0.068	0.106±0.028	1.647±0.197	0.063±0.012	0.057±0.010	0.597±0.099
		〃第二	14	0.993±0.198	0.514±0.070	0.061±0.008	3.087±0.441	0.299±0.066	0.064±0.013	1.043±0.182	0.038±0.013	0.032±0.005	0.293±0.041
		菊池	42	0.678±0.057	0.458±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
		JG－1 a)	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011

平均値±標準偏差値、＊：黒曜石様ガラス質安山岩　a)：Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal* Vol.8 175-192.

表１－３　原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺跡名	遺物群名	分析個数	元素比 K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道	頭無川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090
石川県	酒見遺物群	39	0.476±0.016	0.596±0.012	0.097±0.053	5.229±0.168	0.160±0.010	0.110±0.015	1.282±0.033	0.031±0.008	0.025±0.017	0.228±0.075
岐阜県	野笹No.261他群	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.234±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.010
	野笹No.271他群	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.005	1.882±0.041	0.089±0.005	0.033±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006
	野笹No.282他群	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.005	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009
	野笹No.289他群	32	3.515±0.134	1.068±0.047	0.149±0.023	6.620±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081
	野笹No.262群	40	0.384±0.004	0.318±0.006	0.057±0.005	2.356±0.068	0.102±0.007	0.051±0.007	0.651±0.022	0.022±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004
	野笹No.295群	32	3.584±0.178	1.077±0.058	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.053	0.150±0.028	0.183±0.019	2.989±0.159
愛知県	朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010
	朝日No.15群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.058	0.058±0.026	0.032±0.009	0.557±0.021
大阪府	向出No.6群	30	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002
	向出No.49群	30	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002
	中社No.62群	30	0.333±0.003	0.229±0.003	0.066±0.004	4.363±0.080	0.212±0.014	0.066±0.011	0.618±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002
	中社No.82群	30	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002
	中社No.86群	30	2.638±0.057	0.949±0.026	0.025±0.008	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.019	0.097±0.033	1.903±0.055
	中社No.89群	30	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004
	中社No.104群	30	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.365±0.098	0.112±0.007	0.044±0.010	0.328±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002
	鬼虎No.16群	33	0.361±0.004	0.253±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.106	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004
	鬼虎No.17群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005
	粟生間谷No.98群	48	0.421±0.009	0.227±0.005	0.066±0.009	4.359±0.132	0.217±0.015	0.067±0.009	0.651±0.025	0.026±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006
島根県	平田遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.092±0.014	7.108±0.245	0.098±0.011	0.071±0.012	0.552±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005
	喜時雨遺物群	44	3.461±0.177	2.341±0.134	0.158±0.041	17.661±1.079	1.099±0.048	0.268±0.036	2.124±0.106	0.157±0.035	0.116±0.012	1.201±0.085
香川県	六ツ目遺物群	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004
	庵の谷遺物群	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.058±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007
高知県	松ノ木遺物群	37	0.610±0.017	0.223±0.004	0.797±0.005	4.528±0.120	0.325±0.016	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006

注：向出遺跡、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼虎川遺跡、野笹No.262、295群、粟生間谷遺跡の遺物群の分析個数は１個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。
平田遺跡、庵の谷遺跡、野笹遺跡、喜時雨遺跡の遺物群の分析個数はそれぞれ２、３個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。

表２　岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20個	30%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
第二群	22	33	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	国分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明（どこの原石群にも属さない）

表３　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	12個	17%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和泉群	9	13	〃　、　〃　、　〃
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明（どこの原石群にも属さない）

表４　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和泉群	10個	48%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	〃　、　〃　、　〃
	10	48	不明（どこの原石群にも属さない）

表５－１　奥谷南遺跡出土サヌカイト製石片の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
74224	0.438	0.219	0.087	4.686	0.321	0.050	1.242	0.028	0.021	0.175
74225	10.043	3.865	0.337	9.231	2.257	0.428	4.370	0.259	0.396	8.997
74226	0.423	0.226	0.083	4.736	0.293	0.066	1.102	0.027	0.021	0.173
74227	0.441	0.228	0.095	4.614	0.315	0.064	1.176	0.037	0.018	0.174
74228	0.455	0.233	0.083	5.079	0.310	0.036	1.151	0.029	0.024	0.193
74229	0.451	0.229	0.067	4.575	0.330	0.079	1.265	0.028	0.024	0.186
74230	0.432	0.222	0.076	4.458	0.309	0.067	1.177	0.021	0.023	0.171
74231	0.447	0.223	0.091	4.805	0.336	0.080	1.164	0.020	0.022	0.186
74232	0.430	0.220	0.080	4.803	0.308	0.068	1.166	0.038	0.027	0.187
74233	0.435	0.216	0.102	5.319	0.355	0.065	1.190	0.030	0.027	0.175
74234	0.451	0.224	0.073	4.615	0.301	0.064	1.186	0.023	0.021	0.174
74235	0.392	0.217	0.096	4.800	0.301	0.063	1.099	0.028	0.024	0.175
74236	0.448	0.221	0.080	4.697	0.311	0.100	1.157	0.031	0.025	0.192
74237	0.443	0.223	0.097	4.720	0.317	0.050	1.233	0.027	0.028	0.188
74238	0.430	0.224	0.107	5.232	0.330	0.085	1.154	0.028	0.019	0.178
74239	0.432	0.222	0.082	4.571	0.309	0.060	1.145	0.031	0.024	0.186
74240	0.401	0.225	0.090	4.746	0.288	0.079	1.155	0.013	0.021	0.159
74241	0.510	0.261	0.064	3.391	0.332	0.081	1.106	0.035	0.030	0.204
74242	0.456	0.221	0.084	4.703	0.320	0.068	1.209	0.037	0.023	0.189
74243	0.432	0.224	0.077	4.542	0.294	0.070	1.208	0.037	0.020	0.168
74244	0.445	0.229	0.095	4.866	0.318	0.067	1.161	0.036	0.025	0.177
74245	0.466	0.221	0.084	4.713	0.312	0.083	1.214	0.048	0.026	0.192
74246	1.769	3.040	0.073	6.175	0.593	0.581	1.906	0.249	0.222	19.712
74247	0.452	0.230	0.079	4.648	0.326	0.060	1.245	0.030	0.026	0.183
74248	0.438	0.224	0.073	4.555	0.299	0.091	1.176	0.037	0.021	0.179
74249	8.350	7.421	0.060	32.095	1.392	0.209	3.171	0.181	0.514	11.193
74250	0.437	0.221	0.073	4.801	0.311	0.070	1.228	0.035	0.023	0.182
74251	0.450	0.226	0.083	4.778	0.340	0.043	1.255	0.040	0.021	0.183
74252	0.469	0.231	0.085	4.889	0.329	0.081	1.171	0.043	0.024	0.186
74253	0.429	0.253	0.058	3.792	0.303	0.052	0.985	0.040	0.026	0.185
74254	0.529	0.267	0.065	3.487	0.340	0.062	1.087	0.036	0.021	0.216
74255	0.402	0.224	0.080	4.602	0.275	0.073	1.138	0.035	0.020	0.157
74256	0.510	0.266	0.046	3.312	0.341	0.071	1.127	0.033	0.026	0.211
74257	5.001	4.489	0.115	7.669	0.686	0.234	1.598	0.122	0.334	9.446
74258	0.456	0.235	0.074	4.546	0.319	0.059	1.188	0.036	0.023	0.173
74259	0.529	0.259	0.048	3.533	0.341	0.035	1.138	0.047	0.025	0.210
74260	0.550	0.272	0.070	3.412	0.370	0.056	1.067	0.038	0.029	0.239
74261	0.515	0.267	0.058	3.301	0.318	0.040	1.178	0.054	0.028	0.202
74262	0.452	0.230	0.081	4.742	0.319	0.061	1.250	0.037	0.027	0.181
74263	0.500	0.260	0.039	3.352	0.320	0.015	1.118	0.037	0.027	0.212
74264	0.456	0.228	0.078	4.599	0.316	0.053	1.164	0.031	0.021	0.188
74265	0.455	0.226	0.085	4.621	0.332	0.065	1.213	0.035	0.025	0.166
74266	0.450	0.217	0.084	4.561	0.328	0.067	1.198	0.053	0.025	0.181
74267	0.451	0.228	0.074	4.641	0.328	0.048	1.199	0.037	0.022	0.182
74268	0.459	0.231	0.085	4.498	0.320	0.078	1.226	0.028	0.026	0.181
74269	0.467	0.227	0.092	4.848	0.305	0.065	1.170	0.040	0.025	0.197
74270	0.275	0.230	0.059	4.486	0.203	0.050	0.649	0.014	0.016	0.132
74271	0.455	0.236	0.089	4.507	0.311	0.065	1.203	0.029	0.022	0.179
74272	0.435	0.225	0.089	4.842	0.321	0.032	1.157	0.030	0.025	0.181
74273	0.450	0.221	0.084	4.723	0.309	0.080	1.277	0.032	0.025	0.178

表５－２　奥谷南遺跡出土サヌカイト製石片の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
74274	0.435	0.217	0.076	4.359	0.292	0.040	1.189	0.048	0.029	0.190
74275	0.450	0.255	0.054	3.475	0.294	0.068	0.988	0.034	0.023	0.190
74276	0.410	0.222	0.077	4.613	0.291	0.080	1.045	0.031	0.023	0.174
74277	0.455	0.228	0.090	4.589	0.326	0.070	1.244	0.039	0.023	0.176
74289	0.847	1.962	0.047	1.276	0.030	0.076	0.402	0.141	0.245	24.184

表５－３　安芸市清水寺岡遺跡出土のサヌカイト製遺物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
74278	0.439	0.224	0.070	4.464	0.320	0.073	1.221	0.036	0.024	0.173
74279	0.449	0.222	0.076	4.447	0.293	0.048	1.193	0.026	0.022	0.174
74280	0.451	0.229	0.077	4.471	0.305	0.067	1.212	0.036	0.030	0.181
74281	0.433	0.217	0.075	4.638	0.302	0.066	1.204	0.029	0.021	0.168
74282	0.441	0.222	0.081	4.553	0.318	0.059	1.209	0.044	0.023	0.180

表５－４　南国市栄エ田遺跡出土のサヌカイト製遺物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
74283	0.442	0.228	0.086	4.544	0.321	0.075	1.213	0.032	0.025	0.180
74284	0.397	0.218	0.090	5.007	0.297	0.088	1.115	0.033	0.022	0.177
74285	0.434	0.224	0.091	4.690	0.311	0.083	1.118	0.044	0.026	0.188
74286	0.448	0.226	0.084	4.596	0.319	0.052	1.226	0.044	0.020	0.173

表５－５　土佐市西鴨地遺跡出土のサヌカイト製遺物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
74287	0.442	0.229	0.076	4.547	0.320	0.074	1.204	0.025	0.025	0.181
74288	0.591	0.561	0.018	4.835	0.306	0.060	1.262	0.038	0.025	0.270
JG－1	1.314	0.297	0.060	2.711	0.723	0.196	0.721	0.033	0.034	0.438

JG－1：標準試料－Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal,* Vol.8 175-192（1974）

表６－１　奥谷南遺跡出土のサヌカイト製遺物の原産地推定結果

分析番号	資料　遺物 番号−番号, 遺構・地点,層位	原石産地（確率）	判　定	器　種	実測遺物及び報告書掲載遺物
74224	1−1,F−7,Ⅳ層	金山東（10%）	金山東	剥片	
74225	1−2,F−7,Ⅳ層	サヌカイトでない		剥片	
74226	1−3,F−7,Ⅳ層	城山（55%）,金山西（49%）	城　山	剥片	
74227	1−4,F−7,Ⅳ層	金山東（2%）	金山東	剥片	
74228	1−5,F−7,Ⅳ層	金山東（0.6%）	金山東	剥片	
74229	2−1,F−7,Ⅳ層	金山東（1%）	金山東	剥片	
74230	2−2,F−7,Ⅳ層	金山東（6%）	金山東	剥片	
74231	2−3,F−7,Ⅳ層	金山東（32%）	金山東	剥片	
74232	2−4,F−7,Ⅳ層	金山東（2%）	金山東	剥片	
74233	2−5,F−7,Ⅳ層	金山東（0.03%）薄すぎる	金山東	剥片	
74234	3−1,TR−3−S,Ⅳ層	金山東（50%）	金山東	剥片	
74235	3−2,TR−3−S,Ⅳ層	城山（28%）,金山西（17%）	城　山	剥片	
74236	4−1,TR−3,Ⅳ層	金山東（19%）	金山東	剥片	
74237	4−2,TR−3,Ⅳ層	金山東（8%）	金山東	剥片	
74238	4−3,TR−3,Ⅳ層	薄すぎる		剥片	
74239	5,TR−10,Ⅶ層	金山東（2%）	金山東	剥片	
74240	6−1,No.51−52,Ⅴ層	城山（5%）	城　山	剥片	
74241	6−2,No.51−52,Ⅴ層	白峰（59%）,岩屋第2群（56%）	白　峰	剥片	
74242	6−3,No.51−52,Ⅴ層	金山東（66%）	金山東	剥片	
74243	6−4,No.51−52,Ⅴ層	金山東（2%）	金山東	剥片	
74244	6−5,No.51−52,Ⅴ層	金山東（4%）	金山東	剥片	
74245	6−6,No.51−52,Ⅴ層	金山東（10%）	金山東	剥片	
74246	7,TR−A南バンク,Ⅴ層	サヌカイトでない		剥片	
74247	8,B地点,Ⅴ層	金山東（9%）	金山東	剥片	
74248	9,G−5−9,Ⅴ層	金山東（4%）	金山東	剥片	
74249	10,2号岩陰−ブロック1,Ⅶ層	サヌカイトでない		剥片	
74250	11,2号岩陰−ブロック1−No.11,Ⅶ層	金山東（9%）	金山東	剥片	
74251	12,I−5−8 No.2,Ⅶ層	金山東（4%）	金山東	剥片	
74252	13,　　,Ⅶ−3層	金山東（20%）	金山東	剥片	
74253	14,K−5−9,Ⅶ−SR−3層	国分寺町（67%）,蓮光寺（34%）	国分寺	剥片	

表６－２　奥谷南遺跡出土のサヌカイト製遺物の原産地推定結果

分析番号	資料　遺物 番号−番号，遺構・地点,層位	原石産地（確率）	判　定	器　種	実測遺物及び報告書掲載遺物
74254	15,TR−3−S No.13,Ⅷ−a層	岩屋第2群（79%),白峰（48%）	白　峰	剥片	
74255	16,ES,Ⅷ−a層	城山（4%）	城　山	剥片	
74256	17,F−6･7 No.335,Ⅷ−a層	白峰（67%),岩屋第2群（49%),国分寺（1%),蓮光寺（1%）	白　峰	剥片	
74257	18,G−5 No.31,Ⅷ−a層	サヌカイトでない		剥片	
74258	19,EF−5 TR−A No.232,Ⅷ−b層	金山東（2%）	金山東	剥片	
74259	20,E−6,Ⅷ−b層	白峰（46%),岩屋第2群（39%）	白　峰	剥片	
74260	21,EF−5 TR−A南バンク No.67,Ⅷ−b層	白峰（15%),岩屋第2群（11%）	白　峰	剥片	
74261	22,F−6−13,Ⅷ−b層	岩屋第2群（29%),白峰（22%）	白　峰	剥片	
74262	23,F−7−1,Ⅷ−b層	金山東（10%）	金山東	剥片	
74263	24,TR−6,排土	岩屋第2群（43%),白峰（9%）	白　峰	剥片	
74264	25−1,ES,排土	金山東（57%）	金山東	剥片	
74265	25−2,ES,排土	金山東（73%）	金山東	剥片	
74266	25−3,ES,排土	金山東（45%）	金山東	剥片	
74267	26,TR−3−5,Ⅳ～Ⅶ層	金山東（18%）	金山東	剥片	
74268	27,TR−3,Ⅳ層	金山東（25%）	金山東	盤状剥片	図版番号1419
74269	28,G−4 No.3,包含層（Ⅳ層か?）	金山東（14%）	金山東	スクレイパー	図版番号1046
74270	29,F−5 TR−A,Ⅶ−c層	二上山（28%）	二上山	スクレイパー	図版番号883
74271	30,F−5 TR−A No.5,Ⅶ−c層	金山東（5%）	金山東	器種不明	図版番号946
74272	31,F−7,Ⅳ層	金山東（1%）	金山東	石鏃	図版番号1318
74273	32,K−4−4,Ⅷ−a層	金山東（14%）	金山東	石鏃	図版番号1261
74274	33,I−5−7,Ⅷ−2層	金山東（2%）	金山東	石鏃	図版番号1397
74275	34,JK−5 No.1050,Ⅶ層,縄文時代草創期	蓮光寺（96%),国分寺（91%),岩屋第2群（2%）	国分寺	槍先形尖頭器	図版番号132
74276	38,F−5−7 TR−A南バンク,Ⅷ−a～Ⅷ−b層,縄文時代草創期	城山（86%),金山西（78%）	城　山	槍先形尖頭器	図版番号122
74277	39,TR−12南 No.2,オリーブ灰褐色粘土砂礫層,縄文時代早期	金山東（23%）	金山東	槍先形尖頭器	図版番号137
74289	52,F−5 TR No.108,旧石器時代終末	黒碧玉?または黒瑪瑙?		細石刃核･作業面再生剥片	図版番号592

表６－３　安芸市清水寺岡遺跡出土のサヌカイト製遺物の原産地推定結果

分析番号	資料　遺物 番号−番号, 遺構・地点,層位	原石産地（確率）	判　定	器　種	実測遺物及び報告書掲載遺物
74278	41−1,ST−03,弥生時代中期～後期の集落	金山東（12%）	金山東	剥片	実測番号328
74279	41−2,ST−03,弥生時代中期～後期の集落	金山東（20%）	金山東	剥片	実測番号328
74280	42−1,ST−03,弥生時代中期～後期の集落	金山東（20%）	金山東	剥片	
74281	42−2,ST−03,弥生時代中期～後期の集落	金山東（15%）	金山東	剥片	
74282	43,ST−04,弥生時代中期～後期の集落	金山東（40%）	金山東	剥片	

表６－４　南国市栄エ田遺跡出土のサヌカイト製遺物の原産地推定結果

分析番号	資料　遺物 番号−番号, 遺構・地点,層位	原石産地（確率）	判　定	器　種	実測遺物及び報告書掲載遺物
74283	46,Ⅲ−2区,Ⅳ層,縄文時代後期・晩期	金山東（15%）	金山東	スクレイパー	図版番号345
74284	47,Ⅲ−2区・SD−1,縄文時代後期・晩期	城山（31%）,金山西（32%）	金山東	剥片	図版番号346
74285	48,J−Ⅳ層,縄文時代後期・晩期	城山（2%）	城　山	石鏃	図版番号334
74286	49,Ⅲ−2区,J−Ⅲ層,縄文時代後期・晩期	金山東（27%）	金山東	石鏃	図版番号339

表６－５　土佐市西鴨地遺跡出土のサヌカイト製遺物の原産地推定結果

分析番号	資料　遺物 番号−番号, 遺構・地点,層位	原石産地（確率）	判　定	器　種	実測遺物及び報告書掲載遺物
74287	50,Ⅱ区,Ⅸ層,弥生時代	金山東(15%)	金山東	石鏃	図版番号364
74288	51,Ⅱ区,褐色粘土層直上,弥生時代	サヌカイトでない		石鏃	図版番号363

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があます。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

サヌカイトの原材産地分析を依頼した遺跡について

松村　信博

第Ⅵ章第１節で原材産地分析を依頼したサヌカイトは、本報告書で取り扱う奥谷南遺跡以外に3遺跡（栄エ田遺跡・西鴨地遺跡・清水寺岡遺跡）からの出土資料を含んでいる。高知県では県西部及び嶺北地方(吉野川上流域・松ノ木遺跡)でサヌカイトの蛍光X線分析が行われているが、それ以外に分析例はなく、奥谷南遺跡の資料と比較対照する意味で今回の分析にこれらの3遺跡の資料を加える。近接した地域での比較を意図して栄エ田遺跡で、弥生時代の資料ではあるが高知平野の西半と高知県東部の一様相を知ることを意図して西鴨地遺跡と清水寺岡遺跡の資料を分析対象とした。なお、資料数・分析遺跡数の少なさという限界はあり、今後、分析対象遺跡および資料数を増やす必要はある。

清水寺岡遺跡は高知県東部安芸市にあり、安芸川の段丘上に立地する弥生時代中期から後期にかけての遺跡で、分析した資料は住居址出土の資料である。清水寺岡遺跡からは、かつて採集資料としてサヌカイトの翼状剥片が報告されたが、現在ではこれは翼状剥片ではなく旧石器時代の資料ではないと考えられている。栄エ田遺跡は高知平野東半北麓・南国市岡豊町にある集落遺跡であり、奥谷南遺跡とは尾根一つへだてた西側に近接している。分析した資料は縄文時代後期・晩期と弥生時代後期の資料である。西鴨地遺跡は高知平野西端の土佐市にあり、仁淀川の支流・波介川沿いの低地遺跡で旧河川から主に古代（8～10世紀）の資料が出土している。分析した資料は弥生時代中期の資料である。

報告書
清水寺岡遺跡 -『高知県安芸市清水寺岡遺跡』 安芸市教育委員会 1990年
栄エ田遺跡 -『栄エ田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1995年
西鴨地遺跡 -『西鴨地遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年

遺跡名	所在地	位　置	立　地	出土状況	資料の時期	調査年
オクタニミナミイセキ 奥谷南遺跡	南国市岡豊町小蓮	高知平野東半北麓	丘陵先端の岩陰	包含層	旧石器～縄文早期	1996年
サカエダイセキ 栄エ田遺跡	南国市岡豊町定林寺	高知平野東半北麓	丘陵先端～平野北端	包含層	縄文後晩期 弥生後期	1993年
ニシカモジイセキ 西鴨地遺跡	土佐市西鴨地	高知平野西端	丘陵に挟まれた低地	旧河川	弥生中期	1998年
セイスイジオカイセキ 清水寺岡遺跡	安芸市川北	高知県東部･安芸平野	河岸段丘	住居址	弥生中～後期	1985年

第2節　奥谷南遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

調査経緯

奥谷南遺跡（高知県南国市岡豊町に所在）は、後期旧石器時代のナイフ形石器、細石刃などが出土するチャートの原産地遺跡として有名である。また、縄文時代草創期の隆起線文土器、縄文時代早期～後期の遺物、10世紀のロストル構造の窯跡や焼成遺構なども検出されており、複合遺跡として知られている。

本遺跡では遺跡の総合理解を深めるために自然科学分析調査が行われてきており、今回の調査もその一環である。今回は、主に旧石器時代～縄文時代の遺構・遺物に関する調査を実施した。

＜目次＞

１．旧石器時代～縄文時代に関する調査
⑴試料
⑵分析方法
①放射性炭素年代測定
②テフラ分析
③花粉分析
④鉱物分析
⑤Ｘ線回折分析
⑶結果
①放射性炭素年代測定
②テフラ分析
③花粉分析
④鉱物分析
⑤Ｘ線回折分析
⑷考察
①堆積物の時代性
②遺跡周辺の古植生
③堆積物の由来と被熱の状況
２．奥谷南遺跡における放射性炭素年代測定
⑴試料
⑵分析方法
⑶結果

1. 旧石器時代～縄文時代に関する自然科学分析調査

はじめに

奥谷南遺跡は、旧石器時代のナイフ形石器・細石刃、縄文時代草創期の隆起線文土器や南九州系の隆帯文土器などが出土する複合遺跡である。今回の発掘調査でも、旧石器時代、縄文時代草創期、縄文時代早期の遺物が出土している。また、本遺跡では当時の環境や遺構の性格に関する情報を得ることを目的として自然科学分析調査も行われており、当時の人間の活動状況や古環境に関する総合的な情報蓄積が行われてきている。

今回は、旧石器時代から縄文時代早期の遺物を包含する堆積物の年代観に関する情報を得るために放射性炭素年代測定・テフラ分析を、遺跡周辺の植生を検討するために花粉分析を実施する。また、旧石器時代終末～縄文時代草創期の層準からは、被熱している可能性がある粘土が出土しており、その状況確認を目的としてX線回折分析・鉱物分析を実施する。

(1) 試料

今回の調査に使用した試料の一覧を表１に示す。各分析試料は、放射性炭素年代測定が旧石器時代～縄文時代と推定される層準から得られた炭化物細片２点である。花粉分析は旧石器時代～縄文時代の遺物が出土するⅩⅢ層～Ⅶ層・Ⅳ層から採取された15点（花粉サンプル１～15）である。

表１　旧石器時代～縄文時代に関する分析試料の一覧

サンプル番号	地点・遺構等	内容等	時　　期	分析項目				
				^{14}C	T	P	M	X
^{14}Cサンプル	J-5-⑤		旧石器時代終末～縄文時代草創期	○				
^{14}Cサンプル	J-5-⑥	Ⅷ-b層	旧石器時代終末～縄文時代草創期	○				
火山灰-1		アカホヤサンプル			○			
花粉サンプル1	TR-A南バンク　サンプル①	Ⅶ層	縄文時代早期			○		
花粉サンプル2	TR-A南バンク　サンプル③	Ⅷ-a層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル3	TR-A南バンク　サンプル④	Ⅷ-b層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル4	TR-A南バンク　サンプル⑥	Ⅹ層	旧石器時代			○		
花粉サンプル5	TR-A南バンク　サンプル⑦	Ⅺ層	旧石器時代			○		
花粉サンプル6	TR-A南バンク　サンプル⑧	Ⅻ層	旧石器時代			○		
花粉サンプル7	TR-A南バンク　サンプル⑨	ⅩⅢ層	旧石器時代			○		
花粉サンプル8	TR-A南バンク　サンプル⑲	Ⅸ層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル9	GH-5　サンプル②	Ⅷ-b層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル10	KL-5　サンプル③	Ⅷ-a層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル11	GH-5　サンプル③	Ⅷ-a層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル12	ZT(F-6)	Ⅳ層	縄文時代			○		
花粉サンプル13	J-5-⑩	Ⅷ-a層	旧石器時代終末～縄文時代草創期			○		
花粉サンプル14	ZT(F-6)	Ⅹ層	旧石器時代			○		
花粉サンプル15	ZT(F-6)	Ⅶ-2層	縄文時代早期			○		
焼土サンプル1	SX002	被熱したと思われる粘土	旧石器時代終末～縄文時代草創期				○	○
焼土サンプル2	SX004	被熱したと思われる粘土	旧石器時代終末～縄文時代草創期				○	○
焼土サンプル3	SX005	被熱したと思われる粘土	旧石器時代終末～縄文時代草創期				○	○
焼土サンプル4	Pit-57	被熱したと思われる粘土	旧石器時代終末～縄文時代草創期				○	○
焼土サンプル5	サンプルA	被熱したと思われる粘土	旧石器時代終末～縄文時代草創期				○	○
焼土サンプル6	SX101 北西ピット(P101)	被熱したと思われる粘土	旧石器時代終末～縄文時代草創期				○	○

凡例）^{14}C：放射性炭素年代測定　T：テフラ分析　P：花粉分析　M：鉱物分析　X：X線回折分析

Ｘ線回折分析および鉱物分析は、被熱したと思われる粘土６点（焼土サンプル１～６）である。テフラ分析は、火山灰－１とされるにぶい黄橙色の礫混じりシルトである。

⑵　分析方法

①　放射性炭素年代測定

測定は（株）地球科学研究所の協力を得た。試料は、酸－アルカリ－酸による洗浄前処理を行った後、加速器質量分析計で測定された。なお、半減期は5568年を使用している。

②　テフラ分析

試料は、適量を蒸発皿に取り、泥水にした状態で超音波洗浄装置により分散、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂を実体顕微鏡下で観察、スコリア・火山ガラス・軽石の特徴や含まれる量の多少を定性的に調べる。

③　花粉分析

試料を湿重で約10g秤量し、水酸化カリウム処理、篩別、重液分離（臭化亜鉛，比重2.3）、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝９：１）の順に物理・化学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数を行う。結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。

④　鉱物分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、粒径1/4㎜-1/8㎜の砂分をポリタングステート（比重約2.96に調整）により重液分離する。得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

軽鉱物は重鉱物分析の処理により得られた軽鉱物分を偏光顕微鏡下にて観察、250粒を同定する。火山ガラスは、便宜上軽鉱物に含め、その形態により３つの型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

⑤　Ｘ線回折分析

105℃で２時間乾燥させた試料をメノウ乳鉢で微粉砕し、Ｘ線回折用アルミニウムホルダーに充填し、Ｘ線回折分析試料（無定方位試料）を作成する。作成したＸ線回折分析試料（無定方位試料）について以下の条件でＸ線回折分析を行う（足立，1980；日本粘土学会，1987）。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をＸ線粉末回折線総合解析プログラム（五十嵐，未公表）により検索する。

装　置：島津制作所製ＸＤ－３Ａ　　Time Constant：1.0sec
Target：Ｃｕ（Ｋα）　　Scanning Speed：2°/min
Filter：Ｎｉ　　Chart Speed：2cm/min
Voltage：30KVP　　Divergency：1°
Current：30mA　　Recieving Slit：0.3mm
Count Full Scale：5,000C/S　　Scanning Range：3～45°

(3) 結果

①　放射性炭素年代測定

結果を表２に示す。

表２　放射性炭素年代測定結果

試料名	^{14}C年代(y. B. P.)	δ^{13}C	補正^{14}C年代(y. B. P.)	No.
J−5−⑤	3670 ± 40	−26.5	3650 ± 40	Beta−135469
J−5−⑤	2670 ± 40	−29.6	2590 ± 40	Beta−135467

注１）^{14}C年代は、^{14}C／^{12}C比から1950年から何年前かを計算した年代（半減期は、5568年を使用）
注２）補正^{14}C年代値は、試料の炭素安定同定体比（^{13}C／^{12}C）を測定して試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で産出した年代
注３）δ^{13}Cは、^{13}C／^{12}C比で標準物質の同位体比（ここでは0.0112372を使用）からの千分偏差（‰）で表現

②　テフラ分析

分析試料には、多量の粗砂～細砂径の無色透明および褐色の火山ガラスが含まれる。火山ガラスの形態は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つものである。

③　花粉分析

結果を表３に示す。花粉化石は15試料ともほとんど検出されない。特に花粉サンプル２・４・

表３　花粉分析結果

種　類 / 試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
木本花粉															
マツ属	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	1	1	−	−
コナラ属アカガシ亜属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−
エキノ属－ムクノキ属	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
草本花粉															
イネ科	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	2	−	−	−
タデ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
バラ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
シダ類胞子															
シダ類胞子	−	−	2	−	−	−	−	−	−	2	2	96	−	−	2
合計															
木本花粉	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3	1	0	0
草本花粉	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0
シダ類胞子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	96	0	0	2
総計	1	0	2	0	1	0	0	0	1	3	2	103	1	0	2

７・８・14は、無化石である。検出される種類は、木本花粉のマツ属・コナラ属アカガシ亜属・エノキ属－ムクノキ属、草本花粉のイネ科・タデ属・バラ科、シダ類胞子の合計７種類である。また、わずかに検出される花粉化石は保存状態が著しく悪く、外膜が溶けて薄い。

④　鉱物分析

結果を表４・図１に示す。各試料とも重鉱物は比較的少ないが、重鉱物組成は、焼土サンプル１～５と焼土サンプル６で異なる。焼土サンプル１～５の５点は比較的類似する重鉱物組成を示す。すなわち、「その他」を除くと不透明鉱物を比較的多く含み、斜方輝石および角閃石を少量～微量含む。

焼土サンプル６は、「その他」がほとんどを占める。この「その他」除くと微量の角閃石、不透明鉱物を含む。「その他」とした粒は、いずれも不透明で不定形を呈する。落射光下では、主に赤色から赤褐色を呈し、表面に凹凸が認められる。

軽鉱物組成ではいずれの試料も類似し、「その他」を除くと長石が比較的多く、微量の石英を含む軽鉱物組成を示す。

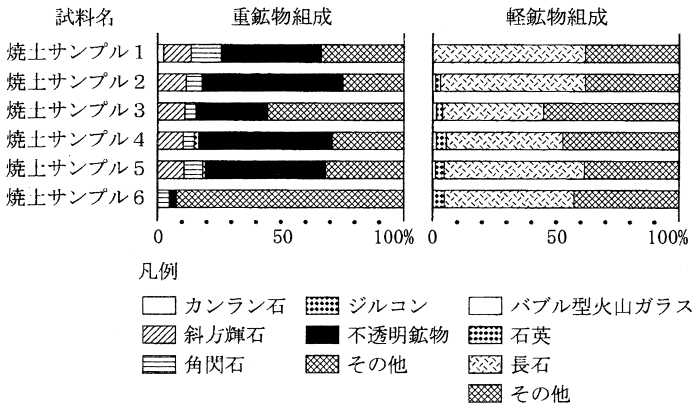


図１　焼土サンプルの重鉱物および軽鉱物組成

表４　焼土サンプルの重鉱物・軽鉱物分析結果

試料名	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	ジルコン	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
焼土サンプル1	6	28	0	30	1	1	1	0	102	81	250	1	0	2	155	92	250
焼土サンプル2	1	29	0	16	0	2	0	0	143	59	250	3	0	5	147	95	250
焼土サンプル3	0	28	0	11	0	1	1	0	73	136	250	4	0	6	102	138	250
焼土サンプル4	0	26	0	11	1	5	0	1	135	71	250	4	0	10	118	118	250
焼土サンプル5	2	27	1	19	2	3	2	0	121	73	250	3	1	9	142	95	250
焼土サンプル6	0	0	0	12	0	1	0	0	7	230	250	0	0	12	131	107	250

⑤　X線回折分析

結果を図２に示す。６試料のX線回折パターンは、焼土サンプル１～４と焼土サンプル５・６で若干異なる。焼土サンプル１～４では類似した回折パターンを示し、主な検出鉱物として石英（quartz）、斜長石（plagioclase）、緑泥石（chlorite）、雲母鉱物（mica minerals）が確認される。

これに対して、焼土サンプル５・６では、焼土サンプル１～４と基本的な鉱物組成が大きく変わらないが、緑泥石（chlorite）の回折強度が弱い傾向にあり、ギブサイト（gibbsite）の存在を

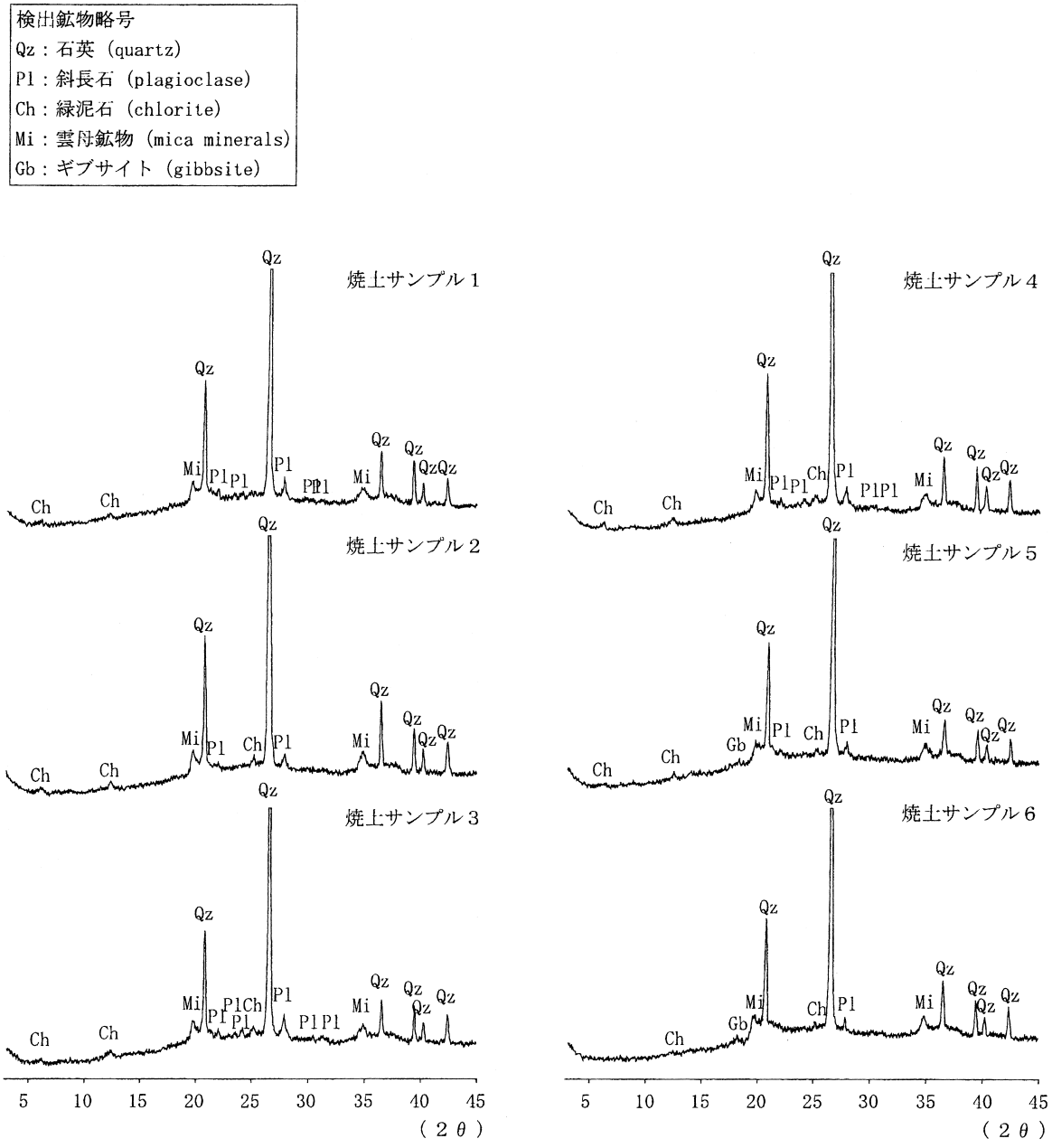


図２　焼土サンプルのX線回折図

示唆する回折線が認められる。

⑷ 考察

① 堆積物の時代性

J-5-⑤およびJ-5-⑥の放射性炭素年代測定値は、約2,700年前と約3,700年前であった。この測定値は、試料が採取された層準が旧石器時代～縄文時代草創期と推定されているのと比べると、かなり新しい年代値である。これは、本層準の堆積速度が遅く堆積した時代に幅がある、あるいは堆積後の落ち込みによるなどが考えられるが、現時点では断定できない。さらに層位的に資料を蓄積した上で再検討を行う必要があろう。なお、堆積物中に認められた火山灰ブロックは、火山灰ガラスが含まれており、火山ガラスの形態および色調から鬼界-アカホヤ火山灰（K-Ah：町田・新井，1978）に由来すると考えられる。K-Ahは、約6,300年前に九州南方の鬼界カルデラから噴出した広域テフラである。

② 遺跡周辺の古植生

堆積物中からは花粉化石がほとんど検出されない。これは、遺跡の立地条件を考えると好気的な環境であったため土壌微生物の影響や化学的な酸化により花粉化石が分解・消失したと考えられる。ところで、高知平野のほぼ中央部に位置する岡豊低湿地で行われた花粉分析によると、約7,000年前以降、シイ・カシ類からなる照葉樹林が少なくとも約2,000年前まで成立していたとされている（山中ほか，1992）。これにしたがうと、当時本遺跡の周辺もアカガシ亜属などの常緑広葉樹が生育する植生が成立していた可能性があるが、花粉化石が検出されないため詳細が不明である。

③ 堆積物の由来と被熱の状況

今回の分析結果では各試料中の重鉱物が比較的少ないが、X線回折分析結果も含めれば、いずれの試料も比較的類似した鉱物組成を示す。「その他」とした粒が多い焼土サンプル6については後述するが、X線回折分析による鉱物組成が他の試料と類似することから、概ね由来が同じであると考えられる。本遺跡の地理的位置および試料中に砂岩、礫岩などの礫も比較的多く認められることから、今回の試料はいずれも後背山地の秩父累帯の堆積岩などに由来する砕屑物を主な母材としていると考えられる。

一方、粘土を加熱していくと、種々の鉱物が生成、あるいは逆に消失する。X線回折分析は粘土のこの性質を利用し、試料中に存在する鉱物の種類を検出することによって焼成温度を推定する手法である（東村，1990）。例えば、イライトは950℃までしか存在しないのでイライトの回折スペクトルが検出されないと950℃以上の焼成であり、さらに斜長石は1100℃までしか存在しないので斜長石の回折スペクトルが検出されると1100℃以下の焼成温度であると推定される。また、鉱物分析では、角閃石が800℃で酸化角閃石に変化すること（黒田・諏訪，1983）が焼成温度の指標となる。

今回の試料では、いずれも900℃以上で消失する雲母鉱物が認められ、さらに角閃石の酸化角閃石化が認められないため、800℃以下の被熱温度と推定される。しかし、その被熱温度は、焼土サ

ンプル１～４、焼土サンプル５、焼土サンプル６で多少異なっていたとみられる。

焼土サンプル１～４は緑泥石（550℃で約12°の回折線が、750℃以上で約６°の回折線がそれぞれ消失）の存在が明瞭に認められることから、被熱したとしても550℃以下であったと推定される。

焼土サンプル５では、焼土サンプル１～４と比較して緑泥石の回折強度がやや弱いことから、被熱前の試料中に含まれる緑泥石の含有量が低いか、もしくは被熱温度が高いことが推定される。前述のように焼土サンプル５の鉱物組成は焼土サンプル１～４と比較的類似し由来は概ね同様と考えられることから、どちらかといえば後者の可能性が高い。すなわち、焼土サンプル５では被熱温度が焼土サンプル１～４よりやや高かったため緑泥石の一部が消失したことが考えられる。ただし、被熱温度は550℃以下だったと考えられる。

焼土サンプル６についても焼土サンプル１～４と比較して緑泥石の回折強度が弱く、さらに重鉱物組成において「その他」とした風化粒がほとんどを占める。当社におけるこれまでの分析例では、今回の「その他」としたような粒は土器胎土のような焼成物中によく認められるが、自然堆積物中であまり認められない。さらに、当社による粘土の焼成実験によっても、焼成により「その他」とした粒が増加することが確かめられている。これらのことから、本試料中の「その他」とした粒は主に被熱により生成したものと考えられる。したがって、本試料の被熱前の土の特徴は重鉱物組成からはよくわからないが、Ｘ線回折からは焼土サンプル１～５と鉱物組成が類似するため、その由来は概ね同様であると考えられる。すなわち、本試料では被熱温度が他の試料より高かったために緑泥石の一部が消失、「その他」が増加したことが指摘できる。本試料の被熱温度は焼土サンプル１～５より高く、緑泥石が完全には消失していないことからその上限は750℃であったと推定される。

2. 奥谷南遺跡における放射性炭素年代測定

はじめに

奥谷南遺跡（高知県南国市岡豊町に所在）は、後期旧石器時代のナイフ形石器・細石刃、縄文時代草創期の隆起線文土器などが検出され、チャートの原産地遺跡として知られる岩陰遺跡である。この他、縄文時代早期～後期の遺物、10世紀のロストル構造を持つ窯跡や焼成遺構なども検出されている。今回の調査では、堆積物の時代観に関する情報を得るために放射性炭素年代測定を実施する。

⑴　試料

試料は、旧石器時代～縄文時代草創期の遺物包含するⅧ-a層から採取された炭化材（試料名：JK-5）の１点である。

⑵　分析方法

測定は、（株）地球科学研究所に依頼した。試料は酸－アルカリ－酸の前処理により洗浄後、加速器質量分析計で測定された。なお、半減期は5568年を使用している。

⑶　結果

測定結果は約2,970年前の年代値を示した（表１）。試料採取層準は、遺物の出土状況からは旧石器時代～縄文時代草創期頃に堆積したことが推定されている。しかし、今回の測定値は、それよりもかなり新しい年代値となっている。この原因としては、調査地点における堆積物の堆積速度が遅かったために同一層準であっても時代幅がかなりある、堆積後に攪乱の影響などにより炭化材が上位から落ち込んできたなどの可能性が考えられるが、現時点では特定できない。今後、調査地点の層序や微地形に関する情報を含めて、今回の測定結果を評価したいと考える。

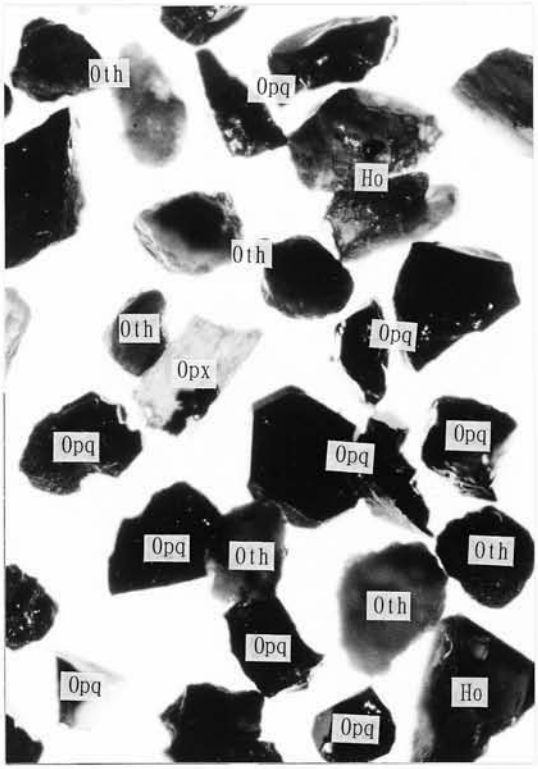
表１　放射性炭素年代測定結果

試料名	^{14}C年代（y. B. P. ）	δ^{13}C	補正^{14}C年代（y. B. P. ）	No.
JK−5	3970 ± 40	−25.3	2970 ± 40	Beta−135468

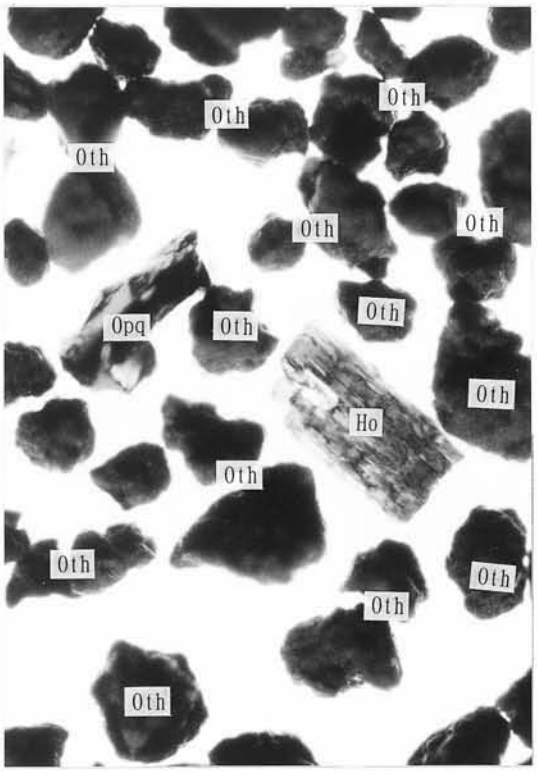
注１）^{14}C年代は、^{14}C／^{12}C比から1950年から何年前かを計算した年代（半減期は、5568年を使用）
注２）補正^{14}C年代値は、試料の炭素安定同定体比（^{13}C／^{12}C）を測定して試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で産出した年代
注３）δ^{13}Cは、^{13}C／^{12}C比で標準物質の同位体比（ここでは0.0112372を使用）からの千分偏差（‰）で表現

図版１　火山ガラス・重鉱物・軽鉱物

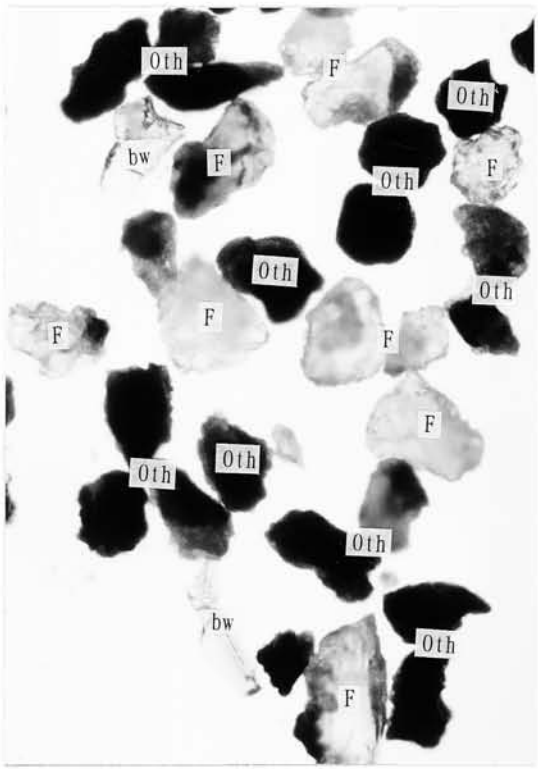
1. K-Ａｈの火山ガラス（アカホヤサンプル）



2. 重鉱物（焼土サンプル２）



3. 重鉱物（焼土サンプル６）



4. 軽鉱物（焼土サンプル３）

1mm　0.5mm

(1)　(2-4)

Opx：斜方輝石．Ho：角閃石．Opq：不透明鉱物．bw：バブル型火山ガラス．

第3節　奥谷南遺跡の石器群

株式会社アルカ　角 張 淳 一

1. 石器整理の方法

⑴ 奥谷南遺跡の石器研究の目標

奥谷南遺跡は、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃・細石核・縄文石器（石鏃・石匙など）の複合遺跡である。従来の理解ではそれぞれの石器は示準化石（示準石器）（註1）として時期の違いを示しているとされている。

またこれらの示準石器の他に膨大な珪岩の多様な資料群がある。それらは示準化石の石器に近似するものから、全く異なるものまである。

いままでは、狭義の編年論（註2）重視のため示準化石のみの抽出で事足りてきた石器の考古学であるが、発掘データだけの編年論だけでは立ちゆかなくなり、出土した石器の内容そのものが問われる時代になりつつある（註3）。

そのため、奥谷南遺跡の資料分析は、示準石器だけでなく、すべての多様な資料を分析し、その遺跡を形成した本来の「石器文化」理解するために行われなくてはならない。

註1）

示準化石・示準石器：出土層が不明であっても、これまでの研究の蓄積によって有る程度の時期が確定できる石器。形態的な明瞭さと独特の剥離技術という属性によって、誰にでも理解できる石器である。縄文時代の石鏃や石匙、後期旧石器時代のナイフ形石器など代表例である。

註2）

狭義の編年論；遺物を年代順に並べることに重点をおいて編年論のこと。主に発掘事実を重視した編年論である。初期の旧石器考古学では、関東ローム層の堆積層序で編年がなされたのが代表的な研究事例（「日本の旧石器」小田静夫他1980立風書房　東京）。

註3）

2000年11月5日、毎日新聞の報道部は、東北旧石器文化研究所の前期旧石器ねつ造事件を大々的に報道した。考古学ばかりでなく、社会全体の問題としてクローズアップされたこの問題の考古学的本質は、編年的新発見をもとめたために起こった捏造事件であると総括される。言うなればねつ造まで起こした狭義の編年論のみが求められていたのであるが、そうした発見の考古学は、もはや行き着くところまでいった感がある。既存資料の編年をいくらやっても埒があかないから、古さの新発見に救いを求め、ついには犯罪にまで手を染めることになったと筆者は解釈している。こうした狭義の編年論でなく、これからは、広義の編年論ともいえる石器の内容を理解して編年するという方法が問われなければならない。

内容の理解できない資料を、出土した層序だけで解釈してはならないのである。本稿は、こうした作業のケーススタデイである。

⑵ 遺跡の立地条件の特殊性

奥谷南遺跡の立地条件で最も重要なことは、石器石材に用いられる珪岩の原石地であるという

点にある。さらに岩陰遺跡でありながら、その岩陰そのものが珪岩という特殊な立地条件のもとに遺跡が形成されている。こうした石材原石地では、自然の営力でつくられる「偽石器」が大量に存在しているのが常である。従って偽石器と人工石器の区分が、奥谷南遺跡の石器分析の最初の重大課題である。

⑶ 人工品と偽石器の区別

人工品（石器）と偽石器の区別は、学史の当初から問題にされてきた。人工品であることの証明に、バーンズの剥離角分布（註1）などが用いられてきたのである。

しかし、これらの方法は、物理的現象を確率的に解くという手法であるため、人工品とは何かという本質を理解した手法ではなかった。そのため、人工品とは何かという定義がなく、数字だけのデータや印象で人工品と認定されてきた経緯がある。こうした認識方法は、石器研究の目標に重大な誤謬をうみ、石器そのものの誤診を招いてきたのである。

考古学の分析の対象となる人工品とは、文化の諸規則によってつくられている。製作される形態・選択される素材・加工の種類は、それぞれ文化の諸規則の一部として、個別の文化に埋め込まれている。これらを明らかにすることが考古学の目標であり、石器研究の目標でもある。奥谷南遺跡では、人工品と自然石の区別をすることが必要な遺跡であり、これらの区別は今後の石器研究の大きな成果となるだろう。

註1）バーンズの剥離角分布の分析

アメリカの考古学者バーンズが、人工石器と自然石器を区分するために、ひとつの石器のすべての剥離面の剥離角を計測した分析方法。計測した剥離面の統計的な計測結果をもとに、人工遺物と自然遺物の区別の難しい遺物に当てはめ、区分の根拠とした。芹沢長介氏によって栃木県星野遺跡で用いられたが、その後は普及しなかった。

⑷ 分析の順序

偽石器と人工石器を見分けるには、分析する石器の選択と分析の順序が大切になる。その正しい順序は、まず示準石器を分析し、示準石器にもちいられる加工の技術を明らかにし、素材の技術を明らかにすることである。こうした分析によって、奥谷南遺跡の人工剥離の様相が明瞭に把握されるのである。

次に、こうした人工剥離の様相をもつ石核・剥片類を抽出し、さらにそのなかで人工剥離の一定性と誤差の範囲を導き出す。そして、人工剥離の種類を把握したのちに、それ以外の資料の検討を行うのである。

ともすれば、人工剥離の種類をきめずに、石核や剥片から石器を把握しようと試みられるが、遺跡のなかで用いられている人工剥離の様相を把握しないで、いきなり出土遺物を観察しても、判断基準がそこにないので、恣意的な分類・その場の印象の分類に終始するだけである。

遺跡は地域と時期が限定されている資料（遺物）が集積している。つまり遺跡は歴史の一部であり、遺物は歴史情報そのものである。ここに石器の人工剥離面の判断基準を求めるならば、蓄積された研究と一般論を羅針盤とし、実際の遺物を判断しながら観察して、遺跡のなかの具体的な人工剥離の様相をつかむことが大事な方法である。

⑸ 剥離技術の属性の吟味

剥離技術の属性で最も重要な属性は工具属性である。工具属性は打点とその付近に顕著に示さ

れる。

石核そのものの属性で最も重要な属性は打面形態である。打面をみれば、その石器群のなかで、どのような剥片が剥離されるのかを予想することは難しいことではない。

2. 剥片石器

⑴　剥片石器の種類

奥谷南遺跡の剥片石器の種類は、ナイフ形石器・細石刃・尖頭器・縄文石器の 4 種類である。それぞれが異なる技法で製作されている。

⑵　剥片剥離技術

奥谷南遺跡の剥片石器の素材から、その剥片剥離技術を観察すると、直接打撃、間接打撃、押圧剥離の 3 種類がある。特に石器の素材をつくる直接打撃には両極剥離の技術が存在していない。石器以外には両極剥片が見られるが、この両極剥片は人工物でなく、自然遺物の可能性が高いであろう。これは偽石器の項でも触れる。

ナイフ形石器の素材は硬質ハンマーの直接打撃で製作される。横長剥片素材の瀬戸内形剥片剥離技法と石刃技法の 2 種類の剥片剥離技法がある。前者は珪岩を主体に、後者は頁岩を主体にしており、石材の選択性も異なる。

細石刃石核は、やや厚みのある縦長剥片を素材にしている。細石刃石核そのものが非常に小形で、均質な厚みをもつので、細石刃石核の素材剥片は、間接打撃の小形縦長剥片と推定できる。

尖頭器は、厚い横長剥片もしくは扁平な礫片である。

縄文石器は直接打撃の剥片と間接打撃の剥片の 2 種類を用いる。数量が少ないので、素材の剥離技法は不明である。

⑶　加工の種類

ナイフの加工は 2 種類ある。瀬戸内形式のナイフ形石器の加工は、間接打撃の鋸歯状の加工である。一方石刃素材のナイフ形石器の加工は硬質ハンマーの押圧剥離の刃潰し加工である。

細石刃石核から細石刃を剥離する加工は押圧剥離である。ハンマーの径が1㎜を越えるような比較的太い先端をもつ工具が用いられている。

尖頭器の加工は、硬質ハンマーの直接打撃である。ハンマーの径が比較的大きな工具と、その径が比較的小さなものがある。成形加工と整形加工の 2 種類を駆使して、その形態をつくっている。

縄文石器は、小さな径の工具で押圧剥離の刃部を形成している。押圧剥離で刃部を形成するのが縄文石器の特徴である。

3. 人工品と偽石器（自然石）の分類

⑴　資料体の選択

明らかに人工品以外のすべての石器。

⑵　偽石器の特徴

偽石器の特徴は以下である。

1、剥離面を形成する打点付近の属性に一定性がない。
剥片の場合は主要剥離面、石核と推定されるものでは打面及び作業面の打点が明瞭でない。一枚の剥離に打点が明瞭であっても、その他にコーンタイプ、クサビタイプ、ベンドタイプのいずれも生じている。また加工のハンマーの径が一定でない。
奥谷南遺跡での特殊例；バルブがない圧縮の剥離の剥片は偽石器である……奥谷南遺跡の剥片石器には両極剥離の素材（両極剥片・両極石器）が存在しない。

2、打点間の距離に一定性がない。
直接打撃・押圧剥離に限らず打点と打点の距離には一定性がない。
人為的な押圧剥離には規則的な打点の移動がある。一定性のない剥離面は人為的剥離の可能性は低い。

3、あらゆる角（かど）に不規則な剥離痕が観察できる。

4、剥離が縁辺にとどまり、剥離の中途や末端が階段状になる。

5、打面の形態に一定性がなく、デコボコしている。

6、石核の作業面と打面の角度が不安定である。

7、打面縁辺に不規則な剥離がみられる。

8、打面縁辺に連続した微細剥離がみられる。その剥離と打面とのなす角度は鈍角である。

9、素材が礫片である。

10、石質が粗悪である。

4. まとめ

奥谷南遺跡の技術構造は、特定の剥片石器の製作構造に収斂する。従来の示準石器の分析によって理解された技術構造は、奥谷南遺跡が後期旧石器時代の後半から縄文文化にいたるまで、この地域の石器製作の歴史を示している。

ナイフ形石器文化は、近畿地方に文化の核をもつ瀬戸内形の石器と、おそらく九州の大分県近辺にある九州型ナイフ形石器が共存していると推定される。両方の文化の折衷石器が今後の分析であきらかになるであろう。

また、細石刃文化は、野岳形式に近似する細石刃文化である。しかし、その文化の中に、遠く北東北や、沿海州にまで及ぶ環日本海の先史文化に通じる硬質頁岩の石器が混在している。この石器は分析カードに添付した使用痕の分析により、乾燥皮のなめしに用いられたという分析結果がでた。今後の類例をまち、奥谷南遺跡を評価する重要な石器となるであろう。

尖頭器文化は、縄文文化との関係が重要である。今回の図化・分析では、技術構造のみが明らかになった。今後は遺跡間の比較研究が大切になる。

縄文石器は、主に東北地方との文化的連絡を予想させる縦形石匙がみつかった。四国において、特に石匙の発見は稀少であり、縄文時代の研究においても奥谷南遺跡は重要な遺跡である。

奥谷南遺跡は、各時期の示準化石が豊富であり、その分析から新しい先史時代が描ける非常に重要な遺跡である。どの時代の石器を分析しても、今後の考古学に資する重要な遺跡であるといえる。

第4節　奥谷南遺跡の使用痕観察

株式会社アルカ　池 谷 勝 典

はじめに

後期旧石器のナイフ形石器１点について高倍率の使用痕分析を試みた。この時期の石器は通常肉眼でも風化等による表面変化がみられ、使用痕光沢の観察は難しい場合が多い。今回の資料も明らかに表面変化が認められることから使用痕光沢が観察できるかどうか半信半疑であったが、使用痕光沢ではないかと考えられる光沢が観察できた。以下、その詳細を報告する。

観察方法

キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ（VH-7000）による低倍率ズーム（VH-Z05）と高倍率ズームレンズ（VH-Z450）を用いて高倍率の使用痕光沢の観察をおこなった。観察倍率は、５倍～40倍と450倍～1000倍（倍率はマイクロスコープでの倍率で従来の金属顕微鏡の倍率比とは異なる）である。観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は東北大学の分類基準によっている（梶原・阿子島1981、阿子島1989）。

観察資料と結果について

石材は、珪質頁岩である。石器表面は、白色からベージュ色をしており、うっすらと光沢が表面全体を覆っている。このような表面変化は、パティナと埋没光沢の影響であると考えられる。パティナは、表面が風化により白色、あるいは褐色や青味を帯びる現象である（山田1987）。埋没光沢は、その形成機構が不明であり、シリカの溶解および凹みへの再沈積を考える化学的形成因説と埋没中の石器の移動によって生じる摩耗などの物理的形成因説がある（山田1987）。今回の資料の場合、顕微鏡写真の2、5、6については埋没光沢であると考えられる。これらの写真のような光沢は、石器末端部（石器図面の天地を基準にして見た場合）を除いて石器のほぼ全面に観察される。石器の末端部、写真1、3、4の部分には違った光沢が観察される。一部に線状痕が観察される。写真1は、写真の上下方向に線状痕がみられ、写真4は写真の左右方向に線状痕が見られる（写真の天地は、石器図面の天地と一致している）。これらの光沢の特徴は、実験使用痕研究によって得られた光沢タイプに一致するものではなく光沢タイプの同定は慎重にならざるを得ない。おそらく埋没光沢などによって影響を受けている可能性を否定できないからである。ここでは、使用痕光沢タイプの同定は避けるが、線状痕をともなっていることなど使用の結果による使用痕光沢の可能性は高いと考えられる。裏面側の末端に見られる反方向の剥離との関係が注目される。

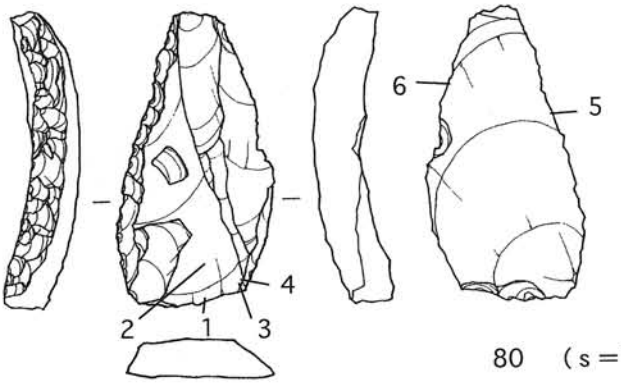
参考文献

阿子島香　1989　『石器の使用痕』考古学ライブラリー56　ニュー・サイエンス社

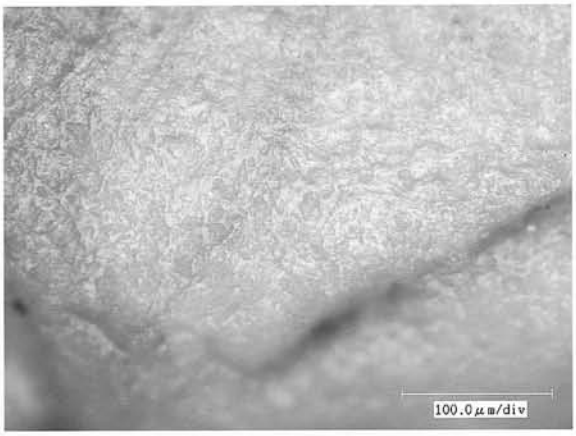
梶原洋　　1982　「石匙の使用痕分析－仙台市三神峯遺跡出土資料を使って－（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その3）」『考古学雑誌』68-2　pp.43-81

梶原洋・阿子島香　1981　「頁岩製石器の実験使用痕研究－ポリッシュを中心とした機能推定の試み－（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その2）」『考古学雑誌』67-1　pp.1-35

山田しょう　1987　「5　使用痕分析」東北大学埋蔵文化財調査年報2　東北大学埋蔵文化財調査委員会　pp.50-61

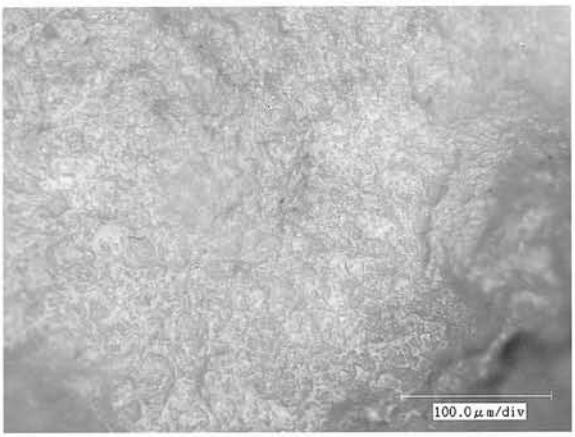


80　(s=1/1)

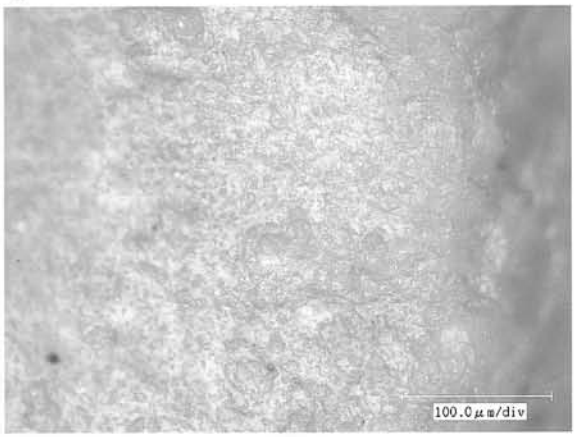


1

2

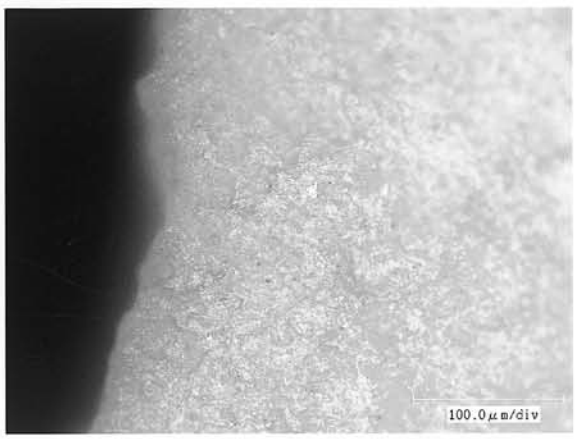


3



4

5



6

奥谷南遺跡　岩陰の現況（2001年）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	おく たに みなみ い　せき さん
書　　名	奥 谷 南 遺 跡 Ⅲ
副 書 名	四国横断自動車道（南国～伊野間）建設に伴う発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第63集
編 著 者 名	松村信博・山本純代
編 集 機 関	（財）高知県文化財団　埋蔵文化財センター
所 在 地	〒783－0006　高知県南国市篠原南泉1437－1　　TEL. 088－864－0671
発 行 年 月 日	西暦　2001年　8月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おくたにみなみいせき 奥谷南遺跡 （Ⅳ区）	なんこくし 南国市 おこうちょうこはす 岡豊町小蓮	39204	0063	33度 35分 8秒	133度 37分 23秒	1994.12.17 ～ 1995.1.30	200	四国横断自動車道（南国～伊野間）建設工事に伴う調査
おくたにみなみいせき 奥谷南遺跡 （Ⅴ区）	なんこくし 南国市 おこうちょうこはす 岡豊町小蓮	39204	0063	33度 35分 8秒	133度 37分 23秒	1996.2.27 ～ 1996.10.7	3,000	四国横断自動車道（南国～伊野間）建設工事に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奥谷南遺跡 （Ⅳ区）	集落跡	縄文時代	土坑1基 ピット	磨製石斧 縄文土器	縄文時代の遺構
奥谷南遺跡 （Ⅴ区）	集落跡 岩陰遺跡	後期旧石器時代 （ナイフ形石器文化期） （細石刃文化期）	焼土集中地点（遺構）14箇所 ピット35基	角錐状石器・ナイフ形石器・細石刃・細石刃核・槍先形尖頭器・敲石類（赤変敲石を含む）・小型縦長剥片・石核・スクレイパー類（掻器、削器、抉入石器）、他石器類	①旧石器時代の岩陰遺跡～ナイフ形石器文化期と細石刃文化期の遺物が層位的に出土 ②チャートの原産地遺跡 ③細石刃文化期の遺構及び焼土の検出 ④掻器のまとまった出土
		縄文時代 （草創期） （早期） （前期） （中期） （後期）	チャートの岩陰2箇所と周辺のピット316基（うち焼土の集中するピット1基） 草創期の遺構（住居址可能性あり）1棟・	縄文土器－草創期～後期－ 石器－局部磨製石斧・槍先形尖頭器・有溝砥石・石鏃・敲石類他	縄文時代の岩陰遺跡 チャートの原産地遺跡 草創期初頭から中葉にかけての石器類（局部磨製石斧、槍先形尖頭器、有溝砥石他） 緩斜面に形成された縄文草創期の遺構（SX101）と隆帯文土器、隆起線文土器 岩陰と周辺のピット群（早期） 早期の南九州系の土器（天道ヶ尾式、平栫式）

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第63集

奥谷南遺跡Ⅲ

四国横断自動車道(南国～伊野間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

2001年8月31日

発行　㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター

〒783-0006 高知県南国市篠原南泉1437-1

TEL.088-864-0671 FAX.088-864-1423

印刷　㈱飛鳥